イルカ・クジラ解放

目黒峰人



はじめに

本書の役割

イルカと水族館

筆者は、2018年から2019年にかけて、延べ9ヶ月間に渡って、日本全国のほとんどすべての動物園と水族館の現地調査、「日本一周！動物園水族館調査」を行いました。調査した施設は、動物園155・水族館124・その他4、計 283施設。調査の過程で水族館やドルフィナリウムに監禁されている数多くのイルカたちを見てきました。

イルカたちが置かれた現実をまだ知らないときに見たイルカショーは、楽しく、エキサイティングで、感嘆すべきものでした。きびきびとした動きでイルカトレーナーの指示に的確に対応し、躍動感に溢れるショーを披露するイルカたちは、自主的に陽気にショーを行っているように見えました。しかし、イルカたちの現実を知ってから、つまり水族館にいるイルカたちは、自由の海から引き離されて連れてこられたという現実や、怪我や病気に苦しみ、精神を病み異常行動に陥っているという現実を知ってからは、水族館やイルカショーはまったく楽しいものではなくなりました。

イルカ漁

「日本一周！動物園水族館調査」を行っている途中、水族館のイルカが捕獲されている現場を実際に見る必要があると感じ、和歌山県太地町を訪れました。

最初の滞在は1週間ほど。イルカ漁船は出港したものの、不漁に終わりました。2回目に滞在したとき、はじめてイルカ漁を見ました。追い込まれたのは、ハナゴンドウ。ハナゴンドウたちが捕獲されまいと何度も何度も逃げようとする長い時間、私は逃げ切ることを祈り息を呑んで見守っていました。そして彼らはついに力尽き、追い込まれ、全員が殺されました。太地漁港に運ばれ、解体場に引き上げられる殺されたハナゴンドウの虚な目を見た時、涙が止まりませんでした。

そのとき私は、イルカやクジラが人間に殺されない社会、人間がイルカやクジラと真の意味で共存する社会を必ず作ると誓いました。本書は、その誓いを実現するための事業の一つです。

本書の目的

本書の目的は、『イルカ・クジラ解放』。

イルカ・クジラ解放とは、イルカやクジラを人間の手から解放し、自由と尊厳と権利を守ること。現在監禁されているイルカは解放するか終生お世話する。新しいイルカの捕獲監禁は行わない。鯨族に対してあらゆる暴力や殺害を禁止する。

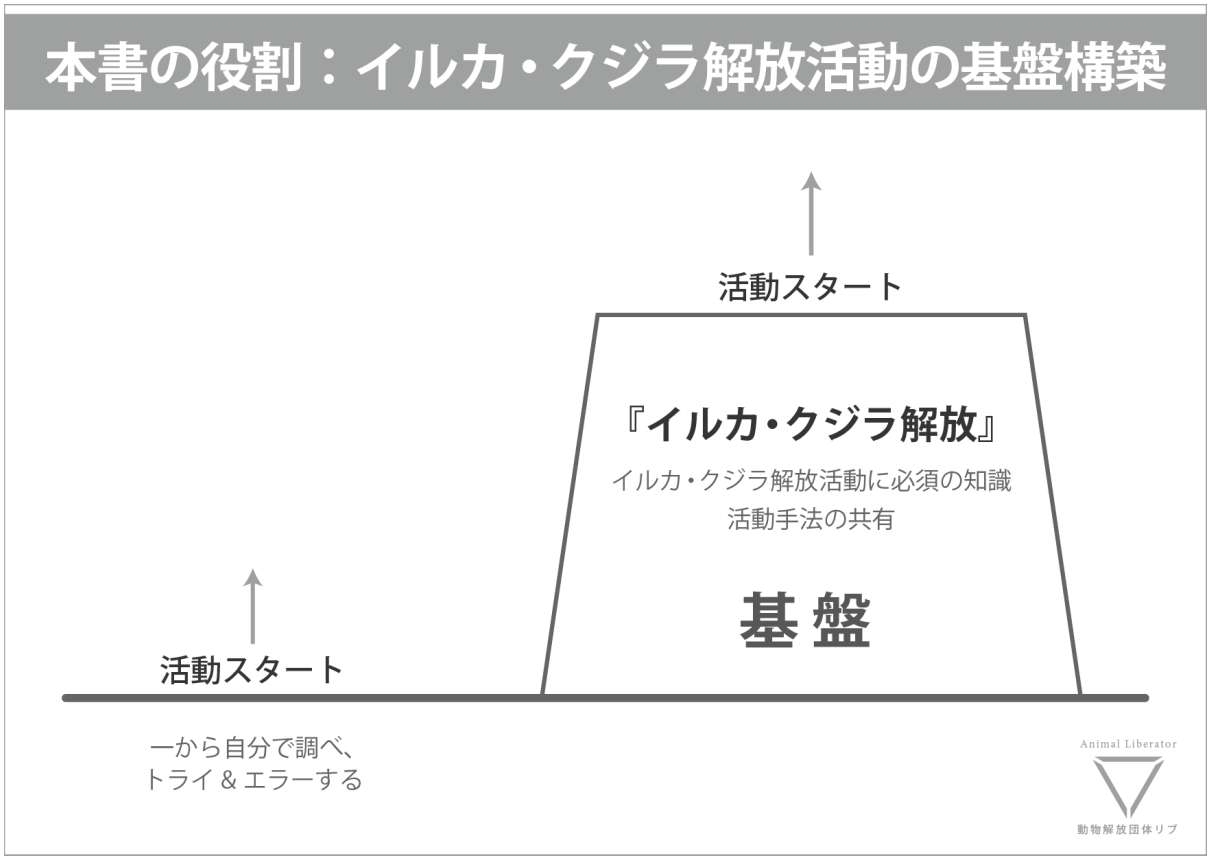
本書が想定している読者

想定している読者は、すでにイルカ・クジラ解放活動あるいは動物解放活動を行っている活動家。次いで、これから活動を行おうとしている人々、イルカ・クジラ解放活動や捕鯨・イルカ漁・水族館に関する基礎知識や問題点などについて知りたい人です。

本書の役割

イルカ・クジラ解放(擁護)活動の歴史は長く、さまざまな人々が取り組み成果を出してきましたが、知識やスキルの継承は不十分です。筆者自身、問題の全体像や構造を把握し理解するまでには長い時間と努力が必要でした。これから活動を行う人々がその時間を短縮し効率的に知識を獲得できるように、筆者が調査した情報を共有します。
新たに活動を始める活動家それぞれが、0から勉強しトライ&エラーを繰り返すのではなく、蓄積された知識や考え方の土台の上からスタートできるようにサポートするのが本書の役割です。

［図：本書の役割：イルカ・クジラ解放活動の基備構築］



辞書機能を果たす

本書はイルカ・クジラ解放活動に必要な知識を引くのための辞書としての機能を果たすことを目指しています。イルカ・クジラ解放を実現するためには、鯨族に関する生物学的な知識、人間と鯨族の歴史、捕鯨・イルカ漁・水族館など鯨族搾取産業に関する知識が必須となります。その上でこれまで行われてきた鯨族解放活動を紹介し、これからのイルカ・クジラ解放活動の考え方やヒントを示します。通読すれば全体像を把握でき、辞書的に引けばその時々に知りたい知識に直感的に辿り着けるように情報を配置することを試みました。

クラウドファンディングにご支援いただいた皆様へ

執筆のためのご支援を募ったクラウドファンディング「イルカを解放しよう！〜イルカ漁の調査・取材と、本の執筆〜」にご参加、ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。完成度を追求するためにお約束していた完成期限を延長したにもかかわらず、ほとんどの方に了承していただけたことを感謝しています。ぜひPDFをダウンロードしお読みいただければと思います。この本の完成はもひとえに皆様のご支援の賜物です。

無料で配布します

本書の目的に鑑みて、当面の間無料で配布します。

【動物解放団体リブにご支援をお願いいたします】

5年間をかけて、足を使って日本全国の水族館、太地町、東北地方、沖縄の現場調査をし、関係者にインタビューをしました。海外の科学者や団体、活動家に連絡を取り情報を提供いただき、本や論文を読み込みました。
本書の執筆は、努力と、執念とも言える根気が必要な、大変な作業でした。

本書の完成は、リブの代表が私を執筆に集中させるために一切の仕事を引き受けてくれなければ不可能でした。心から感謝しています。また代表を支え、協力してくださった皆様に感謝を申し上げます。

私たち動物解放団体リブを支えるために、ご支援をお願いいたします。
単発のご寄付もありがたいです。さらに、リブを継続的に支える毎月どうぶつサポーターになっていただけると本当に助かります。

ご支援はこちらのURLからお願いします。
https://animal-liberator.net/animal-liberator/support/
検索で「動物解放団体リブ　Syncable」と検索し「寄付する」ボタンから寄付することもできます。

ぜひよろしくお願いいたします。

その他

動物差別的でない言葉を使用します

人間は、意識的・無意識的に動物を差別しています。例えば、誰かがあなたに対して「一匹」「二匹」といった言葉や、「飼育する」「餌をやる」といった言葉を使用すれば、あなたは侮辱されたと感じるでしょう。人々は動物に対して自然にそれを行っています。つまり、人々や社会は無意識的に動物を見下し、差別しているのです。その無意識化された動物差別意識を意識上に上げるため、本書では人間に使う言葉を動物に使用します。以下のように置き換えます。

・1匹、1頭→ 1名
・飼育→ 監禁
・餌→ 食べ物
・群れ→ 仲間、親戚、家族
・乱獲→ 大量虐殺 等
・補殺、屠殺、処分→殺害
・肉→ 遺体、死体

本書で使用する言葉の定義

イルカ・クジラ解放活動

動物解放活動の一分野であり、イルカ・クジラ解放を実現するための活動です。イルカやクジラを解放するためには、イルカやクジラを守るべきであるという意志を持つ人を増やし、その意志を社会の大多数のものとする必要があります。つまりイルカ・クジラ解放は、人間や社会の知識や意識を変える活動によって達成されます。

動物解放活動には、直接行動やアウトリーチ等があります。本書の執筆もイルカ・クジラ解放活動の一つです。

イルカ・クジラ解放活動家

イルカ・クジラ解放活動を行う人々。イルカ・クジラ解放を目的とし、知識と意志を持ち、表現し行動する人々のことです。

鯨族

通常、イルカ・クジラをまとめて鯨類と呼びますが、本書では、データベース「世界と日本」による国際捕鯨取締条約 ICRWの訳文に倣って、「鯨族(げいぞく)」と表現します。「鯨族」は、人族と同等の別の種族といったイメージを喚起します。［URL：ICRW：https://worldjpn.grips.ac.jp/documents/texts/ENVI/19461202.T1J.html］

捕鯨

鯨族を対象とした漁業（古式捕鯨・母船式捕鯨・基地式捕鯨・海賊捕鯨・調査捕鯨・イルカ漁等）を指します。

イルカ漁
イルカ追い込み漁とイルカ突き棒漁を指します。

イルカ・クジラと日本人について
日本人の幻想
多くの日本人は、自分はイルカやクジラに優しく、親切な人だというセルフイメージ、幻想を抱いています。
現実の日本人
しかし、現実の日本人は鯨族にとって最も危険な人類であり、日本は鯨族にとって世界で最も危険な場所です。
日本人は、世界で最も鯨族を捕獲し、殺害し、食べ、生きたまま国内外に売り飛ばしています。また日本は世界で最も水族館が多い国であり、日本全国で推計600名ものイルカを監禁しています。イルカたちは精神的肉体的に苦しんでいます。しかし日本人は、その苦しみに気づかず、ショーを見、イルカに触れることが、イルカ好きの証明であるかのように思い込んでいます。
なぜそうなってしまうのでしょうか。もちろん、イルカ・クジラ産業によるプロパガンダの影響もあります。しかし根本的な原因は、無意識的にイルカやクジラは尊厳や権利の対象ではなく、人間が好きにしても良い存在だと考えているからです。

私は、日本列島全体が、大きな半円のドームに覆われているイメージを持っています。ドームは、イルカ・クジラ産業や大手マスメディア、広告代理店、政治家や官僚が作ったものです。
ドームの内側には魔法の鏡が貼っており、イルカ・クジラ産業が見せたい幻想、自分たちが見たい姿が見えます。イルカ漁や捕鯨は日本の伝統文化であり守るべき遺産であり、それら産業を支持することは愛国的態度であるという幻想。水族館はイルカたちと出会い、触れ合い、絆を繋げる場所であるかのような幻想が見えます。
一方、ドームの外側は透明になっており、中の様子がクリアに見え、私たち日本人がどんな姿をしているか一目瞭然です。クジラやイルカと共に生き感謝していると謙虚な笑顔を浮かべながら鯨族を捕獲殺害監禁し続ける、世界で最も鯨族に対して冷酷で残忍な姿です。
日本人が握るイルカ・クジラの未来
日本人が現実を知ることで、世界の鯨族の運命が変わります。日本人は鯨族に優しいという幻想から現実に目覚める必要があります。これまで日本人は、数え切れないほどの鯨族に痛みや悲しみを与えてきました。
無数にある動物利用問題の中で、イルカ・クジラ利用問題は日本特有の問題です。鯨族利用問題の解決の責務は海外の活動家や国際機関にではなく、鯨族を利用し破壊してきた日本人自身にあります。日本人は、自らの姿を振り返り、反省し、身を正し、鯨族を解放しなければなりません。

そして、水族館のイルカ監禁が禁止され、捕鯨とイルカ漁が終焉し、イルカ・クジラ解放が実現した後、再び後世の人々が過ちを繰り返さないようにするためにも、本書に事実と反省を記録し保存します。

日本人である地球人

私は、日本人であり、地球人です。私は、動物と人類が共存している地球に生きたいと思っています。そのような地球を実現するために、動物の自由と尊厳と権利を守る日本にしたい。イルカ・クジラ解放は、日本人の歴史や文化、倫理観や権利概念の進化を象徴するテーマです。イルカやクジラの解放は日本にとって日本人にとって重要な転換点になるでしょう。

使用しているワープロソフトの特性上、画像を適切な位置に配置するために改ページが多くなっています。また、本文中内容が被るところがあります。ご承知おきください。

事実関係に過誤がありましたら、animal.liberator.net@gmail.com までご指摘いただければ幸いです。

本書の情報はご自由に引用していただけます。皆さんが本書の情報を有効に使い、それぞれの活動を行っていただくことが本望です。文章や写真を引用する際は、（出典：動物解放団体リブ「イルカ・クジラ解放」）等とご記載ください。多くの方にこの本を知っていただきたいと思っています。

本書の構造

イルカ・クジラ解放

はじめに
第一部　イルカ・クジラ
第二部　人間
第三部　イルカ・クジラと人間
第四部　捕鯨
第五部　イルカ漁
第六部　水族館
第七部　これまでの活動
第八部　イルカ・クジラ解放活動
第九部　動物解放団体リブ



第一部　イルカ・クジラ
知っているようで知らないイルカ・クジラたち。ギリシャ神話に描かれるイルカや古代から続くイルカによる人間の救助、鯨族の驚くべき能力・コミュニケーション方法・感情や愛情について学びます。また主な鯨族、特に日本の捕鯨やイルカ漁の捕獲対象となっている鯨族について、種ごとの暮らしや特徴をおさえます。

第二部　人間
人間は、鯨族を殺そうとする人々と、守ろうとする人々に分けることができます。それぞれの立場を整理します。また人間による乱獲や環境破壊への反省から生まれた、鯨族保護に関係する国際機関についてまとめます。

第三部　イルカ・クジラと人間
人間の諸活動によって鯨族が与えられている危害についてまとめます。捕鯨・イルカ漁・水族館など、鯨類に意図的に直接的に与える危害から、オーシャンノイズや気候危機など間接的に与えている危害があります。

第四部　捕鯨
日本に限らず世界各地で、古来から人間はクジラを殺し食べてきました。現在のクジラ保護国の中には、かつて捕鯨国だった国もあります。鯨族や環境に多大なダメージを与えた反省から、徐々にクジラ保護へとシフトしました。しかし日本はいまだに捕鯨を行っている三大捕鯨国の一つです。ここでは日本の捕鯨に関する基礎的な情報を押さえます。

第五部　イルカ漁
イルカ漁の目的は、食用と娯楽利用。日本は最もイルカを殺し世界各国に販売している世界最大のイルカ搾取国です。しかしながら当の日本人はそれを知りません。
動物利用はすべて「蛇口→利用→出口(死)」、あるいは「蛇口→出口(死)→利用」の流れになっています。動物利用問題は蛇口を閉じることによって終焉します。水族館によるイルカの娯楽利用の最大の蛇口が、イルカ漁です。日本のイルカ漁とその問題についてまとめます。

第六部　水族館
イルカ・クジラ産業のうち、最も市場規模が大きい水族館産業について分析します。水族館は、イルカの守護者であるかのように振る舞いますが、実際に行っているのは搾取に他なりません。水族館のイルカ入手方法、イルカの異常行動、心身の病気、薬漬けの実態、水族館によるプロパガンダ手法などを共有します。

第七部　これまでの活動

これまで行われてきた、国内外の鯨族保護活動について情報のまとめと分析を行います。活動の歴史や主な団体、活動の成果、水族館からイルカを解放した事例を紹介します。また西洋的な手法で行われる活動の功罪についても触れます。

第八部　イルカ・クジラ解放

人類による動物利用とそれから発生する動物利用問題について解説した上で、私たちの行っている動物解放活動についてまとめます。次いで活動に関する基本的な活動手法と、イルカクジラ解放活動に関するアイデアのいくつかを共有します。

第九部　動物解放団体リブ

最後に、動物解放団体リブの概要や果たすべき役割について紹介します。

第一部　イルカ・クジラ

概要　イルカ・クジラを知っていますか？

「イルカは、クジラです」と言うと、驚かれる方が少なからずいます。
イルカとは、大人になって4〜5m以下のクジラのこと。小さなクジラのことを指す慣習的な呼び名です。昔の人々は、小さなイルカと巨大なクジラが同じ動物だと思っていませんでした。

また、ある水族館のイルカの水槽の前で、小さい女の子を連れたお母さんが「大きいお魚さんだね」と言っていました。昔の人は、イルカを魚だと思っていたようですが、今でも魚と思っている人は意外に多いのかもしれません。イルカ漁の「漁」は、魚に使う言葉です。イルカやクジラは、魚類ではなく哺乳類です。私たち人間と同じように、母のお腹の中で育ち、赤ちゃんとして生まれ、乳をもらって成長します。

このように、私たちのイルカやクジラ関する知識は、未だ未熟です。人間に対しても同じですが、相手を深く知ることによってはじめて愛着を感じ、尊敬や尊重の念が生まれ、傷つけてはいけないものなのだという気持ちが生まれるようになります。
第一部では、鯨族の暮らしや様々なエピソードを知ることによって、イルカやクジラが私たち人類と同じ地球に存在している奇跡を感じて欲しいと思います。

第一章　神話〜現代

概要

イルカは、私たちヒトが地球に登場するはるか昔から、地球に暮らしていました。イルカが今の形になりエコーロケーションを獲得したのは、今から約2000万年前。ホモ・サピエンスが登場したのは40万年ほど前。ホモ・サピエンスが分化する前のアウストラロピテクスでさえ、登場は400万年前ほどです。

イルカは、先史時代から世界各地の壁画、ペトログリフなどに描かれてきました。ギリシャ神話を始めとする神話に登場し、様々な文化で様々に表現されてきました。現代においても、Tシャツやコップ、会社のシンボルなどに描かれています。人間にとってイルカは、イルカにとって人間は、つねに身近な存在でありました。

第一節　神話

第一項　ギリシャ神話

イルカの神聖視

古代ギリシャは、西洋文化において、科学、文学、詩、芸術、哲学の偉大な父と考えられています。ギリシャ神話とは、紀元前1500年頃から伝えられてきた伝承を、紀元前900年頃の吟遊詩人ホメーロスがまとめ、以後様々な詩人によって伝えられてきた世界の創生、神々、人間についての物語です。

星の話から始めましょう。
星座は、紀元前3000年頃の古代エジプトで作られ始め、メソポタミア文明とギリシャ文明に伝わりました。ギリシャではすべての星座にまつわる”星座神話”が作られました。

いるか座（Delphinus）は夏の星座。天の川のすぐ横にある小さな星座です。5つの星からなっており、ひし形を作る4つの星とそこから伸びる1つの星、計5つの星でできています。
［図：イルカ座］



いるか座が生まれた神話は、2つあります。

1つは、オリュンポス十二神の一柱であるポセイドーンと、後に妃となる海の女王アムピトリーテー（＝アンフィトリテ）の神話です。ポセイドーンはアムピトリーテーに求婚しましたが、アムピトリーテーはそれを嫌がり逃げました。ポセイドーンはイルカにアムピトリーテーを探させました。イルカはアムピトリーテーを発見、説得して、ポセイドーンの元に連れて行いきました。その功績を認められ、いるか座が作られたという神話です。
なお、手塚治虫の漫画「海のトリトン」のモデルとなったギリシャ神話の神トリトーンは、ポセイドーンとアムピトリーテーの子供です。
［写真：ネプチューンとアムプトリーテ］（左奥の女性が乗っているのがイルカ）



もう1つは、ギリシャの歴史家ヘロドトス(c. 484-425BCE)によって書かれた、 紀元前7世紀ころの音楽の才能に恵まれたギリシャの若者、アリオンの伝説です。これはイルカが人間を救助した最も有名な古代の物語の一つです。 アリオンは、シチリアでの音楽コンテストで優勝した後、船で家に帰ろうとしていました。船の乗組員はアリオンの賞金を盗むため、アリオンを船から落とすことにしました。アリオンは、 海に投げ込まれる前に竪琴で最後の曲を演奏させてほしいと頼みました。アリオンはとても美しい演奏をし、その音に魅了されたイルカたちが船に集まってきました。アリオンが海に投げ込まれたとき、イルカが若者を



救け、岸まで運び、命を救いました。 このイルカたちの行いにより、神々はいるか座を作った、という神話です。
［写真：イルカに乗る 竪琴を持ったアリオン］

他にもイルカたちが登場するギリシャ神話があります。例えば、ホメーロスによって書かれた神ディオニュソスの神話。



神ディオニュソスは、人間の若い男を装って船で航海していました。 乗組員たちは、ディオニュソスを高貴な出の若者だと思い、捕らえようとしました。しかし、ディオニュソスは船をブドウのツタで絡ませ、野獣をけしかけました。デュオニソスは、おびえて海に飛び込んだ船員たちをイルカに変え、常に船乗りを助けなければならないと命じました。
［写真：乗組員をイルカに変えるデュオニソス］
［URL：ディオニュソス神話を描いた陶器：https://www.theoi.com/Olympios/DionysosWrath.html］

古代の西洋世界では、イルカを現世と異世界を繋ぐ存在であるとし、神聖視していました。これは後で述べる日本の「海豚参詣（いるかさんけい）」と同様の感じ方です。

イルカの殺害
紀元後2世紀の詩人オッピアンは、イルカと人間が協力して漁を行なっていることや、人間の少年とイルカの友情の物語について書いています。一方、人間によるイルカ漁や人間による子イルカの殺害についても記述しています。
イルカ漁師は邪悪であり罪深い、とオッピアンは批判しています。イルカを狩るのはトラキア人やビザスの町に住む人々。”鉄の心を持った道具”でイルカを殺します。イルカはやさしく、人間に攻撃されるとは思っていません。イルカ漁師は、船に乗ってイルカに近づき、子供イルカを殺します。母イルカは子供が心配で船から離れようとはしません。漁師たちは母イルカもまた殴り殺し、子供と共に船に引き上げます。
古代ギリシャでイルカたちがされていること、イルカ漁師の行為や心境、オッピアンによる批判は、現代の日本で起こっていることとまったく同様であり、2000年近くも前と変わらない状況が今も続いていることに驚きます。

第二項　イルカと日本神話

イルカの殺害
日本神話にもイルカが登場します。第十五代応神天皇が敦賀（福井県）に泊まっていた時、夢にイザサワケという神が現れ、名前を交換することを求められました。その求めに応じたところ、お礼として湾一面のイルカを与えられたという話です。イルカを食料として見ていたことがわかります。
イルカやクジラを殺したことで、罰を受けるという伝承もあります。新潟県の、イルカを殺したことによって人が焼け死んだという話。三重県の、伊勢参りをしようとしていた親子の鯨を殺そうとしたことで水揚げがなくなったという話です。
また非常に興味深いのは、佐賀県に伝わる、漁師が命乞いをする鯨の夢を見たが聞き入れず殺し、その罰で嵐で鯨組が全滅する伝承。そして長崎県に伝わる、網元（漁の経営者）が命乞いをした鯨を殺した罰によって、嵐で鯨組72人が死ぬ夢を見て、クジラ漁を止めたという伝承です。これはのちに述べる、1878年太地鯨組のほとんどが全滅し古式捕鯨終焉の原因になった現実の事故「大背美流れ」と非常によく似ている話です。

イルカの神聖視

日本には「海豚参詣（いるかさんけい）」や「鯨参詣（くじらさんけい）」という伝説があります。これはイルカやクジラが神社やお寺に詣でるというもので、青森県、岩手県、東京都、新潟県、三重県、愛媛県、佐賀県、長崎県など日本各地に伝わっています。2020年石川県にすずちゃんというイルカが現れ、現代の海豚参詣として話題になりました。

［本文参照：第一部 第二章 第二節 第七項 第二目　日本_野生］

［URL：青森県 イルカの諏訪詣伝説：http://aomori-suwajinja.org/iruka.html ］

［URL：石川県珠洲市三崎町 いるかの三崎詣り：https://www.hokkoku.co.jp/articles/-/527434］

［写真：海豚参詣］



（引用：海豚参詣, 海豚の諏訪詣伝説 青森港守護神・諏訪神社 （青森県神社庁）. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B5%B7%E8%B1%9A%E5%8F%82%E8%A9%A3, (参照 2022-01-12).

また、恵比寿信仰においては、イルカやクジラは海の向こうの異世界から訪れる異人であり、幸をもたらすとされていました。イルカやクジラを異世界からの来訪者と捉える捉え方は海外にも存在します。
イルカやクジラを殺し食べることこそが日本文化と考えられていますが、そうではなく、日本にはイルカやクジラを尊敬し尊重する文化もありました。

また、飛鳥時代の蘇我入鹿（そがの いるか）の入鹿は、イルカからとった名前であろうとされています。同じ飛鳥時代に、河内鯨（かわちのくじら）や廬井鯨（いおいのくじらという人物もいました。これは精霊信仰に基づき、その動物の力を自らにもたらそうとしたと考えられています。

第三項　尊重と殺害、二つの文化

洋の東西を問わず、鯨族をめぐる文化は大きく二つに分けられます。

鯨族を殺害利用する地域は、鯨族を資源と考え、食料や消費財として扱ってきました。　このような地域では、鯨族を捕獲殺害するための価値観、社会制度、技術、道具など様々な文化を作ってきました。
一方、鯨族を尊重する地域においては、鯨族はこの世とあの世をつなぐ者、神のメッセンジャーとして描かれてきました。鯨族に神秘性を感じ愛着を持ち尊重する人々がいて、その価値観を表現する文化がありました。神話は現実をモチーフに作られます。昔からイルカやクジラは人間を助け、人間との信頼関係を築くなど、人間にとって特別な存在であったことが推察されます。
［本文参照：第一部 第二章 第二節 第六項 第一目　人間を助けるイルカ］
［本文参照：第一部 第二章 第三節 第四項 第一目　人間を助けるクジラ］

鯨族を殺害利用する文化と、尊重する文化との対立は、古代から脈々と続いてきました。近年、鯨族を尊重する文化は、未知の神聖な存在として尊重する文化から、哲学的・科学的根拠に基づき尊重する文化、つまり生物や生物多様性への理解、地球環境意識の高まり、動物倫理の発展による尊重へとシフトしました。西洋社会の多くはすでに鯨族を守る文化へと移行しました。しかし、日本は未だ殺害利用する文化を堅持しようと試みています。日本はいつも、世界の趨勢から10〜30年遅れで緩やかに価値観を移行させていきます。今は殺害利用する文化が優勢のように見えますが、時を経るごとに尊重し守る文化へと移行していくでしょう。

第二節　壁画

古代ギリシャから遡って、先史時代（*文字に記録される以前の歴史時代）を見てみましょう。先史時代から、イルカやクジラは、岩絵、洞窟壁画、ペトログリフ（岩石や洞窟壁面に刻まれた彫刻）、フレスコ画、花瓶、コインなどのモチーフとして描かれてきました。
以下の年代はすべて、ca.（およその年代）です。

第一項　紀元前（BCE）

18000BCE - 10000BCE：マドレーヌ文化（旧石器時代後期）
フランスピレネー山脈で発見された骨に刻まれたクジラの彫刻と、スペインのアストゥリアス州で発見されたマッコウクジラの歯に刻まれたクジラの彫刻。
［URL：クジラの彫刻：http://rockart-studies.ru/pdf/Bahn_The%20Bangudae%20Whales_2013%20-%20Bangudae_Chapter2.pdf］

8300-7500BCE：ノルウェー Leiknes
7.62mもあるシャチのペドログリフ。

［URL：シャチのペドログリフ：https://www.researchgate.net/figure/The-large-ground-rock-art-at-Leiknes-northern-Norway-One-can-see-the-killer-whale_fig2_330754820］

6000BCE：韓国 蔚山（ウルサン）：蔚山岩刻画

多種多少な動物とともに、58点のクジラ、捕鯨の壁画が残されている。

［URL：蔚山岩刻画： https://en.wikipedia.org/wiki/Bangudae_Petroglyphs ］

［写真：蔚山岩刻画］（横約10m 縦約3mの岩に、鯨・動物・人などが描かれている）



（引用：Bangudae rock images, source: Ulsan Petroglyph Museum »https://en.wikipedia.org/wiki/Bangudae_Petroglyphs#/media/File:Bangudae3.jpg）

3000BCE - 1000BCE：インドネシア 西パプア州ミソール

イルカやクジラが描かれている壁画。

［URL：インドネシアの岩絵：https://www.sciencephoto.com/media/118002/view/prehistoric-rock-art-indonesia-］

1500BCE：古代ギリシャ ミノア文明 クレタ島

クノッソス宮殿、王妃の間（女王メガロン）にイルカを描いたフレスコ画。

［URL： https://www.nishinippon.co.jp/image/123703/］

［写真：クレタ島クノッソス宮殿、王妃の間に描かれたイルカのフレスコ画］

（引用：Armagnac-commons, https://en.wikipedia.org/wiki/Minoan_civilization#/media/File:Dauphins_de_knossos.jpg）

330BC：古代ギリシャ アテネ リュシクラテス記念碑

イルカに変身する男の大理石のフリーズ（壁の装飾）。



［URL：イルカに変身する男：https://www.beazley.ox.ac.uk/CGPrograms/Cast/ASP/Cast.asp?CastNo=A141i］

510BC - 209BC：イタリア カラブリア州
コインにイルカとイルカに乗る人間が掘られている。
［URL：コイン：https://www.coinworld.com/news/precious-metals/the-horsemen-of-taras-ancients-today.html］

500BC - 450BC：ペルシャ帝国（現トルコ）キュジコス、ミュシア
黄金のイルカ硬貨（エレクトロン貨）。
［URL：エレクトロン貨：https://coinweek.com/ancient-coins/ancient-gold-coin-cyzicus/］

不明：アメリカカリフォルニア州 サンニコラス島クジラの洞窟
シャチや鯨のペトログリフが刻まれている。
［URL：サンニコラス島ペトログリフ：https://www.islapedia.com/index.php?title=Cave_of_the_Killer_Whales,_San_Nicolas_Island］

不明：チリ イースター島
イルカやクジラのペトログリフが刻まれている。
［URL：イースター島のペトログリフ：https://www.bradshawfoundation.com/easter/sea_creatures_easter_island.php］

その他：スウェーデン、シベリア、アラスカ、カナダ、メキシコ、ドミニカ、アンティル諸島、タヒチ、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ、ボツワナなど、世界中でイルカやクジラの壁画やペトログリフが描かれています。
逆にハワイ、インド、中国、アフリカの大部分などで、ほとんど描かれていないか、まったく無いようです。
［URL：クジラ絵の分布：http://rockart-studies.ru/pdf/Bahn_The%20Bangudae%20Whales_2013%20-%20Bangudae_Chapter2.pdf］

第二項　紀元後（CE）

0 CE：ペルー、ナスカの地上絵
クジラやシャチが描かれている。
［URL：ナスカ、シャチの地上絵：https://www.yamagata-u.ac.jp/en/files/5315/7381/2668/press2019115_02.pdf］
［写真：ナスカの地上絵 クジラ］



（引用：Diego Delso, The Whale, https://en.wikipedia.org/wiki/Nazca_Lines#/media/File:L%C3%ADneas_de_Nazca,_Nazca,_Perú,_2015-07-29,_DD_39.JPG ）

500CE：チリ アタカマ砂漠
酸化鉄で描かれた真っ赤なクジラ、捕鯨の様子が描かれている。
［URL：アタカマ砂漠、クジラの岩絵, https://www.nationalgeographic.com/history/article/ancient-rock-art-shows-whale-hunts-atacama-chile-spd］

第三節　現代

現代においても、イルカを神聖視することや、絵やシンボルに表すことは盛んに行われています。

イルカの神聖視
1960年以降盛んになったニューエイジ運動においては、イルカは特別な存在とされ重要視されました。現在でもニューエイジ思想に基づいてイルカ保護活動をしている人々がいます。「イルカだけが特別で、牛や豚はいいのか」という反論がよく聞かれますが、これはニューエイジ的な価値観における活動に対してもなされています。
余談ですが、UFOに乗って地球に来ている宇宙人は、実は人間ではなくイルカに会いに来ていると主張する人々がいます。なぜなら、動物を大虐殺し絶滅させ、さらには、同種族同士でも暴力を振るい殺し合い、自らが住んでいる星を破壊し続け、そんな自分達を止めることができない動物に、進化した存在がコンタクトすることは多大な危険を伴う。とすれば宇宙人たちが、知的、精神的に優れている（とニューエイジャーが思っている）イルカに会いに来ていると考えることが自然だ。というものです。面白いですね。

イルカを絵やシンボルに表す
日本でも、水族館はもちろん、アクセサリーや服飾品、映画やアニメ、壁画やオブジェ、美容室の看板、運送会社のトラックまで、イルカやクジラがいたるところに描かれています。現実に存在するイルカやクジラの他に、人それぞれのイメージとしてのイルカやクジラが存在しているようです。

第二章　奇跡の存在

第一節　鯨族共通

概要

本章では、鯨族（鯨類、クジラ亜目）の生物学的な知識のうち基礎的なものを押さえます。鯨族に関する知見は日々更新されています。鯨族は広大な海に住み、種によっては何千メートルも潜るため生態を知るのが困難であり、さらにはつい最近発見された種もいます。私たちは、イルカやクジラを知っているようでその実、無知なのです。

海に生きる海生哺乳類。その数は多くはなく、ホッキョクグマを入れて118種。鯨族はその70%近くを占めます。
鯨偶蹄目81種（川に住むイルカ4種を除く）
鰭脚類33種（アザラシ科18種、アシカ科14種、セイウチ科1種）（淡水に住むバイカルアザラシを除く）
海牛目2種（ジュゴン、マナティー）
食肉目イタチ科1種（ラッコ）
食肉目クマ科1種（ホッキョクグマ）

第一項　分類学：界門項目科属種（かいもんこうもくかぞくしゅ）

［図：界門項目科属種 クジラ］



鯨族は、動く能力があるので動物界に属し、背骨があるので脊索動物門に属し、母の子宮で大きくなり乳で育てられるので哺乳綱に属します。鯨偶蹄目に属し、ウシ、ブタ、カバ、キリンなどの仲間です。かつては、クジラ目と偶蹄目は別の目に属すると考えられていましたが、現在では同根の祖先を持つことがわかり、同じ目として分類されています。
最小のクジラは、体長1.5m、体重50kgのコガシラネズミイルカやイロワケイルカ。最大のクジラは、体長30m、体重200,000kg（200t）のシロナガスクジラ。種によってかなりの大きさの違いがあります。

2類14科85種

ヒゲクジラ類が4科15種（16種とする説も）。ハクジラ類が10科70種。なお数字は不確定でありクジラの分類は進展中です。日本周辺には、約40種の鯨族が定住、または来訪します。

第二項　ヒゲクジラ類（4科15種）

［ナガスクジラ科］(2属9種)

ナガスクジラ属(8)　ミンククジラ、クロミンククジラ、カツオクジラ、ツノシマクジラ、イワシクジラ、ニタリクジラ、ナガスクジラ、シロナガスクジラ

ザトウクジラ属(1)　ザトウクジラ

［セミクジラ科］(2属4種)
ホッキョククジラ属(1)　ホッキョククジラ
セミクジラ属(3)　セミクジラ、ミナミセミクジラ、タイセイヨウセミクジラ
［コセミクジラ科］(1属1種)
コセミクジラ属(1)　コセミクジラ
［コククジラ科］(1属1種)
コククジラ属(1)　コククジラ

第三項　ハクジラ類（10科70種）

［**マッコウクジラ科］**(1属1種)
マッコウクジラ属(1)　マッコウクジラ
［**コマッコウ科］**(1属2種)
コマッコウ属(2)　コマッコウ、オガワコマッコウ

［**イッカク科］**(2属2種)
イッカク属(1)　イッカク
シロイルカ属(1)　シロイルカ（ベルーガ）

［**アカボウクジラ科］**(3亜科6属21種)
［アカボウクジラ亜科］(1属1種)
アカボウクジラ属(1)　アカボウクジラ
［ツチクジラ亜科］(2属3種)
ツチクジラ属(2)　ツチクジラ、ミナミツチクジラ
タスマニアクジラ属(1)　タスマニアクジラ
［トックリクジラ亜科］(3属17種)
タイヘイヨウアカボウモドキ属(1)　タイヘイヨウアカボウモドキ
トックリクジラ属(2)　キタトックリクジラ、ミナミトックリクジラ
オウギハクジラ属(14)　ニュージーランドオウギハクジラ、アカボウモドキ、ヒガシアメリカオウギハクジラ、ヨーロッパオウギハクジラ、ミナミオウギハクジラ、ピグミーオウギハクジラ、タイヘイヨウオウギハクジラ、トラバースオウギハクジラ(バハモンドオウギハクジラ)、ハッブスオウギハクジラ、イチョウハクジラ、オウギハクジラ、ヒモハクジラ、コブハクジラ、ペリンオウギハクジラ

［マイルカ科］(4亜科17属37種)
［マイルカ亜科］(7属20種）

マイルカ属(2)　マイルカ、ハセイルカ
カマイルカ属(6)　カマイルカ、ミナミカマイルカ、タイセイヨウカマイルカ、ハナジロカマイルカ、ハラジロカマイルカ、ダンダラカマイルカ
スジイルカ属(5)　スジイルカ、マダライルカ、タイセイヨウマダライルカ、ハシナガイルカ、クライメンイルカ
シワハイルカ属(1)　シワハイルカ
ハンドウイルカ属(3)　ハンドウイルカ、ミナミハンドウイルカ、ブルナンイルカ
セミイルカ属(2)　セミイルカ、シロハラセミイルカ
サラワクイルカ属(1)　サラワクイルカ
［セッパリイルカ亜科］(3種8種)
イロワケイルカ属(4)　イロワケイルカ、ハラジロイルカ、コシャチイルカ、セッパリイルカ
ウスイロイルカ属(3)　ウスイロイルカ、シナウスイロイルカ、アフリカウスイロイルカ
コビトイルカ属(1)　コビトイルカ
［ゴンドウクジラ亜科］(5種7種)
カズハゴンドウ属(1)　カズハゴンドウ
ハナゴンドウ属(1)　ハナゴンドウ
ゴンドウクジラ属(2)　コビレゴンドウ、ヒレナガゴンドウ
ユメゴンドウ属(1)　ユメゴンドウ
カワゴンドウ属(2)　カワゴンドウ、オーストラリアカワゴンドウ
［シャチ亜科］(2属2種)
オキゴンドウ属(1)　オキゴンドウ
シャチ属(1)　シャチ

［ネズミイルカ科］(3属6種)
スナメリ属(1)　スナメリ
ネズミイルカ属(4)　ネズミイルカ、コガシラネズミイルカ、メガネイルカ、コハリイルカ
イシイルカ属(1)　イシイルカ

［ヨウスコウカワイルカ科］(1属1種)
ヨウスコウカワイルカ属(1)　ヨウスコウカワイルカ

［カワイルカ(インドカワイルカ)科］(1属2種)
ガンジスカワイルカ属(2)　ガンジスカワイルカ、インダスカワイルカ

［アマゾンカワイルカ科］(1属1種)
アマゾンカワイルカ属(1)　アマゾンカワイルカ

［ラプラタカワイルカ科］(1属1種)

ラプラタカワイルカ属(1)　ラプラタカワイルカ

第四項　進化

海→陸→海

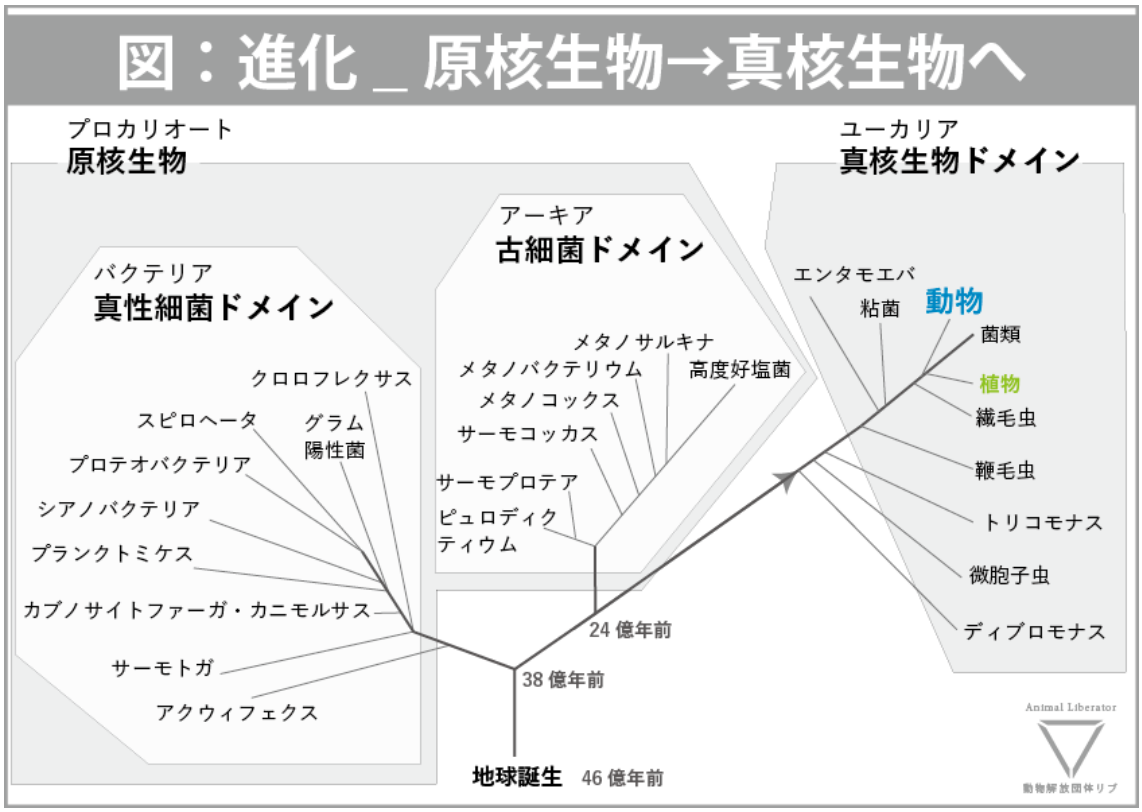
46億年前、地球が誕生しました。

38億年前、最初の生命、真性細菌（バクテリア）が誕生し、

24億年前、古細菌（アーキア）が生まれ、やがて真核生物（核構造を細胞内にもつ生物）へと進化しました。

原生生物（植物とも動物とも判別し難い生命）へと進化した生命の一部が、動物へと進化しました。

［図：進化_原核生物→真核生物へ］



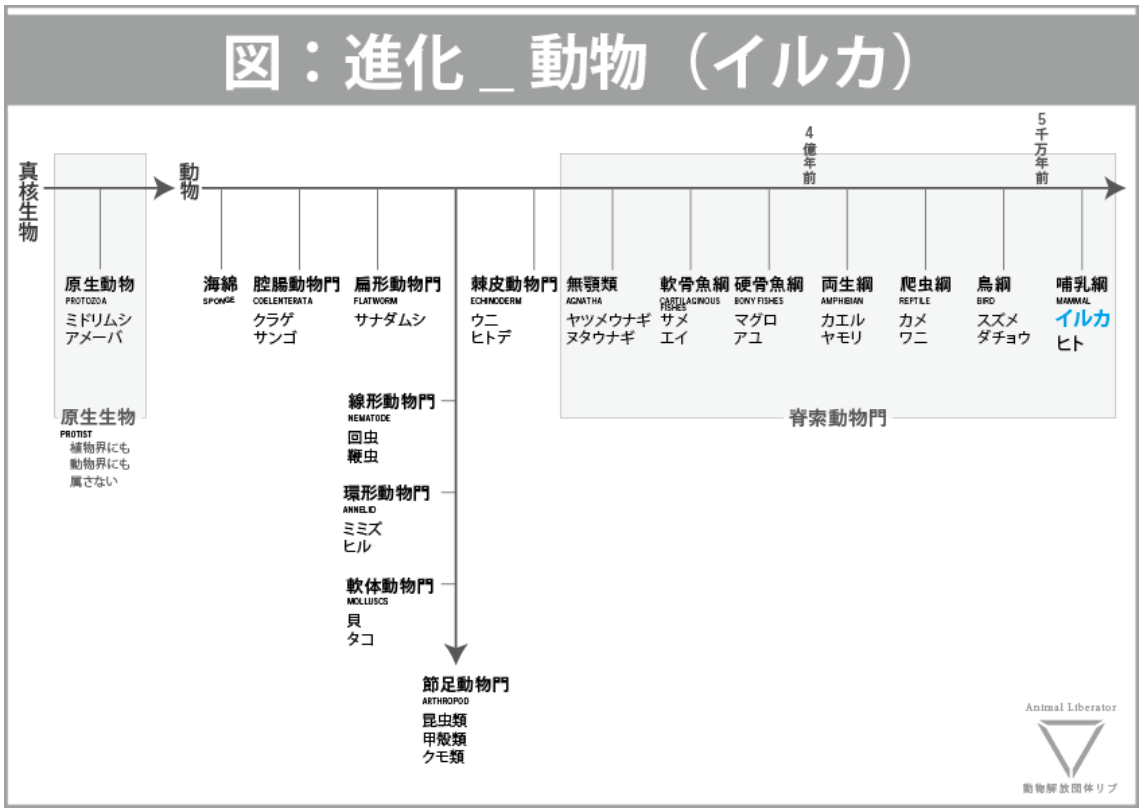
今から4億年前、魚類は陸に進出し、一部は両生類へと進化、さらにその一部は哺乳類へと進化しました。多くの哺乳類は陸上の生活に適応するように進化しましたが、約 5,000万年前鯨族は海に戻ることを選びました。

約5,000万年前パキケトゥス→ 約4,900万年アンビュロケトゥス→約3,9000万年前ドルドンと進化し、2000万年前現在の鯨族の形に変化して行きました。

［URL：パキケタス→アンブロケトゥス→ドルドン：https://onl.la/aBN3bpv］

鯨族と近いとされる動物はカバです。カバも水中に適応し、泳ぎが上手く、体毛がありません。

［図：進化_動物（イルカ）］



収斂進化

収斂進化(しゅうれんしんか)とは、綱（哺乳綱、鳥綱、両生綱、魚綱など）や種が違っても、環境や生態的地位（生態系内において獲得した地位）が同様であれば、同じような体型になることです。

鯨族の身体は、水中に適応するように進化しました。前足は前ヒレに進化、後ろ足は退化し表面上は見えなくなりましたが体内に骨盤の跡が残っています。やがて水中で方向転換しやすいように、背ビレや尾ビレが出来、魚と似たような形になっていきました。形だけを見ますと、昔の人がイルカを魚の仲間だと考えたとしても致し方ありません。

鼻の移動～クジラの潮吹き～

英語ではブロー（Blow）と呼びます。クジラのイラストでよく描かれますが、クジラが背中から水を吹き出している、クジラの潮吹き。これは、潜っていたクジラが海面で呼吸するとき、頭頂部にある鼻から勢いよく息を吐きだし、鼻の周りに付いていた海水が呼気と一緒に空中に舞い上がっているものです。噴気孔と呼ばれているのは、クジラの鼻のことです。

約5,000万年前パキケトゥスだったころ、鼻は一般的な動物のように顔の前面にありました。クジラの鼻は、水中の生活に適応するために、やがて頭の上に移動しました。その方が呼吸に便利だからです。

最も高い潮吹きをするのは、体が最も大きいシロナガスクジラ。約10mの高さに達します。
［URL：シロナガスクジラの潮吹き：https://youtu.be/GmK1XjaUB_4］
良い観察眼を持つ人は、潮吹きの形で、どのクジラか判別できるそうです。潮吹きをするのは大きなクジラだけと思っている人がいるかもしれませんが、当然ながらイルカも潮吹き＝呼吸をします。クジラ同様イルカの鼻も頭頂部にあり、顔の前面の通常鼻がありそうな部分、吻(ふん)には鼻はありません。ハクジラは鼻の穴が一つですが、ヒゲクジラは二つあり、写真では人間の鼻の穴とそっくりに見えるものもあります。
［URL：ヒゲ「クジラの鼻：https://i.redd.it/vpb7luyvbu521.jpg］
なお、鯨族には耳もありますが、皮膚で覆われて穴は露出していません。

第五項　呼称・言葉の整理

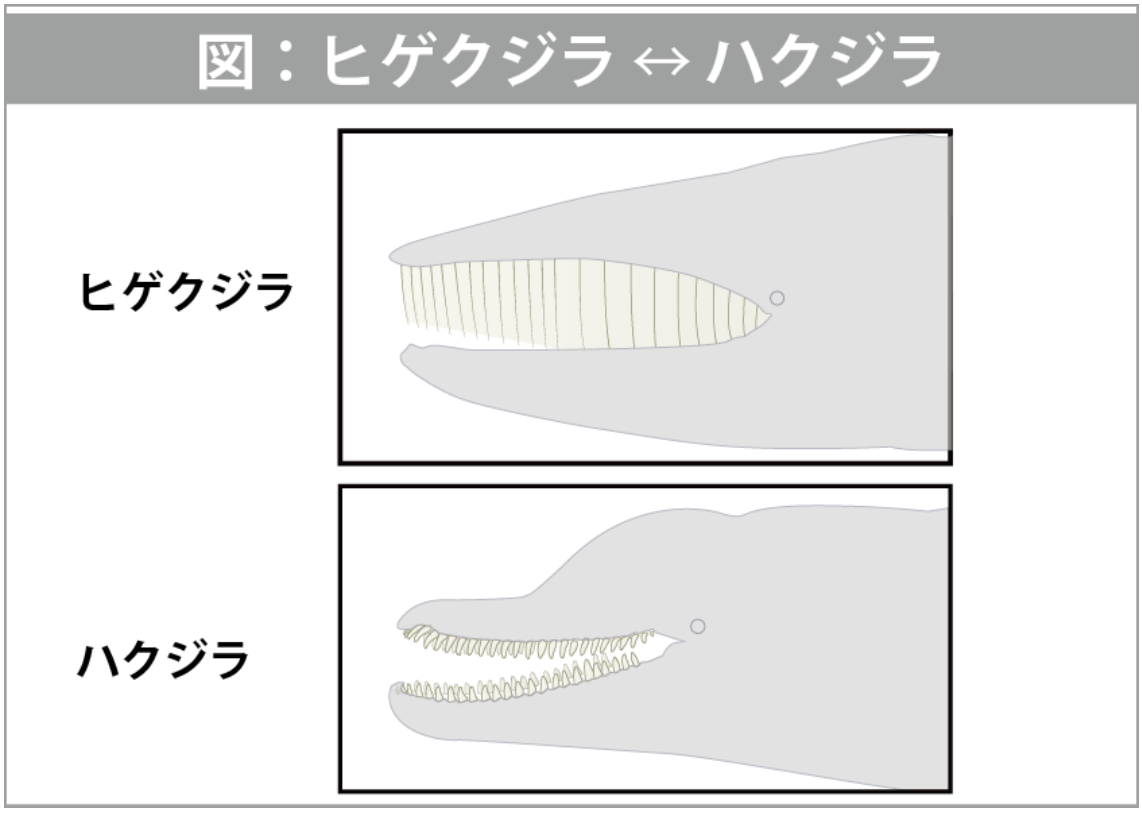
鯨族は科学的、慣習的に様々な呼称で分類されています。ここでは呼称の整理を行います。

クジラ ↔ イルカ

先にも書きましたが、「イルカ」は科学的な言葉ではなく、成体になって4m以下のクジラのことを指す慣習的な言葉です。漢字では、海豚と書きます。
イルカの定義はあいまいです。例えばカズハゴンドウは成体で3mほどですがクジラとされることがあります。シャチは大きさ的にはクジラですが、マイルカ科に属しています。

ヒゲクジラ ↔ ハクジラ

［図：ヒゲクジラ↔ハクジラ］



クジラは、ヒゲクジラとハクジラに分けられます。
ヒゲクジラ（髭クジラ）は、口の中にひげ板、あるいは、鯨髭(クジラヒゲ)と言われる繊維質（ケラチン）の硬い幕が生えており、幕の先端は毛状になっています。ひげ板は、歯が食性の変化（魚からオキアミなどのプランクトンへ）と共に変形していったものではないかと考えられています。
ハクジラ（歯クジラ）は、文字通り口の中に歯が生えています。イルカはハクジラです。

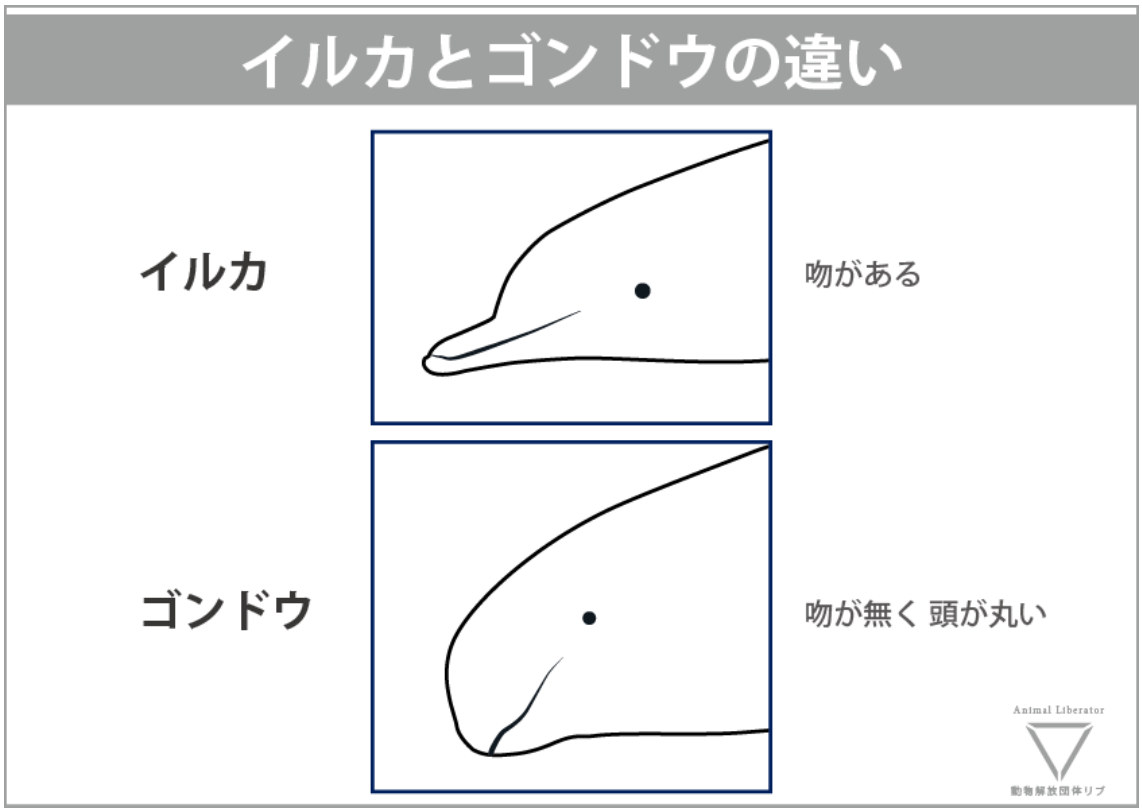
大型鯨類 ↔ 小型鯨類

IWCでは以下のように分類しています。

大型鯨類：ヒゲクジラ全部と、ハクジラのうち、マッコウクジラ、トックリクジラ、ミナミトックリクジラ。
小型鯨類：上記以外のハクジラ。

イルカ ↔ ゴンドウ

［図：イルカとゴンドウの違い］

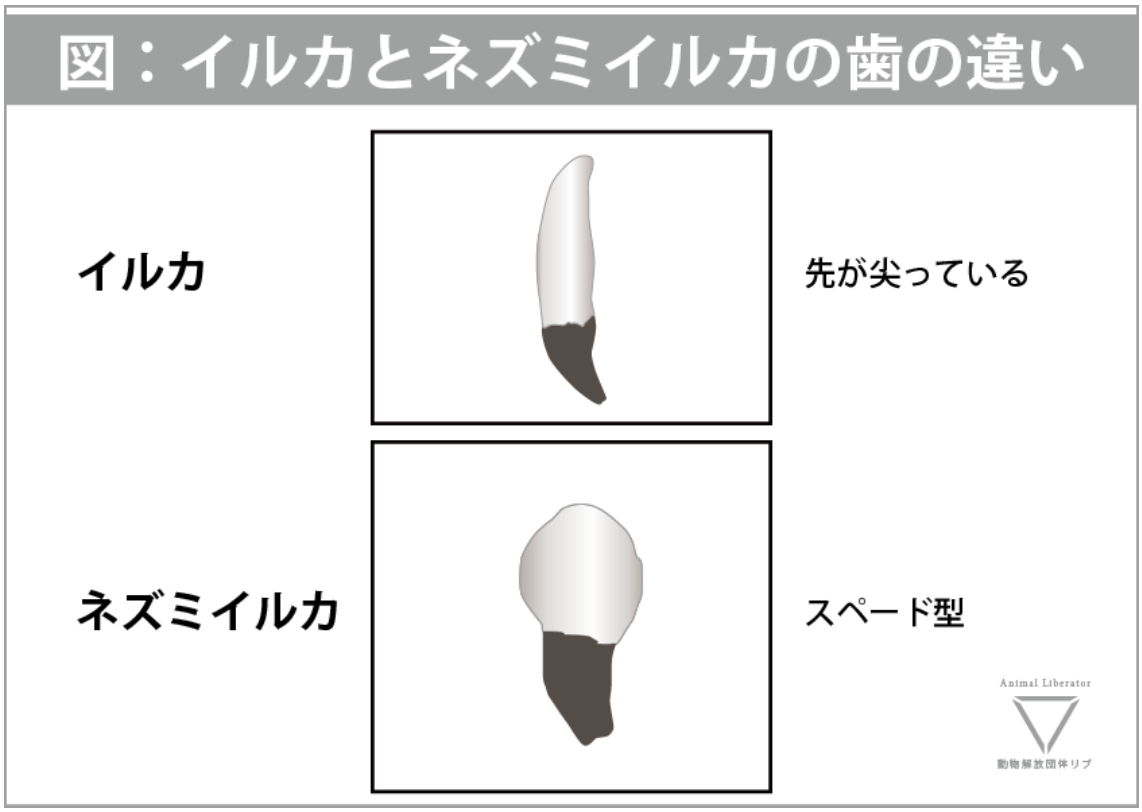


慣習的な分類です。日本では、吻（ふん：口先の尖った部分）があるクジラを「イルカ」、吻が無く頭が丸いクジラを「ゴンドウ」と呼んでいます。前者は、バンドウイルカやスジイルカなど。後者は、カズハゴンドウやハナゴンドウなどです。

イルカ ↔ ネズミイルカ

英語で、イルカはドルフィン（Dolphin）。ネズミイルカは、ポーパス（Porpoise）です。
Dolphinの語源は、先に挙げたようにギリシャ神話のアポロが変身したDelphinius。
Porpoiseの意味は、上下縦方向に揺れながら移動することで、F1レースで見られる現象ポーポイジング（Porpoising）と同様です。
［URL：Porpoising：https://youtu.be/1I2SlU0SYsQ］
イルカとネズミイルカの違いは、歯の形状です。イルカは先が尖った歯、ネズミイルカは先が丸みを帯びたスペード型の歯を持ちます。

［図：イルカとネズミイルカの歯の違い］



ブラックフィッシュ

黒い鯨族をまとめてブラックフィッシュと呼ぶことがあります。

シャチ、ユメゴンドウ、カズハゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウ、ヒレナガゴンドウ、シャチなどです。

水族館に監禁されたシャチについての映画「ブラックフィッシュ」のタイトルはここから来ています。

イルカ漁 ↔ イルカ猟

行政用語としても一般的な使用においても、日本においてイルカの捕獲には「漁」「イルカ漁」という言葉が当てられています。一方、活動家の中には「猟」「イルカ猟」という言葉を使用する人々もいます。活動家の間ではしばしば、どちらの言葉を使うべきかの議論が行われています。

一般的に「漁」とは魚を捕獲する場合に使う漢字。「猟」とは哺乳類を捕獲する場合に使う漢字です。しかし日本では、イルカを魚だと考えていた時代からの慣習により、漁という漢字が当てられています。英語では、Dolphin Hunting（イルカ猟）です。

「猟」を使うべきだとする活動家の意図をまとめると以下のようなものでしょう。

・イルカは哺乳類であり魚類ではない。正しい漢字を使うことにより、イルカに関する正しい知識と認識を広めることができる。
・水産庁はイルカを水産資源と扱うので保護が進まない。さらにはイルカに関する利権を確保し続けるために、意図的に「漁」という漢字を使っている可能性があるので正していくべきだ。
・哺乳類であるイルカは、水産庁ではなく、環境省が管轄すべきである。活動家は「猟」という漢字を啓発的に使用し、水産庁から環境省に管轄を移させる活動を進めていくべきだ。
・英語ではDolphin Huntingなので「イルカ猟」の方が対外的な表現においてわかりやすい。

「漁」を使う意図は以下のようなものでしょう。
・慣習的に「漁」を使用しているので、合わせた方がわかりやすい。
・「イルカ猟」ではネット検索にかかりづらい。「イルカ漁」という言葉を使うことにより、検索にかかり、啓発につながる。

私自身は、時々の対象や媒体や狙う効果によって使い分けています。

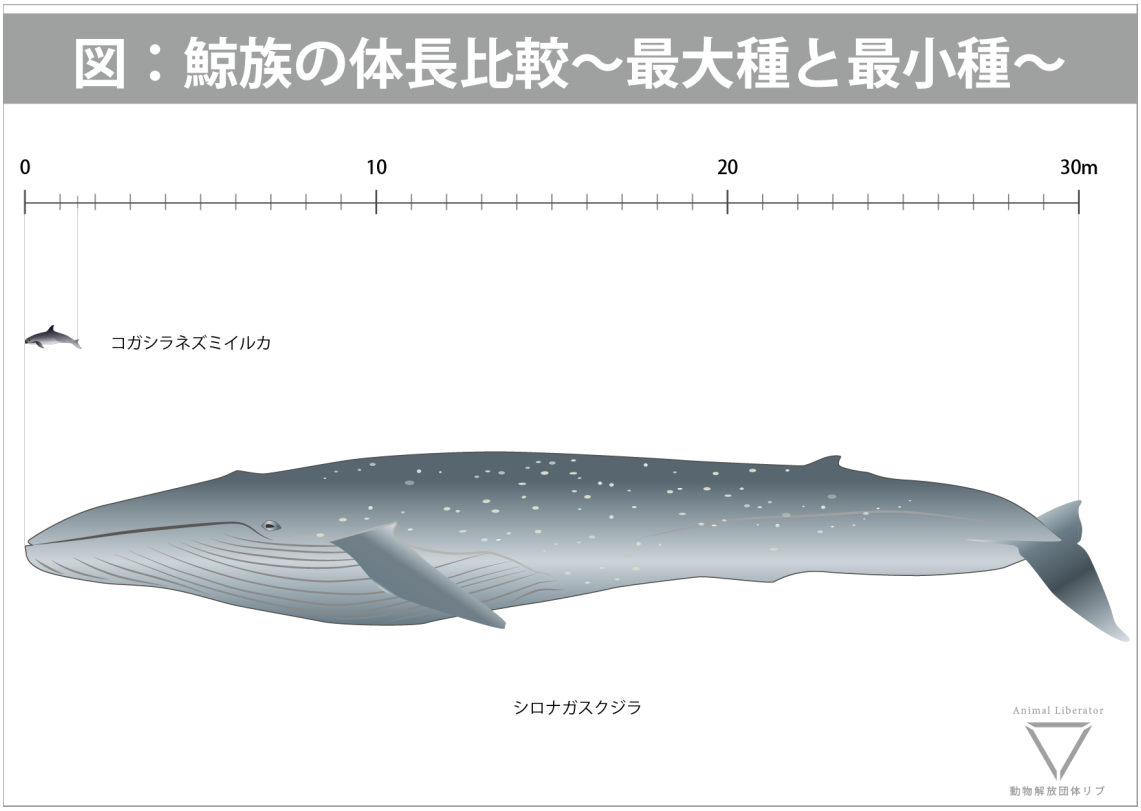
守る ↔ 擁護
本書では「イルカを守る」「動物を守る」と記述している箇所がありますが、「守る」表現という表現に対して、人間が動物に優越しているという意識を感じさせるという理由で拒否感を感じる人々がいます。
「守る」という言葉の意味するところは「守る」という言葉の定義通りであり、それ以上でも以下でもありません。ある言葉に付随する個人的解釈や主観的感情は、人それぞれの経験や意見や価値観によって異なります。
擁護する、アドボカシーを行う、搾取を止める、などがより上下関係を感じさせない表現なのかもしれませんが、「守る」という行為と、上下・優劣の関係は、場面によって変化する相対的なものです。現実では、部下が上司を守ることもあれば、社会的立場が弱いものが強いものを守ることもあり得ます。

第六項　身体

第一目　大きさ

最小のハクジラは1.5mのイロワケイルカやコガシラネズミイルカ、最大は16mのマッコウクジラです。
最小のヒゲクジラは6mのコセミクジラ、最大は30mのシロナガスクジラ。

シロナガスクジラは、地球上に現れた史上最大の動物。最大約30メートル、体重約200トンもあります。人間（体長1.7m 体重60kg）と比較すると、体長差は17.6倍、体重差は3,333倍です。コガシラネズミイルカと比較すると、体長差は20倍、体重差は4,000倍。
軽トラ(長さ3.4m、重量700kg）と比較すると体長は約9台分。重さはなんと286台分です。
シロナガスクジラをはじめとする大型鯨族が大きくなった理由は様々に考えられていますが、浮力によって重力の影響を受けにくい、寒さに耐えるために体が大きくなった（人間でも北に住む人ほど体が大きい（ベルグマンの法則））などです。
ヒゲクジラに関しては、オキアミ（3〜6cmの甲殻類）など生態系下位の動物を食べることにより、食物の安定的確保ができたこともその理由の一つとされています。
また前足（胸ビレ）が最も大きい動物は、ザトウクジラ。5mもあります。
［図：体長比較］



第二目　子孫を残す

妊娠期間と出産間隔

ミナミバンドウイルカ　妊娠期間約12ヶ月　出産間隔5〜6年

ベルーガ　妊娠期間12〜14か月半　出産間隔2〜3年

シャチ　出産間隔5年（うち37〜50％が死亡）

マッコウクジラ　妊娠期間16ヶ月　出産間隔4年

第三目　泳ぎ

泳ぎ方

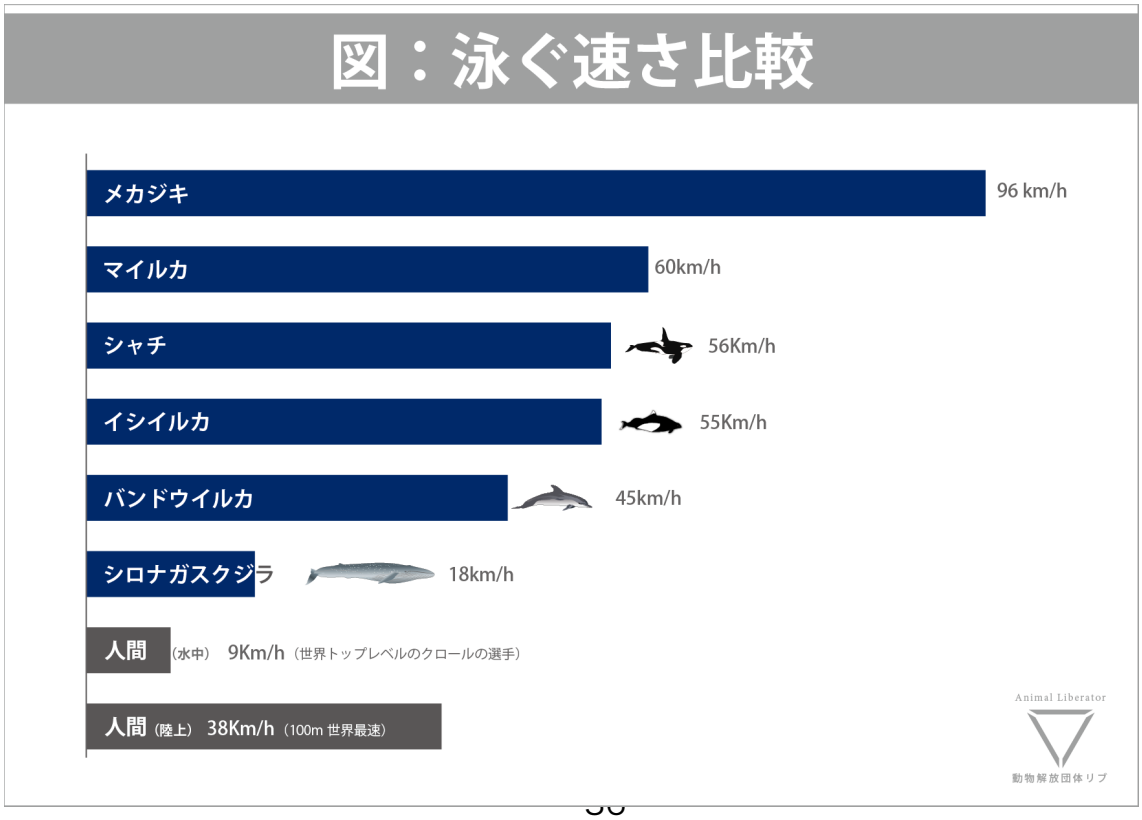
魚類・両生類・爬虫類は、体を横に振って移動します。尾鰭は体に対して縦向きに付いています。対して哺乳類は、体を縦向きに振って移動します。例えば人間は泳ぐとき、体をバサロ泳法のように縦に振ります。猫や犬なども走るとき縦に腰を曲げて走ります。同様に鯨族は哺乳類なので、体を縦向きに振って泳ぎます。ゆえに尾鰭は体に対して横向きに付いています。それぞれの類（綱）ごとの骨格などの構造が、それぞれの効率的な動きを決定しています。

速さ

最も早く泳げる鯨族は、マイルカの60km/h。シャチが56km/h、イシイルカが55km/hです。水族館で見られるバンドウイルカは45km/h。シロナガスクジラは18km/h。ただし、獲物を追いかける時や逃走時はこれ以上のスピードで泳げるようです。

人間は、世界トップレベルのクロールの選手で9km/h。陸上の世界最速でさえも、38km/hです。なお、陸上で受ける抵抗は、水中の抵抗の1/9です。

［図：泳ぐ速さ比較］

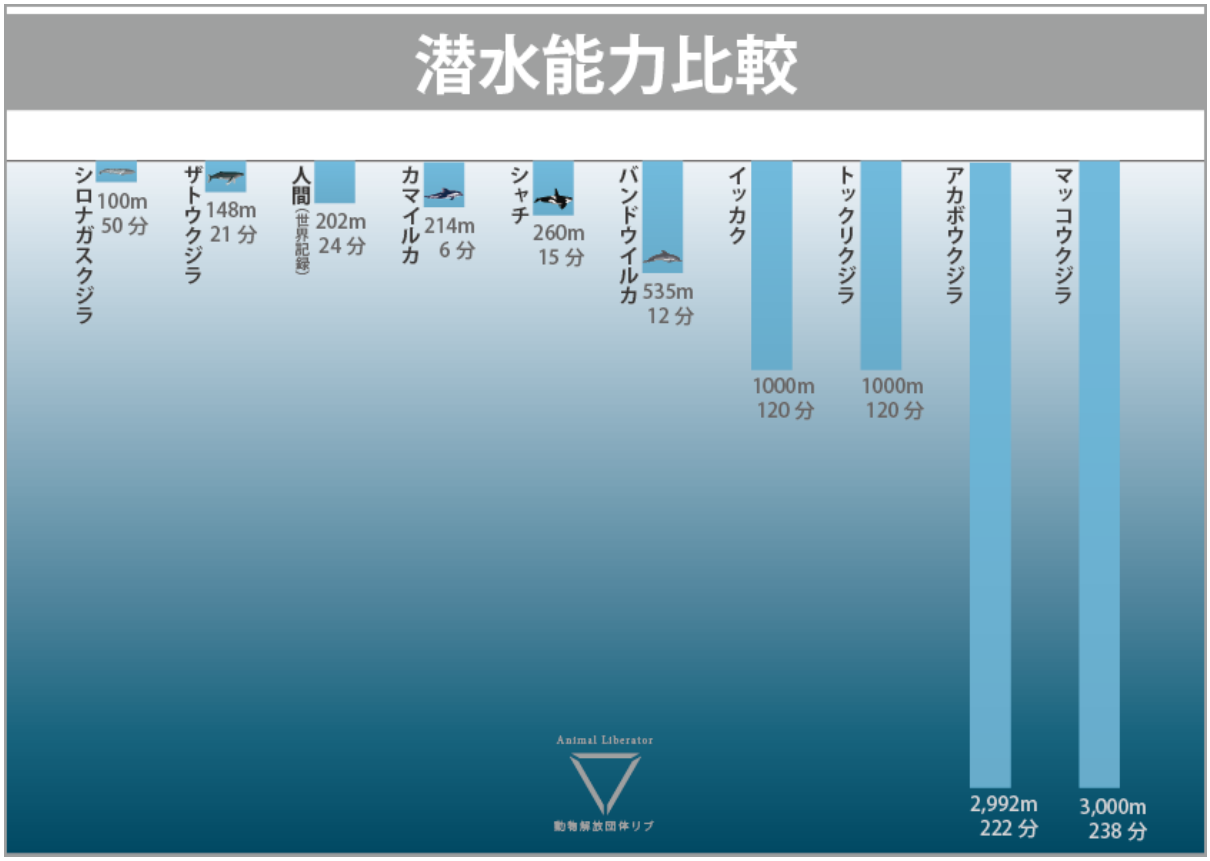


潜水能力

最も深く潜れるとされているのがマッコウクジラ。水深3,000mまで潜れるとされています。潜水時間は2時間18分。またアカボウクジラは、最大水深2,992mまで潜り、最長222分間（3時間42分）潜り続けたことが確認されています。人間の世界記録は水深202m（2020-11-25）、息止め24分3秒(2015）だそうです。

鯨族が潜るときは、心拍数を減らし、血液を心臓など重要な器官へと集中させます。シロナガスクジラの心拍数は、通常1分間に37回が、潜水時には2回にまで減らします。

［図：潜水能力比較］



第四目　さまざまな行動

クジラたちは様々な行動を取ります。

ブリーチング

海中から水面に勢いよくジャンプし、体を叩きつける行動をブリーチングと言います。理由には様々な説があり、体についた寄生虫を取るため、女性へのアピール、威嚇などとされています。

［URL：ブリーチング：https://youtu.be/oXn1XxuAZEA］

スパイホップ

目を水面に出して周りの様子を確認します。岸に近づいたときや、流氷に囲まれたときなど、体を水面に押し上げて周りを見渡し、何があるか、何が起こっているかを確認します。ヒゲクジラもハクジラも行います。
［URL：シャチのスパイホップ：https://youtu.be/U9Lw1_rkBnE］

テールスラップ（Tail slap）
尾びれを水面に叩きつける。
［URL：ザトウクジラのテールスラップ：https://youtu.be/6pvzgijNeRA］

ペックスラップ（Pec Slap）
胸ビレを水面に叩きつける。
［URL：ザトウクジラのペックスラップ：https://youtu.be/hCt9XAvqdPY］

ロギング（Logging）
イルカたちが身体を浮かべ、海面近くに横たわり漂っている行動。

顎を鳴らす（Jaw Clap）
攻撃的な精神状態になっているときに鳴らすようです。また戯れているときも鳴らすことがあります。
［URL：Dolphin Jaw Clap：https://youtu.be/V26N6heL5_A］

第七項　知性

動物の知性の推測は、様々に試みられています。一般的には、「脳の重さの比較」「脳の重さと体重の比較」「脳化指数（EQ）」「自己認識能力」をもって行われます。

1. 脳の重さの比較

ネコ　30g
ヒト（女）　1,225g（1.22kg）
ヒト（男）　1,375g（1.58kg）
イルカ　200g～2000g（2kg）
マッコウクジラ　9,000g（9kg）

脳の大きさの比較ゆえにイルカやクジラは人間より知的である、と主張する人々もいます。しかし、これは体の大きさが考慮されていません。

2. 脳の重さと体重の比較（脳の重さ：体重）

アリ　1:7
ネコ　1:100
ヒト　1:40
イルカ　1:50
マッコウクジラ　1:3300

体重に対する脳重量は、人間よりアリや小鳥の方が大きくなります。

3. 脳化指数（EQ）

脳化指数は、数式（ [EQ] = [定数] × [脳の重量] ÷ [体重]2/3）用いて、脳の重さが、体重に対しどれくらいあるかかを表したものです。ネコを1とする式が一般的です。

ネコ　1
ヒト　7.4–7.8
イルカ　5.3（バンドウイルカ）
マッコウクジラ　0.58

となります。

EQにも様々な問題があります。

1 脳化指数が同等であっても同等の知性を持っているとは言えない
2 脳化指数が高くてもより高い知性を持っているとは限らない
3 細胞の大きさ自体が異なる、等

4. 自己認識能力

自己認識できる動物はかつては人間だけだと思われていました。しかし現在では、大型類人猿（チンパンジー、ボノボ、オランウータン、ゴリラ）、ゾウ、バンドウイルカ、シャチ、などが、自己認識できることがわかっています。さらには魚が自己認識している可能性を示唆する研究も行われています。
［URL：鏡の中の自分がわかる魚を初確認、大阪市大：https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/18/091300402/?P=1］
一方、大型のクジラや人前にあまり姿を表さない鯨族に関しては、自己認識能力があるかどうかを確認することは難しいでしょう。

他にも、脳のシワの多さは、知性の高さを示すという見方があります。イルカの脳のシワは人間よりも多いため、イルカの方が知的に優れているはずである、と考える人もいます。

これら議論は、人間の優越性を守るために行われたり、逆に動物を擁護する目的のために行われます。ただし、これらの指標は倫理的な指標となるものではありません。脳の大小や能力の優劣によって相手の価値を判断することは、倫理的ではないからです。

第八項　心

本書では「心」を、感情、意思、気持ち、思いやり、望みなど心理的な働きとします。
お母さんが、子供の世話をしたり、守ったりする心の働きを、人間には「愛」という言葉を使い、動物には「本能」という言葉を使います。本当は人間も動物もどちらも「愛」です。
動物は、楽しいことがあったら喜び、悲しいことがあったら悲しみ、攻撃されたり嫌なことをされたら怒り、大きな物音に驚き、怖かったら恐れます。これは感情です。
動物は、食べたいものがあったら手に入れようとし、子供を傷つけられようとしたら守り、行きたいところへ行き、移動したいと思ったら移動します。これは意思です。
動物は、動物や人間を好きになり、大切に思い、好きだと思い、感謝します。これは気持ちです。
イルカは、子供が泳げなかったら手伝い、仲間が危険に陥っていたら助け、他種の動物であっても危険だとわかったら助けます。これは思いやりです。
イルカは、家族と一緒にいたいと思い、安心安全でいたいと思います。これは望みです。
人間には理解できない動物の、逆に動物が理解できない人間の、感情、意思、気持ち、思いやり、望みもあるでしょう。しかし、根本的な心の働きは変わりません。
動物、鯨族は明らかに、心を持っています。人間は、そして社会は、動物には心があるという現実を受け止め、新たな認識・価値観に基づいた倫理観、社会システムを再構築することになるでしょう。

第九項　社会形態

第一目　様々な形態

個体群（population segment、community、stock）

個体群とは、ある空間内に存在する同種を指します。個体群と群れは異なります。例えば人間で例えますと、個体群は日本人、群れは少人数の家族や仲間となります。個体群の内部には、様々な群れが存在し、個体同士の相互作用（生殖や競争など）が行われます。個体群を超えた相互作用が行われる場合もあります。以前は、種ごとに保全を行っていましたが、現在では個体群の保全が重要視されています。個体群特有の遺伝子があり、個体群を絶滅させることはその遺伝子を持つ群を絶滅させてしまうからです。

例えば、日本近海のミンククジラは、J-Stock（東シナ海・黄海・日本海系群）とO-Stock（オホーツク海・西太平洋系群）の2群いるとされています。J-Stockは日本海側に住むミンククジラ。O-Stockは太平洋側に住むミンククジラです。混獲などによるJ-Stockの絶滅が危惧されています。

［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］

クラン（Clan ＝ 血族）

血族という意味。家族で構成されている群れのことを指します。

ポッド（Pod ≒ 家族）

2〜30名ほどで構成された、家族や親戚、仲間の集まり。動物に対しては群れと表現される集まりです。ポッドには、女性だけのポッド、若い男性だけのポッド、男女老若男女混合のポッドなど様々な形態があります。複数のポッドが一時的に合流し、グループを作ることもあります。

イルカ追い込み漁は、ポッドやクランを丸ごと追い込み、殺害、遺伝子の多様性を一気に破壊する漁でもあります。

バチェラーポッド（Bachelor Pod：男性だけのポッド）

2〜5名ほどの男性だけのポッドです。女性のイルカとの生殖の機会を増やすために集まっていると考えられています。

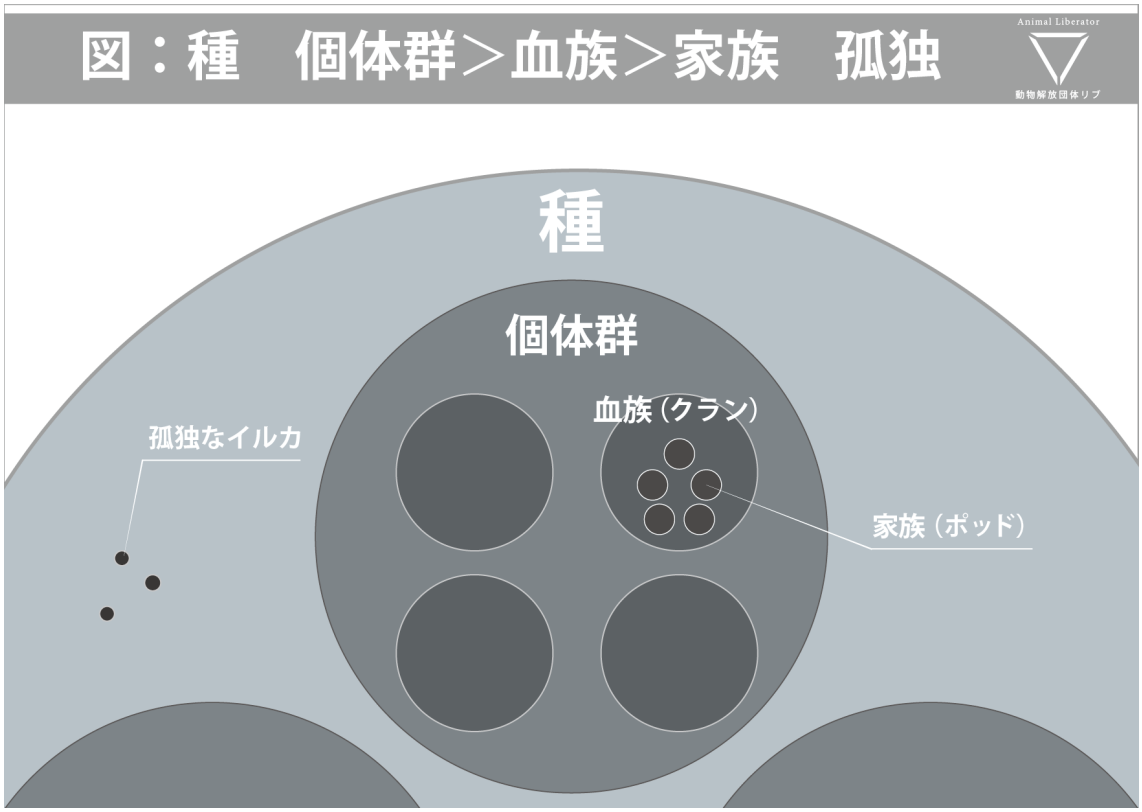
孤独なイルカ

孤独なイルカ（Solitary-Dolphin）、孤独なクジラ（Solitary-Cetacean）と呼びます。ポッドに属さず、社会的に孤立し、1人で孤独に生きるイルカやクジラのことです。

孤独なイルカは2018年までに114例報告されています。種は、バンドウイルカ、スジイルカ、マイルカ、ハラジロカマイルカ、ハナゴンドウ、ベルーガ、イッカク、シャチ。彼らが孤独に生きることを選択する理由はわかっていません。

孤独なイルカが人間と交流を持った事例は、［本文参照：第一部 第二章 第二節 第七項　有名なイルカ］に記載します。人間の領域に近づきすぎることにより、人間から嫌がらせを受ける、釣り糸で怪我を負う、ボートのスクリューで負傷し死亡するなど、不幸な結末となる場合があります。専門家は、人間は孤独なイルカとの接触を避けること、イルカは野生に戻ることを望んでいます。

［図：種　個体群＞血族＞家族　孤独］



グループ

グループは、ポッドやクランが集まったものです。異種のグループ、混合ポッドを作ることもあります。

混合ポッド

鯨族は種類を超えてポッド、グループを作ることがあります。バンドウイルカとハナゴンドウのグループ、バンドウイルカとコビレゴンドウのグループ、スジイルカとハナゴンドウのグループなどがあります。

マッコウクジラと、脊柱側弯症（せきついそくわんしょう）のバンドウイルカが一緒にいるところも撮影されています。マッコウクジラが守っているようにも見えます。

［URL：マッコウクジラと脊柱側弯症のバンドウイルカ：https://youtu.be/7iFzIMZRsoI］

このようなグループを作る理由として、敵から身を守るため、採餌に有利なためなどと推察がされていますが、確かなことはわかりません。ただ一緒にいたいから、心地よいからかもしれません。

スーパーポッド

ポッドやグループが集まり、さらに巨大な100～1000名以上の集団を形成するときがあります。これをスーパーポッドと呼びます。これは様々なポッドやグループが集まり、男女が出会う場だと言われています。遺伝子の多様性を獲得するためです。

［URL：スーパーポッド マイルカ アイルランド：https://youtu.be/Hc_rkARrKDo］

［URL：スーパーポッド マイルカ カリフォルニア：https://youtu.be/OlmDVuxerQ0］

第二目　子育て

ナーサリーポッド

［写真：ナーサリーポッド］



ポッド（Pod）とは、家族や親戚、仲間の集まりです。

イルカの種類によっては、ナーサリーポッドと呼ばれる女性と子どもだけの群れを作るイルカがいます。ナーサリー(保育園、託児所)ポッドとは、子育てのためのポッドです。人間もそうですが、初めて子どもを産んだ女性が一人で子育てを行うのはほとんど不可能です。食べ物のあげ方や、あやし方、子供が病気になったとき対処の仕方など、子育てに必要な知識

を知りません。ですので、おばあちゃんや年配の女性が、若い女性に子育ての仕方を教え、サポートします。イルカも人間もまったく同じです。
また、赤ちゃんは泳ぎ方が下手なため、空気を吸うために水面に上がることが苦手で、溺れてしまうことがあります。その時は、お母さんがおんぶして赤ちゃんを背中に乗せ、海面に上がり、呼吸を手伝ってあげます。しかし、お母さんが疲れてしまうときがあります。そんな時は、他の女性が代わりに赤ちゃんをおんぶして呼吸をさせます。また、お母さんがお腹が空いて魚を取りに行っている間は、他の女性が赤ちゃんの面倒をみます。
このように助け合って子育てをするためのポッドがナーサリーポッドです。
動物には、子どもを産めなくなると寿命を終える動物と、子どもを産めなくなっても生き続ける動物がいます。生き続ける理由は、他の女性に子育てや食べ物を手に入れられる場所を教えるなど知恵と文化を伝えるためです。後者は、知性的社会的に進化している動物と考えられています。スジイルカやマダライルカは前者、コビレゴンドウやバンドウイルカや人間などは後者です。

お母さんと子供の泳ぎ方も興味深いものです。お母さんが子どもと一緒に泳ぐとき、お母さんは子どもに自分の体の後ろの方の横あるいは下、あるいは上を泳がせます。これはベイビーポジション(Baby position)とも言われ、場所によって、Echelon position、Infant position、Head under head positionと名付けられています。
［URL：Positions of Calf Relative to Mother：https://www.researchgate.net/figure/sual-ethogram-of-select-foraging-behavioral-events-Miles-and-Herzing-2003-The-visual_fig2_23134090］
お母さんが水を切って泳ぐことで、前方に巻き込む水流を作り、子どもにかかる水圧を軽減し楽に泳げるようにしています。またこのベイビーポジションは、授乳しやすい位置にもなっています。

養子
イルカたちは、他のポッドからはぐれた子どもや、一人でいる、母が死んでしまったかもしれない子どもを”養子”にして、自分たちの子どもと一緒に育ててあげることがあります。場合によっては、他の種の子どもを仲間に入れて育てることもあります。
［URL：バンドウイルカがカズハゴンドウの孤児を育てる：https://youtu.be/D0eJzq_LsD8］
かつては、他者の子供を育て、養子にするのは人間独自の行動だと考えられていました。同様にかつては、感情があるのは人間だけ、痛みを感じるのは人間だけ、道具を使えるのは人間だけ、コミュニケーションしているのは人間だけ、と、人間だけが考えていました。

ヒゲクジラ
冬は暖かい南の海に移動し、出産と子育てを行います。理由の一つとして、生まれたばかりの子どもは冷たい海水に適応できないため。もう一つは、暖かい海は、動物プランクトンや

小魚が少ないため、それを捕食するイルカや魚が少なくなります。ゆえに、イルカや魚そしてクジラの赤ちゃんを捕食する、シャチやサメが少なくなるからと考えられています。
母親は、出産子育ての間ほとんど食べずに授乳します。子どもが大きくなったら、寒い海に帰ります。

第三目　種による違い

単独

単独とは、主に単独で生活するイルカたちです。カワイルカ類が単独で生活します。

群集

群衆とは、大きな集団で行動するイルカです。スジイルカなどがこれに当たります。

母系社会

カズハゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウ、シャチなどは母系社会を構成します。母系社会、母系集団とは、女性を中心とした社会の構造です。ポッドで生まれた女性は終生ポッドで生活し、年長の女性がポッドのリーダーとなります。男性は成長すると留まるものもいれば、離脱し一人や小グループで生きるか、他のポッドに合流する者もいます。子育てや採餌方法、コミュニケーションなどの文化も女性を中心に、受け継がれていきます。

ヒゲクジラ

クジラごとに様々な家族形態を取ります。例えばシロナガスクジラやニタリクジラは、ほとんどの場合1人か、母子の場合2人で行動しますが、ナガスクジラやコククジラは、グループで行動することが多いようです。バブルネットフィーディングなど、摂食行動の時にグループになるザトウクジラもいます。
ほとんどのヒゲクジラが季節移動しており、一部、定住に近い暮らしをしているクジラ（ニタリクジラ、コセミクジラ）がいるようです。

第十項　地球環境を改善するクジラたち

IMF(国際通貨基金)が発表した、クジラ保護が地球環境や経済に多大なメリットをもたらす、鯨族の存在自体が地球環境を改善している、というレポートは画期的なものでした。
［URL：自然界が示す気候変動の解決法　クジラ保護政策が温室効果ガスと地球温暖化の抑制につながる可能性：https://www.imf.org/external/japanese/pubs/ft/fandd/2019/12/pdf/Chami.pdf］

このレポートはヒューマニズム的な立場で書かれていますが、レポートの最後に、**「クジラは人間の道具ではない。この巨大な生き物はその存在自体に価値があり、生きる権利を持っている」**との記述があります。この立場はアニマリズムの価値観です。
また「クジラ保護のために各国がとるべき行動をアドバイスし、監視し、協調させるのに最適な立場にあるのは国際金融機関だ」
という文章も印象的でした。社会の意識の前進を感じます。

IMFがクジラを保護すべきとする根拠を以下にまとめます。

① クジラの移動が地球環境を改善する

クジラが移動し、海水を攪拌、排泄することによって、植物プランクトンを何倍にも増加させ、環境を改善させるということがわかってきました。植物プランクトンは、大気中の酸素の50%を生み出し、地球上で発生する二酸化炭素の40%を回収します。その量は、アマゾンの熱帯雨林4つ分。植物プランクトンの生産性が1%増加すれば、20億本の木と同等の恩恵をもたらします。その植物プランクトンの成長に必要な栄養素、窒素や鉄分などが、クジラの排泄物に含まれています。

ホエール・ポンプ

クジラが、深く潜り再び海面に上昇するという縦方向の移動をすることによって、層になっている海水を縦方向にかき混ぜ、ミネラルや微生物を循環させます。また、海面で排泄を行うことにより、植物プランクトンや魚などを増加させ環境を改善します。

ホエール・コンベヤベルト

クジラが、冷たい海域と温かい海域を回遊するという水平方向の移動をするによって、ミネラルや微生物など栄養豊富な北極や南極付近から、栄養が乏しい赤道方向の海域に循環させ、またその間排泄することにより、植物プランクトンや魚などを増加させ、地球環境を改善します。

② クジラの体が炭素を蓄積する（バイオマス炭素）

バイオマス炭素とは、生物が貯蔵する炭素。生物の体には、CO2を固定し、大気中のCO2を減らす役割があります。クジラのバイオマス炭素は驚異的です。大型クジラは1人あたり平均33トン(木1500本分の)CO2を数百年にわたって貯蔵します。

③ 鯨骨生物群集

鯨族が死ぬと、遺体の多くは海底に沈みます。その遺体は、細菌類、甲殻類、ヌタウナギなどの魚類、様々な生物の住処となり、生態系を構成します。広大な海の底にクジラの遺体が点在し、そこここに独特で貴重な閉鎖系の生態系が形成されています。また、クジラの遺体間を移動する甲殻類の拠り所ともなっています。

［URL：鯨骨生物群集（モントレーベイ）：https://youtu.be/8e0Mw_25ojg］

2013年4月、水深4,204mの海底で発見された鯨骨生物群集では、41種の新種と考えられる生物が発見されました。人間は捕鯨により多くのクジラを殺してしまいましたが、知らず知らずに鯨骨生物群集で生まれた多くの未知の生物を絶滅させていただろうと考えられています。

④クジラの増加が地球環境を改善する

かつてクジラは地球全体に400～500万名いましたが、捕鯨で殺害され現在130万名にまで減っています。クジラの生息数が捕鯨開始以前の水準に回復した場合、年間17億トンのCO2を吸収。これは、世界のCO2総排出量（335億トン）の、5%に当たります。日本はCO2総排出量の3.2%を排出していますので、クジラの生息数の回復は日本の総排出量を吸収することになります。

⑤クジラの金銭的価値

IMFのレポートには、クジラが存在することによって生み出される人間への経済的恩恵も試算されています。大型クジラが生み出す価値は控えめに見ても大型クジラ1名につき平均200万ドル＝2億1877万円。現在生息する大型クジラ全員ではゆうに1兆ドル＝109兆3860億円（1$=¥109.39）を超えるとされています。

つまり、日本の捕鯨業者がクジラを1頭殺すごとに、私たち日本人も含めた人類に2億1877万円の損害を与えているということです。

《参考》

［URL：IMFが行うクジラ保護政策｜動物解放団体リブ：https://animal-liberator.net/animal-liberator/imf-whale］

第二節　イルカ

概要

ここでは、イルカ（ハクジラ）が非常に興味深く、稀有な存在であるとわかるエピソードを挙げます。もちろん、イルカが特に素晴らしい存在だから大切にするべきだと言っているわけではありません。人間にとって、あるいは個人的な価値観から見て素晴らしい存在とは感じなかったとしても、あらゆる動物を尊重するべきです。

我々人間は、自分の感性で判断し、自分の価値基準で判断します。しかし、人間の感覚や能力は極めて限定的で、知覚外にある現実は理解どころか認識もできません。我々人間は、不完全で未熟な存在です。であれば、わからないことはわからないまま尊重し、保存したほうが良いでしょう。この節では、イルカ、ハクジラについて記述します。

第一項　身体

第一目　食事

食物

食べ物は、魚類（サケ、サバ、サンマ等）、頭足類（イカ、タコ等）、甲殻類（カニ、エビ等）、クラゲなどです。

イルカは魚中心に食べ、ゴンドウはイカを中心に食べるようです。集魚灯を付けたイルカ漁船の周りにはハナゴンドウが集まって来ることがあります。水族館でも、イルカには魚をあげ、ゴンドウ系にはイカを中心にあげます。南知多ビーチランドには、バンドウイルカとハナゴンドウのミックスのプリンがいますが、プリンにはイカをあげていました。

最大のハクジラ、マッコウクジラは、ダイオウイカやヤリイカなどを主に食べ、その他、魚、深海魚も食べます。

ハクジラのほとんどは、人間のように歯で噛んで咀嚼しません。挟むだけで、丸ごと飲み込みます。咀嚼すると海水を飲んでしまうためです。飲み込むときは、魚の背鰭などが引っかからないように頭から飲み込みます。オキゴンドウやシャチに関しては、歯を使って獲物を引き裂いたり、肉を齧りとったりすることができます。

水分

水分はすべて捕食した魚などから摂ります。ヒゲクジラも同様にオキアミや魚などから摂っています。

捕食方法

追いかけて食べるのはもちろん、尾鰭で魚を蹴り上げる、道具を使う、波打ち際に乗り上げるなど様々に工夫を凝らした方法で捕食します。

尾鰭で魚を蹴り上げる

［URL：The Art of Kicking Fish：https://youtu.be/XWVugboLC_s］

海辺に乗り上げて魚を捕る

［URL：Smart Dolphins Beach their Prey：https://youtu.be/EVJ_sbmw07M］

泥の輪漁

［本文参照：第一部 第二章 第二節 第三項　知性と文化］

海綿を使った漁

［本文参照：第一部 第二章 第二節 第三項　知性と文化］

［本文参照：第一部 第三章 第五節 第六項　ミナミバンドウイルカ］

第二目　睡眠

半球睡眠

イルカやクジラは空気を取り込み肺呼吸をしていますので、もし水の中で寝てしまったら、鼻や口から海水を飲みこんでしまい溺れてしまいます。鯨族が溺れないのは、脳を右脳と左脳、半分ずつ交代で働かせあるいは眠らせることができるからです。水族館でのイルカショーの合間のイルカの姿を観察していると、片方の目を瞑り、片方の目を開けて泳いでいるイルカがいることがあります。これが半球睡眠している状態です。

渡鳥も飛びながら寝る必要がありますので、半球睡眠の能力を獲得しています。ニワトリやカモメなどの鳥類も、常に外敵の襲撃に気を配る必要があるために半球睡眠を行います。

第三目　女性・男性の見分け方

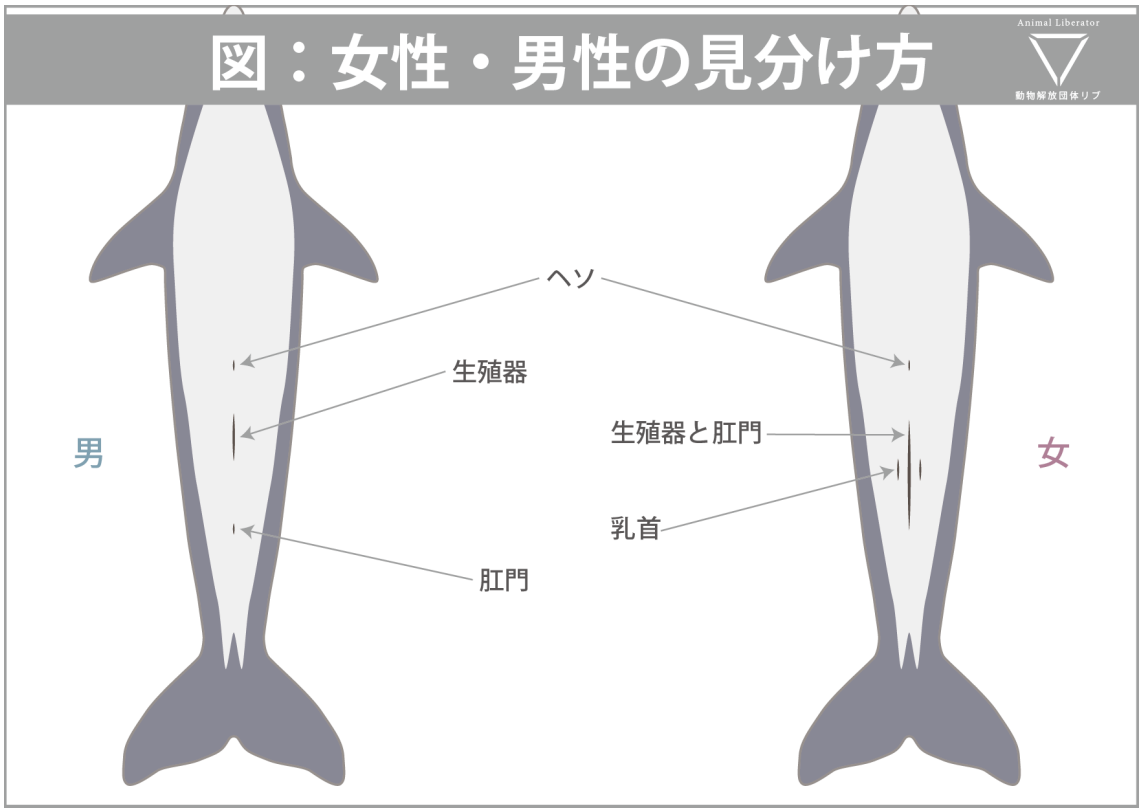
イルカの女性と男性の見分け方は、腹部で行います。

男女共通：お腹上部・体中心にある筋はヘソ。

男性：お腹下部・体中心に二本の筋があり、上に陰茎が、下に肛門があります。

女性：お腹下部・体中心に一本の筋、両脇に小さい窪みがあり、「小」の文字に見えます。真ん中の筋には膣と肛門があり、両脇の小さい窪みには乳首があります。

［図：イルカの女性・男性の見分け方］



第二項　コミュニケーション

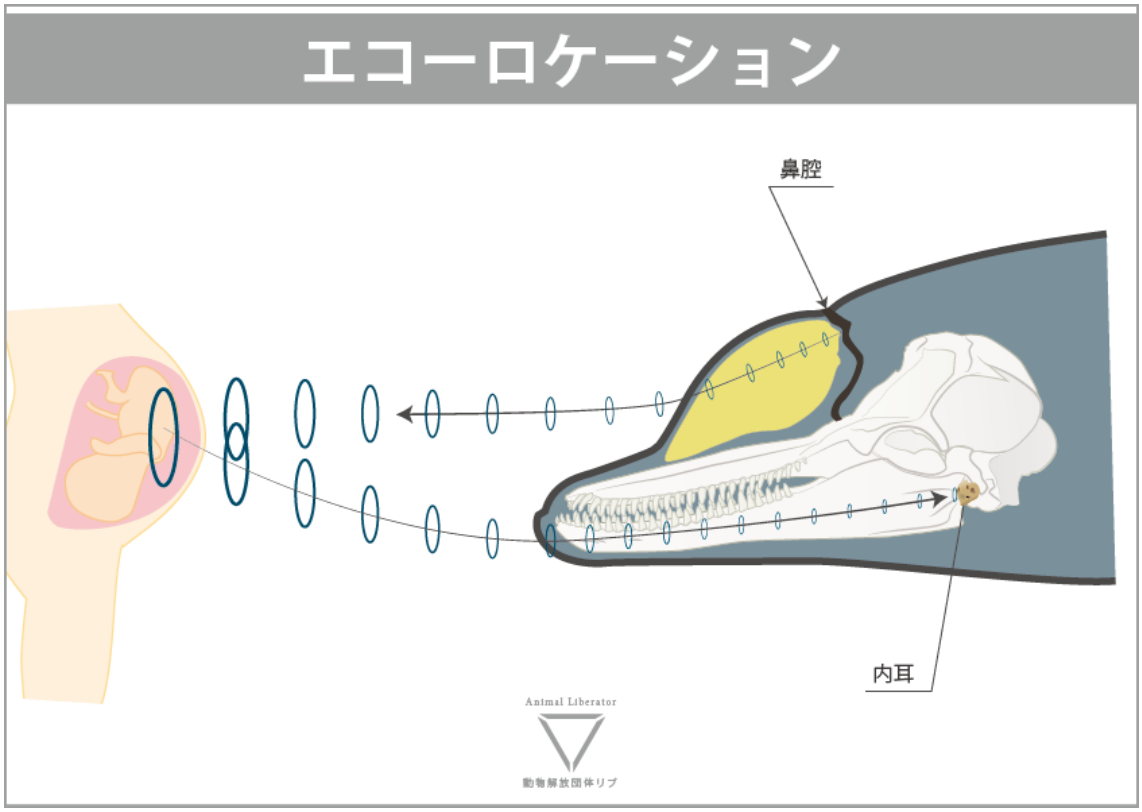
第一目　コミュニケーションの方法

①エコーロケーション（反響定位）

イルカたちは超音波を使って、エコーロケーションを行います。エコーロケーションとは、超音波を発して当たって返ってきた音で、地形や魚などの大きさ、形、位置、速度、距離などを知る能力です。

エコーロケーションの仕組みは、まず、肺から頭頂部にある鼻(噴気孔)に繋がる空気の通り道の途中にある音唇を使って音を出します。その音を、イルカの頭の丸い部分の内側、頭蓋骨の外にあるメロン体という脂肪を通して、音を収束させ、目的の対象めがけて音波を発します。跳ね返ってきた音は、突き出た下顎の先から入り、骨を通じて伝わり、内耳で音を受け取ります。エコーロケーションが行えるのはハクジラのみです。ヒゲクジラはエコーロケーションできません。

［図：エコーロケーション］



エコーロケーションに使用される音の種類

クリック音（Clicks）、パルス音（Pulses）、ホイッスル（Whistles）、唸り音（Groans、Growls）、跳ねる音（Boings）、叫び声（Cries)、震え声（Trills）、”シュー”という音（whooshes）などです。

クリック音は、「カチッ！」といった音。パソコンのマウスのクリックと同様です。
パルス音は、「カチカチカチ」「カリカリカリ」などのように聞こえる、高い音と低い音を微細に繰り返す音。魚や地形を把握するときなどに使われ、100mもの距離を探査できるようです。怒ったときに出す強いパルス音、バーストパルスという音もあります。
ホイッスルは、「ピューイピューイ」などのように聞こえる長い音。イルカたちの名前に使われるシグナチャーホイッスルは、このホイッスルの一種です。
［URL：イルカの音：https://youtu.be/FJE-f6f0R5E］（クリックス2:17～。ホイッスル0:17～）

妊娠していることがわかっているかもしれない
もしあなたが妊娠していたら、イルカたちはあなたのお腹の中の赤ちゃんを見ているかもしれません。彼らはエコーロケーションを使い形を”見る”ことができます。胎内の赤ちゃんを画像化するためのエコー検査と同じ原理です。二つの心臓を持つ人間がいたらそれは妊娠していることを示しています。イルカたちは妊娠している女性に興味を持ち近づいてくることが知られています。
ハクジラ以外の動物では、コウモリや一部の鳥がエコーロケーションの能力を持っています。人間は機械を使ってエコーロケーションを行います。

参考までに、ものを透過して検査する方法についてまとめます。
超音波：エコーロケーション、エコー検査、魚群探知機、ソナー
X線(電磁波)：レントゲン、CTスキャン（被ばくの危険性がある）
磁石と電波：MRI

私たちのほとんどは気づいてすらいませんが、実は私たち人間もエコーロケーションができる能力を秘めています。
［URL：Blind man uses bat-like vision：https://youtu.be/a05kgcI9D2Q］
［URL：クジラやイルカの「エコーロケーション」、ヒトも10週間で身に付けられる：https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2021/06/10-137.php］

②鼻（噴気孔）から出す音
イルカには声帯はなく、肺から頭頂部にある鼻(噴気孔)に繋がる空気の通り道の途中にある音唇を使って音を出します。音をエコーロケーションに使うこともできますし、そのまま出すこともできます。水族館によるイルカショーで、イルカが鳴いているように聞こえる「ピーピー」という音や「ピューイ」とという音はこの音です。

③ボディーランゲージ

顎を鳴らす、噛む、頭突きをする、体当たりする、胸ビレや尾ビレで水面を叩く、ラビング(rubbing：体を擦り合わせる)するなど、さまざまな身体表現で、意思を表し、コミュニケーションをおこなっています。

第二目　イルカには名前がある

イルカたちは、「シグナチャーホイッスル」と呼ばれる音で、お互いの名前を呼び合っています。例えば「ピーピー」というホイッスルは誰、「ピーピー・ピー」は誰、というように。イルカの子ども達は、生後数か月以内に自分の名前を発します。ポッドから離れると名前を呼んで呼び戻し、これまで会ったことがない群れと会うと、お互いに名前を言って自己紹介します。20年ぶりに再会したイルカでも名前を覚えています。

［URL：ホイッスルネーム：https://youtu.be/zAjHtYh5Amo］

マッコウクジラも、お互いを名前で呼ぶことがわかっています。鯨族は海に住み、ゆえに研究が難しい生き物です。他の鯨族も名前で呼びあっているかもしれません。

考えてみれば、名前はイルカや人間のように音でなくても良いはず。匂いや動きが名前の役割を果たしている動物もいるでしょう。

第三目　聴覚と発音

音は周波数、ヘルツ（Hz）で表されます。数字が低いほど低い音、高いほど高い音です。空気中の音の伝達速度は340m/s、水中での伝達速度は1500m/s。4.4倍の速さで伝わります。クジラは数千km離れていてもコミュニケーションできると言われています。

可聴域

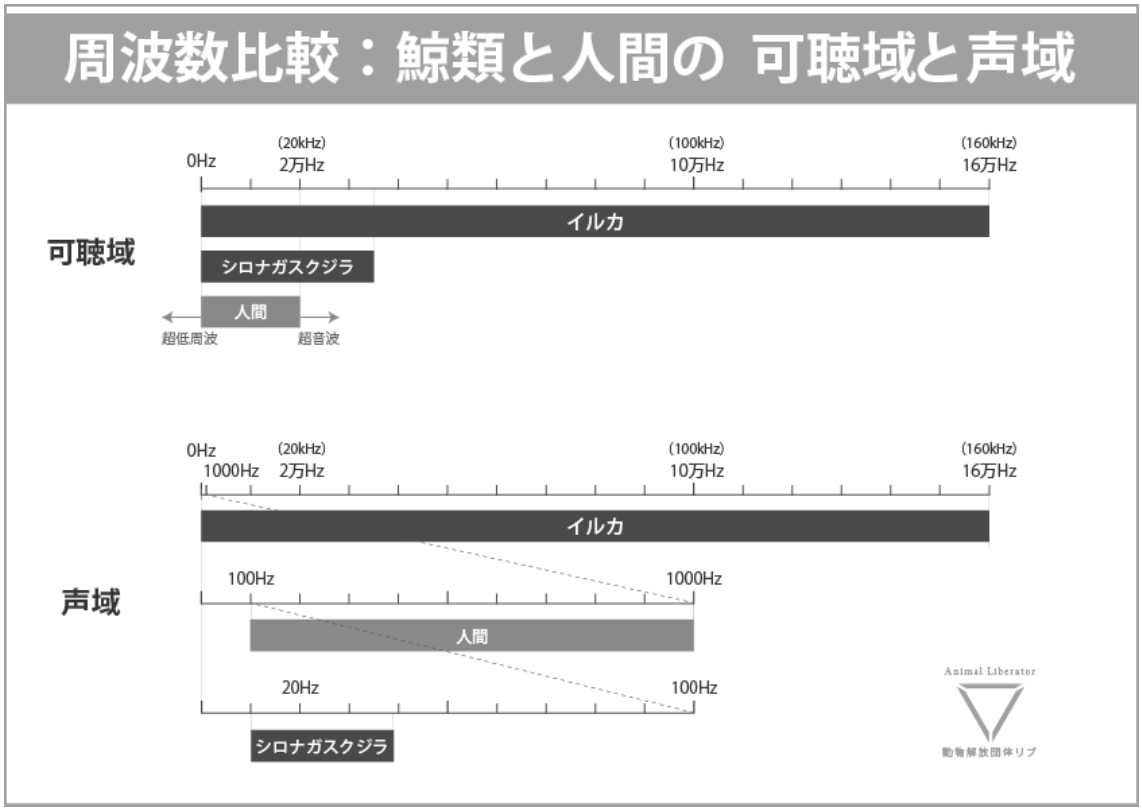
イルカの可聴域は、20Hz～160,000Hz。シロナガスクジラの可聴域は、7Hz～35,000Hz。一方、人間の可聴域は、20Hz～20,000Hzです。 人間が聞こえない低い音を超低周波音、高い音を超音波と呼びます。シロナガスクジラは、人間にはまったく聞こえない低周波も超音波も聴くことができます。イルカは人間の可聴域をはるかに超えた超音波を操ってコミュニケーションや探査活動を行っています。

発音域

ハクジラが発することのできる音は20Hz～160,000Hz。ヒゲクジラは15Hz～20Hzとされています。一方、人間が発することのできる音は100Hz～1000Hzです。

クジラたちが認識している音のうち、私たちが認識できる音はほんの一部分にしかすぎません。私たち人間が認識することすらできない音を使い、クジラたちは複雑で豊かなコミュニケーションを取っています。私たちがそれを知ったのはつい最近です。

［図：周波数比較：鯨族と人間の 可聴域と声域］



第四目　他種とのコミュニケーション

人間とのコミュニケーション

何千年もの間、野生のイルカと人間は様々な形で関わってきました。そしてそれは、今も続いています。

［URL：エジプト 紅海：https://www.youtube.com/watch?v=MokBZOok1r8］

［URL：ハワイ：子どもの頃からイルカとの友情を育む女性：https://www.youtube.com/watch?v=pAJgqCL8j5w］

ただし、［本文参照：第一部 第二章 第二節 第五項　イルカの攻撃性］で触れるように、イルカは人間を攻撃することもあります。イルカは人間と同様、複雑な感情、思考、行動を持つ生き物でです。

他の動物とのコミュニケーション

イルカは他種の動物ともコミュニケーションを行います。別種の動物同士のコミュニケーションは非言語コミュニケーションで行われます。人間と動物のコミュニケーションも非言語です。私たち人間同士でも、言語コミュニケーションが1割、非言語コミュニケーションが9割と言われています。非言語コミュニケーションの重要性を認識し、能力を再発見し開発することは、動物解放実現の鍵でもあります。非言語コミュニケーションは、動物に関する知識、観察能力、共感能力などを高めることで開かれます。

［URL：イルカと猫：https://youtu.be/rynvewVe21Y］

［URL：イルカと犬：https://youtu.be/G-AAx1SR_YU］

［URL：イルカと犬：https://youtu.be/fkO14GdltIo］（イルカのJOJO）

［URL：イルカとリス：https://youtu.be/921A8__YxkA］

第三項　知性と文化

第一目　道具

道具を使うイルカもいます。

泥の輪漁（Mud ring fishing）

カリブ海のイルカたちは、泥を煙幕として使います。イルカたちは魚の群れを見つけると、その群れを囲むように、泥を巻き上げながら泳ぎ、泥で魚を閉じ込め捕獲します。周りに集まっているイルカたちは、泥からジャンプして逃げようとする魚を捕獲します。

［URL：泥の輪漁：https://youtu.be/bzfqPQm-ThU］

海綿（Sponge）

オーストラリアには、海綿をくわえ、砂地を掻き回し魚を追い出し、食べるイルカたち（ミナミバンドウイルカ）がいます。これはエコーロケーションが使いにくいタイプの魚を捕まえるためと考えられています。このイルカたちは「The Dolphin Sponge Club」とも呼ばれています。

［URL：海綿を使って魚を探す：https://youtu.be/-zdzROgOELM］

第二目　遊び

イルカのサーフィン

イルカはサーフィンが好きです。波に乗り、ジャンプする姿は楽しげで、美しいものです。サーファーと一緒にサーフィンしている姿も見られます。太地町の隣、新宮市熊野川の河口のサーフスポットでも、イルカがサーファーとサーフィンしているそうです。

［URL：イルカとサーフィン：https://youtu.be/lpg11B0g7_k］

フグで酩酊する

イルカはフグを咥えて遊ぶことがあります。これはフグが出す毒（テトロドキシン）によって酩酊するためと言われています。お酒のようなものとして楽しんでいるのかもしれません。子供のイルカが人間にプレゼントとしてフグを持ってきてくれたこともあるそうです。

［URL：フグ毒で酩酊するバンドウイルカ：https://youtu.be/msx3BAhIeQg］

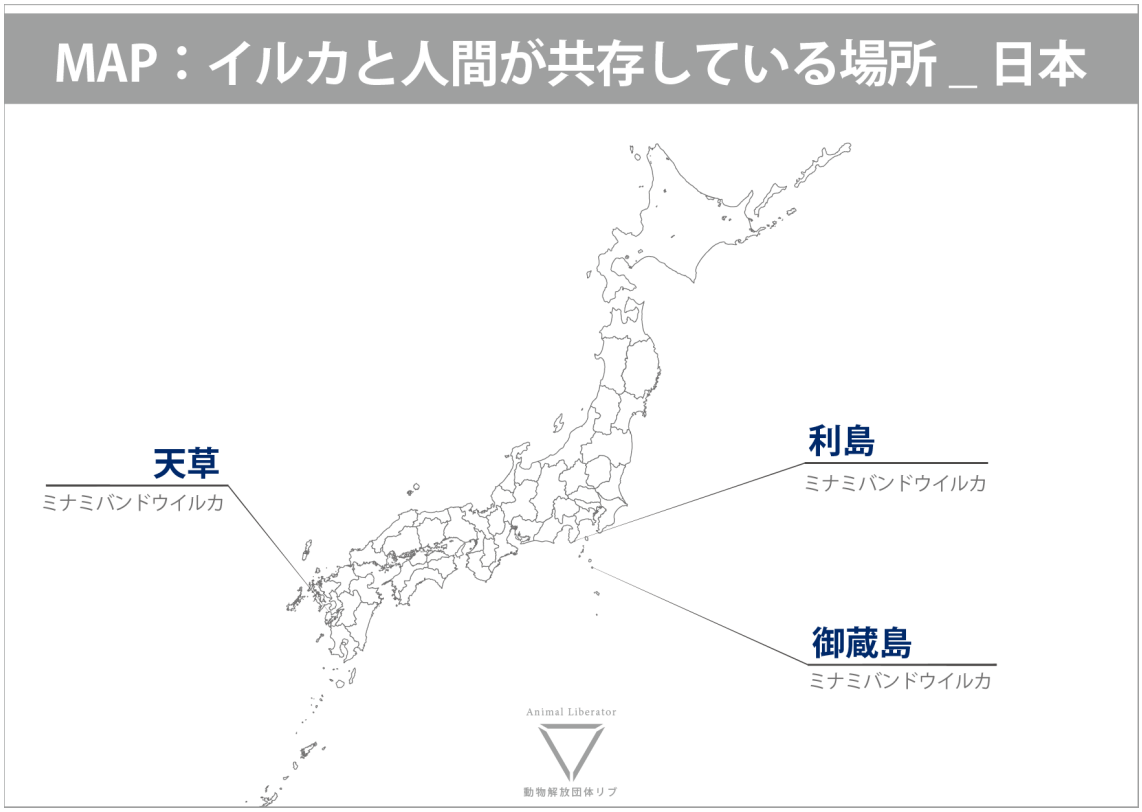
つまり、イルカやクジラの社会には、漁や子育て、遊びなど文化があります。さらには、地域やポッドごと、グループごとに独自の文化を継承しています。

第四項　人間との共存

第一目　日本

日本には、イルカと共存している場所があります。東京都の御蔵島（みくらじま）、利島（としま）、熊本県の天草（あまくさ）が知られています。

［MAP：イルカと人間が共存している場所_日本］



御蔵島（みくらじま）

現在150人前後のミナミハンドウイルカが住んでいます。イルカたちは固体識別されており、人数の増減も把握されています。いなくなったイルカが千葉の海を泳いでいたことがあったり、数十人が一度にいなくなったりすることもあるそうです。どこかに集団移住するのかもしれないと言われています。また、鴨川シーワールドが捕獲監禁したミナミハンドウイルカは、御蔵島から泳いできたイルカではないかと推察されています。

［URL：御蔵島ドルフィンスイム：https://youtu.be/AZmZIiJ5m9A ］

利島（としま）

20人ほどのイルカが住んでいるそうです。1998年には、母親ココ・子供ピコが「利島心（しん）住民」一号として、特別住民台帳に登録されました。

［URL：利島ドルフィンスイム：https://youtu.be/3KWI4TVVK2Y ］

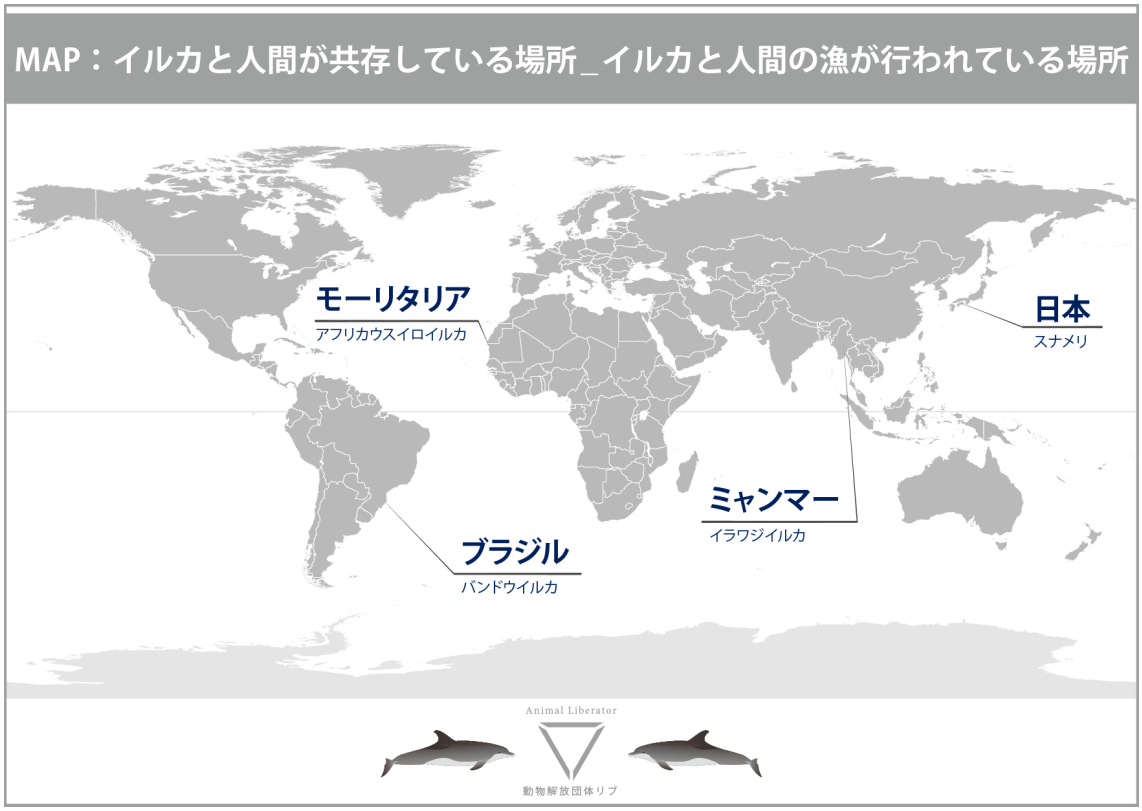
天草（あまくさ）

ミナミハンドウイルカが暮らしています。陸地からイルカが見えることもあります。天草では昔からイルカを捕獲したり食べたりする文化はなかったそうで、現在ではドルフィンウォッチングが行われおり、イルカを殺すことはありません。
しかし、ドルフィンウォッチングの船はポッドのすぐそばまで近寄り、離れると追いかけ、観光客がよく見えるようにポッド包囲します。その行為には、イルカに対する配慮や尊重が感じられず、人間の客に対するサービスに集中しているようでした。世界標準の規制が必要でしょう。
［URL：天草ドルフィンウォッチング：https://youtu.be/V0A5c2JF-Lw］

第二目　イルカと協力して漁を行う

世界中に、イルカと人間が協力する漁、人間がイルカの漁を利用して行う漁、イルカが人間の漁を利用して行う漁があります。
紀元前2世紀の詩人オッピアンは、エーゲ海で行われていた、イルカと人間が協力する漁について記述しています。夜の漁で、イルカは人間の乗る船に向かって魚を追い、人間が捕まえ、イルカにも分けるという漁です。紀元前からイルカと人間は一緒に漁をしていました。

［MAP：イルカと人間が共存している場所_イルカと人間の漁が行われている場所］



［URL：MAP：イルカと人間が共存している場所：https://www.google.com/maps/d/u/0/edit?mid=1Ph3cAMOh8AXrV-H8E4rd6KvEGAi6_r4Y&usp=sharing ］（紫色のピン）

［イルカと人間が協力する漁］

ミャンマー イラワジ川：イラワジイルカ

漁師が船の縁を叩くと、カワイルカ（イラワジイルカ、CR 絶滅寸前）が魚を追って来ます。イルカは尾びれで水面を叩いて、漁師に知らせます。その合図で網を投げ入れ、魚を取るという漁です。

［URL：ミャンマーイラワジ川の漁：https://www.youtube.com/watch?v=M2xeNuGkoc4］

ブラジル ラグナ：バンドウイルカ

バンドウイルカたちが、漁師たちが網を持って待ち構える場所まで、魚を追ってきます。イルカが尾びれで水面を叩いて合図をし、漁師たちは網を投げ、魚を取ります。

［URL：ブラジル、ラグナの漁：https://www.youtube.com/watch?v=8kMGJ8T3-Pg］

［URL：ブラジル、ラグナの漁：https://youtu.be/IRwWfYLKFw0］

モーリタニア バンクダルガン国立公園：アフリカウスイロイルカ

世界遺産であるバンクダルガン国立公園には、野鳥や鯨族などさまざまな動物が住んでいます。環境保護の観点から、一般人の立ち入りが禁じられ、車で入ることも許されていません。その公園内に唯一住むことを認められてるイムラゲン人は、アフリカウスイロイルカと協力して漁を行なっています。彼らが海面を叩くと、イルカたちが海岸にむかってボラなどを追ってきて、イムラゲン人たちは網を使って捕獲します。

［URL：モーリタニア、バンクダルガン国立公園の漁：https://www.youtube.com/watch?v=eJ12t_VoZwA］

これらの事例で共通する解釈は、イルカは漁師の網に入らなかった魚を取って食べるので互恵関係であるという解釈です。しかし本当にそうなのでしょうか。言うまでもなく、イルカたちは自分たちだけで魚を捕まえることができます。

［人間がイルカの漁を利用して行う漁］

昔も今も、イルカが魚を追い、そのイルカを目印に人間が魚を取りに行く漁が行われています。

日本 瀬戸内海：スナメリ

瀬戸内海では、スナメリを目印にスナメリ網代漁という漁を行っていました。スナメリがイカナゴやイワシを追うと、彼らは海底に逃げ、それを取ろうと海底からタイやスズキが上がってきます。それを狙うのがスナメリ網代漁。この漁が行われていた直径3kmの海面は、現在「スナメリクジラ回遊海面」として天然記念物となっており、スナメリが多く住んでいるそうです。また公害により汚染された瀬戸内海からスナメリが姿を消して行ったことで、スナメリは環境保護のシンボルとなっています。

第五項　イルカの攻撃性

第一目　子殺し

バンドウイルカの若い男性は、同じバンドウイルカの子供を殺すことが知られています。バンドウイルカの歯型がついた、死んだ赤ちゃんイルカの漂着も多数記録されています。
子殺しは、ライオンやチンパンジーや人間にも見られる行動。ライオンの女性は、子供を殺されると、次の子供を作るために発情します。バンドウイルカも同様の行動を取っているのではないかと推察されています。
［URL：イルカが子イルカを殺そうとする：https://youtu.be/zSaqaw9bOAo］

第二目　他種の殺害

ネズミイルカを殺害

イルカは、ネズミイルカを弄び、殺します。これは例外的なことではなく、イルカがネズミイルカを殺害している数多くの報告例があります。1時間以上も死体を弄んでいる姿も報告されています。殺しているのは、一人で生きている男性のイルカのようです。
このような行動を取る理由は、ネズミイルカをバンドウイルカの子供と間違って子殺ししている、遊び、性的欲求不満などと推察されています。
［URL：ネズミイルカを殺すイルカ：https://youtu.be/fWseKL5kQCI］

サメを殺害

サメはイルカを恐れています。イルカは自己防衛や子供を守るために、サメを殺すからです。サメは単独で生きていますが、イルカはポッドで生きています。またサメよりもイルカの方が泳ぎが早いため、戦いはイルカに有利です。

キューバの東にある、タークス・カイコス諸島には、JOJOというイルカがいます。JOJOは男性のイルカで、自ら人間とミュニケーションを取りに来ることで知られ、タークス カイコス諸島政府に国宝に指定されています。JOJOはディーン・バーナル氏と特に強い関係を築き、その物語は、様々な映画などの作品となっています。JOJOは、バーナル氏や人間をサメから守りますが、そのサメは砂に押し付け窒息させて殺します。JOJOがサメを殺しすぎるため、バーナル氏はJOJOからサメを守らなくてはないほどだそうです。
［URL：人間を守るためにサメを殺すJOJO：https://youtu.be/EFtynFAkXNs］
［URL：JOJOのインスタグラム：https://www.instagram.com/direct/inbox/］

第三目　人間への攻撃

イルカが人間を攻撃した例も報告されています。

野生下

2013年、アイルランド ドーリンには、人間とコミュニケーションを取り一緒に泳ぐ、ダスティと名付けられたイルカがいます。ある日ダスティは突然攻撃的になり、人間の女性を攻撃しました。女性は、脊椎を6つ、肋骨を3本折り、肺に損傷を負いました。ダスティは複数の人間を攻撃しています。

［URL：'Dusty' the dolphin attacks woman：https://youtu.be/L-uVSUMVIiQ］

水族館

2012年　アメリカ

オーランドのシーワールドでイルカが、8 才の女の子を襲い、腕に噛み付き、水の中に引きずり込みそうになりました。

2016年　アメリカ

マイアミのイルカ娯楽利用施設で、イルカが男性に突進し、尾びれで叩きつけました。

［URL：攻撃するバンドウイルカ：https://youtu.be/rT8SYHb56So］

2019年　メキシコ

カンクンのイルカ娯楽施設で、2人のイルカが10歳の女の子に体当たりし、噛みつき、怪我を負わせました。

* シャチによる攻撃に関しては、［本文参照：第一部 第三章 第六節　シャチ］へ。

第四目　イルカの攻撃方法

体当たり

体当たりと聞くと大したことはなさそうに思えますが、例えば、3m、350kgのイルカが、時速40km/h体当たりしてきた場合、同サイズのジェットスキーが突っ込んでくると同等のダメージを与える可能性があります。

噛む

若いイルカの歯は鋭く、容易に皮膚を傷つけます。イルカが人間を噛む事件は、先日日本でも起こりました。イルカの顎の力を持ってすれば、人間を骨折させることもできるでしょう。しかし、噛まれた人間の皮膚の写真を見ると、重大な傷はついていません。イルカは手加減しているのではないかと思います。

空中に放り投げる

噛んで空中に投げたり、頭に乗せて首の力で放り投げ、水面に叩きつけます。ネズミイルカがクルクル回るように投げている姿も撮影されています。

モビング（mobbing：いじめ、ハラスメント）

集団でモビングと呼ばれる行動をとることがあります。対象は、弱いイルカや、他種のイルカや魚類などです。

イルカの天敵

鯨族は海の生態系の頂点にいますが、天敵もいます。

サメ

大型のサメはイルカを襲うとされていますが、サメが狙うのはイルカの子供のようです。また体長30〜50cmのダルマザメは、イルカの体に丸い口を吸い付け、体を回転させながらえぐり取るように肉を食べます。イルカの体には丸い傷痕が残ります。水族館でダルマザメの噛み跡があるイルカは、野生から捕獲されたイルカだということがわかります。皮膚が綺麗なイルカは繁殖されたイルカです。

ホッキョクグマ

ベルーガやイッカクを捕食します。

シャチ

イルカにとってもクジラにとっても、シャチは恐るべきプレデターです。イルカやクジラを襲って食べるシャチは回遊型のシャチであり、定住型のシャチは他種の鯨族と共存しています。

鰭脚類

ハイイロアザラシ、セイウチ

人間

イルカやクジラにとって最大の脅威は人間です。最も多くのイルカやクジラを殺した動物は、我々人間です。

イルカは優しくて遊び好きなばかりでなく、攻撃的で残虐な側面を持っています。しかし、攻撃的な面があるからといって、捕獲、監禁、殺害して良いとはなりません。客観的に見れば我々人間こそが、他種動物はもちろん同種でさえも、最も攻撃・殺害している動物です。

イルカやクジラは人間と同じです。ストレスを感じるときもあれば、怒るときもあります。好きな人間もいれば、嫌いな人間もいます。自分の子供を守るときや、性的興奮状態にあるときは攻撃的になりますし、自分の優位を保つために仲間をいじめたりもします。人間と同じように個性があり、優しいイルカもいれば、攻撃的なイルカもいます。

イルカなど野生動物を害獣として攻撃・殺害しようとするのは、人間の無知からくる恐怖や単純な経済的損失を、相手の存在そのものを殺害・排除することで解決しようとする短絡的な思考・行動です。動物と人間の関係は、人間が大人になる、つまり人間側が動物のことを学び、適切な距離を保ち、存在に責任を持つことによってバランスさせるべきであると考えます。人間が攻撃されたり損害を受けた場合、我々人間が責任を引き受け、無知と至らなさを反省、自覚し、改善することによって、真の共生の実現への道が開きます。
人間の知性や、倫理観、科学、技術を駆使し、動物の自由と尊厳と権利を保障することが、動物と私たち人間の未来の在り方です。

第六項　利他心

第一目　人間を助けるイルカ

イルカは、昔から人間を助けてきました。イルカによる人間の救助は、古代ギリシャの神話にも描かれています。
一例を挙げると、
・アリオンの伝説
・ディオニュソスの神話
［本文参照：第一部 第一章 第一節　神話］
・アポロの神話：オリュンポス十二神の一人であるアポロはイルカ（Delphinius）に変身し、クレタ島の司祭をギリシャのデルフィ（Delphi）（現デルポイ）に運びました。

プリニー・ザ・エルダー（23-79CE：ローマの博物学者で哲学者）は、37冊からなる百科事典を書きました。 その中に、イルカと人間の友情の物語が蒐集されています。
・貧しい少年とイルカの友情の物語
少年は、イルカに「シモ」と名付け、友達になりました。シモは、少年が来ると背中に乗るように促し、学校に送ってあげ、帰りも連れて帰っていました。このような友情が数年続いたある日、少年は病気になり、そして死んでしまいました。イルカは長い間待っていましたが、やがて悲しみのあまり死んでしまいました。
・人間と交流したイルカの物語
北アフリカ、ヒッポという町の湾に、イルカが住むようになりました。イルカは、人間を背中に乗せたり、遊んだりして人気者になりました。町は訪問者で溢れかえり、混乱しました。町の人々は、観光客が押し寄せることを終わらせようとし、イルカを殺しました。後に［本文参照：第一部 第二章 第二節 第七項　有名なイルカ］で述べるように、まったく同じことが現代でも起こっています。

プルタルコス（46-119CE：ギリシャの哲学者、歴史家）も、イルカが人間を背中に乗せて助けたエピソードや、船が遭難した時船首に現れたイルカが、船を陸地まで誘導したなど、様々なエピソードを残しています。プルタコスは、「自然は、イルカだけに最高の哲学者たちが求めるものを与えました。それは無償の友情です。」と述べています。

パウサニアス（110-180CE：ギリシャの地理学者）によって書かれた神話は有名です。
・タラスの神話：難破した船に乗っていたタラスは、彼の父親が送ったイルカによって救出されました。 タレンタム（現ターラント。イタリアのかかとの付け根にある町）という名前は、彼の名前を冠してつけられました。[本文参照：第一部 第一章 第二節　壁画］の

510BC - 209BCに示した、イルカに乗った人物が刻まれているコインは、このタレンタムで使用されたものです。

そして現在も、イルカやクジラは世界各地で人を助けています。かつては神話や物語として伝えられてきたことが、インターネットの発達により現在では実際の動画で見ることができます。

・イルカが、サメに襲われそうになっているダイバーを助けるために、サメを遠ざける。
［URL：https://youtu.be/OlhQttD3qoE］
・イルカが、溺れている男の子を岸まで連れて行く（アイリッシュタイムズ）。
［URL：Dolphin saves drowning boy：https://www.irishtimes.com/news/dolphin-saves-drowning-boy-1.1261447］

第二目　他の鯨族を助ける

他の種のイルカを養子に迎えるように、鯨類たちはお互いに助け合って生きていると考えられます。例えば2008年、ニュージーランドで、ピグミーマッコウクジラのお母さんと子どもが浜辺に座礁してしまいました。人間たちが助けようとしましたが、うまく行きませんでした。そこにバンドウイルカのモコが来て、ピグミーマッコウクジラに声をかけ、水路を案内して外海に誘導して助けた、という事例があります。

第三目　人間を助ける動物たち

イルカの他にも様々な動物が様々な非言語コミュニケーションによって人間に気持ちを伝え、そして人間を助けています。

・ゴリラのハランベが人間の子どもを助ける。ハランベはこの後殺されてしまいました。
［URL：https://youtu.be/23um2h4YUwU］
・人間に助けられたタコが、人間に感謝を伝えるような振る舞いを見せる。
［URL：https://youtu.be/rqAmR1lEN0I］
・人間に助けられたゾウが、人間に感謝を伝えるような振る舞いを見せる。
［URL：https://youtu.be/lEDHRh8gfm8］

動物が他種の動物を助ける、あるいは助けようとすることもあります。

・犬が、釣られて陸に上げられた魚に水を掛けて助けようとする。
［URL：https://youtu.be/LBiAlqygvms］

第四目　なぜ動物は人間を助けるのか、なぜ人間は動物を助けるのか

なぜイルカやクジラは人間を助けるのか、動物は他種の動物を助けるのか、気持ちを伝えようとするのか、人々、特に学者や研究者やは驚き、原因を求め、苦悩します。「イルカは、人間をイルカの子供だと思っているのではないか」「死んだイルカを背中に乗せる習性があるから勘違いしているのではないか」云々。

私はこういう話を聞くたびに、新大久保駅乗客転落事故を思い出します。上記のような学者や研究者は、線路に落ちた人を助ける人を見て「自分の子供と勘違いしたからではないか」などと考え、目の前で轢かれていくのをぼんやり見ているのかもしれないと思います。
危機に陥っている誰かをを守りたい、苦しんでいる誰かを助けたい、という湧き上がってくる気持ちと、それを行動に移す勇気を、どう科学的に証明しようというのでしょう。

魚に水を掛けて助けようとする犬と、殺された魚のために泣く人間、何の違いもありません。
・子どもが、殺された魚のために泣く。
［URL：https://youtu.be/uhTW6-jc5hs ］
・子どもが、友達のニワトリのために泣く。
［URL：https://youtu.be/0ByScvL_6xc ］
・3歳の男の子が、友達のヤギを助けようとする。
［URL：https://youtu.be/TwIK7cjfVpg ］
・ニワトリを守ろうとする子どもたち。
［URL：https://youtu.be/Q1UK-IAUtq0 ］

第七項　有名なイルカ

第一目　世界_野生

Pelorus Jack（ペロラス・ジャック）
ニュージーランド ハナゴンドウ：1888-1912、人間と交流
Pelorusとは、方位儀のこと。1888年から、ペロラス・ジャックは、ニュージーランドの北島と南島の間、クック海峡の難所フレンチパスで、船が安全に通れるように、船の前を泳ぎ案内しました。それ以降、フレンチパスを通ろうとするほとんどの船を案内し続けました。しかし1904年、何者かによってライフルで銃撃されました。同年、ペロラス・ジャックを保護する法律が制定されました。1912年以降、姿は見られていません。
Tião（チアゥン）
ブラジル バンドウイルカ「孤独なイルカ」：1994-1995、人間と交流
Tiãoはブラジルの男性名セバスチャンのニックネーム。チアゥンは人間の男性を1人殺し、多数の人間に怪我をさせたため、Killer Dolphinと呼ばれました。
1994年に現れ、人間と交流し始めました。しかし人間は胸ビレや背びれをつかんだり、写真を撮るために捕まえたり、噴気孔にアイスクリームコーンやビールを入れたりしました。チアゥンは怒り、人間に攻撃をし始め、人間に被害をもたらしました。1995年、チアゥンは姿を消しましたが、ポッドに再合流したとも、復讐のために人間に殺されたとも言われています。

Opo（オポ）

ニュージーランド バンドウイルカ 「孤独なイルカ」1955-1956、人間と交流

オポノニで男性のイルカが人間と遊び始めました。ボールで遊んだり、子供と遊んだりし、人気者となりました。翌年1956年、岩の間に挟まって死んでいるところを発見されました。オポが誤って岩に挟まってしまったか、釣り人に殺されたのではないかと推察されました。

［URL：オポ：https://youtu.be/I6-g_wWvWD8］

Moko（モコ）

ニュージーランド バンドウイルカ「孤独なイルカ」：2006-2010、人間と交流

マヒアビーチに住み始めたモコは、人間と交流し始め、人気者となりました。2008年、砂州とビーチの間に閉じ込められたコマッコウを環境保全省の職員が救助しようとしましたが難しく、殺すことを検討していたところ、モコがコマッコウたちを狭い水路を案内して、海に戻しました。この件でモコはさらに有名になりました。しかし、2010年、釣り針やボートとの衝突で怪我をし死亡しているのが発見されました。

［URL：モコ：https://youtu.be/E_eOBzj9LmI］

Fungie（ファンジー）

アイルランド バンドウイルカ「孤独なイルカ」：1983-2020、人間と交流

Davia（ダヴィーナ）

UK バンドウイルカ「孤独なイルカ」：2006-2007、人間と交流

第二目　日本_野生

すずちゃん

2020年8月頃、石川県 能登半島の先端、珠洲市、かつて存在した三崎村の海にミナミバンドウイルカが現れました。三崎村には「三崎のイルカ詣り」という言い伝えがありました。これは、毎年9月14日、神の使いであるイルカが須須(すず）神社に訪れるというものです。

［本文参照：第一部 第一章 第一節 第二項　イルカと日本神話］で記述した、海豚参詣です。すずちゃんと名付けられ、地元の人とコミュニケーションを取っていました。

2021年12月頃からいなくなり心配されていましたが、2022年4月に西側の福井県福井市の漁港に再び現れています。

［URL：いるかの三崎詣り：https://youtu.be/mhUlubgWWHY］

第三目　日本_監禁

スピカ

スピカは、アルビノのバンドウイルカ。和歌山県沖を泳いでいるところを発見され捕獲、2014年1月18日、太地町立くじらの博物館のマリナリウムに監禁されました。スピカを捕まえようと漁師たちが近づくと他のバンドウイルカたちがスピカを守ろうとしていたそうで

す。2021年現在、7年間、マリナリウムに監禁されています。

［URL：スピカ：https://youtu.be/oUg8-CBMvtU］

ユウジ

2014年11月23日に捕獲され、太地町立くじらの博物館の海の生簀に監禁された、白変種のハナゴンドウ。特徴は、頭周辺にある黒い模様です。2021年現在、和歌山県太地町の森浦湾の生簀に監禁されているようです。

ハマタ

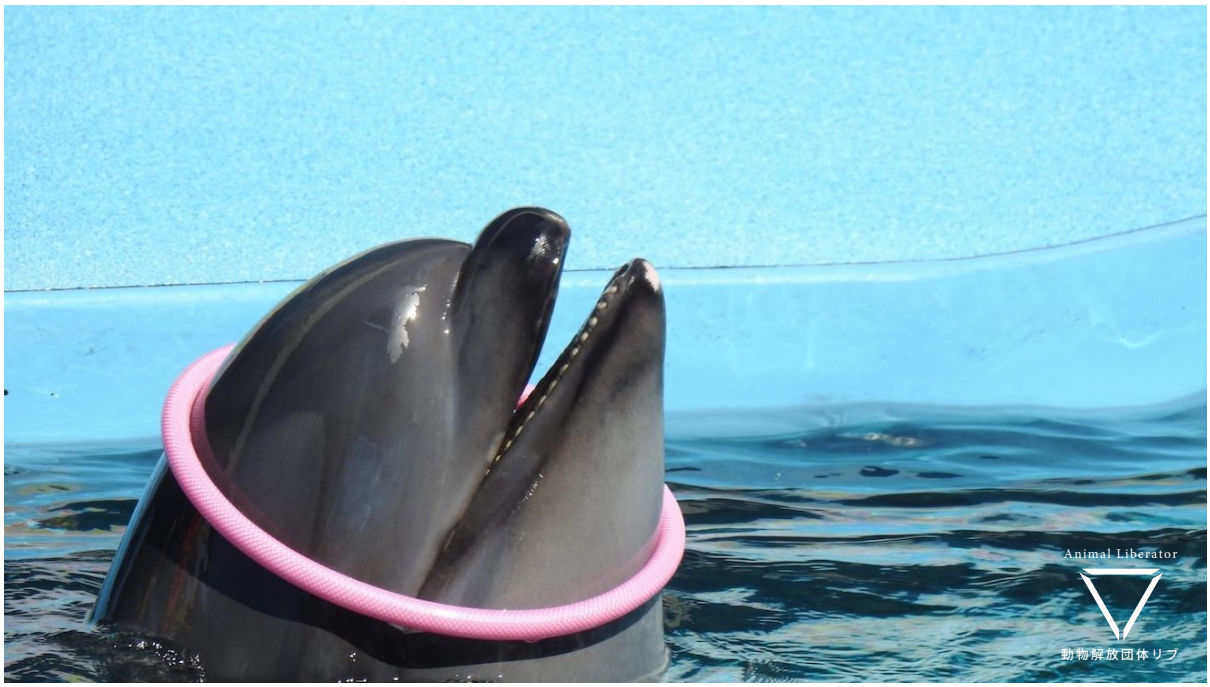
2014年11月28日捕獲され、太地町立くじらの博物館の海の生簀に監禁された、白変種のハナゴンドウです。

太地近くでホエールウォッチングを営業されている方に聞きましたが、ユウジとハマタが捕えられる少し前から、この方は白いハナゴンドウがいることに気づいており、お客さんに見せていたそうです。捕まえられないと良いなと思いながら見守っていたのですが、ある日イルカ漁師たちが来てあっという間に捕獲し、連れ去ったと言っていました。

プリン

南知多ビーチランドで生まれた、ハナゴンドウの父と、バンドウイルカの母との間に生まれた交雑種。色や形はバンドウイルカに見えますが、顔は額が丸く、短い吻を持っており、両方の特徴が混じっています。食べ物は、ハナゴンドウの主食であるイカを与えられていました。

［写真：プリン(南知多ビーチランド)_1］



［写真：プリン(南知多ビーチランド)_2］


Animal Liberator
動物解放日本リブ

第三節 クジラ

概要

クジラ（ヒゲクジラ）の生態や世界的に有名なクジラについてなど、概要を学びます。同じ地球にこのような生き物が生きている奇跡を知り、暴力を振るったり殺害してはいけないことを再確認し、絶滅がいかに取り返しがつかないことなのか深く認識しましょう。

第一項　身体

第一目　食事

食物

主にオキアミなどの動物性プランクトン。小魚やイカも食べます。

水分

食物としているオキアミや小魚から摂っています。甲殻類や魚類は海水を取り込み塩分を濾過し排出することができますが、鯨族はできません。ゆえにオキアミや小魚を通して摂取します。

捕食方法

ヒゲクジラは、口を大きく開けて、海水ごとオキアミなどを口に入れます。そして口で上と下から圧力をかけ、口の中にあるヒゲと呼ばれる繊維質の膜の間から海水のみを吹き出し、オキアミなどを濾し取ります。繊維質の幕は、人間の髪の毛や爪の成分と同じケラチンでできています。

クジラの絵でよく描かれる顎下の線は、ウネ(畝)、ウネス（畝須）です（英語では、throat pleats：喉のプリーツ）。ウネとは、大きく口を開くために皮膚と筋肉がひだ状になったものです。口を開くときはウネを広げ、口を閉じ海水を噴き出すときは、筋肉を収縮させウネをすぼめます。

多様な方法で魚を食べることが知られています。

ランジング＝ランジフィーディング（lunging）

口を大きく開けながらオキアミや魚の群れに突進して、口に入れていく食べ方です。ナガスクジラ科のクジラが行います。

［URL：シロナガスクジラのランジング：https://youtu.be/dOwCmIleugg］

スキミング（skimming）

海面を滑るように泳ぎながら、海面近くにいるオキアミや魚を口に入れていく食べ方です。主にセミクジラ科が、スキミングを行います。

［URL：セミクジラのスキミング：https://youtu.be/scoJ6IsU7B0］

360°体を回転させながら食べる

ランジングに似ていますが、体を360°回転させながら口に入れ、食べる鯨もいます。

［URL：シロナガスクジラが体を回転させながらオキアオミを食べる：https://youtu.be/cbxSBDopVyw］

トラップフィーディング（trap feeding）

海表面に下顎を浮かべ、上顎を大きく開き、魚が飛び跳ねて口に入ってくるのを待って食べる方法です。

［URL：カツオクジラのトラップフィーディング：https://youtu.be/rr1lVGML6LU］

バブルネットフィーディング（Bubble-net feeding）

ヒゲクジラの中には、バブルネットフィーディングと呼ばれる食べ方をするものもいます。これは、鼻から空気を出しながら、サークルを描くように泳ぎ、泡の幕を作り、その中に魚を閉じ込め、下から一気にまとめて食べるという方法です。一人で行うときもあれば、仲間と協力して行うこともあります。

［URL：ザトウクジラのバブルネットフィーディング：https://youtu.be/Q8iDcLTD9wQ］

［URL：バブルネットフィーディング：https://youtu.be/JNhldKgPRg0］

コククジラの食べ方

コククジラは捕食方法は独特です。海底の砂の中にいるゴカイなどを、海底の砂と一緒に口の中に入れ、ヒゲで濾し取って食べます。クジラの皮膚にコブのようなものがありますが、これはケロシティと呼ばれる皮膚の隆起で、その上にクジラに寄生するクジラジラミやフジツボなどが寄生しています。コククジラは捕食するとき、右か左、どちらかの体側を海底に押し当てて食べます。押し当てる側の体は、ケロシティがこそぎ取られるため綺麗ですが、反対側の体にはたくさんのケロシティが付着しています。

第二目　睡眠

マッコウクジラは立って寝る（縦になって寝る）ことがあります。最大20mを超えるマッコウクジラたちが、海中で柱のように寝ている姿は、神殿のようです。

［URL：立って寝るマッコウクジラ：https://youtu.be/iUR6fNZeyy4］

第三目　様々な特徴

地球上最大の身体サイズを持つグループであるヒゲクジラ。ここでは、ヒゲクジラの驚くべきサイズについて羅列します。

最大の心臓のサイズは、454kg。

セミクジラの皮膚の厚さは、平均51㎝。

シロナガスクジラの陰茎は3mに達する。

ナガスクジラの赤ちゃんの体重は、1日80kg増加する。

ホッキョククジラは100年以上生きる（体から19世紀の銛が発見された）。

第二項　コミュニケーション

第一目　コミュニケーションの方法

①エコーロケーション（反響定位）

ヒゲクジラがエコーロケーションを行っているかどうかはわかっていません。

②鼻（噴気孔）から出す音

ヒゲクジラは低周波でコミュニケーションを行っています。ヒゲクジラが音を出す仕組みははっきりわかっていませんが、肺から空気を出して、噴気孔の途中にある気嚢を振動させて音を出していると考えられています。

③ボディーランゲージ

ヒゲクジラも体を使ってコミュニケーションしています。ボディーランゲージは、どの動物でも同じように見える振る舞いをするのが極めて興味深い点です。

［URL：Humpback Whale Mom and Baby：https://youtu.be/pJqlkuVKO2k］

第三項　知性と文化

第一目　知性

イルカなど小型鯨族は体が小さいため捕獲監禁が可能であり、これまで様々な実験が行われてきました。しかし大型のヒゲクジラはできないため、どのような知性を持っているかほとんどわかっていません。

第二目　クジラの歌

クジラが「歌」を歌うことはよく知られています。歌うクジラは、現在のところ、シロナガスクジラ、ナガスクジラ、ザトウクジラ、セミクジラ、ミンククジラの五種とされています。また歌を歌うのは、男性のクジラのみです。

ヒゲクジラがどうやって音を出しているのか不明です。海中で長い時間歌っている（音を出している）ので、身体組織のどこかで音を発生させており、さらに空気を循環させて音を出し続けているということです。クジラの歌は、様々な音を組み合わせフレーズを作り、フレーズを組み合わせてパターンを作り、パターンを繰り返しながらアレンジしていくという、複雑に構成された音を繰り返す、まるでオーケストラのように構成されています。クジラたちはときに何日も歌い続けます。

［URL：なぜクジラは歌うのか？：https://youtu.be/7Xr9BYhlceA］

ネット上にさまざまなクジラの歌がアップされています。

［URL：Whale sounds for relaxing: meditation, falling a sleep.：https://youtu.be/WjVA6s3sUDk］

なぜ歌うのか、その理由はまだはっきりとはわかっていませんが、女性を魅了するため、縄張りを主張するためなどと考えられています。もしかしたらただ歌いたいから、楽しいから歌っているのかもしれません。
なお、1977年、地球外知的生命体探査のため打ち上げられた無人惑星探査機ボイジャーには、地球上の様々な情報を録音したゴールデンレコードが乗せられています。この中にクジラの歌も収束されています。
［URL：Greetings from the U.N./Whale Greetings：https://youtu.be/yZBMKyag1Gw］

第四項　人間との共存

第一目　人間を助けるクジラ

ダイバーがザトウクジラを撮影していると、近寄ってきて体で押してきたそうです。ダイバーは恐怖を感じ、なんとか逃げようとしましたが、ザトウクジラは押し続け、ダイバーの目を覗き込んできました。ザトウクジラは頭やヒレでダイバーを押し続け、海面のボート近くまで押し上げました。実は、ザトウクジラは近くにサメがいることに気づいていて、サメの存在に気づいていないダイバーを守ろうとしていたのです。
［URL：https://youtu.be/NTw8MR67xv8］

第二目　他の動物を助ける

ザトウクジラは様々な動物を、シャチから守っています。
コククジラ、ネズミイルカ、アザラシ、アシカ、マンボウを守ったという記録が残されており、シャチのポッドに狙われたアザラシを胸ビレで守っている姿が撮影されています。
科学者の中には、知性が発達した存在の利他的な行動だと考える人者もいる一方、ザトウクジラは天敵であるシャチを攻撃しようとしているだけであり、他の動物を守るためだとは言えないという見解を持つ者もいます。では、サメから人間を守る行動はどう説明するのでしょう。ザトウクジラにとっては、何の得もありません。

第五項　有名なヒゲクジラ

第一目　世界_野生

ミガルー（Migaloo）：アルビノのザトウクジラ
ミガルーは1991年に発見されました。1998年ミガルーが歌を歌っていたことから、男性であることがわかりました。
［URL：ミガルー：https://youtu.be/z1H5FSGq60o］
サンイグナシオラグーンのコククジラ
メキシコのサンイグナシオラグーンには、船に近づいてきて人間とコミュニケーションをとっているコククジラたちがいます。

［URL：コククジラ：https://youtu.be/OKqNYENKw50］
人が攻撃しなければクジラたちは人を恐れません。以前、日本がマッコウクジラを捕獲していた頃、マッコウクジラたちは船を見ると恐れ、逃げ、隠れていました。しかし、マッコウクジラの捕鯨が禁止されしばらくした後には、マッコウクジラたちは船がきても恐れなくなったそうです。
田舎の人に聞くと、子どもの頃はサルやカモシカたちは人間を恐れず、また人間も動物たちの生き方を尊重し、良い距離を保っていたそうです。しかし、山が切り開かれ、狩猟が活発になり、害獣駆除が行われるようになるに従って、人は動物を恐れ、動物は人を恐れるようになったそうです。すっかり変わってしまった、と言っていました。

白いセミクジラ

［URL：白いセミクジラ：https://youtu.be/rszccrQMBMs］

52Hzのクジラ（52-hertz whale）

1989年、シロナガスクジラやナガスクジラと似たような回遊経路（南カリフォルニア沿岸からアリューシャン列島）を辿りながら、どちらでもない正体不明のクジラの声が検出されました。シロナガスクジラは周波数10～39Hzの声、ナガスクジラは周波数20Hzの声を出しますが、この正体不明のクジラは52Hzの声を出していました。しかもたった一人だけであり、そのことから「世界でもっとも孤独な鯨」とされ、人々を魅了しています。
52Hzのクジラは、ドキュメンタリーや音楽など、様々な作品で取り上げられています。
［URL：52Hz：https://youtu.be/dapcmKzRuIQ］（ヘッドフォン推奨）

第二目　世界_監禁

ジジ（Gigi）

1965年　メキシコ バハカリフォルニアスル州で捕獲されたコククジラ。捕獲後2か月で感染症で死亡。

ジジII（Gigi II）

1971年　メキシコ バハカリフォルニアスル州で捕獲されたコククジラ。1年後、大きくなりすぎて解放。

JJ

1997年1月10日　アメリカ カリフォルニア州沖で弱っているところを保護。シーワールドサンディエゴに監禁。14か月後、大きくなりすぎて解放。
［URL：JJ the Orphan - Gray Whale | SeaWorld®：https://youtu.be/xIGrgAijmbQ］

第三目　日本_監禁

伊豆・三津シーパラダイスの3人のミンククジラ。
？：3ヶ月後に死亡。
？（子ども）：2週間後死亡。
？：1ヶ月後に伊豆・三津シーパラダイスから脱出。

第三章　種ごとの暮らし

クジラやイルカたちはどこに住み、どのように暮らしているのでしょうか。彼らの暮らしを知れば、理解や尊重の念が深まります。
母船式捕鯨・基地式捕鯨・イルカ突き棒漁・イルカ追い込み漁の捕獲対象種と、その他日本の水族館に監禁されているの鯨族の特徴を示します。

［鯨種ごとに示す項目］

第◯項　種名

概要

分類

名称

第一目　身体

体長

体重

寿命

食物

第二目　社会生活

家族

暮らしている場所

［MAP：暮らしている場所_地球　（種名）］

［MAP：暮らしている場所_日本　（種名）］

第三目　人間による被害と保護

人間による被害

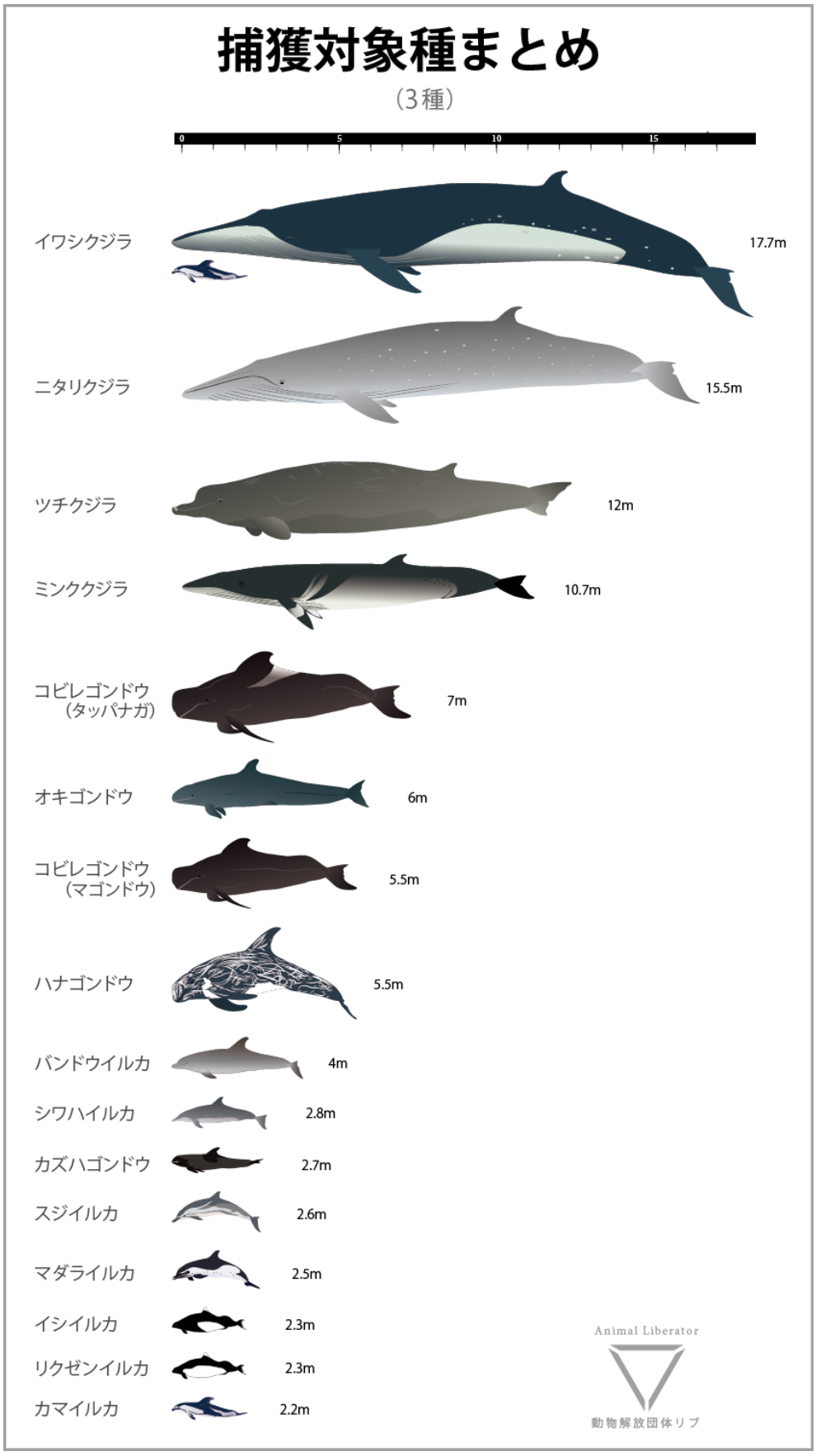
人間による保護

［人口］

［IUCNレッドリスト］

［ワシントン条約］

［図：捕獲対象種まとめ］


捕獲対象種まとめ
（3種）
0
5
10
15
イワシクジラ
17.7m
ニタリクジラ
15.5m
ツチクジラ
12m
ミンククジラ
10.7m
コビレゴンドウ
（タッパナガ）
7m
オキゴンドウ
6m
コビレゴンドウ
（マゴンドウ）
5.5m
ハナゴンドウ
5.5m
バンドウイルカ
4m
シワハイルカ
2.8m
カズハゴンドウ
2.7m
スジイルカ
2.6m
マダライルカ
2.5m
イシイルカ
2.3m
リクゼンイルカ
2.3m
カマイルカ
2.2m
Animal Liberator
動物解放団体リブ

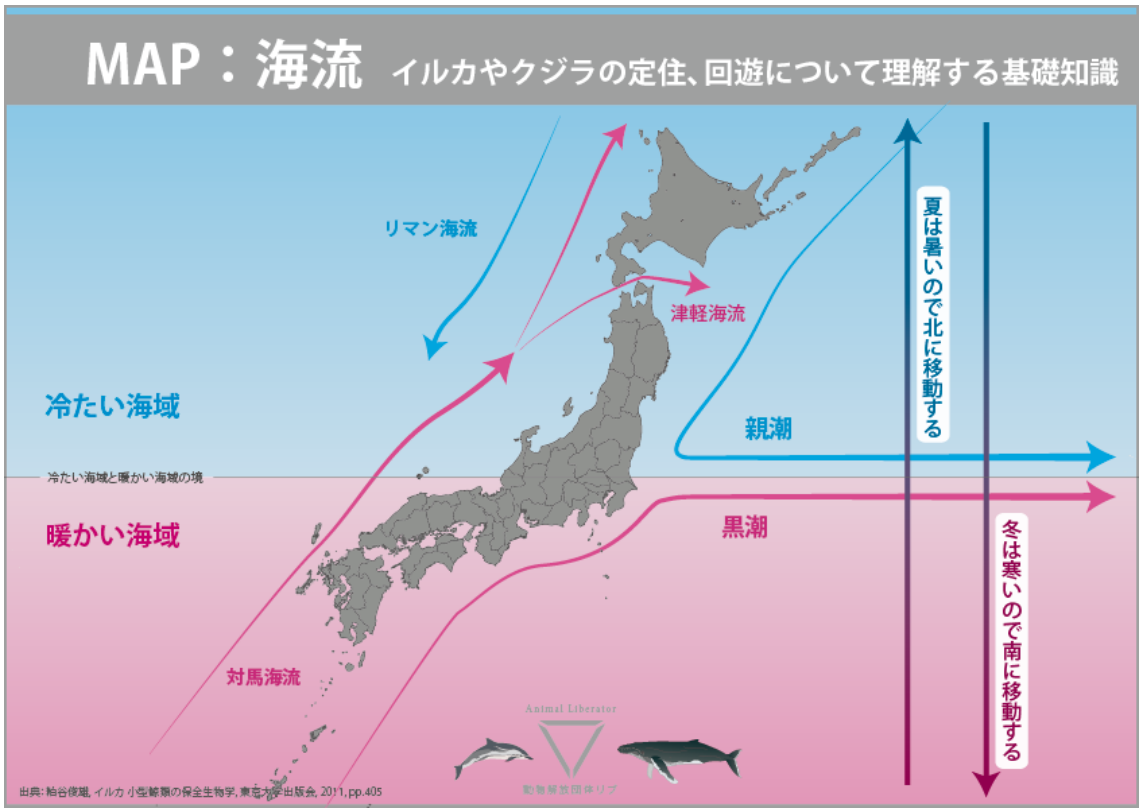
「暮らしている場所」について～海水温と海流の理解～

イルカやクジラが暮らしている場所や回遊、そして捕鯨やイルカ漁が鯨族に与えるダメージを理解するには、海水温と海流の理解が必要です。鯨族は、海水温によって生活する場所を決め、海流に乗って移動します。種によって好む海水温は異なります。暖かい水を好む鯨族もいれば、冷たい水を好む鯨族もいます。幅広い水温に対応できる鯨族もいれば、水温の変化が苦手な鯨族もいます。

例えば、回遊型のイルカは、夏は暑いので北に移動し、冬は寒いので南に移動します。つまり、静岡県富戸と、和歌山県太地町の両方でイルカを捕獲殺害した場合、同じポッドに2回ダメージを与える可能性があります。

日本周辺の海流、冷たい海域、暖かい海域について概略図を示します。

［MAP：イルカやクジラの定住、回遊について理解する基礎知識：海水温と海流］



第一節　母船式捕鯨捕獲対象種

母船式捕鯨の捕獲対象種は、3種。
体の小さい順から、ミンククジラ、ニタリクジラ、イワシクジラです。すべてナガスクジラ属。

ナガスクジラ属は、現在のところ9種とされています。日本はこのうち3種を捕獲しています。新種として分岐した順に、
1758年　ナガスクジラ、シロナガスクジラ
1804年　**ミンククジラ**
1828年　**イワシクジラ**
1867年　クロミンククジラ
1879年　カツオクジラ
1913年　**ニタリクジラ**
2003年　ツノシマクジラ
2021年　Rice’s whale（メキシコ湾）

かつては母船式捕鯨でミンククジラを捕獲していましたが、2020年以降基地式捕鯨が捕獲しています。2022現在、母船式捕鯨では、ニタリクジラとイワシクジラを捕獲しています。

かつて、イワシクジラは1種だと考えられていましたが、後にカツオクジラ、ニタリクジラ、ツノシマクジラが別種だとわかりました。

第一項　ニタリクジラ

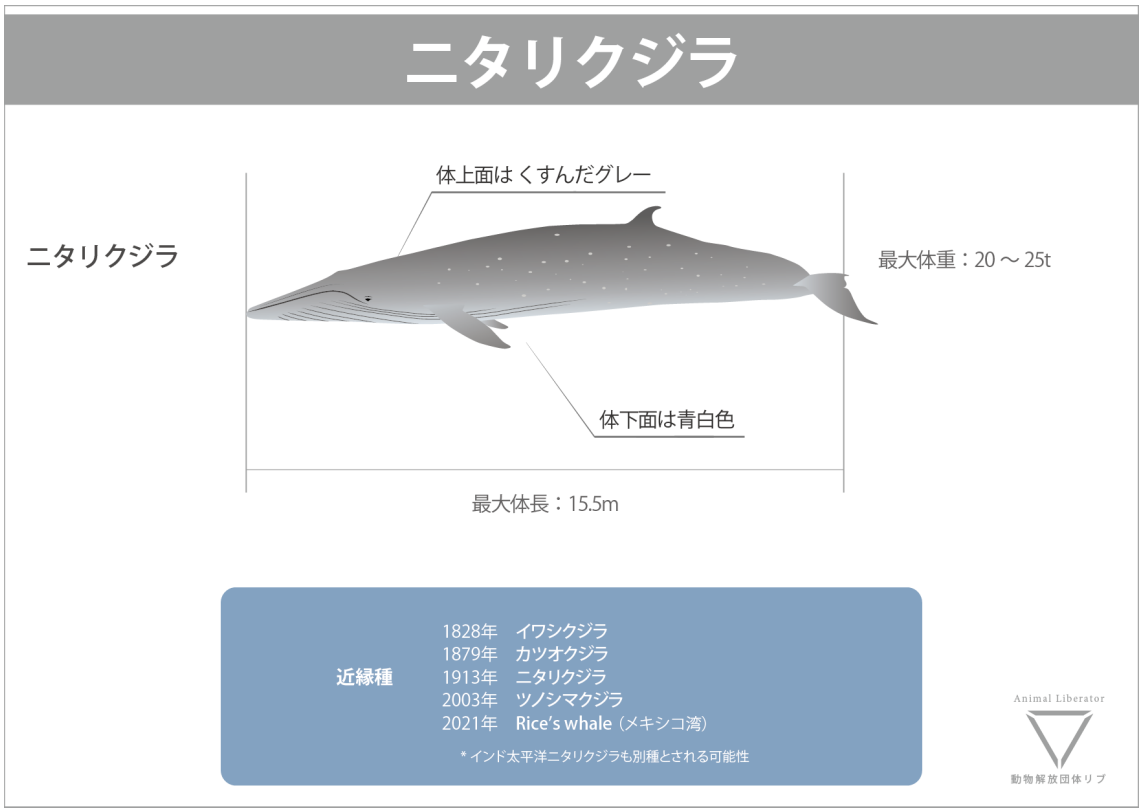
第一目　概要

ニタリクジラは、高知県沖と鹿児島沖に定住しており見ることができる。

［URL：ニタリクジラの様々な行動：https://youtu.be/D3I_I6QfnfE］

ニタリクジラは、定住型と回遊型がいるようで、その近縁種（イワシクジラ、カツオクジラ、ツノシマクジラ等）とともに、生態がよくわかっていないクジラの一種です。
また、種が確定していません。1828年イワシクジラが特定され、後に、1879年カツオクジラ、1913年ニタリクジラ、2003年ツノシマクジラが別種とされました。2021年にはメキシコ湾のRice's whaleが別種とされました。インド太平洋ニタリクジラも別種とされる可能性があります。捕鯨により、知らず知らずに絶滅させた種がある可能性があるということです。

［図：ニタリクジラ］



分類

鯨偶蹄目 - ヒゲクジラ亜目 - ナガスクジラ科 - ナガスクジラ属 - ニタリクジラ

ニタリクジラには2つの亜種があります。

亜種1 学名：Balaenoptera edeni edeni（体が小さい。インド洋、西太平洋の沿岸海域）

亜種1 学名：Balaenoptera edeni brydei（体が大きく、遠洋海域で見られる）

名称

日本名　ニタリクジラ

英名　Bryde's whale（Bryde’sは、ノルウェー人の捕鯨業者Johan Brydeから名付けられた）

学名　Balaenoptera brydei

第二目　身体

体長

最大体長 15.5m

体重

最大体重 20〜25t

寿命

最大寿命 60歳

食物

オキアミなどの甲殻類、カタクチイワシなど群れを作る小魚、深海魚、イカなどの頭足類を食べます。カツオ等の大型回遊魚が食べるのと同じ小魚を食べるため、クジラと大型回遊魚は一緒にいることがあります。これらの大型回遊魚を「鯨付き」と呼び、漁師はクジラを探すことによってカツオ漁などを行います。土佐湾沖に定住しているニタリクジラは、スキミング、ランジング、バブルネットフィーディングといった様々な方法で魚を食べることが知られています。［本文参照：第一部 第二章 第三節 第一項 第一目　食事］

家族

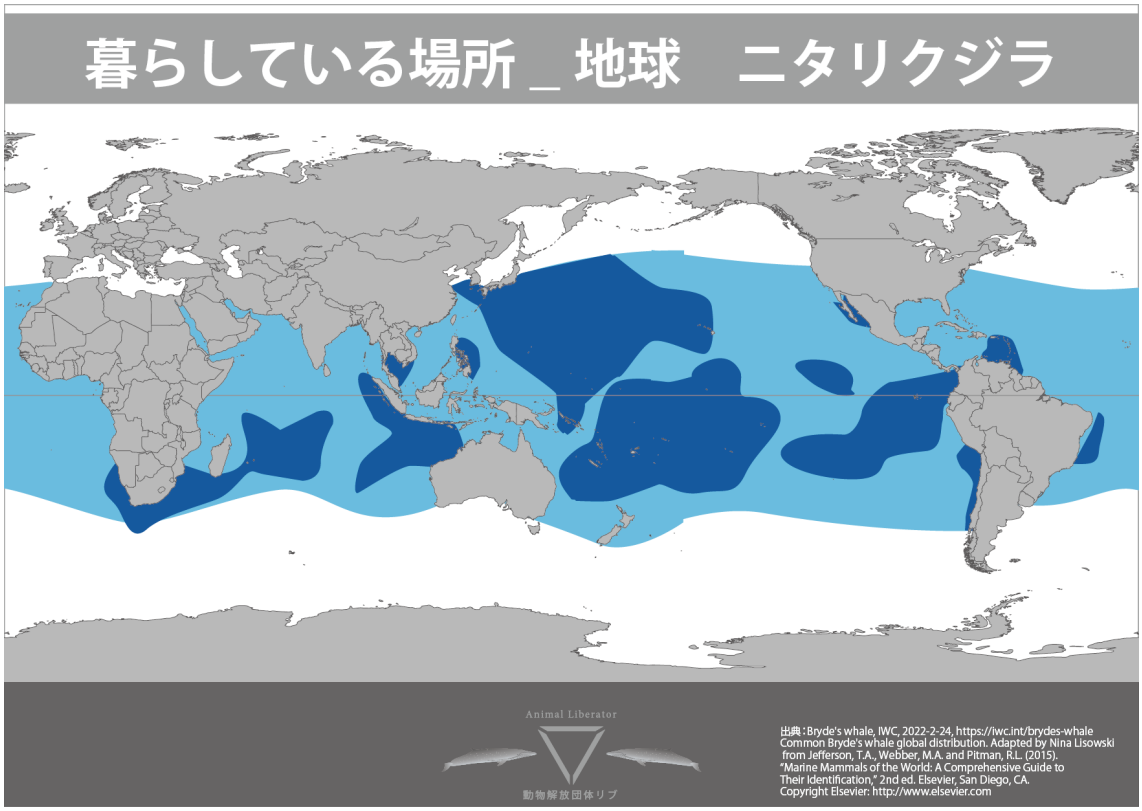
1人、または2人のペア、3人以下のグループで行動します。接触エリアでは20人ほどのゆるいグループを作ります。

暮らしている場所

地球

ニタリクジラは、赤道を挟んで北緯40度（岩手県北）～南緯40度（オーストラリア南端）ほど、水温20°Cの暖かい海で暮らしています。

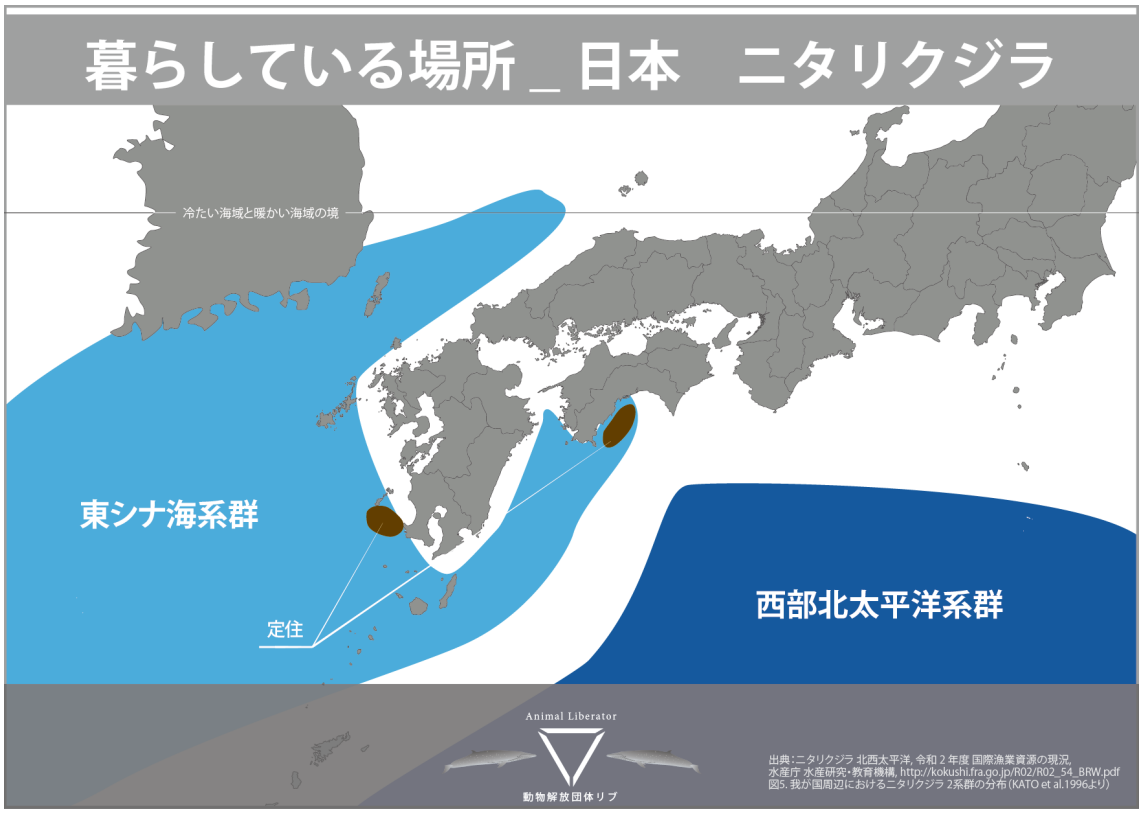
［MAP：暮らしている場所_地球　ニタリクジラ］



日本

日本周辺には、北上する黒潮を挟んで、東シナ海系群と西部北太平洋系群が暮らしています。また、MAP上の青い部分、土佐湾沖と鹿児島沖には定住しているニタリクジラがおり、ホエールウォッチングで見ることができます。［本文参照：第八部 第三章 第四節 第一項 ドルフィン・ホエールウォッチング］

［MAP：暮らしている場所_日本　ニタリクジラ］



【人間による被害】

［捕鯨］

古式捕鯨時代には、日本では和歌山・高知・九州地方で殺害され、近代捕鯨以降、世界中で大規模に殺害されました。2000年以降日本政府は調査捕鯨と称し捕獲殺害、2019年7月のIWC脱退・商業捕鯨再開から捕獲対象種とし、引き続き殺害を続けています。

［URL：殺害されたニタリクジラ(2019年母船式捕鯨)：https://youtu.be/c1od5lamWuY］

［間接被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

最大90,000～100,000人。

1911年～1987年の76年間に推定2万頭以上が北太平洋西部で捕獲殺害されました。1911年～96年の間にこの海域の人口の51％が殺害された可能性があります。

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：LEAST CONCERN）

［ワシントン条約］

CITES附属書Ⅰ

第二項　イワシクジラ

第一目　概要

イワシクジラは、絶滅危惧種（EN）です。

［URL：泳ぐイワシクジラ：https://youtu.be/fOMzFFh3rEA］

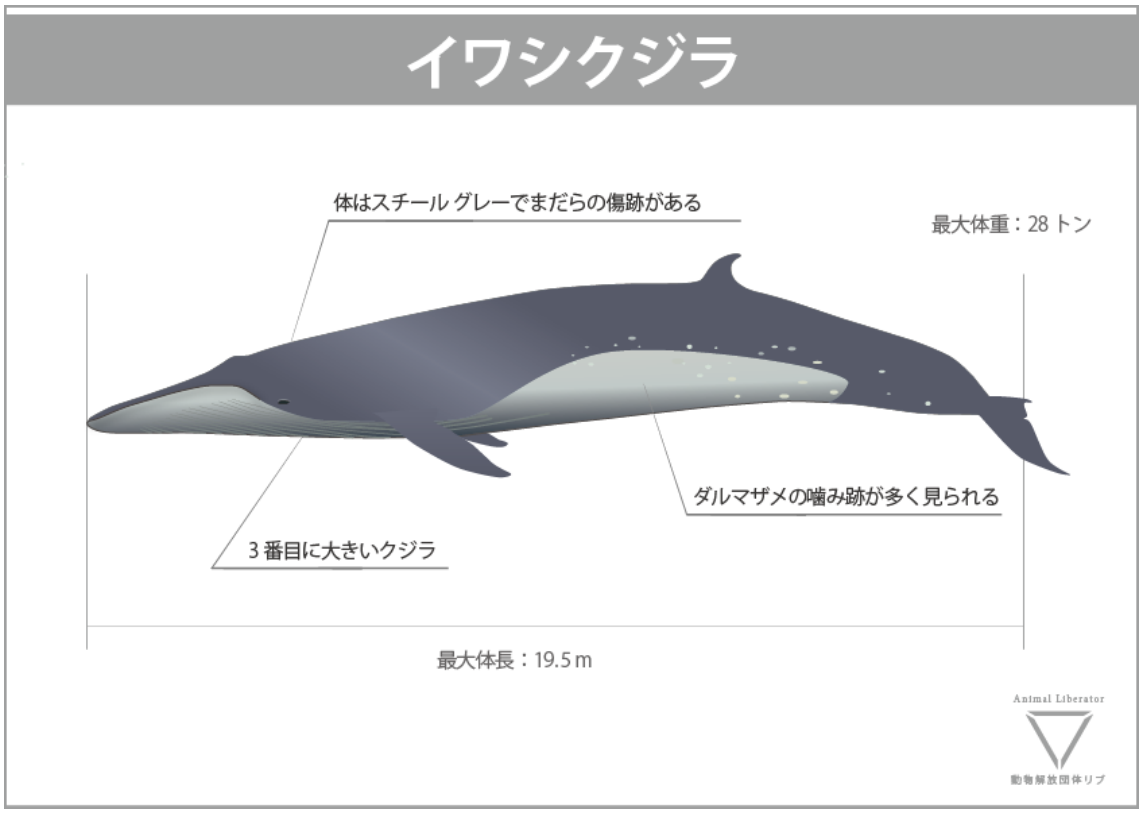
［URL：バンドウイルカと一緒に泳ぐイワシクジラ：https://youtu.be/UVizx8_Iyv4］

これはジャイアントパンダ（VU）より、危険な状態。にもかかわらず、日本政府は捕鯨の捕獲対象種として殺害しています。

民間業者は「イワシクジラ特集！刺身が絶品！絶滅危惧種のイワシクジラとは？」と、絶滅に瀕した動物を食べることを価値あることのように表現しています。

［URL：暮らしーの：https://kurashi-no.jp/I0014060］

［図：イワシクジラ］



分類

鯨偶蹄目 - ヒゲクジラ亜目 - ナガスクジラ科 - ナガスクジラ属 - イワシクジラ

名称

日本名　イワシクジラ

英名　Sei whale（Seiは、ノルウェー語でシロイトダラ（大西洋で捕獲されるタラ科の魚））

学名　Balaenoptera borealis

亜種1

B. b. schlegelii （南半球）

亜種2

B. b. borealis（北半球）

第二目　身体

体長

最大　19.5m（3番目に大きいクジラ。1. シロナガスクジラ　2.ナガスクジラ）

女性の方がかなり大きい。北太平洋の場合、

成人女性平均体長15 m／平均体重18.5トン

成人男性平均体長13.7 m／平均体重5トン

体重

最大　28t

寿命

70歳

食物

オキアミなどの動物プランクトン、イカ、小魚（イワシ、カタクチイワシ、サンマ、サバなど）。1日900kgの食事をします。

ナガスクジラ科では珍しくスキミングで食べます（スキミングはセミクジラ科が行う）。

家族

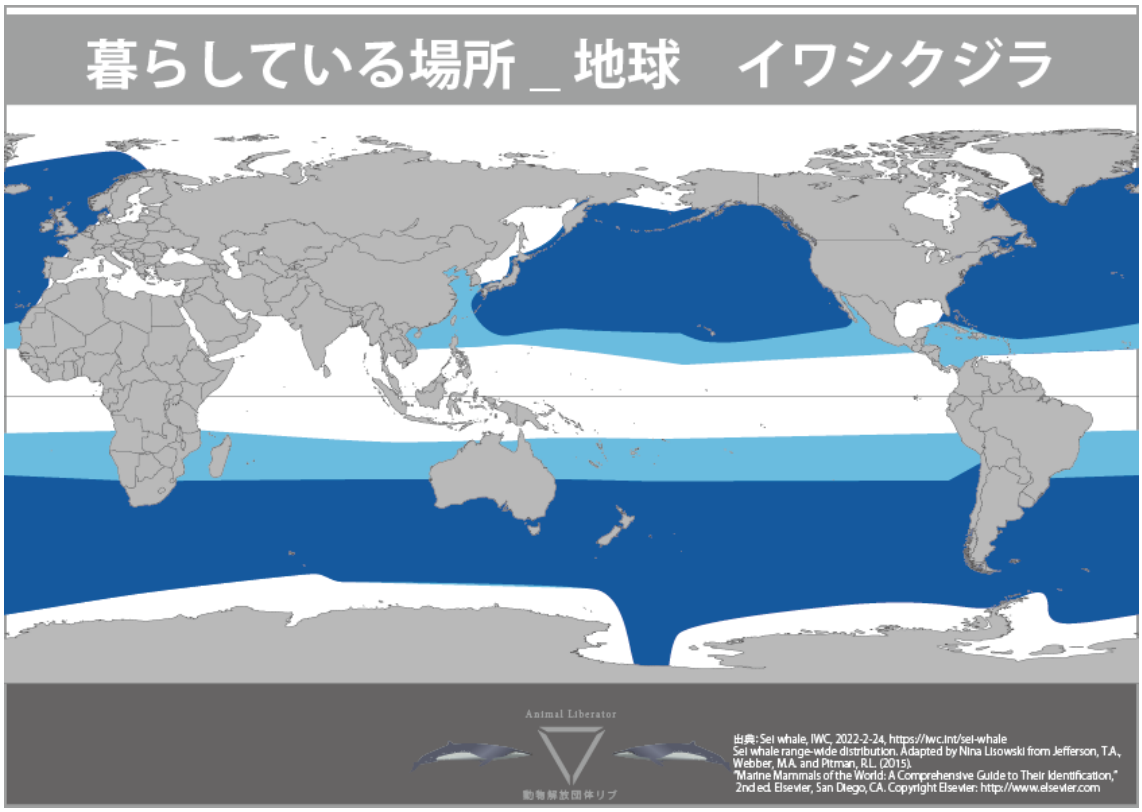
社会構造についてはほとんど知られていません。単独で生きていますが、6名のポッドが発見されたこともあります。

暮らしている場所

地球

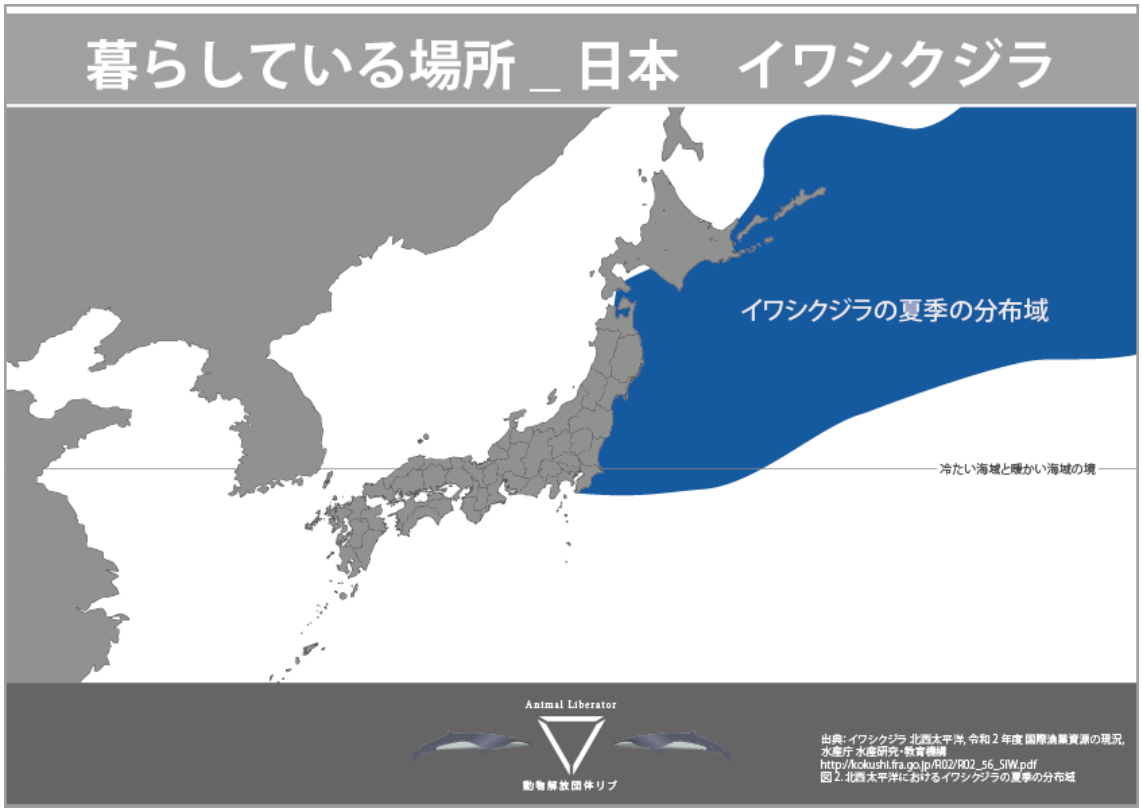
亜熱帯～亜寒帯にかけて世界中の海で暮らしています。
回遊しているイワシクジラは、冬の間、温帯から亜熱帯の暖かい海で繁殖と子育てを行っているようです。海遊のルートはわかっていません。

［MAP：暮らしている場所_地球　イワシクジラ］



日本

［MAP：暮らしている場所_日本　イワシクジラ］



【人間による被害】

［捕鯨］

捕鯨業者は、より油や肉の取れるクジラ（シロナガスクジラ、ナガスクジラ、セミクジラ、マッコウクジラなど）を捕獲し、それらが獲れなくなるとイワシクジラなどをターゲットとしました。19世紀後半〜20世紀似かけて、推定30万名ものイワシクジラが殺害されました。

［調査捕鯨］

商業捕鯨一時停止後、日本とアイスランドが調査捕鯨を行い、イワシクジラを殺害しました。アイスランドの調査捕鯨は、日本が資金を出しています。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

不明（* 2008年時点で80,000名との説があり、捕鯨時代以前の1/3未満。日本の水産庁や学者は、人口は十分に回復し、捕獲可能だとしています。）

［IUCNレッドリスト］

絶滅危惧種 - 危機（EN：Endangered）

［ワシントン条約］

CITES附属書Ⅰ

第二節　基地式捕鯨捕獲対象種

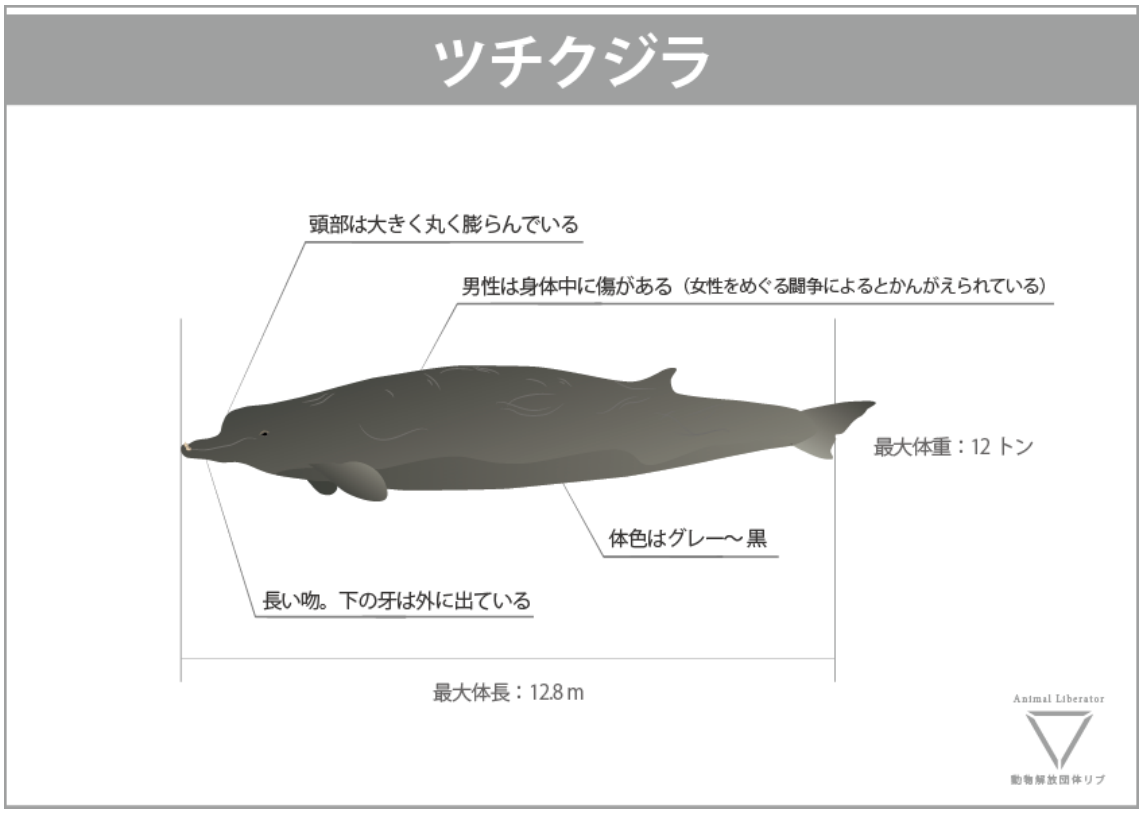
基地式捕鯨の捕獲対象種は、4種。体の小さい順から、コビレゴンドウ、オキゴンドウ、ミンククジラ、ツチクジラです。
オキゴンドウ、コビレゴンドウは［本文参照：第一部 第三章 第四節　イルカ追い込み漁捕獲対象種］に、
ミンククジラは［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］に記載します。

第一項　ツチクジラ

第一目　概要

ツチクジラは、潜水が得意なクジラ。
［URL：二人の子どもを連れたツチクジラのポッド：https://youtu.be/4X8xuvgHzL4］

ツチクジラを含むアカボウクジラ科は、最も謎に包まれたクジラたちです。深く長く潜るため、人の目に触れることが少なく、海中での行動が観察できないからです。
アカボウクジラは、3亜科6属22～24種もおり、マイルカ科に次ぐ大きな科ですが、一般的にはあまり知られていません。ぜひ、アカボウクジラ科の**イラスト**をご覧になってください。それぞれ個性的な体型や歯をしています。
［図：ツチクジラ］



ツチクジラは、特徴的な長い吻を持っています。名前の由来となった槌（カナヅチや木槌）は、ツチクジラの首を切った時、この長い吻が槌の持ち手、頭部が打撃部分に見えたからだそうです。残酷な発想です。
北海道には、漁師が”カラス”や”クロツチ”などと呼ぶツチクジラがいました。つい最近の2019年、これは新種「クロツチクジラ」であることが確定されています。さらに現在、オホーツク海には未知のツチクジラがいるかもしれないと考えられています。

分類
鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - アカボウクジラ科 - ツチクジラ属 - ツチクジラ

名称
ツチクジラ属は3種、ツチクジラ・ミナミツチクジラ・クロツチクジラです。

日本名　ツチクジラ（槌鯨）
英名　Baird's Beaked Whale（Bairdは、生物学者で自然主義者、スミソニアン協会初の学芸員、スペンサー・フラトン・ベアード氏にちなんで付けられた）
学名　Berardius bairdii

日本名　ミナミツチクジラ
英名　Arnoux's beaked whale （Arnouxは、頭蓋骨を見つけた船医のモーリス・アルヌー氏にちなんで付けられた）
学名　Berardius arnuxii

日本名　クロツチクジラ
英名　Sato's beaked whale（Satoは、写真や標本を研究機関に送付した佐藤晴子氏にちなんで付けられた）
学名　Berardius minimus

第二目　身体

体長
女性最大12.8m　男性最大11.9m
*ハクジラの中ではマッコウクジラ（最大18m）についで大きい。
体重
最大　12t
寿命
女性54歳　男性85歳
食物

深く長く潜り、海底や、深海に住む魚類（ニシン、メバルなど）、軟体動物（タコ、ヒトデ、ホヤ、ナマコなど）甲殻類（エビ、カニなど）を食べます。

家族

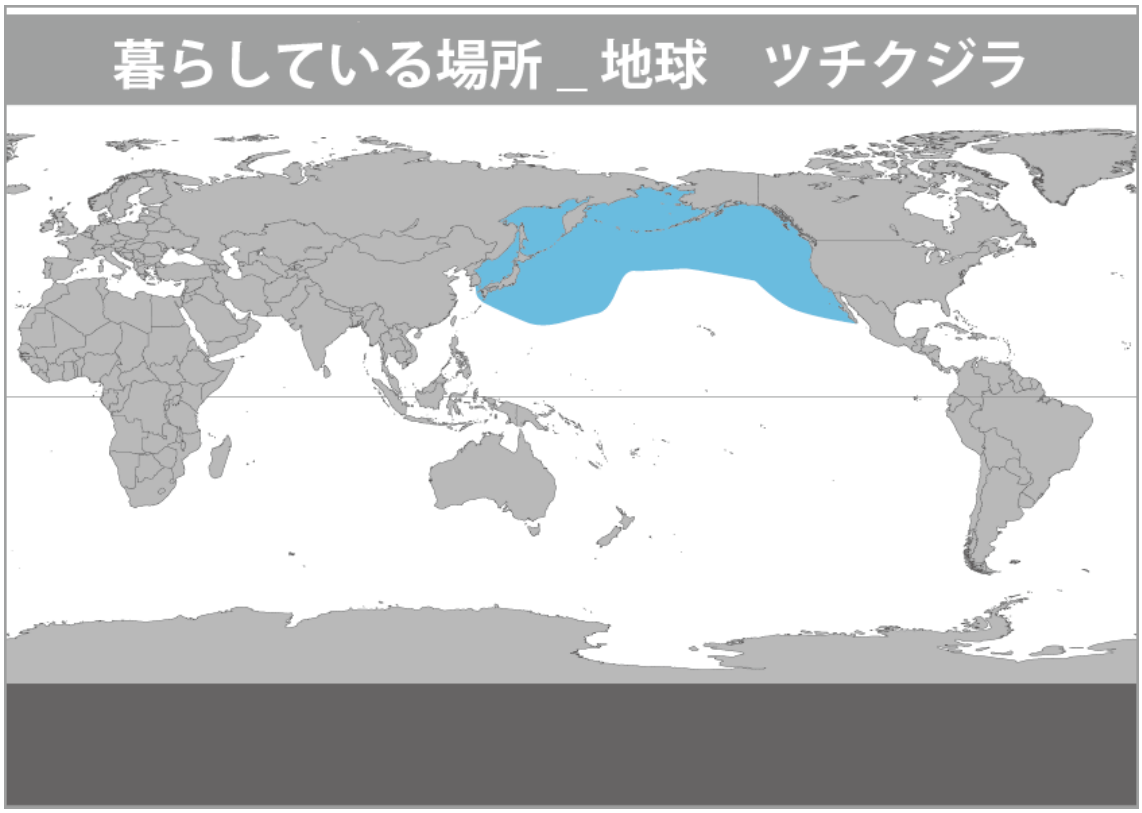
ツチクジラは、自分の子ども以外の子ども（弟や妹、従兄弟や、他の親の子ども）の世話を行います。自然界ではあまり見られない行動であり、人間を含む哺乳類の一部が行います。ツチクジラの男性は、女性より30年長く生き、子育てを手伝います。

暮らしている場所

地球

日本周辺から北米大陸にかけての、北太平洋生息しています。大陸棚（100～200m）と深海底（平均3,800m）の際を好んで暮らしているようです。

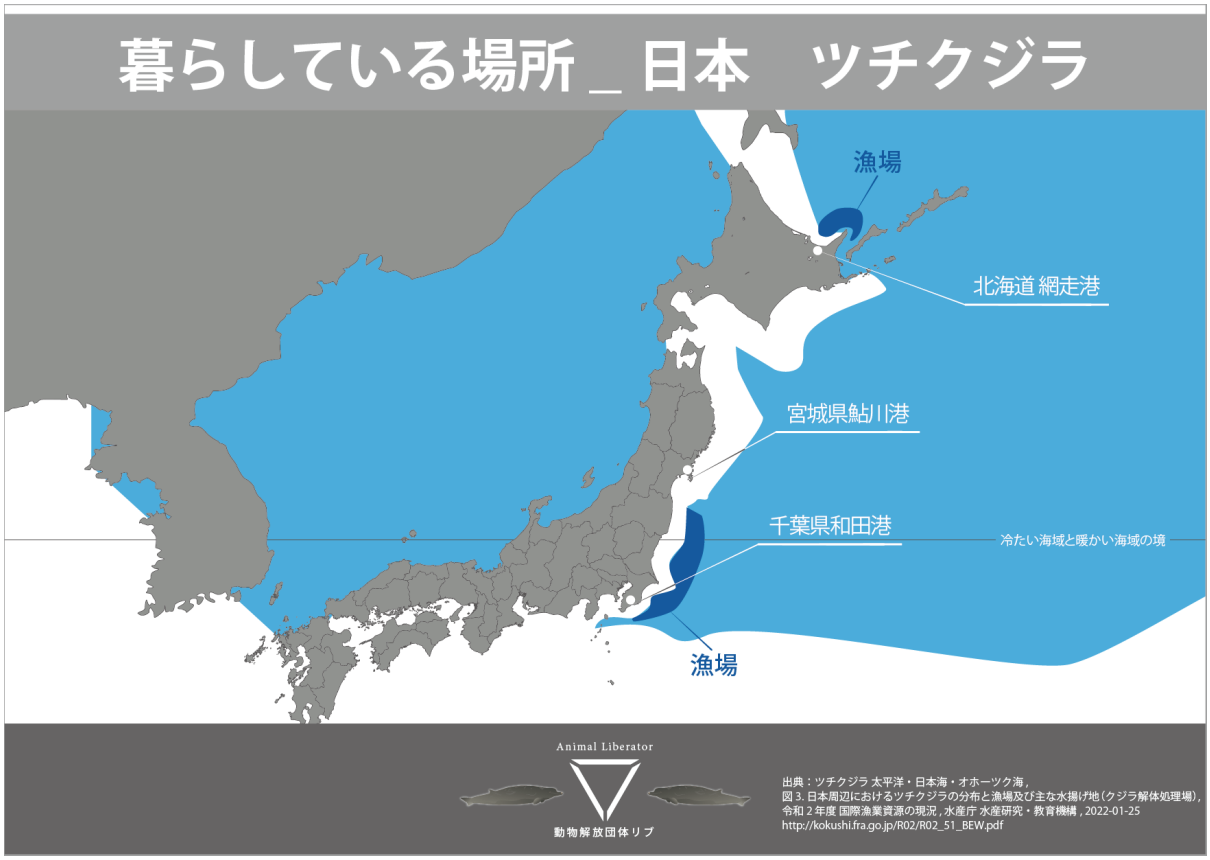
［MAP：暮らしている場所_地球　ツチクジラ属］



日本

水色の部分が暮らしている場所、濃い青の部分が基地式捕鯨の漁場です。太平洋側の水色の部分が陸地から離れたところにありますが、これはツチクジラが大陸棚と深海底の際から深海底に住んでいるからです。

［MAP：暮らしている場所_日本　ツチクジラ］



【人間による被害】

［基地式捕鯨］

日本政府は、ツチクジラは”small cetacean”であると主張し、IWCの管理下に置かれるのを防ぎ、捕獲殺害しています。千葉県和田港では伝統的にツチクジラを捕獲殺害しており、地元で食べられています。

［URL：ツチクジラの解体：https://youtu.be/NOwjvlbhELY］

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

特に、様々な化学物質に汚染されています。厚生労働省では、妊婦が摂食できる許容量として、1週に1回約80gまで 、1週間当たり80g程度としています。

水銀は、中枢神経系、末梢神経系、消化器官系、免疫系、肺、腎臓に害をもたらします。症状としては、感覚障害、運動失調、震え、不眠、記憶喪失、 神経障害、頭痛、認知・運動機能障害、皮膚・眼・消化管の炎症。胎児に対してはメチル水銀は神経発達障害、無機水銀は腎毒症をもたらします。

【人間による保護】

［人口］

不明（長く深く潜るため生息数がわからない）

［IUCNレッドリスト］

ツチクジラ　低危険種（LC：Least Concern）

ミナミツチクジラ　低危険種（LC：Least Concern）

クロツチクジラ　近危急種（NT：Near Threatened）

［ワシントン条約］

CITES附属書Ⅰ

第二項　ミンククジラ

第一目　概要

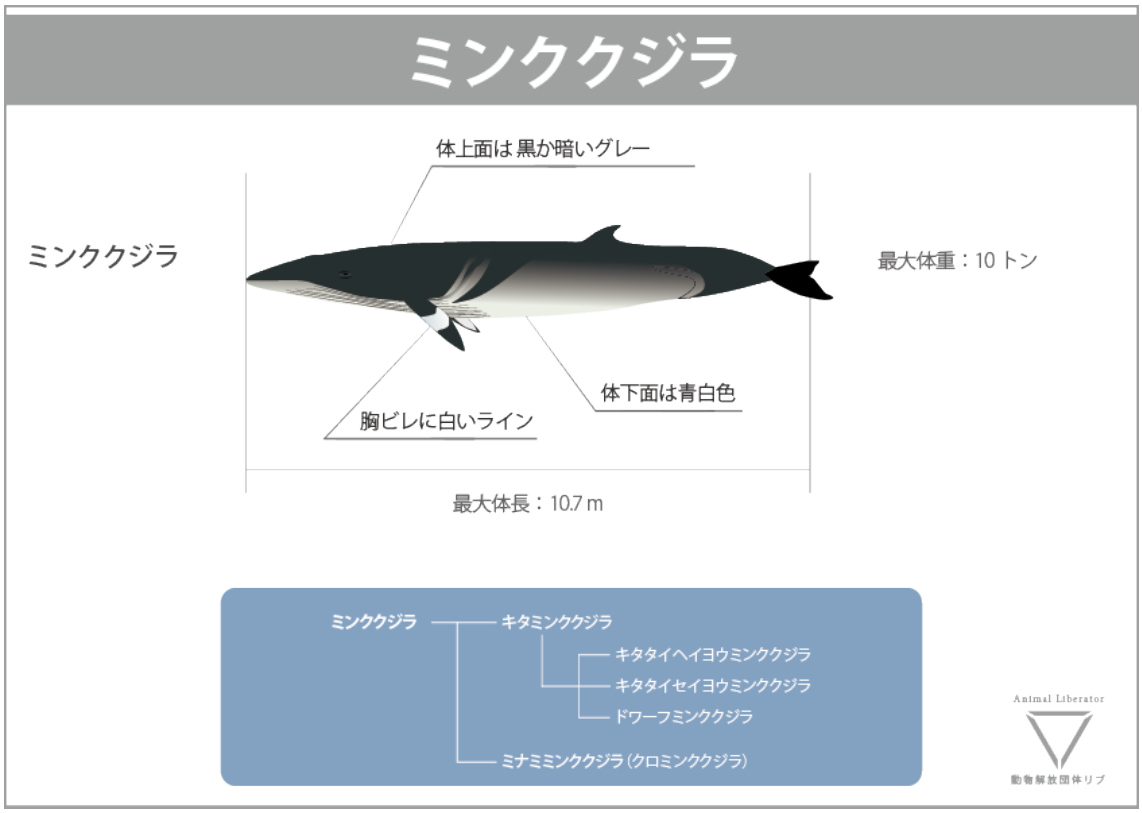
ミンククジラは、小さいクジラ。

［URL：泳ぐミンククジラ：https://youtu.be/-DmQvxOV66g］

14種いるとされているヒゲクジラの内、2番目に小さい種（最少はコセミクジラ）。ナガスクジラ属では最小の種で、8m以下です。

キタミンククジラは、胸ビレの綺麗な白いラインが特徴。ミナミミンククジラには、ラインはありません。

［図：ミンククジラ］



分類

鯨偶蹄目 - ヒゲクジラ亜目 - ナガスクジラ科 - ナガスクジラ属 - ミンククジラ

ミンククジラは2種に分けられます。キタミンククジラ・ミナミミンククジラ（クロミンククジラ）。

キタミンククジラは、3亜種に分けられます。キタタイヘイヨウミンククジラ・キタタイセイヨウミンククジラ・ドワーフミンククジラ。日本近海で暮らし、捕鯨産業に捕獲殺害されているのは、キタタイヘイヨウミンククジラです。

名称

ミンククジラはさまざまな名称で呼ばれています。混乱しがちですので、別名、英名、学名をまとめておきます。

ミンククジラ

英名　Minke Whale

学名　Balaenoptera acutorostrata

キタミンククジラ

別名　ナミミンククジラ

英名　Northern Minke Whale、Common Minke Whale

亜種1

キタタイヘイヨウミンククジラ

別名　キタタイヘイヨウコイワシクジラ

英名　North Pacific Minke Whale

学名　Balaenoptera acutorostrata scammoni

亜種2

キタタイセイヨウミンククジラ

別名　キタタイセイヨウコイワシクジラ

英名　North Atlantic Minke Whale

学名　Balaenoptera acutorostrata acutorostrata

亜種3

ドワーフミンククジラ

別名　ドワーフコイワシクジラ

英名　Dwarf Minke Whale

学名　無し

ミナミミンククジラ

別名　クロミンククジラ

別名　クロコイワシクジラ

別名　ナンキョクミンククジラ（Antarctic Minke Whale）

英名　Southern Minke Whale

学名　Balaenoptera bonaerensis

第二目　身体

体長

女性：平均8m、最大9.1〜10.7 m

男性：平均6.9 m、最大8.8〜9.8 m

体重

最大10トン

寿命

30〜50才

食物

オキアミなどの甲殻類や小さい魚（カタクチイワシ、タラ、ニシン、サバ、シャケ、イカナゴ、サンマなど）。

家族

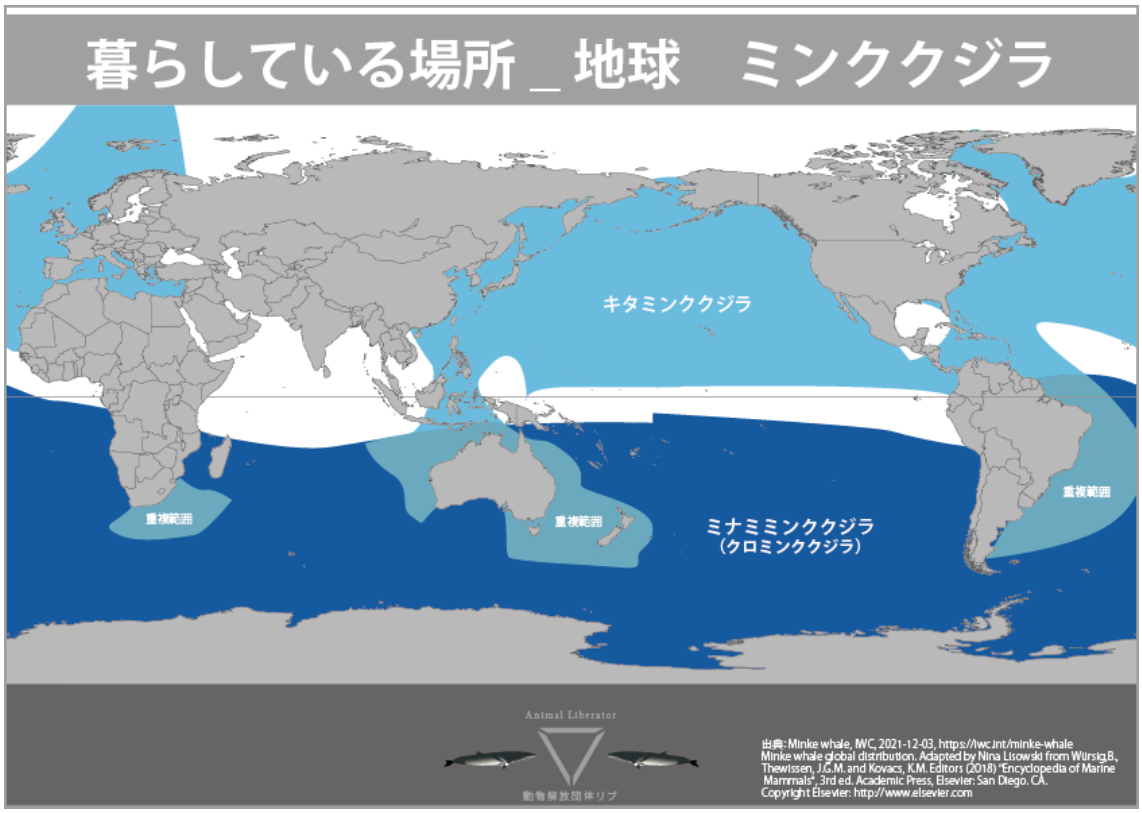
1名、または2〜3名のグループで行動します。北極や南極の近くでは最大400名のゆるやかなグループも見られます。若いミンククジラは一人で暮らし、女性や高齢のミンククジラはグループで暮らす傾向にあります。

暮らしている場所

地球

ミンククジラは世界中の海に暮らしています。回遊しているミンククジラと定住しているミンククジラがいますが、不明な点が多いようです。回遊しているミンククジラは、夏は高緯度で豊富な食べ物を食べ、冬は低緯度で出産と子育てをします。

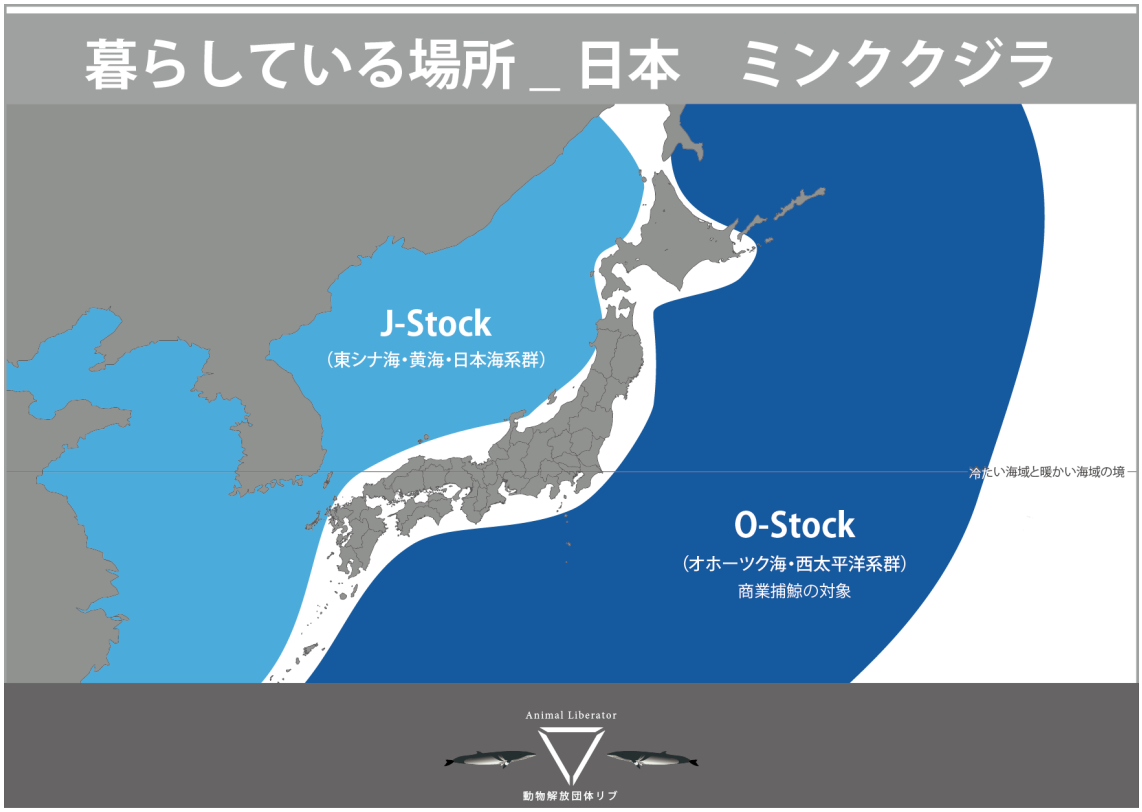
［MAP：暮らしている場所_地球　ミンククジラ］



日本

日本近海のミンククジラは、J-Stock（東シナ海・黄海・日本海系群）と、O-Stock（オホーツク海・西太平洋系群）に分けられます。J-Stockは希少個体群のため、商業捕鯨はO-Stockに対して行われています。しかし、混獲は両方の個体群に対して行われています。

［MAP：暮らしている場所_日本　ミンククジラ］



第四目　人間による被害と保護

【人間による被害】

［捕鯨］

ミンククジラの個体数が保たれているのは、捕鯨のターゲットがシロナガスクジラなど大型のクジラであったためです。捕鯨により大きいクジラが減った分、ミンククジラの食料の獲得は容易になり繁栄しました。大型のクジラの乱獲が進み、個体数の減少が明らかになったためIWCは大型クジラの捕獲を禁止、日本をはじめとする捕鯨産業はミンククジラをターゲットとし始めました。

［URL：殺されたミンククジラ（基地式捕鯨）：https://youtu.be/jtLt4glPVyc］

［混獲］

毎年かなりの数のミンククジラが捕獲され、売買されています。

［第四部 第四章　混獲（第三の捕鯨）］

［水族館による監禁］

1930年3月に開館した静岡県沼津市の中之島水族館（現 伊豆・三津シーパラダイス）に、ミンククジラが監禁されていたことがあります。「鈴木克美, 海・人・自然（東海大博研報）」には、1935年、1941年、1954年に飼育されていたとの記述があります。一方「海棲哺乳類ストランディングデータベース, 国立科学博物館」では、1938年、1954年5月、1955年に飼育されたと書かれています。1955年に飼育されていたミンククジラは、11月26日に混獲され、37日間飼育後に脱出（データベースには”逃亡”と記載）したようです。ヒゲクジラの飼育例は世界的にあまりありません。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

人口は安定しているとされていますが、捕鯨が行われている日本近海（J-stock、O-stock。日本の商業捕鯨が原因）と北太平洋東部（アラスカ先住民が原因）では、減少が懸念されています。

［URL：テムズ川に迷い込んだ赤ちゃんミンククジラの救出：https://youtu.be/XBKpipYefRY］

［IUCNレッドリスト］

キタミンククジラ：低危険種（LC：LEAST CONCERN）

ミナミミンククジラ：近危急種（NT：NEAR THREATENED）

［ワシントン条約］

キタミンククジラ：CITES附属書Ⅰ（西グリーンランド海域群のみ附属書II）

ミナミミンククジラ：CITES附属書Ⅰ

第三節　イルカ突き棒漁捕獲対象種

イルカ突き棒漁の捕獲対象種は11種。イルカ追い込み漁捕獲対象種9種に加え、イシイルカ、リクゼンイルカの2種（正しくは2型）です。イルカ追い込み漁捕獲対象種9種は次節に記載します。

第一項　イシイルカ・リクゼンイルカ

第一目　概要

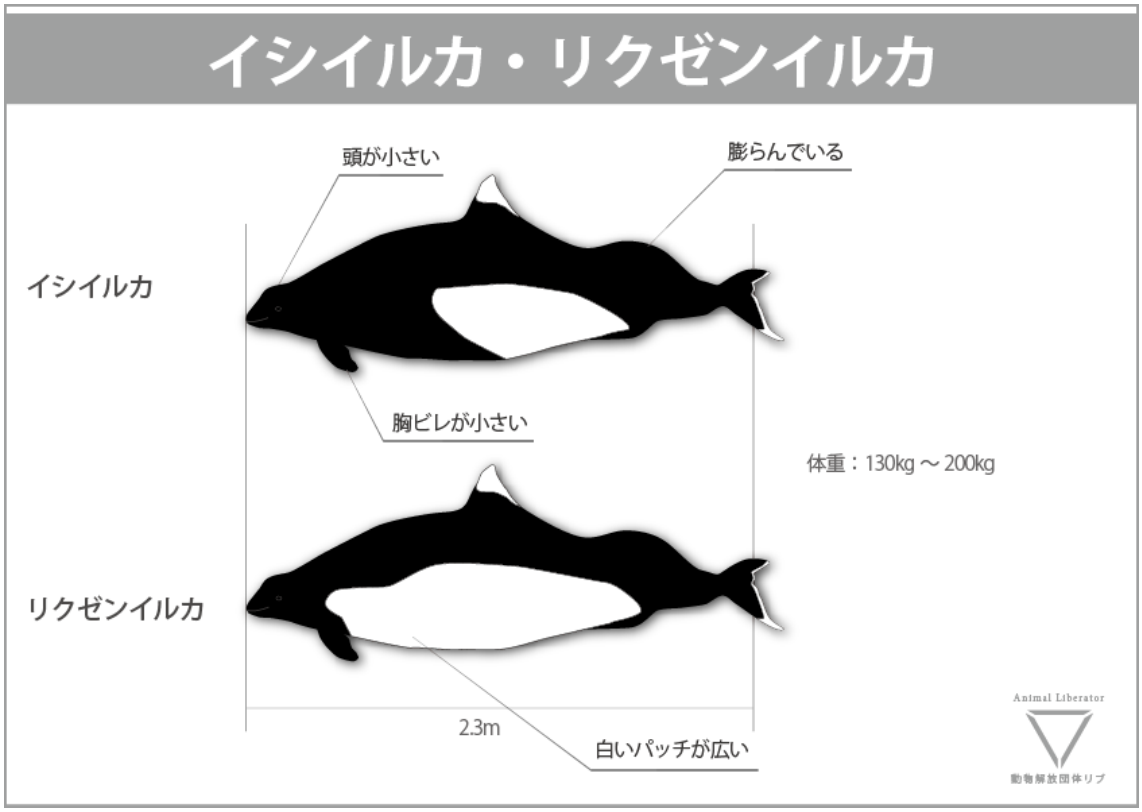
イシイルカ・リクゼンイルカは、好奇心旺盛で遊び好き

［URL：イシイルカ：https://youtu.be/D4qno04kXWg］

若いイルカたちは早い船が好きで、見つけると寄ってきて一緒に泳ぎます。泳ぎ方が特徴的で、背びれを水中に出し、水を切り裂きながらジグザグに泳ぎます。スピードは時速55㎞/hと早く、バンドウイルカより早く泳げます。

イルカ漁というとイルカ追い込み漁が思い出されますが、イルカ突き棒漁の方がはるかに多くのイルカを殺害しています。そこで殺されているのが、このイルカたちです。食用のみに利用され、娯楽利用・飼育はされていません。

［図：イシイルカ・リクゼンイルカ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - ネズミイルカ科 - イシイルカ属 - イシイルカ（イシイルカ型・リクゼンイルカ型）

イシイルカ（Dall’s Porpoise）は、イシイルカ型（Dalli Type）とリクゼンイルカ型（Truei Type）の2つの型に分けられます。違いは体色で、イシイルカ型はお腹の白いパッチが狭く、リクゼンイルカ型は広いタイプです。2つの型は生息域が異なっています。

名称

日本名　イシイルカ

英名　Dall's porpoise（Dall’sは、アメリカの博物学者William Healey Dall（ウィリアム・ヒーリー・ダル）にちなんで付けられた）

学名　Phocoena dalli

（型：Type）

日本名　イシイルカ型

英名　Dalli-types

日本名　リクゼンイルカ型

英名　Truei-types

第二目　身体

体長

230cm

体重

130kg～200kg

寿命

15年

食物

魚類（カタクチイワシ、ニシン、サバ、アイナメなど）や頭足類（イカ、タコ）。

身体能力

イシイルカの身体能力の高さは、体に対しての心臓の大きさにあると言われています。血流（ヘモグロビン）が多いため、大量に迅速に身体に酸素を供給することができるからです。また、食事量も多く、大量のエネルギーを使うことができることもその要因の一つです。

家族

単独、母子の2人のポッド、若い男性の2~4人のポッド、10人のポッドなど、様々な構成を見せます。まれに数百人〜千人が集まることもあります。カマイルカなど他のイルカやシャチ、大型のクジラなどと一緒に泳ぐ、社交的なイルカです。

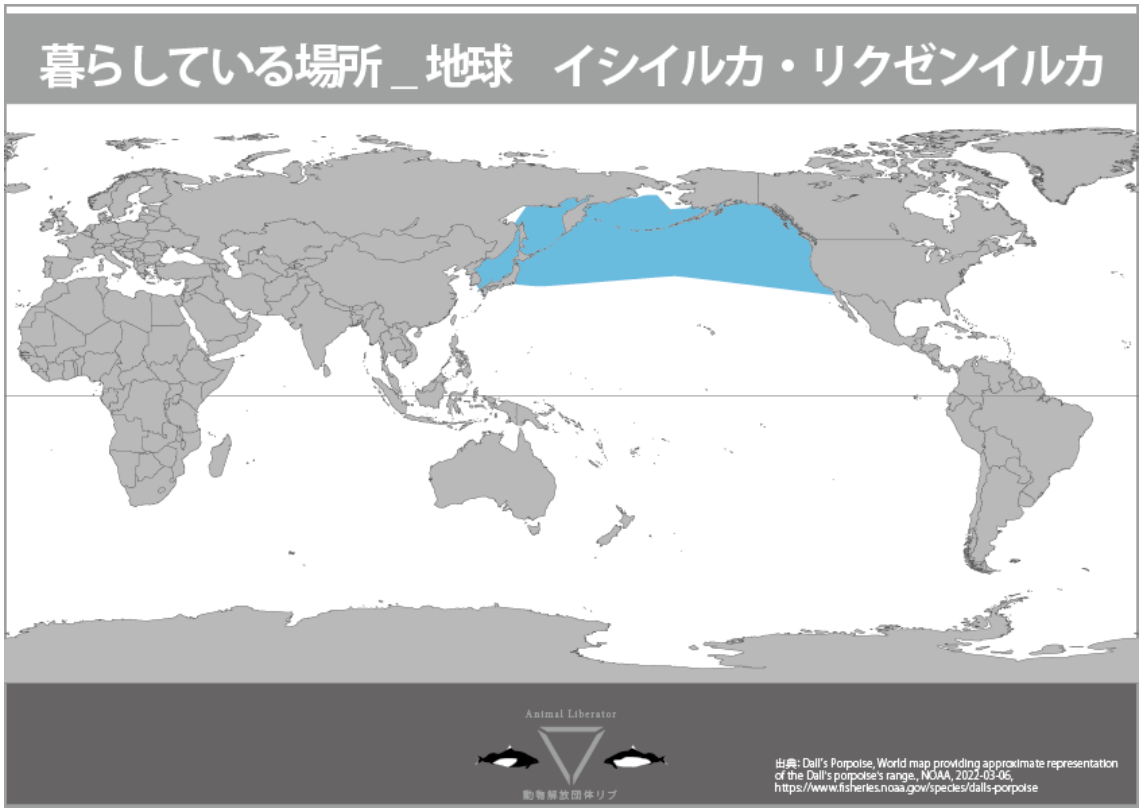
暮らしている場所

地球

イシイルカ型：Dalli-typesは、日本から北米にかけての海に暮らしています。

リクゼンイルカ型：Truei-typesは、日本周辺にしかいません。

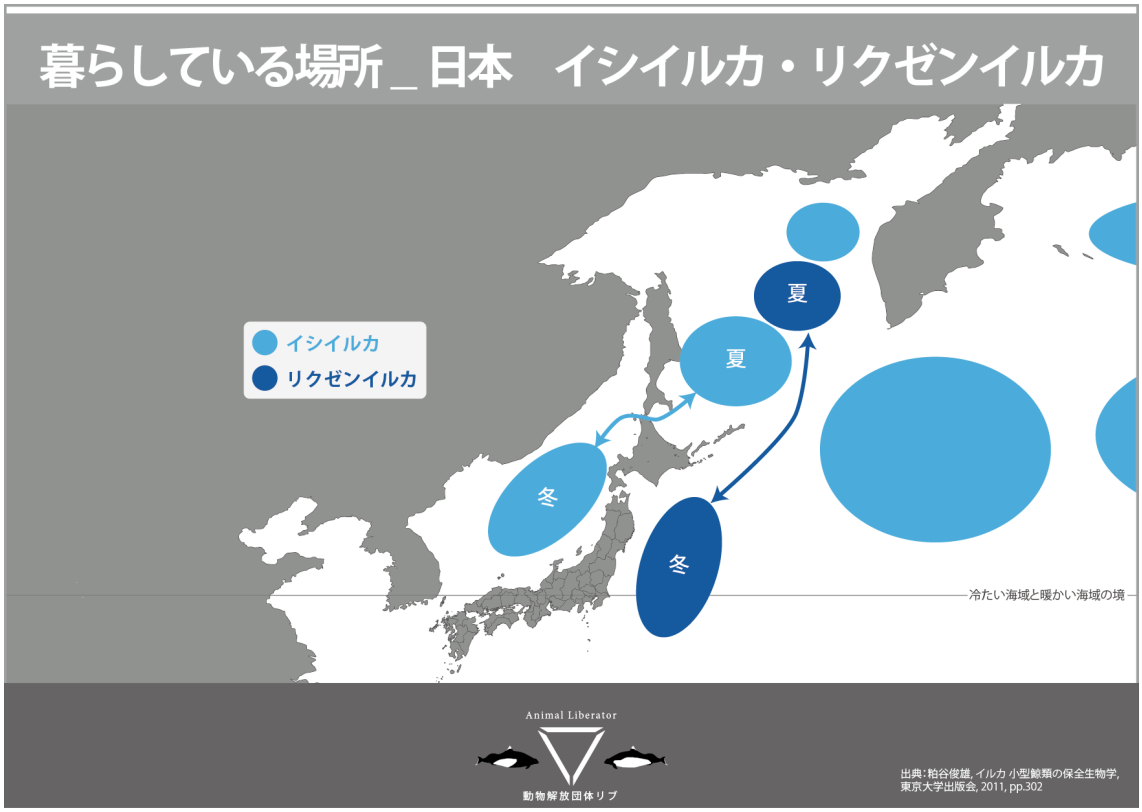
［MAP：暮らしている場所_地球　イシイルカ／リクゼンイルカ］



日本

日本周辺には、イシイルカとリクゼンイルカが暮らしています。リクゼンイルカは日本周辺にしかいません。夏にオホーツク海南部に暮らすイシイルカは、冬には宗谷海峡を通って日本海に回遊します。夏にオホーツク海中部に暮らすリクゼンイルカは、冬には太平洋に回遊することがわかっています。

［MAP：暮らしている場所_日本　イシイルカ／リクゼンイルカ］



第四目　人間による被害と保護

【人間による被害】

［イルカ突き棒漁］

1980年台の大型鯨族のモラトリアム以降、捕鯨業者の関心はイルカに向き、大量のイシイルカが殺害されました。現在イシイルカの捕獲数が減っているのは、東日本大震災の影響です。皮肉なことに戦争や感染症など、人間が危機に陥ったとき、動物の危機は減じます。

［URL：市場に並ぶイシイルカの遺体：https://youtu.be/Pz2_EcnD4b4］

［混獲］

世界中で漁業者による、イシイルカの混獲が起こっています。1990年代まで毎年8,000人が漁業（流し網漁、刺し網漁、トロール漁業）により、殺害されたと推定されています。

［水族館］

飼育は不可能で、水族館に監禁されているイシイルカ・リクゼンイルカはいません。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

特に、水銀、PCB、DDEなど様々な化学物質ににより汚染されています。これら化学物質はイシイルカたちのホルモンや生殖機能や子供たちの健康に影響を与えます。イシイルカの遺体を食べることによる健康被害が予想されており、厚生労働省では、妊婦が摂食できる許容量として、週に2回、1回約80gまで 、1週間当たり160g程度としています。

［他の鯨族による被害］

イシイルカはシャチやバンドウイルカに攻撃されます。

回遊するシャチは、イシイルカを襲い捕食します。一方定住しているシャチは、イシイルカを襲いません。一緒に泳いだり、シャチの子供とイシイルカが遊んでいるところも目撃されています。バンドウイルカもイシイルカを襲い、殺すことがあります。捕食はしません。単なる遊び、あるいはストレス発散などが理由と考えられています。

【人間による保護】

［人口］（Wikipediaまとめ）

全体：100万人を超えると推定されているが不明

北米沿岸：114,200人

北太平洋西部個体群

　イシイルカ型：446,000人

　リクゼンイルカ型：178,000人

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書 II

第四節　イルカ追い込み漁捕獲対象種

イルカ追い込み漁捕獲対象種は9種。イルカ5種、ゴンドウ4種。

体が小さい順に、

イルカ系：カマイルカ・スジイルカ・マダライルカ・ハセイルカ・バンドウイルカ

ゴンドウ系：カズハゴンドウ・ハナゴンドウ・オキゴンドウ・コビレゴンドウ（マゴンドウ）

第一項　カマイルカ

第一目　概要

カマイルカは、俊敏でジャンプや宙返りが得意。

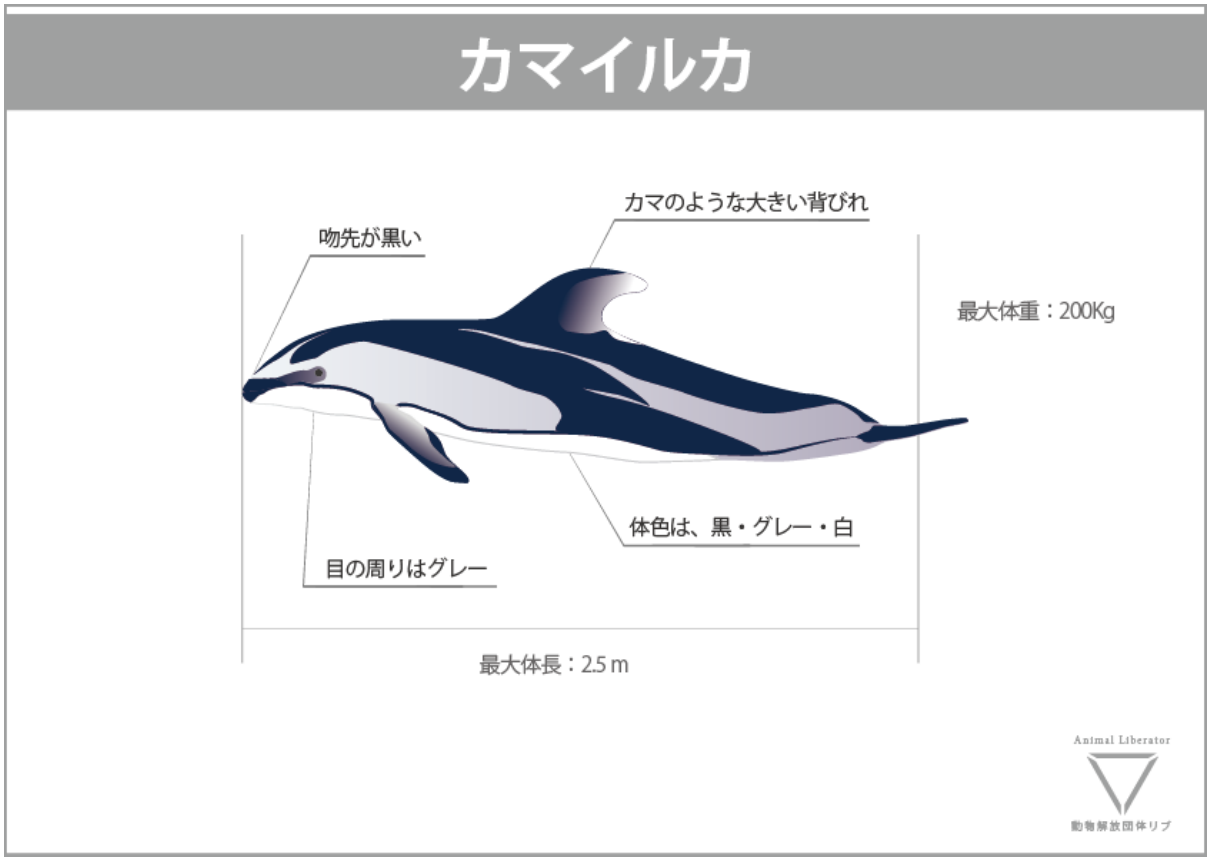
［URL：自由に泳ぐカマイルカ：https://youtu.be/LStXdttFj_o］

活発で、好奇心が強く、遊び好きです。船を見ると遊びに近寄ってきます。

船と一緒に泳ぎ［URL：https://youtu.be/n3-HYTRqBq0］

ジャンプし 、宙返りをします。 ［URL：https://youtu.be/IY7g1JCfRgk］

カマイルカの名前の由来は、背びれが草刈り鎌のような形、色をしていることからきました。世界の海には、6種のカマイルカがいます。黒とグレーと白のコントラストが比較的はっきりした美しい模様をしています。



［図：カマイルカ］

分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - カマイルカ属 - カマイルカ

名称

1 カマイルカ（日本周辺にはこのカマイルカのみが暮らしている）

英名　Pacific white-sided dolphin

学名　Lagenorhynchus obliquidens

2 ハナジロカマイルカ（Wikipedia：日本語　英語）

3 タイセイヨウカマイルカ（Wikipedia：日本語　英語）

4 ハラジロカマイルカ（Wikipedia：日本語　英語）

5 ミナミカマイルカ（Wikipedia：日本語　英語）

6 ダンダラカマイルカ（Wikipedia：日本語　英語）

* 6種のカマイルカのイラスト

第二目　身体

体長

女性230cm　男性250cm

体重

女性150kg　男性200kg

寿命

40年

食物

魚類（イワシ、カタクチイワシ、シシャモ、タラ、ニシン、サケなど）、頭足類（イカ）

第三目　社会生活

家族

10〜100人ほどのポッドで生活します。300〜3000人規模のスーパーポッドが観察されたこともあります。太地で追い込まれる時も、カマイルカは大きなポッドで追い込まれます。また他のクジラやイルカと一緒にいることも多いイルカです。

［URL：カマイルカのスーパーポッド：https://youtu.be/IY7g1JCfRgk］

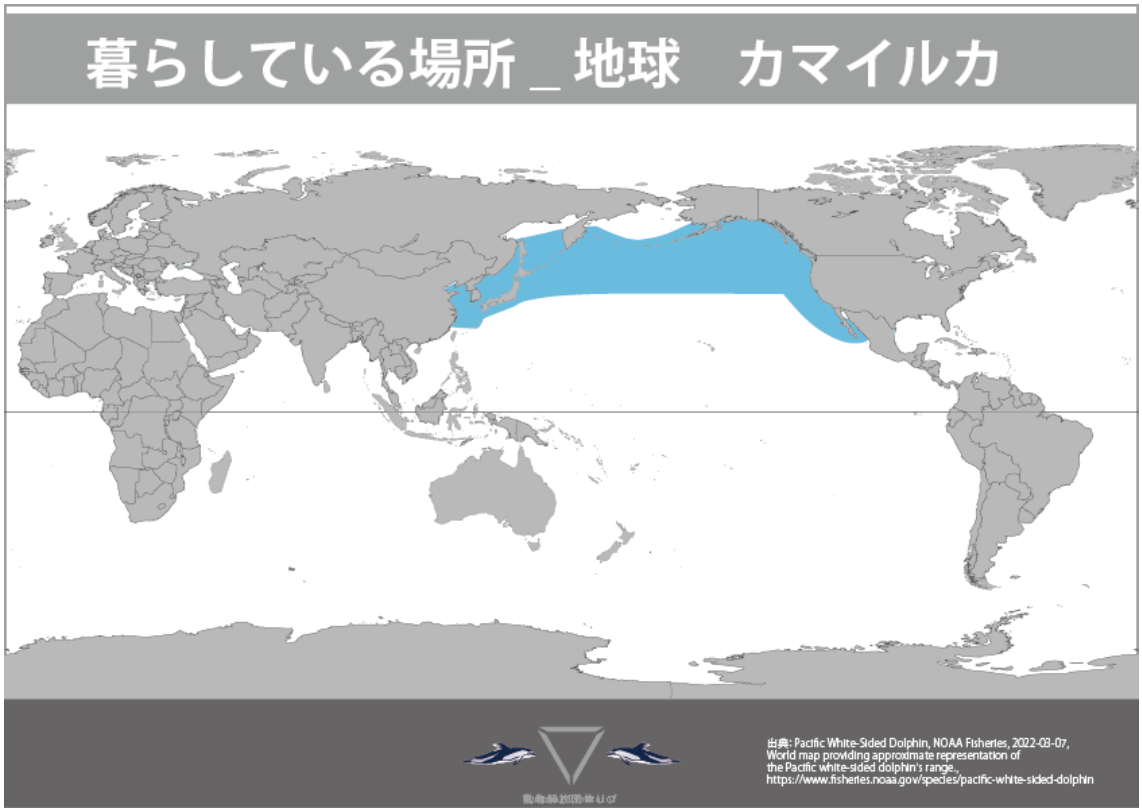
［URL：シロナガスクジラとカマイルカ：https://youtu.be/HB8LBr8RnxA］ ］

暮らしている場所

地球

日本海と日本列島から北米大陸の太平洋、温帯から寒帯にかけての海に暮らしています。

［MAP：暮らしている場所_地球　カマイルカ］



日本

* 日本近海のカマイルカの生息地に関する資料は見つかりませんでした。

【人間による被害】

［イルカ追い込み漁］

カマイルカのイルカ追い込み漁が許可されているのは、静岡県・和歌山県。静岡県ではこれまで捕獲は無く、和歌山県太地町のみで行っています。イルカ追い込み漁ではカマイルカが殺害されることはほとんどありません。太地の方によると、遺体が不味いため、食用には好まれないからとのことです。追い込んだカマイルカのほとんどは捕獲され、水族館に販売され、イルカショーに使用されます。

［イルカ突き棒漁］

カマイルカのイルカ突き棒漁が許可されているのは、岩手県・和歌山県。和歌山県で2009年と2012年に捕獲されて以降行われていません。

［混獲］

刺し網やトロール漁業など漁網による混獲や定置網に迷い込んで捕獲されることがあります。死亡する場合と、保護名目で水族館に運び込まれ、娯楽利用されるケースもあります。

［水族館］

2019年度のリブ調べでは、日本中の水族館に少なくとも92名のカマイルカが監禁されています。1993年、初めてイルカ漁業に捕獲枠が設定されたとき、カマイルカは入っていませんでした。しかし2007/08漁期、カマイルカ360人の捕獲が許可されました。これは、水族館関係者かイルカ漁業関係者、あるいは両者からの要望に答えたのではないかと推察されています。また、捕獲枠設定の科学的根拠は何もないとのことです。［粕谷俊雄, イルカ概論, 東京大学出版会, 2019, p257］

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

1933年、国連がいくつかの大型漁網を禁止したことにより、混獲は減じています。

［人口］

100万人以上

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書 II

第二項　スジイルカ

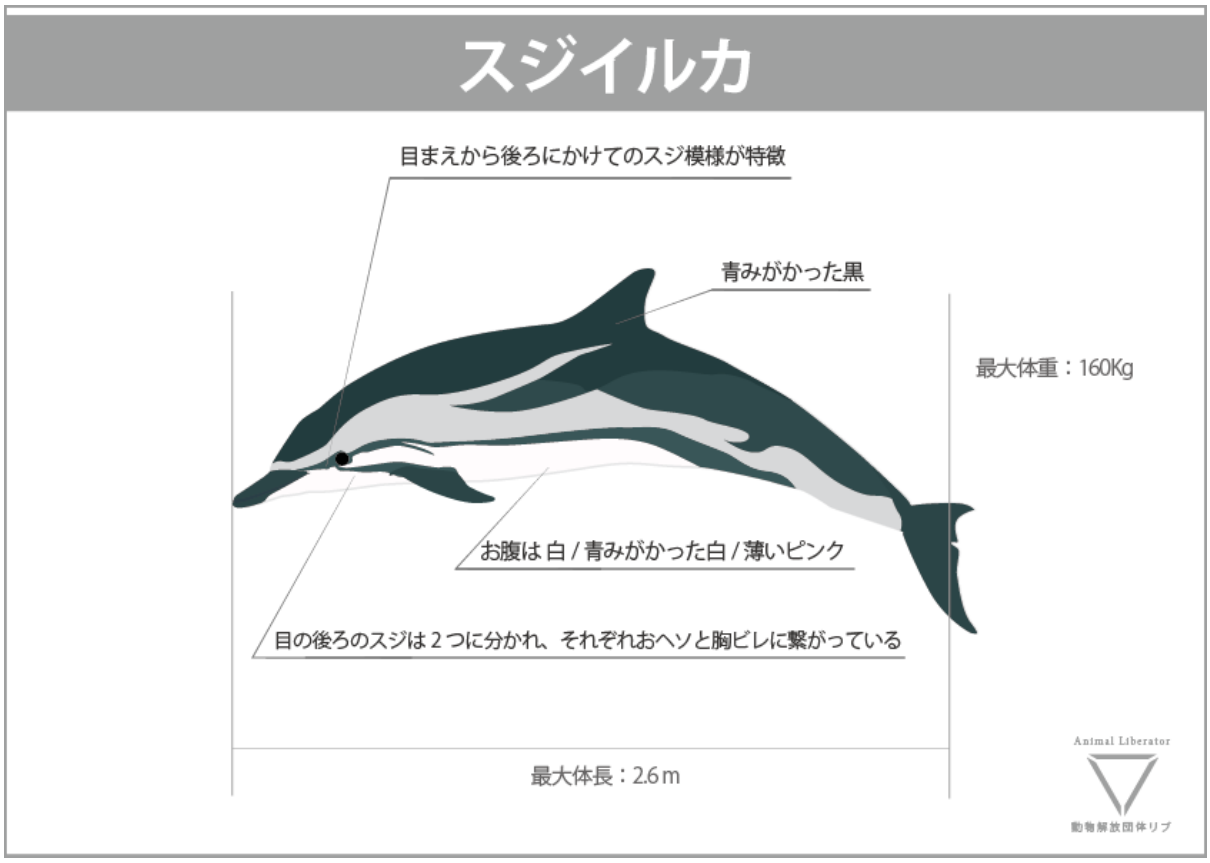
第一目　概要

スジイルカは、とても気が弱い。

［URL：自然に生きるスジイルカ：https://youtu.be/0hoKhJyJcuY］

スジイルカは、体の横のスジがとても美しいイルカです。お腹の白い色とコントラストがはっきりしていてとても綺麗です。可愛い顔をしていて、社交的。他のイルカと一緒に行動しすることも多いイルカです。

［図：スジイルカ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - スジイルカ属 - スジイルカ

* スジイルカ属は5種：スジイルカ・マダライルカ・タイセイヨウマダライルカ・クライメンイルカ・ハシナガイルカ（スピナードルフィン）

名称

日本名　スジイルカ

英名　Striped dolphin

学名　Stenella coeruleoalba

第二目　身体

体長

女性240cm　男性260cm

体重

女性150kg　男性160kg

寿命

55〜60歳

食物

魚類（イワシ、タラなど）、頭足類（イカ、タコ）、甲殻類（オキアミなど）

家族

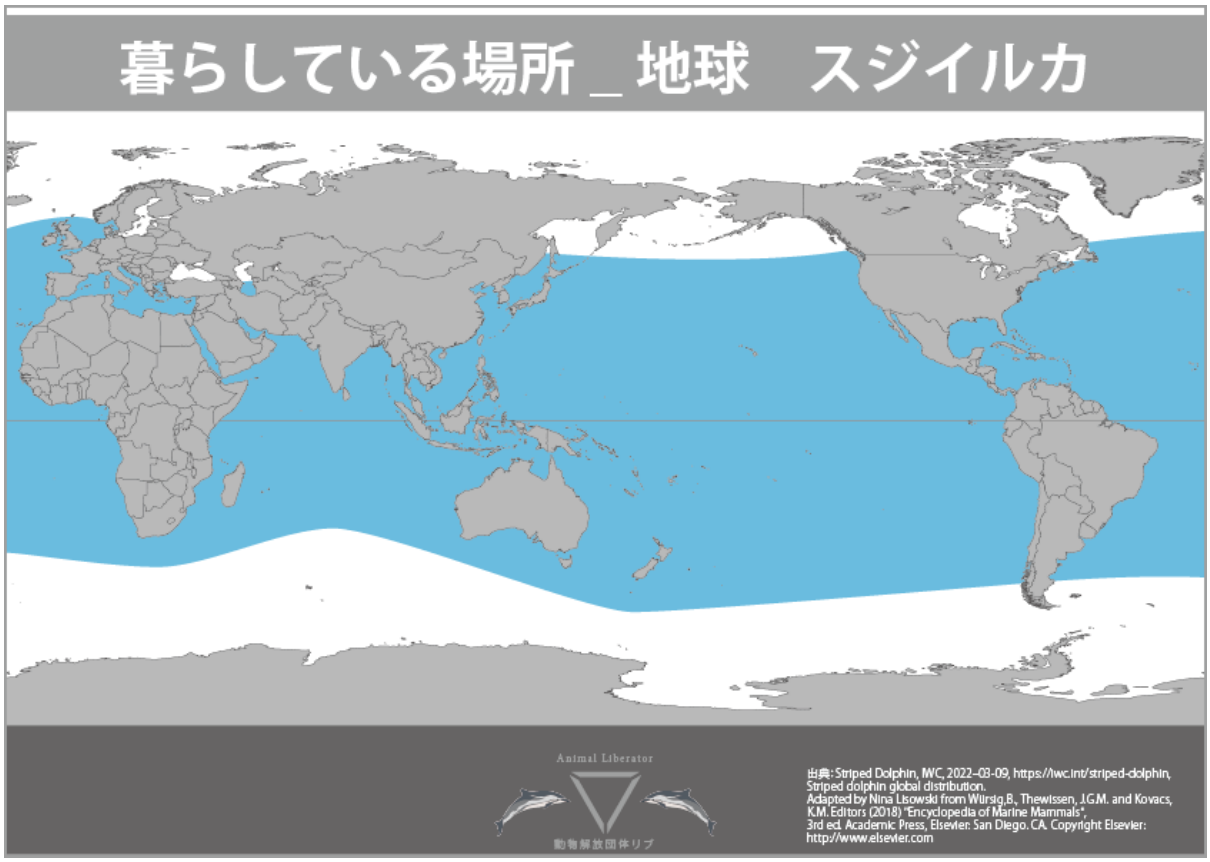
数十〜1000人以上のポッドを構成します。スジイルカ属は大きなポッドで暮らします。イルカ追い込み漁では、スジイルカ属であるスジイルカやマダライルカは、一度に大量に追い込まれてしまいます。

暮らしている場所

地球

暖かい海が好きで、世界中の温帯から熱帯の海で暮らしています。

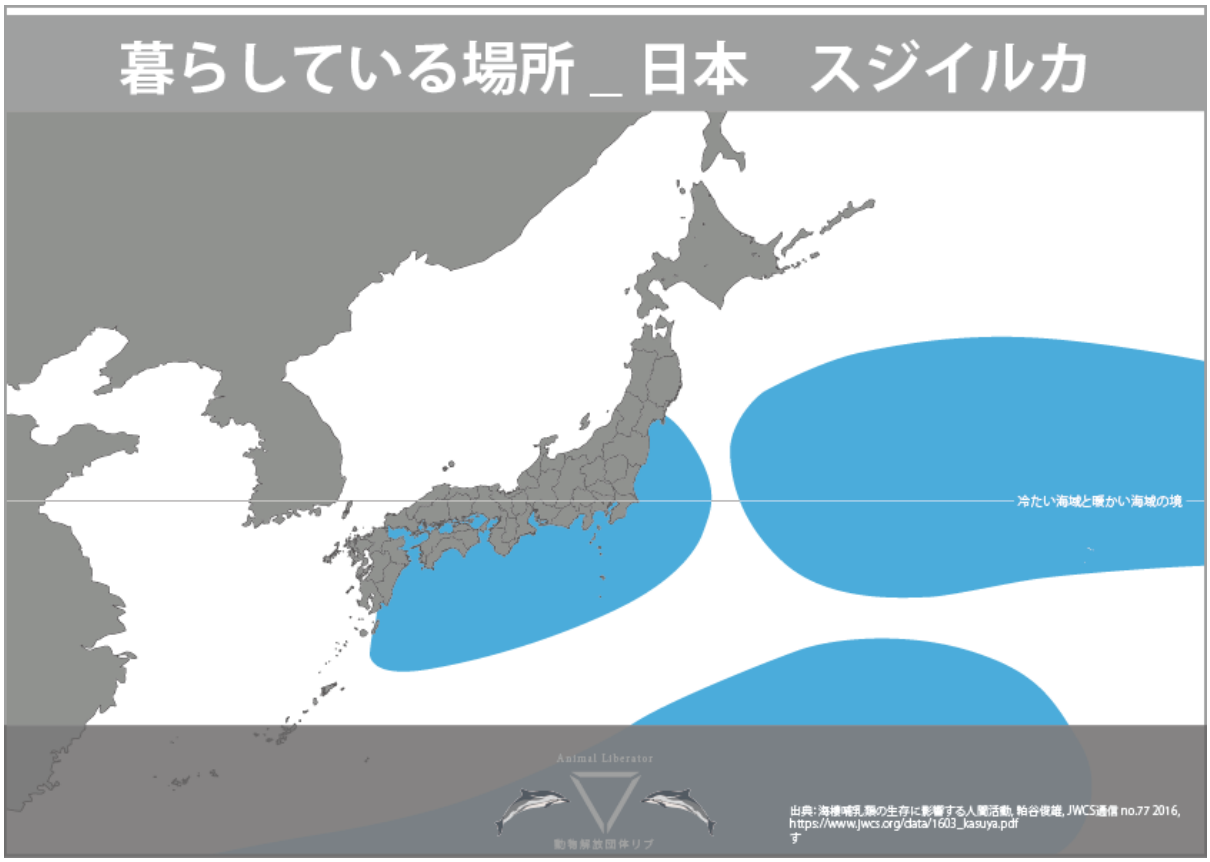
［MAP：暮らしている場所_地球　スジイルカ］



日本

曲線で囲んだ部分は、1983-1991年7-9月の目視調査によって想定された個体群です。日本海と東シナ海では発見されていません。

［MAP：暮らしている場所_日本　スジイルカ］



【人間による被害】

［イルカ追い込み漁］

スジイルカのイルカ追い込み漁が許可されているのは、静岡県・和歌山県。静岡県ではこれまで捕獲は無く、和歌山県太地町のみが行っています。

追い込み漁のとき、スジイルカはあっという間に追い込まれる場合があります。これは気が弱いスジイルカが、バンガーの音に驚き、恐怖して、一心不乱に同じ方向に逃げてしまうためだと思われます。畠尻湾に追い込まれたときには、スジイルカたちはパニックになりがちです。仲間同士でぶつかり合い、岩に突進し吻が折れ血が噴き出したり、岩に乗り上げて怪我をします。

［URL：スジイルカ漁：https://youtu.be/Ji22S1jPuBA］

［イルカ突き棒漁］

スジイルカのイルカ突き棒漁が許可されているのは、千葉県・和歌山県。千葉県で捕獲が行われたことはなく、和歌山県で行われています。捕獲数は減りつつあり、2019年、2020年は捕獲0でした。

［水族館］

スジイルカは、現在のところ太地町外への移送はできません。太地町立くじらの博物館のみが2010年から監禁しています。移送のストレス、つまり持ち上げられたり、身動きできない水槽に入れられたり、運ばれる振動の恐怖で死んでしまうからです。太地町立くじらの博物館ではスジイルカにもショーをさせています。イルカショーのアナウンスで、スジイルカに芸をさせているのはくじらの博物館だけです、と言った旨のアナウンスがされますが、その理由は伝えられていません。くじらの博物館は、イルカを商材化する研究も行っています。スジイルカの監禁技術や移送方法を確立できたら、国内外の水族館に対して有力な新商材となります。

［食糧］

スジイルカが追い込まれた場合、ほぼ100%殺害されます。現在はまだ水族館に売ることができないので捕獲する必要がなく、また伝統的に食べられてきたからです。

太地町立くじらの博物館のイルカショーで「スジイルカは、お腹が白いのが特徴です」というアナウンスがあります。そのくじらの博物館のすぐ近く、道の駅たいじでは、スジイルカのお腹であると思われる、白い皮膚が付いた肉を売っています。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

特に、環境汚染の影響を受けています。1990年代はじめ、地中海で1,000名を超えるスジイルカが死亡しました。これは環境汚染によると思われる免疫低下で、ウィルスに感染したためだと考えられています。

【人間による保護】

［人口］

200万人

［IUCNレッドリスト］

スジイルカ：低危険種（LC：Least Concern）

地中海に暮らすスジイルカ：危急種（VU：Vulnerable）

［ワシントン条約］

CITES付属書Ⅱ

第三項　マダライルカ

第一目　概要

吻先が白く、ピンポン玉のように見える。

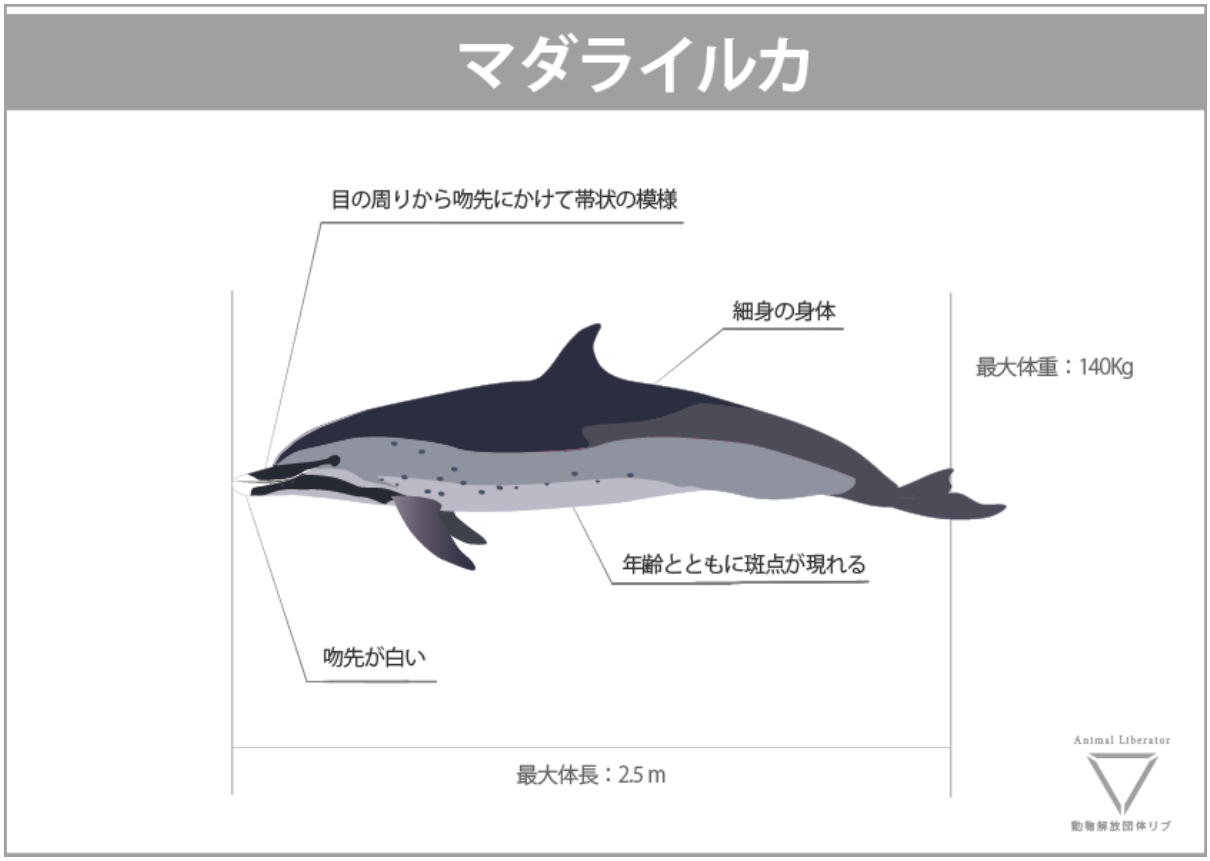
［URL：マダライルカとハシナガイルカ：https://youtu.be/Vo3XA9WeEQs］

*マダライルカは最初に写るイルカです。

イルカ追い込み漁で畠尻湾に追い込まれたイルカがスパイホッピングし、吻先が白い場合、それはマダライルカであるとすぐにわかります。

活発で遊び好き。船が来ると遊びに寄ってきて一緒に泳ぎ、船首波に乗ります。ジャンプが得意です。またとても社交的で、シワハイルカやコビレゴンドウなど、他の鯨族と一緒にいることも多いイルカです。

［図：マダライルカ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - スジイルカ属 - マダライルカ

名称

日本名　マダライルカ（別名：アラリイルカ）

英名　Pantropical Spotted Dolphin

学名　Stenella attenuata

日本名　タイセイヨウマダライルカ
英名　Atlantic spotted dolphin
学名　Stenella frontalis

第二目　身体

体長
最大250cm
体重
最大140kg
寿命
最大46年
食物
小魚、頭足類（イカなど）、甲殻類（オキアミなど）

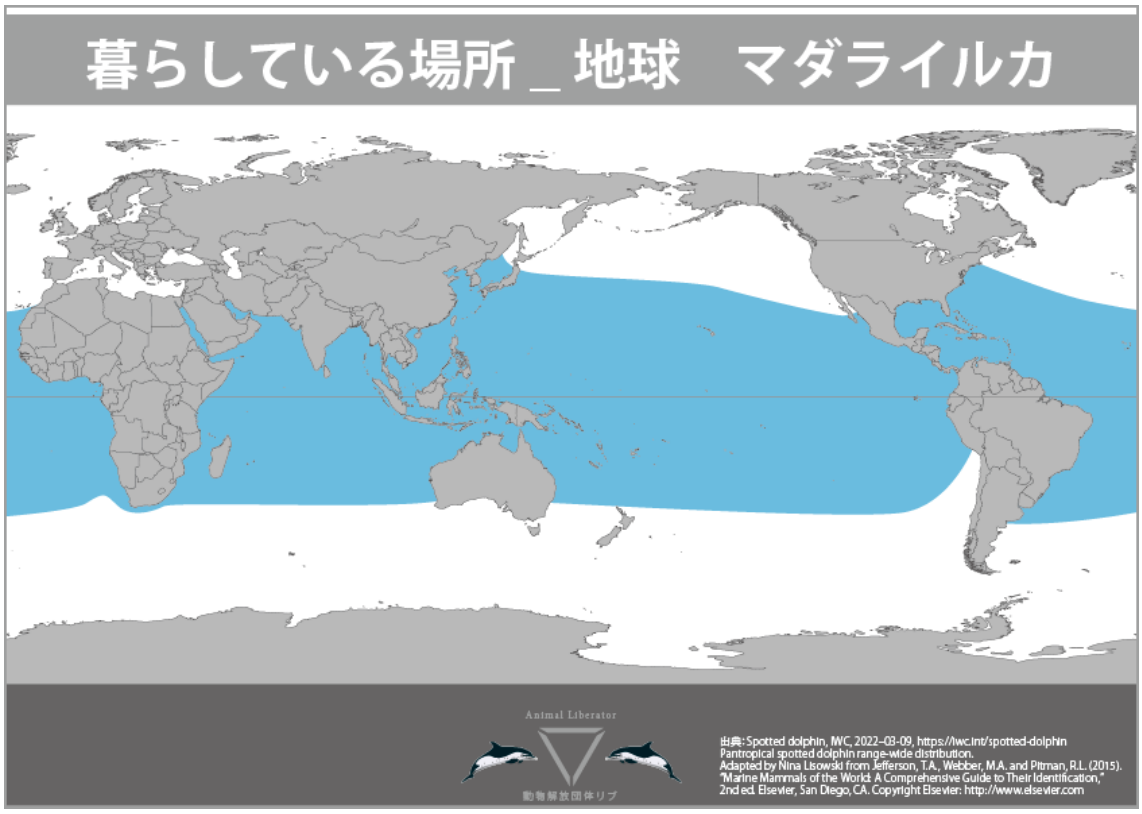
家族

数百から数千のポッドで暮らしています。

暮らしている場所

地球

［MAP：暮らしている場所_地球　マダライルカ］



日本

* 日本近海のマダライルカの資料は見つかりませんでした。

【人間による被害】

［イルカ漁］

日本以外では、インドネシアやフィリピン、太平洋の島々の一部で、食糧のために捕獲されています。

［イルカ追い込み漁］

マダライルカのイルカ追い込み漁が許可されているのは、静岡県・和歌山県。静岡県ではこれまで捕獲は無く、和歌山県太地町のみが行っています。マダライルカの追い込み漁の様子です。

［URL：マダライルカの捕獲：https://youtu.be/JSR3-ryMWnc］

［イルカ突き棒漁］

マダライルカのイルカ突き棒漁が許可されているのは、和歌山県のみです。

［水族館］

上記映像のように捕獲されたイルカが、日本をはじめとする水族館に売られ、監禁されます。スジイルカ同様、搬送や監禁が難しく、太地町立くじらの博物館のみが2007年から監禁していました。

2019年時点で、監禁している水族館は以下。

・太地町立くじらの博物館　不明・非公表（少なくとも3名）（和歌山県）

・森浦湾 くじらの海　不明・非公表（和歌山県）

・四国水族館　7名（香川県、2020年4月にオープン）

・うみたまご　2名（大分県）

・沖縄ちゅら海水族館　1名（沖縄県）

・ルネッサンス リゾート　4名（沖縄県のホテル、OMRCが管理）

*中国の水族館、珠海長隆海洋王国(しゅかいちょうりゅうかいようおうこく、Chimelong Ocean Kingdom）にもマダライルカが監禁されています。太地町で捕まり輸出されたイルカだと思われます。

［URL：マダライルカ（珠海長隆海洋王国）：https://youtu.be/ZINORI6CX98］

［混獲］

マグロ漁業の巻き網による混獲で、年間大量のマダライルカが殺害されていました。理由は、キハダマグロと同じ小魚を食べるため、キハダマグロと一緒に泳いでいたからです。マグロ漁業により、マダライルカの人口は半減。1950年には700万いたマダライルカが、現在では300万になっています。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

［人間以外の生物による被害］

シャチとサメが、マダライルカを捕食します。また、ユメゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウがマダライルカを捕食している可能性もあります。

【人間による保護】

［人口］

300万人以上

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

しかし、マダライルカは3亜種います。それぞれに保全が必要です。

［ワシントン条約］

CITES付属書 II

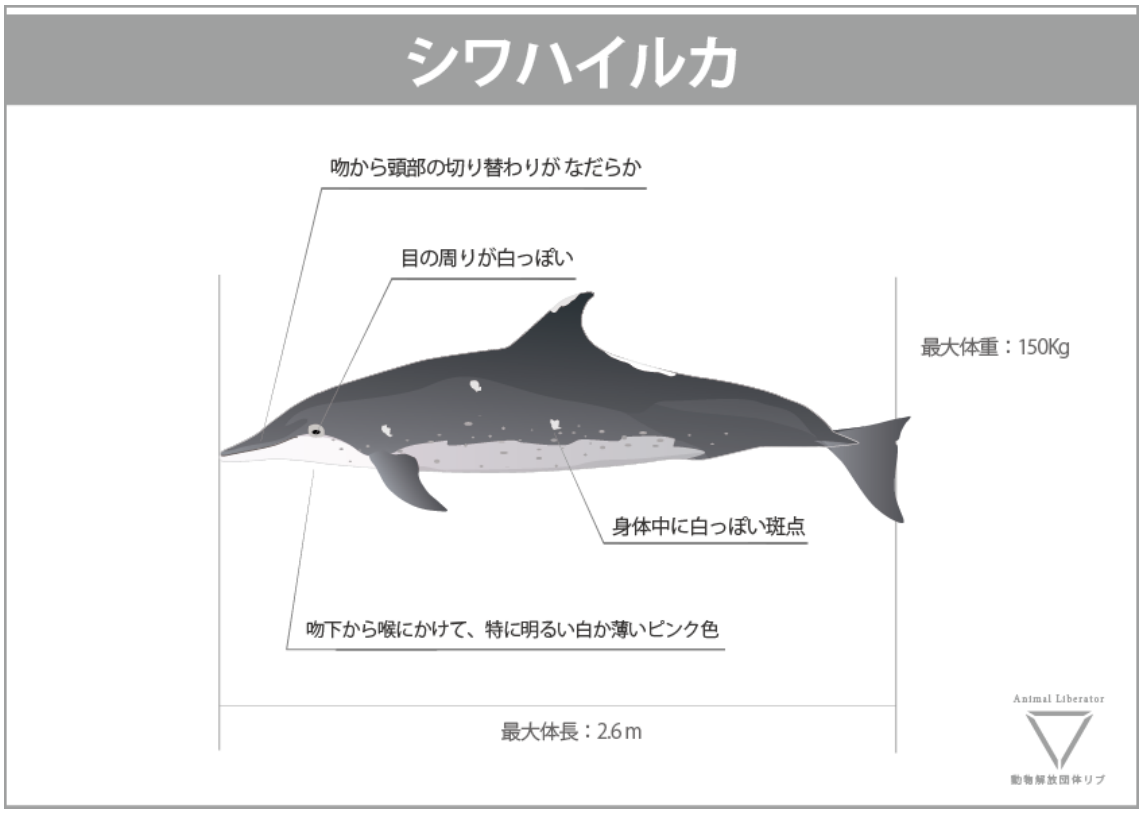
第四項　シワハイルカ

第一目　概要

シワハイルカは、吻から頭部にかけてのラインがなだらか。

［URL：自由に生きるシワハイルカ：https://youtu.be/Mr4swG2pfSs］

シワハイルカの特徴は、なんといっても、吻から頭部にかけてのラインです。バンドウイルカなどは、吻から頭部の切り替わり部分がはっきり凹んでいます。一方シワハイルカは、なだらかになっており、切り替わり部分がありません。パッと見の印象は地味です。体色はグレーで、身体中に擦れたような白い模様が入っています。
とても社交的で、マダライルカ、バンドウイルカ、ハシナガイルカなど、他のイルカや、オキゴンドウ、コビレゴンドウ、ザトウクジラなどと一緒に泳いでいます。
［図：シワハイルカ］



［URL：人と遊ぶシワハイルカ：https://youtu.be/JP_UvB1V4Gs］

*イルカと泳ぐことの是非については、［本文参照：第八部 第三章 第四節 第二項　ドルフィンスイム・ホエールスイム］へ

分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - シワハイルカ属 - シワハイルカ

* シワハイルカ属は1種のみ。

名称

日本名　シワハイルカ

英名　Rough-Toothed Dolphin

学名　Steno bredanensis

*日本名のシワハ、英名のRough-Toothed（皺のある歯）は、歯に縦のシワ（スジ）があることに由来します。

第二目　身体

体長

最大280cm

体重

最大155kg

寿命

36年以上

食物

魚類（イワシ、サンマ、サヨリ、ワカサギ、タチウオなど）、頭足類（イカ、タコ）

家族

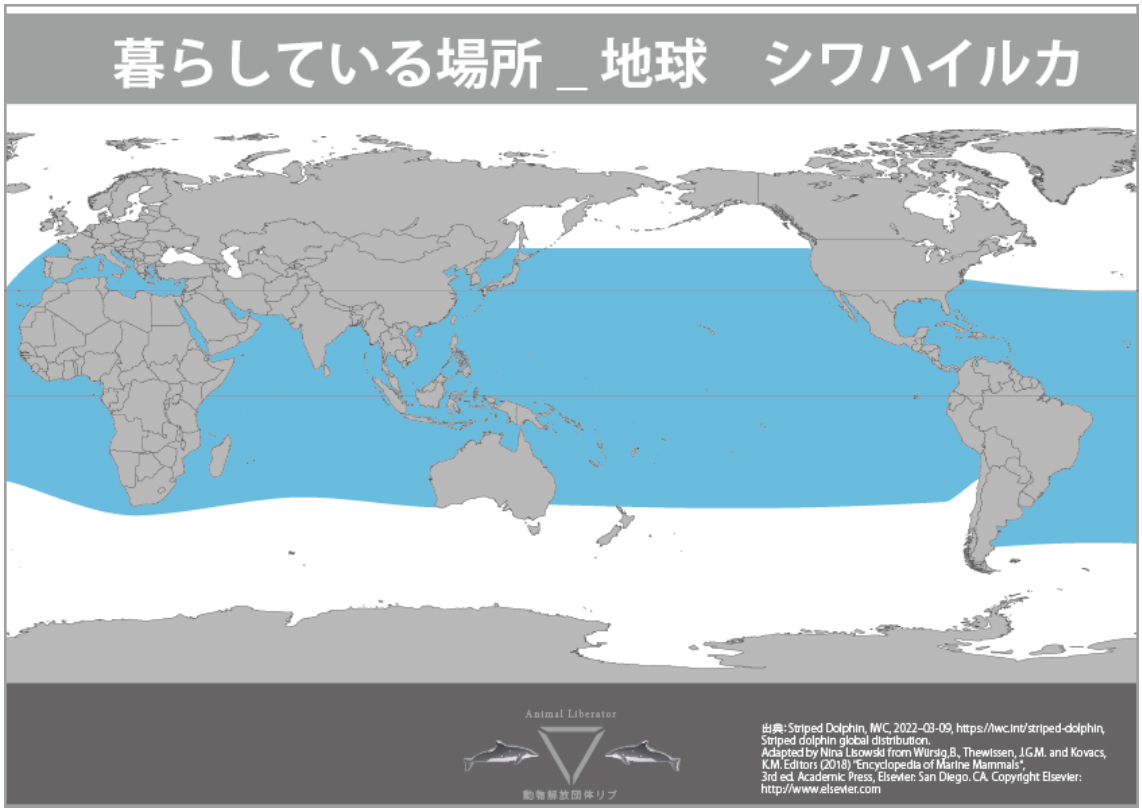
2〜8名のポッドで暮らしています。また、それ以上〜100名の、さまざまな規模のポッドが見られることがあります。1名で生きる”孤独なイルカ”も報告されています。

暮らしている場所

地球

暖かい海が好きで、温帯から熱帯、大陸棚の外の遠洋に暮らしています。

［MAP：暮らしている場所_地球　シワハイルカ］



日本

* 日本近海のシワハイルカの資料は見つかりませんでした。

【人間による被害】

［イルカ漁］

日本以外では、インドネシア、ソロモン諸島、パプアニューギニアでも捕獲されています。

［イルカ追い込み漁］

シワハイルカのイルカ追い込み漁が許可されているのは、和歌山県のみ。2017/2018漁期から捕獲対象種とされました。太地町のイルカ追い込み漁で捕獲・殺害、中国に輸出されています。

生息数や個体群調査が十分になされないまま許可されたのは、他のイルカの漁獲数が減り漁業者の利益を補填するため、イルカ漁そのものの存続を計るためと考えられます。いずれにせよ、それまで自由に泳いでいたイルカたちが人間の都合で殺され始めたということです。

［イルカ突き棒漁］

シワハイルカのイルカ突き棒漁が許可されているのは、沖縄県。これまで捕獲は0です。

［水族館］

日本では少なくとも、5名のシワハイルカが水族館に監禁されています（2019 動物解放団体リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・太地町立くじらの博物館　3人（和歌山県）（2018年シワハイルカの捕獲が許可され、すぐに監禁開始）

・沖縄ちゅら海水族館　2人（沖縄県）

［写真：沖縄美ら海水族館に監禁されているシワハイルカ。目の前部に怪我をしている］



アメリカやパナマ共和国にも監禁されているようです。

［URL：パナマの水族館に監禁されるシワハイルカ：https://youtu.be/3G3K3l7aS6I］

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

東太平洋15万人(1980年代）。他の海域では不明。地中海にもいることがわかっています。

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書 II

第五項　バンドウイルカ

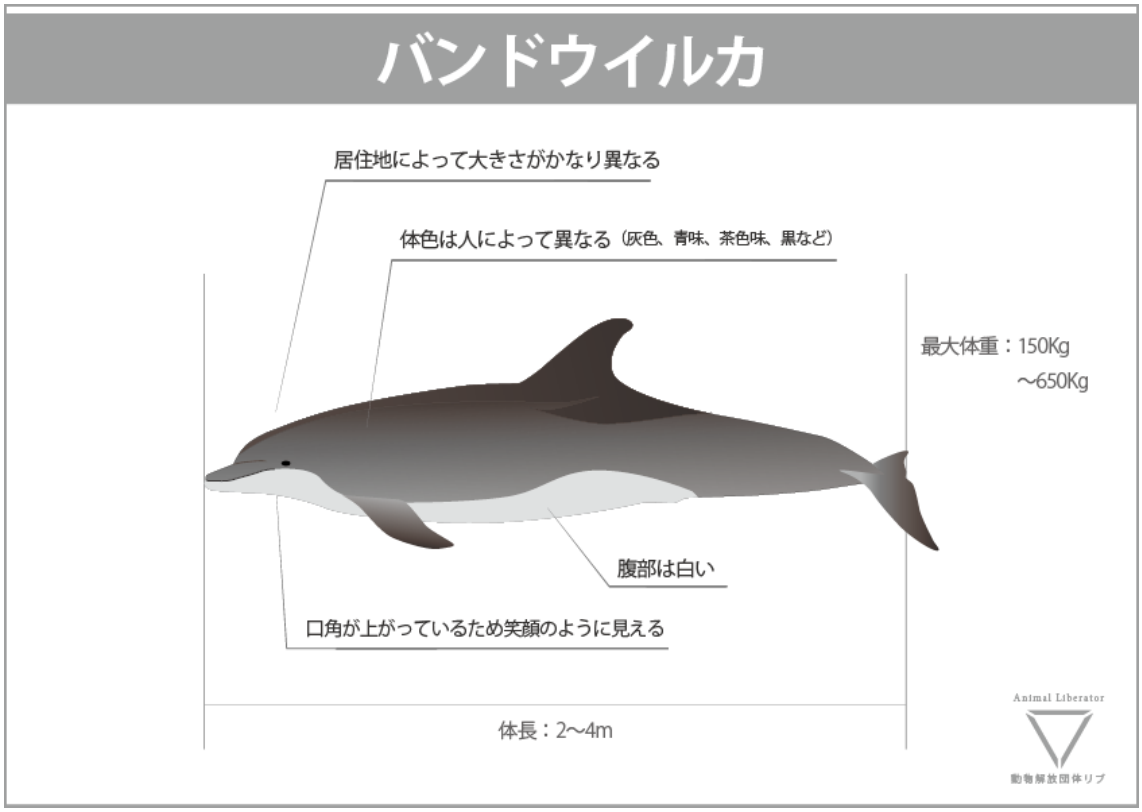
第一目　概要

イルカといえば、バンドウイルカ。

［URL：バンドウイルカ：https://youtu.be/nTXG105QrWI］

イルカといって、多くの人の頭に思い浮かぶイルカ、さまざまなイラストに描かれるイルカは、バンドウイルカです。バンドウイルカは、映画や漫画、小説、テレビなどに登場してきました。「イルカと少年」「わんぱくフリッパー」「スタートレック」「シンプソンズ」「イルカ島」など。日本では「ガンダム」など。

［図：バンドウイルカ］



口角が上がっていることから、笑顔に見え、陽気で優しいと思われます。海の中でゆったり泳ぐ姿は、人々を癒します。好奇心や知性が高く、遊び好きで、道具を使うバンドウイルカもいます。記憶力にも優れておりシカゴ大学の研究では、20年間会っていないイルカの名前（シグナチャーホイッスル）を覚えていたそうです。

非常に友好的で、シワハイルカなど小型鯨族や、ハナゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウなどと一緒にいることがあります。人間に対しても友好的で、一緒に遊んだり、サメか

ら人間を守ったりします。

しかし一方、攻撃的な側面もあり、いじめ、女性を襲う、子殺し、男性同士の抗争、他のイルカへの攻撃、ネズミイルカの殺害などを行います。集団でモビング（Mobbing）という行動をとります。女性や子供を襲ったり、多種のイルカを襲います。水族館においても、一人のイルカを他のイルカがいじめ続けることがあります。
［URL：モビング：https://youtu.be/_J2N5ttFBN8］
人間に対しても攻撃を行うことがあります。近づかれたくない人間に対しては口を開いて脅します。
［URL：https://youtu.be/QKXtNPydsWE］
人間もそうですが、知的に優れた動物が複雑な精神性、いわば天使の側面と悪魔的な側面を同時に表すのは興味深いことです。

分類
鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - マイルカ科 - ハンドウイルカ属

名称
ハンドウイルカ属は3種
日本名　バンドウイルカ（ハンドウイルカ、坂東海豚）
英名　Bottlenose dolphin（Common Bottlenose dolphin）
学名　Tursiops truncatus
世界中の熱帯～温帯に暮らしている。

日本名　ミナミバンドウイルカ
英名　 Indo-Pacific Bottlenose Dolphin
学名　Tursiops aduncus
インド洋からオーストラリアにかけて暮らしている。

日本名　ブルナンイルカ
英名　Burrunan dolphin
学名　Tursiops australis
オーストラリア南部に極少数暮らしている。

バンドウイルカには2亜種がいると考えられている
日本名　タイヘイヨウバンドウイルカ

英名　Pacific Bottlenose Dolphin
学名　T. truncatus gillii／T. gillii

太平洋に暮らしている。

日本名　黒海バンドウイルカ

英名　Black Sea Bottlenose Dolphin

学名　T. truncatus ponticus)

黒海に暮らしている。

*分類は発展途上であり、今後研究が進むにつれ、別の種であると判明する可能性があります。

第二目　身体

体長

200cm〜400cm（暮らしている海域によって大きさが異なる）

体重

150〜650kg（暮らしている海域によって大きさが異なる）

寿命

40〜60歳

食物

魚類（サバ、マグロ、カツオ、ボラなど）、頭足類（イカなど）、甲殻類（カニ、エビなど）

潜水時間

最大8分

家族

2〜12人の女性を中心としたポッドが多く、若い男性のみの2〜3名のバチェラーポッド、1名で生きる”孤独なイルカ”もいます。100名以上が集まり、スーパーポッドを構成することもあります。昔は、日本の海でも2,000名以上のスーパーポッドが見られたそうです。

交雑

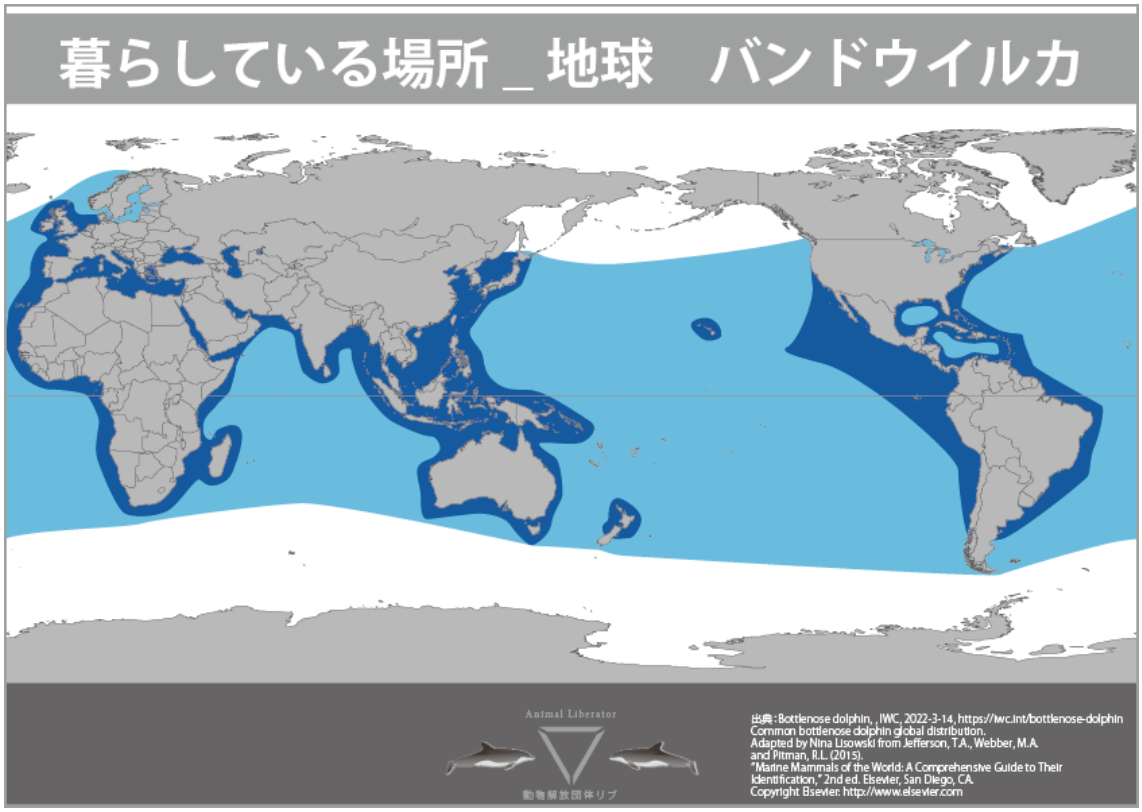
他種のイルカとの間に子どもができやすいイルカでもあります。交雑は野生下でも水族館による監禁下でも起こります。交雑が確認されている種は、マダライルカ、タイセイヨウマダライルカ、シワハイルカ、マイルカ、ハナゴンドウ、オキゴンドウです。

暮らしている場所

地球

バンドウイルカは、世界中の海に暮らし、幅広い水温に適応できるイルカです。

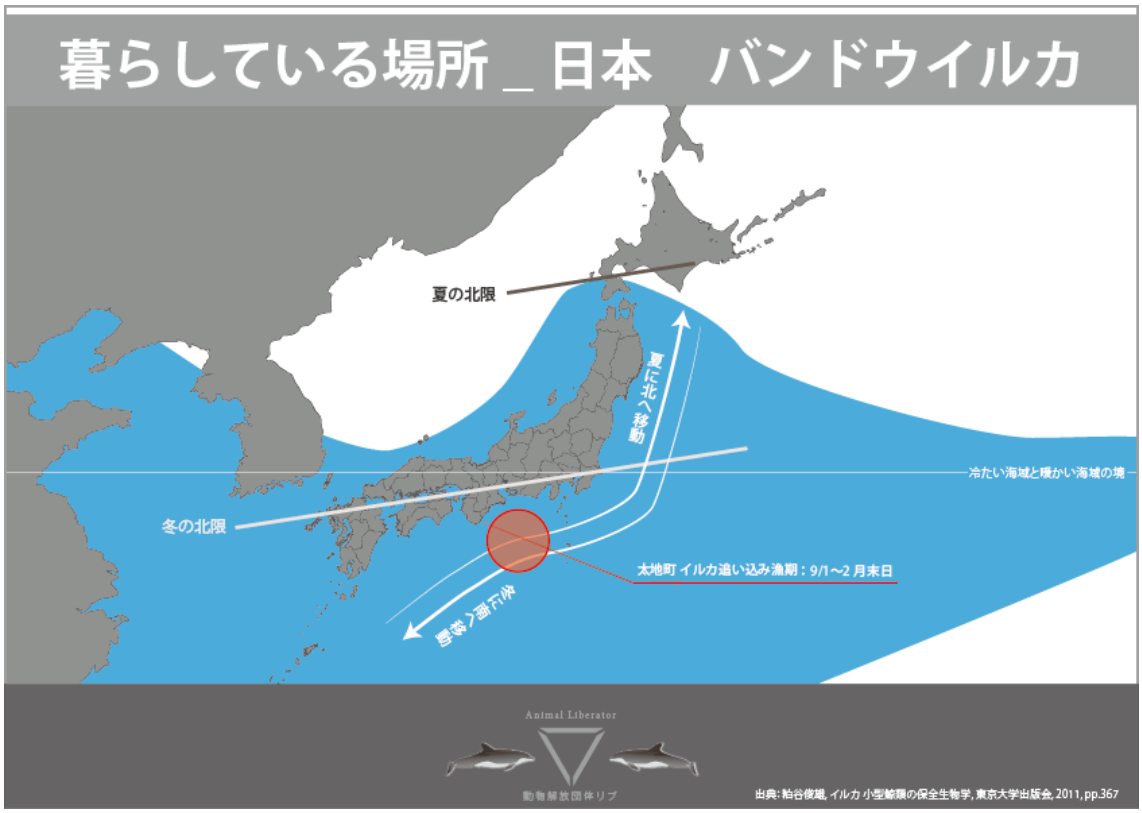
［MAP：暮らしている場所_地球　バンドウイルカ］



日本

回遊するバンドウイルカは、多くの鯨族と同様自分達が好む水温を求めて、夏は北へ移動、冬は南へ移動します。夏の北限は北海道の下あたりまで、冬の北限は暖流がある暖かい海域までです。現在和歌山県太地町でのみ行われているイルカ追い込み漁が、静岡県富戸でも行われるようになったら、太地によって家族を捕獲殺害されたポッドの生き残りが、再び富戸でも捕獲殺害される可能性が出てきます。一つ一つのポッドは遺伝子の多様性を保持しています。一つのポッドを殲滅することは、他のポッド、さらには個体群にまで影響を与えます。

［MAP：暮らしている場所_日本　バンドウイルカ］



【人間による被害】

［イルカ追い込み漁］

バンドウイルカのイルカ追い込み漁が許可されているのは、静岡県・和歌山県。静岡県では2004年の9名以降、捕獲はありません。和歌山県太地町では毎年捕獲されています。現在、和歌山県太地町では、捕獲のみで殺害することはほとんどないようです。水族館が購入する数のバンドウイルカを捕獲し、残りのイルカはリリースします。リリースは善意からではなく、実利的な意図からと考えられます。

捕獲のために追い込むポッドは、ナーサリーポッドなど女性がいるポッドです。水族館は、のちに繁殖させるため、女性のイルカを望むからです。しかし、監禁下で繁殖させるより、自然に繁殖した方が当然繁殖率は高いと考えられます。ゆえに、残りのイルカをリリースし、自然で繁殖したイルカを再度捕獲する方がメリットがありますし効率的です。

実際に追い込まれたイルカを見ると、複数回追い込まれたであろうイルカが確認できます。イルカを捕獲しリリースするときには、背ビレに固体認識、研究用タグを取り付けます。そのタグが既に2つついたイルカが捕獲されたのを見たことがあります。

［URL：畠尻湾に追い込まれたバンドウイルカ：https://youtu.be/3CAcBtYwR1g］

［イルカ突き棒漁］

バンドウイルカのイルカ突き棒漁が許可されているのは、和歌山県・沖縄県。イルカ突き棒漁による捕獲では全員殺害されます。

［混獲］

バンドウイルカはマグロが食べる魚と同じ魚を食べるため、マグロと一緒に泳いでいます。ゆえにマグロ用の魚網に混獲されたり、場合によってはマグロ漁師に殺害されます。定置網に迷い込み、混獲されることもあります。

［害獣駆除］

壱岐イルカ事件など、大量のバンドウイルカが漁民の利益確保のために害獣とされ殺害されています。詳細は、［本文参照：第三部 第一章 第三節　害獣駆除］へ

［水族館］

日本の水族館が最も多く監禁しているイルカはバンドウイルカです。2019年のリブの調査では、少なくとも287名のバンドウイルカの監禁が確認できました。しかしこの数には、データを公表していない施設、太地町立くじらの博物館や森浦湾、アドベンチャーワールドなどに監禁されているイルカは入っていません。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

バンドウイルカは特に様々な化学物質ににより汚染されており、鯨族、魚類をあわせて最も水銀に汚染されています。厚生労働省では、妊婦が摂食できる許容量として、2ヶ月に1回、1回約80gまで、1週間当たり10g程度としています。

【人間による保護】

［人口］

60万人

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

* 最も人口が多いイルカとされ、低危険種、あるいはデータ不足とされています。しかし、多種多様な個体群の違い、沿岸・遠洋・地中海やカスピ海などの内海などの居住海域の違い、国や地域による研究の進展の違いなどによって、実際はどの程度の危機にあるかはわかっていません。ニュージーランドでは絶滅危惧種としている個体群もあります。

［ワシントン条約］

CITES付属書Ⅱ

第六項　カズハゴンドウ

第一目　概要

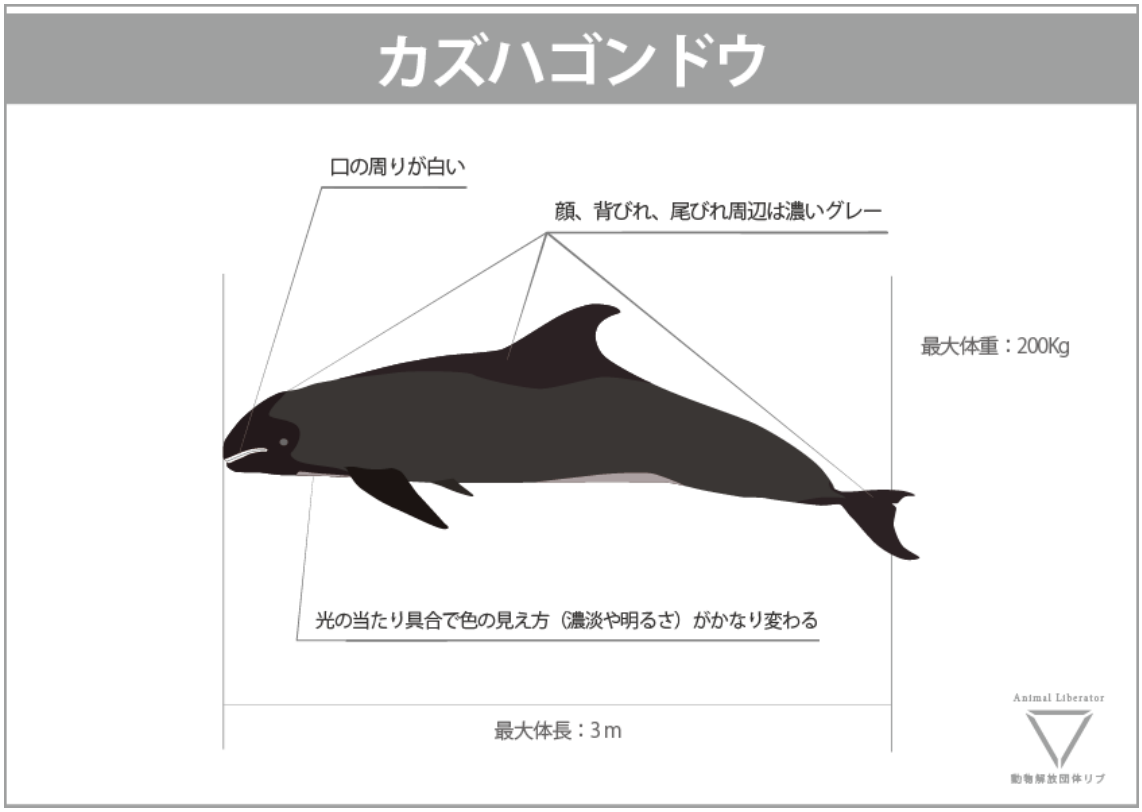
口の周りが白い。

［URL：自由に泳ぐカズハゴンドウ：https://youtu.be/6Bl9tl4vN2I］

東京都の御蔵島で撮影されたカズハゴンドウ。サワラクイルカと一緒に泳いでいるそうです。

口の白い部分を使って暗闇でイカを誘き寄せます。イカ釣り漁船が使う集魚灯のようです。

［図：カズハゴンドウ］



追い込まれた時にスパイホップすると、この特徴的な白いラインが見えるので、すぐにカズハゴンドウだとわかります。

［写真：太地町 影浦に追い込まれたカズハゴンドウ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - カズハゴンドウ属 - カズハゴンドウ

* カズハゴウドウ属はカズハゴンドウ一種で構成される。

名称

日本名　カズハゴンドウ（数歯巨頭）（”カズハ”は、歯の数が多いことに由来する）

英名　Melon-headed Whale（Electra dolphin, Little killer whale, Many-toothed blackfish）

学名　Peponocephala electra

第二目　身体

体長

300cm

体重

225kg

寿命

45年以上

食物

主にイカ。小魚、甲殻類

家族

母系の家族で暮らし、母から独り立ちした男性はポッド間を移動すると考えられています。100〜500名程度の大きいポッドで暮らします。1000〜2000人を超えるスーパーポッドを構成することもあります。

とても社交的で、サワラクイルカとよく一緒にいます。その他、ハシナガイルカ、シワハイルカ、マダライルカ、バンドウイルカ、コビレゴンドウなどと一緒にいます。

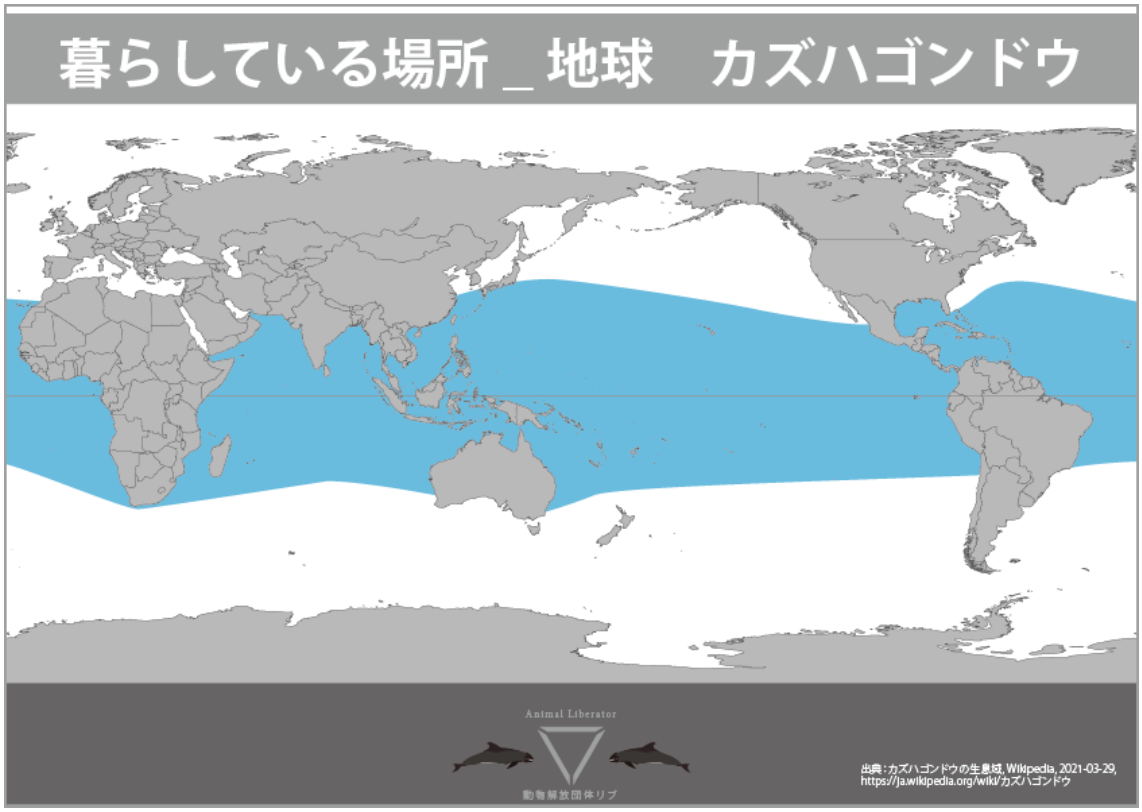
また、ポリネシアでバンドウイルカの女性が養子として育てていたのが、カズハゴンドウの赤ちゃんでした。

暮らしている場所

地球

世界中の海に暮らし、温かい海、熱帯〜亜熱帯の遠洋に住んでおり、あまり人の目には触れません。熱帯の島々では沿岸に住んでいることもあります。現在のところ、回遊は行わないと考えられています。

［MAP：暮らしている場所_地球　カズハゴンドウ］



日本

* 日本近海のカズハゴンドウの資料は見つかりませんでした。

【人間による被害】

［イルカ追い込み漁］

カズハゴンドウのイルカ追い込み漁が許可されているのは、和歌山県のみ。2017年漁期から捕獲対象とされ、殺害され始めました。人口や個体群、生息域など、まだまだ未知のカズハゴンドウ。にもかかわらず水産庁が捕獲対象種とした理由は、他のイルカ種の捕獲数が減っており、イルカ漁を存続させるため。あるいは、イルカ漁師、漁協、関係産業の強い働きかけ、圧力があったためなどが考えられます。真偽は不明ですが、いずれ人間の都合により、罪のないカズハゴンドウが殺害されることとなりました。

［URL：イルカ追い込み漁で捕らえられるカズハゴンドウ：https://youtu.be/EU2zAySVx3Y］

［イルカ突き棒漁］

カズハゴンドウのイルカ突き棒漁が許可されているのは、和歌山県・沖縄県。2017年漁期から捕獲はありません。

［水族館］

日本では少なくとも、3名のカズハゴンドウが水族館に監禁されています（2019 動物解放団体リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・太地町立くじらの博物館　不明・非公表（少なくとも3人）（和歌山県）（2018年カズハゴンドウの捕獲が許可され、すぐに監禁開始）

・森浦湾 くじらの海　不明・非公表（和歌山県）

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

不明

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書 II

第七項　ハナゴンドウ

第一目　概要

ハナゴンドウは、ものすごくいい人

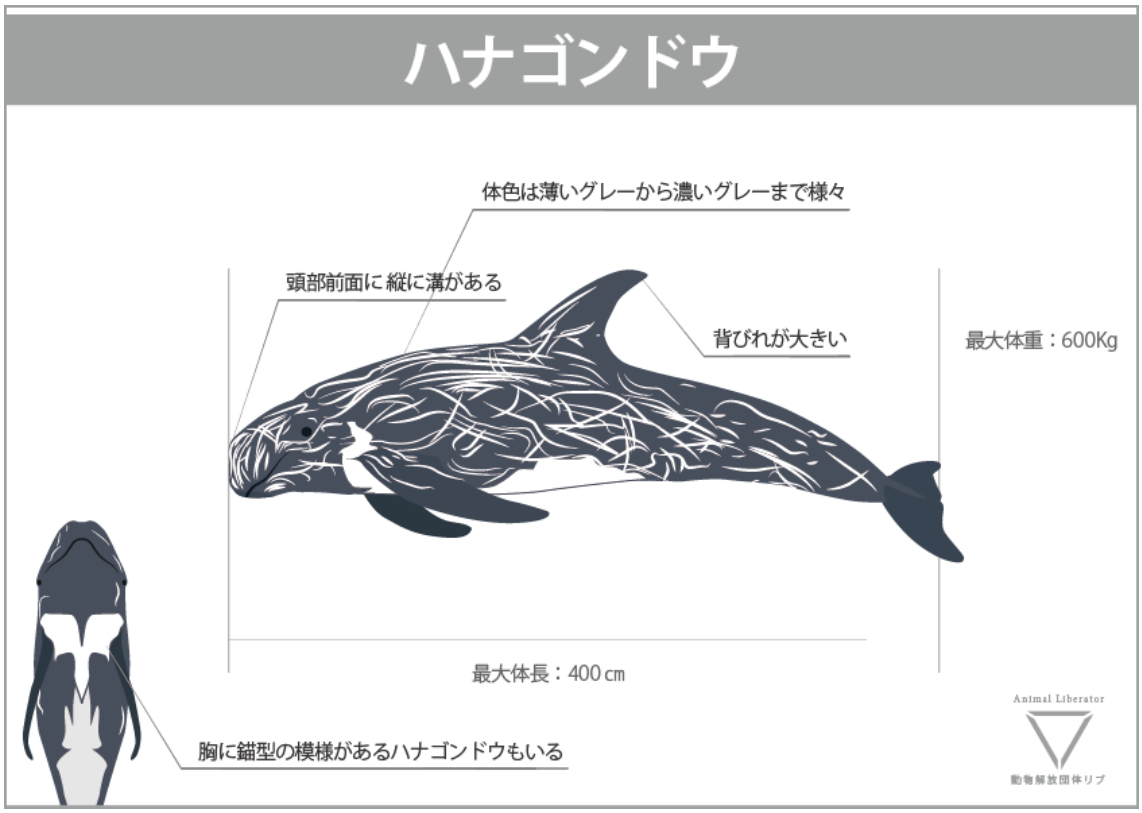
［URL：ジャンプするハナゴンドウ：https://youtu.be/EJCSp-lg0AQ］

［URL：ハナゴンドウのポッド、ドローンから：https://youtu.be/oUQTnLnA-EE］

イルカをあまり知らないとき、あるいは知り始めた頃は、いかにもイルカの形をしているバンドウイルカやスジイルカが好きになりがちです。しかし、イルカについて勉強し、また太地に行きイルカ漁を見たり、水族館で見たりしているうちに、ハナゴンドウの魅力に気がつきます。今では、ハナゴンドウが気になって仕方ありません。

最初に太地でイルカ漁を見たとき、追い込まれ殺害されたのがハナゴンドウでした。本書執筆の動機となった、私にとって大きな出来事の一つです。

［図：ハナゴンドウ］



身体中に見られる白い引っ掻き傷のような跡が花のように見えることからハナゴンドウ、別名マツバゴンドウは松葉に見えることから名付けられました。これは男性同士の闘争により歯などで傷ついたものです。

若い頃は濃いグレーで、胸の錨型の模様もはっきりしていますが、歳をとるにつれ白くなっていきます。

分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - ハナゴンドウ属 - ハナゴンドウ

* ハナゴンドウ属はハナゴンドウ一種で構成される。

名称

日本名　ハナゴンドウ（花巨頭、マツバイルカ、マツバゴンドウ、松葉巨頭）

英名　Risso’s Dolphin（Gray Dolphin）（*Rissoは、現フランスの博物学者アントワーヌ・リッソ（Antoine Risso、1777 - 1845）に因んで名付けられた）

学名　Grampus griseus

第二目　身体

体長

最大 400cm

体重

最大 600kg

寿命

35才以上

食物

イカがほとんど。魚類（カタクチイワシなど）、甲殻類（オキアミなど）、タコなど。

*水族館でトレーナーがイカをあげていたら、ほとんどの場合ハナゴンドウです。

［写真：森浦湾：イカを持つイルカトレーナー］



南知多ビーチランドには、ハナゴンドウとバンドウイルカの交雑種であるプリンが監禁されていますが、プリンはイカを食べていました。
ハナゴンドウは夜間採食します。イカ釣り漁船は夜間、集魚灯を点けて漁をしますが、ハナゴンドウが集まってくることがあります。

歯

特徴的な歯をしており、上顎に歯は無く、下顎に2〜6個ほどの小さい歯があります。
噛むことに適しておらず、イカなどは丸呑みしており、歯は闘争のために使われると考えられています。
［写真：ハナゴンドウの歯］



潜水能力

イルカ追い込み漁において捕獲が難しい種の一つであると考えられます。理由の一つは、最大600m、30分と深く長く潜ることができるため。イルカ漁師がバンガーによって作る音の壁の下の方から逃げることができます。もう一つの理由は、長い潜水の後どこに再浮上するか予想が立てにくく、発見が遅れるためです。

家族

10〜50名ほどのポッドで暮らします。「孤独なイルカ」やペアの場合もあります。稀に数千名が集まるスーパーポッドを形成します。

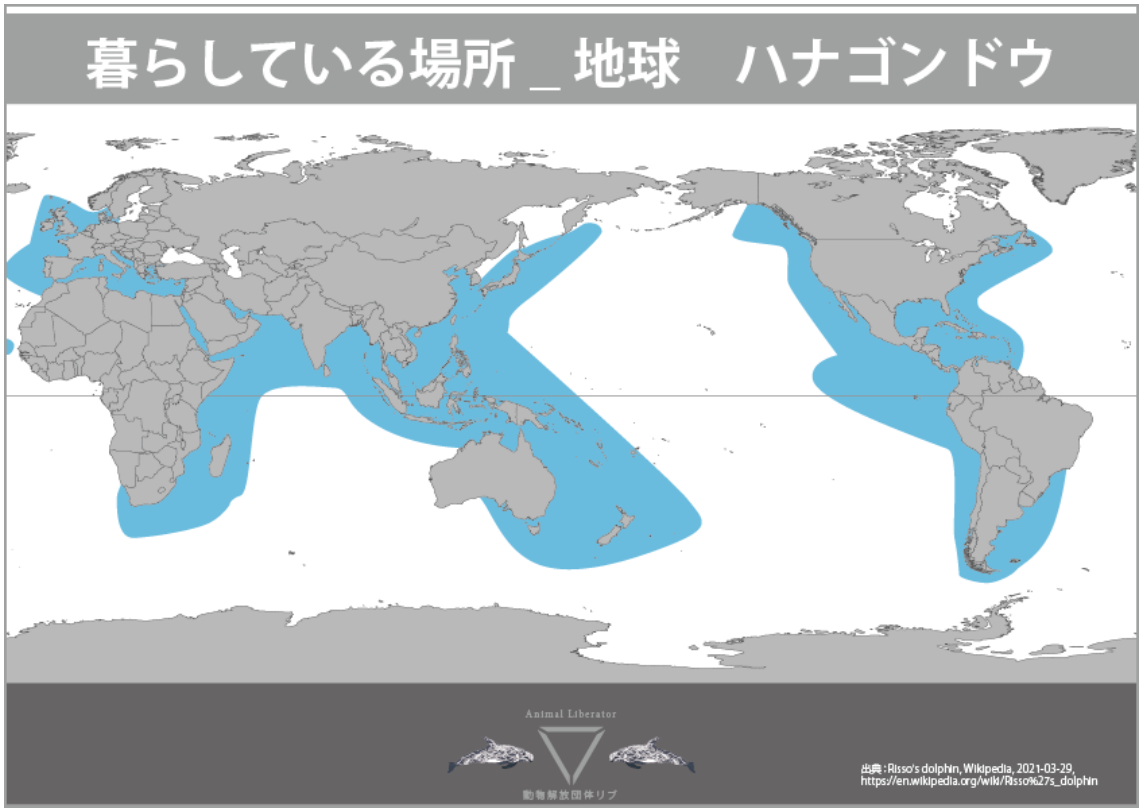
社交的で、カマイルカ、バンドウイルカ、セミイルカ、コククジラなど他の鯨族と過ごすこともあります。

暮らしている場所

地球

北緯64度〜南緯46度までの温帯〜熱帯、水深400〜1000mほどの大陸棚の周縁〜外洋に暮らしています。回遊に関してはほとんど知られていません。

［MAP：暮らしている場所_地球　ハナゴンドウ］



日本

* 日本近海のハナゴンドウの資料は見つかりませんでした。

【人間による被害】

［日本以外のイルカ漁］

スリランカ、インドネシア、ソロモン諸島、カリブ海小アンティル諸島

［小型捕鯨］

2010年、小型捕鯨（現基地式捕鯨）での殺害は中止されています。

［イルカ追い込み漁］

ハナゴンドウのイルカ追い込み漁が許可されているのは、和歌山県のみ。

和歌山県太地町で行われているイルカ追い込み漁で捕獲殺害されています。水族館から注文が入っていた場合は、捕獲。入っていない場合は殺害され、近隣のスーパーを中心に遺体が販売されます。

［URL：イルカ漁で捕獲殺害されたハナゴンドウ：https://youtu.be/CBevvy_yiRY］

［URL：漁港入り口でのハナゴンドウの殺害：https://youtu.be/nGbTD43PD_E］

［URL：バラバラにされるハナゴンドウの遺体：https://youtu.be/NHfcMHWydpc］

［イルカ突き棒漁］

ハナゴンドウのイルカ突き棒漁が許可されているのは、和歌山県のみです。

［水族館］

日本では少なくとも、16名のハナゴンドウが水族館に監禁されています（2019 動物解放団体リブ調べ）

監禁している水族館は以下。

・新江ノ島水族館　1名（神奈川県）
・ワールド牧場　2名（大阪府）
・淡路じゃのひれ ドルフィンファーム　1名（兵庫県）
・アドベンチャーワールド　3名（和歌山県）
・ドルフィンリゾート　1名（和歌山県）
・ドルフィン・ベェイス　1名（和歌山県）
・太地町立くじらの博物館　不明・非公表（和歌山県）
・森浦湾 くじらの海　不明・非公表（和歌山県）
・室戸ドルフィンセンター　2名（高知県）
・マリンワールド海の中道　2名（福岡県）
・うみたまご　2人（大分県）
・ルネッサンス リゾート　1名（沖縄県のホテル、OMRCが管理）

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

不明（アメリカ沿岸6万名、東太平洋17万5千名、西太平洋で8万5千名）

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書 II

第八項　オキゴンドウ

第一目　概要

オキゴンドウは、ときに優しく、ときに凶暴。

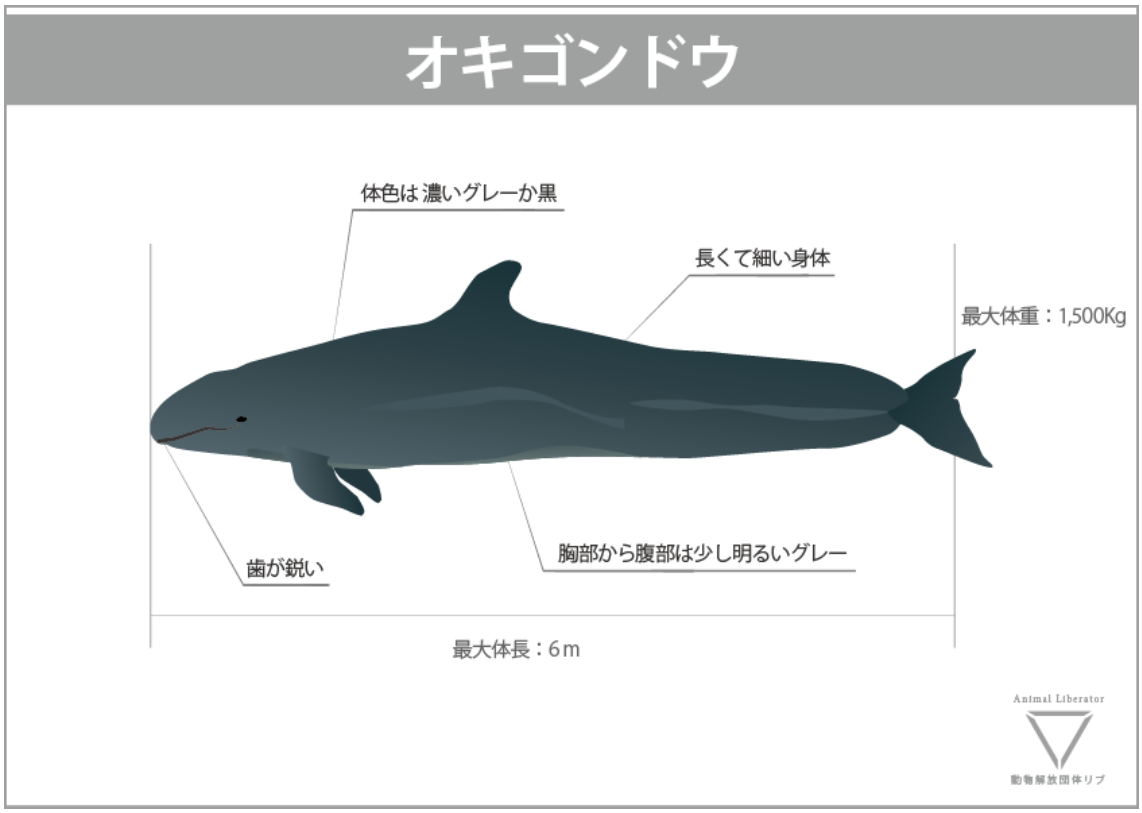
［URL：オキゴンドウ ハンドウイルカ　ミナミハンドウイルカの混群 御蔵島沖：https://youtu.be/2vfnTHf_438］

［URL：オキゴンドウのクローズアップ：https://youtu.be/aeth4NQ0ff0］

オキゴンドウには優しくて社交的な側面があります。カマイルカ、マダライルカ、シワハイルカ、バンドウイルカ、ユメゴンドウ、カズハゴンドウ、ハナゴンドウ、コビレゴンドウなどと過ごし、他の種のイルカが、食べられそうになるなど危機に陥っていると、救出しに行きます。
またバンドウイルカと性的関係を持つこともあります。オキゴンドウとバンドウイルカの交雑種は、ホルフィン（wholphin＝ whale + dolphin）と呼ばれ、ハワイの水族館に監禁されています。

一方、オキゴンドウには凶暴な側面があります。シャチと同様に他の鯨族を襲い、食べることがあります。ザトウクジラの子供やマッコウクジラなどヒゲクジラを襲ったり、さらには、他のオキゴンドウを襲い、食べた事例も記録されています。

［図：オキゴンドウ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - オキゴンドウ属 - オキゴンドウ

* オキゴンドウ属はオキゴンドウ一種で構成される。

名称

日本名　オキゴンドウ（沖巨頭、シャチモドキ、オオイヲクイ、キュウリゴンドウ）

英名　False Killer Whale

学名　Pseudorca crassidens

第二目　身体

体長

女性500㎝　男性600㎝

体重

女性1200 kg　男性2000kg

寿命

最長 女性63才　男性57才

食物

魚類（小魚、マグロ、サワラ、カジキ、シイラ等大型魚類。サメ）、頭足類（イカ）、鯨族

*他の鯨族は魚を丸呑みして食べますが、オキゴンドウとシャチのみは、肉を齧り取って食べます。延縄にかかったマグロを食べるため、漁師から嫌われています。

家族

10〜50名の母系のポッドで暮らしています。稀に500名以上が集まり、スーパーポッドを構成することもあります。他のゴンドウ系クジラと同様、家族との絆が強いと考えられ、しばしば大量座礁します。

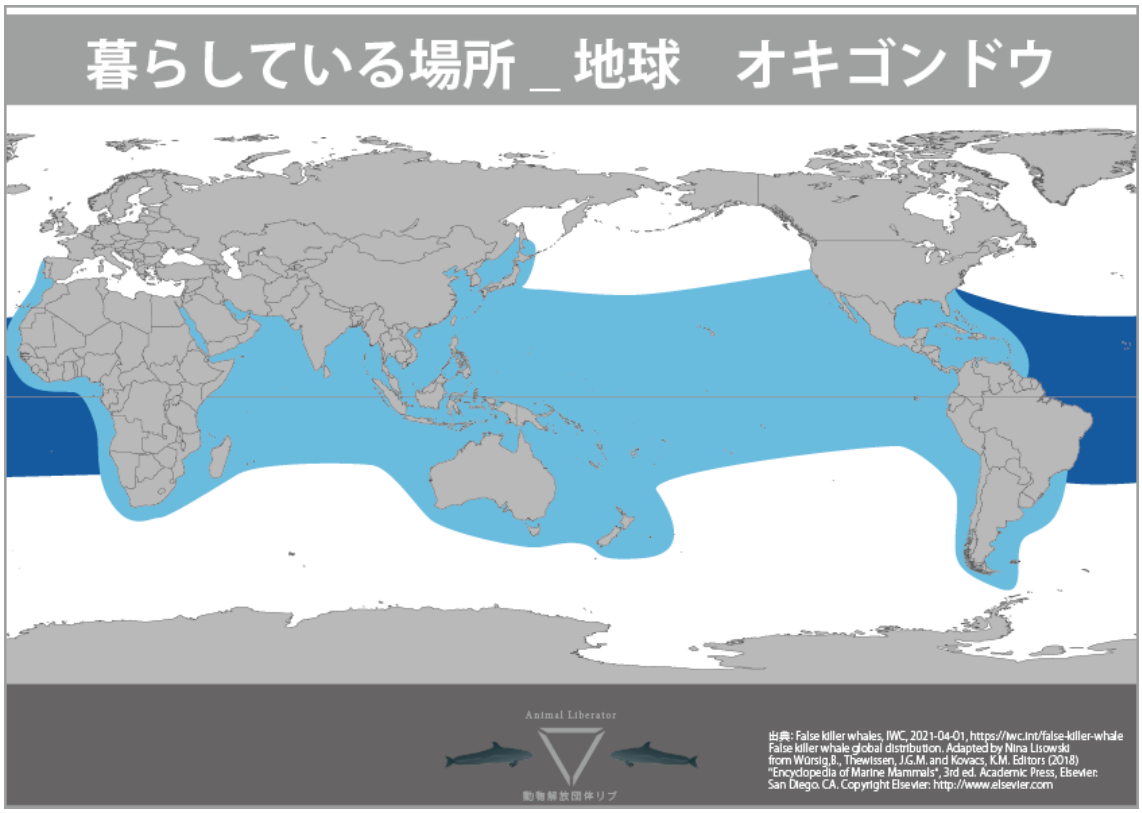
［URL：アルゼンチン 大量座礁の瞬間：https://youtu.be/fs-fNEjmm1c］

暮らしている場所

地球

北緯30度〜南緯30度の、温帯〜熱帯海域の、外洋に暮らしています。沿岸に見られることもあります。

［MAP：暮らしている場所_地球　オキゴンドウ］



日本

* 日本近海のオキゴンドウの資料は見つかりませんでした。

第四目　人間による被害と保護

【人間による被害】

［イルカ漁］

日本以外では、インドネシア、カリブ海西インド諸島で捕獲されています。

［基地式捕鯨］

1993～2023年の30年間で、2013年1名、2014年3名の計4名が捕獲されています。

［イルカ追い込み漁］

オキゴンドウのイルカ追い込み漁が許可されているのは、和歌山県のみ。2011年の17名以降捕獲されていません。

［イルカ突き棒漁］

オキゴンドウのイルカ突き棒漁が許可されているのは、和歌山県・沖縄県。2019年、沖縄県で1名が捕獲されています。

［害獣駆除］

1965年～1980年にかけて長崎県壱岐で900名のオキゴンドウが、漁師により殺害されました。オキゴンドウ以外にも大量のバンドウイルカやハナゴンドウが殺されました。元々、イルカたちがこの海域にいるブリを食べていたですが、後から入ってきた漁師たちが利益を削がれるからと、イルカたちを害獣扱いし殺戮しました。同様の理由で台湾やセントビンセントでも殺害されています。

［水族館］

日本では2019年時点で少なくとも、16名のオキゴンドウが水族館に監禁されていました（2019年リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・アクアワールド大洗　1名（茨城県）
・マクセル アクアパーク品川　1名（東京都）
・横浜 八景島シーパラダイス　2名（神奈川県）
・アドベンチャーワールド　3名（和歌山県）
・太地町立くじらの博物館　不明・非公表（和歌山県）
・森浦湾 くじらの海　不明・非公表（和歌山県）
・沖縄美ら海水族館　9名（沖縄県）

横浜 八景島シーパラダイスに監禁されていたオキゴンドウのリティは、体が折れ曲がってしまいました。2021年2月11日に撮影した映像です。

［URL：折れ曲がったオキゴンドウ”リティ”：https://youtu.be/Y8eDyJ4l3pE］

シーパラダイスは、リティのプールを高い即席の壁で囲み、観客の目に入らないように隠していました。そしてこの1ヶ月後の3月10日、リティは亡くなっています。

美ら海水族館のオキゴンドウは、プールの外に自ら落ちました。このオキゴンドウは複数回、自ら外に出たようです。鯨族は自殺することができるとも考えられています。このオキゴンドウも自殺を試みたのかもしれません。
［URL：美ら海水族館のオキゴンドウ：https://youtu.be/pAHSMCsUfrE］
こちらの映像は続きです。救出としていますが、正しくは再監禁です。
［URL：救出作業：https://youtu.be/rHXa9eABgp4］

なお、水族館によるオキゴンドウの最長監禁記録は36年。下田海中水族館（静岡県）による、オキゴンドウの女性ジャンボの監禁です。

［間接的被害］
［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】
［人口］
不明
*東太平洋 数万名、日本海東シナ海周辺 約16,000名、ハワイ周辺の人口は減少。
［IUCNレッドリスト］
絶滅危惧種 - 危急（NT：Near Threatened）
*NOAA（アメリカ海洋大気庁 - Wikipedia）が、ハワイ州の個体群（約150名）を絶滅危惧に指定しています。これはハワイの延縄漁業との競合により重傷を負い、または死亡したことが原因と考えられています。
［ワシントン条約］
CITES付属書 II

第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）

第一目　概要

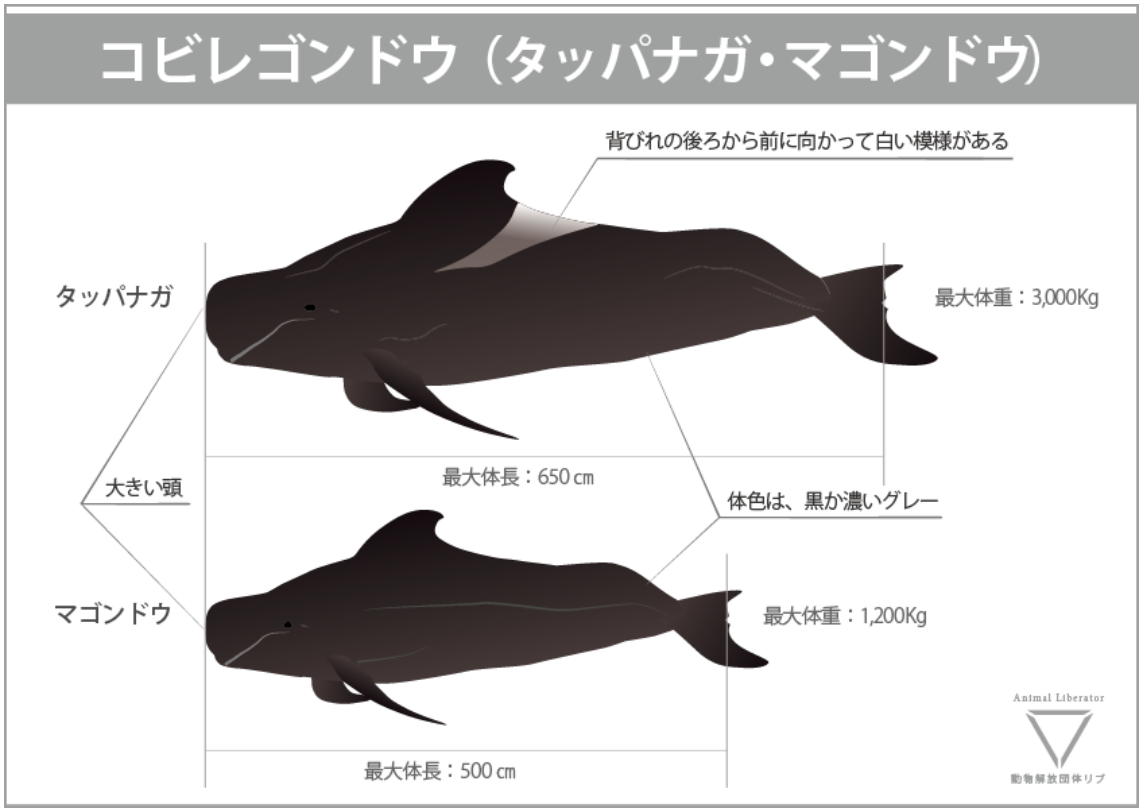
コビレゴンドウは利他的、高度な文化を持つ。

［URL：Pilot Whales and Oceanic Whitetip Sharks：https://youtu.be/xTmdlRvp5kQ］

［URL：Pilot Whale Sounds：https://youtu.be/VI2VqZYsW_k］

コビレゴンドウは、亜種であるタッパナガとマゴンドウに分けられます。タッパナガは北に住み体が大きく、マゴンドウは南に住み小さい体をしています。

［図：コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - ゴンドウクジラ属 - コビレゴンドウ

*ゴンドウ属：2種、コビレゴンドウ、ヒレナガゴンドウに分けられる。コビレゴンドウは暖かい海域、ヒレナガゴンドウは冷たい海域に暮らす。

*コビレゴンドウ：2亜種、タッパナガとマゴンドウに分けられる。

*ヒレナガゴンドウ：3亜種、ミナミヒレナガゴンドウ(Southern long-finned pilot whale)、キタタイセイヨウヒレナガゴンドウ(North Atlantic long-finned pilot whale)、キタタイヘイヨウヒレナガゴンドウ(North Pacific long-finned pilot whale)に分けられる。北太平ヨウヒレナガゴンドウはすでに絶滅。

名称

日本名　コビレゴンドウ

英名　Short-finned Pilot Whale（Pothead Whale、Black Fish）（Pilot(パイロット)は、ポッドを率いるリーダーがいるという理論によって名付けられました。

学名　Globicephala Macrorhynchus

亜種

日本名　タッパナガ

英名　Shiho type

日本名　マゴンドウ

英名　Naisa type

第二目　身体

体長

タッパナガ　男性6.5m

マゴンドウ　男性5m

体重

タッパナガ　男性3t

マゴンドウ　男性1.2t

*北に住むタッパナガが体が大きい理由は、ベルクマンの法則で説明されます。ベルグマンの法則とは、寒冷地に住む動物ほど体が大きくなるという法則です。これは寒さに耐えるため、体を大きくし（表面積に対しての体重の割合を増やす）、体温を保持する必要があるからです。人間でも、寒い地域に住む民族の方が体が大きくなります。

寿命

女性60才　男性45才

食物

イカがほとんど。タコ、魚類。

特徴

生殖を終えても生き続ける

女性は、閉経後も、若い女性の子育てを手助けしたり、子供の面倒を見るために30年ほども生きます。動物には生殖を終えると死ぬ動物と、生殖を終えても生き続ける動物がいます。例えばスジイルカは前者、人間は後者です。生物学的に生殖を終えた個体は不要ですので、多くの動物は生殖を終えたら死にます。生き残る理由は、ポッドを率い若いお母さんや子供の面倒をみるためと考えられています。女性ばかりでなく、男性のコビレゴンドウも子

育てを手伝います。

生殖を伴わない性行為を行う

人間やボノボ、セミクジラと同様で、進化の進んだ動物の行為とされています。

家族

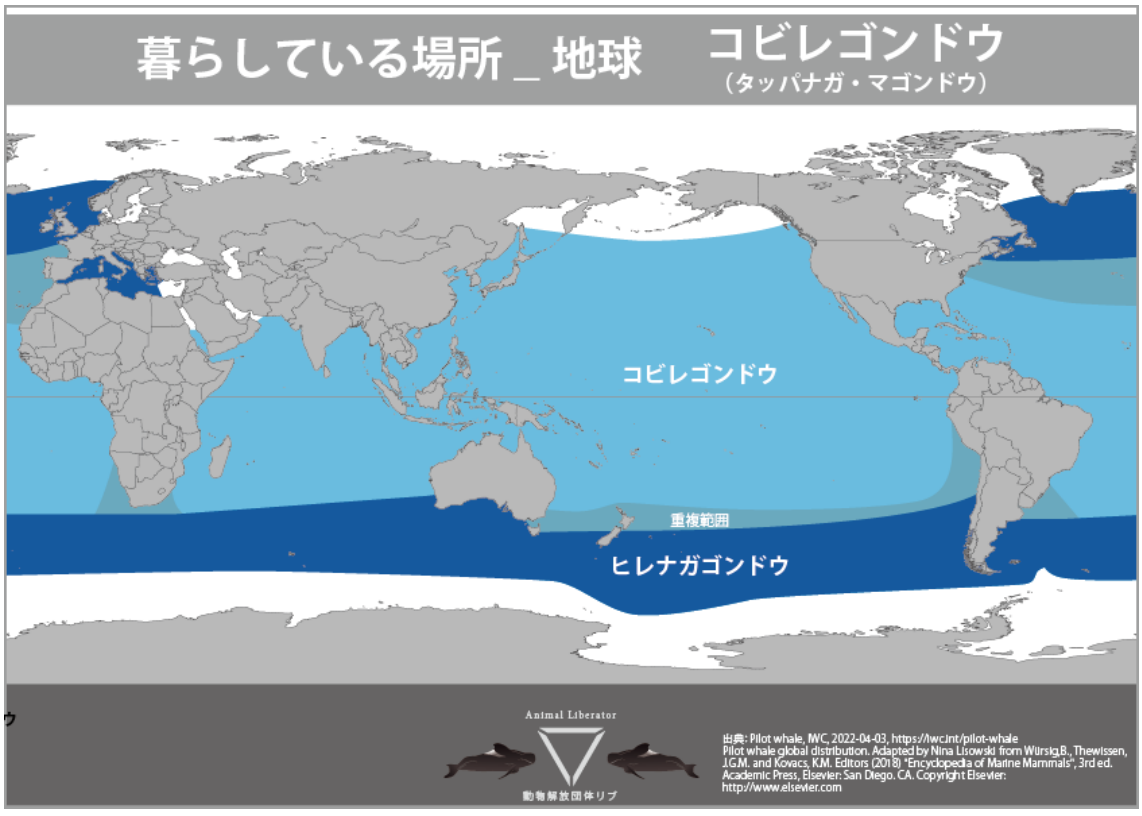
15〜50名のポッドで暮らし、稀に数百名のスーパーポッドを作ります。母親を中心とする母系家族です。一夫多妻制で、男性は複数のポッドが集まったときに自分のポッドを離れ、生殖し、戻ってくると考えられています。家族の絆が強く集団座礁してしまいます。
また、社交的で、カマイルカやバンドウイルカなど他種のイルカとと混合ポッドを作ります。

暮らしている場所

地球

熱帯〜温帯の海域の、主に大陸棚周辺に暮らしますが、外洋にも姿を現します。回遊するタイプ、定住するタイプがいるようです。

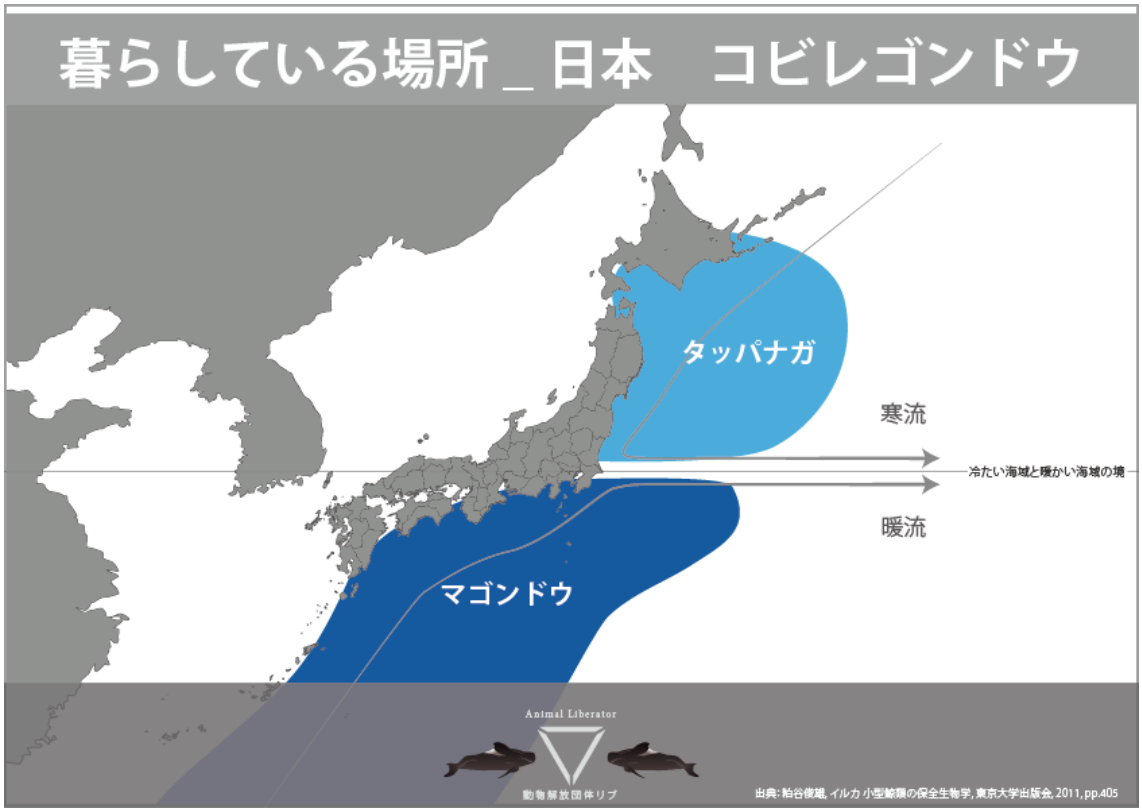
［MAP：暮らしている場所_地球　コビレゴンドウ（マゴンドウ／タッパナガ）］



日本

本章の最初に記述した「海水温と海流の理解」で、寒流と暖流の境目から北はタッパナガ、南はマゴンドウが暮らしています。

［MAP：暮らしている場所_日本　コビレゴンドウ（マゴンドウ／タッパナガ）］



【人間による被害】

［基地式捕鯨］

コビレゴンドウ（タッパナガ）の基地式捕鯨が許可されているのは、宮城県のみ。

コビレゴンドウ（マゴンドウ）の基地式捕鯨が許可されているのは、千葉県、和歌山県。

［イルカ追い込み漁］

コビレゴンドウ（マゴンドウ）のイルカ追い込み漁が許可されているのは、和歌山県のみ。

集団座礁するほど絆が強いコビレゴンドウは、ポッド全体で同じ行動を取るため、イルカ追い込み漁の格好の標的です。太地町で、水族館のための現代イルカ追い込み漁が始まった時、最初に追い込まれ捕獲されたのがコビレゴンドウでした。

日本では昔からコビレゴンドウを殺害し、食べていました。太地の方に聞いたところ、獣臭いらしく、好き嫌いが分かれるとのことでした。

［イルカ突き棒漁］

コビレゴンドウ（マゴンドウ）のイルカ突き棒漁が許可されているのは、沖縄県のみ。

［その他地域の漁］

コビレゴンドウは、カリブ海小アンティル諸島（セントビンセントおよびグレナディーン諸島、セントルシア）、インドネシア、フィリピンで狩猟されています。

ヒレナガゴンドウも追い込み漁のターゲットにされており、有名なフェロー諸島で殺害されているのはヒレナガゴンドウです。その他グリーンランドで狩猟されています。かつては、ノルウェー、スコットランド、アイルランド、アイスランド、カナダ・ニューファンドランド、アメリカ・ケープコッド、南米・フォークランド諸島で、追い込み漁が行われていました。

［水族館］

日本では少なくとも、1名のコビレゴンドウが水族館に監禁されています（2019年 リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・マリンワールド海の中道　1名（福岡県）

・太地町立くじらの博物館　不明・非公表（和歌山県）

・森浦湾 くじらの海　不明・非公表（和歌山県）

*新江ノ島水族館で監禁されていたマゴンドウ、横浜・八景島シーパラダイスに監禁されていたタッパナガ「シズカ」（2018年12月1日没）は、いずれも亡くなりました。

［URL：シズカ（横浜・八景島シーパラダイス）：https://youtu.be/eRZay727dww］

［URL：ユキ（海の中道に19年間監禁）：https://youtu.be/iGknCR1z3_o］

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

特に水銀に汚染されています。厚生労働省では、妊婦が摂食できる許容量として、1回約80gを2週間に1回まで、1週間当たり40g程度としています。

【人間による保護】

［人口］

70万人

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書Ⅱ

第五節　その他 日本の水族館に監禁されている鯨族

日本のイルカ漁の捕獲対象種以外の鯨族のうち、日本の水族館に監禁されているイルカについてまとめます。体長順に、①スナメリ ②イロワケイルカ ③ネズミイルカ ④ユメゴンドウ ⑤ハセイルカ ⑥ミナミハンドウイルカ ⑦ベルーガ 、そして⑧交雑種を取り上げます。シャチは第六節で扱います。

第一項　スナメリ

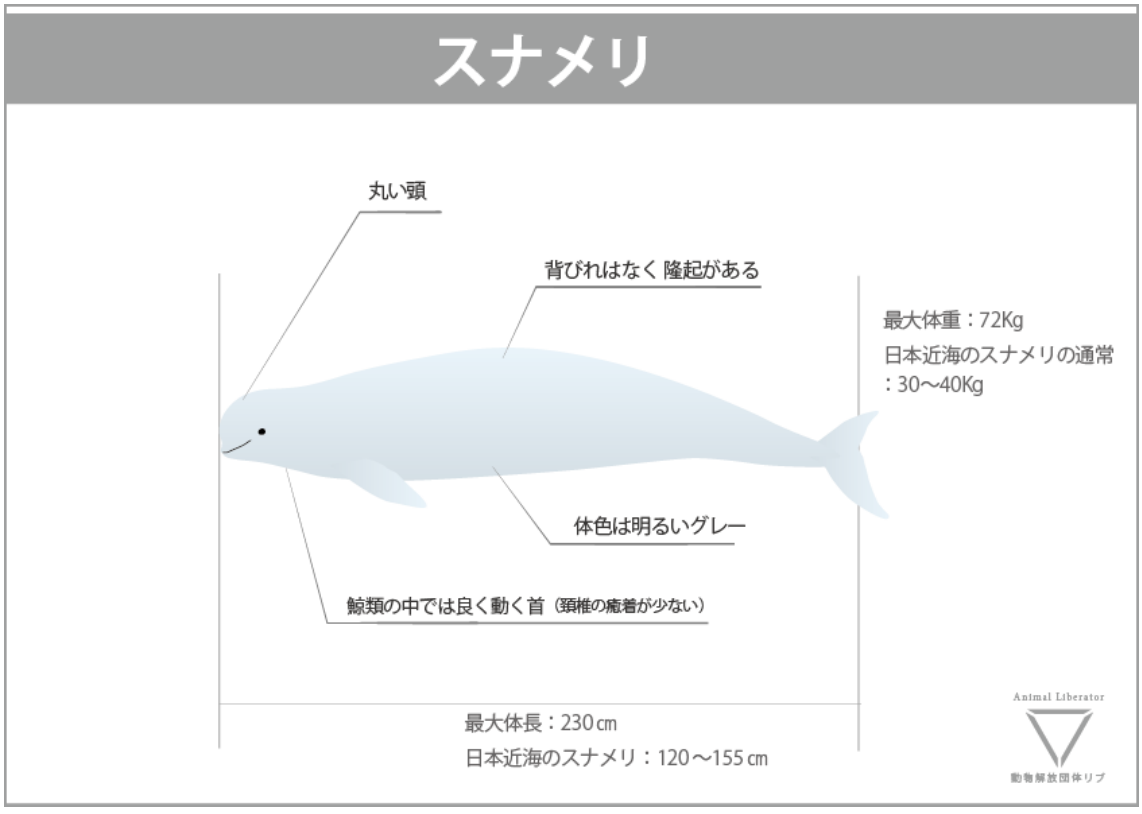
第一目　概要

スナメリは小さくて、愛らしい顔。

［URL：自由に泳ぐスナメリ：https://youtu.be/ZDq3X1Z75ro］

絶滅危惧種のVUであり、保全が必要です。スナメリが減っていったのは、高度成長期時代、海岸線の開発や船舶の増加、化学物質の流入や海水汚染などが原因です。環境省は、「瀬戸内海の環境シンボル」としてスナメリを取り上げ、瀬戸内海良化に取り組んでいます。広島県の阿波島周辺の海は『スナメリクジラ回遊海面』とされ、天然記念物指定されていまが、これは、漁師がスナメリが魚を捕まえているのを目印にした伝統漁法を保護するためのもので、スナメリ自身を保護するものではありません。

［図：スナメリ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - ネズミイルカ科 - スナメリ属 - スナメリ

*スナメリは3亜種に分かれます。

N. phocaenoides ssp. sunameri
東アジア ネズミイルカ：East Asian finless porpoise

日本の東海岸から、台湾、黄海の北までに暮らしています。

N. phocaenoides ssp. phocaenoides
インド太平洋 ネズミイルカ：Indo-Pacific finless porpoise

台湾海峡から、ペルシャ湾までに暮らしています。

N. phocaenoides ssp. asiaeorientalis
長江(ヤンツェ) ネズミイルカ：Yangtze finless porpoise

中国の長江に住んでいます。淡水に住むイルカで、長江には他にヨウスコウカワイルカも住んでいます。

名称

日本名　スナメリ（砂滑、スザメ、スンコザメ、ゼゴ、ゼゴンドウ、ナメクジラ、ナミソ、デゴンドウ、デングイ、ナミノウ、ナミウオ、ボウズウオ）

英名　Finless porpoise

学名　Neophocaena phocaenoides

第二目　身体

体長

最大　230㎝

日本近海のスナメリ　120～155㎝

体重

最大　72kg

日本近海のスナメリの通常　30～45kg

寿命

日本近海のスナメリ　20～35才

食物

魚類、頭足類、甲殻類

家族

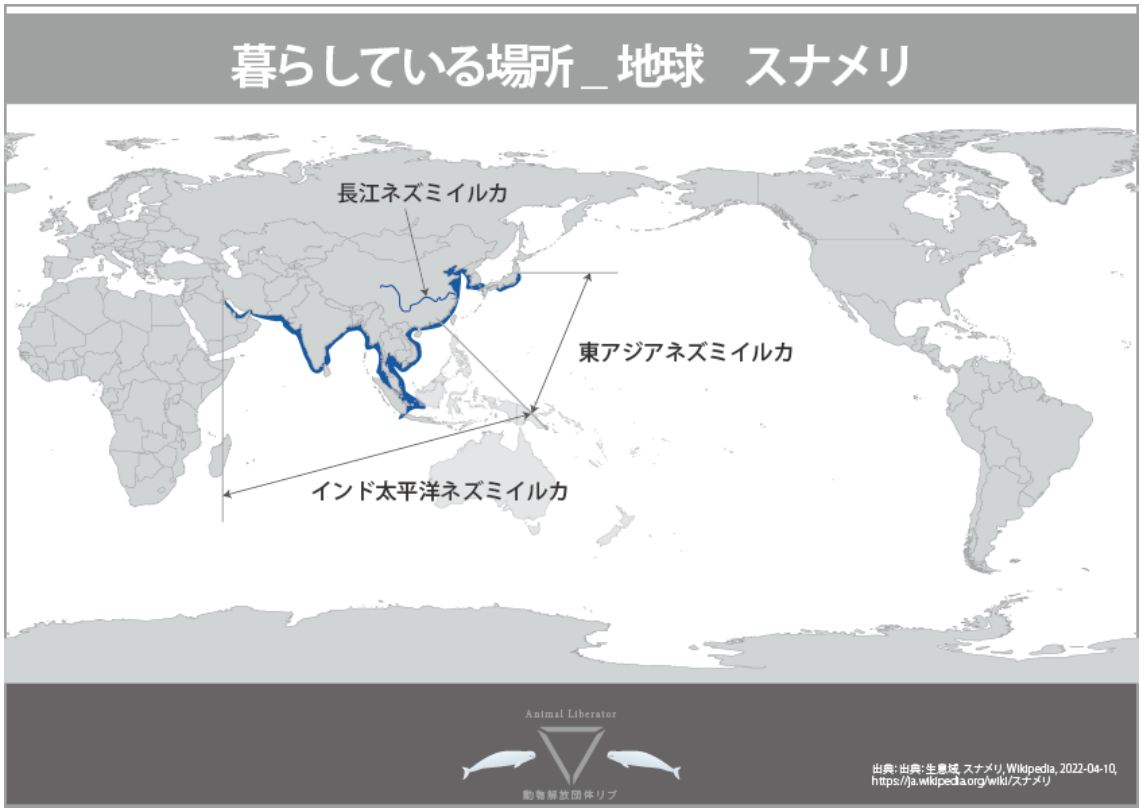
単独で暮らしているスナメリが50%、残りはペアか、大きいポッドでも13名以下で暮らしています。

暮らしている場所

地球

沿岸の水深50m以内の浅い海に暮らしています。砂地や河口を好むようです。

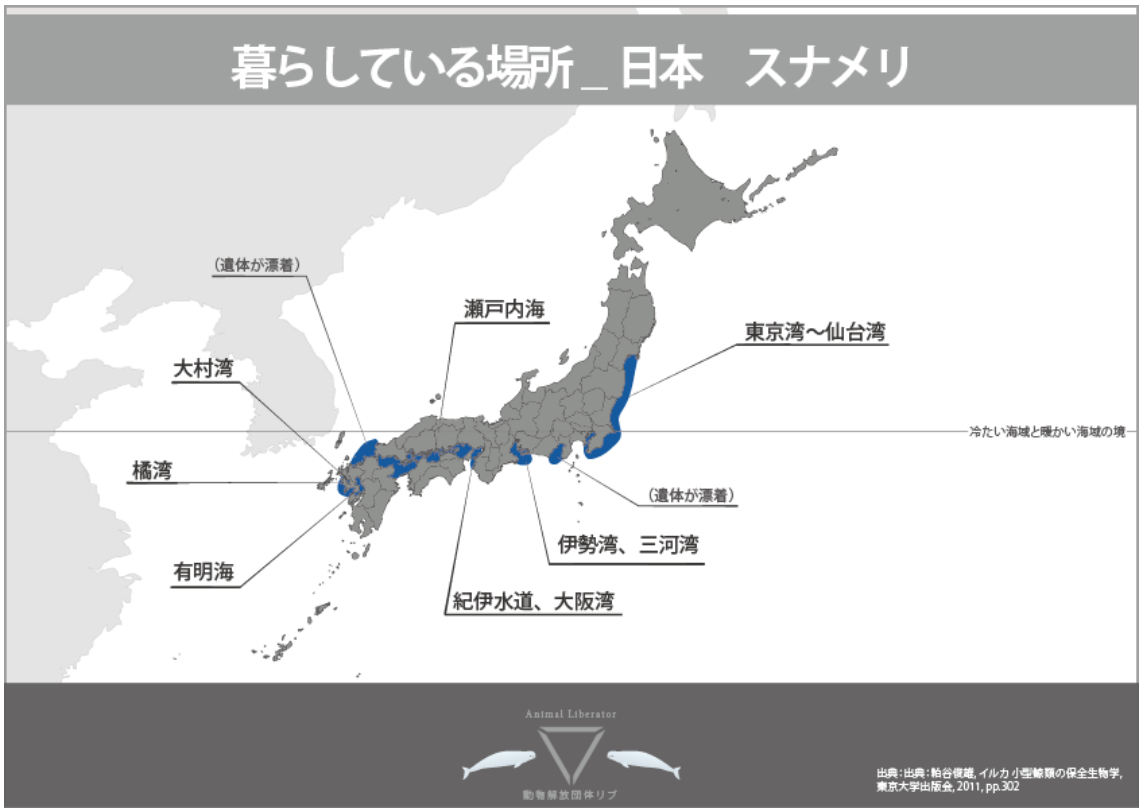
［MAP：暮らしている場所_地球　スナメリ］



日本

仙台から南、九州までの各地に住んでいます。それぞれの個体群の一部は、別の個体群に合流する可能性が指摘されています。

［MAP：暮らしている場所_日本　スナメリ］



【人間による被害】

［混獲］

定置網やトロールで混獲されます。韓国で行われている、混獲と称した意図的な捕鯨によりスナメリが殺害され食べられています。

［水族館］

日本では少なくとも、23名のスナメリが水族館に監禁されています（2019年リブ調べ）

・仙台うみの杜水族館　1名（宮城県）

・南知多ビーチランド　1名（愛媛県）

・鳥羽水族館　9名（三重県）

・宮島水族館 みやじマリン　4名（広島県）

・海響館 下関市立しものせき水族館　4名（山口県）

・マリンワールド海の中道　4名（福岡県）

［写真：南知多ビーチランドに監禁されていた、痩せ細り、傷ついたスナメリ］

しばらく後にこのスナメリは亡くなりました。



［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

不明（*減っているとされる）

［IUCNレッドリスト］

東アジア ネズミイルカ　危急（VU：Vulnerable)

長江ネズミイルカ　絶滅危機（EN：Endangered）

［環境省レッドリスト］

東アジア ネズミイルカ（日本にもいるスナメリ）：絶滅危惧II類

長江ネズミイルカ　絶滅危惧IB類

［水産資源保護法施行規則］

日本で保護されている3種のクジラの1種（他、ホッキョククジラ・シロナガスクジラ）

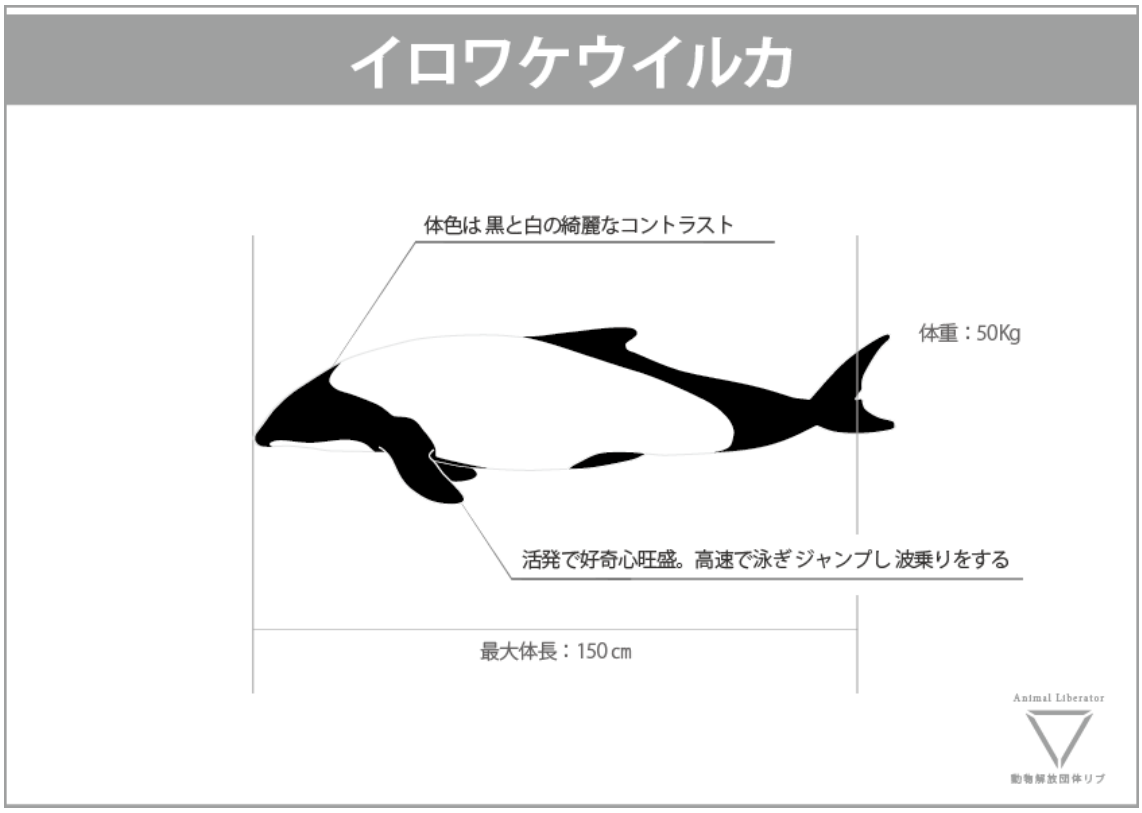
［ワシントン条約］

CITES付属書Ⅰ

第二項　イロワケイルカ

第一目　概要

［図：イロワケイルカ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - イロワケイルカ属 - イロワケイルカ

名称

日本名　イロワケイルカ（セッパリイルカ、パンダイルカ）

英名　Commerson's Dolphin

学名　Cephalorhynchus commersonii

第二目　身体

体長　150㎝

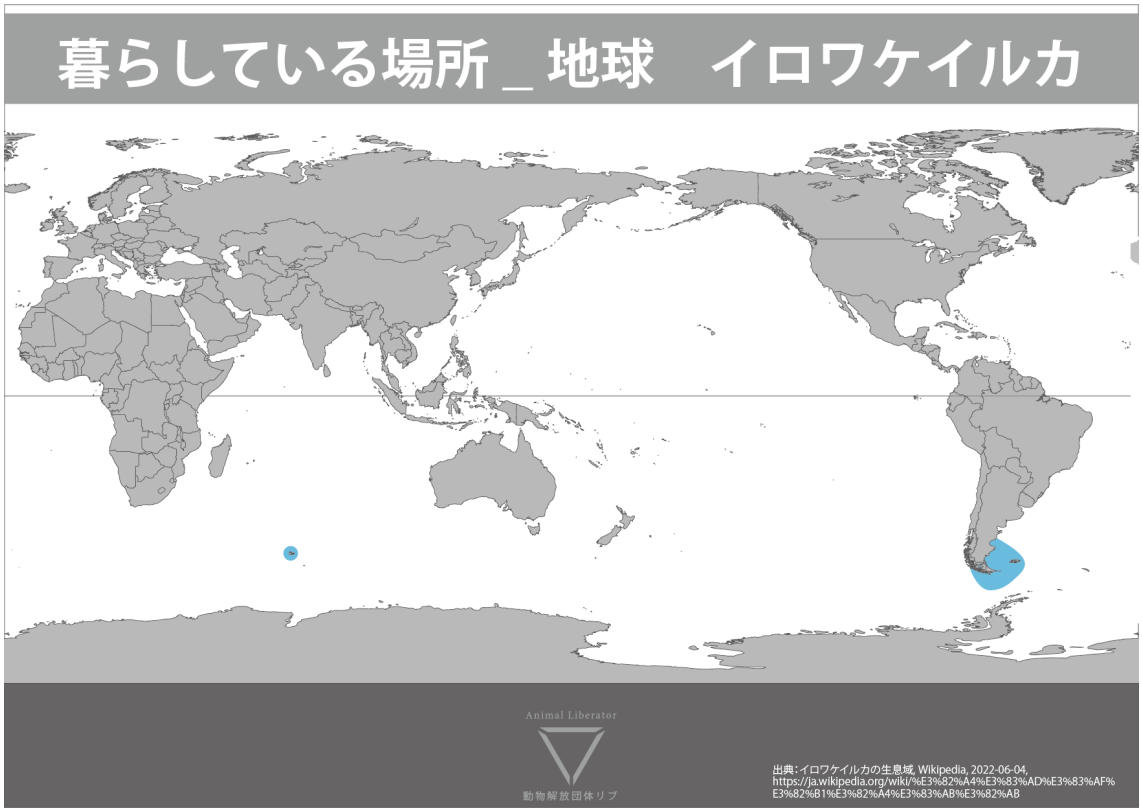
体重　50kg

寿命　18才

第三目　社会生活

暮らしている場所

［MAP：暮らしている場所_地球　イロワケイルカ］



第四目　人間による被害と保護

［人間による被害］

日本では少なくとも、5名のイロワケイルカが水族館に監禁されています（2019 リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・仙台うみの杜水族館　1名（宮城県）
　セーラ

・鳥羽水族館(三重県)　4名
　ララ、ベラ、カイ、ライト

ブログ「ｻｸのｱﾆﾏﾙﾌﾘｰｸ～元飼育係の動物園･水族館紀行」「捕獲作戦その① https://ameblo.jp/orcabeluga/entry-12002167592.html」「捕獲作戦その② https://ameblo.jp/orcabeluga/entry-12002905305.html」によると、イロワケイルカは、1986年、サンシャイン水族館、マリンピア松島水族館、鳥羽水族館の三館が合同でチリ沖から捕獲してきたそうです。このとき17名のイロワケイルカが自然から引き離され、日本に空輸され上記の三水族館に監禁されました。以降、イロワケイルカの輸入は行っていません。17名に繁殖を繰り返させ、30名以上を産ませ、現在は合計5名にまで減っています。1986年に捕獲されたイロワ

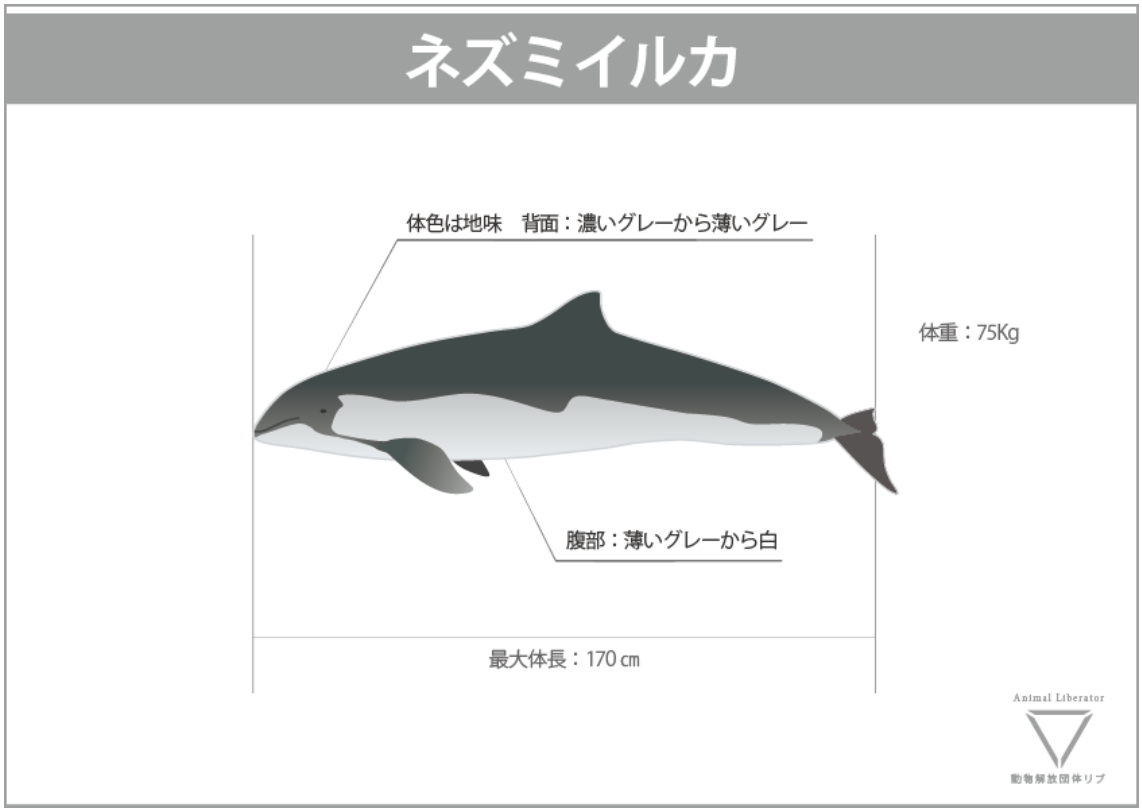
ケイルカで最後まで生きていたのは、マリンピア松島水族館のクルス。2011年死亡。25年もの監禁生活でした。
過去にイロワケイルカを監禁したことがある水族館は以下。
マリンピア松島水族館、サンシャイン水族館、横浜・八景島シーパラダイス、アドベンチャーワールド、海遊館、のとじま臨海公園水族館

［人間による保護］
［人口］
不明
［IUCNレッドリスト］
低危険種（LC：Least Concern）
［ワシントン条約］
CITES付属書II

第三項　ネズミイルカ

第一目　概要

［図：ネズミイルカ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - ネズミイルカ科 - ネズミイルカ属 - ネズミイルカ

名称

日本名　ネズミイルカ

英名　Harbour Porpoise

学名　Phocoena phocoena

第二目　身体

体長　女性170㎝　男性160㎝

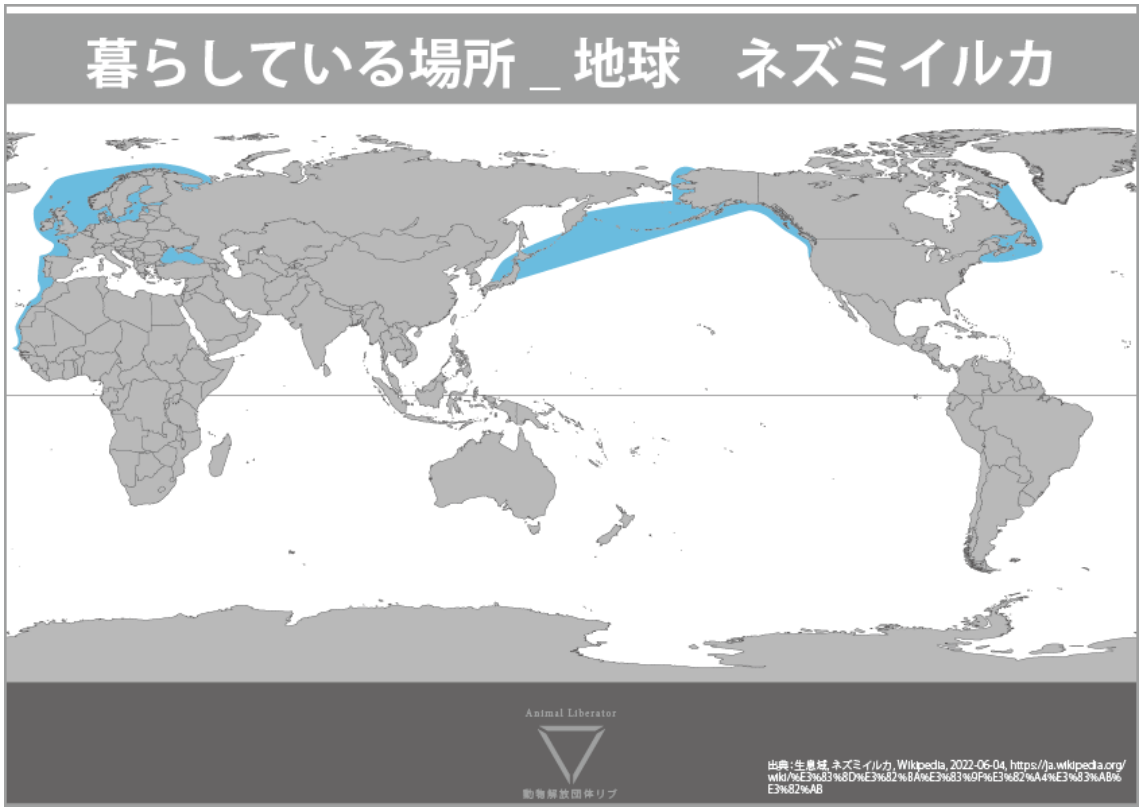
体重　女性60kg　男性75kg

寿命　20才

第三目　社会生活

暮らしている場所

［MAP：暮らしている場所_地球　ネズミイルカ］



第四目　人間による被害と保護

［人間による被害］

日本では少なくとも、5名のネズミイルカが水族館に監禁されています（2019年リブ調べ）

監禁している水族館は以下。

・おたる水族館(北海道)　4名

　アツコ、マナ、シュン、テッペイ

・鴨川シーワールド(千葉県)　1名

　ポラリ

［人間による保護］

［人口］

70万名

［IUCNレッドリスト］

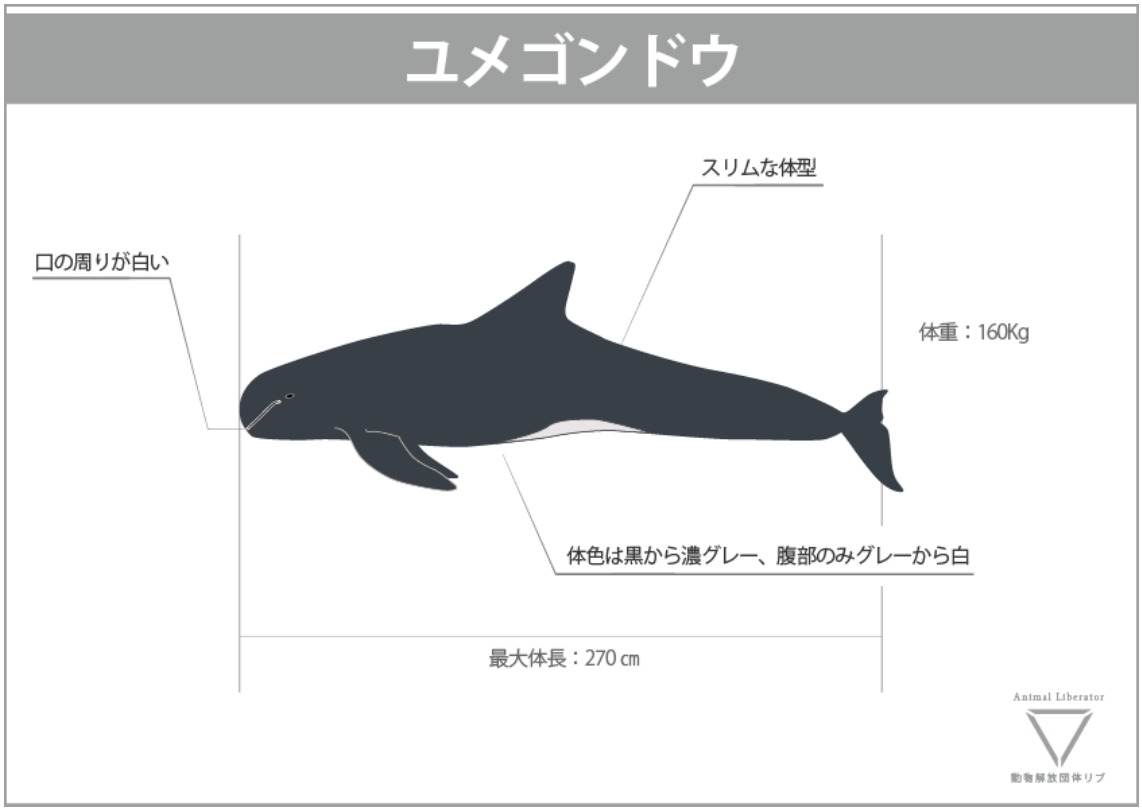
低危険種（LC：Least Concern）

バルト海、西アフリカ個体群は、危急種（VU：Vulnerable）

第四項　ユメゴンドウ

第一目　概要

［図：ユメゴンドウ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - ユメゴンドウ属 - ユメゴンドウ

名称

日本名　ユメゴンドウ（夢巨頭）

英名　Pygmy Killer Whale

学名　Feresa attenuata

第二目　身体

体長　250-270㎝

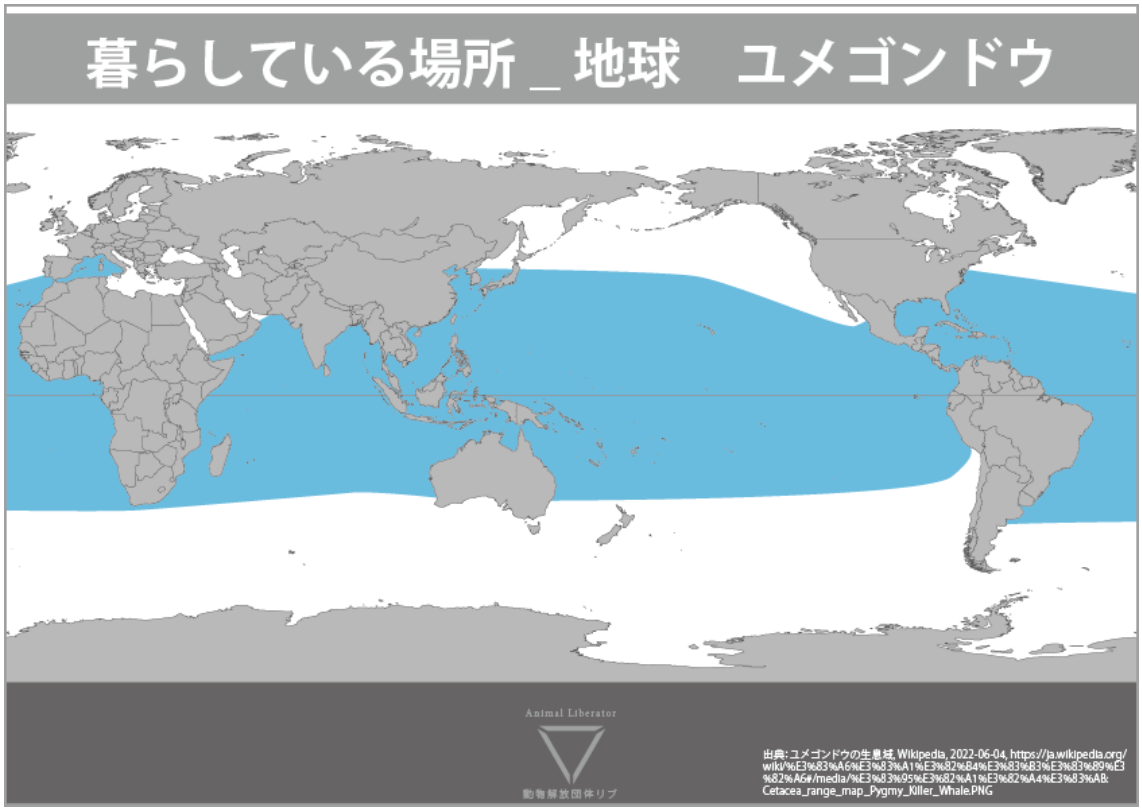
体重　160kg

寿命　不明

第三目　社会生活

暮らしている場所

［MAP：暮らしている場所_地球　ユメゴンドウ］



第四目　人間による被害と保護

［人間による被害］

日本では少なくとも、1名のユメゴンドウが水族館に監禁されています（2019年リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・沖縄ちゅら海水族館(沖縄県)　1名

ムー

［人間による保護］

［人口］

不明

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

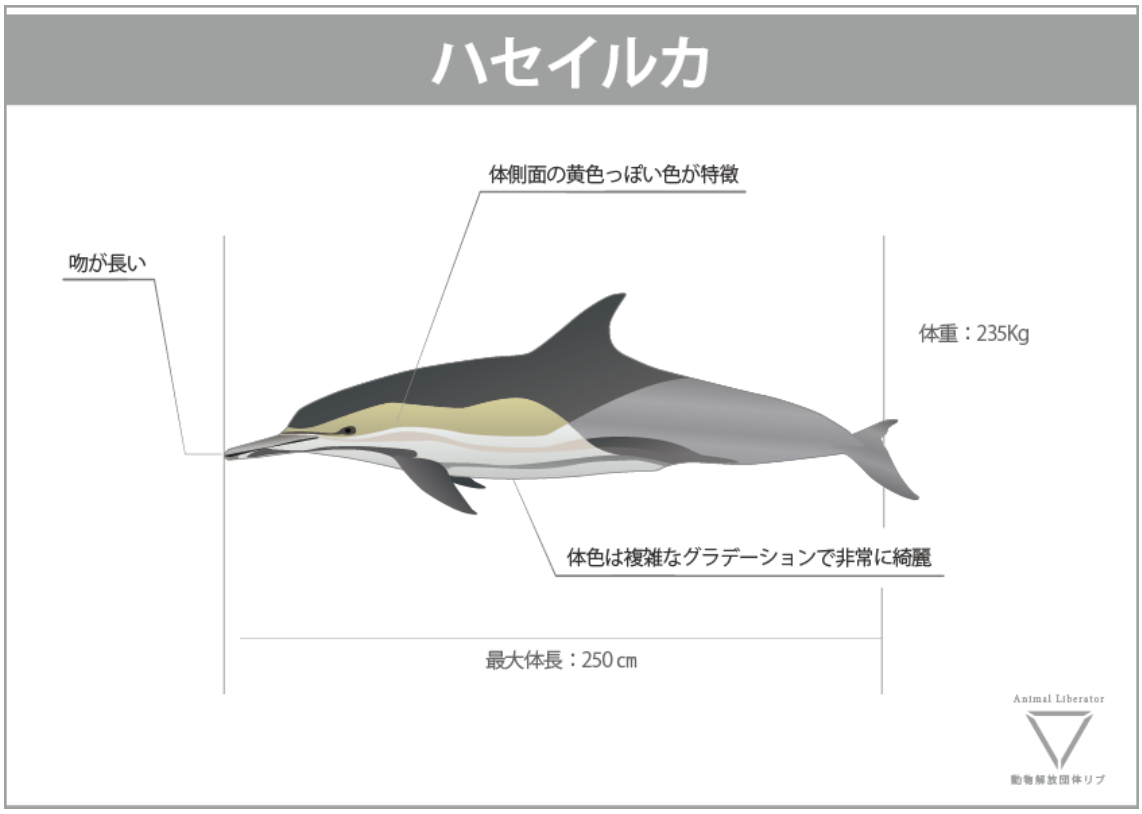
［ワシントン条約］

CITES付属書II

第五項　ハセイルカ

第一目　概要

［図：ハセイルカ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - マイルカ属 - ハセイルカ

名称

日本名　ハセイルカ

英名　Long-beaked dolphin

学名　Delphinus capensis

第二目　身体

体長　190～250㎝

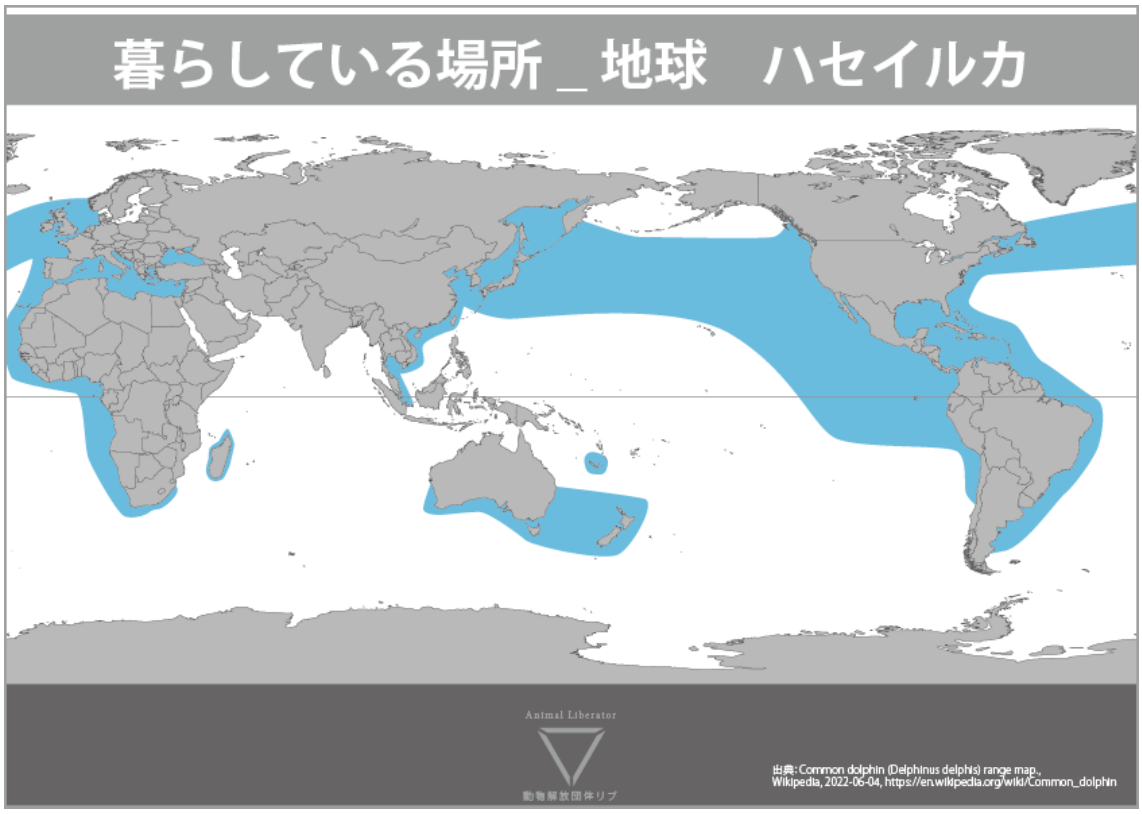
体重　80～235kg

寿命　不明

第三目　社会生活

暮らしている場所

［MAP：暮らしている場所_地球　ハセイルカ］



第四目　人間による被害と保護

［人間による被害］

日本では少なくとも、2名のハセイルカが水族館に監禁されています（2019 リブ調べ）。監禁している水族館は以下。

・大分マリーンパレス水族館「うみたまご」(大分県)　2名

ハルカ、名前未定

［人間による保護］

［人口］

不明

［IUCNレッドリスト］

低危険種（LC：Least Concern）

［ワシントン条約］

CITES付属書II

第六項　ミナミハンドウイルカ

第一目　概要

ミナミバンドウイルカは、道具を使う。

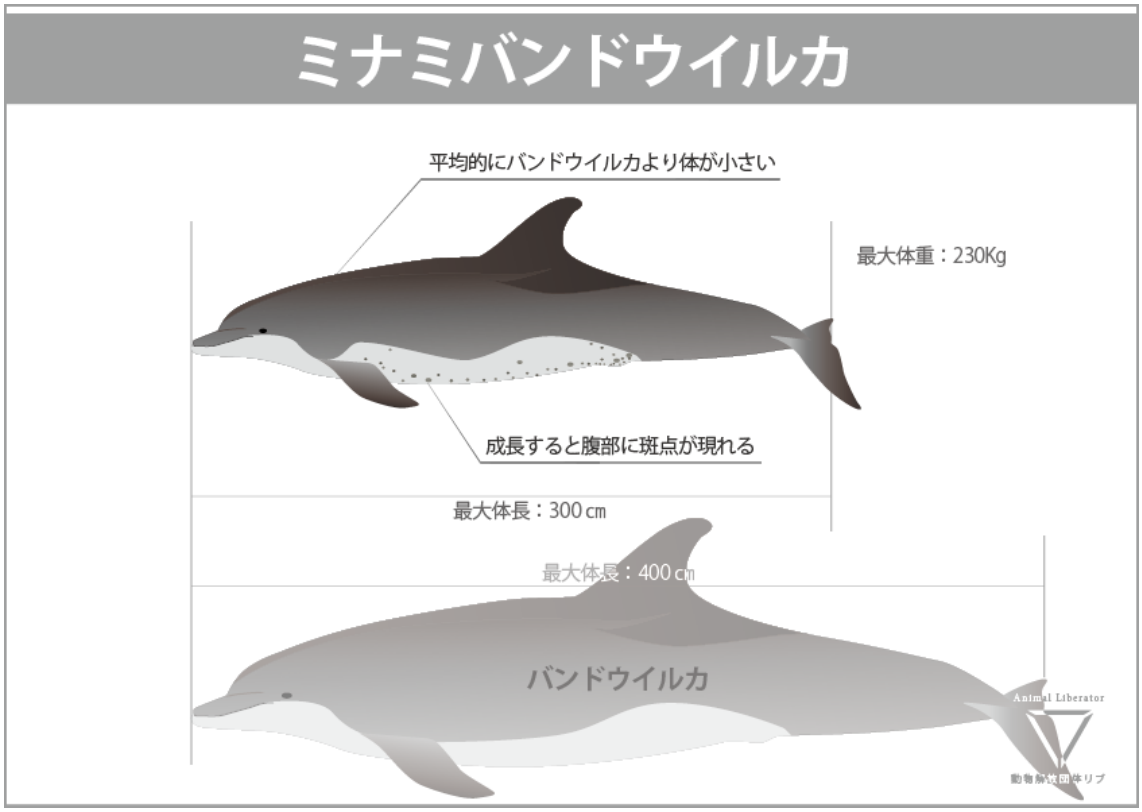
オーストラリアに暮らしているミナミバンドウイルカは、海綿（スポンジ）を使って、海底の砂や砂利を除けて食べ物を探します。海洋哺乳類が道具を使っているということは、驚きを持って迎えられました。

［URL：海綿を使うミナミバンドウイルカ：https://youtu.be/5MmBN_E3qDo］

ミナミバンドウイルカは、バンドウイルカと見た目はほとんど一緒ですが、違う種です。少し体が小さく、暖かい海域の沿岸にほぼ定住して暮らしています。

東京都の御蔵島や利島でのドルフィンスイムの対象種、天草でのドルフィンウォッチングの対象種、美ら海水族館のオキちゃん、鴨川シーワールドに捕獲監禁されたイルカが、ミナミバンドウイルカです。

［図：ミナミバンドウイルカ］



［URL：自由に泳ぐミナミバンドウイルカ：https://youtu.be/6S8qrk_oC_8］

分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - ハンドウイルカ属 - ミナミハンドウイルカ

名称

日本名　ミナミハンドウイルカ

英名　Indo-Pacific Bottlenose dolphin

学名　Tursiops aduncus

第二目　身体

体長

200〜300㎝

平均 260㎝（*バンドウイルカより体が小さい）

体重

最大　230kg

寿命

40才

食物

魚類、頭足類（イカ中心）、甲殻類

特徴

ミナミバンドウイルカは成長するとお腹に体色より濃い斑点が現れます。バンドウイルカにははごく稀です。

家族

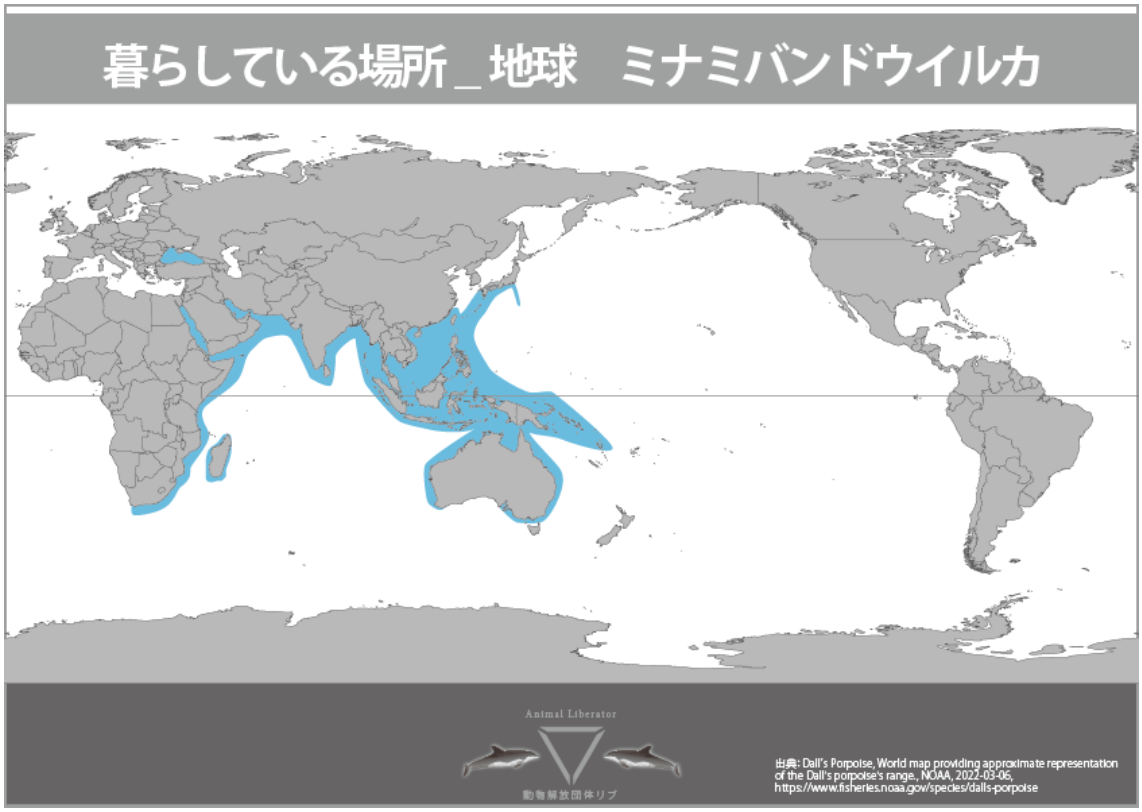
10〜20人のポッドで暮らします。数百人以上になることもあります。

暮らしている場所

地球

アフリカの東海岸、紅海、インド洋、オーストラリア北部、西太平洋の沿岸、暖かい海に暮らしています。

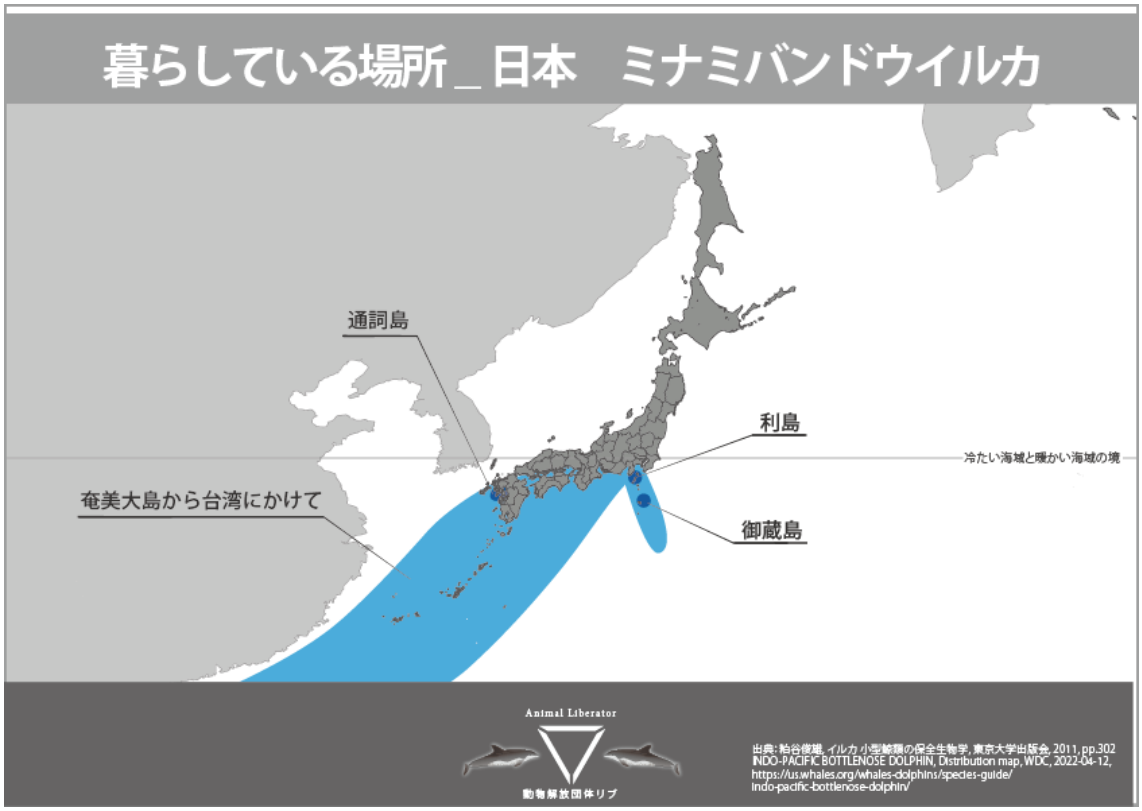
［MAP：暮らしている場所_地球　ミナミバンドウイルカ］



日本

利島、御蔵島、通詞島（天草）など、日本人がイルカと共生しているとご紹介した場所に暮らしています。ほぼ定住して暮らしていますが、ポッドの一部が別の海域に引越したり、戻ってきたりするなど、海域間を移動しているようです。

［MAP：暮らしている場所_日本　ミナミハンドウイルカ］



【人間による被害】

［水族館］

日本では少なくとも、4名のミナミバンドウイルカが水族館に監禁されています（2019年リブ調べ）

・沖縄ちゅら海水族館　4人（沖縄県）

美ら海水族館で長年行われている「オキちゃんショー」はオキゴンドウのことではなく、ミナミバンドウイルカの女性「オキちゃん」のことです。1975年7月20日～1976年1月18日に開催された沖縄国際海洋博覧会のイルカを展示するため、2年前の1973年、内田詮三（美ら海水族館初代館長）氏の依頼により、川奈と富戸の漁師が奄美大島近海でバンドウイルカ30人名を捕獲しました。その際に捕獲されたのがオキちゃん他3名のイルカです（2022.10.04時点）。以来、47年間(2022時点）監禁されています。

［URL：オキちゃんショー：https://youtu.be/cVAnwTRP2Rc］

その他海外でミナミバンドウイルカを監禁している水族館（一部）

Ocean Park（中国 香港）

［URL：Ocean Park：https://youtu.be/iGa5-uJPSKg］

Chimelong Ocean Kingdom（中国 珠海市）

［URL：https://youtu.be/NcC-rWxBOQs］

Yehliu Ocean World（台湾）

［URL：Yehliu Ocean World：https://youtu.be/9-For2Ilv34］

Resorts World Sentosa（シンガポール）

［URL：Resorts World Sentosa：https://youtu.be/j28108kj46Y］

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

沿岸に暮らしているため、海洋汚染や化学物質汚染の影響が懸念されています。

【人間による保護】

［人口］

6,000名

［IUCNレッドリスト］

近危急（NT：Near-threatened)

［ワシントン条約］

CITES付属書II

［CMS］（移動性野生動物種の保護に関する条約）

インドネシア以南、ティモール海からアラフラ海のミナミバンドウイルカ　付属書 II

第七項　ベルーガ

第一目　概要

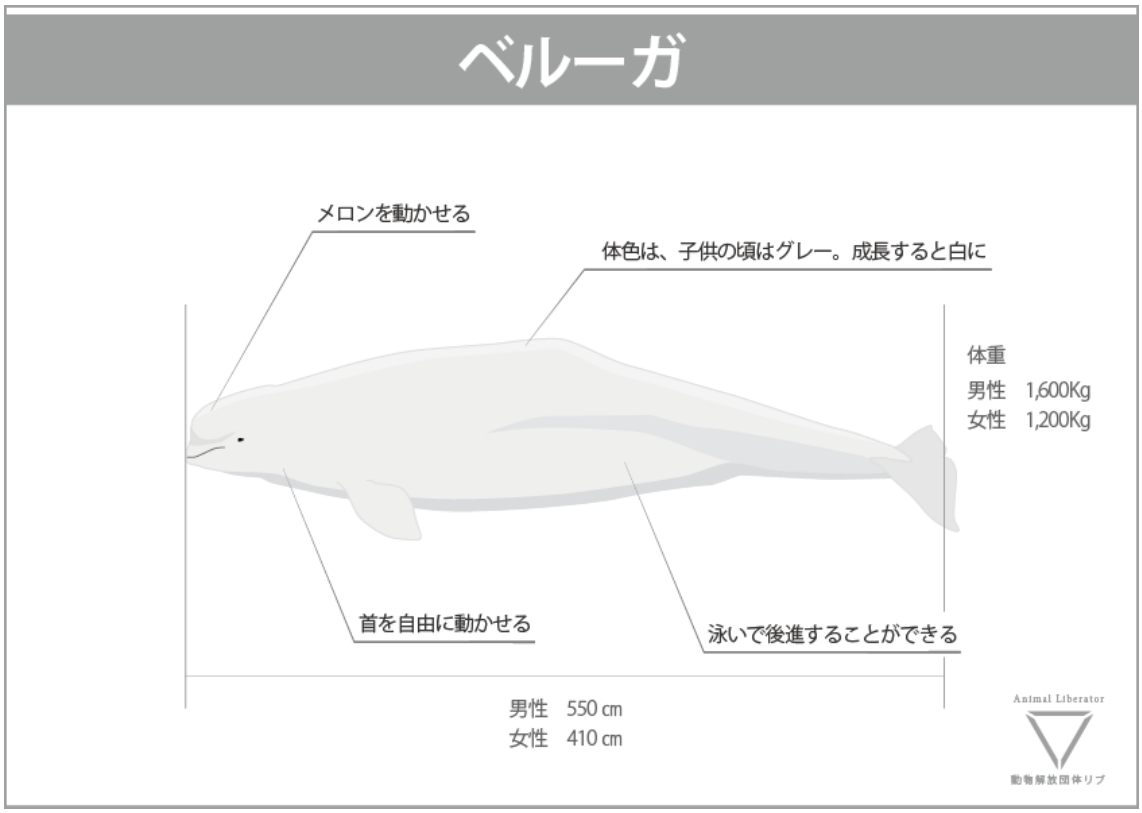
ベルーガは、海のカナリア。

［URL：自由に泳ぐベルーガ スーパーポッド：https://youtu.be/wyvLDDnHBwA］

ベルーガが出す音は、信じられないほど美しいものです。水族館でベルーガのプールの前に座って音を聞いていると、脊髄や脳の奥にまで届き振動し気持ち良くなる感覚があり、感動します。

ベールガは、50種類以上の音を出すことができます。メロン体を自分の意志で変形させ音を出すことができるそうで、他の鯨族にはない能力です。

［図：ベルーガ］



分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - イッカク科 - シロイルカ属 - シロイルカ

* シロイルカのみでシロイルカ属を構成する。

名称

日本名　シロイルカ（ベルーガ、シロクジラ）

英名　Beluga whale

学名　Delphinapterus leucas

第二目　身体

体長

最大　女性410㎝　男性550㎝

体重

最大　女性1,200kg　男性1,600kg

寿命

推定最大　80才

食物

魚類（タラ、シャケ、シシャモ、ワカサギ、ヒラメ、ニシン、カジカ、スケトウダラ、深海魚、）、軟体類（イカ、タコ、）、甲殻類（エビ、カニ、）、貝類（アサリ、）

特徴

体色は真っ白です。子供の頃はグレーがかっていますが、成長と共に白くなります。また、背ビレがありません。バンドウイルカなどのように頚椎の癒着がないため、自由に首を動かすことができます。また、口も比較的自由に動かすことができ、横に開いたり、口笛を吹くような形に変えることができます。泡を円状に吹き出すバブルリングを出せることができるのはこのためです。

またベルーガは前進して泳ぐだけではなく、後進することができます。ほとんどの鯨族は、後方へ泳ぐことはできません。

第三目　社会生活

家族

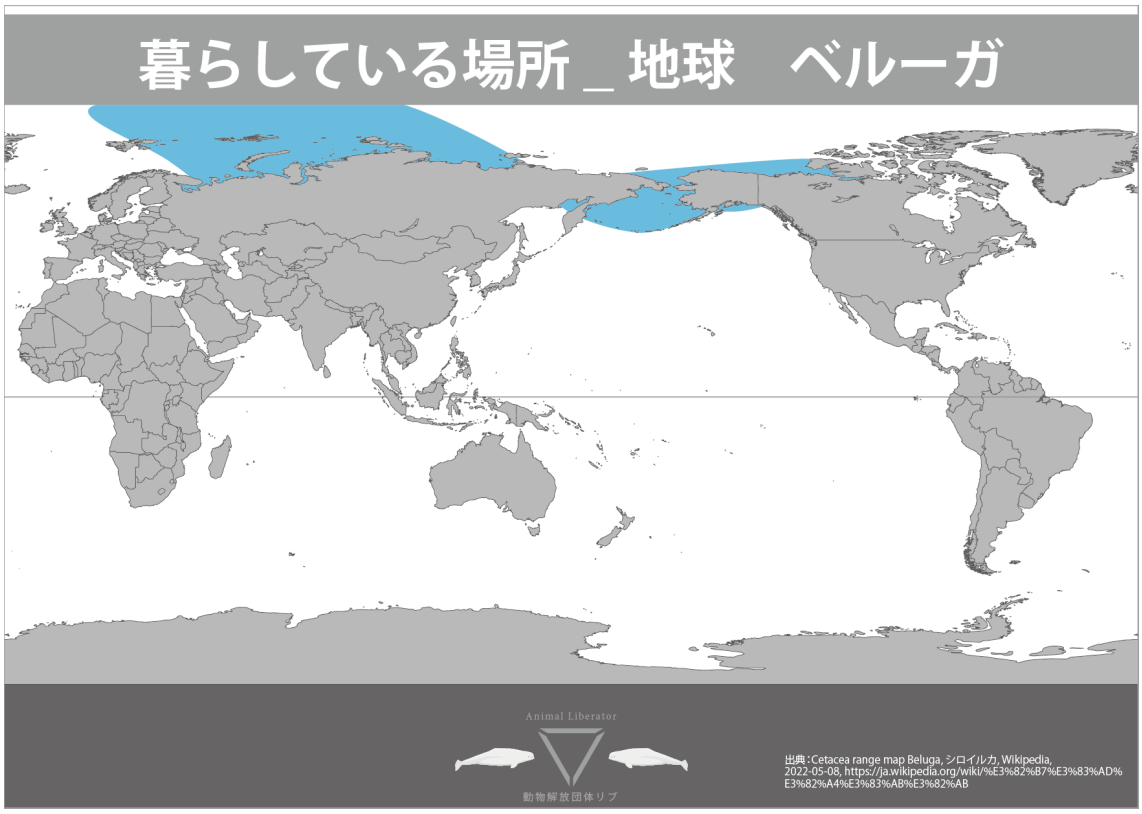
2〜25名。平均10名。ポッドは、ナーサリーポッド（母と子のポッド）、独身男性のポッド、混合ポッド（男女で構成される）の3種類に分けられます。数百〜数千名のスーパーポッドを作ることもあります。

暮らしている場所

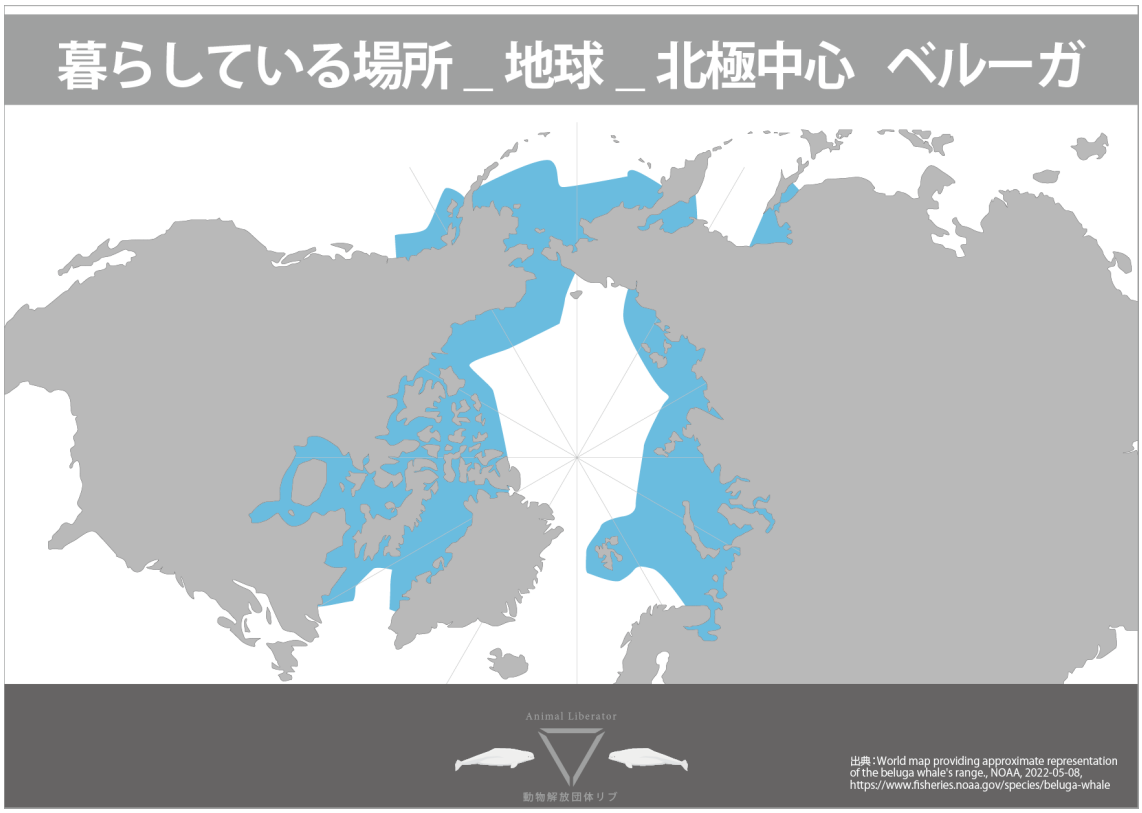
地球

北極を中心とした北極海から亜北極海にかけて、氷がある寒い海域に暮らしています。夏はより北へ移動し、冬はやや南へ移動します。

［MAP：暮らしている場所_地球　ベルーガ］



［MAP：暮らしている場所_地球_北極中心　ベルーガ］



日本

日本周辺には暮らしていませんが、稀に観察されることがあります。

北海道網走市の能取(のとろ)湖に、5年間暮らしていたベルーガがいました。まだ子どもだったベルーガはコリンと名付けられ、人々と交流しましたが、船のスクリューによる怪我が増えていきました。大型のスクリューに巻き込まれ、2020年6月4日に死亡が確認されています。

［URL：コリンの記録：https://youtu.be/FX1zsDwEhJ0］

第四目　人間による被害と保護

【人間による被害】

［捕鯨］

かつては、油や肉、家畜動物の餌や皮革などを目的に大規模な商業捕鯨が行われていました。現在は、アメリカ（アラスカ）、カナダ、デンマーク（グリーンランド）、ロシアの先住民が捕獲しており、毎年2,500人が殺害されていると考えられています。

殺害の仕方は、小船で追い込み、ライフルなどで銃撃する凄惨なものです。

［URL：イヌイットのベルーガハンティング：https://youtu.be/uHh-PszQV5A］

［URL：イヌイットのベルーガハンティング：https://youtu.be/auY-e721vJ8］

ベルーガの個体群は先住民による殺害に耐えることができない可能性もあるそうです。またかつてはスポーツハンティングの対象となっていました。現在では禁止されています。

［水族館］

バーナム博物館

1861年2人のベルーガがP・T・バーナムによって捕えられ、バーナム博物館で展示されました。博物館とは名ばかりの、奴隷や身体障害者、動物を利用した興行でした。ベルーガたちは、ガス燈が灯る汚れた空気の地下室のプールに監禁されました。プールの水は濾過されておらず、ぬるい淡水でした。2日後にベルーガたちは死亡しています。

その後、バーナムは再びベルーガを手に入れ、計9人のベルーガを殺しています。内2名は、バーナム博物館の火災により焼け死んでいます。

バーナム博物館は、のちに買い取られリングリングサーカスとなり動物搾取を続けました。動物を守ろうとする人々の批判が高まり、2017年5月21日、その負の歴史を閉じました。

日本

日本で初めてベルーガを監禁したのは1976年、鴨川シーワールドです。日本では少なくとも、24名のベルーガが水族館に監禁されています（2019年リブ調べ）

・鴨川シーワールド　7人（千葉県）
・横浜 八景島シーパラダイス　4人（神奈川県）
・名古屋港水族館　6人（愛知県）
・島根県立しまね海洋館 AQUAS　7人（島根県）

映画「自由を求めて(Born to be Free)」

日本の水族館は、ロシアからベルーガを購入しています。
監督ガイアン・ペトロシャン(Gayane Petrosyan)による映画「自由を求めて ー捕鯨問題の現状ー」(Born to be Free)は、ロシア人によるベルーガの捕獲や販売の事態を描いています。ベルーガの捕獲方法は手荒であり、2013年オホーツク海で捕獲された個体の半数は、捕獲過程や移送中、臨時に監禁される施設などで死んでいます。死体はゴミ捨て場に埋められており、映画中では掘り起こして確認をしています。また、生きて搬送されるベルーガも傷を負っており、移動中のタンクの水が血に染まっていました。
漁師と水族館の間に入るブローカーは、「イルカと私」という会社。社長は、レフ・ムカメトフという科学者です。オホーツク海沿岸のオホーツクチカロフ島周辺で捕獲し、調教。ウラジオストクに空輸され、日本、中国、ロシア、カナダ、ウクライナ、イスラエル、イラン、アラブ首長国連邦、エジプト、スペインに売られているそうです。
アメリカのジョージア水族館が18名のベルーガを「イルカと私」に注文したものの、米国の裁判所でベルーガの輸入許可が取り消されました。捕獲された18名中、1名は仲間に殺され、7名は日本に売られ、10名は中国に売られたようです。この時期に購入した水族館を調べれば、どの水族館がこの時のベルーガを購入したか特定できるでしょう。
海洋哺乳類取引は、ビッグビジネスです。ロシアは海洋哺乳類取引の主な供給源になっています。捕獲販売は研究・調査名目で行われ、ビジネスの隠れ蓑となっています。日本の水族館やイルカ漁といったイルカ産業が、研究・調査名目でイルカやシャチを手に入れるのとまったく同じです。両国とも、科学者が海洋哺乳類取引にお墨付きを与えサポートするという構造が見られます。
「自由を求めて(Born to be Free)」は、以前はNetflixで見ることができましたが、今は見られなくなっているようです。

［軍事利用］

2019年4月24日には、ロシア製のカメラ装着用ハーネスを付けたベルーガがノルウェーで発見されました。ロシアの軍事施設からきたベルーガではないかと考えられています。ベルーガは、Hvaldimirと名付けられ、今もノルウェー沖に住んでいます。
［URL：ハーネスを付けたHvaldimirの写真：https://www.bbc.com/news/world-europe-56956365］
［URL：カヌーに乗った男性のGoProを取り、返すHvaldimir：https://youtu.be/eAIB7RYfRIk］

［URL：カモメと遊ぶHvaldimir：https://youtu.be/t-o4jWvMtcU］
［本文参照：第三部 第一章 第四節　軍事利用］

［汚染］
ベルーガたちの体は、人間が排出した化学物質や重金属に侵されています。1980年代から1990年代にかけて、北米の北部に位置するボフォート海のシロイルカの水銀濃度は3倍になりました。1983年から1999年の調査では、カナダ、セントローレンス川の129名のシロイルカのうち27%が癌になっていました。
［本文参照：第三部 第二章 第二節　海洋汚染］

［ベルーガが人間を助ける］
人間はベルーガを傷つけ続けていますが、一方、ベルーガが人間を助けた例があります。2009年、中国ハルビンで、ベルーガを監禁しているプールでフリーダイビングが行われました。一人の女性ダイバーが寒さで痙攣を起こしたとき、ベルーガのミラが、プールの底から水面までダイバーを運び助けました。

［人間以外の動物による被害］
シャチやホッキョクグマ、ホホジロザメなどによって捕食されます。
［URL：ホッキョクグマによるベルーガハンティング：https://youtu.be/FL54B0VRhv0］

【人間による保護】
［人口］
22個体群、15〜20万人
［IUCNレッドリスト］
低危険種（LC：Least Concern）
クック湾の個体群　近絶滅種（CR：Critically Endangered）
ハドソン湾東部個体群　危機（EN：Endangered）
アンガヴァ湾個体群　危機（EN：Endangered）
セントローレンス川個体群　危機（EN：Endangered）
［ワシントン条約］
CITES付属書II
［CMS］（移動性野生動物種の保護に関する条約）
付録II

第八項　交雑種

交雑種とは、異なる種・亜種の生物が交配し、生まれた生物。
日本では少なくとも、3人の交雑種が水族館に監禁されています（2019 リブ調べ）
監禁している水族館は以下。

しながわ水族館(東京都)　1人
ホップ（バンドウイルカ×マダライルカ）

南知多ビーチランド(愛知県)　1人
プリン（バンドウイルカ×ハナゴンドウ）

マリンワールド海の中道(福岡県)　1人
マロン（バンドウイルカ×カマイルカ）

第六節　シャチ

シャチに関してはお伝えすべき情報が多いため、一節設けます。目次は以下です。

第一項　概要
第二項　身体
第三項　知性
第四項　社会生活
第五項　シャチ漁
第六項　水族館
第七項　日本の水族館に監禁された全シャチの生涯

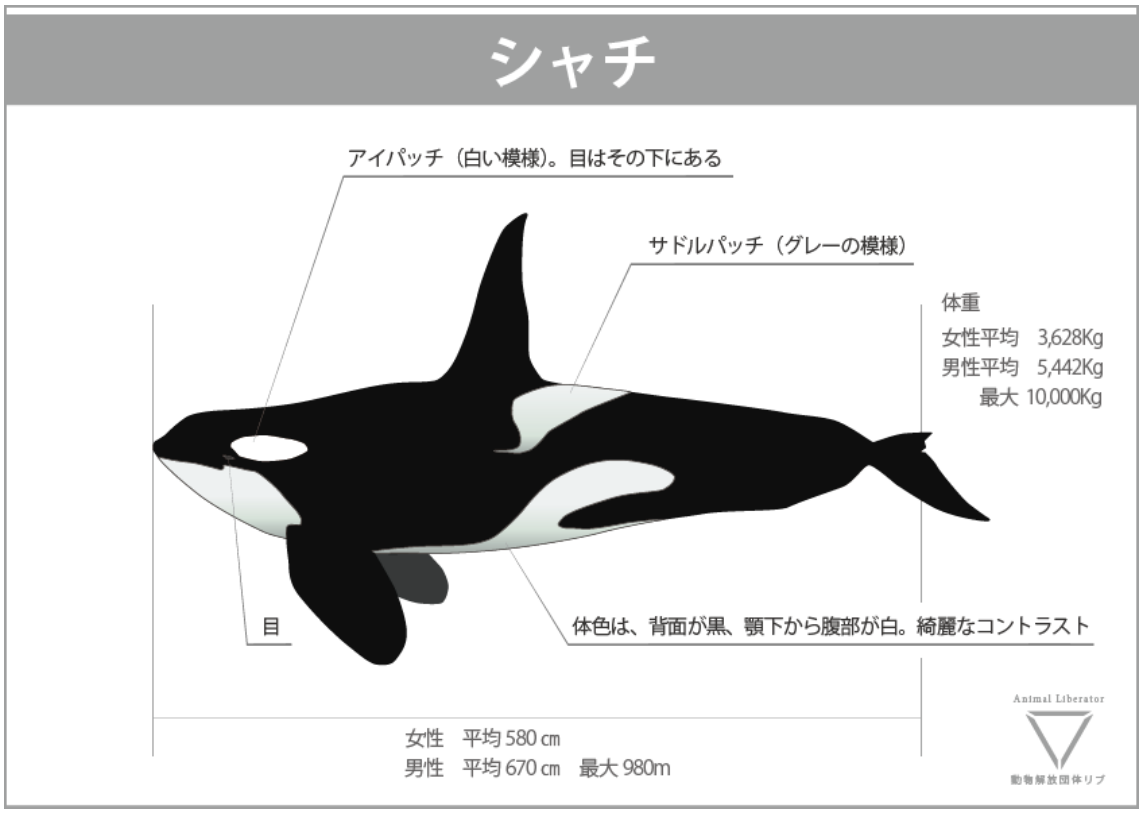
第一項　概要

シャチは、海洋生態系の頂点。

［URL：自由なシャチ。カナダのポッド：https://youtu.be/NfyVMWuUQnw］

［URL：自由なシャチ。ノルウェーのスーパーポッド：https://youtu.be/OCI7-knFnQE］

［図：シャチ］



マイルカ科では最大、ハクジラではマッコウクジラの次に大きく、脳の大きさはすべての動物の中で2番目に大きい種です（1位はマッコウクジラ）。

シャチは海の生態系の頂点に君臨し、天敵はいません。母の血を繋ぐ母系で、母親を中心としたポッドを構成します。知能が高く、時に優しく、時に凶暴な側面を見せます。いたずら

好きのシャチもいます。人間が漁業用のブイ（浮き）を回収しようとたら、野性のシャチがブイを咥え、少し離れたところに持っていってしまいました。人間がそこまで近づくと、シャチはまた少し離れたところへ持っていってしまうといった出来事があったそうです。アメリカのシーワールドサンディエゴでは、カリア（Kalia）というシャチが、魚を囮にし、食べに来た鳥を捕獲することもありました。

［URL：Orca Uses Bait To Hunt Bird：https://youtu.be/14wWxaMR2Mg］

シャチは非常に人気がある鯨族で、野生、監禁下共に研究が進んでいます。また活動家や一般の人々から水族館への解放要求が高い生物の一種でもあります。

分類

鯨偶蹄目 - ハクジラ亜目 - マイルカ科 - シャチ属

名称

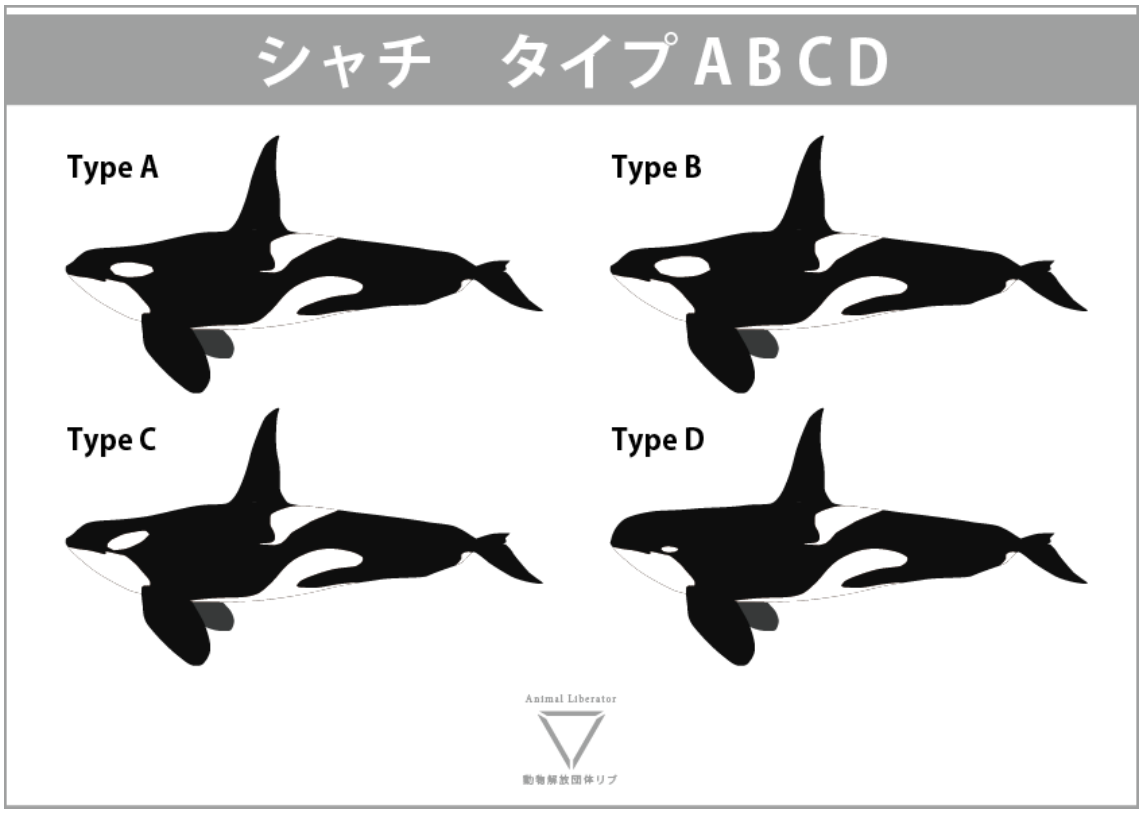
日本名　シャチ（鯱、サカマタ、逆叉、逆戟、レプンカムイ(海の神)等）

英名　KillerWhale(キラーホエール)、Orca(オルカ)、Black Fish(ブラックフィッシュ)

学名　Orcinus orca

かつては1種と考えられていましたが、複数の種や亜種が存在する可能性が指摘されています。分類間での交配は行われていません。
以下に、**分類①**として南極に居住するシャチ、**分類②**として太平洋北米大陸西岸に居住するシャチ、**分類③**として大西洋ヨーロッパ沖に居住するシャチ、**分類④**として北大西洋東部に居住するシャチの分類を記載します。

分類①（南極に居住するシャチの分類）
住む場所、身体的特徴（アイパッチ：目の上の白い部分）、食性によって、タイプA、B、C、Dに分けられます。
［図：シャチ：タイプＡＢＣＤ］



タイプA（Whale eater killer whale）
場所：南極大陸 流氷のない沖合
身体：アイパッチの大きさ 中
主食：クロミンククジラ
タイプB（Mammal eater killer whale）
場所：南極大陸、流氷のある沿岸
身体：アイパッチの大きさ 大
主食：海洋哺乳類（クロミンククジラ、ナガスクジラ、アザラシ等）
タイプC（Fish eater killer whale）
場所：南極大陸、流氷のある沿岸

身体：アイパッチの大きさ 小。体も小さい。

主食：魚類（タラなど）

タイプD

場所：南緯40-60度

身体：アイパッチは極めて小さい。ゴンドウ系のような丸い頭部を持っている。

主食：魚類

［URL：タイプD：https://youtu.be/SBLmGmzjGiw］

分類②（太平洋北米大陸西岸に居住するシャチの分類）

移動の形態によって3タイプに分けられており、遺伝子も異なっています。

レジデント（定住型）

場所：魚が豊富な海域に定住する

ポッド：10数人の家族

食性：魚

トランジェント（回遊型）

場所：移動しながら生活する

ポッド：1人〜6人

食性：鯨族など海洋哺乳類のみ

オフショア（沖合型）

場所：沖合に暮らす

ポッド：数十人

食性：魚（海洋哺乳類を食べている可能性も）

*トランジエントは鯨族を襲い捕食しますが、レジデントは他のイルカと共に行動するなど友好的です。

分類③（大西洋ヨーロッパ沖に居住するシャチの分類）

ジェネラリスト

場所：定住

食性：魚や哺乳類を食べる

スペシャリスト

場所：移動

食性：哺乳類を食べる

分類④（北大西洋東部に居住するシャチの分類）

タイプ1

身体：体長6.6m

食性：鰭脚類、魚

タイプ2

身体：8.5m

食性：鯨族

分類⑤（北西太平洋、日本近海）

わかっていません。

第二項　身体

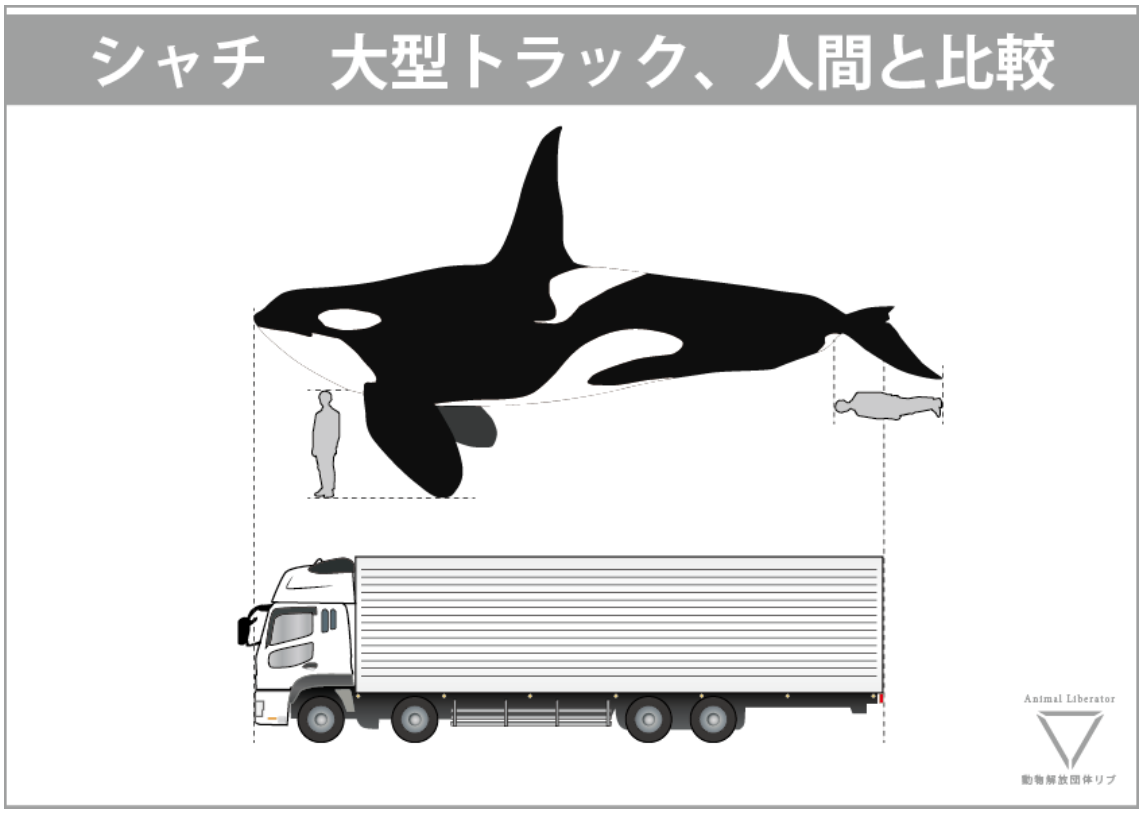
体長

平均　女性5～7m　男性6～8m

最大　男性9.8m。大型トラックとほぼ同サイズ。

背鰭だけで2mもあるシャチもいます。

［図：シャチ：大型トラック、人間と比較］



体重

平均　女性3,000～4,000kg　男性6,000kg

最大　男性10,000kg（10t）

寿命

平均　女性50才　男性30才

最高　女性80才　男性50才

のちに述べる女性のシャチ「グラニー」は105歳まで生存したとされている。

泳ぎ

泳ぐスピード

時速56km/h。ほとんどのイルカやクジラは逃げることができません。

泳ぐ距離

1日最大に160km泳ぎます。

潜水能力

260mに達します。

音

ハクジラなのでエコーロケーションを行います。多様な音を使い、ポッドごと特有のダイアレクト（dialect ≒ 方言）が受け継がれています。ポッドごとに洗練された手法の狩りも受け継がれており、貴重な動物文化を継承していると考えられています。

食物

・鯨族

これまで32種の鯨族が食べられていることがわかっています。

ハクジラ：マイルカ、ゴンドウクジラ、ベルーガ、イッカク、マッコウクジラ、シャチ

ヒゲクジラ：ミンククジラ、コククジラ、ホッキョクックジラ、ザトウクジラ、ナガスクジラ、シロナガスクジラ

ターゲットが大型のクジラの場合、母子を襲い子供を狩ることが多く、舌と顎の肉を好むようです。

［URL：シロナガスクジラを襲う14人のシャチ：https://youtu.be/L7g7AVxOw5g］

・鰭脚類等

アザラシ、オタリア、アシカ、オットセイ、トド、ゾウアザラシ、ラッコ等

・陸生哺乳類

ホッキョクグマ、ムース、鹿等

・魚類

サメ、ジンベエザメ、エイ、シャケ、カラフトマス、ニシン等

・その他

鳥類（ペンギン、海鳥等）、爬虫類（ウミガメ）、頭足類（イカ、タコ）

第三項　知性

シャチの知性や遊び心がよくわかる動画を紹介します。

・漁具に絡まり尾鰭のロープで漁具を引き摺って泳いでいる、弱ってしまっている若いザトウクジラ。シャチが来てロープを切ってザトウを助けています。普段はザトウを襲って食べるシャチ。ザトウはシャチに対抗し、仲間を助けたり、アザラシやイルカなど他の種がシャチに襲われているとき助けに行くことさえあります。若いザトウは目の前を通るシャチに恐れ慄いています。知的で遊び心があって凶暴で気まぐれ。シャチは本当に魅力的です。

［URL：Orca Approach Entangled Humpback Whale：https://youtu.be/g7WVl9QBLs0］

狩りの方法

高度に洗練された戦略的な狩りを、集団で行います。

・波を使う

流氷の上に乗っている鰭脚類を狩る場合、集団で流氷に向かって泳ぎ、波を立てることによって流氷からを落とし、捕獲する。

［URL：https://youtu.be/g1VEwsI4SIY］

・波打ち際まで乗り上げる

波打ち際にいる鰭脚類を狩るため、浜辺に突進し体ごと乗り上げ、捕獲する。捕獲後は、体をよじるようにして、海に戻る。

［URL：https://youtu.be/bk1VdQxeTn4］

・おとりを使う

魚を鳥の前に置き、魚を取りに来たところを捕獲する。

［URL：https://youtu.be/14wWxaMR2Mg］

・追い回す

クジラの母子を何日も追いかけ、力尽きた母と子を分離させ、子供を捕獲する。

［URL：コククジラの母子。逃げることができた：https://youtu.be/MqRzdpd3tAs］

・突進して体当たりする｜上から乗り上げる

クジラや鰭脚類を捕獲する際、体当たりしてダメージを与える、相手の上に乗り上げ海面に上がれないようにして窒息させる。

［URL：コククジラの母子。殺された：https://youtu.be/AuliI8IuOdk］

・カルーセルフィーディング（Carousel feeding）

Carousel（カルーセル）とは、メリーゴーラウンドのように回転する機構のこと。ノルウェーのシャチたちが、ニシンなどの魚に対して行う。シャチは魚の群れの周りを泳ぎ、クリック音やホイッスル音で脅かしながら、群れをボール状にする。群れの下に回り、噴気孔から空気を出し、海面近くに移動させる。海面近くに移動させるのは、自分たちが潜る体力の消耗を防ぐため、日光が当たる場所の方が狩りがしやすいためと考えられている。何名かのシャチは魚の群れのボールの形を維持するように泳ぎ、他のシャチは魚の群れを尾びれで

叩きつけ、失神したところを食べる。実際の映像では、クリック音や尾びれで魚を叩きつける音が聞こえる。カルーセルフィーディングは、黒海に住むバンドウイルカも行う。
［URL：カルーセルフィーディング：https://youtu.be/46-BYK3xPgA］

・音を使う

クリック音を獲物に当てることによって、獲物を失神させて捕獲する。

・動作

空中に放り投げる、尾びれで叩きつける、体ごと飛び上がり上から体当たりする。

・狩りの練習

弱らせた鰭脚類やイルカを使って、子供に狩りの練習をさせる。
［URL：子どもに狩の練習をさせる：https://youtu.be/F4QwS67hcoo］

シャチへの対抗

鯨族たちはシャチに殺されるだけではなく、様々に対抗します。ザトウクジラが、シャチから他の動物を助ける例が多く報告されています。シャチに襲われたコククジラやアザラシ、マンボウなどを、ザトウクジラが身を挺して助けることがあります。マッコウクジラの男の子が、マッコウクジラの母子を襲おうとしているシャチを追い払った例、ヒレナガゴンドウが集団でシャチに対抗した例などがあります。

攻撃性

・野生下

野生下のシャチが人間を殺害したという報告はありません。シャチが戯れたためサーファーが怪我を負うなど軽微な事故はありました。しかし、2020年代に入って、ポルトガル沖で、シャチが小型船に体当たりする例が多数報告されています。これは、黒のグラディス、白のグラディス、灰色のグラディスと名付けられた3人のシャチの少年であることがわかっており、遊びだった可能性もあります。
［URL：ポルトガル沖で小型船に体当たりするシャチ：https://youtu.be/i7XBIf8wxp0］

・水族館

水族館で、シャチが人間を襲った例は多数あります。［本文参照：第一部 第三章 第六節 第五項　水族館：ティリクム、 シャチが関係した事故］に記載します。

第四項　社会生活

家族

母系家族で、母を中心とした血族でポッドが作られています。シャチは女性の方が立場が強く、家族は一生一緒に暮らします。母親が狩りに出ているときは、他の女性が代わりに子供の世話をし、子供に狩りの練習をさせたり、自分がとった食料を子供に譲ったりもします。ポッドごとに特有の方言（コール）を持つなど、特有の文化を繋いでいます。

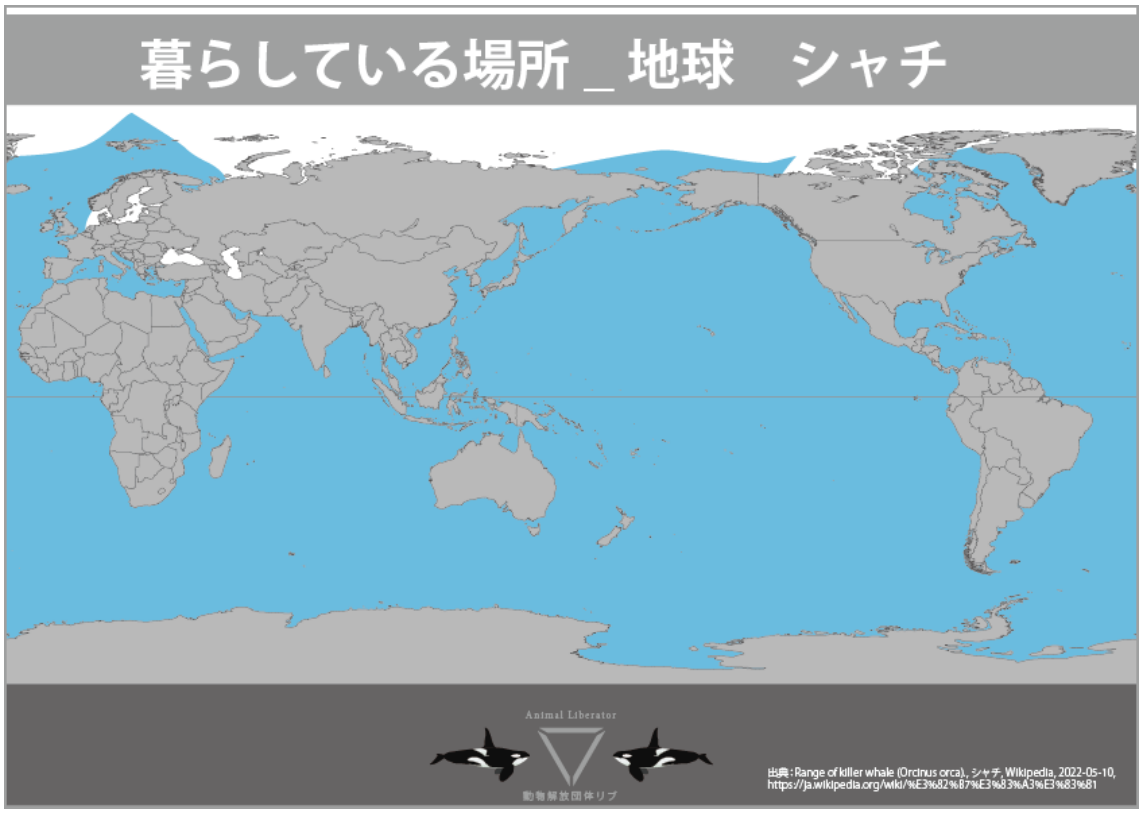
2018年、母シャチが、死んでしまった子供を17日間に渡って連れていた姿が確認されています。このシャチはこの前にも2人の子供を失っており、悲しみと哀悼で死んだ子供を離さなかったと考えられています。

［URL：死んだ子供を連れているシャチ：https://youtu.be/b7AwKacKS4U］

暮らしている場所

北極から南極までの世界中の海に暮らしており、地中海にも住んでいます。食料とする動物の多い極地付近に多く住んでいます。

［MAP：暮らしている場所_地球　シャチ］



有名なシャチ

・野生のシャチ

Granny （グラニー）（誕生1911年頃～1951年頃　死亡2016年10月～12月頃）

北米東岸 太平洋

65才から80才と推定され、最長105才だった可能性があるとも言われる女性のシャチ。グラニーは1967年一度水族館に捕獲監禁されましたが、高齢だったため解放されています。

Iceberg（アイスバーグ）

2010発見 ロシア 北東海岸

真っ白いシャチ。アルビノか白変種かは不明。アイスバーグの他にも10人ほどの白いシャチが発見されている。

白いシャチ

北海道羅臼沖で、2人の真っ白いシャチが泳いでいるところを撮影され、話題となりました。

［URL：白いシャチ：https://youtu.be/M7mUIoS8X68］

・水族館監禁下の有名なシャチ

［本文参照：第一部 第三章 第六節 第五項　水族館：有名なシャチ］へ。

［間接的被害］

［本文参照：第三部 第二章　間接被害］

【人間による保護】

［人口］

5万名

［IUCNレッドリスト］

データ不足（DD：Data Deficient）

［ワシントン条約］

CITES付属書II

第四項　シャチ漁

第一目　世界

捕鯨の捕獲対象としてシャチは体が小さく、油の量も少ないためほとんど捕獲されてきませんでした。初めてシャチの商業捕鯨が記録されたのは1700年代の日本です。1900年代半ばになると乱獲によりクジラが減少したため、日本やノルウェーのの捕鯨産業はシャチを標的とするようになりました。急激にシャチを殺し始めたため、IWCがシャチの商業捕鯨の禁止を勧告してしています。
シャチに対する害獣駆除も行われてきました。1950年代半ば、アイスランド政府がシャチによる漁業被害を食い止めるために、米軍にシャチの駆除を依頼。米軍は、何百ものシャチを機関銃、ロケット、機雷で殺害しました。

水族館用の展示目的のためのシャチの生体捕獲漁が始まったのは、1964年です。水族館職員が捕獲していました。北米では、1964〜1976年の12年間に50名のシャチが捕獲されています。1976年以降は、捕獲に反対する声が高まり、捕獲は1名にとどまっています。シャチ捕獲で有名な人物は以下。
Ted Griffin：プールでシャチと初めて泳いだ人物。シャチの捕獲、ショーも行った。
Don Goldsberry Obituary：ポイント・ディファイアンス動物園＆水族館、シアトル水族館に勤務。日本の水族館へのシャチの販売にも関わった。

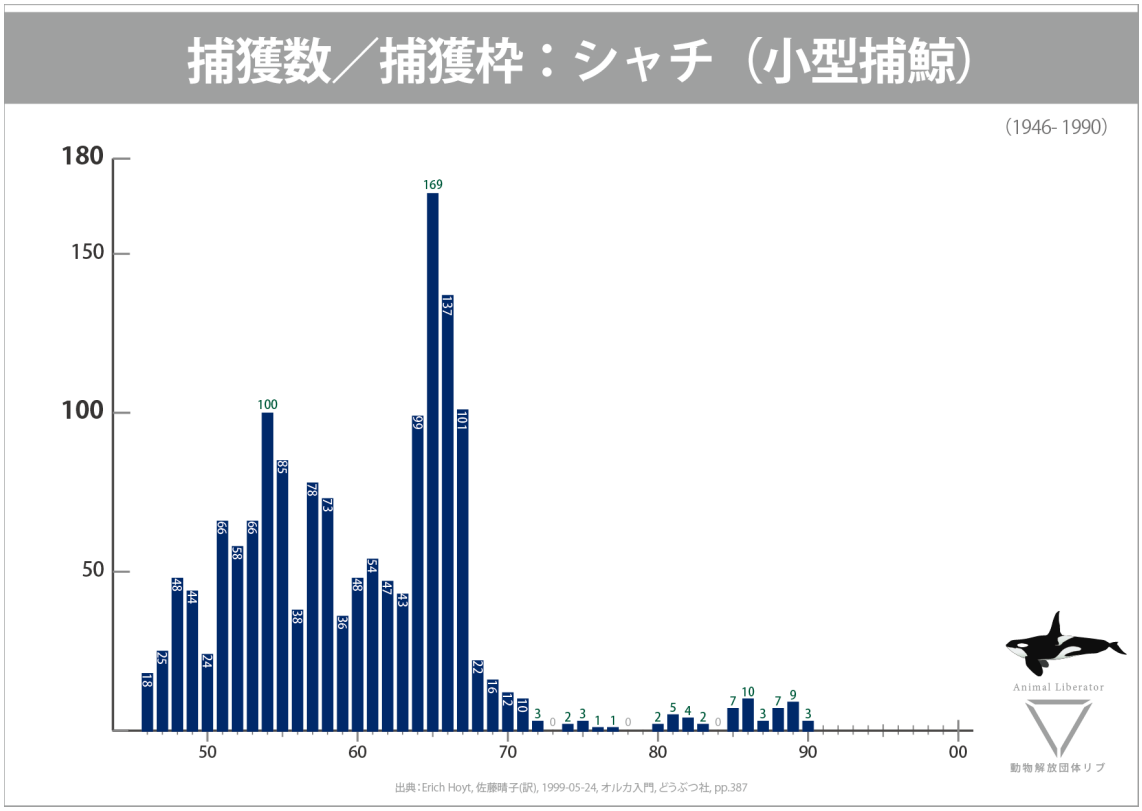
現在、グリーンランドやセントビンセントおよびグレナディーン諸島で先住民がシャチ漁を行っており、インドネシア（レンバタ島 ラマレラ村(Lamalera)）では突き棒漁によるシャチ漁が行われています。
［URL：Whaling Killer whale in Lamalera：https://youtu.be/R4N0_AYzvKQ］

第二目　日本

かつては油や肉を採るために捕獲殺害していました。近年は水族館への販売用として捕獲されています。シャチ漁の変遷は以下です。

1948　小型捕鯨業によるシャチ漁が始まる
1968　イルカ追い込み漁によるシャチ漁が、和歌山県太地町で始まる
1991　水産庁が、原則としてシャチの捕獲を禁止（学術目的であれば可能）
1997/2/7　Taiji5：太地シャチ捕獲事件：女性3人(妊娠中の女性、アスカ、クー）男性2人(男の子、キュー）の計5人（Taiji5）が、太地の漁業者と水族館スタッフによって捕獲される。男性1人はまだ小さな子供。（試験研究目的の特別捕獲という名目）

1946〜1990年にかけて日本は小型捕鯨でシャチ1579名を殺害。現在、日本国内での捕獲は学術目的以外では禁止されています。
［グラフ：シャチ：小型捕鯨：捕獲数］



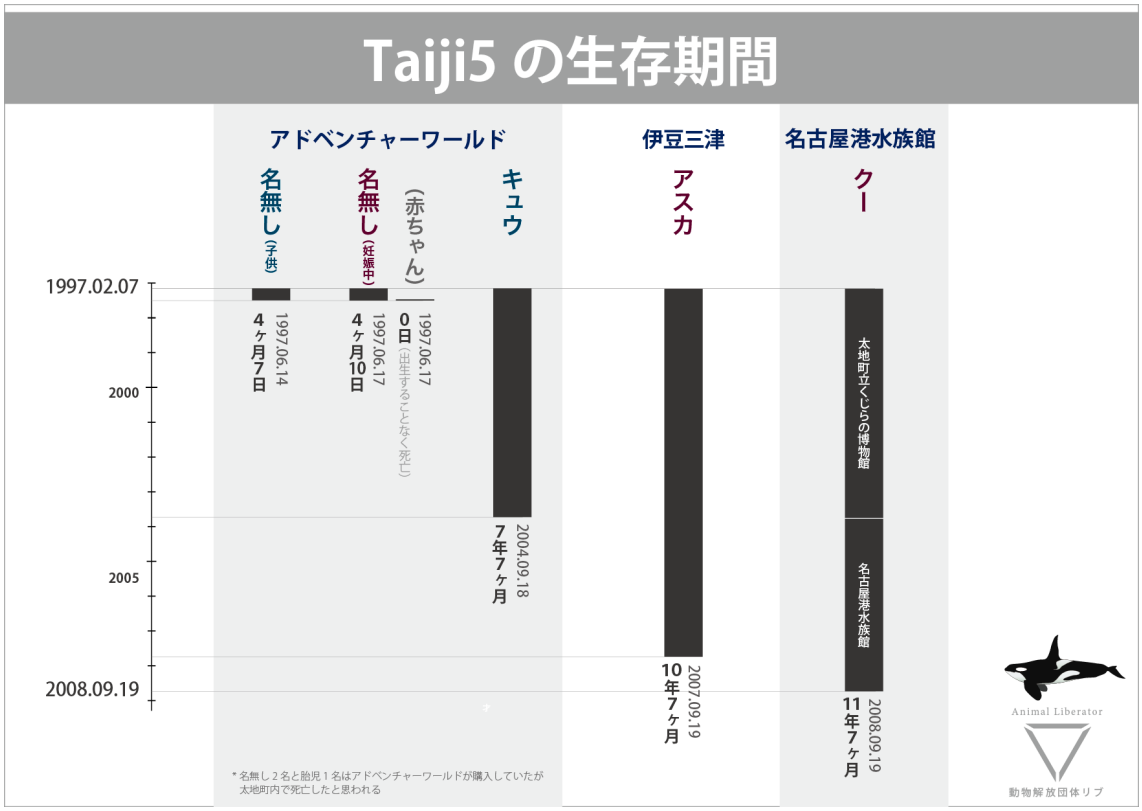
Taiji 5の捕獲について

日本のシャチ漁で一際世界の耳目を集めたのが、太地シャチ捕獲事件です。1997年2月7日太地町の畠尻湾にシャチの家族が追い込まれました。国内外から批判が集まり、解放の要求が高まりましたが、太地町、水族館関係者、鯨類学者は捕獲を強行しました。10名のシャチのうち5名を捕獲。この5名はTaiji5（タイジ ファイブ）と呼ばれます。

［URL：Taiji5捕獲時の映像：https://youtu.be/ceLQNl2ZMZQ］
この捕獲は学術目的として行われ、学者グループが捕獲にお墨付きを与えました。この時の学者グループは、のちに名古屋港水族館でナミが死亡した時の調査委員会と同じメンバーです。学者と水族館は鯨類を利益の源泉とする利益共同体です。Taiji5は次々と死亡し、現在は一人も残っていません。

この時、日本動物園水族館(JAZA)は、「和歌山県太地町で採捕されたシャチに対する国内外からの批判に対して政府の厳選たる対応を求める要願書」を発表しています。この時の声明がJAZAの動物観や動物倫理意識が現れています。
「可愛いから、利口だからなどと特定の動物を偏愛し、盲目的に生物資源の利用に反対する動物愛護団体等の主張は、生物資源に依存してきた人類の本性を無視し、ひいては人類の発展を妨げるものであります。」
http://www.jca.apc.org/~orca/taiji/suisan.html

［図：シャチ：Taiji5の生存期間］



その他の被害
先にシャチには天敵がいないと書きましたが、シャチの最大の死因は人間です。船に衝突されることによって打撲・外傷を負い、人間が捨てた漁業用の針の飲み込み、漁網に絡まることによって溺死しています。

第五項　水族館

第一目　世界

これまで、1964～1976年に太平洋岸北西部から50人、1976～1997年にアイスランド沖から55名、日本周辺から19名、アルゼンチン沖から3名のシャチが水族館用に捕獲されました。1999年時点で世界で展示されているシャチは48名。約40％が飼育下で生まれました。

［有名な水族館］

海外の水族館でも多くのシャチが捕獲監禁され、犠牲にされてきました。シャチの監禁で有名な水族館を挙げます。

・ハフナルフィヨルズゥル水族館(Hafnarfjörður Aquarium）

アイスランド（1969～1987閉鎖）

1975～1987にかけて、アイスランドは計59名のシャチを捕獲し、ハフナルフィヨルズゥル水族館でトレーニングし世界中の水族館に販売しました。ケイコやティリクムなど有名なシャチもこのとき捕獲監禁販売されました。現在日本に監禁されているシャチたちは、この水族館から連れてこられたシャチたち（ステラ、ビンゴ、オスカー）の子孫です。

現在、59名のシャチのほとんどは死亡し、2021年12月の時点で4名しか残っていません。その1名が現在名古屋港水族館に監禁されているステラです。

アイスランドでシャチの捕獲が無くなり、ハフナルフィヨルズゥル水族館は閉鎖を決定。

残ったシャチを水族館に販売し、残りの動物は殺害しました。

・シーワールド

シーワールドは米国内に3ヶ所あります。シーワールドサンディエゴ（1964～カリフォルニア州、シャチ9名を監禁）、シーワールドオーランド（1973～フロリダ州、シャチ5名を監禁）、シーワールドサンアントニオ（1988～テキサス州、シャチ5名を監禁）。2022年シーワールドアブダビ（アラブ首長国連邦のドバイ）のオープンを予定しています。

履歴

2016　シーワールドが、職員をPetaにスパイとして送り込んでいることを認める。

2016.3　シャチの繁殖とショーを終了すると発表。

［有名なシャチ］

海外の水族館に監禁されたシャチで特に有名なシャチの名前を挙げます。

シャム（Shamu）

性別：女性

捕獲年月：1965年10月

死亡年月：1971年8月16日（シーワールド サンディエゴ）

監禁期間：5年10ヶ月

履歴

1965年10月　アメリカ：ワシントン州ピュージェット湾ペンコーヴで捕獲
1965年12月　シーワールド サンディエゴに監禁
1971年4月19日　シーワールドの職員Anne Eckisの脚と腰を噛む
　→動画［海外_シャチが関係した事故］1971.4.19　シーワールドサンディエゴ
1971年8月16日　死亡
シーワールドは彼女の死後、Shamuという名前をショーの名称などに利用しています。

ロリータ（Lolita）／トキタエ（Tokitae）

性別：女性
捕獲年月：1970年8月8日
死亡年月：生存
監禁期間：51年9ヶ月18日（2022年5月26日時点）
履歴
1970年8月8日(推定4才)　アメリカ：ワシントン州ピュージェット湾ペンコーヴで捕獲
1970年9月24日　フロリダ：マイアミ水族館に監禁
2003年　ドキュメンタリー「Lolita：SlavetoEntertainment」公開
［URL：Lolita：SlavetoEntertainment：https://youtu.be/rWDL_bhDFwA］
2022年3月4日　マイアミ水族館がロリータのショーを中止することを発表
*Tokitaeとは、コロンビア川流域のネイティブアメリカンの言葉で「明るい日、綺麗な色」
*Lolitaは、ウラジミール・ナボコフの小説から採った
*マイアミ水族館前でたびたび活動が行われている。
*ALDF（Animal Legal Defense Fund）やPetaがロリータに関して複数の訴訟を起こしている。

ケイコ：Keiko

性別：男性
捕獲年月：1979年
死亡年月：2003年12月
監禁期間：24年
関係：鴨川シーワールドに監禁されたカレン、キングと共に捕獲される。家族だったかもしれない。
履歴
1979年11月(推定2才)　アイスランド・レイザルフィヨルズルで捕獲。
1979年11月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
1982年　カナダ・マリンランドに売却
1985年　メキシコ・レイノアベンチュラに売却。劣悪な環境。皮膚病に苦しむ。

1993年　映画「フリーウィリー」でウィリーを演じる
1995年　フリーウィリーケイコ財団設立
1996年1月7日　アメリカ・オレゴンコースト水族館でケイコのリハビリが始まる
1998年9月9日　故郷であるアイスランドへ飛行機で輸送され、クレッツヴィクの生簀に入れられ、リハビリを続ける
2002年7月15日　ケイコが解放される。
　野生のシャチと接触するも、人間の元に帰ってくる。
2003年12月12日(27才)　死亡（死因：急性肺炎）ノルウェー・タクネス湾で死亡
*名前の由来：最初は、SiggiまたはKagoと名付けられました。しかし当初は日本に輸送されるはずだったため、ケイコ(Keiko）という名前に変更されたとされています。もし日本に輸送されていたら、再びアイスランドの海に戻り解放されることはなく、日本の水族館に一生監禁されていたでしょう。
［本文参照：第七部 第四章 第四節　解放］

ティリクム：Tilikum

ティリクムは男性のシャチで、3人の人間の死亡に関わり、映画「ブラックフィッシュ」によって有名になったシャチです。
性別：男性
捕獲年月：1983年11月9日
死亡年月：2017年1月6日（シーワールド オーランド）
監禁期間：33年1ヶ月28日
関係：
履歴
1981年12頃　誕生（推定）
1983年11月9日　アイスランド・ベルフィョルズルで捕獲。
1983年11月10日　ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
　　トレーナーを攻撃し、ウェットスーツを引き裂いた。
1984年11月11日　カナダ・シーランドオブザパシフィックに監禁。先住の2名の女性のシャチ、ハイダIIとヌートカIVにいじめを受ける。
1991年2月20日　ハイダIIとヌートカIVが、21歳女性の海洋生物学の学生ケルティ・バーンを攻撃。ケルティをプールに引き摺り込み、2時間引き上げさせず、溺れさせ、死亡させる。
1992年1月9日　アメリカ・シーワールド オーランドに移送、監禁
1999年7月6日　夜間プールに忍び込んだ27歳の男性ダニエル・デュークスが、傷を負って溺れているのが発見される。ティリクムが殺害した可能性、酔ってプールに落ち低体温で亡くなった可能性がある。

2010年2月24日　ティリクムが、40歳女性のシャチトレーナードーン・ブランショーをプールに引き摺り込み溺死させる。肋骨と椎骨が骨折しており、頭皮と片方の腕が切り離されていた。
2012年　Peta（動物の倫理的扱いを求める人々の会）が、ティリクムを原告として奴隷制の廃止を定めている合衆国憲法修正第13条により、ティリクムに保護を与えることを求める訴訟を米国連邦裁判所に起こす。裁判所は修正第13条は人にのみ適用されるとして退けた。
2013年　映画「ブラックフィッシュ」でティリクムの経験と事実が明らかに
［Amazon：Black Fish：https://00m.in/TMmuj］
2017年1月6日　死亡（死因：細菌感染）
*生殖と人工授精により21人の子どもを作らされています。

［シャチが関係した事故］
シャチが関係した事故を年代順に記載します。日本で起きた事故は、次の「第二目　日本」に記載します。
1971.4.19　シーワールドサンディエゴ
シャム（Shamu：女性）が、シーワールドの職員Anne Eckisの脚と腰を噛む
［URL：Orca Attack Of Annette Eckis：https://youtu.be/2xWqYbMwVqs］
1987.3.4　シーワールドサンディエゴ
カンドゥー5（Kandu V：女性）とケナウ（Kenau：女性）が、シャチトレーナーJonathan Smithを襲う
［URL：Kandu V & Kenau Attack Trainer：https://youtu.be/mpeMasmqoyk］
1987.11.21　シーワールドサンディエゴ
オーキー（Orky）がシャチトレーナーJohn Sillickの上にジャンプするミス。骨盤、大腿骨、肋骨を骨折。
［URL：Orca Attack Of John Sillick：https://youtu.be/g8smgi460BQ］
1989.8.21　シーワールドサンディエゴ
カンドゥー5（Kandu V：女性）が、壁に激突し顎を骨折して死亡。経緯：7人の子を失ったコーキー（Corky：女性）が、カンドゥー5の娘オーキッド（Orkid）に興味を示し連れ去ろうとしたことで、対立が生じました。シャチトレーナーは、コーキーとオーキッドにショーをさせ、怒ったカンドゥー5がコーキーに突進しました。カンドゥー5は壁に激突し、顎を骨折し死亡しました。娘のオーキッドは目の前で母が死んでいくのを見ていました。
［URL：Kandu5 Death：https://youtu.be/bS5jo7d4ENE］
1991.2.20　シーランドオブザパシフィック（カナダ）
ティリクム、ハイダII、ヌートカIVが、海洋生物学生でトレーナーKeltie Byrneをプールに引き摺り込み、溺死させる。
［URL：Tilikum attacks Keltie Byrne - Blackfish 3:20-：https://youtu.be/qn3oLkfF4EU］

2004.7　シーワールドサンアントニオ

Kyuquot（カイクォット：男性）（母ハイダⅡ×父ティリクム(ティリクムの最初の息子)）がトレーナーSteve Aibelを襲う。

［URL：Attack of trainer Seaworld 2004：https://youtu.be/j9qtdavR3_Q］

日時不明　シーワールドサンアントニオ

Kyuquot（カイクォット：男性）がトレーナーを襲う。

［URL：KILLER WHALE ATTACKS HELPLESS PERFORMER AT WATER PARK!：https://youtu.be/CU7CsqeK9HU］

2006.11.15　シーワールドサンディエゴ

オーキッド（Orkid：女性） とスマール（Sumar：男性）が、トレーナーを襲いプールから出そうとしない。オーキッドは、壁に衝突して亡くなったカンドゥー5の娘。

［URL：Shamu Show Incident Nov. 15 2006：https://youtu.be/hTXE653JPOg］

2006.11.29　シーワールドサンディエゴ

カサトカ（Kasatka：女性）が、シャチトレーナーKen Petersの足を噛み、プールの底へ引き込み、左足を骨折させた。

［URL：SeaWorld releases video of 2006 killer whale attac：https://youtu.be/5B_poyjBqYE］

その他多数の事故が起こっています。

年月日不明　フランス　マリンランド・コートダジュール（Marineland Cote D’azur)

https://youtu.be/Yu_yxLXFEo4

シャチによる攻撃（Wikipedia）

［URL：Killer whale attack：https://en.wikipedia.org/wiki/Killer_whale_attack］

第二目　日本

［これまで日本に監禁された全シャチ48名］

日本の水族館がこれまで監禁したシャチは48名。

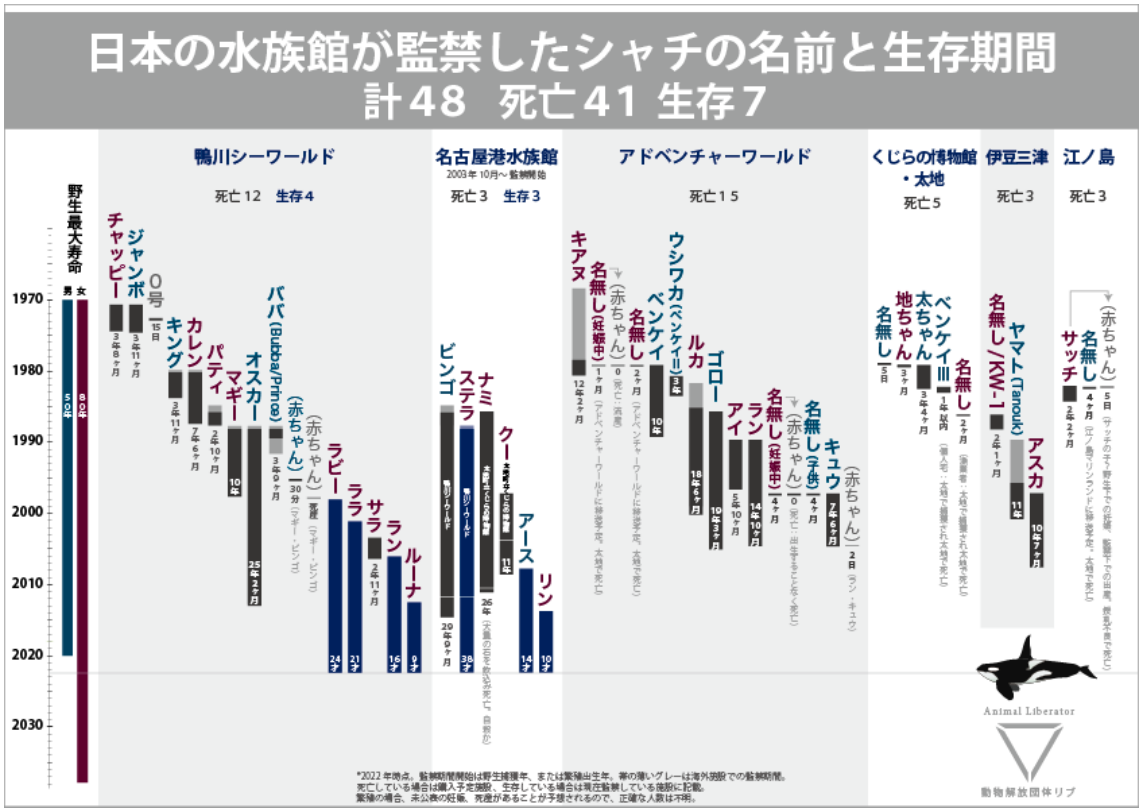
野生から捕獲されたシャチが38名。繁殖されたシャチは少なくとも10名。

48名中、すでに41名が死亡し、生存は7名です。

最短監禁期間は、30分。監禁下で出生後すぐに亡くなっています。

最長監禁期間は、38年。現在も名古屋港水族館に監禁されている、アイスランド出身のステラです。

［図：シャチ：日本の水族館が監禁したシャチの名前と生存期間］

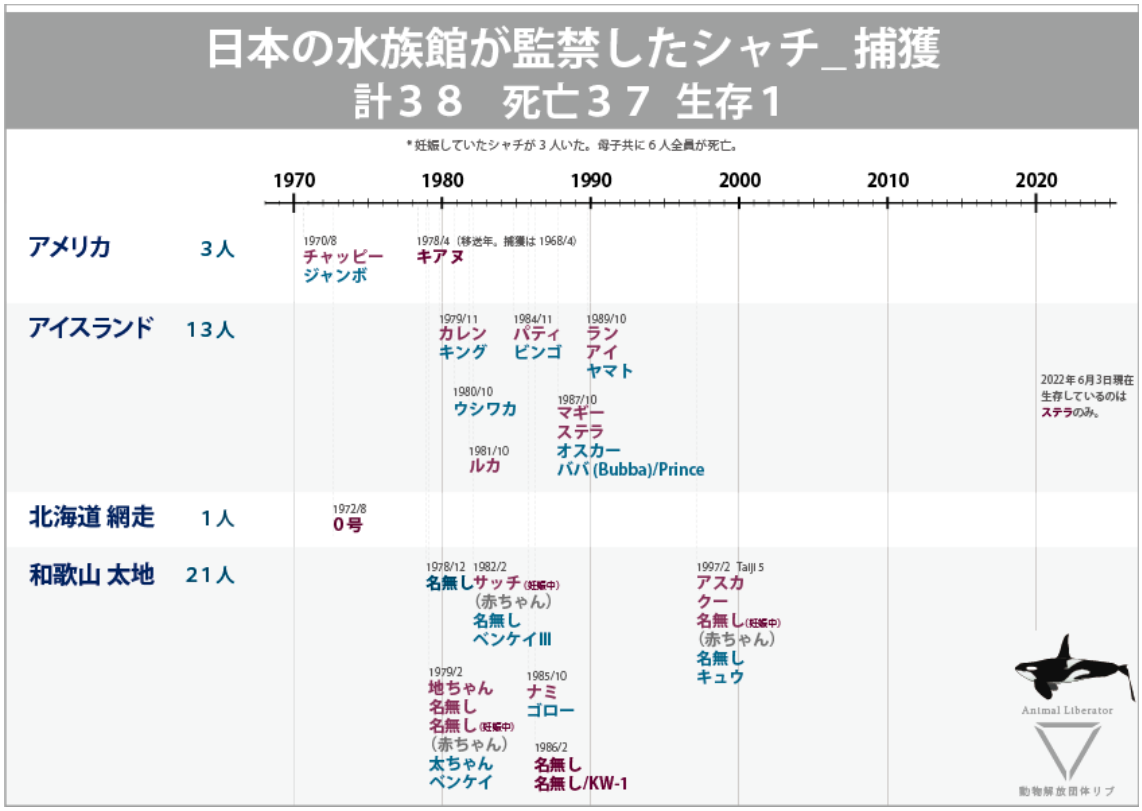


［野生から捕獲されたシャチ：38名］

これまで野生から胎児3名を含む38名のシャチを捕獲監禁。うち。すでに37名が死亡しており、生存1しているのは名古屋港水族館に監禁されているステラのみです。

日本の水族館による野生のシャチの獲得は、①アメリカから輸入、②アイスランドから輸入、③日本国内捕獲で行われました。

［図：シャチ：日本の水族館が監禁したシャチ_捕獲］



①アメリカから輸入

1970年代、アメリカから3人のシャチが輸入され、以下の水族館に監禁されました。

［鴨川シーワールド］2人　チャッピー、ジャンボ

［アドベンチャーワールド］1人　キアヌ

キアヌ以降は、行われていません。

②アイスランドから輸入

1979年11月～1989年10月の約10年間に6回に渡って13名のシャチが輸入されました。

6回のうち、3回が鴨川シーワールド、3回がアドベンチャーワールド。

13名のうち、8名が鴨川シーワールド、5名がアドベンチャーワールド。

捕獲年月と輸入した施設、シャチの名前は、

1979/11　鴨川シーワールド：カレン(Karen)・キング(King)

1980/10　アドベンチャーワールド：ウシワカ(ベンケイⅡ)

1981/10　アドベンチャーワールド：ルカ
1984/11　鴨川シーワールド：パティ(Patty) ・ビンゴ(Bingo)
1985年　鴨川シーワールド：マギー(Maggie)・ステラ(Stella) ・オスカー(Oscar)・ババ(Bubba)
1989年　アドベンチャーワールド：ラン(Ran)・アイ(Ai)・ヤマト
施設ごとのシャチの名前は、
［鴨川シーワールド］8人　カレン、キング、パティ、ビンゴ、マギー、ステラ、オスカー、ババ
［アドベンチャーワールド］4人　ウシワカ、ルカ、ラン、アイ、ヤマト（→伊豆・三津シーバラダイス）
現在生存している7名のシャチは、アイスランドの血を持つシャチです。

③日本国内捕獲
網走1人、太地21人の計22人が捕獲され、以下の水族館に監禁されました。
網走
［鴨川シーワールド］1人
太地
［アドベンチャーワールド］7人
［江の島マリンランド］3人
［伊豆・三津シーバラダイス］2人
［太地］6人
［個人(不明)］1人

太地では、水族館への販売を目的としたシャチ漁は6回行われ、22名が捕獲され、うち3名が妊娠していました。それら子どもたちは3人は、すべて死亡しています。
・1979年3月　名無し：1979年2月太地で捕獲された名無しの女性（妊娠していた）の子。流産で母子共に死亡［アドベンチャーワールド］が購入予定
・1982年5月　名無し：サッチの子？太地で捕獲され、野生下で妊娠していた。出産して5日後に死亡。授乳不良。［江の島マリンランド］
・1997年6月17日　名無し：Taiji5 名無しの女性（妊娠していた）　死因不明で母子共に死亡［太地］
* 国内捕獲されたシャチはすでに全員死亡。
* 鴨川シーワールドが、太地からシャチを購入したことはないようです。

［水族館で繁殖されたシャチ：少なくとも10人］

公表されているだけで10人の赤ちゃんを妊娠、出産しています。4人死亡し、生存6人です。

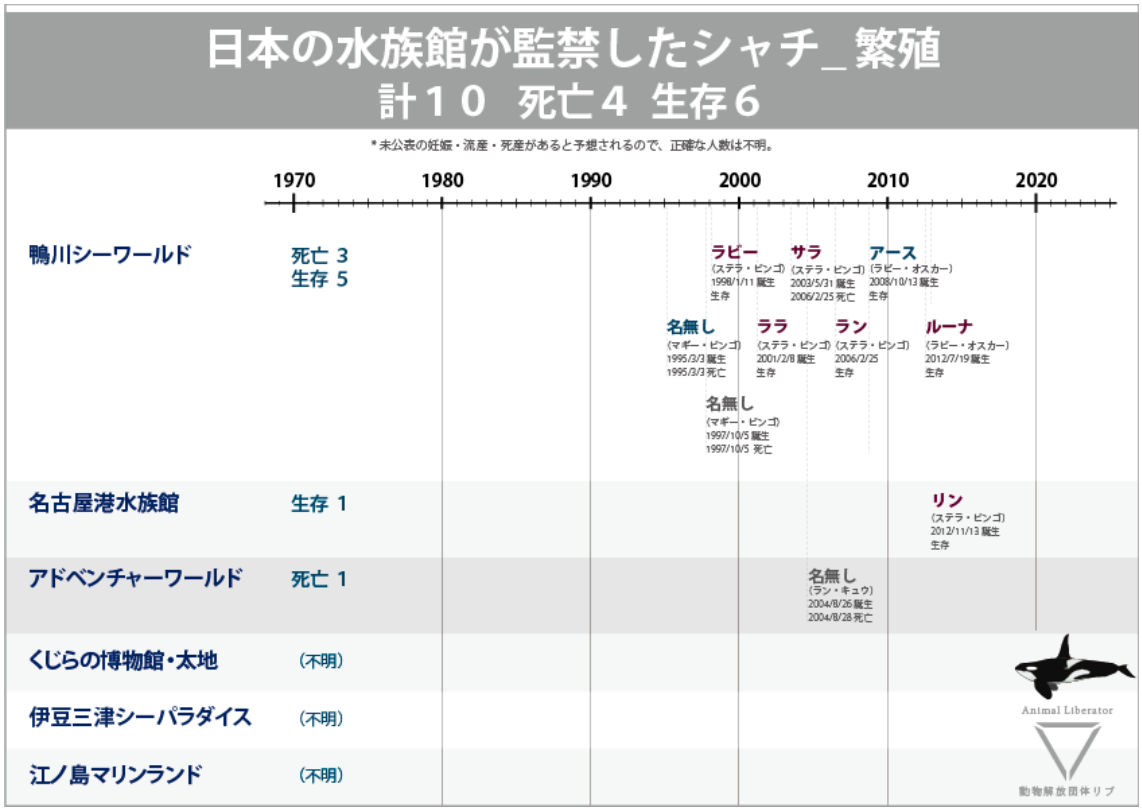
妊娠を公表しない水族館

「公表されているだけ」というは、水族館が公表していない妊娠・流産・死産があると予想されるからです。

アドベンチャーワールドのシャチトレーナーが書いた本「いつか、オルカ」によると、アドベンチャーワールドはランの妊娠を公表していませんでした。同様に、他の水族館も、妊娠や死産を公表していない可能性があります。ランが出産したときは、たまたま観客が見ていました。

つまり、実際にどれくらいのシャチそして、イルカの赤ちゃんが死んでいるかはブラックボックスです。

［図：シャチ：日本の水族館が監禁したシャチ_繁殖］



生存：6人

現在6人が監禁されています。以下は出生した水族館です。

［鴨川シーワールド］5人（ラビー、ララ、ラン、アース、ルーナ）

［名古屋港水族館］1人（リン）

死亡：少なくとも4人

［鴨川シーワールド］3人（名無し、名無し、サラ）

［アドベンチャーワールド］1人（名無し）

死亡した４名

名無し

母マギー・父ビンゴ［鴨川シーワールド］

1995年3月3日出生。生後30分で死亡。日本初の出産

名無し

母マギー・父ビンゴ［鴨川シーワールド］

1997年10月5日出生。早産で死産。マギーも2日後に亡くなった。

名無し

母ラン・父キュウ［アドベンチャーワールド］

2004年8月26日出生。ランは子どもに敵意を示し、キュウが子供を攻撃。何度も噛み、放り投げた。28日子どもが頭蓋骨骨折で死亡。同日ランが子どもを追うように亡くなる。22日後の9月18日キュウが2人の後を追うように亡くなった。ランの卵子、キュウの精子は、人工授精に備えて保存されている。

アドベンチャーワールドのシャチトレーナーが書いた本「いつか、オルカ」には、ランの出産後、記録用に撮影をしていたと書かれています。つまり、この時の動画が残っている可能性があります。

［URL：Ran：https://killerwhales.fandom.com/wiki/Ran］

サラ

母ステラ・父ビンゴ［鴨川シーワールド］

003年5月31日出生、2006年4月26日死亡。死因：腎臓病。2［鴨川シーワールド］

［これまでシャチを監禁したことがある水族館：6館］

日本で初めてシャチを監禁したのは、1970年鴨川シーワールドです。過去にシャチを監禁していた水族館は6館。現在は2館が監禁しています。

1 鴨川シーワールド（千葉県）

2 江ノ島マリンランド（神奈川県）

3 伊豆三津シーパラダイス（静岡県）

4名古屋港水族館（愛知県）

5 アドベンチャーワールド（和歌山県）

6 太地町立くじらの博物館（和歌山県）

［図：シャチ：シャチを監禁していた6水族館］



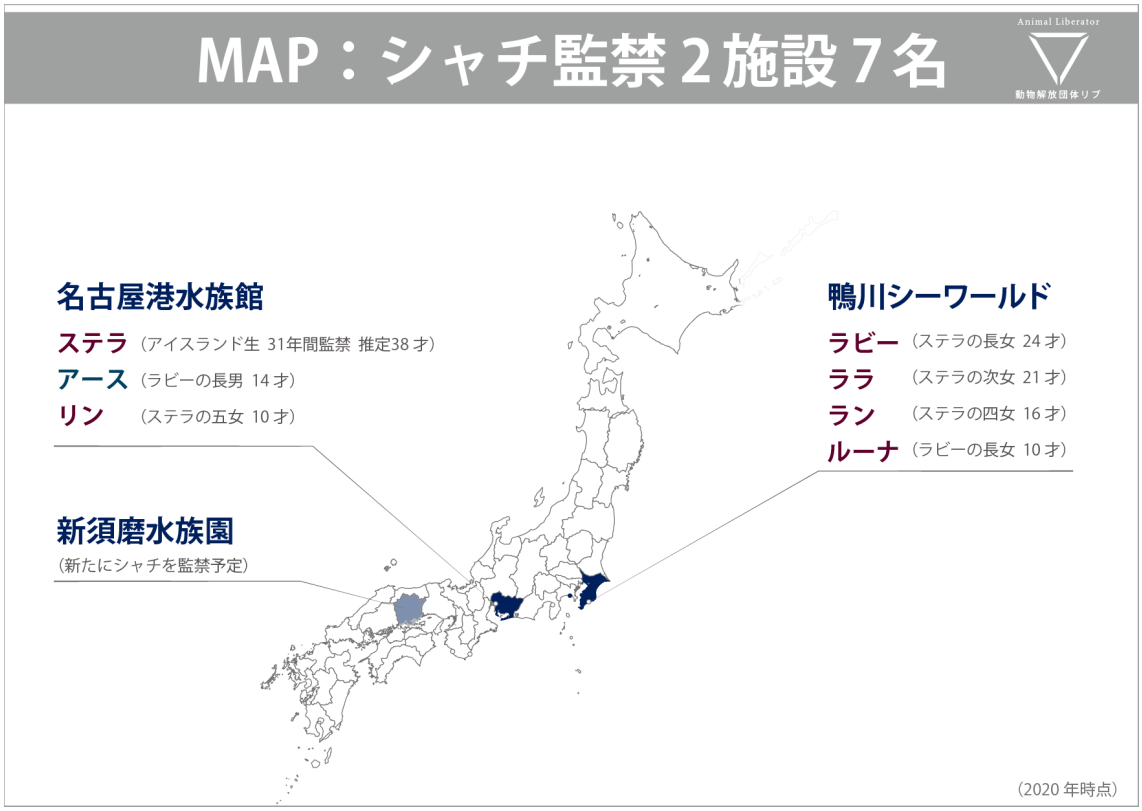
［現在シャチを監禁している2水族館、監禁を予定している1水族館］

2022年現在、日本では2つの水族館に7人のシャチが監禁されています。

・鴨川シーワールド　4人（千葉県）

・名古屋港水族館　3人（愛知県）

［図：シャチ：シャチ監禁 2施設 7名］



日本のシャチ監禁のリーダーは、鴨川シーワールド。フジサンケイグループです。

同フジサンケイグループが、新須磨海浜水族園の指定管理者となり、新たにシャチの監禁を予定しています。

鴨川シーワールド

運営：株式会社グランビスタ ホテル&リゾート（フジサンケイグループ）

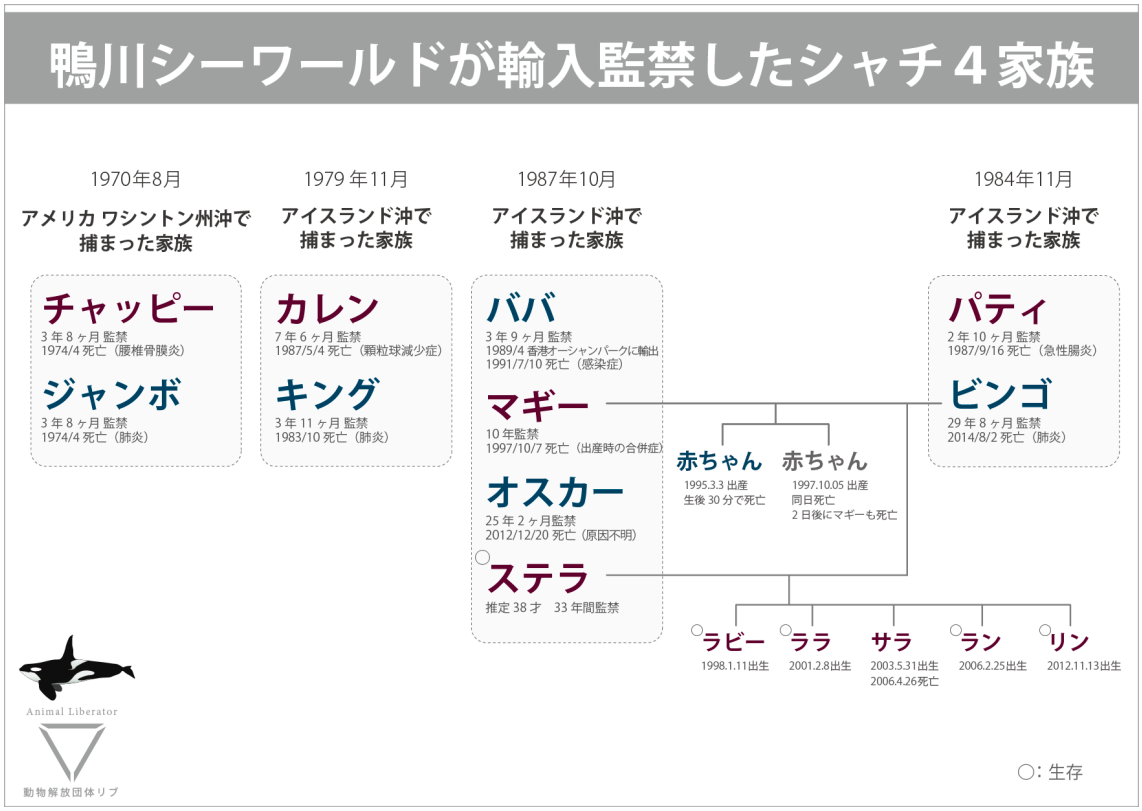
株式会社グランビスタ ホテル&リゾート→ 主要株主サンケイビル→ フジ・メディア・ホールディングス→ フジサンケイグループです。

鴨川シーワールドは、アメリカ ワシントン州沖から1家族、アイスランド沖から3家族、計4つの家族を輸入監禁しています。

・死亡12人：ジャンボ、チャッピー、0号、キング、カレン、名無し、パティー、マギー、Bubba、オスカー、名無し、サラ

・生存4人：ラビー、ララ、ラン、ルーナ

［図：鴨川シーワールドが輸入監禁したシャチ４家族］



名古屋港水族館

管理運営は、指定管理で公益財団法人名古屋みなと振興財団。事業主体は、名古屋港管理組合（愛知県、名古屋市が母体となる一部事務組合）です。

これまで名古屋港水族館が監禁したシャチは7人。

・死亡3人：クー、ナミ、ビンゴ

・生存3人：ステラ、アース、リン

・鴨川シーワールドに戻したシャチ1人：ラン

神戸市立須磨海浜水族園（スマスイ）

運営：株式会社グランビスタ ホテル&リゾート（フジサンケイグループ）

指定管理制度により現在スマスイを運営しているのは、株式会社グランビスタ ホテル&リゾート。鴨川シーワールドと同様、フジサンケイグループが新スマスイを運営します。ゆえに、鴨川シーワールドからシャチを移送することができます。

［日本_シャチと水族館］

現在、日本に監禁されているシャチは7人

7人のシャチは、アイスランド系の3世代家族です。

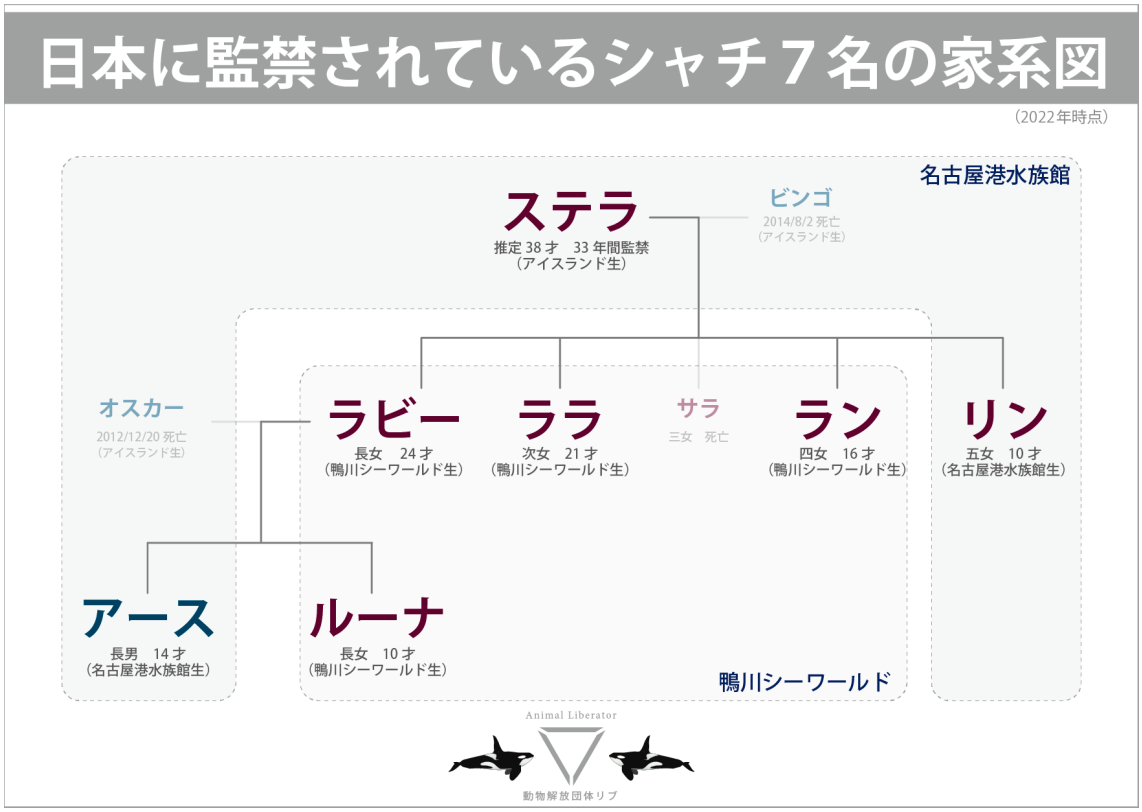
第一世代　ステラ

第二世代　ラビー、ララ、ラン、リン（娘4人）

第三世代　アース、ルーナ（孫2人。ラビーの子）

7人のシャチは、鴨川シーワールドと名古屋港水族館に分けて監禁されています。

［図：シャチ：日本に監禁されているシャチ7人の家系図］



［シャチの移送履歴］

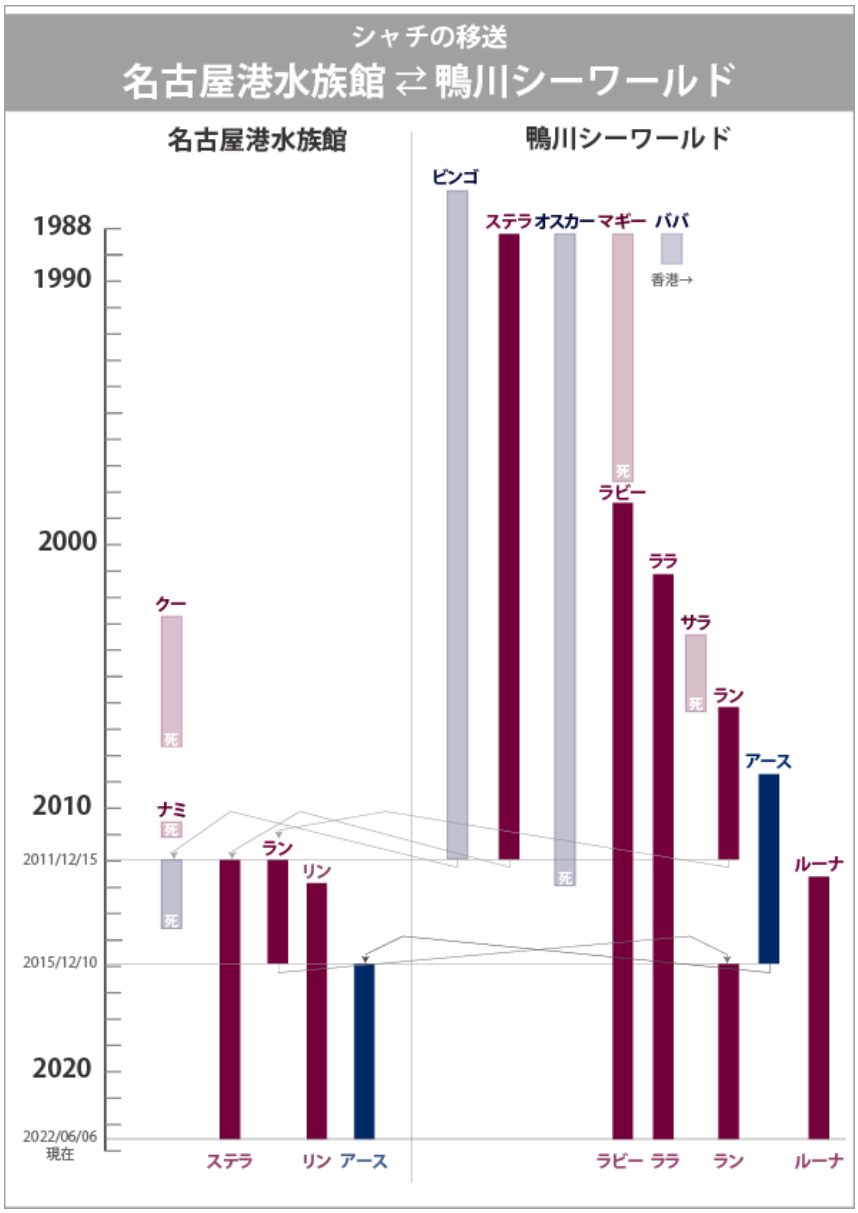
アイスランド出身のステラを始祖とする7人のシャチたちは、鴨川シーワールドと名古屋港水族館の間で移送されてきました。理由は、出産や人工繁殖のためです。

シャチは1人5億円もの値段がつく動物です。シャチ1人を出産させるということは、5億円の商材が手に入るということです。シャチは、死ぬまでの数十年にわたって、水族館に利益をもたらし会社の経営や職員の生活に貢献してくれるでしょう。

2022年現在予定されている新須磨水族館への移送も人工授精と、関西圏の市場を狙ったものと考えられます。

以下の図は、現在生存しているシャチたちの移送履歴です。

［図：シャチ：シャチの移送　名古屋港水族館⇄鴨川シーワールド］を読み解きます。



2011年12月15日

ステラ・ビンゴ・ラン：鴨川シーワールド→名古屋港水族館へ移送

ステラ・ビンゴは、娘ラビー・ララ、孫アースと引き離されました。
ステラは、名古屋港水族館に移送後、リンを産んでいます。
ビンゴは、名古屋港水族館へ移送後、死亡。
リンは、移送後、誕生（ステラが出産）。
ルーナは、移送後、誕生（ラビーが出産）。
ラビー・ララ・ルーナは、鴨川シーワールドから一度も出たことはありません。
リンは、名古屋港水族館から一度も出たことがありません。

2015年12月10日

ラン：名古屋港水族館→鴨川シーワールドへ移送

アース：鴨川シーワールド→名古屋港水族館へ移送

ランは、母ステラ・妹リンと引き離されました。姉ラビー、ララと再会し、姪ルーナと初めて会いました。
アースは、母ラビー、妹ルーナ、叔母ララと引き離されました。祖母ステラと再会し、年下の叔母リンと初めて会いました。
ランとアースは同時に移送されているため、会っていません。

つまり、
ステラは、孫ルーナと一度も会ったこともなく、存在していることも知りません。
ラビー・ララは、父ビンゴの死を知りません。母ステラが生きているかどうかも知りません。末の妹であるリンと会ったことはなく、存在も知りません。
ただし、もしシャチたちがそれら事実を伝えることができるコミュニケーション能力を持っていた場合、ランがラビー・ララに知らせ、アースがステラに知らせることができている可能性もあります。

ランが名古屋港水族館から、鴨川シーワールドに戻ってきたとき、姉であるラビー・ララと懐かしむように顔を合わせていたそうです。その文章は、人間目線からまるで美談のように書かれていました。

新須磨海浜水族園へ移送されるのは誰か

2022年6月現在、兵庫県の新須磨水族園にシャチを移送する予定が立てられています。新須磨水族館への移送は、人工繁殖の成功率を高めるためと予想されます。
自然界では、祖母や母など、すでに出産子育ての経験がある女性が、他の女性の出産や子育てを手伝います。経験があるのは、ステラとラビーです。
相性が分かりませんので、出産のみの観点で推察しますと。
名古屋港水族館：ステラと、ララ、ラン、リン、ルーナのいずれか。
鴨川シーワールド：ラビーと、ララ、ラン、リン、ルーナのいずれか。

新スマスイ：アースと、ララ、ラン、リン、ルーナのいずれか。
となるかもしれません。
ラビーとリンは会ったことがないので、一緒にしないかもしれません。
いずれにせよ、家族はまた引き離されるでしょう。

野生のシャチは、祖母を中心として一生を共に過ごします。つまり本来だったらステラを中心に、全員一緒に生きているはず。しかし、人間・水族館の都合で、母と娘、祖母と孫たちは分断され、今後さらに分断され続けます。
シャチたちは水族館に人生を翻弄されています。
［URL：Inside the killer whale matriarchy - Darren Croft：https://youtu.be/sQpGT1BgdX4］

［繁殖を狙う水族館］
生存している7人のうち、6人が女性であり、男性は1人。血がつながっていますので、繁殖はできません。
ラビー24才、ララ21才、ラン16才、リン10才は子供を産める年齢ですので、必要なのは精子です。
精子の入手方法は以下が考えられます。
1. 保存してある精子
   アドベンチャーワールドが持っているゴローかキュウの精子。鴨川シーワールドが保存しているかどうかは不明ですが、使用できるとしたら、血がつながっているビンゴとオスカー以外、ジャンボ、キング、ババの精子。
2. 海外から精子を輸入
   アイスランドのシャチの精子を手に入れることができれば、妊娠の確率が高まることが予想されます。米シーワールドのティリクムもアイスランド出身です。
3. 捕獲_日本
   日本沿岸での小型捕鯨か追い込み漁による捕獲は、学術目的と認められれば可能です。相当な反対が予想されるので、水産庁は許可を出しにくいでしょう。
4. 捕獲_海外
   現在捕獲しているのはロシアのみです。ロシアから購入することも考えられます。しかし同様に反対の声は大きいでしょう。

いずれの場合も、母体の危険、流産・死産の危険、これまで多くのシャチを殺してきた事実があります。学術目的、繁殖研究、種の保存などの理由を挙げるでしょうが、実際は商材の確保であると当の水族館自身も認識しているでしょう。
いずれにせよ、本当に実行したらあまりに非倫理的な行為だと言わざるをえません。

［日本_シャチが関係した事故］

アメリカでのシャチの事故の記録は多数ありますが、日本の記録は少数です。事故があったという噂を時々聞きますが、根拠は曖昧です。
動物園や水族館がよく行う手法ですが、事故があった直後は、Webサイト上で事故の経緯や謝罪を行います。しかし、しばらく経つとサイトから消します。このやり方をすると、新聞等で取り上げられた事件は残りますが、それ以外の事件は無かったことになります。
行政施設であれば情報開示請求をすれば公開することもあります。しかし、民間施設には公開する義務はありません。また、行政施設であっても指定管理者として民間企業が入っている場合は公開を拒否されることがあります。名古屋港水族館や京都水族館などに公開を求めたことがありますが、拒否されました。

記録が残されている事故を列挙します。
［2001年 鴨川シーワールド］
・ビンゴがトレーナーをプールの底のガラス壁に数分に渡って押しつけた。別のトレーナーがビンゴを誘導し引き離す。トレーナーは腰を圧迫され出血する大怪我。

また、筆者は元鴨川シーワールド職員で、シャチに噛まれたことがあるという人と会ったことがあります。

［アドベンチャーワールド］
・2001年8月1日トレーナーが、ランとゴローの喧嘩に巻き込まれ、右大腿部を骨折。
・トレーナーがキアヌの口の中に頭を入れる出し物を行っているときに、キアヌが口を閉じ、頭が抜けなくなる。頭を抜いた後、トレーナーの頭には血が滲んでいた。
・トレーナーが、ベンケイの口の中に手を入れる出し物を行っていたときに、ベンケイが口を閉じ、手が抜けなくなる。トレーナーの腕の骨が軋みはじめたところで、ベンケイが口を開け、手が抜ける。挟まれた部分が内出血。
・ルカがトレーナーを押してジャンプするロケットジャンプのとき、ステージに向かって押し上げられ、トレーナーはステージに落下。

第六項　日本の水族館に監禁された全シャチの生涯

シャチにはそれぞれの人生があります。水族館は彼らの自由な人生を奪い、監禁下の人生を与えました。監禁下での人生は悲惨です。狭いプールで、生きるために毎日同じ芸を繰り返し、そして死んでいきます。多くのシャチは天寿をまっとうすることなく亡くなっていきました。

犠牲になったシャチたちを記憶に留めるよう、捕獲日・出生日時順にそれぞれの人生を記録します。生存しているシャチの名前の前には◯をつけています。

1968年4月　捕獲：カナダ・ブリティシュコロンビア州：1名

キアヌ

性別：女性

捕獲年月：1968/4

死亡年月：1980/6（鴨川シーワールド）

監禁期間：12年2ヶ月

履歴

1968年4月　カナダ・ブリティッシュコロンビア州沖で捕獲

19??年?月　アメリカ・カリフォルニア州の水族館 マリンワールドに監禁

1978年4月　日本・アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）に監禁

［URL：キアヌの移送：https://youtu.be/yd8-RazP4Ss］

1980年6月　死亡（死因：中毒性胃腸炎）

1970年8月　捕獲：アメリカ・ワシントン州：2名（鴨川シーワールド 輸入1回目）

チャッピー

性別：女性

捕獲年月：1970年8月

死亡年月：1974年4月（鴨川シーワールド）

監禁期間：3年8ヶ月

履歴

1970年8月　アメリカ・ワシントン州沖で捕獲

1970年9月4日　日本・鴨川シーワールドに監禁。日本で初監禁。

　アメリカ・シアトルからジャンボと共に輸入。鴨川シーワールド輸入1回目。

1974年4月　死亡（死因：腰椎骨膜炎）

ジャンボ

性別：男性

捕獲年月：1970年8月

死亡年月：1974年4月（鴨川シーワールド）

監禁期間：3年8ヶ月

履歴

1970年8月　アメリカ・ワシントン州沖で捕獲

1970年9月4日　日本・鴨川シーワールドに監禁。日本で初監禁。

　アメリカシアトルからチャッピーと共に輸入。鴨川シーワールド輸入1回目。

1974年7月　死亡（死因：腰椎骨膜炎）。チャッピーの死から3ヶ月後だった。

1972年8月　捕獲：北海道 網走：1名

0号

性別：女性

捕獲年月：1972年8月

死亡年月：1972年9月（鴨川シーワールド）

監禁期間：15日

履歴

1972年8月　小型捕鯨船に銛で刺され捕獲。オホーツク水族館に移送。

1972年?月　鴨川シーワールドに監禁。

1972年9月　死亡（死因：銛の傷による敗血症）

1978年12月　捕獲：和歌山県 太地：1名

名無し

性別：男性

捕獲年月：1978年12月

死亡年月：1978年12月（太地）

監禁期間：5日

履歴

1978年12月　和歌山県 太地で捕獲

1978年12月　死亡（死因：捕獲時の負傷）。捕獲5日後だった。

1979年2月　捕獲：和歌山県 太地：6名

地ちゃん（チちゃん）

性別：女性

捕獲年月：1979年2月

死亡年月：1979年6月（太地）

監禁期間：3ヶ月

履歴

1979年2月　和歌山県 太地で捕獲。

太地の「地」をとって「地ちゃん（チちゃん）」と名付けられた。

1979?月　太地町立くじらの博物館に監禁(?)

1979年6月　死亡（死因：化膿性肺炎）。捕獲4ヶ月後だった。

名無し

性別：女性

捕獲年月：1979年2月

死亡年月：1979年4月

監禁期間：2ヶ月

履歴

1979年2月　和歌山県 太地で捕獲。

アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）が購入予定。

1979年4月　死亡（死因：栄養不良）

名無し（妊娠中）

性別：女性

捕獲年月：1979年2月

死亡年月：1979年3月

監禁期間：1ヶ月

履歴

1979年2月　和歌山県 太地で捕獲。妊娠中だった。

アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）が購入予定。

1979年3月　死亡（死因：流産）。流産により、お腹の赤ちゃんも死亡した。

（赤ちゃん）

性別：不明

捕獲年月：1979年2月

死亡年月：1979年3月

監禁期間：1ヶ月

履歴

1979年2月　和歌山県 太地で捕獲。母のお腹の中にいた。

アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）が購入予定。

1979年3月　死亡（死因：流産）。流産により、母も死亡した。

太ちゃん（タイちゃん）

性別：男性

捕獲年月：1979年2月

死亡年月：1982年6月（太地）

監禁期間：3年4ヶ月

履歴

1979年2月　和歌山県 太地で捕獲。
太地の「太」をとって「太ちゃん（タイちゃん）」と名付けられた。
1979?月　太地町立くじらの博物館に監禁(?)
1982年6月　死亡（死因：気管支炎）

ベンケイ

性別：男性
捕獲年月：1979年2月
死亡年月：1989年2月
監禁期間：10年

履歴

1979年2月　和歌山県 太地で捕獲。
19??年?月　アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）に監禁。
1989年2月　死亡（死因：急性肺炎）

1979年11月　捕獲：アイスランド：2名（鴨川シーワールド 輸入2回目）

カレン（Caren）

性別：女性
捕獲年月：1979年11月
死亡年月：1987年5月4日（鴨川シーワールド）
監禁期間：7年6ヶ月

履歴

1979年11月　アイスランド沖で捕獲。
1979年11月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
1979年12月31日　カナダ・オンタリオ州、マリンランドに監禁。
1980年2月11日　日本・鴨川シーワールドに監禁。
アイスランドからキングと共に輸入。鴨川シーワールド輸入2回目。
1987年5月4日　死亡（死因：顆粒球減少症）
・Keikoと一緒に捕えられました。同じポッド、家族だったのかもしれません。Keikoは、映画「フリーウィリー」に出演し有名になり、後に解放されたシャチです。
・「カレン」はウェールズ語の名前で、「愛情深い、心のこもった、慈善的」を意味します。

キング（King）

性別：男性
捕獲年月：1979年11月
死亡年月：1983年10月（鴨川シーワールド）
監禁期間：3年11ヶ月

履歴

1979年11月　アイスランドの南岸沖で捕獲。
1979年11月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
1979年12月11日　ドイツ・ハンザパークに監禁
1980年2月11日　　日本・鴨川シーワールドに監禁。
アイスランドからカレンと共に輸入。鴨川シーワールド輸入2回目。
1983年10月　死亡（死因：肺炎）
・ケイコ（Keiko）と一緒に捕えられました。同じポッド、家族だったのかもしれません。
Keikoは、映画「フリーウィリー」に出演し有名になり、後に解放されたシャチです。

1980年10月　捕獲：アイスランド：1名

ウシワカ／ベンケイ II （Benkei II）

性別：男性
捕獲年月：1980年10月
死亡年月：1983年7月（アドベンチャーワールド）
監禁期間：2年9ヶ月
履歴
1980年10月　アイスランド沖で捕獲
1980年10月24日　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
1980年12月20日　カナダ・バンクーバー水族館に監禁。
1981年1月　日本・アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）に監禁。
1983年7月　死亡（死因：悪性リンパ腫）

1981年10月　捕獲：アイスランド：1名

ルカ

性別：女性
捕獲年月：1981年10月
死亡年月：　2000年3月29日（アドベンチャーワールド）
監禁期間：18年5ヶ月
履歴
1981年10月　アイスランド沖で捕獲
19??年??月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
19??年??月　ドイツ・ハーゲンベック動物園に監禁。
1985年2月　日本・アドベンチャーワールド（旧ワールドサファリ）に監禁。
2000年3月29日　死亡（死因：不明）
ルカの卵子は、人工授精に備えて保存されている。

1982年2月　捕獲：和歌山県 太地：4名

サッチ（妊娠中）

性別：女性

捕獲年月：1982年2月

死亡年月：1984年4月（江ノ島マリンランド）

監禁期間：2年2ヶ月

履歴

1982年2月　太地で捕獲

198?年?月　江ノ島マリンランドに監禁

1984年4月　死亡（死因：肺炎）

（赤ちゃん）

性別：男性

誕生年月：1982年4月

死亡年月：1982年5月（江ノ島マリンランド）

監禁期間：5日

履歴

1982年4月　野生下で妊娠しており、捕獲。江ノ島マリンランド監禁下で出産

サッチの子？

1982年5月　死亡（死因：授乳不良）。出産して5日後に死亡。

名無し

性別：男性

捕獲年月：1982年2月

死亡年月：1982年6月（太地）

監禁期間：4ヶ月

履歴

1982年2月　太地で捕獲

1982年6月　死亡（死因：肺炎）

・（不明）江ノ島マリンランドに送られる予定だったが、捕獲地で蓄養中に死亡(?)

ベンケイIII

性別：男性

捕獲年月：1982年2月

死亡年月：1983年?月（太地）

監禁期間：1年以内

履歴

1982年2月　太地で捕獲

1983年?月　死亡（死因：不明）

・（不明）個人に販売された（捕獲地で飼育され、捕獲地で死亡）(?)

1984年11月　捕獲：アイスランド：2名（鴨川シーワールド 輸入3回目）

パティ（Patty）

性別：女性

捕獲年月：1984年11月

死亡年月：1987年9月16日（鴨川シーワールド）

監禁期間：2年10ヶ月

履歴

1984年11月　アイスランド沖で捕獲

198?年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。

1985年11月　日本・鴨川シーワールドに監禁。

1987年9月16日　死亡（死因：急性腸炎）

ビンゴ（Thor）

性別：男性

捕獲年月：1984年11月

死亡年月：2014年8月2日（名古屋水族館）

監禁期間：29年8ヶ月

関係：ステラの伴侶。ラビー、ララ、ラン、リンの父。

履歴

1984年11月(推定2才)　アイスランド・レイザルフィヨルズルで捕獲

198?年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁

1985年11月4日(推定3才)　日本・鴨川シーワールドに監禁。

2011年12月15日(推定29才)　名古屋水族館に移送、監禁。

ステラ(母)・ビンゴ(父)・ラン(四女)が移送される。

ラビー(長女)・ララ(次女)、アース(孫)、オスカー(娘婿)と引き離される。

鴨川シーワールドへのレンタル料は、3人5年間で計4億8千万円。

2014年8月2日(推定32才)　死亡（死因：肺炎）

・2001年、ビンゴはのショーの最中、トレーナーを水中に押し込んだと言われているが、公式の情報は無い。

・ビンゴは、マギーとの間に2人（1人1995/3/3出生後5日で死亡、1人早産で死産）、ステラとの間に5人（サラは死亡）の子を作った。

1985年10月　捕獲：和歌山県 太地：2名

ナミ（波）

性別：女性

捕獲年月：1985年10月

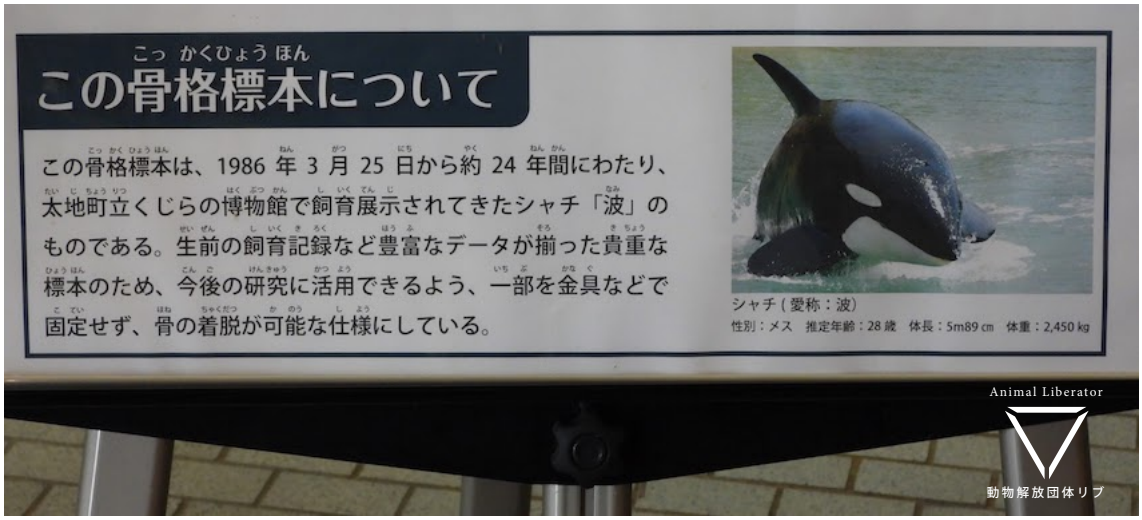
死亡年月：2011年1月（太地町立くじらの博物館）

監禁期間：25年3ヶ月

［写真：ナミ 骨格標本］



［写真：ナミ 説明文］



履歴

1985年10月?日　太地のイルカ漁により捕獲。

19??年??月?日　太地町立くじらの博物館に監禁。

2010年6月17日　名古屋港水族館に監禁。太地町立くじらの博物館から移送。5億円で購入。目的は繁殖。
2011年1月14日(推定28才)　死亡（死因：太地町立くじらの博物館の自然プールで大量の石を飲み込んだ。自殺か）
・太地町立くじらの博物館には、ナミの骨格標本が展示してあるが、ナミの履歴や死因については触れていません。人生を弄ばれ、死んでも骨は自由になることができません。

ゴロー

性別：男
捕獲年月：1985年10月
死亡年月：2005年1月21日（アドベンチャーワールド）
監禁期間：19年3ヶ月
履歴
1985年10月?日(推定2才)　太地のイルカ漁により捕獲。
19??年??月?日　アドベンチャーワールドに監禁。
2005年1月21日(推定22才)　死亡（死因：急性肺炎）
　アドベンチャーワールドにシャチはいなくなった。以降監禁していない。
　ゴローの精子は、人工授精に備えて保存されている。

1986年2月　捕獲：和歌山県 太地：2名

名無し

性別：女性
捕獲年月：1986年2月
死亡年月：1986年4月（太地）
監禁期間：2ヶ月
履歴
1986年2月　太地で捕獲される。
1986年4月　死亡（死因：化膿性腎炎）

名無し／KW-1

性別：女性
捕獲年月：1986年2月
死亡年月：1988年3月（伊豆・三津シーパラダイス）
監禁期間：2年1ヶ月
履歴
1986年2月　太地で捕獲される。
198?年?月　伊豆・三津シーパラダイスに監禁。

1988年3月　死亡（死因：化膿性肺炎）

1987年10月　捕獲：アイスランド：4名（鴨川シーワールド 輸入4回目）

4人捕獲され、すべて鴨川シーワールドが購入、監禁された。

マギー（Maggie）

性別：女性

捕獲年月：1987年10月

死亡年月：1997年10月7日（鴨川シーワールド）

監禁期間：10年

履歴

1987年10月　アイスランド・セイジスフィヨルズゥルで捕獲

　共に捕獲された、ステラ、オスカー、ババは、同じポッド、家族。

1987年??月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。

1988年3月29日　日本・鴨川シーワールドに監禁。

1995年3月3日　ビンゴとの間に男の子ができるが生後30分で死亡。日本初の出産。

1997年10月5日　再びビンゴとの間に子どもができたが早産による死産。

1997年10月7日　死亡（死因：急性膵炎。おそらく出産の合併症）

◯ステラ（Stella）

性別：女性

捕獲年月：1987年10月

死亡年月：生存

監禁期間：35年

所有者：鴨川シーワールド

関係：ビンゴの伴侶。ラビー、ララ、ラン、リンの母。アース、ルーナの祖母。

履歴

1987年10月　アイスランド・セイジスフィヨルズゥルで捕獲

　共に捕獲されたマギー、オスカー、ババは、同じポッド、家族。

198?年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。

1988年?月　日本・鴨川シーワールドに監禁。

2011年12月15日　名古屋水族館に移送、監禁。

　ステラ(母)・ビンゴ(父)・ラン(四女)が移送される。

　ラビー(長女)・ララ(次女)、アース(孫)、オスカー(娘婿)と引き離される。

　*自然界のシャチの母子は、一生一緒に過ごす。

　鴨川シーワールドへ支払うレンタル料は、3人5年間で計4億8千万円。

2022年5月25日(推定38才)　現在、鴨川シーワールドに監禁中

オスカー（Oscar ）／Wolfle

性別：男性

捕獲年月：1987年10月

死亡年月：2012年12月20日（鴨川シーワールド）

監禁期間：25年2ヶ月

関係：ラビーの伴侶。アースとルーナの父。

履歴

1987年10月　アイスランド・セイジスフィヨルズゥルで捕獲

　共に捕獲されたマギー、ステラ、ババは、同じポッド、家族。

198?年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。

1988年?月　日本・鴨川シーワールドに監禁。

2012年12月20日　死亡（死因：原因不明）

ババ（Bubba）／Prince

性別：男性

捕獲年月：1987年10月

死亡年月：1991年7月10日（香港・オーシャンパーク）

監禁期間：3年9ヶ月

履歴

1987年10月　アイスランド・セイジスフィヨルズゥルで捕獲

　共に捕獲されたマギー、ステラ、オスカーは、同じポッド、家族。

198?年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。

1988年?月　日本・鴨川シーワルドに監禁。

1989年4月　香港・オーシャンパークに監禁。

　過密状態のため香港に売却

　ビンゴ、マギー、ステラ、オスカー、ババ、ラビーが、監禁されていた。

1991年7月10日　死亡（死因：シュードモナス（悪性外耳道炎、感染症））

1989年10月　捕獲：アイスランド：3名

ラン（Ran）

性別：女性

捕獲年月：1989年10月22日

死亡年月：2004年8月29日（アドベンチャーワールド）

監禁期間：14年10ヶ月

関係：キュウ（1997年2月に太地で捕獲されたTaiji5の1人）の伴侶

履歴

1989年10月22日(推定1才)　アイスランド・ホルナフィヨルドゥルから20海里沖で捕獲

19??年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
1990年4月4日　日本・アドベンチャーワールドに監禁
2004年8月26日　母ラン、父キュウの間に、アドベンチャーワールド開園から27年目の初の子どもが生まれる。ランは子どもに敵意を示し、キュウが子供を攻撃。何度も噛み、放り投げた。
2004年8月28日　子どもが頭蓋骨骨折で死亡。
同日　死亡（死因：不明）。子どもを追うように亡くなった。ランの卵子は、人工授精に備えて保存されている。

アイ（Ai）

性別：女性
捕獲年月：1989年10月29日
死亡年月：1995年8月25日（アドベンチャーワールド）
監禁期間：5年10ヶ月

履歴

1989年10月29日(推定1才)　アイスランドで捕獲
19??年?月　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
1990年4月4日　日本・アドベンチャーワールドに監禁
1995年8月25日(推定7才)　　死亡（死因：カンジダ真菌症、栄養失調）

ヤマト／Tanouk

性別：男性
捕獲年月：1989年10月21日
死亡年月：2000年10月24日（伊豆・三津シーバラダイス）
監禁期間：11年

履歴

1989年10月21日　アイスランド・ホルナフィヨルドゥルから20海里沖で捕獲
1989年10月21日　アイスランド・ハフナルフィヨルズゥル水族館に監禁。
19??年??月??日　フランス・マリンランドに監禁
1995年11月??日　日本・伊豆・三津シーバラダイスに監禁。
2000年10月24日　死亡（死因：原因不明）
* アイスランド、海外からの、最後のシャチ輸入

1995年3月3日　繁殖［鴨川シーワールド］：1名

（赤ちゃん）

性別：男性
出生年月：1995年3月3日
死亡年月：1995年3月3日（鴨川シーワールド）

監禁期間：1日以下

関係：母マギー・父ビンゴ

履歴

1995年3月　鴨川シーワールドで誕生。

1995年3月　逆子のため僅か30分で死亡（死因：酸素欠乏）

1997年2月　捕獲：和歌山県 太地：Taiji5：6名

アスカ

性別：女性

捕獲年月：1997年2月7日

死亡年月：2007年9月19日（伊豆・三津シーパラダイス）

監禁期間：10年7ヶ月12日

履歴

1997年2月7日　太地で捕獲される。Taiji5の1人。

19??年?月　伊豆・三津シーパラダイスに監禁。

2007年9月19日　死亡（死因：感染症による心不全）

　伊豆・三津シーパラダイスにシャチはいなくなった。以降監禁していない。

クー

性別：女性

捕獲年月：1997年2月7日

死亡年月：2008年9月19日（名古屋港水族館）

監禁期間：11年7ヶ月12日

履歴

1997年2月7日　太地で捕獲される。Taiji5の1人。

19??年?月　太地町立くじらの博物館に監禁。

2003年10月　名古屋港水族館に監禁。

　5年間の期限でレンタルされ、レンタル料金は年間5,000万円、5年間で2億5千万円。

2008年7月　レンタル期間が5年延長される。

2008年9月19日(推定18才)　死亡（死因：感染症による心不全）。

　Taiji5最後の生き残りだった。

名無し（妊娠中）

性別：女性

捕獲年月：1997年2月7日

死亡年月：1997年6月17日（アドベンチャーワールド）

監禁期間：4ヶ月10日

履歴

1997年2月7日　太地で捕獲される。Taiji5の1人。妊娠していた。

1997年?月　アドベンチャーワールドに監禁

1997年6月17日　死亡（死因：不明）

（赤ちゃん）

性別：不明

捕獲年月：1997年2月7日

死亡年月：1997年6月17日（アドベンチャーワールド）

監禁期間：4ヶ月10日

履歴

1997年2月7日　太地で捕獲される。Taiji5の1人が母。胎児だった。

1997年?月　胎児のまま、アドベンチャーワールドに監禁

1997年6月17日　出生することなく死亡（死因：不明）

名無し

性別：男性（子ども）

捕獲年月：1997年2月7日

死亡年月：1997年6月14日（アドベンチャーワールド）

監禁期間：4ヶ月7日

関係：不明（母親は同時に捕獲されたアスカ、クーのいずれかと思われる）

履歴

1997年2月7日　太地で捕獲される。Taiji5の1人。

　捕獲直前まで母親のかたわらにくっついていた。

1997年?月?日　アドベンチャーワールドに監禁

1997年6月14日　死亡（死因：不明）

キュウ

性別：男性

捕獲年月：1997年2月7日

死亡年月：2004年9月18日（アドベンチャーワールド）

監禁期間：7年7ヶ月11日

関係：ラン（1989年10月アイスランドで捕獲）の伴侶

履歴

1997年2月7日　太地で捕獲される。Taiji5の1人。

19??年?月　アドベンチャーワールドに監禁

2004年8月26日　母ラン、父キュウの間に、子どもが生まれる。キュウが子供を攻撃。何度も噛み、放り投げた。

2004年8月28日　子どもが頭蓋骨骨折で死亡。

2004年9月18日　死亡（死因：？）伴侶のランと子どもが死んだ22日後だった。

　キュウの精子は、人工授精に備えて保存されている。

1997年10月5日　繁殖［鴨川シーワールド］

名無し

性別：不明

出生年月：1997年10月5日

死亡年月：1997年10月5日（鴨川シーワールド）

監禁期間：1日以下

関係：母マギー・父ビンゴ

履歴

1997年10月5日　鴨川シーワールドで誕生。

1997年10月5日　早産で死産（死因：不明）。マギーも2日後に死亡した。

1998年1月　繁殖［鴨川シーワールド］

◯ラビー（生存）

性別：女性

誕生年月：1998年1月11日（鴨川シーワールド）

死亡年月：生存

監禁期間：24年4ヶ月14日（2022年5月25日現在）

所有者：鴨川シーワールド

関係：ステラとビンゴの長女。オスカーの伴侶。アースとルーナの母。

履歴

1998年1月11日　誕生（母ステラ、父ビンゴ）

????年?月??日　アースを出産（父オスカー）

????年?月??日　ルーナを出産（父オスカー）

2022年5月25日　現在、鴨川シーワールドに監禁中

2001年2月　繁殖：［鴨川シーワールド］

◯ララ（生存）

性別：女性

誕生年月：2001年2月8日（鴨川シーワールド）

死亡年月：生存

監禁期間：21年3ヶ月17日（2022年5月25日現在）

所有者：鴨川シーワールド

関係：ステラとビンゴの次女。

履歴
2001年2月8日　誕生（母ステラ、父ビンゴ）
2022年5月25日　現在、鴨川シーワールドに監禁中

2003年3月　繁殖：［鴨川シーワールド］

サラ
性別：女性
誕生年月：2003年5月31日（鴨川シーワールド）
死亡年月：2006年4月26日
監禁期間：5年2ヶ月18日
関係：ステラとビンゴの三女。
履歴
2003年5月31日　誕生
2006年4月26日　死亡（死因：？）
　鴨川シーワールドの観客によると、発情を迎えたオスカー（長女 ラビーの伴侶）に追い回されていた。ストレスによるものか。

2004年8月26日　繁殖［アドベンチャーワールド］

名無し
性別：不明
誕生年月：2004年8月26日
死亡年月：2004年8月28日
監禁期間：2日
関係：ランとキュウの子。
履歴
2004年8月26日　誕生。出生後ランは子どもから遠ざかる。キュウが子シャチの尾びれを加え、自分のいたプールに引き込み、何度も噛み、空中に放り投げる。
2004年8月28日　死亡（死因：？）。ランも同日死亡。キュウは22日後に死亡。アドベンチャーワールドのシャチ3人が相次いで死んだ。残ったのはゴローのみ。

2006年2月　繁殖［鴨川シーワールド］

◯ラン（生存）
性別：女性
誕生年月：2006年2月25日（鴨川シーワールド）
死亡年月：生存
監禁期間：16年3ヶ月（2022年5月25日現在）

所有者：鴨川シーワールド
関係：ステラとビンゴの四女。
履歴
2006年2月25日　誕生（母ステラ、父ビンゴ）
2011年12月15日(5才)　名古屋水族館に移送、監禁。
　ステラ(母)・ビンゴ(父)・ラン(四女)が移送される。
　ラビー(長女)・ララ(次女)、アース(孫)、オスカー(姉の婿)と引き離される。
　鴨川シーワールドへ支払うレンタル料は、3人5年間で計4億8千万円。
2015年12月10日　鴨川シーワールドに移送、監禁。
　人工授精させるため。鴨川シーワールドの荒井一利館長は「海外から精子提供を考えている。国内初の成功例を目指したい」と述べている。
　同日、アースをを名古屋港水族館へレンタル。
［URL：久々の再会：https://youtu.be/qnEMvUQO2qc］
2022年5月25日　現在、鴨川シーワールドに監禁

2008年10月　繁殖［鴨川シーワールド］

◯アース
性別：男性
誕生年月：2008年10月13日（鴨川シーワールド）
死亡年月：生存
監禁期間：13年7ヶ月12日（2022年5月25日現在）
所有者：名古屋港水族館
関係：ラビーとオスカーの第一子長男。ルーナの兄。ステラの初孫。
履歴
2008年10月13日　誕生（母ラビー、父オスカー）
2015年12月10日(7才)　名古屋港水族館へ移送、監禁。
　ラビー(母)・オスカー(父)、ララ(叔母)と引き離される。無料レンタル。
　同日ランを鴨川シーワールドへ戻す。
2017年　名古屋港水族館が、アースを鴨川シーワールドから4億8千万円で購入。
2022年5月25日　現在、鴨川シーワールドに監禁

2012年　繁殖：［鴨川シーワールド］

◯ルーナ（生存）
性別：女性
誕生年月：2012年7月19日（鴨川シーワールド）
死亡年月：生存

監禁期間：9年10ヶ月6日（2022年5月25日現在）
所有者：鴨川シーワールド
関係：ラビーとオスカーの第二子長女。アースの妹。ステラの孫。リンの甥っ子。
履歴
2012年7月19日　鴨川シーワールドで生まれる。
2022年5月25日　現在、鴨川シーワールドに監禁

繁殖：［名古屋港水族館］

◯リン

性別：女性
誕生年月：2012年11月13日（名古屋港水族館）
死亡年月：生存
監禁期間：9年6ヶ月12日（2022年5月25日現在）
所有者：？
関係：ステラとビンゴの五女。ルーナの年下の叔母。
履歴
2012年11月13日　誕生（母ステラ、父ビンゴ）
2022年5月25日　現在、名古屋港水族館に監禁

第二部　人間

概要

活動を行うにあたって、ターゲットに関する情報収集と整理、分析は必須です。このことにより、アプローチすべきターゲットの特定や優先順位付け、ターゲットに最適化された事業の選定や開発などを行うことができます。動物解放活動において情報収集や分析に関する先例はほとんどありませんので自分なりに行う必要があります。

鯨族をめぐる人間は「殺す人々」と「守る人々」の二つに分けられます。二者の間はグラデーションとなっています。

第一章　殺す人々：鯨族を搾取する人々やその主張を分類します。

第二章　守る人々：鯨族を守る人々はさまざまな根拠によって守ろうとしています。鯨族を守ろうとする人々を分類します。

［図：鯨類を殺す人々→守る人々へのグラデーション］



第一章　殺す人々

第一節　直接殺害、間接殺害

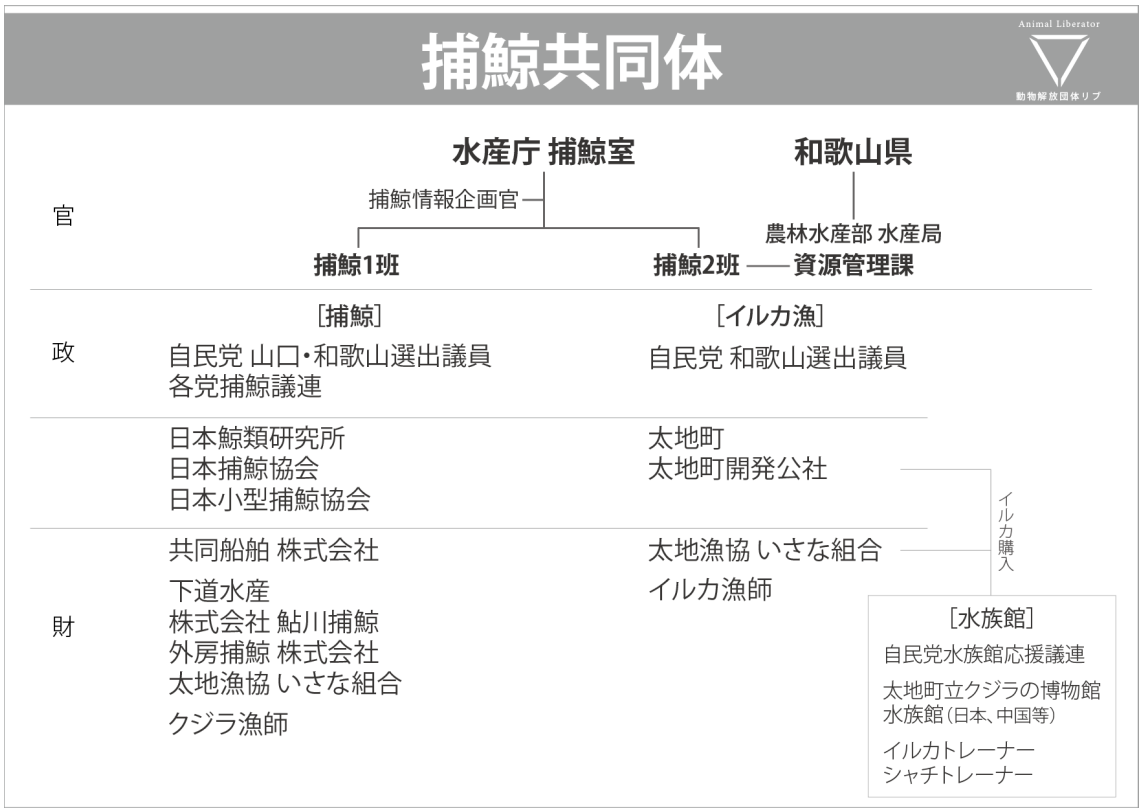
「殺す人々」は、「直接殺害する人々」と「間接的に殺害する人々」に分けられます。
「直接殺害する人々」は意識的に殺害しますが、「間接的に殺害する人々」は、意識的に殺害する人々と、無意識的に殺害する人々に分けられます。
「直接殺害する人々」は、クジラやイルカを、捕鯨砲や殺害道具を使い、自らの手で殺す人々です。
［捕鯨］クジラ漁師
［イルカ漁］イルカ漁師
［漁業］混獲された鯨族を殺害する漁師、害獣駆除を行う漁師
「間接的に殺害する人々 - 意識的に殺害する人々」は、鯨族の捕獲-利用-殺害まで一連のシステムを知っており、生活の糧のために利用している人々です。
［捕鯨］捕鯨業者、捕鯨周辺産業、捕鯨擁護者
［イルカ漁］漁協、イルカ漁周辺産業、イルカ漁擁護者
［水族館］イルカ・シャチトレーナー、水族館周辺産業
［その他］利権を持つ政治家、官僚、軍、メディア等
「間接的に殺害する人々 - 無意識的に殺害する人々」は、鯨族の捕獲-利用-殺害まで一連のシステムを知らず、娯楽欲や食欲のために利用している人々です。
［捕鯨］クジラ肉消費者
［イルカ漁］イルカ肉消費者
［水族館］水族館の観客

イルカ利用問題における最大の問題は、水族館の観客です。最も人数が多く巨額の資金を産業に投じています。無邪気に水族館へ落とすお金が、イルカの殺害を存続させる原因となっています。それ以外の人々の人数は、多くはありません。

第二節　捕鯨共同体・イルカ漁共同体・水族館共同体

鯨族を搾取することにより利益をを得ている利益共同体。以下に図を示します。詳細は［第四部 捕鯨］［第五部 イルカ漁］［第六部 水族館］に記載します。

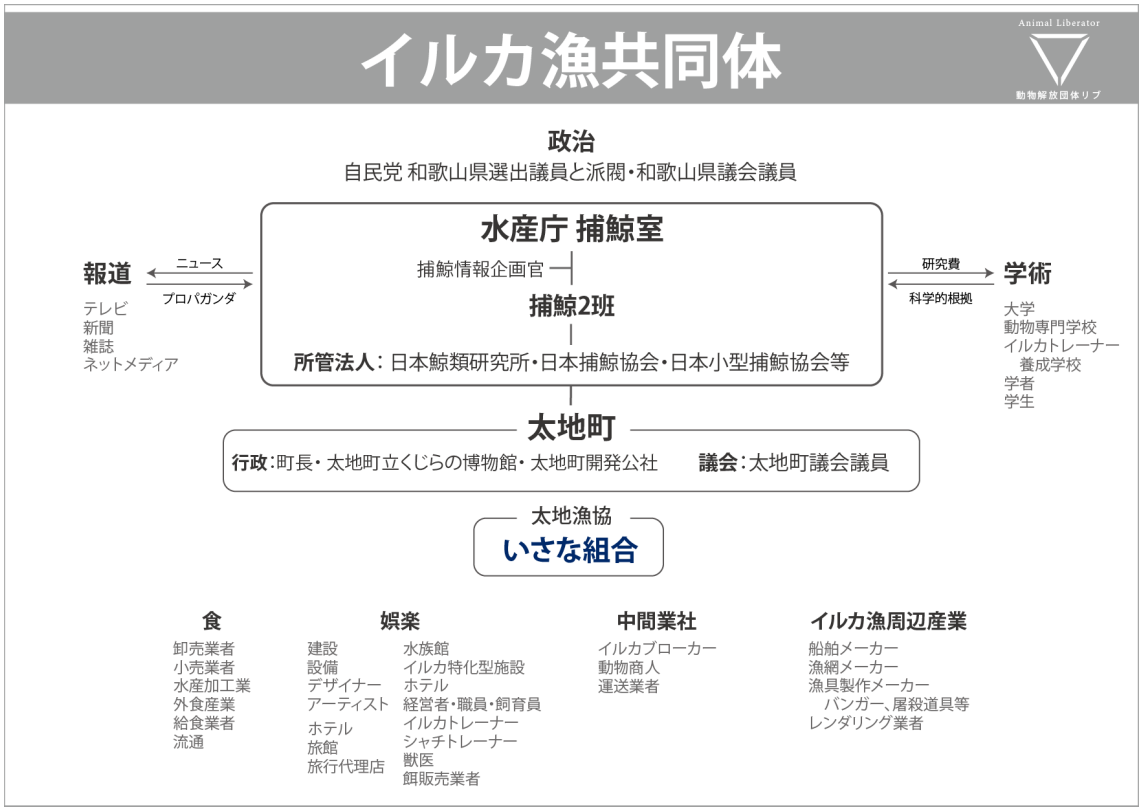
［図：捕鯨共同体］（捕鯨＋イルカ漁）



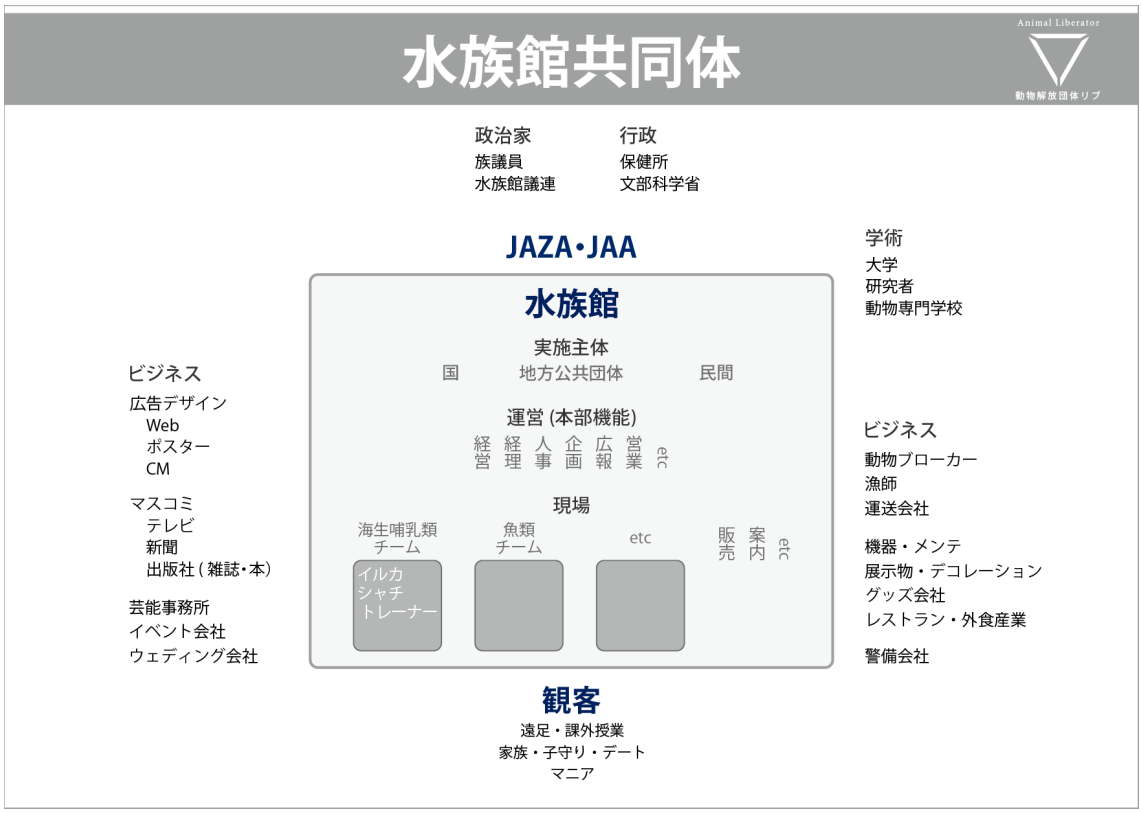
［図：捕鯨共同体］



［図：イルカ漁共同体］



［図：水族館共同体］



捕鯨共同体は数千人に満たないと言われており、イルカ漁共同体はもっと少ないでしょう。捕鯨共同体やイルカ漁共同体は、資本主義の原則からすれば消滅しているはずの産業ですが、補助金等 特権的な権益によって存続しています。社会的価値を失った既得権益を生かしてきたことが、日本経済衰退の大きな原因の一つであり、捕鯨共同体やイルカ漁共同体はその象徴と言えます。

第三節　欲

イルカやクジラ、動物、環境を破壊し止まらない人間の動機は、一つ。
「欲」

本書に貫かれているのが「欲」の問題です。人間の欲は、解決すべき最大の課題です。欲は、自然、動物、様々な大切なものを破壊し続けてきました。場合によっては人間同士や、自分自身の心や体さえ。欲とは何か。欲の種類や働き、抑制方法などに関する研究は、動物解放を志すものにとって必須の知識です。ここでは「欲」に関して考えます。

欲とは、何かをしたいと望むこと、何かを手に入れたいと望むこと。欲は三大欲、五大欲、70の欲、108の煩悩、マズローの欲求五段階説、利己的欲求と利他的欲求など、様々に分析されてきました。
三大欲とは、食欲・性欲・睡眠欲。
五大欲とは、 食欲・性欲・睡眠欲・財欲・名欲。
マズローの欲求五段階説とは、生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求。生理的欲求と安全欲求は生きるための欲求であり、社会的欲求以降は社会的動物としての欲求です。前者は古い脳の欲求、後者は新しい脳の欲求とも言えます。
多くの宗教や哲学や心理学が欲を分析し、その効用や危険性について論じ、教義や社会システムによって抑制、コントロールしようとしてきました。

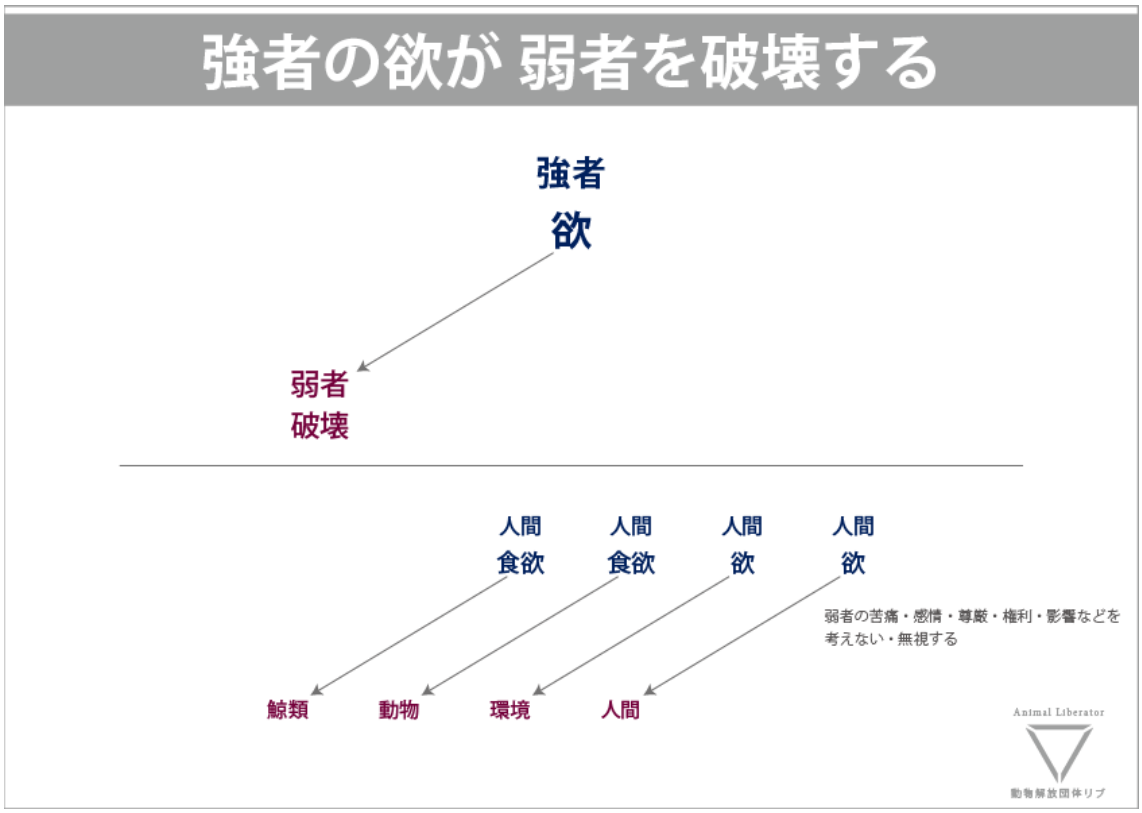
捕鯨やイルカ漁に関係するのは食欲、財欲、娯楽欲などです。このうち食欲に関しては、過去と現代では考え方を変える必要があります。かつて農業技術や保存技術が低く、物流が発達していない社会において、その場所で捕獲できる動物の遺体を食べることは自然であり必須のことだったでしょう。しかし、現代社会は違います。場所、季節問わず、さまざまな穀物や野菜が手に入ります。現在畜産に利用している土地を作物栽培に転用すれば、人間全体に食糧が行き渡ります。イルカ肉食・クジラ肉食や動物食をせずとも、人間は食欲を満たし、十分な栄養を摂ることができます。つまり、食欲のために捕鯨・イルカ漁によって鯨族を殺す必要は、まったくありません。鯨族は、人間の不要な食欲や昔を懐かしむロマンを満たすためだけに殺されています。

カソリックの七つの大罪の視点から、捕鯨やイルカ漁を見てみましょう。七つの大罪とは、暴食、肉欲、強欲、傲慢、憤怒、嫉妬、怠惰。人間に罪を起こさせる7つの欲望や感情のことです。7つの罪のうち、動物に特に危害を及ぼしている罪は、暴食、強欲、傲慢です。
暴食（食欲）は、鯨族に暴力を振るい殺害し絶滅の危機に追いやってきました。人間の身体の維持にイルカ食・クジラ食は不必要です。つまり、すべての鯨族食は不要な欲です。
強欲（娯楽欲、金銭欲等）によって、水族館は鯨族を監禁しショーをさせています。観客のイルカショーを見たい、イルカに触れたいという欲は、生存に不要であり過剰な欲です。つまり、水族館は強欲であると言えます。

傲慢ゆえに、人類は鯨族を侵略し、支配し、殺し、食べることが許されると思い込んでいます。人間の存在が鯨族の存在に優越している根拠はありません。ゆえに、人類は傲慢を克服し、鯨族や他種動物を尊重する社会を作らなければなりません。

欲が、対象の存在や感情や痛み、尊厳や権利を無視したとき、欲は極めてに危険なものとなります。欲は倫理や理性の抑制を無視し、暴走し破壊し続けます。さらに社会システムが欲の実現を後押しした場合、欲の対象は法的根拠を持って破壊されます。強者が弱者を破壊し続ける構造です。欲の合意無き実現は常に、強者から弱者に対して行われ、弱者から強者に行うことは稀です。

［図：強者の欲が 弱者を破壊する］



一部の人間(強者)の欲を優先し、対象(弱者)の痛みに配慮しない態度は、イルカクジラに限らず動物全般に当てはまります。また強者の欲の実現を弱者に押し付ける構造は、戦争や環境問題など、国家規模、地球規模の問題を引き起こし、取り返しのつかない問題を引き起こしてきました。

世界が日本人だけだったら、日本人の欲は鯨族を地球上から消滅させるところまで突き進んでいたかもしれません。

第二章　守る人々

捕鯨推進派や一般の人々からは、鯨族を守ろうとする人々は皆同じ動機で行動しており、活動家は一枚岩だと思われがちです。しかし実際は多様な価値観によって行動しています。太地町でイルカ擁護活動をしている人でも、活動が終わると牛や豚や魚を食べる人々もいれば、ヴィーガンもいます。活動家の間には対立さえあります。それぞれの根拠や思想信条・立場で鯨族を守る活動や表現を行っており、一様ではありません。

第一節　ヒューマニズムとアニマリズム

世界各地で、人間によるイルカのレスキューが行われています。とても素晴らしいことです。しかしこれらの事例の中には、イルカが好きだから、あるいは感情的に心が動が動いたから助けた場合もあるかもしれません。つまり感情的に心が動かなければ助けない、好きではない動物であれば助けない等々の場合もあるということです。
もしかしたら、イルカを助けた日の夕飯に、牛や豚や鶏の遺体を食べる人々もいるかもしれません。これでは、動物の犠牲を減らしたと同時に、別の動物の犠牲を生み出してしまっています。
また、様々な国際組織、政府、NGOが鯨族の保護活動を行なっています。こういった組織で鯨族のために真摯に働いている人でも、他の動物の肉・遺体を食べている人もいます。この場合も、守る動物と殺す動物を差別し、犠牲を生んでいます。

つまり根本的な解決は、すべての動物は平等であり尊厳と権利ある存在であるとする考え方、少なくとも自覚的な動物搾取は行わないという決心、動物解放・アニマリズム・ヴィーガニズムの立場から鯨族を守る活動を行うことによってのみもたらされます。この視点・立場で鯨族を守る人々は、鯨族と同様に他の動物も傷つけないからです。

鯨族を守る人々の立場は大きく、ヒューマニズムの立場とアニマリズムの立場に分けて考えることができます。
ヒューマニズムとは
人間同士の配慮。人間の助け合いの中で利益を共有していこうというものです。人間以外は、尊厳・倫理・法律・権利等の対象外です。
アニマリズムとは
『動物を倫理と権利の対象とし、尊厳と自由を保障すべきであるとする主義であり、動物を社会に包摂するための指針』。社会的に動物解放を実現するための思想です。ヴィーガニズムとは、「人間は動物を搾取することなく生きるべきだという主義」です 。

次節では、ヒューマニズムの立場からの鯨族保護について記述します。
アニマリズム・動物解放の立場からの鯨族擁護については、［本文参照：第八部 第一章 動物解放］で記述します。

第二節　ヒューマニズムの立場からの保護

第一項　イルカだけを守る

ヒューマニズムの立場は、人間の立場から動物をどう扱うか決定するものです。ヒューマニズムの立場においては、イルカやクジラだけを守り、他の動物は利用搾取するという態度は矛盾していません。どの動物を守りどの動物をどのように搾取するかの判断は、法律によって決定され、法律の範囲内で個人や動物産業の好悪や裁量に委ねられます。ヒューマニズムに基づいた判断においては、鯨族を守るか殺すかも、人間の都合によって決められます。イルカを娯楽利用するかしないか、食べるか食べないかも、法律の範囲内で個人の自由です。また、同一人物であったとしても、その時々の状況や気分でイルカを殺したり守ったり、食べたり食べなかったりすることもあるでしょう。
あらゆる動物の生殺与奪や自然の搾取を、人間の都合で決めることができるのがヒューマニズムの世界です。つまり、ヒューマニズムとは、人間中心主義・人間至上主義と言えます。

第二項　イルカ保護活動を行う動機の類型

以下にヒューマニズムの立場からイルカ活動を行う動機の類型を挙げます。
1. 個人的な好悪
2. 環境・生態系・生物多様性・種の保護
3. 資源の保全
4. イルカは高度に知的な動物であるから
5. 宗教的戒律
6. ニューエイジ
7. 詐欺まがいの活動

一つ一つ見ていきましょう。

1 個人的な好悪によるイルカ保護
動物愛護的な立場です。犬や猫を守りながら、牛豚鶏を食べるように、イルカやクジラを守りながら、自分が利用したいと思う動物は利用します。水族館でのイルカショーは楽しみますがイルカ漁には反対、イルカの食肉利用には賛成、イルカの娯楽利用は反対、鯨肉を食べるのは日本文化だがイルカ肉を食べるのはどうかと思う、など個人の価値観や気分によって様々な判断が行われます。

2 環境・生態系・生物多様性・種の保護
環境保護の一環としてのイルカ保護活動は、二つの動機に分けられます。保全と保存です。
保全（conservation）とは、人間のための保護。人間による、環境や生態系の永続的な利用搾取を目的として、環境を守ろうとする立場です。あくまで人間の存続や快楽が目的であり、ゆえに環境や資源が回復したと判断されたら搾取を再開します。環境保護は、保全を目的とした活動が主流であり、常識的な態度であると捉えられている様に見えます。また

SDGsは、ヒューマニズムに基づく保全です。ゆえにこれまでの瀬作と同様失敗するでしょう。保全思想による環境改善策で環境保護は不可能だということはすでにわかっているはずです。日本政府や捕鯨共同体の主張は、イルカ・クジラ保全論であり、人間が鯨族を利用し続けることを目的とし保護しようとするものです。「3 資源の保全」と同様です。
保存（preservation）とは、その存在そのもののための保護。そこに存在する自然や動物を、そのまま守り、人間からも保護しようとする立場です。保存を目的とするイルカ保護は、イルカそのもののためにイルカを守ろうというもの。動物解放の立場からのイルカ保護に似ています。

3 資源の保全
資源の保全を目的とするイルカ保護は、イルカを資源とみなし、利用搾取し続けるために行う保護活動です。例えば、IWCの当初の設立目的・水産庁による鯨族捕獲枠の設定・太地のイルカ漁師によるイルカのリリースなどは、資源の保全を目的とした活動です。

4 イルカは高度に知的な動物であるから
イルカは高度に知的な動物であるゆえに守るべきであるという主張は、鯨族利用肯定派による「イルカを特別視し他の動物を搾取するのか」という反論を呼び起こしがちです。実は、鯨族利用廃止派もこの反論「イルカを特別視し他の動物を搾取するのか」とまったく同じ反論を行います。目的が真逆でありながら同じ主張となるのは、面白いことです。
特定の動物種を特別扱いし、他の動物を卑下しあるいは搾取する態度を「種差別」と言います。イルカのみを特別扱いする態度は、種差別と言えます。なお、人間が動物を差別することを「動物差別」と言います。

5 宗教的戒律
例えば、ユダヤ教ではイルカやクジラは食べていけないものとされています。ユダヤ教ではトーラー（レビ記11章）によって、食べて良いものと、食べてはだめなものが細かく指定されており、食べて良いものを「コーシャ」と呼びます。トーラーでは海に住む者のうち、鱗が無いものはコーシャではないとされています。ゆえに、イルカやクジラは食べません。
ジャイナ教や仏教では、非暴力不殺生が教義の根本にあります。ゆえに、当然鯨族を食べることは戒律を破ることになります。

6 ニューエイジ
ニューエイジとは、1970年代隆盛を極めたスピリチュアルムーブメントです。西洋宗教や東洋宗教や様々な形而上学的思想の融合、宗教や宗教指導者を介さず個人が直接形而上学的存在と繋がれるとする考え方、瞑想やダンスなどによる至高体験の追求などが特徴です。
ニューエイジ的立場からは、イルカはスピリチュアルな存在、宇宙と繋がる存在など、動物の中でも特別な地位を占める存在と見られていました。

かつて、ニューエイジ的立場からのイルカ保護は大きいものだったようです。日本でもこの立場からの活動が行われていました。しかしニューエイジムーブメントの衰退とともに彼らの活動も縮小しました。

7 詐欺まがいの活動

自称活動家が太地町でイルカ保護活動を行うと主張し、外国人を中心に寄付を集めたことがあります。彼は活動とも言えないような活動を行い、姿を消しました。

第三章　国際条約と組織

鯨族の保護活動や搾取活動を行う機関や制度には、国際組織、政府、民間、条約などがあります。
保護活動の多くはヒューマニズムに基づく環境・生態系・生物多様性・種の「保全」を行なっています。しかし近年は、IMFが、”クジラは人間の道具ではなく、その存在自体に価値があり生きる権利を持っている”とレポートするなど、鯨族保護の動機に大きなパラダイムシフトが起こりつつあると感じます。
主な国際条約と組織を、設立された順に見ていきます。民間組織に関しては［本文参照：第七部 第一章 第一節　主な団体と活動］へ。

第一節　IWC：国際捕鯨委員会

概要
IWC
略称　IWC
英語名称　The International Whaling Commission
日本語名称　国際捕鯨委員会
［URL：IWC：https://iwc.int/en/］
本部　UK ケンブリッジ
締約国　88カ国（2022.07.04時点）

ICRW
略称　ICRW
英語名称　International Convention for the Regulation of Whaling
日本語名称　国際捕鯨取締条約

沿革
1946年12月2日　アメリカ ワシントンD.C.でICRWが締結される。15ヶ国が署名。ICRWの意思決定機関として世界中の捕鯨を統治するため、IWCが設立される。IWC総会を毎年開催し、捕獲枠などを決定する。
1948　ICRW発効
1949　IWC1(第一回国際捕鯨委員会総会)がUKのロンドンで開催される
1951年4月21日　日本が加盟
1982年　商業捕鯨一時停止(モラトリアム)。IWCは、鯨族保護を目的とし、商業捕鯨のモラトリアムを採択。当時の管理方式NMPの失敗により持続可能な捕獲数が算定できず、鯨族を絶滅の危機に陥れかねなかったため。
2012年　IWC64よりIWC総会が隔年開催に（科学委員会は毎年開催）。
2019年6月30日　日本：脱退

事業目的

設立当初

・クジラ資源の適切な保全

・捕鯨産業の秩序ある発展

2018年 フロリアノポリス宣言以降（MAP）

・クジラ及び海洋哺乳類を永久に保護する

・すべての鯨族の個体数を産業革命以前の数に回復させる

抜本的な目的変更ですが、日本・ノルウェー・アイスランドなど捕鯨推進国はこれを拒否。否決されました。

組織

以下の構成要素からなる。

①委員会（Commissions）：締約国88カ国の代表（Commissioner）からなる委員会

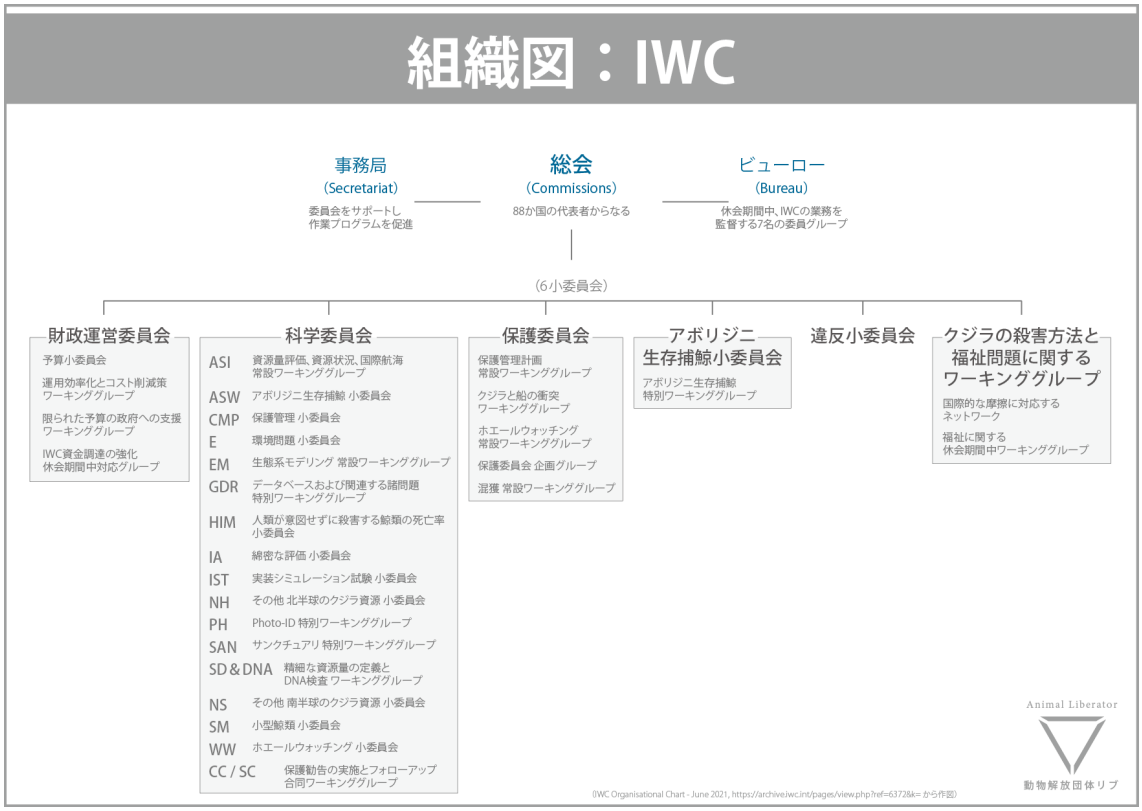
②事務局（Secretariat）

③ビューロー（Bureau）：休会期間中にIWCの業務を監督する。88カ国から7名選出

④6委員会

1. 財政運営委員会（Finance & Administration Committee）
2. 科学委員会（Scientific Committee）
3. 保護委員会（Conservation Committee）
4. アボリジニ生存捕鯨小委員会（Aboriginal Subsistence Whaling Sub-committee）
5. 違反小委員会（Infractions Sub-committee）
6. 鯨の殺害方法と福祉問題に関するワーキンググループ（Working Group on Whale Killing Methods and Welfare Issues）

［図：組織図：IWC］（参考 (2022.7)）



国際捕鯨取締条約対象種

条約が対象とする鯨種は正式に決まっておらず、クジラ保護国と反クジラ保護国で解釈が異なっています。クジラ保護国は、小型鯨類（イルカ）を含むすべての鯨種が対象であるとしています。一方、反クジラ保護国である日本は、大型ヒゲクジラとマッコウクジラの計14種としています。水産庁等のページには17種と書いてありますが、それはあくまでも日本の解釈です。17種は以下。

シロナガスクジラ、ナガスクジラ、ホッキョククジラ、セミクジラ、タイセイヨウセミクジラ、ミナミセミクジラ、コセミクジラ、イワシクジラ、ザトウクジラ、コククジラ、ニタリクジラ、ツノシマクジラ、ミンククジラ、クロミンククジラ、キタトックリクジラ、ミナミトックリクジラ、マッコウクジラ

国際捕鯨取締条約

［URL：国際捕鯨取締条約と附表（日本語_外務省訳）：https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/pdfs/B-S38-E3-1079_1.pdf］

［URL：国際捕鯨取締条約（英語）：https://archive.iwc.int/pages/view.php?ref=3607&k=］

［URL：国際捕鯨取締条約 附表（英語）：https://archive.iwc.int/pages/view.php?ref=3606&k=］

日本の捕鯨産業が違反していた条文の一つである国際捕鯨取締条約第五条と第九条の罰則、国際捕鯨取締条約 附表を記載します。［本文参照：第四部 第八章 第三節 第四項　クジラ漁師・捕鯨産業の違法行為］

第五条

１　委員会は、鯨資源の保存及び利用について、（a）保護される種類及び保護されない種類、（b）解禁期及び禁漁期、（c）解禁水域及び禁漁水域（保護区域の指定を含む。）、（d）各種類についての大きさの制限、（e）捕鯨の時期、方法及び程度（一漁期における鯨の最大捕獲量を含む。）、（f）使用する漁具、装置及び器具の型式及び仕様、（g）測定方法、（h）捕獲報告並びに他の統計的及び生物学的記録並びに（i）監督の方法に関して規定する規則の採択によつて、付表の規定を随時修正することができる。

第九条

１　各締約政府は、この条約の規定の適用とその政府の管轄下の人又は船舶が行う作業におけるこの条約の規定の侵犯の処罰とを確保するため、適当な措置を執らなければならない。

２　この条約が捕獲を禁止した鯨については、捕鯨船の砲手及び乗組員にその仕事の成績との関係によつて計算する賞与又は他の報酬を支払つてはならない。

３　この条約に対する侵犯又は違反は、その犯罪について管轄権を有する政府が起訴しなければならない。

４　各締約政府は、その監督官が報告したその政府の管轄下の人又は船舶によるこの条約の規定の各侵犯の完全な詳細を委員会に伝達しなければならない。この通知は、侵犯の処理のために執つた措置及び科した刑罰の報告を含まなければならない。

国際捕鯨取締条約 附表

1(a) 各母船には、二十四時間監督を行うために、少なくとも二人の捕鯨監督官を置かなければならない。これらの監督官は、母船に対して管轄権を有する政府によつて任命され、且つ、給料を支払われる。

(b)各鯨体処理場では、充分な監督を行わなければならない。各鯨体処理場に勤務する監督官は、鯨体処理場に対して管轄権を有する政府によつて任命され、且つ、給料を支払われる。

3 稚鯨若しくは乳飲鯨又は稚鯨若しくは乳飲鯨を伴う雌鯨を捕獲し、又は殺すことは、禁止する。

クジラ資源管理方式の変遷

IWCは持続可能な捕鯨を実現するために、捕獲可能なクジラの数を算出する方式を開発してきました。以下がその変遷です。

〜1972　BWU(Blue Whale Unit**)：シロナガスクジラ単位**

シロナガスクジラ1人の鯨油量を1BWU（110バーレル）とする。

ナガスクジラ2BWU、ザトウクジラ2.5BWU、イワシクジラ6BWU。

世界全体で捕獲枠を16,000BWUとしたが失敗し、クジラの激減を招いた。

オリンピック方式：BWUで全体の頭数制限を行い、その枠内で各国がクジラを獲り合い競う方式。捕鯨オリンピックと呼ばれた。各国がクジラの殺害を競い合い大量虐殺を招いた。日本は各国が捕鯨から撤退を開始した後の1959年、世界一位に。

1974〜　NMP(New Management Procedure**)：新管理方式**

クジラそれぞれの生物学的特性値や系群構造など詳細な科学的データを基に捕獲可能数を導き出す方式。初期のクジラの人口の60%を維持しながら殺害することで最も高い生産性を維持できるとし、54%を切った場合捕鯨を禁止するとした。NMPの失敗により、商業捕鯨が一時停止となった。

1994〜　RMP(Revised Management Procedure) **＝改訂管理方式**

現在の個体数の推定値と、過去の捕獲数、2つのデータで捕獲可能数を導き出す

CLA（Catch Limit Algorithm：捕獲限度量アルゴリズム）を用いた方式。

????〜　RMS(Revised Management Scheme)：**改訂管理制度**

未採択。国際監視員制度や、操業船舶に対する衛星監視システムの導入などをめぐり、意見が対立。採択に至っていない。2006年、RMSに関する議論は、無期限の延期となった。

2022〜　TAC（Total Allowable Catch）：**漁獲可能量**

2022年からヒゲクジラ3種はTACによる管理に移行した。漁獲可能量は、水産庁が研究者を集め、算出している。

IWCの限界

①加盟国は異議を申し立てを行うことで、規制を拒否することができる。
②違反に対して罰則を課すことができない。
③加盟国は、自由に組織を離れることができる。

IWCをめぐる日本の問題

［本文参照：第四部 第七章 第三節 第六項　クジラをめぐる国際対立］

第二節　IUCN：国際自然保護連合

概要

略称　IUCN
英語名称　International Union for Conservation of Nature and Natural Resources
日本語名称　国際自然保護連合
［URL：IUCN：https://www.iucn.org/］
設立　1948年
本部　スイス グラン

事業

自然保護と天然資源の持続可能な利用の分野で活動。保護地域の設定、レッドリストの作成、世界遺産のうち自然遺産の調査、教育など。わかりやすく表現しますと、絶滅しそうな野生の動植物の取引を野放しにしてしまうと、金銭目的の人々が取り尽くし、売買し、絶滅を早めてしまうので、国同士が協力して守りましょうというものです。
国際取引を制限している種を記載したものをCITES(サイテス)付属書といい、最も保護が必要な動物から順番に、CITES Ⅰ、CITES Ⅱ、CITES Ⅲとなっています。

組織

以下の3構成要素からなる。
①事務局
本部はスイスのグラン。50カ国以上にオフィスがあり1,000人のフルタイムスタッフが働いている。
②6委員会
1. CEC　教育とコミュニケーションに関する委員会
2. CEESP　環境、経済、社会政策に関する委員会（生物多様性、持続可能な利用、経済）
3. WCEL　環境法に関する世界委員会
4. CEM　生態系管理委員会（生態系管理）
5. SSC　種生存委員会（種の保全戦、絶滅危惧種の回復計画）
6. WCPA　保護地域に関する世界委員会（保護区管理）

15,000人以上の科学者や専門家がボランティアで参加している。
③メンバー
国家、政府機関、NGOなど1,400を超える組織の連合。
日本からは外務省・環境省・WWFジャパン・JAZAなど22組織が加盟(2022.07.03時点)

関連グループ

略称　IUCN／SSC CSG
英語名称　IUCN／Species Survival Commission Cetacean Specialist Group
［URL：https://iucn-csg.org/home/］
英語名称　IUCN MARINE MAMMAL PROTECTED AREAS TASK FORCE

［URL：https://www.marinemammalhabitat.org/］

略称　WCPA

英語名称　IUCN World Commission on Protected Areas

［URL：https://www.iucn.org/commissions/world-commission-protected-areas］

［図：組織図：IUCN］（**参考**）



レッドリスト

英語名称　The IUCN Red List of Threatened Species

日本語名称　レッドリスト、絶滅のおそれのある野生生物のリスト

レッドデータブック掲載されている動物のリスト。

レッドデータブック

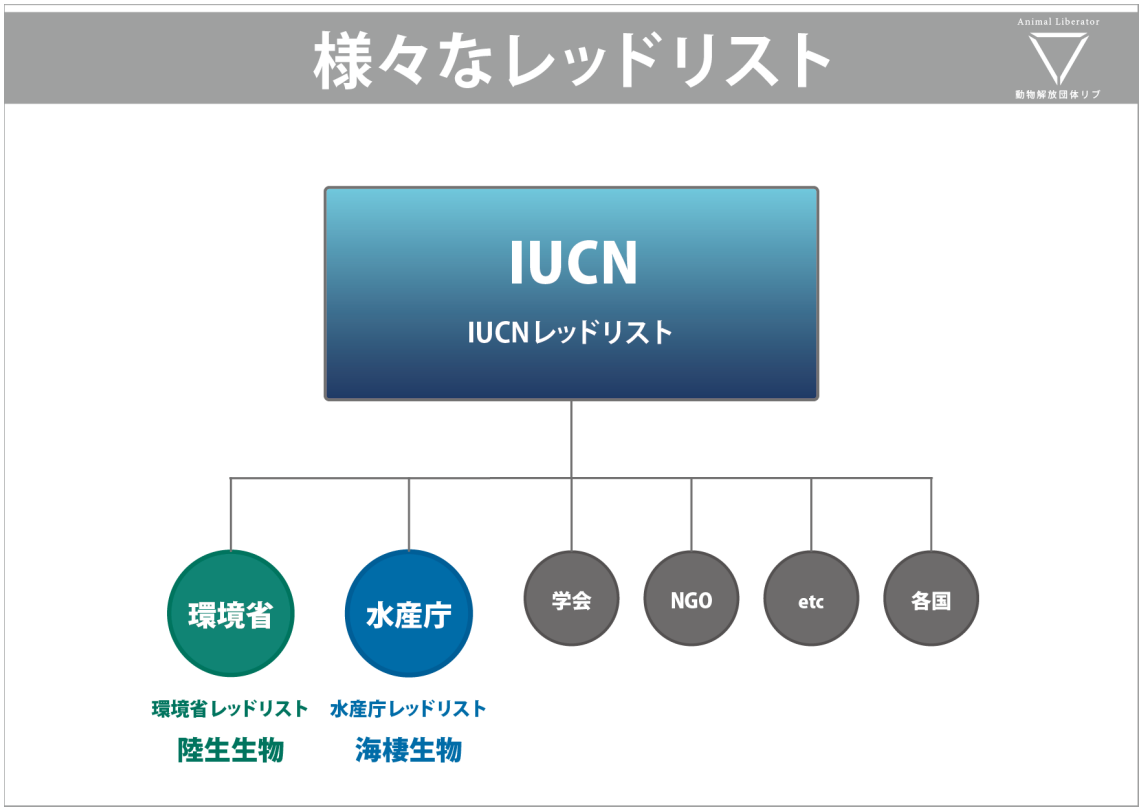
略称　RDB

英語名称　Red Data Book

日本語名称　レッドデータブック

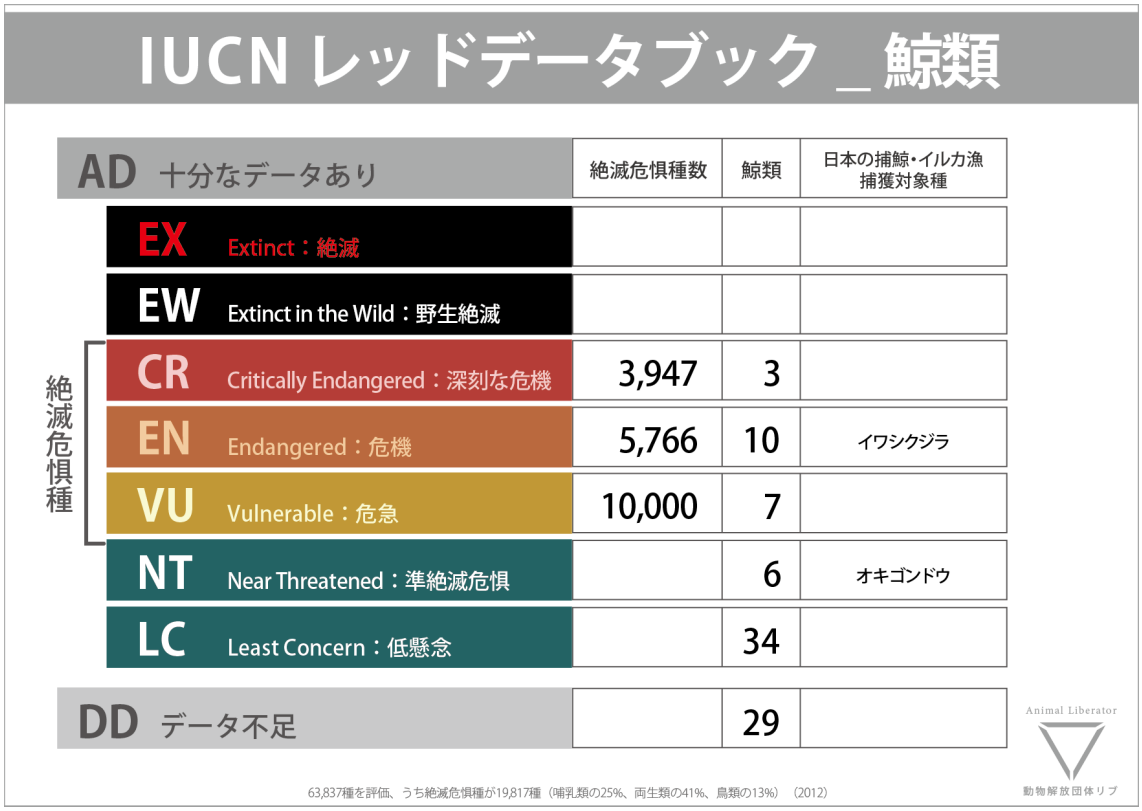
1966年から発表。世界で最も信頼されているのがIUCNのレッドリスト。さまざまな組織がレッドリストを発行しており、日本では「環境省レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」、「水産庁レッドリスト」、都道府県等自治体等が発表しているレッドリストなどがあります。

［図：様々なレッドリスト］



基準

［図：IUCNレッドデータブック_鯨類］



EX（Extinct）：絶滅

EW（Extinct in the Wild）：野生絶滅

Threatened：絶滅危惧、絶滅危機種

　CR（Critically Endangered）：深刻な危機

　EN（Endangered）：危機

　VU（Vulnerable）：危急

NT（Near Threatened）：準絶滅危惧

LC（Least Concern）：低懸念

* 十分なデータがある(Adequate data)場合に評価され、データが不足している場合DD（Data Deficient）とされ評価されない。一般的に言われる「絶滅危惧種」とは、CR、EN、VUのこと。

絶滅危惧種の数

2012リリースされたIUCNレッドリストでは、63,837種を評価、うち絶滅危惧種が19,817種。

CR 3,947種

EN 5,766種

VU 10,000種

哺乳類の25%、両生類の41%、鳥類の13%が絶滅危惧種となっています。

レッドデータブックに掲載されている日本の捕鯨・イルカ漁捕獲対象種

イワシクジラ：絶滅危惧種 - 危機（EN：Endangered）

オキゴンドウ：絶滅危惧種 - 危急（NT：Near Threatened）

他の鯨族は、低危険種（LC：Least Concern）です。

水産庁レッドリストについての問題点は［本文参照：第四部 第七章 第七節 第三項　水産庁レッドリスト］へ。

第三節　CITES：ワシントン条約

概要

略称　CITES（日本ではサイテスと読む）

英語名称　Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora

日本語略称　国際自然保護連合

日本正式名称　絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約

［URL：CITES：https://cites.org/eng］

発効　1975年7月1日

本部　スイス ジュネーブ

締約国　183か国及び欧州連合(EU)（2022.3現在）。日本は経済産業省が所管

事業目的

絶滅が懸念される野生動植物の生体・遺体の国際取引を規制し、保護をはかる。

組織

以下の構成要素からなる。

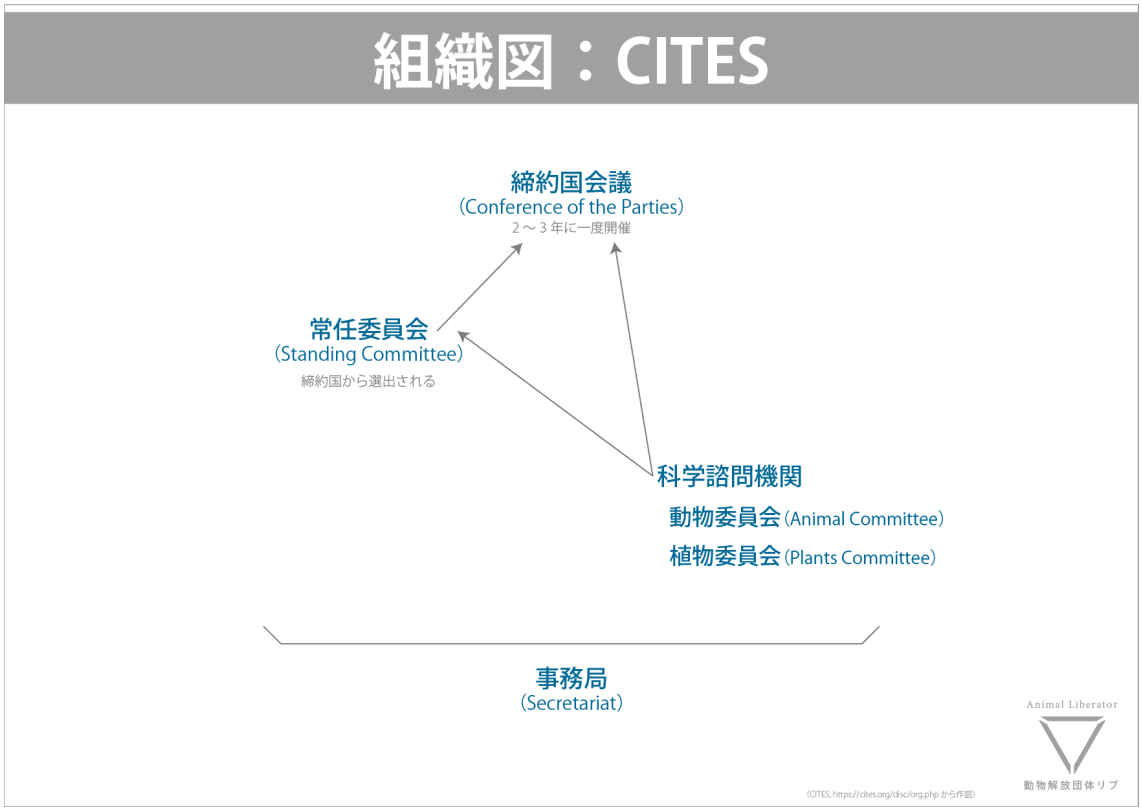
①締約国会議(Conference of the Parties)：2〜3年に一度開催

②常任委員会(Standing Committee)：締約国から選出される

③動物委員会(Animal Committee)：動物に関する科学諮問機関

④植物委員会(Plants Committee)：植物に関する科学諮問機関

⑤事務局(Secretariat)



［図：組織図：CITES］（参考 (2022.7)）

CITES付属書

I〜IIIの3段階の規制を設けており、付属書(Appendix)に動植物種を記載している。

CITES付属書Ⅰ：絶滅のおそれのある種。商業取引原則禁止。商業取引以外の取引には、輸出国、輸入国の許可書が必要。約1,050種。

CITES付属書Ⅱ：取引を規制しなければ絶滅のおそれのある種。輸出国の許可書が必要。約34,600種。

CITES 付属書Ⅲ：締約国が規制が必要と認め、かつ、他締約国の協力が必要な種。輸出国からの許可書が必要。約220種。

* 商業取引以外の取引とは、①学術的目的 ②教育・研修 ③飼育繁殖事業 ④個人的利用。

* 日本の許可書を発効するのは、経済産業省、農林水産省。

*

鯨族の輸出入とCITES

生体鯨族を輸出する際、輸出者はCITESに基づき、①輸出国の許可（日本であれば経済産業省）、②輸入国の許可、を受けることが必要になります。国内の売買にはCITESは関係ありません。なお、鯨族の輸出入に検疫は不要です。

日本の立場は、野生動植物の保護について、持続可能な利用の考えに立った措置が重要、としています（環境省）。CITESの目的である野生動植物の保護ではなく、搾取対象として搾取可能かどうかに関心の力点があります。

CITES付属書と鯨類（CITES、経済産業省）

［図：CITES付属書-鯨類］



CITES付属書Ⅰ

セミクジラ科　Balaenidae

　ホッキョククジラ　Balaena mysticetus

　セミクジラ属全種　Eubalaena spp.

ナガスクジラ科　Balaenopteridae

　ミンククジラ* (西グリーンランドの個体群を除く)　Balaenoptera acutorostrata

　クロミンククジラ*　Balaenoptera bonaerensis

　イワシクジラ*　Balaenoptera borealis

　ニタリクジラ*　Balaenoptera edeni

　シロナガスクジラ　Balaenoptera musculus

　ツノシマクジラ*　Balaenoptera omurai

　ナガスクジラ*　Balaenoptera physalus

　ザトウクジラ　Megaptera novaeangliae

マイルカ科　Delphinidae

　カワゴンドウ*　Orcaella brevirostris

　オーストラリアカワゴンドウ*　Orcaella heinsohni

　コビトイル属全種　Sotalia spp.

　ウスイロイルカ属全種　Sousa spp.（Humpback Dolphins）

コククジラ科　Eschrichtiidae

　コククジラ　Eschrichtius robustus

アマゾンカワイルカ科　Iniidae

　ヨウスコウカワイルカ　Lipotes vexillifer

コセミクジラ科　Neobalaenidae

　コセミクジラ　Caperea marginata

ネズミイルカ科　Phocoenidae

　スナメリ(長江(ヤンツェ) ネズミイルカ)　Neophocaena asiaeorientalis

　スナメリ（インド太平洋 ネズミイルカ）　Neophocaena phocaenoides

　コガシラネズミイルカ　Phocoena sinus

マッコウクジラ科　Physeteridae

　マッコウクジラ*　Physeter macrocephalus

カワイルカ科　Platanistidae

　カワイルカ属全種　Platanista spp.

アカボウクジラ科　Ziphiidae

　ツチクジラ属*　Berardius spp.

　トックリクジラ属　Hyperoodon spp.

（* は、日本が留保している種）

CITES付属書 II

CITES付属書 I 以外の全ての鯨類。

日本が留保しているCITES付属書 I 記載種

ナガスクジラ
イワシクジラ
マッコウクジラ
ミンククジラ
ミナミミンククジラ
ニタリクジラ
ツノシマクジラ
ツチクジラ
カワゴンドウ
オーストラリアカワゴンドウ

CITESの限界

①締約国は留保を行うことで、規制を拒否することができる。
②「商業取引以外の取引」名目、で動物園水族館をはじめとする動物産業が動物を輸出入できる。
③国内取引には関与できない。ゆえに、日本の沿岸捕鯨の鯨肉取引やイルカ漁のイルカ肉取引・生体取引を規制することはできない。日本国内は種の保存法で管理されている。

CITESをめぐる日本の問題

［本文参照：第四部 第七章 第七節 第四項　国際条約と環境と捕鯨］

第四節　CMS：ボン条約

概要

略称　CMS

英語名称　The Convention on the Conservation of Migratory Species of Wild Animals

日本語略称　ボン条約

日本正式名称　移動性野生動物種の保全に関する条約

［URL：CMS：https://www.cms.int/］

発効　1983年11月1日

本部　ドイツ ボン

締約国　131カ国（2022年時点）

事業目的

陸上、海洋、空中で渡りを行い国家間の領域の移動をする移動性野生動物種の保護

・絶滅のおそれのある移動性動物種を厳格に保護する

・移動性動物種の生息地を保護し、回復させる

・移動の障害になる要因を軽減させる

・その他動物にとって危険となる原因を管理する

・移動性動物種の保護と管理に関する多国間協定の締結

・移動性野生動物種に関する研究の促進、協力、支援

・共同研究活動

・付属書Ⅰの移動性野生動物種の即時保護を提供するよう努めなければならない

・付属書Ⅱの移動性野生動物種の保護と管理を対象とする協定の締結に努めなければならない

組織

以下の構成要素からなる。

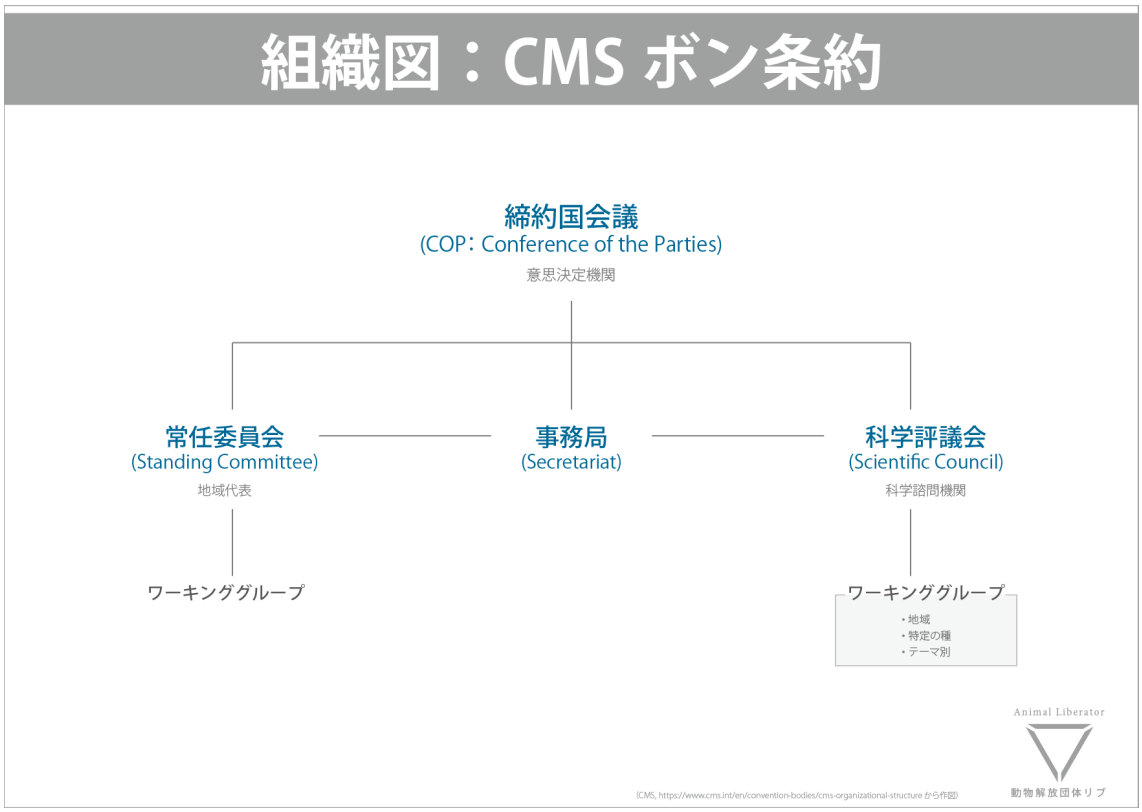
①締約国会議(Conference of the Parties)：意思決定機関

②常任委員会(Standing Committee)：地域代表

③科学評議会(Scientific Council)：科学諮問機関

④事務局(Secretariat)

［図：組織図：CMS ボン条約］（参考 (2022.7)）



CMS付属書

I～IIIの3段階の規制を設けており、付属書（Appendix）にそれぞれの動植物種を記載している。

CMS付属書 I：絶滅の恐れのある移動性野生動物種

CMS付属書 II：保全のために国際協力が必要な移動性野生動物種

CMS下で締結された7協定のうち、鯨類に関する2協定

ACCOBAMS

英語名称　Agreement on the Conservation of Cetaceans of the Black Sea, Mediterranean Sea and Contiguous Atlantic Area

日本名称　黒海・地中海・隣接する大西洋地域の鯨類保護協定

［URL：ACCOBAMS：https://accobams.org/］

ASCOBANS

英語名称　Agreement on the Conservation of Small Cetaceans of the Baltic, North East Atlantic, Irish and North Seas
日本語名称　バルト海、北東大西洋、アイルランド、北海の小型クジラ類の保護に関する協定

［URL：ASCOBANS：https://www.ascobans.org/］

CMS下で締結されたMoU(覚書、合意文書)のうち、鯨類に関する2協定

英語名称　The Memorandum of Understanding (MoU) for the Conservation of Cetaceans and their Habitats in the Pacific Island Region
日本語名称　太平洋諸島地域における鯨類と生息地の保護に関する覚書

［URL：Wikipedia：https://en.wikipedia.org/wiki/Pacific_Islands_Cetaceans_Memorandum_of_Understanding］

英語名称　The Memorandum of Understanding (MoU) Concerning the Conservation of the Manatee and Small Cetaceans of Western Africa and Macaronesia
日本語名称　西アフリカとマカロネシアにおけるマナティーと小型鯨類の保護に関する覚書

［URL：Wikipedia：https://en.wikipedia.org/wiki/West_African_Aquatic_Mammals_Memorandum_of_Understanding］

日本

日本は加盟していません。日本の漁業者が捕獲している、クジラやイルカ、サメ、海亀などが保護対象となっているためです。

CMSをめぐる日本の問題

［本文参照：第四部 第七章 第七節 第四項　国際条約と環境と捕鯨］

第五節　その他

第一項　NAMMCO：北大西洋海産哺乳動物委員会

概要

略称　NAMMCO
英語名称　North Atlantic Marine Mammal Commission
日本語名称　北大西洋海産哺乳動物委員会
設立　1992年7月9日
［URL：NAMMCO：https://nammco.no/］
本部　ノルウェー トロムソ
参加国　アイスランド、ノルウェー、グリーンランド自治政府、フェロー自治政府
IWCの鯨族保護政策への不満から、対抗して設立されました。

事業目的

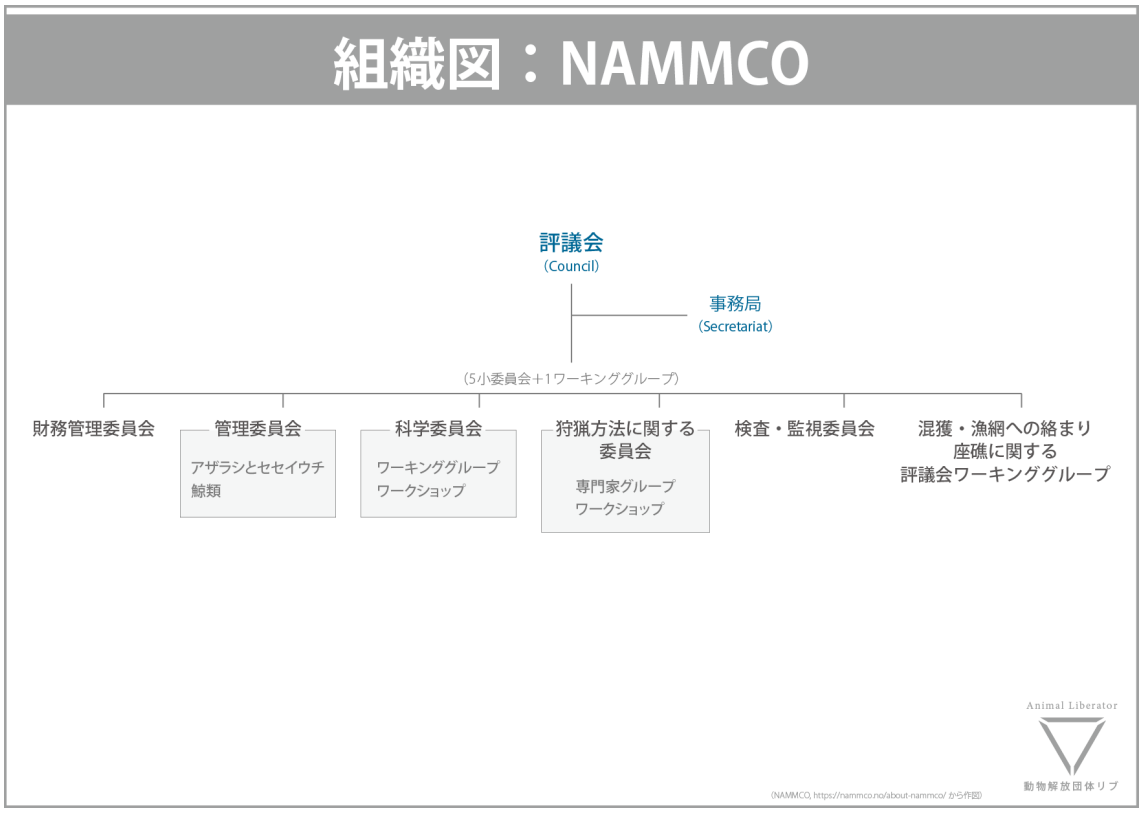
北大西洋の鯨族と鰭脚類の保護、管理、研究。

条約対象鯨族

海洋哺乳類

組織

［図：組織図：NAMMCO］（参考 (2022.7)）



①評議会（Council）

②事務局（Secretariat）
③5小委員会・1ワーキンググループ
1. 財務管理委員会（Finance and Administration Committee）
2. 管理委員会（Management Committees）
- アザラシとセイウチ（Seals & Walrus）
- 鯨族（Cetaceans）
3. 科学委員会 - ワーキンググループ/ワークショップ（Scientific Committee - Working Groups / Workshops）
4. 狩猟方法に関する委員会 - 専門家グループ/ワークショップ（Committee on Hunting Methods - Expert Groups / Workshops）
5. 検査・監視委員会（Committee on Inspectation & Observation）
6. 混獲、漁網への絡まり、座礁に関する評議会ワーキンググループ（Council Working Group on By-Catch, Entanglement & Live Strandings）

第二項　生物多様性条約

概要
略称　CBD
英語名称　Convention on Biological Diversity
日本語略称　生物多様性条約
日本正式名称　生物の多様性に関する条約
［URL：CBD：https://www.cbd.int/］
発効　1993年12月29日
本部
締約国　194か国、欧州連合（EU）、パレスチナ（2018.12）
事業目的
・生物多様性の保全
・生物多様性の構成要素の持続可能な利用
・遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分

第三項　国連海洋法条約

概要
略称　UNCLOS
英語名称　United Nations Convention on the Law of the Sea
日本語略称　国連海洋法条約
日本語名称　海洋法に関する国際連合条約
［URL：UNCLOS：https://www.un.org/depts/los/convention_agreements/texts/unclos/unclos_e.pdf］
発効　1994年11月16日
本部　国連

締約国　168の国・地域と欧州連合

事業目的

海の国際秩序を保つ。領海、EEZ、公海、深海、海底資源、紛争などに関して定めている。海の憲法とも呼ばれる。

第三部　イルカ・クジラが人間から受ける被害

概要

鯨族が人間から受ける被害を、直接被害、間接被害、絶滅に分類して考えます。捕鯨、イルカ漁、水族館については、第四～六部に記述します。

第一章　直接被害

第一節　遺体食

鯨肉食

鯨の遺体を食べる習慣は、古来より世界各地にありました。日本でも少なくとも縄文時代から食べられていました。終戦後は給食で出されるなど日本で広く食べられていた鯨肉ですが、年々その消費量を減らしつつあります。現在は、築地や渋谷の飲食店、小売店、インターネット店舗などで鯨肉が売られています。また日本捕鯨協会や共同船舶、太地町開発公社などは、鯨肉食復活を狙って給食へ売り込みを図るなど、精力的な啓発・販促活動を展開しています。

イルカ肉食

日本人がイルカの遺体を食べているということは、同じ日本人であっても知っている人は少ないようです。和歌山県太地町の漁協スーパーでは、生肉 ・冷凍肉・加工肉などが、イルカ種を明記して売られています。那智勝浦など周辺自治体で販売される際には種名までは書かず、「いるか」や「イルカ」と記載していることが多いようです。

イルカ肉食が盛んなのは、太平洋側の東北、静岡の伊豆地方などです。静岡では現在イルカ漁を行なっていませんが、岩手で捕獲したイルカを販売しています。

イルカ肉の販路はある程度固定化しており、歴史的にイルカ肉を食べる風習があった地域に限られているようです。福岡、岡山、大阪、和歌山などです。意外なところでは、山梨や長野などのスーパーでイルカ肉を見ることがあります。

レンダリング（動物の餌、肥料、工業原料へ）

イルカのレンダリングに関しては、海外の活動家からの情報と、状況からの推察になります。

和歌山県太地町の太地漁港には、魚の不可食部位などの廃棄物を入れるためのコンテナがあります。イルカ漁が行われ、殺害され、解体作業が終わった後、イルカ漁師がこのコンテナに何かを入れていることを見ることがあります。状況から見てイルカの不可食部分が入れられていてもおかしくありません。

コンテナには、「岸化学」というロゴが入っており、岸化学グループの関連会社の事業であるとわかります。岸化学はレンダリング事業を行っています。レンダリングとは、動物の不

可食部位を加工して、ミール、油脂、肉骨粉等へ処理し、動物用飼料、農業用肥料、工業原料等へ利用すること。
コンテナは、岸化学のロゴが入ったトラックが回収に来ます。トラックは太地漁港で件のコンテナを回収した後、周辺自治体のスーパーを周り、同様のコンテナを回収していきます。
不可食部分や残飯と一緒にイルカの遺体は回収され、レンダリング処理され、ペットフードにされている可能性があります。

ペットフード
業界は、鯨肉が売れないためペットフードに加工して販売促進を図っています。2013年、NGOの調査により批判が高まり、販売を中止した会社もあります。2022年現在も、インターネット上には鯨肉ペットフードを販売している会社が散見されます。
また、ノルウェー最大の捕鯨会社の日本支社、ミクロブストジャパンでは、鯨油を使った犬や猫用のサプリメント販売しています。

魚の餌
殺害したイルカの肉を、魚釣り用の餌にすることがあります。

第二節　ドルフィンセラピー

ドルフィンセラピーは、イルカセラピー、イルカ介在療法とも呼ばれ、英語ではDAT：Dolphin-Assisted Therapyと呼ばれています。ドルフィンセラピーは精神疾患を持つ人々や発達障害の人々の有効であるとされています。しかし臨床的に有効であるという証拠は限られています。イルカの自由を奪い監禁し、生涯を犠牲にさせて、人間の心や体の癒しに利用することは倫理的な問題があります。
国内外のイルカ産業はドルフィンセラピーを推奨しようとしていますが、彼らが主張する効用は科学者によって否定されています。1971年初めてDATを研究し始めたベッツィ・スミス博士は、2003年研究を中止し、DATは有効な治療を行うものではなく金銭的利益を追求するものだと批判しています。

日本では、特定非営利活動法人(NPO法人)　日本ドルフィンセラピー協会が代表的です。
2001年12月、香川県さぬき市に株式会社日本ドルフィンセンターが「日本ドルフィンセンター」をオープン、翌年2002年8月、NPO法人 日本ドルフィンセラピー協会を設立しました
日本ドルフィンセンターのイルカトレーナーによると、利用されているイルカは、和歌山県太地町で野生から捕獲したイルカだということです。
［URL：日本ドルフィンセンター：リンクが禁止されていますので各自検索を］
［URL：日本ドルフィンセラピー協会：http://www.jdat.jp/］

一方、新潟市水族館 マリンピア日本海はウェブサイトで、
・イルカが人間を攻撃する場合があり、危険な生物でもある。
・イルカの糞便によって細菌に暴露する危険性がある。
・イルカセラピーの効果は科学的に立証されていない。
等の理由をあげ、イルカセラピーは不適当である、といった趣旨の意見を掲載しています。
［URL：イルカセラピー：https://www.marinepia.or.jp/dolphin_therapy］

第三節　害獣駆除

大量の鯨族が、害獣として殺害されてきました。鯨族が食べる魚と、漁業が目的とする魚が競合するからです。同じ魚の群れを人間と鯨族が狙う場合と、すでに人間が仕掛けた漁具に捕獲された魚を鯨族が食べる場合があります。
鯨族と人間が競合する漁業は、マグロはえ縄漁業、刺網、定置網、底引き網、イカ漁など。マグロはえ縄漁業や刺網では、漁具にかかったマグロをオキゴンドウやシャチなどが食べます。定置網漁では、鯨族が定置網の中に入り込み、捕獲されている魚などを食べることがあります。定置網や底引網漁では、鯨族が網から出ることができずに、あるいは絡まってしまい、溺死したり混獲される場合もあります。イカ漁では、イカを主食とするハナゴンドウなどが集魚灯を目指して食事に来ます。
漁業者は利益を阻害されるので、鯨族を殺害しようとします。オキゴンドウはマグロが好きなのでマグロ漁師に殺されていました。漁師が遊び半分でイルカを殺していたという話もあります。現在も殺しているかは不明。海には他人の目がありませんので、何をやっていてもおかしくありません。
［URL：シャチによる漁業被害：https://youtu.be/gIMdWnFF12E］

アイスランド

［本文参照：第一部 第三章 第六節　シャチ］でも触れましたが、アイスランドではシャチを害獣と見做し、銃殺を奨励していました。また、アイスランドはシャチの殺害を米軍に依頼し、ロケットや機雷によって数百名ものシャチが殺されました。

アメリカ

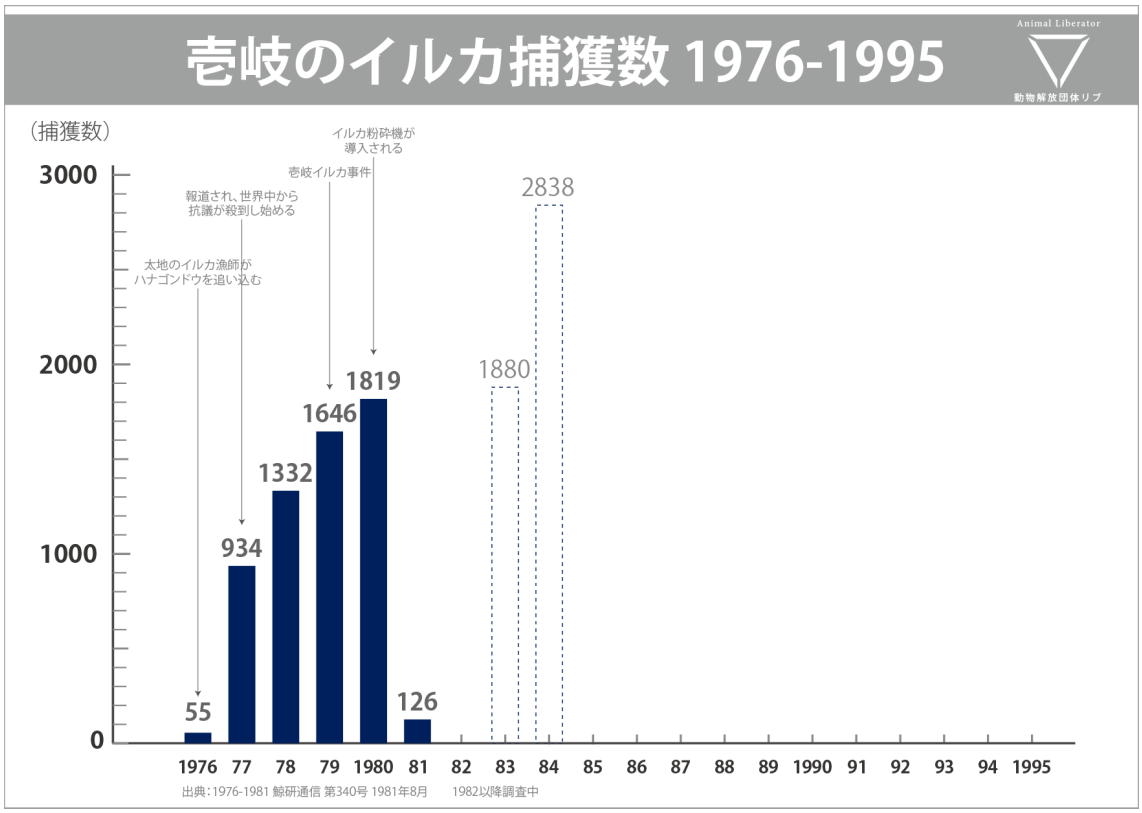
かつては米国でも害獣駆除を目的としたシャチへの銃撃が行われていました。ワシントン州ピュージェット湾では、水族館用に捕獲されたシャチの約25%が銃弾による傷を負っていました。

日本

長崎県壱岐で、大規模なイルカ害獣駆除が行われました。
海には礁(しょう)と呼ばれる浅い部分があります。礁は日光が届くため海藻や珊瑚が育ちやすく、魚も多い場所です。イルカたちは昔から礁で食事をしていました。船が発達すると人

間が礁に進出し、魚を獲り始めました。やがて人間は、イルカを自分達の利益を食い荒らす害獣であると見做し、殺し始めます。時系列で人間によるイルカの殺害の経緯を記述します。

［グラフ：壱岐のイルカ捕獲数 1976-1995］（グラフは鯨研通信のデータを優先）



1965年　礁でイルカがブリを食べ、漁師の漁獲量が減ることが認識され始める。イルカによる食害とし、害獣とみなす。

1967年　長崎県壱岐が川奈のイルカ漁師2人を招聘しイルカ追い込み漁を行うが失敗。

1968年　壱岐勝本町で散弾銃（22口径 15丁）でイルカを殺害。

1776年　和歌山県太地町や静岡県富戸のイルカ追い込み漁に倣い、組織的にイルカの捕獲殺害を始める。ハナゴンドウ計56名を追い込み殺害。

1977年　バンドウイルカ759名 オキゴンドウ251名 計1010名を追い込んで殺害。世界中からの抗議が殺到。

1978年　イルカ1398名捕獲、1392名殺害、6名水族館へ売却。活動家デクスター・ロンドン・ケイトが活動を始める。

1979年　イルカ1646名捕獲、殺害数、売却数不明。ナショナルジオグラフィックが壱岐でのイルカ虐殺を掲載し、国際問題化。

1980年　バンドウイルカ1315名、オキゴンドウ100名が追い込まれる。殺害数、売却数不明。デクスター・L・ケイトが網を切り、イルカ250名を解放。器物破損等で逮捕、懲役6ヶ月、執行猶予3年(壱岐イルカ事件)。

1時間にイルカ10名をミンチにする機械「イルカ粉砕器」が導入された。イルカ捕獲1名につき1万円の補助金。
1981年　殺害数不明
1982年　殺害数不明
1983年　イルカ1880名殺害
1984年　イルカ2838名殺害。この後1995年まで続く。1976年からの累計で10,000名以上のイルカを殺害。

さて、本当の害獣は誰でしょう。もし、ブリを食べた人間が害獣とみなされ10,000人以上殺されたら。殺した側は、共生意識も慈悲もない強欲な生物だとの謗りを受けるでしょう。「害獣」という名称は、人の意識を簡単に操作することができます。「害」という言葉は、人々に自分は攻撃されているという認識と不安と恐怖を与えます。その上で、人々の不安と恐怖を取り除くためには、害となる原因そのものを取り去れば良いと人々に教えてあげます。そうすれば、人々は「害」とされた生物を敵であると見做し、暴力を振るい殺害することを善であると共通認識化していきます。これで、害獣であると思いこまされた、罪なき動物を殺す罪悪感を消滅させ暴力や殺害は正義の完徹であるとの心理を作り上げることができます。
人間は、漁業・海洋進出・開発によって、海洋生物に多大なダメージを与え続けています。海洋環境や動物を正常に戻す唯一の手段は、人間が海洋から手を引き、搾取の一切を止めることです。人間は、自然物が自分の手に入った瞬間、それは自分のものであると思い込み、また社会システムはそれを認めます。しかし、自然や動物はそれそのもののために存在しています。その当たり前の現実に立ち戻り、私たちの在り方や所有の概念を考え直す必要があります。
現在、日本の水産庁は捕鯨を正当化すべく「鯨害獣論」を根拠にして捕鯨の存続を図っています。やっていることは50年前から未だ変わっていません。

ハンティング
かつては日本でも、イルカを散弾銃で撃ち殺していました。1959年、いるか猟取締規則が公布され、イルカの銃猟が禁止されました。
現在でも鯨族の銃殺が行われています。捕鯨に賛同する日本人が、捕鯨を正当化しようと試みる決まり文句「イヌイットが鯨を獲るのはどうなんだ」があります。彼らは、フォークロアなロマンチシズムや男らしさを感じているように感じます。しかし実際の映像を見ると、ハンターの振る舞いや音楽に崇高さは感じられず、単純に殺害を楽しみ快楽を感じているようです。ハンターや漁師は、動物への感謝や尊重など殊勝な物言いをしますが、結局のところ暴力と殺害に興奮しています。
［URL：Beluga Hunt：https://youtu.be/auY-e721vJ8］

第四節　軍事利用

概要

軍事イルカは主にアメリカ軍やソビエト連邦軍によって軍事利用されてきました。その他、ウクライナ、イランなどによって利用されています。イスラエルも利用しているのではないかと疑われています。アメリカは、1950年代から海洋哺乳類の軍事利用、研究を行っています。

軍事に利用されたことがわかっている海洋動物は以下です。

鯨族：イシイルカ、カマイルカ、シワハイルカ、マイルカ、バンドウイルカ、ハナゴンドウ、オキゴンドウ、ゴンドウクジラ、ベルーガ、シャチ

鰭脚類　：カリフォルニアアシカ、オットセイ、アザラシ、ハイイロアザラシ、トド、ゾウアザラシ

その他：海鳥、ウミガメ、サメ、エイ

アメリカは現在、バンドウイルカとカリフォルニアアシカの研究、訓練を行っています。

ロシアは、バンドウイルカとベルーガ、ワモンアザラシ、アゴヒゲアザラシ、ハイイロアザラシを軍事利用しています。

イルカの軍事的役割

イルカはエコーロケーション機能を利用されます。業務としては人間の支援活動、対敵兵への活動があります。

支援活動：水中作業中のダイバーに機器等を運ぶ、紛失物の捜索、味方のダイバーの救出等。

対敵活動：敵ダイバーの発見、船や潜水艦の監視、機雷を探しブイを放出し場所を特定させる、カメラを使った水中監視、部隊が揚陸するルートを特定する等。

ソビエト時代には、バンドウイルカが湾に放されており、敵の侵入を監視していました。イルカたちは鋭利な金属が付いている口輪をしており、指令が下れば、敵を攻撃し撃滅するように訓練されていたと伝えられています。また、イルカをヘリコプターで輸送、海中に降下させ、任務を行わせていました。

開発：ソナー、潜水艦等水中兵器の開発（流体力学研究、エコーロケーション研究）

なお、アシカは視力と聴力を利用されています。役割には、海底の紛失物の捜索、パイプラインの補修箇所の発見等、そして敵兵の殺害も含まれています。

年表：イルカの軍事利用

1959年　アメリカ：海軍情報戦争センター 太平洋（NIWCパシフィック：Naval Information Warfare Center Pacific）が、米国海軍海洋哺乳類プログラム（NMMP：The US Navy Marine Mammal Program）を設立。

［URL：NMMP：https://www.niwcpacific.navy.mil/marine-mammal-program/］

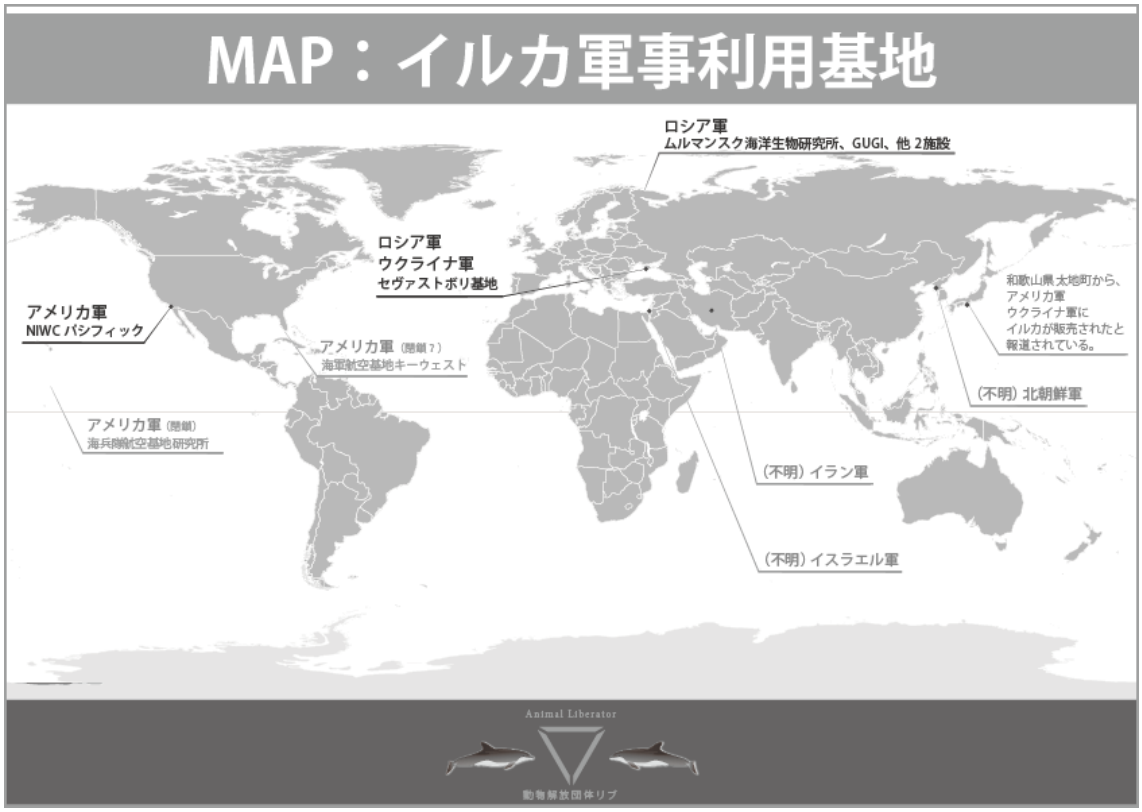
1960年代　アメリカ：エコーロケーションの研究を行い、ソナーに活用された。

1967年　フランス：小説家ロバート・メルルが軍用イルカを描いたサスペンス「イルカの日」を出版。
1970年代　アメリカ：イルカを実戦投入 ベトナム戦争：5人のバンドウイルカ（ガース、ジョン、スラン、ティンカー、トード）をカムラン湾に配備。
1973年　アメリカ：ロバート・メルルのサスペンス小説「イルカの日」を映画化。
1989年　日本：和歌山県太地町のイルカ漁から、イルカ2名がアメリカ海軍に買い付けられた。
1990年　アメリカ：実戦投入 第一次湾岸戦争（イラクvs多国籍軍）
1991年9月　ソビエト：ベルーガのTICHKA が、黒海の南岸にあったソビエト連邦(現ウクライナ) セヴァストポリ生物工学システム研究所から脱出。嵐で生簀が壊れたため。
1991年以降　ソビエト・ウクライナ：ソビエト崩壊後、軍用イルカプログラムは、ウクライナ海軍に移管される。
1992年1月　ソビエト：ベルーガのTichkaがトルコのゲルゼに現れる。トルコではAydinと名付けられた。
1992年4月　ソビエト：ベルーガのTichkaがトルコからソビエト連邦に引き渡される。
1992年11月　ソビエト：ベルーガのTichkaが再び脱出しゲルゼに戻る。以降行方不明。
2000年3月　ウクライナ・イラン：ウクライナ海軍が軍用イルカプログラムをイランに移管。
2003年　アメリカ：実戦投入 イラク戦争（第二次湾岸戦争）。バンドウイルカを機雷除去作業に投入。100以上の機雷除去を支援した。
2007年　アメリカ：約75名のイルカをプログラムに利用、1,400万ドル(18.8億円)を費やした。
2012年　ウクライナ：軍用イルカプログラムを復活したと言われている。
2014年　ロシア：クリミア併合時、軍用イルカプログラムをウクライナからロシアに移管。
2015年　北朝鮮：南浦の軍事基地でイルカの軍事利用研究を始め、現在でも続いている可能性がある。
2016年　ロシア：国防省がセヴァストポリ基地に5名のバンドウイルカを購入
2018年
アメリカ：環太平洋合同演習（RIMPAC）に、米国海軍海洋哺乳類プログラム(NMMP))の改正哺乳類部隊 MARK7(MK7)のイルカ8名を参加させる
ロシア：シリアのタルトゥースにある地中海海軍基地に、黒海艦隊のイルカを配備。
2019年　アメリカ：約70名のイルカと30名のアシカをプログラムに利用
　ロシア：ロシア海軍が利用していた可能性が高いと考えられているハーネスをつけたベルーガがノルウェー沖で発見される。「Hvaldimirj」と名付けられる。コラ半島の基地から逃げ出したのではないかと考えられている。

2022年　ロシア：2022年ロシアのウクライナ侵攻後2月、黒海のセヴァストポリ基地がある湾の入り口に生簀を設置（MAP）。イルカを警備に当たらせた（アメリカ海軍協会ニュース）

基地

［MAP：イルカ軍事利用基地］



［アメリカ］

NIWCパシフィック：MAP（カリフォルニア州 サンディエゴ ポイントローマ）

［写真：ポイントローマにある生簀］

イルカらしき姿が見える。軍との関係は不明。



（出典： Google MAP）

海兵隊航空基地研究所（閉鎖）：MAP（ハワイ州 カネオへ湾）

海軍航空基地キーウェスト（閉鎖？）：MAP（フロリダ州 ボカチカキー）

米軍の海洋哺乳類部隊

米国海軍海洋哺乳類プログラム（NMMP：The US Navy Marine Mammal Program）には、5つの海生哺乳類部隊が存在します。

MK 4：イルカ：海底から係留された浮いている機雷を探し、位置をマークする

MK 5：アシカ：機器や紛失物等の物体の発見、回収。

MK 6：イルカ・アシカ：敵の侵入者から、港湾施設や船を警備する

MK 7：イルカ：海底や堆積物に埋められている地雷を探し、位置をマークする

MK 8：イルカ：部隊が揚陸するルートを特定する

［URL：輸送されるMK7：https://taskandpurpose.com/news/navy-dolphins-transport-c17-globemaster/］

［ソビエト］（～1991）

ムルマンスク海洋生物学研究所：MAP（コラ半島：ムルマンスク）
海洋動物を軍事利用する研究を行っていた。
セヴァストポリ海洋水族館、セヴァストポリ生物工学システム研究所：MAP（黒海 クリミア半島 セヴァストポリ カザチヤブクタ）

［ロシア］（1991〜）
ムルマンスク海洋生物学研究所：（コラ半島：ムルマンスク）ロシア時代から引き継いだ。
［URL：ムルマンスク海洋生物学研究所レポート：https://courrier.jp/news/archives/125987/#paywall_anchor_125987］
深海研究本部（GUGI）：MAP（コラ半島 オレニヤ湾）
かつては生簀があったが現在はない。GUGIが運営する、秘密特殊任務を行う第29特殊潜水艦戦隊がある。
不明：MAP（コラ半島 サイダ湾）（生簀が見える）
不明：MAP（コラ半島 ポリャールヌイ湾）
生簀の中にベルーガらしき白いものが見える。アザラシの部隊もあるといいう。
［写真：コラ半島 ポリャールヌイ湾の生簀］



（

出典： Google MAP）

セヴァストポリ基地：MAP（黒海 クリミア半島 セヴァストポリ カザチヤブクタ）

［ウクライナ］（1991～）

セヴァストポリ基地（海軍司令部や州立海洋水族館（ウクライナ軍の科学研究センター）がある）：MAP（黒海 クリミア半島 セヴァストポリ カザチヤブクタ）

その他

かつて樺太周辺海域のクジラは、ソビエト海軍の軍事訓練の標的とされていたようです。日本の捕鯨業者が捕獲したクジラの中には、砲弾で怪我をしたクジラ、破片が突き刺さり患部が腐ってしまっていたクジラがいました。

第二章　間接被害

ここでの間接被害とは、人間が鯨類に与える直接的意図的な被害以外の、人間の活動が原因となる被害を指します。人間の活動は、鯨族はもちろん、すべての海洋生物や環境に被害を与えます。

第一節　漁業

FAOの調査によると
世界の商業漁業者と養殖業者の総数は、推定3,800万人　(2009)
野生魚の消費量は、1人当たり14.4kg　(2005)
養魚魚の消費量は、1人当たり7.4kg　(2005)

漁業は発展途上国や、海洋資源以外の資源が乏しくインフラが発達していない地域の重要な食糧源であり、産業、雇用先です。一方漁業は、環境そのものである水棲動物を大量に殺害する極めて環境負荷が高い産業でもあります。イメージとしての漁業者は素朴な一次産業者かもしれませんが、現実は収益を最大化しようと水生動物と環境を破壊し換金し尽くすまで走り続ける強欲な巨大産業でもあります。
漁業により、以下のような問題が生じています。
・多くの大型魚類は、かつての10%に減少。
・鯨族を大量虐殺、殺害し、絶滅の危機へ追い込んだ。
・魚を確保しようとするために、それまで魚を食べていたイルカを何万も殺した。
・できるだけ自己利益を最大化しようとして、業者同士で競い、
・現在魚が取れなくなったのは、鯨族のせいだとし、さらに鯨族を捕獲しようとする。
・漁網をはじめとする漁具を海洋投棄し、その漁網は海洋生物を殺害し続けている。
・漁具はマイクロプラスチックとなり、海洋生物や人体を汚染している。

日本では捕鯨やイルカ漁に対する活動止まりですが、動物倫理、環境先進国では、魚類や軟体類、甲殻類などの擁護活動が始まっています。私自身、捕鯨やイルカ漁はできるだけ早く決着をつけて、漁業問題に取り組みたいと思っています。
この節では捕鯨やイルカ漁以外の漁業での鯨族殺害について扱います。

第一項　漁法

第一目　原因と被害

* 以下のウェブサイトのイラストが参考になります。
［URL：代表的な漁具・漁法の解説：https://www.hro.or.jp/list/fisheries/marine/o7u1kr000000dhif.html］

定置網

定置網（ていちあみ：Set net、Set net fishing、Fixed netting、Fixed-net fishing）とは、沿岸や川などに網を固定して、網の中に入ってきた海洋動物を捕獲する漁法。日本の定置網漁は日本独特の形態を持っています。
海面漁業における定置網の経営体数は、大型定置網409、さけ定置網534、小型定置網2,293。定置網数は約6000あるとされています。
問題点
・毎年イルカやクジラ、海亀などさまざまな海洋動物が混獲されています。
くじらの混獲については、［本文参照：第四部 第四章　混獲（第三の捕鯨）］へ。

刺し網（流し網）

刺し網（刺網、さしあみ：Gillnetting）とは、流し網（Drift netting）の一種。海面から海中に網を貼り、魚の頭を網に刺させ、あるいは絡ませ、捕獲する漁法。
問題点
・網目より大きい魚、イルカ、海鳥、ウミガメなどが混獲され溺死している。
・破棄された網や遺失した網がゴーストネットとなり、海洋動物を殺害し続ける。
1980年代、日本は太平洋で大規模な流し網漁で大量虐殺と環境破壊を引き起こし、大きな収益を上げました。1991年の国際連合総会で公海における大規模流し網(2.5kmを超える網の使用)が禁止されましたが、その際日本は反対しています。

底引網

底引網（底曳網、そこびきあみ：Bottom trawling）とは、海底に網を下ろし、引きずって海底に住む動植物を捕獲する漁法。トロール漁業は底引網漁業の一種で、三角形の形になる網を使います。
問題点
- 海底の動植物を根こそぎ捕獲し、多数の海洋生物を殺害する。
- 海底を網で擦るため、砂や岩、堆積物などを壊し、海底環境や生物相を破壊する。海山へのダメージの95%が底引網によるもの。
- 海底に固定されているCO2を放出するため、年間6億～15億トンに上る（ドイツの年間排出量や航空業界の排出量と同規模）。
- 最も殺害数が多い漁業。大量虐殺が常に問題になっている。

遊漁

遊漁（ゆうぎょ：Recreational fishing）とは、商業漁業(Commercial fishing)以外の一般市民が行う海洋動物の捕獲。釣り（ゲームフィッシング、スポーツフィッシング等）、銛突き、潮干狩りなどです。使用する道具は、手、糸と針、銛、網、罠、ボウガン、銃撃、爆薬、感電、毒殺などがあります。
日本では、海遊漁人口は670万人（2020レジャー白書）。内水面遊漁は、217,163枚の遊漁承認証が発行されています（2018漁業センサス 農林水産省）。世界では、2億2000万人～7億人と推定されています（2017FAO）。

問題点
魚は痛みを感じており、口内に針を刺すこと、大気中に引き上げ窒息させること、生きたまま身体を切ることなどで多大な苦痛を感じています。人間が魚類に対して当たり前にやってきたことは動物虐待であり暴力です。私たちは根本的に認識を改める必要があります。倫理的であるように扱われてきたキャッチ&リリースも、自分の楽しみや興奮のために、魚を傷つけダメージを与える非倫理的な行為です。遊漁、釣りは、一見気軽なレジャーのように感じられますが、膨大な人間が行うことにより、針や糸、ゴミ投棄の問題も含め、水生生物や環境にダメージを与えています。
また、釣り人が持ち込んだ外来種が、生態系を破壊している問題もあります。まるで外来種が問題であるかのように表現されますが、実際に問題なのは行政や釣り人、魚飼育愛好家です。

延縄
延縄（はえ縄、はえなわ：Longline fishing）とは、長い幹縄に、短い枝縄に針を取り付け、多いときは数千本も吊り下げ、魚を捕獲する漁法。
問題点
・海鳥、ウミガメ、オキゴンドウなどのイルカが針にかかり、混獲されることがあります。ハワイではウミガメが大量に混獲されたため、延縄漁が一時中止されました。針に取り付けられた魚用の餌を取りにきたアホウドリが混獲され問題になったこともあります。アホウドリはIUCNレッドリストの絶滅危惧種3種で最も危険な絶滅寸前（CR：Critically Endangered）です。

まき網
まき網（巻網、まきあみ：Seine fishery）とは、魚の群れを網で囲い、捕獲する漁法。マグロ漁業の巻き網による混獲で、年間数百万名のイルカが殺害されていました。そのため、アメリカでは1972年、マグロ漁師が毎年殺すことができるイルカの数を制限する法律を作りました。また「イルカにやさしい（Dolphin-Friendly）マグロ漁業」が生まれました。しかし、Dolphin Safe tuna label（イルカにやさしいツナ認証）が、イルカにやさしい漁業かどうかの実態に関わらず乱発されているとの批判や、イルカの持続可能性には寄与するが、マグロの持続可能性を無視しているという批判などもあります。

破壊的な漁業
英語でDestructive Fishingと呼ばれるものです。破壊的な漁業とは、フカヒレ漁業、珊瑚礁での底引網漁業、ダイナマイト漁、自家製爆弾を使用した漁、毒殺漁、シアン化物釣り（水族館が行う漁で、てシアン化物を撒き魚を気絶させて捕獲する。シアン化物は環境へ多大なダメージを与える）、底引網漁、大量虐殺、混獲、幼魚の捕獲、害獣駆除、そしてゴーストフィッシングなど、環境や海生生物に破壊的な被害を与える漁業のことです。

巻き添え

［本文参照：第一部 第二章 第二節 第四項 第二目　イルカと協力して漁を行う］で扱った、ミャンマー イラワジ川の漁師とイルカが協力して漁を行なっている事例。近年、カワイルカたちは刺し網漁や爆薬を使った漁の巻き添えになり傷つき、死亡しています。また鯨油を取る目的で殺され、絶滅の危機に瀕しています。

第二目　対策

・イルカにやさしいラベル

Dolphin safe labelは、イルカの混獲を最小限に抑えたマグロ漁業に付与されます。さまざまな組織が発行しており、多国間協定である国際イルカ保護プログラム（AIDCP）が発行したもの、各国政府が法律（イルカ保護と消費者情報に関する法：DPCIA：Dolphin Protection Consumer Information Act（米） 等）で定め発行したもの、NGO（Earth Island Institute、Earth Trust等）が発行したものがあり、基準はまちまちです。これらのラベルは、イルカの混獲を確実に減らしてきました。

しかしながら、他に混獲されている快晴哺乳類、ウミガメ、海鳥、サメなどを守るものではなく、またもちろんマグロを守るものでもなく、イルカに特別な思いを抱く動物団体がイルカのみを特別視している、持続可能性と何も関係がないなどと批判されています。また基準が曖昧なため、ラベルを乱発し実体と乖離しているとの批判もあります。

・その他：環境負荷が高い漁業の禁止、環境負荷が高い漁業を止めた漁業者への補償、養殖へのシフトなど。

第二項　漁具

第一目　原因と被害

漁網＝ゴーストネット

ゴーストネットとは、海洋に破棄された、あるいは紛失した漁網や釣り糸のこと。ゴーストネットが海を漂い、様々な動物を殺し続けることをゴーストフィッシングと言います。

ゴーストネットに殺されている動物は、鯨族、鰭脚類、海鳥など鳥類、亀など爬虫類、ジンベエザメなど魚類、カニやエビなど甲殻類等。毎年48,000トンもの漁網が、ゴーストネットとなっていると推定されています。

ゴースト(幽霊)と名付けられた理由は、暗い海や深い海では漁網はほとんど見えないためです。漁網は絡まったら抜けられないように設計されています。そのため、絡まった海洋動物は怪我や窒息などで死んでしまいます。また漁網や漁具の多くはプラスチックでできているため腐食に時間がかかり、長期に渡って漂い続け、その間何度も動物を殺し続けます。さらに、ゴーストネットは摩耗していく過程でマイクロプラスチックとなり、環境や生体に入り込みます。

漁師は、使い古された漁網を破棄するコストを考え、意図的に海洋投棄する場合があります。日本でも、漁師町は綺麗にしているが、近くの人目の無い海岸線は漁業ゴミだらけという場所を多く見ます。タバコを海に捨てる漁師、不要な傷ついた魚を海に投げ捨てる漁師、アスファルトに落ちていた生きている魚を踏み潰す漁師も見たことがあります。
生活のために海の魚を殺し、その生活の糧を得る海にゴミを捨てているのが現実です。
［URL：海のゴーストキラー|ゴーストネット：https://youtu.be/66TRqaOd81U］
［URL：絶滅危惧種コガシラネズミイルカが漁網に掛かり死亡：https://www.afpbb.com/articles/-/3215993］

針

漁師や釣り人が捨てた、あるいは紛失した釣り針は、魚の口内を傷つけるばかりでありません。破棄された針を飲み込むなどして、海洋動物はもちろん、鳥や犬、猫など、そして人間も怪我をしています。
［URL：野生のイルカが人間に助けを求める：https://youtu.be/Yt5Or1_JLO8］
［URL：犬から釣り針を取り外す：https://youtu.be/2p084LBg7VA］
［URL：猫から釣り針を取り外す：https://youtu.be/NVjEsXOiyfE］

第二目　対策

1.日本の対策

農林水産省
プラスチック資源循環（漁業における取組）
https://www.jfa.maff.go.jp/j/sigen/action_sengen/190418.html
データや言葉を重ねていますが、実態は見えてこない資料となっています。
国土交通省
「べいくりん」という清掃船を就航させ、東京湾の清掃と油の回収を行なっています。

2.国際、各国の対策

・漁師から破れた漁網を買い取る制度
フランス政府が行いましたが、結果は、漁師が自分で古くなった漁網を破り、金銭を騙し取ろうとしたため失敗に終わりました。
・ゴーストネットの除去やリサイクル
団体や民間企業、各国政府が取り組んでいます。
［URL：Global Ghostgear Initiative：https://www.ghostgear.org/］
・その他：網の素材を生分解性のものにするなど素材の改善、網の目の改善、漁網にGPSを付ける、漁業道具を紛失したら届け出る制度などが試みられています。
・ゴーストネットからの救出
世界各地で人々がゴーストネットから動物を救出しています。素晴らしい仕事で感謝です。

［URL：漁網がからんだザトウクジラのレスキュー、失敗：https://youtu.be/kkNdxJvrvUg］
［URL：漁網がからんだマッコウクジラのレスキュー、成功：https://youtu.be/f5GrlXKyyCE］
［URL：漁網がからんだザトウクジラのレスキュー、成功：https://youtu.be/ACJgNY6jaYQ］
［URL：漁網がからんだアザラシのレスキュー、成功：https://youtu.be/Fs02KMtVoQs］
［URL：釣り糸が絡まったバンドウイルカが助けを求めてきた：https://youtu.be/2gvgkHSyKFE］

しかし、どれも根本的な解決にはなり得ません。このまま漁業を続け、人々が海洋動物を食べ続ければ、2048年までに野生の海洋動物を殺し尽くすと予測されています（2006 サイエンス）。何よりも、漁業の存続は水生動物に暴力を加え、殺害し続けます。根本的な解決とは、漁業・釣りを止め、海洋動物を一切食べず、殺さず、動物の尊厳を尊重すること以外にありません。

第二節　海洋汚染

第一項　化学物質

第一目　原因と被害

種類

残留性有機汚染物質（POP）12種類

アルドリン、クロルデン、ディルドリン、エンドリン、ヘプタクロル、ヘキサクロロベンゼン、マイレックス、トキサフェン、PCB(ポリ塩化ビフェニル)、DDT、ダイオキシン、ジベンゾフラン

内分泌攪乱物質＝環境ホルモンのうち海洋で観測が実施されている物質

ノニルフェノール類、ダイオキシン類、有機スズ類など

農業からの流出

窒素、リン、有機塩素系農薬

→ **有害藻類ブルーム**（HABs：Harmful Algal Blooms：有害有毒藻類ブルーム）

赤潮、アオコ、青水

重金属

水銀、カドミウム、鉛、ヒ素、ニッケルなど。

放射性物質

核兵器や原子力事故により流出

等

流入経路

漁業排水 (合成物質、薬剤等)、畜産排水(合成ホルモン、抗生物質、医薬品等)、農業排水(農薬、殺虫剤、化学肥料、動物性肥料)、工業廃水、家庭排水、都市流出水、海上での産業廃棄物の投棄、石油やガスの開発等。

化学物質やゴミなどは陸地から排出されるため、遠洋よりも、沿岸の個体の方が影響を受けやすくなります。

第二項　オイル

第一目　原因と被害

流入経路

戦争による流出（湾岸戦争は史上最大の原油流出95万klを招いた）、タンカーや船舶事故からの流出、船のバラストタンクからの排出、パイプラインからの漏洩、陸地からの油の流出（船舶のメンテナンス、車両のガソリン、エンジンオイル等）、一般家庭からの排出などです。

油の流出は、動物の健康被害、免疫低下、妊娠出産の阻害、そして死亡をもたらします。大規模な流出事故では、海洋哺乳類、海鳥、魚類等を油まみれにし、行動や採餌を阻害、ひどい場合は死に至らしめます。一例を挙げます。

1989年　エクソンバルディーズ号原油流出事故（エクソンモービル社）

アラスカでタンカーが座礁し、4万klの原油を流出させた事故。

シャケをはじめとする多くの動物を殺害しています。シャチでは、付近に住んでいた11人の定住型ポッド11人のうち、半分が姿を消しました。また移動型ポッドの一部で妊娠出産がされず、絶滅すると予想されています。

2010年　メキシコ湾原油流出事故（BP社）

石油掘削施設「ディープウォーター・ホライズン」のパイプラインが人為的ミスにより爆発、原油78万klを流出させた事故。

海鳥をはじめとする、多くの海洋動物を殺害しました。また、バンドウイルカの免疫システムが損なわれ、妊娠出産が阻害されたことがわかっています。

座礁　［本文参照：第三部 第二章 第三節 第四項　座礁］へ

身体汚染　［本文参照：第三部 第二章 第二節 第五項　身体汚染］へ

第三項　プラスチック

第一目　原因と被害

種類

プラスチックとは、可塑性（plasticity）のある高分子**物質**の総称。可塑性とは、熱や圧力によっては形を変えることができ、元に戻らないこと。プラスチックには、合成プラスチックと、バイオマス(生物資源)プラスチックがあります。
合成プラスチックのほとんどは石油から作られており、種類は、ビニール、ポリエチレン 、ポリプロピレン、ポリウレタン、テフロン、ABS樹脂、アクリル樹脂、ナイロン、ポリエステルなど。用途は、ペットボトル、食器、衣類、おもちゃ、家具、パソコン、スマホ、車、タバコのフィルター、マスクなど多岐に渡り、生活のあらゆる場面に使われています。
バイオマスプラスチックは、トウモロコシ、サトウキビなどから作られています。バイオマスプラスチックは、一定の条件で自然に還る生分解性プラスチックと、分解しないプラスチックに分けられます。
海洋ごみの総量は1億5000万トンを超え、毎年800万トン以上ものゴミが海洋に流出し、2050年にはプラスチックゴミの総重量は、魚類の重量を超えると推計されています。

マイクロプラスチック

マイクロプラスチックとは、5mm以下のプラスチックのこと。合成プラスチックが破棄されると、劣化や粉砕等で細かく砕けていきます。砕けるのですが腐食はせず、分解するまでに100年単位の時間がかかります。

ナノプラスチック

マイクロプラスチックは、1000分の1mm以下に砕けたプラスチックのことです（定義は複数あり）。動物プランクトンの体内にまで入り込み、海洋生物を通して、それらを食べる動物の体内にも入り込みます。回収が難しく、環境に留まり続けます。

流入経路

漁業（太平洋ゴミベルトの46%は漁業関連のプラスチック）、農業用資材、ポイ捨てされたペットボトル、紛失したゴミ、マスクなど。
鳥、ウミガメ、魚、鳥などが、ビニールをクラゲと勘違いして食べ、死亡するなどしています。

［本文参照：第三部 第二章 第二節 第五項　身体汚染］へ

第二目　対策

動物の体内に入るまでに行うことができる対策を大まかに辿ります

・プラスチックを生産しない。
・プラスチックが使われている製品を購入しない（ペットボトル、ストロー、ビニール袋など）
・プラスチックが使われている製品を購入したら、リサイクルできるものはリサイクルに回し、リサイクルできないものはゴミとして廃棄する。
・陸の自然に流入するのを止める（ポイ捨て、違法投棄をしない、ゴミ拾いをする）
・海への流入を止める（ゴミ拾い、河岸のゴミ拾い、海岸清掃をする）

・海中の清掃をする（NGOや有志のダイバーが行なっています）
↓
動物の体内に入れない。

この各過程で様々な国際組織、行政組織、民間非営利団体が、活動しています。
［URL：Ocean Cleanup（太平洋ゴミベルトを清掃するオランダの非営利団体）：https://theoceancleanup.com/］
その他、洗濯によるマイクロプラスチックが流出を止める、アクリル絵の具やマイクロプラスチックが入った洗顔（スクラブ洗顔）などを使わないなど、個人でできる様々な対策があります。
また重要な対策は、海洋ごみの多くを占める漁具を減らすことです。そのためには漁業をサポートしないことです。つまり、自分1人でできかつ最も有効な対策は、海生動物を食べることを止めることです。ヴィーガンになることは、マイクロプラスチックも減らす生き方に繋がります。

第四項　オーシャンノイズ

第一目　原因と被害

オーシャンノイズ（海の騒音）とは
オーシャンノイズとは、人間が海中で出す騒音。発生源は、船舶、漁業ソナー、軍事ソナー、海中工事、海底工事、地震調査、エネルギー探査などです。
［URL：ソナーの仕組み：https://onl.bz/5Bvy69e］
オーシャンノイズが鯨族に与える影響
鯨族をはじめとして多くの海洋動物は、音、音波をコミュニケーションや食物の探索、空間把握や移動に利用しています。発音機能と受音機能が高度に発達しており、音に依存した生活を送っています。人間の海洋への進出が進み、様々な騒音を出すことにより、海中の音環境に大きな変化がもたらされ、海洋動物は大きな影響を受けるようになりました。わたしたち人間で例えるなら、かつての自然の静かな環境、風や川の音や、鳥や動物の鳴き声だけの音空間から、現代の都会の騒音だらけの環境、車やクラクション、広告の大音量やひどい音楽の音空間に。さらには耳や脳から出血したり死亡してしまうほどの轟音の空間に投げ込まれたということです。
［URL：映画「Sonic Sea」予告編：https://youtu.be/T-jabL64UZE］
鯨類の被害
オーシャンノイズによる鯨類への被害は、コミュニケーション、食物の探索、捕食者の回避、空間把握、移動、回遊、妊娠出産の阻害をもたらします。ひどい場合は、火傷を負う、座礁する、脳から出血し死亡することさえあります。

太地町のイルカ追い込み漁は、漁師がバンガーを叩いて大きな音を出し、イルカたちがパニックになり逃げようとするのを利用して捕獲します。つまりオーシャンノイズを意図的に利用した漁と言えます。

軍事

軍事訓練や戦争は鯨類をはじめとする海生動物に影響を与えます。軍事ソナーは、鯨族に致死的な被害をもたらしていると考えられています。元々イルカのエコーロケーションを参考に発展してきたソナー技術が、振り返って鯨類に多大な被害を与えているのは皮肉なことです。潜水艦が強力な音波を発射すると、付近にいる鯨族は、水上に頭を出し音から逃れようとする行動を取ったり、パニックに陥っている姿が観察されています。

2022年4月24から行われたロシアによるウクライナ侵攻では、黒海に住むイルカたちが犠牲になっています。ロシア侵攻後、火傷やエコーロケーション組織からの出血が見られるイルカの遺体が黒海沿岸に打ち上げられるようになりました。原因は、軍事ソナーや機雷など爆発物の爆発など。死亡数は、打ち上げられた遺体が900名、さらに死亡後海底に沈んだり、他の動物に食べられ遺体が発見されないた数を合わせると推定50,000名とする研究もあります。科学者たちやウクライナ大統領やはロシアによるエコサイドだと批判しています。

［本文参照：第三部 第二章 第三節 第四項　座礁］へ

第二目　対策

2022年末現在、黒海では各国の科学者が活動しており、原因究明のための解剖や組織・血液のサンプル採集を行っています。

2012年には、Earthjustice（環境保護活動を行う弁護士団体）と、People for Puget Sound（ビージェット湾の保護を行う団体）、そしてInterTribal Sinkyone Wilderness Council（ネイティブアメリカン10部族で設立された団体）が、オーシャンノイズを発生させる軍事演習計画を中止させようと米海軍に許可を与えたNOAAを訴えました。2015年米軍は鯨類の重要な生息地においてソナーや爆発物の使用を制限することに同意しています。

米軍は、鯨類に対する騒音に関して研究を進めており、2012年にソナーの使用ガイドラインを作成しています。また、日本近海でのソナーの使用を制限しています。

国際的な取り組みとしては、AWIやオーシャンケアなど150以上のNGOが、IONC(International Ocean Noise Coalition)を結成し活動を行っています。しかし、オーシャンノイズに関する国際的な基準、規制等はまだありません。EUやASCOBANSなどの国際機関、NOAAなど政府機関、国際動物福祉基金などのNGOが対策に動いています。

第五項　身体汚染

第一目　概要

身体汚染とは、身体にとって有害な物質が身体に入り込み、悪影響を与えることです。有害な物質とは、これまで挙げた化学物質、油、マイクロプラスチック、ゴミなど。直接鯨族が汚染物質を取り込む場合と、生態系ピラミッド底部から取り込まれ上部に捕食されながら汚染物質が濃縮していく場合とがあります。

動物プランクトン→小魚→中型の魚→大型の魚→海洋哺乳類、といった順番で濃縮、蓄積されます。汚染される部位は、脂肪、筋肉、脂肪、肝臓、神経系など。身体各部が汚染され、ダメージを与えられます。鯨族に起きている健康被害は、不妊、流産、母体を通して汚染物質が子どもに引き継がれる、授乳を通して汚染物質が子どもに引き継がれる、子供の奇形、死亡、免疫システム、ホルモン異常、慢性的な健康被害などです。

生態ピラミッドと生物濃縮

生態ピラミッドとは、生態系における食物連鎖を表したものです。最後の%はエネルギーの移動です。ピラミッドの上位から下位へ、

頂点捕食者（Apex Prederor：頂点捕食者、肉食動物）0.01%

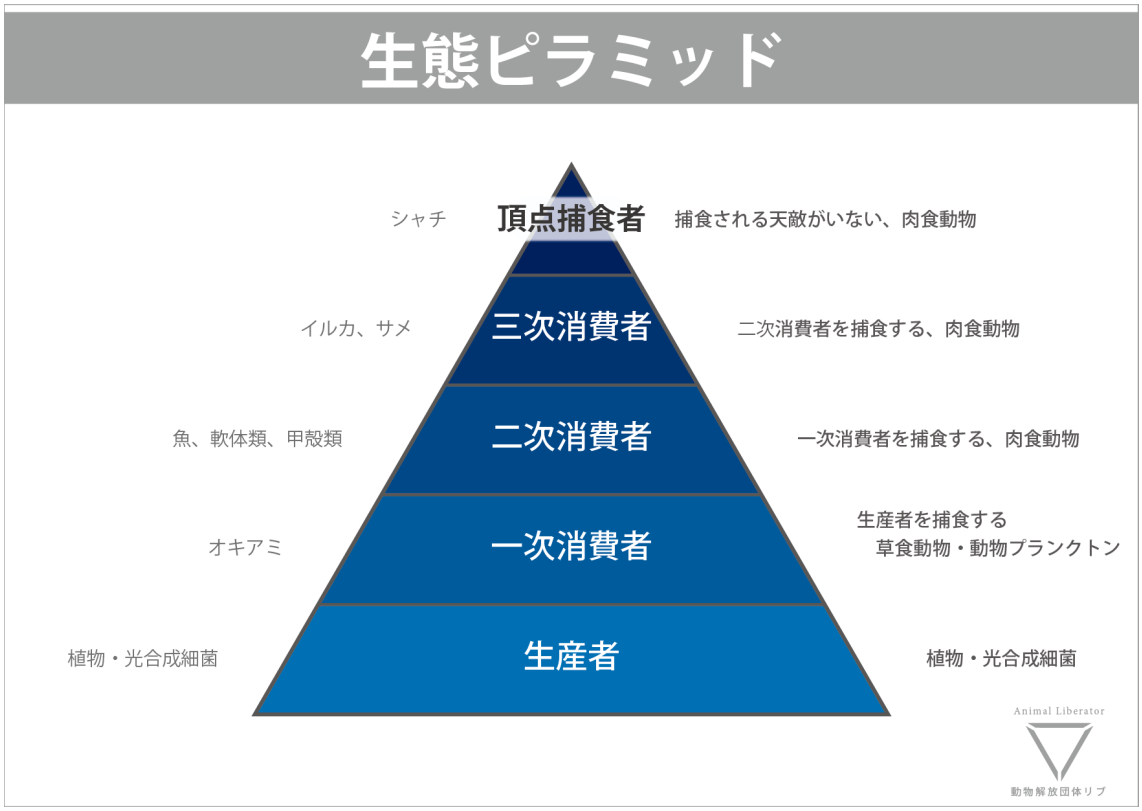
三次消費者（Tertiary Consumers：肉食動物を捕食する、肉食動物）0.1%

二次消費者（Secondary Consumers：草食動物を捕食する、肉食動物）1%

一次消費者（Primary Consumers：生産者を捕食する、草食動物や動物プランクトン）10%

生産者（Primary Producers：植物や光合成細菌など）100%

［図：生態ピラミッド］



一般的に、
上位ほど、多くの栄養を必要とし、体は大きく、生産速度は遅くなり、数が少なく、
下位ほど、栄養が少なくすみ、体は小さく、生産速度が早くなり、数が多くなります。
ヒゲクジラが巨大化した原因は、生産者や一次消費者という生態ピラミッド下位を食物としたことが一因と考えられています。ハクジラは二次消費者を食物とする三次消費者です。
生態系上位は、下位を捕食するため、栄養とともに、有害物質も身体に取り込み、濃縮されていきます。これを生物濃縮と呼びます。
［本文参照：第三部 第二章 第二節 第五項　身体汚染］へ

人間の身体汚染と健康被害
人間は生態系ピラミッドから外れていますが、外の頂点にいます。つまり、汚染物質が最も濃縮、蓄積されるポジションに君臨しています。。人間の健康被害は、鯨族への健康被害と同様のものです。人間は自ら生み出した様々な健康リスク、化学物質、プラスチック、放射性物質などに晒されています。環境破壊を行っているのは、すべての生物中人間のみです。

第二目　対策

日本の対策
イルカの汚染に関して対策はありません。人間の汚染に関しては、汚染物質は水銀のみ、対象種はツチクジラ、イシイルカ、バンドウイルカ、コビレゴンドウのみについて発表しています。
［URL：妊婦への魚介類の摂食と水銀に関する注意事項, 厚生労働省：https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/suigin/dl/index-a.pdf］

第三節　その他被害

第一項　気候危機

気候危機に関係する鯨族への被害には、以下のようなものがあります。
・海水温の変化により、鯨族の生息地が失われ、移動を余儀なくされる。このことにより、食物獲得の競争が激化する、シャチが移動することにより移動先に住んでいる動物に新たな脅威が生まれるなど、様々な影響が発生します。
・熱波による海水温上昇が原因で、鯨族の出産率が低下する。
・鯨族が減少し、生息地の移動をすることにより、CO２の固定や、クジラポンプなど、海洋の環境に欠かせない機能が失われる。

・ハリケーンや洪水による淡水の流入が原因で、イルカが淡水皮膚病と見られる病気に罹り、潰瘍ができ死亡。
また、海岸線の開発は、海洋生物の生息地の破壊、水質汚染を招きます。

第二項　船との衝突（Ship Strikes、Vessel Strikes）

第一目　原因と被害

船との衝突により毎年多くのクジラやイルカが、怪我をし、死亡しています。他にも鰭脚類（アザラシ、アシカ等）、爬虫類（絶滅危惧種のウミガメ等）、魚類（ジンベエザメ、イトマキエイ等）さまざまな動物が被害に遭っています。タンカー、水中翼船、遊覧船、ジェットスキー、そしてホエールウォッチングを行なっている船などが原因です。衝突が多い海域は、大きい港湾の付近など船の出入りが多い場所、人口が多い土地の沖で行き来する船の数が多い場所です。

［URL：Why Thousands of Whales Die Every Year：https://youtu.be/skVKgSbve9I］

［URL：体長10mのクジラが「船に引っかかっている」岡山・水島港：https://www.asahi.com/articles/ASP9P562KP9PPPZB00P.html］

動物は、船との衝突やスクリューに巻き込まれることにより、怪我（打撲、裂傷等）を負い、ひどい場合は死亡に至ります。衝突の実態、動物種や数は把握できていません。現在報告されているのは、船員が衝突に気づき報告した数であり、船員が衝突に気が付かない場合、衝突に気づいても報告しない場合があるからです。

第二目　対策

IMO（国際海事機関）、IWC（国際捕鯨委員会）、IUCN （国際自然保護連合）、ACCOBAMS（黒海・地中海・隣接する大西洋地域の鯨類保護協定）等国際機関、NOAA（アメリカ海洋大気庁）、沿岸警備隊等政府機関、民間NGOが、クジラと船との衝突の解決に取り組んでいます。

・規制

船舶の通行規制、速度規制、鯨族から取る距離の規制、船舶がシャチに与える影響の規制等、様々な規制が作られています。

・IMMAの保全

鯨族や海洋哺乳類が集まる海域、頻繁に移動する海域である、IMMA（Important Marine Mammal Areas）を特定し、保護する。

［URL：IMMAS SEARCHABLE DATABASE］

・ホットスポット対策

ホットスポット（クジラの生息と、船の混雑が、重なる海域）を特定し、衝突削減計画を実施する。

・船舶運航者（商業、一般）の教育
・視認と探知機
運航中、視認と、レーダー等の探知機で海洋生物を発見し、回避する。
・クジラアラートアプリ
船舶運航者間で、鯨族等の発見場所等を共有するアプリを使用する。
［URL：Whale Alert App：https://apps.apple.com/us/app/whale-alert/id911035973］
・クジラの回遊ルートと船のルートを分ける
パナマ運河の出口では、多くの衝突が起こっていました。そこで、船のルートを狭い範囲に制限し、クジラの回遊ルートとの競合を減らしました。その結果、クジラとの衝突は90%減じることに成功しました。
・船の夜間運行を中止する
クジラが食べるオキアミは、日中は水深300mの付近、夜間は海面付近に移動します。そのためクジラも、日中は水深300m付近で活動し、夜間は海面付近にいることが多くなります。ですので夜間の運行を中止すればクジラの被害は減じます。
・衝突が起きやすい海域で、船のスピードを下げる。
IWCは船とクジラの衝突について、レポートを集めています。
［URL：Ship Strikes：https://iwc.int/management-and-conservation/ship-strikes］
上記URL先の中段に、「船と鯨族の衝突の情報をお持ちの方は、こちらから情報を入力してくださいと記載されています。

第三項　ハラスメント

第一目　攻撃、嫌がらせ

以下のようなケースがあります。
・人間が、座礁したイルカで遊び、殺す。
［URL：Stranded sick dolphin dies on Texas beach after being harassed by beachgoers：https://youtu.be/n9XZWQA5hc4］
・人間に親近感を持ち遊ぼうとするイルカの鼻（噴気孔）に、ビール瓶など物を入れる。
・食べるために殺す。

第二目　食べ物をあげる

人間がイルカに食べ物をあげることに、悪意はないかもしれません。しかし、イルカが食べ物をもらうことに慣れてしまうことにより、増加するリスクは以下です。
・釣り人が釣り上げた魚を奪うなど、人間とイルカの摩擦や紛争が起こる。
・イルカが食べ物をもらえないときに、怒り、攻撃的になることがある。
・子イルカが人間から魚をもらうこと、奪うことを学んでしまう。

・釣り人の乗る釣り船に近づくことにより、人間や船に対する警戒心が低下し、事故につながる。
人間が野生動物に食べ物をあげることで、良い結果になる場合は少なく、悪い結果となりがちです。人間が善意で食べ物をあげていると、動物は人間に信頼感を持ってしまいます。その動物がハンターを見て、近寄っていったらどうなるでしょう。動物はその人間が善意を持っているか悪意を持っているか見分けることができません。

第四項　座礁

第一目　概要

水産庁では、「座礁」とは、生きたまま海岸に乗り上げること、「漂着」は、死亡して海岸に乗り上げることとしています。昔は「寄り鯨」「流れ鯨」と呼ばれていました。
「ストランディング」「ビーチング」とは、生死にかかわらず海岸に乗り上げること。生きている場合は「ライブストランディング」。大量にストランディングした場合は「マスストランディング」と呼びます。
頻繁に座礁するのは10種程度で、すべてハクジラです。ネズミイルカ、マイルカ、カズハゴンドウ、コビレゴンドウ、ヒレナガゴンドウ、アカボウクジラ、マッコウクジラなどです。

事例

2002　日本 鹿児島県大浦町に14人のマッコウクジラが座礁。救出作業により1名は海に戻したが13人が死亡した。
2015　カナダ［URL：シャチの座礁と救出作業：https://youtu.be/LNUbae-QBeQ］
2017　ニュージーランド［URL：ゴンドウクジラの大量座礁と救出作業：https://youtu.be/KUm-2-7-7S4］
2018　日本 沖縄県名護市［URL：コビレゴンドウの座礁と救出作業：https://youtu.be/G4QJ4M-j2t8］
2022　ギリシャ［URL：アカボウクジラの座礁の救出作業：https://youtu.be/uqX54sDTEng］

原因

最も有力な原因は、戦艦や潜水艦などが発する軍事ソナー。周波数約5kHzのソナーが使用され始めた60年代頃から、マスストランディングが発生するようになりました。音の大きさは240デシベルに達するものもあり、鯨族を殺すことができるほどの轟音です。［第五部 第五章 第二節 第二項 第一目　バンガー：聴覚へのダメージ］参照。耳や脳から出血している鯨族、減圧症になっている鯨族も確認されています。1960～2004に発生した121件のマスストランディングのうち、少なくとも40件は軍事行動と関係していることがわかっていま

す。スペイン沖ではアカボウクジラの座礁に関して軍への批判が高まり、軍は2004年に軍事演習を中止、それ以降アカボウクジラの座礁は無くなりました。
その他、漁船や軍艦の航行音、海中工事などオーシャンノイズ、太陽嵐による地磁気異常、何らかの疾病、シャチに追われて逃げた、複雑な地形や砂浜などによりエコーロケーションが失敗した、気候変動などが原因の候補とされています。
カズハゴンドウやコビレゴンドウは、数百名単位で大量座礁することが知られています。彼らは仲間意識が強いため、上記のような原因に誘発され、1人が岸に向かって泳いで行ってしまうと他の仲間もそれに続き、大量に座礁してしまうと考えられています。

爆発

漂着クジラの体内にはガスが溜まっており爆発することがあります。近寄ると危険ですので、ご注意ください。座礁クジラを見かけた際は、市町村等行政に連絡してください。
［URL：Whale Explodes!：https://youtu.be/X478zOUdHdU］
［URL：The Exploding Whale Compilation 2017：https://youtu.be/hkBscgjlCaQ］（* 2:01-2:32は安楽死、2:33-ラストは爆破作業と思われます）

第二目　対策

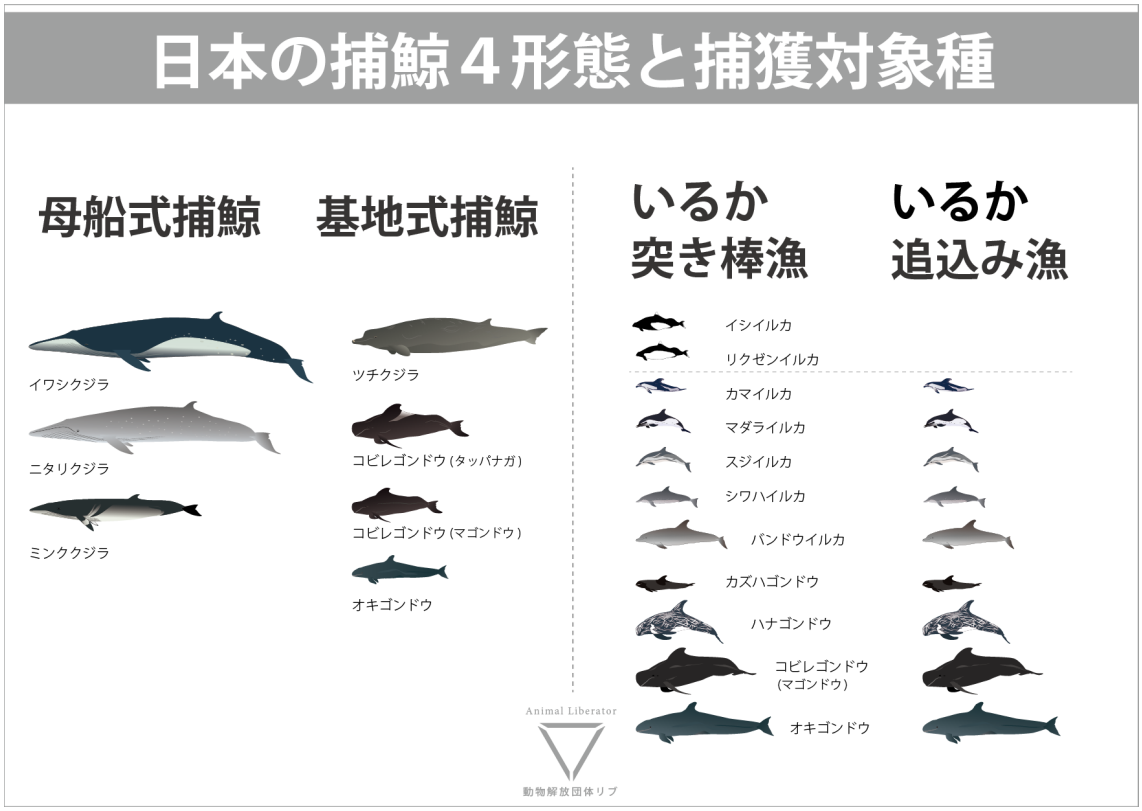
日本の対策

未然の対策：不明
事後の対策：水産庁は、鯨族座礁対処マニュアルを作成しています。
［URL：鯨類座礁対処マニュアル：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/pdf/manyuaru2012kaisei.pdf］

第四部　捕鯨

2022年現在、日本で行われている鯨族を対象とした漁は4種類。母船式捕鯨・基地式捕鯨・イルカ突き棒漁・イルカ追い込み漁です。

［図：日本の捕鯨4形態と捕獲対象種］



母船式捕鯨・基地式捕鯨は、水産庁が監督。イルカ突き棒漁・イルカ追い込み漁は、水産庁が捕獲枠を決定し、道県が監督しています。第四部で母船式捕鯨と基地式捕鯨。第五部でイルカ突き棒漁・イルカ追い込み漁について記述します。

第一章　共通

第一節　捕鯨の種類

第一項　捕鯨の分類

［IWCによる分類］

商業捕鯨（Commercial Whaling）

捕殺した鯨類を販売することを目的とした捕鯨。

科学調査捕鯨（Scientific Whaling）

鯨類の生息数や生態についてなどの研究調査を目的とした捕鯨。

先住民生存捕鯨（Aboriginal Subsistence Whaling）

伝統的に捕鯨を行ってきた先住民が生存のために行うことが許可されている捕鯨。

［IWCによる定義］

母船

船内又は、船上で鯨を全部又は一部処理することのできる船舶。工船。

捕鯨船

鯨の追尾、捕獲、殺害、引寄せ、緊縛又は探索の目的に用いるヘリコプターその他の航空機又は船舶。船舶の場合はキャッチャーボートとも言われる。

鯨体処理場

鯨を全部又は一部処理する陸上の工場。

［日本 漁業法による分類］

母船式捕鯨業

操業海域：遠洋（遠洋捕鯨）

解体：処理設備のある母船内で行う

対象種：ヒゲクジラ

母船と捕鯨船（キャッチャーボート。捕鯨砲を搭載）など複数隻のチームで、遠洋に出漁。捕鯨船がクジラを捕獲殺害し、母船が引き上げ、解体を行う。何ヶ月も連続で捕鯨を行う。

大型捕鯨業（沿岸大型捕鯨、大型基地捕鯨）

操業海域：沿岸

解体：陸地の解体処理場（基地とも言われる）

対象種：ヒゲクジラ(ミンククジラを除く)と、マッコウクジラ

大型の捕鯨船で沿岸のクジラを捕獲殺害。陸上の解体処理場へ運び、解体を行う。現在は行われていない。

小型捕鯨業

操業海域：沿岸（沿岸捕鯨）

解体：陸地の解体場
対象種：ミンククジラと、ハクジラ(マッコウクジラを除く)
小型の捕鯨船で沿岸のクジラを捕獲殺害。陸上の解体処理場へ運び、解体を行う。2020(令和2)年の漁業法改正に伴い、小型捕鯨業は、基地式捕鯨業と名称変更された。

基地式捕鯨業

操業海域：沿岸（沿岸捕鯨）
解体：陸地の解体場
対象種：オキゴンドウ、コビレゴンドウ、ツチクジラ、ミンククジラ
小型の捕鯨船で沿岸のクジラを捕獲殺害。陸上の解体処理場へ運び、解体を行う。2020(令和2)年の漁業法改正に伴い、小型捕鯨業は、基地式捕鯨業と名称変更された。

［海域による分類］

遠洋捕鯨

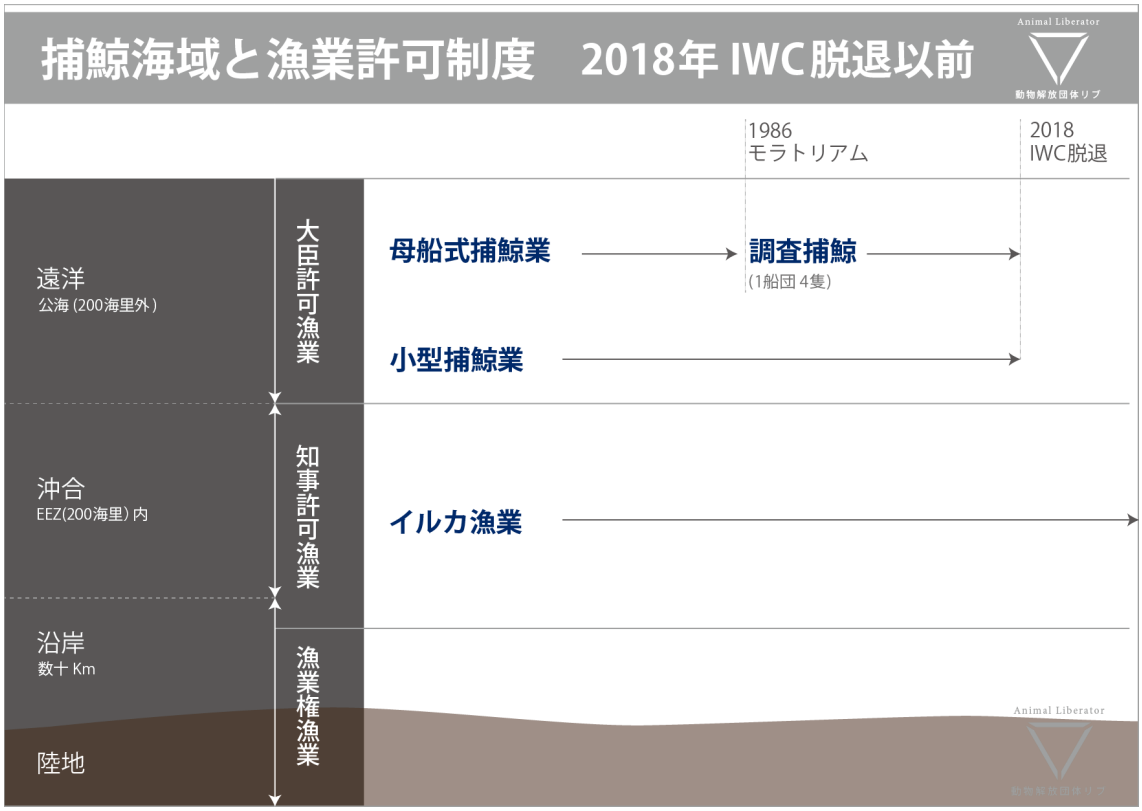
・南氷洋捕鯨：南極周辺で行う捕鯨
・北太平洋捕鯨：北太平洋で行う捕鯨
・北洋捕鯨：北太平洋北部、ベーリング海、オホーツク海で行う捕鯨

沿岸捕鯨

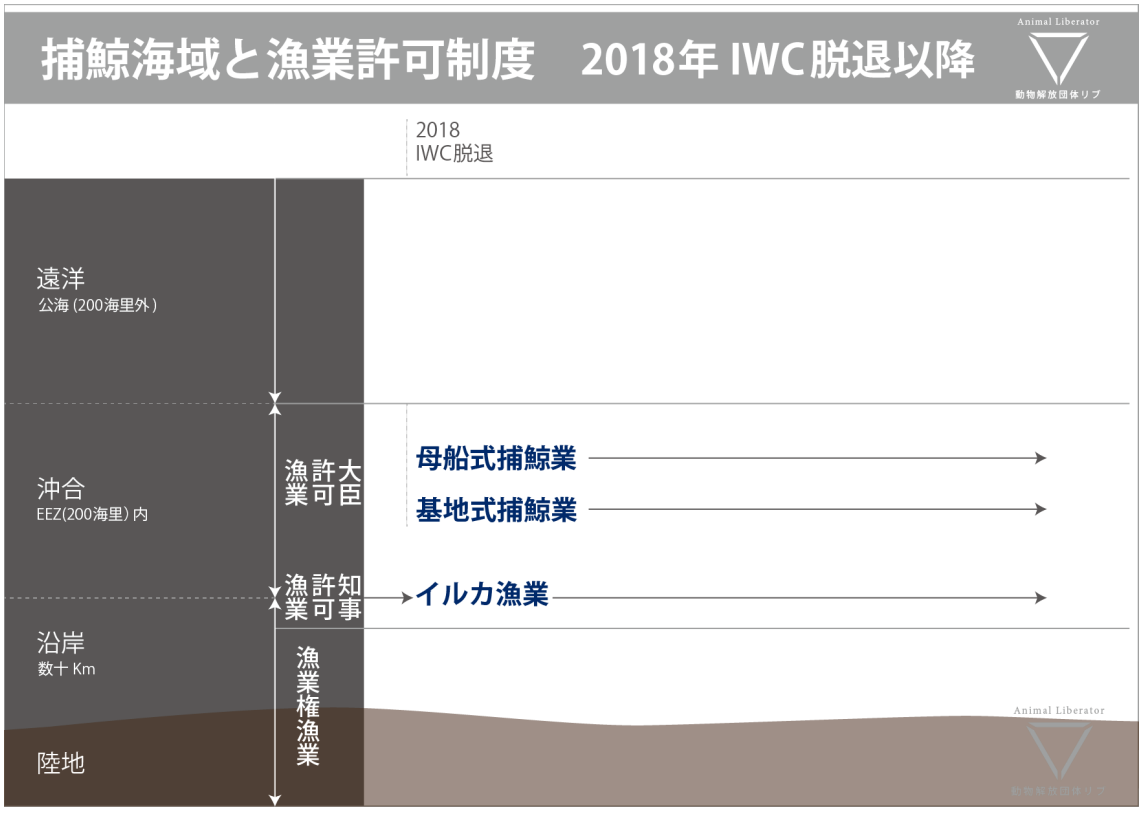
日本沿岸行う捕鯨。大型捕鯨業、基地式捕鯨業（小型捕鯨業）。イルカ漁業も沿岸捕鯨と呼ぶことがある。

[2018年IWC脱退以降の日本の捕鯨の分類]

[図：海域と漁業許可制度　2018年IWC脱退以前]



[図：海域と漁業許可制度　2018年IWC脱退以降]



第二項　先住民生存捕鯨

概要

先住民生存捕鯨（Aboriginal Subsistence Whaling）は、商業捕鯨、科学調査捕鯨と共に、IWCが認めている三つの捕鯨のうちの一つです。Aboriginalとは、先住民、土着民のこと。Subsistenceとは自給自足のことです。

商業捕鯨と先住民生存捕鯨の違いは、自給自足的生活に必要不可欠であることです。先住民生存捕鯨が許可される条件は、

・先住民が、文化と生活必需品、栄養上のニーズを満たすため、適切なレベルでクジラを捕獲することができるようにすること。

・地元で消費すること。

・捕鯨による鯨族の絶滅のリスクを高めないこと。

・自民族に対して先住民生存捕鯨を求める国は、IWCに対して「捕鯨による文化的、自給自足的必要性」を証明しなければならない。

などです。

先住民生存捕鯨を行っている国

現在、先住民生存捕鯨が認められているのは、

・アメリカ（アラスカ州：アラスカ先住民イヌイット11コミュニティー)

・アメリカ（ワシントン州：マカ・インディア))

・ロシア（極東北極圏：チュクチ先住民チュクチ族）

・デンマーク（グリーンランド人）

・セントビンセント及びグレナディーン諸島（ベキア島(ベックウェイ島)）

問題

”先住民”や”生存”といった言葉のイメージから素朴でロマンチックな漁業を思い浮かべがちですが、実際は高性能エンジンを積んだ船に乗り鯨族を追いかけ回し、ライフルで銃撃し殺害する残虐なものです。

アメリカ アラスカ州のイヌイットは、毎年300-500ものベルーガを殺害し、40〜70のホッキョククジラを殺害しています。また同海域でIWCから脱退したカナダのイヌイットが捕鯨を行っています。年間、400名以上のベルーガ、600名ものイッカクを殺害しています。

アメリカ ワシントン州のマカ族は 1920年代すでに捕鯨を中止していましたが、1995年捕鯨復活の許可を申請し、1999年復活させました。つまり捕鯨は彼らの生活に必要不可欠なものではないということです。

ロシアの先住民生存捕鯨は、手榴弾とライフルを使用しており、場合によっては鯨族に数百発もの銃弾を打ち込みます。

デンマーク グリーンランドでは、観光ホテルやレストランで鯨肉が販売されており、実質的な商業捕鯨を行っていることが批判されています。

AWIは、捕鯨道具は前近代的なものであり、クジラが絶命するまでの時間が長く人道的でないこと、捕殺したにもかかわらず水没するなどして無駄にクジラを殺している可能性があることなどを非難しています。

先住民生存捕鯨は、政治的な問題です。クジラ保護国であるアメリカは、自国の先住民族が行っている先住民生存捕鯨は容認しています。一方、日本など捕鯨国には厳しい対応を求めており、当然ながら日本政府や捕鯨共同体はこのダブルスタンダードに不満を持ちアメリカの態度を批判しています。アメリカは、捕鯨に関し政治的で不公平な判断を国際社会に通しており筋が通りません。アメリカは自国の捕鯨問題に関しても厳しい対応をすべきです。一方日本は基地式捕鯨(旧小型捕鯨)を先住民生存捕鯨として認めさせようとし、失敗しています。

先住民生存捕鯨に対する活動

AWIなどのNGOはIWCの場や声明などを通じて、先住民生存捕鯨の問題点を指摘し改善、あるいは終焉させようとする活動を行っています。また、日本だけを攻撃しているとされているシーシェパードは、先住民生存捕鯨に対しても妨害活動を行っています。

第三項　古式捕鯨

日本で江戸時代から行われてきた古式捕鯨には、突取式捕鯨と網取式捕鯨があります。捕鯨伝統文化論を主張する人々が好む話題であり、基本的な知識を押さえておくことは重要です。

突取式捕鯨の方法

泳いでいるクジラに近づき、銛を突き刺し、殺害。岸まで曳航しました。死亡後に浮くクジラ（マッコウクジラ、セミクジラなど）のみを捕獲することができました。

網取式捕鯨のチーム編成

網取式捕鯨は、複数のチームで役割分担し、捕鯨を行いました。海に出るチーム、陸での作業を行うチームに分かれており、さらに細かい役割ごとにチームが分かれていました。経営体を頂点とした厳密なヒエラルキーがあったようです。

［海に出るチーム］

網船(あみぶね)：沿岸の特定の位置に浮かび、網を張って鯨が追い込まれてくるのを待つ役割です。かつては燈明崎と梶取崎の間「神の浦」で待ち構えていたそうです。太地町各所で掲示されている昔の絵には、現在の太地漁港と燈明崎の間でザトウクジラを追い込み殺害しているところが描かれています。

勢子船(せこぶね)：クジラを追いかけ、網に追い込みます。勢子船に乗っている羽刺(はざし)というクジラに飛び乗り殺す役割の人が、網取式捕鯨の花形でした。

道具船：勢子船に道具を供給する船です。

持双船(もっそうぶね)：殺害した鯨を浮かせ、岸まで曳航する役割を果たす船です。

［陸での作業を行うチーム］

山見(やまみ)：燈明崎や梶取崎などの岬の上に待機し、海を見張りクジラを探す役割です。捕鯨全体を監督し指示を出すリーダーはここにいました。狼煙や特定の意味を持った模様をあしらった旗で、海で漁を行っているチームへ指示を出し、クジラがいる方向や種類や大きさも伝えていました。

解剖(かいぼう)：捕獲殺害されたクジラを解体する組。

採油(さいゆ)：クジラから鯨油を採る組。

筋師(すじし)：クジラ髭を加工する組。

器械(きかい)：道具や船の製造、整備を行う組。

経営(けいえい)：太地の捕鯨の頂点にいたのが、捕鯨の一切を取り仕切り経営していた和田家と太地家でした。

網取式捕鯨の手順

1. 探鯨：海に船が出て各配置につき、岬で山見がクジラを探します。
2. クジラ発見：山見がクジラを発見すると狼煙や旗で勢子船に指示を出し、勢子船がクジラに近づきます。
3. 勢子船はクジラの後ろから音を立てて誘導し、沿岸で待ち構えている網船の網に誘導します。クジラは網に入ると体を動かすことが困難になり、クジラ漁師たちによる殺害が始まります。
4. 銛を刺す：最初に細い銛を指します。これは一番銛と言われ、細くてクジラにダメージが少ない銛です。いきなり太い銛を打ち込むとクジラが大きい苦痛を感じ逃げるため、小さいダメージから徐々にダメージを蓄積させていきます。一番銛の次にそれより太い二番銛、次にさらに太い三番銛と順番にダメージを大きくしていきます。銛は9種類ほどもあります。クジラの子どもがいる場合は、子どもから銛を刺していきます。あるタイミングでウキがついた銛を刺し、クジラが潜りにくいように、また死亡した後浮くようにします。
5. 包丁：クジラが弱ったら、脇腹に木の棒の先に付けた大包丁で脇腹を切り裂きます。
6. 羽刺：羽刺がクジラの背中に飛び乗り、背ビレか鼻に包丁を突き刺し、穴を開け、ロープを通します。背ビレに穴を開けることを手形を切る、鼻に穴を開けることを鼻を切ると言いました。古式捕鯨はクジラの身体中から血が吹き出し、クジラは叫び、もがく、凄惨なものだったようです。

   鹿児島の古式捕鯨では、クジラを身動きが取れないようにすると一旦作業を終え、一晩置いておくことがあったそうです。恐怖と痛みに耐えるクジラが牛のような「ウォーン、ウォーン」という鳴き声をあげる声が遠くまで聞こえていたそうです。捕まったクジラが子供であれば母親が、母親であれば子供が、心配して沖からやってくるとそのクジラも捕獲殺害していました（鯨研通信第312号 1978年1月）。

7. 運搬：クジラが死亡すると、持双船の間にクジラの遺体を挟みます。漁師のうち、刺水夫(さしかこ)が海に潜り、クジラの腹の下にロープを通し、沈まないようにします。このことにより、かつては捕獲できなかった死亡すると沈むクジラ（ナガスクジラ・ザトウクジラなど）を捕獲できるようになりました。
8. 報告：羽刺を中心とする海の組は、経営陣の元に居並び、捕鯨の報告を行いました。
9. 陸の作業：陸にクジラを引き上げた後は、陸の組が解剖し、油を採取し、クジラ髭を加工しました。

日本海側では捕鯨を行っていたのだろうか、と疑問を持つ方が複数いました。日本海側にはシロナガスクジラ、ナガスクジラ、イワシクジラ、ザトウクジラ、セミクジラ、コククジラ、ミンククジラなどが回遊しており、石川、京都、山口などで古式捕鯨が行われていました。

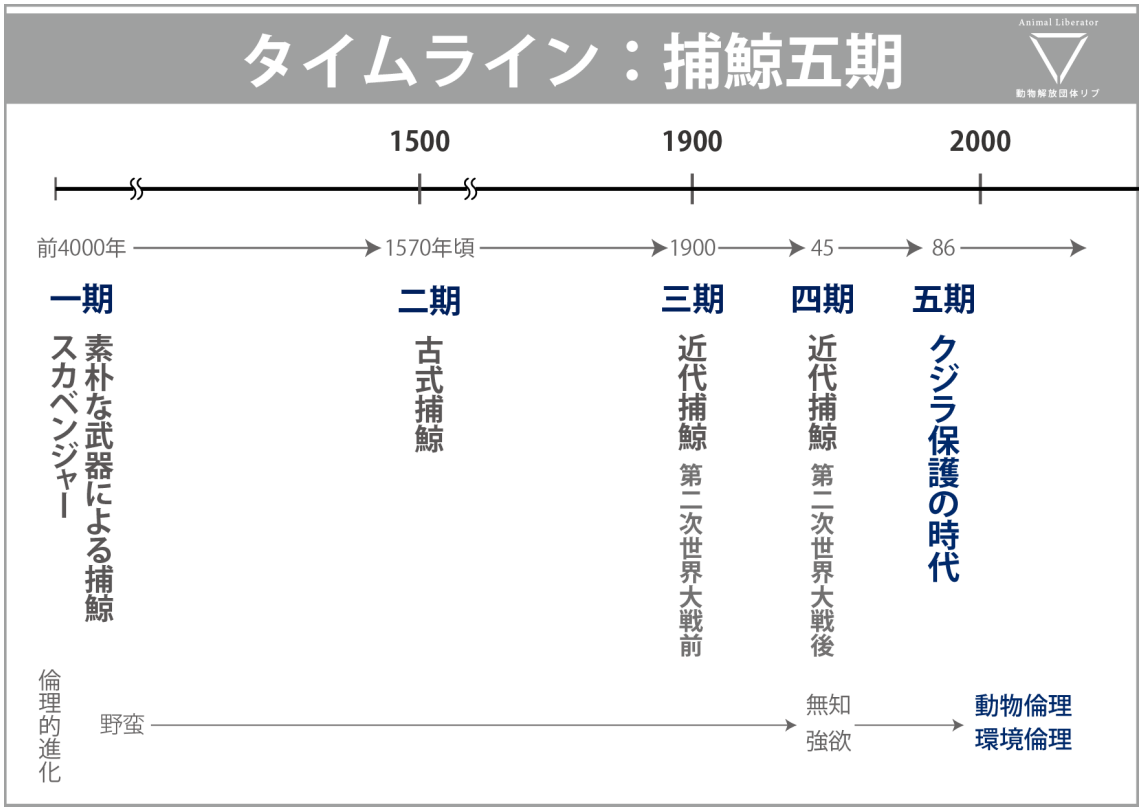
第二節　年表

第一項　年表

鯨族と人間の歴史の大まかな流れを掴みます。
鯨族が人間に危害を加えた記録は多くはありませんが、人間は鯨族に多大な危害を加えてきました。各国が捕鯨にしのぎを削った時代、鯨族が被った被害は甚大なものでした。現在、その反省から、世界の多くは捕鯨は縮小傾向にあります。
鯨族と人間の歴史は、誰も彼もが鯨族を搾取しようとする時代から、引き続き鯨族を搾取し続けようとする人々と守ろうとする人々のせめぎあいの歴史へとシフトしています。すでに世界的には鯨族を守ろうとする人々が主流となっていますが、日本をはじめとする一部の国家や民族が、鯨族の搾取を堅持しようと抵抗しています。

捕鯨五期

本書では、日本の捕鯨を五つの期間に分けて考えます。
［タイムライン：捕鯨五期］



一期：前4000年～1570年頃　スカベンジャー（座礁したクジラの死肉を食べる）
　　素朴な武器による捕鯨
二期：1570年頃～1900年頃　古式捕鯨
三期：1900年頃～1945年　近代捕鯨 第二次世界大戦前

四期：1945年〜1986年　　近代捕鯨 第二次世界大戦後
五期：1986年〜　　クジラ保護時代

一期：スカベンジャー｜小規模、素朴な武器による捕鯨（前4000年〜1570年頃）
〜 座礁した鯨族の遺体を食べていた時代から、素朴な漁具で捕鯨を行っていた時代まで。
前6000年頃　世界中に、鯨族を食用としていた痕跡。
日本列島に住む人々も座礁したクジラを食べていた。捕鯨をしていたとも言われる。これをもって誇るべき日本文化とする捕鯨支持者も。
1500年代　**主導：スペイン、フランス**
バスク人が積極的捕鯨を始めた。
クジラは主に油を目的として捕獲され、機械油やランプ用の油、マーガリン、殺虫剤等として使用された。

二期：古式捕鯨（1570年頃〜1899年頃）
〜 鎖国日本、古式捕鯨の始まりから終焉までの時代
1570年頃　日本：三河湾で突き取り式捕鯨（古式捕鯨）が始まる。木造船、人海戦術で捕獲していた。操業は沿岸地域に限定。1570年以前から行われていたとする説もある。
古式捕鯨の定義ははっきりしていない。突き捕り式捕鯨を古式捕鯨とする場合もある。太地町は、網取り式捕鯨の発祥を持って古式捕鯨発祥の地と主張している。
1600年代　**主導：UK、オランダ**
1603年　江戸時代
1675年　日本：現和歌山県太地町で、網取り式捕鯨（古式捕鯨）が始まる。木造船で海に出て、人海戦術で鯨を捕獲していた。
　アメリカ：アメリカ式捕鯨が始まる。アメリカ式捕鯨とは：クジラを捕獲するボートと、捕獲したクジラから鯨油を採取し保存する船が、共同で捕鯨を行う方式。これにより長距離、長期間の捕鯨が可能に。
1700年代　**主導：アメリカ、ヨーロッパ**
1783年　蒸気船が実用化し、捕鯨が拡大。
1819年　アメリカ、UK：米英捕鯨産業は、北海道ー小笠原ーハワイを結んだ海域、ジャパングラウンドに進出。
1853年　ペリー率いる米海軍6隻が、日本を補給所、避難所として使用することを目的とし来航。日本は開国に応じる。
1859年　アメリカ：石油の採掘が始まる。鯨油の需要が低下していく。
1868年　明治時代
1868年　ノルウェー：ノルウェー式捕鯨始まる。近代捕鯨の幕開け。

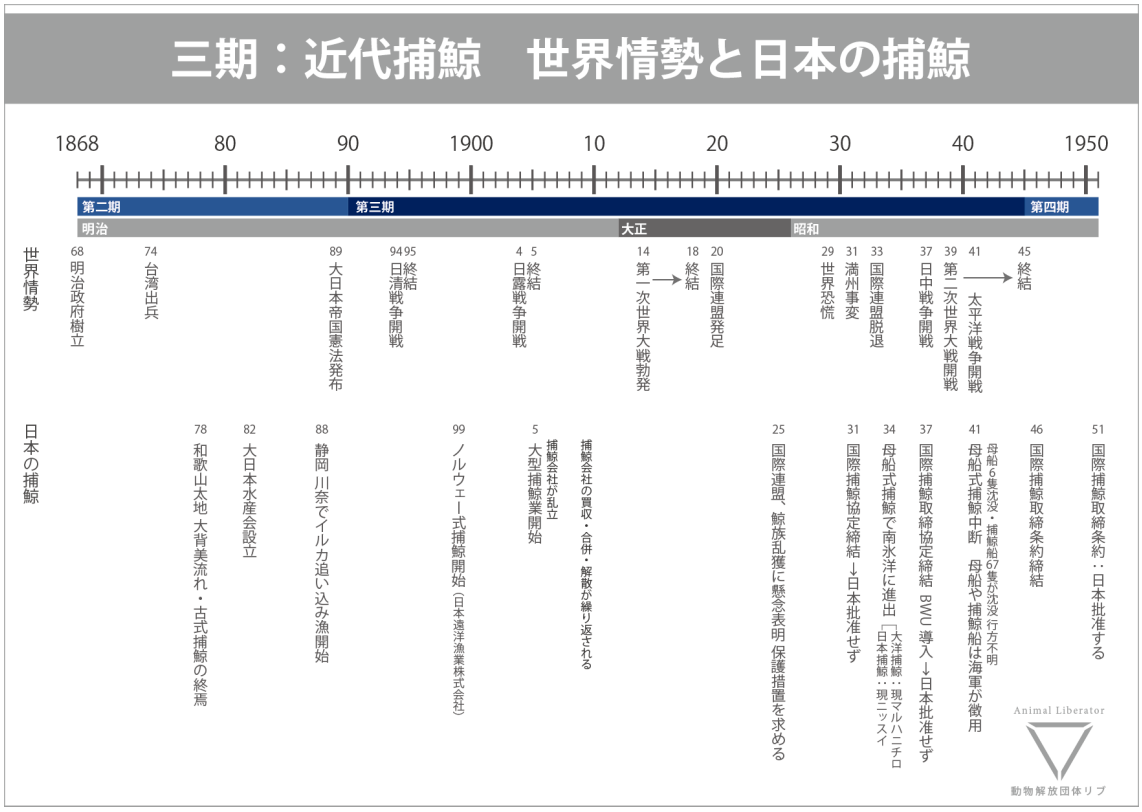
ノルウェー式捕鯨とは：捕鯨砲を使用した捕鯨。捕鯨砲からロープを結びつけた銛を発射し、クジラに打ち込み殺害。クジラが沈まないようにロープを手繰り寄せて捕獲する。ノルウェー式捕鯨以前は、殺害した後、死体が浮くセミクジラやホッキョククジラを捕獲していた。捕鯨砲の導入後は、殺害した後、死体が沈むナガスクジラ系のクジラを捕獲できるようになり、クジラの被害が一気に拡大した。

1878年　日本：太地町、大背美流れ。古式捕鯨の事実上の終焉。

三期：近代捕鯨 第二次世界大戦前（戦前：1900年頃～1945年）

～ 日本がノルウェー式捕鯨に転向。クジラ大量虐殺時代第一期。

［タイムライン：三期：近代捕鯨　世界情勢と日本の捕鯨］



1800年代後半から1900年代にかけて、25万5000名以上のクジラが殺されている。

1900年頃　**主導：ノルウェー、UK**

1900　日本遠洋漁業株式会社がノルウェー式捕鯨を開始

1925　国際連盟がクジラ資源の乱獲について保護措置を求める

1926　昭和時代

1931　第一回国際捕鯨協定(ジュネーブ条約)締結。26ヶ国。乱獲からのクジラ保護が始まる

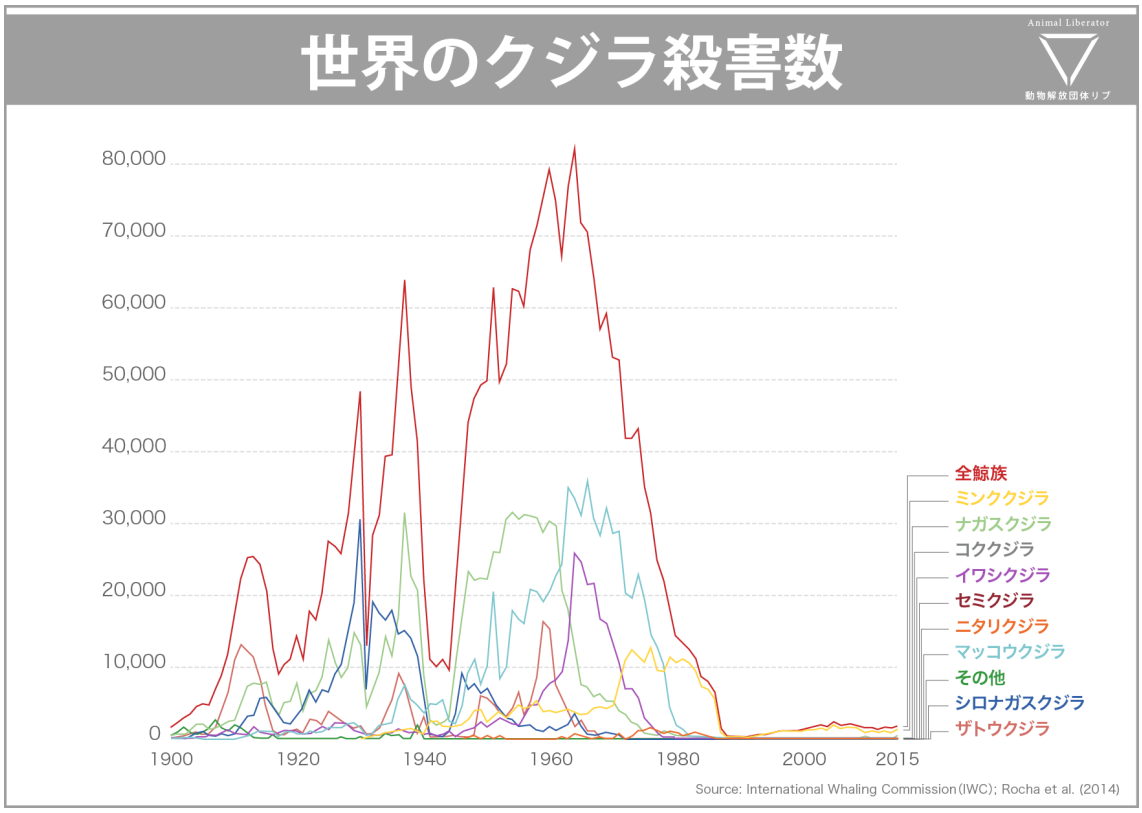
1934　日本 南極海捕鯨に進出

1937　国際捕鯨取締協定締結。9ヶ国が参加。 捕獲のモニター開始

1939　第二次世界大戦開戦

戦争中、殺害されるクジラの数が劇的に減った。

［グラフ：世界のクジラの殺害数］



Our World In Data, CC BY 3.0 <https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>, via Wikimedia Commons

1940年　アメリカ：捕鯨から撤退

1945年　第二次世界大戦終結

四期：近代捕鯨 第二次世界大戦後（戦後：1945年～1986年）

～ クジラ大量虐殺時代第二期

1946　国際捕鯨取締条約：ICRW締結

　　国際捕鯨委員会：IWC設立

1951　日本：IWCに加盟

1959　日本：捕鯨オリンピックで1位に。かつての捕鯨大国は撤退し始めていた。

1960頃　**主導：日本、ソビエト連邦**

1960　南氷洋捕鯨母船 7船団に増加（最盛期）

1963　UK：南氷洋から撤退

1964　オランダ：南氷洋から撤退

1969　クジラが激減していることがわかり、鯨油の需要も低下したため、多くの国が捕鯨を中止する。

1969　太地町がくじらの博物館開館展示用のイルカを捕獲するために、現代イルカ追い込み漁を開始。
1970　南氷洋捕鯨母船 3船団に減少
1972　国際連合人間環境会議が「商業捕鯨10年間モラトリアム勧告案」採択。鯨族が環境保護のシンボルになり、世界的に鯨族保護運動が高まるきっかけに
1973　ノルウェー：南氷洋から撤退
　　太地町が初めて現代イルカ追い込み漁でイルカを捕獲。
1975　グリーンピースが世界初の反捕鯨キャンペーンを開始。「クジラを救え(Save The Whales)」運動が世界に広まる
1976　南氷洋捕鯨母船 1船団に減少
日本共同捕鯨株式会社設立（捕鯨産業が縮小。大洋漁業・日本水産・極洋・日東捕鯨・日本捕鯨・北洋捕鯨が出資し設立。各社は捕鯨から撤退）
グリーンピースが史上初の反捕鯨直接行動。ソ連の捕鯨船団がマッコウクジラを捕獲しようとする際、ゴムボートで捕鯨船とクジラの間に割り込んだ。ソ連の砲手は構わず捕鯨砲を打ち込み、マッコウクジラのを殺害。ゴムボートには、グリーンピースの創設者の1人ロバート・ハンターと、後にシーシェパードを創設するポール・ワトソンが乗っていた。
［URL：実際の映像：https://youtu.be/ZCR46bn6Txo］
1979　日本が北洋での商業捕鯨を中止
1980　太地町のイルカ生体販売ビジネスが本格化。

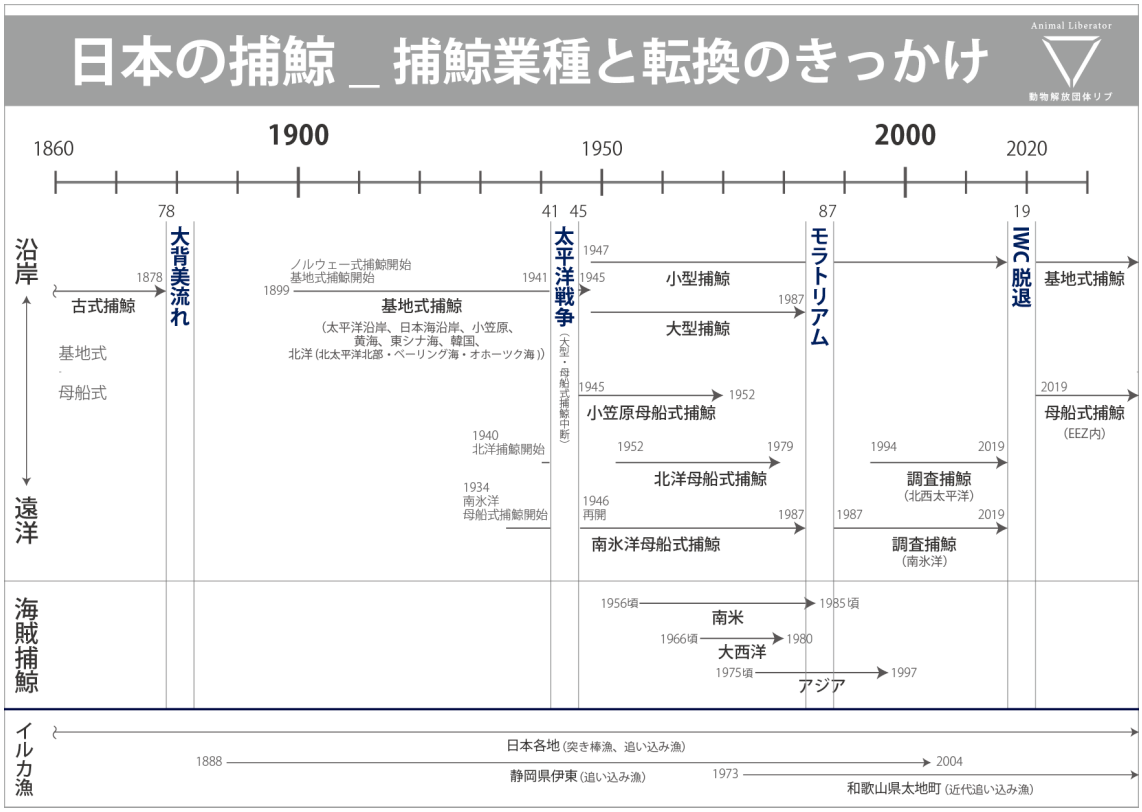
五期：クジラ保護の時代（1982～現在）
～ 捕鯨産業・水産庁を中心とするプロパガンダ時代
1982　IWC：商業捕鯨モラトリアムを採択
1986　IWC：商業捕鯨モラトリアム開始
1987　日本：調査捕鯨開始。商業捕鯨の代替
2009　映画「The Cove」公開。太地町のイルカ追い込み漁を扱い世界的な問題となる。
2019　日本：IWCを脱退。商業捕鯨開始
2021　現在
2023　（予定）日新丸新造

第二項　捕鯨業種の転換ときっかけ

二期：古式捕鯨（1570年頃〜1899年頃）の開始から現在に至るまで、捕鯨の形式は4回のきっかけを経て5回変化しました。わかりづらいので図にまとめておきます。活動家としては、モラトリアムによる変化とIWC脱退による変化を把握しておくと良いでしょう。

1978年　大背美流れによって、古式捕鯨が終焉し、戦前の基地式捕鯨の時代へシフト。
1941-45年　太平洋戦争によって、基地式捕鯨が中断し、戦後の小型捕鯨・大型捕鯨・小笠原捕鯨・北洋母船式捕鯨・南氷洋母船式捕鯨へシフト。海賊捕鯨はこの時代に始まりました。
1987年　モラトリアムによって、戦前の捕鯨が行えなくなり、小型捕鯨・調査捕鯨へシフト。
2019年　IWC脱退によって、小型捕鯨・調査捕鯨から、基地式捕鯨・EEZ内母船式捕鯨へとシフトします。

［タイムライン：日本の捕鯨_捕鯨業種と転換のきっかけ］



第二項　捕鯨会社の歴史

大きな流れは以下です。

1570年から、日本では沿岸捕鯨のみが行われていました。

1898年、古式捕鯨消滅により、各地の鯨組も消滅しました。

1899年、ノルウェー式捕鯨（近代捕鯨）が開始

1907年までの間に12社の捕鯨会社が乱立し、後国策により統合が進められます。

1934年　ついに南氷洋に進出します。

第一目　2021年度 水産会社ランキングTOP3

四期：近代捕鯨 後期（戦後：1945年～1986年）に南氷洋に進出したのは、大洋漁業（現マルハニチロ）、日本水産（ニッスイ）、極洋。日本の三大捕鯨会社と呼ばれます。いずれも捕鯨は中止して、水産総合会社となっています。この3社は現在でも、日本の水産会社売上げTOP3の会社です。戦後の捕鯨オリンピック時代に莫大な売上をあげたことが現在の地位を作りました。

2021年年度 水産会社ランキングTOP3

1. マルハニチロ　8,625億円（シェア35.7%）（水産総合商社）
2. 日本水産（ニッスイ）　6,564億円（シェア27.2%）（水産総合商社）
3. 極洋　2,491（シェア10.3%）（水産総合商社）
4. 横浜冷凍　864（シェア3.6%）
5. マリンンフーズ　836（シェア3.5%）
6. はごろもフーズ　833（シェア3.5%）
7. 日本ハム　768（シェア3.2%）
8. ニチモウ　719（シェア3.0%）
9. ニチレイ　629（シェア2.6%）
10. 一正蒲鉾　346（シェア1.4%）

引用：水産業界, 業界動向SEARCH.COM, 2022-05-11, https://gyokai-search.com/3-suisan.html

第二目　南氷洋捕鯨 3社

1位　マルハニチロ

関連会社（買収、合併、社名変更等）

マルハ：林兼商店、土佐捕鯨、遠洋捕鯨株式会社、西大洋漁業統制株式会社（水産統制令による合併）、大洋捕鯨株式会社、？

ニチロ：堤商会、一井組、日魯漁業株式会社、極東漁業、勘察加(カムサツカ)漁業株式会社、輸出食品株式会社、？

所有船船

母船：日新丸、第一日新丸、第二日新丸（初代・2代）、第三日新丸、？

捕鯨船：？

2007年にマルハとニチロは合併しマルハチニロとなりました。2007年まではマルハとニチロの沿革を別々に記述し、2007以降統合します。

沿革：マルハ

1880　中部幾次郎が兵庫県明石市に鮮魚仲買運搬業、林兼商店を設立（後に海賊捕鯨船トンナ号(俊洋丸)を建造）

三期：近代捕鯨 大戦前（戦前：1900年頃～1945年）

1922　土佐捕鯨を買収し捕鯨業に進出

1924　株式会社林兼商店を設立

1936　大洋捕鯨株式会社　南氷洋捕鯨に初出漁

1943　西大洋漁業統制株式会社 設立（水産統制令により株式会社林兼商店の内地水産部門、大洋捕鯨株式会社、遠洋捕鯨株式会社等が合併）

四期：近代捕鯨 大戦後（戦後：1945年～1986年）

1945　水産統制令が廃止。　大洋漁業株式会社と再び商号変更

1946　戦後初の南氷洋捕鯨に第一日新丸が出漁

1947　大洋漁業の持株会社である林兼商店が財閥解体による 第5次指定持株会社に指定される

1949　プロ野球球団「まるは大洋球団」を結成し、セリーグに加盟

1950　大洋漁業株式会社が株式会社林兼商店を合併。「まるは大洋球団」を「大洋ホエールズ」に

1976 日本共同捕鯨株式会社設立（大洋漁業(現マルハニチロ)／日本水産(ニッスイ)／極洋／日東捕鯨／日本捕鯨／北洋捕鯨が出資）

1987 共同船舶株式会社 設立：商業捕鯨モラトリアムに伴い、鯨類資源調査事業への貸船会社として創設。前身は日本共同捕鯨株式会社。船舶等を移譲。

1993　大洋漁業株式会社は、マルハ株式会社と商号変更。「大洋ホエールズ」を「横浜ベイスターズ」に改称

2004　マルハグループを持株会社方式により再編。株式移転により株式会社マルハグループ本社を設立し、マルハそのものはマルハグループ本社の完全子会社となる。

沿革：ニチロ

三期：近代捕鯨 前期（戦前：1900年頃～1945年）

1906　堤商会創業

1910　日本水産の創業者でもある田村市郎により北海道函館市で一井組創立

1914　一井組が旧・日魯漁業株式会社へ改組

1919　堤商会を極東漁業へ改組

1921　輸出食品株式会社、勘察加(カムサツカ)漁業株式会社、日魯漁業株式会社の3社が合併。日魯漁業株式会社へ

四期：近代捕鯨 後期（戦後：1945年～1986年）

1990　（株）ニチロに社名変更

沿革：マルハチニロ

2007　マルハとニチロが経営統合・株式交換。統合持株会社として、マルハグループ本社を統合持株会社マルハニチロホールディングスに商号変更。

2008　株式会社ニチロを株式会社マルハニチロ水産に商号変更、水産業専業となる

2014　マルハニチロ水産が、マルハニチロホールディングスを含むグループ5社を吸収合併し、マルハニチロ株式会社に商号変更

2位　ニッスイ（日本水産株式会社）

関連会社（買収、合併、社名変更等）

田村汽船漁業部、株式会社山神組、共同漁業株式会社、北洋水産、中央水産販売所、日産コンツェルン、日本捕鯨株式会社、日本合同工船、帝国水産統制株式会社（現・ニチレイ）、日本海洋漁業統制株式会社、？

所有船船

母船：図南丸、第二図南丸、図南丸、松島丸、橋立丸

捕鯨船：第一～二十興南丸、？

沿革

三期：近代捕鯨 大戦前（戦前：1900年頃～1945年）

1911　日本水産の創業。下関、トロール漁業。久原財閥総帥・久原房之助の兄である田村市郎が「田村汽船漁業部」を山口県下関に創立

1917　株式会社山神組が日本水産株式会社に改称(第1次日本水産)

1919　「田村汽船漁業部」が組織変更し「共同漁業株式会社」に改称

1926　共同漁業が日本水産及び北洋水産を合併。中央水産販売所が日本水産株式会社に改称。

1934　日産コンツェルンに参画

　　日本捕鯨株式会社（のちの当社捕鯨部門）が南氷洋捕鯨に初出漁。

1936　共同漁業が日本捕鯨及び日本合同工船を合併

1937　共同漁業が日本水産株式会社に改称。

1938　第三図南丸竣工 捕鯨母船 南極海捕鯨に使われる

1941　第三図南丸日本海軍によって徴用

1942　水産統制令に基づき、帝国水産統制株式会社（現・ニチレイ）を設立、冷蔵・販売部門を譲渡。

1943　水産統制令に基づき、漁労部門を中心に日本海洋漁業統制株式会社を設立。

1944　第三図南アメリカ軍空襲により沈没

四期：近代捕鯨 大戦後（戦後：1945年～1986年）

1945　水産統制令廃止に伴い、社名を日本海洋漁業統制から日本水産株式会社に復帰。

1946　GHQより第1次南氷洋捕鯨許可を受ける

GHQによる南氷洋捕鯨出漁許可により戦後第一次南氷洋捕鯨に出漁

1951　沈没していた第三図南丸の引き揚げに成功

1975　第二図南丸船団、南氷洋捕鯨に最後の出漁

1976　捕鯨部門を分離、日本共同捕鯨株式会社に統合。

日本共同捕鯨に母船式船団 第二図南丸船団と捕鯨船7隻を譲渡、従業員を移籍

1977.3　捕鯨部を廃止

3位　極洋

関連会社（買収、合併、社名変更等）

所有船船

母船：極洋丸、？

捕鯨船：？

沿革

三期：近代捕鯨 大戦前（戦前：1900年頃～1945年）

1937　母船式捕鯨事業・各種漁業・水産加工業を目的として、極洋捕鯨株式会社設立

1938　捕鯨母船「極洋丸」南氷洋へ初出漁

四期：近代捕鯨 大戦後（戦後：1945年～1986年）

1971　社名を極洋捕鯨から捕鯨をとり、株式会社極洋に変更

1976　捕鯨部門を日本共同捕鯨株式会社に譲渡

9位　ニチレイ

1943　水産統制令　日本海洋漁業統制(株)と帝国水産統制(株)に分割された。

日本海洋漁業統制株式会社→現 日本水産

帝国水産統制株式会社→ 現ニチレイ

第三目　沿岸基地式捕鯨 3社

日本捕鯨株式会社

1987　廃業

日東捕鯨株式会社

1949　日東捕鯨株式会社設立（日本水産株式会社が分割された）

1987　廃業

三洋捕鯨有限会社

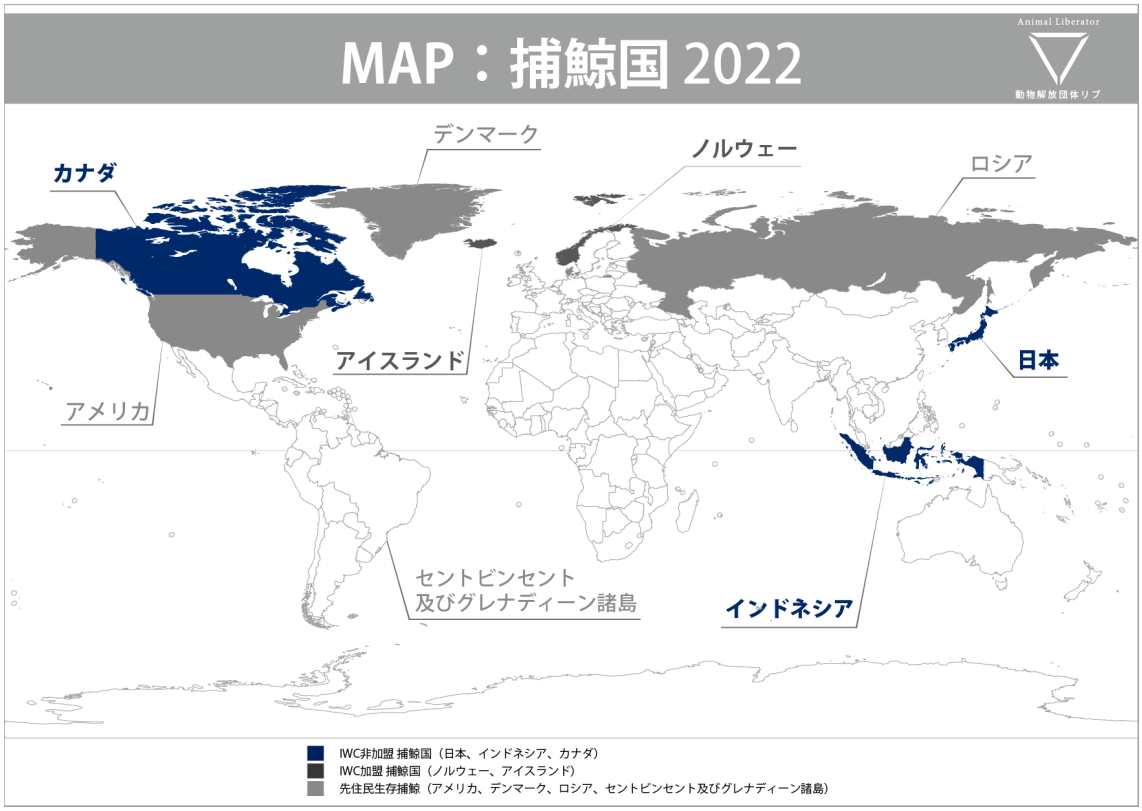
1987　廃業

第三節　MAP

三大捕鯨国は、日本、ノルウェー、アイスランド。
IWC加盟国は、3つに分けられます。捕鯨国（商業捕鯨、調査捕鯨）、先住民生存捕鯨国、捕鯨を行わない国です。
IWC非加盟国で捕鯨を行なっている国もあります。日本は2018年IWCから脱退し、IWC非加盟国で捕鯨を行う国となりました。

第一項　捕鯨国

［MAP：捕鯨国 2022］



IWC加盟 捕鯨国

ノルウェー
アイスランド

*両国ともIWCが設定した捕獲枠ではなく、独自の捕獲枠を設定している。
*アイスランドは、2024年に捕鯨からの撤退を決定している。理由は、経済的メリットがないこと。

先住民生存捕鯨（Aboriginal Subsistence Whaling）

アメリカ（アラスカ州(アラスカ先住民：イヌイット)、ワシントン州(マカ・インディア)）
ロシア（極東北極圏(チュクチ先住民：チュクチ族)）

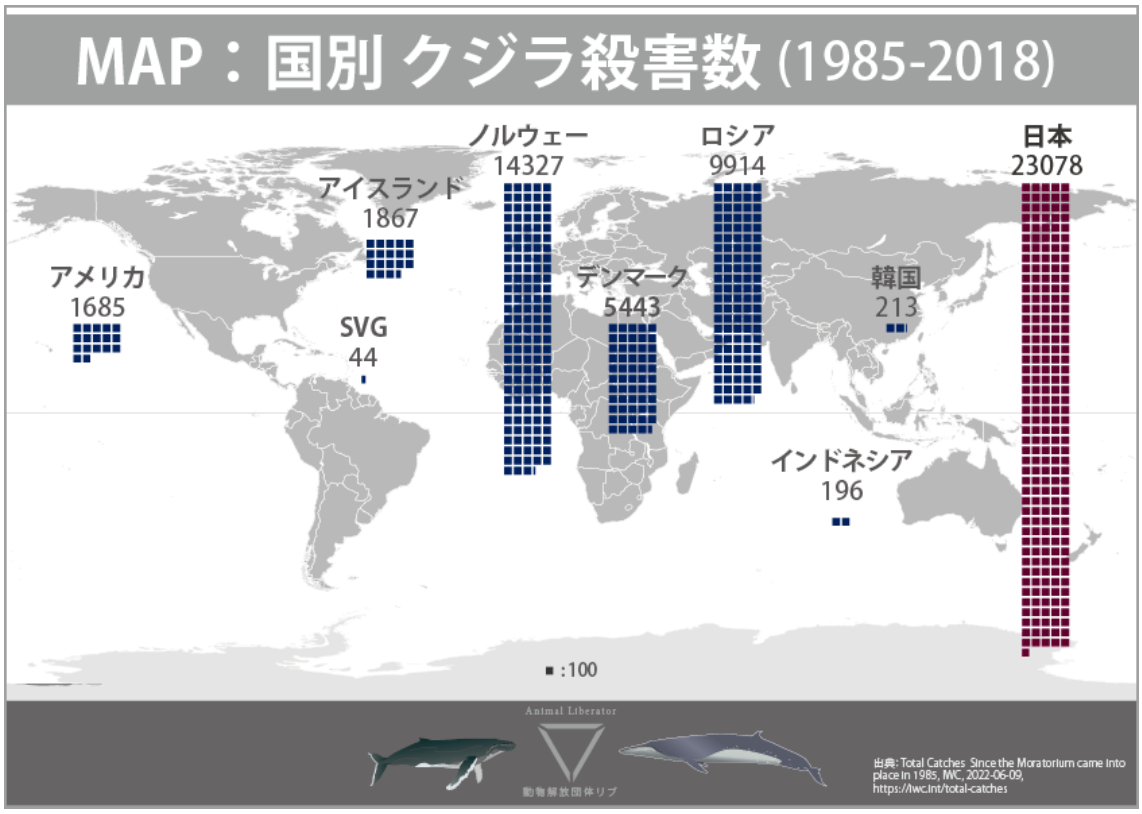
デンマーク（グリーンランド人）
セントビンセント及びグレナディーン諸島（ベキア島(ベックウェイ島)）
*セントビンセント及びグレナディーン諸島は、1979年英国から独立した国家。

IWC非加盟 捕鯨国

日本
カナダ
インドネシア

第二項　殺害数・捕獲枠

［MAP：国別 クジラ殺害数（1985-2018）］



［IWC加盟 捕鯨国：捕獲対象種・捕獲枠］

ノルウェー

ミンククジラ
2016　880名
2017　999名
2018-2021　1278名
ナガスクジラ

(不明)

アイスランド
ミンククジラ
2006-2013　年間40名
2014-2018　年間150名
2019-2024　年間217名
ナガスクジラ
2006-2013　年間9名
2014-2018　年間150名
2019-2024　年間209名

［先住民生存捕鯨・捕獲対象種・捕獲枠］（2019-2025）
イヌイット(アメリカ アラスカ州)＋チュクチ(チュコトカ)先住民(ロシア)
ホッキョククジラ　計392名(年56名)（ベーリング海、チュクチ海、ボフォート海）

マカー族(アメリカ ワシントン州)＋チュクチ(チュコトカ)先住民(ロシア)
コククジラ　計980名(年140名)（北太平洋東部）

グリーンランド先住民(デンマーク)
ミンククジラ　年20名（東グリーンランド）
ミンククジラ　年164名（西グリーンランド）
ホッキョククジラ　年2名（西グリーンランド）
ナガスクジラ　年19名（西グリーンランド）
ザトウクジラ　年10名（西グリーンランド）

セントビンセントおよびグレナディーン諸島
ザトウクジラ　計28名（年4名）

［IWC非加盟 捕鯨国：捕獲対象種］
日本（2021）
母船式捕鯨：ニタリクジラ、イワシクジラ
［本文参照：第四部 第二章 第四節　捕獲数／捕獲枠］
基地式捕鯨：ミンククジラ
［本文参照：第四部 第三章 第四節　捕獲数／捕獲枠］

インドネシア（レンバタ島ラマレラ村、ソロル島ラマケラ村）
マッコウクジラ

フィリピン
ニタリクジラ

カナダ
ホッキョククジラ

第三項　三大捕鯨国、最大の会社
［日本］
共同船舶
［URL：http://www.kyodo-senpaku.co.jp］
* このURLは海外からアクセスできないように設定されているかもしれません。英国から閲覧しようとしたところ「Forbidden　You don't have permission to access this resource.」との表示がされました。
社長　所英樹
住所　東京都中央区豊海町4番5号　豊海振興ビル5階

［ノルウェー］
ミクロブスト・バルプロダクタ・エーエス（Myklebusut Hvalprodukter AS）
［URL：https://www.hvalprodukter.no］
日本支社 ミクロブストジャパン
［URL：くじらにく.com：https://kujiraniku.com］
社長　志水浩彦
住所　〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5

［アイスランド］
クバルル社（Hvalur hf）　*Hvalur＝クジラ　hf＝有限責任の株式会社
社長：Kristján Loftsson（クリスチャン・ロフトソン）
アイスランドで唯一ナガスクジラ捕獲のライセンスを持っている。ロフトソン社長は、シャチの捕獲輸出基地だったハフナフィヨルズ出身。

第四節　官庁・法令

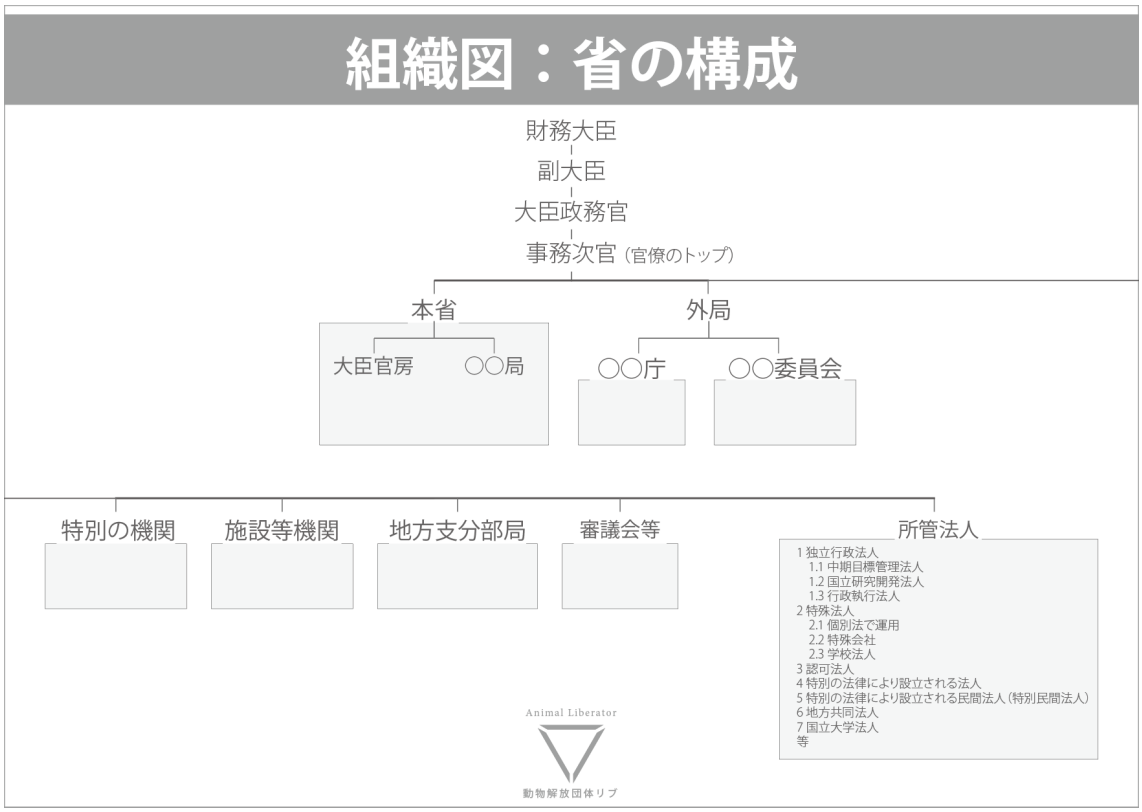
捕鯨に関する官庁と法令を記載します。
動物に関係する官庁の構造と担当部署、法令の理解は活動の役に立ちます。
法令とは、国が定めた法律＋命令です。法律は国会で定められ、命令は官庁が定めます。命令には、政令・省令・規則などがあります。官庁は法令に基づき業務を行う義務があります。法令の不備や業務不履行などを見つけた場合、その点を指摘して動物擁護活動に繋げることができます。
官庁ごとに所管する法令を掲載し、関係する条文なども示します。網羅・整理できていないことをご承知の上ご活用ください。今後イルカ・クジラ解放活動、動物解放活動に参加する、多様な才能・知見・アイデアを持つ人々が鯨族に関係する法令の概要を知り、調べる手掛かりとしていただければ幸いです。多様で複雑性の高い知識を入力することによって、多様でユニークなアイデアを出力することができます。これまでの動物解放活動を発展させ、さらにはこれまで誰もやっていない活動を開発し、活躍してくれることを期待します。

第一項　日本政府_捕鯨関係

基礎知識：省の構造

省は、「本省」「外局（庁・委員会）」「特別の機関」「施設等機関」「地方支分部局」からなり、「所管法人」を管理しています。省のトップは事務次官です。本省には、監督する分野ごとに**局**があります。監督する分野が大きい場合は**外局**を設置します。例えば、農林水産省の外局は水産庁と林野庁です。所管法人は、官庁の天下り先になっています。

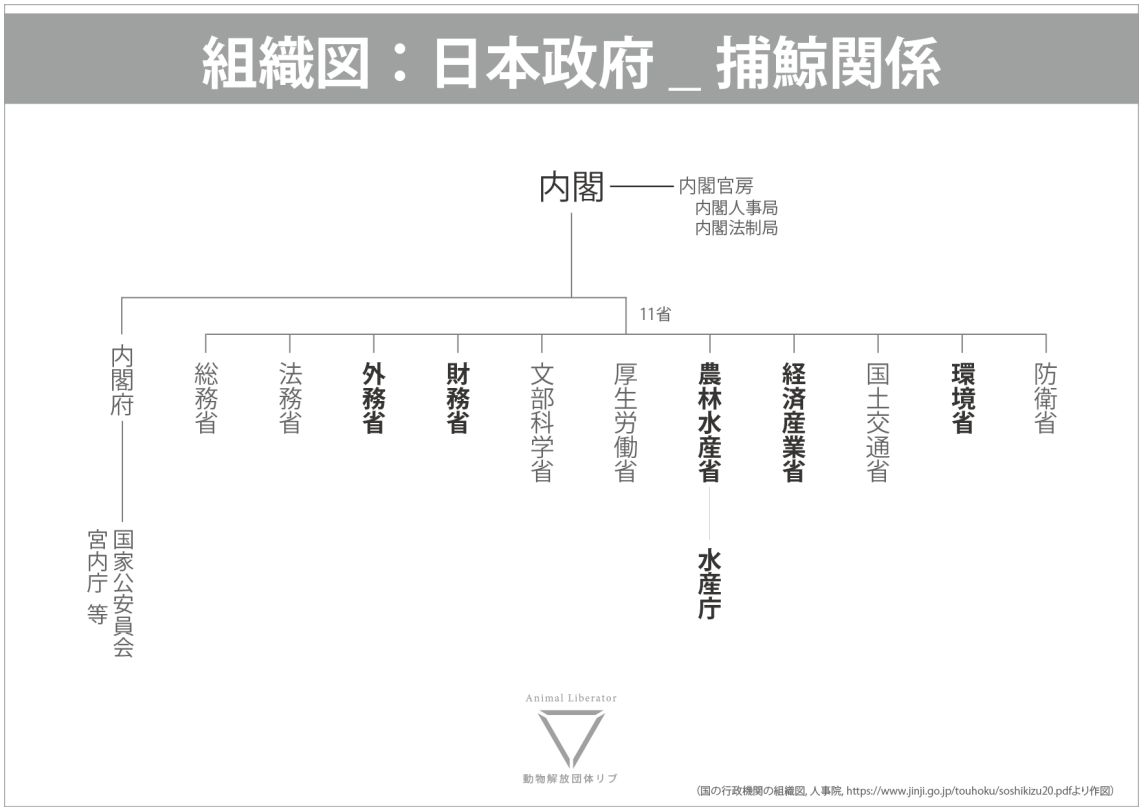
［組織図：省の構造］



日本政府と捕鯨

捕鯨に関係する主な官庁は、農林水産省(水産庁)・外務省・経済産業省・財務省・環境省。

［組織図：日本政府_捕鯨関係］



第二項　農林水産省（水産庁）

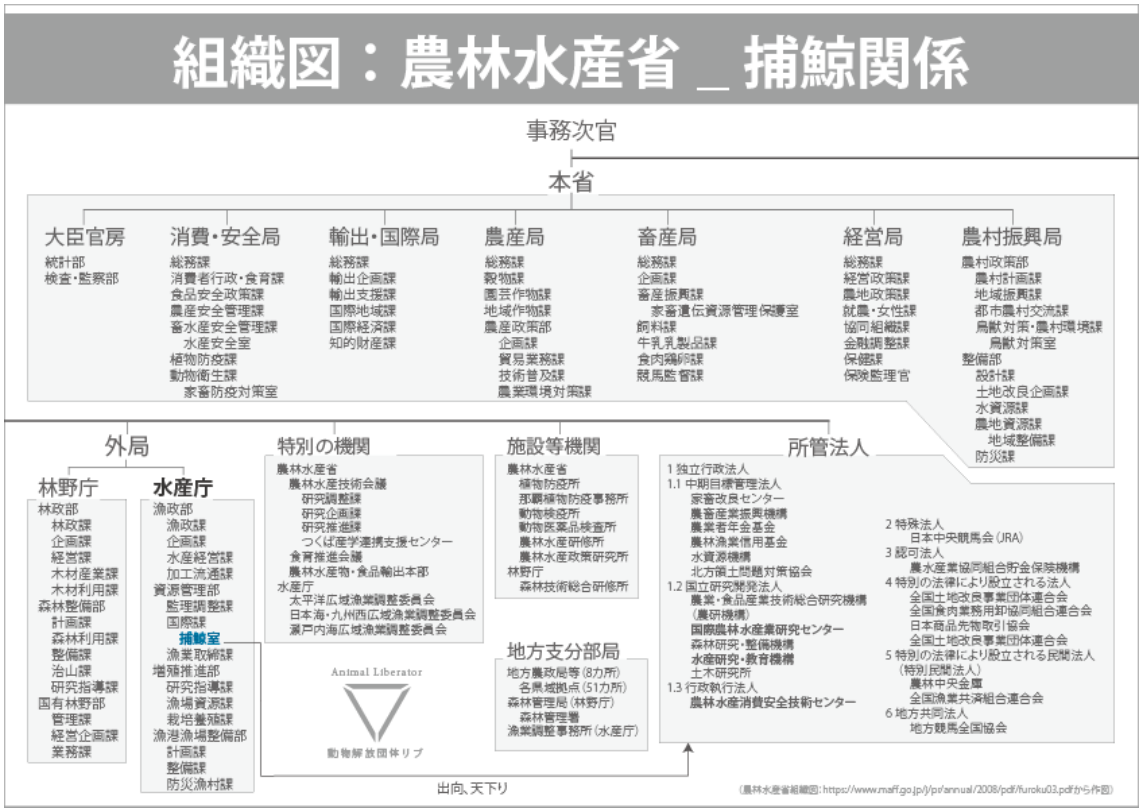
主な役割：捕鯨の監督

第一目　構造

農林水産省の役割は、農林水産省設置法、（任務）第三条にあります。

「農林水産省は、食料の安定供給の確保、農林水産業の発展、農林漁業者の福祉の増進、農山漁村及び中山間地域等の振興、農業の多面にわたる機能の発揮、森林の保続培養及び森林生産力の増進並びに水産資源の適切な保存及び管理を図ることを任務とする。」

［組織図：農林水産省_捕鯨関係］



第二目　水産庁

水産庁の役割は、農林水産省設置法、（任務）第三十条にあります。

「水産庁は、水産資源の適切な保存及び管理、水産物の安定供給の確保、水産業の発展並びに漁業者の福祉の増進を図ることを任務とする。」

海洋動物の保護は水産庁の任務ではないことがわかります。

捕鯨室

捕鯨・イルカ漁を監督しているのは、水産庁 資源管理部 国際課 **捕鯨室**。この捕鯨室が、日本近海の鯨族の命運、捕鯨の未来を握っていると言えます。捕鯨室は、捕鯨１班・捕鯨２班・捕鯨情報企画官からなっています。

［組織図：水産庁_捕鯨関係］



捕鯨１班

役割　大型捕鯨業及び母船式捕鯨業の指導及び調整等。

母船式捕鯨を監督しています。

捕鯨２班

役割　小型捕鯨業等の指導及び調整等。

小型捕鯨（基地式捕鯨、イルカ突き棒漁、イルカ追い込み漁）を監督しています。

捕鯨情報企画官（1名）

捕鯨に関する情報の提供に関する専門の事項についての企画及び調整調整。

所管法人

（一財）日本鯨類研究所

日本捕鯨協会

日本小型捕鯨協会

（独） 国立研究開発法人 水産研究・教育機構

（財）海外漁業協力財団
（公財）海洋生物環境研究所
全国漁業共済組合連合会
（一社）大日本水産会
等 全97社
［URL：水産関係団体：https://www.jfa.maff.go.jp/j/corp/koueki/］

第三目　法令

水産庁所管法令（水産）［URL：https://www.maff.go.jp/j/law/houreiichiran.html#suisan］
以下に農林水産省が所管し、捕鯨と関係する主な法令を示します。

法律

・漁業法（漁業に関する法令の基盤となる法律）
第三章 許可漁業　第一節 大臣許可漁業
（農林水産大臣による漁業の許可）
第三十六条　船舶により行う漁業であつて農林水産省令で定めるものを営もうとする者は、船舶ごとに、農林水産大臣の許可を受けなければならない。
・漁船法
・水産物資源保護法
参考：問6［URL：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/w_faq/konkaku_faq.html］
・商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律
・鯨類の持続的な利用の確保に関する法律

政令

・漁業法第五十二条第一項の指定漁業を定める政令
五　大型捕鯨業、六　小型捕鯨業、七　母船式捕鯨業　母船式漁業

省令

・漁業の許可及び取締り等に関する省令
第二章　大臣許可漁業＞第九節　基地式捕鯨業
＞第十節　母船式捕鯨業
第五章　漁業調整に関するその他の措置（禁止事項）
第六章　雑則（鯨体処理場について）
第七章　罰則

規則

・水産資源保護法施行規則
スナメリ、ホッキョククジラ、シロナガスクジラを、第一条に基づいて保護しています。

捕鯨に関する法律の変遷

1909（明治42）年　「鯨漁取締規則」発布

日本で初めての捕鯨規制法令です。これまでは捕鯨に対する法律は無く野放しであり、大量虐殺が進んでいました。これ以降捕鯨業は政府の許可漁業となり、許可船隻数が制限されます。ただしこの時はクジラの捕獲制限はありませんでした。実際は、既存の捕鯨業者による新規参入排除、市場独占を意図したものでした。

2001　「指定漁業の許可および取締などに関する省令」一部改正

すべての鯨族の捕獲を規制対象にしました。

2017　「商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律」（調査捕鯨新法）

第三項　外務省

主な役割：捕鯨・漁業交渉

第一目　構造

外務省の役割は、外務省設置法（任務）第三条にあります。

「外務省は、平和で安全な国際社会の維持に寄与するとともに主体的かつ積極的な取組を通じて良好な国際環境の整備を図ること並びに調和ある対外関係を維持し発展させつつ、国際社会における日本国及び日本国民の利益の増進を図ることを任務とする。」

［組織図：外務省_捕鯨関係］



第二目　捕鯨関係部署 - 漁業室

経済局 漁業室が、捕鯨に係る外交上の総合政策の企画立案と、国際漁業管理を行っています。外務省は、IUCNの国家会員です（1995～）。

第四項　経済産業省

主な役割：鯨肉等、鯨由来製品、生体の輸出入

第一目　構造

経済産業省の役割は、経済産業省設置法（任務）第三条にあります。

「経済産業省は、民間の経済活力の向上及び対外経済関係の円滑な発展を中心とする経済及び産業の発展並びに鉱物資源及びエネルギーの安定的かつ効率的な供給の確保を図ることを任務とする。」

［組織図：経済産業省：捕鯨関係］



第二目　捕鯨関係部署 - 野生動植物貿易審査室

経済産業省 貿易経済協力局 貿易管理部 貿易審査課 野生動植物貿易審査室が、ワシントン条約（CITES）の対象貨物の輸出入承認手続きを行っています。

鯨族はすべてCITES附属書Ⅰか Ⅱ に記載されていますので、輸出入を行う場合、必ず野生動植物貿易審査室の許可を受ける必要があります。

第三目　法令

経済産業省所管法令［URL：https://www.meti.go.jp/intro/law/ichiran.html］

経済産業省が所管し、捕鯨と関係する法令の一部を示します。

法律

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=404AC0000000075］

*ワシントン条約(CITES）を実現するために制定された国内法。

*経済産業省、環境省、農林水産省が所管。

条約

CITES ワシントン条約

《参考》

・日本貿易振興機構（JETRO）（経済産業省所管法人）

水産物全般の輸入手続きについて記載されています。

https://www.jetro.go.jp/world/qa/04M-010913.html

鯨族は、「II. 2号承認品目」→「対象品目」→「国際捕鯨取締条約非加盟国および同条約加盟国中、非捕鯨国以外の国・地域を原産地または船積地域とする」に記載があります。

II. 2号承認品目とは、特定の原産地又は船積地域に係る輸入について承認を必要とする品目です。２号承認が必要な貨物。

第五項　財務省

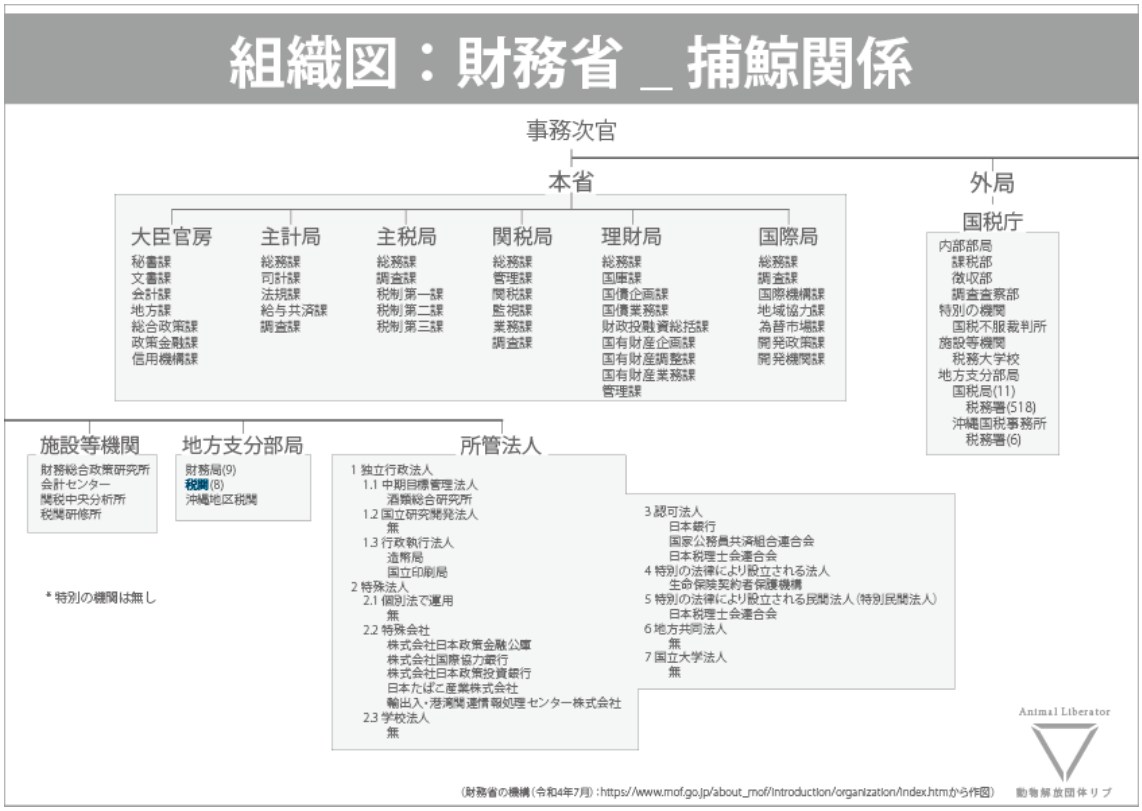
主な役割：鯨肉の輸出入

第一目　構造

財務省の役割は、財務省設置法（任務）第三条にあります。

「財務省は、健全な財政の確保、適正かつ公平な課税の実現、税関業務の適正な運営、国庫の適正な管理、通貨に対する信頼の維持及び外国為替の安定の確保を図ることを任務とする。」

［組織図：財務省：捕鯨関係］



第二目　捕鯨関係部署 - 税関

税関の主な役割は、

・通関（輸出入をする者が、貨物の申告を行い、検査を受け、輸入の場合関税を納付し、許可を得る手続き）

・関税の徴収

・密輸の取締りなど。

鯨族を使用した製品の輸出入をを調べる場合、税関の記録を調べます。

第三目　法令

税関所管法令［URL：https://www.customs.go.jp/kaisei/hourei.htm］

第六項　環境省

主な役割：動物の保護・管理

第一目　構造

環境省の役割は、環境省設置法 （任務）第三条にあります。

「環境省は、地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護及び整備その他の環境の保全（良好な環境の創出を含む。以下単に「環境の保全」という。）並びに原子力の研究、開発及び利用における安全の確保を図ることを任務とする。」

保全（Conservation）であり、保存（Preservation）でないことに注意が必要です。

［組織図：環境省：捕鯨関係］



第二目　捕鯨関係部署 - 希少種保全推進室

環境省はIUCNの政府機関会員であり、自然環境局 野生生物課 希少種保全推進室が環境省版レッドリストを作成しています。しかしながら海の生物に関しては、水産庁がレッドリストを作成しています。本来は、海生生物に関しても環境省が担当すべきです。

第三目　法令

環境省所管法令［URL：https://www.env.go.jp/hourei/］

第七項　その他

法律

食品衛生法

所管：厚生労働省・内閣府消費者庁

［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=322AC0000000233］

参考：問28、問38［URL：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/w_faq/konkaku_faq.html］

JAS法（日本農林規格等に関する法律）

所管：農林水産省・内閣府消費者庁

［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=325AC0000000175］

参考：問29、問40［URL：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/w_faq/konkaku_faq.html］

食品表示法

所管：内閣府消費者庁

食品衛生法・ＪＡＳ法・健康増進法の、食品表示に関する規定を一元化した法律。

［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=425AC0000000070］

告示

食品規格基準

食品衛生法第13条第1項に基づく成分規格・使用基準

食肉及び鯨肉（生食用食肉及び生食用冷凍鯨肉を除く）

［URL：https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/jigyousya/shokuhin_kikaku/dl/05.pdf］

鯨肉製品

［URL：https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11130500-Shokuhinanzenbu/0000094500.pdf］

第二章　母船式捕鯨

第一節　鯨族

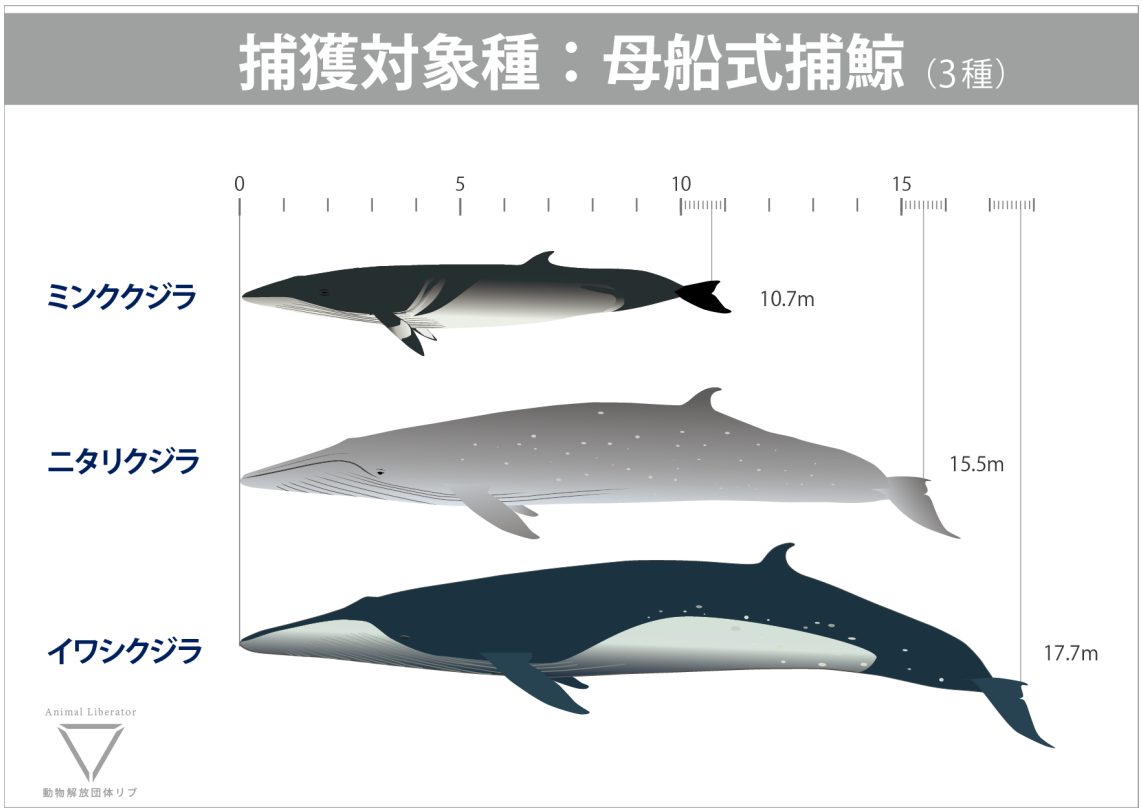
捕獲対象種 3種

ミンククジラ［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］

ニタリクジラ［本文参照：第一部 第三章 第一節 第一項　ニタリクジラ］

イワシクジラ［本文参照：第一部 第三章 第一節 第二項　イワシクジラ］

［図：捕獲対象種：母船式捕鯨］



第二節　業者・船・漁法

第一項　業者

母船式捕鯨業を行っている業者は、**共同船舶株式会社**。

［URL：共同船舶株式会社：http://www.kyodo-senpaku.co.jp/］

以下の3社は同じ住所に存在します。

共同船舶株式会社　〒104-0055　東京都中央区豊海町4番5号 豊海振興ビル5階

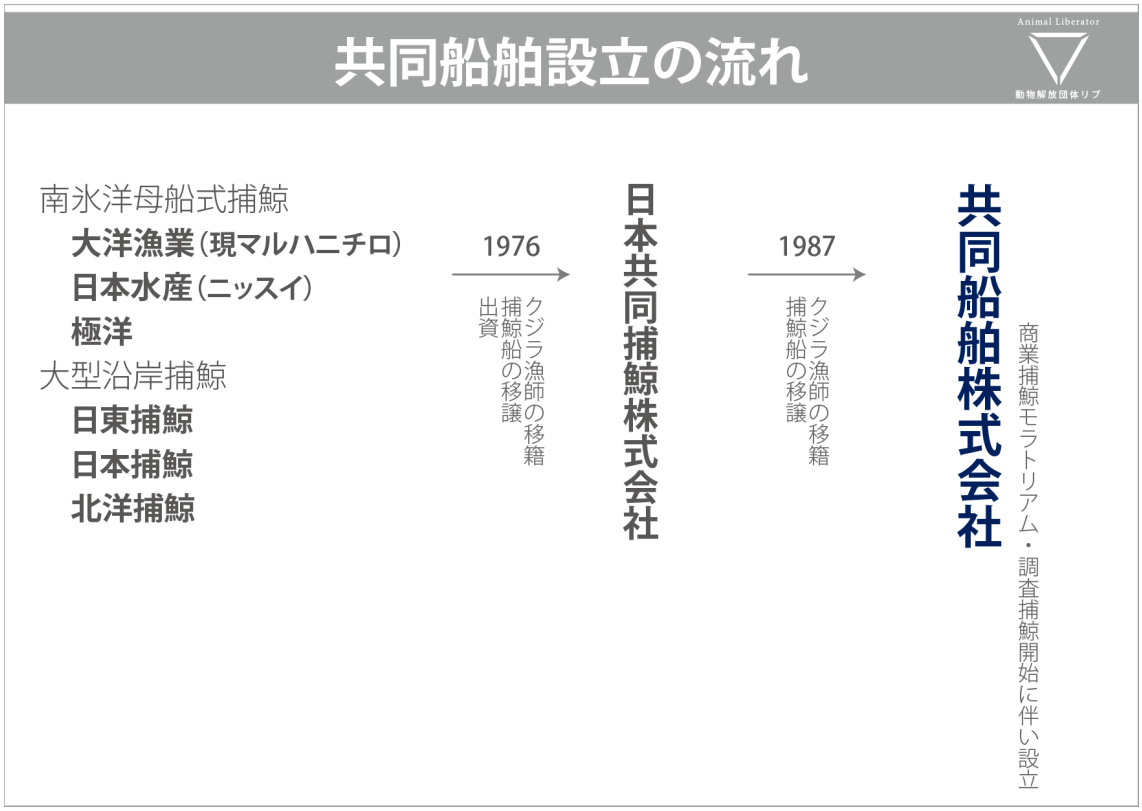
日本鯨類研究所　〒104-0055　東京都中央区豊海町4-5 豊海振興ビル5階

日本捕鯨協会　〒104-0055　東京都中央区豊海町4-5

一体であることがわかります。

1987年11月5日設立された共同船舶株式会社の前身は、日本共同捕鯨株式会社（1976設立）。日本共同捕鯨株式会社は、世界中の海や日本沿岸で乱獲し、海賊捕鯨を行った捕鯨会社6社が出資し、船舶と人員を提供した会社です。

［フロー：共同船舶設立の流れ］

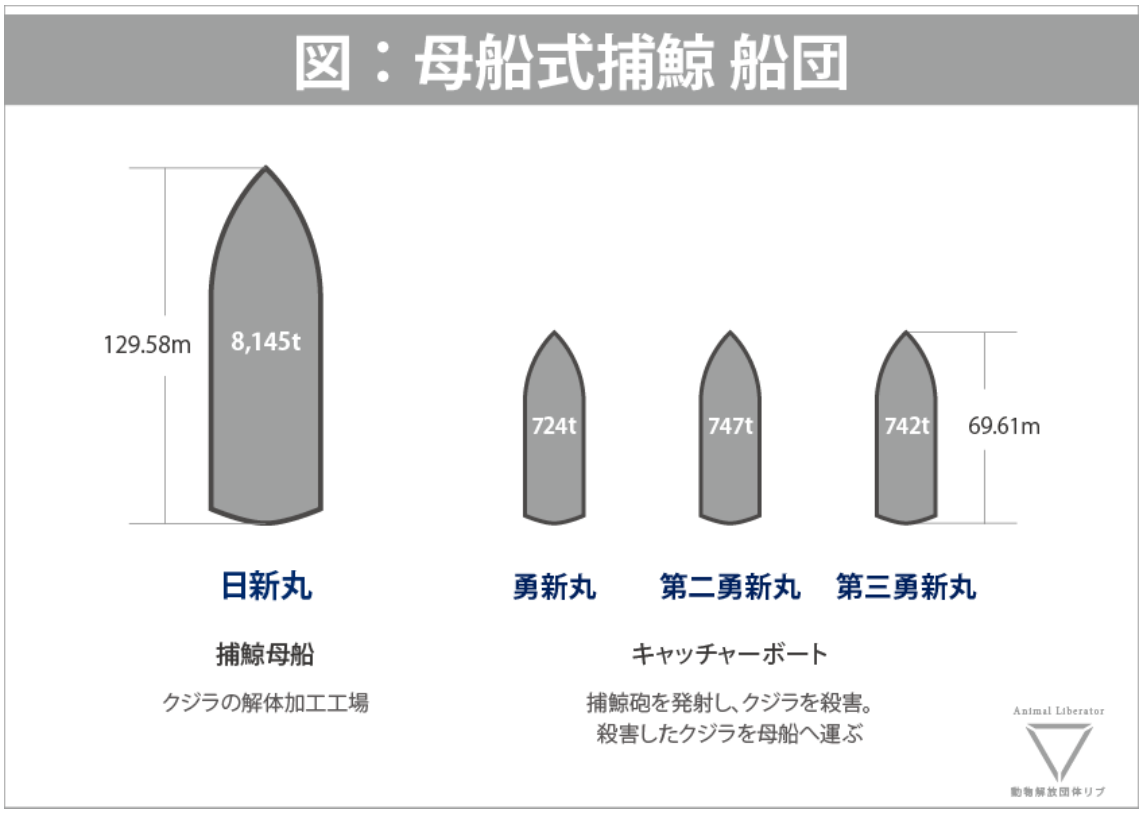


第二項　船

共同船舶が所有する、母船1隻・キャッチャーボート3隻、計4隻で、母船式捕鯨船団を構成しています。

［URL：写真：http://www.kyodo-senpaku.co.jp/images/corporate/vessels.pdf］

［図：母船式捕鯨 船団］



母船：日新丸（三代）

クジラを解体し、貯蔵するための工場、工船。キャッチャーボートの10倍以上の容積。

母港　東京湾

造船 日立造船　進水1987年8月

全長129.58m　型幅19.40m　型深11.70m　総トン数8,145t　載貨重量5,999t

エンジン 日立M-B&W式ディーゼル　主機関5,383kW　出力7,320PS

最大速力17.49ノット

最大搭載人員165名

勇新丸

キャッチャーボート：捕鯨砲を搭載。クジラを発見、殺害する船。

母港 下関港

造船 内海造船　進水1998/07

全長69.61m　型幅 10.4m　型深 5.3m　総トン数 724t

エンジン ？　主機関3,883kW　出力5,280ps

航海速力12.0ノット　最高速力18.7ノット

最大搭載人員 25名

捕鯨砲??mm

第二勇新丸

キャッチャーボート：捕鯨砲を搭載。クジラを発見、殺害する船。

母港 下関港

造船 内海造船　進水2002年6月11日

全長69.61m　型幅10.8m　型深5.3m　総トン数747t

エンジン 川崎-MAN-B&W 6L35MC型ディーゼル　主機関3,900kW　出力5,300kW

航海速力12.0ノット　最高速力18.6ノット

最大搭載人員 25名

捕鯨砲75mm

第三勇新丸

キャッチャーボート：捕鯨砲を搭載。クジラを発見、殺害する船。

母港 下関港

造船 内海造船　進水 2007年7月3日

全長69.61m　型幅10.8m　型深5.3m　総トン数742t

エンジン 川崎-MAN B&W 6L35MC (Mark 6) ディーゼル　主機関3,900kW　出力5,300kW

航海速力12.0ノット　最高速力18.6ノット

最大搭載人員25名

捕鯨砲75mm

第三項　漁法

1. 出港：日新丸とキャッチャーボートがチームで出発します。
2. 探鯨：キャッチャーボートの船員が、マストの上や甲板からクジラを探します。目印は鯨の潮吹き（ブロー）で、経験のある船員は、ブローの高さや形で鯨の種類がわかるそうです。目視で探しますが、現在鯨類研究所が鯨発見用のドローンを開発しています。
3. 殺害：捕鯨砲で鯨に銛を打ち込みます。銛の先が体内で開き、抜けなくなります。

［写真：捕鯨砲］



写真は銛の先が平になっている日本の学者が開発した断頭銛です。鯨に突き刺さりやすくなります。

［写真：銛の先端が開いた状態］［写真：様々な銛］

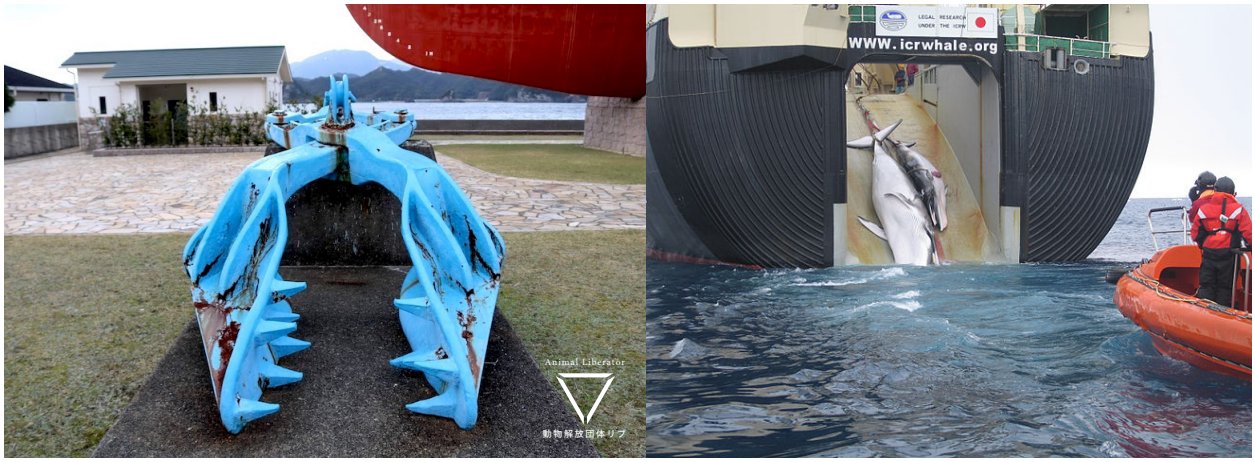




4. 引上：キャッチャーボートはクジラの尾鰭をクローという道具で挟み、母船まで曳航。

母船は、船尾にあるスリップウェーと呼ばれるスロープからクジラを引き上げます。

［写真：クロー］［写真：スリップウェーと殺されたミンククジラの親子］



Japan Factory Ship Nisshin Maru Whaling Mother and Calf. Australian Customs and Border Protection Service. 2008-02-06, https://en.wikipedia.org/wiki/Whaling#/media/File:Japan_Factory_Ship_Nisshin_Maru_Whaling_Mother_and_Calf.jpg

5. 解体：母船には100人弱の船員が乗り込んでおり、そのうち解体役の船員がクジラを解体します。

6. 商品化：肉をパックし、冷凍。すぐに商品として販売できる状態にします。

［URL：鯨獲りの海：https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/blog/bl/pneAjJR3gn/bp/pXjBQNrYLX/］

太地町に展示されている捕鯨船「第一京丸」は、南氷洋捕鯨や調査捕鯨で使用されていたキャッチャーボートです。展示されている第一京丸の正面はまっすぐな道になっています。第一京丸の真正面から近づいていくと、まるで第一京丸に追いかけられているような錯覚を覚えます。クジラたちはこうやって追いかけられ、恐怖に慄きながら、撃ち殺されるのだろうと想像を巡らします。

［写真：第一京丸 正面］



第三節　漁期・海域

第一項　漁期

漁期は一年中です。

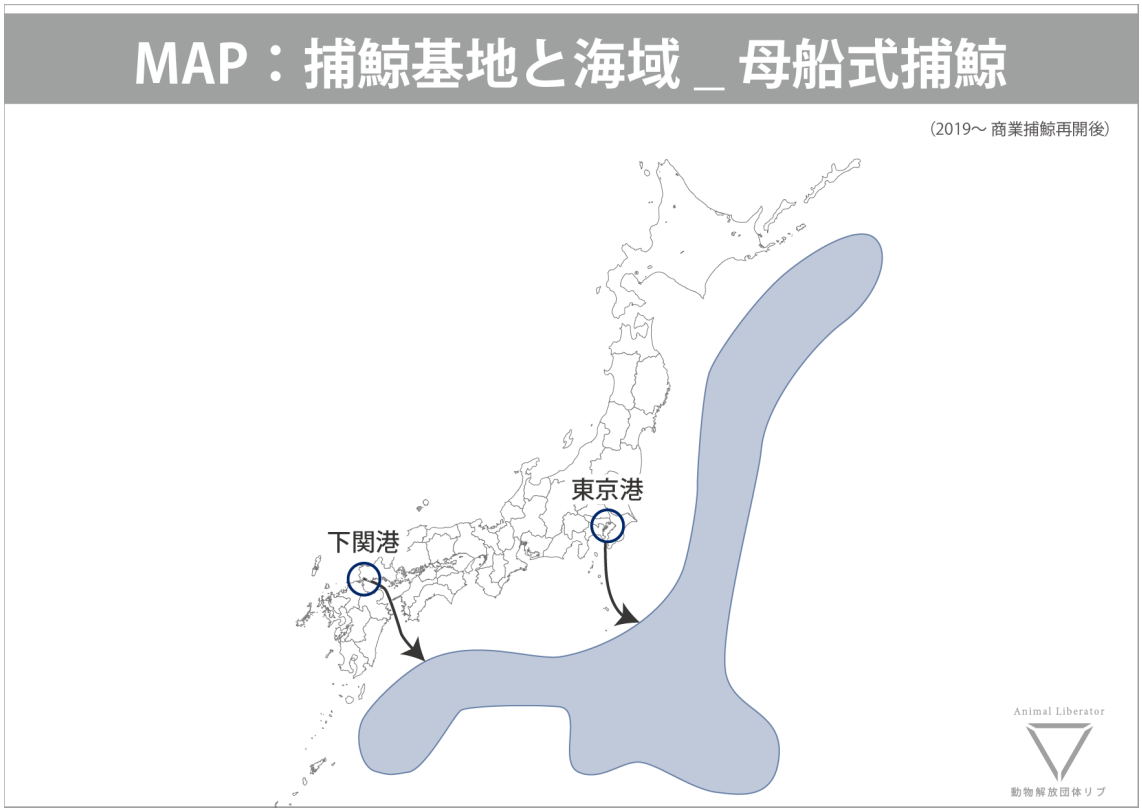
これまでの出漁スケジュールの一部をまとめますと、不定期で出漁が行われているようです。

［タイムライン：漁期：母船式捕鯨］



第二項　港、操業海域

［MAP：捕鯨：捕鯨基地と海域_母船式捕鯨（2019~)］



山口県 下関

下関市は、2000年以上前から現代までクジラを利用し続けています。

弥生時代の遺跡からは、鯨の骨を加工した道具が発掘されています。江戸時代は長州捕鯨と呼ばれる古式捕鯨が行われ、明治期に入り近代捕鯨（ノルウェー式捕鯨）にシフトします。1899年、現在の「ニッスイ(日本水産)」の前身である、日本初の近代捕鯨会社「日本遠洋漁業株式会社」が設立されたため、山口県は日本における近代捕鯨発祥の地と考えられています。1936年には林兼商店(→大洋漁業→現マルハニチロ)が南氷洋捕鯨に進出、太平洋戦争後の1949年にはプロ野球球団「まるは球団（→大洋ホエールズ(Whales)→現横浜DeNAベイスターズ）を設立しました。

1982年IWC商業捕鯨モラトリアム以降は調査捕鯨の基地として、IWC脱退後は母船式捕鯨の基地として捕鯨を続けています。

山口県は、明治維新の中心となった藩であり、8名の総理大臣を輩出しています。戦後は、岸信介、佐藤栄作、安倍晋三の3名が総理大臣に就任しており、国政に絶大な影響力を保っています。山口県の捕鯨利権者の意思が日本政府の意思決定に反映されやすく、また日本政府が捕鯨に固執する原因の一つだと考えられます。

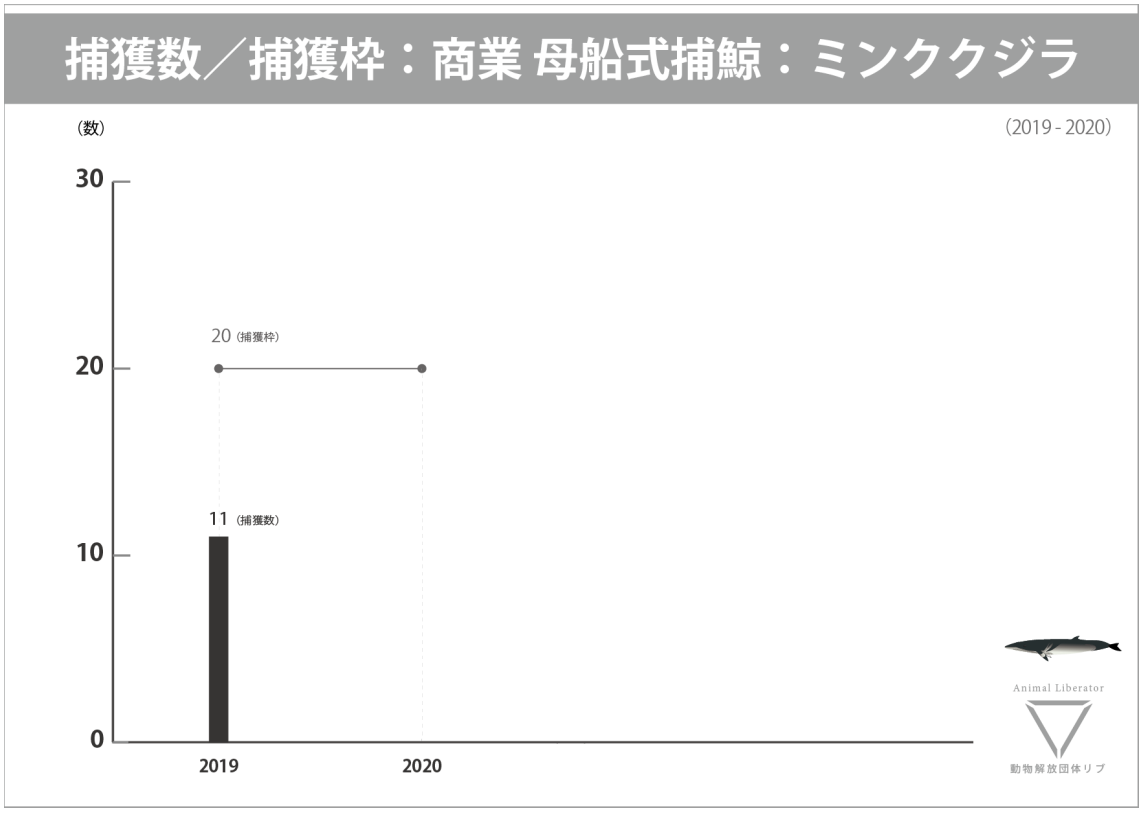
現在、下関市には、農林水産振興部 水産振興課 くじら産業推進室が置かれ、捕鯨利権を守っています。

［URL：2020年2月25日商業捕鯨2年目、下関港を出港する日新丸：https://youtu.be/uG07wYaoM_4］

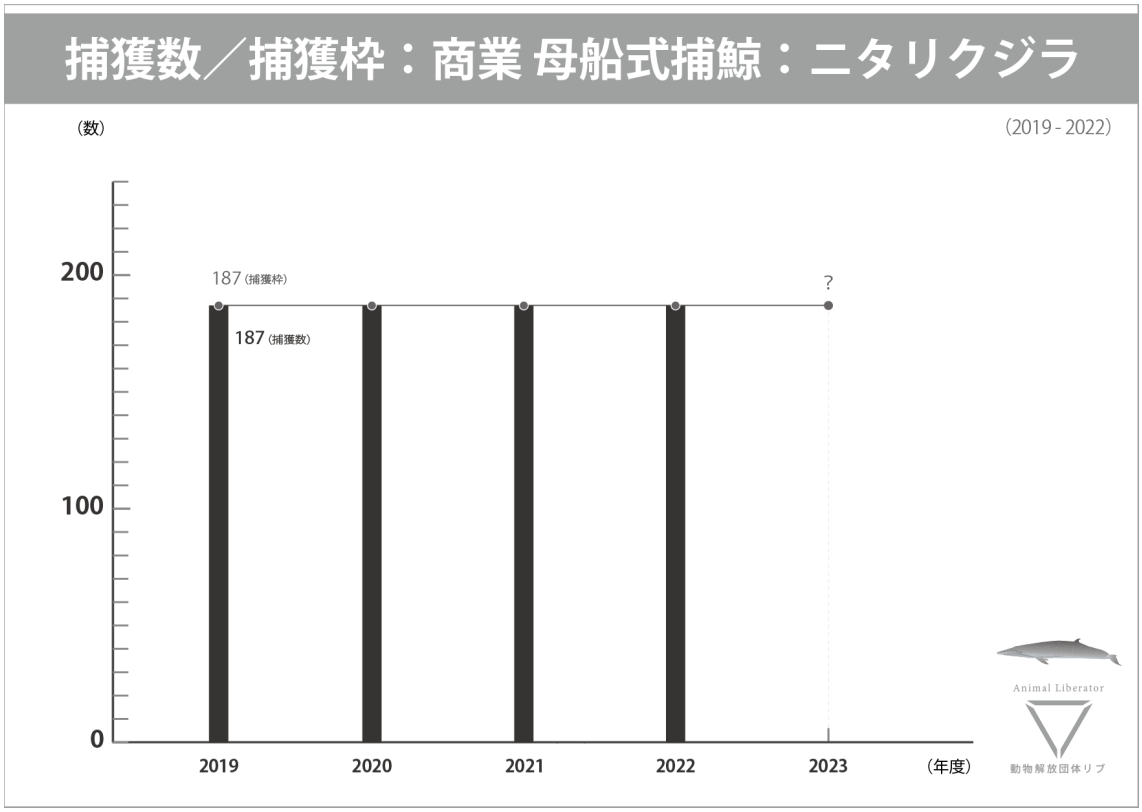
［URL：2021年6月10日商業捕鯨3年目、下関港を出港する第3勇新丸：https://www.youtube.com/watch?v=Kn5FB_oBFek］

第四節　捕獲数／捕獲枠（2019 商業 母船式捕鯨再開後～）

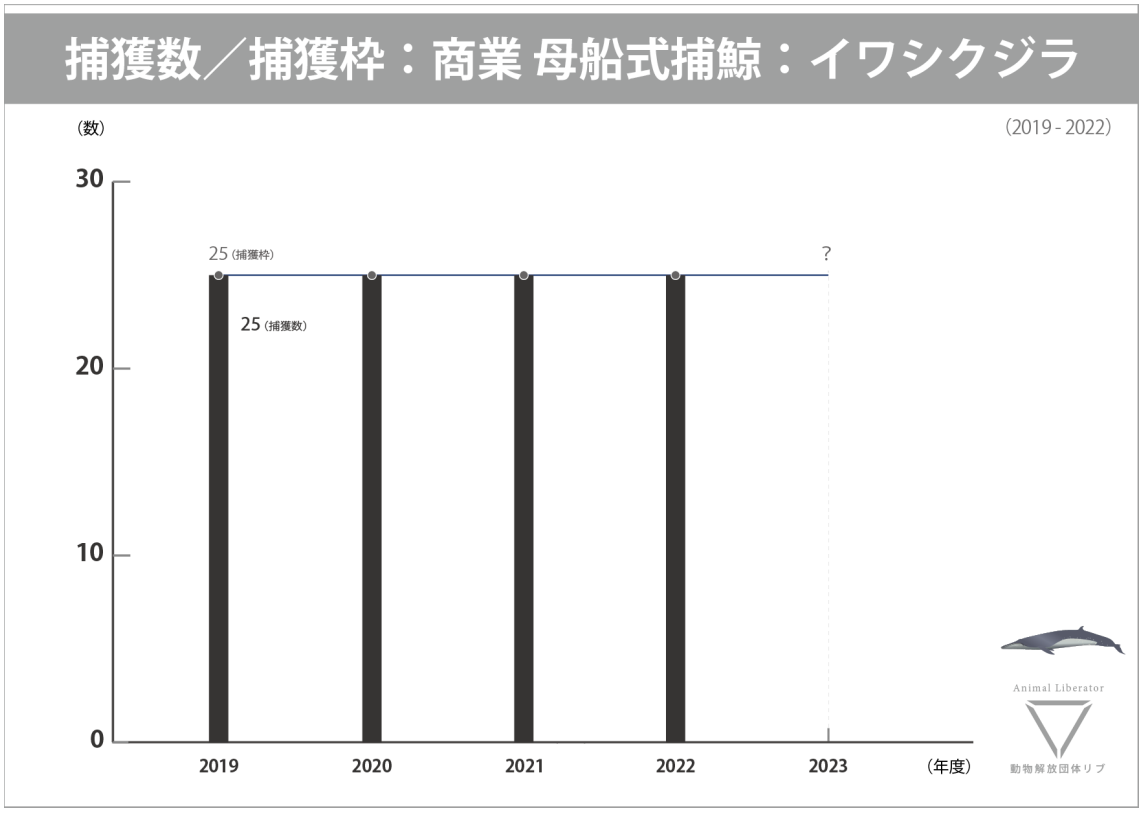
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：商業 母船式捕鯨：ミンククジラ］



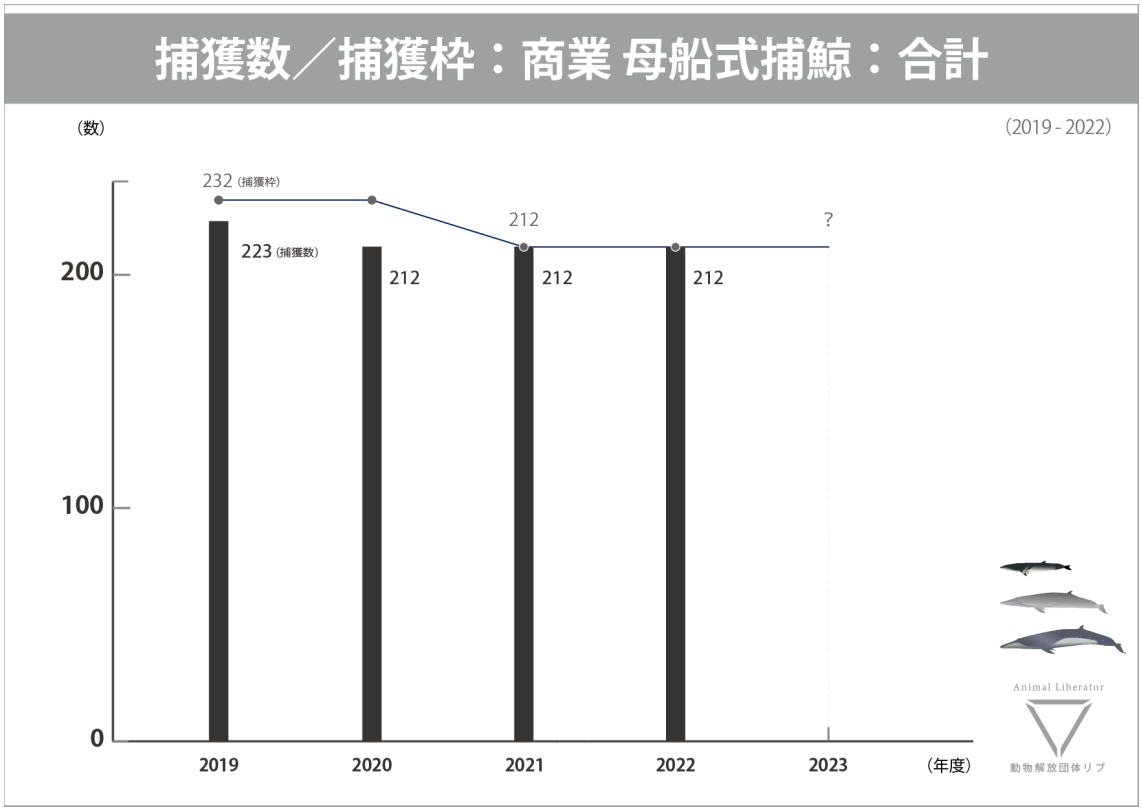
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：商業 母船式捕鯨：ニタリクジラ］



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：商業 母船式捕鯨：イワシクジラ］



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：商業 母船式捕鯨：合計］



捕獲枠と実績の調べ方

水産庁は毎年「令和？年の捕鯨業の捕獲枠について」というPDFを出しており、当年度の捕獲枠と前年度の捕獲数が確認できます。2019年度のものは見当たりませんでしたが、日本鯨類研究所の鯨研通信にまとめられていました。

水産庁は、年により資料名やファイル名、URLを変更したり、定期的な統計のファイルを作らない年度があるなど、非常に探しづらくなっています。意図的に行なっているのではないかと思うほどです。

第三章　基地式捕鯨

2020(令和2)年の漁業法改正に伴い、「小型捕鯨業」は「基地式捕鯨」に名称変更となりました。メディアによっては、「沿岸捕鯨」「沿岸小型捕鯨」と記載する場合もあり注意が必要です。基地式捕鯨は、沿岸で操業し、捕獲した鯨族を陸上の解体場（基地）で解体します。

第一節　鯨族

捕獲対象種 5種

オキゴンドウ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第八項　オキゴンドウ］

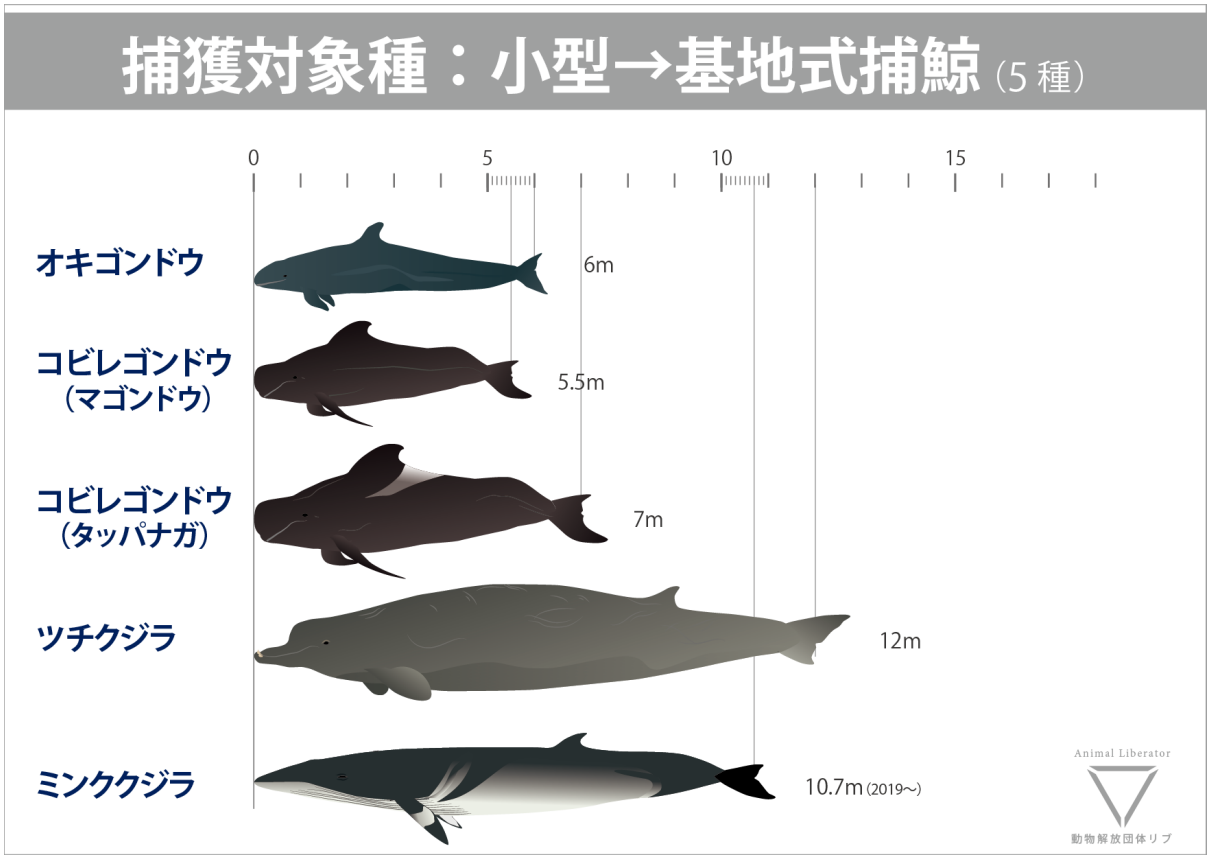
コビレゴンドウ（マゴンドウ）［本文参照：第一部 第三章 第四節 第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）］

コビレゴンドウ（タッパナガ）［本文参照：第一部 第三章 第四節 第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）］

ツチクジラ［本文参照：第一部 第三章 第二節 第一項　ツチクジラ］

ミンククジラ（2019～）［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］

［図：捕獲対象種：小型→基地式捕鯨（5種）］



第二節　業者・船・漁法

第一項　業者・船

現在、基地式捕鯨業を行っている業者は4社、稼働している捕鯨船は5隻です(令和2年1月1日現在)。

下道水産

正和丸（15.2t、網走港、許可番号5）（2022年現在稼働していない）

株式会社 鮎川捕鯨

第八幸栄丸（32t、石巻港、許可番号1）

第三大勝丸（19t、石巻港、許可番号4）

外房捕鯨 株式会社

第五十一 純友丸（30t、南房総港、許可番号8）

太地漁協（太地町漁業協同組合）

第七勝丸（32t、太地港、許可番号9、乗組員5名）

［写真：鮎川捕鯨（宮城県石巻市）］



［写真：鮎川捕鯨　鯨の骨］



［写真：外棒捕鯨 八戸事業所（青森県八戸市）］



漁船の写真

［写真：基地式捕鯨船 3隻］（撮影：2020年11月17日 宮城県 桃浦港）



・手前　第五十一純友丸（外房捕鯨）
・後ろ前　第八幸栄丸（鮎川捕鯨）
・後ろ奥　第三大勝丸（鮎川捕鯨）

［URL：動画：https://youtu.be/qfED8_7YN_Q］

［写真：第七勝丸］（撮影：2020年2月13日 和歌山県 太地漁港）



第二項　漁法

2019年7月商業捕鯨再開以降、鮎川捕鯨、外房捕鯨、太地町漁協の3社4隻が、探鯨・捕獲殺害・解体作業を共同で行なっています。下道水産は2022年現在稼働していないようです。

1. 集合：捕鯨基地（網走・釧路・八戸・鮎川・和田・太地）がある近辺の港に3社4隻が集合。
2. 探鯨：鯨を探しに出港します。
3. 殺害：鯨を発見すると追尾し、捕鯨砲で鯨に銛を打ち込みます。銛の先が体内で開き、抜けなくなります。
4. 引上：尾鰭にロープを巻きつけ、船上後部に引き上げます。
5. 解体：捕鯨基地に運び込み、解体作業を行います。
6. 商品化：一般社団法人 日本小型捕鯨協会が、包装資材や運送トラックを一括手配し、流通・販売します。

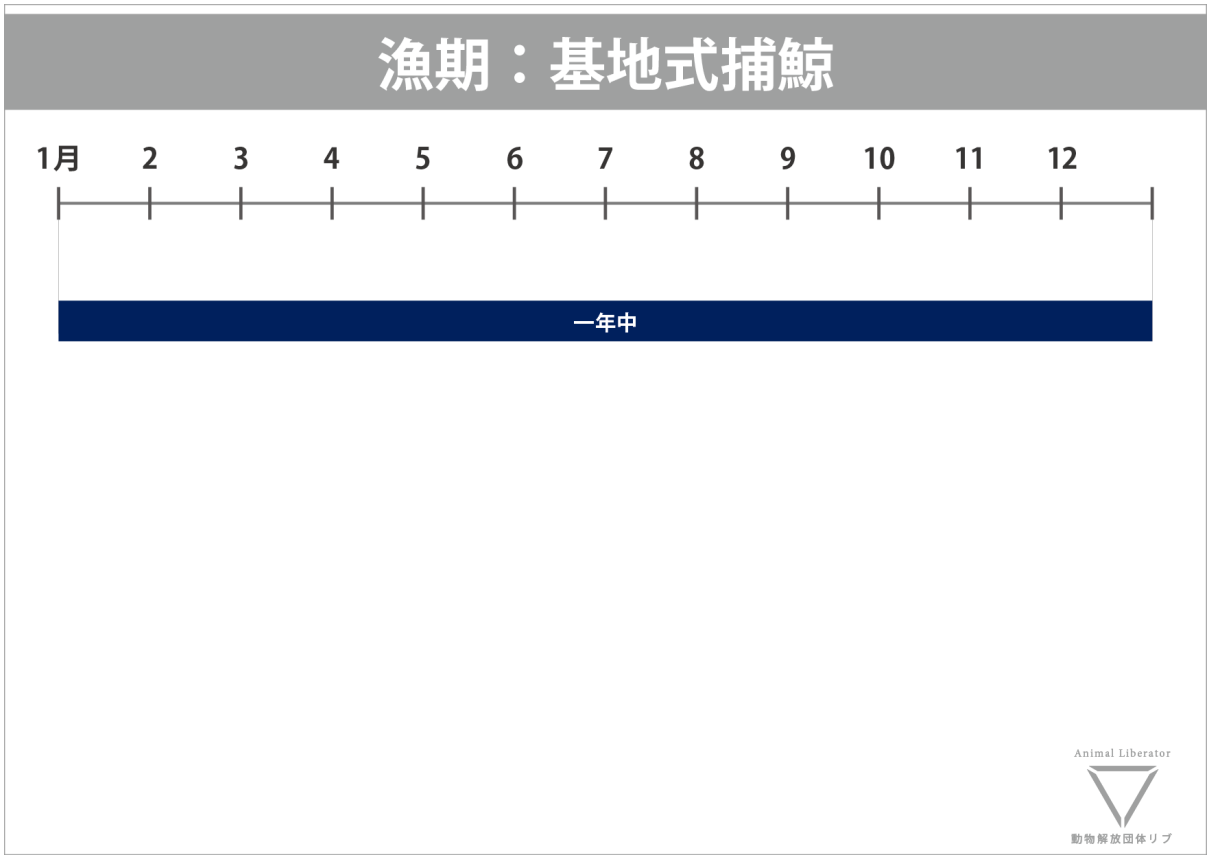
［写真：捕鯨砲（第三大勝丸）］



第三節　漁期・海域

第一項　漁期

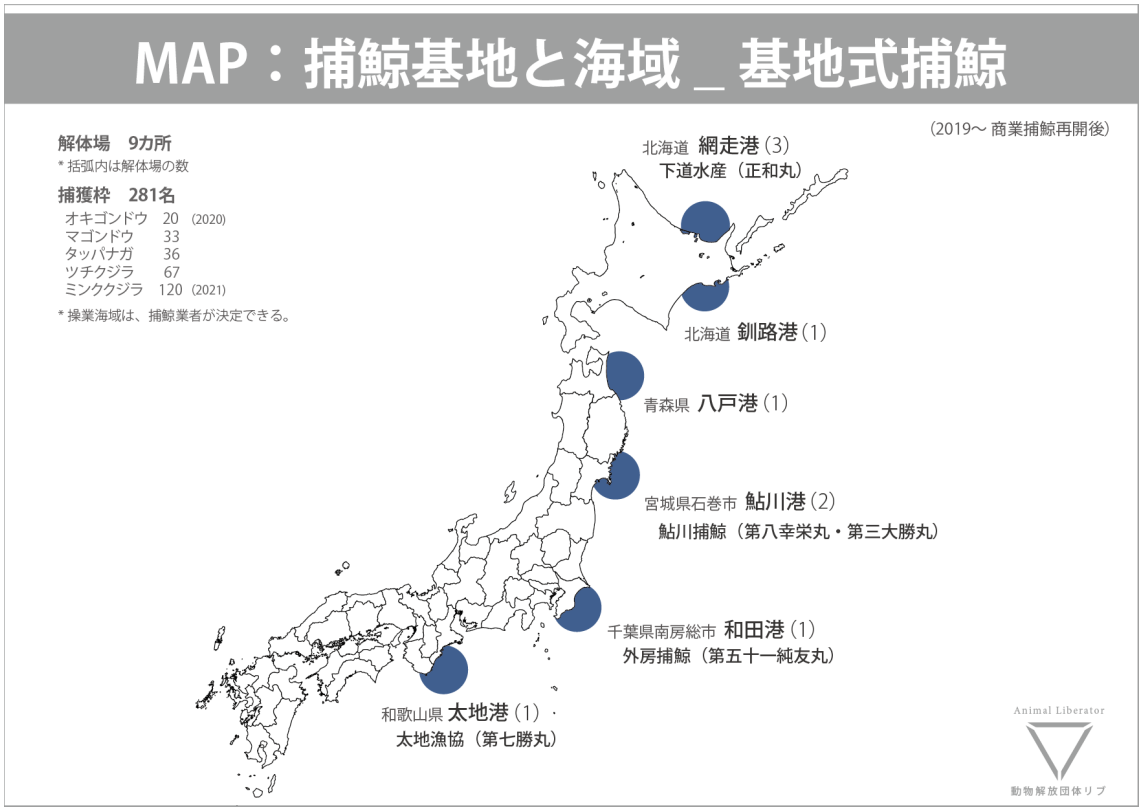
［タイムライン：漁期：基地式捕鯨］



漁期は、捕鯨業者が決定できます。

第二項　操業海域、根拠港

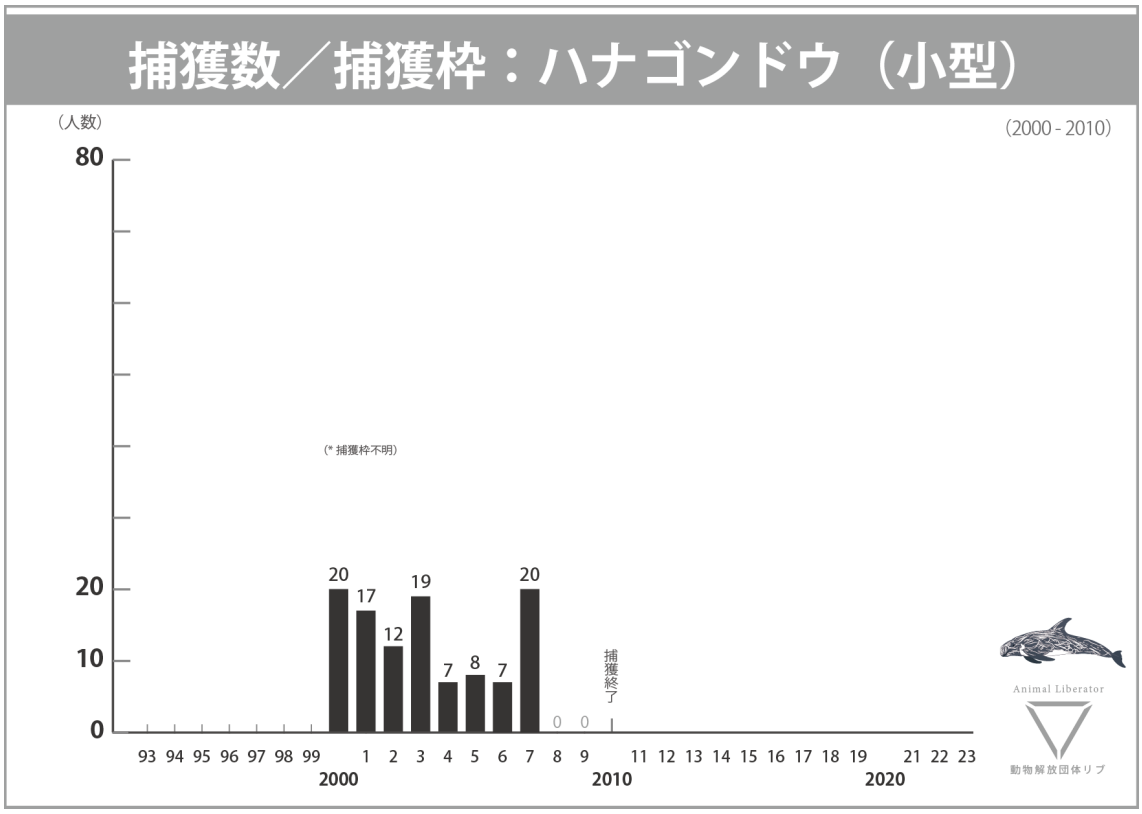
［MAP：捕鯨：捕鯨基地と海域_基地式捕鯨（2019~)］



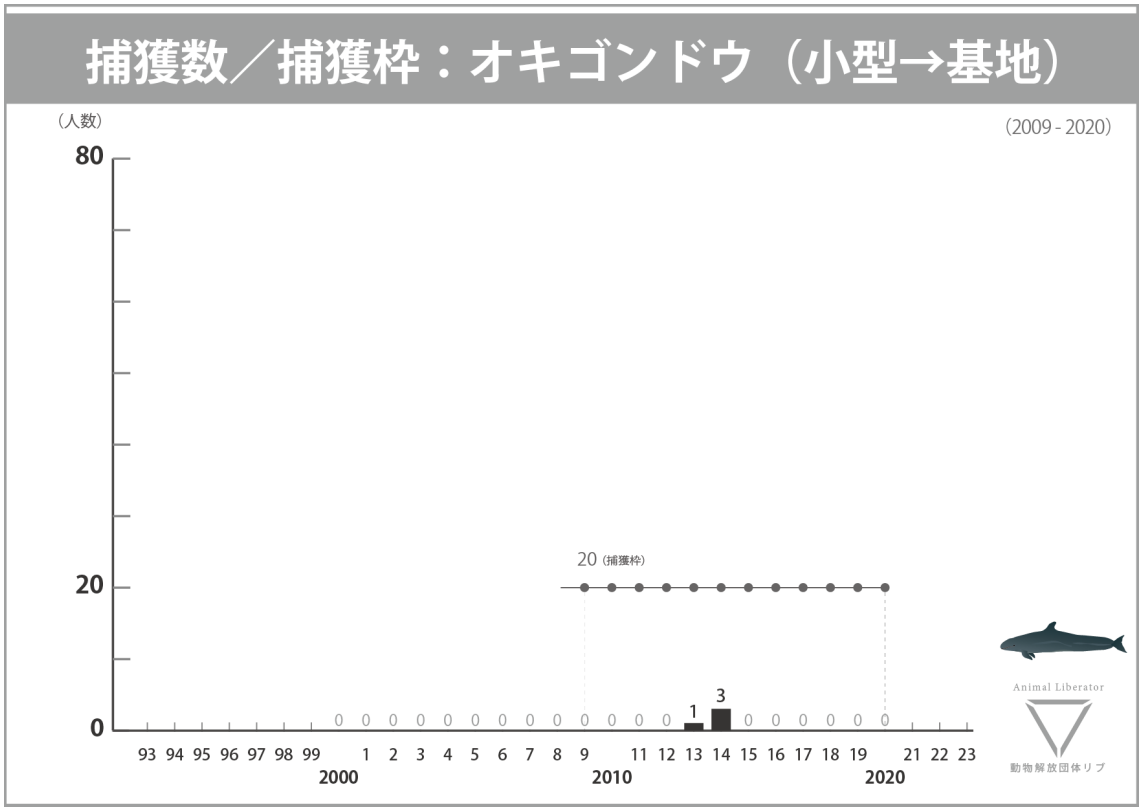
操業海域は、捕鯨業者が決定できます。

第四節　捕獲数／捕獲枠（小型捕鯨＋2020以降 基地式捕鯨）

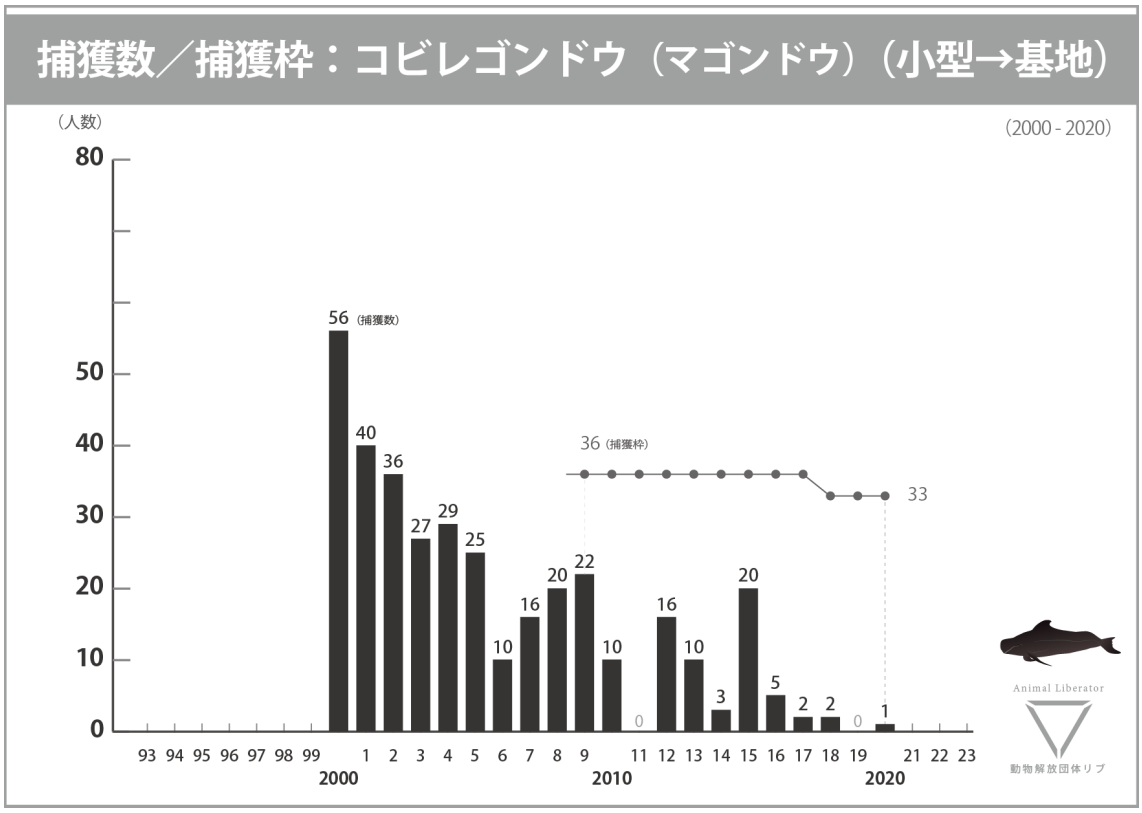
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：ハナゴンドウ（小型）］（2010年終了）



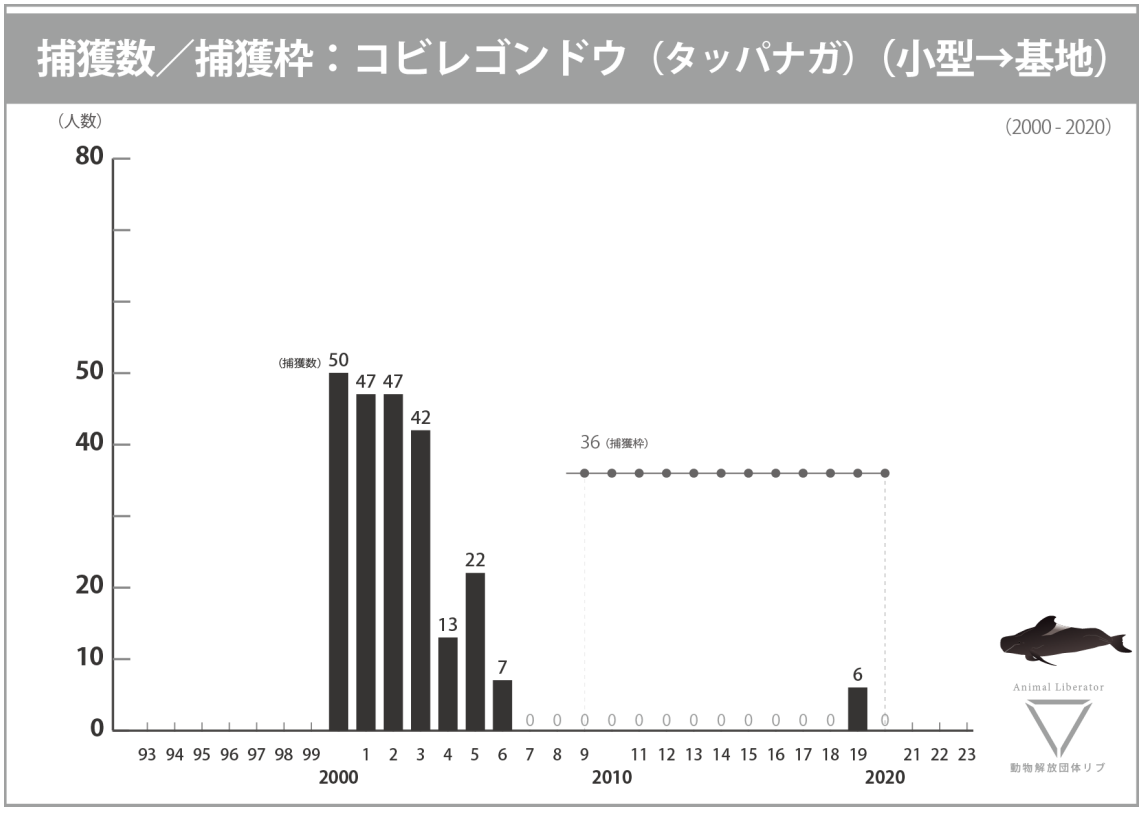
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：オキゴンドウ（小型→基地）］



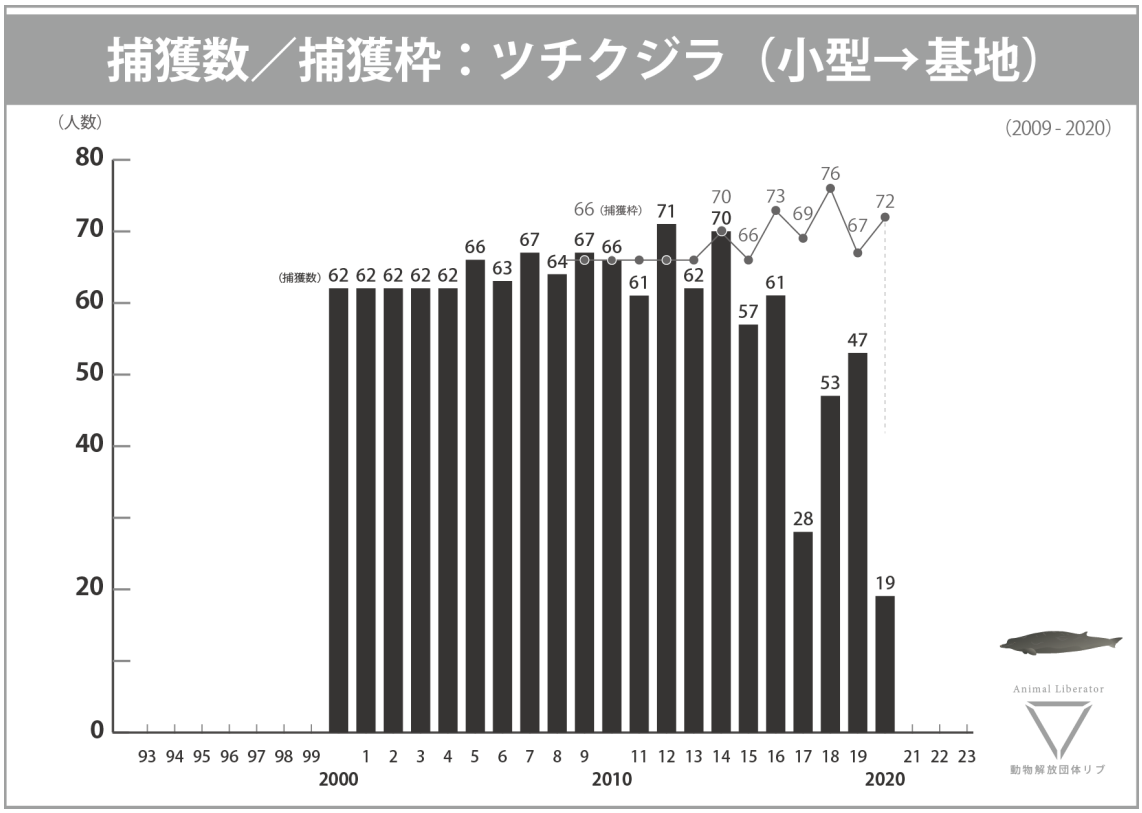
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：コビレゴンドウ（マゴンドウ）（小型→基地）］



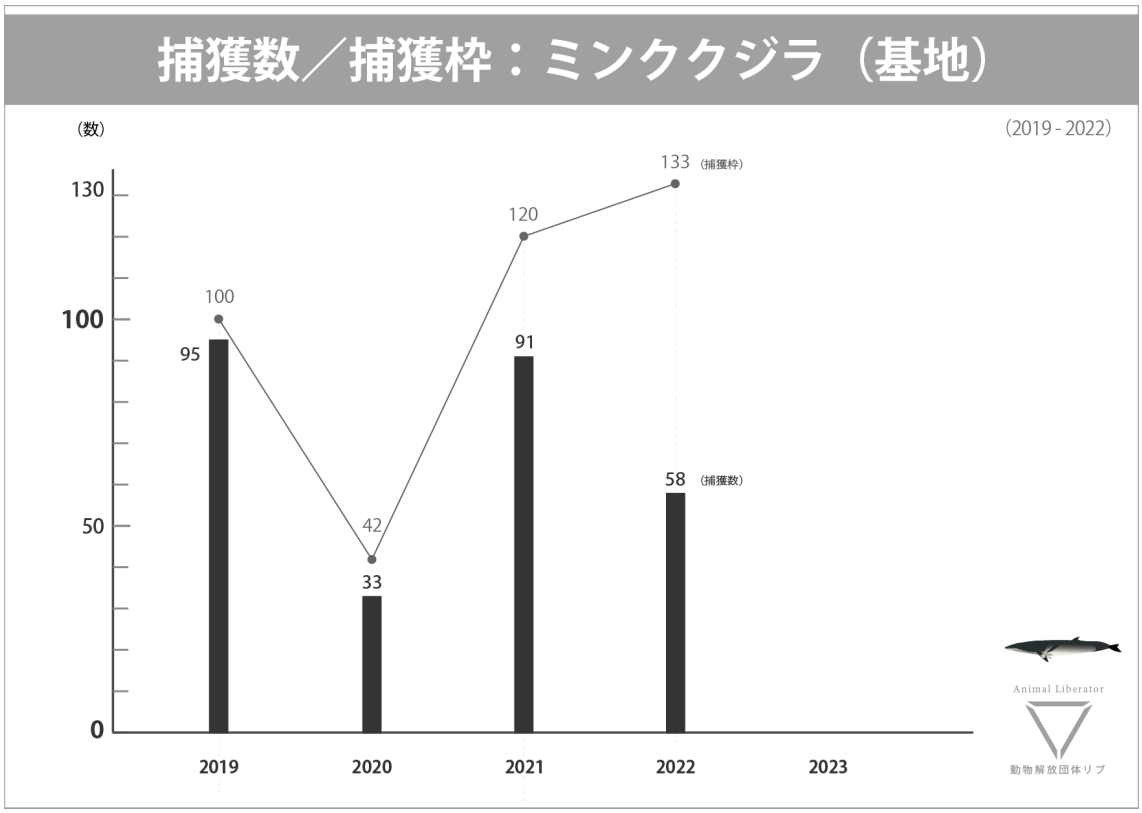
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：コビレゴンドウ（タッパナガ）（小型→基地）］



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：ツチクジラ（小型→基地）］



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：ミンククジラ（基地）］

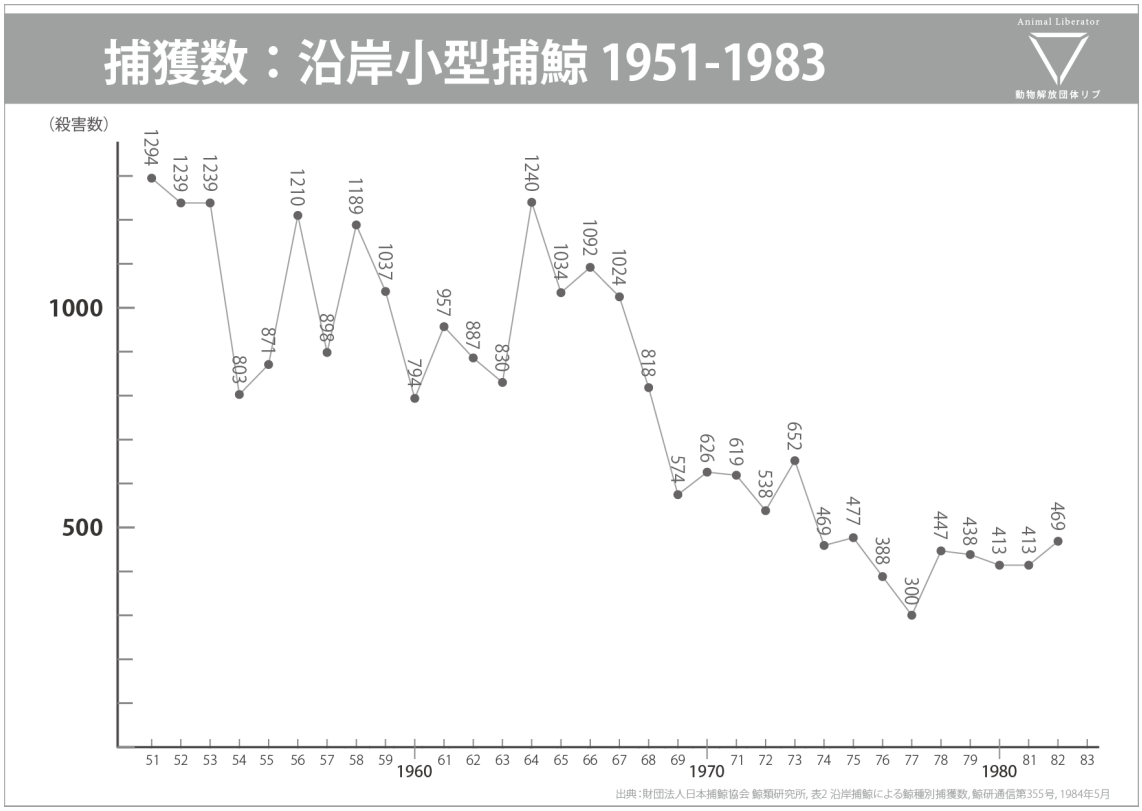


1951-1983年の大型捕鯨と小型捕鯨の捕獲数は以下。

［グラフ：捕獲数：沿岸大型捕鯨(北太平洋) 1951-1983］



［グラフ：捕獲数：沿岸小型捕鯨 1951-1983］



第四章　混獲（第三の捕鯨）

日本や韓国において混獲による鯨族の捕獲が問題になっています。日本では、混獲は基地式捕鯨に匹敵するほど毎年クジラを捕獲・殺害しています。
2019年　母船式223　基地式143　混獲114
2020年　母船式212　基地式53　混獲78
捕獲したミンククジラの商業販売も認められていることから、混獲は、母船式捕鯨、基地式捕鯨に続き実質的な第三の捕鯨と言えます。和歌山県串本の定置網でミンククジラが混獲された翌日、近隣のスーパーではクジラが捕れたと嬉々としたアナウンスを流し、特売キャンペーンを行なっていました。韓国では漁業者が意図的に混獲を誘発させていると考えられます。

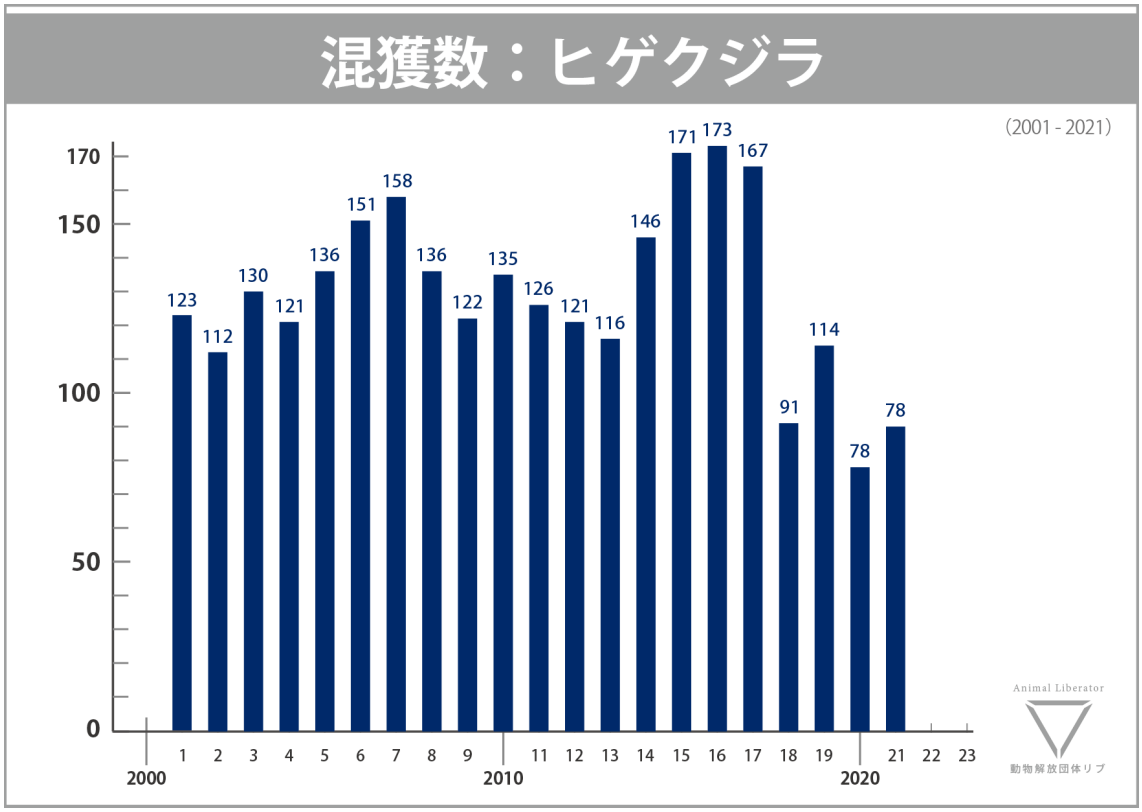
第一節　原因と被害

混獲とは、標的とする海洋動物以外の動物を捕獲すること。例えば、マグロを標的としている漁業にイルカやサメが捕獲されたら混獲と呼ばれます。
混獲され殺害されている動物の数は驚異的です。1994年、国連食糧農業機関（UNFAO）は、毎年2700万トンもの魚類が混獲され、廃棄されると推定しています。また海洋哺乳類は毎年65万名殺害されています。メキシコ沖では1950年代以降、約600万名のイルカが殺されていると見られています。鯨族が刺し網や底引網などに絡まり抜け出せなかった場合、やがて力尽き溺死してしまいます。
日本における鯨族の混獲状況を以下のページからまとめます。
［URL：鯨類の座礁・混獲, 水産庁：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/bycatch.html］

ヒゲクジラの混獲
2001～2021年の混獲数は、2717名。年間約130名。
うち一般への販売数は2513。混獲されたヒゲクジラの92.5%が一般販売されています。地元配布・販売・自家消費が144。一般への販売数と合わせると2657。混獲されたヒゲクジラの、実に97.8%が漁業者の利益となっています。
一方、解放(放流)されたのは21年間で、たった10名です。
種では、ミンククジラが最も多く2586名（95.2%）。次いでザトウクジラ95名（3.5%）。ナガスクジラ16、セミクジラ4、コククジラ4、ニタリクジラ3、マッコウクジラ2、イワシクジラ2、ツノシマクジラ1、不明3です。
日本でのミンククジラの混獲は、2010年 124、2011年 118、2012年 115、2013年 105、2014年 140、2015年 157、2016年 168、2017年 164、2018年 86、2019年 104と、毎年かなりのミンククジラが捕獲され、売買されています。

韓国では、1999年から2003年の間に827名、年間約165名のミンククジラが混獲され、売買されています。

［グラフ：混獲数：ヒゲクジラ］



定置網等へ混獲した場合、「座礁・混獲した鯨類への対処法」（付録２）」に従います。これによると、「２．生存の確認 座礁」で「いかなる場合でも、正常な状態で呼吸している時には、「生存」と判断し、 可能であれば、逃がすための作業を開始する。」と下線で強調した記載があります。そして「３．生存の確認ができた場合」「保護・治療の必要がなければ、現場で海に放す（放流する）のが原則であり～」とあります。さらには、救出作業の手順が「３－１ 救出作業の流れ」の「３－３ 定置網に混獲された場合」「３－４ 定置網以外の漁具に混獲された場合」に記載されています。

しかしながら、定置網に混獲されたヒゲクジラのほとんどが殺害されている根拠は、「漁業の許可及び取締り等に関する省令第９１条から第９３条までの鯨類（いるか 等小型鯨類を含む。）の捕獲・混獲等の取扱いについて」の「第２ ひげ鯨等の捕獲等の制限　１ ひげ鯨等の捕獲の禁止」の③ 定置網漁業にあります。1意図して捕獲していない、2漁具、漁獲物の損害が大きい、3埋設、焼却のコストがかかる、4資源の有効利用、5歴史的にクジラを利用してきた、といった理由が満たされれば、捕獲、殺害、販売が許可されます。

ハクジラの混獲

混獲されたハクジラについては、「漁業の許可及び取締り等に関する省令第９１条から第９３条までの鯨類（いるか 等小型鯨類を含む。）の捕獲・混獲等の取扱いについて」の「３混獲、座礁、漂着又は漂流した歯鯨（以下「混獲又は座礁等した歯鯨」とい う。）の取扱いについて」で、速やかに海に戻す指示がされています。しかし学術目的であれば農林水産大臣の許可の元、所有、利用が認められており、水族館が監禁できるようになっています。死亡している場合は、伝統的にイルカを食べてきた地域では食べても良いとされています。

第二節　問題

・混獲した鯨族の販売

［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］にも書きましたが、意図的に混獲を誘発させているいるのではないかという疑念があります。毎年100名前後のミンククジラが安定的に捕獲殺害され、販売されています。クジラは巨大であり希少価値もあるため、漁業者は混獲によって大きな利益を獲得することができます。

・J-Stockのミンククジラ

希少個体群であるJ-stock（東シナ海・黄海・日本海系群）のミンククジラが混獲されています。混獲されるミンククジラの約77%がJ-Stockであり、韓国で混獲されるミンククジラにもJ-Stockが混じっている可能性があり、個体群維持を危機に陥れる危険性があります。

第三節　対策

水産庁の対策

混獲した後の対応マニュアルはありますが、事前の策はないようです。捕獲禁止のクジラに関する啓発活動がせいぜいで、技術的に混獲を防ぐ方法に関しては見つかりませんでした。漁業者としても混獲したミンククジラを販売できることから、混獲防止にコストをかけるモチベーションは生まれないでしょう。

例えば、定置網への混獲を防ぐ方法として、ピンガーの使用が考えられます。ピンガーとは、音を発生する装置。ピンガーによって鯨類に人工物の存在を知らせ、近寄ってくることを防ぎます。以下の対応で混獲を大幅に減らせる可能性があります。①定置網業者に指導し、定置網の入り口へのピンガー設置を義務化、鯨族の侵入防止に努めさせる。②定置網自体の構造を改良し混獲した鯨族を簡単に逃すことができる仕組みのものとし、万が一定置網に入ってしまった場合に対応する。③定置網に入ったクジラは、たとえ死亡していたとしても販売を禁止する。

混獲による利益を生じさせず、混獲にかかる漁業者のコストを最小化すれば、混獲による殺害を最小化することができます。

国際、各国の対策

実際、NOAA（アメリカ海洋大気庁）は、ピンガーを利用して混獲を防ぐためのプロジェクト「Pacific Offshore Cetacean Take Reduction Plan」を行なっています。ピンガー付きの魚網は、海生哺乳類の混獲数を大幅に減じさせることがわかっています。NOAAシニアサイエンティストのジェイ・バーロウ博士の研究では、マイルカの混獲は1/12に減少、他の鯨類は1/4、鰭脚類は1/3に減少しました。

第五章　調査捕鯨

第一節　鯨族

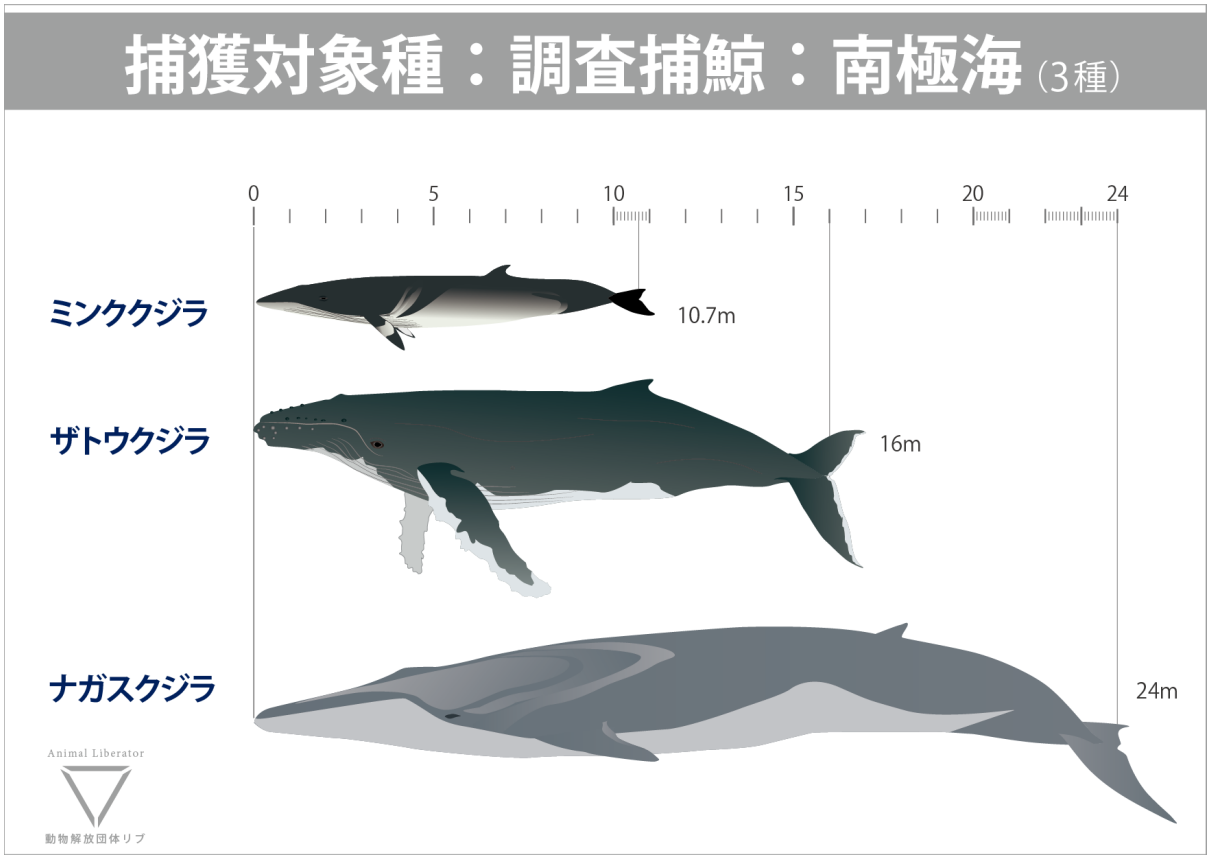
捕獲対象種：南極海 3種

ミンククジラ［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］

ザトウクジラ

ナガスクジラ

［図：捕獲対象種：南極海］



捕獲対象種：北西太平洋 4種

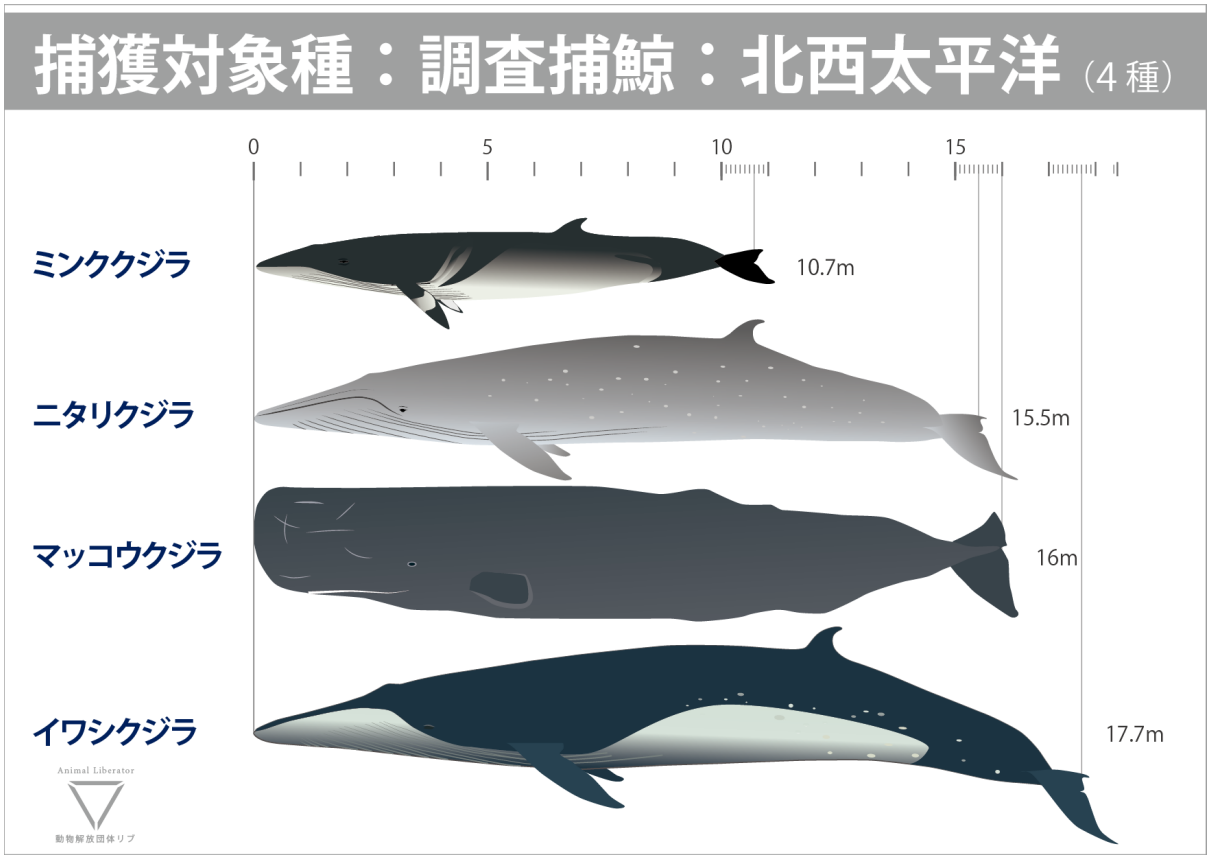
ミンククジラ［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］

ニタリクジラ［本文参照：第一部 第三章 第一節 第一項　ニタリクジラ］

イワシクジラ［本文参照：第一部 第三章 第一節 第二項　イワシクジラ］

マッコウクジラ

［図：捕獲対象種：北西太平洋］



第二節　調査捕鯨の概要

［商業捕鯨モラトリアム受け入れまでの流れ］

第二次世界大戦前後を通し鯨族の大量虐殺が進み、生息数の減少が顕著になってきました。世界の趨勢はクジラ保護に傾きましたが、日本をはじめとする捕鯨国はそれに対抗。IWCを舞台にクジラ保護国と捕鯨国の対立、勢力争いが始まりました。

IWCとアメリカは世界中でクジラの生息数や捕鯨に関する調査を行い、クジラが危機的な状況にあることを把握、鯨類保護を目的とした商業捕鯨のモラトリアム（一時停止）の導入を試みます。日本は抵抗していましたが、モラトリアムを受け入れるか、アメリカの200海里内での漁業存続をとるか迫られ、後者を選択しモラトリアムが成立しました。当時、日本がアメリカ200海里内で捕獲していた魚の量は110万トンでした。

［調査捕鯨の根拠］

1986年から始まったモラトリアムは商業捕鯨のみであり、科学研究のための調査捕鯨と先住民生存捕鯨は引き続き許可されていました。日本はモラトリアムを受け入れると同時に、調査捕鯨制度を使って実質的な商業捕鯨を行い、捕鯨共同体と利権を温存します。

調査捕鯨の根拠は、国際捕鯨取締条約第八条一項にあります。

１　この条約の規定にかかわらず、締約政府は、同政府が適当と認める数の制限及び他の条件に従つて自国民のいずれかが科学的研究のために鯨を捕獲し、殺し、及び処理することを認可する特別許可書をこれに与えることができる。また、この条の規定による鯨の捕獲、殺害及び処理は、この条約の適用から除外する。各締約政府は、その与えたすべての前記の認可を直ちに委員会に報告しなければならない。各締約政府は、その与えた前記の特別許可書をいつでも取り消すことができる。（日本政治・国際関係データベース）

［鯨肉販売の根拠］

鯨肉販売の根拠は、国際捕鯨取締条約第八条二項です。

２ 前記の特別許可書に基いて捕獲した鯨は、実行可能な限り加工し、また、収得金は、許可を与えた政府の発給した指令書に従つて処分しなければならない。

［調査捕鯨まとめ］

JARPA I（ジャルパ ワン）：南極海 鯨類捕獲調査　1987～2005（18年間）

JARPA II（ジャルパ ツー）：南極海 鯨類捕獲調査　2005～2015（10年間）

JARPN I（ジャルパン ワン）：北西太平洋 鯨類捕獲調査　1994～2000（6年間）

JARPN II（ジャルパン ツー）：北西太平洋 鯨類捕獲調査　2000～2017（17年間）

* 違いは最後の文字が**A**（Antarctic：南極海）か**N**（Northwest Pacific：北西太平洋）、読み方は**パ**か**パン**です。 それぞれⅠ(ワン)とⅡ(ツー)があります。 JARPA、JARPN開始のきっかけは商業捕鯨モラトリアムです。

NEWREP-A（ニューレップ エー）：新 南極海 鯨類科学調査計画　2015〜2019（4年間）

NEWREP-NP（ニューレップ エヌピー）：新 北西太平洋 鯨類科学調査計画　2017〜2019（2年間）

* 違いは最後の文字が**A**（Antarctic：南極海）か**NP**（Northwest Pacific：北西太平洋）。NEWREP開始のきっかけは日本の調査捕鯨違憲判決です。

JASS-A（ジャス エー）：南極海鯨類資源調査　2019〜

* A（Antarctic：南極海）。JASS-A開始のきっかけは日本のIWC脱退です。

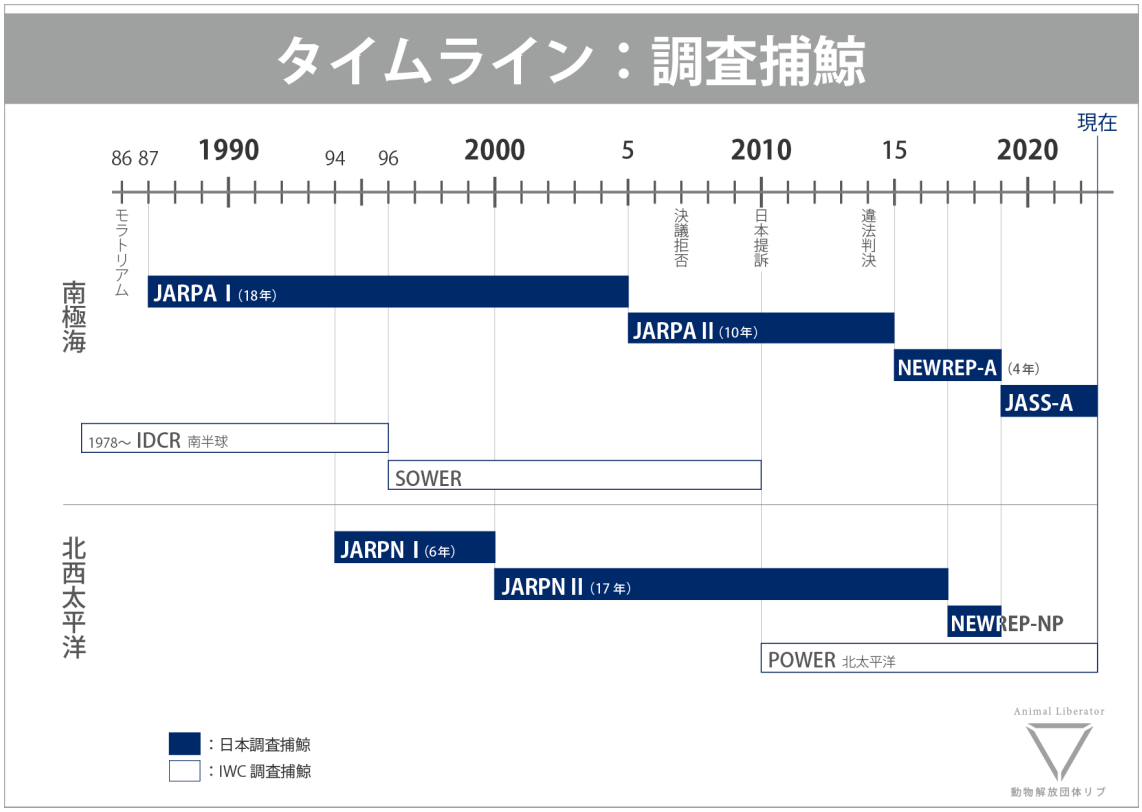
［IWCと日本共同の調査捕鯨］

IDCR（International Decade of Cetacean Research）　1978〜1996

SOWER（Southern Ocean Whale and Ecosystem Research）　1996〜2010

POWER（Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research）　2010〜

［タイムライン：調査捕鯨］



映像

［URL：2020/2021調査 出港：https://youtu.be/F_Cms9IxdLs］

第三節　歴史

捕鯨規制と調査捕鯨をめぐる大まかな歴史を示します。クジラ保護規制に対して、常に日本は抜け道を作ってきたことがわかります。

1932　捕鯨産業：BWU(Blue Whale Unit)：シロナガスクジラ換算導入

1946　国際捕鯨取締条約締結、国際捕鯨委員会設立

1948　IWC：BWUを引き継ぐ。オリンピック方式導入

1951　日本：IWC加盟

1962　IWC：国別割当制導入。オリンピック方式廃止

1972

IWC：鯨種別捕獲頭数枠導入

IWC：国際監視員制度 開始

1974　IWC：NMP：新管理方式導入

1978　IWC：調査捕鯨：IDCR開始（国際鯨類調査10ヵ年計画：International Decade of Cetacean Research）

1982　IWC：商業捕鯨一時停止：モラトリアム締結。母船式捕鯨は85/86年漁期から

1886　IWC：モラトリアム開始

1987　日本：調査捕鯨開始

JARPA I 開始（ジャルパ ワン：第一期 南極海 鯨類捕獲調査：Japan’s Whale Research Program under Special Permit in the Antarctic）（母船式捕鯨）（〜2004）。目的はNMP(新管理方式)に使用するデータの収集。調査期間は年を跨いでいます。たとえば2018年は12月18日〜2019年2月27日の72日間。

1994　IWC：RMP：改定管理方式導入

日本：調査捕鯨：JARPN I 開始（ジャルパン ワン：第一期 北西太平洋 鯨類捕獲調査：Japan's Whale Research Program under Special Permit in the Western North Pacific)）（母船式捕鯨）（〜1999）

IWC：南極海サンクチュアリ設立（賛成23、反対1（日本））。結局、日本はミンククジラに関して留保、ミンククジラ以外の鯨族に関しては決議を受け入れている。

1996　IWC：調査捕鯨：SOWER開始（南大洋 鯨類生態調査：Southern Ocean Whale and Ecosystem Research)

2000　日本：調査捕鯨：JARPN II 開始（ジャルパン ツー：第二期 北西太平洋 鯨類捕獲調査）（母船式捕鯨）（母船式捕鯨(沖合)・小型捕鯨(沿岸)）（〜2014）

2005　日本：調査捕鯨：JARPA II 開始（ジャルパ ツー：第二期 南極海 鯨類捕獲調査）

2007　日本：IWCの日本の致死的調査捕鯨の中止を求める決議の採択を拒否

2010　IWC：調査捕鯨：POWER開始（日本共同 北太平洋 鯨類目視調査：Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research）

2014　日本：調査捕鯨違反判決。

国際司法裁判所が、JARPA II：第二期 南極海 鯨類捕獲調査はモラトリアム違反と判決。調査捕鯨停止。

2015　日本：調査捕鯨：NEWREP-A（ニューレップ エー：新 南極海 鯨類科学調査計画：New Scientific Whale Research Program in the Antarctic Ocean）開始

2017　日本：調査捕鯨：NEWREP-NP（ニューレップ エヌピー：新 北西太平洋 鯨類科学調査計画：New Scientific Whale Research Program in the western North Pacific）開始

2019　日本：IWC脱退

日本：調査捕鯨：JASS-A（ジャス エー：南極海 鯨類資源調査：Japanese Abundance and Stock-structure Surveys in the Antarctic）開始。

日本：調査捕鯨：NEWREP-NP中止

第四節　業者・船・漁法

第一項　業者・船

実施主体：
日本鯨類研究所（水産庁所管法人。日本政府から特別許可証を発給）

実際の調査事業者：
共同船舶株式会社（南極海、北西太平洋沖合）
一般財団法人 地域捕鯨推進協会（現小型捕鯨協会）（北西太平洋沿岸）

船：
母船式捕鯨業者は、共同船舶所有の日新丸・勇新丸・第二勇新丸・第三勇新丸。かつては、太地に展示されている第一京丸、第二共新丸、海幸丸、第二昭南丸、第二十五利丸、第七開洋丸などが利用された。
基地式捕鯨業者は、下道水産の正和丸、株式会社 鮎川捕鯨の第八幸栄丸と第三大勝丸、外房捕鯨 株式会社の第五十一 純友丸、太地町漁業協同組合の第七勝丸。

第二項　漁法

母船式捕鯨の手順と同じで、商品化まで行います。科学者が乗り込み、鯨族の致死的調査を行います。 [本文参照：第四部 第二章 第二節　業者・船・漁法]

1. 出港：日新丸とキャッチャーボートがチームで出発します。
2. 探鯨：キャッチャーボートの船員が、マストの上や甲板からクジラを探します。目印は鯨の潮吹き（ブロー）。目視で探しますが、現在鯨類研究所が鯨発見用のドローンを開発しています。
3. 殺害：捕鯨砲で鯨に銛を打ち込みます。銛の先が体内で開き、抜けなくなります。
4. 引上：母船と合流し、船尾にあるスリップウェーと呼ばれるスロープからクジラを引き上げます。
5. 解体：母船には100人弱の船員が乗り込んでおり、そのうち解体役の船員がクジラを解体します。鯨類学者が研究用のサンプルを収集します。
6. 商品化：肉をパックし、冷凍。すぐに商品として販売できる状態にします。

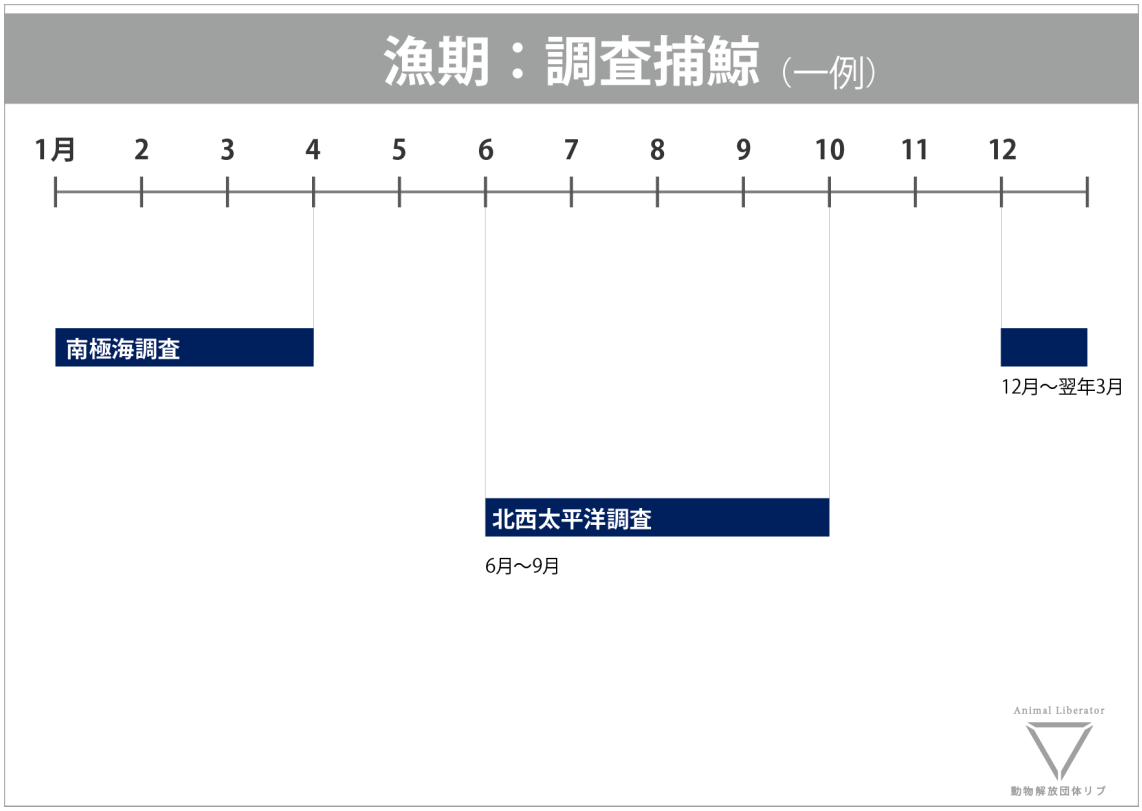
第五節　漁期・海域

第一項　漁期

・南極海12月～翌年3月（捕獲期間は通常1987/88などと記載される）

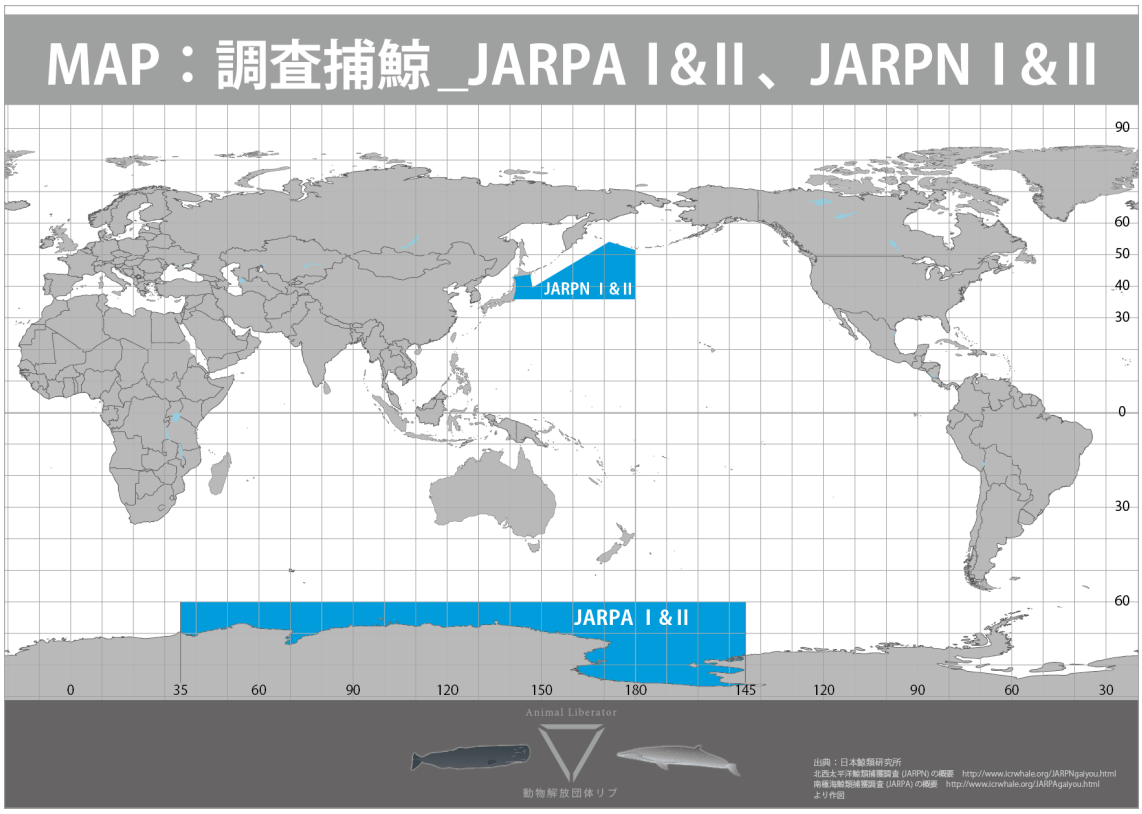
・北西太平洋6月～9月

［タイムライン：漁期：調査捕鯨］

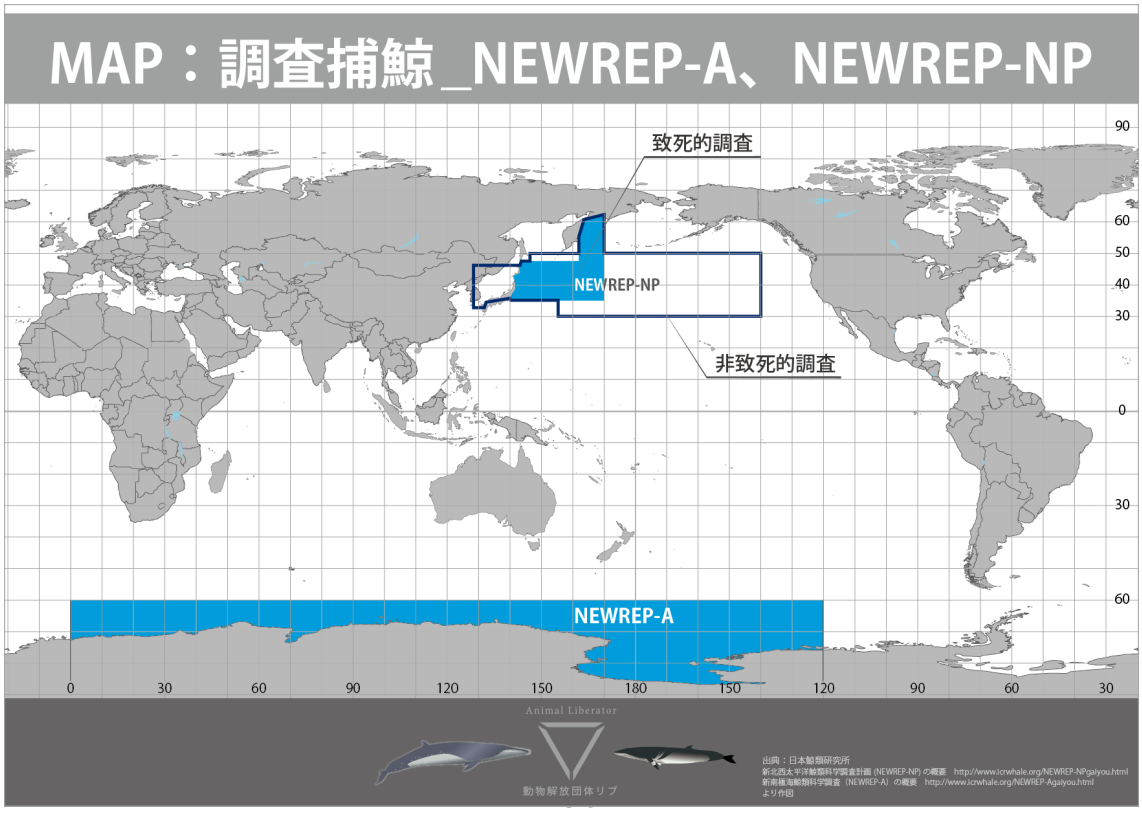


第二項　調査海域

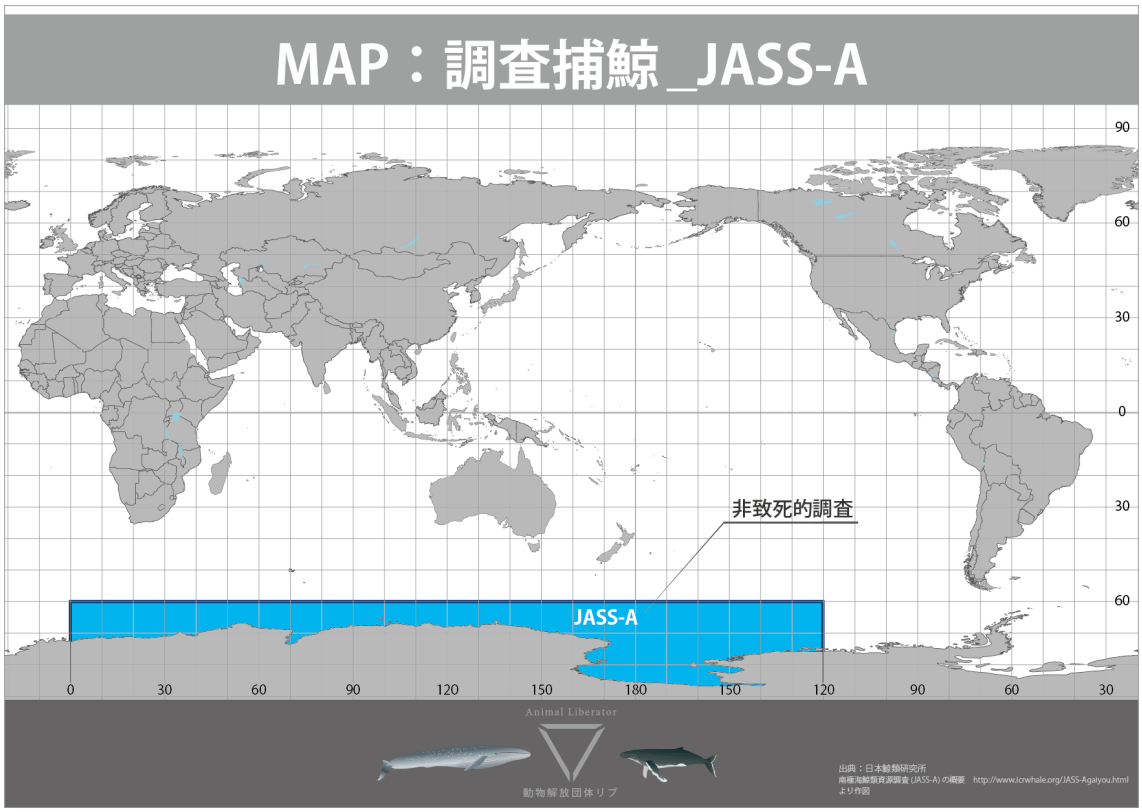
［MAP：調査捕鯨：JARPA I&II、JARPN I&II］



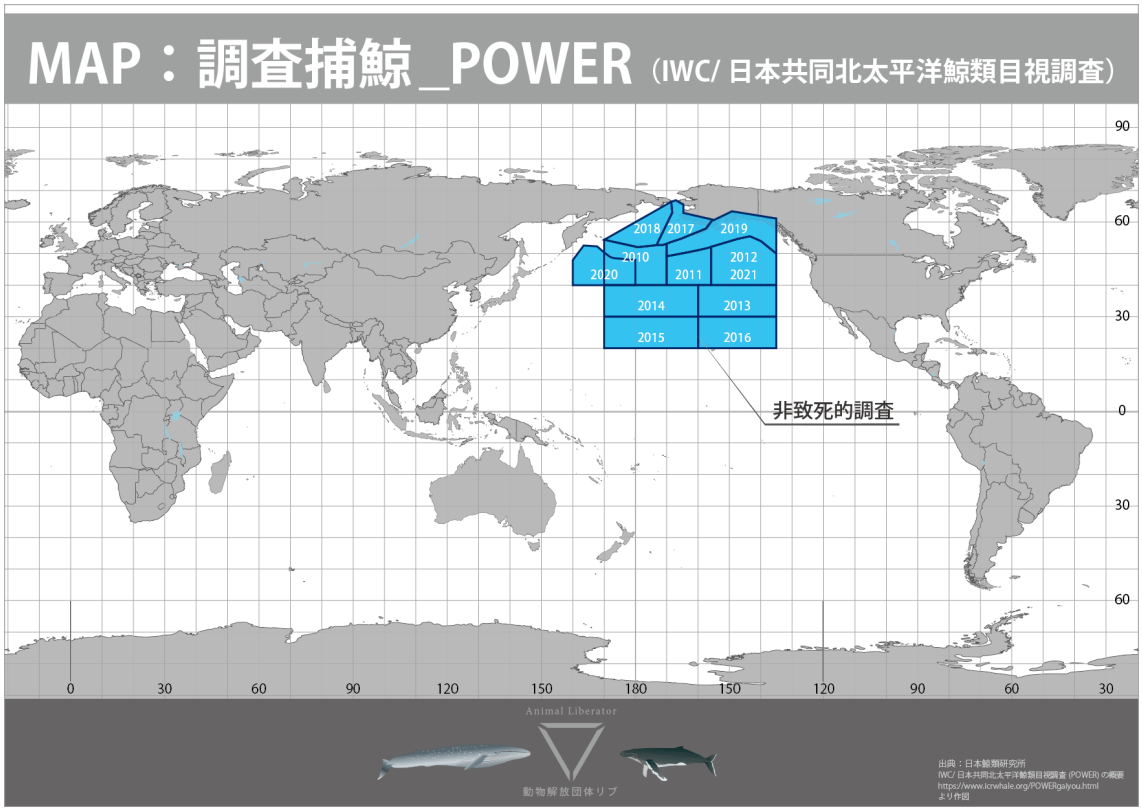
［MAP：調査捕鯨：NEWREP-A、NEWREP-NP］



[MAP：調査捕鯨：JASS-A]



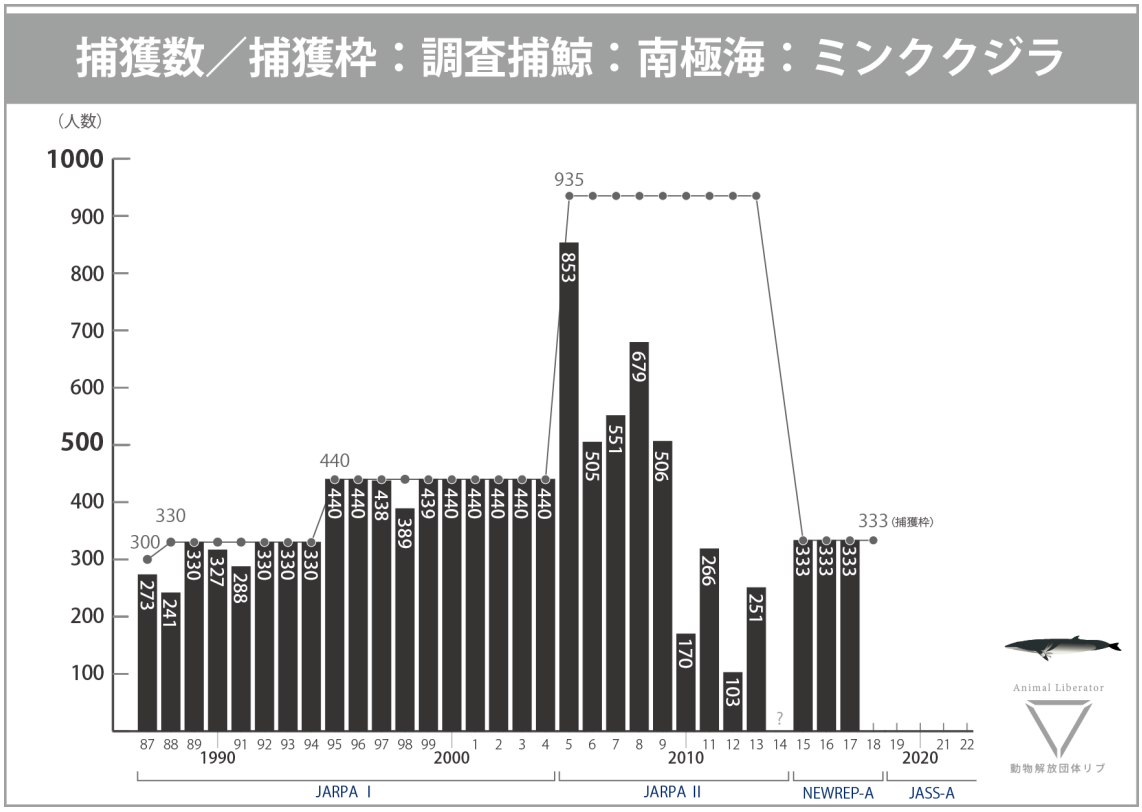
[MAP：調査捕鯨：POWER]



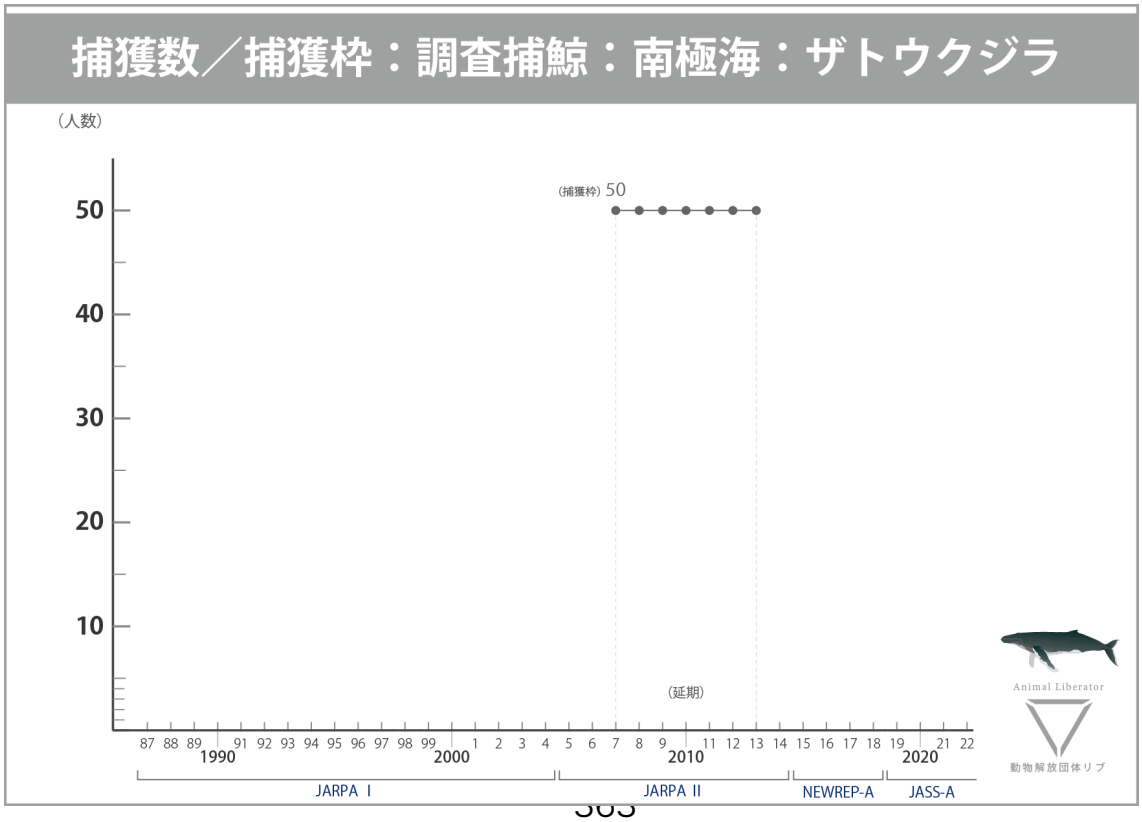
第六節　捕獲枠・捕獲数

第一項　南極海（JARPA I、JARPA II、NEWREP-A、JASS-A）

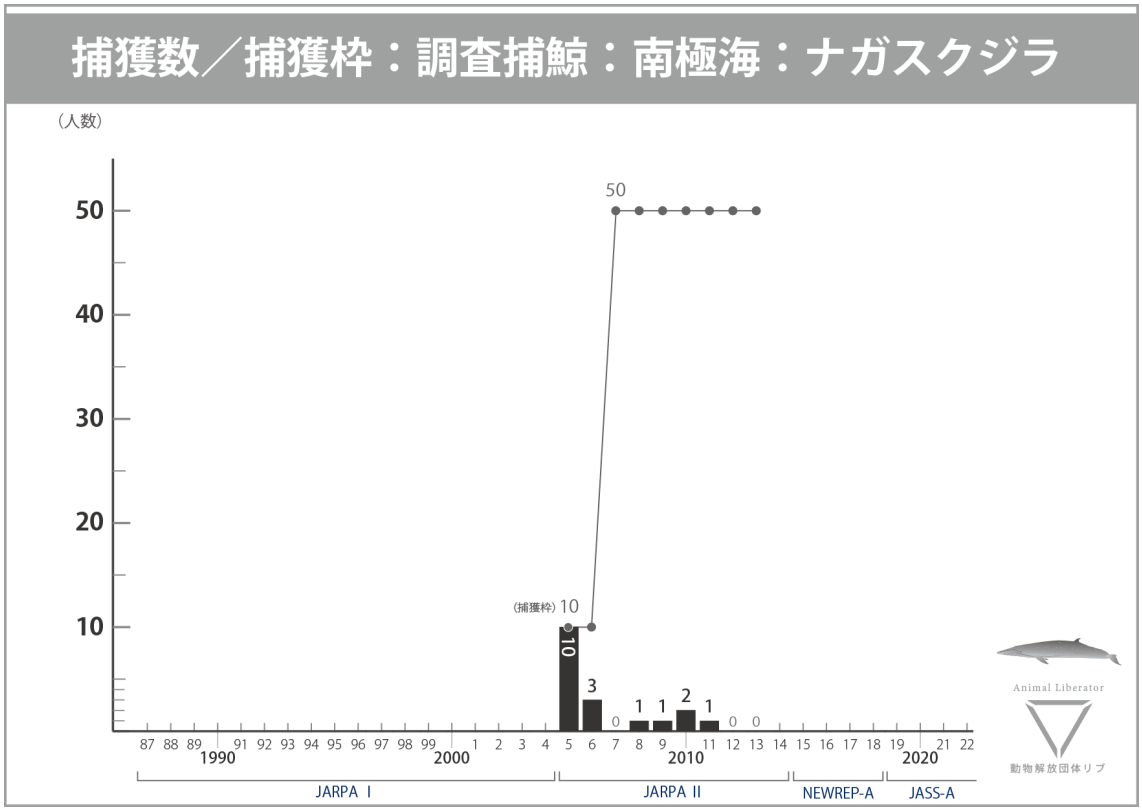
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：南極海：ミンククジラ］



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：南極海：ザトウクジラ］

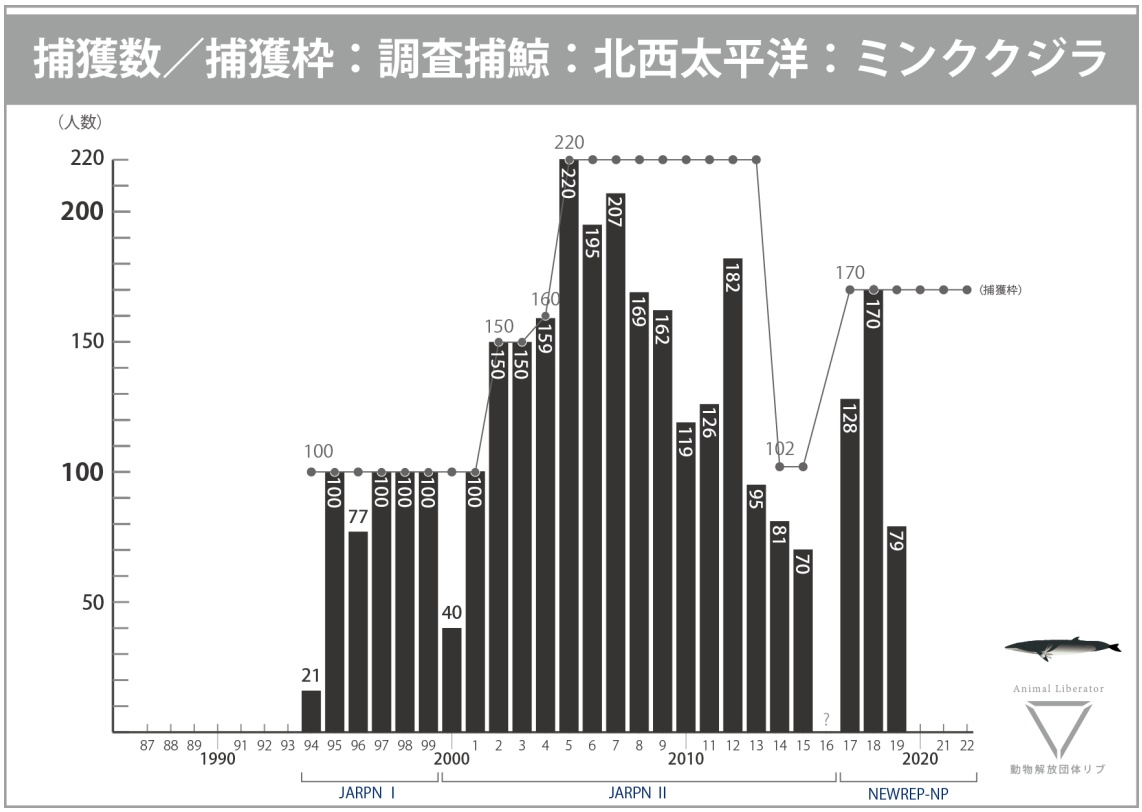


［グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：南極海：ナガスクジラ］

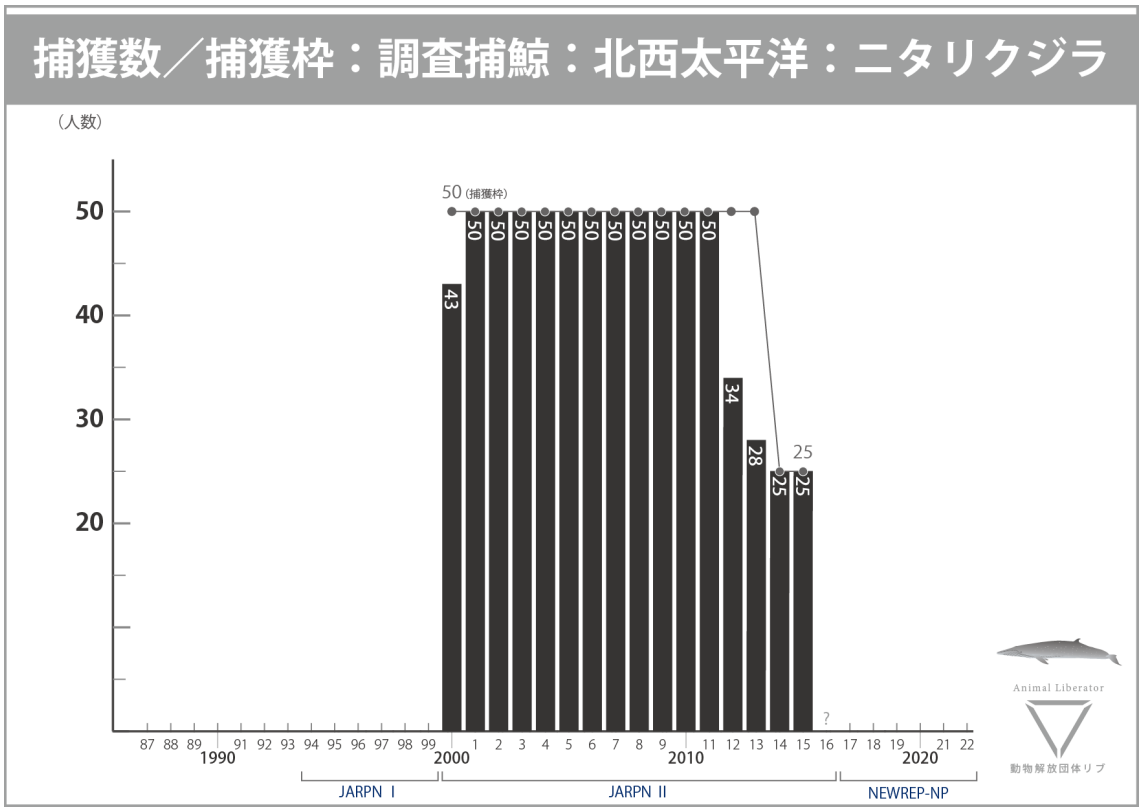


第二項　北西太平洋（JARPN I、JARPN II、NEWREP-NP）

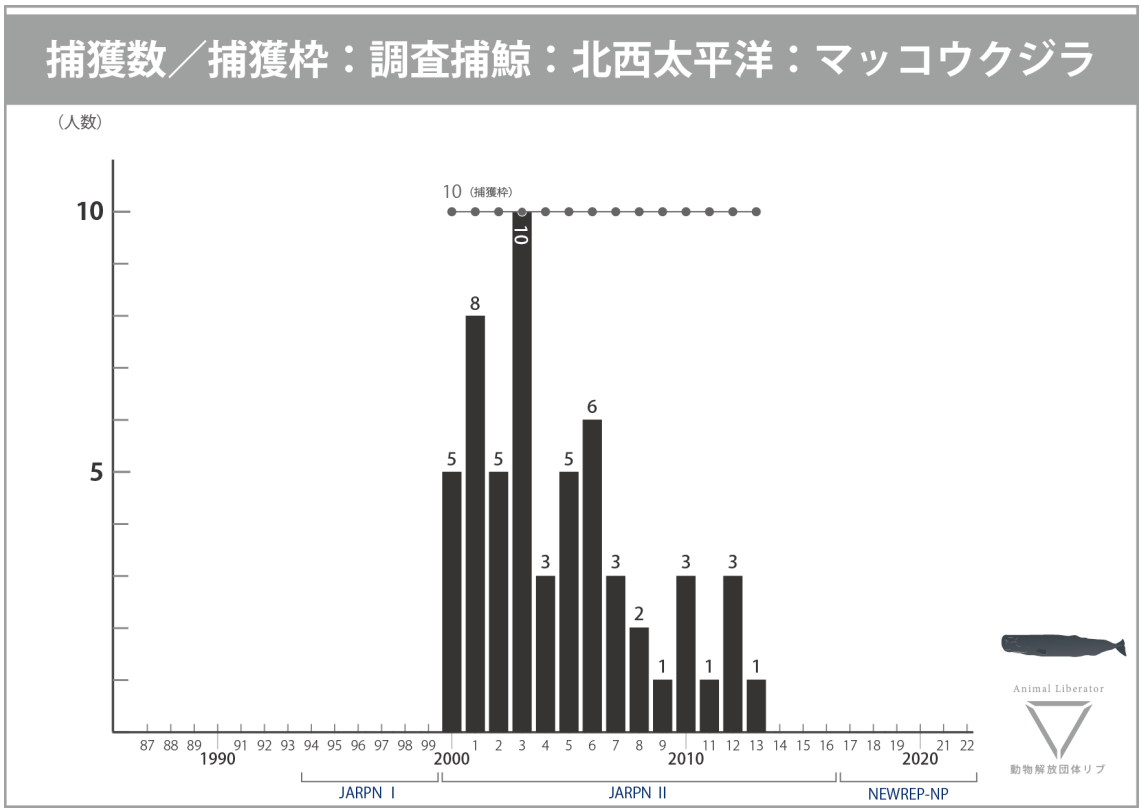
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：北西太平洋：ミンククジラ］



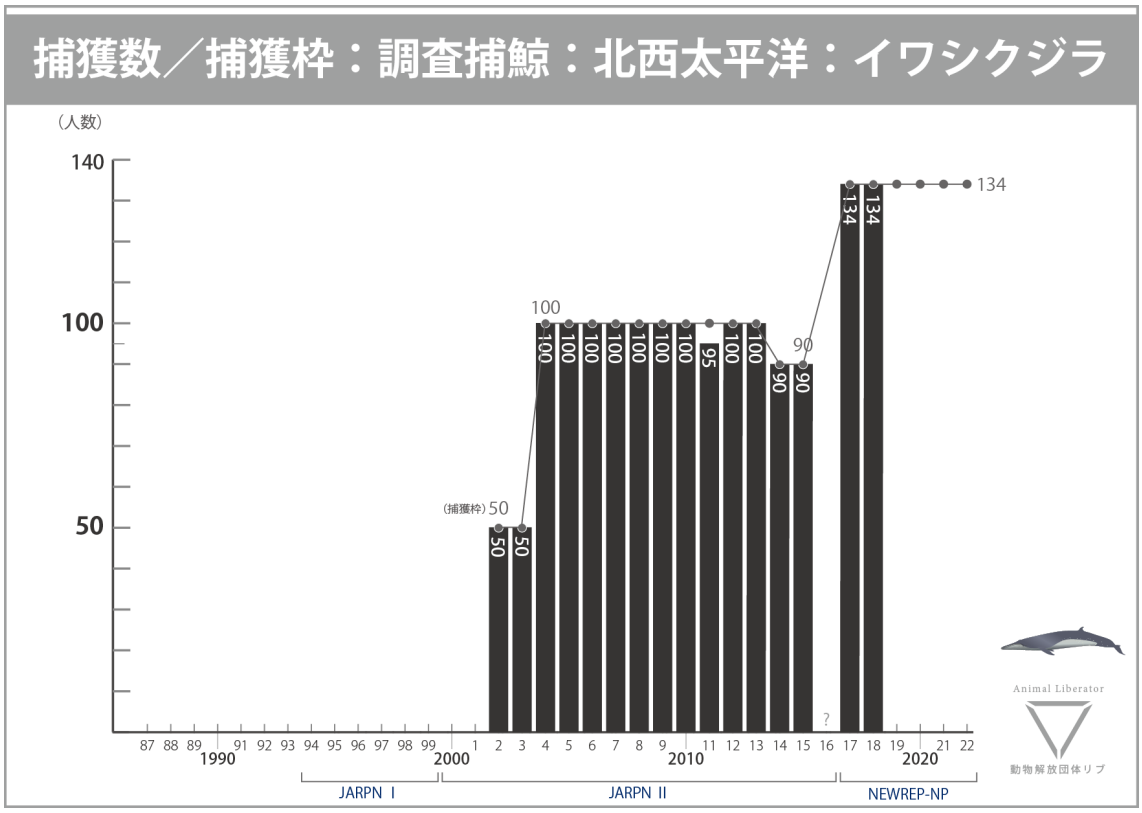
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：北西太平洋：ニタリクジラ］



[グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：北西太平洋：マッコウクジラ]



[グラフ：捕獲数／捕獲枠：調査捕鯨：北西太平洋：イワシクジラ]



第六章　海賊捕鯨

第一節　概要

ネットで海賊捕鯨を調べると、概要を記載している少数のページのみがヒットし、詳細はほとんど出てきません。日本の捕鯨に関するWikipediaにも数行程度の記載。過去に海賊捕鯨を行っていた水産会社のウェブサイトに行き沿革を見ても一切触れていません。海外から見た捕鯨共同体やクジラ漁師と、日本国内から見た捕鯨共同体やクジラ漁師が異なる顔を持っている好例です。「原剛. ザ・クジラ. 株式会社 文眞堂. 1983」の参照を中心に記述します。

海賊捕鯨（Pirate Whaling）とは

1960年代〜1980年代、日本の捕鯨共同体は、IWCの規制を逃れるためIWC非加盟国に捕鯨船を置き捕鯨を行い、鯨肉を日本に輸出しました。つまり国際規制逃れです。
捕鯨共同体は、ICRW（国際捕鯨取締条約）や各国国内法を逃れ、捕獲が禁じられている鯨類や、絶滅危惧種、母子、授乳中の子クジラを大量に殺害しました。このやり方に国際社会は怒りましたが、水産庁は「別段違法ではない」との見解を発表。官民一体となった脱法行為でした。

海賊捕鯨を行う手順は以下です。IWC非加盟国にフロント企業を置き捕鯨船を購入、あるいは日本から古いトロール船を送り込む。船と母船兼キャッチャーボートに改造し、日本人クジラ漁師が指揮をとり、現地の漁師を雇い捕鯨を行うというもの。母船兼キャッチャーボートとは、母船の機能（船尾にスリップウェイ、甲板にクジラ解体場、船倉に冷凍施設と冷凍保存倉庫を搭載）と、キャッチャーボートの機能（船首に捕鯨砲を搭載しクジラを殺害する）を併せ持つ船のことです。

海賊捕鯨を行っていた会社

大洋漁業（現マルハニチロ。日本の水産産業トップ）
日本水産（ニッスイ。日本の水産産業No.2）
極洋（日本の水産産業No.3）
日東捕鯨

海賊捕鯨を行った海域と期間

大西洋　1960代〜1980
南米　1964〜1986
アジア　1975〜1980年代

海賊捕鯨を行った国と海賊捕鯨船隻数

日本は、少なくとも計18隻の海賊捕鯨船を運用。大西洋では船籍を次々と変え、当局の取り締まりを回避していました。

大西洋

大西洋　3隻（シエラ号、トンナ号、ケープフィッシャー号）

スペイン　3隻（イブサ I号、イブサ II号、イブサ III号）

南アフリカ　3隻（スーザン号、テレサ号、屋島丸→アストリッド号→ MVフィッシャー）

南アメリカ

ペルー　3隻（ビクトリア I号、ビクトリアII号、ビクトリアVII号）

ブラジル　不明

チリ　1隻（オリエント丸 No.2→ポーミースターIII号→フアン9）

東アジア

台湾　4隻（シー・バード号、シー・フラワー号、ミン・タイ・プロダクツ社）

フィリピン　1隻（不明）

元日本の漁船

このうち少なくとも以下の9隻が、日本の漁船を運び、改造したものとわかっています。

大西洋　俊洋丸→トンナ号

大西洋　八州丸→ケープフィッシャー号

チリ　オリエント丸 No.2→ポーミースターIII号→フアン9

南アフリカ　屋島丸→アストリッド号→ MVフィッシャー

台湾　？(トロール船)→シー・バード号

台湾　？(トロール船)→シー・フラワー号

台湾　？(トロール船)→Chi Hsin

台湾　？(トロール船)→Chu Feng

フィリピン　？→？

第二節　大西洋での海賊捕鯨

大西洋で日本の海賊捕鯨に関係した国は、ノルウェー、スペイン、ポルトガル、キプロス、ソマリア、南アフリカ。大西洋海賊捕鯨は、最も悪名高い海賊捕鯨船、シエラ号に始まり、シエラ号に終わりました。［？］は海賊捕鯨船の名前です。

1960

［An No.4］（後のシエラ号）

オランダの捕鯨会社が建造した高速ディーゼルキャッチャーボート。建造後、南氷洋捕鯨に出漁していた。

1964

［An No.4］会社が倒産しドックに係留。

1966～

［An No.4］（後のシエラ号）

4～6名の日本人が鯨肉処理を監督。IWCが禁じていたシロナガスクジラ・ザトウクジラを年平均500名殺害し、スペイン産のスタンプを押して輸出していた。

［俊洋丸 (しゅんようまる)］（後のトンナ号）

後にトンナ号となるトロール船（底引網漁船）俊洋丸を、函館公海漁業が発注し、林兼造船（現マルハニチロ）が建造。

［八州丸 (はっすまる)］（後のケープフィッシャー号）

後にケープフィッシャー号となる八州丸を、岩切水産（愛媛県）が発注し、臼杵(うすき)鉄工所（大分県）が建造。

1967

［An No.4］（後のシエラ号）

［An No.4］を“母船兼キャッチャーボート船” に改造し、船名を［The Run］に変更。母船兼キャッチャーボートとは、船尾にスリップウェイ、甲板に解体場、船倉に急速冷凍施設と倉庫を設置した船のこと。

1968

［The Run］（後のシエラ号）

実際の船主は、シエラ・フィッシング・カンパニー（スペイン領カナリア諸島）の社長兼、ノルウェーの銀行フォーニングスバンケン（Föreningsbanken：Förenings組合、banken銀行）の社長アンドリュー・M・ベアー（Andrew M. Behr）であったが、南アフリカ連邦の実業家に売却した形を取り登録。ノルウェー政府が、国民が外国船籍の船で捕鯨することを禁じていたため所有権隠しをした。のちに船籍をバハマに置き、大西洋漁業会社（バハマ ナッソー）の所属船として登録した。

［The Run］は、IWCが捕鯨規制していた南アフリカ沿岸で捕鯨を行い、3年間にニタリクジラ、絶滅寸前だったセミクジラ、禁漁のザトウクジラなど1676名を捕獲殺害。この海域に生息するクジラの1/10を大量虐殺し、鯨肉は日本に輸出した。国際的な非難が巻き起こる。

* どこかのタイミングで、シエラ号は、大洋漁業（75%）フォーニングスバンケン社（25%）の共同所有となる。

1971

［The Run］（後のシエラ号）

バハマ政府は船籍を取り消し、大西洋漁業会社に10,000ドルの罰金。1971～1973には、日東捕鯨もシエラ号から鯨肉を買い付けていた。

［俊洋丸］（後のトンナ号）

福島遠洋漁業が購入し、西アフリカ沖でイカ、タコ漁を行う。

1972

IWCがIWC非加盟捕鯨国5カ国（ポルトガル、スペイン、ペルー、チリ、ブラジル）に加盟を促す。

1973

［The Run］（後のシエラ号）

船名を［シエラ号］（The SIERRA、682t）に変更。シエラ社は、南アフリカ連邦ケープタウンに移転。

［シエラ号］

船籍をソマリア（IWC非加盟国）に変更。

IWC非加盟国は

・国際捕鯨取締条約に関係なく自由に捕鯨ができる。

・鯨肉や鯨油の輸出入も国際法に触れない。

シエラ社のベアー社長が大洋漁業の子会社「大洋カナダ」に年間3000tの鯨肉売買をもちかける。大洋漁業側の条件は「実務経験のある6人の鯨解体、検査員をシエラ号に同乗させる」。ノルウェー人が船長、4〜6人の日本人解体・検査員が同乗して操業を指揮。年間400〜500名のクジラを殺害し続ける。子連れのクジラを殺し続け、1つの系統群を全滅させたと言われる。鯨肉は日本へ輸出。

1975

［シエラ号］

船籍をリヒテンシュタインに変更。

1976

［シエラ号］

4月30日、アメリカ下院の聴聞会で共和党のベル議員がシエラ号の海賊捕鯨を告発。

船籍をソマリア（IWC非加盟国）に変更。所有会社をノルウェーの銀行を通じてリヒテンシュタインに登録。日本人4名が監督し、鯨肉にスペイン山のスタンプを押して日本へ輸出。大西洋でIWCが禁漁にしているセミクジラとイワシクジラを毎年平均500名殺害した。

船籍をキプロスに変更。

この年、日本共同捕鯨株式会社設立。海賊捕鯨を行っていた会社を含む、大洋漁業／日本水産／極洋／日東捕鯨、日本捕鯨／北洋捕鯨が出資した。

1977

IWCが、海賊捕鯨に反対する決議を行う。

南アフリカが、海賊捕鯨を禁止する法律を制定。

200海里（約370km）排他的経済水域が海洋法に関する国際連合条約によって定められる。

［シエラ号］

1月〜5月の日本への輸出量は、586t、125万ドル＝3億円（$1＝¥240）。

漁場を失い、モロッコ沖やカナリア諸島を転々とし操業を行う。

船籍を1年刻みで変えた理由は以下。

・シエラ社の事業相手がその都度変わった。

・事業相手は判然としないが日本の捕鯨関連会社の可能性。
・税金対策でタックス・ヘイブン諸国を渡り歩いた。
・海賊捕鯨に対する国際世論の高まり。
［俊洋丸］（後のトンナ号）
200海里宣言で漁場から締め出され、転売される。［俊洋丸］が［トンナ号］(THE TONNA)に船名を変えた経緯不明。
［八州丸］（後のケープフィッシャー号）
［ケープフィッシャー号］(THE CAPE FISHER)に船名を変えた経緯不明。

1978

年明け
［トンナ号］
船主は、シエラ社 アンドリュー・M・ベアー（Andrew M. Behr）。スペイン領カナリア諸島ラスパルマス港に入港し、オランダ領アンティール諸島の旗を掲げた。“母船兼キャッチャーボート船”に改造され、シエラ号が捕獲した鯨を解体、貯蔵する母船の役を務めた。
西アフリカ セネガル沖 400マイル（約644km）を42日間航海、432tの鯨肉を貯蔵。
6月?日
［シエラ号］
修理のため、スペイン領カナリア諸島ラスパルマス港のドック入り。
［トンナ号］
船長は、ノルウェー人のクリストフ・ベスブルハイン(53)。シエラ号が修理中のため、単独でスペイン、ポルトガル沖へ出漁。操業期間約1ヶ月（6.?～7.22）で、ナガスクジラ38名を殺害、鯨肉450tを入手。
7月22日
［トンナ号］
沈没。ラスパルマス港への帰航途中、ポルトガル沖220マイル（約354km）で、ナガスクジラ（20m、80t）を発見、殺害。船上に引き上げようとしたところ船が傾く。復帰させようとしたところ、スコールが発生、沈没し、船員42名は避難、船長は船と共に沈む。船員の構成は、日本人3人、他南アフリカ人、スペイン人、ポルトガル人、ニュージーランド人だった。日本人の名前は、「Isamu Shinkawa」「Tatsuhide Saito」「Masakichi Shibata」。大洋捕鯨で働いていたクジラ漁師だった。外国人船員は「日本人のためにクジラを獲っていた」と供述。鯨肉はスペイン産として日本に輸出される手筈だった。結果としてトンナ号は、多額の損害保険金を手に入れる。
12月5日
［YAMATO REEFER］（大和冷凍）がスペイン領カナリア諸島ラスパルマス港に停泊。
12月17日
［シエラ号］が現れ、［YAMATO REEFER］に鯨肉を積み替える。

12月18日
［シエラ号］
日本人乗組員4名。うち2名が元大洋漁業、2名が元日東捕鯨の従業員であることが判明する。58名のクジラを捕獲。うち55名はIWCが禁じているナガスクジラ（授乳期の子連れの女性を含む）、うち2名は同海域で絶滅の恐れがあるザトウクジラ、1名はシロナガスクジラの若い女性だった。この年の日本の鯨肉輸入量は、スペイン2600t、ソマリア600t、キプロス2780t。計30億円分。
IWCは日本に輸入を止めるよう勧告。日本は「契約の信義」を口実に拒否。
東京新聞よると、12月にシエラ号の鯨肉を輸入したのは東京町田の水産物商社「CDジャクソン・東京社」。鯨肉のルートは、シエラ社（ケープタウン）→CDジャクソン・バハマ（バハマ）→CDジャクソン・東京社。CDジャクソン・東京社の社長は、元大洋漁業本社 捕鯨事業部H課長であった。H氏は、1973年6月～1977年11月までシエラ号の鯨肉買付交渉を担当、1977年12月大洋漁業を退社し、CDジャクソン・東京社を設立、社長となった。大洋漁業が表面に出ないように工作したと考えられている。
以下の映像は、1978年12月に撮影された貴重な実際の映像です。日本人らしき乗組員の姿も見えます。
［URL：Whale Hunting | The Sierra | Greenpeace | Japanese whale meat | Whales | TV Eye | 1979：https://youtu.be/qI7XlfFhK9Y］
1979
?月?日
［八州丸］（後のケープフィッシャー号）
岩切水産が売却し、その後輸出された。IWCが、不法な捕鯨をやめさせるために、捕鯨関係施設の輸出を控えるよう呼びかけているさなかだった。
夏
［ケープフィッシャー号］
シエラ号の僚船として現れる。リパブリカン漁業会社が所有し、船長はポルトガル人。日本人3名が乗船していたが、彼らは1978年12月18日に撮影されたシエラ号乗組員日本人4名のうちの3名だった。
6月23日　日本政府がIWC非加盟国からの鯨肉輸入を禁止に。
6月24日　英雑誌「オブザーバー」が「日本人の密漁捕鯨現場、暴露される！」と報道。
?月?日
［シエラ号］
ポルトガルのレイショエス(Leixões)沖360kmで操業中、米・英・加・豪・伊のクジラ保護活動家17名が乗る「シーシェパード1世号」(779t)に体当たりされる。船首に100tのコンクリートを取り付けた「シーシェパード1世号」が、2度に渡りシエラ号に体当たり、操業不能にした。

日本人4名が乗船しており、うち2名は1978年12月18日に撮影されたシエラ号に乗っていた日本人4名のうちの2名だった。
?月?日
［シエラ号］
レイショエス(Leixões)港で修理中、2度小型艇の体当たりを受ける。リスボン港へ避難。

1980
2月6日 午後
［シエラ号］
修理のために停泊中、リンペット機雷による爆発によって側面に穴が開き沈没した。犯人不明。
4月27日
［イブサ I号］、［イブサ II号］
スペイン マリン港で、シー シェパードに雇われた工作員によって、リムペット機雷で爆発、沈没。
4月?日
［アストリッド］
シーシェパードが、カナリア諸島の至る所に、海賊捕鯨船アストリッドにかけた2万5000ドルの懸賞金のポスターを貼り、航行できないようにした。
6月17日
［イブサ III］
イブサ IIIがクジラを殺害しようとしていたところを、グリーンピースの船レインボー ウォリアーが妨害。スペイン海軍の軍艦が到着し、公海であったにもかかわらずGP乗組員は逮捕され、レインボーウォリアーが押収された
11月8日
GPが、スペイン海軍に押収されたレインボー・ウォリアーを取り戻した。酔ったふりをして船に入り、修理を行い脱出、アムステルダム港へ到着した。
12月16日
スペインで、スペインのIWC代表団に捕鯨のモラトリアムと即時停止に賛成票を投じるよう強制する動議が圧倒的多数で可決される。
?月?日
［スーザン］、［テレサ］
南アフリカ政府とシーシェパードが協働して押収、数年後射撃練習に使用され南アフリカ海軍によって破壊された。
シーシェパードは、1979〜1980年にかけて6隻の海賊捕鯨船を操業不能にし、IWCなどが12年かけても解決できなかった海賊捕鯨問題を1年余りで解決した。

第三節　南米での海賊捕鯨

南米で日本の海賊捕鯨に関係した国は、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、チリです。

1956
チリ
日本がチリに基地と設備を提供。鯨肉はすべて日本に輸出。

1963
アルゼンチン
大洋漁業（現マルハニチロ）、日本水産、極洋は、IWCに加盟していないアルゼンチンに捕鯨基地を置き捕鯨を開始。
南氷洋での鯨の大量虐殺の反省から各国が捕鯨から撤退し、IWCが規制を強化している最中の規制逃れだった。アルゼンチンのサウスジョージア島周辺は、南氷洋で大量虐殺されていたクジラの回遊ルートであったため、日本の捕鯨会社はクジラたちの被害に追い討ちをかけた。また、当時IWCの規制対象外であったマッコウクジラの捕獲も行った。アルゼンチンでも大量虐殺・乱獲を行い、クジラは激減、3社とも数年で撤退した。

1964（～1968）
チリ
パナマのフロント会社を通じてIWC非加盟国であるチリに捕鯨基地を置き、海賊捕鯨を実行、日本へ鯨肉輸出を行った
海賊捕鯨を行った船は［ポーミースターIII］。日本で建造した［オリエント丸 No.2］を母船兼キャッチャーボートに改造したもの。船名の変更履歴は、［オリエント丸 No.2（Orient Maru No.2）］→［ポーミースターIII号（Paulmy Star III）］→［フアン9（Juan 9）］。
殺害したのは、
シロナガスクジラ 690名（絶滅危惧種）
ザトウクジラ 13名
セミクジラ 3 名
ナガスクジラ 1,600名以上
イワシクジラ 1,600名以上
マッコウクジラ 1,500名以上

1981
チリ
グリーンピース活動家2名がチリの沿岸捕鯨を秘密裏に調査し、旧式の捕鯨船 3隻を発見。うち1隻の母船兼キャッチャーボートが日本で建造された［オリエント丸 No.2］だった。この時、IWC非加盟国に捕鯨用具を販売することは禁止されていた。

1982
チリ
小型鯨族、保護海域の鯨族を殺害し、国際捕鯨取締条約違反。
ペルー
12月13日　グリーンピースはペルーにレインボーウォリアーを派遣し、海賊捕鯨船［ビクトリア VII］に乗り込み、捕鯨砲に自分の体をくくりつけて抗議。ペルーの海兵隊に逮捕された。［ビクトリア VII］は、日本の大洋水産のペルー子会社であるビクトリア・デル・マールの海賊捕鯨船。同社はパイタに陸上基地を持ち、他に2隻の船［ビクトリア I］、［ビクトリア II］を所有していた。

1984
チリ
捕鯨船が15名のセミクジラを殺害。
［フアン9］のプロペラ シャフトが破損、財政難に陥り翌年に債権者が船を差し押さえた。

1986
ペルーが捕鯨を中止。

第四節　アジアでの海賊捕鯨と密輸

概要

日本の海賊捕鯨に関係したアジアの国々は、台湾、フィリピン、韓国。海賊捕鯨と密輸の手口は以下の通りです。
1978年まで日本は台湾から鯨肉を直接輸入していました。台湾はIWC非加盟国であったため、国際捕鯨取締条約の抜け道として利用したためです。しかし1979年日本政府はIWC非加盟国からの鯨肉輸入を禁止。そのため1980年以降、台湾からの鯨肉を、IWC加盟国である韓国を経由させ、韓国産鯨肉と偽装して輸入しました。
台湾では、4隻の海賊捕鯨船が捕鯨を行い、いずれも日本の捕鯨会社（特に大洋漁業）とのつながりがありました。密輸には広域暴力団、反社会勢力が関わっている事件もありました。

タイムライン

1975
大洋漁業が、台湾のミン・タイ・プロダクツ社（台北）に古いトロール船を譲渡。後の［シー・バード号］（海雁）（591t）と、［シー・フラワー号］（海華）。

1976（～1979）
日本の関税統計では、日本は韓国から1800tの鯨肉を輸入。韓国の輸出統計では、日本に400t 輸出とあ流。その差の1400t が台湾産の偽装鯨肉と見られている。

1977

日本が台湾から鯨肉203tを輸入。

1978
日本が台湾から鯨肉66tを輸入。

1979
6月23日
日本政府がIWC非加盟国からの鯨肉輸入を禁止。
1979～1980 、グリーンピースは日本、台湾、韓国による海賊捕鯨を明らかにした。日本と台湾当局者は否定。しかしグリーンピースは、元日本船籍の海賊捕鯨船4隻と日本人乗組員を発見した。次いで日本の築地市場で、マリン・エンタープライゼズ社（韓国のフロント会社）によって梱包されたクジラの肉を発見。三角貿易の証拠を掴んだ。

1980
年明け、築地に「韓国産」と表示された冷凍鯨肉が入荷され、16.5kg詰めの赤肉が15,000～19,000円で競り落とされた。次いで、2月19日に22t、2月26日に81t、3月4日に28tが入荷される。
2月下旬
日本の税関が、台湾から違法に輸入された300tの鯨肉を押収。鯨肉の密輸ルートは、「台湾の捕鯨船が鯨を捕獲殺害→ 鯨肉を韓国経由で→ 日本に輸入」というルート。1979年、日本政府がIWC非加盟国加盟からの鯨肉輸入を禁じたため、IWC非加盟国である台湾からIWC加盟国である韓国を経由させ、日本に輸入していた。
捕鯨をしていた台湾の業者は、ミン・タイ・プロダクツ社。
捕鯨船隊 4隻（母船兼キャッチャーボートに改造）を保有。いずれも元日本の漁船を輸出し改造したもの。
「海雁（シー・バード号）」（Sea Bird）（591t）
「海華（シー・フラワー号）」（Sea Flower）（日本人6名乗船）
「チュー・フェン号」（Chu Feng）（日本人4名乗船）
「チー・ヒン号」（Chi Hsin）
操業海域は、冬はカロリン諸島近海（クジラが越冬する）。夏は小笠原諸島近海（索餌海遊路にあたる）。ニタリクジラ、マッコウクジラ、ザトウクジラ、コククジラなどを殺害。グリーンピースが突き止めた。
9月末　台湾の海賊捕鯨は終了したとされているが、実際は1984年、1987年、1989年に台湾からの日本への鯨肉密輸が摘発されている。

1981
フィリピンがIWCに加盟（～1986脱退） 。日本がフィリピンやカリブ海諸国の一部にIWC参加を呼びかけていた。

1982
IWC 商業捕鯨モラトリアムを決議

1983

フィリピンが突然、IWCに捕鯨実施の要望を行いニタリクジラ200名の捕獲枠を要求、却下される。逮捕歴のある日本人の水産貿易会社(東京）の社長が、この件を陰で操っていた。後に、日本人とマルコス政権下の要人が捕鯨に関してどう動いたか、詳細に記録した文書がフィリピン政府筋から洩れ、アメリカに渡った。（*筆者は文書を探すことができませんでした）

1984

フィリピンの現地会社が捕鯨を行う。日本から運ばれた捕鯨船を使用、日本人の船長・砲手・解体作業員で操業した。ニタリクジラ9名を捕獲し、鯨肉45t を兵庫県西宮市の水産会社に送付。通産省と農水省が輸入貿易管理令に触れるとして、鯨肉を押収し、大阪の保税倉庫に保管。

4月15日

日本政府が、日本人は北西太平洋で日本船舶以外の船舶でヒゲクジラまたはマッコウクジラの捕獲、処理に従事してはならないと定めた（農水大臣が許可した場合を除く）（指定漁業の許可及び取締等に関する省令）。

7.23

日本の水産ブローカー2社（東京中央区と港区）が共謀し、台湾（高尾港）から日本（東京港大井埠頭）ルートで、冷凍サメ肉112t（申告価格2420万円）の中に鯨肉40tを隠して密輸した。東京税関が摘発。

12月

日本の水産会社(静岡県)と貿易ブローカー(神奈川県)2社が共謀し、西表島南方の洋上で台湾の水産業社から鯨肉（ニタリクジラ）50tと赤魚50t(1900万円分)を鯨肉を受け取り、静岡県沼津市静浦港に密輸した。外為法、関税法違反で検挙。

1987

6月24日

日本の運送業者と不動産業が共謀し、台湾から宮城県石巻港ルートで、鯨肉150t 小売値7億円相当を密輸し、大洋漁業大阪支社大阪冷凍工場に保管。宮城県警が関税法違反で押収、逮捕。広域暴力団が関与していた。

1988

フィリピンがIWCを脱退（1981から〜）

1989

4月1日

日本漁船 第一優孝丸(70t)の乗組員7名が共謀、台湾から沖縄県ルートで、鯨肉30tを密輸。沖縄県石垣海上保安部の監視挺に、関税法違反で現行犯逮捕される。暴力団がらみの密輸ブローカーが介在しているとみられる。

1991

フィリピン：イルカの捕獲、販売、輸送を禁止（漁業行政命令 185）

1993

大洋漁業株式会社が、マルハ株式会社へ社名変更、「大洋ホエールズ」を「横浜ベイスターズ」に改称。大西洋、南米と海賊捕鯨を続け、台湾・韓国・フィリピンでの密輸事件を受けて社名変更したとも考えられる。

1997

フィリピン：すべての鯨類の捕鯨禁止

今回限られた時間で調べた範囲かつ検挙された数だけで以上です。調べられていない密輸事件、検挙されていない密輸事件はまだあると推測されます。捕鯨産業と反社会勢力が結託し、共謀している図も垣間見えます。海賊捕鯨、鯨肉密輸事件を知るにつれ、テレビや捕鯨産業などが伝える「誇り高い日本の捕鯨文化・クジラ漁師」とは似ても似つかない姿が見えてきます。

第七章　捕鯨問題

第一節　基本となる考え方

第一項　捕鯨共同体

捕鯨問題は、捕鯨共同体が引き起こしています。つまり、捕鯨問題の解決は、捕鯨共同体の消滅か目的の変更をもって実現します。

［図：捕鯨共同体］



ニーズが低下し、経済的に不要になった産業が淘汰されていくのが資本主義の原則。捕鯨共同体は、その原則からすればとっくに無くなっているはずの産業です。傘張り屋が消滅し、フロッピーディスクが消滅したと同様、捕鯨産業は消滅していなければいけません。ではなぜ生き残っているのでしょう。

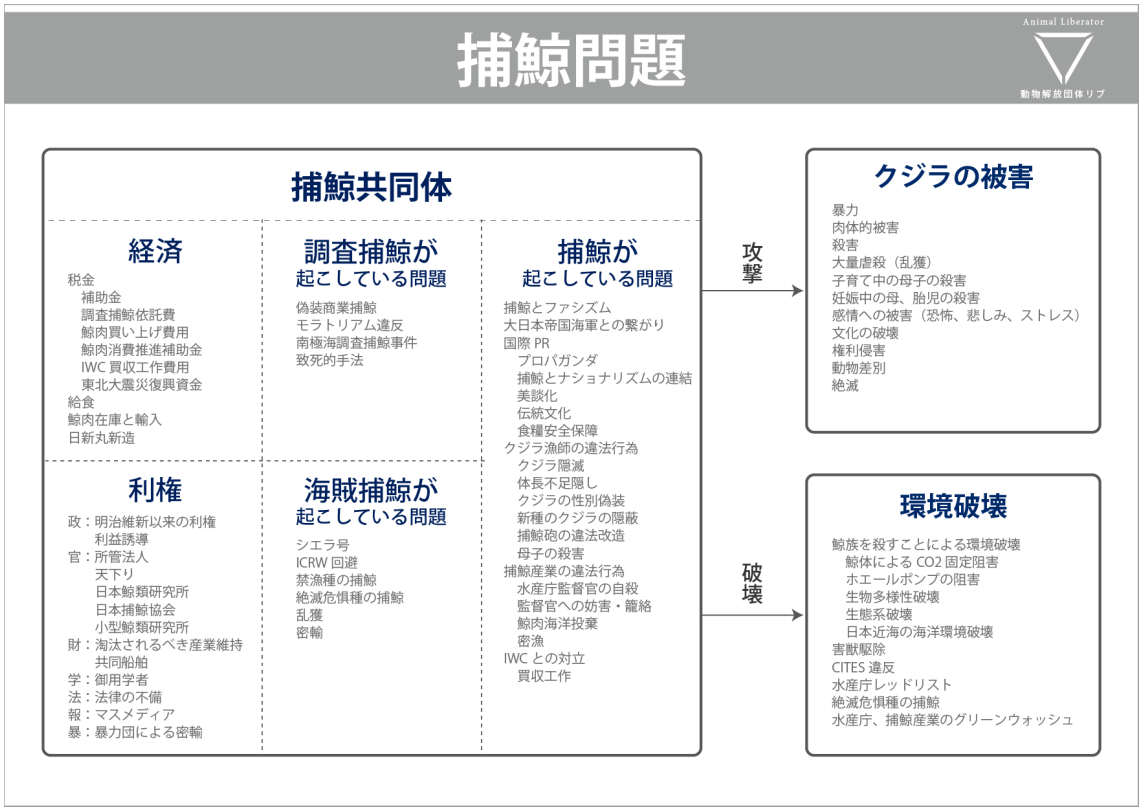
捕鯨共同体は、消滅の危機に抗すべく、
・外国に対しては、嘘を付き、お金をバラ撒き、
・日本国民に対しては、プロパガンダ、ナショナリズム、泣き落とし、歴史改竄など、幻想を見せることによって
生き残りを図っています。

幻想を外してみれば、捕鯨共同体は日本人に多大なデメリットを与えています。捕鯨共同体解体と捕鯨問題の解決は、日本人がいつか必ず実行しなければならないことです。

第二項　捕鯨問題の整理

捕鯨の何が問題なのかよくわからない理由は「問題が多すぎる」から。問題が多岐にわたっており、全体像が整理されていません。以下図に問題点をまとめました。本章はこの図を中心に解説します。

［図：捕鯨問題］



第三項　認識の整理

クジラ保護派と反クジラ保護派の認識、立場や考え方や立場の違いについて分類します。イルカ漁問題や水族館問題とも共通します。

認識①　モノか　動物か

動物とは、意志・感情・感覚がある生命体。

殺す人々は、クジラを人間が自由にして良いモノ、あるいは人間よりもモノに近い生命と考えています。「鯨資源」という言葉には、クジラは人間が自由に利用して良いモノであり、

持続可能な利用のために管理が必要なモノであるという、人間中心主義に基づく根拠なき思い込みが込められています。
しかし、仮にクジラは資源であり人間のモノだという立場に立ったとしても、クジラは人間全体のモノであり、クジラ漁師や共同船舶、日本鯨類研究所やそれらに関わる人々のモノではありません。
［図：モノか　動物か］



一方、アニマリズムに基づき行動する私たちは、クジラは意志、感情、個性を持っている生命体であり、ゆえにそれぞれの人生を生きる権利があり、人間はそれを妨害、搾取するべきではない考えています。

人間は上記図のパラメータのどこかに立っており、それぞれの立場からクジラの処遇に対して意見を述べています。捕鯨関係者や擁護者は左側のどこかに位置し、無関心な人々、判断できない人々は真ん中周辺、私やクジラ保護を求める人々は右側のどこかに位置しています。私は、中間層はもちろん、捕鯨擁護者であってもが正しい知識を身につけ、合理的に判断すれば、右側にシフトすると考えています。

認識②　捕鯨 vs 反捕鯨か、クジラ保護 vs 反クジラ保護か

「反捕鯨」とは捕鯨に反対する人々のことであり、言い換えればクジラを守り保護しようとする人々を指す言葉です。捕鯨共同体は「”反”捕鯨」という言葉の響きを利用し、クジラ保護は悪いことであるかのような印象操作を行っています。捕鯨共同体は、クジラ保護活動家

やクジラ保護国家を「反捕鯨」と呼ぶことによって、捕鯨を擁護する人々にまるで自分達は悪い者を正す正義の人々なのだと錯覚させます。捕鯨擁護者が、熱に浮かされたように熱烈に捕鯨を守ろうとするのは彼らが自分たちを正義を貫徹するヒーローだと見做しているからかもしれません。現実は、捕鯨擁護者が”守らされている”のは、捕鯨共同体の利権です。

しかし、立場が変われば、見え方も変わります。捕鯨とは罪なきクジラたちへの暴力殺害であり、反捕鯨＝捕鯨を止めようとする行為は「クジラ保護」となります。クジラ保護から見ると、捕鯨擁護者は熱狂的に「反クジラ保護」を主張する人々となります。
例えば、捕鯨共同体から見ますと、私は「反捕鯨」であり、自分達は「捕鯨」擁護者と見えるでしょう。私から見ますと、私は「クジラ保護」であり、捕鯨共同体は「反クジラ保護」であると見えます。
［図：クジラ保護 vs 反クジラ保護｜反捕鯨 vs 捕鯨］



第二節　クジラの被害

捕鯨で最も重大な被害を受けているのはもちろんクジラです。ここではクジラが受けている暴力について考えてみます。

第一項　暴力・殺害

古式捕鯨時代から人間はクジラを殺害し続けてきましたが、実際に殺害しているクジラ漁師でさえ、子どもを守ろうとする母クジラや父クジラの姿、クジラの断末魔の咆哮には感情が動いたようです。

母子、胎児の殺害

古式捕鯨時代の親仔鯨を捕獲する方法は以下です。まず泳ぐのが遅く抵抗できない子どもに狙いを定め、半殺しにします。子どもを殺してしまうと、母親は諦めて逃げるからです。しかし半殺しにしておくと、母は子どものもとに泳いできて、前びれで子どもを包むように守ります。クジラ漁師たちは、その母子の愛を利用して母子共々殺していました。
日本ではクジラの殺害数が発表されますが、その中には妊婦がいるため、実際の捕獲数より多くのクジラが殺害されています。例えば、日本の捕鯨船は2017年11月から2018年3月の間に、333名のミンククジラを殺害しましたが、そのうち122名は妊娠していました。つまり、捕獲数の36.6%、三分の一以上が妊婦であり、胎児も数えるとf実際は455名のミンククジラが殺害されていることになります。
［URL：https://youtu.be/0Vcxoxy3o0A］

「生息数は十分にある」 生息数と殺害数を人間に置き換える

水産庁や鯨類学者は「生息数は十分にある」といった言葉を使います。つまり、殺すに十分のクジラが暮らしている、という意味です。
農林水産省は、世界のクジラ個体数をミンククジラ2万513名、ニタリクジラ3万4473名、イワシクジラ3万4718名、としています。
［URL：https://www.maff.go.jp/j/heya/kodomo_sodan/0109/01.html］
ミンククジラは明らかに少ないので、オホーツク海と日本の太平洋側の生息数でしょう。イワシクジラとニタリクジラも北西太平洋の個体数を表しているかもしれません。
令和4年度の捕獲枠は、ミンククジラ110名、ニタリクジラ150名、イワシクジラ25名。
［URL：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/attach/pdf/index-9.pdf］

では、人間で考えてみましょう。クジラの妊娠期間と頻度は人間とさほど変わりません。
ミンククジラの生息数は、北海道釧路町の人口ほど。ニタリクジラの生息数は、高知県香南市の人口ほど。イワシクジラの生息数は、長崎県平戸市の人口ほどです。

ミンククジラで考えてみますと、2万513名のうち毎年110名が殺されます。人間で言いますと、釧路町の市民が毎年110名ずつ殺されていきますが、科学者たちは、その分子どもを産む数が増えるので持続的に殺して大丈夫だと”科学的”なお墨付きを与えています。人口が2万人ちょっとしかいない自治体が、毎年110名殺されていって維持できるでしょうか。しかもそのうちの三分の一、40名近くが妊娠している可能性があります。
人間がどれほど恐ろしく、傲慢で、いい加減なことをしているかわかると思います。
［写真：鮎川捕鯨の外に置かれた鯨の遺体］（2020年11月17日撮影）





第二項　乱獲＝大量虐殺

「乱獲」という言葉は、人間という優越した立場から、クジラを資源と見ている意識に基づいています。例え戦争であったとしても「人間を乱獲した」という表現は適切ではありません。クジラと人間を同等の存在とする立場からすれば、「乱獲」とはすなわち「大量虐殺」です。

捕鯨とは大量虐殺の歴史です。クジラ漁師たちは、捕鯨黎明期から大量にクジラを虐殺し人口減少させ、国内外の規制ができてからも違法に大量虐殺を行い続けました。

日本の捕鯨業の衰退は、IWCや西洋各国の一方的な圧力が責任であるかのように表現されます。しかし歴史を見るに捕鯨会社がある海域から撤退したり、捕鯨業自体から撤退したり、廃業する原因の多くは、捕鯨産業・クジラ漁師自身による捕獲競争、大量虐殺によるものでした。日本の沿岸捕鯨は、業者自身が鯨を殺戮し続けたことにより、自らの手で衰退を招き終焉させています。
日本捕鯨株式会社の取締役であり、太地事業所長、鮎川事業所長、稚内事業所長を兼任された近藤勲氏が書かれた「日本沿岸捕鯨の興亡」（山洋社, 2001-06-01）には、クジラ漁師が大量虐殺を繰り返してきた歴史がそこここに記載されています。その記述を中心に年代順に記載します。

二期：古式捕鯨（1570年頃〜1900年頃）

1789年（江戸時代）

「伊勢湾及び三河湾に廻遊する鯨資源は減少の一途をたどり、寛政末年（一七八九）全く不振となり尾張、三河の捕鯨業は網取式に発展することなく離散した」（P30）

1893年（明治26）

「長崎県で冬季操業を行うも成績不振。1934年の長須鯨6名の捕獲を最後に廃止」（P330）

四期：近代捕鯨 戦後（1945年〜1986年）

1949年（昭和24）

「日本沿岸の抹香鯨の正確な捕獲頭数記録は、昭和二四年までの日本沿岸における捕獲成績（日本捕鯨協会）のみ（中略）昭和二五年以後の実際の捕獲頭数については、神のみぞ知る（後略）」

1961年（昭和36）

「南黄海、東支那海に廻遊する長須鯨は昭和三六年には枯渇しその傷跡は余りにも深く同鯨の廻遊は収束したもののようであった」（P312）

「九州五島沖の捕鯨は（中略）我が国の捕鯨業は資源の持続を考えることなく根こそぎクジラを捕獲する。これは大和民族の特性なのか、ただ濫獲の一語に尽きる。（中略）本海域の

長須鯨資源は昭和三六年の時点において完全に絶滅に等しいものとなったのである」（P331）

1962年（昭和37）

沖縄の捕鯨は1956年ザトウクジラの捕鯨を開始。1960年頃から母船式捕鯨による捕獲過多により加速度的に減少。1962年枯渇し廃業。

1967年（昭和42）

「テルペニエ岬沖の長須鯨資源は昭和四二年には漁期（八月まで）終了直前に枯渇し、また、オホーツク沿岸の地方も同様となり、同年を最後に、紋別を基地とする捕鯨業は昭和二〇年開始以来二三ヶ年にして捕鯨に終止符を打つに至った」（P351）

1968年（昭和43）

「オホーツク沿岸の長須鯨の資源は著しく減少し、翌四三年、同海域は完全に枯渇し、以後同海域の捕鯨基地は廃止された」（P343）

1973年（昭和48）

「かつて北海道道東沖合の抹香鯨資源は塵芥にたとえられる程豊富であったが、この年度をもって同沖合は完全に枯渇し以後北海道の捕鯨は完全に終息し今日に至っている」（P344）

「日本の沿岸捕鯨は北は北海道から南は小笠原の遥か沖合まで、ことごとく捕獲し尽くしたと言っても過言ではない」（P437)

また原剛氏著「ザ・クジラ」（文眞堂, 1993-05-20）では、日本水産(ニッスイ)の図南丸に南氷洋捕鯨の乗組員の話として、

「南氷洋での私の仕事は、会社側の一員として鯨の測定に立会い、監視官（農林省）の目を誤魔化し、未成熟違反鯨を合格させることであった。このような胡麻化しは全体の三分の二にも達していた。

そこに鯨がいるから捕るんだ、と砲手の声が強く、母船の職員はその尻拭いに追われ、厳正であるべき監視官も事実を追認する。それが乱獲の図式である。監視官は専門家であり、未成熟鯨の判別がつかない訳がない。幼稚な胡麻化しが通るのは乱獲が官民一体であった証拠である」

という話を紹介しています。

五期：クジラ保護時代（1986年～）

また大量虐殺に対する捕鯨業界・クジラ漁師の態度は以下のように表現されています。

「捕鯨業従事者にとっては、鯨資源が枯渇あるいは減少が事実であっても、潮流の変化、鯨の餌料不足、水温の変化、沖合に鯨が出た（移動した）、等々を理由に挙げるもので、鯨資源枯渇という言葉そのものが禁句なのである。」（P344）。

「捕鯨業とは元来、乱獲の歴史を繰り返して来た（中略）捕鯨はわずかに約四二〇年の短い年月で、日本沿岸の鯨資源をこれほど完膚なきまでに枯渇させた（中略）筆者にも微々たるものではあるが、責任の一端があったと反省している次第であります。」（日本沿岸捕鯨の興亡 P4）。

捕鯨産業の中核を生きてきた方が、自身の責任を「微々たるもの」と表現されています。捕鯨業界の体質を表しているように思えます。

アメリカは、モラトリアムを提案する以前から世界中で捕鯨の状況を調べていたようです。特に日本の状況は詳細に把握しており、近藤勲氏は「日本の捕鯨の現況を具に得ていたのには、ただ驚くばかり」と書いています。その頃日本の捕鯨産業は盲目的に利益を追求していました。アメリカに鯨族保護に関する先見の明があったと言わざるを得ません。捕鯨推進派は、モラトリアムがIWCやアメリカによる不当な圧力であると主張しますが、もし日本の捕鯨業・クジラ漁師の好き放題にさせておいていたら世界中のクジラを殺害し尽していたかもしれません。

第三項　文化の破壊

動物には固有の文化があります。かつて人間が愚かだった時代、もちろん未来永劫愚かであり続けると思いますが、道具を使えるのは人間だけ、言葉を持つのは人間だけと、人間の優越性を保証しようと試みてきました。「霊長類」という言葉ほど傲慢な言葉はないでしょう。現在では、類人猿、イルカ、鳥、魚などさまざまな動物が、道具を使い、言語や言語を超えたコミュニケーションをしていることがわかってます。
それと同様に文化を持つのは人間だけだという思い込みがありました。これまでみてきたように、ザトウクジラ、シャチ、コビレゴンドウ、バンドウイルカなど、そして哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類などさまざまな動物が、固有の文化を持ち、受け継いでいることがわかっています。
捕鯨共同体やイルカ漁業者、それら産業を支持する人々が、伝統文化の破壊をするなと主張していますが、捕鯨共同体やイルカ業者は、鯨類の文化を破壊し続けてきました。他の文化を破壊してきた帝国は、いつの日か他の破壊者から破壊されます。それが我々人類の歴史から学べることです。

第四項　絶滅

第一目　絶滅について

絶滅とは、一つの種全員が死亡し、地球上から消滅することです。人間で例えれば、人間が1人残らず死亡し、地球上から消滅するということです。

近年絶滅した動物のほとんどを人間が絶滅させたと考えられています。人間が絶滅させた動物は、マンモス、ドードー、モア、フクロオオカミ、フォークランドオオカミ、ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、ニホンアシカ等。1500〜2004年までに784種が絶滅しました。

捕鯨産業華やかなりし頃、捕鯨産業のターゲットは、身体の大きいクジラから小さいクジラへと移ってきました。身体の大きいクジラの方が、1名あたりの利益が大きいからです。例えば、ナガスクジラから取れる遺体は22〜23t、イワシクジラは11〜12t、ミンククジラ3tです。それゆえにクジラ漁師のターゲットは、シロナガスクジラ(24m)→ナガスクジラ(20m)→イワシクジラ(18m)→ザトウクジラ(16m)→ニタリクジラ(13m)→ミンククジラ(5.5m)と移り、次々と絶滅危惧種に追いやってきました。
2020年、絶滅危惧種の一種であるタイセイヨウセミクジラが336名まで減少していることがわかりました。1年で10%も減少。原因は船との衝突や漁具の絡まりなどと推測されています。科学者たちは非常な危機感を持っており、予断を許さない状態になっています。この海域では、日本の水産会社（大洋捕鯨(現マルハニチロ））などが海賊捕鯨を行っていました。

現在日本で母船式沿岸商業捕鯨の捕獲対象種となっているイワシクジラは、IUCNレッドリストで絶滅危惧種EN（Endangered）。パンダやシーラカンスより、絶滅の危険が高いクジラです。しかし、日本の鯨肉を食べる人々の中には「絶滅する前に食べておこう」という人々がいます。ひとつの種を絶滅させることが、地球や動物そして人類全体にとっていかに罪なのか、いかに環境へのインパクトが大きいのか、興味が無く知ろうともせず、自分だけの食欲や利益を優先する人々。私たちは”彼ら”からクジラを守らなければなりません。

一方、水産庁は捕鯨やイルカ漁の捕獲対象種について、捕獲に十分な生息数があるとしています。捕獲枠についてでは「科学的根拠に基づいて算出」としていますが、一方で、日本鯨類研究所が発行している鯨研通信第489号 4ページには「EEZ内のニタリクジラの分布についての情報は十分ではなく」と書いてあり、実際は科学的根拠は薄弱であるということがわかります。

IUCNのレッドリスト(2020)で、鯨族は以下のように分類されています。
レッドリストは次の順番になり、いわゆる絶滅危惧種とは、CR、EN、VUです。
EX（絶滅）
EW（野生絶滅）
——
CR（極めて絶滅に近い）（5種、19亜種or個体群）
ヨウスコウカワイルカ、コガシラネズミイルカ、アフリカウスイロイルカ、タイセイヨウセミクジラ、ライスクジラ

EN（絶滅寸前）（12種、12亜種or個体群）
イワシクジラ、シロナガスクジラ、キタタイヘイヨウセミクジラ、インダスカワイルカ、ガンジスカワイルカ、アマゾンカワイルカ、イラワジカワ、コビトイルカ、カワゴンドウ、ウスイロイルカ、ペリンオウギハクジラ、セッパリイルカ
VU（存続が危ぶまれる）（7種、6亜種or個体群）
——
NT：絶滅危惧種に近い（10種、1亜種or個体群）
LC：低懸念（49種、2亜種or個体群）
DD：データ不足（9種）
［本文参照：第二部 第三章 第二節　IUCN］

個体群絶滅
個体群絶滅とは、一つの種のうちの、一つの個体群が全員死亡し、地球から消滅すること。人間で例えれば、日本人が1人残らず死亡し消滅することです。
ヒゲクジラに関して、ミンククジラのJ-Stock（東シナ海・黄海・日本海系群）の個体数減少が憂慮されています。［本文参照：第一部 第三章 第二節 第二項　ミンククジラ］
小型鯨族に関して、水産庁は、どの個体群にどの程度のダメージを与えているか未知のまま、根拠に乏しい捕獲枠を設定し、イルカ漁を存続させています。和歌山県太地町のイルカ追い込み漁では、捕獲数は徐々に減ってきています。

絶滅と環境への影響
生物学者ブルース・ウォルシュによると、種の保存を行う理由は3つ、遺伝資源、生態系の安定性、倫理です。
生態系ピラミッドの上位にいる鯨族の減少や絶滅は、生態系、生物多様性、種の保存に大きなダメージを与えます。捕鯨やイルカ漁、漁業など人間の捕食行為は、動物の不自然な減少や増加を招き、生物多様性や生態系のバランスを大きく崩しています。
捕鯨共同体や水産庁は、鯨族が魚を取りすぎるから生態系のバランスが崩れている、ゆえに捕鯨やイルカ漁を行った方が生態系にとって良い影響をもたらし、そのことにより魚が増えると主張しています。当たり前に考えれば、生態系が安定していた時代から、バランスを崩した時代の間に生じた新しい要素が、原因と考えられます。その唯一の新しい要素とは人間の海洋進出、海生動物の大量虐殺、環境破壊です。ゆえに捕鯨共同体や水産庁が魚や海生動物を取りすぎるから生態系のバランスを崩れている、ゆえに捕鯨やイルカ漁を中止した方が生態系に良い影響をもたらし、そのことにより魚や海生動物が増えます。
また、離島や熱水噴出孔の生態系など限られた環境で生態系が成立している場合は、その環境の構成員の1種でも絶滅したら、その生態系に破壊的なダメージを与えます。つまり、環境、生物多様性の保全には、すべての動物を殺さない食べないことが最も有効です。

第六の絶滅

現在は、第六の絶滅（完新世絶滅）とも言われています。地球ではこれまで5度の絶滅があったとされ、原因は地殻変動、噴火、隕石など自然災害であったと考えられています。今回6度目の絶滅は私たち人間の増加、生活や欲望が原因であり、人災であると考えられています。今はまだ第六の絶滅の初期段階であり、今後さらなる動植物の絶滅が予想されています。

第二目　対策

国際機関や各国政府、省庁、NGOなどがレッドリストを作成し、啓発活動や保全活動を行なっています。
日本の海生動物保護政策には、
・海生動物を経済資源、搾取対象として扱う水産庁が、保全を担うという、アクセルを踏みながらブレーキを踏むといった、無理のある体制。
・動物の保護よりも、経済的な利益や食欲、文化を優先する価値観。
・世界において日々進化し続けている科学的知見や保護制度の情報が入ってこず、水産庁のいい加減な発表を信じてしまう内向きの社会状況等。
様々な問題があります。
日本ではかつて人間はニホンオオカミを絶滅させ、生態系ピラミッドの頂点捕食者が存在しなくなりました。そのせいで、現在のシカやイノシシ、ニホンザルの増殖を招きました。日本人はこの大きな過ちから学ばなければなりません。
鯨族やあらゆる動物を絶滅から守るために、私たちは知識を付け、生態系や生物多様性、自然環境を守り、自然と人間の真の意味での共生を創造していきましょう。

第三節　捕鯨が起こしている問題

捕鯨に関しては、クジラ保護活動家の違法行為ばかりが取り上げられます。では、捕鯨産業やクジラ漁師の違法行為はあるのでしょうか。また、捕鯨共同体やクジラ漁師は、日本の伝統文化を守り、クジラに感謝し、立派に謙虚に生きており、差別主義者の外国人から不当な圧力を受け、いじめられている、哀れで弱い人々なのでしょうか。歴史から紐解いていきましょう。

第一項　捕鯨とファシズム

大日本帝国の影

海外のクジラ保護を行う人々が日本の捕鯨に見ているのは、ファシズム・国家主義・大日本帝国の影です。

IMMP：International Marine Mammal Projectの以下の記事を読むと、西欧諸国がかつて行ってきた鯨類の大量虐殺を棚に上げて日本を責め立てる文章ですし、間違っている点もあります。しかし、彼らがどのような感覚で日本を見ているかの参考になります。

［URL：Second Issue of Eco: Japan's Shameful Whaling History：https://savedolphins.eii.org/news/second-issue-of-eco-japans-shameful-whaling-history］

鯨類研究の権威であり日本鯨類研究所理事長であった大隈清治氏は、

「日本海軍と鯨または捕鯨とは海という場を共通するので、当然ながら昔から種々の面で深い係りを持っていた」（鯨研通信 第370号 P97）

「日本の捕鯨業は古く鎌倉時代から高速の軍船や鉾の発達と共に技術開発がなされ、わが国独特の多数の捕鯨船の協同操業による突き取り式や網取り式による捕鯨業が発達したが、各藩の領主が捕鯨をおおいに奨励し保護したのは、有事の際には捕鯨船とその乗組員を水軍に動員出来るというメリットを高く評価していたからである。すなわち、わが国の捕鯨と海軍とは昔から密接な関係を有していたのである。近代捕鯨時代に入っても、この関係は同じであった。」（同 P99）

と述べています。

タイムライン

捕鯨五期［本文参照：第四部 第一章 第三節　年表］に準じて記述します。

二期：古式捕鯨（1570年頃～1900年頃）

古式捕鯨時代から、捕鯨は戦争と関係していました。

そもそも古式捕鯨（突取式捕鯨、網取式捕鯨）を始めたのは、水軍であったと言われています。水軍とは海の武士集団、いわゆる海賊であり、実際に荷物の強奪など海賊行為も行っていました。三河で突取り式捕鯨を始めたのは九鬼水軍、熊野で網取式捕鯨を始めたのは熊野水軍、瀬戸内海で捕鯨を始めたのは村上水軍の流れを汲む人々であると伝えられています。

捕鯨産業を有する各藩が捕鯨を奨励した理由は、争いが起こったときに捕鯨産業を水軍として（捕鯨船を軍艦へ、クジラ漁師を戦闘員へ）転用することができるためでした。

三期：近代捕鯨 戦前（1900年頃〜1945年）

［富国強兵］

1868年明治時代に入り古式捕鯨が終焉。1899年ノルウェー式捕鯨を開始し近代捕鯨にシフトしました。

明治政府や軍部と捕鯨産業とは、富国強兵のスローガンの元に、手を取り合い成長してきました。日本軍の進出と共に樺太や千島やアジア各地に捕鯨基地が作られると共に、日本海軍が捕鯨船を守りました。

1904年日露戦争開戦の際には、日本海軍は4隻のロシア捕鯨船を拿捕、捕鯨産業に払い下げました。捕鯨産業は、捕鯨船と捕鯨海域を手に入れ、海軍に護衛されながら捕鯨を行います。これが1905年の大型捕鯨業の開始、捕鯨会社の乱立につながっていきます。3年後の1908年には、捕鯨会社12社、捕鯨船28隻を擁するほど急激に成長しています。

1912年大正時代、捕鯨会社は買収・合併・解散を繰り返しながら発展し、クジラは殺害され続けました。

［大戦前の捕鯨］

1926年昭和期も、政府や軍部と捕鯨共同体は緊密に連携しています。例えば1934年日本で初めて南氷洋捕鯨を行った会社の一つ日本捕鯨株式会社は、現ニッスイ(日本水産株式会社)の関係会社であり、ニッスイは日本産業コンツェルンの一部でした。日本産業コンツェルンは、現在の日産自動車、日立グループ、ENEOSなど多数の大企業と共に、数々の捕鯨会社、捕鯨関連会社、捕鯨船を擁していました。日本産業コンツェルンとは、鮎川義介氏が興した鮎川財閥です。鮎川義介氏は、戦前、岸信介氏とも関係が深く、日本産業の他に満州重工業開発株式会社などを率い、貴族院議員にもなります。戦後GHQに戦犯として逮捕されるも、釈放。後に参議院議員、岸内閣経済最高顧問、帝国石油株式会社社長などを歴任した人物。岸信介氏や笹川良一氏と類似した経歴を辿っています。

1931年初めてのクジラ資源保護を目的とした、国際捕鯨協定が締結されましたが日本は批准しませんでした。1937年国際捕鯨協定を発展させた国際捕鯨取締協定も、国際社会が再三再四加入を求めたにもかかわらず日本は批准していません。この頃から捕鯨共同体は国際協調を軽んじ、自己利益を追求していたことがわかります。

捕鯨産業の発展はめざましく、1934年に初めて南氷洋に進出した4年後の1938年には6船団の母船式捕鯨艦隊が南氷洋に出漁、鯨族を大量虐殺し続けます。当時の日本の南極海捕鯨の目的は、ヨーロッパへ鯨油を販売し外貨を獲得することでした。ナチスドイツにも鯨油を販売していたようです。

［大戦中の捕鯨］
1941年太平洋戦争開戦。1941～1942年に、日本の捕鯨母船6隻はすべて海軍が徴用、数多くの捕鯨船も徴用され、ロジスティクスや改造されて軍艦や潜水母艦として使われました。結局6隻の母船はすべて沈没、捕鯨船67隻が沈没、または行方不明になりました。

四期：近代捕鯨 戦後（1945年～1986年）
［戦後の捕鯨］
南氷洋母船式捕鯨に進出した三大捕鯨会社は、大洋捕鯨株式会社（現マルハニチロ）、日本捕鯨株式会社（現ニッスイ(日本水産株式会社)）、極洋捕鯨株式会社（現極洋）。現在も日本の水産業ランキングでトップ3を占めている会社です。

GHQは、1945年11月3日に近海捕鯨、11月30日に小笠原捕鯨、翌年1946年8月6日に南氷洋捕鯨を許可します。この時、母船はすべて沈没していたため、海軍の輸送艦6隻が改造され、捕鯨産業に提供されています。
戦争など人間に災禍が起こっている時、動物は人間の暴力殺害から一息つきます。南極の鯨たちも戦争の短い期間、平和に生きることができました。しかし戦後直後から三大捕鯨会社とクジラ漁師たちは南極に進出、違法捕獲が横行するも監視官は黙認、官民一体となってクジラを殺害していきます。

このように捕鯨の歴史を見ていきますと、確かに大日本帝国や帝国海軍と捕鯨共同体が深い関係にあったことがわかります。日本の捕鯨を擁護してきた政治家は、岸信介氏や安倍晋三氏に代表されるように国家主義的思想を持つナショナリストです。大日本帝国要人の系譜にある人々と、国際社会に協調せず独創的な主張を繰り返す日本の捕鯨共同体が手を取り合い、海賊捕鯨や擬似調査捕鯨など脱法行為を繰り返してきました。またそれらをサポートしているのは迷彩服を着て街宣車に乗った右翼の人々です。外国人から見れば捕鯨と国家主義やファシズムが一体化しているように見えるでしょう。第二次世界大戦の対立、連合国と枢軸国の不信の関係が、現代の捕鯨につながっているように思えます。
外国人のNGO関係者や学者や活動家は、上記のような歴史を知っています。一方日本人は、自分自身の問題でありながらほとんど知りません。それどころか一部の人々はプロパガンダに乗ってしまいナショナリズムの片棒を担がされ、捕鯨共同体を守る防波堤とされています。普段は特段ナショナリスティックな思想を持たない人までもがこと捕鯨問題に関しては国粋主義的な言動をし、その態度が、外国人の「日本人は捕鯨を通じて大日本帝国的なものに回帰しようとしている」といったイメージを強化する役割を果たしてしまっています。私たちはまず、捕鯨とナショナリズムを冷静に分割して、考え直す必要があります。

第二項　プロパガンダ～国際ピーアール株式会社～

プロパガンダとは、人々の知識や考え方を操作し、仕掛けた人々にとって都合の良い行動を起こさせること。これまで見てきたように、捕鯨共同体は数々の犯罪を犯し、税金を溶かしてきました。にもかかわらず、なぜ日本国民の中には脊髄反射的に捕鯨を賛美し支持する人々がいるのでしょうか。捕鯨を支持する人々は、金太郎飴のように同じ意見を繰り返します。一部日本人の中には捕鯨と愛国が奇妙に結びついている人々がいます。そのような日本人を作り出したプロパガンダについて見ていきます。

第一目　国際ピーアール株式会社

第二次大戦後～1972年までの捕鯨には、日本再興、世界を見返す、捕鯨オリンピックで世界一へといった勇ましい言葉と意識がセットになっていました。
しかし、1972年以降の捕鯨は、アメリカの陰謀・人種差別 ・植民地主義、国際政治の闇、西洋諸国の弱いものいじめ、日本人の伝統文化等々、被害者意識とプライドが混濁した意識がセットとなっています。
なぜこのような劇的な変化が起きたのでしょう。「日本PR年鑑1983創刊号, 日本パブリックリレーションズ協会」などを参考に記述します。

当時の状況

1972年、捕鯨の流れを大きく変える出来事、国連人間環境会議がありました。国連人間環境会議とは、スウェーデンのストックホルムで113カ国が参加して開催された世界初の環境問題に関する国際会議です。この会議で人間環境宣言が採択され、世界各国が連携して環境問題に対処していくことになりました。人間環境会議を記念して、会議開始日である6月5日は環境の日、6月は環境月間となっています。
［URL：人間環境宣言：https://www.env.go.jp/council/21kankyo-k/y210-02/ref_03.pdf］
この会議ではさまざまな環境問題が扱われましたが、その一つがクジラ保護でした。日本政府・捕鯨共同体は、国際的にクジラ保護が推進され、モラトリアムが実現してしまうのではないかと危機感を募らせていました。
1974年1月、日本捕鯨協会に「捕鯨問題対策協議会」が設立されます。大洋漁業、日本水産、極洋、日本捕鯨、日東捕鯨といった捕鯨会社からスタッフが参加しました。そして国際ピーアール株式会社は、日本捕鯨協会に、クジラ保護NGOの動向を鑑みたPR活動の必要性を指摘しPR活動を企画提案。3月両者が契約を結びます。

国際ピーアール株式会社

国際ピーアール株式会社（International Public Relations Co.,Ltd.）、別名IPR、国際PR。
1959(昭和34)年3月小原康治氏が創業したPR専門のコンサルタント会社です。当時の住所は東京都港区新橋2-1-3。1983年時点で、資本金1億円、国内スタッフ146名（PRコンサルタント部門84人、調査部門23人、制作部門13人、管理部門他26人）、海外支店（ニューヨーク、

ロンドン、バンクーバー他?）、世界110都市をカバーする国際ネットワークを持っていました。

キーマン

梅崎義人

1970年国際ピーアール入社、捕鯨協会のPRコンサルタント業務を行う。時事通信記者、水産ジャーナリストの会会長を務める。著書に『クジラと陰謀』『動物保護運動の虚像』。1983年(昭和53)版『日本ＰＲ年鑑』に「捕鯨問題に関する国内世論の喚起」を寄稿。

米澤邦男

1970年水産庁入庁、海洋漁業部審議官、水産庁審議官を経て、水産庁次長としてIWCコミッショナー、北西大西洋漁業委員会、南極海洋生物資源保存委員会等を務め、天下り。1982年日本水産株式会社に常務として入社・副社長を務める。任意団体海の幸に感謝する会、一般社団法人日本トロール底魚協会会長、一般社団法人自然資源保全協会、捕鯨を守る会会長。

プロパガンダの始まり

1974年、国際PRは、アメリカ、UK、カナダでPR活動を開始しますが失敗。1年ほどで撤退します。1976年日本共同捕鯨が設立（各捕鯨会社と捕鯨部門を統合）「以降のPR活動は、捕鯨協会の名のもとに、実質的には共同捕鯨によって実施されることになった」（P143）とされています。

共同船舶と国際PRは日本国内の世論固めに乗り出します。世論工作は、二つの戦術を中心に行われます。

①論説委員を捕鯨推進に転向させる。

②捕鯨問題懇談会を設立（1977年）。オピニオンリーダーの発掘、養成、グループ化。

この方針は大成功し、各新聞社の論説は軒並み捕鯨推進に、捕鯨問題懇談会のメンバーは自ら捕鯨推進のリーダーの役割を果たしていきます。

米澤氏は「捕鯨禁止案は、アメリカはベトナム戦争の批判を交わすため、世論操作を意図して持ち出したもの」という説を採用。しかしアメリカにその意図がなかったことは公文書から明らかでした。また日本側は、会議以前から、捕鯨禁止案が提出されることを掴んでおりその対策もしていました。つまり、もし米澤氏が上記の説を本当に信じていたら個人的な思い込み、もし作為的にこの説を述べていたら世論操作を意図した虚言となります。

米澤氏の論を軸に、梅澤氏は広くプロパガンダ、広報戦略を行っていきます。彼らは、また政治家や学者、著名人へのブリーフィングを行いました。彼らは造作無く手のひらの上に乗り、創作されたストーリーの広告塔として、意識的・無意識的にプロパガンダに協力し、書籍や新聞、テレビを通じて、捕鯨プロパガンダを拡張強化することに成功しました。例えば、2002年9月TBSで放送された『捕鯨論争！大国と闘った男たち』には、このアメリカ捕

鯨陰謀説の根拠とされる文書が画面に映されナレーターが内容を語っています。しかしその文書にはにナレーターが語っているような文章は一言もありませんでした。こうしていつしか日本人は捕鯨と愛国を一体化して認識するようになっていきます。

この捕鯨と愛国の一体化を強化したのは、不幸にもイルカやクジラを守ろうとする海外団体や外国人活動家でした。捕鯨漁業者やイルカ漁業者に対する侮辱的で暴力的な行動や態度は、第二次世界大戦前の西欧諸国の植民地主義による危機感を想起させ、戦後の米国による日本支配に対する不満・不信感と結びつき、捕鯨擁護は、侵略への抵抗、国威発揚の象徴となりました。

プロパガンダには、アメリカの陰謀、人種差別 、伝統文化などのキーワードが散りばめられており、捕鯨擁護を行う人々にはある種の熱狂と悲壮感が漂っています。少数のエリートが自らの利権を維持しようとするために仕掛けたプロパガンダが、多くの人をコントロールし意識や人格、人生にまで影響を与え、日本人同士の対立を煽っています。

プロパガンダ開始から50年経った2022年現在でもその効果はも有効です。プロパガンダを受け入れた人々は自らの捕鯨に関する価値観がどのように構成されてきたか理解しないまま捕鯨を擁護するようになっています。例えばYouTubeの動画制作者が、捕鯨に関する日本国の優越を表現した愛国的な動画を制作しています。彼らはプロパガンダを再生産し、無償の広告塔の役割を果たしています。

もちろん右派・愛国者すべてが、捕鯨擁護者というわけではなく、捕鯨に反対している人々もいます。捕鯨プロパガンダを知り、捕鯨や捕鯨共同体の実態について学び、真の国益は何か真剣に考えれば、当然反捕鯨を選択するでしょう。

捕鯨共同体は、アメリカが卑怯で姑息な手で陰謀を仕掛け、世論操作を行い人々を洗脳したと主張しました。しかし捕鯨問題を持ち出してベトナム戦争という巨大な問題への批判を交わそうと考えるほどアメリカは愚かではありません。事実は、卑怯で姑息な手で陰謀を仕掛け世論操作を行い人々を洗脳したのは捕鯨共同体自身でした。そして愚かだったのは、捕鯨問題を持ち出してベトナム戦争という巨大な問題への批判を交わそうとアメリカは考えるだろうと考える人々でした。

人間環境宣言には「植民地主義者及び人種差別主義者による支配のため立案された計画は放棄されなければならない」という一文があります。世界が時代と価値観を前進させようと決意し一歩を踏み出したとき、日本人は捕鯨共同体とPRコンサルタントの仕掛けによって蒙昧の沼に引き摺り込まれ、未だ喘いでいます。少し上を見てみれば沼の外にいる人々が手を差し伸べていることに気づくでしょう。

第二目　ナショナリズムの使い方

「人々を扇動したいときはナショナリズムを使え。」権力者が目的や欲望を達するために、人々を一つの方向に向かわせたい時に利用してきたのがナショナリズムです。

洗脳者が人の意識を閉じ込め操作する方法は、いつの世も同じです。
「恐怖を与え、解決法を与える」
恐怖とは、死後の審判や地獄、多民族や国家、うちの子じゃない等。解決法は、こうすればあなたは救われる、お金を払えば地獄を回避できる、多民族や国家を殲滅すれば脅威は無くなる、本当はうちの子だよ等。この手法は、宗教、政治、子育て等々、何千年もの間使われてきましたが、未だに非常によく効きく手法です。
ナショナリズム・愛国心を喚起するプロパガンダにも、同様の手法が使われます。方法は、
・外部に敵を作る
・恐怖を煽り、怒り・防衛本能・プライドを喚起する
・人々の優越性を確信させるストーリーを創作する
・問題を与え、解決法を与える
・外国を貶め、自国を上げる
・基準を作って、その基準で評価する
・歴史を自国有利に改竄する
・敵と設定した他国・多民族を悪魔化する
等々があります。プロパガンダによるナショナリズムや愛国心に埋没している人々は、怒り、過剰なプライドを持ち、信念に殉じようとする宗教的な雰囲気を醸し出していることがあります。
このプロパガンダの問題は、誰かが創作したストーリーによって、現実に対立や有形無形の暴力、戦争を引き起こし多くの人が死んでいくということです。捕鯨に関しても、同様のプロパガンダが行われています。そのことによって人は死にませんが、クジラたちが殺されています。以下にプロパガンダの例を挙げます。

第三目　プロパガンダの例

古式捕鯨時代、日本の海域にアメリカ捕鯨艦隊が侵入、大量虐殺したため鯨資源が枯渇した
ここでの仮想敵国はアメリカです。先の大戦に関してアメリカを敵視している人々にとって、この観点は訴求力があります。主張には2つの意図があるでしょう。
一つは、米国が日本の海域に入り込みクジラを大量捕獲したことにより、日本人のものであるはずのクジラを奪われたと主張する意図です。しかしそもそもクジラは、日本国家やアメリカ国家のものではありませんし、人間のものではありません。
もう一つの意図は、クジラの枯渇はアメリカの強欲が招いたとし、日本人捕鯨者の罪を回避しようとする意図。しかし、アメリカが捕鯨を行なった海域は、日本人自身がすでにクジラを大量に捕獲殺害していた場所でした。また、日本人の強欲と鯨族に対する罪は、アメリカ

人のそれと変わりません。また、1977年以前200海里漁業水域が定められる前は、日本人漁業者は世界各国の海に侵入し魚等を乱獲、世界的な問題を起こしていました。

第二次世界大戦後、日本は見事復興を果たし、捕鯨オリンピックで世界一になった

世界一という称号は、プライドを喚起します。しかし、日本が捕鯨オリンピックで世界一になったのは、捕鯨が世界的に衰退に向かっている時期のことです。エネルギー革命などにより、捕鯨と鯨油生産のコストが合わなくなり、アメリカや西洋諸国は捕鯨から撤退していきました。日本はこれを好機とし、競合が去った海でクジラを大量虐殺しました。日本は、この括弧付きの世界一の称号を、第二次世界大戦で失った国家の尊厳や愛国心を喚起するために利用しました。

アメリカが捕鯨に対するの批判を開始したのは、ベトナム戦争に対する批判をかわすためだった

先にも触れましたがもう少し詳細に触れます。ベトナム戦争は1955年11月1日～1975年4月30日まで行われましたが、そのうち1961年8月～1971年1月7日まで枯葉剤作戦（ランチハンド作戦）が実行されました。激しい環境破壊や健康被害をもたらしているアメリカに対して批判が高まりました。アメリカは批判の矛先を日本に向けるためクジラの保護を訴えたというものです。

この見方について、「ザ・クジラ」の中で筆者の原剛氏が、アメリカ代表であり大統領環境問題諮問委員であったラッセル・トレイン氏に質問状を出しています。トレイン氏はこの疑問に対して、アメリカがクジラ保護を訴えたとしてもベトナム戦争に対する批判は続けられたし、国際連合人間環境会議が終了してもアメリカは引き続きクジラ保護に取り組んでいる、この疑問は全然根拠がなく奇妙な考えであると、否定しています。

また1972年3月の時点で国連では既に商業捕鯨モラトリアムが検討されており、日本政府も把握しており対応を協議していました。しかし日本政府水産庁や捕鯨共同体は、日本へ「突然、捕鯨問題が俎上に上がった」と伝えました。

食糧安全保障

捕鯨を続ける根拠として、捕鯨産業を維持し続けておけば、食糧危機に陥ったときにクジラを捕獲し食料とすることによって対応できる、といという主張がなされます。

・第二次世界大戦日本敗戦後、GHQ（実際はアメリカ。UK、ノルウェー、オーストラリア、ニュージーランドは反対したが、アメリカが押し切った）が南氷洋捕鯨を許可し、日本の食糧難が軽減されたという経験があることが、この考え方の根幹にあるのかもしれません。しかし、いつ来るかわからない食糧危機に備え、税金を食い続ける捕鯨共同体を生かし、一時的で限られた食糧の確保にしかならない捕鯨を続けるよりも、その数十億円を使って農業技術の開発発展を促進すれば、恒久的な食糧安全保障につながります。

・食糧安全保障の観点からであれば、まずは主食である米、そして小麦や大豆など主要農産物の食料自給率を上げる政策を優先し、税金を投入するべきでしょう。

・食糧危機に陥るほどの状況になったときに、捕鯨から得られる鯨肉で1億人を超える国民の食は賄えません。また捕鯨に割く燃料があったら、もっと効率の良い農業に使う方が合理的です。

本当の目的はマグロ漁業を守ること

水産庁が、国内外の反対を押し切ってまでも捕鯨を続ける本当の理由は、マグロ漁業を守ろうとしているためだと言われています。捕鯨の牙城が崩れたら、次は絶滅に近づきつつあるマグロ漁業のモラトリアムあるいは禁止に踏み切られる恐れがあるから、というものです。また漁業そのものに対する、持続可能性や環境破壊、動物の権利の観点からの批判も高まっており、日本の漁業権防衛の第一障壁としての捕鯨をなんとしても守ろうとしているとも考えられます。いずれにせよ、人間はマグロや魚類を食べなくても生きていけます。つまり嗜好品であり、娯楽の領域です。私たち人類は、動物の尊厳や権利を考え、水生生物に対する暴力や殺害を止めるべきです。

第四目　本当の愛国

捕鯨共同体に関係する人々や捕鯨を擁護する人々は、本当に愛国者なのでしょうか。自分は愛国者である、と言うのは誰でも言えます。重要なのはその人の態度や行動が、日本国のため、日本人のためになっているかどうかです。

これまで見てきた通り、またこれから見ていく通り、捕鯨産業が日本国のためになっているとは言えません。自らの利益と立場を守るために、日本国民にプロパガンダを仕掛け、お金を払わせる人々は、愛国者とは言えないでしょう。日本人の愛国心を自己利益に利用することや、日本国に道を誤らせる行為は許されることではありません。

捕鯨から利益を得ている人々や、昔の栄光にすがる人々が、夢よ再びとばかりに捕鯨を推進しています。一方、若い人々はクジラ、ましてやイルカは食べず、捕鯨から得られる利益もありません。しかしながらプロパガンダに騙され、捕鯨共同体の一翼を担わされています。一部人々の夢見がちな欲望に社会全体が迷惑を被り、若者が搾取される構造がここにもあります。

また、一部愛国者の中には、愛国者であるというアイデンティティを維持するため、あるいは自己承認欲求のために、捕鯨やイルカ漁を支持している人がいるように見えます。彼らが捕鯨を支持する根拠は空気とストーリー。つまり、空気とストーリーを変えることが活動における重要な点となります。

国策ゆえに、国益から考える

日本の捕鯨は、官製捕鯨と言われるほど、官僚が関わっている国家的事業です。しかし、国家として考えるならば、国民全体の利益を考えるべきです。

これまで見てきた通り、捕鯨は捕鯨共同体にのみ利益があり、ほとんどの日本国民には利益になっていません。それどころか、捕鯨やイルカ漁は日本人にとっても日本国家にとって

も、さまざまなデメリットを及ぼしています。つまり、水産庁の省益や捕鯨共同体の利益を守るために、国益を損なっています。例えば外務省には、日本は捕鯨によって外交的に不利な状況を被らされていると考えている人がいます。2008年11月当時外務省参与だった谷口智彦氏が最も恐れていたのは、立場上捕鯨を擁護しなければならなかったことだったそうです。谷口氏は「日本がその立場（捕鯨推進）に固執する意味がない」「日本は捕鯨産業に国益を持っていない」と発言しています。

ナショナリズムには利用される者と、利用する者がいると言われます。利用される者は、意図的に作られた優越感や仲間意識によって、孤独を癒され承認欲求を満たされ、高揚感と優越感に酔いしれます。一方、利用するものは、利用される者を操作し、有形無形の利益を得ます。ナショナリズムの利用は昔から続くありきたりの手法ですが、未だによく効きますし、これからも効き続けるでしょう。ナショナリズムを利用する手法や構造や効果を学び、自分はいつでも利用され得る存在であると自己覚知し、意識的に生きない限り、いつの間にか操作されてしまいます。
“愛国者”たちが、太地町でのイルカ保護活動にカウンターを仕掛け、活動家たちのすぐ横でイルカ肉のバーベキューをしたそうです。しかし、彼らの多くがイルカ肉は不味くて食べられなかったといいます。理想と現実は違うことの暗喩に思えます。
捕鯨と愛国の関係は、変化の時を迎えています。遅きに失しているとも言えますが、いずれにせよ遅かれ早かれ必ず変化せざるを得ません。なぜなら、幻想よりも現実の方が強いからです。であれば、現実を知り変化するのに早いに越したことはありません。

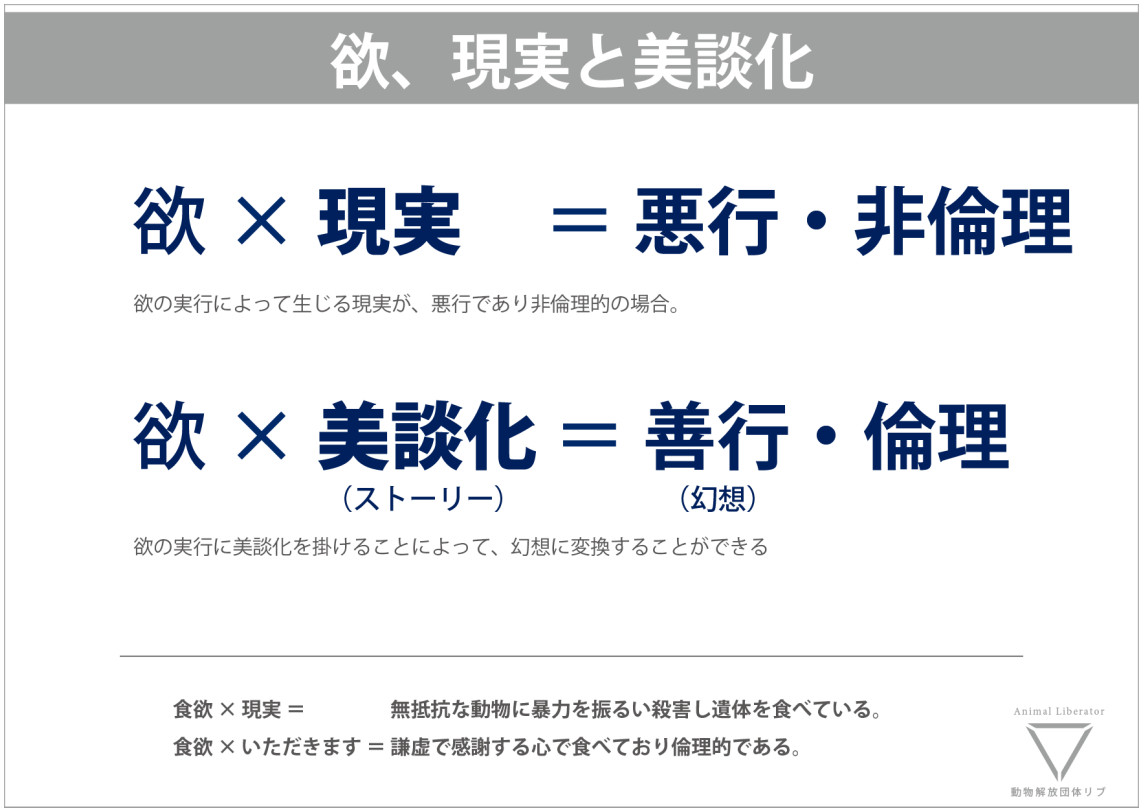
第三項　美談化

美談化とは、非倫理的な行いを、倫理的に見せかけようとする表現のことです。美談力とは、美談化を行う力です。
自分の行為は倫理的であるとアピールしたい、せざるを得ないという人間の習性は、興味深いものです。美談化は、悪徳や非倫理行為、剥き出しの欲の生々しさ、暴力性、加害性を隠したいという気持ち、また非倫理的行為を行っている意識的無意識的な羞恥心から目を背けるために利用されます。自己防衛であり、認知的不協和解消の試みです。
他者に害を与えてまで個人の欲を充足させる行為は、世間に対しても、自分自身に対しても隠す必要があります。欲を満たす過程で生じる非倫理性を糊塗し罪悪感を消滅させる心地よいストーリーを捏造します。逆に言いますと、そこまでしてでも倫理を装わないと精神的に耐え難いということであり、人間の本性をますます興味深く感じます。

無垢の動物への暴力・殺害は悪である。誰もが直感的にわかっています。しかし、その悪を隠すために、ありとあらゆる詭弁や誤魔化し、証拠の提出、論点のすり替えを用い、悪ではないという証明を試みます。これが集団的に行われているのが現代社会です。

動物を搾取殺害する人々はそれぞれ、自らの行為を正当化する美談、ストーリーを持っています。生活のためにはしょうがない、親から継いだ商売だ、弱肉強食、動物は人間に利用されるために存在している、神が動物を利用しろ言った、などなど。「直接殺す人々」と「意識的に間接的に殺す人々」が美談化を行い、「無意識的に間接的に殺す人々」が与えられた美談に基づき消費行動を行います。
美談化は、心理療法で使用されるリフレーミングと似ており、言語、キャッチコピー、写真、イラスト、動画等を用いて行われます。美談化を見抜けない人は、同様の欲がある人。美談化を見抜ける人は、そこに対して欲がない人です。欲に目が眩むとはよく言ったものです。

［図：欲、現実と美談化］



欲の実行によって生じる現実が悪行であり非倫理的であったとしても、欲の実行に美談化を施すことによっていかようにも善行に見せ倫理的であるかのように装うことができます。捕鯨にもさまざまな美談、ストーリーが与えられています。しかし、美談を排したのち残っているのは、日本人はクジラやイルカを襲い、暴力と苦痛を与え、殺害し続けているという現実です。
私が行っているのは、皆さんの頭の中に埋め込まれた美談を一つ一つ取り除く作業でもあります。

第一目　クジラ漁師の美談化

日本においてクジラ漁師はさまざまな表現で美化されます。例えばNHKスペシャルでは、クジラ漁師は謙虚で、努力家で、感謝を忘れない、素朴なハンターだと描かれます。

［URL：NHKスペシャル 鯨獲りの海：https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/blog/bl/pneAjJR3gn/bp/pXjBQNrYLX/］

しかし、クジラ漁師たちは様々な違法行為を起こしてきました。

またクジラ漁師は、外国の圧力や差別に押しつぶされそうな弱者として描かれます。しかしクジラ漁師は最新鋭の船やドローン、爆薬を使った強力な捕鯨砲でなすすべもないクジラを殺しています。本当の弱者はクジラであり、クジラ漁師は明らかに強者です。

日本沿岸捕鯨の興亡P349にはこう書いてあります。

「初回の発砲で捕獲した場合は「一発でヤラセタ」、または「一発でヤッタ」という。また一発で致死させることを「パンコロ」と称した。」

「パンコロ」のパンとは 、パンパン、パン助のことであり、第二次対戦後の進駐軍兵士相手の売春婦を指しています。「コロ」はコロッと死ぬの意味。クジラを人間の女性に例えた下卑た冗談であり、女性蔑視、差別意識が見えます。

クジラ漁師全員がそのような人々であるとは思っていませんが、中にはそういう人物がいるのは確実です。そういった事実に触れないまま、ただただクジラ漁師を美化し、捕鯨を正当化するプロパガンダはフェアではありません。

第二目　伝統文化の美談化

伝統文化の仕分け

捕鯨は本当に伝統文化でしょうか。捕鯨共同体のプロパガンダは脇に置き、伝統文化の部分と、伝統文化ではない部分の仕分けをしてみましょう。

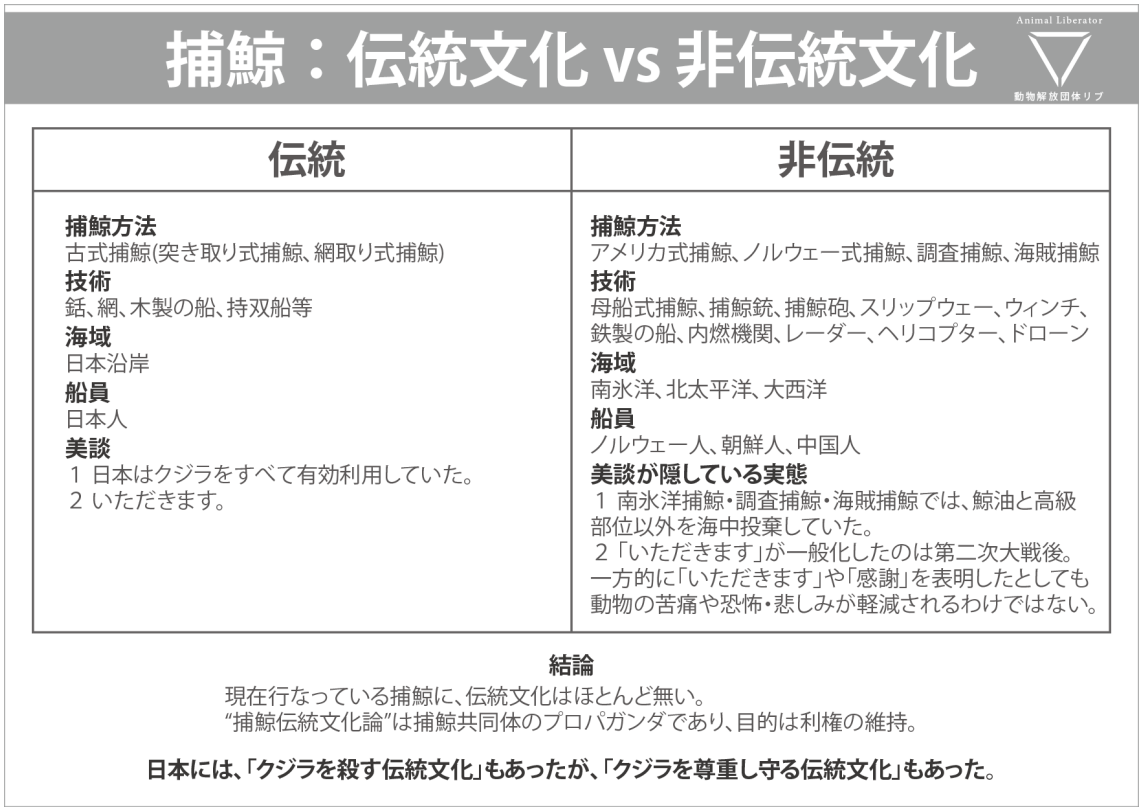
［伝統文化の部分］

・突き取り式捕鯨（1570年から始まる）
・網捕式捕鯨
・日本はクジラをすべて有効利用していた（部分的に虚偽）
・日本各地にはクジラを補殺せず尊重する伝統文化があった

［伝統文化ではない部分］

・アメリカ式捕鯨の導入
・ノルウェー式捕鯨の導入
　捕鯨砲の導入
　船員は日本人のほかノルウェー人、朝鮮人、中国人等々、多国籍操業であった
・母船式捕鯨（解体工場を持つ船）
・南氷洋捕鯨
・南氷洋捕鯨では、鯨油以外ほとんどを海中投棄していた

・内燃機関、高性能エンジン
・さまざまな技術、レーダー、ドローン、ウィンチ等々
［図：捕鯨：伝統文化 vs 非伝統文化］



つまり現在行われている捕鯨に使われている技術は外国が作ったのものであり、日本の伝統文化と言われるものはほとんど残っていません。南氷洋捕鯨や遠洋捕鯨、調査捕鯨に関しては、伝統文化ではまったくありません。
鯨研通信第322号（1979年1月）では、NHKが放送したテレビ番組「鯨、その文明と文化」が、「文明と文化の差を論じ、日本の捕鯨には文明はあるが文化はなく、 漁業の体質を考え直せと論じている」と「捕鯨そのものを痛烈に批判している」と紹介されています。プロパガンダ前夜、マスメディアは客観的で合理的な批判を行っていたことがわかります。

では、よくみられる伝統文化に関する主張のいくつかを見ていきましょう。
日本には6000年前から捕鯨を行ってきた痕跡があり、日本人にとって捕鯨と鯨肉食は、連綿と続く誇るべき文化である。
日本捕鯨株式会社取締役であった近藤勲氏が「日本沿岸捕鯨の興亡」の中で、縄文時代に捕鯨が行われていたという説、神武天皇（皇紀元年(西暦紀元前660年)即位した初代天皇であるとされる）が東征した時代に捕鯨が行われていたとする説、古事記(712)、万葉集(7〜8世紀)時代に捕鯨が行われたという説は誤りであり、1570年頃の三河国内海（現愛知県知多郡）で行われた突き取り式捕鯨が最初であろうと、漁具や捕鯨船の発展の観点などから詳細に分析しています。

歴史が古いほうがより権威が高まるという発想があり、どちらが古いか競争が行われがちです。しかし、その頃の日本列島に日本国家は存在せず、さらには日本という言葉すらありませんでした。また、日本人という単一民族が存在し続けているように表現されることがありますが、最初期から日本列島に居住していた人々に加え、アジア各地から日本列島にさまざまな民族が移り住んできていました。長い歴史の中で、数多くの渡来人、民族が日本に渡り混血し、国民国家の概念が輸入され”日本人”となりました。

日本の捕鯨は400年前から続いている伝統文化である。

捕鯨という形は続いていますが、内実は変質しています。古式捕鯨が日本独自の伝統文化なのは間違いありませんが、1900年頃近代捕鯨（ノルウェー式捕鯨）を導入し、古式捕鯨を捨て去りました。現在日本で行われている捕鯨は、日本の伝統捕鯨ではなく、ノルウェーの捕鯨です。

日本は古式捕鯨からの伝統文化を引き継ぎ、南氷洋捕鯨に進出した。

古式捕鯨船は南氷洋に進出できません。伝統文化を捨て、西洋の技術に乗り換えることにより南氷洋に進出できたのです。これまで日本の捕鯨業者は様々な伝統文化を捨ててきました。手法でいえば、突き取り式捕鯨や網取り式捕鯨を捨て、ノルウェー式捕鯨へ。装飾が施された手漕ぎ捕鯨船を捨て、ディーゼルエンジンを積んだ巨大な鉄製の船へ。日本人だけで行っていた捕鯨は、ノルウェー人が船長や砲手を務め、韓国人や中国人がそのサポートをする多国籍な捕鯨へと乗り換えました。

西洋諸国は、鯨油のみを採集し、クジラの他の部分は捨てていた。一方、日本人は余すところなく利用していた。

・西洋諸国の捕鯨船員たちも、クジラ肉を食べていました。また、ノルウェーやアイスランドにも鯨肉食文化があります。

・1911年、鮫村（現青森県八戸市）にあった東洋捕鯨株式会社は、腐敗した血や油などを投棄していました。港を汚染させ、地元民と対立していました（後述）。

・「名人と讃えられた和歌山県太地町出身の砲手は、その頃 (1964年頃)の南氷洋の状態を証言する。「あのオリンピック捕鯨はやり過ぎだった。取り過ぎたと思う。獲れて母船が処理できずに捨てたこともある。肉もいいところだけとってあとは海に捨てたものだ。」（ザ・クジラ P122）

・共同船舶の元乗組員が、南氷洋調査捕鯨のため日新丸で捕鯨を行った際「解体後の鯨肉を海洋投棄したことが多々ある。」と証言。

・戦後、捕鯨業界が、GHQに南氷洋捕鯨の許可を得る際、捕鯨に関する国際条約を遵守することとともに、鯨肉を持ち帰って食用にすると約束しています。つまり鯨肉を捨てていたと推察されます。

東洋捕鯨など日本の捕鯨会社が行っていた海賊捕鯨でも、高級部位以外の鯨肉などを海洋投棄していました。海賊捕鯨船には、鯨の解体や冷凍を指示するために日本人の捕鯨関係者が複数乗っており、鯨肉はすべて日本向けに輸出されました。つまり、海洋投棄を支持したのは日本人と考えるのが自然です。
また、そもそも問題はクジラを残さず使うか使わないかではありません。クジラに暴力を振るい殺すこと自体が問題なのです。仮にそれが人間だったら。人間を殺してその遺体を残さず使うことは良いことでしょうか。人間を殺すこと自体が問題です。

淘汰される伝統文化
伝統文化だからといってすべてが素晴らしいものとは限りません。文化の中には、弱者に暴力を振るい、殺害し、あるいは一生を不遇のうちに生きさせる伝統文化もありました。人柱やクマリ、おじさおばさ、纏足、女性器切除（FGM）、奴隷など。社会の発展進化と共に、伝統文化のうち他者の尊厳や権利や生存を犯すものは禁止されてきました。今後その流れは動物に波及するでしょう。

伝統文化は、常に変化します。強者の利益が許される錦の御旗ではありません。日本の伝統文化を主張する人々が、天武天皇から続く肉食禁忌文化を無視し、ハンバーガーを食べ、牛乳を飲みながら、捕鯨やイルカを殺害する伝統文化を守るのが日本人であると主張するのは、自分が好む価値観のみをつまみ食いする日和見的な態度であり、一貫性がありません。伝統文化のうち動物を含む他者の尊厳を破壊するものは、遅かれ早かれ止めることになります。

第三目　搾取の美談化

いただきます
いただきますは、日本特有の美しい言葉であると考えられています。自分を生かしてくれる対象に、謙虚に感謝を伝える言葉と考えられてきました。
しかしクジラや動物は、人間が自分を殺して肉体を食べることを許していません。その証拠に、殺される時は逃げようとしあるいは対抗しようとし、殺されそうな仲間や子どもを、守ろうとします。動物たちは、人間から死に至るまで暴力を受け、苛烈な痛みを感じ、殺される悲しみを感じ、死んでいきます。あなたの感謝は、動物に受け入れられているでしょうか。さらに意志も感情も自由も尊厳も踏み躙られこの世から消された後、供養祭などが行われ、自分を殺した張本人たちから神妙な様子で感謝を伝えられます。

これを”あなた”に置き換えてみましょう。
あなたは、誰かがあなたに暴力を振るい、殺して、あなたの肉体を食べることを許していません。あなたは殺されそうになり、必死に逃げようとしは対抗しようとします。あなたは捕まってしまい、死に至る暴力を受け、殺される恐怖と信じがたい痛みを感じ、死んでいきま

す。あなたが意志や感情や自由や尊厳を踏み躙られた後、自分を殺した人々はあなたに「いただきます」と感謝を伝え、あなたの肉体や内臓や目や耳を貪り食べます。
あなたにとって「いただきます」は美しい言葉でしょうか。

感謝、ありがとう

感謝やありがとうもいただきますと同様、一方的な罪悪感の軽減に使われる言葉です。これも置き換えて考えてみましょう。
あなたは監禁され、暴力を振るわれ、苦痛を与えられ、無惨に殺されました。あなたはあなたを殺した人々から「ありがとう」と感謝を伝えられます。あなたの死体に向かって感謝を伝える人々は頭がおかしいに違いありません。
他人に起こったこととして考えてみましょう。AさんがBさんを監禁し、苦しみを与え、殺しました。Aさんは、Bさんに感謝を伝え「ありがとう」と言いました。Aさんは良い人だ、となるでしょうか。
それが、人間が行っていることです。
感謝やありがとうの使い方は、人間と動物で異なります。それこそが動物差別です。私たちはその差別意識を顕在意識に昇らせ、向き合い、解消していかなければなりません。

バレニンちゃん

キャラクターは美談化によく使われるアイテムです。
日本捕鯨協会のキャラクター、バレニンちゃんはヒゲクジラを模しています。バレニンちゃんの語尾は、「〇〇だニン」で統一されています。ヒゲクジラを使って、ヒゲクジラ自身の遺体の販促、消費喚起を行わせています。まるでヒゲクジラ自身もそれを望んでいるかのように、消費者を誘導することができます。
同様に動物産業の美談化によって、消費者は、ウシやブタやニワトリたちが自分の遺体を食べられたがっていると信じています。
［URL：https://twitter.com/Baleninechan］

第四項　クジラ漁師・捕鯨産業の違法行為

クジラ漁師・捕鯨産業はこれまで数え切れないほどの犯罪を犯してきました。国際捕鯨取締条約や日本の国内法など、のべつ幕なしに違反しています。この項は［近藤勲. 日本沿岸捕鯨の興亡, 山洋社, 2001］からの参照を中心に記述します。

クジラ隠滅

クジラ隠滅とは、捕獲したクジラを隠すこと。捕鯨会社・クジラ漁師が実際に捕獲したクジラの数を正しく報告せず、過小報告することです。マッコウクジラの隠滅が始まったのは1950年から。ひどい時は、報告した数の3.3倍以上を大量虐殺していたそうです。（P339）

体長不足隠し

1950年当時マッコウクジラの捕獲制限体長は10.52m。捕獲したクジラの40%以上が体長制限以下でした。これはICRW 第五条（d）各種類についての大きさの制限、（g）測定方法、（h）捕獲報告並びに他の統計的及び生物学的記録 違反です。

水産庁の監督官が不在のときは虚偽報告は簡単でしたが、いるときはなんとかして誤魔化す必要がありました。そこで、クジラの体長を測る時、巻尺を短くしようと様々な手を使いました。巻尺の一部を袖の中にたくし込んで短くする、背中側に回して短くするなどです。違法行為をを取り締まるべき水産庁監督官の中にはグルになっている人もいました。すなわち、誤魔化しをしていると気づいていながら消極的に黙認する、積極的に黙認し適法であると認めるなどです。監督官は捕鯨会社の接待を受けるなどしていました。

これはICRW 第九条１、２、３、４すべてに違反しています。（P341）

クジラの性別偽装

1972年 IWCはマッコウクジラの雌雄別捕獲割当を設定しました。日本の周辺は女性のクジラが多く男性のクジラが少ない傾向にあります。そのため捕鯨業社は、水産庁監督官やアメリカ人オブザーバーが不在のとき、捕獲した女性のマッコウクジラを男性だと偽り、虚偽の報告・登録を行なっていました。（P344）

新種のクジラの隠蔽

ツノシマクジラは体長12m以下の小型のヒゲクジラで、2003年新種として発表されました。しかし捕鯨業者は、かねてからこのクジラの存在を知っており、ピグミーニタリイワシクジラなどと呼んでいました。1976年、国際捕鯨取締条約で体長10.52m以下のクジラの捕獲が禁止されていることを知りながら、体長7.9〜8.5mのクジラを捕獲殺害。これがツノシマクジラでした。船員は違法行為を行っているため監督官庁に報告せず、捕獲はなかったことにされ、ツノシマクジラはいないことにされました。殺害したツノシマクジラ3名は、捕鯨船員と、一部太地町住民に食べられました。（P399）

クジラの母と子の捕獲・殺害

国際捕鯨取締条約 附表の3に「稚鯨若しくは乳飲鯨又は稚鯨若しくは乳飲鯨を伴う雌鯨を捕獲し、又は殺すことは、禁止する。」とあります。日本沿岸捕鯨の興亡P398には、妊娠中の鯨の肉の状態、仔鯨の味についての記載があります。

「丸々と太った色の良い油の乗った柔らかで、尾肉（しもふり肉）などは遥か上質牛も及ばないもの等もあるが、母乳のみを摂取する稚鯨は肉色すこぶる良好なのであるが乳臭さを覚え美味とは言い難い」

さ「稚鯨を随伴する母鯨より小さい稚鯨の、水揚げ金額が多いのが普通である。（P398）

つまり稚鯨や乳飲み稚鯨を捕獲殺害していたということです。

母鯨の殺害

泌乳中の鯨を殺害することもありました。当時、農林省嘱託南氷洋捕鯨監督官であった西脇昌治氏著「南極行の記」には、乳腺が張っていて子どもを育てている最中であろう女性のクジラだと分かりながら、乳腺は萎みつつあり授乳が終わったクジラであると虚偽報告した様子や「判定に於いては我が日本に有利にせねばならない」と判断した様子が書かれています。（p38、p70）また、氏の「マルハは欲の皮がつっぱって居て仕様の無い奴等だ」（P98）という文章が印象的でした。

胎児の殺害

「南極行の記」には、クジラを守りたい者にとってはいたたまれなく、哀れな事実が書いてあります。例えば、

女性で処女のクジラの生殖坑には、Verginal Bandという紐状の器官があるそうです。検査官がそれを標本として採取すると他の人が、他のクジラも触ったことのないところに君が触ったのにはジェラシーを感じたね、いい年を越すだろうよ、と言ったと冗談めかして書いています。

また、母体から取り出された胎児についての記載が複数あります。解体するときに解剖夫が冗談半分に子宮を殴り切った話もありました。

当時と現在の時代背景や、環境や動物に関する意識や価値観の違いはあれ、他にも自らの行為を棚に上げて、他者においては同様の行為を罪とみなすような記述箇所があり、その自分の責任は認めず、他者に責任を押し付ける伝統は現在に続いているのだとも感じました。

捕鯨砲の違法改造

1947年当時、小型捕鯨船に許可されていた捕鯨砲の径は40mmでした。50mmの捕鯨砲を積んでいた小型捕鯨船は、径を小さくするブッシングをねじ込み、40mm砲として認可を受け、漁に出るとブッシングを取り除き50mm砲で捕鯨を行なっていました。（P419）

水産庁監督官の腐敗

当時、水産庁監督官は、捕鯨会社の事業所内に作られた監督官室に待機し監督を行っていましいた。捕鯨会社は、水産庁監督官に、会議と称した宴会や、温泉旅行、麻雀などさまざまな接待を行い籠絡していました。捕獲したクジラの数を隠滅する必要があるとき、体調不足を隠す必要があるときは、水産庁監督官を宴会や旅行に誘い出し、その間にクジラの隠蔽・解体を行うこともありました。（P341）

水産庁監督官の自殺、自殺を利用した捕鯨会社の工作

ある時、捕鯨会社の接待を受けた若い水産庁監督官が上司に叱責され、捕鯨会社の事業所内の監督官室で首吊り自殺するという事件が起こりました。しかし捕鯨会社は反省することなく、逆にこの事件を好機とし、事業所ごとにあった監督官室を撤去、監督官は近隣の旅館に待機することになり、事業所内部に待機できないようにする工作に成功しました。
解体作業を行うときには、捕鯨会社職員が監督官の旅館に押しかけ、宴会を開くなどして、監督官を解体作業に近づけないようにし、その間にクジラの隠滅を行っていました。
（P342）

鮫事業所焼き討ち事件

1911年、鮫村（現青森県八戸市）にあった東洋捕鯨株式会社の事業所を、地元漁師たちが放火した事件です。クジラ漁師たちは、クジラを捌く刃物で地元漁師たちの足を切り応戦しました。これは地元漁師が起こした事件ではありますが、原因は捕鯨産業にあります。
事件は、東洋捕鯨が官憲や地元有力者と手を組み、クジラ解体場を建設したことに端を発します。地元漁師と誘致反対派は、東洋捕鯨がクジラを大量虐殺し、腐敗した血や油などで港を汚染させたことや、地元有力者が利益を独占していたことに怒りを募らせ、暴動を決定。11月1日に放火、破壊、乱闘を起こしました。破壊したのは、鮫事業所の他、地元有力者の家、駐在所など。死者2名、重軽傷者多数を出しました。（P291）

オブザーバーへの妨害

1972年、第24回IWCからオブザーバー制度が開始されました。日本の捕鯨業者に対するオブザーブは、アメリカ人2名が担当。1人が宮城県石巻市、1人が北海道釧路市に拠点を置きました。
その頃宮城県でも北海道でも、捕獲の隠蔽や捕獲数の改ざんを行っていました。宮城県の捕鯨産業がオブザーバーに対して行った妨害は、
・捕鯨が行われる鮎川から車で1時間20分かかる石巻市にオブザーバー用の宿を取り、移動に時間がかかるようにする。
・不便を感じたオブザーバーからもっと近くの宿を取るように要請され、鮎川から5km離れた宿舎を取り、移動に時間がかかるようにする。
・オブザーバーが自主的に鮎川港が一望できる旅館の部屋に移動したため、”夜間隠密行動”とし夜間に鯨体の隠滅などを図り、違法行為を隠した。

・旅館に依頼して、オブザーバーを港が見えない小部屋に移動させた。
北海道の捕鯨産業が行った妨害は、
・港から遠い稚内市内に宿泊していたオブザーバーから、捕鯨産業の社員宿舎に宿泊させてほしいとの依頼があるが、断る。（P401）

密漁

「各小型捕鯨船は半ば公然と自由奔放に密漁捕獲」していたとあります。（P420）
1988年日本が商業捕鯨モラトリアムを受け入れたのち、1990年宮城県でミンククジラの鯨肉が売られているのが見つかっています。

グリーンピース宅配便窃盗事件

グリーンピース側（以下GP）は「鯨肉横領事件」としている事件です。共同船舶従業員が鯨肉を横領しているとの疑惑を暴こうとしたGPスタッフが有罪となった事件です。

経緯

1. GPに、共同船舶元乗組員が情報提供。要点は3点。
・調査捕鯨船の乗組員(120～130人)は、一般入札とは別に鯨肉(200～300kg)を無料で手に入れており、業務上横領(刑法第253条、10年以下の懲役)にあたる。
・調査捕鯨では多量の鯨肉が海上投棄されている。
・海上投棄分は水揚げ量にカウントされず、虚偽報告にあたる。
2. 2008年4月15日　GPスタッフ3名が、東京都大井の西濃運輸配送所に侵入、共同船舶従業員の鯨肉小包を確認。
3. 同日　GP2名が、青森県青森市の西濃運輸配送所に侵入、証拠品として鯨肉23.5kgを持ち帰る。
4, 5月15日　GPが、共同船舶従業員を東京地検に告発。
6. 6月20日　警視庁公安部と青森県警警備部が、窃盗と建造物侵入の疑いでGP2名を逮捕
7. 同日 共同船舶側は不起訴となる。共同船舶が従業員の鯨肉の持ち出しを了承していたため。
8. 7月15日　GP2名が保釈される。
9. 2010年7月27日　青森地方裁判所が、GP2名に懲役1年執行猶予3年の有罪判決。GPは控訴。
10. 2011年7月27日　仙台高等裁判所が却下。刑が確定。

この事件に疑問が解消されていない点があります。
1. 告発者である元共同船舶従業員が呈した問題点
・鯨肉海洋投棄問題
・共同船舶従業員が優先的に鯨肉を手に入れられる問題
・OBに鯨肉が送られていたという問題

・手に入れた1人最大800kgとされる鯨肉の行方
・元従業員は無料でお土産として鯨肉が配られたとしているが、その実態
・従業員たちが持ち帰った鯨肉はどの部分だったのか（元従業員は高級部位、鯨研は端肉と主張）
・ガンに罹患したクジラの肉を販売している問題
2. 共同船舶従業員が、内容物が鯨肉である小包に、「鯨肉」と記載せず「ダンボール」と記載していた点。
3. 鯨研は「国民各層に鯨肉が適正な価格で公平に行き渡るように努めている」としながら、従業員が特権的に鯨肉を入手していた問題。
4. GPスタッフの異例の長期26日間勾留。通常23日が限度。
5. 捜査当局が、GPには2強制捜査を行い書類やPCを押収、一方、共同船舶や調査捕鯨の実施主体である日本鯨類研究所には行っていない。
6. 事件発覚から約1ヶ月後、GPスタッフ2名が逮捕されたタイミングで、早くも共同船舶側の不起訴が決まっている点。
7. 検察が共同船舶に対する調査資料の開示を拒否。仙台高裁が、裁判との関連性は低く関係者のプライバシーに関する事項が含まれているとし、認めた点。

この事件は、NGO 対 捕鯨共同体・公安・警察・裁判所・捕鯨支持者・国家権力の様相を呈しており、結果はNGOの完敗に終わりました。

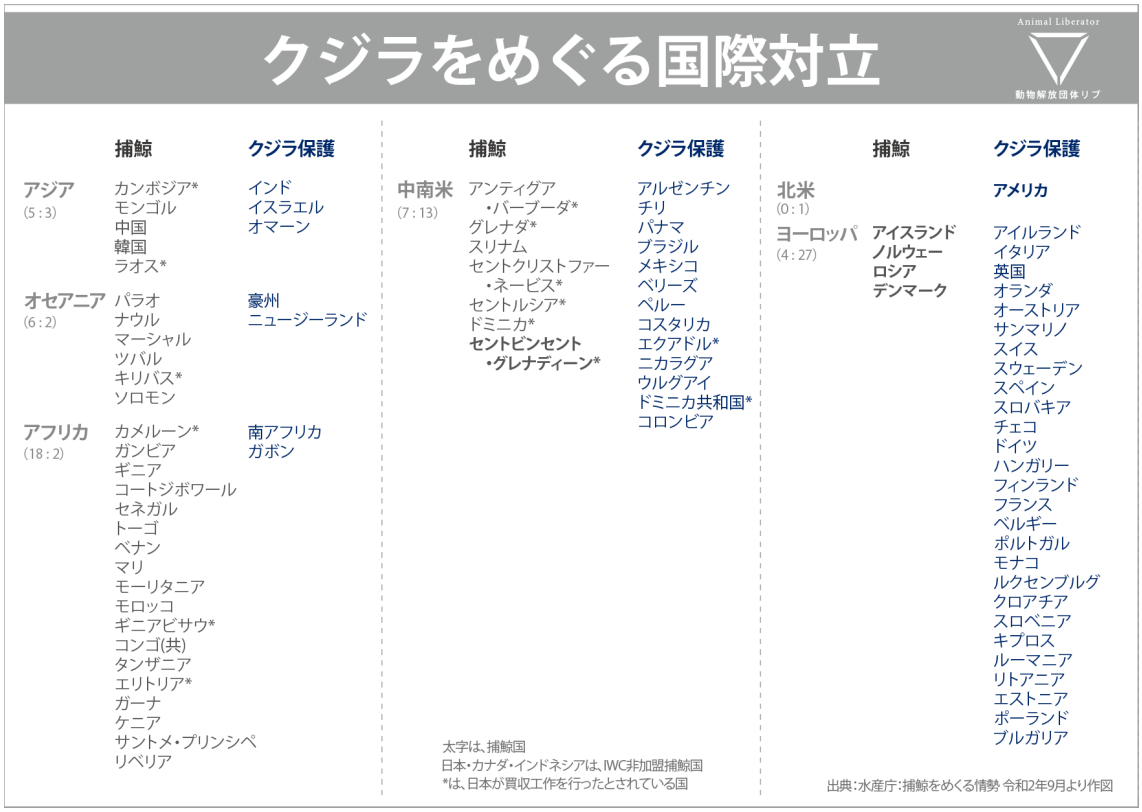
第六項　クジラをめぐる国際対立

「人の振り見て我が振り直せ」という言葉があります。日本の捕鯨共同体の姿を見て、IWCやかつての捕鯨国、クジラ保護国は正常化したのではないかと思うことがあります。

動物権利意識、環境意識が高い西欧諸国・中南米はクジラ保護国が多く、アジア・アフリカは捕鯨支持国が多くなっています。日本政府は中南米とアフリカに買収工作を行っていますので、これがなければクジラ保護国が過半数を占めることが予想されます。韓国は、2022年時点でクジラ保護国になりました。

以下に、地域ごとの捕鯨支持国、クジラ保護国を示します。

［図：捕鯨：クジラをめぐる国際対立］



IWCの正常化

同じ「正常化」という言葉であっても、使う立場によって正常化の意味は変わってきます。クジラ保護の立場から見れば、正常化とは、鯨族を殺害することを止め共存すること。反クジラ保護の立場から見れば、正常化とは、自由に捕鯨ができたかつての状況に戻ること、となります。

捕鯨共同体は「IWCは資源としてのクジラの持続的利用を目的としているにもかかわらず、現在はクジラ保護へと変質した。ゆえに現在のIWCを「正常化」する」と主張しています。つまり彼らの目線からすれば、現在のIWCは「異常」だと見えているということです。しかしながら、日本の捕鯨共同体が行なってきた現実は、鯨族の大量虐殺、環境破壊、それを認

識しながらもさらなる利益を得ようと残りの鯨族を殺戮する利権にしがみつくという異常なことでした。
かつて鯨族を絶滅寸前まで追い詰めた時代は明らかにに異常事態だったとことは、水産庁や捕鯨産業であっても認めざるを得ないでしょう。原因は、無知と欲の暴走でした。世界の大勢は、動物や環境に関わる科学・学問の知見の集積や、動物の権利意識の高まりにより、人間の傲慢と強欲による自然破壊と野生動物搾取を反省し、鯨族保護にシフトしつつあります。
しかし日本では未だ、利権と利益保存のために科学や学問を恣意的に捻じ曲げ、動物の権利を無視し、鯨族を殺し続けようとする捕鯨共同体が存在しています。このことこそが異常自体であり、正常化すべきと言えるでしょう。

資源管理

「IWCが資源管理に失敗したため、鯨資源が枯渇した」と日本の捕鯨共同体は主張します。 確かにBWUに代表される管理方法や、各国の利益や経済を優先し、保護が後手に回り、乱獲を許すなど、IWCは数多くの失敗を重ねてきました。日本の捕鯨共同体はまるで自分の責任がまるでないかのように振る舞っていますが、そもそも日本はIWCの一員であり資源管理の責任があります。さらには、IWCが保護政策を提起するたびに反対し妨害してきたのは日本であり、乱獲、違法行為、海賊捕鯨、IWC規制外の捕鯨を繰り返し、クジラを大量虐殺してきた張本人です。
水産庁が初めて鯨類資源管理を行う研究機関、鯨類資源研究室設立（水産庁 遠洋水産研究所内）を作ったのは1967年、クジラの減少が逃れようのない事実となってからでした。日本はそれまで、研究を国際機関や他国に任せ、自らは鯨類大量殺戮と暴利獲得に夢中になっていました。
日本の捕鯨共同体は、クジラ資源の枯渇の責任はかつての捕鯨国、現在のクジラ保護国にのみがあるかのように表現し、自分たちはまるで被害者であるかのように装っています。振り返れば、捕鯨オリンピック後期に各国がクジラを取りすぎたことが鯨資源枯渇の原因です。日本は当時世界で最もクジラを殺害していた上に、世界一になったと誇っていました。さらには、鯨類資源の管理を行う改定管理方式の導入に反抗し、規制強化に反対してきました。にもかかわらず、自分たち以外の誰かに責任を押し付け、堂々たる批判を行なっています。

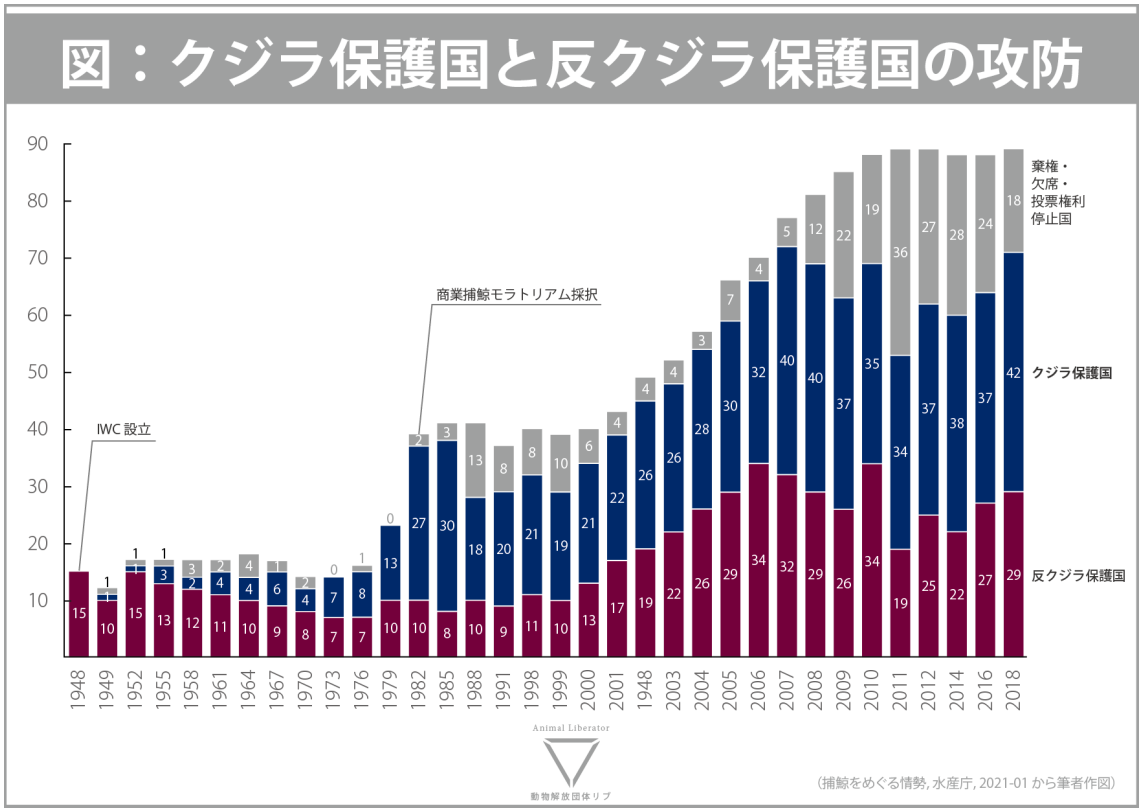
買収工作

IWCはクジラ保護国と反クジラ保護国の攻防の場です。IWC加盟国は、2019年7月現在88カ国。付表改正（モラトリアム中止、商業捕鯨再開など）に必要な75%（66カ国）以上の票を取るため、双方が国家ぐるみの買収工作、多数派工作を行い、お互いを批判してきました。

日本の買収工作が批判されがちですが、最初はクジラ保護サイドであるアメリカ、UK、オーストラリア、ニュージーランド、国際NGOであるWWFやグリーンピースが買収工作を始めました。日本はそれに対抗する形で、買収工作を開始しています。

日本が買収工作を行ったと考えられているのは、カリブ海諸国（ドミニカ共和国、アンティグア・バーブーダ、セントビンセントおよびグレナディーン諸島）、ラテンアメリカ諸国、アフリカ諸国（ギニア、コートジボワール、タンザニア）、オセアニア諸国。買収した国の中には海がない内陸国もありました。実際に買収工作を行ったエージェントは、政府関係者や学者などです。

［図：クジラ保護国と反クジラ保護国の攻防］



日本政府が行った工作は、

・ODA（政府開発援助）を利用して、捕鯨支持国を増やす
・発展途上国を買収してIWCに参加させ、捕鯨に賛成票を投じさせる
・買収先政府高官に賄賂を渡す
・加盟国がIWCへ支払う拠出金を肩代わりする
・加盟国の政府代表がIWCに出席する旅費を肩代わりし日当を支払う
・コールガールの手配（タンザニアの高官）

買収先が日本のエージェントから受けた不利益

・汚職への加担
・ドミニカの元農水大臣アサートン・マーチン氏は、ドミニカは天然資源のエコロジカルな管理を目指していたが、日本が資源の使い方を指図し、またIWCのドミニカ票を買収したと批判しています。マーシン氏は、こうした日本の行動はドミニカの尊厳を無視しており、日本は植民地支配を経験しているのに、なぜそのようなことができるのかと批判しています。
［URL：https://youtu.be/x00T1ZsvVJw］
・カリブ海諸国の一つであるSVG（セントビンセント及びグレナディーン諸島）へ行き調査した活動家によると、日本のエージェントは地元の人々がホエールウォッチングを始めるのを妨害したそうです。

捕鯨共同体は、ODAや拠出金や出張費の肩代わりを利用した買収工作を否定しています。
しかし一方で
・1999　農水政務次官が、捕鯨賛同国を増やすためにODAを利用する方針を発表
・2001　小松正之氏が、日本のODA利用に何も悪いことはない、と発言
・2006　自民党 山際大志郎議員が、西アフリカ コートジボアールにIWCへの商業捕鯨再開支持への感謝を伝え、漁業への技術供与に関する協議を行った
・2008　IWC加盟を検討しているアジアやアフリカの国々を東京に集めて会合
等を行っています。

買収工作に使われたのは、私たちの税金です。ODAや賄賂の他にも、買収工作を行うエージェントの旅費やホテル代、食事代などにも使われたかもしれません。結局、日本が買収した国がクジラ保護側に回る、国内外の批判が高まるなど失敗しており、私たちの税金は泡と消えています。

第四節　調査捕鯨の問題

第一項　調査捕鯨＝偽装商業捕鯨

水産庁は、国際捕鯨取締条約第八条一項を根拠として、日本鯨類研究所に調査捕鯨を許可しました。

第八条　科学的研究のための鯨の捕獲、殺害等を認可する特別許可書の附与、鯨及び捕鯨に関する科学資料の特定団体への送付等
１　この条約の規定にかかわらず、締約政府は、同政府が適当と認める数の制限及び他の条件に従って自国民のいずれかが科学的研究のために鯨を捕獲し、殺し、及び処理することを認可する特別許可書をこれに与えることができる。また、この条の規定による鯨の捕獲、殺害及び処理は、この条約の適用から除外する。各締約政府は、その与えたすべての前記の認可を直ちに委員会に報告しなければならない。各締約政府は、その与えた前記の特別許可書をいつでも取り消すことができる。
２　前記の特別許可書に基いて捕獲した鯨は、実行可能な限り加工し、また、収得金は、許可を与えた政府の発給した指令書に従って処分しなければならない。
３　各締約政府は、この条の第一項及び第四条に従って行われた研究調査の結果を含めて鯨及び捕鯨について同政府が入手しうる科学的資料を、委員会が指定する団体に、実行可能な限り、且つ、一年をこえない期間ごとに送付しなければならない。
４　母船及び鯨体処理場の作業に関連する生物学的資料の継続的な収集及び分析が捕鯨業の健全で建設的な運営に不可欠であることを認め、締約政府は、この資料を得るために実行可能なすべての措置を執るものとする。

日本鯨類研究所は、南極海と遠洋は共同船舶株式会社、沿岸は小型捕鯨協会（旧地域捕鯨推進協会）に依頼し捕鯨を行いました。捕獲したクジラの肉は商業捕鯨と同様、母船の日新丸で冷凍、商品化し販売、沿岸捕鯨で捕獲したクジラは解体場で商品化し、販売しました。捕獲した鯨族の遺体を科学者が研究する以外は、商業捕鯨と変わりません。太地で活動している右派の方が「商業捕鯨がモラトリアムになって、みんなが知恵を出して捕鯨を続ける道を見つけたんだ」という話をしていました。つまり、誰もが、IWCも捕鯨反対国も賛同国も、クジラ保護活動家も一般の人々も、そして捕鯨共同体自身も、日本が行なっているのは調査捕鯨などではなく、調査捕鯨を隠れ蓑とした商業捕鯨だとわかっていました。
このやり方は、ゼネコンにおける談合、医師会による病床確保の妨害、政党による汚職議員の庇いあいなどと同様です。みんながおかしい、変えなければいけないとわかっていながら、既存の利権集団を維持し続けることを美徳とする文化こそが、日本の本来淘汰されるべき産業を温存させ、新しい産業の参入を阻止し成長を妨害し、経済的な停滞、政官財学法報の堕落を招いています。さらには、捕鯨のような地球規模の問題、国家間で取り決めのある

問題で日本国内の一部産業の保護を行えば、当然国家として不信を招き、国際的な信頼が失墜し、国益と国家としての誇りを損なうことになります。
2022年現在南極海、北太平洋で調査捕鯨を行い続ける目的は以下が考えられます。
・いずれ日本周辺海域で鯨族の捕獲量は減っていくと予想されます。ゆえにIWCに再加盟し捕鯨を再開する選択肢は残しておく必要があります。南極海へ進出するためには、根拠となるデータを積み重ねておく必要があります。実際、南極海の鯨族の数は増えるでしょう。その上でIWCへの再加入と商業捕鯨捕鯨再開を狙うでしょう。
・捕鯨共同体、天下り先に補助金（税金）を流すため。
調査捕鯨時代、日本人の中には捕鯨共同体の芝居を信じ込んでいる人々もいました。しかし世界は日本の捕鯨共同体の芝居に付き合わされ辟易していました。そしてついに国際裁判に発展します。

第二項　モラトリアム違反～南極海調査捕鯨事件～

オーストラリアが、日本の調査捕鯨 JARPA II（第二期南極海鯨類捕獲調査）は国際捕鯨取締条約違反であると国際司法裁判所に提訴します。国際司法裁判所は、日本の調査捕鯨は、①商業捕鯨モラトリアム違反 ②母船式捕鯨モラトリアム違反 ③南太平洋保護区（南極海サンクチュアリ）違反であるとの判決を下し、日本は敗訴します。

経緯

1986　商業捕鯨モラトリアム開始
1987　JARPA I 開始（期間中 ミンククジラ6,795名殺害）
2005　JARPA II 開始（捕獲枠 ミンククジラ935名、ナガスクジラ50名、ザトウクジラ50名）
2007　IWCがJARPA IIの致死的研究の一時中止を決議。日本は継続。
2010.5.31　オーストラリアが国際司法裁判所に日本を提訴
2014.3.31　判決

オーストラリアの主な主張

・日本の調査捕鯨の目的は、①鯨肉の確保と販売 ②捕鯨会社並びに日本鯨類研究所の組織維持 ③官僚の天下り。
・日本の調査捕鯨の科学的貢献はほとんどない。ゆえに国際捕鯨取締条約第8条の科学的調査目的ではないので非合法である。

日本の主な主張

・調査捕鯨の貢献度は高く、科学は科学者の議論に任せ、法律が判断するべきではない。
・捕獲頭数の算定は、調査捕鯨を行う国の裁量に委ねられる。

焦点は、日本の調査捕鯨は科学的調査と言えるか否か、言い換えれば本当の目的は何かでした。

国際司法裁判所の主な判決

・捕獲枠の算定は透明性に欠けており、予め決められているという主張の方が説得力がある。

・JARPA IIは科学調査の可能性があるが、目的は科学調査ではない。ゆえに日本の調査捕鯨は以下に違反している。

①商業捕鯨モラトリアム違反（*ナガスクジラ、ミンククジラの捕獲。ザトウクジラは捕獲対象だが捕獲していない）

②母船式捕鯨モラトリアム違反（ナガスクジラの捕獲。日本はミンククジラを母船式捕鯨モラトリアムの決議に対して留保しているので違反とならなかった）

③南太平洋保護区（南極海サンクチュアリ）違反（ナガスクジラの捕獲。日本はミンククジラを母船式捕鯨モラトリアムの決議に対して留保しているので違反とならなかった）

・日本にJARPA IIの停止を命じる。

南極海調査捕鯨事件は、日本が国際司法裁判所に提訴された初めて、かつ唯一、そして敗訴した事件です。捕鯨共同体が自らの利権のために起こした犯罪行為により、日本全体が巻き込まれました。

敗訴したにも関わらず、日本鯨類研究所は高圧的に強い調子で反論しています。

［URL：日本鯨類研究所　Q&A－南極海における日本の捕獲調査：https://www.icrwhale.org/05-A-a.html］

・ICRW第8条に基づいた調査は完全に合法的である。

→国際法に照らして調査捕鯨は非合法であると判断されています。

・商業捕鯨モラトリアムは調査捕鯨には適用されないという点に注目しなければならない。

→裁判で調査捕鯨ではないと判断されています。

・調査の副産物（鯨肉）は加工し、政府の指示に従って販売しなければならないと規定されている。 これは調査を行うすべてのIWC加盟国を法的に拘束する義務なのである。

→自分たちに都合の良い条文、鯨肉の販売ができる条文については義務を果たすとしています。

彼らの認識宇宙は独特です。

第三項　調査手法〜致死的手法、非致死的手法〜

致死的手法とは、クジラを殺害して行う研究方法。非致死的手法とは、クジラを殺害せずに行う研究方法です。致死的手法と非致死的手法では、それぞれ収集できるデータに差異があります。

致死的手法

胃の内容物、筋肉や内臓の研究、歯を使った年齢測定など。

非致死的手法

識別研究（鯨族の背びれや尾鰭の形や欠けによって個人を特定、回遊や行動、生活史を研究する）。血統図を作成し、ポッドの構成や、繁殖成功率、出生率、死亡率等を測定。ハイドロフォンを使用して発声や”歌”の研究。バイオプシー（によって遺伝子サンプリングを収集し、遺伝子多様性に貢献。衛星タグを付け、回遊や行動パターンを研究。

世界的に鯨族の研究は非致死的手法に進んでいますが、日本は致死的手法にこだわっています。しかし、JARPA Iのように、ミンククジラを6,795名も殺さないとわからない研究、JARPA II のように毎年の捕獲枠をミンククジラ935名、ナガスクジラ50名とし、殺し続けなければわからない研究とはどのような研究でしょう。研究の設定が間違っているか、科学者の能力の不備かいずれかかと考えざるを得ません。調査捕鯨は疑似商業捕鯨であ証左の一つです。

日本周辺のクジラ・イルカに関しては、個体識別はもちろん、生態、生息数でさえ不明な点だらけです。科学的根拠がほとんど無いにも関わらず、毎年捕獲枠が設定され、鯨族を殺し続けています。日本鯨類研究所や水産庁が国民に提供する情報と、北米周辺海域の鯨族の研究機関やアメリカの水産庁にあたるNOAA(アメリカ海洋大気庁)が提供する情報を比較するとそのレベルの差は歴然です。致死的手法と非致死的手法、どちらが人間や鯨族に貢献しているかも一目瞭然です。

第五節　経済

第一項　クジラの値段

クジラの遺体が売られる値段は、生の遺体・加工されたもの、種や部位などによって変わります。以下に目安を記述します。いずれも1kg当たりに換算しています。

日本の捕鯨業者が捕獲（調査捕鯨含む）
赤肉　5,500円
鹿の子　7,400円（ニタリクジラ）
舌　20,000円
ベーコン　28,000円
尾身　35,000円（イワシクジラ、ナガスクジラ）
尾身　100,000円（ナガスクジラ）

ノルウェーから輸入（いずれもミンククジラ）。
赤身（生肉 刺身用）　2,700円
皮（生肉 刺身用）　5,050円
おばけ（ボイル）　5,150円
舌（さえずり、ボイル）　8,300円
うねす（クジラベーコン）　11,650円

変わっているところでは、ツチクジラやミンククジラはアイス（380円）にされ売られています。牛乳や卵など動物が搾取されているアイスよりも、はるかに美味しい植物性のアイスが販売されています。アイスに動物は不要であり、ましてクジラをわざわざ使う必要は何もありません。



ペットフードとして売られているクジラの値段は以下です。
くじら肉ジャーキー　40g　880円
クジラのアキレス（筋）　70g　1760円
高濃度オメガ３オイル　100g　2,530円
生肉　1kg　3,136円

第二項　補助金

官製捕鯨
現在行われている捕鯨は「官製捕鯨」とも呼ばれ、毎年多額の税金が補助金として投入されています。赤字の事業を存続させる目的はは、利権・天下り先の存続です。

補助金の始まり
1986年商業捕鯨モラトリアムが開始、大型捕鯨業の廃業が決まり、母船式捕鯨業3社(大洋漁業(現マルハニチロ）、日本水産（ニッスイ）、極洋)は、退職金、設備の解体費用から、廃業後事業資金の補填まで、計55億円もの補助金を要求。日本政府は支払いました。違法操業、乱獲、海賊捕鯨などを繰り返してきた捕鯨会社が、さらに撤退のときにまで税金を奪い去っていきました。最後の最後までむしり取っていくという強欲ぶりです。
1987年、調査捕鯨開始に伴い日本鯨類研究所と共同船舶株式会社が設立されました。水産省から日本鯨類研究所に調査捕鯨関係費用として補助金が支払われ、日本鯨類研究所から共同船舶株式会社に調査捕鯨委託費として還流されました。以降今に続くまで、捕鯨は税金頼りで存続しています。

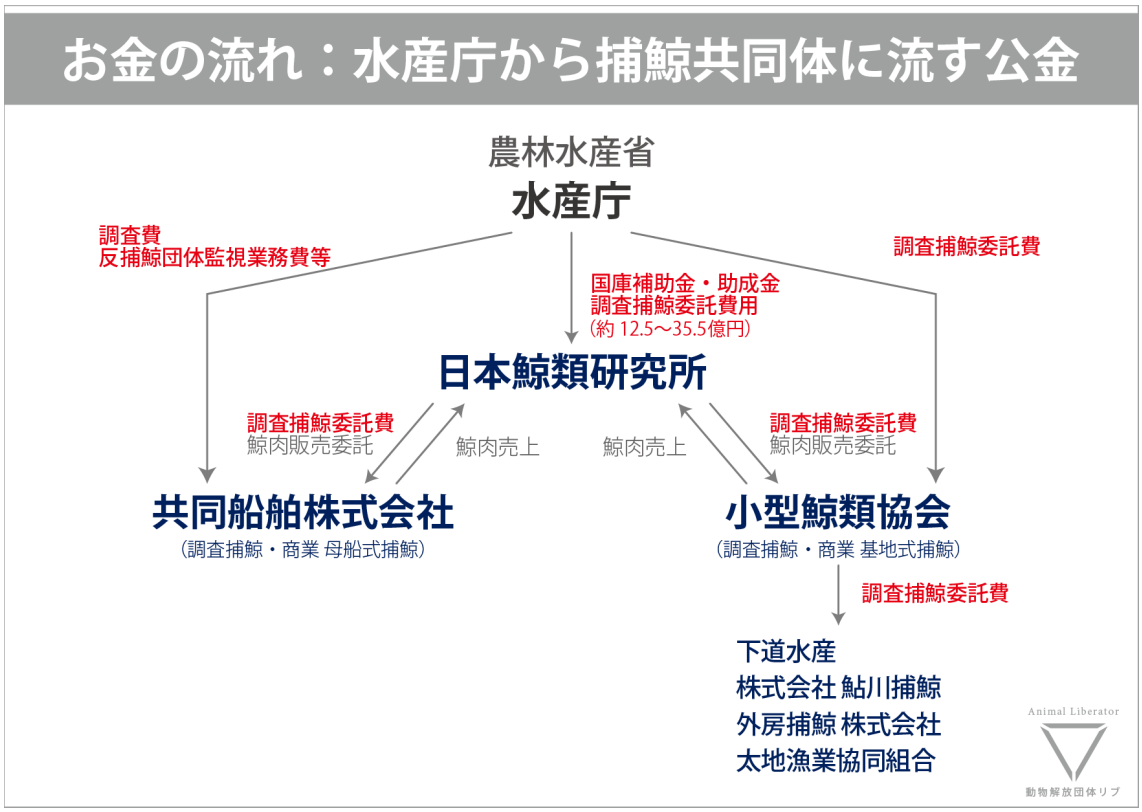
日本鯨類研究所の財務諸表
2010〜2011、2013〜2018、2022の財務諸表から引用します。

公金の割合が最も低いのは、2010(平成22)年
補助金等（公金）　7億9466万2000円
調査捕鯨関係費用（公金）　4億6860万6000円（調査受託収益・受託収益・DNA登録収益）
副産物収益（鯨肉・鯨油）　17億6626万3309円
受取会費　7403万3480円
その他
経常収益計　31億1120万3213円（公金12億6326万8000円）
公金の割合　40.6%

公金の割合が最も高いのは、2018(平成30)年
補助金等（公金）　31億2986万8000円
調査捕鯨関係費用（公金）　4億1547万0000円（調査受託収益・受託収益・DNA登録収益）

副産物収益（鯨肉・鯨油）　0円
受取会費　147万5000円
その他
経常収益計　35億4702万1823円（公金 35億4554万6823円）
公金の割合　99.9%

最新の、2021(令和3)年は
補助金等（公金）　24億8447万2,271円
調査捕鯨関係費用（公金）　3億9016万2,891円（調査受託収益・受託収益・DNA登録収益）
副産物収益（鯨肉・鯨油）　0円
受取会費　2721万0322円
その他
経常収益計　29億2686万2959円
公金の割合　98.2%
となっています。
［図：お金の流れ：水産庁から捕鯨共同体に流す公金］



第三項　その他の税金利用

復興予算

東日本大震災後の2012年、復興予算として約23億円を捕鯨共同体が獲得しました。名目は、調査捕鯨費とシーシェパードによる妨害対策費。多くの人々が亡くなり家族を失い、国内外から支援やボランティアが集まり復興させようとしている最中、捕鯨共同体は災害を利用して、自分たちに利益を還流させました。復興予算によって、鮎川港がある石巻に関係する捕鯨業者の復興には役立ったでしょうが（加工会社の復旧は対象外）、シーシェパード対策は東北の復興と全く関係がありません。復興予算23億円のうち約18億円を鯨研が手に入れています。

IWC買収工作費用

日本政府はIWC加盟国に対して、商業捕鯨賛成票の買収工作をしていました。IWC拠出金の肩代わり、IWC総会への旅費の肩代わりや日当の支払い、賄賂、女性を用意するという提案を受けたと証言する高官さえいます。

資金源はODAなどが挙げられていますが、実際、どの財源からどのような名目で資金が拠出され、どこの国や誰にいくら使われたのか、またその総計はどれほどになるのか、不明です。そしてその資金は私たちの税金から支払われています。

NMMCOへの拠出金費用

NMMCO（北大西洋海産哺乳動物委員会）への拠出金は、日本がIWCを脱退した翌年2020年から開始されています。NMMCOはIWCに対抗して、ノルウェーやアイスランドが設立した組織です。2020(令和2)年の拠出金は2200万円、2021(令和3)年は1861万円。2022(令和4)年は1900万円ほどの予算が計上されています。目的は、NAMMCOとの協力関係強化、捕鯨の正当性の明確化とのことです。この資金も税金からです。

その他

鯨肉販促費用

共同船舶は、公益需要の助成事業として、ニタリクジラの遺体を「学校給食」「医療」「地域住民配分」「啓発事業用」「事業給食」の5分野に割安で販売する事業を行っています。

［URL：公益助成事業のご案内：http://www.kyodo-senpaku.co.jp/public.html］

給食は一気に大量の商品を売れることから、動物産業が利権の獲得維持に力を入れます。牛乳はその際たるものです。捕鯨共同体は給食への販路拡大を狙っており、共同船舶と同様、太地町開発公社も給食への鯨肉売り込みに力を入れており、例えば2012(平成24)年度は2552万4674円、2013(平成25)年度は2456万5205円を売り上げています。

第四項　鯨肉の在庫と輸入

鯨肉の在庫

鯨肉の在庫が余っている、いや余っていないという議論があります。

もし余っているとしたら、不要な捕鯨を続けており、捕鯨に投入されている税金は捕鯨共同体を生かすことに使用されていると結論づけられます。
ジャーナリスト佐久間淳子氏によると、2014-2021の鯨肉の在庫量は1000～3000tの間で推移。2020年商業捕鯨再開後には捕獲量が半減しているにもかかわらず、在庫は1500t程から3000t近くまで増加しています。一方、PR会社社長で日本鯨類研究所のスポークスマンであるグレン・インウッド(Glenn Inwood)氏は3,000～4,000tとし、またその他の試算もあり実態は不明です。
一方、水産庁は余剰在庫は無いと反論しています。

【参考：鯨肉在庫の調べ方】

1992-2009
e-Stat 水産物流通調査＞長期累年「くじら」
［URL：https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500228&tstat=000001015640&cycle=0&tclass1=000001037128&stat_infid=000002952446&tclass2val=0］

2009年以降
水産物流通調査＞メニュー：公開予定と調査一覧＞《調査一覧》→産地水産物年間調査＞各年次の確報＞《冷蔵水産物流通調査》→【年間調査】→（29）くじら（冷凍品）＞行：計　列：年平均
［URL：http://www.market.jafic.or.jp/fKoukaiMain.html］

鯨肉輸入
一方、日本は世界から鯨肉を輸入してきました。
1960年代～1980年代に行われた海賊捕鯨による鯨肉を、適法違法にかかわらず日本に輸入しました。1981年当時、ソ連は日本への輸出のために捕鯨を行っており、「ザ・クジラ」ではソ連を「大洋漁業捕鯨部」と呼んでいます。
1981年の鯨肉輸入量は、計18,942t。内訳は、1位ソ連9,131t・2位アイスランド3,956t・3位ノルウェー3,879t・4位スペイン2,311t・5位ブラジル1,056t・6位ペルー846t・7位韓国689t・8位チリ562t。日本は世界中から鯨肉を買い漁っていました。

調査捕鯨を行っていた2019年まではアイスランドとノルウェーから鯨肉を輸入。2020年以降はノルウェーから輸入しています。日本で人間用の鯨肉や、コンパニオンアニマル用の鯨油を販売しているミクロブストはノルウェーの企業です。
水産庁は鯨肉輸入は国産の鯨肉市場を圧迫すると警鐘を鳴らしています。

第五項　日本経済のお荷物

捕鯨は日本経済に貢献しているのでしょうか。

2008年時点で、元外務省参与 谷口智彦氏がインタビューに答えたところによると、捕鯨産業(南極海調査捕鯨＋北大西洋調査捕鯨)の収入は年間75億円。日本経済の年間生産高が515兆円でしたので、捕鯨が日本経済に占める割合は0.0014%。捕鯨で生計を立てている人々の数は扶養家族を含めても千〜数千人ということです。2008年でこの数字ですので、捕獲量が半減した現在はさらに減っているでしょう。
通常の産業であったらとっくに消滅しているはずですが、毎年何十億円という税金がつぎ込まれて生き残っています。
伝統文化だから存続させるべきだという意見もありますが、伝統文化であったとしても淘汰されてきた産業はいくつもあります。また第二次世界大戦前後に暴利を貪った捕鯨会社各社は、共同船舶に事業を任せ、自分たちは捕鯨からさっさと手を引き、軽々と”伝統文化”を見捨てました。

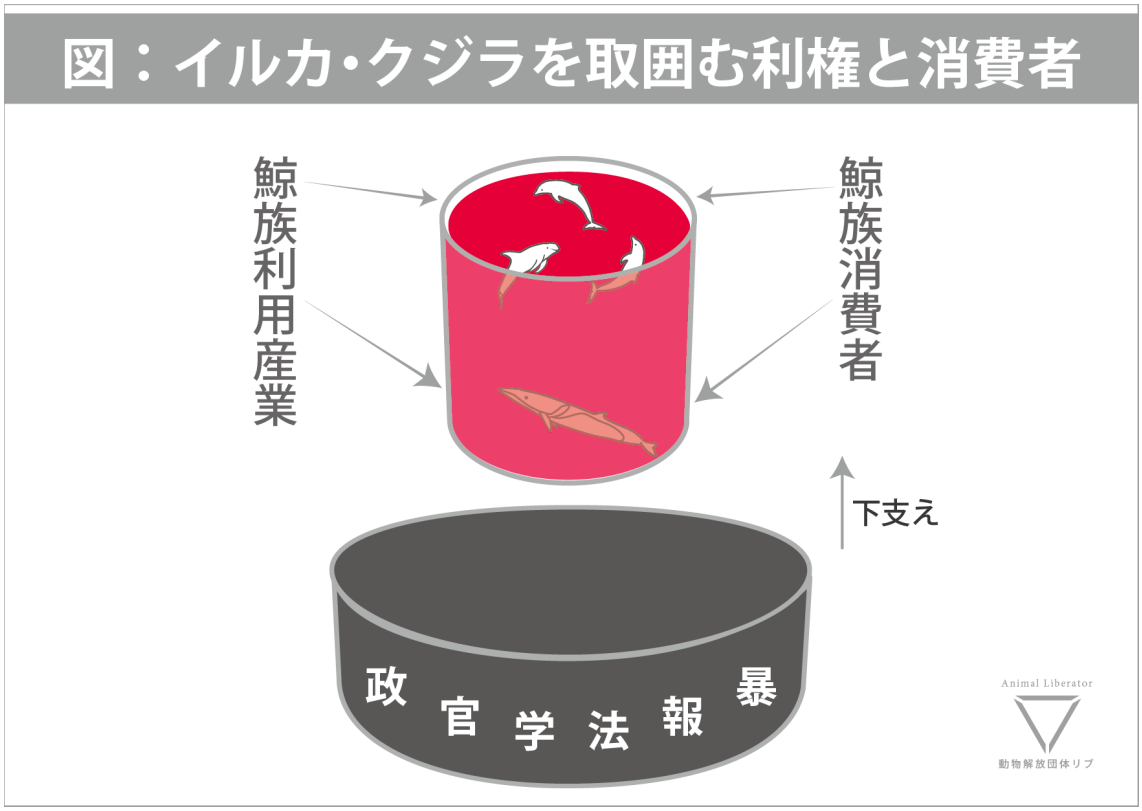
捕鯨産業は明らかに日本経済のお荷物であり、足を引っ張っています。捕鯨共同体への補助金30億円は、日本の未来にはつながりません。彼らは溶かし続けるのみです。
一方その30億円を日本の成長産業への融資や補助金、有望な学生へ補助金、環境保護関連費等に使用したら。人材の育成や産業創発の助けとなり、日本の未来への有益な投資となります。

第六節　利権

政官財学法報暴

捕鯨利権・イルカ漁利権を、「政官財学法報暴 - 消費者」別にまとめます。

［図：イルカ・クジラを取り囲む利権と消費者］



図は、人間がイルカ・クジラを取り囲み搾取しているイメージ図です。
真ん中にイルカやクジラがいます。鯨族利用産業（捕鯨、イルカ漁、水族館等）と、鯨族消費者（鯨肉消費者、水族館利用者）が取り囲み搾取しています。
その構造を支えるのが、政官財学法報暴と呼ばれる利権ネットワーク。政治、官庁、財界、学術界、法曹界、報道、暴力団です。「政官財学法報暴 - 消費者」の利権ネットワークのうち、政官財（政治家・役人・ビジネスパーソン）は、鉄の三角形とも言われています。
鯨利用問題、動物利用問題をはじめとして、経済的停滞、貧困、教育レベルの低下等、社会問題は、利権ネットワークが利権を手放さないことに大きな原因があります。

以下に「政官財学法報暴 - 消費者」それぞれについて、活動家にとって必要な知識を記述します。
＊以下の説明は、証拠があるものと、状況からの推察が混在していることにご了承いただきご注意ください。活動を行うにあたって状況から推察する能力つまり、仮説を立てる能力は重要だと考えています。

第一項　政

概要

構成員

国会議員、県議会議員、町議会議員等

利益

組織票（地元や産業への利益誘導による）、政治献金、有権者からの愛国的態度への評価

政治家はなぜ捕鯨推進なのか

捕鯨を推進するのは愛国的態度であるとアピールでき、投票者の支持を得られるということから、与党議員も野党議員も捕鯨・イルカ漁推進が目立ちます。特に捕鯨に関して政策に多様性は無く、与党も野党も珍しく一枚岩となっています。日本において、クジラやイルカを守ろうという政党はありません。

自民党は伝統的に捕鯨産業の存続に力を貸してきました。明治維新以降政府の中心には長州、長崎、土佐出身の政治家が居続け、これらはいずれも捕鯨産業が力を持つ地域でした。特に山口県の議員である岸信介氏や、安倍晋太郎氏、安倍晋三氏は捕鯨産業の擁護に力を入れてきました。

1980〜1982年、第70代内閣総理大臣だった鈴木善幸氏は、捕鯨業やイルカ漁業が盛んであった岩手県山田町出身です。水産加工業を営む家に生まれ、水産学校を経て、水産業会に就職したのち、水産業界の利益代表として政治家になりました。鈴木氏はIWCの多数派工作のため自らブラジル等の国に働きかけています。

唯一捕鯨に独自の見解を持っている党は、れいわ新撰組です。しかし主張としては、日本は南氷洋捕鯨を中止し、沿岸捕鯨を推進すべきだというものであり、クジラやイルカを守ろうというものではありません。つまり2019年の日本のIWC脱退以降、日本はEEZ内で捕鯨を行うようになり、彼らの目的は達せられました。

個人的に捕鯨のあり方に異を唱える政治家はいます。しかし、その声はほとんど有権者に届かず、政治家自身も積極的に発信することは無いように思えます。

私たちが成すべきこと

政治家は、有権者の投票行動によって変わります。つまり、クジラやイルカを守りたいという有権者が増えれば、政治家の主張や政策を変えることができます。

そのためにできることの一つは、有権者にクジラやイルカの素晴らしさ、捕鯨やイルカ漁の現実、愛国プロパガンダの事実を伝え、捕鯨やイルカ漁に対する認識を書き換えてもらうこと。そして有権者と活動家が政治家に伝え、思想と行動を変えてもらうこと。

もう一つは、私たちクジラやイルカを守りたい人の中から政治家を輩出することです。

第一目　政調部会・議員連盟

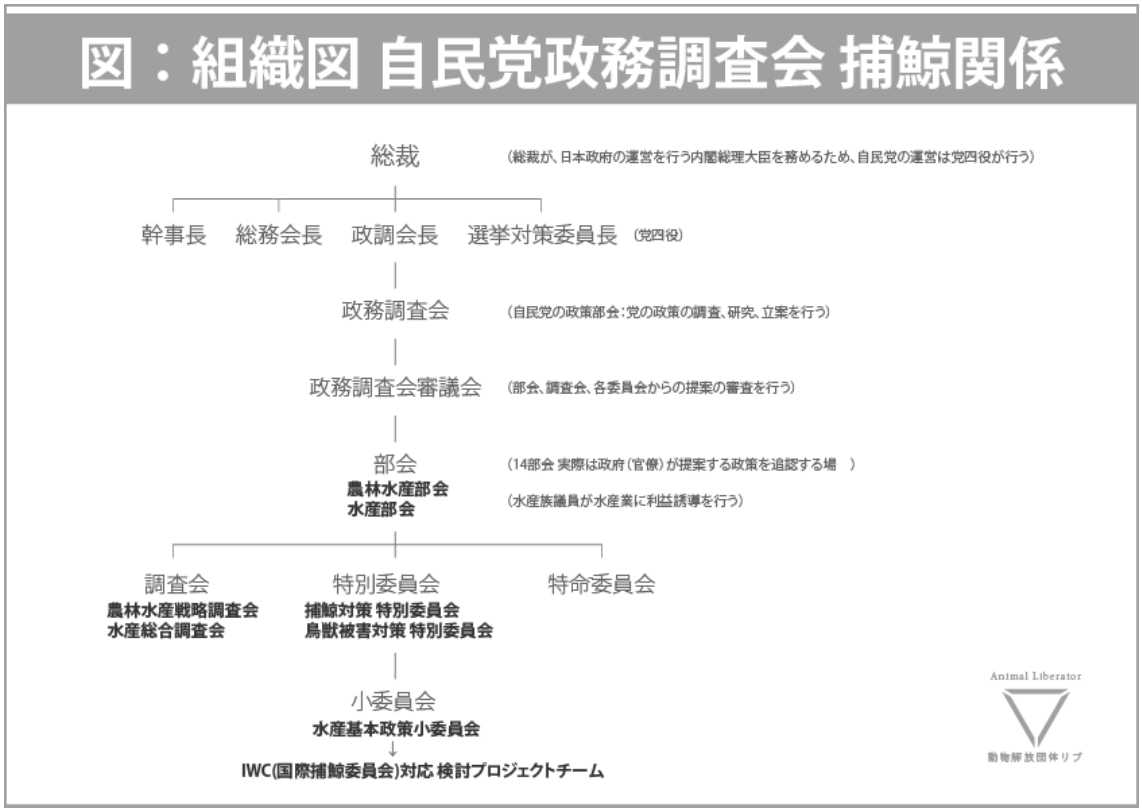
政調部会とは、各政党の政策を決める部会。政策を決めるための調査、研究、立案をおこないます。自民党の政調部会は政務調査会で、実質的に日本政府の政策を決めています。
議員連盟とは、政府の政策決定に影響を及ぼす目的で設立されたいわば議員によるロビーイング集団。捕鯨、イルカ漁に関係する自民党の政調部会と各党の議員連盟を列挙します。

［自民党］

自由民主党政務調査会

自民党が政権与党を取った場合、自民党総裁が日本の内閣総理大臣となります。総裁は党運営ができなくなるため、代わりに自民党をまとめるのが幹事長。党の主要ポストは党四役と呼ばれ、権力が強い順に、幹事長、総務会長、政務調査会長、選挙対策委員長となります。政務調査会長(政調会長)は、政務調査会のトップ。政務調査会には、14の部会、時々で設定される調査会、特別委員会が置かれ、その下に小委員会が置かれます。捕鯨・イルカ漁に関するものは以下の図をご参照ください。

［図：組織図 自由民主党政務調査会］



自民党捕鯨議員連盟

1985年設立、2006年時点で89名

安倍晋三・二階俊博・浜田誠一・江島潔（捕鯨、水産業に関係）、麻生太郎・石破茂等、有力議員が参加。

「自民党の捕鯨政策の”捕鯨議連化”は、2003年9月からの約2年間の安倍幹事長時代に形成されその後の安倍政権下で確立される。」（森川 純, 日本の国際捕鯨委員会(IWC) からの脱退と 商業捕鯨の再開に至る政治外交史的考察(中編)—安倍晋三と自民党捕鯨政策の” 捕鯨議連化” —, JWCS 通信 no.89 2019）とあるように、捕鯨議連、水産族議員が自らの利権維持のために推し進めた政策が、安倍晋三議員を中心に自民党の政策となっていきました。

［公明党］

公明党捕鯨を守る議員懇話会

会長　江田康幸（比例九州ブロック　福岡県出身）

幹事長　佐藤英道（比例北海道ブロック）

［旧民主系］

捕鯨議員連盟

会長　小川勝也（北海道選挙区）（2018年時点）

玉木雄一郎（国民民主党　香川2区）

徳永エリ（国民民主党　北海道選挙区）

［共産党］

「日本共産党は、鯨資源の科学的な調査や国際的な合意を前提として、資源の十分ある鯨種については、人間の食料資源としての利用は許されると考えています。」（しんぶん赤旗, 2008-01-31）

［超党派］

捕鯨の伝統と食文化を守る会（2018年時点）

呼び掛け人

鈴木俊一（自民党捕鯨議員連盟会長）

江田康幸（公明党捕鯨を守る議員懇話会会長）

小川勝也（民進党捕鯨議員連盟会長）

紙智子（日本共産党）

儀間光男参院議員（日本維新の会）

［山口県］

日本伝統捕鯨とクジラ食文化を守る議員連盟

［URL：https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a30000/giren/kujiragiren.html］

第二項　官

［本文参照：第四部 第一章 第四節 第二項　農林水産省（水産庁）］で見てきた通り、水産庁は所管法人を持っています。 所管法人の形態には、独立行政法人、特殊法人、株式会社、公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人等があります。また水産庁や捕鯨と関係の深い関連団体もあります。
所管法人や捕鯨関連団体は、水産官僚の天下り先になっています。また、天下りに対する批判の抜け道として、職員が出向するという形をとり実質的な天下りを行う場となっています。天下りとは退職した官僚が、天（国、政府、省庁）から民間に下る、つまり所管法人や捕鯨関連団体に再就職すること。省庁は事務次官をトップとするピラミッド構造となっており、ピラミッドの上に行くに従い官僚の多くは押し出される形で辞めざるを得ません。ゆえに、関係団体や民間企業に天下りすることになります。
つまり、優秀かつ業界に詳しい人材が再就職する天下り事態が悪いわけではなく、無駄な関連団体を作ること、不要となった産業を天下り先維持のために守ること、給与と退職金狙いで天下り先の渡り歩きをすること、彼らが得ているお金が我々の税金で支払われている場合、などが問題です。
例えば水産庁の天下り先である日本鯨類研究所の理事長の年収は2014年当時で1242万円、非常勤の理事の年収は1050万円。さらに退職時には数百万円～数千万円が支払われています。以下に天下り先である、捕鯨と関係する団体の一部をリストします。

第一目　天下り先リスト：捕鯨関係

［独立行政法人 (独法)］

独立行政法人は、国立研究開発法人、中期目標管理法人、行政執行法人(7法人)の三つに分類されます。農水省関係の独立行政法人のリストは以下のリンクから。
［URL：：https://www.maff.go.jp/j/corp/dokuhou/］
国立研究開発法人 水産研究・教育機構
［URL：https://www2.fra.go.jp/xq/］
1 水産資源研究所　2 水産技術研究所　3 開発調査センター　4 水産大学校
中央水産研究所（横浜市金沢区）内 外洋資源部に、鯨類資源グループがある
国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター
［URL：https://www.jircas.go.jp/ja］
中期目標管理法人 農林漁業信用基金
［URL：https://www.jaffic.go.jp］
独立行政法人　農林水産消費安全技術センター（FAMIC）
［URL：http://www.famic.go.jp］

［公益財団法人 (公財)］

海外漁業協力財団

［URL：http://www.ofcf.or.jp］

日本水産資源保護協会

［URL：http://www.fish-jfrca.jp］

海洋生物環境研究所

［URL：https://www.kaiseiken.or.jp］

［公益社団法人 (公社)］

日本水産資源保護協会

［URL：http://www.fish-jfrca.jp］

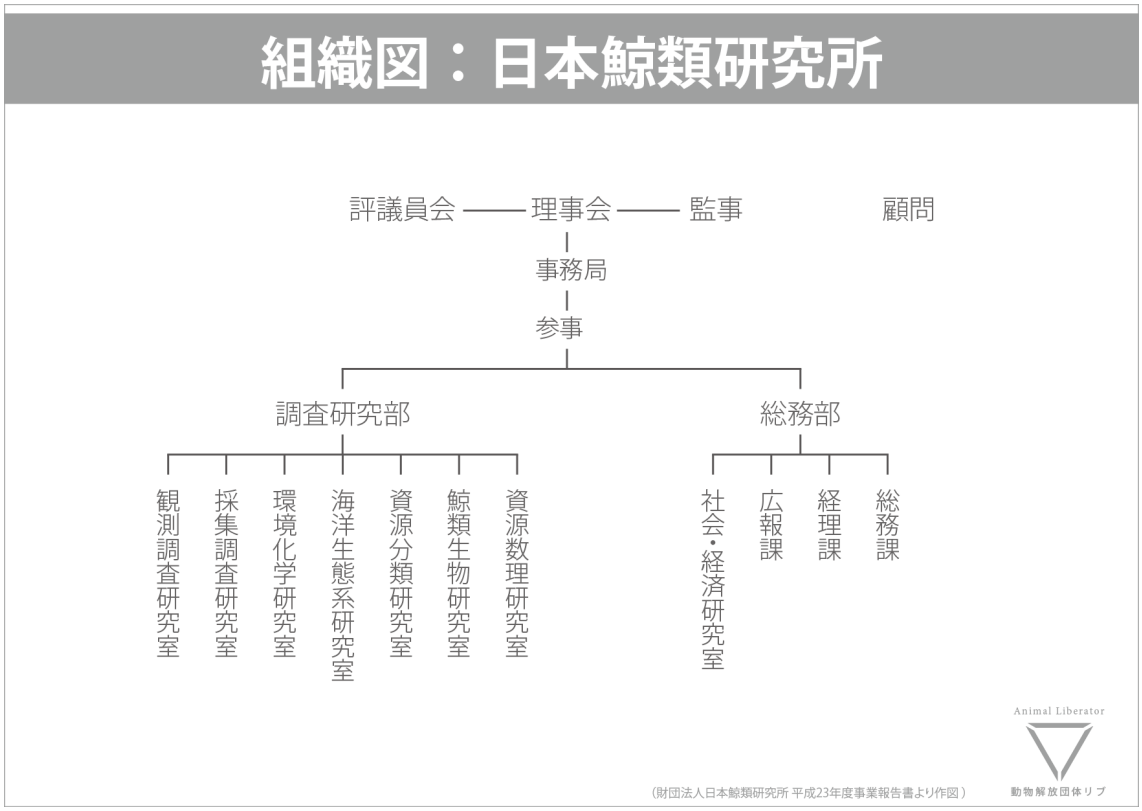
［一般財団法人 (一財)］

日本鯨類研究所［URL：https://www.icrwhale.org/］

英語名　The Institute of Cetacean Research

略称　ICR

［組織図：日本鯨類研究所］



沿革

1947　(財)鯨類研究所創設（(財)中部研究所が母体）

1956　(財)日本捕鯨協会鯨類研究所

1987　(一財) 日本鯨類研究所設立

調査捕鯨の実施主体。鯨研（げいけん）とも呼ばれます。
捕鯨推進、鯨肉の販促ウェブサイト「くじらタウン」を運営。
［URL：https://www.kujira-town.jp/management/］

［一般社団法人 (一社)］
日本捕鯨協会
［URL：https://www.whaling.jp/］
小型捕鯨協会（＝日本小型捕鯨協会）（旧 地域捕鯨推進協会）
2010 政府から2億6500万円の補助金を得て沿岸の調査捕鯨を行っています。
［URL：日本小型捕鯨協会：http://www.jstwa9.com/home-modoru.htm］
［URL：地域捕鯨推進協会：http://www.ascobaw.com/index-j.html］
大日本水産会
［URL：https://suisankai.or.jp/］
漁業情報サービスセンター
［URL：https://www.jafic.or.jp/］
自然資源保全協会
［URL：http://www.ggt.or.jp］

［国立大学］
政策研究大学院
［URL：https://www.grips.ac.jp］
東京海洋大学
［URL：https://www.kaiyodai.ac.jp］
東京商船大学と東京水産大学が統合し設立された大学

［民間企業］
共同船舶株式会社
［URL：http://www.kyodo-senpaku.co.jp］
鯨類資源研究刊行会
［URL：https://cpops.jp/jp/organization/index.html］

［その他捕鯨関係団体］
捕鯨を守る全国自治体連絡協議会
釧路クジラ協議会
［URL：https://www.suisan-kushiro.jp/kujira/project/］
南極海調査捕鯨支援の会

第二目　　天下りの実例

水産官僚の天下りルートの実例を一部示します。水産官僚が関係団体を次々と渡り歩いている様子がわかります。

藤田巖（ふじたいわお）

第六代 水産庁長官→ (一社) 大日本水産会会長→ (企業) 共同捕鯨（現 共同船舶）社長

岡井正男（おかい まさお）

第十一代 水産庁長官→ (企業) 極洋捕鯨取締役副社長→日本鮭鱒資源保護協会会長

島一雄（しまかずお）

水産庁次長→ (一社) 大日本水産会副会長→ (認可法人) 海洋水産資源開発センター理事長→ IWC日本代表→ (公社)日本水産資源保護協会会長

森本稔（もりもとみのる）

水産庁次長→ (一社)漁業情報サービスセンター会長→ (公財) 海洋生物環境研究所理事長→ (一財)日本鯨類研究所理事長　IWC日本代表

中前明（なかまえあきら）

水産庁次長→ (独行) 水産総合研究センター理事長→ (一社) 海外まき網漁業協会会長→ (一社) 大日本水産会理事　IWC日本代表

小松正之（こまつまさゆき 1953年-）

水産官僚（入省1977年）／IWC日本代表代理→ (独行) 水産総合研究センター理事→ (国大) 政策研究大学院大学教授

「ミンククジラは海のゴキブリ」と発言し問題になりました。

森下丈二（もりした じょうじ 1957-）

元水産官僚（入省1982年）／捕鯨問題等日米漁業交渉を担当、IWC日本代表→ (独行) 水産総合研究センター→ (国大) 東京海洋大学海洋政策文化学部門教授。2018年IWC議長。The Coveに出てきた白髪の人物。

映画「The Cove 」中やその他の場で日本のIWC代表の発言はあまりに厚顔無恥で、日本人として恥ずかしく居た堪れない思いになります。その発言を聞いた活動家が「なんてバカなんだ」と嘆息していました。しかし実際はすべて分かった上で発言しています。

第三項　財

財とは経済、ビジネスセクターのことです。捕鯨産業の中心は、母船式捕鯨は共同船舶株式会社。基地式捕鯨は下道水産、鮎川捕鯨、外房捕鯨、太地漁協の4社。

そしてそれを取り巻く、卸売業者、加工業者、小売業者、鯨肉販売店、スーパー、飲食店、ペットフード販売業者、流通業者、造船所等が存在します。

第四項　学

鯨族を研究する学問は、鯨類学あるいはクジラ学と呼ばれます。最初期の鯨類学者の1人はアリストテレスであり、今日の鯨類学の基礎を作りました。日本の鯨類研究は、資源としての鯨類を研究する学問が中心です。

第一目　研究所

国立研究開発法人 水産研究・教育機構　北海道区水産研究所

場所　北海道札幌市豊平区中の島2条2-4-1

［URL：http://hnf.fra.affrc.go.jp/sosiki/sosiki.html#sosikizu］

日本鯨類研究所

場所　東京都中央区豊海町4-5 豊海振興ビル5階

［URL：https://www.icrwhale.org/］

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 国際水産資源研究所 外洋資源部 鯨類資源グループ

場所　横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ100 6階

［URL：https://www2.fra.go.jp/xq/］

国立極地研究所（大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所）

場所　神奈川県横浜市金沢区福浦2-12-4

［URL：http://fsf.fra.affrc.go.jp/sosiki/labo_kujirakanri2012.htm］

第二目　大学

東京海洋大学

海洋科学部 海洋環境学科

場所　品川キャンパス（東京都港区港南4-5-7）

［URL：https://www2.kaiyodai.ac.jp/~gnakam1/index.html］

帝京科学大学

生命環境学部 アニマルサイエンス学科・自然環境学科

場所　東京西キャンパス（山梨県上野原市八ツ沢2525）・千住キャンパス（東京都足立区千住桜木2-2-1）

［URL：https://www.ntu.ac.jp/index.html］

三重大学

生物資源学部 生物資源学研究科

場所　上浜（栗真）キャンパス（三重県津市栗真町屋町(くりまちやちょう)1577）

［URL：https://www.bio.mie-u.ac.jp/］

附属鯨類研究センター

2016年開設。水族館の持続的な鯨類の飼育展示を目的とし、基礎研究、人工繁殖研究、凍結精子の保存などを行っている。

［URL：附属鯨類研究センター：https://youtu.be/Ue6pc9ZqM1A］

京都大学

野生動物センター

場所　京都大学関田南研究棟内（京都市左京区田中関田町 2-24）

［URL：https://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/］

近畿大学

農学部 水産学科 海棲哺乳類研究室

場所　奈良キャンパス（奈良県奈良市中町3327−204）

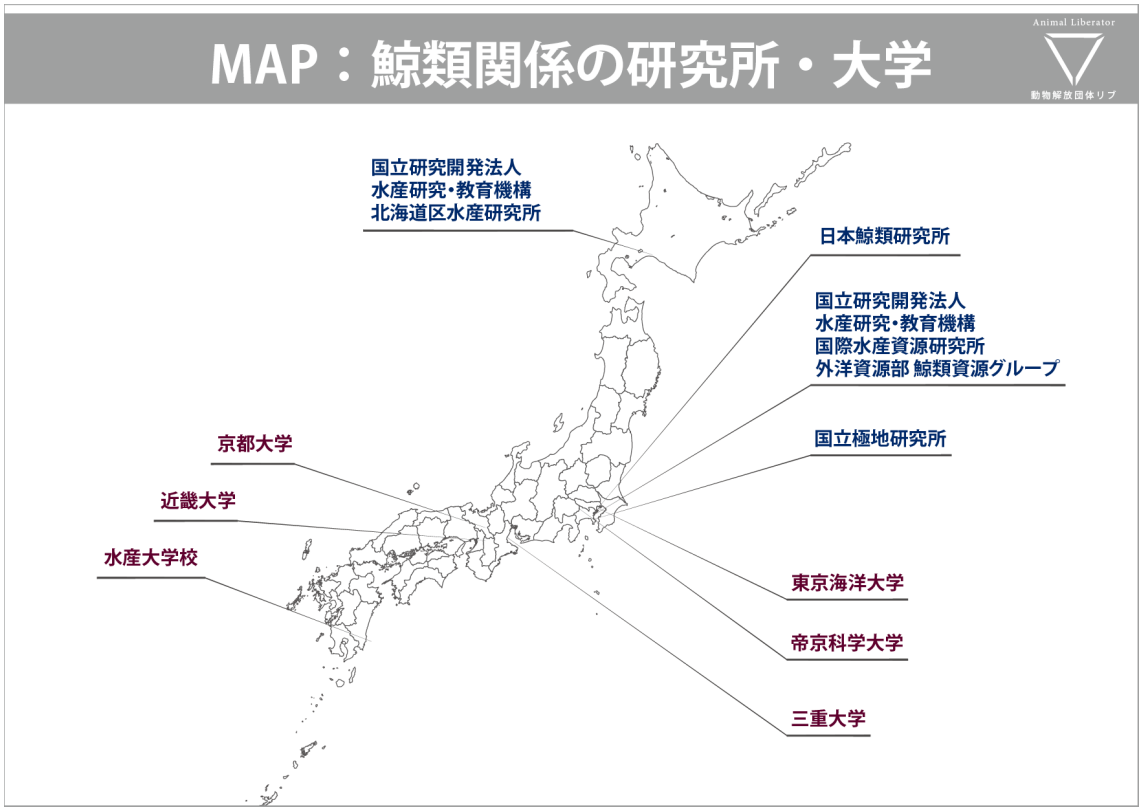
［URL：https://mm-kindaiuniv.jimdofree.com/］

水産大学校（国立研究開発法人 水産研究・教育機構　水産大学校）

場所　山口県下関市永田本町2-7-1

［URL：https://www.fish-u.ac.jp］

［MAP：鯨類関係の研究所・大学］



第三目　学者

捕鯨業界に特に関係する鯨類学者を列挙します。

大村秀雄

1906年2月3日 - 1993年1月13日

(財)鯨類研究所理事長、(財)日本捕鯨協会鯨類研究所所長、(一財) 日本鯨類研究所顧問

東京帝国大学農学部水産学科卒、農林省水産局、農学博士
西脇昌治（にしわき まさはる）
1915年1月23日 - 1984年4月14日
鯨類研究所主任研究所員
東京帝国大学農学部水産学科卒、農学博士、東京大学教授、東京大学海洋研究所長、琉球大学教授、、日本哺乳動物学会会長
第二次対戦後、日本の食糧危機に対応するため行われた南氷洋捕鯨の、第二次南氷洋捕鯨船団に乗り込んだ経験をまとめた「南氷洋の捕鯨」は当時の様子を伝えている。
大隅清治（おおすみ せいじ）
1930年7月12日 - 2019年11月2日
日本鯨類研究所理事長、顧問
東京大学農学部卒、農学博士、水産庁遠洋水産研究所長
利益追求の捕鯨ではなく、持続可能な捕鯨を主張。
粕谷俊雄（かすや としお）
1937年 -
日本捕鯨協会鯨類研究所所員
京大学農学部卒、海洋生物学者、三重大学生物資源学部教授、帝京科学大学教授
著書に「イルカ 小型鯨類の保全生物学」「イルカ概論 日本近海産小型鯨類の生態と保全」等
加藤秀弘
1952-
北海道大学水産学部卒、鯨類研究所、遠洋水産研究所、東京海洋大学
IWC科学委員会委員、IUCN鯨類専門グループ委員
著書に「クジラ・イルカの疑問５０」「クジラ博士のフィールド戦記」等

上記の方々のご著書をいくつか読ませていただきました。鯨族や鯨族研究について学べたとともに、学者それぞれの価値観、ご主張があり、鯨類研究者が一枚岩で捕鯨を擁護しているのではないといういことも知りました。私たち活動家がそれぞれの主張があり、一枚岩ではないと同様です。

第四目　批判

捕鯨共同体の意を汲み、諸外国で工作にあたる学者がいます。彼らの原資は税金です。
日本の鯨類学者に対する批判は非常に大きいものです。捕鯨業者が学者を批判することもあります。
「日本の捕鯨推進派学者の主張する「太平洋には鯨資源が豊富」で、三〇万頭とか四〇万頭とか言われているが甚だ疑問とするところである。　沿岸捕鯨の現状とソビエトの三捕鯨船団並びに日本三船団による北洋捕鯨の終末を知る者として、厳正中立な立場に立っていうな

れば、アメリカの反捕鯨の主張する数字の方が信憑性が高い。」（近藤勲, 日本沿岸捕鯨の興亡）
一方、水産庁、日本鯨類研究所や科学者は、IWCを科学的でないと批判し、自らにこそ正当性があると主張します。しかし戦前戦後度重なる警告を無視し、乱獲・違法操業を繰り返し、海賊捕鯨を行い、調査捕鯨という擬似商業捕鯨を行ってきた捕鯨共同体にお墨付きを与えてきた科学者の意見をまともに聞くことは、科学的な態度だとは思えません。

第五項　法・報・暴

法曹界に関しては、例えば捕鯨に関する訴訟は、グリーンピースの宅配便窃盗事件に見るように、明らかに捕鯨共同体擁護に偏っているようです。

報道に関しては、以下をご参照ください。
［本文参照：第七部 第三章 第二節 第二項 第三目　報道～日本のメディアの特徴～］

暴力団に関しては、［本文参照：第四部 第六章 第四節　アジアでの海賊捕鯨と密輸］で触れたように、過去には捕鯨業界との関わりがありました。1992年暴対法が施行されて30年経った現在、捕鯨業界と暴力団との関係があるかは不明です。

第七節　環境破壊

第一項　捕鯨による環境破壊

環境そのものであるクジラを殺す

クジラたちは存在するだけで地球環境を改善します。

［本文参照：第一部 第二章 第一節 第十項　地球環境を改善するクジラたち］

つまり捕鯨とは、IMF（国際通貨基金）が発表したレポート「自然界が示す気候変動の解決法　クジラ保護政策が温室効果ガスと地球温暖化の抑制につながる可能性」に記載されている、地球環境に対する鯨族の存在のメリットを破壊する行為と言えます。

［URL：https://www.imf.org/external/japanese/pubs/ft/fandd/2019/12/pdf/Chami.pdf］

レポートにある地球環境に対する鯨族の存在のメリットの一部を箇条書きにまとめ再掲します。

① クジラの移動が地球環境を改善する。クジラが移動（ホエール・ポンプ、ホエール・コンベヤベルト）し、海水を攪拌、排泄することによって、植物プランクトンを何倍にも増加させ、環境を改善させる。

②クジラの体が炭素を蓄積する（バイオマス炭素）

③鯨骨生物群集 に貴重な閉鎖系の生態系が形成される

④クジラの増加が地球環境を改善する。クジラの生息数が捕鯨開始以前の水準に回復した場合、年間17億トンのCO2を吸収。日本のCO2総排出量を吸収する

⑤クジラの金銭的価値。大型クジラが生み出す価値は控えめに見ても1人平均200万ドル＝2億1877万円。現在生息する大型クジラ全員ではゆうに1兆ドル＝109兆3860億円（1$=¥109.39）を超える

捕鯨共同体は、クジラを殺すことにより、これらのメリットを消しています。彼らは自分達の利益のために、クジラの利益はもちろん、地球人全体の利益を損なっています。

日本近海の海洋環境破壊

商業捕鯨の再開に伴い、日本のEEZ内のクジラが殺されています。今後生息数は減っていくでしょう。この行為によって、日本近海の海洋環境、海洋生態系のバランスが崩れ、破壊が進むでしょう。それが明らかになってくるのはしばらく先。

そのとき水産庁や捕鯨共同体は、「クジラが獲れなくなってきたのは気候変動のせい、海洋環境の変化のせい、海流の変化のせい、海水温の変化のせい、クジラ自身が魚やオキアミなどを食べすぎたせい、人間には計りかねる自然の摂理」などと主張し始めます。

第二項　グリーンウォッシング

グリーンウォッシング、SDGsウォッシング

グリーンウォッシングとは、企業や団体などが、環境への取り組みを行っているように見せること。目的としては企業イメージの向上でありマーケティング戦略。実態としては実効性を伴うほど環境に配慮しておらず、さらには環境を破壊を推進しています。
SDGsウォッシングとは、企業や団体などが、SDGsに取り組んでいると見せながら、実際は取り組んでいるポーズを取ること、あるいは取り組んでいないこと、実態として環境破壊を進めていることです。

捕鯨のグリーンウォッシング、SDGsウォッシング

日本の水産庁は、「クジラの増加は環境を破壊し捕鯨が環境保護につながる」と主張しています。まるでクジラは環境に存在する異物であるような言い方です。当然ながら、クジラは環境そのものです。つまり水産庁は「環境を破壊することが、環境保護につながる」という理論とも言えない理論を主張しています。これまでクジラをはじめとする海洋生物を殺し続け、環境破壊をし続けてきた水産庁に、環境を守る力などあるはずもありません。
生態系が安定していた海の環境が破壊され始めたとき、新たに海に進出してきた侵入者は人間であり、捕鯨業者であり、漁業者であり、水産庁す。彼らが環境破壊の原因なのは明らかです。
共同船舶のウェブサイトの、建造予定の新母船についてというページには、「３．新母船のSDGsへの取り組み」という記載があります。
［URL：http://www.kyodo-senpaku.co.jp/new-mothership.html］
中身を見ますと、電気消費量を抑える、燃費向上、真空式トイレの設置などがSDGsの取り組みとしているようです。しかし彼らが捕鯨を止めれば、これら全てが不要であり、燃費を使うこともなく、温室効果ガスを出すこともなく、海を汚すこともなく、そして海洋環境に与えるダメージは0になります。

第三項　水産庁レッドリスト

最も権威があるレッドリストはICUN：国際自然保護連合が作成したレッドリストです。
［本文参照：第二部 第三章 第二節　IUCN］
日本では、IUCNの政府機関会員である環境省が陸上生物のレッドリストを作成しています。しかしながら海の生物に関しては、水産庁がレッドリストを作成しており、問題があります。
水産庁の任務は、「水産資源の適切な保存及び管理・水産物の安定供給の確保・水産業の発展並びに漁業者の福祉の増進」であり、あくまでも漁業者の利益に資する政策を行うことです。実際これまで、鯨類、マグロ、ウナギなど、常に漁業者の意向や利益や省益を優先し、保護に失敗してきました。それどころか、国際機関や各国政府に批判されても、科学的だと称する科学的でない主張を持ち出し、環境破壊に加担してきました。つまり水産庁は、海生

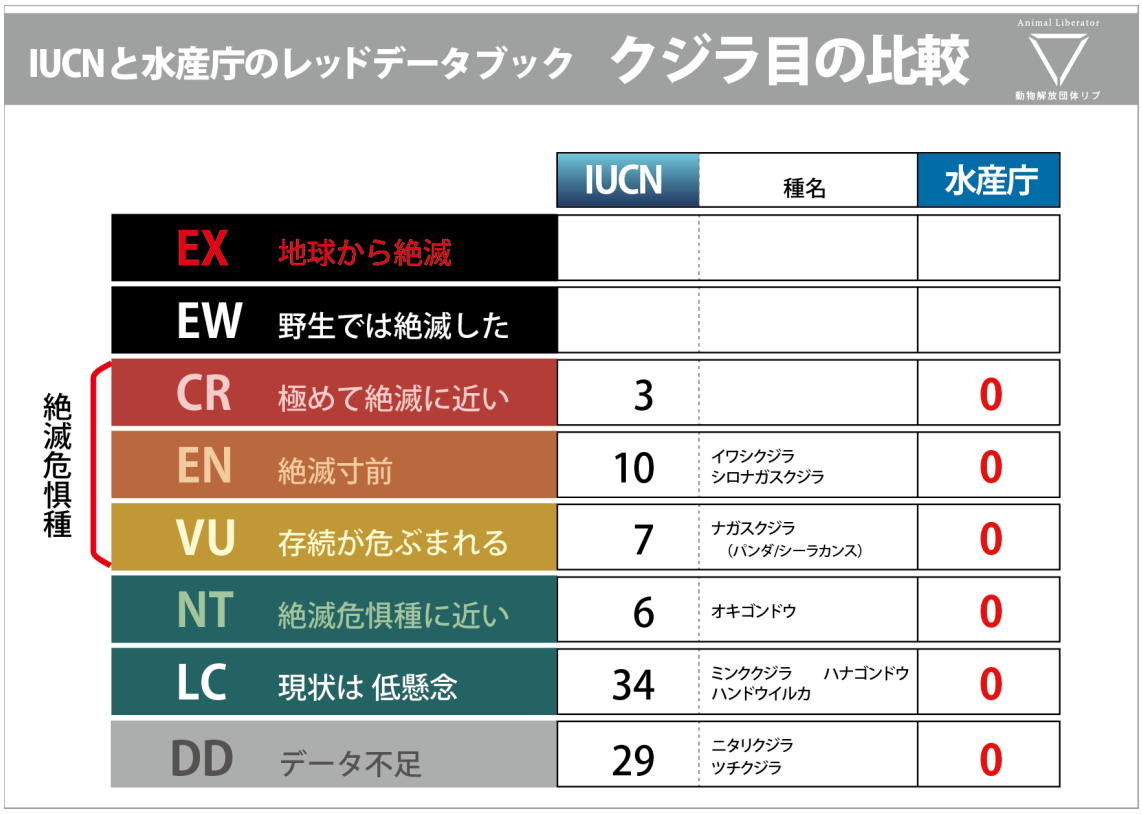
生物を守るべきレッドリストを作成するには、不適であると結論づけられます。海洋動物に関しても、環境省 自然環境局 野生生物課 **希少種保全推進室**が担当すべきです。

第四項　国際条約と環境と捕鯨

第一目　ワシントン条約（CITES）留保問題

日本は、CITES付属書に記載されている動物の国際取引を行なっています。国際法上の「留保」とは、国際条約において特定の条項を自国には適用しないと表明することです。つまり条約を守らないと宣言することです。日本は、ワシントン条約が定めた種を留保し、国際取引禁止を拒否しています。留保の理由は、国内産業の保護。CITESIには、捕鯨の捕獲対象種も入っています。日本が留保している種は以下。

［図：IUCNと水産庁のレッドデータブック クジラ目の比較］



CITES附属書Ⅰ：クジラ10種

捕鯨の捕獲対象種4種：ニタリクジラ、イワシクジラ、ミンククジラ、ツチクジラ

捕獲対象種外6種：ナガスクジラ、マッコウクジラ、ミナミミンククジラ、ツノシマクジラ、カワゴンドウ、オーストラリアカワゴンドウ

*イワシクジラは北太平洋の個体群並びに東経0度から東経70度及び赤道から南極大陸に囲まれる範囲の個体群を除く

*ザトウクジラ、イワシクジラ（北太平洋）に関しては、学術目的であれば水産庁が許可を出す。ただしピーター・サンド教授（元ワシントン条約事務局長、国際法学者）は、これは違法行為にであるとしている。

CITES附属書Ⅱ：11種類

ジンベイザメ、ウバザメ、タツノオトシゴ、ホホジロザメ、ヨゴレ、シュモクザメ3種、ニシネズミザメ、クロトガリザメ、オナガザメ類

ワシントン条約違反問題

日本は調査捕鯨時代、CITESに違反していると国際的な批判を受けていました。日本は公海で捕獲したCITES対象種クジラを日本に持ち込んでおり、これは明らかなCITES違反です。ロシアのソチで開催されたワシントン条約第70回常設委員会会合では、委員会のメンバーほぼ満場一致で日本は条約違反を犯していると結論づけました。違反した条文と違反内容は以下です。

第3条 5(c) 違反→ 主に商業目的での保護されたクジラ種の海からの輸入がこれに当たる。

第8条 7(a)→ 海洋種の報告義務の不履行がこれにあたる。

《参考》

第3条 附属書Iに掲げる種の標本の取引に対する規制

5 附属書Iに掲げる種の標本の海からの持込みについては、当該持込みがなされる国の管理当局から事前に証明書の発給 を受けていることを必要とする。証明書は、次の条件が満たされた場合にのみ発給される。

(c) 当該持込みがなされる国の管理当局が、標本が主として商業的目的のために使用されるものでないと認めること。

第8条　締約国のとる措置

7 締約国は、この条約の実施に関する次の定期的な報告書を作成し、事務局に送付する。

(a) 6(b)に掲げる事項に関する情報の概要を含む年次報告書

＊6(b) 発給された許可書及び証明書の数及び種類、取引の相手国、標本の数又は量及び標本の種類、附属書I、附属書II及び附属書IIIに掲げる種の名称並びに可能な場合には標本の大きさ及び性別

第二目　CMS（ボン条約）未加盟問題

CMS付属書Ⅰは、絶滅の危機にさらされている移動性動物種のリストです。15種の鯨族がリストされており、その中には日本が商業捕鯨を行っているイワシクジラが含まれています。今後捕獲対象種に入るかもしれないナガスクジラもリストされています。

CMS付属書Ⅱは、現在好ましくない保護状態下にあって、国際間の協力が必要とされている種のリスト。母船式捕鯨捕獲対象種：イワシクジラ、基地式捕鯨捕獲対象種：ツチクジ

ラ、イルカ漁捕獲対象種：イシイルカ、リクゼンイルカ、スジイルカ、マダライルカ、バンドウイルカ、ハナゴンドウがリストされています。

ボン条約を批准すれば、捕鯨共同体、イルカ漁共同体にとってはこれまで以上に批判が集まることは確実で、水産庁としてはなんとしてでも避けたいでしょう。

しかし、人間が定めた国境など関係なく、動物たちは地球を旅しています。日本のように1国が移動性動物を殺害し続ければ、地球規模ダメージを与えることになります。日本政府は、近視眼的で経済優先的な政策ではなく、地球の一員として未来につなげるためにもボン条約を批准すべきです。

第八章　将来

第一節　捕鯨のメリット・デメリット

捕鯨産業維持は国益か

「第七章　捕鯨問題」を受けて、メリットとデメリットを比較してみましょう。国益は当然ながら、有形無形のメリットとデメリットを勘案し、メリットの多い方を選択しなければなりません。

金銭的なメリットデメリット

捕鯨による利益は、捕鯨産業や卸、小売、外食産業など少数の人々のみに分配されています。その他多くの日本人にとっては、経済的利益はゼロであり、ほとんどの人はクジラ肉もイルカ肉も食べません。

それどころか、毎年将来性も正当性も無い斜陽産業に大量の税金が投入され、捕鯨共同体は毎年補助金を手にしています。つまり鯨族を保護したい人々であっても、捕鯨・イルカ漁産業の存続を強制的にサポートさせられています。金銭的なメリットがあるのは捕鯨産業・周辺産業のみ、国民はその存続のために税金を支払うデメリットを被っています。

日本人としてのメリットデメリット

日本人は国際社会に通用しない論理や研究を振りかざし、クジラやイルカの捕獲殺害を熱狂的に支持する人々と認識されているでしょう。しかしこれは、日本人がPR会社のプロパガンダや、水産庁などの情報コントロールによって洗脳されてしまったことに原因があります。私は、この状況を考えるときいつも、第二次世界大戦の大本営のプロパガンダと、その発表を盲目的に信じてしまった国民を思い出します。

国家が捕鯨を推進していることから受ける日本人としてのメリットは、ほとんど0だと考えます。何かメリットがあったでしょうか。デメリットは、非倫理的イメージ、環境や動物権利意識が低いイメージ、嘘つきのイメージ等多々あります。

日本国家としてのメリットデメリット　国益と省益

メリットがあるのは水産庁を中心とする捕鯨利権に関係する極一部の人々のみ。他の省庁にメリットはほとんど無いでしょう。捕鯨は国際社会からネガティブな評価を受けるだけであり、国際交渉の場において足を引っ張る存在です。国益全体にとって捕鯨はデメリットをもたらしています。

デメリットとメリットを比べると、どう考えてもメリットは少なく、デメリットの方が多い。冷静に考えれば捕鯨中止という結論が出ます。

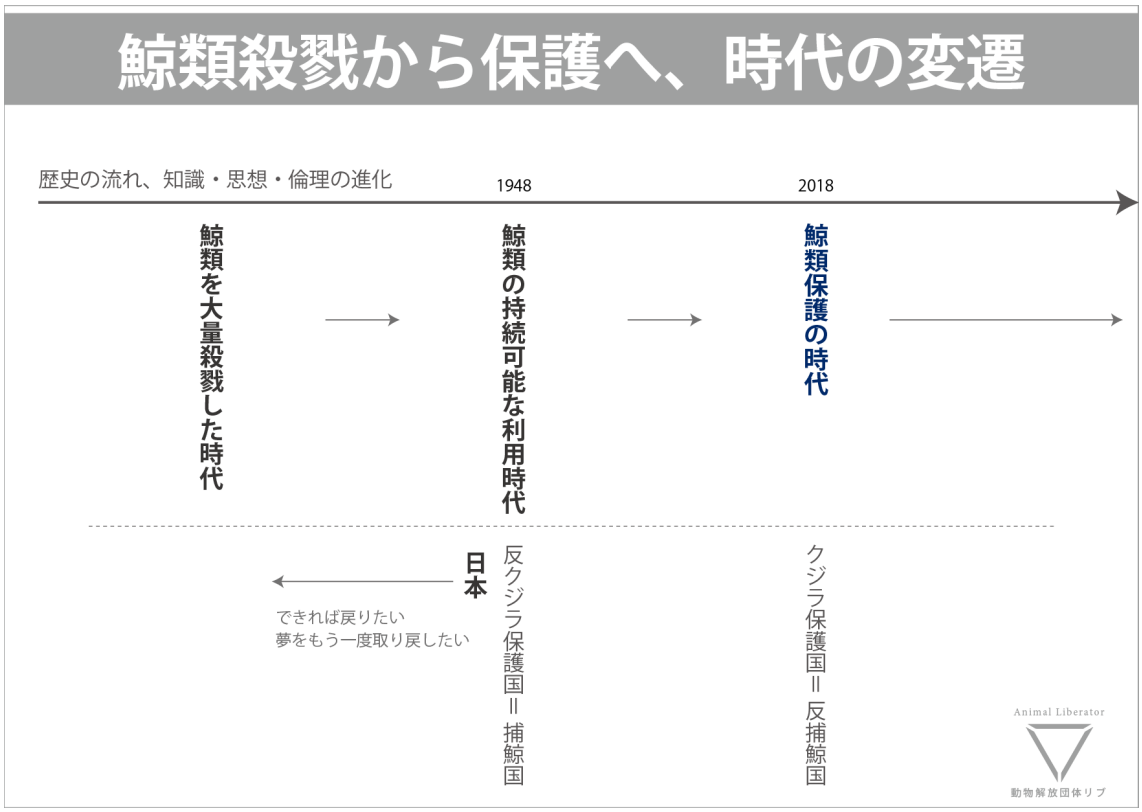
第二節　将来

第一項　世界の動向

かつて鯨類を大量虐殺した時代の反省を経て、世界は鯨類の持続可能な利用時代にシフトしました。そして、2018年フロリアノポリス宣言以降、IWCは鯨族保護の時代にシフトしようとしています。世界の趨勢はクジラ保護であり、今後この流れは進むことはあっても戻ることはありません。日本人も鯨族の尊厳に意識を開き、認識を進化させる必要があります。実際に世界でも日本でも、クジラを守ろうとする人々は増加しており、捕鯨産業は衰退傾向にあります。大きな流れをまとめると以下となります。

「鯨族を絶滅寸前まで殺戮した時代→ 鯨族の持続可能な利用時代→ 鯨族の保護の時代」

［タイムライン：鯨族殺戮から保護へ、時代の変遷］



新しい文化を紡いでいく

かつての捕鯨国のほとんどは「鯨族保護の時代」に移行しましたが、その流れの中、日本、ノルウェー、アイスランドは反クジラ保護の先頭に立ち、特に日本は「鯨族の持続可能な利用時代」に留まろうと腐心しています。捕鯨共同体の中には「鯨族を大量虐殺した時代」の栄光に戻りたいと思っている人でしょう。彼らの姿は、太平洋戦争やバブルにしがみついた人々の姿とオーバーラップします。時代が終わっているにもかかわらず、完全に負けているにもかかわらず、欲と自己保身のために正しい判断ができず、その結果として日本人や日本社会に多大な犠牲をもたらしました。現在の捕鯨共同体の存在と同じ構造です。

人間と鯨族の文化は、人間による鯨族の搾取殺害を中心に紡がれてきました。日本の捕鯨共同体や水産庁、捕鯨・イルカ漁支持者は、日本の文化としての捕鯨がいかに正当か証明しようとしています。しかしながら、それは野蛮が現在も続いているということを証明しようとしていることにほかなりません。
日本と同様に世界中に捕鯨の文化はありました。鯨保護に転じた国々は、石油の発見と利用拡大が契機となり、また鯨族が絶滅の危機に瀕するほどに鯨族を傷つけてきたことに気がつき、捕鯨を断念しました。鯨族に関する知識、人間の行為の結果に関する知識が集積され、それは時に取り返しのつかない間違いをしてきたことを私たちは知りました。自分がやってきたことが間違いであったことに向き合い、反省し、自らを律する態度と、間違いであったことから目を背け利権を堅持し他者を貶めてまで正当化を試みる態度、どちらが立派な態度でしょうか。
過去の反省の先には、踏み出すべき新しい道が開かれます。私たちは、捕鯨の終焉、イルカ漁の終焉を実現するでしょう。終焉とは、歴史的な事象や役割の消滅、死という意味。クジラやイルカを殺す捕鯨やイルカ漁を終焉させ、クジラやイルカを生かす道に踏み出しましょう。

第二項　日新丸新造

世界の趨勢が、これからさらにクジラ保護にシフトしようとしている2022年、日本では捕鯨母船日新丸の新造計画が進められています。現在の日新丸は建造後34年経っており、かねてから新造の計画が立ち上がっていました。

新造計画のタイムライン

2021年5月　新日新丸建造を発表
2022年2月　旭洋造船と契約
2023年6月　起工
2023年9月　進水
2024年3月　竣工予定

旭洋造船は、山口県下関の造船会社です。
［URL：施設：https://www.kyokuyoshipyard.com/ja/company/facilities.html］

予算

約60億円。当初150億円近くになると想定されていました。共同船舶は、補助金への批判を受け、建造費を融資やクラウドファンディングで調達する予定と発表しています。

船の大きさ比較

現日新丸：新日新丸

総トン数　8,145ｔ：8970ｔ
全長　129.58m：112.6m
型幅　19.40m：21m
最大速力　17.49ノット：12ノット
最大搭載人員　165名：91名
探鯨用大型高性能ドローンデッキを搭載します。

問題点は、
母船式捕鯨が続く
日新丸新造によりコストがかかるため、コストを回収し収益を上げるまでは、母船式捕鯨が続いてしまう可能性が高くなります。その間、クジラは殺され続けてしまうことになります。
南極海で操業できる仕様
新日新丸は、 航続距離7000海里（約1万3000km）で、南極海に到達可能です。つまり南極海での操業を視野に入れており、それに伴いIWC等に働きかけていく可能性もあります。そうなれば国際的な信用はさらに落ちることになります。所英樹社長は、南極海に行くのは食糧危機の時と言っていますが、先にも書きました通り、食糧危機の時に南極海にまで船を出す余裕があるかというと疑わしいですし、日本中に行き渡ることはありません。
ナガスクジラを収容できる規模
鯨の中で2番目に大きいナガスクジラを収容できるということは、シロナガスクジラ以外のすべてのクジラを捕獲対象にできるということです。
利権が続く
母船式捕鯨を続けるということは、水産庁捕鯨室第一班が存続し、その人数分の雇用と天下りが続いていくということになります。また、日本鯨類研究所をはじめとする所管法人や、捕鯨産業等も同様に存続することができます。捕鯨共同体、捕鯨利権が生き残り、わたしたちの税金が投入され続けるということになります。

日新丸が建造されたなかったら、殺されないクジラの数
毎年2021年度捕獲枠で考えますと、毎年212名（ニタリ187、イワシ25）のクジラが殺されずにすみます。

第三項　クジラ保護の進化

宇宙から個々のクジラを追跡することが可能に
オタワ大学が衛星写真を使って、タイセイヨウセミクジラの位置を特定し撮影しました。この技術はクジラの生態の解明はもちろん、絶滅危惧種の保護、船との衝突の回避などにも使えます。

日本周辺のクジラの個体識別をしそれぞれにGPS発信機をつければ、生息数の解明に役立ちますし、またどのクジラがいつ捕鯨されたかわかり、社会に啓発できるようになるかもしれません。

［URL：https://news.theearthsite.greatergood.com/satellite-images-identify-whales/?gg_medium=content&gg_source=tes&gg_campaign=dolphin-riverbed-rescue&gg_content=recommended-belowcontent］

第五部　イルカ漁

第一章　共通

第一節　イルカ漁の種類

イルカ漁は、法律、水産庁、都道府県、活動家等、表現する主体によって、いるか漁、いるか漁業、イルカ漁業、イルカ猟などさまざまに表記されます。

［イルカ漁は2種類］

イルカ突き棒漁

近づいてきたイルカに、船の上からモリを打ち込み、弱らせてから引き上げ殺害する漁法。イルカを食用に給するための漁です。

イルカ追い込み漁

漁船に乗り込み、鉄管から音を出してイルカを脅し、陸地に追い込み、捕獲あるいは殺害する漁法。捕獲した場合は水族館へ販売、殺害した場合は食用にするための漁です。

［許可について］

いるか漁業は知事許可漁業です。知事（実際は各道県の所管課）に申請し、許可を受けます。

イルカ突き棒漁

漁船ごと（実際は漁協が取りまとめて）に申請し、許可証が発給されます。発給されている許可漁船数は後ほど示します。

イルカ追い込み漁

事業体ごとに申請し、許可証が発行されます。現在は、和歌山県太地町のいさな組合にのみ許可証が発給されています。

［都道府県ごとの名称］

イルカ漁は知事許可漁業のため、各都道府県によって名称が異なります。
和歌山県では、
イルカ追い込み漁は、「鯨類追込網漁業」（げいるいおいこみあみぎょぎょう）
イルカ突き棒漁は、「いるか突棒漁業」（いるかつきぼうぎょぎょう）
と表記。

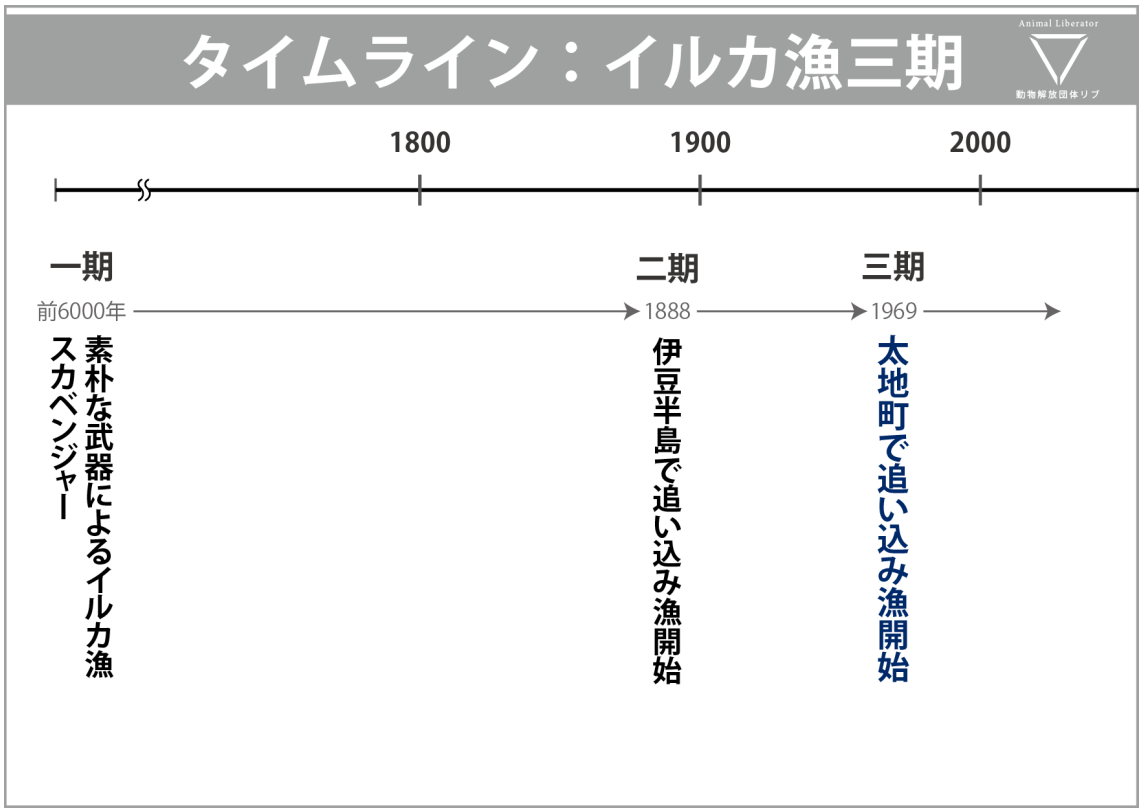
イルカ突き棒漁は、北海道・岩手・千葉・和歌山では「いるか突棒漁業」、沖縄では「イルカ突きん棒漁」あるいは単に「いるか漁業」と表記します。

なお、イルカ漁は商業捕鯨です。日本は、小型鯨類をIWC管轄外と解釈しているため、独断でイルカ漁を行っています。しかし、IWC加盟国の中には小型鯨類も含むすべての鯨族がIWCの管轄であると解釈している国もあります。イルカは人間が定めた国境やEEZを越えて移動する動物。IWCの監督下に置くべきでしょう。

第二節　年表

ここではイルカ漁の歴史を3期に分け、重要な出来事を記述します。突き棒漁は各地で継続的に行われていますが、近年とみに衰退傾向にあります。イルカ追い込み漁は「三期、太地町で追い込み漁開始」から、徐々に大きな問題になっていきます。1977年壱岐イルカ大量殺害で日本のイルカに対する非倫理性が世界的に有名になり、2009年公開の映画『ザ・コーヴ』でその悪名は決定的になり、今に至ります。

［タイムライン：イルカ漁三期］



一期：スカベンジャー・素朴なイルカ漁（前6000年〜1888年）

一期の開始は、紀元前6000年縄文時代。

昔から日本各地でイルカを食用としていました。かつては人々は漂着したイルカの遺体を食べていたと推察されます（スカベンジャー）。

不明の時期からモリを使ったイルカ漁（突き棒漁）が始まり、以降のいずれかの時期から、湾に迷い込んできたイルカを小舟で音を立てながら追い込む漁（追い込み漁）が始まったと考えられます（素朴な武器によるイルカ漁）。

前6000　現千葉県館山市、稲原貝塚から、人工的に加工された黒曜石が刺さったイルカの骨が出土。この石が遺体加工用として使用されたか、モリとして使用されたかは不明。

1563　植松文書で内浦湾（静岡県沼津湾）へのイルカの追い込みを命じた記述。

1838　頃。幕末、伊豆半島でイルカ追い込み漁を実施していたのは、湯川村、松原村、稲取村。

二期：伊豆半島で追い込み漁開始（1888年〜1969年）

二期の開始は、1888年(明治21)、現静岡県伊東市の川奈でイルカ追い込み漁が始まった時。以降伊豆半島全域にイルカ追い込み漁が広がり、大量殺戮と水族館への販売が増加しました。

1888　川奈(静岡県伊東市)でイルカ追い込み漁が始まる
1898　富戸(静岡県伊東市)でイルカ追い込み漁が始まる。川奈と富戸の対立が始まる。
1900　富戸の漁師が、イルカ漁を妨害されたため川奈の漁師をリンチ。
1903　富戸の漁師が、川奈の漁師の船を浸水させ海上に放置。7名が有罪判決を受けた。イルカ漁を中断。
1945　戦後の食糧難により捕鯨とイルカ漁が好況に。戦中鯨族は捕獲殺害されなかったため数が回復していた。
1951　静岡県が県内イルカ追い込み漁を許可制に。
1956　長崎県壱岐、漁師がイルカの駆除を開始。イルカが元々いた礁に人間が入り込み、害獣だと見なし駆除を行なった。
1957　農水省がイルカ漁業に関して都道府県別の総量統計を取る。
1958　静岡県伊豆、スジイルカ 20,000名弱殺害。乱獲のため、マダライルカに標的が移る。
1959　いるか猟取締規則公布。日本初のイルカ漁業取り締り法令。イルカの銃猟を禁止。
1967　長崎県壱岐、川奈のイルカ漁師2名を呼びイルカ追い込み漁を行うが失敗。
　　静岡県、川奈と富戸の漁師がイルカ漁を共同事業とする。
1968　壱岐、散弾銃（22口径 15丁）でイルカの駆除を行う。
　　和歌山県太地町、三好晴之氏(元くじらの博物館職員・イルカトレーナー、太地町議会議員、現ドルフィンベェイス社長)がバンガーを太地へ導入。

三期：太地町で追い込み漁開始（1969年〜）

三期の開始は、1969年(昭和44)、 和歌山県太地町でのイルカ追い込み漁が始まった時。
太地町でのイルカ追い込み漁は、昔から食用のために行われていましたものの、ここ12年間は行われていませんでした。1969年の再開は、同年開館した太地町立くじらの博物館への展示用イルカの供給を目的としており、くじらの博物館員主導で地元漁師に依頼する形で行われました。また、再開にあたって伊豆半島の技術であるチャンチャン（バンガー）による追い込み技術が導入されました。以降、太地のイルカ追い込み漁は、水族館への生体販売を

主目的として行われています。太地町は現在もイルカ漁推進派とイルカ保護派の対立の最前線の一つとなっています。

1969
04/??　太地、太地町立くじらの博物館開館。
くじらの博物館展示用イルカ捕獲のため、近代追い込み漁を開始。12年ぶりのイルカ追い込み漁。
07/22　太地、太地町初のコビレゴンドウ追い込み漁。バンガーを使用した追い込みも初めて。水族館主導による世界初のイルカ追い込み漁。コビレゴンドウ21名捕獲（17名くじらの博物館に監禁／子供一名斃死）。
07/27　太地、コビレゴンドウ46名捕獲（15名くじらの博物館に監禁／30名畠尻湾の生簀に監禁／1名殺害食用）。
※くじらの博物館に監禁された30名以上のコビレゴンドウたちは、翌年5月までに餓死や肺炎で次々と死亡。残り1名となった。
08/01　太地、畠尻湾で古式捕鯨を模したショーを行う。観光客の前で、イルカ漁師たちがコビレゴンドウ惨殺。コビレゴンドウはその場で解体販売されたが、誰も買わなかったと伝えられている。
1970
05/22　太地、くじらの博物館職員3名が、バンドウイルカをモリを刺して捕獲。バンドウイルカ1名は翌日死亡。
1970
07/25　太地、くじらの博物館職員が同様の方法でバンドウイルカを12名捕獲。同月中に5名死亡。
07/27　太地、コビレゴンドウ・バンドウイルカ 太地漁港へ追い込む。コビレゴンドウ18名とバンドウイルカ3名をくじらの博物館へ監禁。コビレゴンドウは翌年1月までに全滅。
09/16　 太地、バンドウイルカ106名を巻き網で串本のヨットハーバーへ追い込む。くじらの博物館へ52名、下関水族館へ10名、イルカ島へ7名、越前松島水族館へ4名、串本町観光協会へ3名、捕獲・移送時に23名が死亡、リリース7名。
1972　イルカの種別統計が本格的に取られ始める。
1973/02/12　太地、くじらの博物館開館後初めて、イルカ追い込み漁によるイルカの捕獲。マダライルカ100名を太地漁港へ追い込む。
1975　内田詮三(美ら海水族館初代館長)が沖縄国際海洋博覧会のために川奈と富戸の漁師にイルカの捕獲を依頼。奄美大島近海でバンドウイルカ30名捕獲。
1976　壱岐、バンガーの技術を導入しイルカ追い込み漁を開始。
1977　太地、新たな追い込み漁グループができる。
　川奈・富戸、バンドウイルカ27名捕獲を最後に1985年まで捕獲できず、水族館の買い付け先が太地に移る。太地のイルカ生体販売ビジネスが本格化。

02/22　壱岐、バンドウイルカ759名、オキゴンドウ251名、計1010名を追い込み殺害。報道され世界中から抗議が殺到。壱岐はこの後も大量のイルカを殺害し続けた。
1978　壱岐、デクスター・ロンドン・ケイト(地球共存協会、グリーンピース）が活動を開始。
1979/02　太地、シャチ6名捕獲。くじらの博物館3名、アドベンチャーワールド3名。
1980　太地、毎年大量のイルカを捕獲・殺害。この年は、スジイルカ12,835名、バンドウイルカ412名、コビレゴンドウ481名、計14,088名。
02/27　壱岐、「イルカ粉砕機」を導入。1時間に10名のイルカをミンチにする機械。イルカ1名につき1万円の補助金が出されたため殺害が加速、漁師たちは大金を手に入れた。イルカのミンチは油脂会社に無償提供された。
1982　水産庁がすべてのイルカ追い込み漁を知事許可漁業に。
1983　太地、二つのイルカ捕獲グループが合併。県知事許可方針は新規追い込み漁グループを認めず。イルカ追い込み漁が太地の独占事業へ。
1985/10　太地、イルカ追い込み漁でシャチのナミとゴローを捕獲。ナミはくじらの博物館の海のプールに監禁 （この時大量の石を飲み込み、後の死因になる）。 ゴローはアドベンチャーワールドに監禁。
1986/11/01　サンシャイン水族館・松島水族館・鳥羽水族館が、チリのマゼラン海峡でイルカ漁を行う。イロワケイルカ17名を捕獲し、3館で分配、監禁。現在日本の水族館に監禁されているイロワケイルカはこの時の子孫。
1988　太地、いさな組合（太地漁業内のイルカ追い込み漁漁師グループ）が発足。
1989　水産庁がすべてのイルカ突き棒漁を、知事許可漁業あるいは海区漁業調整委員会の承認制に。
　太地のイルカ漁から米軍がバンドウイルカ2名を買い付けられたとされている。
1990　**水産庁がイルカ捕獲枠を設定。**イルカ漁業において初めての捕獲枠。
1991　水産庁の指導通達により、資源量の少ないシャチについて原則として捕獲禁止（学術目的の捕獲は可能）。
1993　水産庁がイルカ漁業に、県別・鯨種別に捕獲枠を設定。1999まで変更無し。
1996/10　**違反イルカ漁事件**：静岡県伊東市富戸のイルカ追い込み漁で、許可されていないオキゴンドウを捕獲。報道を受けて抗議の声が上がり、バンドウイルカ100名以上とオキゴンドウが解放。すでに水族館に運ばれていたオキゴンドウ6名も10日後に解放。
1997
02/07　**太地シャチ捕獲事件。**10名のシャチがコーヴに追い込まれる。学術目的の捕獲名目。
02/10　シャチ10名のうち5名を捕獲(Taiji5)。女性3名(アスカ・クー・妊娠中の女性）男性2名(キュー・男の子）。アドベンチャーワールド3名、伊豆・三津シーパラダイス1名、太地町立くじらの博物館1名監禁。

1998/10/01　太地、鯨類追込網漁業の許可証更新に伴い重要な変更点あり。
①書類「鯨類追込網漁業の許可方針」が、「鯨類追込網漁業の許可方針」と「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の2書類に
②捕獲制限がより確認が難しい方法に変更される
「（体長の制限）6.2m以下の鯨類については放流する」（鯨類追込網漁業の許可方針）
↓
「（制限又は条件）２. 乳飲み稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類については、沖から地方へ群れを追い込んでくる過程において、出来うる限りの方法で追い込む群からの仕分け解放に努めること。」（鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領）
③シャチの捕獲を禁止（鯨類追込網漁業の許可方針）
④許可先が、太地漁協からいさな組合に変更
1999/10/13　静岡県富戸がイルカ追い込み漁再開。エルザ自然保護の会が映像を公開
［URL：日本のイルカ猟：https://youtu.be/LHUKwJ5p-ds］
2002/08/26　伊東漁協がイルカ漁再開宣言
2003/11　太地、シーシェパードメンバー2名が畠尻湾の網を切って12名のイルカを逃す。威力業務妨害で逮捕、罰金刑。
2004
04　イルカ突き棒漁が全ての道県において知事許可漁業に。
11/11　富戸が数百名のバンドウイルカを追い込む。水族館販売14名、殺害5名、斃死4名、その他リリース。これ以降イルカを獲っていない。
2006　太地、イルカ追い込み漁期が9/1～となる（それまでは10/1～）。
2007　**捕獲対象種追加**：カマイルカ年間360名（岩手突154名／静岡追36名／和歌山追170名）。水族館からの要望に応えたものと見られる。
2008/12　太地、屠殺方法を、長い銛でめった刺しにする方法から、フェロー諸島で使用している脊髄を切る銛に変える。
2009　太地町が太地町開発公社（第三セクター）を設立。イルカの販売先を隠すためと見られる（2009～2012までは決算報告署に販売数・価格が記載されていたが、2013以降それらもブラックボックスとなる）。
映画『ザ・コーヴ』（The Cove）公開。監督はルイ・シホヨス氏。2009年のサンダンス映画祭で観客賞、2009年度第82回アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞受賞作品。
2010
07　日本で映画『ザ・コーヴ』（The Cove）公開
09　太地、生簀の網が切られる(場所は不明)。オランダ拠点の環境保護団体「ブラックフィッシュ」が犯行声明。
2010
09/13　太地、シェパードがイルカの仕分け作業を撮影。日本の保守系団体がカウンター。

09/27　太地、シーシェパード：メンバーであり、ザ・ブラック・フィッシュのメンバーでもある3名が生簀の網を切断、国外に逃亡。

11/02　太地、町と反捕鯨団体（シーシェパードなど）で初の意見交換会。

2011　太地、和歌山県警察が太地町特別警戒本部を設置。イルカ漁期間中畠尻湾に太地町臨時交番を設け警察官を投入。

12/?　太地、シーシェパードメンバーが警備に当たっていた太地町在住の男性に暴行を加え容疑で和歌山県警に逮捕。

2012/10/08　太地、シーシェパードメンバーがくじら浜公園にある捕鯨モニュメントを破壊。和歌山県警に器物損壊の容疑で逮捕。

2013/11/19　エルザ自然保護の会が、JAZA（日本動物園水族館協会）会長山本茂行氏宛に追い込み漁で捕獲されたイルカの購入禁止の要望書を送付。

2014

03/28　エルザ自然保護の会、DolphinProjectなどがスイス・グラン市でWAZA（世界動物園水族館協会）にJAZAの除名を求める。国内167団体の請願書を提出。

08/09　WAZAが来日、JAZAと会合を持つ。議題はイルカ漁がWAZAの倫理規程に当たるか。

2015

04/22　WAZAがJAZAの会員資格停止を満場一致で決定。

05/22　JAZAが追い込み漁で捕獲されたイルカ購入の禁止を決定。

07/09　WAZAがJAZAの会員資格停止を解除。

2017/01/05　太地、ドルフィンベェイスで2つの生簀の網が切られる。イルカ4名が逃げ3名が生簀に戻る。調教期間は半年だった。

2017/10/22　アドベンチャーワールドのプールにイルカ漁反対のプラカードを持ってオランダ人(男性)とベルギー人(女性)が飛び込む。威力業務妨害の疑いで逮捕された。

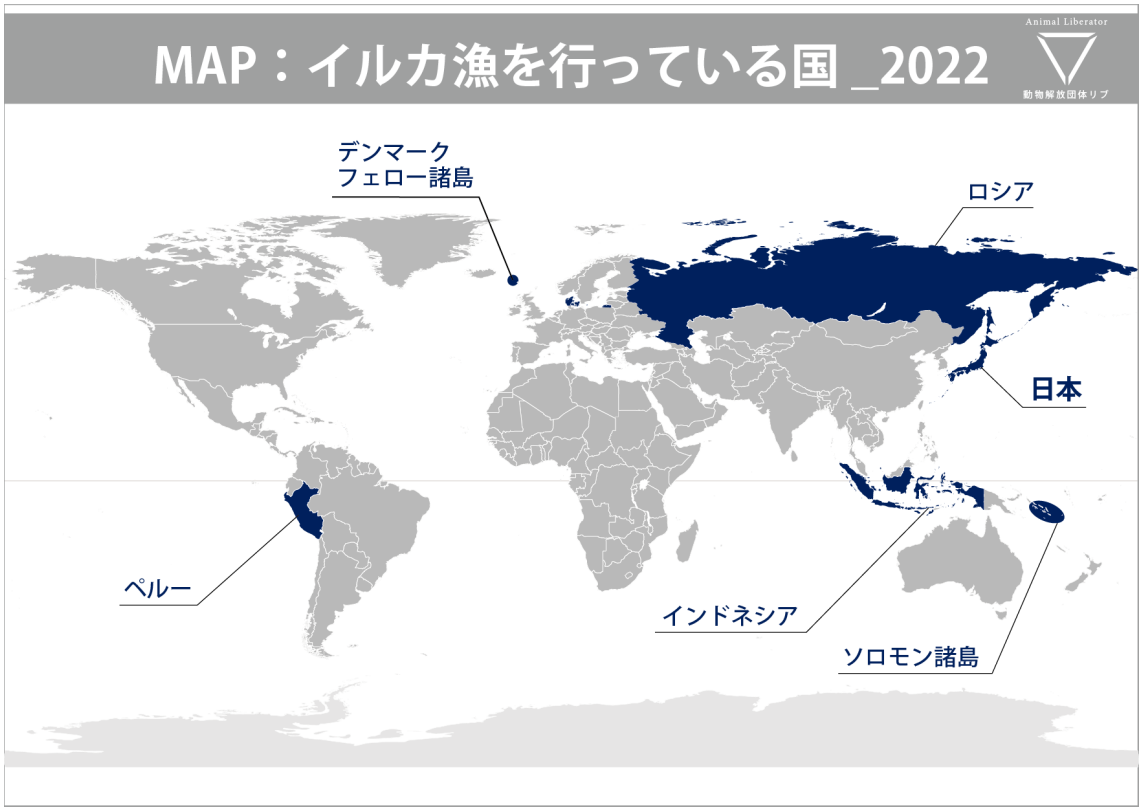
2018　**捕獲対象種追加**：シワハイルカ、カズハゴンドウ

第三節　MAP

イルカ漁、小型捕鯨かつては多くの国で行われていましたが、現在多くはありません。イルカやオキゴンドウ、コビレゴンドウ、ツチクジラなど小型のクジラを捕獲しています。

第一項　イルカ漁を行っている国

［MAP：イルカ漁を行っている国］



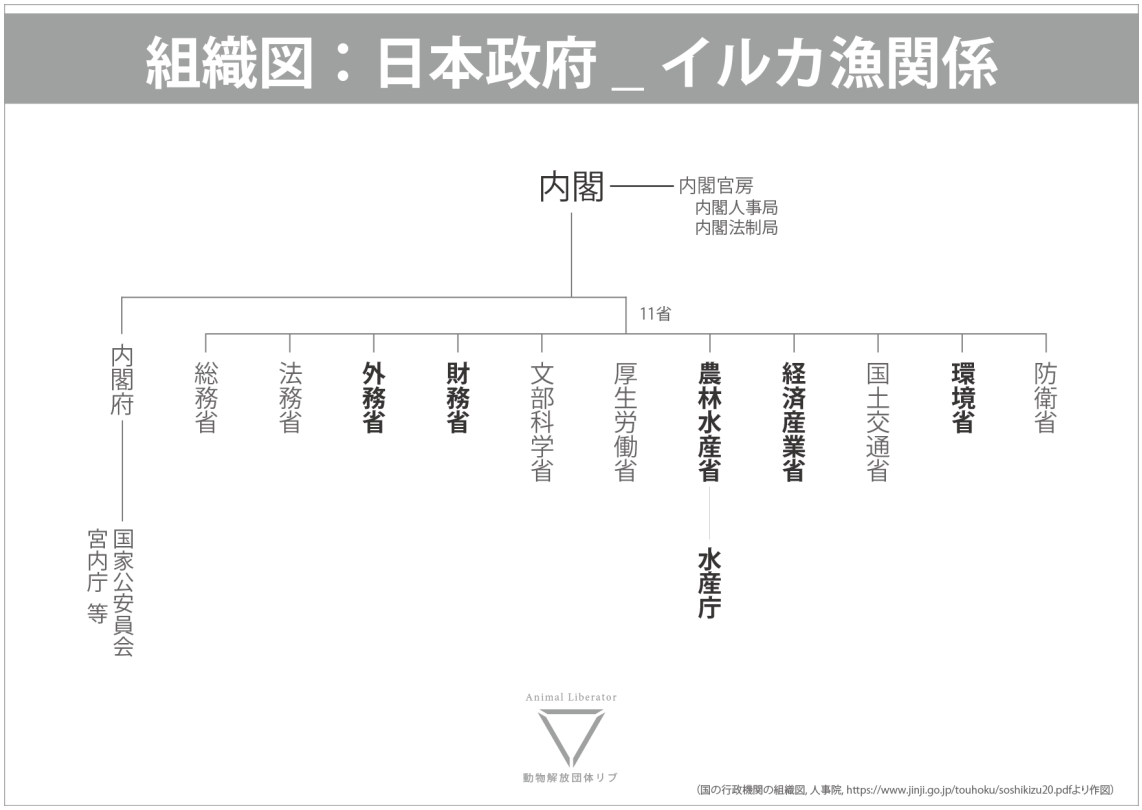
・日本
・デンマーク（フェロー諸島）
・ロシア
・インドネシア（レンバタ島 ラマレラ村(Lamalera)）突き棒漁
［URL：Dolphin Hunting, Lamalera：https://youtu.be/KIG0khzkCxA］
・ソロモン諸島（水族館展示用としてイルカを捕獲販売していたこともある）
・カリブ海諸国（グレナダ、ドミニカ、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、セントルシア）
・ペルー（違法だが漁師が捕獲している）

第四節　官庁・法令

第一項　日本政府_イルカ漁関係

イルカ漁に関係する主な官庁は、農林水産省(水産庁)・環境省・経済産業省・外務省 ・国土交通省。

［組織図：日本政府_イルカ漁関係］

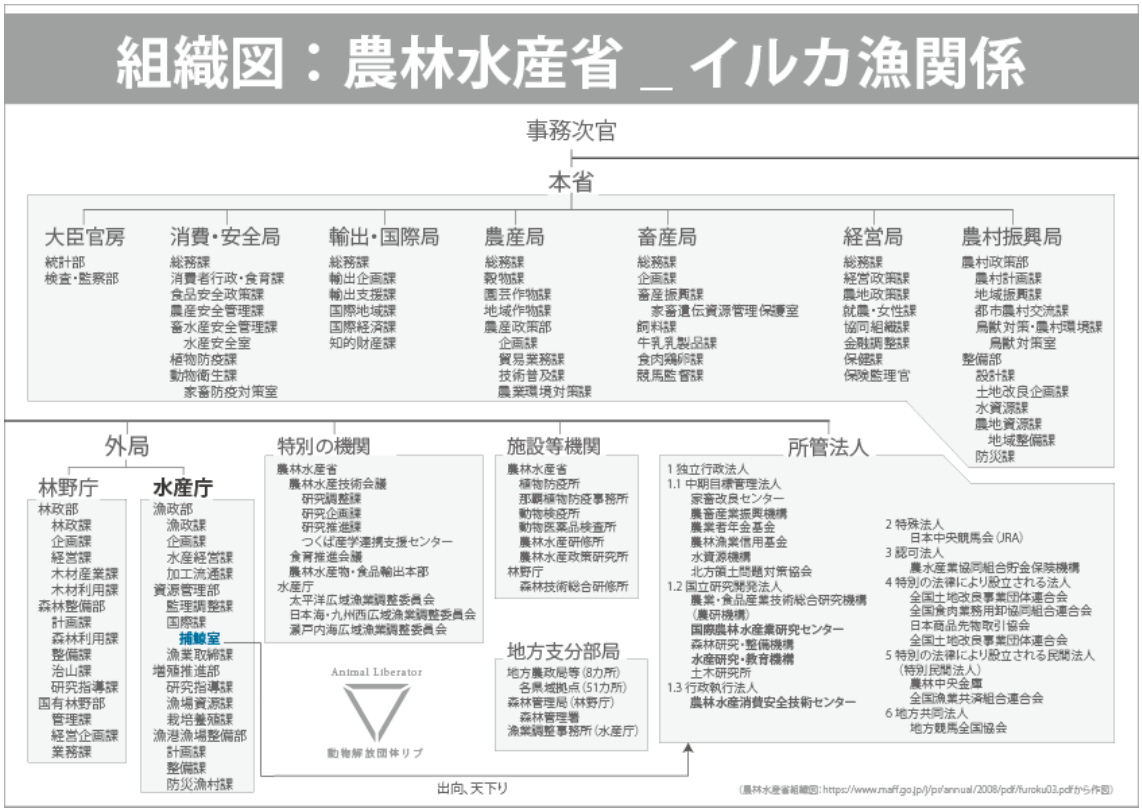


第二項　農林水産省（水産庁）

主な役割：イルカ漁の監督

第一目　構造

［組織図：農林水産省_イルカ漁関係］

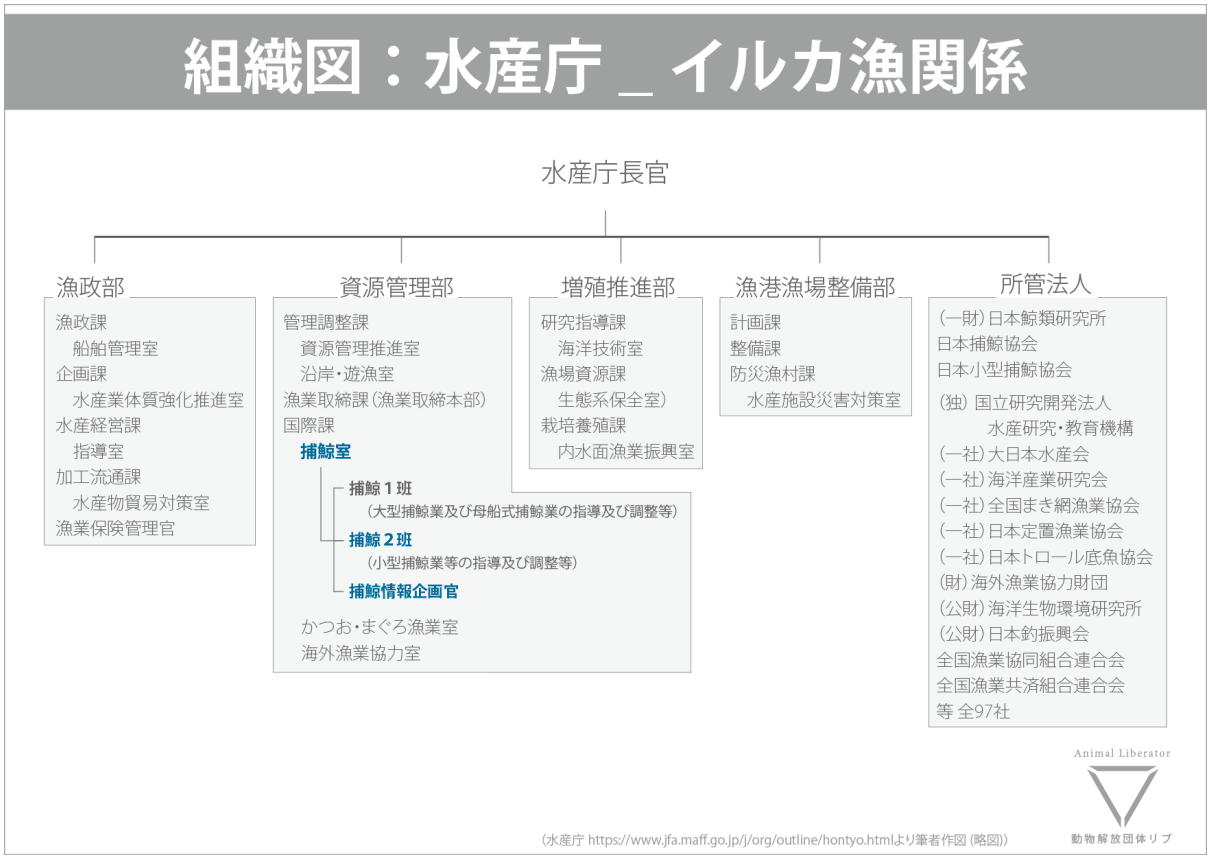


第二目　イルカ漁関係部署 - 水産庁

水産庁の役割は、農林水産省設置法（任務）第三十条にあります。
「水産庁は、水産資源の適切な保存及び管理、水産物の安定供給の確保、水産業の発展並びに漁業者の福祉の増進を図ることを任務とする。」
海洋動物の保護は水産庁の任務ではないことがわかります。

捕鯨室

捕鯨・イルカ漁を監督しているのは、水産庁 資源管理部 国際課 **捕鯨室**。
捕鯨室は、捕鯨１班・捕鯨２班・捕鯨情報企画官からなっています。
イルカ漁を監督しているのは、捕鯨２班です。
［組織図：水産庁_イルカ漁関係］



捕鯨２班

役割　小型捕鯨業等の指導及び調整等
小型捕鯨（基地式捕鯨、イルカ突き棒漁、イルカ追い込み漁）を監督しています。

捕鯨情報企画官（1名）
捕鯨に関する情報の提供に関する専門の事項についての企画及び調整調整

所管法人

（一財）日本鯨類研究所
日本捕鯨協会
日本小型捕鯨協会
（独） 国立研究開発法人 水産研究・教育機構
（財）海外漁業協力財団
（公財）海洋生物環境研究所
全国漁業共済組合連合会
（一社）大日本水産会
等 全97社
https://www.jfa.maff.go.jp/j/corp/koueki/index.html

第三目　法令

水産庁所管法令（水産）［URL：https://www.maff.go.jp/j/law/houreiichiran.html#suisan］
農林水産省が所管し、捕鯨と関係する主な法令のを示します。

法律

・**漁業法**（漁業に関する法令の基盤となる法律）
第五十七条第一項
大臣許可漁業以外の漁業であつて農林水産省令又は規則で定めるものを営もうとする者は、都道府県知事の許可を受けなければならない。
第百十九条第一項
農林水産大臣又は都道府県知事は、漁業調整のため、特定の種類の水産動植物であつて農林水産省令若しくは規則で定めるものの採捕を目的として営む漁業若しくは特定の漁業の方法であつて農林水産省令若しくは規則で定めるものにより営む漁業（水産動植物の採捕に係るものに限る。）を禁止し、又はこれらの漁業について、農林水産省令若しくは規則で定めるところにより、農林水産大臣若しくは都道府県知事の許可を受けなければならないこととすることができる。
・**漁船法**
・**水産物資源保護法**
参考：問6［URL：https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/w_faq/konkaku_faq.html］
・**商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律**
・**鯨類の持続的な利用の確保に関する法律**

政令

・**漁業法第五十二条第一項の指定漁業を定める政令**

五　大型捕鯨業、六　小型捕鯨業、七　母船式捕鯨業　母船式漁業

省令

・**漁業の許可及び取締り等に関する省令**

（歯鯨の捕獲の禁止）

第九十三条　基地式捕鯨業者以外の者は、歯鯨（まっこう鯨を除く。以下この条において同じ。）を捕獲してはならない。ただし、歯鯨（いしいるか（りくぜんいるか型いしいるかを含む。）、かまいるか、すじいるか、はんどういるか（ばんどういるか）、まだらいるか（あらりいるか）、はなごんどう、こびれごんどう（まごんどう）、おきごんどう、しわはいるか又はかずはごんどうに限る。）をとることを目的とする漁業についての法第五十七条第一項又は第百十九条第一項の規定による都道府県知事の許可を受けて捕獲する場合は、この限りでない。

規則

・水産資源保護法施行規則

スナメリ、ホッキョククジラ、シロナガスクジラを、第一条に基づいて保護している。

第三項　外務省

主な役割：捕鯨・漁業交渉

第一目　構造

［組織図：外務省：イルカ漁関係］



第二目　イルカ漁関係部署 - 漁業室

経済局 漁業室が、捕鯨に係る外交上の総合政策の企画立案と、国際漁業管理を行っています。外務省は、IUCNの国家会員です（1995～）。

第四項　経済産業省

主な役割：輸出入

第一目　構造

経済産業省の役割は、経済産業省設置法（任務）第三条にあります。

「経済産業省は、民間の経済活力の向上及び対外経済関係の円滑な発展を中心とする経済及び産業の発展並びに鉱物資源及びエネルギーの安定的かつ効率的な供給の確保を図ることを任務とする。」

［組織図：経済産業省：イルカ漁関係］



第二目　イルカ漁関係部署 - 野生動植物貿易審査室

経済産業省 貿易経済協力局 貿易管理部 貿易審査課 **野生動植物貿易審査室**が、ワシントン条約（CITES）の対象貨物の輸出入承認手続きを行っています。

鯨族はすべてCITES附属書Ⅰか Ⅱ に記載されていますので、輸出入を行う場合必ず野生動植物貿易審査室の許可を受ける必要があります。

第三目　法令

経済産業省所管法令［URL：https://www.meti.go.jp/intro/law/ichiran.html］

経済産業省が所管し、捕鯨と関係する主な法令を示します。

法律

絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=404AC0000000075］

*ワシントン条約(CITES）を実現するために制定された国内法。

*経済産業省、環境省、農林水産省が所管。

条約

CITES ワシントン条約

《参考》

・日本貿易振興機構（JETRO）（経済産業省所管法人）

水産物全般の輸入手続きについて記載されています。

https://www.jetro.go.jp/world/qa/04M-010913.html

鯨族は、「II. 2号承認品目」→「対象品目」→「国際捕鯨取締条約非加盟国および同条約加盟国中、非捕鯨国以外の国・地域を原産地または船積地域とする」に記載があります。

II. 2号承認品目とは、特定の原産地又は船積地域に係る輸入について承認を必要とする品目です。２号承認が必要な貨物。

第五項　財務省（税関）

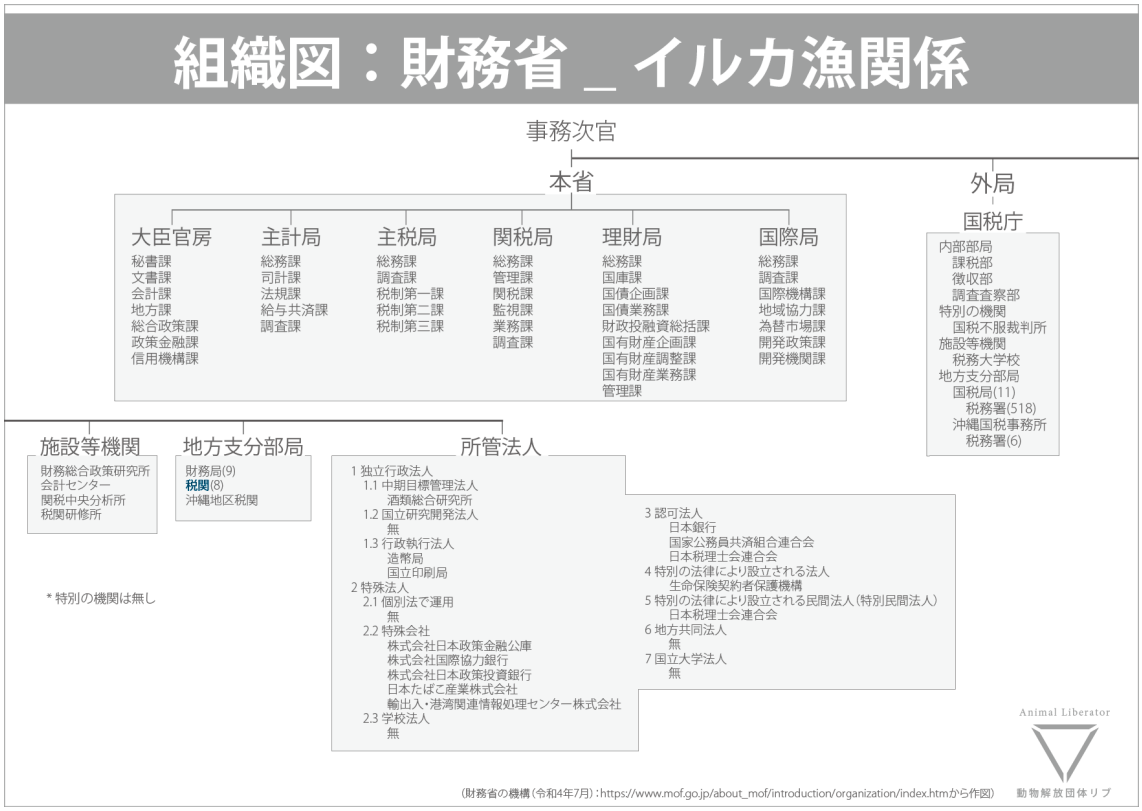
主な役割：水族館販売目的の生体イルカの輸出入

第一目　構造

財務省の役割は、財務省設置法（任務）第三条にあります。

「財務省は、健全な財政の確保、適正かつ公平な課税の実現、税関業務の適正な運営、国庫の適正な管理、通貨に対する信頼の維持及び外国為替の安定の確保を図ることを任務とする。」

［組織図：財務省：イルカ漁関係］



第二目　イルカ漁関係部署 - 税関

イルカの輸出入に関係します。

税関の主な役割は、

・通関（輸出入をする者が、貨物の申告を行い、検査を受け、輸入の場合関税を納付し、許可を得る手続き）

・関税の徴収

・密輸の取締りなど。

鯨族を使用した製品の輸出入をを調べる場合、税関の記録を調べることもできます。

第三目　法令

税関所管法令［URL：https://www.customs.go.jp/kaisei/hourei.htm］

第六項　環境省

主な役割：動物の保護。哺乳類であり国際的に保護されている鯨族は、本来環境省が管理すべき動物です。

第一目　構造

環境省の役割は、環境省設置法 （任務）第三条にあります。

「環境省は、地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護及び整備その他の環境の保全（良好な環境の創出を含む。以下単に「環境の保全」という。）並びに原子力の研究、開発及び利用における安全の確保を図ることを任務とする。」

保全（Conservation）であり、保存（Preservation）ではありません。

［組織図：環境省_イルカ漁関係］



第二目　イルカ漁関係部署 - - 希少種保全推進室

環境省はIUCNの政府機関会員であり、自然環境局 野生生物課 希少種保全推進室が環境省版レッドリストを作成しています。しかしながら海の生物に関しては、水産庁がレッドリストを作成しています。本来は、環境省が担当すべきです。

第三目　法令

「動物愛護管理法は一歩海に入ると効かなくなる」と言われていました。動愛法は環境省が所管しています。展示動物の飼養及び保管に関する基準の解説 によると、輸送された後の水族館や生簀に入れられたイルカに関しては、愛護動物となります。

第七項　その他

イルカの輸送に関する法律

動物輸送に関する法令はありません。もしあれば国土交通省が所管。

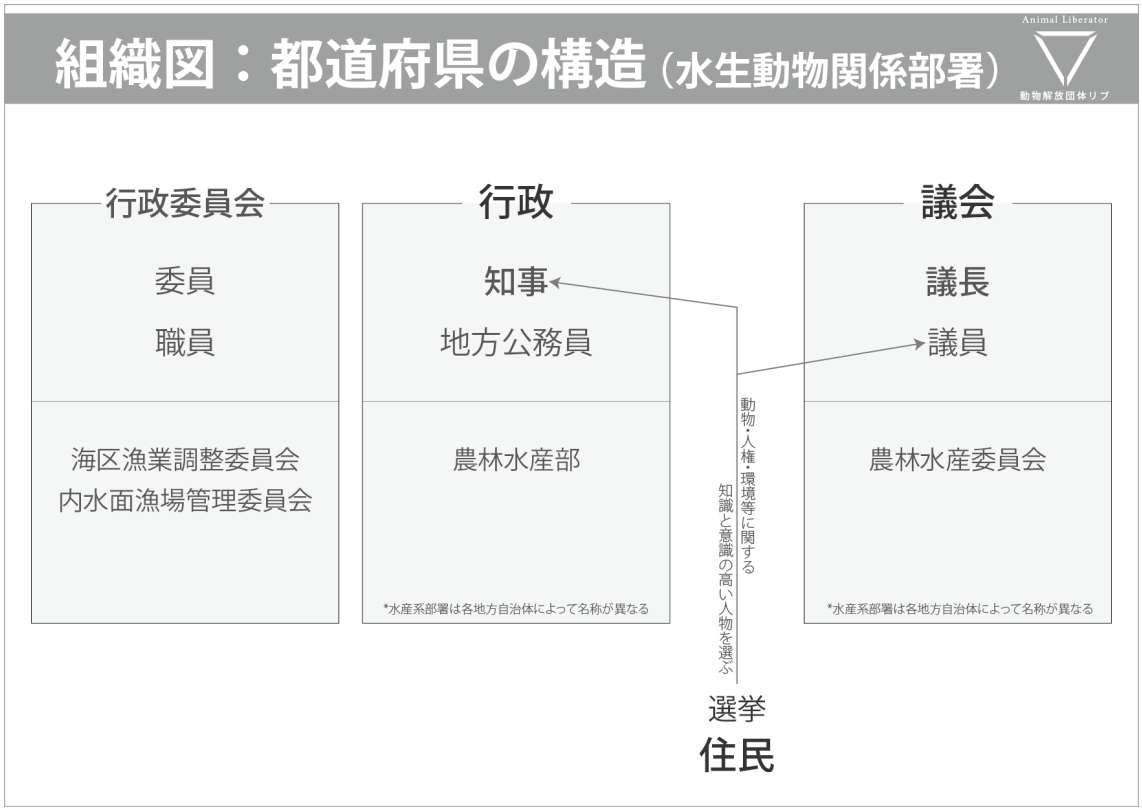
輸送に伴う衛生に関する法令もありません。もしあれば厚生労働省が所管。

第五節　地方公共団体・条例

地方自治体の仕組み

地方自治体は、2階層になっており、第1階層：都道府県、第2階層：市町村+特別区。
イルカ漁に関係するのは、都道府県です。

［組織図：都道府県の構造（水生動物関係部署）］



第一項　イルカ突き棒漁のみを行っている道県

北海道

イルカ漁所管課：北海道水産林務部水産局漁業管理課

2011～2016年捕獲0、2017年17名捕獲、2018年～捕獲0。縮小傾向なので省略。

青森県

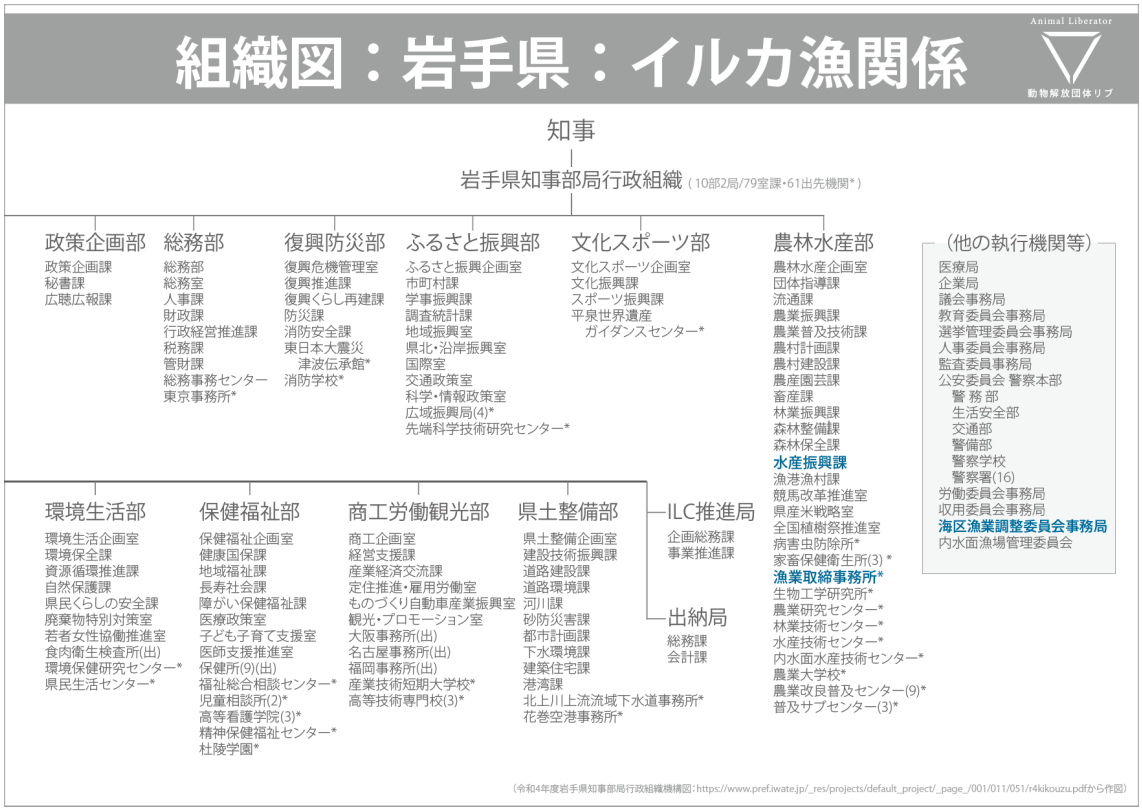
イルカ漁所管課：青森県農林水産部水産局水産振興課

2016年以降、捕獲枠0。省略。

岩手県

イルカ漁所管課：岩手県農林水産部水産振興課漁業調整担当

［組織図：岩手県：イルカ漁関係］



［行政］

［URL：岩手県：https://www.pref.iwate.jp/index.html］

［URL：岩手県知事：https://www.pref.iwate.jp/governor/1000670.html］

［議会］

［URL：岩手県議会議員(会派別)：https://iwatekengikai.gijiroku.com/g07_Kaiha.asp］

［条例］

［URL：岩手県漁業調整規則：https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/035/462/gyogyoutyouseikisoku.pdf］

第4条 法第57条第1項の農林水産省令で定める漁業のほか、次に掲げる漁業(第1号、第2号、第6号及び第15号に掲げる漁業 にあっては、組合員行使権者が営む当該組合員行使権の内容たる当該漁業を除く。)を営もうとする者は、同項の規定に基づき 、知事の許可を受けなければならない。
(14) いるか突棒漁業 海面においているか突棒により行う漁業
第36条 何人も、海面において次に掲げる漁具又は漁法により水産動物を採捕してはならない。
(5) 銃又は砲を使用しているかを捕獲する漁法

［URL：いるか突棒漁業に係る制限措置の内容及び許可又は起業の認可を申請すべき期間等（公示日：令和3年9月14日）：https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/035/155/210914iruka.pdf］
［URL：いるか突棒漁業に係る制限措置の内容及び許可又は起業の認可を申請すべき期間等（公示日：令和4年6月15日 ）：https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/035/155/220614iruka.pdf］
［URL：いるか突棒漁業（県外者）に係る制限措置の内容及び許可又は起業の認可を申請すべき期間等（公示日：令和4年9月6日）：https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/035/155/220905irukakengai.pdf］
［資料］
［URL：いるか突棒漁業の許可等の取扱方針：https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/037/444/220627iruka.pdf］
［URL：資源管理の状況等の報告：https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/suisan/kaimen/1035155/1036062.html］
［URL：資源管理の状況等の報告の参考様式（いるか突棒漁業）：https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/036/062/irukagyoseki.xlsx］

宮城県
イルカ漁所管課：宮城県水産林政部水産業振興課
［行政］
［URL：宮城県：https://www.pref.miyagi.jp］
［URL：宮城県知事：https://www.pref.miyagi.jp/site/gvroom/hisyo-page-2.html］
［議会］
［URL：宮城県議会議員(会派別)：https://www.pref.miyagi.jp/site/kengikai/18meibo-kaiha.html］
［条例］
［URL：宮城県漁業調整規則：https://www.pref.miyagi.jp/documents/25065/822941.pdf］

千葉県

イルカ漁所管課：千葉県農林水産部水産局漁業資源課

2016年以降、捕獲枠0。省略。

沖縄県

イルカ漁所管課：沖縄県農林水産部水産課

［組織図：沖縄県：イルカ漁関係］



［行政］

［URL：沖縄県：https://www.pref.okinawa.jp］

［URL：沖縄県知事：https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/kohokoryu/kense/chiji/index.html］

［議会］

［URL：沖縄県議会議員(会派別)：https://www2.pref.okinawa.jp/oki/meibo.nsf/Web_Kaiha?OpenView&count=999］

［条例］

［URL：沖縄県漁業調整規則：https://www.pref.okinawa.jp/site/norin/suisan/chouseikisoku/documents/r02kisoku.pdf］

第4条 法第57条第1項の農林水産省令で定める漁業のほか、次に掲げる漁業(第6号に掲げる漁業にあっ ては、組合員行使権者が営む当該組合員行使権の内容たる当該漁業を除く。)を営もうとする者は、同項 の規定に基づき、知事の許可を受けなければならない。

(1)いるか漁業いるかをとることを目的とする漁業

［資料］

［URL：イルカ漁業承認取扱要領：https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/norin/suisan/kaiku/siji/documents/12-3iruka-youryou.pdf］

第二項　イルカ追い込み漁のみを行っている県

静岡県

イルカ漁所管課：静岡県経済産業部水産・海洋局水産資源課

［行政］

［URL：静岡県：https://www.pref.shizuoka.jp］

［URL：静岡県知事：https://www.pref.shizuoka.jp/governor/index.html］

［議会］

［URL：静岡県議会議員(選挙区・会派別)：https://www.pref.shizuoka.jp/gikai/kousei/senkyokukousei.html］

［条例］

［URL：静岡県漁業調整規則：https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-430/documents/tyousei_kisoku.pdf］

第4条 法第57条第1項の農林水産省令で定める漁業(中型まき網漁業及び小型機船底びき網漁業に限る。 以下同じ。)のほか、次に掲げる漁業(第2号及び第10号に掲げる漁業にあっては、組合員行使権者が営む 当該組合員行使権の内容たる当該漁業を除く。)を営もうとする者は、同項の規定に基づき、知事の許可を 受けなければならない。

(12) いるか突棒漁業 海面においているか突棒により行う漁業(ごんどうくじらをとることを目的とするものを含む。)

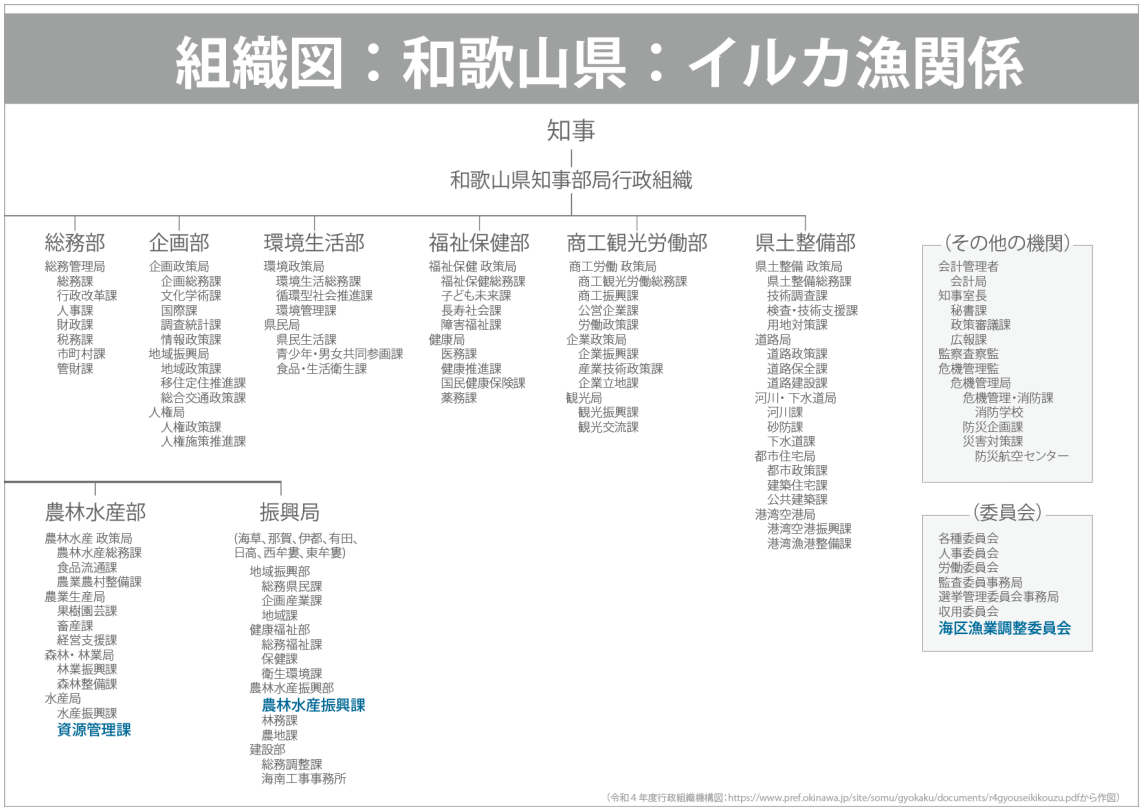
(15) いるか追込漁業 海面においているか追込により行う漁業(ごんどうくじらをとることを目的とするものを含む。)

第三項　イルカ突き棒漁と イルカ追い込み漁を行っている県

和歌山県

イルカ漁所管課：和歌山県農林水産部水産局資源管理課

［組織図：和歌山県：イルカ漁関係］



［行政］

［URL：和歌山県：https://www.pref.wakayama.lg.jp］

［URL：和歌山県知事：https://www.pref.wakayama.lg.jp/chiji/profile/index1916.html］

備考：自然環境室

［URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/032500/index.html］

［議会］

［URL：和歌山県議会議員(会派別)：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/200100/cms/d00154525.html］

［条例］

［URL：和歌山県漁業調整規則：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/010100/reiki/reiki_honbun/k501RG00001622.html］

(漁業の許可)

第7条　次に掲げる漁業を営もうとする者は、漁業法第65条第1項及び水産資源保護法第4条第1項の規定に基づき、第2号アからカまでに規定するものにあっては当該漁業ごと及び船舶ごとに、その他の漁業にあっては当該漁業ごとに、知事の許可を受けなければならない。

カ　いるか突棒(以下「いるか突棒漁業」という。)

チ　鯨類追込網(以下「鯨類追込網漁業」という。)(平20規則22・全改、平27規則45・一部改正)

［資料］

和歌山県「太地町でのイルカ漁業に対する和歌山県の公式見解」

［URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071500/iruka/index.html］

海区漁業調整委員会

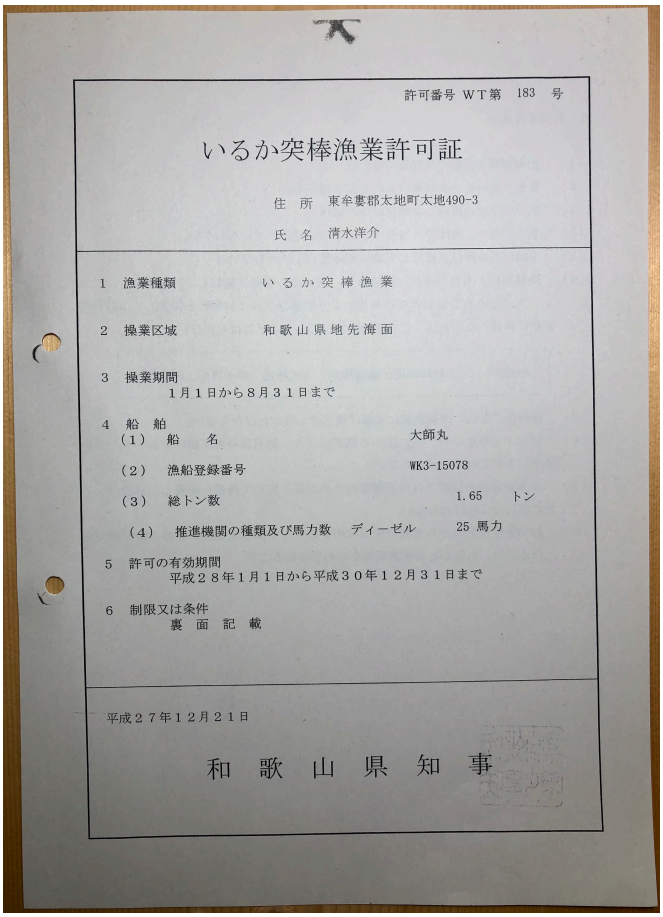
［URL：第22期和歌山海区漁業調整委員会：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071500/kaiku/_notes/20iin.html］

いるか突棒漁業

和歌山県におけるイルカ突き棒漁の正式な表記は、「いるか突棒漁業」です。

知事許可漁業：和歌山県知事が、一隻一隻の「漁船ごと」に許可を出します。つまりその漁船に乗っていれば誰であってもイルカ突き棒漁が行えます。

［写真：いるか突棒漁業許可証：和歌山県］



許可番号 ＷＴ第　183　号

いるか突棒漁業許可証

住　所　東牟婁郡太地町太地490-3

氏　名　清水洋介

1　漁業種類　　いるか突棒漁業

2　操業区域　　和歌山県地先海面

3　操業期間
1月1日から8月31日まで

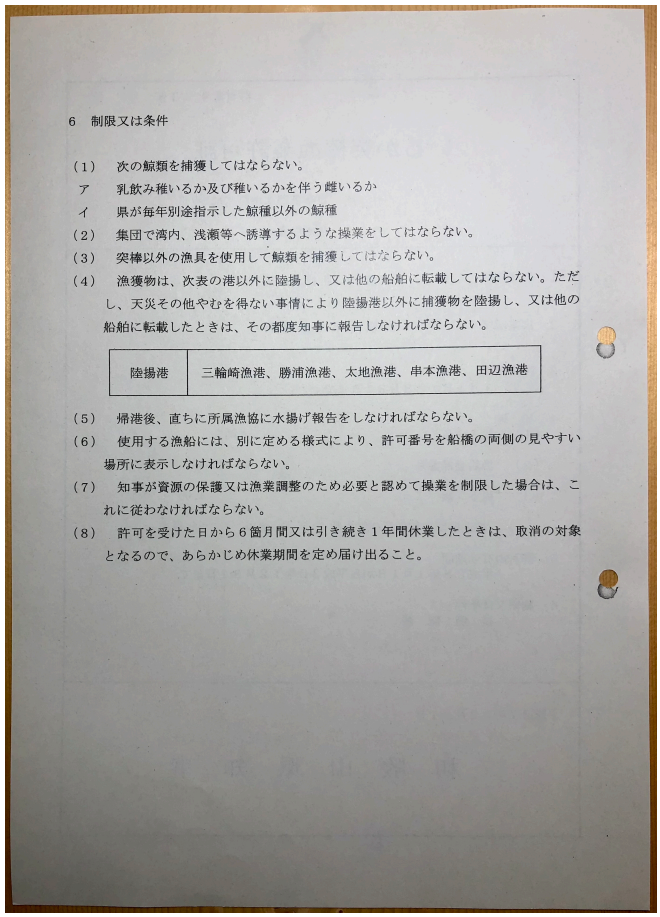
4　船　舶
（1）　船　名　　大師丸
（2）　漁船登録番号　　WK3-15078
（3）　総トン数　　1.65　トン
（4）　推進機関の種類及び馬力数　　ディーゼル　25 馬力

5　許可の有効期間
平成28年1月1日から平成30年12月31日まで

6　制限又は条件
裏面記載

平成27年12月21日

和歌山県知事



6　制限又は条件

（1）　次の鯨類を捕獲してはならない。
ア　乳飲み稚いるか及び稚いるかを伴う雌いるか
イ　県が毎年別途指示した鯨種以外の鯨種
（2）　集団で湾内、浅瀬等へ誘導するような操業をしてはならない。
（3）　突棒以外の漁具を使用して鯨類を捕獲してはならない。
（4）　漁獲物は、次表の港以外に陸揚し、又は他の船舶に転載してはならない。ただし、天災その他やむを得ない事情により陸揚港以外に捕獲物を陸揚し、又は他の船舶に転載したときは、その都度知事に報告しなければならない。

陸揚港	三輪崎漁港、勝浦漁港、太地漁港、串本漁港、田辺漁港

（5）　帰港後、直ちに所属漁協に水揚げ報告をしなければならない。
（6）　使用する漁船には、別に定める様式により、許可番号を船橋の両側の見やすい場所に表示しなければならない。
（7）　知事が資源の保護又は漁業調整のため必要と認めて操業を制限した場合は、これに従わなければならない。
（8）　許可を受けた日から6箇月間又は引き続き1年間休業したときは、取消の対象となるので、あらかじめ休業期間を定め届け出ること。

６　制限又は条件

（１）次の鯨類を捕獲してはならない。

ア　乳飲み稚いるか及び稚いるかを伴う雌いるか

イ　県が毎年別途支持した鯨種以外の鯨種

（２）集団で湾内、浅瀬等へ誘導するような操業をしてはならない。

（３）突棒以外の漁具を使用して鯨類を捕獲してはならない。

（４）漁獲物は、次表の港以外に陸揚し、又は他の船舶に転載してはならない。ただし、天災その他やむを得ない事情により陸揚港以外に漁獲物を陸揚し、又は他の船舶に転載したときは、その都度知事に報告しなければならない。

　陸揚港：三輪崎漁港、勝浦漁港、太地漁港、串本漁港、田辺漁港

以下省略

鯨類追込網漁業

和歌山県におけるイルカ追い込み漁の正式な表記は、「鯨類追込網漁業」です。

知事許可漁業：和歌山県知事が「漁業ごと」に許可を出します。つまり「太地いさな組合」に許可が出されます。

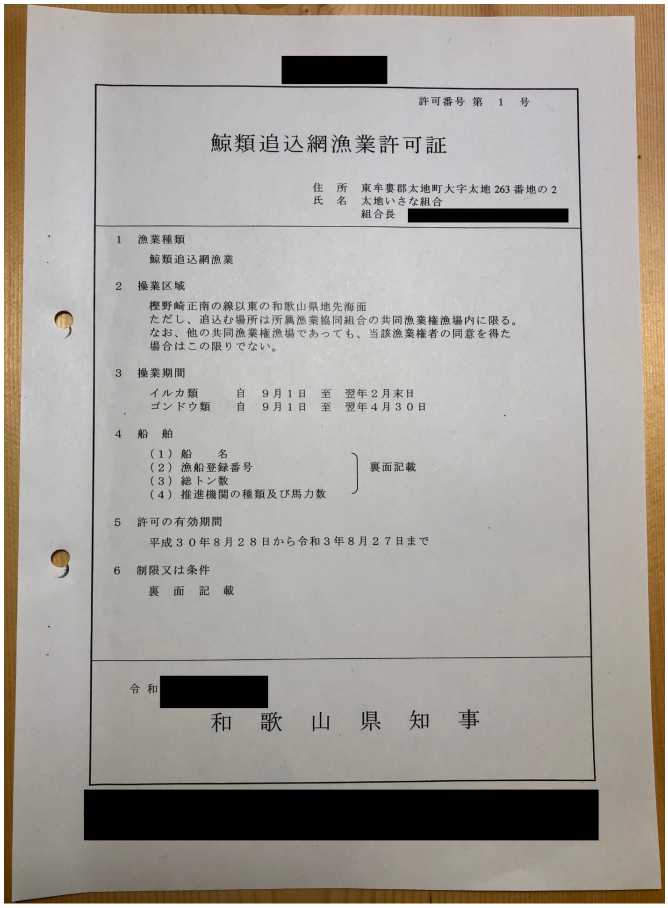
鯨類追込網漁業の許可、制限、条件に関する主な書類は3つ。

・鯨類追込網漁業許可証

・鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針

・鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針の取扱要領

［写真：鯨類追込網漁業許可証：和歌山県］



許可番号 第 1 号

鯨類追込網漁業許可証

住 所 東牟婁郡太地町大字太地 263 番地の 2
氏 名 太地いさな組合
組合長 [redacted]

1 漁業種類
鯨類追込網漁業

2 操業区域
樫野崎正南の線以東の和歌山県地先海面
ただし、追込む場所は所属漁業協同組合の共同漁業権漁場内に限る。
なお、他の共同漁業権漁場であっても、当該漁業権者の同意を得た場合はこの限りでない。

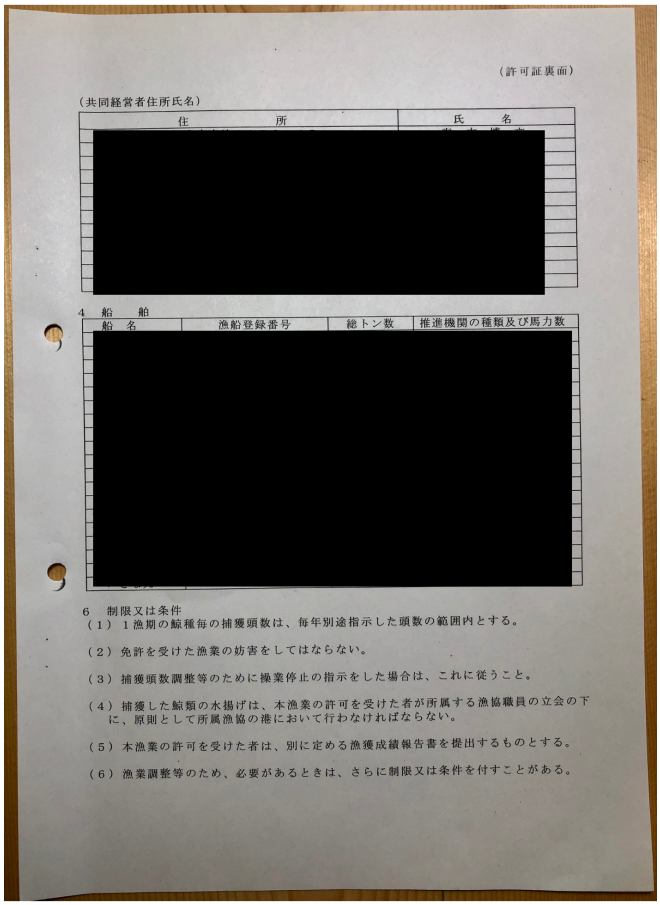
3 操業期間
イルカ類 自 9月1日 至 翌年2月末日
ゴンドウ類 自 9月1日 至 翌年4月30日

4 船 舶
（1）船 名
（2）漁船登録番号
（3）総トン数
（4）推進機関の種類及び馬力数
裏面記載

5 許可の有効期間
平成30年8月28日から令和3年8月27日まで

6 制限又は条件
裏 面 記 載

令和 [redacted]
和 歌 山 県 知 事



（許可証裏面）

（共同経営者住所氏名）

住 所	氏 名
[redacted]	

4 船 舶

船 名	漁船登録番号	総トン数	推進機関の種類及び馬力数
[redacted]			

6 制限又は条件
（1）1漁期の鯨種毎の捕獲頭数は、毎年別途指示した頭数の範囲内とする。
（2）免許を受けた漁業の妨害をしてはならない。
（3）捕獲頭数調整等のために操業停止の指示をした場合は、これに従うこと。
（4）捕獲した鯨類の水揚げは、本漁業の許可を受けた者が所属する漁協職員の立会の下に、原則として所属漁協の港において行わなければならない。
（5）本漁業の許可を受けた者は、別に定める漁獲成績報告書を提出するものとする。
（6）漁業調整等のため、必要があるときは、さらに制限又は条件を付すことがある。

［鯨類追込網漁業許可証］（裏面）

6　制限又は条件

（1）1漁期の鯨種毎の捕獲頭数は、毎年別途指示した頭数の範囲内とする。

（2）免許を受けた漁業の妨害をしてはならない。

（3）捕獲頭数調整等のために操業停止の指示をした場合は、これに従うこと。

（4）捕獲した鯨類の水揚げは、本漁業の許可を受けた者が所属する漁協職員の立会の下に、原則として所属漁協の港において行わなければならない。

（５）本漁業の許可を受けた者は、別に定める漁獲成績報告書を提出するものとする。
（６）漁業調整等のため、必要があるときは、さらに制限又は条件を付すことがある。

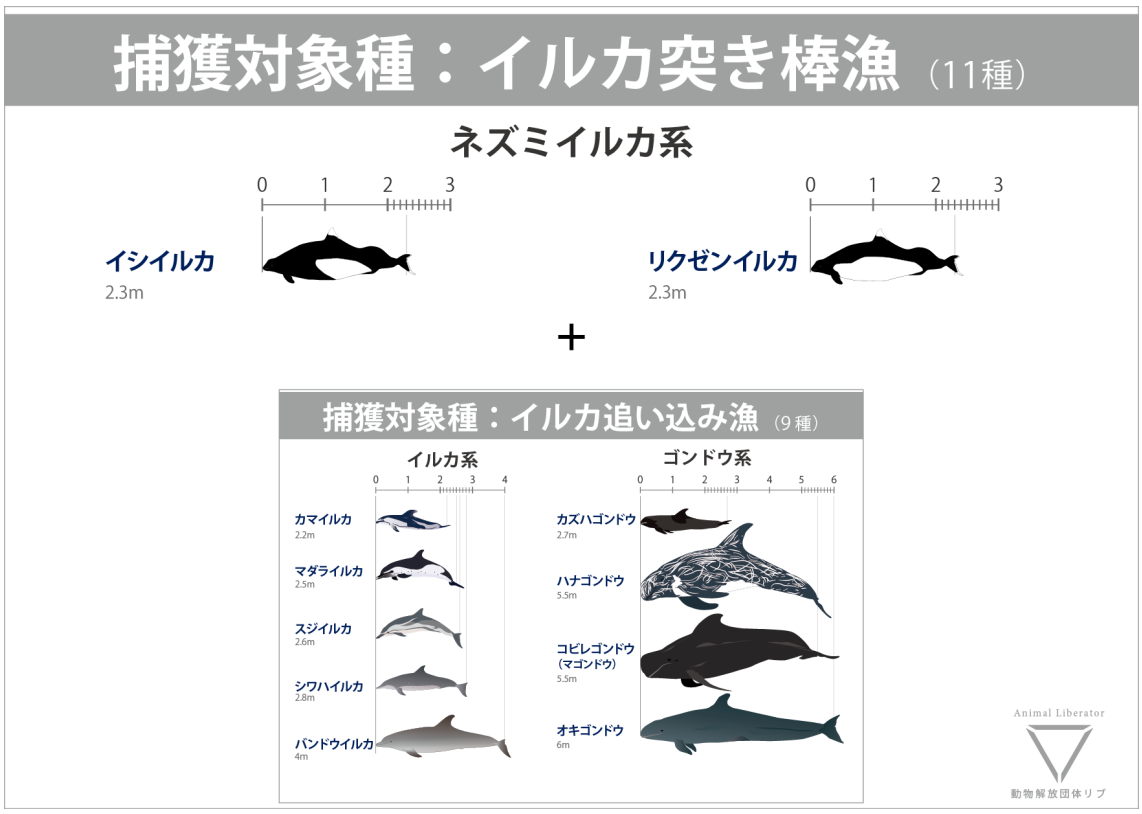
［鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針］（抜粋）
（許可等をすべき漁業者の数の上限）
第３　規則第11条第2項の規定に基づく制限措置として定める許可等をすべき漁業者の数について、当該業業の状況を考慮し、その上限を１とする。

［鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針の取扱要領］（抜粋）
（条件）
３（１）追い込み作業に当たっては、鯨種を十分確認の上行うこと。
（２）乳飲み稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類については、沖から地方への群を追い込んでくる過程において、出来うる限りの方法で追い込む群からの仕分け解放に努めること。
（３）追い込んだ後に死亡した鯨類は、海域への投棄をすることなくすべて捕獲頭数として処理すること。

第二章　イルカ突き棒漁

第一節　鯨族

［図：捕獲対象種：イルカ突き棒漁 11種］



捕獲対象種：イルカ突き棒漁 11種

（ネズミイルカ2種）

イシイルカ［本文参照：第一部 第三章 第三節 第一項　イシイルカ・リクゼンイルカ］

リクゼンイルカ［本文参照：第一部 第三章 第三節 第一項　イシイルカ・リクゼンイルカ］

（イルカ5種）

カマイルカ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第一項　カマイルカ］

スジイルカ［本文参照：同 第三項 スジイルカ］

マダライルカ［本文参照：　同 第二項 マダライルカ］

シワハイルカ［本文参照：同 第四項 シワハイルカ］

バンドウイルカ［本文参照：同 第五項 バンドウイルカ］

（ゴンドウ4種）

カズハゴンドウ［本文参照：同 第六項 カズハゴンドウ］

ハナゴンドウ［本文参照：同 第七項 ハナゴンドウ］

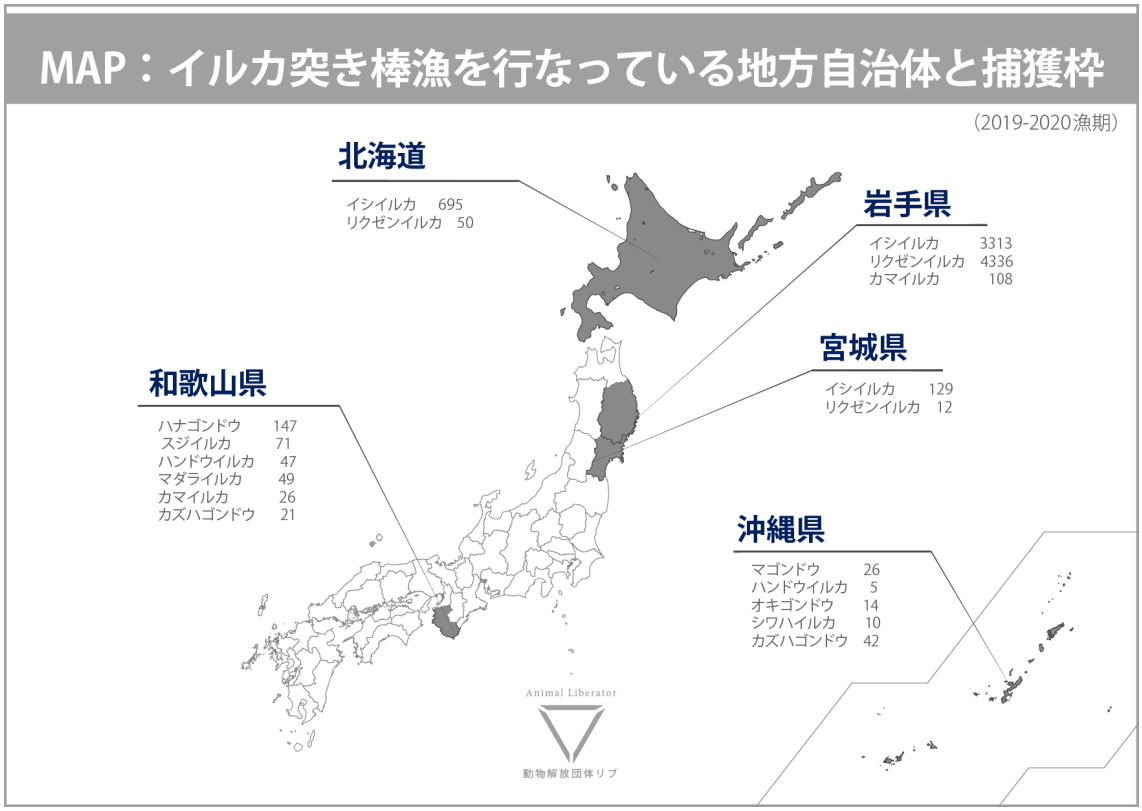
オキゴンドウ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第八項　オキゴンドウ］

コビレゴンドウ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）］

第二節　MAP

イルカ突き棒漁を行っている県

［MAP：イルカ突き棒漁を行っている地方自治体と捕獲枠］(2019-2020漁期)



第三節　業者・船・漁法

第一項　業者

業者は、漁船を持つ個人の漁師です。イルカ突き棒漁は知事許可漁業であり、知事（実際は所管課）が、漁船ごとに許可を出します。どこの道県も捕獲成績を報告しなければなりません。

日本全体の許可船籍は、127隻

陸揚港は、26港

以下で各自治体ごとの許可船隻をみていきます。

北海道

陸揚港(9港)

増毛港、古平港、千走港、熊石港、十勝港、霧多布港、散布港、網走港、紋別港

許可船隻 6隻（最大許可船籍数 7隻）

平成28年と令和2年のイルカ突き棒漁許可船隻数を比較します。

自治体名は許可を取得した漁船がある場所、括弧内は許可船籍数です。

平成28年度許可隻数

道内船：島牧郡島牧村(２)、厚岸郡浜中町(３)、紋別市(３)

県外船：岩手県：釜石市(１)、山田町(２)、大槌町(２)　宮城県：気仙沼市(１)

計14隻

令和4年度許可隻数

道内船：厚岸郡浜中町(３)、紋別市(３)

県外船：岩手県：(１)

計7隻

イルカ突き棒漁は縮小傾向です。

岩手県

陸揚港(7港)

八木港、久慈港、田老港、山田港、大槌港、釜石港、大船渡港

許可船隻 53隻（最大許可船籍数217隻）

平成28年と令和1年のイルカ突き棒漁許可船隻数を比較します。

平成28年度許可隻数

県内船：久慈(11)、宮古(24)、釜石(19)

県外船：(6)

計60隻

令和2年度許可隻数

県内船：久慈(11)、宮古(22)、釜石(15)、大船渡(1)
県外船：(4)
計53隻
イルカ突き棒漁は縮小傾向です。

宮城県
陸揚港(3港)
気仙沼港, 女川港, 鮎川港
許可船隻 6隻（最大許可船籍数 6隻）
令和2年度許可隻数
県内船：北部(3)
県外船：北海道(2)、岩手県(5)
計10隻
令和4年度許可隻数
県外船：北海道(2)、岩手県(4)
イルカ突き棒漁は縮小傾向です。
船舶の総トン数
20 トン未満
推進機関の馬力数
定めなし

和歌山県（55隻）（最大許可船籍数 100隻）
陸揚港(5)
三輪崎漁港、勝浦漁港、太地漁港、串本漁港、田辺漁港
許可船隻
平成30年度許可隻数
新宮漁港(2)、三輪崎漁協(9)、宇久井漁協(6)、紀州勝浦漁協(16)、太地漁協(10）、和歌山東漁協(12)（古座(6)、浦神(6)
計55隻
令和3年度許可隻数
新宮漁港(2)、三輪崎漁協(9)、宇久井漁協(5)、紀州勝浦漁協(10)、太地漁協(10）、和歌山東漁協(9)（古座(6)、浦神(3)
計45隻
イルカ突き棒漁は縮小傾向です。
船舶の総トン数
12 トン未満

許可期間 3年間

最新　令和4年1月1日から令和6年12月31日まで

沖縄県 6隻（最大許可船籍数 6隻）

陸揚港(2港)

名護(なご)漁港、宜名真(ぎなま)漁港

許可船隻

令和2年度許可隻数

計6隻（新規参入は認められていない）

陸揚港はGoogleMapにマッピングしています。

［URL：MAP：陸揚げ港：https://www.google.com/maps/d/u/1/edit?mid=13DZ8vgUbdqlRQGoPEdokU5kDM3u0_C0&usp=sharing］

第二項　船・道具

船

イルカ突き棒漁の漁船の形は、各地によって異なります。東北の漁船は、東日本大震災に被災後新しく建造されたため立派です。船の総トン数は、道県によって異なり岩手県20トン未満、千葉県20トン未満、和歌山県12トン未満、沖縄県10トン未満です。北海道、宮城県不明。

突き棒漁を行う船の特徴は、船首に台座が設置されていることです。ここに立ち、イルカにモリを突き刺します。ただし、台座があるからといって必ずしもイルカを対象としているわけではなく、カジキマグロやマンボウ等大型の魚類の殺害が目的の場合もあります。

［
：イルカ突き棒漁：漁船（和歌山県太地町）］



［写真：イルカ突き棒漁：船の台座（和歌山県太地漁港）］



［写真：イルカ突き棒漁：船の台座_操縦レバー付き（和歌山県 新宮漁港）］

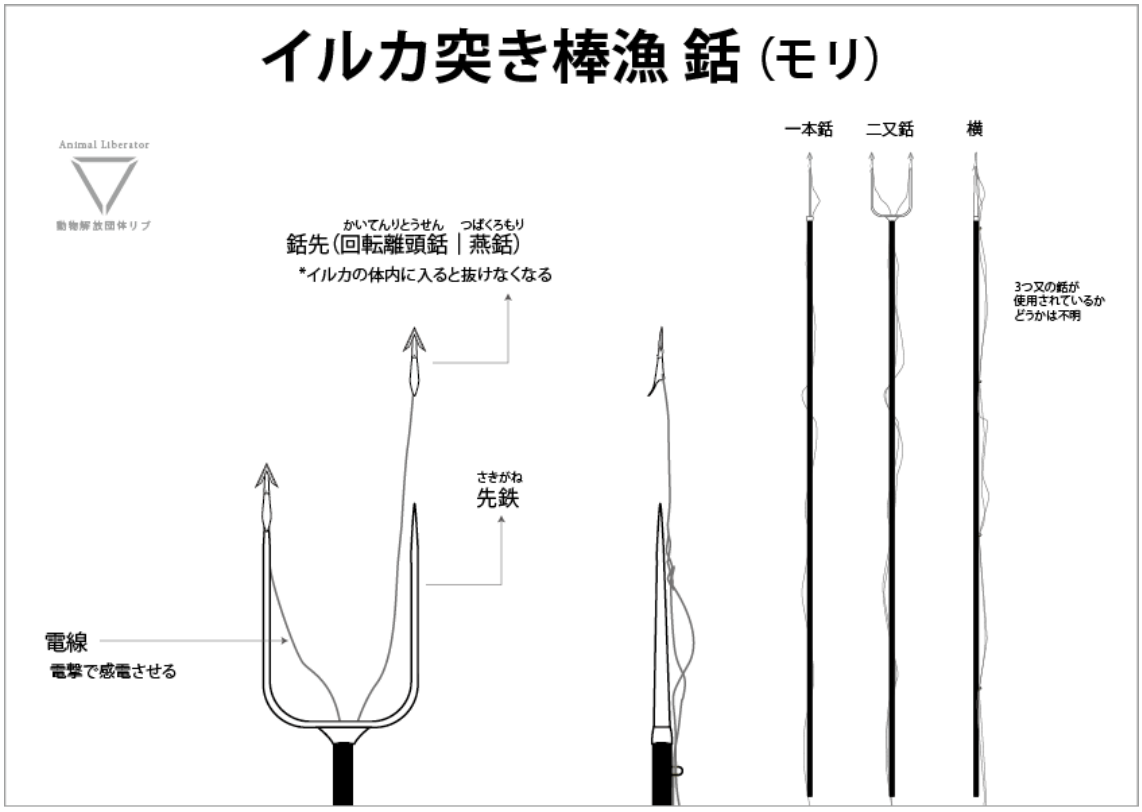


道具

銛（モリ）：イルカを突き刺すモリの形状は日本各地で異なります。銛先が1つの一本銛、2つの二本銛があります。三本銛があるという話を聞いたことがありますが、未確認です。

銛先の形状：イルカ突き棒漁に使用する銛先は、燕銛(つばくろもり）と言われる銛先です。燕銛には返しがついており、イルカの体に突き刺さった後、抜けないようになっています。また、燕銛は先鉄から外れるようになっており、電線などのコードがつながっており、イルカは逃げられません。燕銛を刺した後は、感電させて殺す漁法と、浮きをつけて弱らせてから殺す漁法があります。（後述）

［図：イルカ突き棒漁 銛］



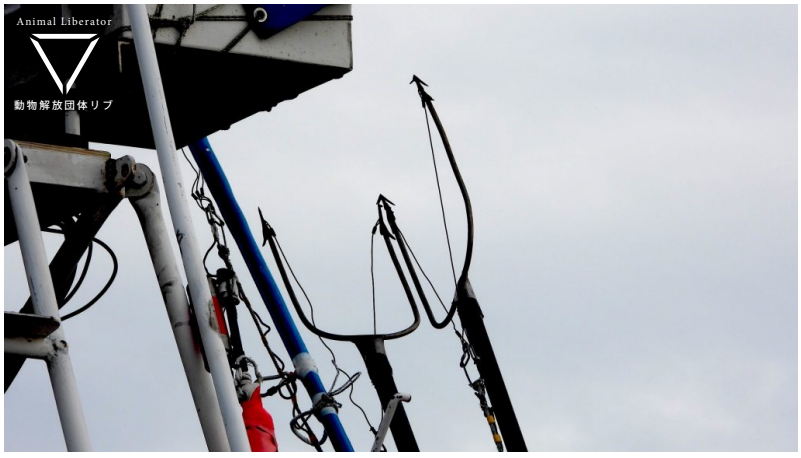
［写真：イルカ突き棒漁：燕銛_和歌山県新宮港］



［写真：イルカ突き棒漁：燕銛_先端_和歌山県新宮港］



［写真：イルカ突き棒漁：燕銛_岩手県］



第三項　漁法

現在、イルカ突き棒漁専業の漁師はいないようで、他の漁業を行いながらイルカ突き棒漁を行っています。イルカ突き棒漁を行うときは、イルカを目的に出る場合、イルカをたまたま見つけたら殺す場合、イルカが船を見つけて遊びにきたら殺す場合、趣味で殺す場合などがあります。

イルカが船を見つけて遊びにきたら殺す場合について
イルカ、特に若くて好奇心な男性のイルカは、船を見つけると追いかけていき、船首波に乗ったりするなどして遊びます。映像で見た方もいるかもしれません［URL：https://youtu.be/WUcTepf0Nc4］。イルカ突き棒漁師はそのイルカを狙って、台座から突き刺します。

漁法
各地でさまざまな漁法があります。道県によって異なるのか、地域か、漁師によっても異なるのかは不明です。
電流を流して殺害する漁（東北?）
1 イルカを発見する、イルカが遊びに来る、逃げるイルカを追いかける。
2 漁師が、銛をつかみ、台座に乗り、狙いをつける。
3 背中めがけて銛を突き刺す。
4 燕銛が外れ、イルカの体に食い込み抜けない。
5 イルカは逃げようとするが、燕銛に電気コードを伝って電気を流し感電死させる、弱らせる。
6 力尽きて死ぬか、止めを刺す。
*カジキやマンボウもこの方法で殺します

浮きを使って弱らせて殺害する漁（和歌山?）
1 イルカを発見する、イルカが遊びに来る、逃げるイルカを追いかける。
2 漁師が、銛をつかみ、台座に乗り、狙いをつける。
3 背中めがけて銛を突き刺す。
4 燕銛が外れ、イルカの体に食い込み抜けない。
5 燕銛にはコードが付けられており、一方の先には浮きがついている。
6 イルカを放置し、ほかのイルカを追い、次々と銛を刺していく。
7 イルカは浮きがあるため、逃げられず、うまく泳げず、潜れず、やがて弱っていく。
8 漁師が戻ってきて、浮きを目印に死んだイルカを回収、弱ったイルカに止めを刺して回収していく。

第四項　パチンコ漁（石弓漁）（沖縄県）

概要

沖縄ではイルカのことをピトゥ、あるいはヒートゥと呼びます。沖縄県名護では元々イルカ追い込み漁と大型捕鯨が行われており、イルカ突き棒漁が始まったのは比較的最近です。沖縄県のイルカ突き棒漁は独特で、パチンコ漁と呼ばれます。パチンコ漁の歴史は浅く、1978(昭和53)年、本土から移住した人がイルカ突き棒漁を開始しました。1977年頃から、ピトゥの来遊が減少し価格が高騰したこと、本土からピトゥ肉の注文が増加したことによって突棒漁業がはじまったようです。

漁船

最盛期は十数隻操業していたいましたが徐々に減少。1989(平成元)年知事許可漁業になったのに伴い6隻まで減少。現在も6隻、約20人で操業を続けています。新規参入は認められていません。

へさきにパチンコ(アーチェリー型の発射装置)を設置していることからすぐ見分けることができます。見張り台が設置されている船もあり、イルカを追いながら見張り台で船を操作することもできます。

［写真：イルカ漁船］



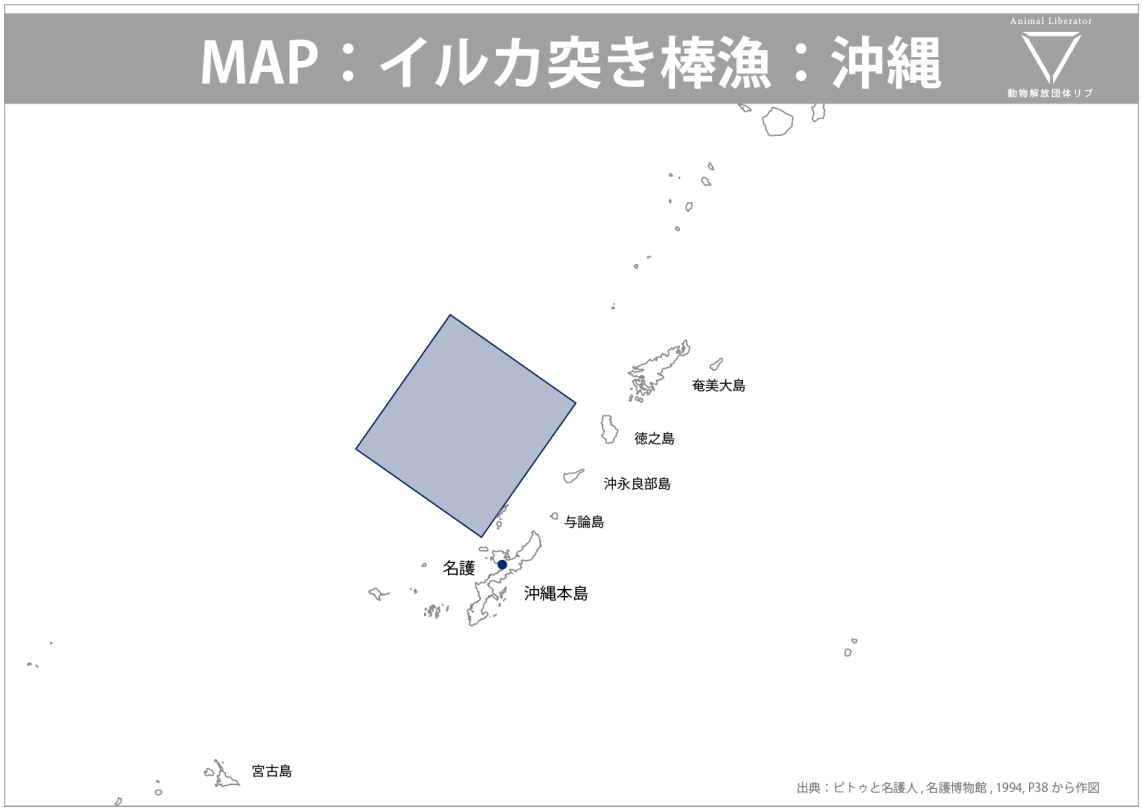
*船首にパチンコ、その後ろに見張り台が設置されている。

Googleストリートで名護漁港を見るとイルカ漁船が停泊しているのを見ることができます。

操業海域

かつては名護湾の中で操業していましたが、環境保護団体などからの批判を受け、現在では沖で操業しています。

［MAP：イルカ突き棒漁：沖縄 操業海域］



陸揚港

名護(なご)漁港、宜名真(ぎなま)漁港

通常、名護漁港に帰港しますが、大きいコビレゴンドウを捕獲した時などは、沖縄本島北部の宜名真漁港に陸揚げします。

漁具

パチンコ（1976年頃、兵庫県加東郡滝野町の民間企業が考案。船首に金属製の弓形の漁具を取り付け、強力なゴム紐によって銛を発射させる。射程距離は40m。

銛先(燕銛)・銛を付ける柄(木、鉄筋、鉄パイプを改造）・銛と柄を結ぶロープ(PPロープ、クレモナロープ等)、包丁・カマ(止め刺し、解体)、鉾剣(止めを刺す)。

突棒とパチンコの両方使っているかもしれません。沖縄タイムスに「自身がヒートゥー漁で使う漁船の上で先のとがった銛（もり）を手にする漁師の岸本悟さん。形は昔の銛と同じだが形がコンパクトになり材質も軽くて丈夫な金属になっている。捕鯨砲なども使うという」との記載があります。

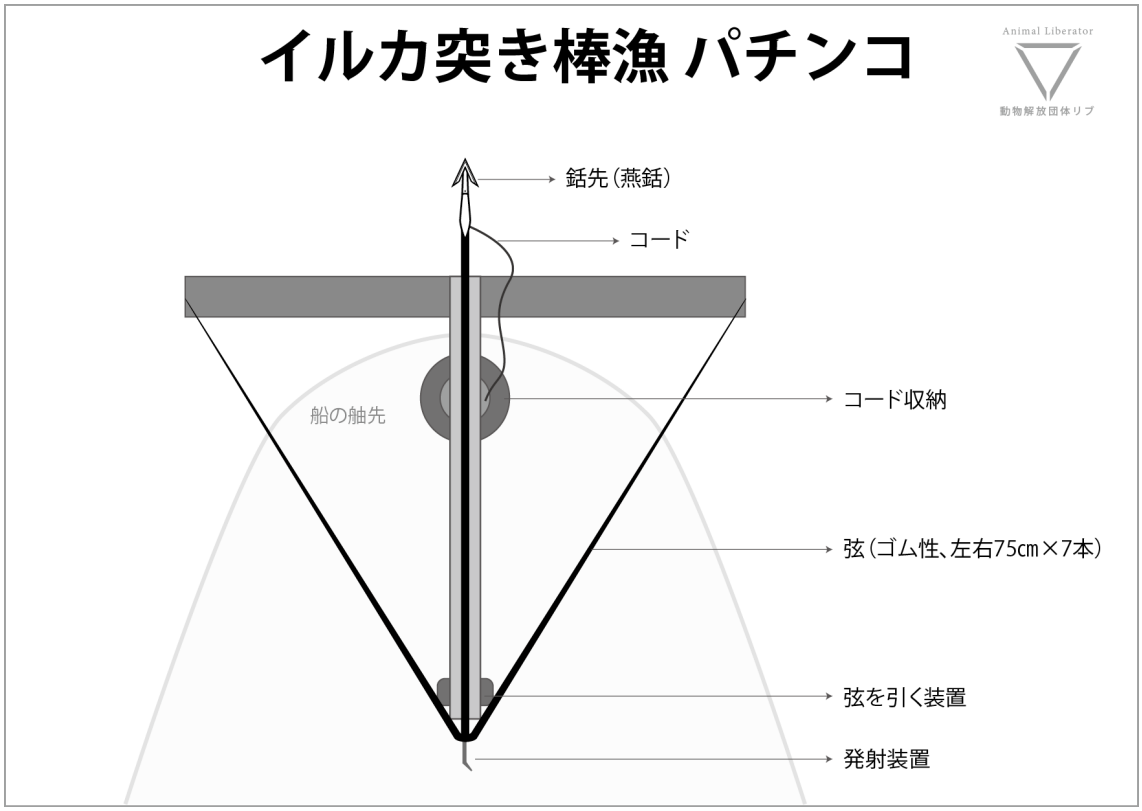
［写真：パチンコ］



［図：パチンコ］



［イラスト：イルカ突き棒漁 パチンコ］



漁法

乗組員数、2〜3人。1回の操業日数、2〜3日。捕獲所要時間は大物で1時間程度。

1. 漁場に近づくと、乗組員全員が双眼鏡などでピトゥを探す。
2. ピトゥを発見すると見張台から操作レバーで操舵しピトゥの群れに近づく。
3. 群れの背後から接近し群れの大きさを確認。
4. ピトゥは集まってきて集団となり逃げ始める。
5. ピトゥが潜り、再び呼吸する位置を推測し追尾を続ける。
6. 見張り台の人が、射手に合図。
7. 射手は、ピトゥの斜め後ろから背ビレ付近を狙って銛を発射。体に打ち込む。
8. ピトゥが潜水し逃げようとする。
9. ロープが150mほど繰り出されたら船首柱材にロープをくくりつけ、操舵をニュートラルにして、ピトゥに船を引かせ疲れさせる。

［写真：船首柱材］



10. ピトゥが再浮上してきたら、ロープを手繰り寄せ15〜20mまで近づかせ、心臓を狙い二番銛を打ち込む。弱らなかったら三番銛を打ち込む時もある。
11. 吊り下げ支柱(デリック)に括り付けたロープで、イルカの尾ビレの付け根を縛り、船体右舷中央部から引き上げる。

［写真：吊り下げ支柱］



12. 甲板上にピトゥを乗せ日除けの白テントでカバーをし海水をかけながら次の捕獲作業に移る。
13. ピトゥが大きい場合は、船尾を尾ビレをロープで繋ぎ、陸揚港である名護漁港か、宜名真漁港に運び、解体する。解体所要時間は1時間程度。

第四節　漁期

北海道

　道内者　8月1日～10月31日、5月1日～6月15日

　道外者　9月1日～10月31日、5月16日～ 6月15日 *以下のタイムラインには記入していない

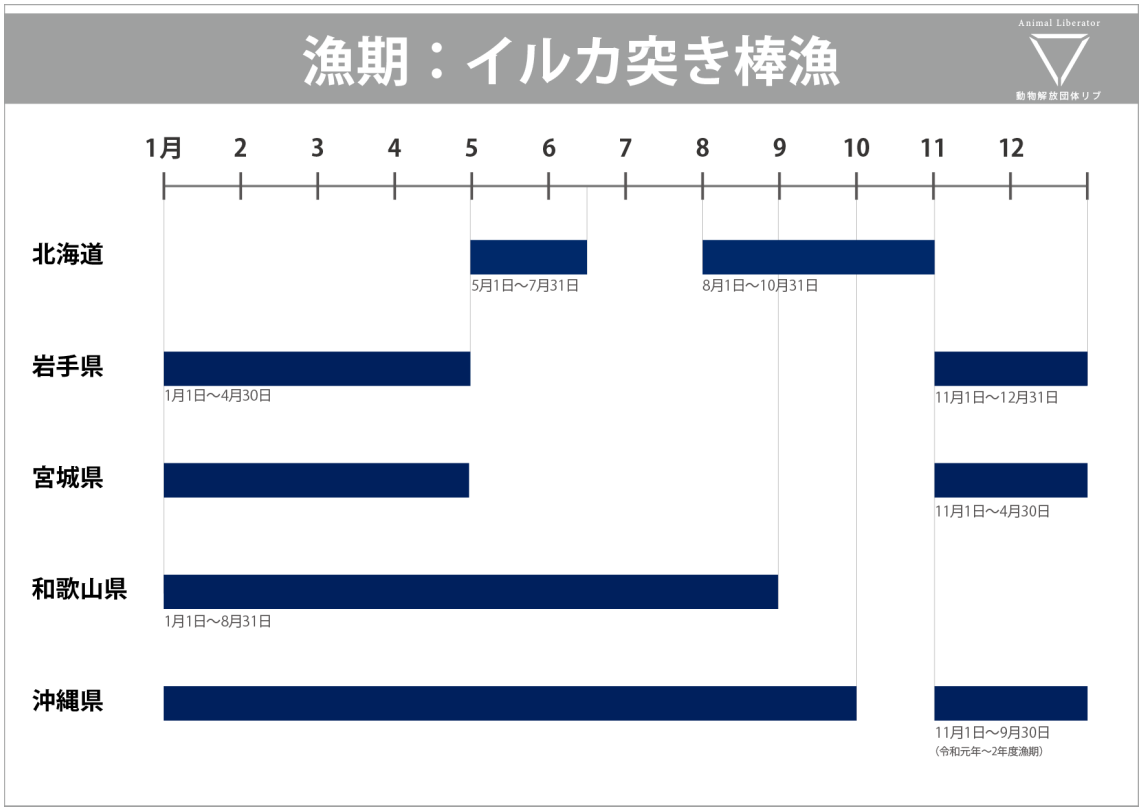
岩手　1月1日～4月30日、11月1日 ～12月31日

宮城　11月1日～4月30日

和歌山　1月1日～8月31日

沖縄　11月1日～9月30日（令和元 - 2年）

［タイムライン：漁期：イルカ突き棒漁］



第五節　捕獲数／捕獲枠

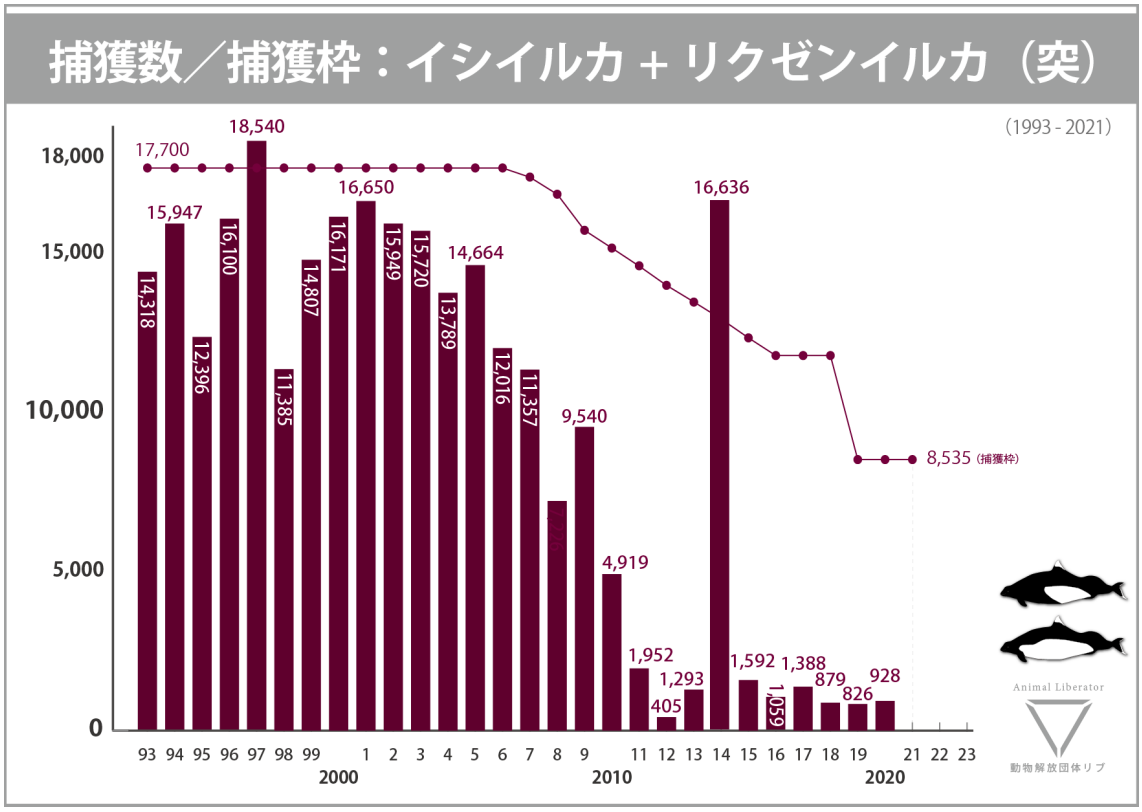
イルカ突き棒漁　県別 捕獲対象種

北海道　イシイルカ、リクゼンイルカ
青森県　イシイルカ
岩手県　イシイルカ、リクゼンイルカ、カマイルカ
宮城県　イシイルカ、リクゼンイルカ
千葉県　スジイルカ
和歌山県　カマイルカ、スジイルカ、マダライルカ、バンドウイルカ、カズハゴンドウ、ハナゴンドウ
沖縄県　シワハイルカ、バンドウイルカ、カズハゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウ(マゴンドウ)

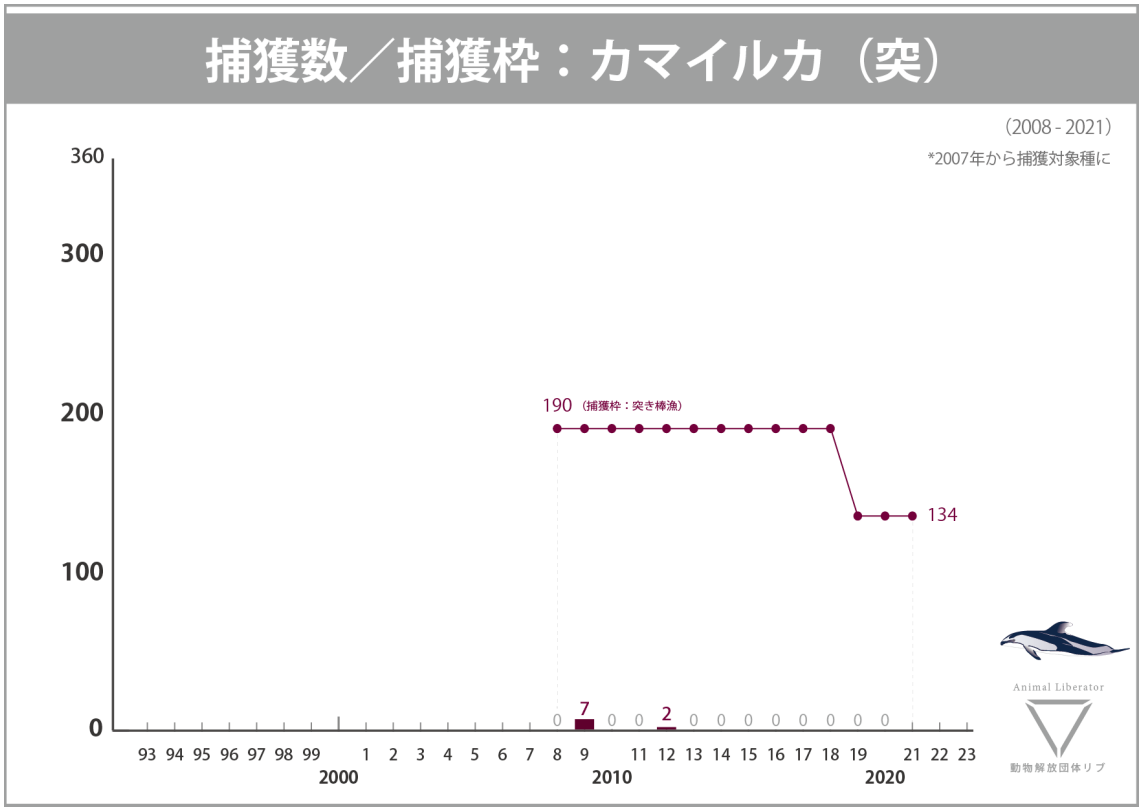
イルカ突き棒漁　種別 捕獲県

イシイルカ・リクゼンイルカ　北海道、青森県、岩手県、宮城県
カマイルカ　岩手県、静岡県、和歌山県
スジイルカ　千葉県、和歌山県
マダライルカ　和歌山県
シワハイルカ　沖縄県
バンドウイルカ　静岡県、和歌山県、沖縄県
カズハゴンドウ　和歌山県、沖縄県
ハナゴンドウ　和歌山県
オキゴンドウ　沖縄県
コビレゴンドウ　沖縄県

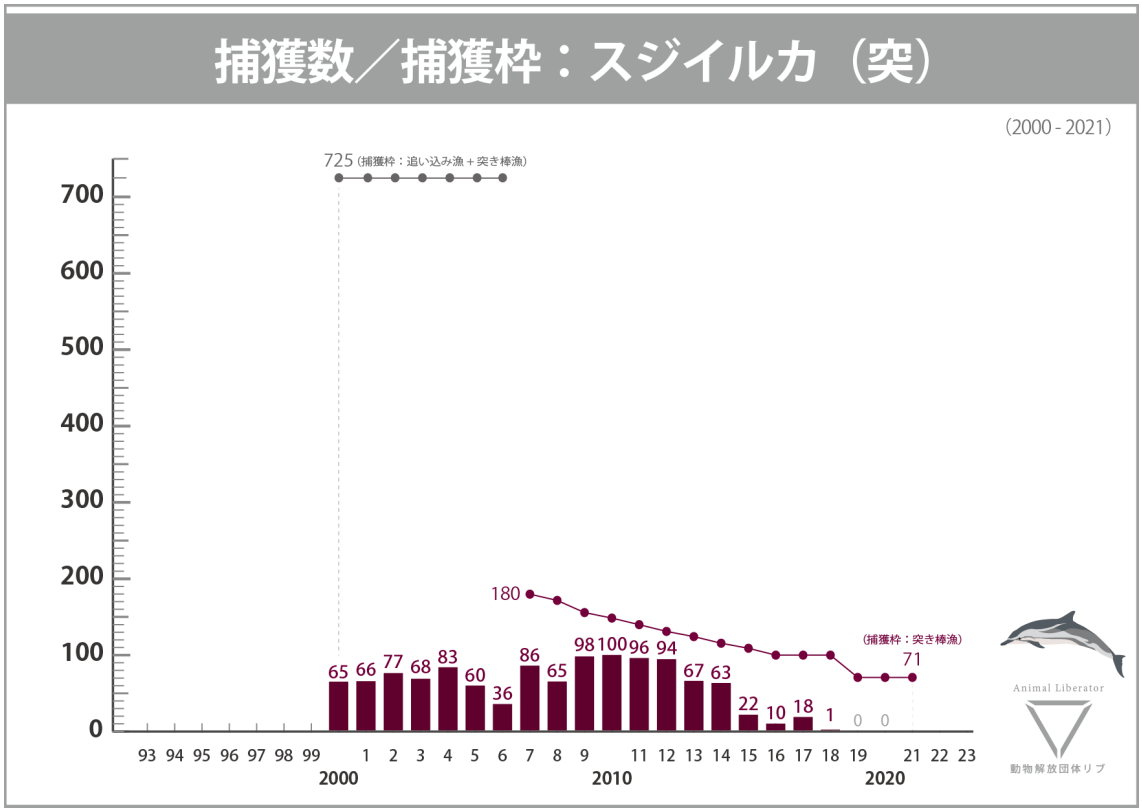
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：イシイルカ+リクゼンイルカ（突）］（北海道、青森県、岩手県、宮城県）



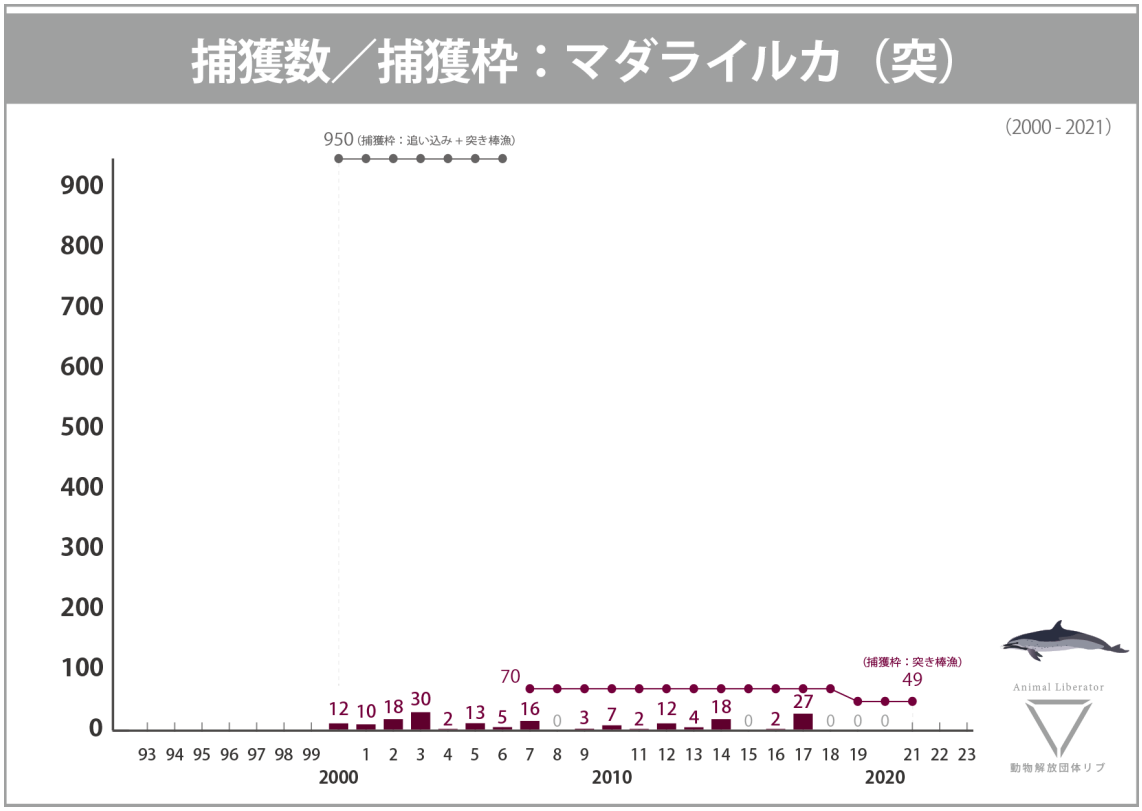
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：カマイルカ（突）］（岩手県、静岡県、和歌山県）



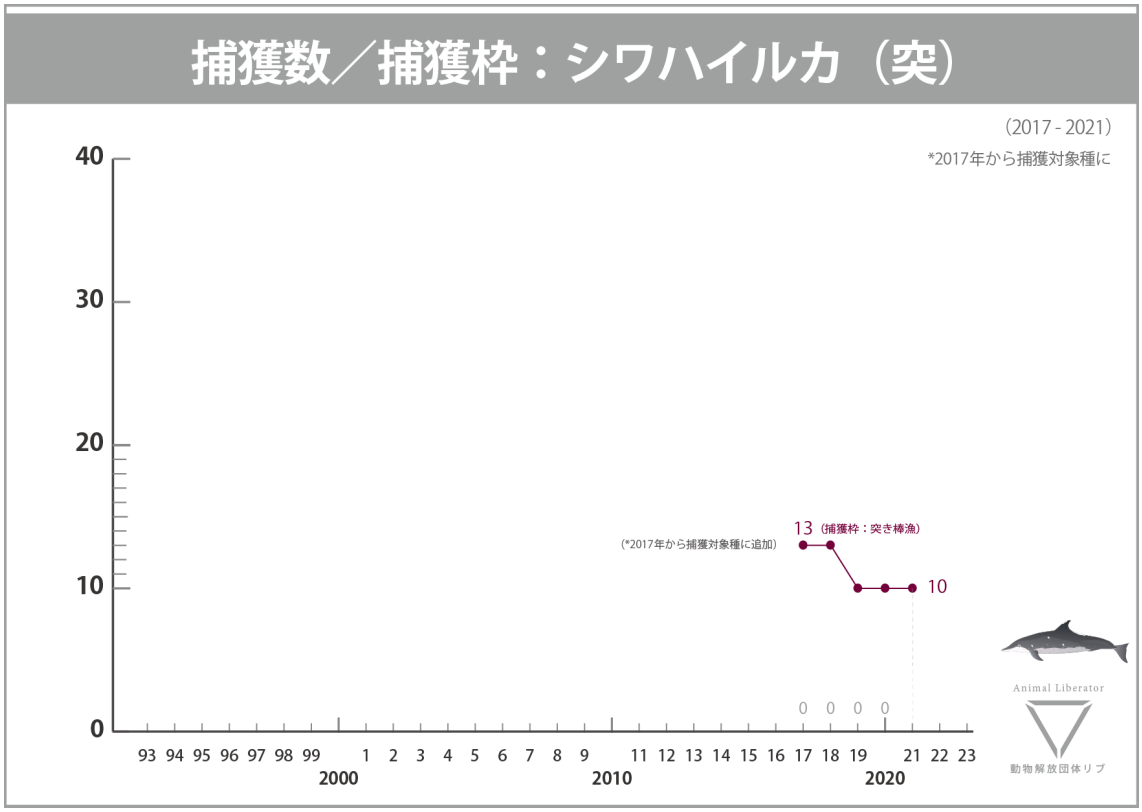
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：スジイルカ（突）］（千葉県、和歌山県）



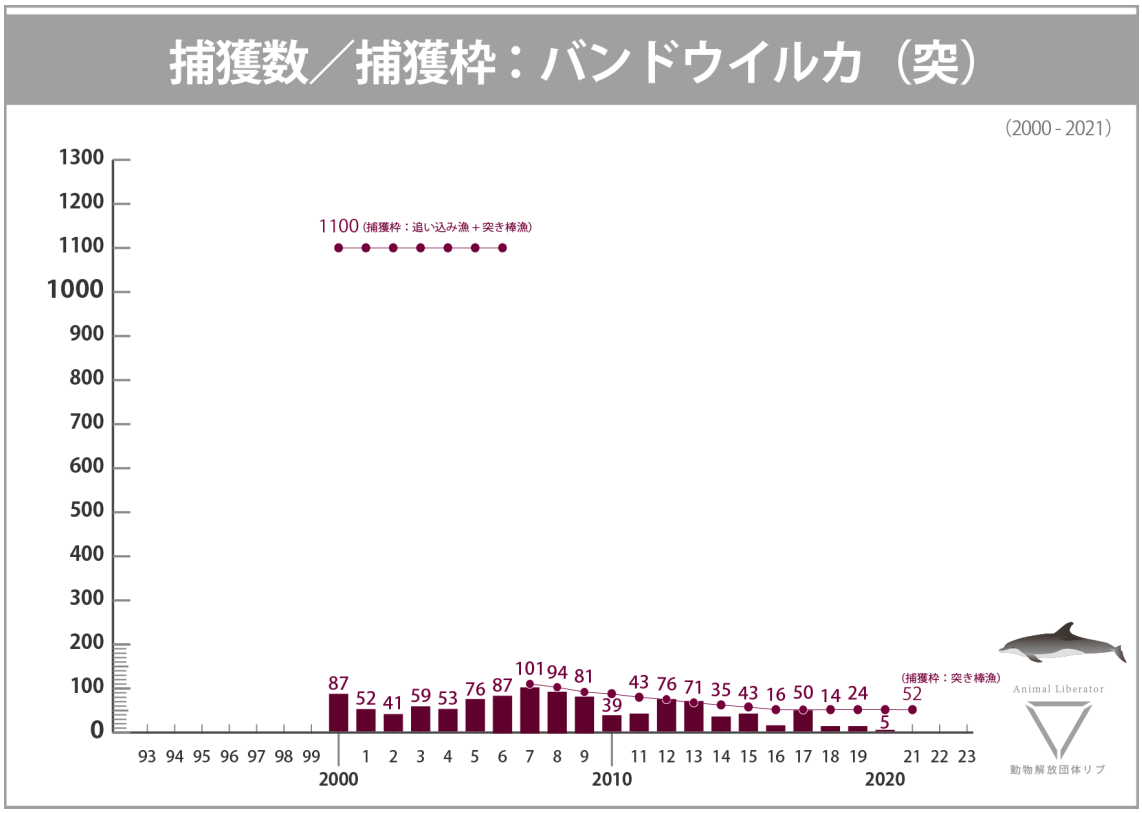
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：マダライルカ（突）］（和歌山県）



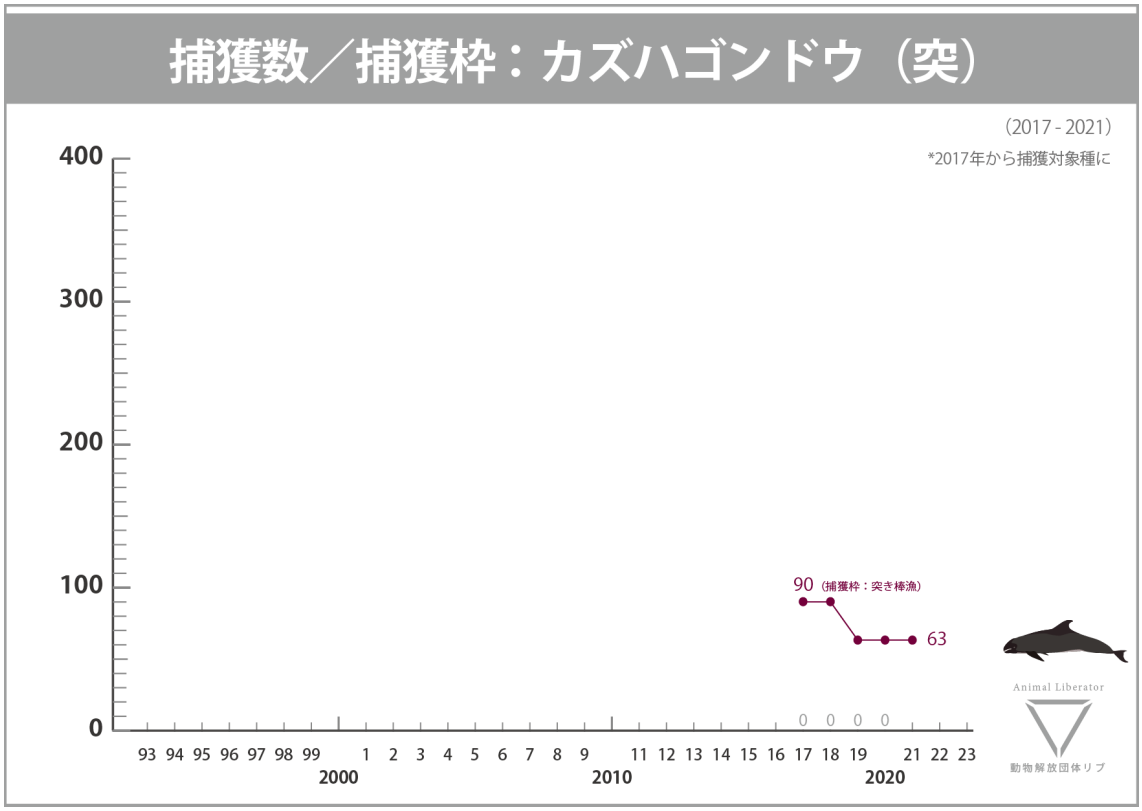
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：シワハイルカ（突）］（沖縄県）



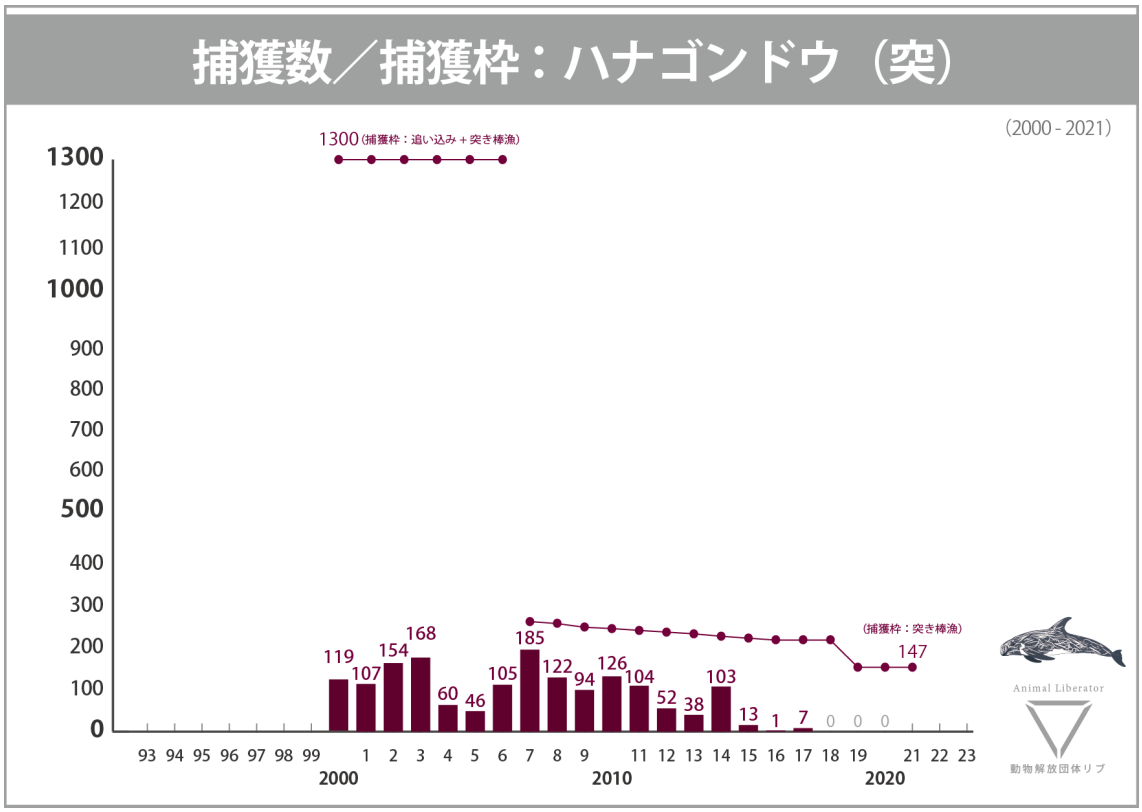
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：バンドウイルカ（突）］（静岡県、和歌山県、沖縄県）



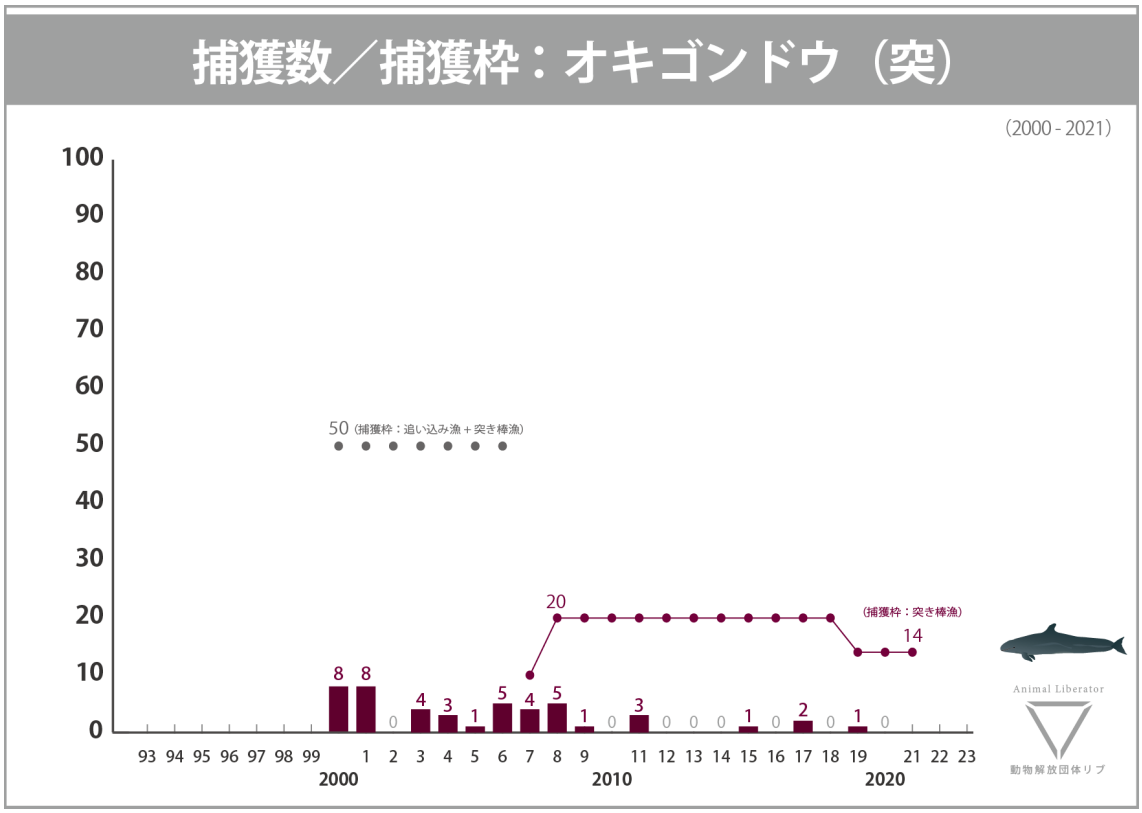
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：カズハゴンドウ（突）］（和歌山県、沖縄県）



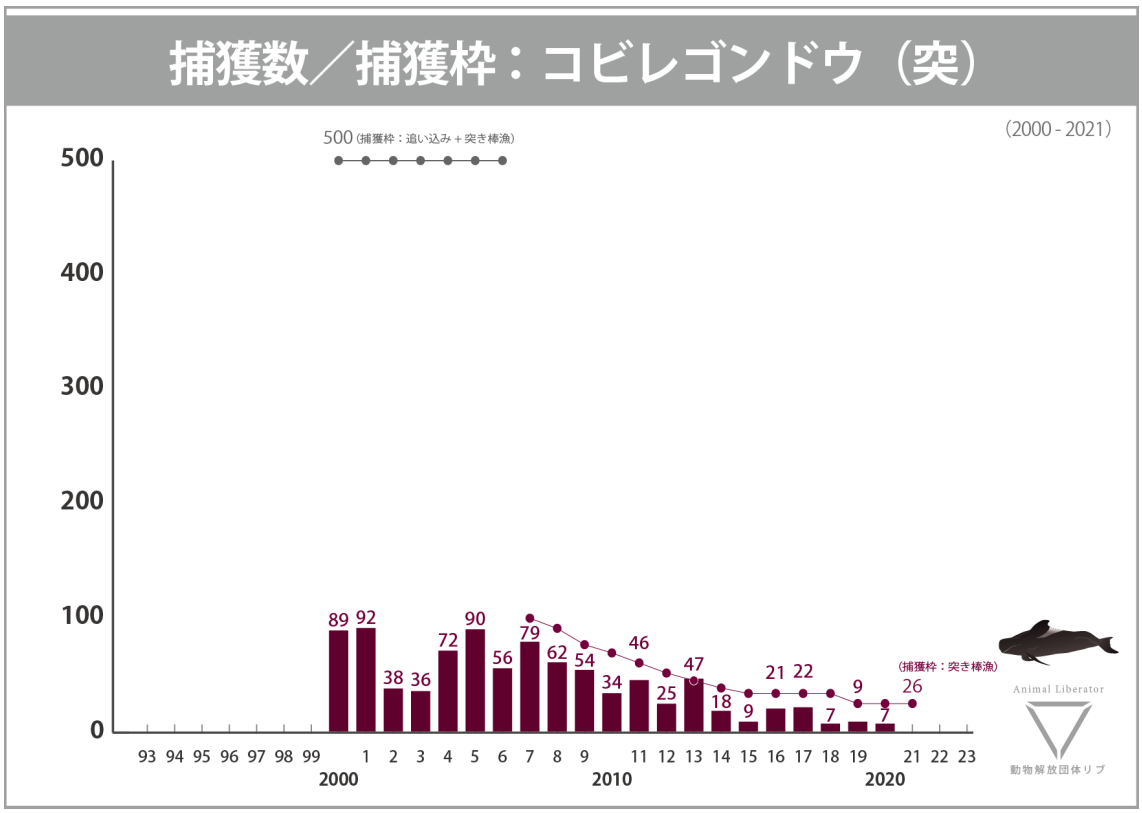
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：ハナゴンドウ（突）］（和歌山県）



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：オキゴンドウ（突）］（沖縄県）



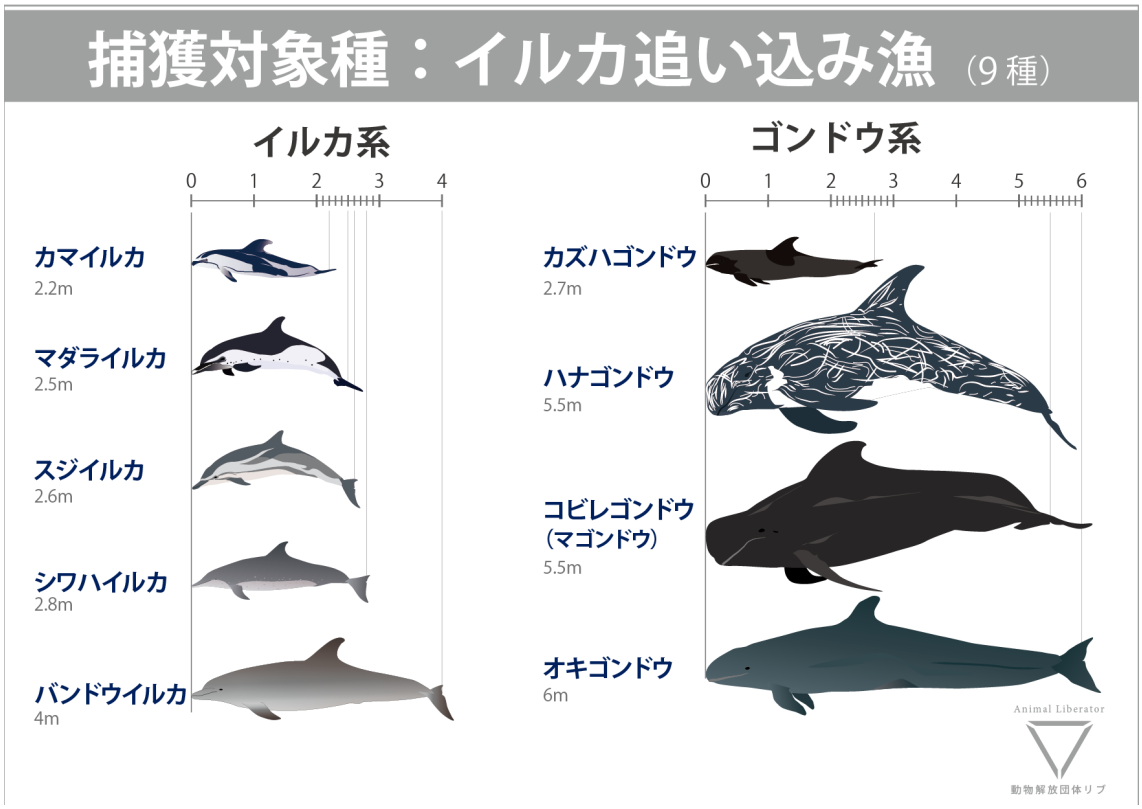
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：コビレゴンドウ（突）］（沖縄県）



第三章　イルカ追い込み漁

第一節　鯨族

［図：捕獲対象種：イルカ追い込み漁 9種］



捕獲対象種：イルカ突き棒漁 9種（*イルカ系・ゴンドウ系別、小さい順から）

（イルカ系5種）

カマイルカ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第一項　カマイルカ］

マダライルカ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第二項　マダライルカ］

スジイルカ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第三項　スジイルカ］

シワハイルカ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第四項　シワハイルカ］

バンドウイルカ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第五項　バンドウイルカ］

（ゴンドウ系4種）

カズハゴンドウ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第六項　カズハゴンドウ］

ハナゴンドウ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第七項　ハナゴンドウ］

オキゴンドウ［本文参照：第一部 第三章 第四節 第八項　オキゴンドウ］

コビレゴンドウ(マゴンドウ)［本文参照：第一部 第三章 第四節 第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）］

県別捕獲対象種

静岡県

カマイルカ(26)

バンドウイルカ(24)

オキゴンドウ(7)

和歌山県

上記 9種

イルカの利用分類

イルカは、水族館用と食用に利用されます。

以下にイルカ種ごとの主な用途を示します。

カマイルカ：水族館用。太地の地元の方に聞いたら、不味くて食べられないと言っていました。

スジイルカ：食べられています。腹肉が美味しいということで、スジイルカのお腹の白い皮膚がついたままで遺体が売られています。スジイルカも気が弱いので水族館への搬送途中で死んでしまいます。スジイルカを監禁しているのは太地町立くじらの博物館のみです。

マダライルカ：主に食用。静岡県ではアラリイルカと呼ばれよく食べられていたようです。マダライルカは気が弱いようで飼育監禁には向いていないとされていましたが、現在は複数の水族館で監禁されています。

シワハイルカ：主に食用のようです。シワハイルカを監禁している水族館は少なく、飼育監禁には向いていないのかもしれません。太地町立くじらの博物館のドルフィナリウムではよく喧嘩しているのを見ます。

バンドウイルカ：水族館用です。かつてはクロと呼ばれ食べられていたようですが、太地の方に聞いたら、あまり美味くないと言っていました。

カズハゴンドウ：主に食用と思われます。カズハゴンドウを飼育監禁している施設は太地町くじらの博物館のみです。飼育監禁に向いていないのかもしれません。

ハナゴンドウ：水族館用、食用共に利用されます。食用は、コロと呼ばれる皮の部分が、くじらの博物館でも売られています。

オキゴンドウ：水族館用、食用共に利用されます。最近ほとんど捕獲されていません。

コビレゴンドウ(マゴンドウ)：水族館用、食用共に利用されますが、太地では食用として好まれるようで、すき焼きや干物にされて食べられています。肉は獣臭く、苦手な人もいるとのことです。

捕まりやすいイルカ、捕まりにくいイルカ

イルカ漁を観察していると、捕まりやすいイルカと、捕まりにくいイルカがいることがわかります。捕まりやすいイルカは、スジイルカやマダライルカ、シワハイルカ、カズハゴンドウです。捕まりにくいイルカは、バンドウイルカ、ハナゴンドウ。
カマイルカ、オキゴンドウ、マゴンドウに関しては、見たことがないのでわかりませんが、オキゴンドウに関してはもう何年も捕獲されていませんので捕まりにくいのでしょう。オキゴンドウは水族館に高く売れます。オキゴンドウは、ICUNレッドリストの絶滅危惧種 - 危急（NT：Near Threatened）であり、活動家は、オキゴンドウが捕獲殺害されないか注視しています。

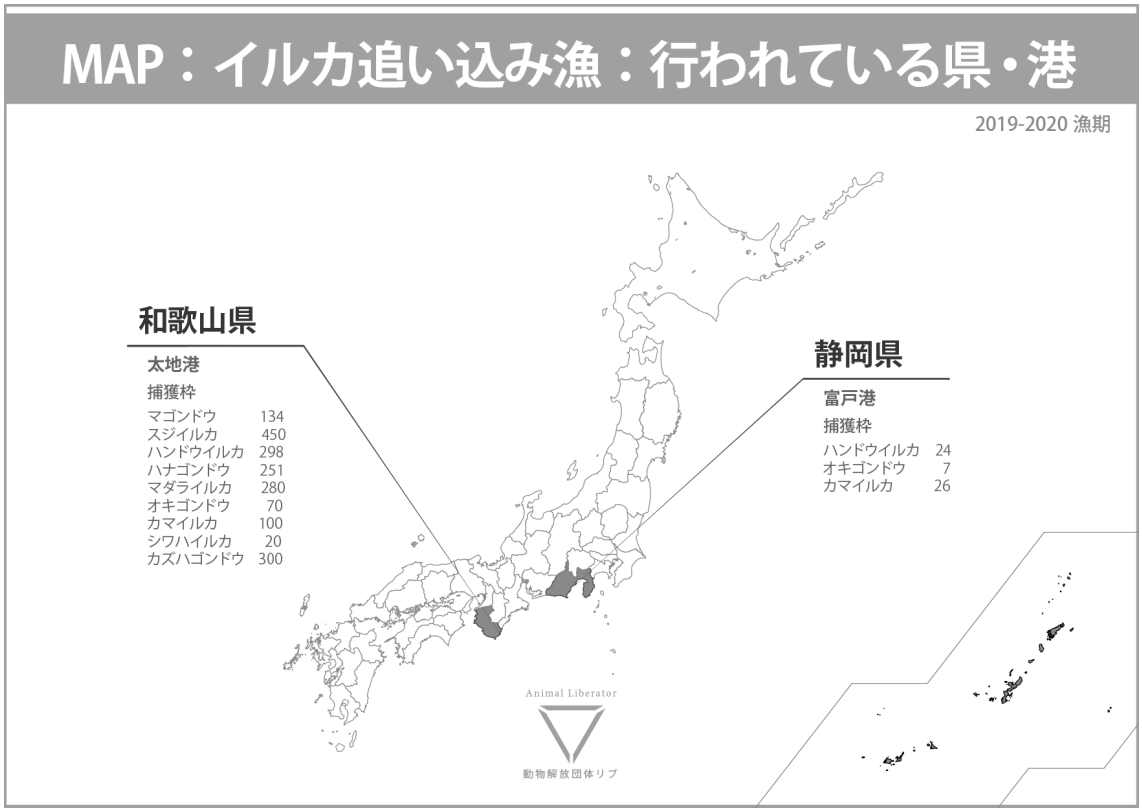
捕まりやすいイルカであるスジイルカなどの特徴は、気が弱く、体が小さいので潜水時間も短いということです。特にスジイルカは簡単に追い込めるようで、沖の方から一直線にあっという間に追い込まれてしまいます。畠尻湾に追い込まれた後も、パニックになり、網に絡まり岩に激突してしまうなど、本当に気が弱いイルカなのだとわかります。

捕まりにくいイルカのうちバンドウイルカは、頭が良く、泳ぐのも早く、潜水は最大12分535m潜ることができます。バンドウイルカのうち若い男性は、逃げることができる確率が高くなるようです。一方、女性や子供を連れた女性たちは捕まりやすいようで、イルカ漁師は水族館にとっては都合が良いわけです。
ハナゴンドウは、頭が良く、潜水は20分以上1000mも潜ることができます。追い込み途中のイルカ漁船が、沖で手間取っているときは、大抵ハナゴンドウでした。

第二節　MAP

イルカ追い込み漁を行っている県

［MAP：イルカ追い込み漁：行われている県・港］



現在、和歌山県太地町 太地漁業協同組合と、静岡県伊東市 伊東漁協のみが、イルカ追い込み漁が許可されています。

2022年、静岡県伊東市はイルカ追い込み漁を放棄したとの情報がありましたが、真偽不明です。もし伊東のイルカ追い込み漁が終焉したとしたら、現在残されたのは太地町のみになります。もし静岡県がイルカ追い込み漁を中止したら、水族館への販売収入を太地町が独占できる環境を手に入れたということになります。つまり、太地町のイルカ漁師やいさな漁港にとってはより手放したくない事業になったということです。今後の活動において、重要なのは、水族館に対して太地のイルカ漁からイルカを購入しないように求めること、水族館の観客に太地で捕獲されたイルカを監禁し芸をさせている水族館をサポートしない、お金を落とさないように説得することです。

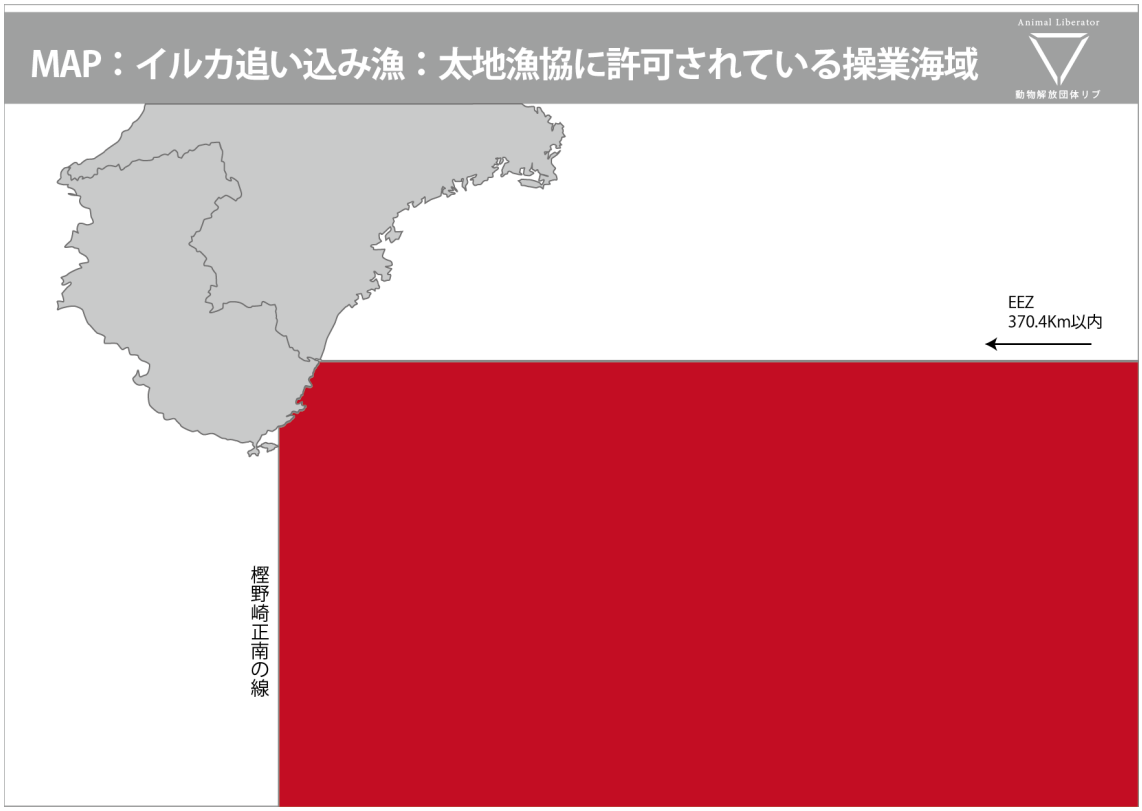
太地漁協に許可されている操業海域

太地町の操業海域は「鯨類追込網漁業許可証」の「2 操業海域」に記載があります。

樫野崎正南の線以東の和歌山県沖合海域

ただし、追い込む場所は所属漁業協同組合の共同漁業権漁場内に限る。なお、他の共同漁業権漁場であっても、当該漁業権者の同意を得た場合はこの限りではない。

［MAP：イルカ追い込み漁：太地漁協に許可されている操業海域］



沖合とは、EEZ内（200海里＝370.4km以内）のこと。やろうと思えば、かなり広い範囲でイルカ漁を行うことができます。

第三節　太地町について

日本の和歌山県太地町は、世界で最もイルカを捕獲・殺害・販売している町であり、世界で最もイルカを監禁している町であり、世界で最もイルカへの非倫理的行為で有名な町です。かつては岩手県が圧倒的にイルカを殺していましたが、現在は太地となっています。

第一項　太地町の地理

太地町の位置

和歌山県太地町は、和歌山県の最南端近くにあります。陸の孤島とも呼ばれ、名古屋方面からも大阪方面からもかなりの距離があります。

［MAP：和歌山県太地町（広域）］



電車であれば、名古屋駅から太地駅までは4時間40分～5時間40分。大阪駅から太地駅までは4時間30分かかります。

車であれば、名古屋駅から太地町までは高速3時間30分、下道5時間15分。大阪駅から太地町までは高速3時間30分、下道約4時間半。

これでも時間はかなり短縮されたようで、所々工事中ではありますが、断続的に片側1車線の無料高速道路が通っています。いずれ紀伊半島を一周する高速道路が整備される予定です。この高速道路のお陰で物流がしやすくなり、観光客の流入が増えたと地元の方が言っていました。一方、買い物などでより大きい街に行ってしまい、地元の商店が疲弊するといった現象も起きているようです。

この高速道路は別名「二階道路」とも呼ばれています。和歌山県選出の有力議員二階俊博議員がこの高速道路を通したからだそうです。

太地町内の地形

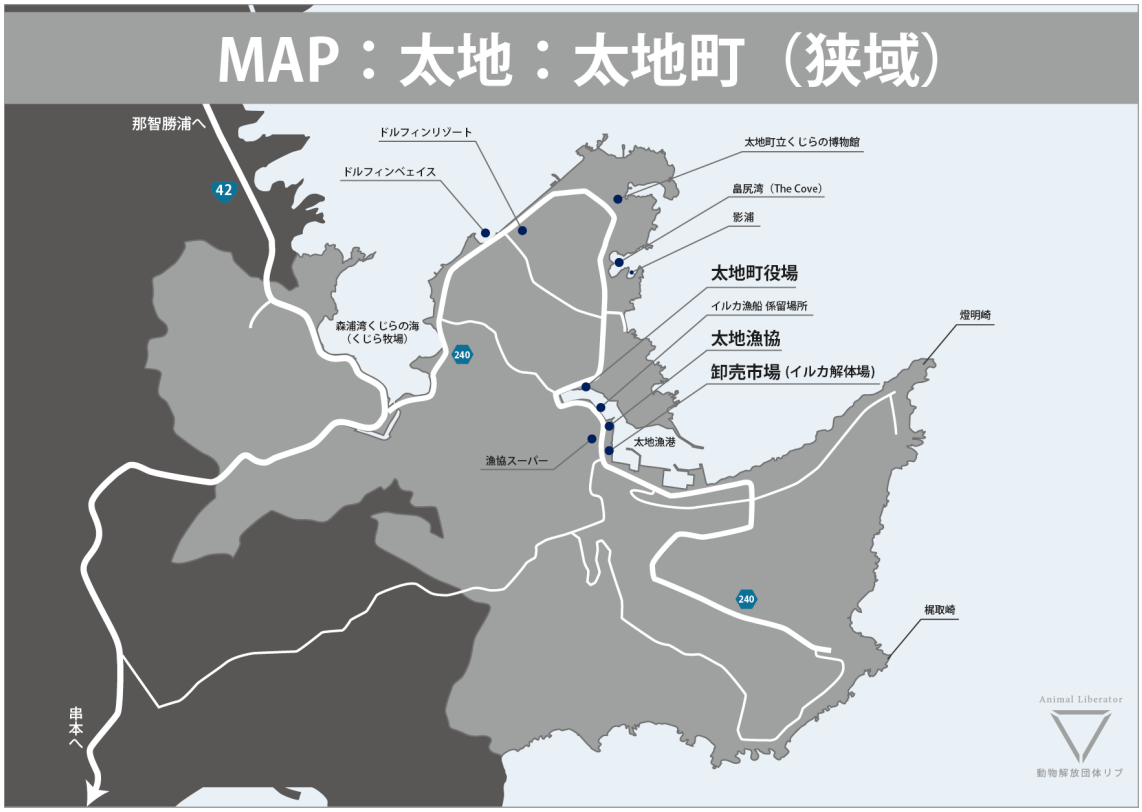
太地町には、北からは高速道路か国道42号線、南からは国道42号線で行くことになります。国道42号線から太地町の主要道路である県道240号線：梶取崎線の道沿いに太地町主要施設、イルカ関係施設がほとんどすべてあります。

県道240号線は、太地町の海側を囲んでいます。県道240号線から海側に分岐する道に入れば、調査に利用する岬や、捕鯨に関係する史跡などにも行くことができます。

太地町は海と山に挟まれた、狭い痩せた土地に位置しています。太地漁港周辺の道は入り組んでおり、所狭しと古い小さな家が立ち並んでいます。

広い土地はあまりなく、水田もほとんどありません。標高が高い場所に畑がある程度です。ですので昔から生活の糧は海から得てきましたし、その一環としてイルカやクジラも捕獲してきました。

［MAP：太地町（狭域）］



第二項　太地町の概要

*以下は主に2016年(平成28)年「太地町 まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン」を用いて記述します。

人口

2020(令和2)年の人口は、2781人。

1980年4539人、1990年4098人、2000年3777人、2010年3250人、2020年2781人。

40年で1758人、40%近く減少しています。

2022年の推計では、2680人です。

人口密度は461人。密度が高いのは面積が狭いためであり、日本に1700以上ある自治体の中で500番台です。

人口構成

全国の過疎地域と同様、少子化高齢化が進んでおり、2040年には15才未満が6.9%、65才以上が51%となと推計されています。

面積

5.81km²。

産業

太地町の産業は、

1 不動産業　11億6300万円

2 水産業　9億7400万円

3 サービス業　9億3400万円

水産業が重要な産業であることがわかります。

太地町立くじらの博物館に掲示してある「太地の漁業と定置網」によると、太地町における漁業種別漁獲量は以下となっています。

- ぶり類　254t（34%）
- 海産ほ乳類　157t
- さば類　50t（7%）
- いわし類　41t（5.5%）
- 海藻類　45t（6%）
- その他　198t（イセエビ、カツオなど）（26.5%）
- 計　745t

海産ほ乳類、つまりイルカとクジラは、太地町水産業の21%を占めています。

町長と施策：観光立町、水族館、イルカ漁

1957年8月、庄司五郎氏が太地町長に当選。日本は高度成長期(1955-1972）に入っており、庄司町長は、このまま捕鯨や漁業に頼っていては町が廃っていくと判断し、観光立町を目指します。1962年水之浦湾60,000㎡を埋め立て熱海団地（現在の役場周辺）を作りました。

1964年常渡半島海岸地帯を5億8000万円かけて埋め立てて現在のくじら浜公園を作り、1969年、当時日本では最先端の設備を持った太地町立くじらの博物館を開館させました。太地町立くじらの博物館の入り口にあるブロンズ像が庄司五郎町長です。
1974年5月、脊古芳男(せこよしお)氏が太地町町長に。庄司五郎町長がガンで急逝したためです。1980年には水族館へのイルカの生体販売が本格化、
2004年8月、庄司氏の意思を受け継いだ三軒一高氏が太地町長に就任。鯨の徹底活用を町政の柱としました。三軒氏町長に就任した翌年の2005年には中国へのイルカ輸出が始まっています。三軒町長は、捕鯨共同体の一翼を担っており、一般財団法人 日本鯨類研究所の評議委員、捕鯨を守る全国自治体連絡協議会会長を務めています。2022現在、日本鯨類研究所の出張所を太地に建設する予定です。

太地町主要施設

［本文参照：第五部 第五章 第五節 第二項 第二目　太地町役場 〜 第六目　道の駅たいじ］
［本文参照：第五部 第五章 第五節 第三項 第一目　太地漁業協同組合-いさな組合］

イルカを監禁している施設

［本文参照：第八部 第二章 第五節 第四項　イルカが監禁されている場所］

太地町の特徴

筆者は太地町滞在中、多くの太地町民と話してきました。映画「ザ・コーブ」やYouTubeなどで見るイメージとは異なり、多くの方は穏やかで謙虚で、丁寧に対応してくれます。
現在は不明ですが、かつての太地町は民の力と結束力が強い町でした。たびたび話に上がる近隣地方自治体の合併話も、町のアイデンティティを守るために断っています。1968年に隣の古座町に持ち上がった関西電力の原子力発電所建設計画には、太地町議会が原発反対の決議を行い、太地町住民は原子力発電所設置反対連絡協議会を結成、近隣自治体とともに海上デモなどの反対運動を展開しました。1979年にスリーマイル島原発事故、1986年にチェルノブイリ原発事故が起こり、関電は建設を断念しました。
［URL：富永智津子, 原子力発電所建設との闘い, Gender Distory, https://ch-gender.jp/wp/?page_id=10773］

進取果敢の気質

太地町民には進取果敢の気質があると言われており、クジラ漁師をはじめ多くの太地町民がアメリカやブラジルなどに渡ったそうです。2011年には、アメリカカリフォルニア州で太地人系クラブが開催されています。太地漁協の脊古組合長も若い頃は米国の捕鯨船に乗り、日本に帰国後イルカ追い込み漁を行なっていました。筆者もアメリカで働いていたという太地町民にお話を聞いています。

捕鯨

太地町民は捕鯨と共に生きてきました。今(2022)から416年前の1606年、和田家が「鯨組」による組織的な突き取り式捕鯨を開始しました。1675年和田覚右衛門頼治が網取式捕鯨を開発し、捕鯨の一大メッカとなりました。それから200年後の1878年12月24日大背美流れにより網取式捕鯨が壊滅。1904年ノルウェー式捕鯨を開始し、1934年南氷洋捕鯨に多く太地町民が参加、1946年11月7日戦後初の第1次南氷洋捕鯨にも太地町出身者が参加しています。現在共同捕鯨株式会社の捕鯨船団に太地出身者が乗っているかどうかについては、太地の町議会議員の方にお尋ねしたところ、聞いていないとのことでした。

太地町民には捕鯨に関係する苗字を持つ人々がおり、苗字で昔先祖がどんな仕事をしているかわかるそうです。例えば、
脊古、背古、世古、瀬古、漁野、網野、油谷(ゆたに)、由谷、〆谷(しめたに)、遠見(とおみ)、筋師など。
脊古は、勢子船(せこぶね)に乗っていた人や、クジラに銛を指す刃刺(はざし)。
油谷は、鯨油を採る人。
遠見は、岬など高いところからクジラを探す人。
筋師は、クジラ髭を使った加工品を作る人、などです。

太地の捕鯨やイルカ漁に関わっている人々が持つ捕鯨に対する想いやプライドは、外部の人間からは計り知れません。活動家の中には、祖先から受け継いできた誇りを無視し、無礼な態度を取る人々もいます。それはその人の父や母、祖父や祖母を侮辱することでもあります。活動家は、価値観は違えど、その人の歴史やプライドを認識し、理解し、尊重する必要があります。

イルカ漁

イルカ漁に関しては、外部から見ると太地町民が一丸となってイルカ漁を守ろうとしているイメージです。しかし実際は、ほとんどの町民はイルカ漁に無関心であり、イルカ漁がいつ行われているかすら知らない人がほとんどだと地元の方が教えてくれました。
イルカ漁に反対の立場の人もいます。「本当は止めてほしいと思っている」と、声を潜めて教えてくれた高齢の女性もいました。太地町にはイルカ漁をよく思っていない人はいるが、声を上げづらいとのことでした。太地におけるイルカ漁やイルカ漁師の立場は、やはり一種独特のものがあり、強い立場にある、と教えてくれた太地町民もいました。

また、イルカ漁賛成派であっても内実をほとんど知らない人もいます。
私は太地町で会う人には自分から挨拶しています。太地町に縁もゆかりもない活動家が、朝暗いうちから動き回り、あちこちで調査し、イルカ漁反対活動をしているわけで、町民の方が不審に思い、避け、場合によっては嫌うのは当たり前のことです。太地の方から見れば、活動家は活動家であり、無礼な人間が一人でもいたら、活動家全体がそうであると考えるの

は致し方ありません。ですのでできる限り礼節を持って行動し発言することを心がけています。何ヶ月もそうしていると、最初挨拶しても返してくれなかった人が少しずつ挨拶を返してくれ、そのうちに自然に話してくれるようになります。
そういう方の一人とたまたまイルカ漁の話になり、失礼にならない範囲で、イルカ漁で何が起こっていて、水族館のイルカはどんな状態にあるか(異常行動を起こしや薬漬けになっている)などを伝えました。その方はイルカ漁に賛成していて、イルカ漁にプライドを持っている方でしたが、「知らなかった」「そんなことになっているのか」とおっしゃっていました。

第三項　太地町の歴史

太地の歴史を概観します。

一期：スカベンジャー・素朴な武器による捕鯨（前4000年〜1570年頃）

（平安　794-1185）

1180　大地震により発生した火事により民家171戸が全焼。

（鎌倉　1185-1336）

散発的な捕鯨を行なっていた。

（室町-安土桃山　1336-1603）

1361　大津波があり被害を受ける。

二期：古式捕鯨（1570年頃〜1900年頃）

（江戸　1603-1868）

1606　突取式捕鯨：和田忠兵衛頼元（初代 和田金右衛門）が鯨刺し手組を組織。「鯨組」による組織的な捕鯨（突き取り式捕鯨）が始まる。

1636　燈明崎建設。日本初の常灯灯台。

1675　網取式捕鯨：和田覚右衛門頼治（二代目 和田金右衛門頼照の次男）が網捕式捕鯨を始める。コビレゴンドウなど小型鯨族を対象とした突き獲り漁も盛んだった。

1707　宝永地震発生（南海トラフ）。津波で民家が流出 。

1818　網取式捕鯨：計41隻、乗組人員500名にまで拡大。

1838　和田覚右衛門頼治が、藩主から太地姓を与えられる。初代 太地覚右衛門。

（明治　1868-1912）

1878　12/24　大背美流れ：クリスマスイブ、悪天候の中、子どもを守ろうとするセミクジラを殺害しようとし遭難。和田家は出漁を止めたが、太地家（覚吾）が出漁させた。死亡者8名、行方不明者107名、生還者80名。鯨組と古式捕鯨が衰退。大背美流れで生き残った人々が、豊富なコンドウクジラを捕獲したのが小型捕鯨の原型。

1896　網取式捕鯨：捕鯨船と乗組員等の譲渡を受けた諸木仙之助（もろきせんのすけ）が韓国釜山周辺で操業。

三期：近代捕鯨 戦前（1900年頃〜1945年）

1900　熊野捕鯨株式会社 設立。ノルウェー式のボンブランス破裂銛を使用。

1901　小型捕鯨：前田兼蔵が、アメリカ式ボムランスを使用して捕鯨を行う。

1903　小型捕鯨：前田兼蔵が、1回の引き金で3本の銛を発射できる小型捕鯨銃を開発。

1904

小型捕鯨：前田兼蔵が、前田式5連発銃を開発。

網取式捕鯨：釜山の諸木仙之助が日露戦争により廃業。300年続いた太地の古式捕鯨が終焉。

1905

ノルウェー式捕鯨：太地がノルウェー式捕鯨を開始。

東洋漁業株式会社 設立。

（大正　1912-1926）

1913　小型捕鯨：前田式小型捕鯨銃と動力船の開発により、毎年500人名前後のコビレゴンドウを殺害。〜1931年まで。

1915　少年の失火による大火。多数民家が消失。熊野捕鯨株式会社 解散。

（昭和　1926-1989）

1933

12/24　小型捕鯨：クリスマスイブ、殺害した60名のコビレゴンドウを乗せた船が転覆、1人死亡。

巻き網漁：マゴンドウの巻き網漁が始まる。マッコウ1名を捕獲したことも。

小型捕鯨：新造した小型捕鯨船（6.25トン）によりミンククジラを殺害。国内初。ミンク船と呼ばれる。

1936　太地町の海岸線・沿岸海域が吉野熊野国定公園に組み入れられる。

四期：近代捕鯨 戦後（1945年〜1986年）

1945　米軍機が燈明崎を爆撃。

1946　南氷洋捕鯨：第1次南氷洋捕鯨 出漁11/7〜1947/3/?。太地町出身者が参加。大洋漁業の日新丸船団と、日本水産の橋立丸船団。母船1隻、キャッチャーボート6隻、塩蔵母船1隻、油槽船1隻、冷凍船1隻。

1950　近海捕鯨株式会社設立（太地と宮城県の同業者で設立）。

1957　庄司五郎氏(1912-74)が太地町長に就き、観光立町を目指す。

1958　太地と串本の漁師が捕獲が禁止されているマッコウクジラを殺害し海上保安庁に逮捕される。
1962
～1967まで毎年200人以上の太地出身者が南極海捕鯨に参加（1965除く）。
水之浦湾、60,000㎡を埋め立て、熱海団地とした。
1964　常渡半島 海岸地帯（水の浦、常渡浦）を5億8000万円かけて埋立（現くじら浜公園）。
1966　10/18　財団法人 太地町開発公社設立。
1968
イルカ追い込み漁：三好晴之が鳥羽山からバンガーの存在を知り、太地町へ導入される。
1969
07/22　イルカ追い込み漁：太地町初のコビレゴンドウ追い込み漁。水族館主導による世界初のイルカ追い込み漁。バンガーを使用した追い込みも初めて。コビレゴンドウ21名捕獲（17名くじらの博物館に監禁／子供一名斃死。）。
07/27　イルカ追い込み漁：コビレゴンドウ46名捕獲（15名くじらの博物館／1名屠殺遺体食／30名畠尻湾生簀）※くじらの博物館に監禁されたコビレゴンドウ31名は次々と餓死や肺炎で死亡。9月上旬で13名(18名死亡)。年越し時点で5名(計23名死亡)。翌年1970年5月で1名(計30名死亡)。
4月　太地町立くじらの博物館 開館。
08/01　古式捕鯨ショー。畠尻湾に捕獲されたコビレゴンドウが古式捕鯨を模してイルカ漁師達に惨殺される。ゴンドウはその場で解体販売されるが買うものはだれもいなかった。
1970
05/22　イルカ漁：くじらの博物館職員（三好氏、雑賀氏、松井氏他）がバンドウイルカの背びれのつけ根付近に銛を刺して捕獲。初のバンドウイルカの生け捕り。バンドウイルカ1名は翌日死亡。
07/25　イルカ漁：同様の方法でバンドウイルカを12名捕獲。7月下旬までに残8名(計5名死亡)。
07/27　イルカ追い込み漁：コビレゴンドウ18名と、バンドウイルカ3名をくじらの博物館へ監禁。コビレゴンドウは翌年1月までに全滅した。
09/16　巻き網漁：バンドウイルカ106名を串本のヨットハーバーへ追い込む。くじらの博物館52名、下関水族館10名、イルカ島7名、越前松島水族館4名、串本町観光協会3名、捕獲・移送時に23名が死亡、リリース7名。
1973
南氷洋捕鯨：太地から156人が南氷洋捕鯨に加わった。
02/12　イルカ追い込み漁：太地町初の現代イルカ追い込み漁。マダライルカ100名を太地漁港へ追い込む。
1975

02/18　イルカ追い込み漁：太地町初のバンドウイルカの追い込み漁。
三好晴之氏がくじらの博物館主任職員から町議会議員へ。
1976　イルカ追い込み漁：長崎県 壱岐が、太地のイルカ突き棒組合を招聘。失敗。
1977　太地に新たな追い込み漁グループができる。
1978
12/?　シャチ漁：シャチ1名を捕獲。5日後に死亡。死因は捕獲時の負傷。
海原壱一(かずいち)海原建設社長が太地に別荘を持ちイルカを飼う。イルカのトレーニングビジネスを始めていた三好晴之がトレーニングを行なっていた。その時のイルカ2名を奈良県生駒山山上遊園地で「イルカ、山に登る」という移動式イルカショーを行い大成功を収める。
1979
02　シャチ6名が捕獲される。くじらの博物館3名、アドベンチャーワールド3名監禁。翌月、妊娠していたシャチが流産で母子共に死亡。
1980
イルカ生体販売ビジネスが本格化。
イルカ14,088名捕獲（スジイルカ12,835名、バンドウイルカ412名、コビレゴンドウ481名）。

五期：クジラ保護時代（1986年～）

1982　南氷洋捕鯨：太地から南氷洋捕鯨に加わったのは20人以下だった（1793年は156人）。
1983
イルカ追い込み漁：県知事許可漁業となる。新たな追い込み漁グループの出現を食い止めることが目的の一つ。
2つのイルカ追い込み漁グループが合併。
捕獲の自主規制枠を設ける。捕獲枠は、イルカ5000名・ゴンドウ500名。漁期は、イルカ10/1～2/末、ゴンドウ系10/1～4/末日。
1985
10/?　シャチ漁：2名捕獲。ナミは太地町立くじらの博物館、ゴローはアドベンチャーワールドに監禁。
1988　合併したイルカ追い込み漁グループがいさな組合となる。

（平成　1989-2019）
1989　太地町のイルカ漁から、イルカ2名がアメリカ軍に買い付けられたとされている。
1992　ドルフィン・ベェイス設立(三好晴之)。イルカの輸出ジビネスを始める。
1993　水産庁がイルカ漁業に捕獲枠を設定。県別・鯨種別に捕獲枠が定められた。1999年まで変更無し。
1997

02/10　Taiji5： 太地シャチ捕獲事件：太地沖を通りかかった10頭のシャチの群れが太地のいさな組合によって畠尻湾に追い込まれた。団体や活動家、市民からシャチの捕獲に反対し、解放を求める抗議が、水産庁、和歌山県、3水族館に殺到した。試験研究目的の特別捕獲という名目で、5名を捕獲、アドベンチャーワールド、伊豆・三津シーパラダイス、くじらの博物館に監禁。

2003

10/?　シーシェパードが太地での活動を開始。イルカ漁に用いる網を切断しメンバー2名が逮捕。

リック・オバリー氏が太地を訪れ、「日本のイルカを救え」運動を立ち上げる。

太地町開発公社が、和歌山県教育員会の協力を得て、公益財団法人和歌山県学校給食会と共に、学校給食用鯨肉販売業務を推進。

2004

08/?　三軒一高氏が太地町長に就任。鯨の徹底活用を構想する。

2005

03/?　三好晴之氏が、くじらの博物館によるイルカ取引は、社会教育法・博物法に反しているとして議会に陳情書を提出。

06/?　 中国にイルカを輸出開始。

ジャパンタイムスにボイド・ハーネル記者が「抗議を無視する秘密のイルカ虐殺」という記事を書き、太地のイルカ漁が世界に知られる。

2006

太地町が「太地町くじらと自然公園のまちづくり構想」を策定。

イルカ追い込み漁：腹びれのあるバンドウイルカ「はるか」を捕獲し、太地町立くじらの博物館に監禁（2013年4月4日死亡）。

太地町がドミニカ共和国にバンドウイルカ1名45,000ドル(522万円 ※当年の平均レート116.42円)で販売しようとするが、リック・オバリーが水銀汚染を理由にドミニカで輸入許可取り消し運動を起こし中止に追い込む。

2007

太地町が小中学校に太地産のゴンドウクジラを提供する計画を発表。漁野、山下議員が反対

TheCoveのチームが太地入りし撮影を始める。

2008

12/?　イルカ追い込み漁：屠殺方法を、これまで行われてきた長い銛でめった刺しにする方法から、フェロー諸島で行われている脊髄を銛で切る方法に変える。

2009

太地町が太地町開発公社（第三セクター）を設立。イルカの販売先を隠すため（2009-2012までは決算報告署に販売数・価格が記載されていたが、2013以降ブラックボックスに）。

2010

06/18　シャチ：太地町立くじらの博物館が名古屋水族館に、ナミを5億円で販売。

2010

07/?　映画「The Cove」日本で公開。

09/?　生簀の網が切られる(場所は不明)。オランダ拠点の環境保護団体「ブラックフィッシュ」が犯行声明。
09/03　シーシェパード：イルカ漁を妨害する為にメンバーを太地に送りこんだ事を明かした。今後さらに20〜30人を派遣し、他団体も合流する見通しと語った。
09/13　シーシェパード：メンバーのスコット・ウエストらが、畠尻湾でのイルカの仕分け作業を撮影。これに対して保守系団体がカウンター。
09/27　ザ・ブラック・フィッシュのメンバー3名が、イルカの生簀の網を切断、国外逃亡。イルカは逃げなかった。
10/12　午前5時頃、出漁しようとするイルカ漁師にメンバーら10人が、中止するよう詰め寄り、和歌山県警察が出動。
11/02　シーシェパードなどの反捕鯨団体と太地町側との間で、初の意見交換会。
2011
和歌山県警察が太地町特別警戒本部を設置。畠尻湾に太地町臨時交番を設置。
12/?　シーシェパードの支援者が、ハナゴンドウ搬送の警備員に暴行を加えたとして逮捕。
2012
10/08　シーシェパードのメンバーがくじら浜公園のモニュメントを破壊。和歌山県警に器物損壊の容疑で逮捕。
2014
森浦湾にイルカの監禁開始（バンドウイルカ）。
01/18　駐日大使であったキャロライン・ケネディがTwitterで「米国政府はイルカの追い込み漁に反対します。イルカが殺される追い込み漁の非人道性について深く懸念しています。」というメッセージを発信。
01/17　水族館：アルビノのバンドウイルカが漁師に発見され、翌日くじらの博物館に監禁。スピカと名前が付けられる。2022年現在も監禁中。
11/23　水族館：白変種のハナゴンドウが漁師に発見され、くじらの博物館に監禁。ユウジと名前が付けられる。2022年現在も監禁中。
11/28　水族館：白変種のハナゴンドウが漁師に発見され、くじらの博物館に監禁。ハマタと名前が付けられる。2022年現在も監禁中。
オーストラリア・フォー・ドルフィンズ、アース・アイランド協会、「日本のイルカを救え」運動、ドルフィン・プロジェクトが、人種差別にも続き外国人を入場禁止にしているとし、くじらの博物館を提訴。
2015
04/22　水族館：WAZAが、JAZAの会員資格を停止することを満場一致で決定。
05/22　水族館：JAZAが、追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止すると決定。
07/09　水族館：WAZAが、JAZAの会員資格の停止処分を解除。
2016

01/?　水族館：日本鯨類研究協議会 設立。JAZAの方針に反発し、太地町の町立くじらの博物館など全国各地の水族館等約30施設が参加。

2017

森浦湾くじらの海開設予定だったが工事が遅れ開設できず。

01/05　ドルフィンベェイスで2つの生簀の網が切られる。4名が逃げ3名が生簀に戻る。調教期間は半年。

2018

フェロー諸島・クラクスピークと姉妹都市締結。

2020

森浦湾くじらの海、イルカの監禁数100名以上、生簀約30に。

2022

森浦湾くじらの海、開設準備を進めている。

第四節　業者・船・道具

第一項　業者

イルカ追い込み漁は、知事許可漁業であり知事（実際は和歌山県 農林水産部 水産局 資源管理課）が、追い込み漁グループごとに許可を出します。和歌山県では、太地漁協所属の**「太地いさな組合」**が許可を受けています。新たなグループの申請は許可されません。
許可証には、共同経営者住所氏名（イルカ漁師）と、船舶名（イルカ漁船）が記載されます。
2022年時点で、イルカ追い込み漁の許可船籍は19隻。イルカ漁船13隻(イルカ漁師が各1隻所有）、和船5隻(いさな組合所有)、無動力船1隻(いさな組合所有)。漁業者つまりイルカ漁師は13名が記載されています。
イルカ漁師は13名ですが、各船に1名手伝いの漁師が乗っています。イルカ漁師は高齢者の方が多く、手伝いの漁師は若い漁師です。イルカ漁師になれるのは太地出身の人のみ。つまり13名は全員太地の方です。手伝いの漁師は太地出身でなくても構わず、近隣自治体である那智勝浦町や新宮市から来ている漁師もいます。イルカ漁期外、イルカ漁師は他の漁業を行っています。太地町民でイルカ漁に関わっている人々は150人ほどとのこと。人口の4%です。

許可申請の際に提出する書類
・漁業許可（起業認可）申請書
・漁業許可申請者
・従事者名簿
・船団構成一覧表
・代表者選定届（共同経営の場合）
・共同経営者権利義務関係書（共同経営の場合）
・適格性に関する誓約書（暴力団対策法）
・副申書（所属漁業協同組合）
・船舶使用承諾書（よう船の場合）
・捕獲頭数一覧表

許可する際の事務については以下の文書が参照されます。
・鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針
・鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針の取扱要領（「乳飲み稚鯨又は〜」等の条件が書いてあるのはこの書類）
・鯨類追込網漁業の新規の許可又は起業の認可の事務取扱要領
* これらの文書はたびたび変更されるため、開示請求の際には確認が必要です。

許可更新年

1983(昭和58)年、イルカ追い込み漁が県知事許可漁業となり、9月14日から「鯨類追込網漁業の許可方針」が施行されました。許可更新は、3年ごとに行われます。以下に許可更新年と期間と許可申請者の一部を記述します。

?年?月?日～ 平成7年9月30日（この更新まで許可申請者は太地漁協）

平成7年10月1日～ 平成10年9月30日（この更新から許可申請者がいさな組合に）

平成30年8月28日～ 令和3年8月27日

令和3年8月28日～令和6年8月27日（この更新までは許可申請者はいさな組合）

　令和4年5月19日付で、いさな組合が廃業届を提出（いさな組合長が変わったため）

　令和4年8月1日付で、新規許可申請（新組合長で申請）

令和4年9月1日から令和7年8月31日まで（この更新から許可申請者が太地漁協に）

第二項　船・道具

第一目　船

イルカ漁船

［写真：イルカ漁船］太地漁港に停泊中



［写真：イルカ漁船］太地漁港に帰港したところ



13隻のイルカ漁船が登録されています。イルカ漁船とは、通常の漁船にバンガー(banger)を取り付けたものを指します。イルカ漁を行わない時期は、船からバンガーを下ろします。
外国人活動家は、バンガーボート(banger boat)と呼んでいます。

大きさは、最小の船が4.47トン、最大が9.96トン、。
馬力は、最小の1隻が110馬力、4隻が122馬力、6隻が163馬力、最大の1隻が450馬力です。あるメーカーの最大出力450馬力の船は、最高速度27ノット、時速50km/h出ます。捕獲対象種のうち最も早く泳げるのはバンドウイルカ、時速40kmです。しかしそのスピードで泳げるのは大人の男性であって、子供や子供を連れた女性たちはそんなに速くは泳げません。他のハクジラの遊泳速度は、20km/h以下。また40km/hで泳げるイルカであったとしても、体力には限界があります。ガソリンがが切れるまで動き続けられる漁船にイルカが敵うはずもありません。

和船

［写真：和船］



5隻の和船が登録されています。海外の活動家からはスキッフ（skiff）と呼ばれています。
0.8トンが4隻、1.5トンが1隻。いずれも30Kwの船外機を積んでおり40馬力ほど。
これ以外に7.3トンの無動力船「いさな丸」が登録されおり、30Kwの船外機が設置されています。

《参考》船級区分、漁船登録番号等の表示

漁船には「識別・船級区分 - 漁船登録番号」を表示しなければならず、船体側面に書かれています。「XX2 - 0794」のように、「ローマ字2文字+数字1桁 - 数字4桁」で表されます。
ローマ字は都道府県を表します。例えば北海道はHK、岩手県はIT、和歌山県はWKとなります。数字1桁は船の大きさであり、以下のように表されます。

1　総トン数 100 トン以上の動力漁船
2　総トン数 5 トン以上 100 トン未満の動力漁船
3　総総トン数 5 トン未満の動力漁船
4　総トン数 5 トン以上の無動力漁船
5　総トン数 5 トン未満の無動力漁船
6　淡水面(潮汐の影響のない潟、河川、ため池等)で使用する動力漁船
7　淡水面(潮汐の影響のない潟、河川、ため池等)で使用する無動力漁船

イルカ漁船には、「WK2-????」か「WK3-????」があります。よく見ますと比較的大きいWK2の船が6隻、少し小さいWK3の船が7隻あるはずです。
和船は、総総トン数 5 トン未満の動力漁船にあたりますので、「WK3-????」という番号がついています。
無動力船には、「WK4-????」という番号がついています。
次にイルカ追い込み漁に使用されている船の名前を示します。2022年許可申請時に登録された船です。

イルカ漁船名

［W2］（5トン以上 100トン未満）

1. 暁丸（WK2-3260　9.96トン　ジーゼル120）◎
2. 漁友丸（WK2-3807　7.9トン　ジーゼル120）◎
3. 由真丸（WK2-5407　8.5トン　ジーゼル120）◎
4. 雄晴丸（WK2-5409　7.9トン　ジーゼル120）◎
5. 海昭丸（WK2-5072　7.3トン　ジーゼル120）◎
6. 幸丸（WK2-5410　9.1トン　ジーゼル120）◎

［W3］（5トン未満の動力漁船）

1. 第五房丸（WK3-12680　4.99トン　ジーゼル90）◎
2. 第三周丸（WK3-13441　4.99トン　ジーゼル90）◎
3. 基丸（WK3-13468　4.98トン　ジーゼル 80）◎
4. 清丸（WK3-15750　4.74トン　ジーゼル90）　◎
5. 第八栄良丸（WK3-16370　4.94トン　ジーゼル330kW）◎
6. 真友丸（WK3-19183　3.8トン　ジーゼル265kW）◎
7. 光明丸（WK3-19726　1.1トン　ジーゼル25kW）◎

*メモ：第五美代志丸（WK2-3225　7.72トン　ジーゼル90）が今回登録されていない。

和船名

［W3(和船)］

1. 第2号いさな丸（WK3-21512　0.8トン　電気点火船外機30KW）
2. 第3号いさな丸（WK3-22235　1.1トン　電気点火船外機30KW）
3. 第五号いさな丸（WK3-23078　0.6トン　電気点火船外機30KW）
4. 第7号いさな丸（WK3-23094　2.1トン　電気点火船外機30KW）
5. いさな（WK3-22271　1.5トン　電気点火船外機30KW）

無動力船名

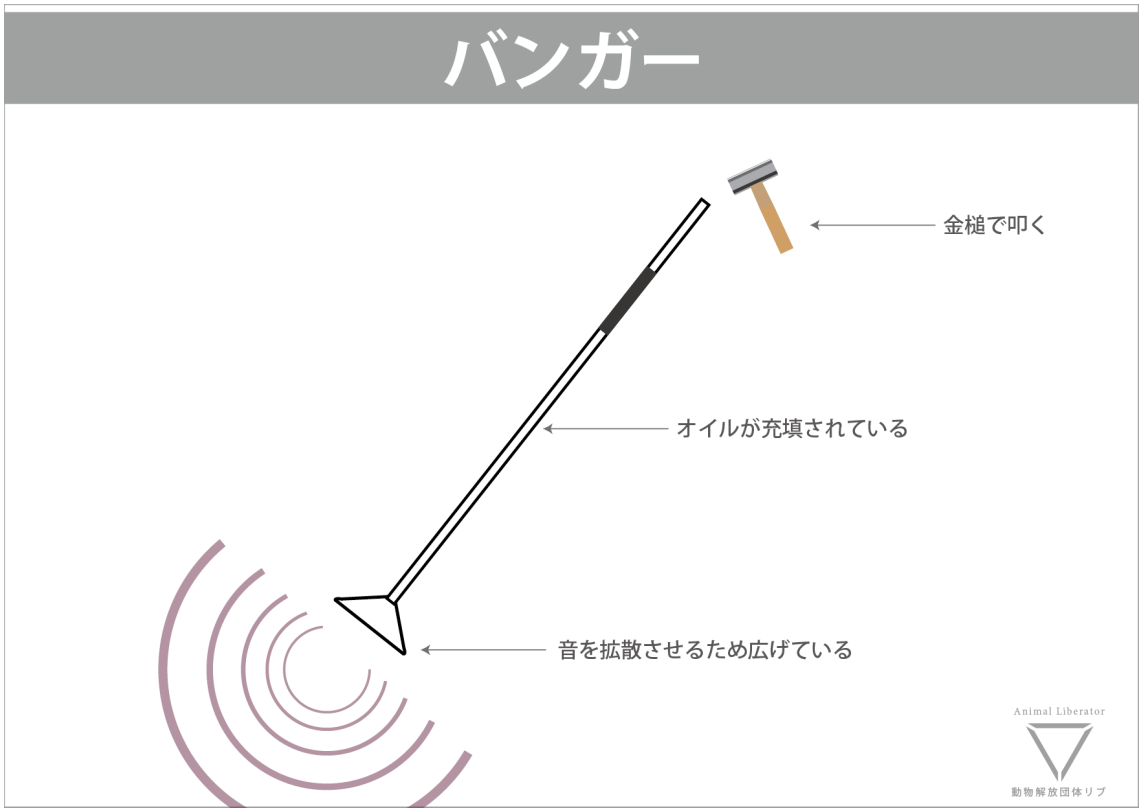
［W4］（5トン以上の無動力漁船）

いさな丸（WK4-255　7.3トン　- ）

［イルカ漁船に乗せる道具］

バンガー(banger)

［図：バンガー］



［写真：バンガー］



［写真：バンガー］



バンガーは、英語でBanger。音をBang Bang鳴らすからそう呼ばれます。静岡ではチャンチャンと呼ばれ、太地でもそう呼ばれるそうです。
バンガーによるイルカの被害は、［本文参照：第五部 第五章 第二節 第二項 第一目　バンガー：聴覚へのダメージ］。

無線

各漁船と漁協は無線でやりとりをしています。漁師が取得する漁業用無線の免許は、海上特殊無線技士免許で、1級、2級、3級があります。1級は国際航海、2級は国内航海、3級は小型漁船ですので、イルカ漁師は2級か3級免許で通信しているということになります。
総務省海岸局のページで日本全国の漁協の電波の形式や周波数を調べることができます。
［URL：海岸局：https://www.tele.soumu.go.jp/resource/j/material/dwn/3-4.pdf］

［和船に乗せる道具］

1 イルカ追い込み作業→2 水族館用捕獲作業→3 殺害作業の順に記載します。

1 イルカ追い込み作業

紐をつけた金属の棒

［写真：紐をつけた金属の棒］



畠尻湾周辺でイルカの最後の追い込みをするときに使用します。使用目的は、イルカを音で脅し、湾に入れる又は湾の奥に追い込むためです。使用方法は、音を出すために船の縁を叩く、水音を出すために海に投げ入れるです。海に投げ入れた後は紐を使って引き上げます。

網

［写真：黄色と黒の網］



網は黄色、オレンジ、黒の3種類が使われています。

黄色の網は、イルカが湾から出られないように外海と湾を仕切る、イルカを湾の奥に追い込むため湾の中を仕切ることに使われます。

オレンジの網は、影裏に追い込んだイルカを集めるときに使われています。

黒い網は、水族館用のイルカを捕獲する際に使用されています。イルカ漁師、ダイバーが、イルカを黒い網で捕まえ、イルカトレーナーに見せ、イルカトレーナーが捕獲するかどうかを決めます。

2 水族館用捕獲作業

イルカ用タンカ

［写真：イルカ用タンカ］



イルカを運ぶときに使用します。バンドウイルカやハナゴンドウなど体が大きいイルカを運ぶ時は、イルカをタンカに乗せ、和船の横にくくりつけて運びます。カマイルカ、スジイルカ、マダライルカのように小さいイルカを運ぶときは、船の上にビニールで簡易的な生簀を作って、その中にイルカを入れて運びます。

その他

［写真：ヒシャク］



その他、ヒシャク、注射器、薬、魚鉤などが乗せてあります。ヒシャクは捕獲したイルカに海水をかけます。イルカの体温が上昇するのは危険な状態であり、皮膚が乾くと火傷をするからです。注射器は、獣医がイルカに薬剤を打つときに使用します。魚鉤はイルカの遺体を回収するときにイルカに突き刺して引き寄せるために使用します。

3 殺害作業

グレーシート、ブルーシート

［写真：グレーシート］



グレーシートやブルーシートはイルカの遺体を隠すために使います。写真のように和船でイルカの遺体を運ぶときにかけたり、イルカ漁船でイルカの遺体を運ぶときにかけたりします。

黒いロープ

［写真：黒いロープ］



黒いロープは殺したイルカの尾ビレにつながっています。。ロープ1本ごとに1名のイルカの遺体がくくりつけられています。太地漁港に運んだのち、黒いロープにウィンチをつなぎ、解体場へと引き上げます。

殺害道具

［図：殺害道具：銛・栓］



［写真：殺害道具］



かつては長い槍で殺害していましたが、現在はフェロー諸島で使用されているムヌスティンガリを模したものに変わりました。

第五節　漁法

第一項　イルカ追い込み漁の手順

和歌山県イルカ追い込み漁の最初から最後までを追って、手順を示します。活動家として漁を調査する場合のルートは、［本文参照：第八部 第二章 第五節　調査活動～太地町 イルカ漁調査～］に記載しています。合わせてお読みになれば、漁や調査工程の全体像をより詳細に理解できます。

以下のレポートは、2019年2月25日6時15分～13時57分、約7時間半にわたって行われたイルカ追い込み漁を時系列で追ったものです。以下の記事に加筆したものを掲載します。時間経過とともに、イルカ追い込み漁の手順がわかるようになっています。［URL：https://animal-liberator.net/animal-liberator/190225-doiphin-hunting/］
時間は短いですが、まるで何日も経ったような気がした長い長い調査でした。漁の経過ごとに、実際の現場で撮影した動画のURLを記載しています。また、以下のYouTube再生リストにすべての動画をまとめています。ご活用ください。［URL：YouTube再生リスト：https://www.youtube.com/playlist?list=PLQT1RmSZIgCrrVLZy8Cn7ECeQIlcLolaK］

6時15分　イルカ漁船の出港

［URL：中継：https://youtu.be/KhTLzFtCyLE］（4:25）

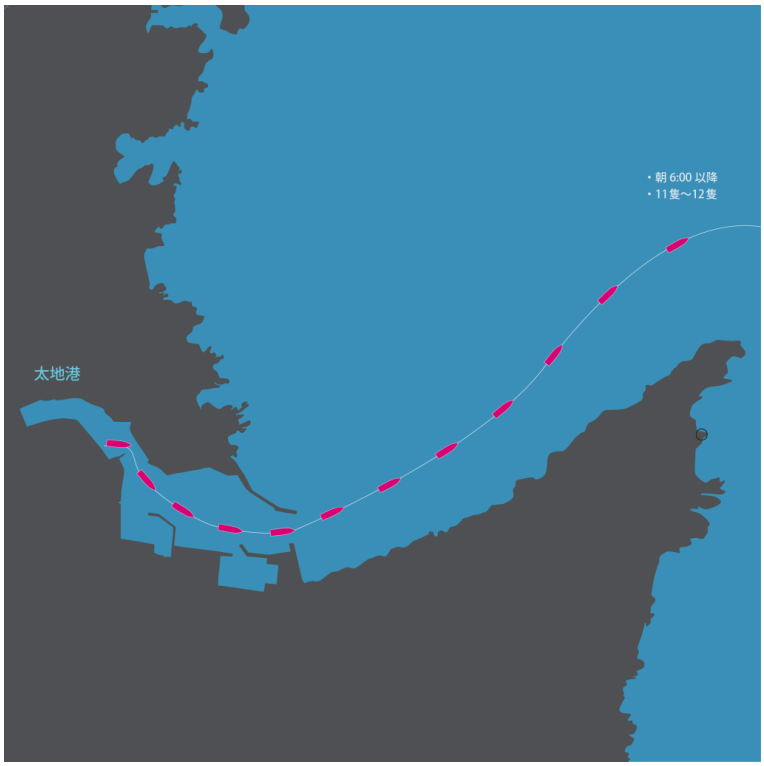
出港の条件

イルカ漁船は、早朝夜明け前、空が白みはじめたら出航します。日が登ったときに沖に出ていれば、すぐにイルカの探索を開始できるからです。また午後になると風が吹き始めることがあり、早めに漁を終わらせる必要があるからです。太地町の日の出は、漁期が始まる9月1日は5時30分頃、冬至で6時57分頃、イルカ漁期が終わる2月29日は6時26分頃、ゴンドウ漁期が終わる3月31日は5時46分頃です。最大約1時間30分の差があります。
イルカ漁に出漁するか否かの条件は、天気、風、波の状態によって決まります。イルカ漁船が出港する天気は、晴れ、曇り、小雨で、風や波が無いか弱いときです。出港しない天気は、雨、大雨、台風、風や波が強いときです。台風一過の時など晴れていても風や波が強いときは出港しません。活動家にとって台風や強風などの荒天は良いニュースです。朝起きて強風が吹いていたら笑顔になります。イルカの安全が約束されるからです。
イルカ漁師はまだ暗いうちから、寒いときは焚き火をたいて太地漁港に集まります。集まっていないときは漁がないときです。漁港に漁師がきていないことも、活動家にとって良いニュースです。集まっていても天候を見て、出港しない時があります。

出港時の様子

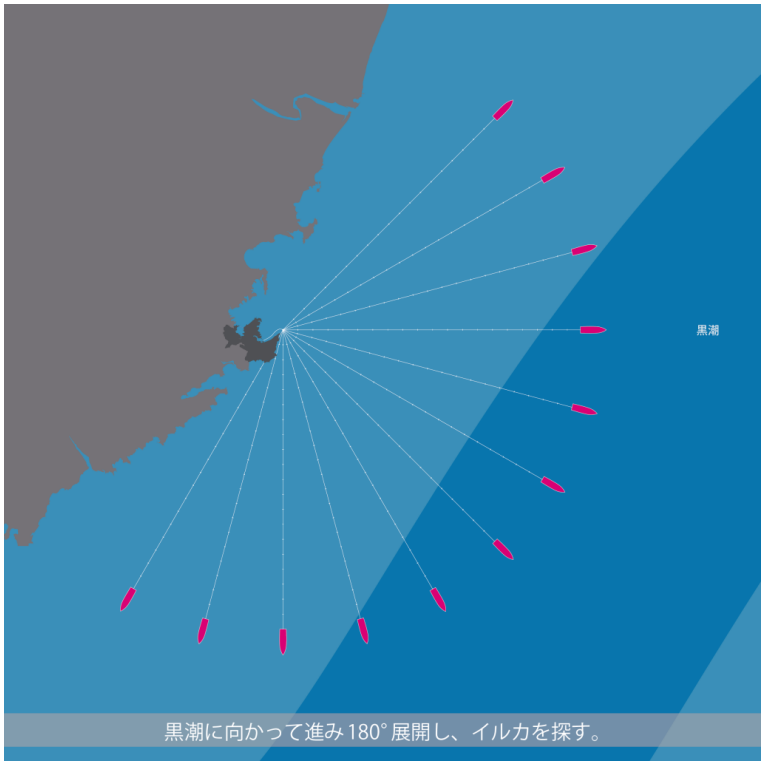
夜明け前、停泊しているイルカ漁船にポツポツと電気がつき始めると、イルカ漁開始の合図です。イルカ漁船の準備が終わると、列をなってゆっくり出航します。漁港内は制限速度があるからです。出港する漁船の数は、日によって変わりますが、大体12隻でした。

［図：列になって出港するイルカ漁船］



沖に出た後、12隻の漁船は180°展開し、沖まで出て、それぞれの場所でイルカを探します。

［図：180°展開するイルカ漁船］



イルカの探し方

イルカ漁師はイルカを裸眼か双眼鏡を用いて探します。双眼鏡には、視野の安定と腕の疲れを軽減する目的で、船の床まで届く棒が取り付けてあります。

探すのに適した天気は、曇りで凪の日。晴天の場合、太陽の反射のきらめきによって発見しづらくなります。波がある場合、波間によってイルカの背ビレが見つけにくくなり、白波が立てばイルカが起こす波との区別が難しくなります。

探すのに適した海の状態は、黒潮が岸に近いときです。イルカは黒潮（太平洋日本沖を南から北に向かう暖流）に乗って移動するため、黒潮が陸に近いほどイルカは近くにいます。一方黒潮が遠い時は見つけづらくガソリンや時間などがかかります。

なお、魚群探知機やソナーは使わないようです。魚群探知機は船の真下のみ、角度約50°の範囲しか探知できませんのでイルカを探すには不向きです。一方ソナーは全方位を探知できます。アクティブソナーは自船から音波を発射し戻ってくる音波によって探知するソナー、パッシブソナーはどこかで発せられている音波を探知するソナー。漁業ではアクティブソナーが使われます。探知距離は漁業用で数km〜ですが、イルカが感知し避けるので使わないと聞きました。

イルカは回遊しており、この時期は暖かい黒潮に乗って太地沖を通り過ぎて行きます。

9時40分　イルカ漁船がイルカを発見する

［URL：中継：https://youtu.be/qvO1xoLMFy8］

イルカ漁船がイルカを発見したと判断する方法

イルカ漁船はかなり沖合に出ていますので、全く見えなくなります。見えたとしても、陸地からは水平線上にある点にしか見えません。他にも船が出ており、特に土日休日には多くの遊魚船が出ているため見分けるのは困難です。

その中からイルカ漁船を見分ける方法は、複数の船が一箇所に集まっているかどうかです。もしイルカ漁船が一箇所に集まっていたら、そこにはイルカのポッドがいます。ただし船が一箇所に集まっていたとしても、複数の関係のない船が偶然集まってしまった場合や、複数の遊漁船が魚の群れを囲んでいる場合もありますので、確認作業をしなければなりません。

確認作業は、漁船が集まっている場所へ向かって、左右から全速力で向かっている船がいるかどうかを見ます。もしイルカ漁船がポッドを見つけていたとしたら、その知らせを無線で受けた他のイルカ漁船が集まってくるからです。全速力で向かう船が複数あったら、イルカが発見されてしまった可能性がかなり高いと判断できますので、引き続き注視します。

イルカを追い込み始める準備

イルカを発見したイルカ漁船は無線で他の漁船に連絡し、集まるように伝えます。発見した漁船はイルカのポッド(家族や仲間)を見失わないように、遠巻きに静かに追っていきます。

その間に他のイルカ漁船が到着し、ポッドを囲うのに十分なイルカ漁船が集まってきたら、静かにイルカを囲みます。

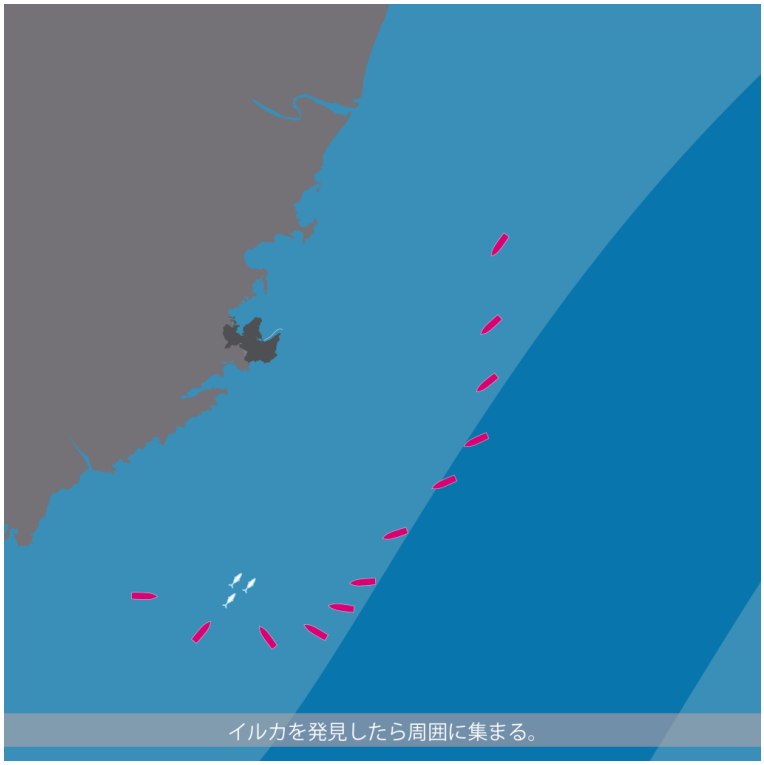
イルカのポッドを囲んでいるイルカ漁船は、陸から見ると一直線に並んでいるように見えます。これを「フォーメーション」と呼びます。

［写真：フォーメーション］



水平から見ると一直線に見えますが、上空から見るとイルカ漁船は沖側からイルカのポッドを囲み、太地漁港方面に口を開ける形で展開しています。

［図：フォーメーション］



追い込んでいるイルカの種類がわかった時

イルカ漁船からの観察でイルカの種類が分かった場合、

食用にするイルカだったら漁協に伝え、漁協横の卸売市場＝解体場で解体の準備を始めます。

生体販売用にするイルカだったら、くじらの博物館に伝えます。水族館からは、イルカトレーナーや獣医、関係者が捕獲や注射の準備をし、和船に乗って影浦に集まってきます。生体販売用にするイルカとは、国内外の水族館から注文が入っているイルカ、太地町立くじらの博物館や太地町開発公社、太地漁協が確保しておきたいイルカです。

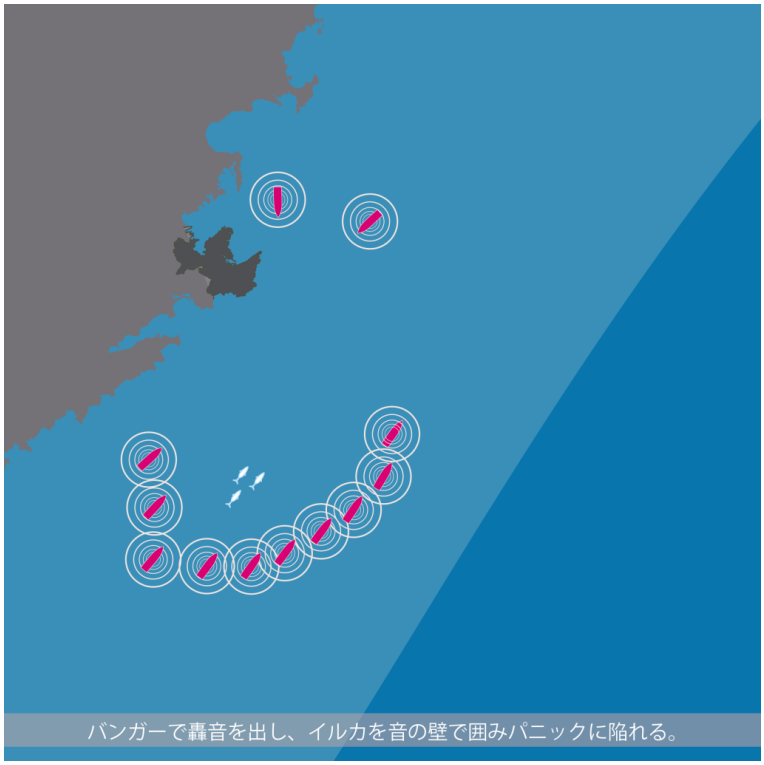
9時56分　太地沖 イルカ漁船がイルカを追込む

［URL：中継：https://youtu.be/YQv_wiVGJC8］

追い込み開始

イルカを静かに囲んでいたイルカ漁船は、リーダーの合図で一斉に「バンガー」を叩き、海中に轟音を立てます。あまりの轟音にイルカは一瞬でパニックになり、逃げ始めます。

［図：　バンガーで轟音を出す］



バンガーで轟音を出し、イルカを音の壁で囲みパニックに陥れる。

イルカが全速力で泳ぎ始めると、イルカ漁船がエンジンを全開にして追いかけます。この時イルカ漁船からは黒煙が立ち上り、異様な雰囲気となります。水平線で追い込みが始まったときは、水平線状にイルカ漁船の数だけ黒煙が上がります。陸からはイルカたちが見えなくても、黒煙を吐きながら進むイルカ漁船団の先にイルカの群れがいることが想像でき、居た堪れない思いになります。

一番前にいるイルカ漁船がイルカが外海に逃げられないように行く手を阻み、後ろの方にいる漁船団が後ろからイルカを追い立てて進みます。

パニックになったイルカはパニック全速力で泳ぎ、体力を奪われ、呼吸が浅くなり、深く潜れなくなります。若い男性のイルカは体力と気力で逃げ切れることもありますが、必死で子どもを守ろうとする母親は、例え自分が逃げることができても子ども守るために残ります。イルカ漁師たちはそれをよく知っています。

10時26分　コーヴ：イルカ漁師が準備を始める

［URL：中継：https://youtu.be/2T5QcjCL2OU］

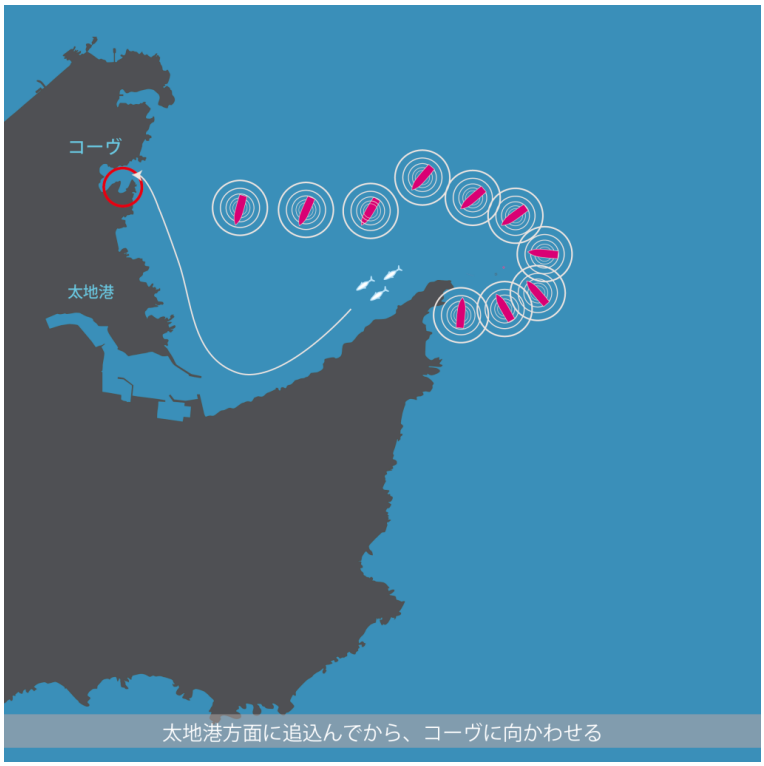
イルカ漁師は手に分かれる

太地漁港の近くまで来ると、イルカ漁師は二手に分かれます。引き続きイルカをイルカ漁船で畠尻湾に追い込むグループと、一旦太地漁港に戻り和船に乗り換えイルカを追い込みながら影浦へ向かうグループです。

影浦での作業の詳細は、［11時34分　イルカトレーナーたちが選別に来た］をご参照ください。

畠尻湾に追い込む

［図：太地漁港方面に追い込んでから、コーブに向かわせる］



太地港方面に追込んでから、コーヴに向かわせる

グループ2と3が畠尻湾で捕獲準備をしている間、グループ1は畠尻湾へのイルカ追い込み作業を行っています。
グループ1は一度太地漁港方面にイルカの群れを追込んでから、北に進路を変えコーヴ方面に向かわせます。太地漁港に向かうとき、イルカ漁船は一塊になって追っています。イルカ漁を見たことがある人の中には、イルカはイルカ漁船の左右を抜けて、沖に逃げられるのではないかと思った人もいるでしょう。しかしイルカからするとそれは困難です。

イルカ追い込み漁で重要なのは海底の地形

沖の方でイルカを追い込んでいる時、時々イルカ漁船が手こずる場所があることに気づきます。海底図でその場所を確認すると、深い場所から海底200m程へと急激に浅くなるラインがありました。さらに太地漁港近くの海を海底図で確認すると、上記図に白い矢印で示した部分がまるで海底の通路のように深くなっています。この海底通路は、コーブに進むにつれ徐々に狭く浅くなり、畠尻湾で急激に浅くなっています。イルカ漁船は、その海底通路をイルカに進ませるように、後ろから音を立てて追い込んでいました。
イルカの目線で想像してみると、イルカはイルカ漁船とバンガーの音から逃れるため、できるだけ岸から遠く、そして深いところへ逃げようとするはずです、なぜならより海底が浅くなる場所に行くということは、より死の危険が増大することを意味するからです。そのため、イルカたちは海底が浅くなる箇所で、なんとかイルカ漁船の下をくぐり抜け、沖側の海底が深い方に逃げようとします。実際に、イルカたちがイルカ漁船の沖側にのがれ、イルカ漁船が慌ててUターンし、黒煙を吐きながらイルカを追いかけていく姿を何度も見ています。
太地漁港まで来ると、太地漁港周辺はかなり浅くなっているため、イルカたちは、深い場所を求め右に曲がり、畠尻湾の方に行かざるを得ません。しかし、そちらに待っているのは一生の奴隷の生涯、あるいは苦痛に満ちた死です。
太地漁港周辺の海底は、まさに追い込み漁に適した海底であることがわかります。

コーヴ、畠尻湾、影浦について

映画「The Cove」のコーヴとは、畠尻湾（はたけじりわん）のことです。畠尻湾は、太地町立くじらの博物館と太地漁協の間にあり、くじらの博物館から500mほどしか離れていません。畠尻湾でイルカの捕獲や虐殺が行われている最中に、くじらの博物館からイルカショーの歓声が聞こえてくることがあります。観光客たちのためにショーをさせらているイルカたちは、畠尻湾で捕獲され、家族や子どもを殺されたイルカたちです。
以前は国道沿いの誰もが見れる場所で、海を血に染めながら捕獲・殺害作業を行なっていました。活動家の発信によりその残虐性が知られ、現在は見える場所では行われていません。代わりに、畠尻湾の右側に入り込んでいる国道からはまったく見えない湾、影浦（かげうら）で行われるようになりました。現在は影浦で、イルカの捕獲・選別・殺害が行われます。

イルカ追い込み漁の時、畠尻湾にいる人々

イルカ漁が行われているときに、畠尻湾や太地漁港にいる関係者について整理しておきます。
①漁があるときは毎回いる人々
イルカ漁師　20〜30名ほど。
警察官　陸上の警戒に当たっています。
刑事　同様に陸上の警戒に当たっています。
海上保安庁　海上の警戒に当たっています。
［写真：畠尻湾を警戒する海上保安庁］



②場合によりいる人々
イルカトレーナー　5〜15名ほど。水族館などに売るイルカの選別を行います。殺害するイルカを選別しているとも言えます。
獣医　1名 (?)。獣医が参加していることもあります。捕獲してすぐのイルカに注射を打っていることもありました。
水産庁所管法人関係者
この日は、国立研究開発法人 水産研究・教育機構 国際水産資源研究所の人々が5名来ていました。話しかけると不遜な態度を取られました。
専門学校生　イルカトレーナーの育成を行なっている専門学校生の学生が引率されてきていることがあります。
一般市民　地元の方や観光客が見物していることがあります。
③活動家
団体関係者　太地では複数の団体、グループが活動しています。

個人活動家　平日はほとんどいません。土日に訪れる活動家が多く、イルカ漁開始時やデモやパネル展などが行われるときは数十人が集まります。

10時30分　イルカが追い込まれる。しかし必死で逃れた

［URL：中継：https://youtu.be/AxrkNoautdM］
イルカ漁船が、畠尻湾の入り口までイルカを追い込んで来ました。画面の一番左にイルカ漁船がいて、イルカ漁師の手にはバンガーを叩くための金槌が見えます。この船は、畠尻湾を越えてイルカが逃げないようにバンガーを鳴らすストッパーの役割です。

ついにイルカの群れの姿が見えてしまいました。イルカ漁船が次々とコーヴに姿を表し、和船が網を張る準備を始めます。イルカがコーヴに入ったらすぐに網を張り、イルカが外に逃げられないようにするためです。
追い込まれているイルカはバンドウイルカとハナゴンドウの混群でした。水族館でもおなじみのイルカたちです。この時点で、イルカトレーナーたちや水族館関係者が影浦に来ている、あるいはこれから来ることがわかります。バンドウイルカが捕獲できるからです。
バンドウイルカは頭が良く泳ぐスピード速いイルカ、ハナゴンドウは息が長く続き深く潜れるイルカです。しかし、ここまで追い込まれてきたイルカは長時間イルカ漁船に追われ、バンガーの轟音でダメージを受け、パニックで呼吸が浅くなっており、そのような状況でも子どもを守り、精神的にも肉体的にも疲れ果てています。

もうだめかと諦めかけた直後、イルカたちが包囲網から必死で逃れました。（１回目の脱出）。この時、体が震えるほど感動したのを覚えています。
イルカ漁師が、イルカが逃げたことに気が付き、イルカ漁船を転回させ、エンジンを全開にして黒煙を噴きあげて追いかけていきます。
［写真：黒煙を噴き上げるイルカ漁船］



10時36分　バンガーを叩くイルカ漁師

［URL：https://youtu.be/IIuCk8qZ7OA］

バンガーの音については［本文参照：第五部 第五章 第二節 第二項 第一目　バンガー：聴覚へのダメージ］へ。このバンガーの音が、イルカにとっていかに苦痛なものであるかがわかります。

10時39分　再びイルカたちが追込まれ、そして再度逃れる

［URL：https://youtu.be/ZvPCdH98ifk］

イルカたちが再びコーヴに追い込まれて来てしまいました。

しかし、10時40分、再度イルカは逃れ、（２回目の脱出）イルカ漁船は転回し、黒煙を噴きあげて追いかけていきました。

10時40分　イルカたちの息を飲む闘い

［URL：中継：https://youtu.be/WMLhOkRb9sQ］

10時45分30秒

再びイルカがコーヴに追い込まれてきます。畠尻湾にバンガーの乾いた音が響きます。

10時47分

イルカ漁師が1枚目の網を張り始めました。

網について

イルカを影浦に追い込むとき、網は全部で３枚張ります。

第一の網は、コーヴの岬と岩の間に張ります。これを張り終えたら、もうイルカたち逃げることはできません。

第二の網は、第一の網の内側に張り、群れを分裂させます。小型ボートのエンジンをイルカに向け、音と泡で影浦方面に追い詰めていきます。

第三の網は、さらに内側、影浦の入り口に張ります。その中で選別と殺害が行われます。

10時47分37秒

イルカたちが再度、イルカ漁船の包囲網から逃れました。（３回目の脱出）追い込まれてきた後、一瞬姿が見えなくなっています。おそらく船の下を潜って逃げていると思われます。

イルカ漁船は黒煙を吹きながらイルカを追っていきました。

10時49分2秒

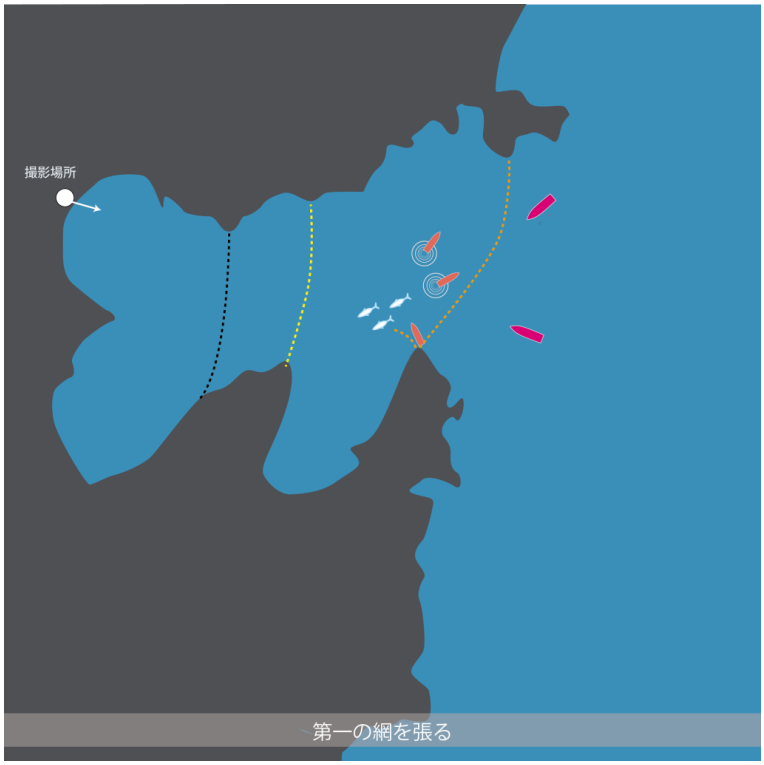
再びイルカたちが追い込まれてきてしまいました。

10時50分40秒

イルカたちは再度イルカ漁船の包囲網から逃れました。これで4回目の脱出。すごい。

10時51分43秒

黒煙を吹き上げてイルカを追い詰めていく漁船は、イルカに対する人間の一方的な戦争のようでした。
10時52分41秒
隣にいた国際水産資源研究所の人々が、その光景を笑って見ていました。
10時53分57秒
イルカたちが再度、コーヴの入り口まで追い込まれてきてしまいました。
10時54分19秒
イルカ漁師たちが第一の網を張り始め、イルカたちを奥へ追込み、イルカたちは完全にコーヴの中に入ってしまいました。
10時56分3秒
イルカが外に出ないように脅しながら、第一の網を張り終えました。
［図：第一の網を張る］
下記の図のオレンジ色の網が第一の網です。黄色と黒の網は、畠尻湾の奥にイルカが入らないようにするための網で、漁期中はずっと張ってあります。網を外すときは大きい台風が来るなどして網が壊れる可能性がある時と、イルカ追い込み漁期が終わった時です。



イルカたちは捕らえられてしまいました。もう逃げることはできません。一生を奴隷として人間の見せ物になるか、殺されて遺体を食べられるか運命が決まった瞬間です。
10時57分22秒
漁師たちは、小船のエンジン音でさらにイルカを湾の深くに追い込み、第二の網を張り始めています。

10時58分55秒
第一の網の外に、網に入れられなかったイルカの群れが戻ってきていました。捕らえられてしまった仲間を心配しているように見えます。このとき、追い込み漁船は離れたところにいたので、追い込まれてきたわけではなく、自分たちで戻ってきたようです。家族や仲間が捕らえられてしまったので、危険を冒して迎えに戻ってきたのかもしれません。
11時00分28秒
第二の網が張り終わり、最初に捉えられたイルカたちはその中に閉じ込められました。
11時02分23秒
漁師たちが第一の網を外しはじめました。このときは気付きませんでしたが、残りの群れをさらに追い込み、一網打尽にするためにいったん網を外す作業でした。イルカ漁師たちは、仲間を獲られたイルカはその場所から離れないということを熟知していたから、他のイルカをほっておいたのでしょう。この時は言葉に表せないほどの憤りを感じました。

11時11分　網の外にいたイルカたちが追い込まれてくる

［URL：https://youtu.be/dwdEutUdlPw］
家族を仲間を心配するように網の外にいたイルカたち。一度逃れたのですが、また追い込まれてきてしまいました。

11時11分　イルカたちが５度目の脱出！

［URL：https://youtu.be/ctTrGFp9JBA］
これでなんと５度目。（５回目の脱出）。この光景を見ている世界中の人々が、心の底から逃げ切ることを祈っていました。

11時14分　追い込まれるイルカたち

［URL：中継：https://youtu.be/v-hgmnM2L5c］
家族や仲間を心配して残っているイルカを、さらに追い込もうとしています。

11時19分　群れの残りが追い込まれてしまった

［URL：https://youtu.be/Nhl3ZdL5W90］
残りの群れが追い込まれて、ついにコーヴに入ってしまいました。第一の網が張り終わり、イルカたちの自由、そして人生が終わりました。

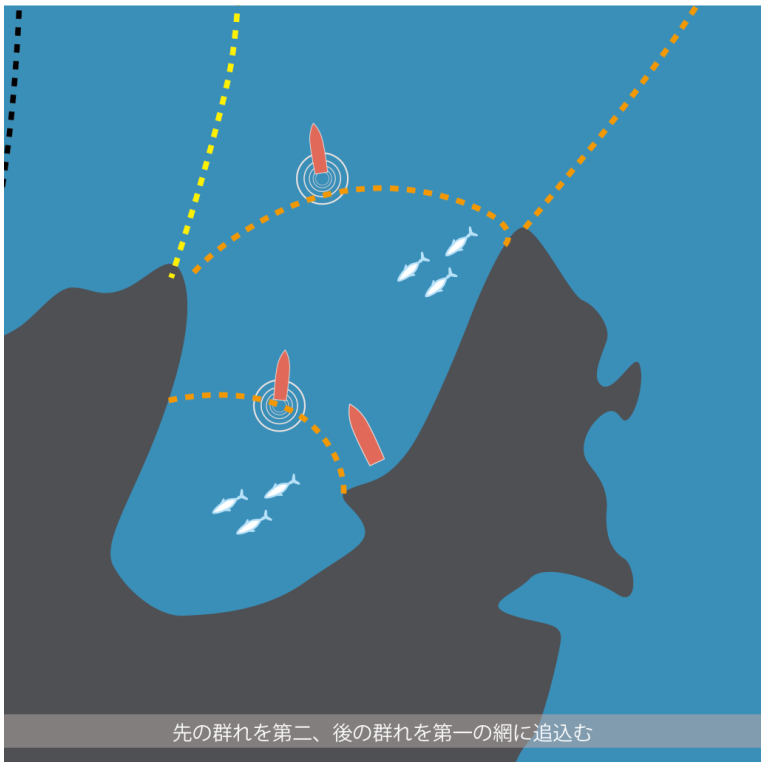
11時23分　最初に捕まったイルカたちが、第三の網に追い込まれる

［URL：https://youtu.be/1XqUHUUoC0E］
最初に捕まったイルカたちが、小船のエンジン音と泡で脅され、第二の網から第三の網に追い込まれます。

11時27分　後に捕まったイルカたちが、第二の網に追い込まれる

［URL：https://youtu.be/zns0a4tdJLQ］

［図：最初のイルカたちを第二の網、後のイルカたちを第一の網に追い込む］



一番左のオレンジの網が第一の網、2つ目が第二の網、一番下の網が第三の網です。
後に捕まったイルカたちが、第一の網から第二の網に追い込まれました。漁師たちは、イルカを順繰りに追い込み、網を狭めていきます。
パニックに陥ったイルカたちは、自ら岸に座礁していきます。場合によっては、ジャンプして脇の壁に激突し、吻(口の部分)が折れ、血を噴き出すイルカもいます。

11時34分　イルカトレーナーたちが選別に来た

［URL：https://youtu.be/MepDj3s-VQ4］

イルカトレーナーたちが船に乗ってイルカの選別に来ました。この日は、生体販売用イルカを搬送する小船が計３隻来ました。

影浦で捕獲・殺害作業を行う人々

4つのグループに分かれます。

グループ1　和船グループ（イルカ漁師）

和船でイルカを追い込むグループ。役割は以下。

・第一、二、三の網を張りイルカを閉じ込める。
・イルカを、金属の棒やエンジン音で脅し、影浦の奥に追い込む。
・生体イルカや殺害したイルカを太地漁港まで運ぶ。

・ダイバーと共に、生体イルカを黒い網で捕獲し、イルカトレーナーのところまで運ぶ。
・漁の後に網を外す。

グループ2　ダイバー（イルカ漁師）
ウェットスーツを着て、海に入って作業をするダイバーのグループ。ダイバーは、イルカ漁師のサポートをしている比較的若い人々たちが担っています。
・イルカを影浦の奥まで追い込む。
・和船グループと共に、生体イルカを黒い網で捕獲し、イルカトレーナーに見せるために運ぶ。
・漁が終わった後海の底に沈んで死んでいるイルカを見つけ回収する。

グループ3　影浦奥の岸で作業するグループ（イルカ漁師）
影浦の奥、グレーのビニールシートで隠された岸でイルカを殺害する人々。
・イルカの殺害

グループ4　イルカトレーナー、水族館関係者、獣医
水族館に販売するイルカが捕獲された場合、漁協から、水族館に連絡が行きます。イルカトレーナーと水族館関係者は、捕獲の準備をしてボートに乗って影浦に来ます。イルカトレーナーは、イルカ漁師が網で捕まえたイルカを見て、性別や肌、従順かどうかなどを確認し、販売するイルカを選別します。イルカトレーナーがウェットスーツを着て、イルカ猟師とともに生体販売用イルカを捕獲することもあります。
イルカトレーナーに選ばれなかったイルカで、食用にする場合は、イルカ漁師たちによって殺害されます。つまり逆に言えば、イルカトレーナーは殺害されるイルカを選んでいるとも言えます。
イルカトレーナーがいるかを選別するときは、笑い、はしゃぎながら行っています。パニックに陥り、家族や子供と引き離される恐怖に陥っているイルカを見、母親と子どもを引き離しながら。あるときは、活動家が「イルカを殺さないでください」と必死のお願いをする姿を、イルカトレーナーたちが笑いながら見ていました。

11時35分　一生の奴隷になるか、虐殺かを待つイルカたち

［URL：https://youtu.be/XB3_hP2nc3I］
イルカトレーナーによって一生の奴隷の運命を与えられるか、イルカ漁師に殺害されるか、イルカたちには知るすべもありません。
結局、この日は海に戻されるイルカは一人もいませんでした。

11時44分　次のイルカトレーナーが選別に来る

［URL：中継：https://youtu.be/VS6Px3nlwE4］

選別と殺害は、グレーシートの幕を張りその下で行われます。一般の人々、マスコミ、活動家に撮影され、世間に見られるのを避けるためです。

12時8分　イルカを運び出すイルカトレーナー 1隻目

［URL：https://youtu.be/CfZwzeriic0］
この船には、イルカトレーナーが７名、イルカ漁師が６名乗船していました。女性６名は全員イルカトレーナーです。イルカは船の手前側に１名、向こう側に２名、括り付けられています。この日も血を流しているイルカがいました。
イルカトレーナーが、柄杓で海水をかけながら運び出します。海水をかけるのは、怪我をしたイルカの血を洗い流すため、また太陽からの皮膚の保護や乾燥からの保護のためです。もちろん、純粋な優しさからではなく、皮膚が綺麗なイルカほど高く売れるので、商品価値が下がるからです。
資金を持っている都会の大企業運営水族館のイルカの皮膚と、地方やお金がなさそうな水族館のイルカの皮膚とを見比べると、その違いに気づくでしょう。

12時12分　イルカを運び出すイルカトレーナー 2隻目

［URL：https://youtu.be/Jgj6o0bfdS8］
イルカトレーナーが、イルカを”拉致”していきます。水族館で、まるで人間に笑いかけているようなイルカたちは、こういう体験をしてきています。

12時13分　生体販売について

［URL：中継：https://youtu.be/-15rc3CCHF4］
この日の漁で、いさな漁協・太地町立くじらの博物館・太地開発公社・イルカブローカーは大きな利益を得、水族館やイルカトレーナーは優秀な商材を手に入れることができました。
この日の前日2月24日にはシワハイルカ12名が、水族館用に売られるために捕獲されました。漁協の卸値が1名90万円として、1080万円。太地町立くじらの博物館、太地町開発公社、イルカブローカーの小売値が1名500万円として、1日で6000万円の売上です。
一方、さっきまで自由だったイルカたちは、今日この場で殺されるか、水族館に監禁され狭いプールの中で一生奴隷として人間を楽しませ死んでいきます。もしあなたが水族館でイルカを見ているとしたら、そのイルカはこの日捕獲されたイルカかもしれません。

12時27分　連れ去られるイルカ、殺されるイルカについて

［URL：中継：https://youtu.be/UaiJhJkMMac］
ハンドウイルカ6名、ハナゴンドウ2名が連れ去られました。そして残りのハナゴンゴウがコーヴの奥に追い込まれています。

動画の中で「イルカたちは自分たちが殺されると思っていない」と言っています。

しかし後からわかったのですが、選別しているすぐ横で、同時に殺害も行われているようです。ですので虐殺が起こっている横で、イルカたちは自分の家族や恋人が目の前で殺されるところを見ているあるいは聞いているということです。また、次に殺されるのは自分たちだということを知っているということです。

岩の向こうから船のエンジン音が聞こえます。イルカたちは、なんとか逃れようと必死に頑張っています。しかし、決して逃れることはできません。もしこれが自分だったら、自分の恋人や家族や子供が同じ目にあったらどうでしょう。

13時3分　最後のハナゴンドウを小船3隻で追い詰める

［URL：https://youtu.be/4yZbiy5dCLY］
最後のハナゴンドウを3隻で追い詰めます。追い詰め終わった後、静寂が戻りました。
コーヴの奥では、最後まで生きようとしたハナゴンドウたちが、体に銛を突き刺され、静かにのたうち回っています。

13時6分　第三の網を外す作業

［URL：https://youtu.be/JOsIFkOp0uM］
イルカ漁師たちが、第三の網を外す作業をしています。イルカ漁が終わりに近づいています。

13時11分　イルカを運び出すイルカトレーナー 3隻目

［URL：https://youtu.be/hFsYxdBpfN0］
イルカトレーナーたちが和船の両脇に、生体販売のイルカをくくりつけ運んでいます。彼らは、影浦の奥で行われているイルカの虐殺を見ています。しかし、イルカショーではイルカと友達だとアピールし笑顔を振りまきます。

13時24分　イルカの遺体を運ぶ和船 1隻目

［URL：https://youtu.be/N_JIY9PURIg］
イルカの遺体をくくりつけた和船が、イルカ漁船に向かっています。イルカ漁船に渡し、太地漁港まで運ぶためです。イルカ漁師が遺体に被せたビニールを足で押さえつけていますが、イルカたちのヒレが見え隠れしています。

13時25分　和船が、イルカ漁船に遺体を渡す

［URL：https://youtu.be/4xFHuSMztH4］

イルカの遺体は、和船のビニールの下から、イルカ漁船のビニールの下に渡されます。遺体を見られたり、撮影されたりするのを避けるためです。遺体を太地漁港まで運ぶ方法は、イルカ漁船が運ぶ場合と、和船がそのまま運ぶ場合があります。遺体を運んでいる船は、かなり遅いスピードで進むためすぐにわかります。

13時27分　イルカの遺体をくくりつけた和船 2隻目

［URL：https://youtu.be/u9kaIIZ0l5k］

イルカの遺体をくくりつけた小船 2隻目が太地漁港へ向かい、それに続いて残りの漁師を乗せた和船が太地漁港に帰っていきます。これで畠尻湾での拉致と殺害は終わりです。この後、太地漁港でイルカの解体作業が始まります。

13時42分　遺体を運ぶ船・イルカの生簀の上で談笑するイルカトレーナー

［URL：https://youtu.be/gvt__YW76x8］

太地漁港へ移動しました。
最初の船はイルカトレーナーが乗っている船です。生簀の上にいるのは、捕獲作業をしていたイルカトレーナー。太地港方向行きの船に乗っていたイルカトレーナーなので、生簀には先ほどの漁で捕まえたイルカが入っているでしょう。談笑しています。
最後に太地港に入ってきている船は、イルカの遺体を運んでいます。船の向こう側にビニールを掛け、その下にイルカの遺体を引いています。

13時50分　イルカの遺体を解体場に運び入れる

［URL：https://youtu.be/VlPHdIVN6es］

最初に、小舟がイルカの遺体を運び入れます。船の向こうにかけてあるビニールの下の遺体を、青いビニールの下に入れ、ウィンチで解体場に引き上げます。解体場の青いビニールの左側に、一瞬ハナゴンドウの頭が映ります。
小船と入れ違いに、イルカ漁船が遺体を引いてきます。その奥に見えるグレーの大きな船は、沿岸捕鯨用の捕鯨船、太地漁協所有の第七勝丸です。船首の捕鯨砲には青いビニール袋が巻いてあります。捕鯨砲は、クジラの体に突き刺さり、体の中で鉤爪が広がり、抜けなくなる構造になっています。イルカ漁と同様、残酷な殺害方法です。

13時52分　ハナゴンドウの遺体が浮かんでいる

［URL：https://youtu.be/E32cN3NyE6Y］

ついさっきまで生きていたハナゴンドウたち。

13時57分　引き上げられるハナゴンドウの死に顔

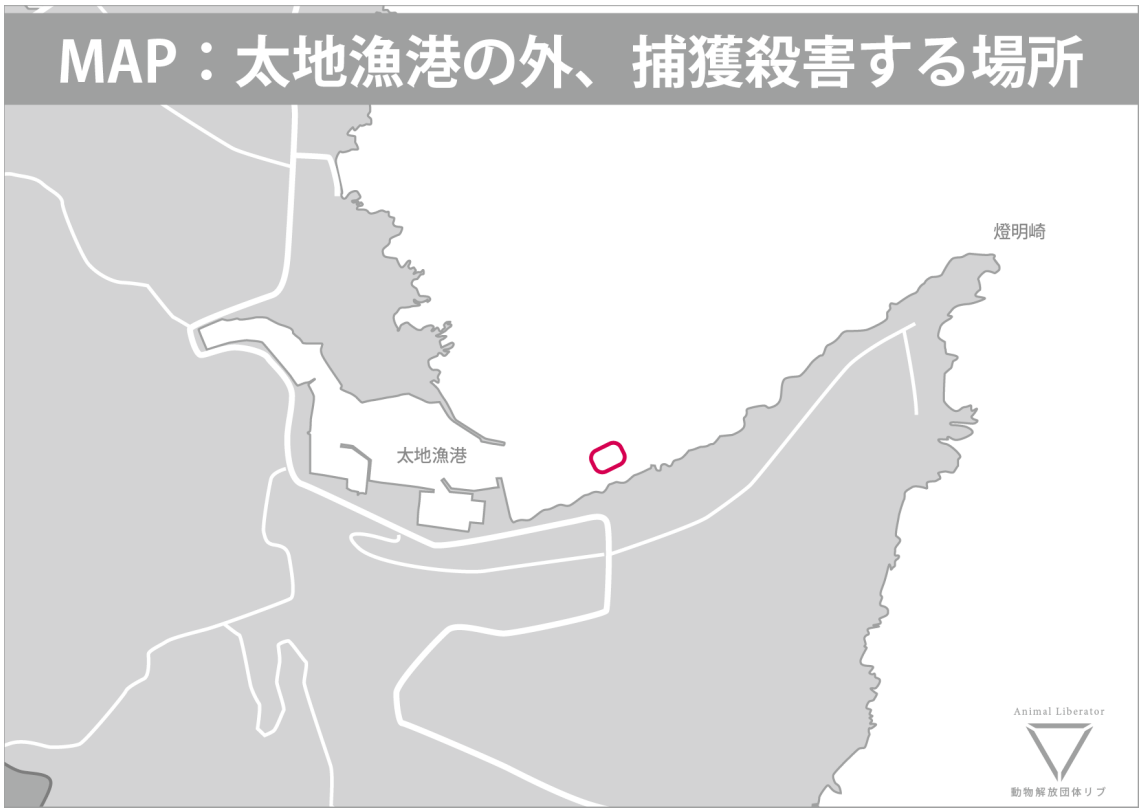
［URL：https://youtu.be/CBevvy_yiRY］

8名が監禁、19名が殺されました。
イルカたちは闘い抜きました。

第二項　太地漁港の外での捕獲

イルカの捕獲殺害のほとんどは畠尻湾で行われます。しかし稀に例外があり、太地漁港の外、MAPの赤枠で囲った部分の海上で捕獲殺害を行うことがあります。ここで行うのは、①カマイルカの捕獲、②長い時間をかけて畠尻湾に追い込むことができなかったイルカでかつ疲れているイルカの捕獲殺害を行う場合です。

追記［MAP：太地漁港の外、捕獲殺害する場所］



①地元の人によるとカマイルカを太地漁港の外で捕獲する理由は、捕獲対象種の他のイルカはまとまって一方向に逃げるが、カマイルカだけは四方八方に逃げる。畠尻湾のような狭い空間に追い込むのは難しいので、イルカ漁船や和船によってある程度ポッドがまとまった状態を作った上で、ポッド全体を囲んで網を張って捕獲する、ということでした。

②太地漁港の外で捕獲するのは、イルカが畠尻湾に入るのをどうしても拒みかつ疲れているのがその理由だというのは、状況からの推測です。私がハナゴンドウを太地漁港の外で殺害したのを見た時に、そのような状況だったからです。違う理由で太地漁港の外で捕獲している可能性もあります。

以下の映像はその時の模様です。ダイバーが水中に入り、和船の上の漁師と連携しながら殺しているのがわかります。また、屠殺道具を握っているのがはっきりわかり、漁師の軍手にハナゴンドウの血がついているのも見えます。

ハナゴンドウの殺害は、和船の向こう側にビニールシートを張ったその下で行います。活動家に撮影されないためです。［URL：ハナゴンドウの殺害：https://youtu.be/nGbTD43PD_E］

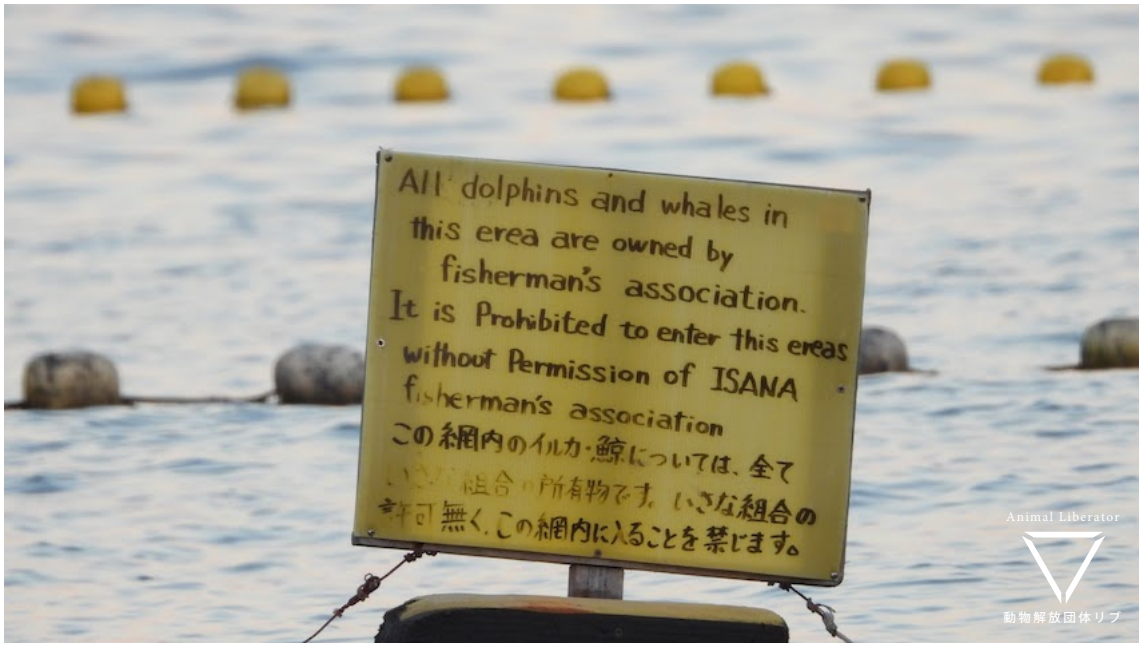
第三項　畠尻湾に留め置かれる場合

水族館へ販売すると決められたイルカが、畠尻湾に一〜数晩とどめ置かれることがあります。夜に様子を確認しに行くと、イルカたちの呼吸音が聞こえます。すぐそこにイルカがいるのに助けられないのはなんとも言えず、忸怩たる思いになります。イルカを留めおく時は、海に看板が浮かべられます。「この網内のイルカ・鯨については、全ていさな組合の所有物です。いさな組合の許可無く、この網内に入ることを禁じます。」

［写真：太地町：畠尻湾の看板とバンドウイルカ］



［写真：太地町：畠尻湾の看板］



ついさっきまで誰のものでもなかったイルカたちが、今は「いさな組合のもの」とされてしまいました。他の人が助けようとすると犯罪になります。もしイルカたちに権利があったら、いさな組合はイルカを所有することはできません。私たちは動物に法的に裏打ちされた権利を獲得する必要があります。
イルカが留め置かれる時、畠尻湾はライトで照らされ、太地町に雇われた警備員が一晩中警戒に当たり、監視カメラで撮影されています。
［写真：太地町：畠尻湾を照らすライト］



第四項　殺害、搬送、解体、販売

追い込まれたカズハゴンドウたち。スパイホップしています。手前のMERCURYと書いてあるのは、イルカ漁師が乗る和船の船外機です。カズハゴンドウたちはこれから殺されます。

［写真：追い込まれたカズハゴンドウ］



殺害の手順

イルカを和船のエンジンで脅し、あるいはダイバーが後ろから追い、イルカを影浦に座礁させます。そこには屠殺道具を持ったイルカ漁師が待ち構えており、次々とイルカの頭頂部に銛を突き刺していきます。屠殺道具を引き抜いた後にできた傷には、血が出ないようにコルクのようなものを詰めます。

殺されるとき、イルカは痙攣し、尾鰭で水を叩きます。たかばべからは影浦での殺戮は見えませんが、イルカの呼吸音や水を叩く音が聞こえてきます。

搬送

イルカの遺体は、小舟からイルカ漁船に移されるか、小船に乗せたまま、太地漁港へ向かいます。イルカの遺体にはシートが被せられますが、場合によって見えることがあります。

［写真：イルカ漁船に引き渡されたカズハゴンドウの遺体］



［写真：イルカ漁船に引かれるカズハゴンドウの遺体］



イルカの遺体は、イルカ漁船と和船で太地漁港まで運ばれ、太地漁港の卸売市場の海側からイルカの遺体が引き上げられます。

［写真：卸売市場(解体場)に引き上げられるハナゴンドウの遺体］



引き上げ後は、中で解体されます。引き上げる際はブルーシートで隠されますが、隙間から見えることもあります。

解体

捕獲したイルカを食用にする場合、影浦で殺害し、太地漁港まで船で運び、解体場にウィンチで引き上げ、イルカを解体します。捕鯨関係者は鯨類の解体を解剖と呼びます。
解体の手順は以下です。
・最初に、イルカの首を切り頭部を切り落とし、背ビレ、尾ビレを切り落とします。
・次に、体全体の皮を剥がします。これがコロと呼ばれるものとなり、太地町立くじらの博物館でも販売されています。
・イルカの背中と、両側面を切り裂き、肉を取ります。
・そして内臓や骨をバラバラにして、可食部分は商品になります。不可食部位部分は、レンダリング業者に引き取られ肥料などになります。
かつては解体場は屋根のみであり、誰でも見れました。しかし現在では壁がついており、解体の際はシャッターが閉じられ、肉を運ぶ通路はビニールシートで隠されており、見ることも撮影することもできません。
以下の映像は、ビニールシートで隠された隙間からハナゴンドウの解体を撮影したものです。作業員がノコギリのようなものでハナゴンドウを切っているのが見てとれます。頭や内臓などが転がっており、白い長靴には血がついているのがわかります。
［URL：解体：https://youtu.be/NHfcMHWydpc］

販売

カズハゴンドウたちが殺された翌日、遺体が店頭に並んでいました。

第五項　生体捕獲

捕獲したイルカを水族館やイルカブローカーに販売する場合、太地町各所にある生簀に入れられます。もしかしたらくじらの博物館かドルフィンベエィスに直接入れられる場合もあるかもしれません。
運ばれていく生簀がどこであるか毎回は特定できない理由は、森浦湾で作業を撮影しているので、イルカトレーナーがイルカを運んでいる和船が、畠尻湾から見て右に行くか左に行くかしかわからないからです。
右に行った場合は、太地漁港に設置されている太地漁協の生簀で確定。
左に行った場合は、近い順に、太地町立くじらの博物館、森浦湾の外のドルフィンベェイスの生簀、森浦湾に設置されている太地町くじらの博物館と太地町開発公社の生簀、那智勝浦にあるワールド牧場の生簀の可能性があります。
イルカを生簀に入れた後は、イルカトレーナーが集まってきて、イルカの個体識別作業を行います。白い紙に、イルカの絵を黒いラインで書き、そこに体長や性別、皮膚の傷、背ビレの欠け、尾ビレの特徴などを記入していきます。
それが済むと、調教、馴致、つまりトレーニングに入ります。調教の問題は第六部 水族館で触れます。［本文参照：第六部 第三章 第二節 第二項　調教時］
調教ができるイルカトレーナーがいる水族館には、未トレーニングのイルカを売ることもありますが、どちらにせよ冷凍の魚を食べるところまでは調教する必要があります。

第六項　リリース

イルカ追い込み漁では、一旦捕獲したイルカをリリースすることがあります。
リリースの理由
リリースの理由として考えられるのは3つ
①自然養殖
バンドウイルカは、よくリリースされます。バンドウイルカの捕獲作業を見ていますと、イルカトレーナーが水族館販売用に捕獲した以外のイルカは、漁師に追い立てられリリースされています。
バンドウイルカの捕獲枠と捕獲数を見てみますと、捕獲枠は、2000年には1100だったものが2020年には322へ減少。捕獲数は、2000年に1271だったものが2020年には135に減少しています。ここ数年では322の捕獲枠に対してその半分も捕獲していない状態です。つまり、誰もがバンドウイルカが減っているという事実を知っています。しかし、水産庁や和歌山県、太地町、イルカ漁師は決して認めないか別の理由を編み出します。
一方、水族館でのバンドウイルカの繁殖について見てみますと、繁殖だけで国内水族館の需要に足るイルカを賄うことは実質不可能です。どうしても野生から捕獲しなければなりません。

この状況からどのようにしたらバンドウイルカを定期的に恒久的に捕獲できるか考えると、バンドウイルカを追い込んだときに、その時に必要な数（水族館からの注文が入っている、森浦湾くじらの海に追加したい等）のバンドウイルカのみを捕獲し、不必要なものをリリース。リリースしたバンドウイルカが自然下で子どもを産んだら、再び追い込んでその子供を奪取すれば良いわけです。この方法をここでは仮に自然養殖と呼びます。
研究のため、リリースするイルカの背鰭に目印のタグをつけることがあります。イルカ追い込み漁ではこのタグがついたイルカが追い込まれる時が時々あります。
［写真：複数のタグを付けられたバンドウイルカ］



②捕獲枠を超えた場合
イルカ追い込み漁の制限又は条件に「1 漁期の鯨種毎の捕獲頭数は、毎年別途指示した頭数の範囲内とする」というものがあります。
捕獲対象種のイルカにはそれぞれ捕獲枠があります。1漁期中に捕獲できるイルカの最大数を決めたものであり、水産庁が設定します。この捕獲枠を超えて捕獲することは禁じられているため、もし捕獲枠を超えた種を追い込んだ場合、それらのイルカはリリースしなければなりません。
③できる限り放流する
イルカ追い込み漁の制限又は条件に、「2 乳飲み稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類については、沖から地方へ群を追い込んでくる過程において、出来うる限りの方法で追い込む群からの仕分け解放に努めること。」とあります。乳飲み稚鯨又は稚鯨をリリー

スすることは、この制限又は条件を守っているということになります。ただしこの条件は骨抜きになっており、乳飲み稚鯨又は稚鯨を殺害することは常態化しています。

リリースの方法

イルカのリリースの方法は2つです。これは私が現場で見た限りですので、もしかしたら他の方法があるかもしれません。

①イルカ漁船で追い立てる

目的の数のイルカを捕獲殺害した後、影浦に残されたイルカたちをリリースする作業を行います。最初に第三の網を外し、次に第二の網を外し、最後に第三の網を外します。次に、湾の奥の方から、和船でイルカたちを畠尻湾の外へと追いやります。畠尻湾の外に出たら、イルカ漁船がイルカたちを後ろから外洋へと追いやります。ここでもイルカたちはさらにバンガーの音に苦しめられることになります。

なぜ畠尻湾の外に出した後、イルカ漁船でわざわざ外洋まで追いやっていくか、理由として考えられるのは以下です。

一つは、イルカたちは仲間や家族が連れ去られた、あるいは殺されたので、心配でその場を離れられないからです。イルカは家族思い、仲間思いです。自分達が危険な状態にあるとわかっていながら見捨ず、その場を離れません。

また、いつまでも畠尻湾にイルカがいたら、人目を引きます、どうしたのだろうと関心を持つ人もいるでしょう。それを避けるためにイルカを追い払うとも考えられます。

もう一つの理由は、太地漁港周辺にイルカが留まると、太地漁港の外にある定置網にイルカが入ってしまう可能性があるからです。定置網にイルカが入ってしまうと、水産庁の規定からできるだけ解放に努めなければならず、その人的、時間的コスト、網が壊された場合は費用のコストがかかってしまいます。ですので、イルカ漁船のリリース作業を見ていると、定置網の向こうまでイルカを追いやってから帰港しています。

②小舟で運び、沖で捨てる

もう一つの方法は、体の小さなイルカで、かつ数が少ない場合です。スジイルカやマダライルカを捕獲するときは、和船の上にビニールシートで簡易的な水槽を作ってその中に入れて運びます。余ったイルカをリリースするときは、その簡易水槽に入れて、燈明崎沖まで運びそこでリリースします。リリースするといえば聞こえがいいですが、実際はビニールシートをひっくり返し、海水に投げ入れます。わざわざ燈明崎沖まで運ぶのは、定置網に入らないため、活動家に撮影されないためと考えられます。

リリースの問題点は［本文参照：第五部 第五章 第二節　イルカの被害］をご参照ください。

第七項　不漁の場合

イルカが見つからなかった場合、船が戻ってきます。戻ってくる時間帯は10〜12時頃。時間帯がずれる理由は、日の出の時間、天候、イルカを追いかけていた時間、他の仕事との兼ね合い（生簀の補修など）などです。

漁船が帰って来る時間帯になると、双眼鏡で何度も確認したくなります。早く帰ってきて欲しいからです。海を見て、太地漁港にまっすぐ向かっている漁船を探します。調査を始めた最初の頃は見分けが付きませんが、慣れてくると、漁船が点のようにしか見えなかったとしても、岸に向かっているか沖に向かっているかわかるようになります。まっすぐこちらに向かっている船を見つけたら、他に岸に向かっている船がないか探します。そのような船が3隻もあれば、不漁で戻ってきていると判断できます。しかし、安心はできません。もし戻ってきている最中にイルカを見つけたら追い込みが始まるからです。

無事にイルカ漁船が太地漁港に戻ってくる時は、調査の中で最も嬉しい時です。泣きそうになる時もあります。イルカ漁師の方にお帰りなさい！と言いたいほどに。

しかし、まだ安心はできません。沖に出て他の漁業をしている漁師がイルカを見つけたら、太地漁協に連絡するからです。連絡があったらすぐに、イルカ漁師たちは海に出て行き、追い込み漁を始めます。イルカを見つけた人は、収益の分前がもらえます。

日が暮れ始めたらその日のイルカ漁はもうありません。本当に安心できる時です。

第六節　漁期

第一項　漁期

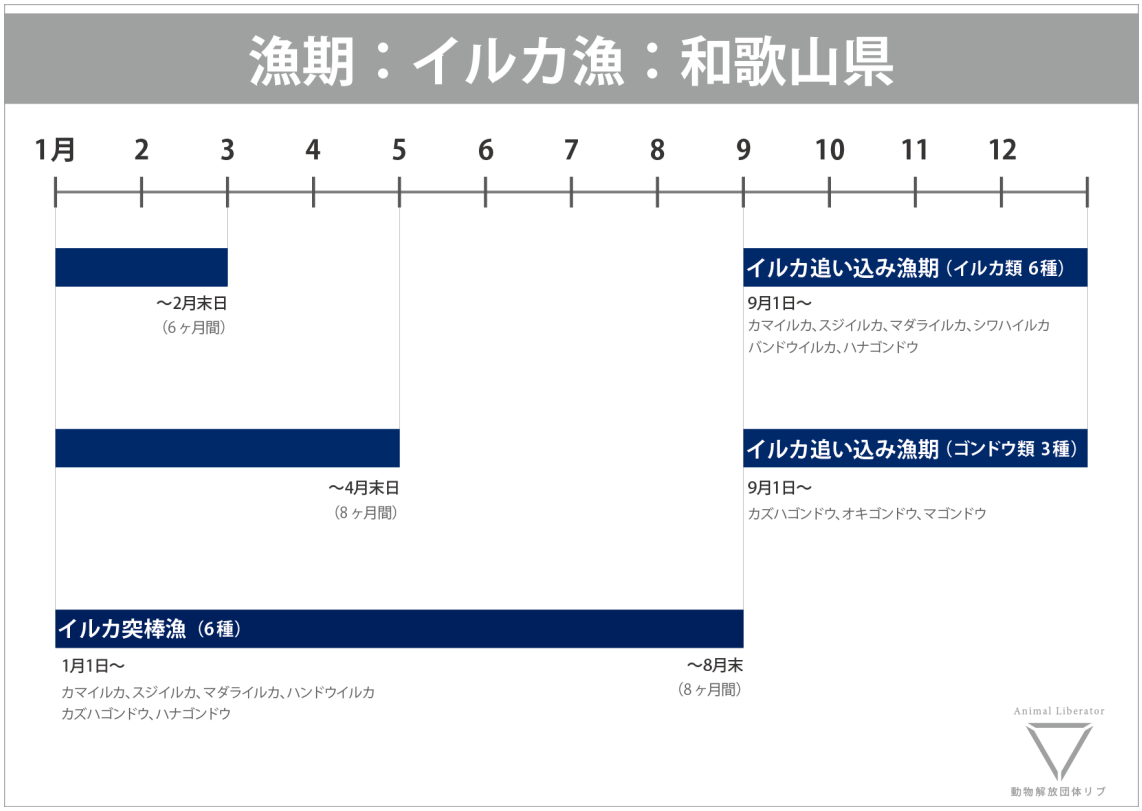
イルカ追い込み漁

イルカ類　9月1日～2月末日

ゴンドウ類　9月1日～4月30日

（備考）イルカ突き棒漁　1月1日～8月31日

［タイムライン：漁期：イルカ漁：和歌山県］



第七節　捕獲数／捕獲枠

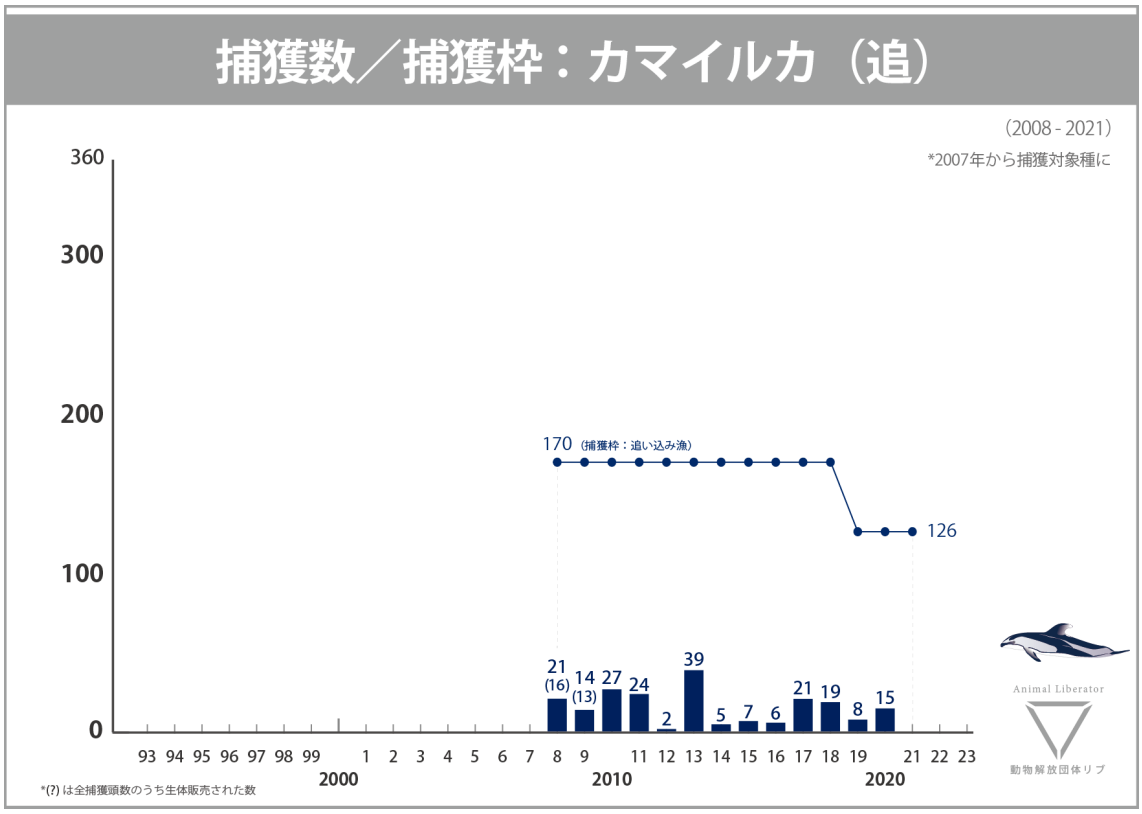
イルカ追い込み漁　県別 捕獲対象種

静岡県　カマイルカ、スジイルカ、マダライルカ、バンドウイルカ、オキゴンドウ
和歌山県　カマイルカ、スジイルカ、マダライルカ、シワハイルカ、バンドウイルカ、カズハゴンドウ、ハナゴンドウ、オキゴンドウ、コビレゴンドウ(マゴンドウ)

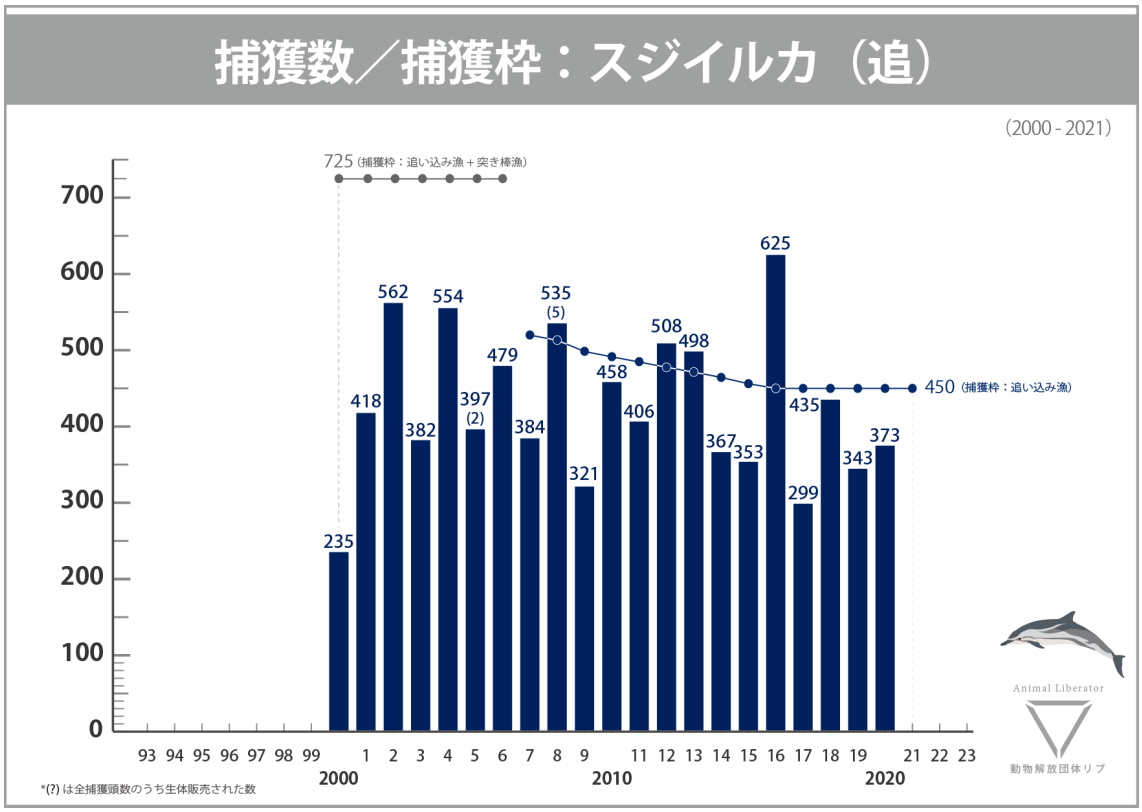
イルカ追い込み漁　種別 捕獲県

カマイルカ　静岡県、和歌山県
スジイルカ　静岡県、和歌山県
マダライルカ　静岡県、和歌山県
シワハイルカ　和歌山県
バンドウイルカ　静岡県、和歌山県
カズハゴンドウ　和歌山県
ハナゴンドウ　和歌山県
オキゴンドウ　静岡県、和歌山県
コビレゴンドウ　和歌山県

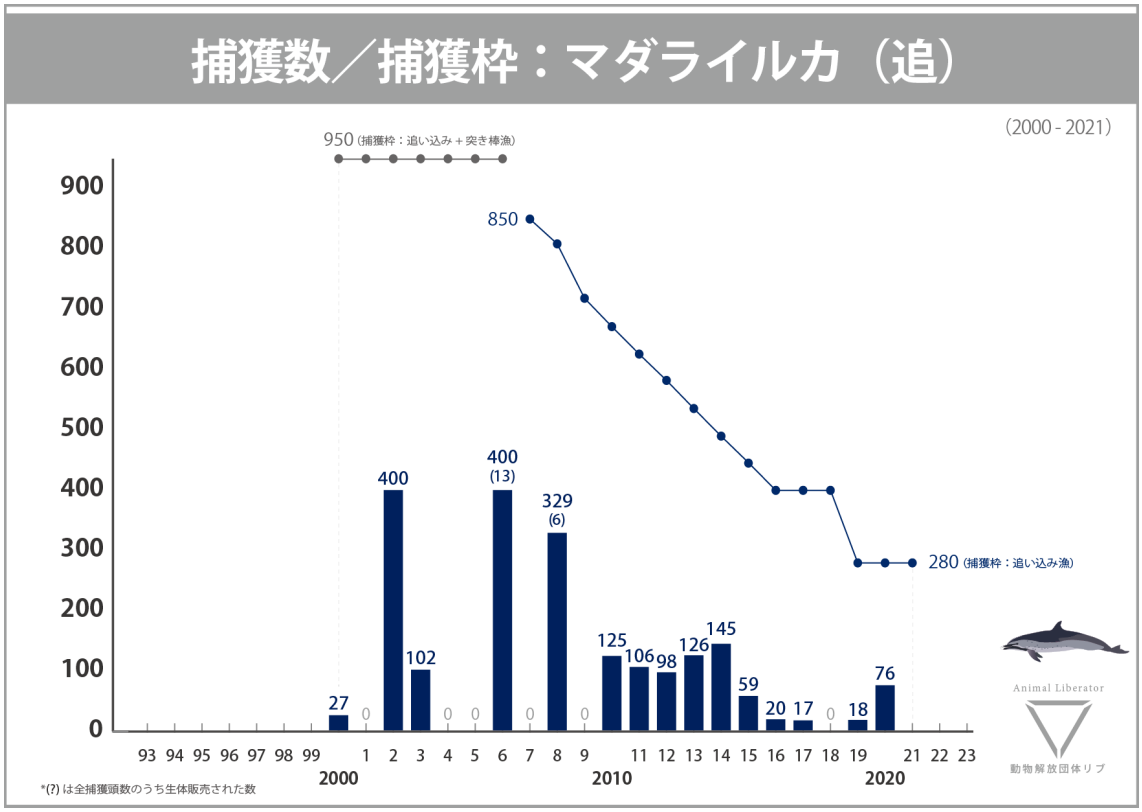
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：カマイルカ（追）］（静岡県、和歌山県）



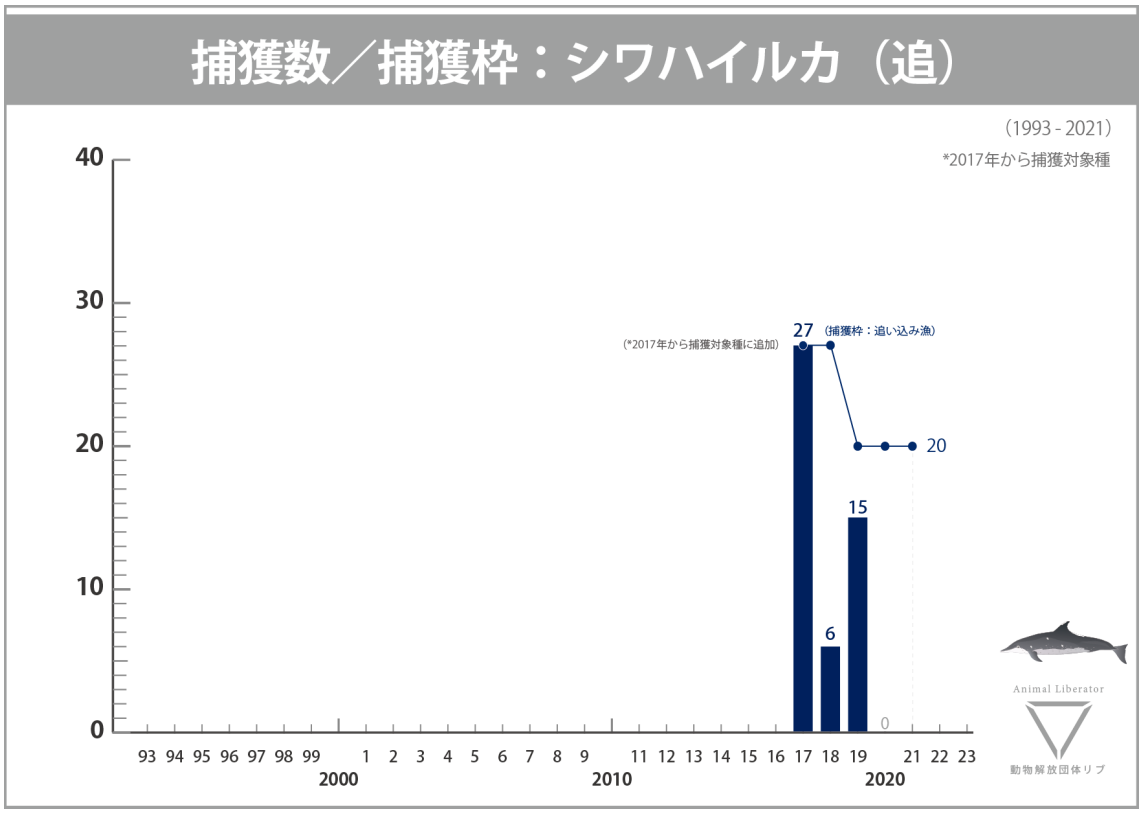
［グラフ：スジイルカ：追い込み漁：捕獲数／捕獲枠］（静岡県、和歌山県）



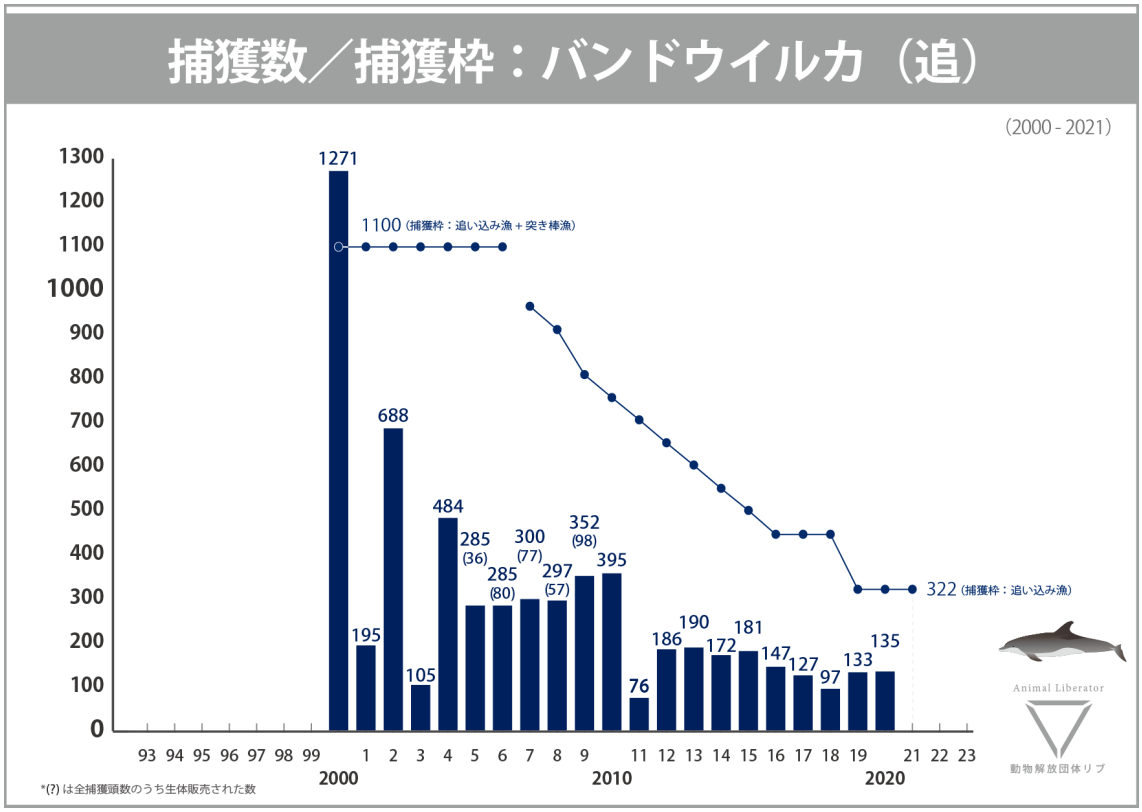
［グラフ：マダライルカ：追い込み漁：捕獲数／捕獲枠］（静岡県、和歌山県）



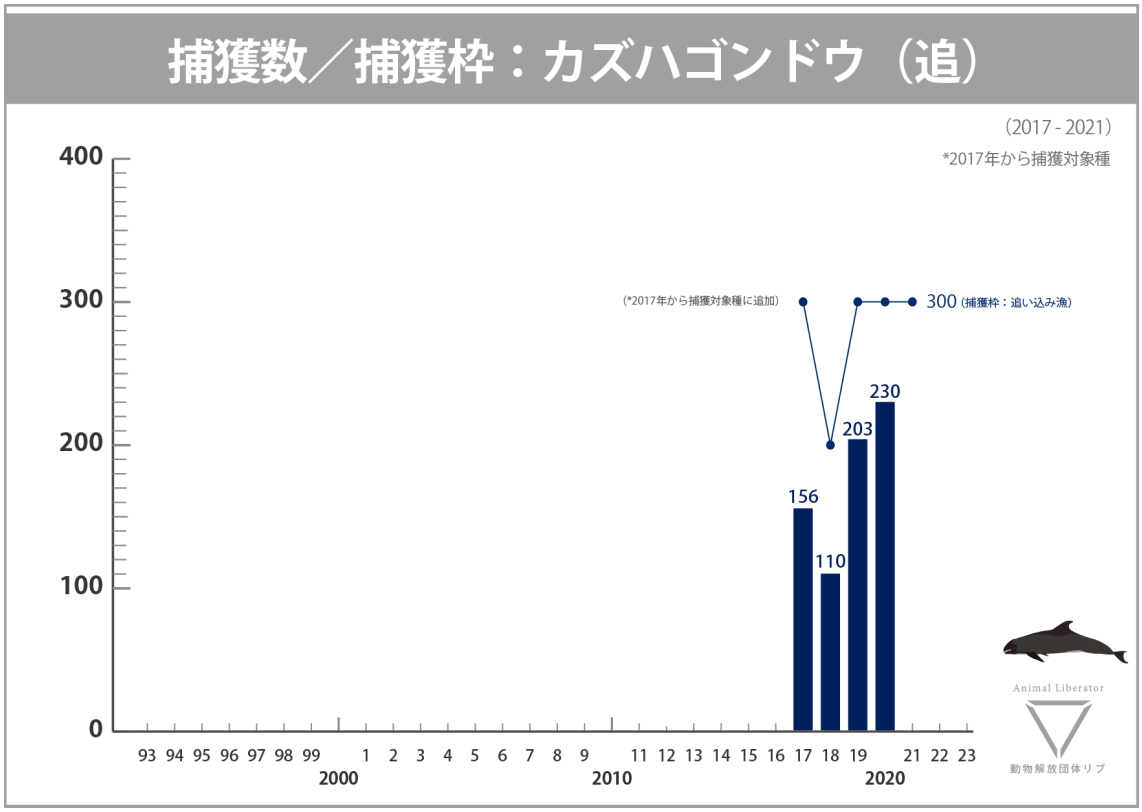
［グラフ：シワハイルカ：追い込み漁：捕獲数／捕獲枠］（和歌山県）



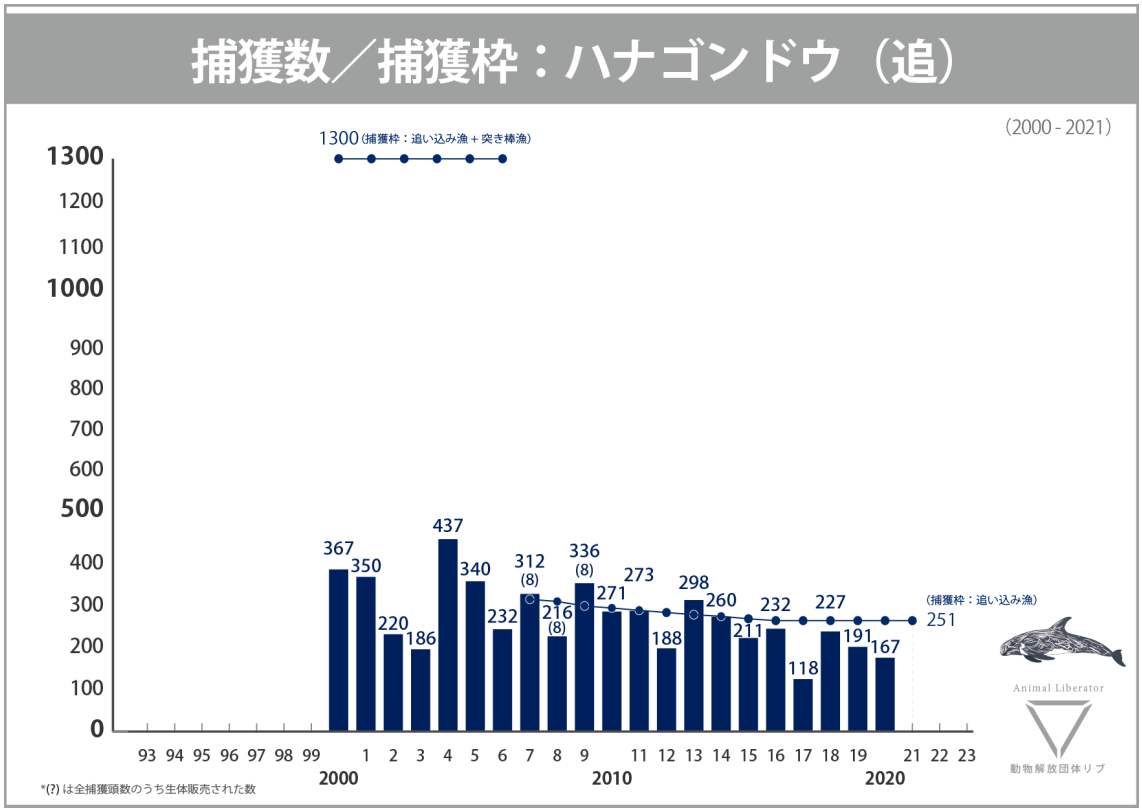
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：バンドウイルカ（追）］（静岡県、和歌山県）



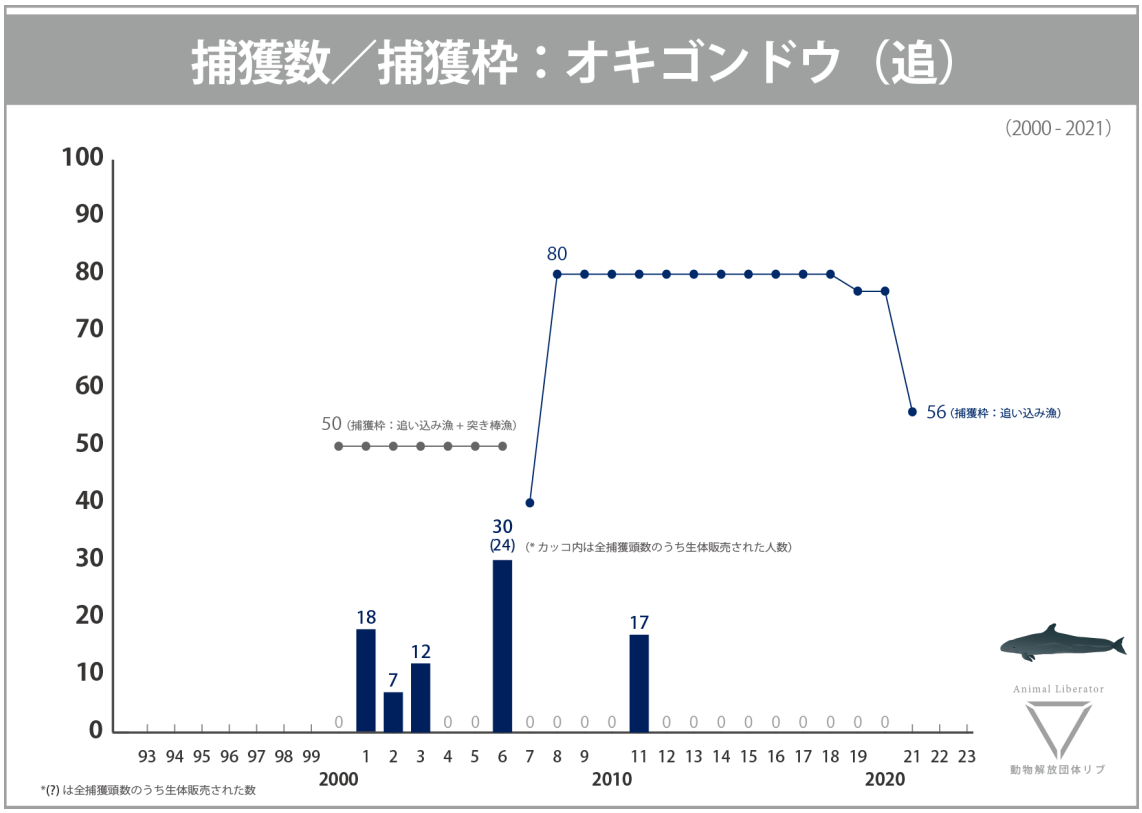
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：カズハゴンドウ（追）］（和歌山県）



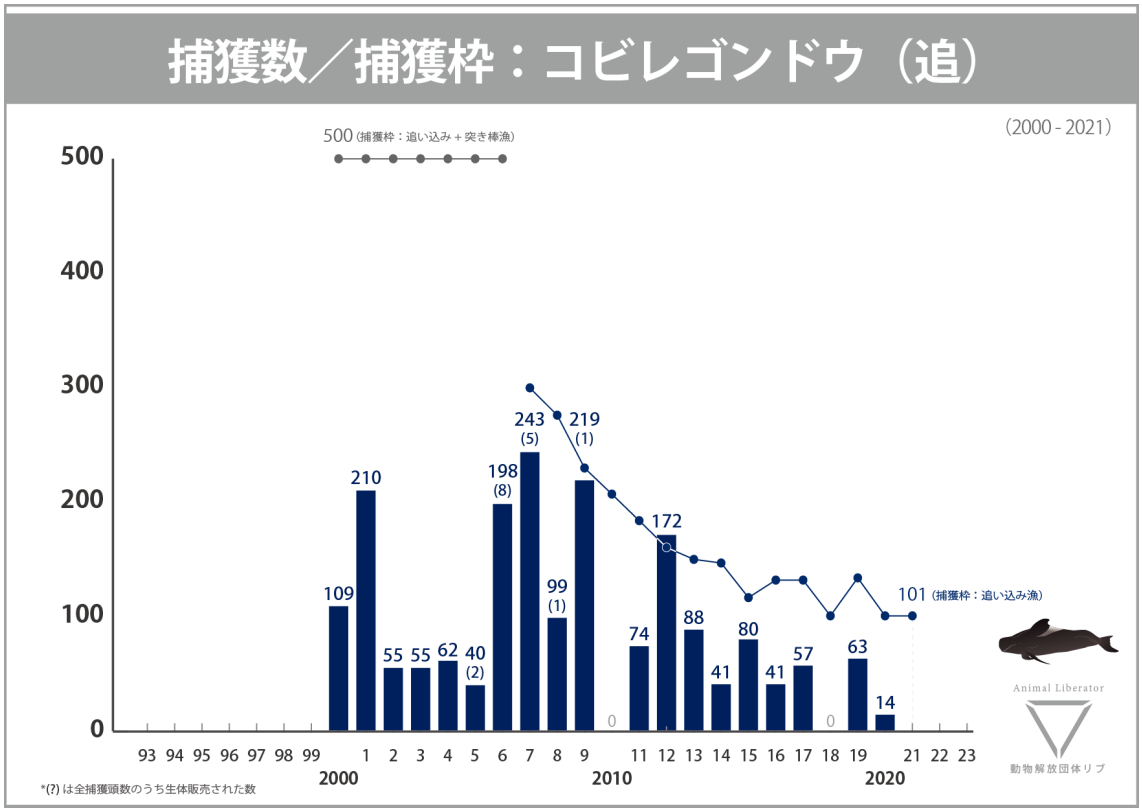
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：ハナゴンドウ（追）］（和歌山県）



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：オキゴンドウ（追）］（静岡県、和歌山県）



［グラフ：捕獲数／捕獲枠：コビレゴンドウ（追）］（マゴンドウ）（和歌山県）



第八節　その他地域のイルカ追い込み漁

第一項　静岡県

概要

静岡県伊豆半島は、イルカ漁の歴史が長く、盛んに行われていた場所です。現在は静岡県伊東市「いとう漁業協同組合」がイルカ追い込み漁の許可を持っています。地元ではイルカ肉が売られていますが、岩手県産のイルカ肉（イシイルカかリクゼンイルカ）でした。
1996年10月に捕獲禁止のオキゴンドウを捕獲、販売したことによって批判が高まり、イルカ漁は縮小しました。2004年バンドウイルカを9名捕獲して以降、18年間イルカ追い込み漁は行われていません。
［URL：2004年の捕獲の映像：https://youtu.be/u6SqSsRxLrk］

歴史：伊豆半島のイルカ漁

前4000　井戸川遺跡（東伊豆）でイルカの骨出土。
1563　植松文書に内浦湾（現沼津湾）へのイルカの追い込みを命じた記述がある。
1838　幕末、イルカ追い込み漁を実施していたのは、湯川村・松原村・稲取村だった。
1888　川奈でイルカ追い込み漁が始まる。
1898　富戸でイルカ追い込み漁が始まる。川奈と富戸の対立が始まる。
1900　富戸の漁師が川奈の漁師をリンチ。イルカ漁を妨害されたため。
1903　富戸の漁師が川奈の漁師の船を浸水させ海上に放置。7名が有罪判決を受けた。イルカ漁を中断。
1935　富戸がイルカ漁を再開。
1951　静岡県が県内イルカ追い込み漁を許可制にした。
1958　伊豆でスジイルカ 20,000名弱殺害。静岡県伊豆追い込み漁でマダライルカの捕獲が始まる。かつては肉が硬いので獲られなかったが、スジイルカの減少で獲られ始めた。なお、マダライルカは静岡でアラリイルカ(安良里イルカ)と呼ばれていました。
1960　稲取がイルカ漁を中止。
1967　川奈と富戸 イルカ漁を共同事業とする。
1971　安良里がイルカ漁を中止。
1976　長崎県壱岐が、和歌山県太地や静岡県富戸から学んだバンガーの技術を持ち込みイルカ追い込み漁を始めた。
1978　川奈・富戸が、バンドウイルカ27名捕獲を最後に1985年まで1名も捕獲できず。水族館の買い付け先が太地に移る。
1980　12月24日　グリーンピースのパトリック・コロンブス・ウォールが、伊東市の高戸港でイルカの生簀の網を切る。威力業務妨害罪、器物損壊罪で懲役6ヶ月、執行猶予3年。

1996　10月　違反イルカ漁事件：富戸漁港で捕獲が許可されていないオキゴンドウが捕獲された。テレビなどで放映され、大きな抗議の声があがった。抗議開始から3日目、漁業者の手によって100名以上のバンドウイルカとオキゴンドウが解放された。また10日目には、いったん水族館へ運ばれた6名のオキゴンドウが外海に解放された。国内では初めてのことだった。
1999　10月13日　富戸でイルカ追い込み漁再開。
2002　8月26日　伊東漁協が、これまでの違反捕獲や捕殺方法を改善しイルカ漁再開宣言。
2004　11月11日　富戸でバンドウイルカ9名を捕獲。これ以降2022年現在までイルカを獲っていない。

第二項　沖縄県

ピトゥ漁（ヒートゥ漁）
ピトゥとはイルカのこと（他地域ではヒートゥーと呼ぶ）
マゴンドウ＝グンピトゥ
カズハゴンドウ＝グンピトゥ
バンドウイルカ＝ジャーカ、ジャーカーピトゥ、フリッパー（アメリカのテレビドラマ「わんぱくフリッパー」が放映されて以降呼ばれるようになった）
マダライルカ＝ガラサ、ギーチャパ
シワハイルカ＝ユークッヤ
アカボウクジラ＝ムーイピトゥ

かつて、沖縄県名護湾では大規模なイルカ追い込み漁が行われていた。年4〜5回捕獲。1回100名ほど。300名以上をを捕獲した時もありました。

歴史
発祥は不明
1735(江戸)　首里王府が寄りクジラは村の所有、尾羽や油は買い上げることになっていた。
*毎年3〜5月にかけてピトゥ（大半はコビレゴンドウ）の大群（数十〜200頭）が名護湾沖を回遊していた。沖合から湾内の浅瀬に追い込み、浜近くで殺害していた。
1887(明治20)　名護地方が飢饉となったが、数百名のイルカを殺害し助かった。
1889(明治22)　イルカ追い込み漁が記録される（これ以前から行われていた）。
1902(明治35)　琉球新報に百余頭のピートーを捕獲したとの報道。
1950(昭和25)　漁船(15t)が ゴンドウクジラ突き取り用の銛でザトウクジラを捕獲。
1951(昭和26)　名護漁港所属 第三広泉丸がザトウクジラを2頭捕獲。
1954(昭和29)　名護漁業協同組合が捕鯨を始める。琉球捕鯨(名護捕鯨)の発祥。
1955(昭和30)　25mm三連捕鯨銃を購入して本格的な捕鯨を開始、同年沖縄最初小型捕鯨業の許可を得た。
1956(昭和31)　40mm 捕鯨砲を装備。

1957(昭和32)　琉球政府により、名護漁協が沿岸大型捕鯨を許可された（60mm捕鯨砲を装備）。
1958(昭和33)　3隻の捕鯨船が建造された。新たに琉球食品と開洋水産が参入、地元三社に。琉球食品と大洋漁業、開洋水産と日東捕鯨が提携し、大型捕鯨船を導入。ザトウクジラが急激に枯渇。
1964(昭和39)　大型捕鯨業停止。県内3社に加え本土の大手企業が加わり乱獲したため。
1966(昭和41)　名護湾が漁港指定される。
1973(昭和48)　名護漁港の建設。
1975(昭和50)　衰退に向かう、イルカが寄らなくなってくる。
1978(昭和53)　本土の人々が、イルカ突き棒漁を開始。
1988(昭和63)　シャチを捕獲。イルカの自由捕獲禁止。
1989(平成元)
03/28　水産庁がすべてのイルカ漁を知事許可漁業ないしは海区漁業調整委員会の承認制に。沖縄県でじゃイルカ追い込み漁禁止され、終焉。この時イルカを捕獲していたのは13都同県：北海道、青森、岩手、宮城、千葉、東京、神奈川、静岡、和歌山、愛媛、長崎、大分、沖縄
04/02　沖縄最後の追い込み漁が行われた（バンドウイルカ40名）。追い込み漁禁止後捕獲されたので相当クレームがついた。電話抗議に集中攻撃される。
04/05　沖縄海区漁業調整委員会が名護漁協所属の6隻に対してイルカ漁を承認。
2007(平成19)　05.22 追い込み漁が復活。マゴンドウ30名を追込み殺害。福岡市場に出荷。

漁法

1. 春先から初夏にかけて名護湾に入ってきたピトゥを発見。コビレゴンドウはイカを追って名護湾に入ってきていたと思われる。
2. 群れに接近して大まかな規模を確認。
3. 漁協事務所に報告。
4. 漁協は市役所水産係と、各漁船の船主に連絡。
5. 船主は乗組員に連絡し、集合。
6. 一般の人々に伝えられ、畑仕事などを一斉に止め、浜で待ち構える。かつては陸から見つけた人が大声でピトゥが名護湾に入ってきたことを伝え、人伝えや伝令、口笛や太鼓で伝えられた。
7. 見物人も集まってくる。官庁や学校も臨時休みになった。
8. 大型船(10〜49t)が湾沖合から追い込み、小型船(サバニ船、電馬船、タンクブニ、和船型漁船、レジャーボート)が半円を描くように、ピトゥを浅瀬に追い込む。

9. ピトゥを脅して追い込む。昔は、白い石を投げ込む、縄に石をつけ海に投げる、叫び声を上げる、櫂で船の手すりを叩くなどした。近代では、船のエンジン音を立てる、鉄筋棒や鉄パイプの銛の柄を水に投げ入れる、叩くなど。
10.浅瀬まで来たら船を急発進させ、ピトゥに乗り上げるようにして次々に銛(一番銛)を刺す。
11.ピトゥが暴れ力が弱まるのを待ち紐を手繰り寄せ二番銛を刺す。一番銛を刺すときは容易に刺せるが、二番銛の時は体が硬直しているので、体重をかけて打ち込む。
12.ピトゥは数分で弱り、鉾剣で心臓を狙って数回刺し、止めをさす。
13.海岸では人々が海に入って待機しており、追い込まれたイルカを銛、鉈、鎌、ツルハシなどで殺す。
14.発見から捕獲までの時間は2〜3時間かかった。1名殺害するのに15分かかった。水面は鮮血と海底の泥などで混濁色になった。
*ピトゥの背中に乗り、手拭いなどで目隠しをして陸に向かわせ、座礁させる人もいた。

漁具
銛先(燕銛)、銛を付ける柄(木、鉄筋、鉄パイプを改造）、銛と柄を結ぶロープ(PPロープ、クレモナロープ等)、包丁・カマ(止め刺し、解体)、鉾剣(止めを刺す)

特記事項
昭和20〜30年代のイルカ追い込み漁は大変な行事だったようで、学校の卒業式や葬儀中であってもピトゥ漁の知らせがあったら集合し漁に参加したそうです。人々は興奮状態にあり、それぞれが武器を持ってイルカを殺しました。黒い服を着ていたためコビレゴンドウと間違えて殺された人もいたという話もあり、ピトゥ漁の際は黒い服を着用しなかったようです。当時の写真を見ると、浜を埋め尽くすほどの大勢の人々がコビレゴンドウに槍を刺し、斬りつけ、またがっています。子どもたちも参加しており、コビレゴンドウの首を足で踏みつけている写真などがあります。また美ら海水族館の内田詮三館長は、ピトゥの心臓を刺身で食べて最高と言っていたそうです。

ジュゴンについても触れておきます。ジュゴンは、アカンガーイュー、ジャン、ザンなどと呼ばれおり、昔から補殺されていたようです。沖縄貝塚時代中期の貝塚からジュゴンの骨が発見されています。また、首里王府の高貴な食べ物とされ献上されていたようです。
捕獲方法は時代と共に移り変わっています。
・網にかかったジュゴンの尾の付け根を刃物で切り、痛みのあまりに暴れ、尾が折れ、力尽きたところを船に乗せる。
・撲殺。
・終戦直後はダイナマイトがたくさんあったからダイナマイトで殺害。
のんびりしたジュゴンですので、襲われたらひとたまりもなかったでしょう。

第三項　フェロー諸島のイルカ追い込み漁

日本と並んで、イルカ・クジラ追い込み漁で有名なのがデンマークフェロー諸島です。フェロー人はGrindadráp（Grind：ゴンドウクジラ、Drap：殺す）と呼んでいます。多くの活動家がフェロー諸島で活動し、イルカ漁の中止を求めていますが、日本と同様伝統文化を理由に中止されていません。

フェロー諸島とは

政治：現在は、デンマーク王国の自治領です。1035年から1814年の間はノルウェー王国の一部でした。独立運動もあります。

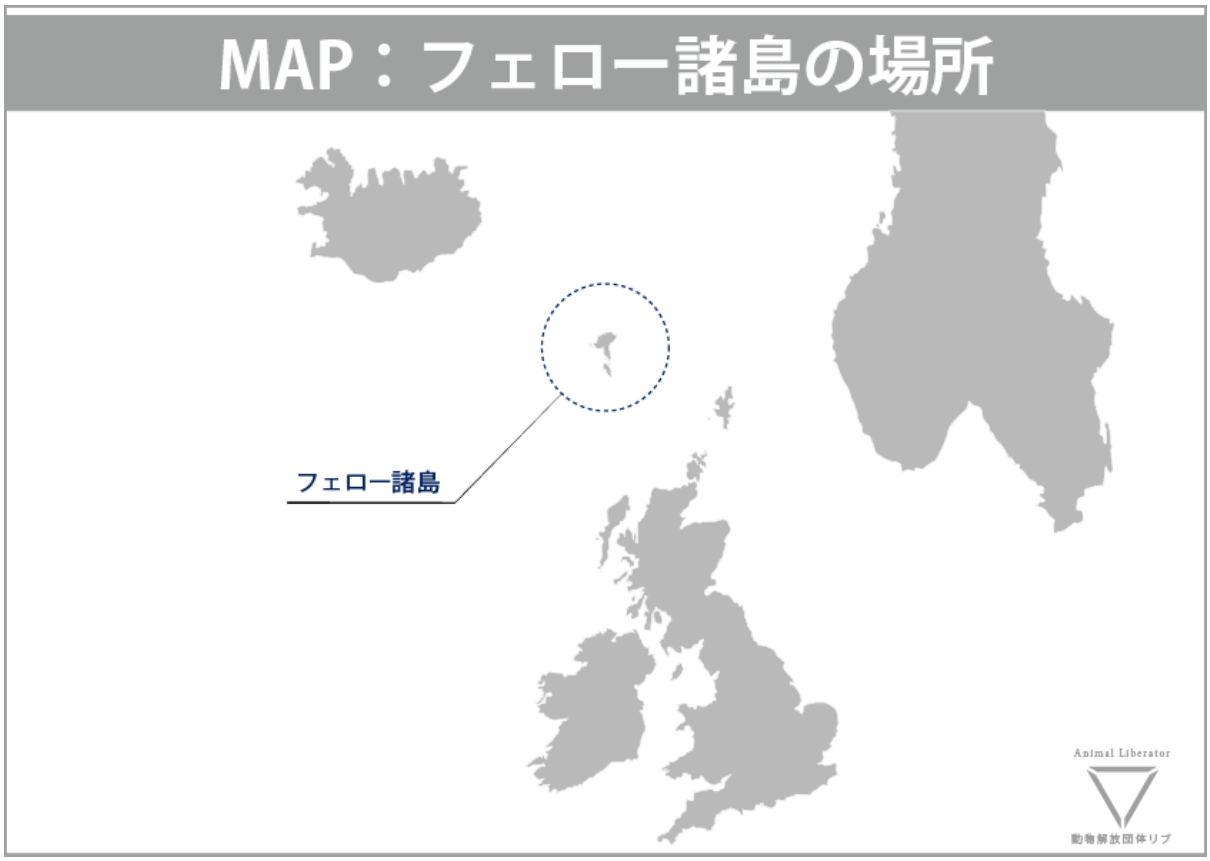
人口：53,882人（2022/4）

姉妹都市：イルカ追い込み漁を行っている和歌山県太地町と、フェロー諸島の町クラクスビークは、2018年1月24日姉妹都市となりました。

場所

ノルウェー、アイスランド、UKを結んだ三角形の真ん中に位置する島々です。

［MAP：フェロー諸島の場所］



歴史

800年代　バイキングの入植と同時期に、追い込み漁が始まる。

999年以降　ノルウェー国王への税金支払いのために、追い込み漁の記録が取られ始める。
1298年　法律によって追い込み漁の規制が行われる。
1709年　統計の記録が取られ始め、現在まで続いている。
1932年　近代捕鯨法を導入
1948年　フェロー諸島の自治推進の一環として、追い込み漁の法律に関する権限がフェロー諸島に移される。
1985年　槍と銛の使用を禁止する。残酷であるという理由。

捕獲対象種
ヒレナガコンドウ、タイセイヨウカマイルカ、ハナジロカマイルカ、バンドウイルカ

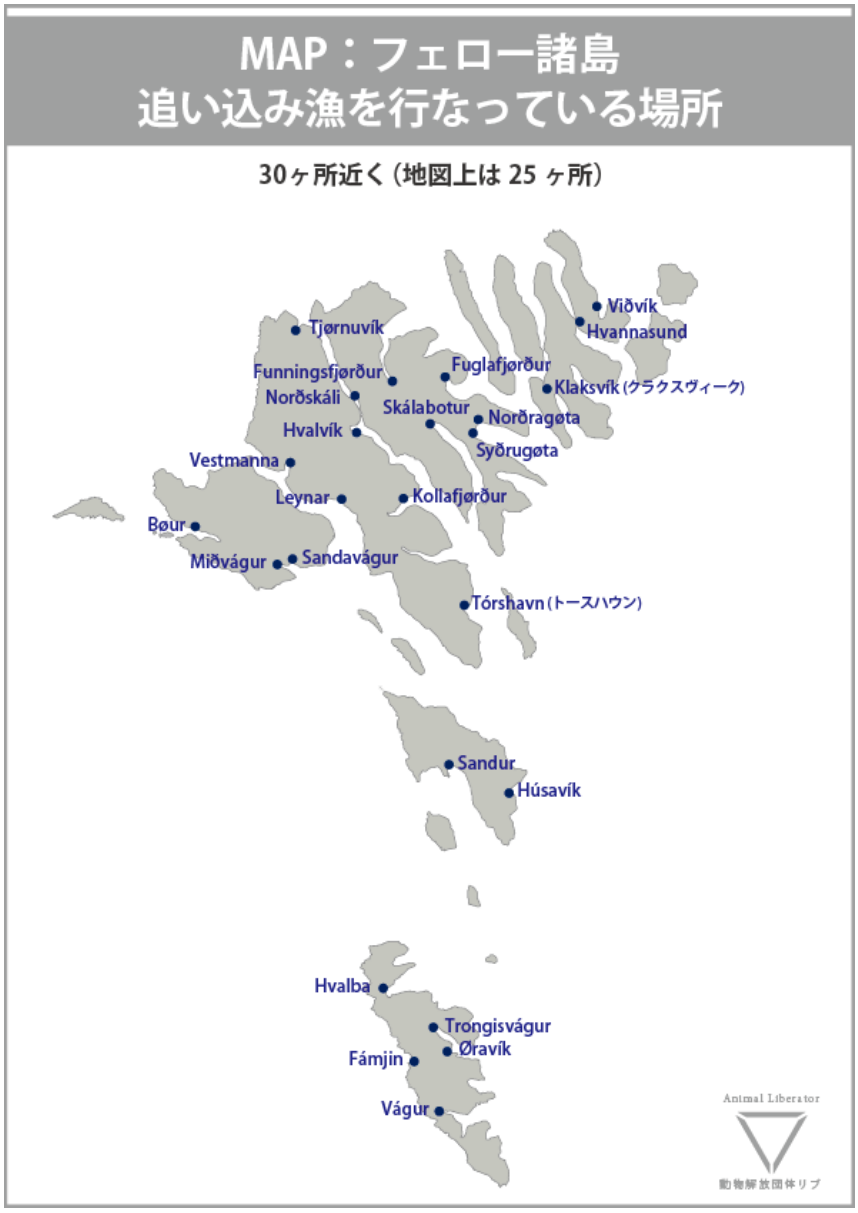
用途
食用（肉、脂）、油（オイルランプなど）、薬用

漁期
決まってはいないが、6月から10月までが多い。

捕獲場所

捕獲場所は、hvalvàgirと呼ばれ30ヶ所近くあります。

［MAP：フェロー諸島　追い込み漁を行なっている場所］



*クラクスヴィークは太地町と姉妹都市です。

追い込み方法

追い込み漁の実施には法律に基づいたマニュアルがあり、マニュアルに沿って厳密に実施されることが求められています。

許可されている道具は5つ

1.石

2.石にロープを繋いだもの

3.ブローホールフック（噴気孔に引っ掛けるフックにロープを繋いだもの)

［写真：ブローホールフック］

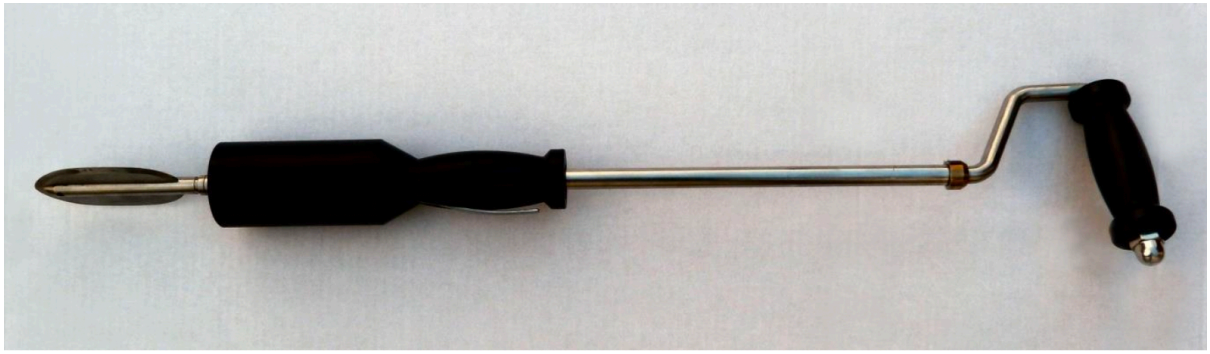


出典：Instruction manual on Pilot whaling, p.p15, NORTH ATLANTIC MARINE MAMMAL COMMISSION, 2016-10, Fig. 3 Blowhole hook with sisal rope. Photo: B. Hunan

4.ムヌスティンガリ（mønustingari：SPINAL LANCE ：脊椎に刺す銛）

太地町のイルカ追い込み漁の屠殺道具は、コノムヌステインガリを模して作られています。

［写真：ムヌスティンガリ］



出典：Instruction manual on Pilot whaling, p.p18, NORTH ATLANTIC MARINE MAMMAL COMMISSION, 2016-10, Fig. 8. Spinal lance. Photo: B. Hanusson

［写真：ムヌスティンガリ_刃先］



出典：Instruction manual on Pilot whaling, p.p19, NORTH ATLANTIC MARINE MAMMAL COMMISSION, 2016-10, Fig. 9. Distal section of spinal lance with blade and sliding handle. Photo: B. Hanusson

5.グリンダクニヴール（grindaknívur：捕鯨用ナイフ）



出典：Trials with new whale killing equipment in Faroese whaling, p.p3, Jústines Olsen, 2011-10, Fig. 2: New spear, first version Photo: B. Hanusson

追い込みから殺害までの手順

1. クジラのポッドを見つけると、地区の責任者がどの湾に追い込むかを決めます。追い込むことができる湾は、認可が出されている場所のみです。
2. 船長が指示を出し、船を湾の方向に開いた半円状に配置し、ポッドを囲みます。
3. リーダーの合図で、ポッドの後方に石を投げ込み、追い込みます。

4. イルカやクジラが浜に乗り上げたら、ブローホールフックを噴気孔に挿し、陸に引き上げます。
5. 噴気孔の尾鰭側に手を当て、手のひら一枚分後ろに、ムヌスティンガリを突き刺し脊髄を切ります。ムヌスティンガリを左右に振って、脊柱管内の血管を切り脳への血液供給を遮断します。
6. クジラの死亡を確認後、首の血管をグリンダクニヴールで切り、血抜きを行います。

［URL：追い込みと道具の使用法がよくわかる動画：https://youtu.be/QayUjPoiTmE］

問題点

鯨族の権利、倫理以外の問題を挙げます。

・健康被害

人間が排出した化学物質に汚染された鯨族を食べることによる健康被害が、WHOをはじめとする様々な研究機関によって報告されています。化学物質の種類は、メチル水銀、PCB、DDT誘導体など。水銀はEU基準の2倍含まれていることがわかっています。特に、幼児、子供、妊婦は注意が必要、予想される疾患は、パーキンソン病など神経障害、高血圧、動脈硬化症、生殖機能への影響です。胎児が母体経由でメチル水銀に汚染され、出生後、神経障害や発達遅延を発現しています。民間研究期間が、肝臓や腎臓は絶対に食べない、妊婦や子どもは特に注意するなど摂取制限を薦めています。

・2021年のイルカ大量虐殺

2021年9月15日、Skalabotnurでタイセイヨウマダライル1,428名が追い込まれ殺害されました。規制に反する行為も行われ、問題となりました。この時のアンケートでは、フェロー諸島住民の大多数がイルカ漁に反対しています。一方、クジラ漁に関しては存続を望んでいました。

反対活動

さまざまな団体が反対活動を展開してきました。特にシーシェパードは1980年代から様々な活動を展開してきました。多くの活動家がフェロー諸島を訪れ、逮捕者が出ています。WDC(Whale and Dolphin Conservation Society)は、フェロー諸島の追い込み漁に関する啓発アニメーションを制作しました。映画俳優のアンソニー・ホプキンスがナレーションを担当しています。

［URL：https://vimeo.com/121658400］

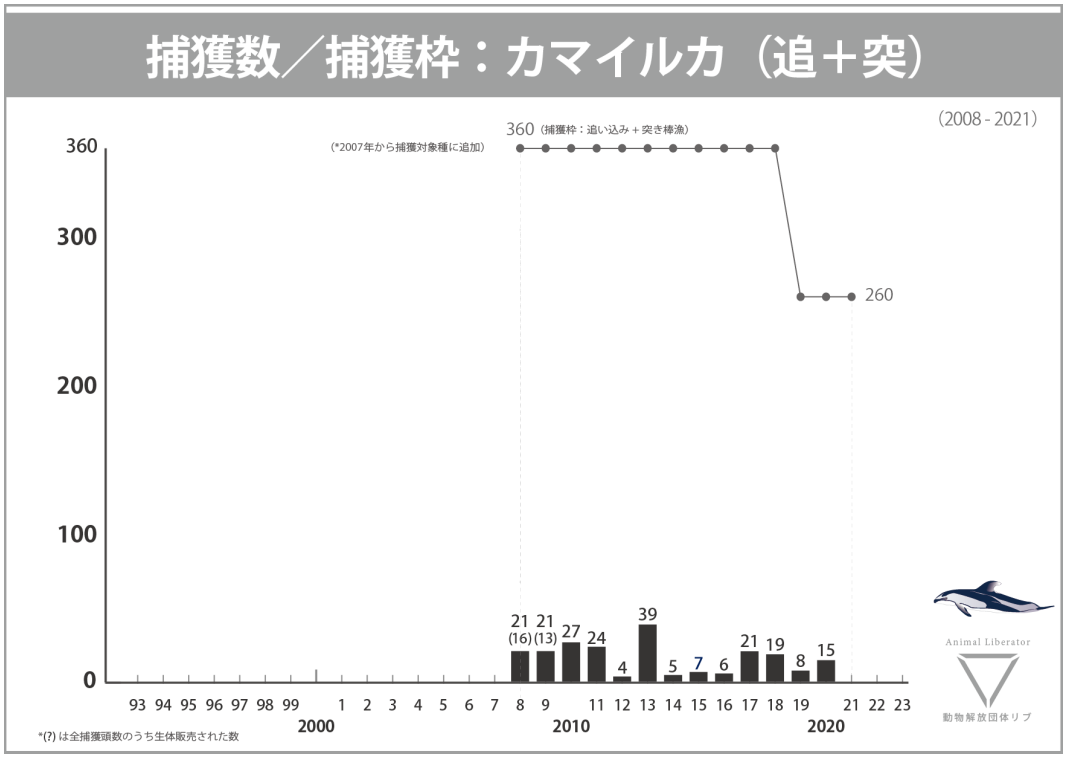
第四章

種別　捕獲数／捕獲枠　基地式捕鯨＋イルカ追い込み漁＋イルカ突き棒漁

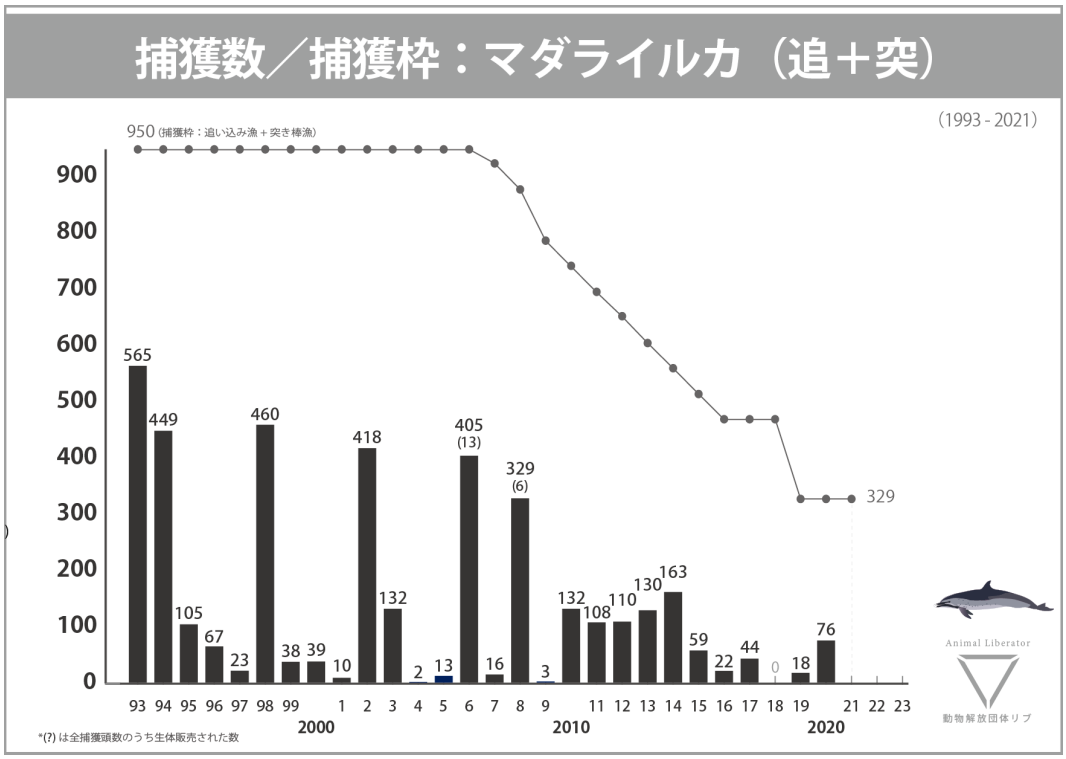
県別　捕獲数　　基地式捕鯨＋イルカ追い込み漁＋イルカ突き棒漁

第一節　種別　捕獲数／捕獲枠　基地式捕鯨＋イルカ追い込み漁＋イルカ突き棒漁

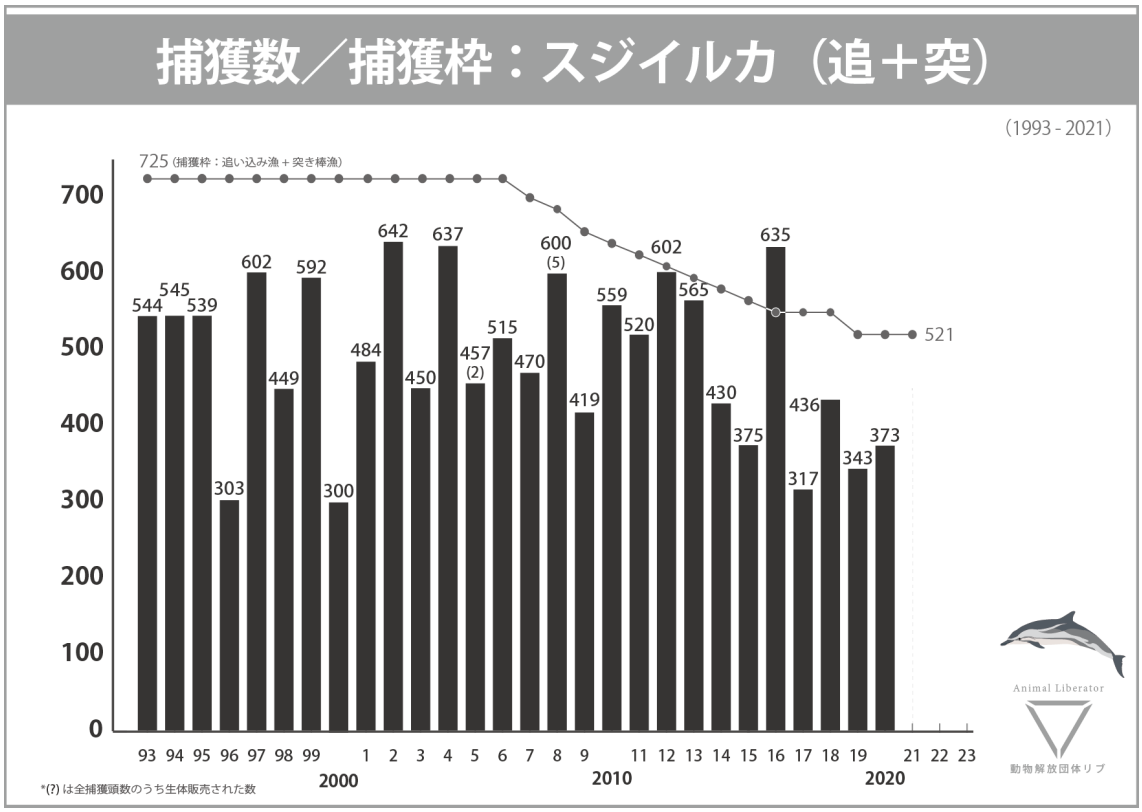
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：カマイルカ（追＋突）］（追い込み漁＋突き棒漁）



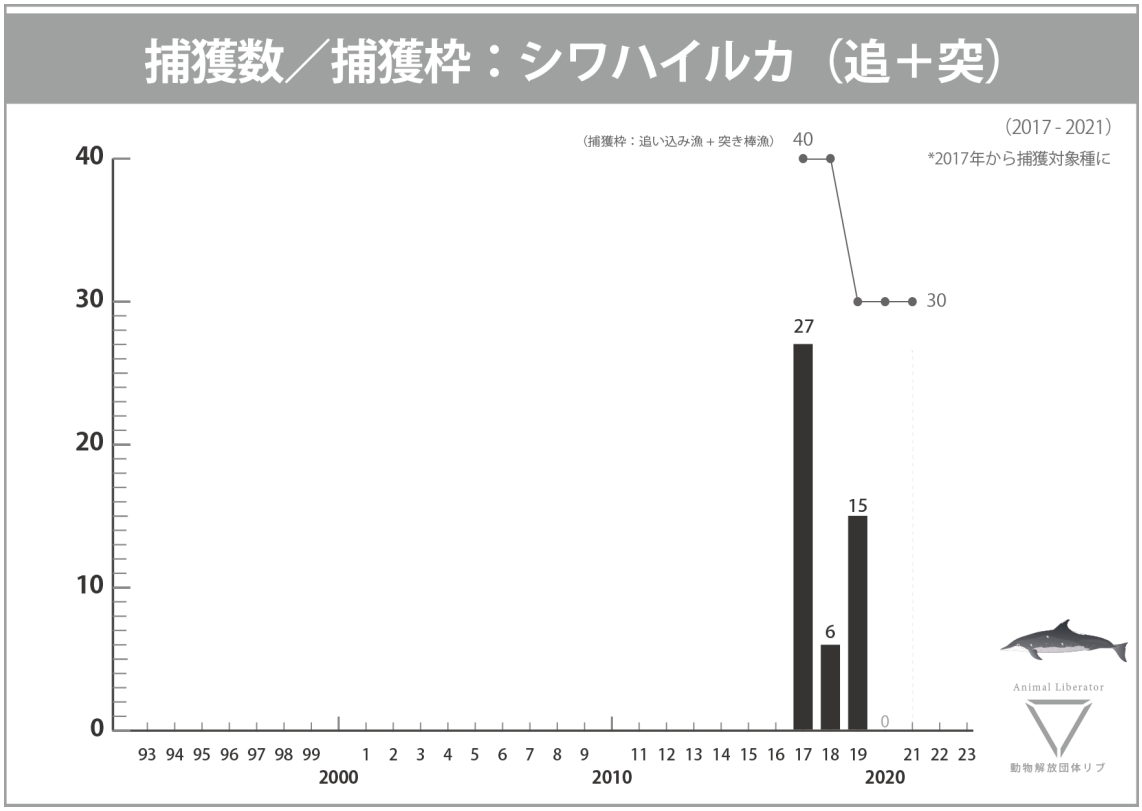
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：マダライルカ（追＋突）］（追い込み漁＋突き棒漁）



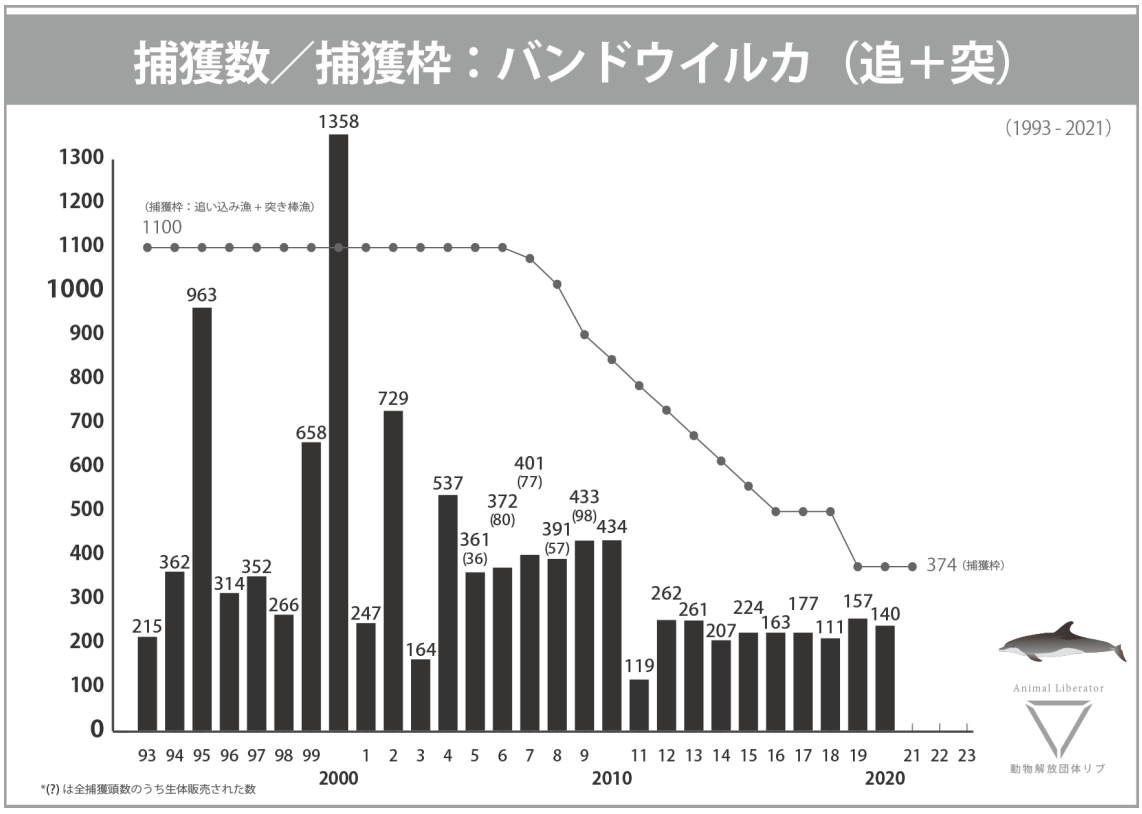
[グラフ：捕獲数／捕獲枠：スジイルカ（追＋突）］（追い込み漁＋突き棒漁）



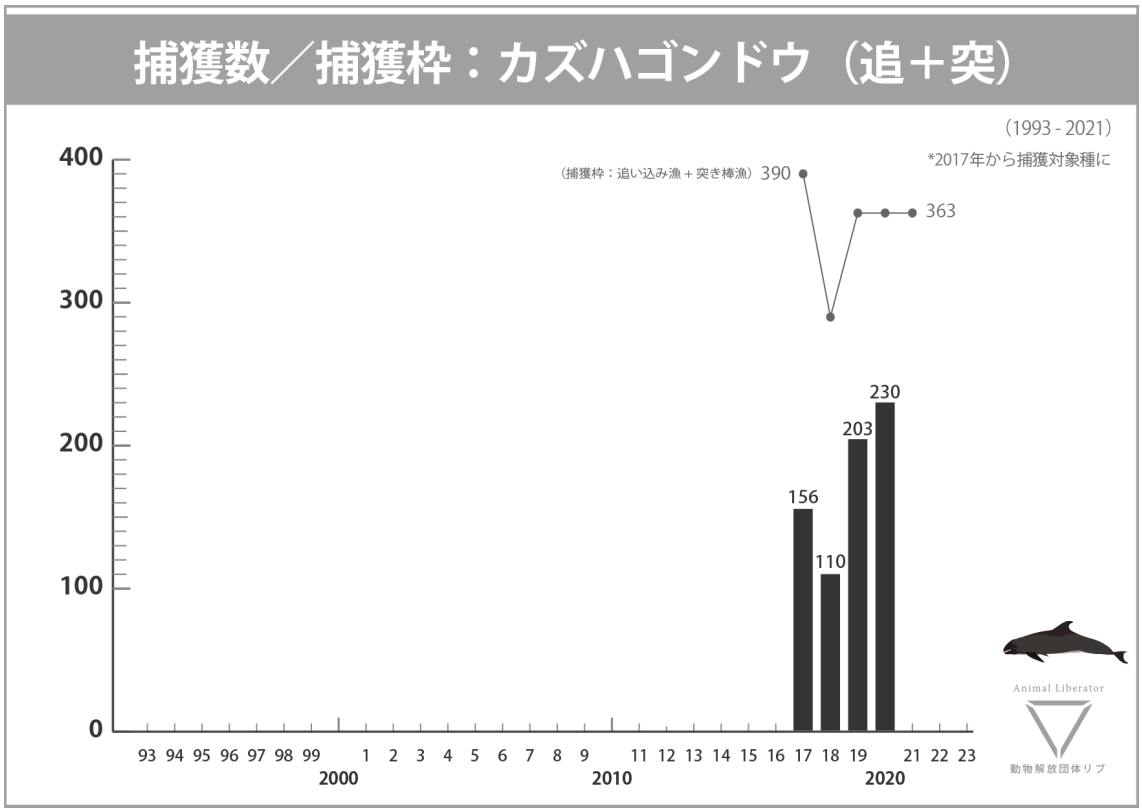
[グラフ：捕獲数／捕獲枠：シワハイルカ（追＋突）］（追い込み漁＋突き棒漁）



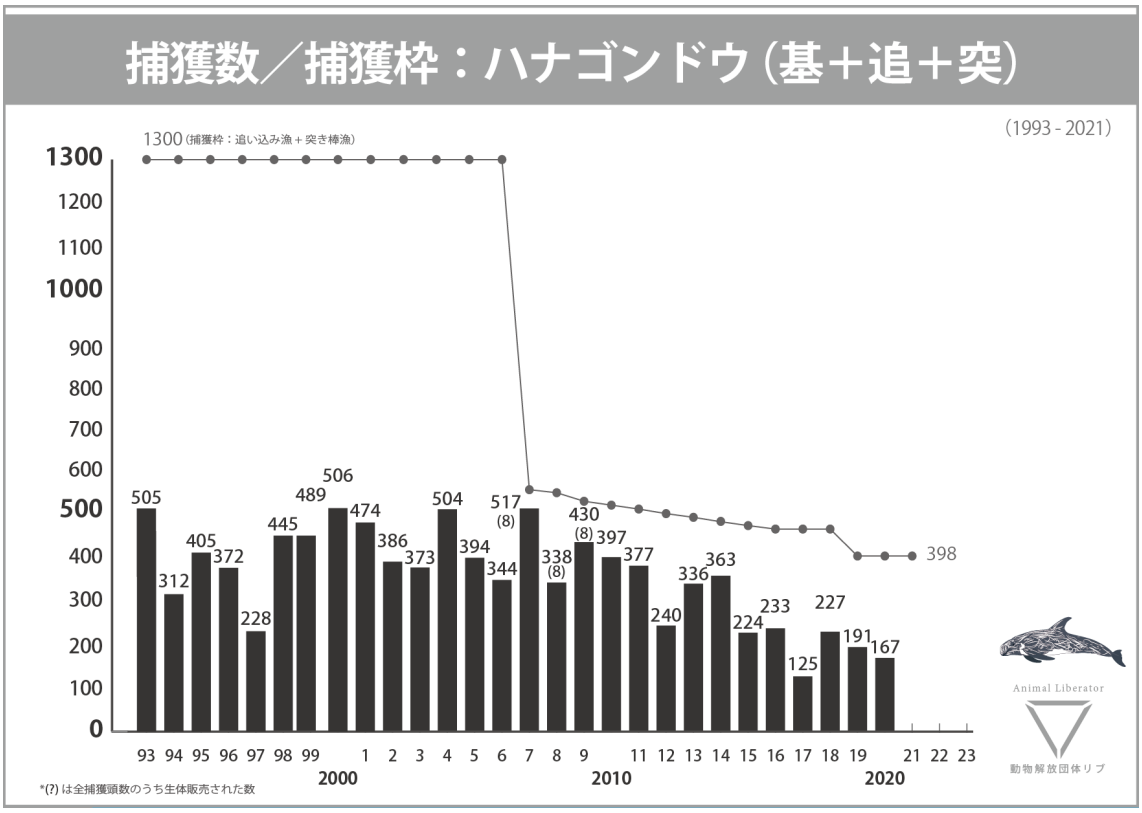
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：バンドウイルカ（追＋突）］（追い込み漁＋突き棒漁）



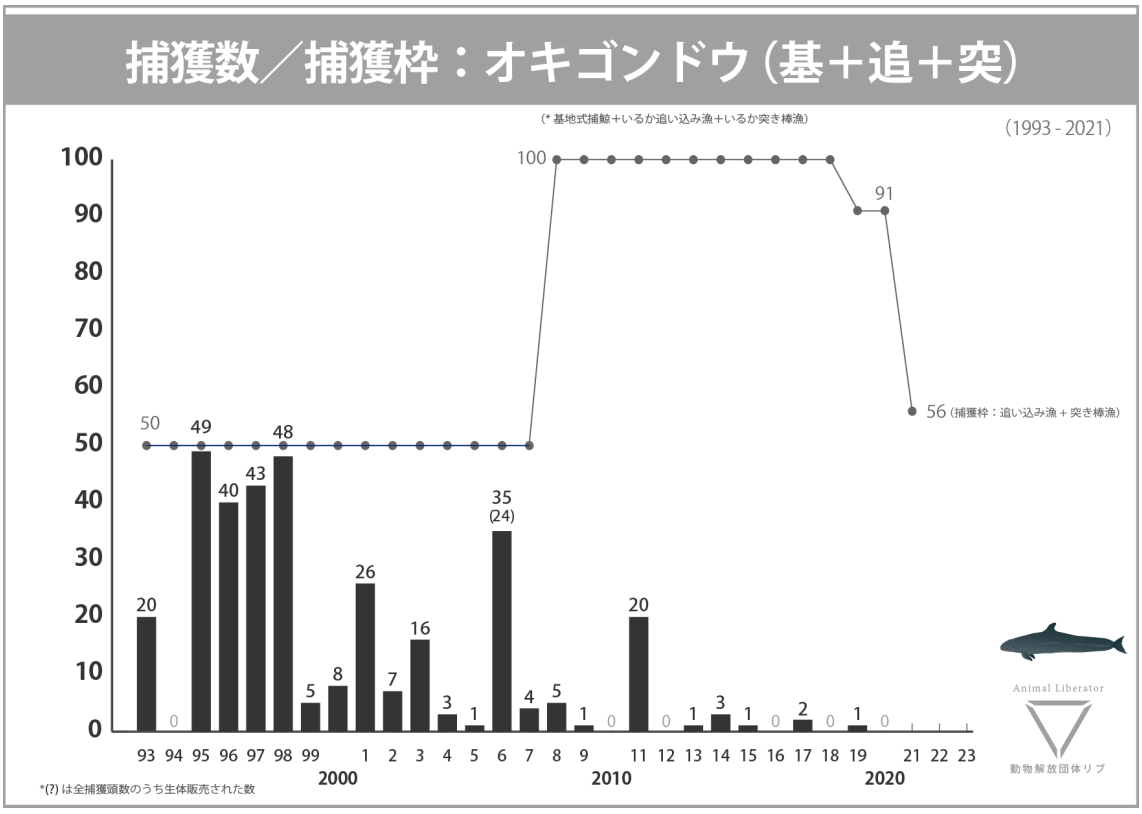
［グラフ：捕獲数／捕獲枠：カズハゴンドウ（追＋突）］（追い込み漁＋突き棒漁）



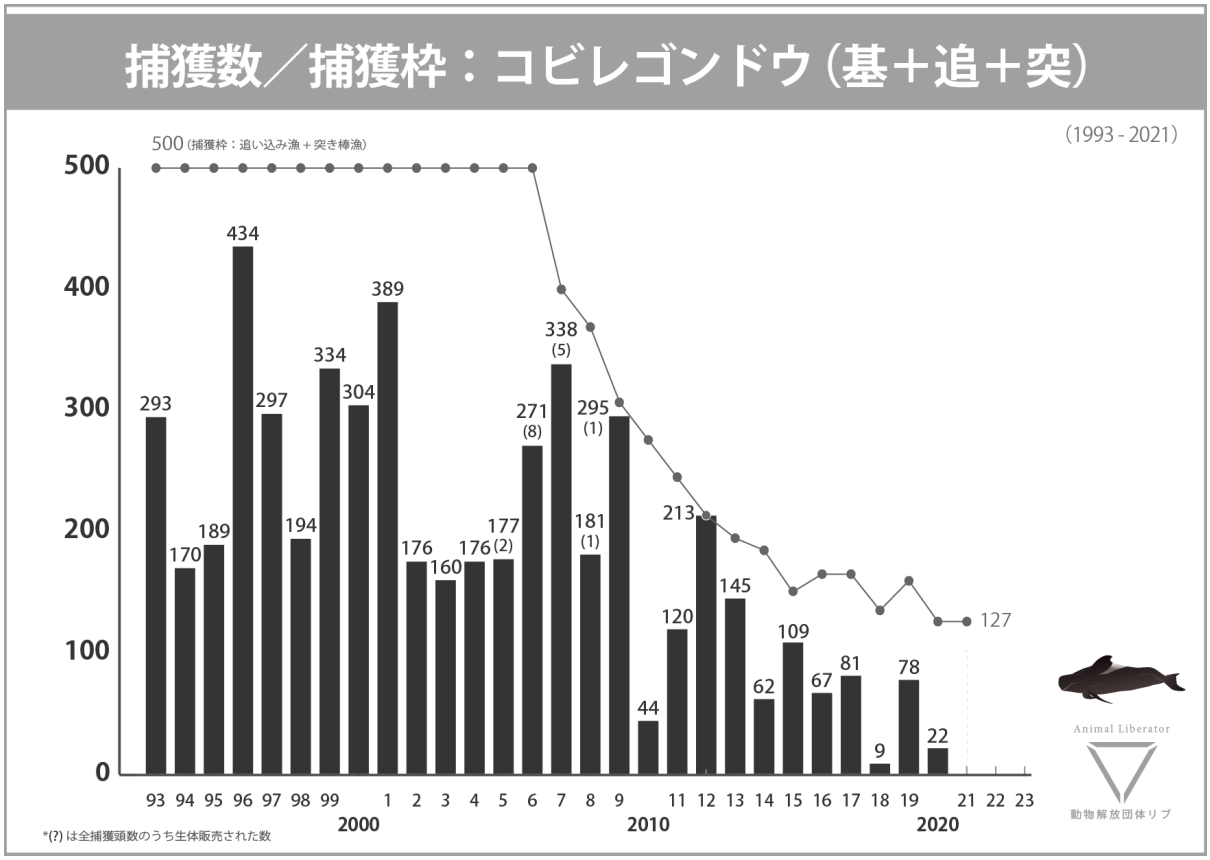
[グラフ：捕獲数／捕獲枠：ハナゴンドウ（基＋追＋突）]



[グラフ：捕獲数／捕獲枠：オキゴンドウ（基＋追＋突）]

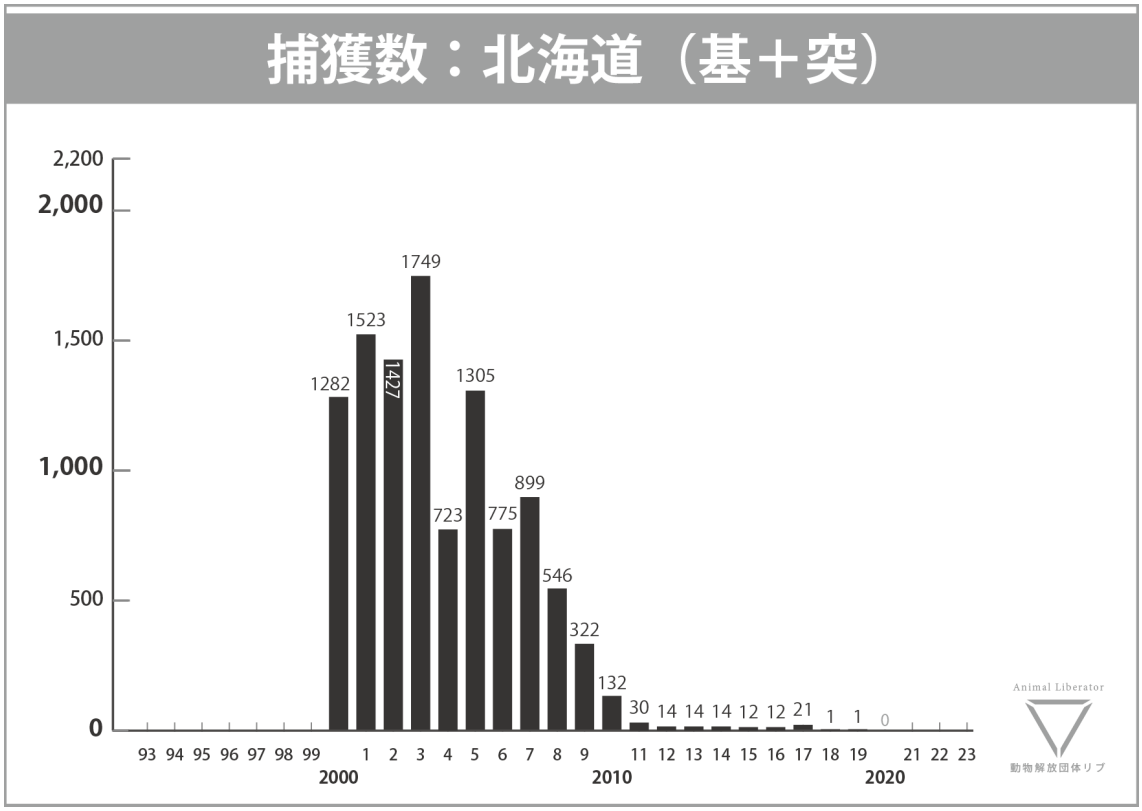


［グラフ：捕獲数／捕獲枠：コビレゴンドウ（基＋追＋突）］

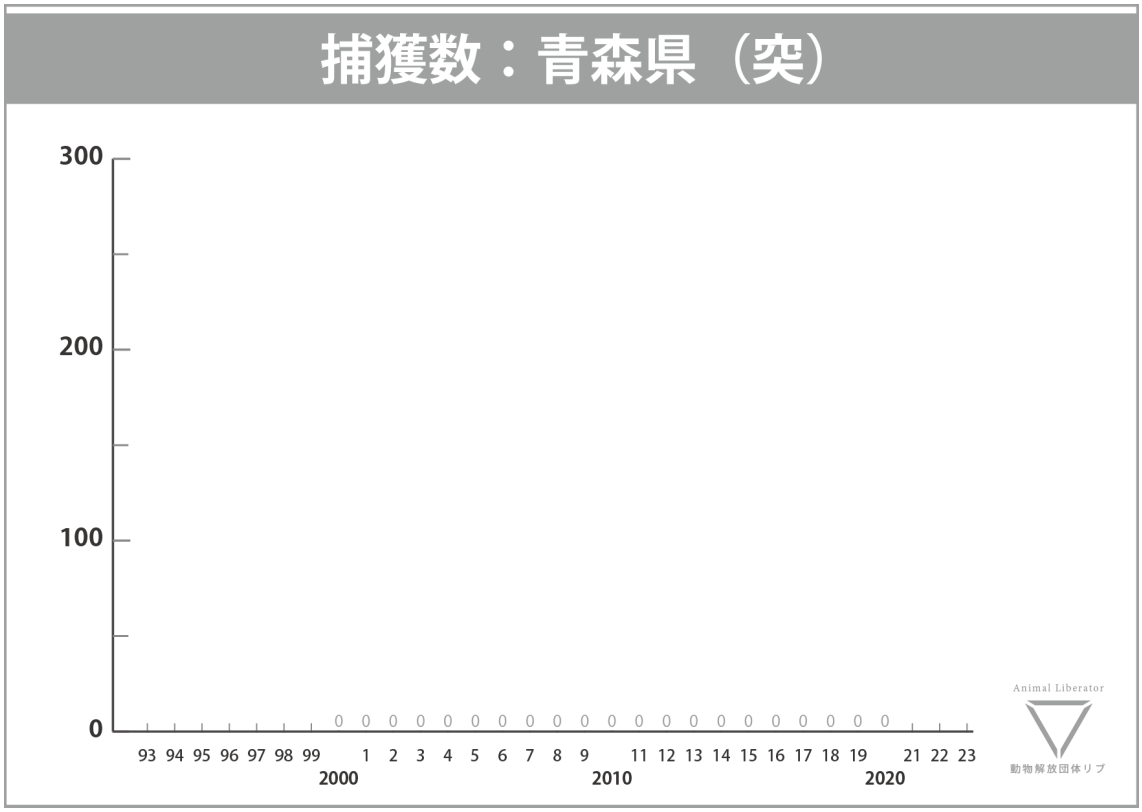


第二節　県別　捕獲数　基地式捕鯨＋イルカ追い込み漁＋イルカ突き棒漁

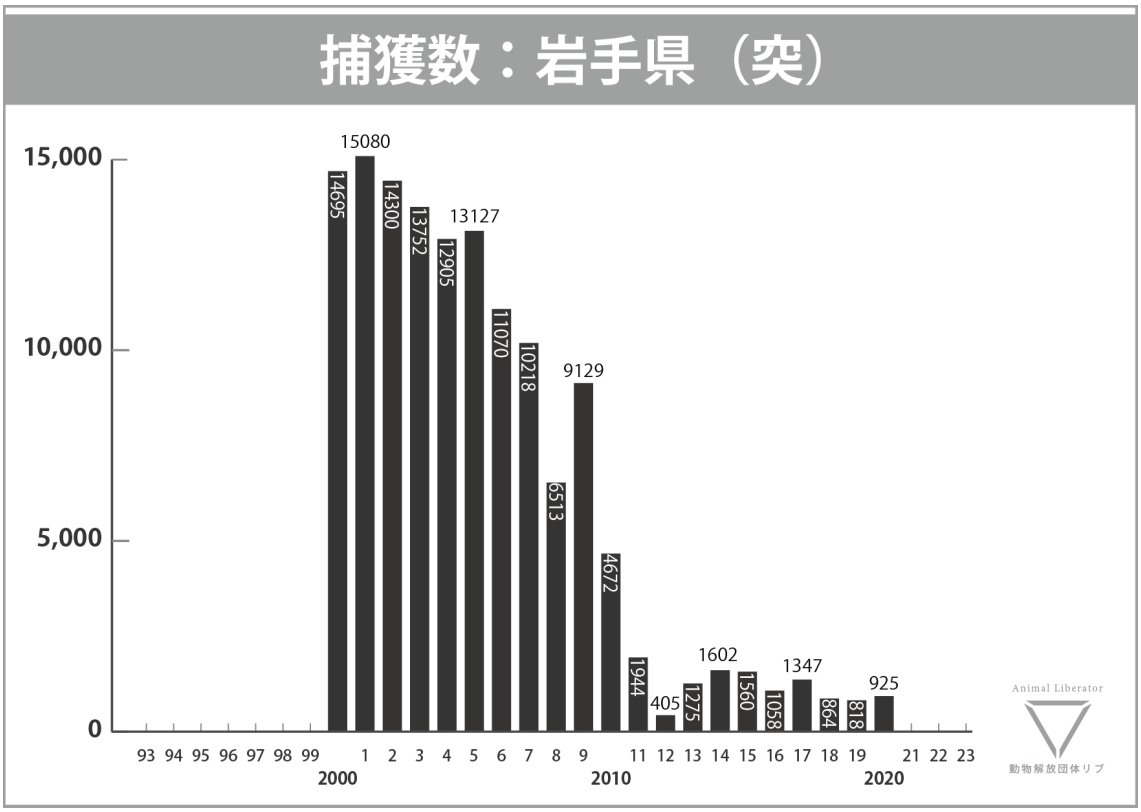
［グラフ：捕獲数：北海道（基＋突）］（基地式捕鯨＋イルカ突き棒漁）



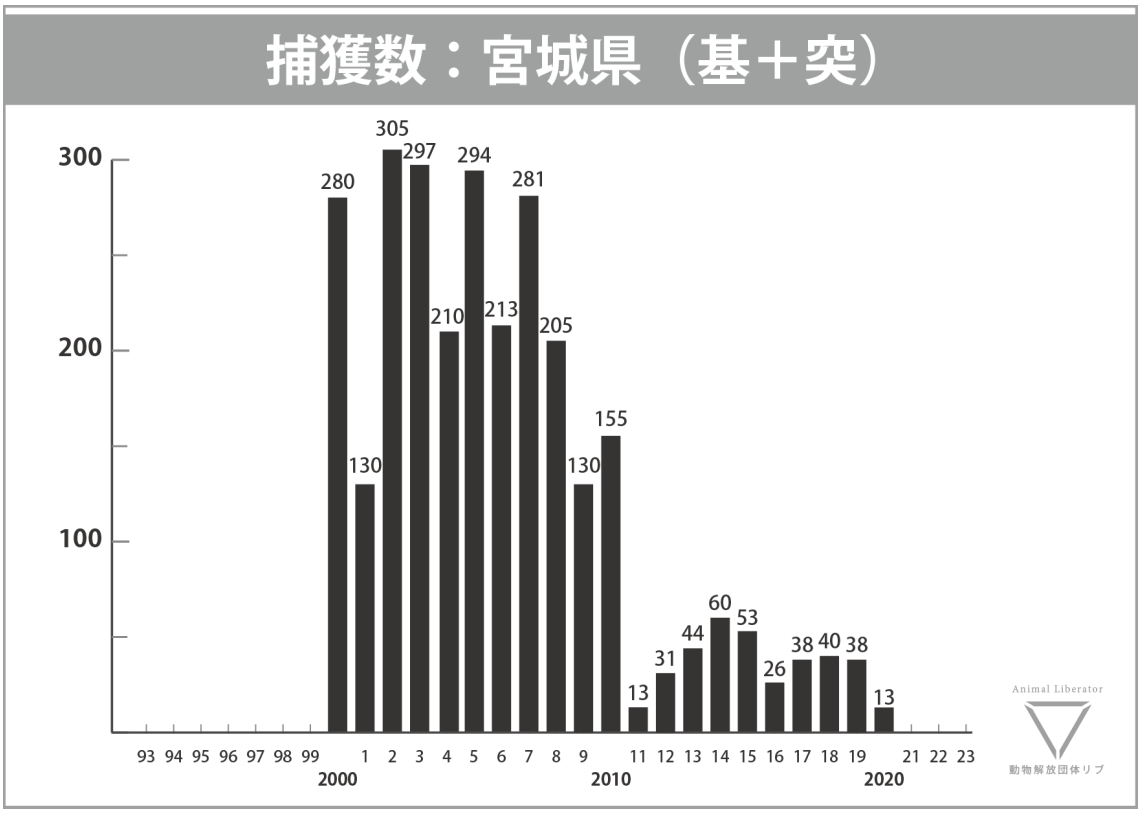
［グラフ：捕獲数：青森県（突）］（イルカ突き棒漁）



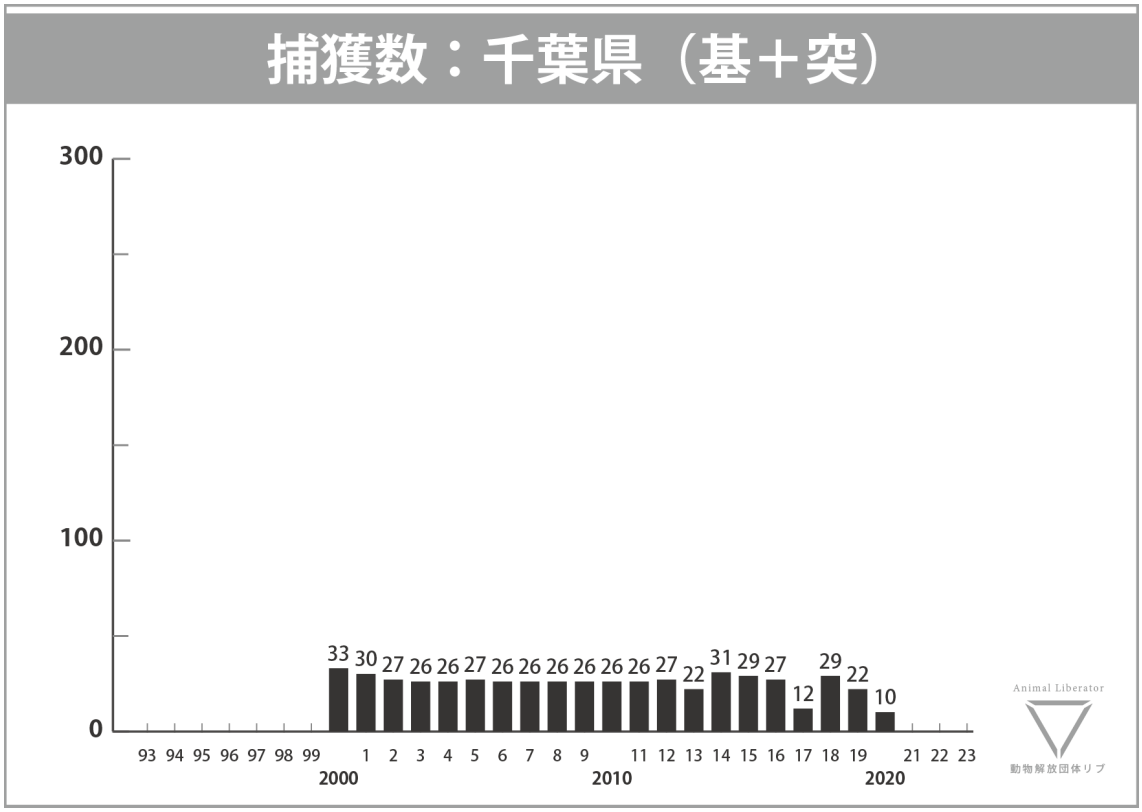
［グラフ：捕獲数：岩手県（突）］（イルカ突き棒漁）



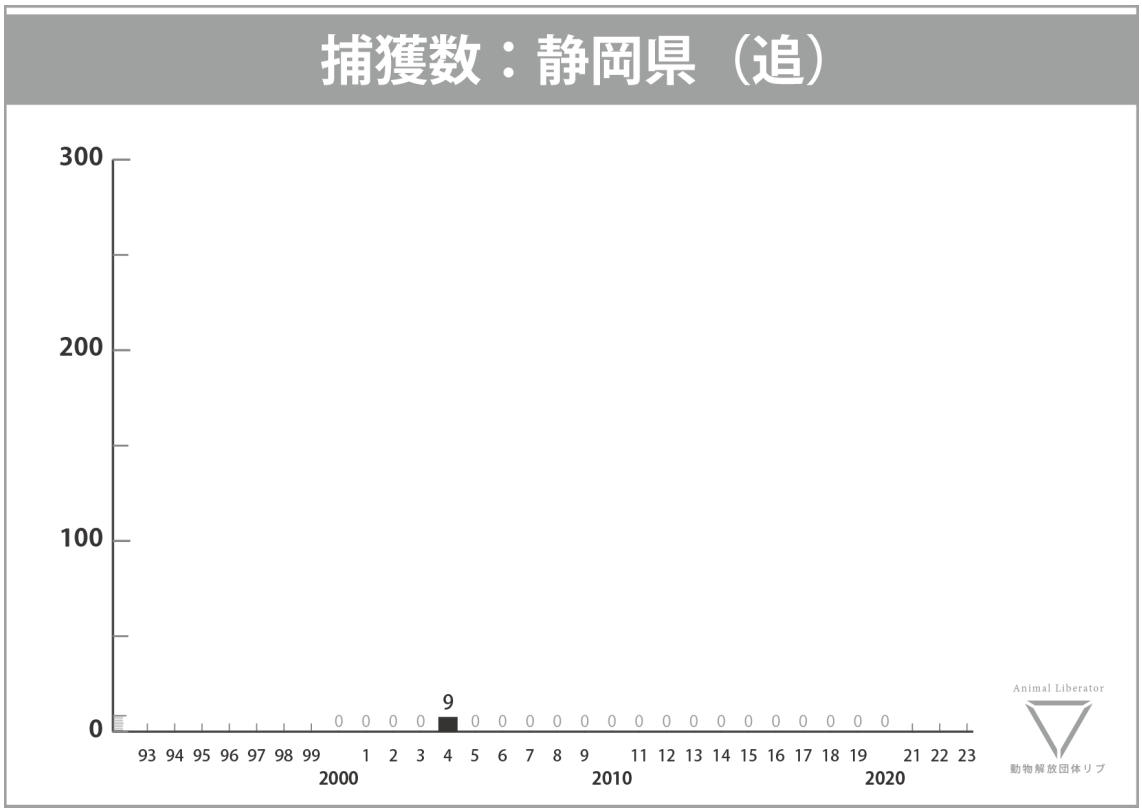
［グラフ：捕獲数：宮城県（基＋突）］（基地式捕鯨＋イルカ突き棒漁）



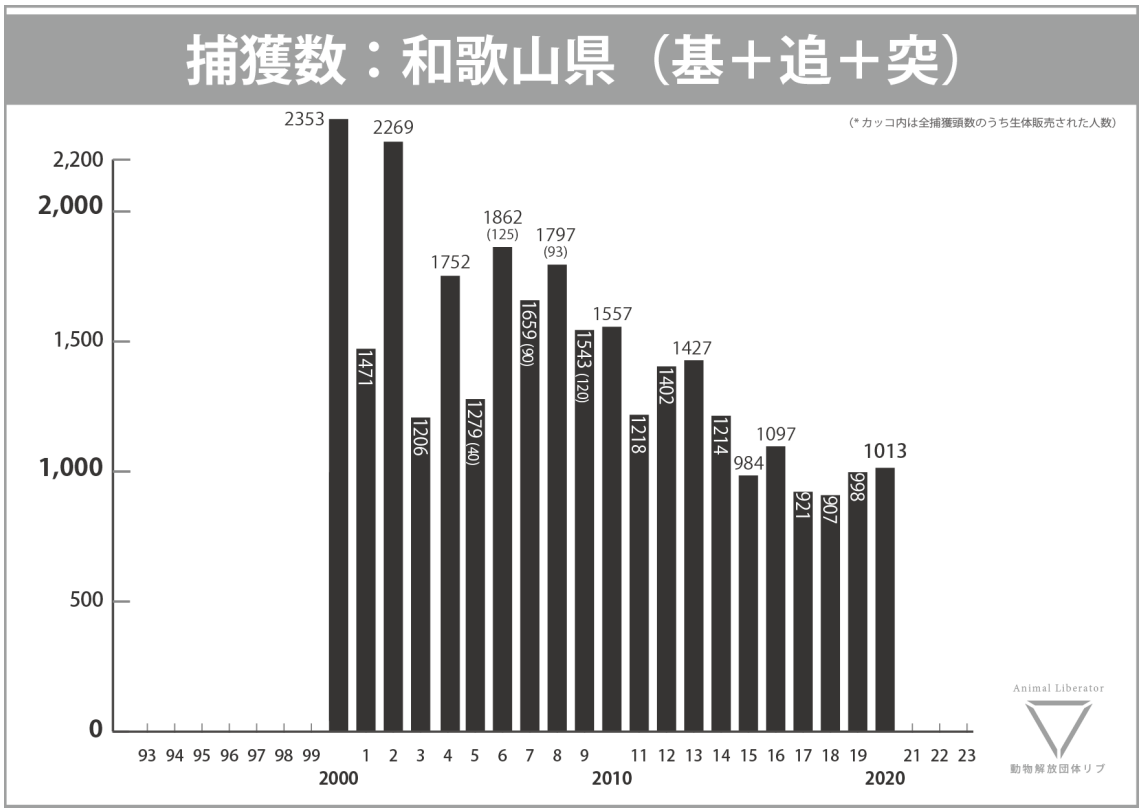
［グラフ：捕獲数：千葉県（基＋突）］（基地式捕鯨＋イルカ突き棒漁）



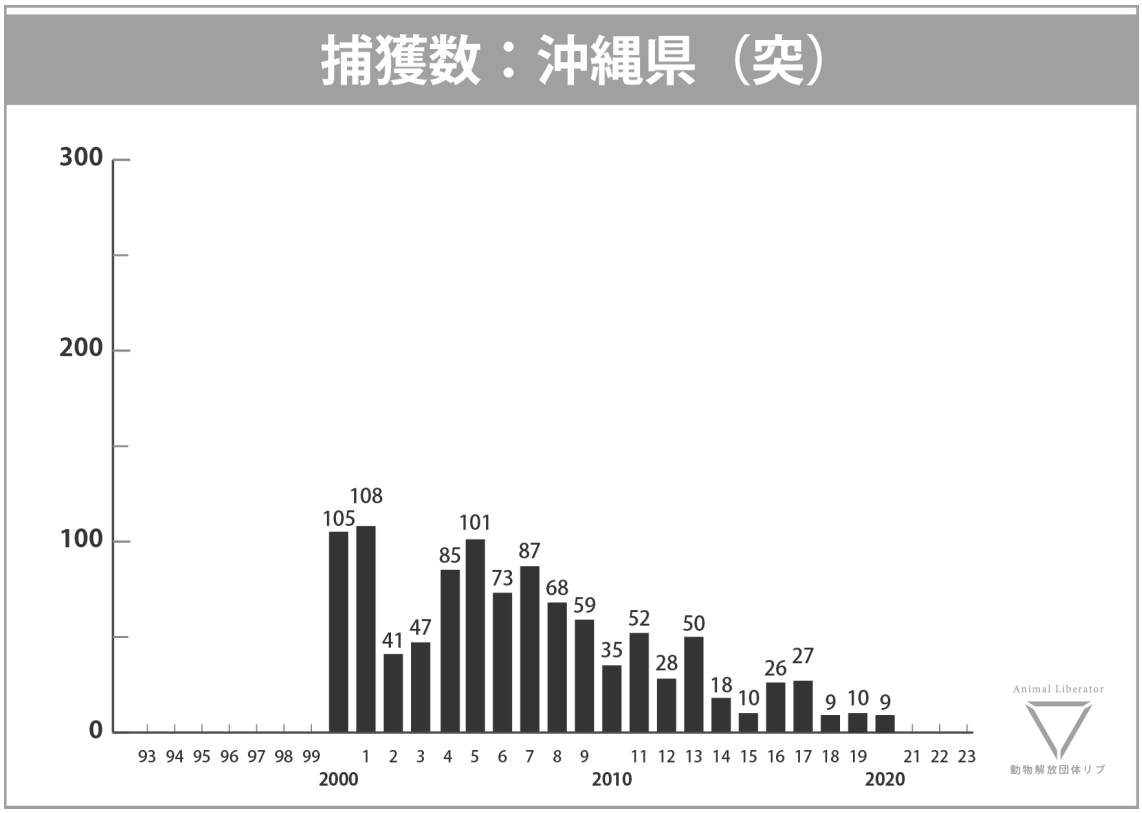
［グラフ：捕獲数：静岡県（追）］（イルカ追い込み漁）



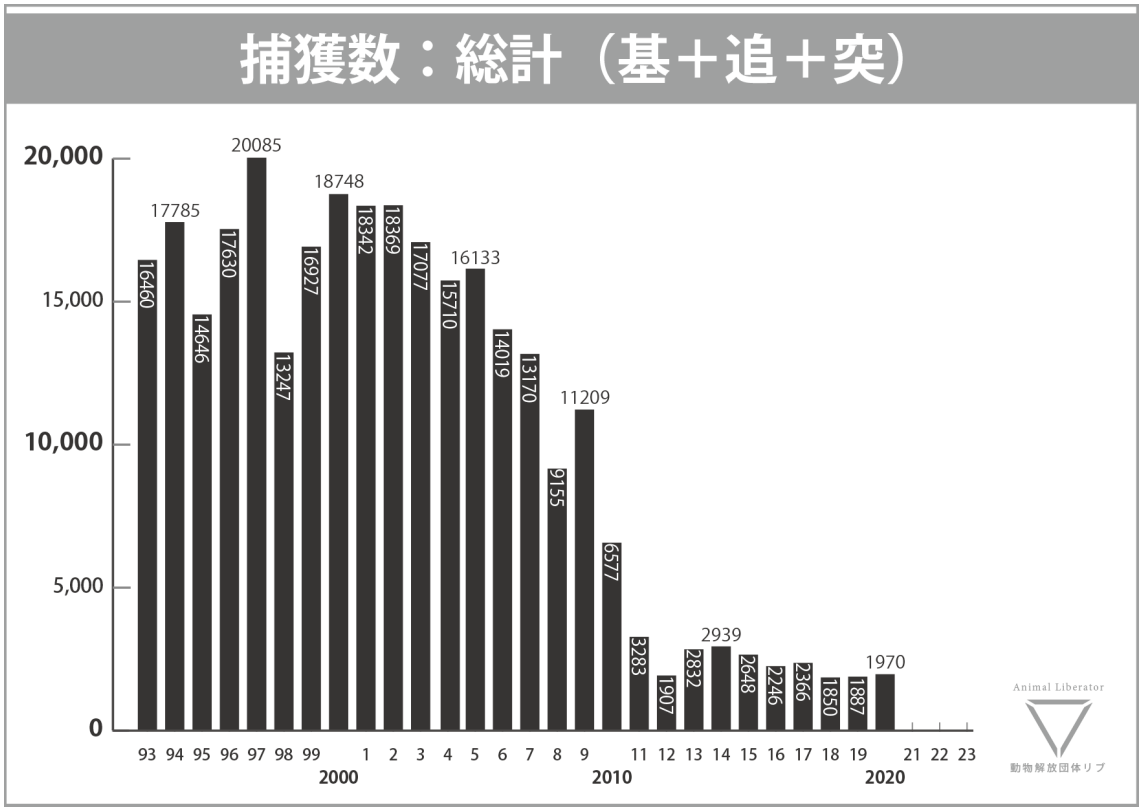
［グラフ：捕獲数：和歌山県（基＋追＋突）］（基地式捕鯨＋イルカ追い込み漁＋イルカ突き棒漁）



［グラフ：捕獲数：沖縄県（突）］（イルカ突き棒漁）



［グラフ：捕獲数：総計（基＋追＋突）］（基地式捕鯨＋イルカ追い込み漁＋イルカ突き棒漁）



第五章　イルカ漁問題

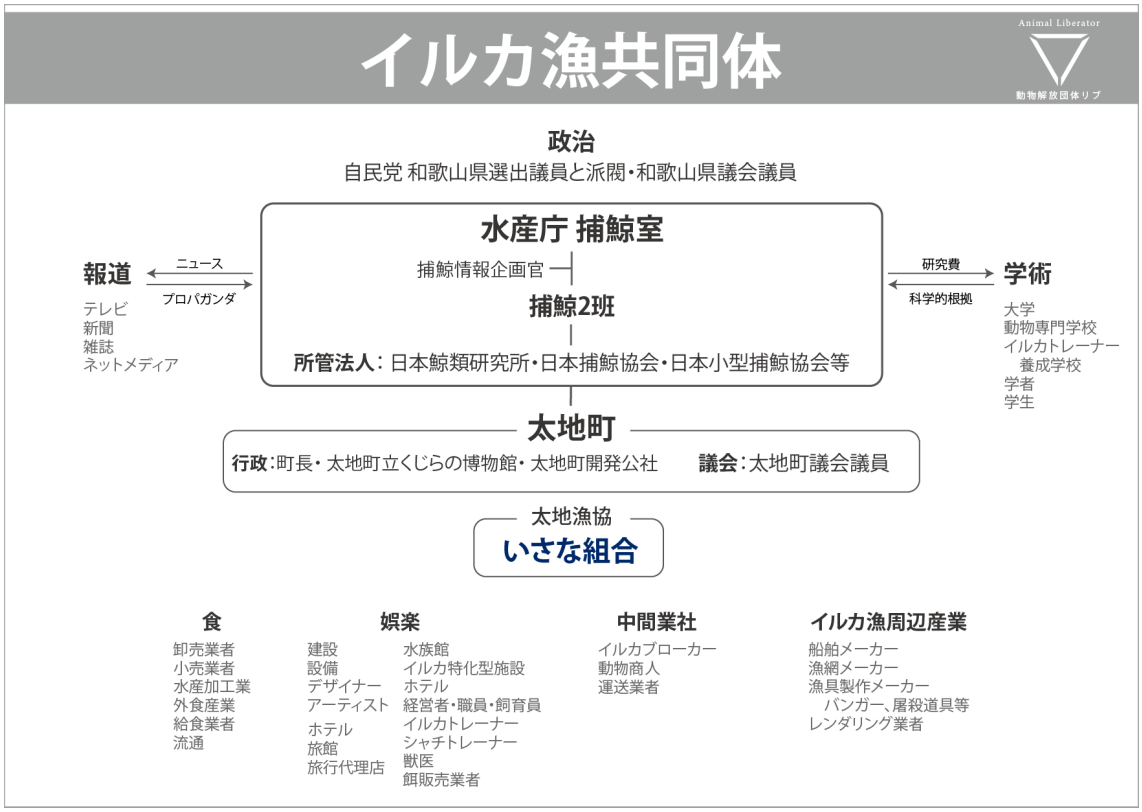
第一節　基本となる考え方

イルカ漁問題はよって立つ立場によって見え方が変わってきます。イルカ漁共同体の構造とイルカ漁問題を明らかにし、イルカ漁支持とイルカ保護の立場や見え方の違いを整理します。捕鯨における基本となる考えと同様です。

第一項　イルカ漁共同体

イルカ漁共同体とは、イルカ漁の利益共同体です。イルカ漁が存続することによって利益の獲得やアイデンティティの維持など何らかの利益を受ける集団です。

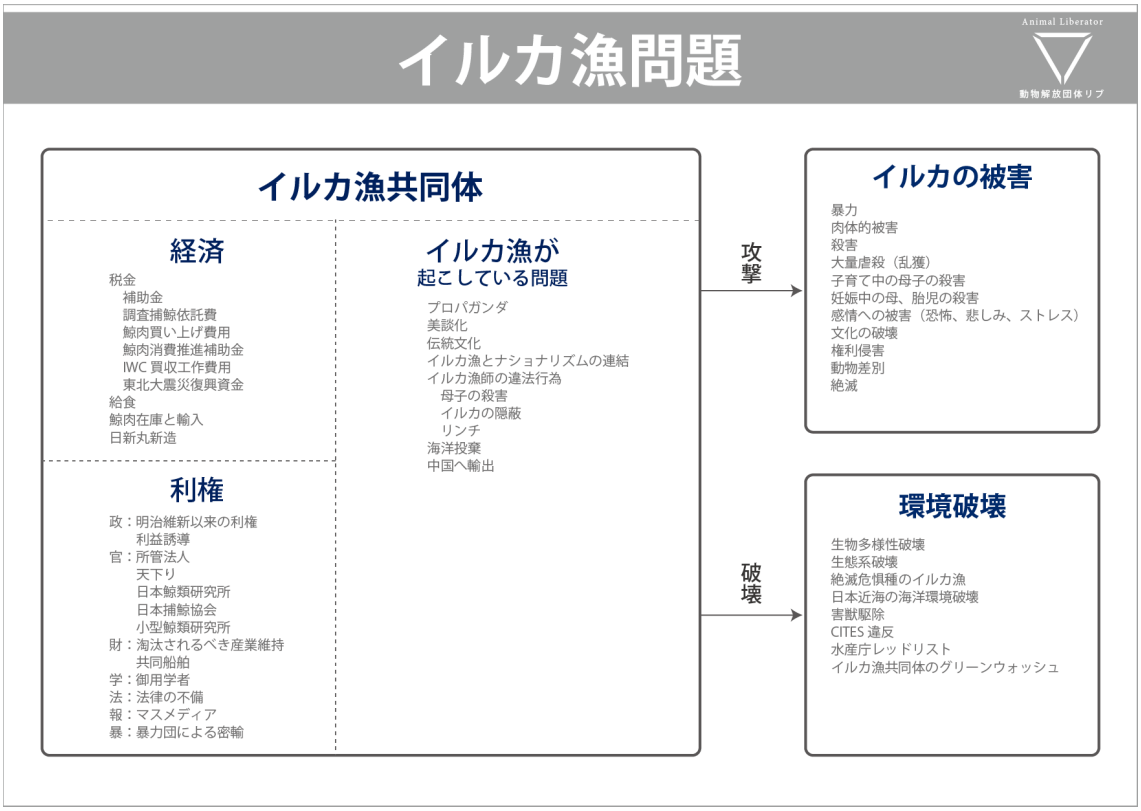
［図：イルカ漁共同体］



第二項　イルカ漁問題の整理

イルカ漁問題とは、イルカ漁を行うことによって生じる問題です。イルカへの被害、環境破壊、人間自身の問題に分けることができます。

［図：イルカ漁問題］



第三項　認識の整理

認識①　モノか、意志・感情がある生命体か

イルカ保護活動家のうち、イルカの存在そのものを守ろうとしている人々を中心に、イルカはモノではなく、私たちと感情や感覚が変わらない存在であるという認識を持っています。イルカは、イルカ漁師と水族館の間で売買され、水族館では固定資産として扱われます。権利は無く、監禁され、食べ物を支配され、芸をさせられます。つまり、モノに近い存在として扱われています。以下の本文に図がありますのでご参照ください。

［図：モノか　動物か］→［本文参照：第四部 第七章 第一節 第三項　認識の整理　認識①モノか　動物か］

認識②　イルカ漁 vs 反イルカ漁か、イルカ保護 vs 反イルカ保護か

イルカ漁に異を唱えている人々を、「反イルカ漁」と呼ぶことがあります。しかしその動機はイルカを守り保護したいというものであり「イルカ保護」派と呼べます。逆に、イルカを

保護する側から見れば、イルカを捕獲し殺害し販売する行為は、「反イルカ保護」となります。

［図：イルカ漁：イルカ保護 vs 反イルカ保護｜反イルカ漁 vs イルカ漁］



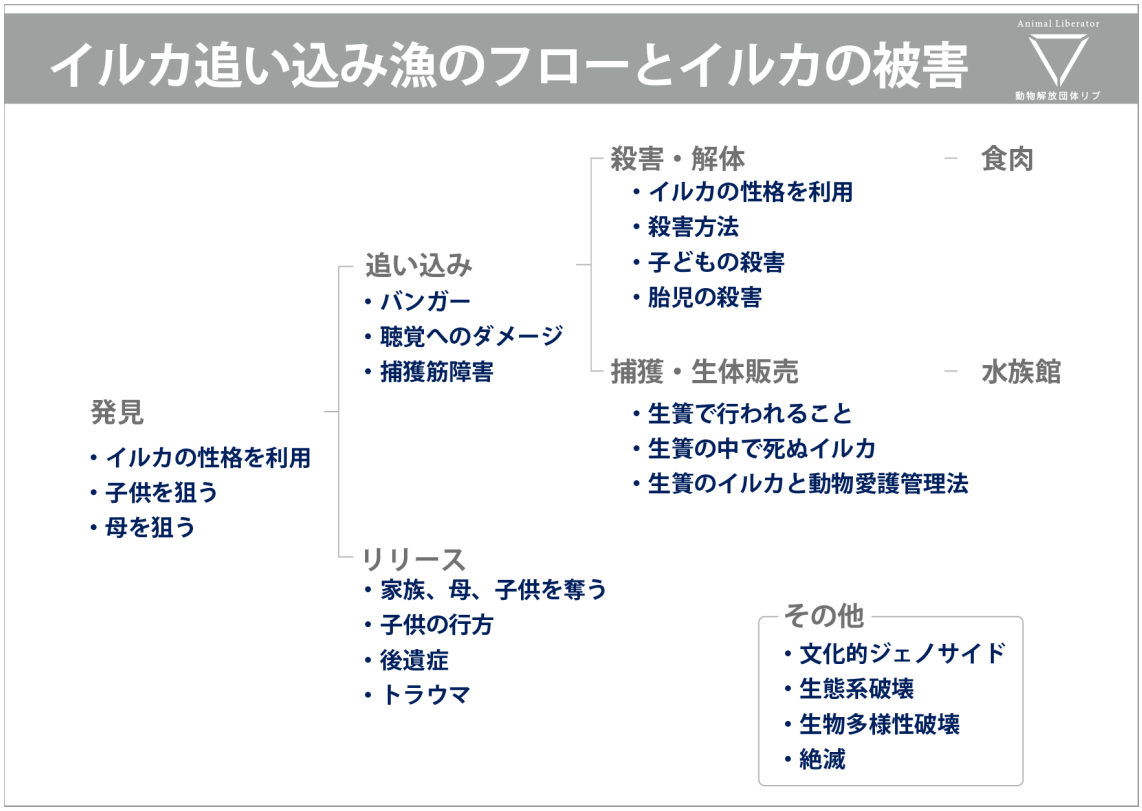
第二節　イルカの被害

イルカの被害を、イルカ追い込み漁の進行に沿って見ていきます。イルカを発見し、最期は販売です。

発見→ 追い込み→ ①殺害→解体→遺体販売 ②捕獲→生体販売 ③リリース

イルカ追い込み漁のすべての過程において、イルカは様々な被害を受けています。

［フロー：イルカ追い込み漁のフロー］



第一項　発見

なぜ広い海でイルカたちは捕まってしまうのか。誰もが考える疑問です。イルカ漁師たちは、イルカそれぞれの種の特徴や性格、行動様式を良く知っています。そして何よりも弱点を知っています。

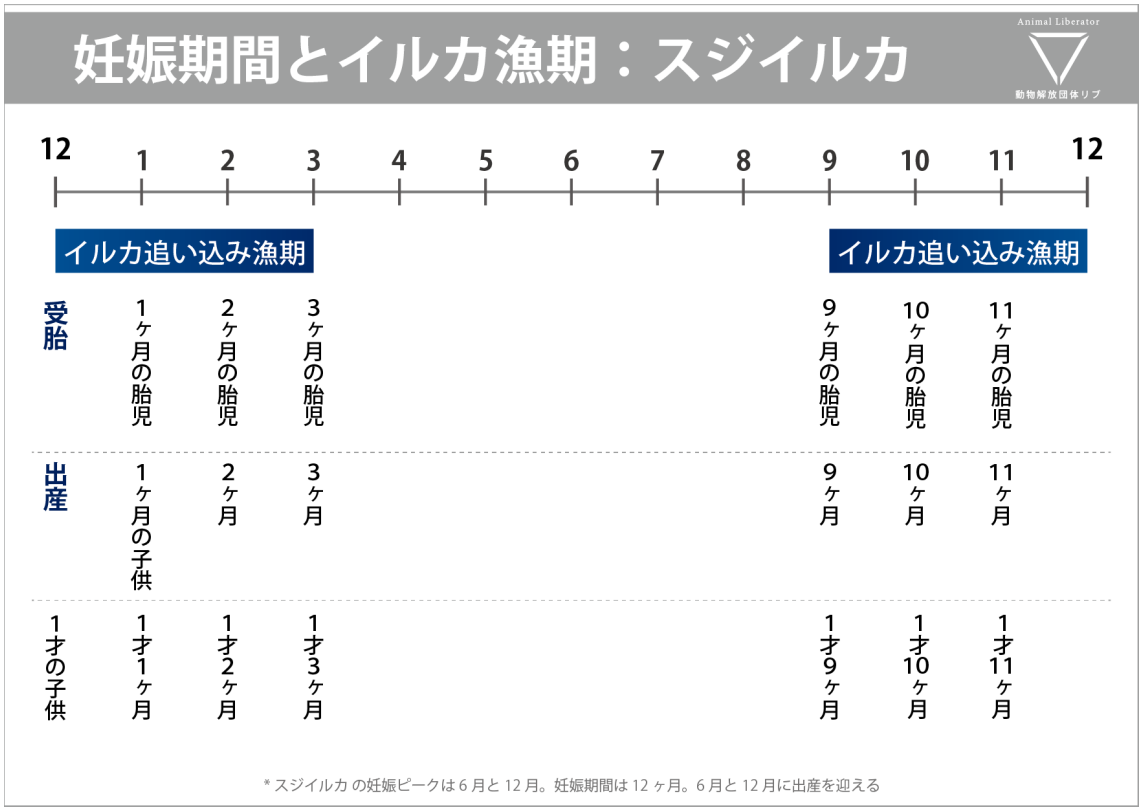
第一目　イルカの性格を利用する

例えばバンドウイルカやイシイルカは好奇心が強く、遊び好きでオープンマインドなイルカです。イルカが、船に興味を示し、近寄ってきて、船の船首波や船尾の波に乗ったりして遊び、一緒に泳いだりする映像を見たことがある方もいるでしょう。イルカ漁師は、バンドウイルカの好奇心や一緒に遊びたいという気持ちに付け込みます。

イルカ突き棒漁では、遊びぶために近づいて来たイルカの背中を狙い、上から銛を突き刺します。背中に銛が刺さり、驚き痛がっているイルカを、ロープを引っ張ったり緩めたりして弱らせ、引き寄せ、殺します。
イルカ追い込み漁では、近づいて来たイルカの群れを、イルカ漁船で囲み、追いかけ回し、捕獲・殺害します。もちろん、イルカ漁船から無害を装って近づき、突然追い回すこともあります。
イルカがなぜイルカ漁船に気が付かないのか、という疑問を持つ方もいます。これは当然ながら、イルカから見える漁船の底はどれも似ているからです。太地町に行くとわかりますが、イルカ漁船以外にも多くの漁船が沖に出ています。イルカがイルカ漁船だと気づくのは、バンガーが打ち鳴らされた瞬間です。

第二目　子どもや妊娠している女性を利用する

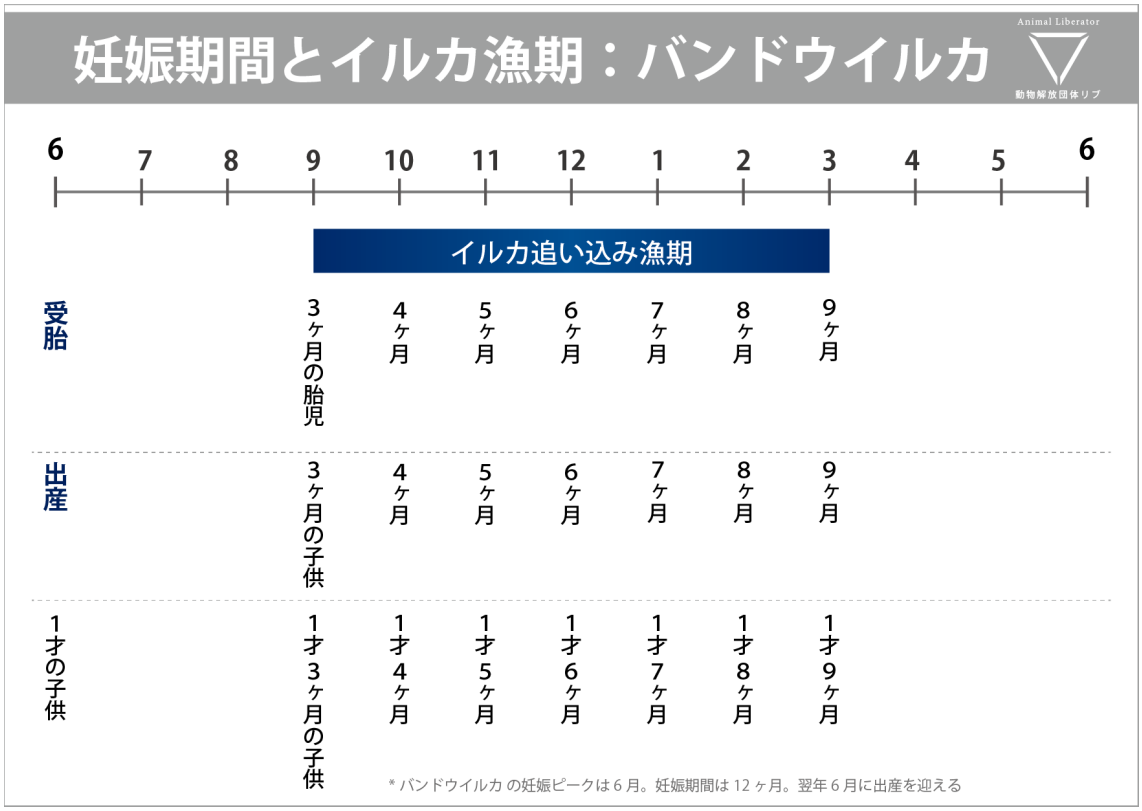
イルカのポッド(群れ)は、家族や仲間で構成されています。ポッドには、赤ちゃんイルカや子どもイルカ、妊娠しているイルカ、体の弱いイルカや歳をとったイルカもいます。子イルカはまだ泳ぎが苦手でスピードが遅く、深く潜れません。妊娠しているイルカたちもゆっくりしか泳げません。ポッドは彼らを守りながら、彼らのペースに合わせて泳ぎます。
例えば、スジイルカの妊娠期間とイルカ漁期の関係は以下です。
［図：妊娠期間とイルカ漁期 スジイルカ］



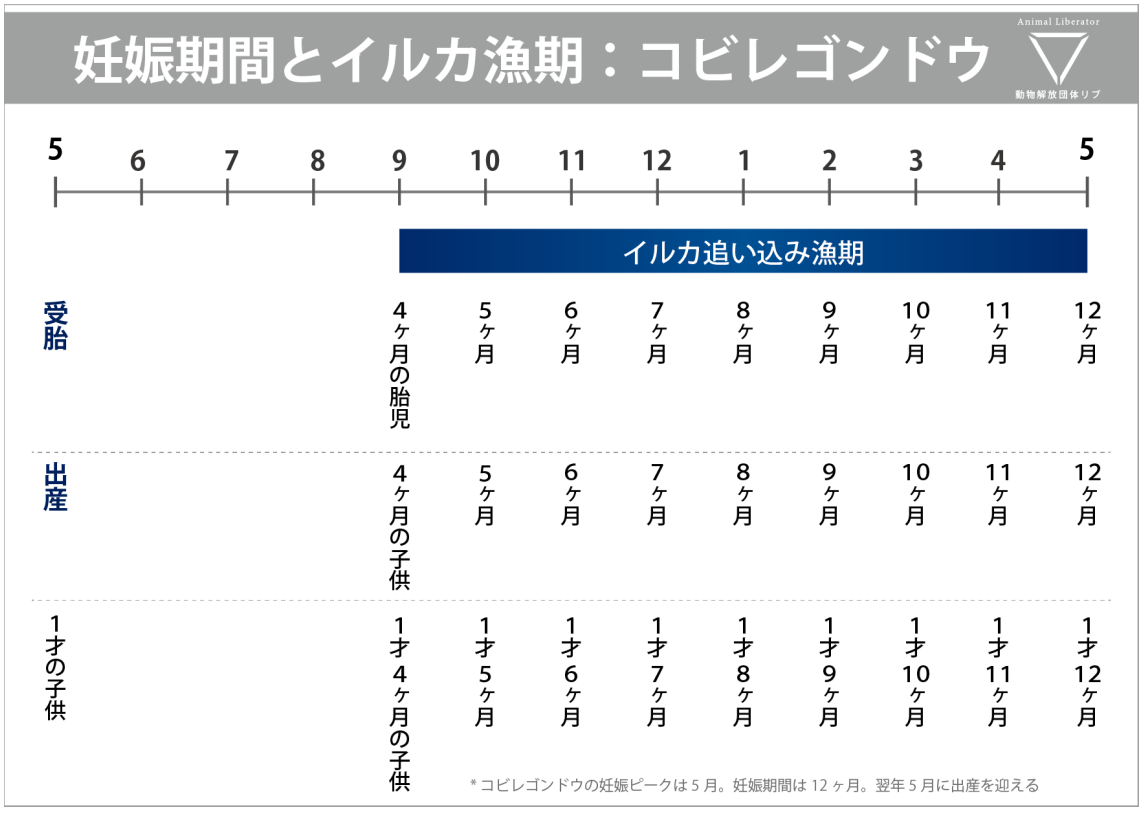
見て分かる通り、例えば12月に受胎したイルカの場合、1月の追い込みで殺害されたら、1ヶ月の胎児も一緒に殺されています。翌年の2月に殺害されたら、生まれて2ヶ月の子供も

同時に殺される可能性が高くなります。バンドウイルカの場合、コビレゴンドウの場合はそれぞれ以下となります。

［図：妊娠期間とイルカ漁期 バンドウイルカ］



［図：妊娠期間とイルカ漁期 コビレゴンドウ］



また、ポッドの中には、ナーサリーポッド（育児の群れ）と呼ばれる女性と子どもが中心のポッドがあります。ナーサリーポッドは、子育ての経験の浅い女性に、年長の女性、母や祖母や仲間の女性が子育ての仕方を教え、食べ物を獲りに行っているときは代わりに面倒を見るなど、協力して子育てをするポッドです。イルカたちはかつての日本の家族やご近所のような助け合いをしています。イルカ漁師は、そのような子連れのポッドを狙います。理由は、逃げるのが遅く捕まえるのが容易だからです。イルカ漁師に追われたとき、若くて体力のあるイルカたちは逃げられますが、子イルカは驚きパニックになり、母親たちは赤ちゃんや子供の両脇を泳ぎ、守りながら逃げます。母親のイルカは本当は逃げることができるのですが、子どもを守るため逃げません。現地でイルカ漁を見ると、子どものイルカを守るため両側にイルカが寄り添い守る姿が見られます。
イルカ漁師にとって、そのようなイルカの家族をコントロールし、追い込み、捕獲殺害するのは造作もないことです。そしてまた、若い女性がいる確率が高いので捕獲して水族館に高く売ることもできますので一挙両得です。
太地町のイルカ追い込み漁では、まだ1mにも満たない子イルカを殺しています。子イルカたちはまだ甘えたい盛り。しかし母親やサポートする女性たちごと殺されてしまいます。もしかしたら、食べられてしまっているかもしれません。
［URL：イルカたちの長い1日：https://youtu.be/EU2zAySVx3Y］

古式捕鯨時代から、クジラ漁師が親子のクジラを狙うのは常套手段でした。
親子クジラを捕獲する方法は以下です。まず泳ぐスピードが遅く抵抗できない子どもに狙いを定め、槍を次々と刺し、半殺しにします。理由は、子どもを殺してしまうと、母親は諦めて逃げてしまうからです。しかし半殺しにしておくと、母は子どものもとに泳いできて、前びれで子どもを包むように守り、場合によって身の危険を顧みずクジラ漁師と戦います。それを避けるために、まず子供を半殺しにし、子供を守ろうとする母に銛などを突き刺し、母子共々殺していました。
クジラ漁師たちは、クジラの母の愛を知っています。特にセミクジラの母は、子供への愛情が強いことを知っていました。その母子のセミクジラを殺そうとして、太地の古式捕鯨が終焉しました。

この母子を狙う漁法は、現代の太地のイルカ追い込み漁にも引き継がれています。
皮肉な言い方をすれば、太地の母子殺しは伝統文化と言えるでしょう。

第二項　追い込み時

イルカ漁師はイルカを発見し、イルカ漁船が集まってきたら追い込みを開始します。ここでもイルカの弱点につけ込みます。

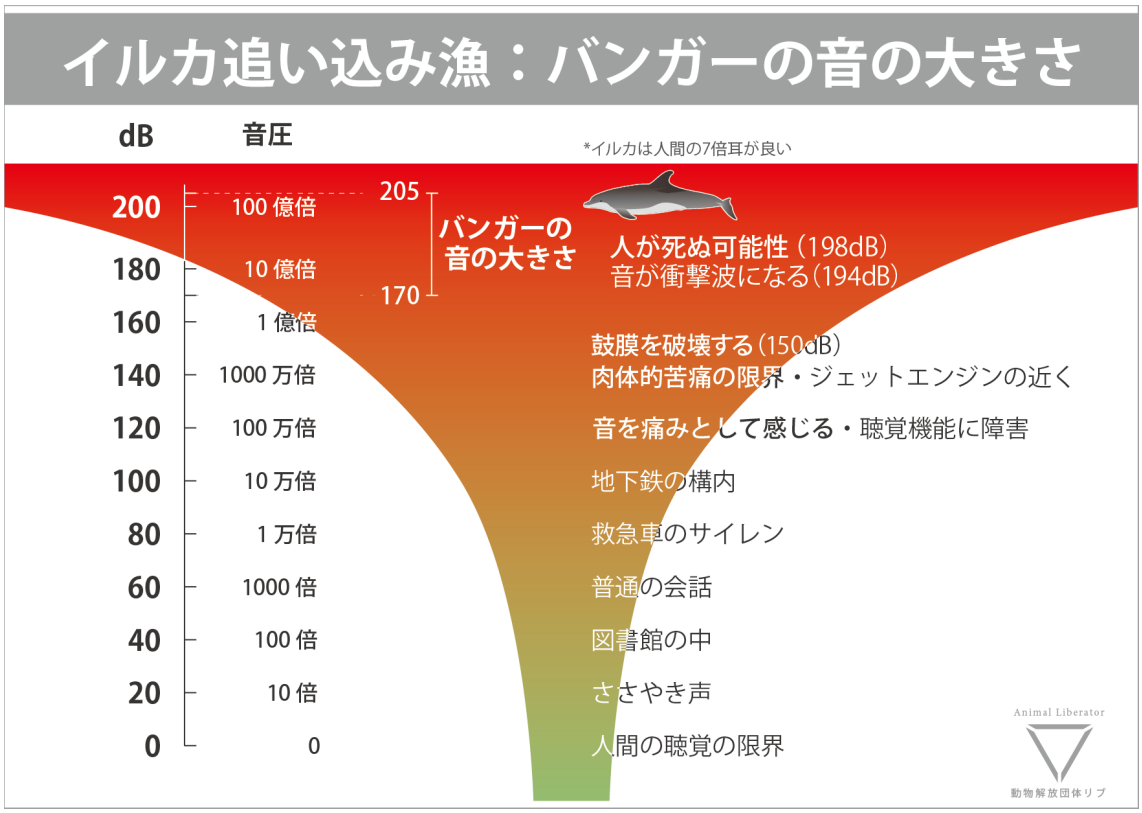
第一目　バンガー：聴覚へのダメージ

バンガー

［本文参照：第五部 第三章 第四節 第二項 第二目　道具］

バンガーについては国内外で研究がなされています。Journal of Applied Animal Welfare Scienceによるとバンガーからは、170dB～205dB(デシベル)の音が発せられています。

［図：バンガーの音の大きさ］



音は空気中で秒速340m、水中では秒速1500mという極めて早いスピードで伝わり、1.2km先のイルカにも聞こえる可能性があるそうです。

音は凶器と化す

人間の音の大きさの感じ方は、55dB以上で苦情が多くなり、80dBで極めてうるさいとされ、130dBで肉体的な苦痛を感じる限界、140dBでジェット機のエンジンのすぐ近くで聞く音になります。150dBで鼓膜が破れ、198dBでは死ぬ可能性があります。

人間より遥かに耳が良く、敏感なイルカが受けるダメージは計り知れません。イルカが受けているであろうとされている被害は、身体的には聴覚機能へのダメージ、鼓膜の破壊、エコーロケーションに関わる機能へのダメージ。精神的には、切迫感、恐怖などのストレス。

たとえ捕獲されずリリースされたとしても、聴覚障害、高血圧、心拍数増大、生殖機能への障害、コミュニケーション機能への影響、睡眠障害、トラウマなどの被害、そして出生前の胎児がダメージを受けている可能性が指摘されています。

人間にバンガーを聞かせる

元くじらの博物館職員で現ドルフィンベェイス社長の三好晴之氏の書籍「イルカのくれた夢」には、プールに人が入って水中音のテストをしたときの模様が書かれています。水中スピーカーで音を出しても耳にダメージはありませんでしたが、バンガーを叩くと、プールの中に入っていた人々は飛び上がったそうです。

イルカは人間の7倍の可聴域を持っており、音でコミュニケーションし、空間を把握する、音の動物です。イルカにとってバンガーの音がどれほど苦痛であるのか想像もつきません。かつて静岡で大量のイルカを追い込んでいた時代、2000名をこえるバンドウイルカのスーパーポッドをイルカ漁船が囲み、一斉にバンガーを叩いたとき、イルカたちは恐慌をきたし、一気に息を吹いたため、あたりは獣の匂いが充満したそうです。

第二目　捕獲筋障害

追い込まれているイルカ、そして捕獲されているイルカは捕獲筋障害になっている可能性があります。捕獲筋障害とは、捕獲される際の過度な精神的、肉体的負担により、骨格筋や内臓筋に障害を受けることです。障害とは、高心拍数、高体温、過度な呼吸、震え、運動失調、壊死、ひどい場合は死に至ります。特に気が弱い動物が捕獲筋障害に陥ります。

イルカ追い込み漁の際、外傷のない綺麗な姿のイルカが死んでいることがあります。もしかしたら捕獲筋障害かもしれません。

これを防ぐには、抗生物質、ステロイド、ブドウ糖、抗凝固剤、呼吸促進剤、血管収縮剤、血管拡張剤、ビタミン剤等の投与を行います。太地町でイルカを捕獲し船で運ぶ際、ウェットスーツを着た人物がイルカに注射している姿を見たことがあります。また、捕獲したイルカにイルカトレーナーたちが柄杓で水をかけているのも、もしかしたら捕獲筋障害による高熱を冷やそうという意図があるのかもしれません。

いずれにせよ、自然に泳いでいたイルカを追いかけて、死んでしまう可能性すらあるストレスを与えている行為自体が残虐です。

第三目　鯨類追込網漁業の、制限又は条件

「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の（制限又は条件）２は、

「乳飲み稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類については、沖から地方へ群れを追い込んでくる過程において、出来うる限りの方法で追い込む群からの仕分け解放に努めること。」

とされています。

しかしながら現場で見ていますと、子どものイルカや赤ちゃんイルカ、それらを連れている女性のイルカが追い込まれています。この制限又は条件が守られていないことは明らかで

す。これについて、和歌山県 農林水産部 水産局 資源管理課がどう解釈しているのか以下の質問をしました。
問1. 出来うる限りの方法とは何か、教えてください。
問2. イルカ漁師が、「仕分け解放に努め」ている確認はどう行っていますか。
問3. 「稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類」が追い込まれ、捕獲殺害されている姿は、視認、映像で何度も確認されており、実効性にかける（制限又は条件）となっているのは明らかです。（制限又は条件）の有効性を高める施策を検討していますか。
問4. 他捕鯨業における「稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類」の捕獲殺害の制限は、規定であり罰則があるが、追込網漁業においては努力規定であり罰則がありません。追込網漁業においては、同様の規定と罰則を儲けていない理由は何ですか。
問5. この（制限又は条件）を、「鯨類追込網漁業の許可方針」の（制限又は条件）に入れず、別途「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の（制限又は条件）に入れた理由は何ですか？

回答は、文章形式で得ました。全文を共有します。（2021/08/05）
　いただいた「イルカ漁」のご質問について、資源管理課からお答えします。
　イルカは他の水産資源と同じく科学的根拠に基づき、適切な管理のもとに持続的に利用出来る海洋生物資源です。和歌山県のイルカ漁業は、国が行っている科学的な調査の結果に基づき、資源量が十分なイルカに限り、資源に影響のない範囲の頭数を捕獲しており、紀南地方の重要な産業のひとつと位置づけられています。
　ご質問のありました鯨類追込網漁業は、漁業生産力の発展を目的とする漁業法及び県漁業調整規則に基づき営まれている許可漁業です。
　漁業の許可に当たって条件を付けることができますが、漁業者の利益が不当に侵害されることのないようにする必要があります。したがって、許可の条件は、必要最小限度に限ったものとし、法の目的から考えて、漁業が存立しないほどに厳しい条件とすることは避ける必要があります。
　捕獲対象である全ての鯨類において、乳飲み稚鯨や稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類を捕獲対象から除く方が資源の有効利用上及び資源管理上好ましい一方、鯨類追込網漁業の特性上対象個体を選別した追い込みは不可能であることを踏まえ、乳飲み稚鯨や稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類が追い込まれた場合はできる限り解放するよう努力規定を定めているところです。また、捕獲鯨類の水揚げ時は、漁協職員が立会うことを許可の条件として定めています。
　イルカ漁に対する和歌山県の考え方につきましては、県のホームページ「知事からのメッセージ（くじらと共に　ー捕鯨のまちを訪ねてー）」、「イルカ漁等に対する和歌山県の見解」及び「JAZAの通告に対する見解」をご覧になってください。

質問ごとに回答をまとますと以下になります。
問1. 出来うる限りの方法とは何か、教えてください。
A. 追い込まれた場合はできる限り解放する
問2. イルカ漁師が、「仕分け解放に努め」ている確認はどう行っていますか。
A. 捕獲鯨類の水揚げ時は、漁協職員が立会うことを許可の条件として定めています。
問3. 「稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類」が追い込まれ、捕獲殺害されている姿は、視認、映像で何度も確認されており、実効性にかける（制限又は条件）となっているのは明らかです。（制限又は条件）の有効性を高める施策を検討していますか。
A. （理由）乳飲み稚鯨や稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類を捕獲対象から除く方が資源の有効利用上及び資源管理上好ましい
→ 漁業者の利益が不当に侵害されることのないようにする必要があります。したがって、許可の条件は、必要最小限度に限ったものとし、法の目的から考えて、漁業が存立しないほどに厳しい条件とすることは避ける
（施策）
必要鯨類追込網漁業の特性上対象個体を選別した追い込みは不可能
→ 追い込まれた場合はできる限り解放するよう努力規定を定めている。
問4. 他捕鯨業における「稚鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類」の捕獲殺害の制限は、規定であり罰則があるが、追込網漁業においては努力規定であり罰則がありません。追込網漁業においては、同様の規定と罰則を儲けていない理由は何ですか。
A. 漁業者の利益が不当に侵害されることのないようにする必要
問5. この（制限又は条件）を、「鯨類追込網漁業の許可方針」の（制限又は条件）に入れず、別途「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の（制限又は条件）に入れた理由は何ですか？
（未回答）

回答への所感としては、ほとんど機能していないあるいは機能させる気がそもそもない制限又は条件であるということです。
例えば、問2の「仕分け解放に努め」ているかどうかの確認は、イルカ漁師たちの身内である漁協職員が行っています。さらには、「沖から地方へ群れを追い込んでくる過程において」確認する必要がありますが、漁港で確認しており、有効性はありません。稚鯨などを捕獲することに監視がつくようになったのは、これまで捕鯨業において体長の誤魔化しや稚鯨の捕獲など様々な不正が行われてきたからです。2022年になっても産業と行政が結託して不正を横行させる体質は変わっていません。
追込網漁業においては、同様の規定と罰則を儲けていない理由は、「漁業者の利益が不当に侵害されることのないようにする必要」という回答ですが、漁業者が不当な行為を行う可能

性があるから、漁業者の行為に制限をかけるというのが趣旨であるはずです。この回答は、漁業者の利益の保護に目的が変わってしまっています。
私たちは、法令が漁業者に有利なものとして作られ、運用されていることに対して声を上げ、実効性のある制限や条件、そして法令が遵守されているかどうかの確認手段を求めていく必要があります。

第三項　リリース時

リリースと聞くと、良い印象に聞こえます。よく使われるのは、釣り人が行うキャッチ&リリースです。まるで良いことのように、釣り人が優しい人のように聞こえますが、そもそも優しい人でしたら、罪もない魚の口の中をズタズタにすることはないでしょう。イルカ漁においても同様です。リリースの理由と方法は、［本文参照：第五部 第三章 第五節 第六項 リリース］に記載しています。リリースの問題点は以下です。

家族、母、子供を奪う

家族のつながりが強いイルカは、家族が奪われると悲しみ、傷つき、悼みます。家族のうち数人を奪い、他の家族を解放したからといって、それが良いことであるはずもありません。もしそれが自分だったら、それをした人を良い人だと思うでしょうか。家族や仲間を奪われたイルカは、解放された後も、なかなか畠尻湾を離れません。太地でシャチを捕獲したTaiji5の事件の時も、解放された残りのシャチがたちがなかなか離れませんでした。

子供の行方

もし子供が一人で、あるいは子供たちだけで解放されたら、生きていくことは困難です。人間の子供が両親や親戚を殺され、自然の中に解放されて生きていけるかといったら難しいでしょう。大人のイルカと一緒に解放された場合であっても、それがその子たちの親かどうかは不明です。たまたま同じポッドで旅をしている男性のイルカという可能性もあります。いずれにせよ、リリースしたイルカたちが本当に家族なのかといった確認もないまま、無責任にリリースを行っています。

後遺症

リリースされたとしても、後遺症や障害を負っている可能性が高いのは、第二項で触れました。リリースされたとしても、聴覚障害や捕獲筋障害、コミュニケーション障害を起こしている可能性があり、場合によっては聴覚器官が破壊されていることも考えられます。また、心に傷を負っているでしょうし、記憶力の高いイルカはトラウマを抱えて生きていくことになります。

第四項　殺害・解体時

第一目　イルカの性格を利用する

イルカたちが追い込まれ、殺される直前になっても、イルカはイルカ漁師を攻撃しません。捕まえられそうになると体をかわしたり、仲間が捕まりそうになると漁師との間に体を入れ

て守ろうとします。イルカが無抵抗なことをいいことに、イルカ漁師たちはイルカたちに好き暴力を加え、殺戮します。
以前見せてもらった写真には、ウェットスーツを着たイルカ漁師を、スジイルカたちが頭を上げて見ていました。この時の状況は、まるでスジイルカたちが、イルカ漁師に「もう止めて」と言っているようだったと、写真を撮った人が言っていました。
また、イルカは人間に体を抑えられると、なぜか大人しくなります。イルカ漁師たちはこれを見て女性に例え、下卑た冗談を言っていたそうです。

第二目　殺害方法

かつては、追い込んだイルカを長い槍を使ってやたらめったら刺す殺す方法でした。しかし、この方法はイルカの苦しみを長引かせ、”人道的”でないとの批判を受け、現在は、フェロー諸島で使われている屠殺道具と方法を模して殺害しています。この方法は、銛に似た屠殺道具を呼吸口の後ろから脊髄に突き刺し、脊髄をねじ切りるもので、苦痛の少ない”人道的”な殺害方法とされています。しかし以下の点からイルカは耐え難い苦痛を感じているという批判があります。
1. 刺した後も死なずに暴れ続けるイルカが活動家によって観察されています。20分以上、場合によってはさらに長い時間動いていたイルカもいたそうです。そのまま船にくくりつけられ運ばれたので、苦痛に加えおぼれ死んだのではないかとのことでした。
2. フェロー諸島では、屠殺道具で脊髄を捻じ切った後、速やかに喉を切って放血します。しかし日本では、屠殺道具で刺した穴にコルクのようなもので蓋をします。そのことによって血はイルカの体内にとどまります。イルカは自分の血で溺れているのではないかと考えられています。この行為はフェロー諸島のイルカ漁師からも批判されています。

第三目　子どもの殺害

イルカ漁師は、イルカの子供も殺します。
これはある活動家に聞いた未確認情報なのですが、イルカ漁師がイルカの子供を両手で持ち、海に浸けて浮かび上がらないようにし、溺死させているところを見たという話を聞いたことがあります。
イルカ漁が終わった後、ウェットスーツを着たイルカ漁師が、海の底や岸壁に取り残したイルカの死体がないかどうか探してまわります。イルカ漁師が見落としたイルカの子供の遺体が浮かんでいることもありました。
これは私が実際に見て、撮影もしていますが、イルカ漁がほぼ終わった後、畠尻湾を仕切る網に子供の死体が絡まっていました。漁師たちが和船に乗って近づき、シートの下に入れてて回収していきました。
いずれにせよ、太地町のイルカ追い込み漁ではイルカの子供たちが殺され続けています。

第四目　胎児の殺害

イルカ漁で行われている殺害は、目に見えているものだけではありません。母親のお腹の中にいる胎児も同時に殺しています。

1. 追い込み時
   イルカ漁船に追われるのは心身に多大なストレスを与えます。妊娠したイルカが、イルカ漁船に追われている時に出産してしまっている可能性があります。当然、胎児は亡くなります。
2. 屠殺時の殺害
   妊娠している女性のイルカが漁師に銛を突き刺されるとき、ショックや痛みで胎児を出産してしまうことがあります。母が殺されると同時に、胎児も殺されています。
3. 解体時の殺害
   仮にもし母が殺された後もかろうじて胎児が生きていた場合であっても、太地漁協の解体場で解体される時には胎児は取り出され亡くなります。捕鯨でも数多くの胎児が母体と共に殺されていることがわかっています。

くじらの博物館には、イルカやクジラの胎児のホルマリン漬けが並んでいます。目にみえる悲惨な現状の影に、もう一つ、目に見えない悲惨な現状が隠されています。

第五項　捕獲・生体販売

国内外の水族館に生体販売されるイルカは、捕獲され他あと太地町の各地にある生簀に入れられます。

生簀で行われること

生簀の形ですが、海に浮かんだ部分の四辺は、イルカ漁師やイルカトレーナーが歩いたり作業するための通路になっています。海の中は四角形の上が開いた網になっており、イルカは逃げることはできません。生簀の深さは4〜5mだと関係者が言っていました。

体重測定や点滴、移送のためにイルカを引き上げるときは、生簀の通路4辺に人を約2名ずつ配置し、同じスピードで網を引き上げていきます。そのことによってイルカたちの泳ぐスペースを狭め、身動きできないようにして作業を行います。

このとき、イルカはイルカトレーナーたちに押さえつけられストレスを感じます。特に捕獲されたばかりのイルカたちにとっては恐怖であり、心身に多大なストレスを感じます。

生簀の中で死ぬイルカ

太地町の生簀からイルカの遺体が引き上げられ、船で解体場に運ばれていくところを見たという活動家がいました。この活動家は嘘をつくような人物ではなく、証言は信用できます。

私も、イルカを生簀の網に縛り付けているところを撮影したことがあります。このイルカは死んだイルカだと思われます。

［URL：捕獲後に死亡したイルカ：https://youtu.be/JSR3-ryMWnc］

イルカ漁師や漁協、イルカトレーナーたちにとっては、せっかく捕獲した商品を失ってしまったので痛い損失ですが、遺体を解体し販売すれば幾許かの収入になります。
死んでしまったイルカについては、もし生きていたら一生監禁され、芸をさせられ、ストレスと怪我と病気に悩まされながら死んでいく生涯を生きると想像すると、良かったのか悪かったのか判断が付きません。

生簀のイルカと動物愛護管理法

生簀のイルカが死亡した場合、動物愛護管理法違反を問うことができます。
環境省によると、現地で捕獲したイルカの一時的な保管や、動物園等への輸送について、健康及び安全を保持することが困難な場所に拘束し、又は飼養密度が著しく適正を欠いた状態で、愛護動物を飼育もしくは保管することにより衰弱させることなどとした場合は動物愛護管理法の第四十四条に規定する虐待罪に該当し、罰則が適用される可能性がある。イルカが食用にされる場合は動物愛護管理法は適用されない。
もし動物愛護管理法に該当する疑いがある場合は、各都道府県の地域を管轄している動物愛護センターなどに通報します。
通報先は、和歌山県の場合は和歌山県動物愛護センター、和歌山市内の場合だったら和歌山市 動物愛護管理センター。太地町の場合は、和歌山県動物愛護センターとなります。

和歌山県動物愛護センター
住所　和歌山県動物愛護センター
TEL　073-489-650
メール　e0316011@pref.wakayama.lg.jp
［URL：Website：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031601/animal.html］

第六項　輸出

［第五部 第五章 第四節 第二項 第二目　イルカの値段］にあるように、2009年9月～2014年8月に太地町から輸出されたイルカは、計354名。内訳は、中国216、ウクライナ36、韓国35、ロシア15、その他52（サウジアラビア、UAE、ベトナム、マレーシア、米国など12カ国）です。
各国に輸出されたイルカのその後についてはほとんど知られていません。以下に日本から輸出されたイルカたちの情報の断片を記載します。各国の水族館のウェブサイトを見ると、太地から連れて行かれた可能性のあるイルカたちの姿を見ることができます。本書では調査できませんでしたが、もし調査する場合、ヒントとしてお役立てください。
中国
北京海洋館(Beijing Aquarium)
［URL： http://www.bj-sea.com/performanceinfo.html］
蓬莱海洋極地世界(Ocean Aquarium of Penglai)
［URL： http://www.baxian.cn/haiyang/show/sea.shtml］
オーシャンパーク香港(Ocean Park Hong Kong)
［URL： https://www.oceanpark.com.hk/en/park-experience/exploring-brand-new-dolphin-explorations］

ウクライナ
イルカ水族館ネモ(Odessa Delphinarium Nemo)
［URL： http://www.nemo.od.ua/］
ハルキウ・ドルフィナリウム・ネモ(Kharkiv Dolphinarium Nemo)
［URL： http://en.nemo.ua/kh/］

1992年イルカ5名がウクライナからハンガリーの水族館に売られようとしましたが、活動家の働きにより中止されました。現地の活動家によると、どこから輸入されたかはわからないものの、ほぼ99.9%太地からであるとしています。ハンガリーのブダペストに送られたイルカたちは淡水に監禁され、数日以内に死亡したとのことです。この事件によって、ハンガリーはイルカの輸入監禁を禁止しました。
またウクライナに輸出されたイルカの一部は、軍用に転用されているのではないかと考えられています。

韓国
ホットピンクドルフィンズの調査によると日本から韓国に輸出されたバンドウイルカは、計 63名。すでに48名が死亡しており、15名が生存しています。
日本から各水族館への輸出数と死亡数は以下(2022時点)。
ソウルグランドパーク(서울대공원)　輸出11　死亡10　生存1(巨済へ譲渡)

済州太平洋土地(제주 퍼시픽랜드)　輸出13　死亡12　生存1(巨済へ譲渡)
済州海洋公園(제주 마린파크)　輸出8　死亡8　生存0
ウルサンクジラエコロジカルエクスペリエンスセンター(울산 고래생태체험관)　輸出8　死亡5　生存3
Hanwha Aqua Planet Jeju(한화 아쿠아플라넷 제주)　輸出7　死亡3　生存4
巨済シーワールド(제주 마린파크)　輸出16　死亡10　生存6

韓国を経由したイルカロンダリング

韓国には、2013年5月、2012年4月の2回に分けて、太地町から巨済(コジェ)シーワールドに向けて、5名のバンドウイルカが輸出されました。イルカの名前は、オクト(F)、ノバ(F)、セムバ(F)、サマー(F)、セティ(M)。1名約533万円でした。
これらのイルカは、2015年10月頃トルコのアクス水族館に転売されることになっていました。巨済(コジェ)シーワールドは2014年、中国系シンガポールのリム・チヨン（Lim Chee-Yong）会長によって設立されました。リム氏はフィリピンマニラオーシャンパークの所有者でもあります。リム氏は、韓国が野生動物の輸入規制が緩いことに目をつけ、日本からバンドウイルカ16名、ロシアからベルーガ4名を輸入し、一部をフィリピンなどに転売するイルカロンダリングを試みたと考えられています。しかし、この計画は、ホットピンクドルフィンズなどの働きかけにより中止に追い込まれています。
巨済シーワールドは、これまで計20名（バンドウイルカ16、ベルーガ4）を監禁。このうち計11名（バンドウイルカ10、ベルーガ1）が死亡しています。
2022年4月24日には、RESOM HOBAN HOTEL & RESORT(호반 퍼시픽리솜)（旧パシフィックランド）が、韓国環境部の許可を受けずにバンドウイルカ2名を巨済シーワールドに寄贈したため、現在巨済シーワールドには、バンドウイルカ8名、ベルーガ3名が監禁されています。
巨済シーワールド(거제씨월드：GeoJe Seaworld)
［URL： http://www.geojeseaworld.com/sub0301/］

ロシア

2016年1月27日ロシアのモスクワ海洋水族館に、太地から輸出されたイルカ14名とゴンドウクジラ2名が監禁されました。しかし、2022年12月20日時点で7名（Yuki, Martha, Leia, Musa, Siri, Gosha, Molly）しかいないようです。
モスクワ海洋水族館(Moskvarium)
［URL：https://www.moskvarium.ru/en/swimming/］

サウジアラビア

Fakieh Aquarium

［URL： https://fakiehaquarium.com/attractions.php?section=2］

UAE
ドバイ・ドルフィナリウム(Dubai Dolphinarium)
［URL： https://dubaidolphinarium.ae/］
アトランティス・ドバイ(Atlantis Dubai)
［URL： https://www.atlantis.com/dubai/atlantis-aquaventure/dolphin-bay?sc_trk=031D6BEC-301B-4A98-B474-AF7BB8517155］

第七項　侵略・文化的ジェノサイド

太地町や和歌山県、イルカ漁を支持する人々は、イルカ漁を伝統文化だとし、故に残すべきだと主張します。現在行われているイルカ漁の技術はほとんどが借り物ですが、兼ねてから行っていたことは事実ですので、確かに伝統文化の部分はあります。
人間には、先天的に持っている機能や能力と、後天的に獲得する能力や行動があります。前者は食欲や性欲など、後者は方言や地域の風習など。
では、動物はどうなのでしょう。動物も人間同様、先天的に持っている機能や能力と、後天的に獲得する能力や行動があります。前者は食欲や性欲など、後者は方言やポッドごとの風習などです。
［本文参照：第一部 第二章 第二節 第三項　知性と文化］で触れた、オーストラリア西部のイルカが行う、海綿を道具として使う漁、イルカが波にのってジャンプするサーフィンなどの遊びは文化です。また、［本文参照：第一部 第三章 第四節 第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）］で触れたように、コビレゴンドウは生殖を終えた後も女性が生存し、同じポッドの女性たちに子育ての仕方など伝えていきます。シャチも方言を持ち、ザトウクジラには流行の歌があります。これも文化です。
人間は、鯨族をはじめとして動物が文化を持っているということを知り始めたばかりです。ほんの数十年前まで、人類は動物が文化を持っていると気づいてもいませんでした。人間が動物に文化があることを知ったのは、素人研究者がきっかけでした。素人研究者とは、
ジェーン・グドール氏。チンパンジーの群の近くに暮らし、観察を重ね、チンパンジーが道具を使うことを知りました。彼女の発見に対して、既存の研究者は反発しました。人間が優越しているという幻想が崩されるのを、恐れたからです。その後、霊長類や哺乳類ばかりでなく、鳥類、昆虫類も、様々な動物が道具を使い、また文化を持っていることが次々とわかってきました。
私たち人間は無知であることを自覚しなければなりません。私たちが知らない文化がまだまあるはずです。人間は、「文化を持つのは人間だけ」「人間は文化を持っているが故に、他の動物に対して優越している」と考えてきましたが、それは完全に間違いでした。

鯨族は約2000万年前から文化を育んできました。一方、日本の古式捕鯨（網取式捕鯨）文化はわずか約350年前からに過ぎません。
研究者の中には、鯨族の文化の破壊を危惧している人もいます。ある固有の文化を破壊することを、「文化的ジェノサイド」（文化的虐殺）と呼びます。捕鯨や、イルカ突き棒漁やイルカ追い込み漁は、鯨族に対し文化的ジェノサイドを行なっています。

第八項　絶滅

絶滅の危機に瀕しているイルカは、コガシラネズミイルカ、ヨウスコウカワイルカ、インドカワイルカ、コビトイルカ、セッパリイルカなどです。
人間はこれまでいくつもの種の動物を絶滅させてきました。知らず知らずのうちに絶滅させた動物もいるかもしれません。すべての原因は欲です。
日本のイルカ漁の捕獲対象種になっているイルカも年々捕獲数が減ってきています。昔のような乱獲が起きないにしても、現在は気候危機や海洋汚染、プラスチック、ゴーストネットと、船との衝突、オーシャンノイズなど、イルカやクジラの生存にネガティブなインパクトをもたらす要素が増大しています。私たちは直ちに、他の動物を殺すことをやめるべきです。
一つの種を絶滅させることは、生態系のバランスを崩し、多種多様な動物や生態系に破壊的な影響をもたらします。人類は彼らの精神レベルや倫理レベルに不相応な技術や科学を持ってしまったがために、種を絶滅させ地球環境を破壊できる力を持ってしまいました。
人類が獲得した知恵や力は破壊するために使うのではなく、保存や創造のために使うべきです。

第三節　イルカ漁が起こしている問題

第一項　プロパガンダ

捕鯨産業と同様、イルカ産業のためのプロパガンダは行政が行います。イルカ産業のアドボカシーを和歌山県や太地町が行っているとも言えます。それに対してイルカ側のアドボカシーを行うのが私たち活動家です。

太地町でのイルカ漁業に対する和歌山県の公式見解

和歌山県がイルカ産業を擁護している文章が「太地町でのイルカ漁業に対する和歌山県の公式見解」です。

［URL：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071500/iruka/index.html］

おそらくこの文章だけを読めば、イルカ漁を擁護する立場に傾くかもしれません。しかしこの文章には、情報隠し、誤解を与える表現、さらには虚偽と言えるものまであります。以下に、それらの点を指摘し、反論します。この反論はリブのウェブサイトに「太地町でのイルカ漁業に対する和歌山県の公式見解 に関する見解」に掲載しています。

［URL：：https://animal-liberator.net/project0_dolphin/wakayama-pinion］

イルカの生体販売（中国などの水族館）について触れない公式見解

まず初めに、和歌山県の公式見解には、日本の水族館や中国をはじめとする海外の水族館に大量に売られているイルカの生体販売について一言も触れられていません。和歌山県の見解への指摘を行った後、最後に、水族館への生体販売について記述します。

1 米映画「ザ・コーヴ」について

（和歌山県HPより引用）

本県では、イルカ漁の問題は非常に複雑であると考えています。イルカ漁や捕鯨は日本だけのものではなく、世界中の多数の地域で行われており、その多くが同じような地理的条件や、似たような歴史的、経済的背景を持っています。にもかかわらず、「ザ・コーヴ」は、動物愛護の観点から見た一方的なもので、和歌山の状況をややセンセーショナルに表現しています。

また、この映画は多くの問題を提起しています。世界中で多くの人々が肉を食べていますが、そのためには、野生にしろ大切に育てた家畜にしろ、動物の命を絶たねばなりません。と殺は通常、人目に触れないように行われており、例えば、その現場にわざわざ入って撮影することで、その行為を煽情的に描くのは、さほど難しいことではありません

映画『ザ・コーヴ』は、イルカの捕殺現場を隠し撮りし、命が奪われていく所をセンセーショナルに映し出しています。

さらに、映画では水銀汚染が誇張されていると考えられます。「イルカ肉には2,000ｐｐｍの水銀が含まれている。」と言われていますが、これは実際のデータとはかけ離れていま

す。その他、「水銀汚染を隠すためにイルカの肉を鯨肉として販売している。」「イルカが食肉となっていることを人々が知らないのは、マスコミがもみ消している。」「捕鯨やイルカ漁をやめないのは、日本の古典的帝国主義にある。」など事実を歪曲した内容が多く含まれています。
太地町のイルカ漁師は、これまでも何度となく、海外からやって来る過激な動物愛護団体のターゲットとなり、漁業の妨害や精神的な攻撃を繰り返し受けてきました。太地町のイルカ漁師は、国・県の監督のもと、法令規則を守り、昔から受け継がれてきた漁業を営んでいます。
このように法に則って働いているだけの漁師をターゲットにすることは、公平ではありません。間違った情報や、日本では必ずしも賛同が得られていない一方的な価値観で批判することは、太地町でイルカ漁にたずさわってきた人たちの生活権を不当に脅かし、町の歴史や誇りを侮辱するものであり、決して許されることではないと考えます。
（引用終り）
＞「ザ・コーヴ」は、動物愛護の観点から見た一方的なもので
動物愛護とは英語ではAnimal Welfareと訳され、実質は動物福祉のことです。動物愛護・福祉とは動物の利用を前提に、動物扱いを決めようという人間中心主義の活動です。イルカを守る活動をしている人々は、それぞれが多様な立場で活動をしています。イルカだけ守れば良いという立場の人々、イルカを資源と考え保全を目的として活動する人々、動物を人間から解放し動物本来の生や自由を守ろうとする人々等々。この見解は、多様な意見や立場や活動を動物愛護に矮小化するものです。
また和歌山県の主張は、「イルカ漁推進派の観点から見た一方的なもの」でもあります。
＞大切に育てた家畜にしろ
家畜は（すべからく）大切に育てられている、という事実と異なる文章です。不自然な食べ物（牛にとっての肉骨粉や遺伝子組み換えトウモロコシなど）を与えられ、場合によっては虐待され、あるいは一生太陽を見ることがないまま殺されていくなど、非倫理的な状況下で飼育されている場合もあります。また、大切に育てるのは、動物のためではなく人間のためです。言葉を持たず人間に搾取され続ける動物たちの現状を、一方的な美談で美化することにより、弱者の声なき声に気づかない人々を増やすことになります。
＞と殺は通常、人目に触れないように行われており、例えば、その現場にわざわざ入って撮影することで、その行為を煽情的に描くのは、さほど難しいことではありません。
私たちは、イルカ漁も屠殺場も公開することを求めています。
野菜や穀物の刈り取りは、扇情的にはなりません。動物の屠殺は、野菜の刈り取りと同じ現実です。なぜ動物が殺される現実を目の当たりにさせられるとき、人々は扇情的に感じるのでしょう。そこには暴力性、残虐性、非倫理性、後ろめたさ、罪悪感、自分の行為を知られたくない、等々の感情があるからです。「もし屠殺場がガラス張りになれば、誰もがベジタリアンになっているであろう」という言葉があります。隠している現実を撮影するのが問題なのではなく、そもそも世間に見られたくない現実を行なっていることが問題です。

＞事実を歪曲した内容が多く含まれています。

事実は、データの取り方や、解釈の仕方によって変わるものです。The Coveの主張を全面的に支持するものではありませんが、しかし一方、和歌山県や水産庁の主張も「事実を歪曲した内容」であると批判されています。

＞過激な動物愛護団体

イルカやクジラを守る活動、環境活動を表現する際、動物産業やそれらの活動に反対する人々はは「過激な」という言葉を好んで使います。確かにそのような団体や個人もいますが、それがすべてではありません。穏やかに説得的に事実を伝え、行政や国際機関とも連携しながら、社会に動物たちが置かれた現状を知ってもらい、動物を守ろうという団体の方が多いのが事実です。

もしそれらの適法な範囲で動物や環境を守ろうとする団体が過激だとしたら、何の罪もない野生動物を追い詰め、殺し、あるいは動物を一生監禁し、ショーをさせ、無理やり子どもを産ませ、殺す動物産業、そしてそれら行為をバックアップし、プロパガンダまで行う行政は過激ではないのでしょうか。

我々動物を守ろうとする団体は、普通の人が見たら過激と感じるであろう、苦しみ虐待され殺される動物の血だらけの姿を撮影し公開します。そのため、過激な団体と思われてしまう場合もあります。しかしその過激な行為を行なっているのは動物産業であって、我々ではありません。

＞太地町のイルカ漁師は、〜、昔から受け継がれてきた漁業を営んでいます。

昔から受け継いでいるのは「イルカ追い込み漁」という名目のみであり、バンガーを使った追い込み漁業が始まったのは1969年。現代イルカ追い込み漁が始まったのは1973年です。

また当然ながら国内外の水族館に販売するビジネスは昔から受け継がれてはいません。

＞このように法に則って働いているだけ

強者や既得権者にとって都合のよい法を制定し、その法を守っているから良い行いをしているとはなりません。かつては奴隷制度や差別が法制化されていました。それは正義でしょうか。権利や価値観の進化とともに法律は変えていかなければなりません。弱者を搾取することを正当化する法であればなおさらです。

＞町の歴史や誇りを侮辱する

事実を歪曲した歴史（かつてのイルカ追い込み漁と、近代的イルカ追い込み漁は異なる等）や、現実に即しないキャッチフレーズ（「クジラとともに生きる」等）であれば、それは検討の対象となり、間違っていれば批判を受けるのは当然でしょう。

例えば「クジラとともに生きる」を現実に即したキャッチフレーズに書き換えるならば「クジラを殺して自分たちは生きる」となります。

2 なぜ、和歌山県はイルカ漁の許可をしているのか

（和歌山県HPより引用）

イルカ漁は紀南地方の重要な産業であり、地域の伝統文化であるだけでなく、自然資源の科学的な管理および利用に基づいています。
太地町は、紀伊半島の東海岸に位置する人口約3,500人の小さな町です。経済活動の中心から遠く離れてはいますが、捕鯨の地として約400年の歴史があり、鯨やイルカを捕って、栄えてきた町であります。鯨やイルカは当地域の食文化になくてはならないものです。鯨やイルカに関する伝統的な文化行事が年中行われ、イルカ漁は地域経済に欠かせない産業となっています
イルカや鯨は、持続的に利用される海洋生物資源の一つであり、枯渇することのないように、関係機関が漁業活動を管理しています。また、国は、科学的な調査を行うことで、資源量が十分なものに限り、種類ごとに毎年捕獲頭数を定めています。
無秩序に捕獲することは、貴重な資源の減少や種の絶滅に繋がる恐れがあります。従って、イルカ漁については、科学的な資源量調査に基づき、資源保護上問題のない範囲で許可を行っているのです。
（引用終り）

＞科学的

水産庁が発表するレッドデータは、IUCNのレッドデータとはかけ離れたものです。なぜ”科学的”な調査に基づく結果が、国際機関と日本では異なったものになるのでしょう。
鯨類は、環境省が管理すべき哺乳類の野生動物であり、種の保存法や鳥獣保護法等々の法律によって守られるべき動物です。しかし水産庁は鯨類を水産資源としています。捕鯨会社が、イワシクジラをはじめとする絶滅危惧種を捕獲し続けるのは、”科学的”なのでしょうか。ここで主張している「科学的な資源量調査に基づき、資源保護上問題のない範囲」についても、疑義を挟まざるを得ません。我々はすでに、利権の主体や利権集団に属する科学者が提出した”科学的”結果は信用に足るものではないことを知っています。彼らが言う”科学”が人間や自然に取り返しのつかない悪影響を与えてきたこと、与え続けていることを学んでいます。

＞捕鯨の地として約400年の歴史があり、鯨やイルカを捕って、栄えてきた町

事実を正しく記述することが必要です。捕鯨は400年の歴史があり素朴な形態のイルカ漁も歴史があったでしょう。しかし静岡で使われていた追い込み手法を導入し、高性能エンジンを積んだ漁船を使った現代イルカ追い込み漁の始まりは50年前ほどです。また和歌山県の見解では、中国等をはじめとするイルカの生体販売について触れていません。「事実を歪曲した内容」をして批判するのであれば、自ら範を示すべきではないでしょうか。

3 欧米諸国は捕鯨をやめたのに、なぜ和歌山県では続けるのか

（和歌山県HPより引用）
1960年代から、欧米諸国などの主要捕鯨国では、鯨類資源の減少に加え、採算の合わなくなった捕鯨産業から撤退しています。また、1972年の国連人間環境会議で10年間の商業捕

鯨の停止が決定されるとともに、反捕鯨の立場で国際捕鯨委員会（IWC）に加入する国が増加しました。1982年のIWC会議では、鯨類資源に関する情報に不確実性があるという理由から、大型のひげ鯨等13種の商業捕鯨一時停止が採択され、欧米だけでなく、日本も加盟していたため、1986年から2019年まで商業捕鯨を停止していました。
牛肉や豚肉を食べることが、鯨やイルカの肉を食べることと異なるとは考えておりません。また、鯨やイルカの肉が特別で、食料とすべきではないという考えにも賛成できません。日本と同じように捕鯨を生業とし、鯨肉を貴重なタンパク源としている国や地域もあります
これまで「国際捕鯨取締条約」第8条に基づいて我が国が行ってきた調査捕鯨の結果から、ミンククジラなど大型のひげ鯨の資源は増えており、食料として利用可能な種類もあることがわかりました。そこで、2019年7月に、我が国はEEZ内において、厳密な資源管理のもとで、大型のひげ鯨のうち、ミンククジラ、ニタリクジラ、イワシクジラの商業捕鯨を再開しています。
なお、イルカなどの小型鯨類はIWCの管理対象外で、各国が自国の責任により管理することとなっており、日本でも捕獲対象となる種類ごとに科学的調査に基づき、資源に影響のない範囲の頭数を捕獲しています。
（引用終り）

＞鯨類資源の減少

鯨類を資源だとする考え方があります。一方、鯨類は保護すべき野生動物であるという考え方があります。日本は前者であり、考え方の根本にずれがあるのです。かつて世界は鯨類を資源と考えていました。しかし、大量捕獲により絶滅の瀬戸際まで追いやった反省を経て、保護を行なっています。日本は、今だに自らの行ってきた過ちを認めず、反省せず、責任を他者に押し付け、利益を存続させようとしています。鯨、イルカ漁によって利益を得る人々はごくごく一部の人々であり、その人々の利権のために、我々日本人すべてが鯨やイルカを殺すことを肯定し、絶滅危惧種の動物を平気で殺し食べる人々だと捉えられています。私たちは、自ら過ちを認め、行動を変えることができる誇り高い国にしたいと考えています。

＞反捕鯨の立場

私は「捕鯨 ↔ 反捕鯨」ではなく「クジラ保護 ↔ 反クジラ保護」と捉えています。

＞鯨やイルカの肉が特別で、食料とすべきではないという考えにも賛成できません。

”反捕鯨”を行なっている人々は全員、鯨やイルカを特別だと考えている人々であるという思い込みがあります。例えば、我々は鯨やイルカと同様にすべての動物を食料とすべきでないと考えています。
また環境保護的な観点から考えれば、野生動物の殺害と家畜動物の殺害を同列に認識してるのは根本的に改めた方が良いかと思います。

＞「国際捕鯨取締条約」第8条に基づいて我が国が行ってきた調査捕鯨

日本は、第8条で定められた本来の調査捕鯨の意図を逆手に取り悪用しました。調査捕鯨という名目で1994年に鯨類のサンクチュアリ（保護区）に指定された南極海に進出を続け、

絶滅危惧種を含めた大量の鯨類を殺し、販売してきました。そのような行為に対して国際裁判を起こされ敗訴しているにも関わらず、まるで正当性があるかのように主張することはできません。捕鯨利権を持つほんの一部の人間たちが、日本人を巻き込み恥をかかせています。

4 イルカを殺して食料とすることを、伝統や文化と呼ぶべきではないのではないか

（和歌山県HPより引用）

日本は四方を海に囲まれた島国で、古来より海産物を重要なタンパク源として利用してきました。鯨やイルカもその一部で、有史以前の縄文時代からの長きにわたり食糧源とされてきたことが判明しています。

和歌山県の紀南地方では、非常に山が多いため耕作地に乏しく、沿岸に来遊する鯨やイルカを古くから食料としてきたことは、ごく自然なことです。日本では、捕獲した鯨類は余すことなく活用されており、肉を食料とするだけではなく、その他の部分は工芸品の材料として利用されています。日本の捕鯨は、石油の利用が始まるまで、鯨油の採取のみを目的として捕鯨を行い、大量に鯨を殺しては、その大部分を海に捨ててきた一部の外国の捕鯨とは一線を画してきました

太地町で捕鯨やイルカ漁が重要な産業となり、その文化に取り入れられ、地域の人々の生業となったことは、その厳しい環境に対応するために生じた当然の結果です。

自然の恵みに感謝しながら、捕殺された鯨やイルカの供養祭を行うなどの習慣が今も続いています。大量の家畜を飼い、と殺し、食している日本の農家の人々も同じです。家畜の命を絶つことの罪を感じ、自然に感謝しながら食べています。

この営みを一方的に批判したり、不正確な情報で煽ったりすることは、価値観の一方的な押しつけに過ぎません。

（引用終り）

＞伝統や文化

なぜ中国をはじめとする国内外の水族館への生体販売について触れないのでしょう。なぜイルカ漁は、子イルカを伴う母イルカや若い女性のイルカを狙って行われていることに触れないのでしょう。和歌山県は重要な事実を隠しながら、”伝統や文化”というイメージを利用して日本人の認識をコントロールしようとしているように見えます。

＞縄文時代から

確かに縄文時代から食料としてきましたが、それは座礁したイルカや鯨と言われています。縄文時代に高性能エンジンを積んだイルカ漁船や捕鯨船はありません。

＞日本では、捕獲した鯨類は余すことなく活用されており～大部分を海に捨ててきた一部の外国の捕鯨とは一線を画して

南氷洋捕鯨時代、日本は鯨油以外のほとんどを海中投棄していたこともあります。また、捕鯨業者やイルカ漁師は、密猟や違法操業、クジラの体長や性別のごまかし、捕獲数操作、監視員の籠絡、鯨肉の違法販売などを行い、さらにその他漁業の漁師は、混獲による殺害と投棄、漁師が狙う海生動物に近寄ってきたイルカを殺すなど、無法と非倫理の限りを尽くして

きました。
そもそも遺体を余すことなく使うから、殺して良いという発想が根本的に間違っています。
そもそも痛みを感じる動物たちを殺してはいけない、ということです。

＞自然の恵みに感謝しながら

”自然の恵み”とは、人間の自分勝手な解釈です。自分の人生を生きている鯨やイルカは自らを自然の恵みとは思っていません。また、感謝すれば殺して良い、とはなりません。

＞鯨やイルカの供養祭

供養は人間のためのものです。鯨やイルカはそれを受け取っているでしょうか。あなたが殺され、殺した相手があなたを供養し、感謝したらどう思うでしょう。

＞家畜の命を絶つことの罪を感じ、自然に感謝しながら食べています。

美談化が過ぎます。罪を感じるのならば止めればよい。
鯨やイルカ、ライオンは、他の動物を食べなければ生きていけません。しかし、人間は鯨、イルカ、その他すべての動物を食べる必要はありません。人間は肉も魚も食べなくて生きていけます。動物食、魚食はすべて余分な娯楽です。そして環境負荷が高い。感傷や思い込みではなく、利権を持つ人々が思い込む事実や信用性が低い”科学”ではなく、客観的な事実や国際標準の科学に基づいて論じるべきです。

＞価値観の一方的な押しつけ

それはまさに和歌山県や捕鯨関係者が、クジラやイルカを守りたい人々に行なっていることです。和歌山県民でもいわゆる反捕鯨、イルカを守りたい人々がいます。太地町民でもイルカを守りたいと思っている人々が少なからずいます。その小さな声を黙殺し、価値観の一方的な押し付けをしているのではないでしょうか。
さらに悪いことに鯨類には、一方的な価値観どころか、痛み・苦しみ・一生の監禁・死を、一方的に押し付けています。

5 日本は経済大国であり、鯨やイルカを食べなくても生きていけるはずではないか

（和歌山県HPより引用）
日本においては、経済活動の中心から遠く離れた離島や半島、奥深い山村では、鯨やイルカ肉、その保存食が貴重なタンパク源とされてきました。今なお、鯨やイルカの肉が伝統食の重要な一部となっている地域が全国に散在し、また、その地域の出身者や小学校の給食で食べた思い出のある人々はその味を楽しみ、買い求めています。このようなことを、他の食べ物があるからという理由だけで、「やめるべき」と言えるのでしょうか。
大量に流通、販売されているものではありませんが、現に今でも需要はあります。そして、鯨やイルカを捕獲して生活をしている漁業者は、その需要に応えているのです。捕鯨やイルカ漁をやめろと言うのは、この漁業者たちに自分たちの生活を捨てよと言うのと同じです
（引用終り）

＞他の食べ物があるからという理由だけで、「やめるべき」と言えるのでしょうか。

言えます。食べたいという欲望を満たすためだけに、痛みを感じる他者を傷つけても良いとする非倫理性から卒業する必要があります。弱者を傷つけることを放棄し、守る概念を構築し普及することによって、我々の社会や精神は進化してきました。

＞この漁業者たちに自分たちの生活を捨てよ

倫理や権利は拡大進化するものです。倫理や権利の拡大により、失われた仕事は多々あります。時代に求められなくなった仕事をしていた人々は、自分で努力し新たな仕事を探してきました。倫理と権利は動物にまで拡大しつつあります。漁業者に限らず動物産業に携わる人々は、仕事を徐々に失うでしょう。それは地球にとっても動物にとっても、社会にとってもその人々にとっても良いことです。

和歌山県や捕鯨・イルカ漁関係者は自分たちを被害者だと表現しがちですが、最も被害を受けているのは抵抗できず、無残に殺された鯨やイルカです。

6 イルカ漁は、日本のイメージを下げ、国益を損なうのではないか

（和歌山県HPより引用）

各国の食文化や食習慣は、その地域の気候、地理的条件、歴史や宗教など、数々の要因により形成されるものであり、相互尊重の精神が必要とされています。例えば、宗教の中には、厳しい戒律により禁止されている食べものがあります。しかし、自分たちが食べないからと言って、信者以外がそれを食べていることを非難することはありません。このような活動家たちによる一方的な文化的価値観の押しつけに屈しないことが、日本の国益を損なうことになるとは思いません

（引用終り）

＞日本のイメージを下げ

日本のイメージを下げているのは間違いありません。一部の捕鯨、イルカ産業利権の存続のために、日本人のほとんどが捕鯨賛成、イルカ漁賛成と思われています。

日本にはクジラを尊重し守る伝統文化もありました。そのような地域に捕鯨産業が入り込み、クジラを守る伝統文化を破壊してきた歴史があります。また日本では歴史的に度々動物を殺してはいけないという法令が作られてきました。日本は動物に優しい国でもありました。私たちは動物に優しい日本の伝統文化を選択し、継承し、伝え、発展させます。

＞例えば、宗教

宗教と比較するのは適切でないでしょう。私は日本人ですが、捕鯨教、イルカ漁教に入ってはいません。

＞文化的価値観の押しつけ

意味不明ですが、この主張に多くの日本人はナショナリズムを喚起され、この問題の本質を見誤ります。絶滅に瀕した鯨の捕獲を止めるべきだという主張は、文化的価値観の押しつけとは何も関係がありません。また、動物の権利や解放という主張は、文化や伝統といったあいまいで短期的な価値ではなく、倫理や権利という普遍的な価値の議論です。論点そのものがずれてます。

＞日本の国益を損なうことになるとは思いません。
思わないことは自由ですが、国益に損なっていないとするなら、客観的に定数的に測る必要があるのではないでしょうか。

7 イルカは知的で親しみのある動物なのに、どうして日本では食べるのか

（和歌山県HPより引用）
人は皆、生きるために生き物の命を奪っています。西洋の国々では牧畜が盛んであり、大切にかわいがって育てた家畜をと殺して、食料としています。
日本では、食事をするときに、自分たちが生きるために捧げられた命に対して、感謝の心を表すために『いただきます』と言って手を合わせます。イルカだけでなく、牛や豚などの家畜にも感情や知性があり、これらすべての動物には、我々と同じく生きる権利があります。しかし、肉を食べるために、我々はこれらの動物を殺さなければなりません。漁師たちが捕獲するイルカの種類や頭数の制限を厳守し、生活のためイルカ漁をしている限り、食べてよい、いけないという観点で動物を区別することは理解できません。
（引用終り）

＞生き物の命

動物のために動物を食べない人々（ヴィーガン）は「命」という概念で行為を決定していません。対象が痛みを感じるか否かで決定しています。少なくとも、痛みを感じると科学的に証明されている動物を傷つけるのは止めるという判断です。

＞大切に、かわいがって、捧げられた、感謝、いただきます

これらすべて、傷つける側の自分勝手で独善的な感傷です。自分が殺されてそのような言葉を言われたらどうでしょう。自分がやられて嫌なことはしてはいけない。これは簡単な言葉ですが、真理であり実行は難しい。しかし我々はそれをできるかぎり行動に移しています。自分勝手な感傷で自分自身を誤魔化し、弱者に暴力を振るい殺害することはしません。

＞我々と同じく生きる権利があります。

相手に権利があると知りながら剥奪しているのは、権利があると知らずに剥奪しているより悪質です。相手の権利を、自分の価値観や欲望のために剥奪することは許されることではありません。

＞我々はこれらの動物を殺さなければなりません。
不要です。前述したように動物を食べる必要は全くありません。ゆえに、「殺さなければならない」ということはあり得ません。

＞動物を区別することは理解できません。

動物を区別していません。
違いは、
動物を区別していない、ゆえに、すべての動物を殺す。
としているか、
動物を区別していない、ゆえに、すべての動物を殺さない。

という違いです。
なお、現実的に100%動物を殺さないで生きることはほとんど不可能です。例えば気づかないうちに虫を踏み、野菜を食べていても間接的に虫を殺しているかもしれません。しかし、倫理と非倫理、善と悪 などは、1か0ではなくパラメータです。ある行為を成す場合、倫理60%：非倫理40%と分析し、その行為を成すかどうか判断できます。より倫理的な行為、より善である行為を意識的に取り続けることが、社会を良化していくと考えます。なお、すべての動物を殺さない社会は、人間の意識の進化、科学の進化と並行して実現していくでしょう。

8 イルカ肉には高濃度の水銀が含まれているが、食用に用いるのは安全か
9 イルカ肉の摂取は水俣病につながるのではないか
（参照：和歌山県HP）
＞安全に食べることができます
歴史を参照すると、これまで行政や産業により一般市民が多大な被害を受けてきました。水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく等公害、薬害、被曝等々。その度に行政や産業は自らに有利な研究結果を提出し、安全であるとしてきました。ゆえに私たちは、産業の存続によって利益やポジションを得る行政機関や研究機関、学者が提出する研究結果を鵜呑みにし、リスクを受け入れることはありません。また、耐容一日摂取量には年齢、性別、生まれながらの体質等個人差があり、リスクは避けるべきです。さらには、鯨肉も含め健康被害の可能性があるものを給食等で一律に食べさせることは、未来を担う子どもたちに対しての責任を放棄するものです。

10 一部のイルカ
（和歌山県HPより引用）
現時点において、イルカ肉が鯨肉として不正表示されている例はありません。そのような法律違反に関する具体的な情報を把握した場合は、国や市町村と連携して必要な調査等を実施します。
そして、その事実を確認した際は、JAS法（農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律）に基づいて、規制当局が違反事業者に指導を行い、適正表示の徹底を義務付けます。肉はまぎらわしい表示で販売されているのではないか
（引用終り）
＞不正表示
「現時点において」とあやふやな表現をされていますが、かつて日本ではイルカ肉を鯨肉と偽装表示して販売する例が多発していました。現在では、太地町内では「ハナゴンドウ 」と表示され、太地町外では「ゴンドウクジラ」と表記されている場合があります。また「いるか」と表示されていても、その種類は記載されていないこともあります。これらは不正表

示ではないでしょうが、まぎらわしい表示、あるいは、事実を正確に記載していない表示ではあります。

11 太地町のイルカ捕獲方法は非人道的ではないか

（和歌山県HPより引用）

太地町におけるイルカ追い込み漁は、以前は、映画『ザ・コーヴ』で示されたとおり、イルカを入江に追い込んだ後に、銛を用いて捕殺していました。

しかし、2008年12月以降は、イルカが死ぬまでにかかる時間を短くするために、デンマークのフェロー諸島で行われている捕殺方法に改められています。この方法では、捕殺時間は95%以上短縮されて10秒前後になりました。イルカの傷口も大幅に小さくなり、出血もごくわずかになりました。

また、家畜の解体が人目に触れないように専門の施設内で実施されているのと同様に、2008年12月からはイルカの解体も人目に触れない場所に移され、太地漁港内の新しい衛生的な施設内で行われるようになりました。

映画『ザ・コーヴ』で指摘された問題の多くは解決されています。

（引用終り）

＞デンマークのフェロー諸島で行われている捕殺方法

フェロー諸島では、屠殺後血抜きを行います。ゆえにフェロー諸島の鯨・イルカ漁では、海が血で真っ赤に染まります。一方、太地町のイルカ追い込み漁では、海水に流れる血の量は格段に少なく、真っ赤に染まることはありません。これは銛を刺した穴に栓をし、血が出ないようにするためです。そのためイルカたちは自分たちの血で溺れているであろうという予想もされています。現にフェロー諸島の漁師は、太地の方法を無駄にイルカを苦しめる方法だとして批判しています。

＞映画『ザ・コーヴ』で指摘された問題の多くは解決されています。

ではなぜ批判が続くのでしょう。問題が解決されていないからです。

イルカ漁の実際

イルカ漁に賛成する人々、反対する人々ともに、太地町で行われているイルカ漁を実際に見たことがある人は少ないでしょう。

現地で見ることをお勧めします。イルカたちが殺される時の息遣いや、尾びれで水面を叩く音、子どもを必死で守ろうとするイルカたちの姿を見ることは非常に大事です。

［URL：YouTube再生リスト：https://www.youtube.com/playlist?list=PLQT1RmSZIgCruqdl4RtyNfZpmMXONngFk］

12 日本だけが捕鯨やイルカ漁を継続しているのではないか

（和歌山県HPより引用）

鯨もイルカも鯨類ですが、一般的に成体が4mを超えるものを鯨、4m以下のものをイルカと呼んでいます。国際捕鯨委員会（IWC)は、大型の鯨の捕獲を規制対象としており、イルカや

小型の鯨の捕獲については規制していません。
大型鯨の捕獲規制の例外として、先住民が生計を維持するため、アメリカで55頭、ロシアで125頭、デンマークで207頭、セントビンセントで4頭の捕獲が認められています。
ノルウェーとアイスランドは、IWCの規制に異議申し立てを行い、商業捕鯨を継続しており、2016年には、それぞれ591頭、46頭を捕獲しています。
日本は、これまで「国際捕鯨取締条約」第8条に基づく調査捕鯨で年間1,180頭を捕獲枠としていましたが、2019年6月末にIWCを脱退し、それ以降はEEZ内において厳密な資源管理のもとで商業捕鯨を再開しています。
一方、IWCが規制していないイルカなどの小型鯨類は、資源が枯渇しないように各国の自主管理のもとで捕獲が行われています。日本では、2016年において、2,246頭（2015年は2,637頭）を捕獲しています。うち、和歌山県では、981頭（2015年は1,014頭）を捕獲しました。
このように世界中の多くの地域で鯨類の捕獲が行われており、日本だけが行っているわけではありませんし、ましてや太地町だけが行っているわけではありません。
（引用終り）

＞国際捕鯨委員会（IWC）

日本は、IWC加盟国への工作によって捕鯨への支持を取り付けていました。捕鯨を行っていないカリブ海やアフリカ諸国などにODAの無償資金援助によって票を買い、捕鯨賛成国を増やしたとみられています。さらには、IWC加盟費や年会費の肩代わりをしたことすらあります。東カリブ海の島、SVG（セントビンセント・グレナディーンズ）には日本人研究者が訪れ捕鯨産業をサポートしています。日本の捕鯨産業は戦前から、自らの利益を確保するために国際社会をを騙し、誤魔化し、だまし討ちをし続けています。そしてそれはすべて知られています。知らぬはプロパガンダ下にある日本人ばかり。国際社会から私たちがどうみられているか想像してみてください。私たちは擬似ナショナリズムから出て、日本を真に誇れる国にしなければなりません

13 水族館へのイルカ生体販売について

和歌山県の公式見解にこの章はありません。最初に書いたように、和歌山県の公式見解には、イルカの生体販売について一言も触れられていません。
生体販売の問題は極めて大きいものです。列挙しますと、野生動物の捕獲販売、国内外への野生動物の販売、中国をはじめとする海外の水族館に大量に売っている問題、水族館が野生動物を捕獲監禁し芸をさせる問題、監禁されたイルカの異常行動・怪我・病気・人工授精・流産死産などの問題、それを隠す水族館やイルカトレーナーの問題等。水族館、水族館に監禁されたイルカ、イルカトレーナーの問題については、第六部で詳しく触れます。

また経済的な問題もあります。イルカ漁の目的は二つ、

- 生体販売（世界中の水族館にイルカを売る）
- 遺体販売（殺害し食べる）

です。両者を比べると、生体販売の方が収益を上げており、イルカ漁の主目的といえます。もし、伝統文化である食用のイルカの捕獲だけを行う場合、イルカ追い込み漁は採算が合わず終了するでしょう。
これだけ重大な問題点がありながら、和歌山県の公式見解が生体販売について一切触れていない異常さがわかると思います。

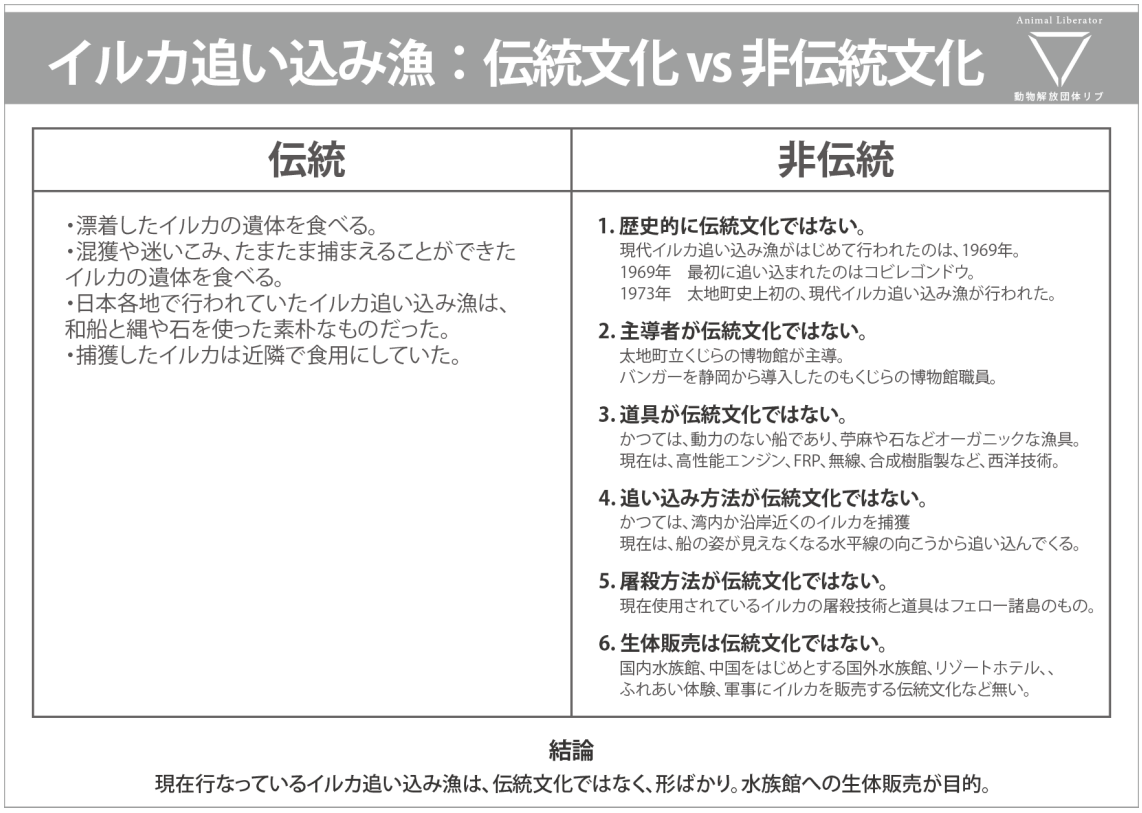
太地町のイルカ漁で自然や家族から引き離され水族館に監禁されているイルカたちは、今この瞬間も苦しみ続けています。和歌山県公式見解が、生体販売の問題を隠そうとするのも問題ですが、イルカの痛みや苦しみにも無視を決め込んでいるのも問題です。

第二項　伝統と非伝統の仕分け

イルカ漁は伝統文化であるとの思い込みがあります。これは無理もなく、行政やマスメディアの発信する情報のみを受け入れていたらそう捉えるでしょう。太地町のイルカ追い込み漁を含む捕鯨文化は「日本文化遺産」に指定されました。現代イルカ追い込み漁と古式捕鯨をまとめて扱うのも乱暴ですが、現代イルカ追い込み漁とかつて行われていたイルカ追い込み漁を一緒くたにし日本文化遺産とするのも恣意的です。では、太地町の現代イルカ追い込み漁が伝統文化であるかどうか、伝統の部分と非伝統の部分を挙げ、検証してみましょう。

伝統と非伝統の仕分け

［図：イルカ追い込み漁：伝統 vs 非伝統］



〔伝統〕

・漂着したイルカの遺体を食べる。

・混獲や迷いこみ、たまたま捕まえることができたイルカの遺体を食べる。

・日本各地で行われていたイルカ追い込み漁（断切網捕鯨砲）は、湾に入り込んだイルカを、和船に乗った人々が縄や石を使って追い込み、網で囲って捕獲する素朴なものだった。しかし太地でこのような方法でイルカを追い込んだ記録は見つかっていない。

・捕獲したイルカは近隣で食用にしていた。

〔非伝統〕

1. 歴史的に伝統文化ではない。現代イルカ追い込み漁がはじめて行われたのは1969年。

　1969年　最初に追い込まれたのはコビレゴンドウ。

1973年　太地町史上初、現代イルカ追い込み漁を行った（マダライルカ）。

1975年　太地町史上初、バンドウイルカを追い込み生体捕獲した。

2. 主導者が伝統文化ではない。

現代イルカ追い込み漁の開始は、太地町立くじらの博物館の開館に合わせて水族館職員がイルカ漁師に要望したものであって、イルカ漁師が始めたものではない。バンガーを静岡から導入したのもくじらの博物館職員。

3. 道具が伝統文化ではない。

かつては動力のない船であり、苧麻や石などの自然の素材を使って行っていた。現代イルカ追い込み漁は、高性能エンジン、FRPの船体の船であり、無線、合成樹脂製の網など、西洋で発明されたものを使用して行われている。追い込む道具であるバンガーは元々静岡県のイルカ漁で使用されていた技術であり、太地の文化ではない。

4. 追い込み方法が伝統文化ではない。

かつては湾に入ってきたイルカか、湾の外にいたとしても沿岸近くに寄ってきたイルカを捕獲していた。しかし、現在では船の姿が見えなくなる水平線の向こうまで沖に行き、追い込んでくる。

5. 屠殺方法が伝統文化ではない。

現在使用されているイルカの屠殺技術と道具は、デンマークフェロー諸島の技術と道具。太地のイルカ漁師には思い付かなかったものであり、伝統文化ではない。苦痛の少ない方法として”人道”的観点や動物福祉的な観点から導入されたが、結局死なずに苦しんでいるイルカがいる。

フェロー諸島の漁師は、脊髄を捩じ切った後に首を切り放血している。太地町のイルカ漁師は、海が血で染まっている場面を撮影されるのを嫌い放血を行わず傷口を栓で塞いでいる。これはイルカが自分の血で溺れている可能性があり、いたずらにイルカを苦しませていると、フェロー諸島のイルカ漁師ですら批判している。太地にしろフェローにしろイルカを殺さなければ問題そのものがなくなる。無くならない原因は欲が慈悲や尊重を上回っているから。

6. 生体販売は伝統文化ではない。

国内の水族館、リゾートホテル、ドルフィンセラピー、ふれあい体験、ドルフィンスイムといった娯楽施設、のみならず国外水族館や軍事に使われるイルカを販売しする伝統文化など無い。特に、中国をはじめとする国内外の水族館に、輸送・空輸することなどなかった。

経緯

1978年　水族館の買い付け先が、静岡県川奈・富戸から、太地に移る。

1980年　太地町の民間企業が水族館への生体販売ビジネスを本格化させる。

2005年　太地町自体が国内外（特に中国）への生体販売を始める。

太地はイルカの生体販売を独占しているため、伝統文化を盾に取り、追い込みを続けたい。ゆえに、和歌山県のウェブサイトは、水族館の販売を隠蔽する。

7. 太地漁港と森浦湾には数多くの生簀があり、生体販売されるイルカや繁殖させられるイルカたちが監禁されています。太地町全体に、常に100名を超えるイルカが、多いときでは200名以上のイルカが監禁されています。ロシアの「イルカ監獄」がイルカを100名以上監禁していると問題になったが、その比ではありません。これも伝統文化ではありません。
［本文参照：第七部 第四章 第四節　解放］

伝統文化に縋り付く理由

「伝統文化」という言葉は、そもそも利権や権威者にとって、権力や権益の維持、プロパガンダや弱者への抑圧の正当化、言い訳として使い勝手が良い道具です。利権や権威者の支持者にとっては、権威者に縋りつき、彼らの言い訳に縋り付くという、二重の縋りつきによってアイデンティティや自己同一性を維持する道具となります。

「伝統文化」という概念は、ポジティブなものだと捉えている人が多いように感じます。実際は「伝統文化」はポジティブな側面とネガティブな側面の合わせ鏡です。ポジティブな側面は上記のような利権や権威、アイデンティティの保持であり、ネガティブな側面はそれによって生じる被害です。

FGM（女性性器切除）を”伝統文化”だとし、守ろうとしている人々さえいます。FMGは既存の考え方や価値観から抜けられない男性にとってポジティブであり、女性にとっては取り返しのつかないダメージを与えます。イルカ漁における”伝統文化”の構造と同様です。

捕鯨やイルカ漁を伝統文化として残すなら、動物に対するホロコーストとして後悔と反省の意味での伝統文化としてでしたら残す価値があります。

イルカやクジラを殺さない伝統文化

かつて日本では、鯨を尊重し、殺さない伝統文化もありました。そこに捕鯨産業が入り込み、地域を荒らして入っていったことはすでに書きました。鯨族を侵略する産業は、人間も侵略しています。

私たちは、日本には鯨族を殺さない伝統文化があったこととを国内外に伝え、日本がこれから作る伝統文化はクジラを保護する文化であるとする社会をつくります。

第三項　イルカ漁師の違法行為

クジラ漁師と同様、イルカ漁師も様々な違法行為を犯してきました。もちろんイルカ漁師のみに違法行為の責を負わせることはできず、捕鯨と同様、イルカ共同体・イルカ漁師が犯罪を行い、学者が見て見ぬ振りをし、行政や政治家がその行為を黙認、追認、さらには積極的に犯罪隠しに関わるという、利権集団一体となった構造と体質に責があります

イルカ漁に関する犯罪の記録は多くはありません。しかし、イルカ突き棒漁は沖で行われ、監視もいないため、何をしてもわからない状態にあります。例え、殺害してはいけないこと

になっている赤ちゃんイルカ、子供のイルカ、それらを連れている女性のイルカを殺したとしても誰にもわかりません。
静岡県のイルカ追い込み漁では、川奈と富戸の漁師が利益をめぐって対立し、暴力沙汰や、殺人未遂事件まで起こし裁判になっています。また捕獲対象種でないオキゴンドウを捕獲し、水族館に販売したこともあります。イルカ漁師も水族館も、グルになって違法行為を行いました。
クジラ漁師が違法操業を行っていたたと同様、太地のイルカ漁師も捕獲が禁止されている種を捕獲していました。『イルカを食べちゃダメですか？』には太地の漁師の話として「シャチ、ミンククジラ、マッコウクジラ何でも獲った」「ナガスクジラを捕獲した」「ザトウクジラを捕獲したが海上保安庁に見つかりそうになり海に放して隠した」という話が紹介されています。またかつての太地町イルカ追い込み漁の制限と条件は「2m以下のイルカを捕獲殺害してはいけない」というものでしたが守られておらず、実際に2m以下の子どものイルカが殺されているのを研究者が確認しています。
イルカ漁師はイルカに詳しいと思ってしまいます。しかし、イルカ漁師は、イルカの搾取・殺害のプロであって、イルカの生態や権利問題等に関してはプロではありません。つい数十年前まで、「イルカは魚だと思っている」と主張する漁師もいました。むしろ、イルカがどんな動物で、どのような生態で、人間とどこが同じなのかわからないから殺すことができるとも考えられます。
行政やイルカ漁師支持者は、まるでイルカ漁師が弱者であるかのように表現します。しかし当たり前に考えればわかりますが、イルカ漁師は近代技術と行政と政治家と支持者に囲まれイルカを殺害する圧倒的な強者です。

第四項　中国とのつながり

太地町のイルカ産業と中国が接近したのは2005年からです。2004年三軒氏の町長就任後、太地町自体がイルカブローカーとして国外への生体イルカの輸出事業を始めました。太地町は太地町立であるくじらの博物館と、町と一体である太地町開発公社を通して、イルカの売買を行っています。つまり、太地町＝イルカブローカーであるということです。
太地町はイルカトレーナーの育成も行っており、一時期は太地町には中国人の若者が多く滞在していました。自国にイルカの調教技術を持ち込むためです。

中国とのイルカ取引の一例を挙げます。2018年11月6日付け漁野氏のブログにある、中国企業と太地町の契約書類を開示請求した記事からの引用です。
平成29(2016)年、太地町立くじらの博物館と、福建省長泰天柱山飛龍旅游開発公社有限公司（上海振龍房地産開発有限公司GROUP、福建天柱山歓楽大世界（福建天柱山欢乐大世界）を運営）との間に契約が交わされました。

実際の目的は水族館での娯楽利用ですが、輸出するための名目は学術研究である必要があります。ゆえに目的は、鯨類の飼育管理技術の向上、飼育下繁殖研究確立、共同研究の協力と推進とされ、次のことが決められています。

1. 太地町立くじらの博物館は、福建省長泰天柱山飛龍旅游開発公社有限公司(以下、飛龍旅游開発公社)に対し飼育繁殖研究の対象となる鯨類入手のため最大限の便宜を図る。
2. 両者で学術研究や鯨類繁殖活動の普及に共同で取り組む。
3. 飼育技術向上・鯨類飼育施設改善のために技術者等を派遣し交流を深める。
4. 鯨類の学術研究、飼育、繁殖、医療、飼育施設、の分野に於いてデータを提供し、積極的な交流を行う。

そして、

5. 太地町立くじらの博物館は、飛龍旅游開発公社の飼育技術者等を積極的に受入れ、研修を行う。

このような契約のもと中国人イルカトレーナー候補を受け入れていました。

またこの契約に伴い、太地町立くじらの博物館は5年間で300名の小型鯨類を、15億円で販売する契約を行っています。契約施行日は、同年9月1日から。イルカ漁期の開始日です。

和歌山県と中国といえば、以前から深いつながりがあることが指摘されていますが、太地町と中国も強いパイプ、深い関係を持っています。［本文参照：第五部 第五章 第五節 第一項　政］

第五項　イルカ漁をブラックボックス化していく

イルカ突き棒漁、イルカ追い込み漁の様子は時代とともに隠され、ブラックボックスにされていきます。

イルカ追い込み漁のブラックボックス化

かつて太地のイルカ追い込み漁は、国道のすぐ目の畠尻湾で行っていました。衆人環視のもと、追い込み、捕獲、殺害が行われていました。くじらの博物館発足当時は、畠尻湾で古式捕鯨を模したコビレゴンドウの殺害ショーが行われたほどです。

しかし国内外の活動家がその残虐性を記録し伝えていく過程で、捕獲・殺害を行う場所は国道から見えない影浦に移動し、見学や撮影をすることはできなくなりました。

しかし、その時点ではまだ影浦を撮影できるポイントは残っていました。影浦の向かい側を通っている遊歩道、向かい側の山の上、影浦の真上のたかばべ、そして影浦の上空です。

このうち、影浦の向かい側を通っている遊歩道は危険だということで通行禁止に。向かい側の山の上の撮影できる場所も立ち入り禁止に。影浦の真上のたかばべからは、影浦の海側はまだ撮影できるものの、影浦の浜のイルカを捕獲殺害する場所の上にはビニールシートが貼られ撮影できないようになっています。影浦の上空に関しては、かつてはドローンを飛ばすことができましたが、数年前から畠尻湾一帯でのイルカ追い込み漁漁期中のドローン撮影が

禁止されました。太地漁港の外で捕獲殺害を行うときは、和船の向こう側にビニールシートを張ってその下で行い、陸からの撮影とドローンからの撮影を防いでいます。

［写真：通行禁止になった遊歩道入り口］



［写真：影浦の浜の上に張られたビニールシート］



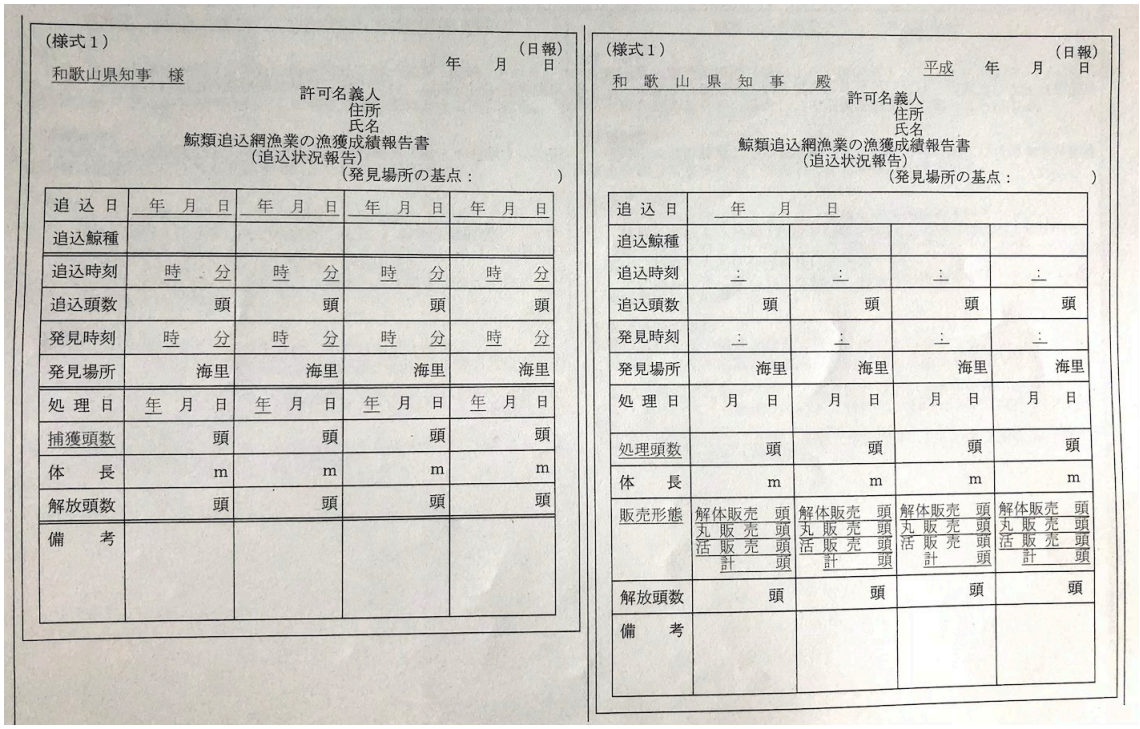
解体場の撮影に関しても、私が太地に行き始めた頃は隙間などから撮影できましたが、現在ではビニールシートの張り方やイルカの遺体を運ぶ船の接岸の位置などにかなり工夫がなされ、厳重に撮影を防ぐことができるようになっています。

イルカ漁師がイルカ漁を隠していくことへの批判には次のようなものがあります。誇るべき日本の伝統文化であればなぜ隠す必要があるのか、イルカ漁師が自分達がやっていることに誇りを持っているのでなら隠す必要はないのではないか、イルカ追い込み漁でやっていることを公開し日本国民に議論と判断委ねるべきだ等。
一方、イルカ漁師や太地町、イルカ共同体の主張は、活動家はわざと人々の感情にネガティブな影響を与えるような場面を撮影し、人々に感情的な批判を呼び起こす。それを避けるためには当然の対応だという反論がなされます。
この反論は、家畜動物の屠殺を隠すのと同じ動機でなされています。つまり実態を見せてしまったら、人々の消費行動が変化し、イルカ肉が売れなくなり、水族館に行く人が減ってしまうから隠す。つまり反論の本意は利益保存です。そもそも問題なのは「感情にネガティブな影響を与えるような」ことを行っていること、その場面を公開せず美談で印象操作していることです。

ブラックボックスされていく現状にあっても、活動家が監視を行っていること自体が、イルカ漁師の違法行為やイルカに対する残虐行為を抑制することにつながっています。例えば筆者が太地漁港の外で行われたハナゴンドウの殺害を撮影していたときのこと、イルカ漁師たちは殺害したハナゴンドウを和船に括り付け解体場へ運んでいました。その時、ビニールシートが捲れ、殺害したはずだったハナゴンドウが生きていることにイルカ漁師が気付きました。そのイルカ漁師は、ゴムハンマーを取り出し、そして私の方を一瞬見て、ゴムハンマーをしまいました。つまりイルカ漁師はゴムハンマーでハナゴンドウを殴打しようとしていたということです。これは活動家が撮影していたから、イルカ漁師が暴力を振るうことを思いとどまったということであり、活動家の監視自体がイルカへの暴力を減らすという一例です。もっともゴムハンマーで一撃で気絶させることができるとしたら、それは”人道的”な行為とも言えます。非常に難しい問題ですが、そもそも殺さなければその問題は起こりません。

イルカ販売のブラックボックス化
イルカの遺体販売数や、生体販売数、販売先もブラックボックス化していきます。イルカの生体販売を太地町開発公社を通じて行い販売数や販売先が隠されたこともその一例です。
最近では、2020年(令和2年)12月1日に漁業法が改正されたことに伴い、鯨類追込網漁業の許可方針が廃止。鯨類追込網漁業漁業の許可又は起業の認可の方針が全部改正されました。この時に、「（様式1）鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書（追込み状況報告）」から、「販売形態」の項目が消され、その内訳「解体販売 ◯頭」「丸販売 ◯頭」「活販売 ◯頭」「計 ◯頭」も消されました。写真の右が旧。左が新しいものです。

［20201201改正 (様式1)鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書(追込み状況報告) 新旧対照表］



（様式１）

和歌山県知事　様

（日報）
年　月　日

許可名義人
住所
氏名

鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書
（追込状況報告）
（発見場所の基点：　　）

追込日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日
追込鯨種				
追込時刻	時　分	時　分	時　分	時　分
追込頭数	頭	頭	頭	頭
発見時刻	時　分	時　分	時　分	時　分
発見場所	海里	海里	海里	海里
処理日	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日
捕獲頭数	頭	頭	頭	頭
体長	m	m	m	m
解放頭数	頭	頭	頭	頭
備考				

（様式１）

和歌山県知事　殿

平成　年　月　日
（日報）

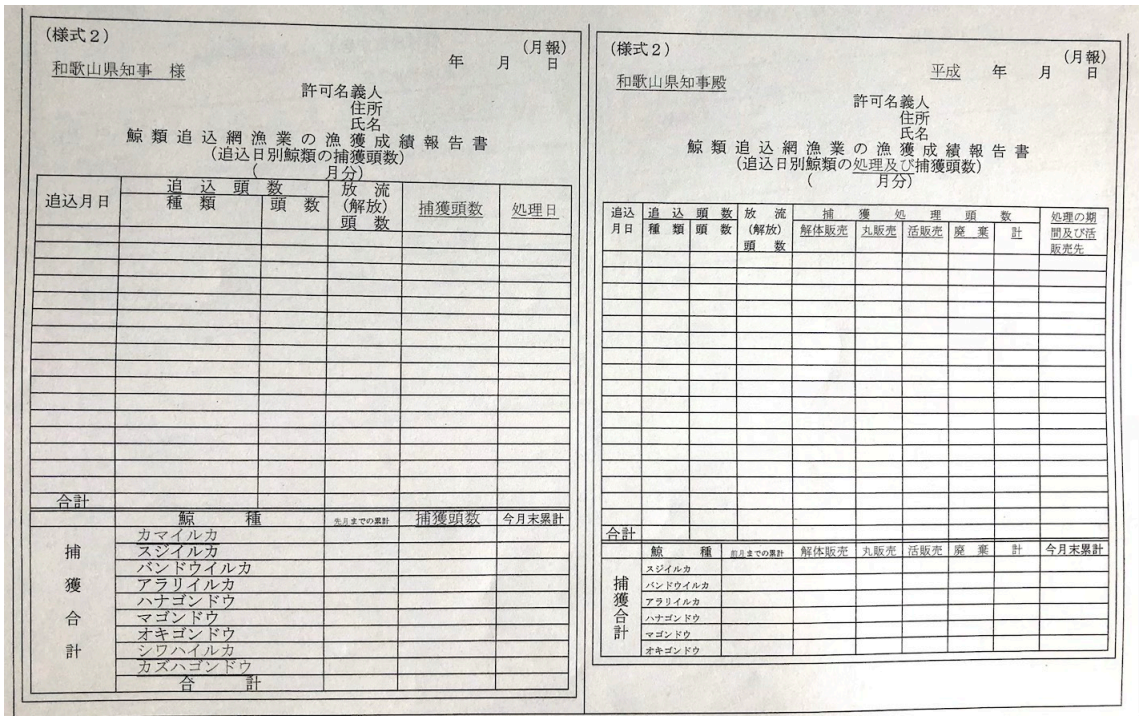
許可名義人
住所
氏名

鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書
（追込状況報告）
（発見場所の基点：　　）

追込日	年　月　日			
追込鯨種				
追込時刻	：	：	：	：
追込頭数	頭	頭	頭	頭
発見時刻	：	：	：	：
発見場所	海里	海里	海里	海里
処理日	月　日	月　日	月　日	月　日
処理頭数	頭	頭	頭	頭
体長	m	m	m	m
販売形態	解体販売　頭 丸販売　頭 活販売　頭 計　頭	解体販売　頭 丸販売　頭 活販売　頭 計　頭	解体販売　頭 丸販売　頭 活販売　頭 計　頭	解体販売　頭 丸販売　頭 活販売　頭 計　頭
解放頭数	頭	頭	頭	頭
備考				

「（様式2）鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書（追込日別鯨類の処理及び捕獲頭数）」から「捕獲処理頭数」の項目が消され、その内訳である「解体販売」「丸販売」「活販売」「破棄」「計」が消されました。同時に「処理の期間及び活販売先」も消されています。

［20201201改正 (様式2)鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書(追込日別鯨類の処理及び捕獲頭数) 新旧対照表］



（様式２）

和歌山県知事　様

（月報）
年　月　日

許可名義人
住所
氏名

鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書
（追込日別鯨類の捕獲頭数）
（　月分）

追込月日	追込頭数 種類	追込頭数 頭数	放流（解放）頭数	捕獲頭数	処理日
合計					

	鯨種	先月までの累計	捕獲頭数	今月末累計
捕獲合計	カマイルカ			
	スジイルカ			
	バンドウイルカ			
	アラリイルカ			
	ハナゴンドウ			
	マゴンドウ			
	オキゴンドウ			
	シワハイルカ			
	カズハゴンドウ			
	合計			

（様式２）

和歌山県知事殿

平成　年　月　日
（月報）

許可名義人
住所
氏名

鯨類追込網漁業の漁獲成績報告書
（追込日別鯨類の処理及び捕獲頭数）
（　月分）

追込月日	追込頭数 種類	追込頭数 頭数	放流（解放）頭数	捕獲処理頭数 解体販売	丸販売	活販売	廃棄	計	処理の期間及び活販売先
合計									

	鯨種	前月までの累計	解体販売	丸販売	活販売	廃棄	計	今月末累計
捕獲合計	スジイルカ							
	バンドウイルカ							
	アラリイルカ							
	ハナゴンドウ							
	マゴンドウ							
	オキゴンドウ							

開示請求してもこの部分は黒塗りで私たちにはわかり得ませんでしたが、今回の改正によって漁獲成績報告書上、捕獲されたイルカたちの行く末は完全にブラックボックス化されました。

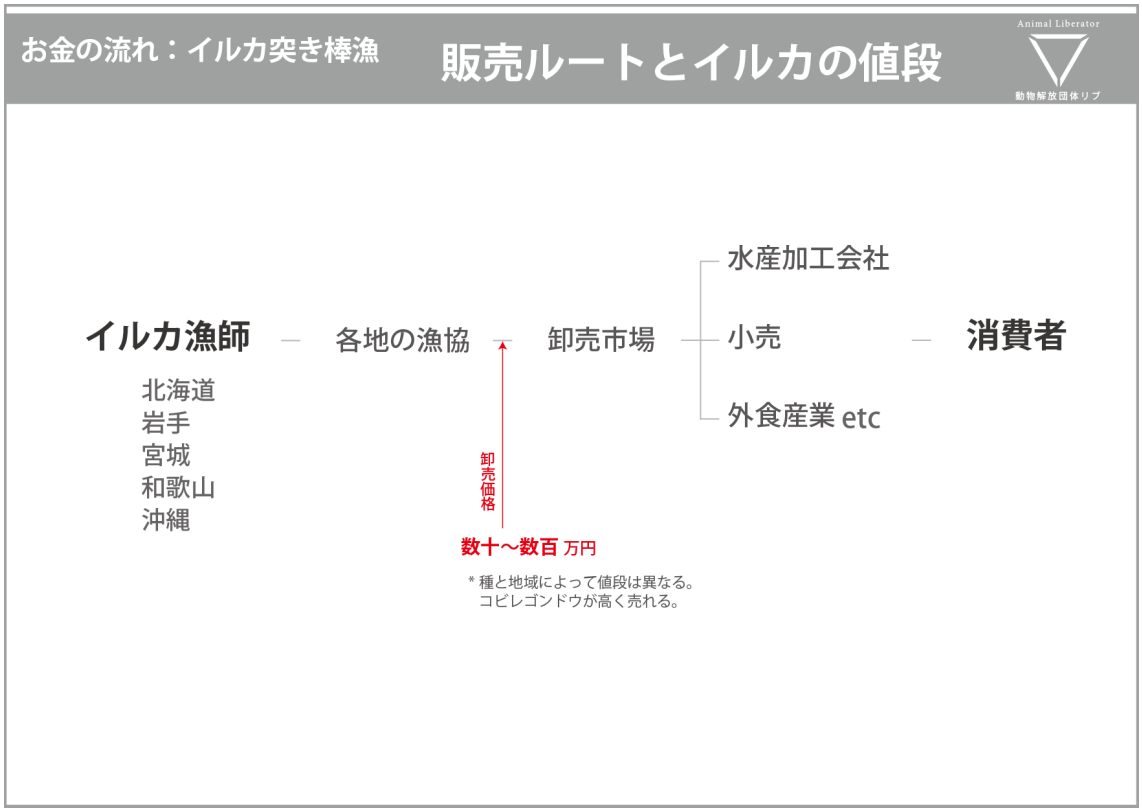
第四節　経済

第一項　イルカ突き棒漁

第一目　販路

イルカ突き棒漁によって捕獲されたイルカは、食用ルートのみです。

［お金の流れ：イルカ突き棒漁：販売ルートとイルカの値段］



イルカ漁師によって殺害されたイルカの遺体は、各地の漁協を通じて卸売市場でセリにかけられ、小売業者などによって販売されていきます。エンドユーザーは、イルカ肉を食べる消費者です。

第二目　イルカの値段

［卸値］

各道県の漁獲成績報告書から類推した値段です。岩手県、宮城県、和歌山県は開示請求しましたが黒塗りでした。

北海道　1名 2万4706円

平成29年度　いるか突棒漁業漁獲成績報告書から。

イシイルカ　17名　42万円

2020年漁期は、北海道全体で928名を殺害していますので、2292万7168円の売上げとなります。

沖縄県　1kg当たり1355円程。370kgのイルカだったら50万円。

平成28年～令和1年　イルカ漁業捕獲成績報告書から。

バンドウイルカ

1名　47万1900円

1名　57万683円

オキゴンドウ

2名　62万5007円（461.1kg）（1kg当たり1355円）

マゴンドウ

1名　22万3733円（204.8kg）（1kg当たり1355円）

4名　76万5266円（687.6kg）（1kg当たり1355円）

1名　174万949円（799.9kg）（1kg当たり1355円）

1名　225万3745円（1832.3kg）（1kg当たり1355円）

重量で値段が決まるようです。沖縄タイムスによるとイルカ肉は福岡市に送られる、地元の方によると地元消費ですべてなくなる、とのことで正しい販路は不明です。

［小売値］

イシイルカ、リクゼンイルカ（岩手県山田町）

未加工100g 98円

［写真：イルカ肉　岩手県山田町で撮影］



イシイルカ、リクゼンイルカ（静岡県沼津市）

未加工100g 97円

［写真：イルカ肉_未加工　静岡県沼津市で撮影］



加工100g 370円

［写真：イルカ肉_加工　静岡県沼津市で撮影］



コビレゴンドウ（沖縄県名護市）

冷凍 ??g 1000円

［写真：イルカ肉　沖縄県名護市で撮影)］



第二項　イルカ追い込み漁

第一目　販路

イルカの収益化

イルカ追い込み漁で入手したイルカは、商品としてエンドユーザーに届けなければなりません。殺したイルカは、遺体販売ルートに乗せてイルカ肉消費者へ。生きたまま捕獲したイルカは、生体販売ルートに乗せ水族館の観客に提供します。

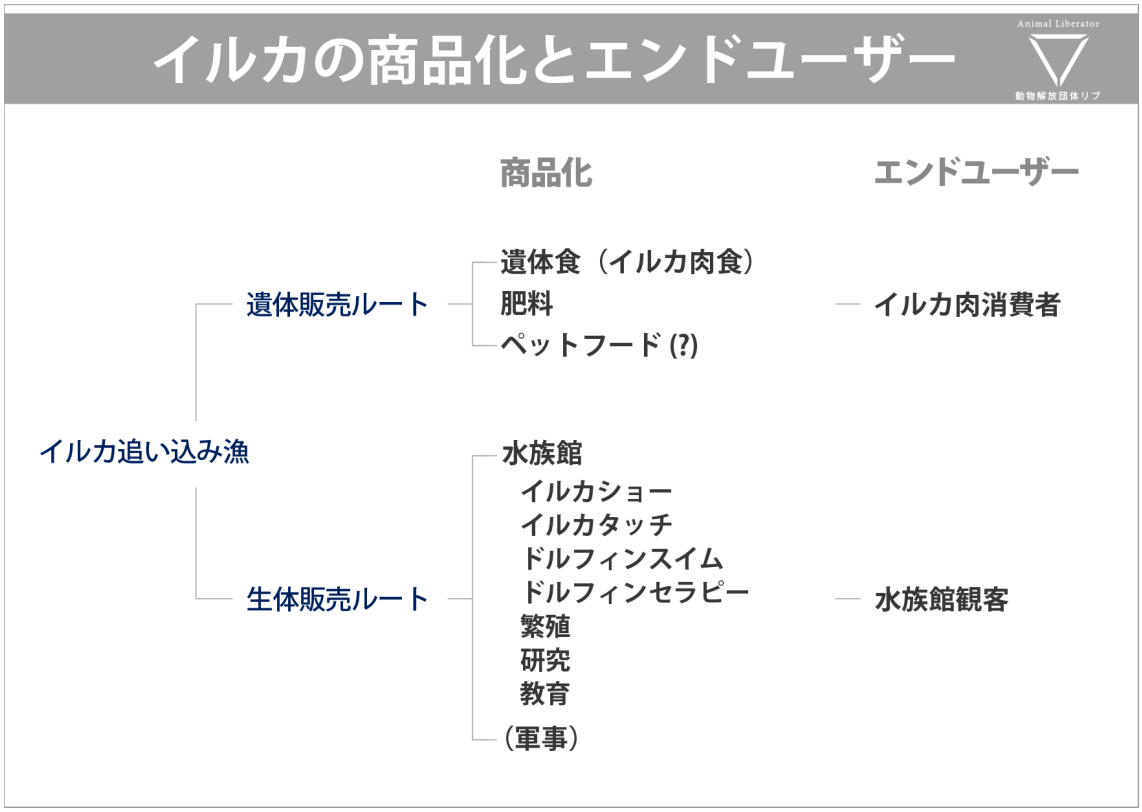
殺したイルカの収益化

遺体食（イルカ肉食）、肥料、研究、教育などです。イルカがペットフードに使われているという噂はありますが、環境省は無いだろうとの見解でした。

生きたまま捕獲したイルカの収益化

イルカショー、イルカタッチ、触れ合い体験、ドルフィンスイム、ドルフィンセラピー、繁殖、実験、研究、教育、軍事など。

［お金の流れ：イルカ追い込み漁：イルカの商品化とエンドユーザー］

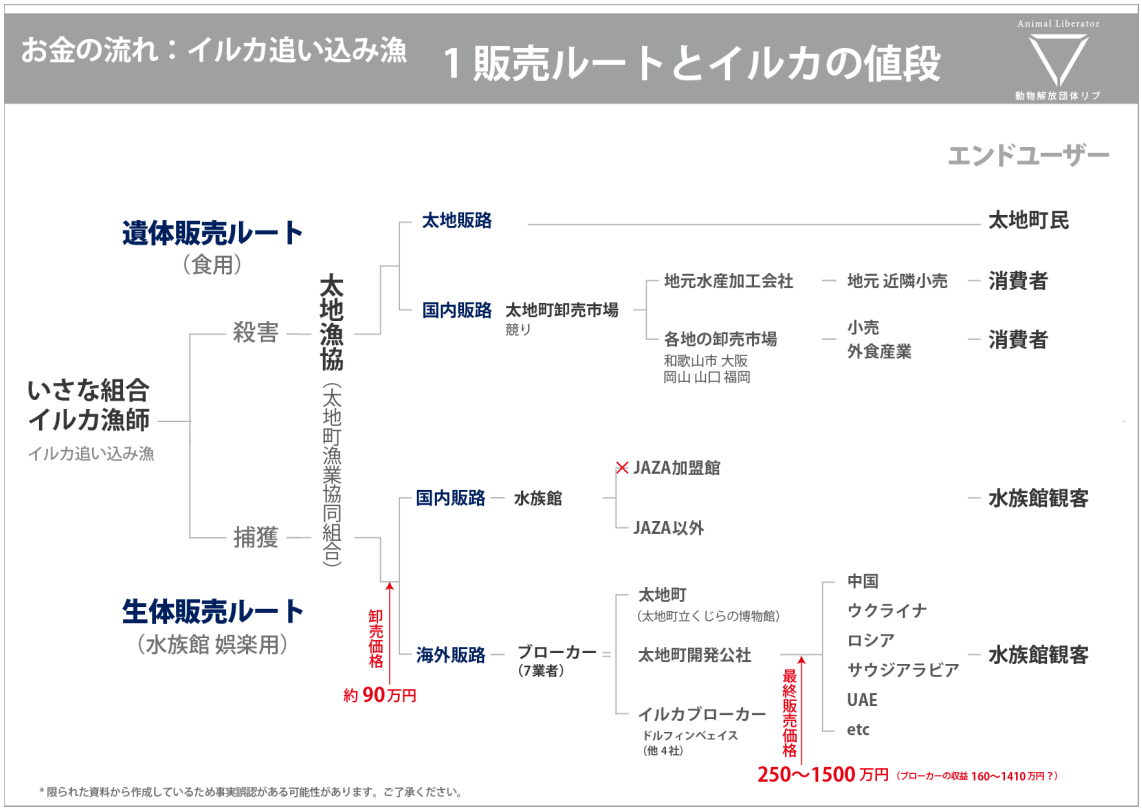


遺体販売ルートと生体販売ルート

イルカ追い込み漁で捕獲されたイルカの流通は大きく遺体販売ルートと生体販売ルートに分けられます。生体販売ルートは国内水族館ルートと海外水族館ルートに分けられます。正しいルートはわからず、本や資料によっても書いてあることが異なります。おそらくその時々で様々なパターンを経由するのだろうと思います。

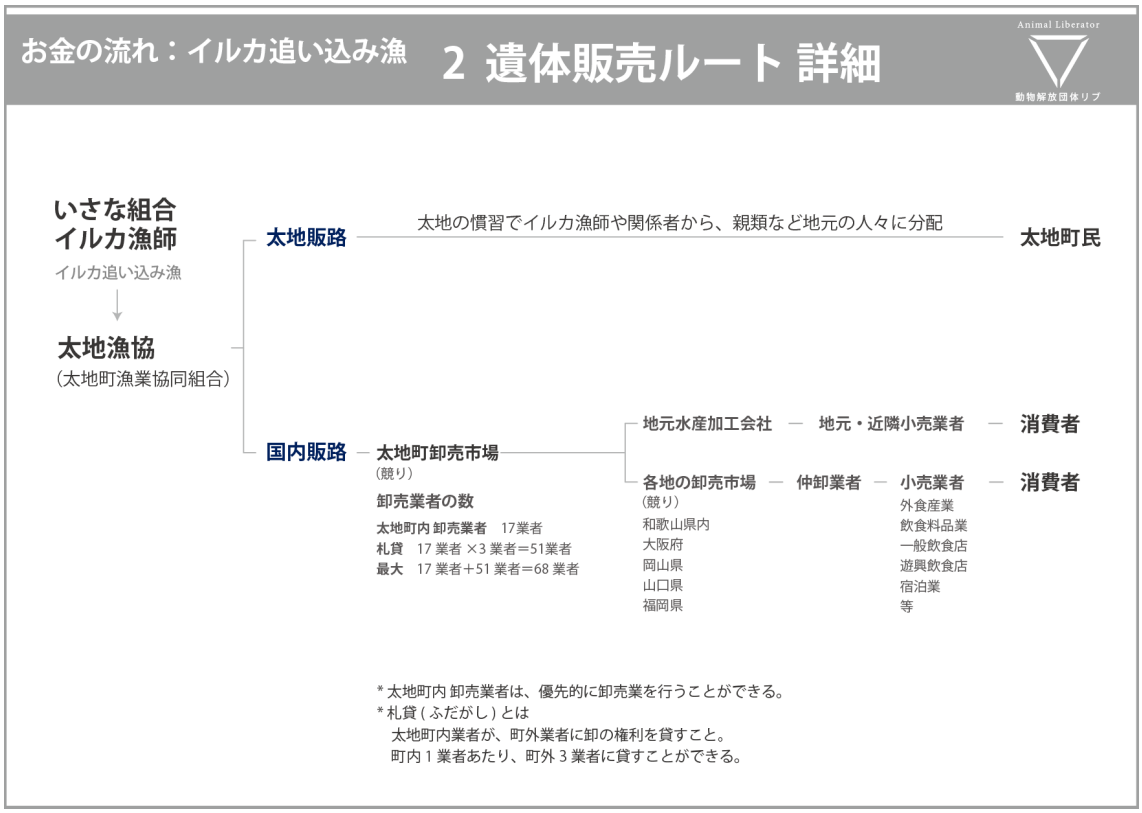
以下に現段階でわかっているそれぞれのルートを示します。

［お金の流れ：イルカ追い込み漁：1 販売ルートとイルカの値段］



遺体販売ルート：食用としてのイルカはの販路は以下です。

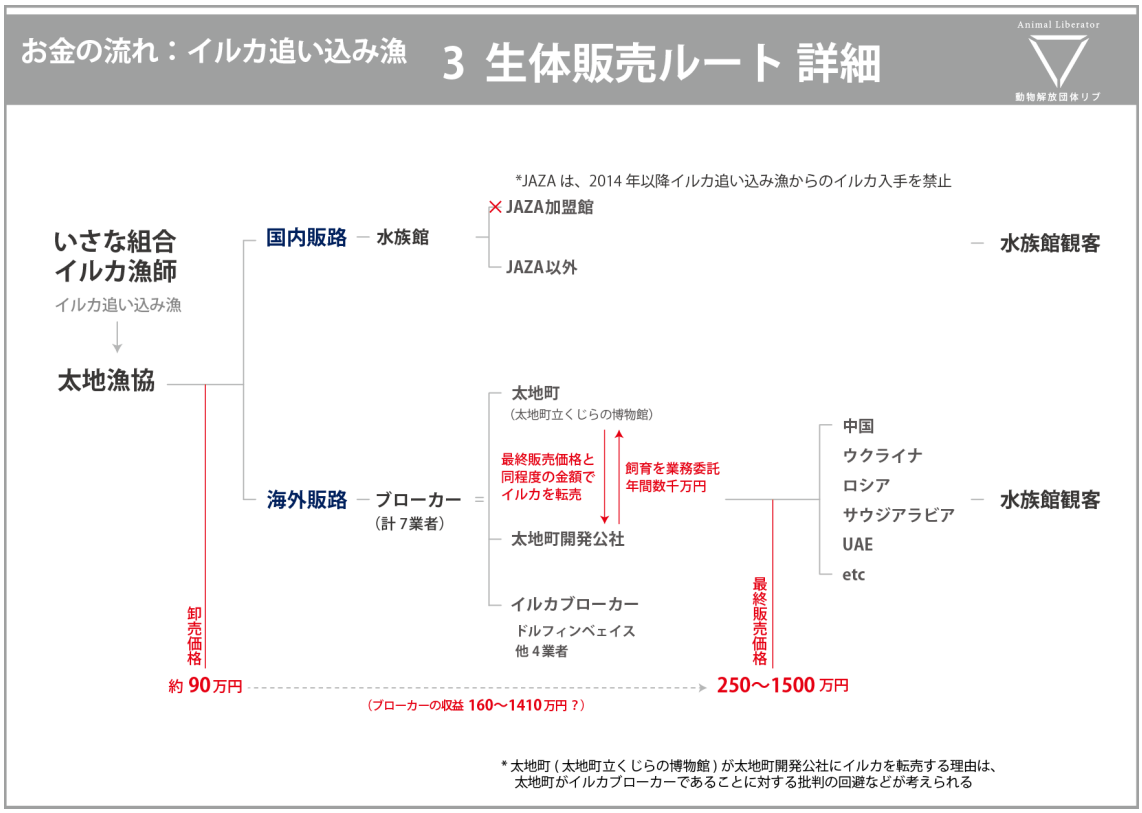
［お金の流れ：イルカ追い込み漁：2 遺体販売ルート 詳細］



①慣例の販路：太地の慣習でイルカ漁師や関係者から親戚など地元の人々に分配されます。
②卸売の販路：太地漁港の卸売市場でセリにかけられ、大阪や福岡などの卸売市場に輸送され、小売店や外食産業で販売され、各地の消費者に届きます。太地町卸売市場での競りに参加できるのは、太地町内の卸売業者です。ただし、町内卸売業者1業者につき町外卸売3業者まで競りに参加する権利を与えることができます。これを札貸(ふだがし)といいます。町内卸売業者は17業者。それぞれが町外卸売業者3業者に貸すことができますので、町外卸売業者は17×3＝51業者が参加できます。町内と町外業者を合わせて最大68業者までが競りに参加することができます。

生体販売ルート

［お金の流れ：イルカ追い込み漁：3 生体販売ルート 詳細］



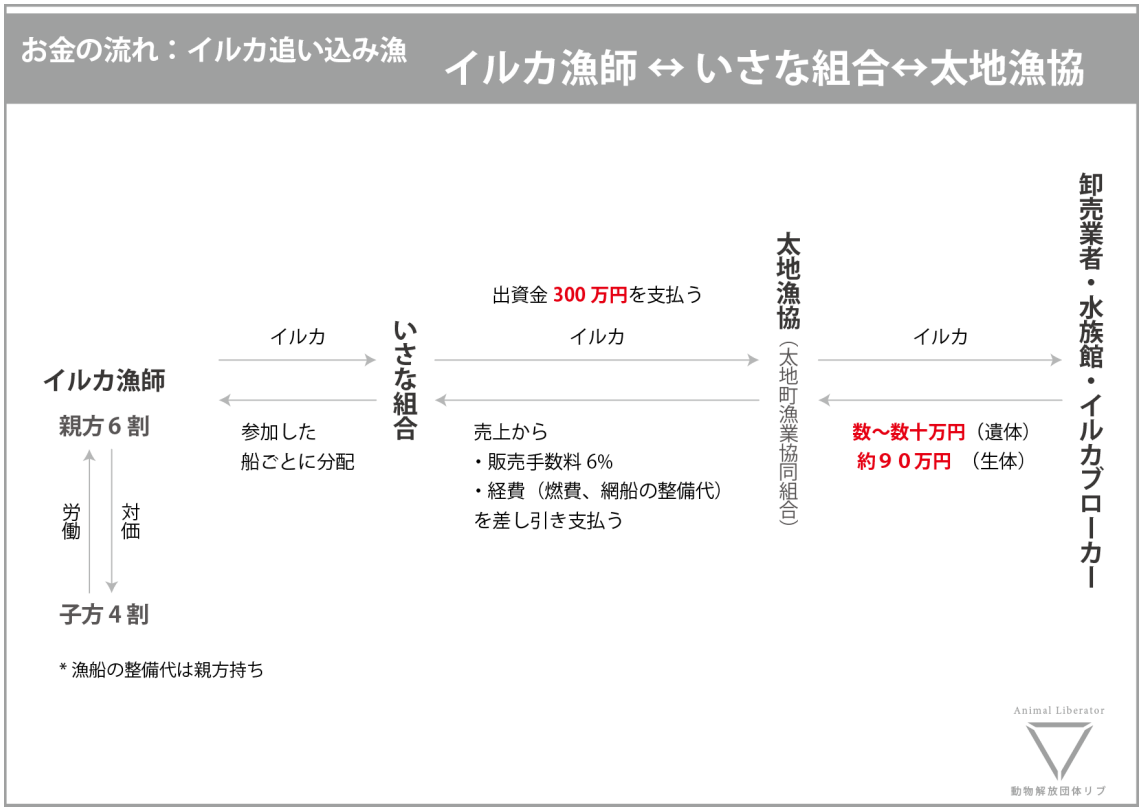
生体販売の場合は、まず、イルカ漁師の組合であるいさな組合から太地漁協がイルカを全部買い上げます。太地漁協は、太地町(立くじらの博物館)・太地町開発公社・イルカブローカー・国内水族館などに販売します。例えばバンドウイルカだったら1名およそ90万円ほどです。太地町(立くじらの博物館)・太地町開発公社・イルカブローカーは、さらに国外水族館に転売します。まとめると以下になります。

国内水族館ルート：太地漁協→国内水族館（JAZA加盟館以外）・ドルフィナリウム・ホテル等→水族館の観客（エンドユーザー）

海外水族館ルート：太地漁協→太地町(立くじらの博物館)・太地町開発公社・イルカブローカー→海外の水族館→は、現地の水族館の観客（エンドユーザー）

イルカ漁師、いさな組合、太地漁協のお金の流れ

［お金の流れ：イルカ追い込み漁：イルカ漁師と太地漁協］



出資金

イルカ漁師は、イルカ漁を行うための出資金として、太地漁協に300万円の出資金を支払っています。出資金は、イルカ漁師13名で等分し、利益の配分も13等分、議決権も13等分としています。

販売

イルカ漁師に捉えられたイルカは、いさな組合を通して、太地漁協に渡ります。太地漁協は、卸売業者や水族館、イルカブローカーに販売します。

収益

太地漁協は売上を受け取り、そこから販売手数料6%と燃費や網船の整備代などを差し引き、いさな組合に支払います。いさな組合は、イルカ漁に参加した船ごとに売上を等分し、イルカ漁師に支払います。イルカ漁師は、イルカ漁を手伝っている若い漁師に対価を支払います。取り分は、イルカ漁師(親方)6割、手伝っている漁師(子方)4割です。

第二目　イルカの値段

イルカの販売先と値段はほとんどブラックボックスです。太地町やくじらの博物館・イルカブローカー・水族館はなんとかしてイルカの値段を隠そうとし、国内外の団体や活動家はなんとかして正しい値段を知ろうとしています。

遺体販売

［卸値］

コビレゴンドウ×1　80万円～

スジイルカ×1　4000円～5000円

特にコビレゴンドウの値が高くなります。しかし80万円程度。スジイルカに至っては千円代です。この値段で売らるためにイルカたちは殺されます。

［小売値］

腹肉　値段不明

［写真：腹肉］



［写真：スジイルカ］



太地町道の駅で撮影した腹肉です。おそらくスジイルカのお腹と思われます。太地町立くじらの博物館では「スジイルカの特徴はお腹の色が白いこと」という旨のアナウンスがあります。右の写真はくじらの博物館でショーをさせられているスジイルカです。

コロ　60g 500円

［写真：コロ］



コロとは、イルカの表皮と皮下脂肪部分部分です。写真は、太地町立くじらの博物館で販売されていたカズハゴンドウとハナゴンドウの皮膚です。

うでもの　100g 298円

うでものとは内臓を茹でたもの。太地町道の駅で販売していたカズハゴンドウの内蔵です。

［写真：内臓のうでもの］



うでもの　100g 298円

ゴンドウクジラ(マゴンドウ)の内蔵です。

［写真：うでもの］



干物　180g 580円

カズハゴンドウの遺体です。

［写真：干物］



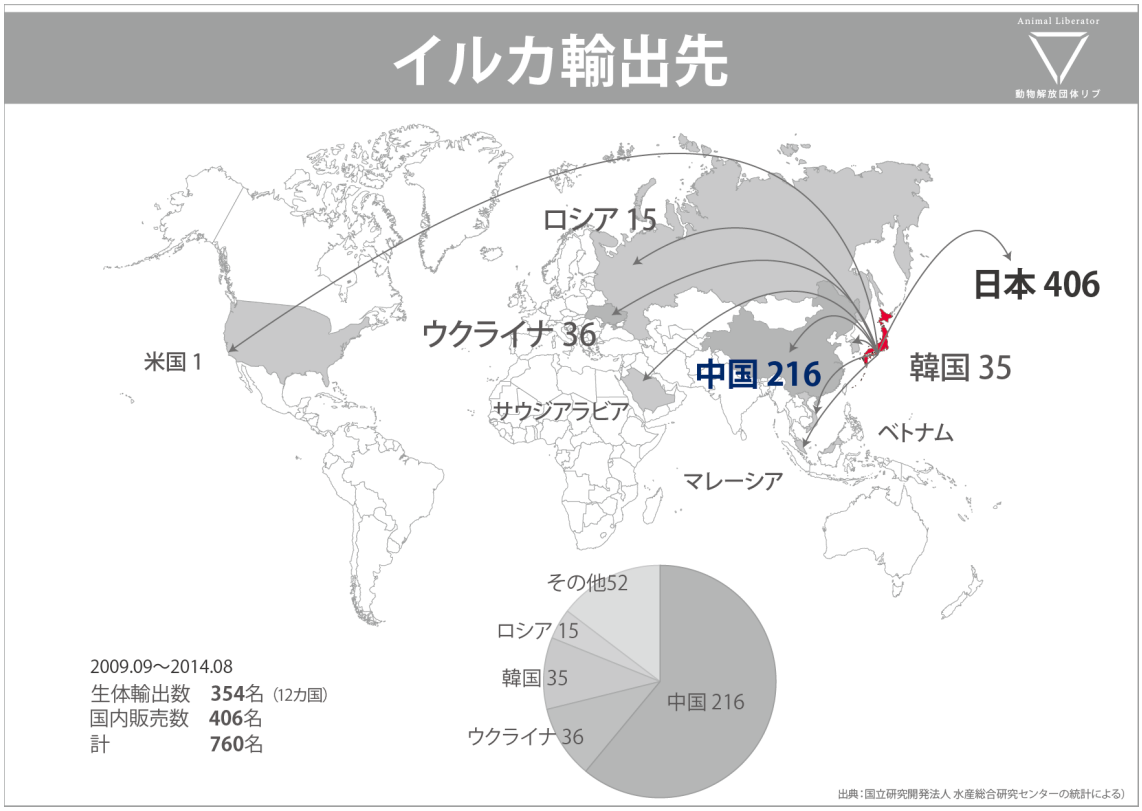
生体販売

国立研究開発法人 水産総合研究センターの統計によると2009年9月～2014年8月、太地町は、国内406、輸出354、計760ものイルカを販売しています。輸出の内訳は、中国216、ウクライナ36、韓国35、ロシア15、その他52（サウジアラビア、ベトナム、マレーシア、米国など12カ国）。

翌2014年9月～2015年4月の漁期には937名を捕獲し、853名を殺害、84名を水族館に販売しています。

太地漁協の生体イルカの販売価格は90万円ほどですので、5年間で760×90＝6億8400万円。太地町立くじらの博物館や太地町開発公社は、これに上乗せして数百万円～1000万円以上で水族館に販売します。合計いくらになっているのかは不明です。

［MAP：イルカ輸出先］



以下で示すイルカの値段の根拠は、太地町の漁野尚登議員のブログ「太地町町議会議員　漁野尚登のブログ」から引用させていただきます。漁野議員は、行政や博物館が動物のブローカーをすべきではないという立場で活動されています。

概要

最初にイルカ1名当たりの値段をまとめます。

漁協の販売価格　バンドウイルカ　90万円前後（1名当たり）

海外への販売価格　250～800万円強（1名当たり）

*オキゴンドウが1500万円で売れたという話を聞いたこともあります。

根拠

以下漁野氏のブログの日付、イルカの売買に関する情報の抜粋（資料名）です。

2014-04-06

太地町開発公社→不明

2011 バンドウイルカ×17　57,224,900円（1頭当たり 3,366,170円）

2012 バンドウイルカ×14　54,000,530円（1頭当たり 3,857,180円）

（一般財団法人太地町開発公社 平成24年度決算書）

2015-06-18

太地町→太地町開発公社

2015 バンドウイルカイルカ(F)×3　14,185,800円（1頭当たり 4,728,600円）

（太地町から太地町開発公社へのイルカ譲渡議案）

2015-09-07

太地町開発公社→不明

2014 バンドウイルカ×32、カマイルカ×3、ハナゴンドウ×1、オキゴンドウ×1　計37

187,269,940円（1頭当たり 5,061,350円）

2015-10-27

太地町→太地町開発公社（2014年の譲渡）

2014.04.03　オキゴンドウ(F)×1　6,825,600円

2014.05.01　バンドウイルカ(F)×1　3,906,900円

2014.08.01　バンドウイルカ(F)×2　2,610,900円×2

計　15,954,300円

（平成26年度のくじらの博物館の動物譲渡に関するすべての書類）

2016-10-05

漁協→太地町

バンドウイルカ(M)×3　1,995,000円（1頭当たり 665,000円）

バンドウイルカ (F)×8　7,140,000円（1頭当たり 892,500円）

*(M)×1は博物館で飼育。残10は譲渡のため（つまりブローカー）。

（第 1 回臨時議会）

2017-09-15

バンドウイルカ×10、カマイルカ×1

漁協→太地町開発公社　10,490,000円（1頭当たり 953,636円）（原価）

太地町開発公社→不明　57,873,530円（1頭当たり 5,261,230円）（収入）

* 太地町開発公社の収益　1頭当り 4,307,594円

（一般財団法人太地町開発公社 平成27年度決算書）

2017-09-24

バンドウイルカ×35

漁協→太地町開発公社　32,992,230円（1頭当たり 942,635円）（原価）

太地町開発公社→不明　215,405,520円（1頭当たり 6,154,443円）（収入）

* 太地町開発公社の収益　1頭当り 5,211,808円

（一般財団法人太地町開発公社 平成28年度決算書）

2018-12-12

太地町→中国

イルカ×19頭　1億5500万円（1頭当たり 8,157,895円）

バンドウイルカ×6（F×4 M×2）、ハナゴンドウ×2（F×1 M×1）、カマイルカ×5（F×1 M×4）、マダライルカ×2（F×1 M×1）、スジイルカ×2（F×1 M×1）、シワハシルカ（M×1）、カズハゴンドウ（F×1）

（平成30年第4回太地町議会定例会開催のお知らせ）

2019-03-08

太地→中国

バンドウイルカ×14（F×9 M×5）　7000万円（1頭当たり 5,000,000円）

（平成31年第1回太地町議会定例会開催のお知らせ）

備考）2016-05-03

太地町開発公社が、太地町に、イルカの管理を委託　22,000,000円

バンドウイルカ×39　カマイルカ×3

《参考》イルカ輸出入数の調べ方

①財務省 普通貿易統計（ https://www.customs.go.jp/toukei/search/futsu1.htm ）

【全国の統計品目情報】 A-1 品別国別表 をクリック

・輸出 or 輸入を選択

・期間を選択

・品目の指定→品目コード指定→「0106.12」と入力

* 0106.12：HSコード：生きているくじら目、海牛目及び鰭脚下目

* HSコード：第1部 動物（生きているものに限る。）及び動物性生産品

https://tsukanshi.com/hscode/section/2/

HSコードとは、あらゆる貿易対象品目を21に大分類し、6桁の数字で表したもの。

②CITESトレードデータベース

https://trade.cites.org/ をクリック

Year Range：2017年だったら、From「2017」　To「2017」

Exporting countries：Japan

「Search」をクリック

↓

REPORTS

Select output type：web か csv を選択

Select report type：Comparative Tabulationsを選択

↓

結果が出力されるのでページ内検索（MacだったらCommand +F）で「cetacea」を抜き出す。

第三目　食肉と生体販売の収益はどちらが多いか

まとめ

食肉

2012年　　8797万5510円

2013年　　6473万6440円

2014年　　4635万5643円

生体販売

2015年　太地漁協の卸値　1億3500万円

　　イルカブローカーの小売値　不明（卸値にマージンを上乗せした額）

食肉による収益よりも、生体販売からの収益が多いことがわかります。

根拠

再び太地町議会議員、漁野氏のブログから引用します。2015年9月17日の記事によると、

太地町漁協海産哺乳類取扱量及び金額は以下です。

食肉

2012(平成24)年度　　8797万5510円　166,9トン　527円/kg

2013(平成25)年度　　6473万6440円　132トン　490円/kg

2014(平成26)年度　　4635万5643円　91トン　509円/kg

生体販売

2015(平成27)年、水族館やイルカブローカーから例年並みの150頭の注文があり、漁協の生体イルカの販売価格は90万円ですので、

150頭×90万円＝1億3500万円、の売上げとなります。

太地町くじらの博物館や太地町開発公社は、漁協から購入したイルカを数百万円から1千万円以上で中国等の水族館に販売しますので、さらに数億円以上の儲けが出ます。

太地町やイルカ漁支持派はイルカ漁は伝統文化であると主張し、世間にもそうアピールします。しかし本当の目的は、伝統文化であるイルカ肉食では無く、水族館への生体販売になっているということがわかります。つまりイルカ漁は伝統文化を装っていますが、実態は伝統文化ではなくなっているということです。さらには、生体販売を続けたいがために、伝統文化を装えるイルカの殺害・遺体販売を続けているという話もあります。

第五節　利権

イルカ漁利権を［第八部 第一章 第二節　動物利用問題］の［図：動物利用問題］に当てはめますと以下になります。

［図：イルカ利権と動物利用問題］



生活に関するさまざまな分野に渡っていることがわかります。例えばイルカ漁は小さな産業ですが、それを支える利権は大きいものです。政治家は票や人気、官僚は天下り、ビジネスはイルカブローカーや水族館、学術会は研究予算、報道はニュースネタ、消費者はイルカ肉と水族館、イルカ漁支持者は思想の維持、とそれぞれの思惑によってイルカ漁を支えています。

動物利権には、政官財学法報暴消が全て関わっているケースが多く、ゆえに解決が難しくなります。目の前の現実だけを変えようとしていては解決は不可能であり、利権の全体像を把握した上でボトルネックを発見し、ターゲットと目標を設定し戦略設計し、実行する必要があります。その方法は一つではなく、団体や活動家の方針によって決まります。しかしそのアプローチが多様で複合的であるほど、問題解決の可能性は高まります。

第一項　政

捕鯨の場合は、国と産業が運営していますが、イルカ漁の場合は、国・県・町と産業が運営しています。ゆえに政治家は、国会議員、県議会議員、町議会議員がそれぞれのレベルでイルカ漁に関わることになります。現状では、議員はイルカ漁賛成派がほとんど。ごく少数、イルカ漁の在り方に疑問を呈する議員がいます。イルカ漁に明確に反対する議員は現在のところはいないと思われます。

第一目　国会議員

和歌山県選出の国会議員は5名、自民党4名、無所属1名。保守王国です。政治家がどんな人物か知っておくことは重要です。

［衆議院］（2021/10/31 第49回衆議院議員総選挙）

岸本周平(きしもと しゅうへい)（和歌山1区）（無所属）

和歌山市生まれ。東京大学法学部、大蔵省、主税局、主計局主査、理財局国庫課長、国会議員というエリート。2022年国民民主党を辞め、無所属に。自民党、立憲民主、国民民主が推薦した。門氏はこれにより落選。

* 2022年9月1日議員を辞職、11月27日和歌山知事に就任しました。

［URL：Website：https://shuheikishimoto.jp］

［URL：WIki：https://ja.wikipedia.org/wiki/岸本周平］

石田真敏(いしだ まさとし)（和歌山2区）（自民党）

海南市生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科、和歌山県議会議員3期、海南市長選挙2期、衆議院議員8期の叩き上げ。岸田派。

［URL：Website：https://ishida-masatoshi.net］

［URL：WIki：https://ja.wikipedia.org/wiki/石田真敏］

二階俊博(にかい としひろ)（和歌山3区）（自民党）

御坊市出身。中央大学法学部政治学科、和歌山県議会議員2期、衆議院議員13期、経済産業大臣、運輸大臣、自由民主党幹事長、総務会長、国対委員長、自由民主党和歌山県連会長。二階派(志帥会)（2022年8月時点：安倍派97、茂木派54、麻生派51、岸田派43、二階派43、森山派7）を率いる自民党の重鎮。太地町は和歌山3区。詳細は「第四目　中国← 二階← 太地← イルカ漁」へ。

［URL：Website：http://www.nikai.jp］

［URL：WIki：https://ja.wikipedia.org/wiki/二階俊博］

［参議院］

鶴保庸介(つるほようすけ)（2016年 第24回参議院議員通常選挙）（自民党）

大阪市生まれ。東大文一→法学部、参議院議員5期。二階氏の元で当選する。内閣府特命担当大臣、国土交通副大臣。二階派。スキャンダルが多い議員（Wiki参照）。

［URL：Website：https://www.tsuruho.com］

［URL：Wiki：https://ja.wikipedia.org/wiki/鶴保庸介］

世耕弘成(せこう ひろしげ)（2019年 第25回参議院議員通常選挙）（自民党）

大阪市生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科、NTT、ボストン大学、参議院議員5期。経済産業大臣、内閣府特命担当大臣、原子力経済被害担当大臣、産業競争力担当大臣、ロシア経済分野協力担当大臣等。近畿大学第4代理事長。メディアコントロールが得意とされ自由民主党広報本部マルチメディア局長を務めた。二階氏は将来首相を狙える位置におり、衆議院和歌山3区への鞍替えを狙っている。すでに83歳の二階氏は息子に地盤を引き継ぎたい二階氏と鍔迫り合いをしている。イルカ漁、生体販売への影響を注視したい。

［URL：Website：https://sekohiroshige.jp］

［URL：WIki：https://ja.wikipedia.org/wiki/世耕弘成］

［今後復活の可能性がある議員］

門博文(かど ひろふみ)（自民党）

衆議院議員を3期務め、国土交通大臣政務官だったことも。岸本氏に敗れ落選。二階派。

［URL：Website：http://www.warau-kado.jp］

［URL：WIki：https://ja.wikipedia.org/wiki/門博文］

二階俊樹(にかい としき)（1965.04.26生）

長男。御坊市長選に落選。素行が悪く人望がないとされ、後継者には疑問視されている。

二階直哉(にかいなおや)（1972.05.22生）

次男。暴力団幹部と共謀して会社乗っ取りを行った疑惑があり、後継者には疑問視されている。

二階伸康(にかい のぶやす)（1978.01.04生）

三男。ANA、二階俊博氏秘書。腰が低く、後継者に最も近いとされている。

余談ですが、和歌山市の方は「御坊市はガラが悪い」というイメージを持たれていました。もちろんそうでない方が圧倒的多数でしょうが。

［関係団体］

自由民主党和歌山県支部連合会［URL：http://www.jimin-wakayama.jp］

会長　二階俊博

会長代行　石田真敏、鶴保庸介、世耕弘成、門博文、尾崎要二

第二目　県議会議員

和歌山県議会議員は42名、会派別人数は以下です（2021年4月1日現在）。

自由民主党県議団　28名（67%）

改新クラブ(旧民主党系)　5名（12%）

日本共産党　4名（10%）
公明党　3名（7%）
日本維新の会　1名
無所属　1名
［URL：会派別名簿：https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/200100/cms/d00154525.html］
保守地盤であることがわかります。イルカ漁に関して和歌山県議会にアプローチしていくときは事前の調査が必要です。また、イルカ漁反対に関してロビーイングを行うときは、論理、倫理、経済、将来予想、集票に関するポジティブな見解などの説得力のある資料を準備していくことになるでしょう。

第三目　町議会議員

太地町議会議員は10名。三軒町長派と反町長派に分かれており、町長派は9名、反町長派は1名、漁野尚登氏です。
最新の選挙結果（2021年07月18日 投開票）
有権者数2,661人、男性 1,181人、女性 1,480人（前回より177人 減少）
1　296票　すじし みつひろ（男　63歳　新人　無職）
2　257票　しおざき 伸一（男　71歳　現職　水産加工）
3　223票　ふくだ ただよし（男　44歳　現職　会社員）
4　201票　はなむら けい（男　47歳　現職　会社員）
5　189票　三原 勝利（男　83歳　現職　無職）
6　181票　水谷 いくお（男　64歳　現職　魚仲卸業）
7　180 票　漁野 ひさと（男　64歳　現職　無職）
8　158票　久原 たくみ（男　73歳　現職　無職）
9　142 票　森岡 しげお（男　70歳　現職　一級建築士）
10　142票　かいのよしつぐ（男　67歳　新人　無職）
［URL：議員名簿：https://www.town.taiji.wakayama.jp/gikai/］
町長の方針を9名の議員が追認する形となっています。年齢内訳は80代1名、70代3名、60代4名、40代2名。

一案ですが、もしイルカを保護したい人が太地町に引っ越し3ヶ月以上経てば、太地町議会議員選挙に立候補できます。前回選挙でいえば142票以上獲得すれば、町議会議員になることができます。もちろん、当選するには太地町や町民に真摯に貢献するのは当然ですし、信用信頼の獲得が必須です。3ヶ月では足りず、時間をかけて認めていただくことが必要です。実際議員になった場合、様々な活動ができ効果を得られることが予想されす。町に対し

て具体的に町に提言や働きかけができる、町民に語り掛けられる、情報収集や情報開示に有利な立場になる、ニュース性がある、記者会見などマスコミに取り上げられやすい、イルカ保護教育ができるなど、議員として活動できることはたくさんあります。

第四目　中国と二階氏と太地

太地町のイルカ輸出先の60%以上が中国であったことは述べました。なぜ、陸の孤島とも呼ばれる太地町が中国との強いパイプを作ることができたのでしょう。これは、太地町がある和歌山3区選出で、衆議院議員を13期務める自民党の重鎮二階俊博氏の力と考えることができます。

中国と二階氏

1983年今から40年前に衆議院議員に初当選してから、二階氏は外交に力を入れてきました。中国だけではなく、アジア各地やアフリカなどにもパイプを持っています。中国にはこれまで、数百人から数千人の日本人を連れて何度も訪問し、日中国交正常化30周年記念式典には約1万3000人の日本人を参加させました。中国では「大国である中国と、それを追う日本」と発言しています。また日中国交正常化30周年記念のために日本全国に江沢民氏の文字を刻んだ碑をを建立しようとしました。中国の経済戦略、一帯一路に最大限協力を約束し、尖閣に関しては棚上げ論者です。習近平総書記の片方の手を、二階氏が両手で握りしめる写真を見たことがあるかもしれません。二階氏は「媚中派」、つまり中国に媚びる議員であると揶揄されています。

アドベンチャーワールドのパンダ

日本でパンダを監禁しているのは3施設。うち2施設は歴史ある行政動物園で、東京都運営の恩賜上野動物園と神戸市運営の王子動物園。1施設は民間動物園で、和歌山県西牟婁郡白浜町にあるアドベンチャーワールドです。

恩賜上野動物園（東京都台東区）は、1882年開園、日本で最も古い動物園です。恩賜との名前にあるように1924年、天皇家から東京市に譲渡されました。現在、上野動物園が所属する東京動物園協会の総裁は常陸宮正仁親です。王子動物園（兵庫県神戸市）は、1928年、昭和3年開園（前身 諏訪山動物園）。日本で3番目に古い動物園です。

アドベンチャーワールド（和歌山県西牟婁郡）は、1978年開園、建設業者株式会社アワーズが運営する民間動物園兼水族館です。中国が日本のいち民間動物園にパンダを貸与することになった背後には二階俊博氏の力があったと言われています。

中国→ 二階→ 太地町→ イルカ

太地町近辺で二階氏の評判を聞くと、さまざまな意見があります。年配で商売をされている人々は、二階氏の地元経済への貢献を讃え感謝や尊敬の念を語ります。一方批判する人々もいましたが批判を口にする前は「大きな声で言えないけど」「オフレコで」という枕詞が付きます。二階氏の隠然たる力を感じます。太地町の三軒一高町長は、二階氏を「神様みたいなもの」とまで表現しています。

二階氏は、嫌中保守派から批判されています。一方彼らが守ろうとする、イルカ漁業者や太地町は、二階氏と組み中国に利益をもたらしています。

第二項　官

イルカ漁に関わっている行政は、水産庁、太地町です。

第一目　水産庁

水産庁 資源管理部 国際課 捕鯨室 捕鯨２班の役割は、小型捕鯨業等(基地式捕鯨、イルカ突き棒漁、イルカ追い込み漁)の指導及び調整等。捕獲対象種や捕獲頭数を定め、捕獲数を集積しています。問題は天下りで、捕鯨と同様です。［本文参照：第四部 第七章 第六節 第二項　官］をご覧ください。

第二目　太地町役場

太地町役場

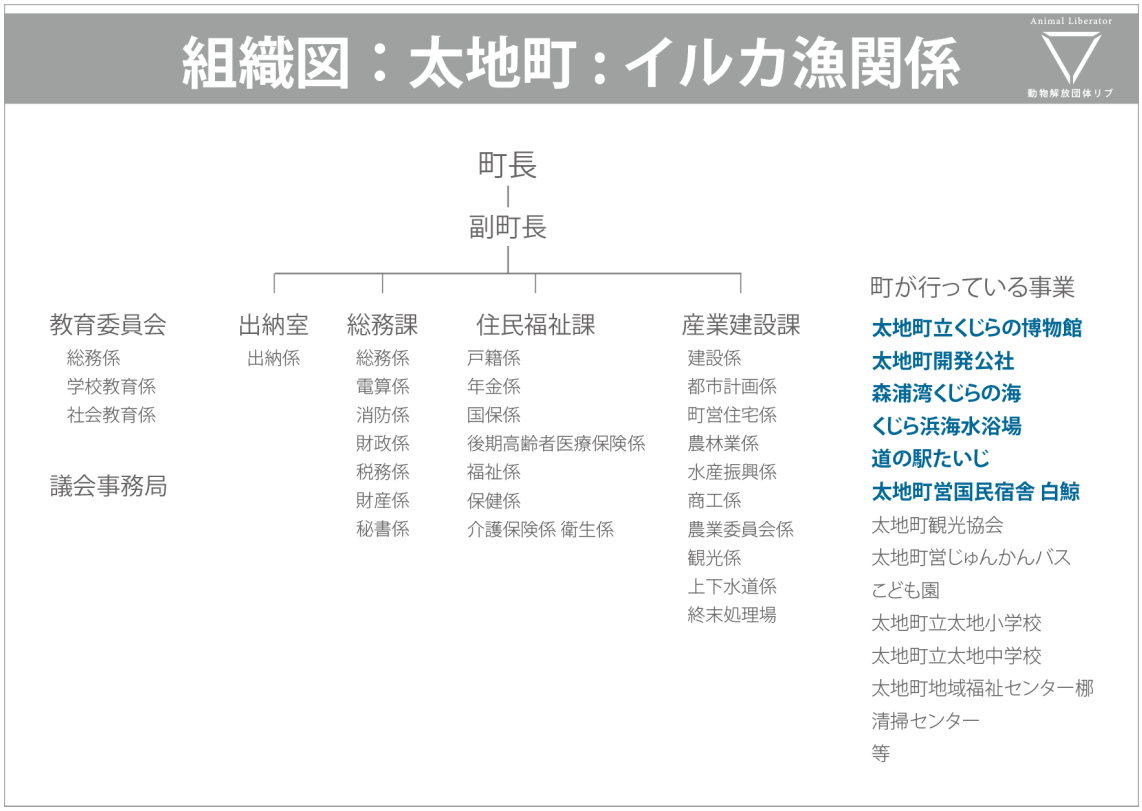
太地漁港の一番奥にあります。太地町の特徴は、町長をトップとして町役場が住民サービスを行う以外に、町自身がイルカに関係する事業を多岐に渡って行っていることです。また、イルカのブローカーや鯨肉の販促事業を行っている太地町開発公社は、この太地庁役場2階にあります。

［写真：太地町役場］



以下の太地町組織図の青字のものが、イルカやクジラに関する事業です.

［組織図：太地町：イルカ漁関係］



第三目　太地町立くじらの博物館

太地町が直接経営する町営の施設です。1969年4月に太地町の観光立町の目玉として、太地町立くじらの博物館が開館しました。くじらの博物館が建設されなかったら、太地町で現代イルカ追い込み漁が始まることはありませんでしたし、現在も行われていなかったでしょう。

イルカブローカー

くじらの博物館は、博物館であり、イルカ漁業者であり、イルカブローカーです。イルカ漁にイルカトレーナーを派遣し捕獲を行わせ、捕獲したイルカを漁協から買取り、中国などの海外水族館に販売します。また購入したイルカを一度太地町開発公社に転売してから、海外水族館に売ってもいます。販売先を隠すためと見られています。

町立施設つまり町自体がイルカブローカーを行っていること、博物館がイルカブローカーを行っていること、町が民業ブローカーを圧迫していることに対して、大治町議会議員漁野氏やドルフィンベェイスの三好晴之氏が批判しています。三好氏は2005年、くじらの博物館によるイルカ取引は、社会教育法・博物法に反しているとして議会に陳情書を提出しています。

組織（2020年時点）

明らかではありませんが、館長、副館長、学芸員、イルカトレーナー、受付や売店の方で構成されていると思われます。現在の体制は、

館長：稲森大樹氏（9代目館長、東京海洋大学卒、元主査）

副館長：中江環氏（学芸員）

主査：今川恵氏（三重大学大学院卒、国立研究開発法人水産研究・教育機構、元副主査、学芸員）

会計

広報太地によると、太地町くじらの博物館の決算は以下です。

（1,000円以下四捨五入）

平成22(2010)年度　歳入6億6587万円　歳出5億4409万円　差引1億2178万円

平成23(2011)年度　歳入3億3760万円　歳出2億7559万円　差引6201万円

平成24(2012)年度　歳入2億8955万円　歳出2億2885万円　差引6069万円

平成25(2013)年度　歳入3億0305万円　歳出2億4758万円　差引5547万円

平成26(2014)年度　歳入3億2037万円　歳出2億5852万円　差引6185万円

平成27(2015)年度　歳入3億3354万円　歳出2億7212万円　差引6142万円

平成28(2016)年度　歳入3億2599万円　歳出3億1105万円　差引1495万円

平成29(2017)年度　歳入5億0007万円　歳出3億5289万円　差引1億4719万円

平成30(2018)年度　歳入6億3749万円　歳出3億8012万円　差引2億5736万円

令和元(2019)年度　歳入5億9008万円　歳出4億3812万円　差引1億5197万円

令和2年(2020)度　歳入5億0162万円　歳出3億6,283万円　差引1億3879万円

漁野氏の2016年5月3日付のブログによると

平成28年度の収益内訳と人件費支出は、

博物館収入1億1100万円、売店収入3740万円、手数料及び使用料215万円、雑収入2366万円（内動物賃貸料120万円）、動物管理収入2200万円（太地町開発公社のバンドウ39、カマ3の管理費）、基金積立金利子16.5万円、繰越金3000万円、基金繰越金4000万円（ナミを売ったお金）、計2億6537.5万円。物品売払収入600万円（小型鯨類譲渡代金）。支出のうち1億2700万円が人件費だそうです。

研究

くじらの博物館とイルカ追い込み漁を行っている畠尻湾との距離は、直線距離で300mほど。捕獲したイルカをすぐに、水族館に搬入できます。そのため、スジイルカやマダライルカなど気が弱いため輸送中に死んでしまったり飼育が難しいとされ

るイルカや、カズハゴンドウやシワハイルカといった捕獲対象種になったばかりのイルカを、飼育や調教、繁殖等の研究材料とすることができます。
行っている研究は、「くじらの博物館における新たな鯨種飼育開発に関する研究」として、「スジイルカ飼育の試み」「マダライルカの初期馴致と飼育経過」。出版物として、「太地町立くじらの博物館における新たな鯨種飼育の試み マダライルカとスジイルカの飼育に挑戦」があります。研究を行っているのは、くじらの博物館の副館長や主査などです。研究という商品開発を行い、イルカを商品化・家畜化し、各地の水族館に販売し収益を上げることができます。
くじらの博物館では日本で唯一、スジイルカのショーを行なっています。また当時驚いたことを覚えていますが、2020年4月開館した四国水族館が、それまでほとんど飼育監禁されていなかったマダライルカを7名購入監禁しました。商品化が成功したのかもしれません。

JAZA脱退

2015年、JAZAが追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止するとの決定を行うと、くじらの博物館は即座にJAZAを脱退しました。イルカ搾取を奪われたらくじらの博物館の存在理由は消滅します。また、日本全国の水族館に供給する発信地でもありますので、当然脱退するでしょう。

供養祭と年間死亡数

くじらの博物館では毎年4月くじらの博物館で死亡した動物の慰霊祭を行なっています。それによると、2002年カマイルカ等哺乳類4名、2016年オキゴンドウ・ハナゴンドウ等鯨類4名、2017年バンドウイルカ3名・マダライルカ1名哺乳類計4名、魚類・甲殻類・クラゲ等約150種約1400名、2018年スジイルカ・シワハイルカ・マダライルカ等17名、魚類や無脊椎動物1300名余り、2020年鯨族35名、魚類約275名でが亡くなったということです。

第四目　太地町開発公社

1966(昭和41)年10月18日に太地町の観光立町政策の一環で 土地造成販売事業を行うための法人として財団法人太地町開発公社設立されました。
現在の社長は太地町町の三軒一高氏。会社は太地町役場内にあります。ウェブサイトは存在しません。現在はイルカの輸出販売と給食への鯨肉販売事業を行っているようです。森浦湾くじらの海にストック用のイルカを所持し、くじらの博物館にイルカの世話をアウトソーシングしています。

会計

平成23(2011)年度

鯨肉販売事業計4293万円（内訳：学校給食2717万円、地域住民1319万円、地域住民ケース売83万円、缶詰110万円、ソーセージ64万円）

生体販売事業計5722万円（内訳：バンドウイルカ17）

平成24(2012)年度

鯨肉販売事業計4300万円（内訳：学校給食2552万円、地域住民1380万円　地域住民ケース売72万円　缶詰175万円　ソーセージ120万円）

生体販売事業計5400万円（内訳：バンドウイルカ14）

平成27(2015)年度

鯨肉販売・グッズ・その他計3631万円

生鯨類売上計5787万円（内訳：バンドウイルカ10、カマイルカ1）

平成28(2016)年度

鯨肉販売・グッズ・その他計3282万円

生鯨類売上計2億1541万円（内訳：バンドウイルカ35）

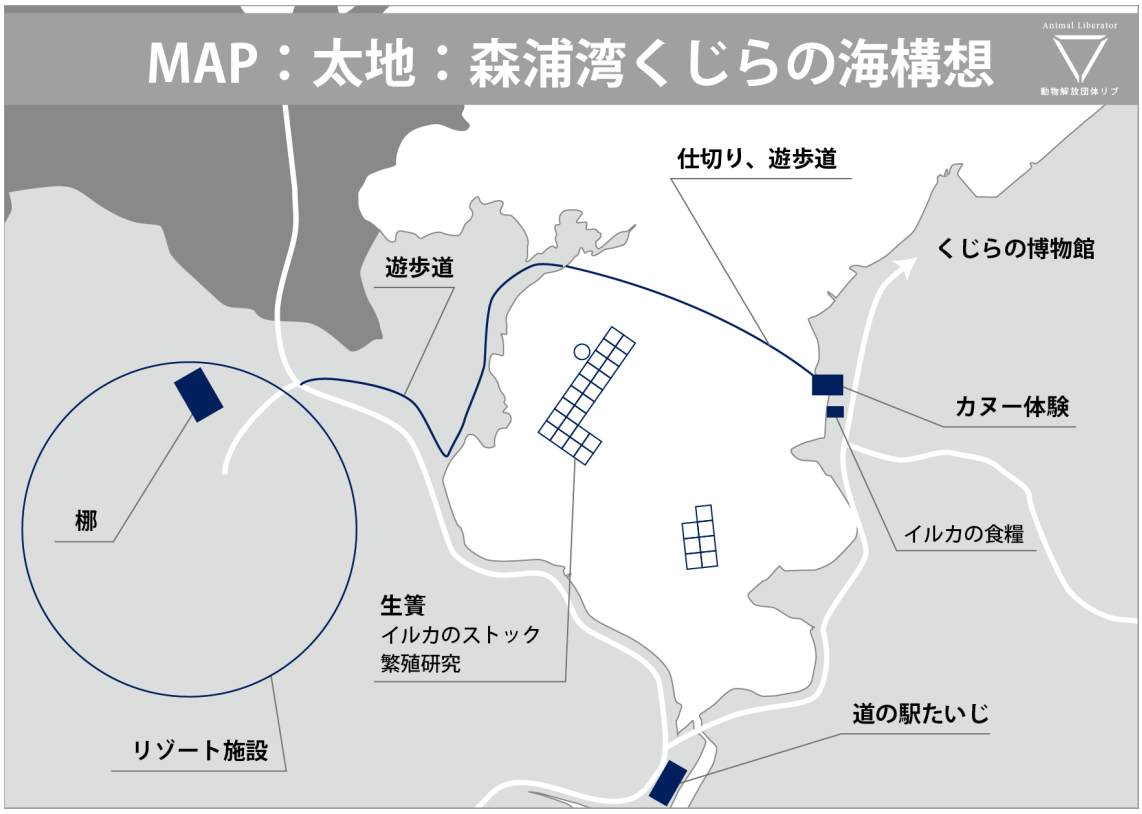
平成23,24,27年の売上のうち半分以上が生体販売、平成28年度は鯨肉販売の6.6倍になっています。

ゴンドウクジラを給食へ

2007年、太地町三軒町長が太地小・中学校に、太地産のゴンドウクジラを提供する計画を発表しました。これに対し漁野議員、山下議員(当時)が、ゴンドウクジラの肉が水銀等に汚染されていると反対。中止に追い込みました。

森浦湾くじらの海は、那智勝浦方面から国道42号線をくだり、太地に入って最初に見える大きな湾、森浦湾を、イルカを使った一大リゾート施設、研究施設にしようという構想です。庄司町長が設立したくじらの博物館に続き、三軒町の肝煎りで設立する太地町の主力事業です。

［MAP：太地：森浦湾くじらの海構想］



経緯

2006　太地町が「太地町くじらと自然公園のまちづくり構想」を策定

2014　イルカの監禁開始（バンドウイルカ）

2017　開設予定（開設できず）

2020　イルカの監禁数100名以上、生簀約30に

2022　開設準備を進めている

くじらと自然公園の町づくり協議会

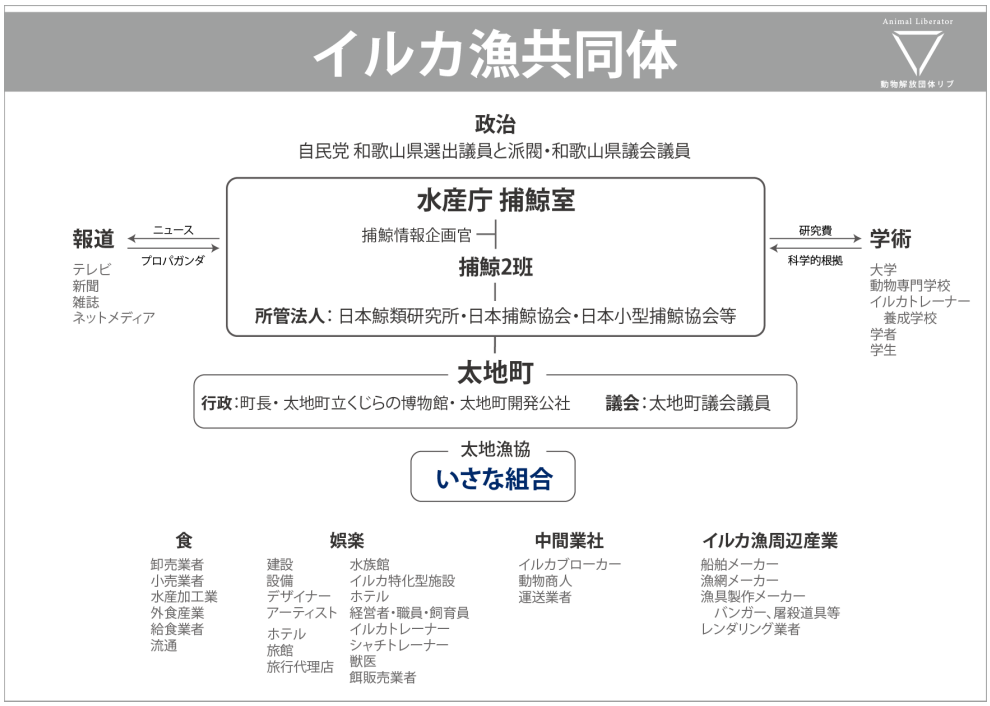
この計画は、くじらと自然公園の町づくり協議会によって行われています。協議会のメンバーは、太地町役場、太地町立くじらの博物館、太地町開発公社、太地町漁業協同組合、森浦湾漁業関係者、太地町商工会、太地町区長会、太地町勇魚会、太地町PTA、婦人会、青年会、更生保護女性会等です。

第六目　道の駅たいじ

2017年、コンビニだった場所に建てられました。太地町が設営し、太地町漁協が指定管理者として運営しています。レストランではくじら肉料理が、売店ではイルカ・クジラグッズと共に、カズハゴンドウなどのイルカの肉や、ザトウクジラやミンククジラの肉が売られています。バンドウイルカやスジイルカという名前で肉が売られているのは見たことがありません。
トイレが豪華なことで有名です。

第三項　財

イルカ漁に関係するビジネスセクターについてまとめます。
［図：イルカ漁共同体］に準じて記述します。

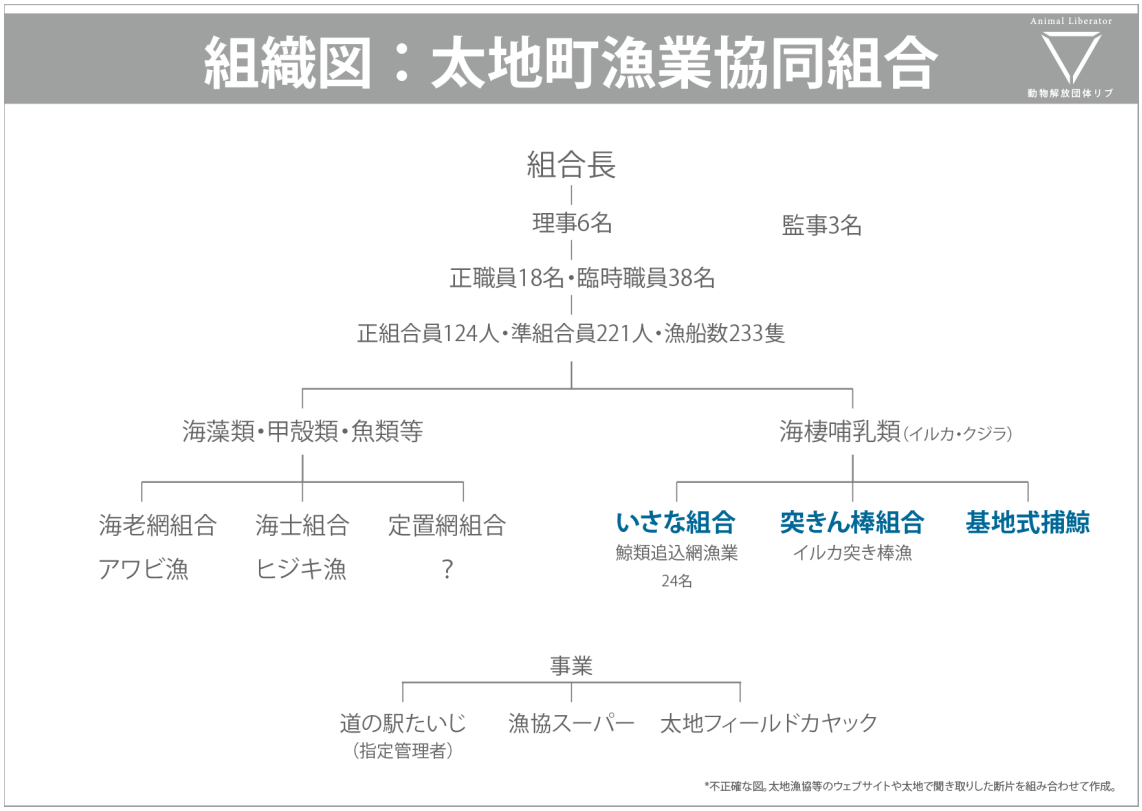


第一目　太地漁業協同組合-いさな組合

太地漁協

太地町漁業協同組合、通称太地漁協の建物は、太地漁港にあります。令和2年時点で、理事6名、監事3名、職員18名。会員が正組合員129名、准組合員218名、計347名が加入しています。太地では、イルカ漁や捕鯨の他、定置網漁、伊勢海老漁、あわび漁、サンゴ漁、海藻の採取などさまざまな漁業が行われており、それら漁業者を守り、管理する業務を果たしています。太地漁協内にイルカ追い込み漁を行う、いさな組合が入っています。
［URL：太地町漁業協同組合：http://www.taijigyokyo.com/］

［組織図：太地町漁業協同組合］



［写真：太地漁協］



太地漁協は、目の前にある漁協スーパー、太地町漁業協同組合地方卸売市場を運営しています。漁協スーパーには、生、加工、冷凍のイルカ肉やクジラ肉が販売されています。近隣の自治体のスーパーでは、「イルカ肉」等と曖昧な商品表示をされていますが、漁協スーパーでは、スジイルカ、ハナゴンドウなどと種名で記載しています。

いさな組合の歴史

現代イルカ追い込み漁を行っている**いさな組合**（いさなとは勇魚と書き、鯨のことを指す）の前身は、1968年頃、翌年に開館を控えた太地町立くじらの博物館館展示用のイルカを捕獲するため、水族館職員が発起人となり漁師を集めて結成したグループです。つまり、現代イルカ追い込み漁はそもそも水族館販売のために始まり、いさな組合も水族館販売のために設立されたグループであるということです。現代イルカ追い込み漁は、その開始時の目的から伝統文化とは関係ありませんでした。

1977年　新たなイルカ追い込み漁グループができます。既存のグループが大きな利潤を上げていたためです。

1980年　太地町のイルカ生体販売ビジネスが本格化。イルカ14088名捕獲（スジイルカ12,835、バンドウイルカ412、コビレゴンドウ481）。ある動物の搾取殺害が利潤を産むと、その動物をめぐって競争が起こり、野生動物の場合は乱獲、家畜動物の場合はより効率的な虐殺に発展します。

1983年　追い込み漁が県知事許可漁業となります。規制をかけたとも言えますが、新規参入を防ぎ利権を確定したとも言えます。「鯨類追込網漁業の許可又は起業の認可の方針」には、（許可等をすべき業業者の数の上限）を1としています。この時に2つのグループが合併します。同時に主規制枠を設け、捕獲枠を1年でイルカ系5000名、ゴンドウ系500名。漁期をイルカ系10/1～2/末、ゴンドウ系10/1～4/末日、とました。乱獲や漁民同士の対立が激化すると川奈と富戸のリンチ事件のように行き着くところまで行くか、第三者が入って調整することになります。太地の場合は同一コミュニティ内部の問題なのでまとまりましたが、捕鯨の場合国際問題ですので、利益追求に走る国がある場合まとまらなくなります。

1988年　イルカ追い込み漁グループが、いさな組合となる。いさな組合という名称からして古いイメージを抱きますが、35年前からの名称です。

2003年　シーシェパードが太地での活動を開始

2009年　映画『ザ・コーヴ』の公開によりイルカ追い込み漁は国際問題となります。

漁協の力

参考までにですが、日本の漁業組合の力は強く、行政が下手に出る場合もあります。理由は、行政機構ができる前から地元の漁業者が先に利権を持っており、行政は後から管理に入ってきたからです。知り合いの県議会議員は、漁業者の力は強い。例えば、海岸沿いで花

火大会をしただけで、騒音で魚が取れなくなった、花火の灰のせいで養殖魚の質が起きたなどとして補償を求めてくる。行政は弱腰なので補償に応じる、と言っていました。

イルカ漁師になる資格

イルカ漁師は太地出身でなければなれません。基本的には、イルカ漁師の子どもがイルカ漁を継承します。イルカ漁師の中には、基地式捕鯨のクジラ漁師もいるようです。また、調査母船式捕鯨に行っていたイルカ漁師もいると地元の人に聞きました。許可を受けているいさな組合の名簿に載っている人々が正規のイルカ漁師です。

イルカ漁師を手伝っている人々（以降、子方と呼ぶ）は、太地出身でなくても構いません。彼らは、太地の人もいますが、周辺自治体、那智勝浦町や新宮市から来ている人もいます。中にはサーファーもいるそうです。その人がサーフィンをしているスポットには時々イルカが波乗りに遊びに来ているそうです。それでもイルカを殺せるのは不思議な気がします。

卸売市場（太地町漁業協同組合地方卸売市場）

道路側からの写真です。卸売市場は、イルカの解体場も兼ねています。

［写真：卸売市場_道路側から］



海側からの写真です。真ん中の青いビニールがかかっているシャッターの奥で解体作業が行なわれます。畠尻湾で殺害したイルカを運び込むときや解体作業時は、活動家に撮影されないようにビニールを下ろして行います。かつては隙間から撮影できましたが、現在ではかなり厳重になり撮影が難しくなっています。

［写真：卸売市場_海側から］



第二目　その他ビジネスセクター

イルカ漁業周辺で利権を保持する産業や個人です。小さい産業ですが、利権集団が構成されています。

周辺産業

漁関係：船舶メーカー、漁網メーカー、漁具製作メーカー、バンガー製作業者、屠殺道具製作業者

漁協力者：獣医、警備員

遺体処理：レンダリング業者、肥料業者、ペットフード業者、販売

その他：運送業者

中間業社

生体販売：イルカブローカー(動物商人)、運送業者

太地在住のイルカ追い込み漁に詳しい方にお聞きしたところ、イルカブローカーは7社あるとのことでした。名前は教えてくれなかったのですが、予想していたより多かったので驚いた記憶があります。以下に不明も含めリスト化しておきます。もしご存知の方いらっしゃいましたらご連絡ください。

イルカブローカー（7社）

1. 太地町立くじらの博物館
2. 太地町開発公社
3. ドルフィンベエィス
4. ドルフィンリゾート
5. ？（ワールド牧場?）

6. ？
7. ？
また、その方は活動家はイルカ漁師が豪邸に住んでいるなどと言っているが、イルカ漁師はそんなに儲けているわけではないとも言っていました。

配送業者

生体イルカの輸送を行っているのは、徳島県の運送会社、やま仁(やまに)運輸です。他の運輸会社もあるかどうかは不明です。

娯楽関係

監禁施設：水族館、ドルフィナリウム、ホテル
職員：経営者、正社員、バイト、イルカトレーナー、シャチトレーナー、飼育員、販売員
周辺業者：建設、設備、メンテナンス、獣医、餌販売業者、グッズ制作業者
広告：広告代理店、デザイナー、アーティスト
観光：旅行代理店、ホテル、旅館、民宿、ゲストハウス、バス会社

食

卸売業者、小売業者、水産加工業者、外食産業、給食業者、流通

第四項　学

鯨類に関する研究所、大学、学者は、［本文参照：第四部 第七章 第六節 第四項　学］をご参照ください。

太地町のイルカトレーナー育成施設

太地町立くじらの博物館、ドルフィンベェイス、ドルフィンリゾートです。もしかしたらワールド牧場も行っているかもしれません。

中国人イルカトレーナーの育成

太地町では、中国にイルカを輸出する他に、中国人イルカトレーーナーの育成も請け負っていました。新型コロナパンデミック以降は来ていないようですが、コロナ以前、10年以上毎年太地に来てイルカ漁期中太地に常駐していた活動家によると、一時期は中国人がたくさんいたということでした。彼らは太地町に住み、トレーナーになる訓練を受けていたそうです。イルカ漁船に乗って、イルカ漁に参加していたという話も聞きました。
イルカトレーナーを養成する専門学校は、太地町内施設も含め［本文参照：第六部 第三章 第五節 第四項　学］にまとめます。

第五項　報・暴・消費者

報道

以下をご参照ください。

［本文参照：第七部 第三章 第二節 第二項 第三目　報道～日本のメディアの特徴～］

暴力団

暴力団に関しては、先にも触れたドルフィンリゾートの社長であった海原壱一氏は元小三組のヤクザでした。辞めた後は山口組系菅谷組を後ろ盾にしていたようです。日本の食肉業界の闇を暴いた、溝口敦著「食肉の帝王」でも、浅田満氏のライバルとして取り上げられています。また、海原氏のイルカビジネスに関しては、かつて共産党の赤旗新聞が批判していました。

現在、イルカ漁ビジネスと暴力団と関係があるかどうかは不明です。イルカ追い込み漁の警戒に当たっている警察に聞いたところ、その方は聞いたことは無いと言っていました。

余談ですが、山一抗争は太地町の南、串本町の賭場の殺人事件からはじまっています。

消費者

イルカ漁の消費者は、イルカ肉に関しては太地・近隣自治体・福岡・大阪といった一般消費者。生体イルカに関しては、国内外の水族館などイルカ利用施設と、イルカショーを見る観客です。水族館に関しては、第六部で扱います。観客に関しては、目の前でイルカは太地のイルカ追い込み漁から連れてこられており、それに伴い大量のイルカが殺されているということをほとんど知らされていないということが問題です。

第六節　環境破壊

第一項　イルカ漁による環境破壊

野生動物は環境そのものです。野生動物を殺すことを環境保護と称することがありますが、それは”人間にとって”という枕詞が付く環境保護です。例えば、鯨族が魚を食べ過ぎるから環境破壊が起きている。鹿や猪など野生動物が増えすぎたから環境破壊が起きている。ゆえに、環境保護のために殺す。しかし、環境破壊を行う動物は唯一、人間だけです。人間が海に侵入し魚を食べすぎたから環境破壊が起き、人間が野生動物が住んでいた場所に侵入し家を建て畑を作り、野生動物を追い出し殺し自然のバランスを崩したから環境破壊が起きています。人間は自分が原因で起こした罪を、動物に原因があるとし罪を押し付け殺しています。

イルカ漁も同様、環境そのものであるイルカを殺しています。イルカ害獣論は、海を侵略していった人間が、元々海に住んでいたイルカを害獣と呼び殺すという傲慢の典型です。

しかし、先にも見てきたように、イルカやクジラが捕獲できなくなると捕鯨業者やイルカ漁師は、今度は環境の変化や海流の変化、人間には計り知れないことなどとし、責任を取りません。クジラ漁師やイルカ漁師、それらを支える利権共同体は、自分たちが起こしたことに対して責任を取るべきでしょう。今まで搾取し殺戮し続けてきたことに対して、鯨族に対しても地球に対しても他の人類に対しても責任を取るべきです

第二項　CMS（ボン条約）未加盟

捕鯨でも触れましたが、日本はCMS（ボン条約、移動性の野生動物種の保護に関する条約）に加入をしていません。イルカ漁の存在が、日本がボン条約に加入できない足枷になっています。さらには捕鯨やサメ漁など、つまり漁業がネックになっています。

CMS付属書Ⅱには、イルカ漁の捕獲対象種とされている、イシイルカ、リクゼンイルカ、スジイルカ、マダライルカ、バンドウイルカ、ハナゴンドウが入っています。CMS付属書Ⅱとは、現在好ましくない保護状態下にあって、国際間の協力が必要とされている種のリストです。イルカ漁師や水族館は、これらのイルカを保護するどころか殺し、捕獲して商売にしています。水族館が環境保護を語る資格が無いことがわかると思います。

極少数の既得権益者やプロパガンダによって作られた幻想のプライドのために、人類含めた全生物のプラットフォームである地球環境を破壊し、日本の非倫理性を際立たせることは、あってはなりません。

第六章　将来

第一節　イルカ漁のメリット・デメリット

これまで見てきた通り、イルカ漁共同体にとってのメリットは、イルカやイルカを守りたい人々にとってのデメリットです。逆もまた然り。ここでは俯瞰的に、日本や日本国民にとってのメリットデメリットを考えます。

日本国としてのメリット・デメリット

イルカ漁が存続することのメリットは、イルカを購入している中国、ウクライナ、ロシア、マレーシア、ベトナム、サウジアラビアとの友好にとって良いという意見があるかもしれません。しかし、中国やロシアとの関係はイルカの輸出によって左右されるような問題ではないため関係ありません。一方、韓国は日本からのイルカの輸入を禁じました。
デメリットは、より日本が協調する必要がある西洋各国との関係に楔を刺しているということです。捕鯨に関しても西洋各国や南米やアフリカの有力国との関係に悪影響を与えており、捕鯨、イルカ漁とも外国のとの関係においてはデメリットの方が明らかに大きくなっています。またイルカ漁による経済的収益は微々たるものであり、その収益を守るために国際関係に無用な摩擦を生むのことは国益には貢献しません。

日本人としてのメリット・デメリット

アメリカに住む日系人の女性は、映画「The Cove」が公開されイルカ漁が世界的な関心事になった時、学校で「なぜ日本人はイルカを殺すんだ」と問い詰められたそうです。
ネットなどで大上段からイルカ漁の正当性を語る日本人が、周りが全員クジラ保護派の西洋人から問い詰められたらネットと同じ態度を取れるでしょうか。自分の主張を堂々と伝えられる人だったらできるでしょう。しかしその主張は、捕鯨イルカ漁共同体のプロパガンダ、情報操作に基づくものであり、クジラやイルカに対して残酷な日本人のイメージを強化します。捕鯨共同体とイルカ漁共同体のプロパガンダ要員を自ら買って出て、ただただ日本にとってのデメリットを振り撒くという結果に終わるでしょう。

第二節　将来

活動を進めていく上で、産業や社会の将来予測をし、仮説を立てておくことは有効です。イルカ漁が終焉すれば、イルカ漁共同体や水族館共同体は自然に瓦解します。しかし逆に、イルカ漁共同体や水族館共同体のどこかに、イルカ漁終焉の鍵があるかもしれません。共同体の分析とともに、将来予測をしておくことでその鍵を見つけるチャンスが増し、より正確性と効果が高い活動を発案するヒントとすることができます。予測は一人一人異なります。どの予測がが正しいかは、今はわかりません。結果が出るのは未来です。予測と実行と評価のサイクルを繰り返すことによって、より高度な能力とスキルを集積できるでしょう。

またイルカ追い込み漁の将来は、水族館共同体の将来と連動していますので、水族館の将来予測と合わせて考えることも必要です。
以下は筆者の予想です。みなさまの予測の参考にしていただければと思います。

第一項　イルカ突き棒漁

漁業者

イルカ突き棒漁を行っているどこの自治体も、漁業者の高齢化、成り手不足に陥っています。毎年イルカ突き棒漁業者は減り続けており、この流れが止まる見込みはありません。イルカの殺害数も年々減じており、イシイルカ+リクゼンイルカの殺害数は、2020年時点で928名も殺害されており大変な数ではありますが、1997年の18,540名と比較すると、5%に減っています。自治体の担当者と話しても程なく終焉することを認識している感覚があります。

消費者

一方消費側ですが、捕獲数を見るだけでも減っていることは明らかです。2020年11月、宮城から青森にかけてでイルカ突き棒漁を行っている漁港近くのスーパーを回りました。漁期中にもかかわらず、イルカ肉はほとんど販売されていませんでした。イルカ肉の消費は高齢者中心でしょうから、今後消費量は自然減していくと予想されます。
イルカ突き棒漁は確実に衰退していくことが予想されます。年齢が若い人ほど魚介類の消費が減り、イルカに関する情報が増え共感や愛着を持つ人が増えている昨今、わざわざイルカ肉を食べたいという人は、特別な理由がない限りいないでしょう。

第二項　イルカ追い込み漁_伊東

先日、伊東漁協がイルカ追い込み漁を止めることを発表したという情報が流れました。今のところ真偽不明ですので、漁を行う意思が存続しているという前提で予測します。

伊東漁協の狙い

伊東漁協は、イルカ追い込み漁は生体販売を目的として行い、食用の捕獲は行わないとしています。JAZA加盟水族館への販売と、WAZAや一般からの批判回避を狙ったものでしょう。JAAへの販売を狙っているかどうかは不明です。伊東漁協が生体イルカの捕獲販売をし始めたら、静岡以東、関東圏を中心に需要を取れる可能性があります。太地から関東にイルカを輸送するよりも、伊東から輸送した方が、コストも下げられますし、イルカの歩留も高まります。JAAに関してはその設立当初から太地町の影響下にありますので、その中で伊東がシェアを広げていくかどうかは太地町次第かと予想します。

太地町との関係

そうなると現在太地町が独占しているイルカ生体販売事業のシェアを、伊東に取られることになりかねません。太地は利権を手放したくないので、伊東のイルカ追い込み漁復活は望ま

ないでしょう。実際、1969年現代イルカ追い込み漁開始時、伊東からバンガー導入しましたが、現在伊東のイルカ追い込み漁復活を手伝うといった動きはないようです。

石井泉氏

伊東漁協の富戸には元イルカ漁師の石井泉氏が所属しています。石井氏によると、伊東のイルカ追い込み漁復活は厳しいだろうということでした。理由は、現在イルカ追い込み漁を行おうとしている人々は、ほとんど経験がない人々であり、成功させることはできないだろうというものです。また、石井氏はイルカ達のために様々に動いておられます。

伊東のイルカ追い込み漁復活、または衰退は、未だ不透明なままですが、今のところ衰退の可能性が濃厚です。

第三項　イルカ追い込み漁_太地

太地町

太地町は多くの地方自治体と同様、高齢化、人口減が進んでいます。対策は行っているようですが、地方自治体の人の取り合いに勝つ必要があり難しいでしょう。

太地町の生き残り、人口減対策、産業振興の目玉が、イルカ立町とも言える現在の政策です。太地町はイルカを使ってなんとか生き残りを図ろうと必死です。部外者に止めろと言われて止めるわけもありません。三軒町長は、イルカやイルカを保護したい人々から見れば罪も無いイルカの搾取に邁進する人物ですが、太地町民や地方自治体の首長から見れば、町民を守るために次々と施策を実行していく有能な人物です。

三軒町長は、和歌山出身国会議員、県議会議員、日本鯨類研究所や捕鯨産業と密に連携しながら、政治を行っています。現在、太地町に日本鯨類研究所の出張所の建設が計画されています。森浦湾くじらの海とともに、くじらの学術都市（私たちの立場から言えば搾取都市）の実現に取り組んでいます。

イルカ追い込み漁

他のイルカ漁と同様、高齢化、後継者不足になっているようです。

後継者不足の対策としては、若い人が満足する収入を得られる形で漁師の資格を継がせることが考えられます。イルカ追い込み漁師になれるのは太地町出身者だけです。漁を見ていると漁のサポートとして40〜50代の人々が参加しています。もし彼らが太地町出身者でなかったとしてもイルカ漁師になることができたら、漁の存続は可能になります。あるいは、捕鯨や他の漁業からスカウトしてくるということも考えられます。イルカ漁より先に母船式捕鯨が倒れたら可能です。また、太地町として補助金を出すか、地域おこし協力隊などの制度を使って若いイルカ漁師を育成していくことも可能でしょう。

イルカ漁師やそのサポートをする役割になるということは、活動家に撮影され、世界から批判されることになるということです。あまり進んでやりたい役回りではないでしょう。太地町議会議員漁野氏によると、イルカ漁師は自分の子に漁師を継がせないだろうと言っていました。

もう一つ頭に入れておかなければならないのは、もし太地のイルカ漁が終焉した場合、失職した技術を持ったイルカ漁師が中国にイルカ追い込み漁の技術を輸出する可能性です。かつて、太地の古式捕鯨が終焉した時、太地のクジラ漁師は韓国の釜山へ行き古式捕鯨を行いました。中国は今のところイルカ漁を禁止にしていますが、その気になれば世界の反対をものともせず実行できます。もし、中国がイルカ漁を行うようになったらイルカの被害は永続的なものになりかねないことも頭に入れておく必要があります。

太地町内の娯楽施設、イルカ漁周辺産業

太地町内のイルカを利用した娯楽施設は、太地町立くじらの博物館、森浦湾くじらの海、ドルフィンベェイス、ドルフィンリゾートです。ブローカーに特化した会社として太地町開発公社があり、卸業者として太地漁協があります。

いずれの施設も、イルカ追い込み漁が存続する限り存続します。イルカ追い込み漁が終焉し、最後のイルカがなくなったらその施設も終焉します。同様にイルカブローカーをはじめとする周辺産業も消滅します。

太地町内部では様々な対立があり、対立構造の分析も有効です。

水族館への生体販売

国内販売に関しては水族館が存続する限り永続的に期待できる状況です。安定的な市場と言えるでしょう。

国外販売に関しては、やはり中国の需要が重要です。中国からの需要がすでにピークを越えている場合、今後は新規水族館建設以外は、繁殖目的や亡くなったイルカの補充が中心となります。つまり日本国内販売と同様、安定的な市場となることが予想されます。中国の需要ピークがこれから越える場合、しばらく太地町は活況を呈するでしょう。輸出で得た収益を、森浦湾くじらの海などに投資できます。

中国での組織的な動物擁護活動は難しいようです。西洋の団体が進出しようとしましたが失敗しました。個人レベルの活動家がいるのと、環境保護活動やヴィーガン普及活動として、実質的な動物解放活動を行っている人々がいるようです。

食用の遺体販売

イルカ突き棒漁と同様、消費者は高齢者です。太地町の高齢者であってもイルカ肉を食べない人々もいます。太地町の人に聞いたところ、子供や若い人でイルカ肉を食べるのは、親や親類などがイルカ漁関係者の場合や、家族の誰かがイルカ肉を食べる場合だそうです。いずれにせよ今後需要が高まることはないでしょう。

そのため、太地町としては子供達の給食に導入し消費促進を図ろうとしました。しかし、イルカ肉に含まれる水銀など重金属、汚染物質を問題視した太地町議会議員の反対に合い、断念しました。

給食は、イルカ漁産業や捕鯨産業など動物産業によって狙われます。太地町場合もイルカ肉が汚染されているのを知りながら、給食に導入しようとしました。利益のために子どもや国民を犠牲にする人々がいることを忘れてはなりません。

今後イルカ肉の利用促進として考えられる販促手法としては、健康、美容、必須栄養素を押すなどが考えられますが、汚染のことを考えると難しいでしょう。汚染についても人間自身が原因であり、自分で自分の首を締めた結果です。

南海トラフ

南海トラフを震源とするマグニチュード8〜9の大規模地震は、今後30年以内に発生する確率が70〜80％と言われています。

太地は南海トラフすぐ近くにあります。燈明崎などに登って目に見える範囲の海底に南海トラフがあります。太地港はリアス式海岸であるため、かつて幾度か地震の被害に遭い、津波に流されています。また狭いため大火で多くの家が消失してしまったこともあります。

今後南海トラフ地震が発生したら、太地町中心部、太地漁港、イルカ漁船は壊滅的な被害を受け、イルカ追い込み漁は消滅するでしょう。

消滅後の予想される対策は、東日本大震災のように国が資金を投入し復興対策を行います。太地漁港は最新のものに整備され、漁師が漁船を購入するための補助金等も厚く保障されると予想されます。その時にイルカ追い込み漁を復活させるかどうかは、消滅前にどれだけ収益があるかが鍵になっていくるでしょう。

活動家の間で南海トラフはときどき話題に上がります。外国人活動家にそのことについてどう思うかと聞いたところ、「イルカ漁は無くしたいが、それは望んでいない」ときっぱりと言っていました。

第四項　イルカ漁利権

政治家

現在イルカ漁を守ろうとしている政治家の中で、特に熱を入れているのは二階氏です。二階氏の去就は、イルカ漁に大きく影響するでしょう。イルカ漁は大きな利権ではなく、動機となるのは政治家にとっては票、イルカ漁業関係者や擁護派にとってはアイデンティティやプライドなどの感情です。イルカ漁に対して特別な感情のない政治家が二階氏の後を継ぐなどすれば、イルカにとっては良いニュースとなります。見る限りは、イルカ漁を熱烈に守ろうとしている議員は他にはいないと思います。イルカ漁に対する支持が減れば、自然と政治家は離れ、見捨ててていくでしょう。

官僚

イルカ漁がビジネスとして成立しなければ、捕鯨2班は不要になります。水産庁が、イルカ漁の捕獲枠を徐々に減らしつつあるのは良いニュースです。捕鯨2班に関しても、捕鯨と同

様、イルカの生態や環境に関する非致死的手法の研究機関として、地球環境保存に貢献する機関として生まれ変わることを望みます。

学術界

日本では致死的手法が主流ですが、世界的には非致死的手法が主流なことは述べました。致死的手法の場合、イルカ漁の存続に依存します。イルカ漁が終焉すれば、自然に生きているイルカに対する非致死的手法研究や、座礁したイルカの研究に移行するでしょう。

報道

民意、つまり空気が変わればマスメディアも変わります。マスメディアの意識は市民の意識の鏡であり、逆もまた然りです。論調はイルカ漁の動向やイルカ解放活動の進展に合わせて変化していくでしょう。

［本文参照：第四部 第八章 第二節　将来］で述べたように、世界は鯨類殺戮から、保護の時代へと移行し、さらに、鯨族そのものを尊重する時代へと変遷していきます。

私たち活動家の仕事は、イルカ漁についての現実を知らせ市民を啓発しイルカを守ることはもちろん、日本人の動物倫理を前進させ、日本人と動物との新しい関係や社会システムを作っていくクリエイティブな側面が重要視されてくると予想しています。

第六部　水族館

第一章　水族館

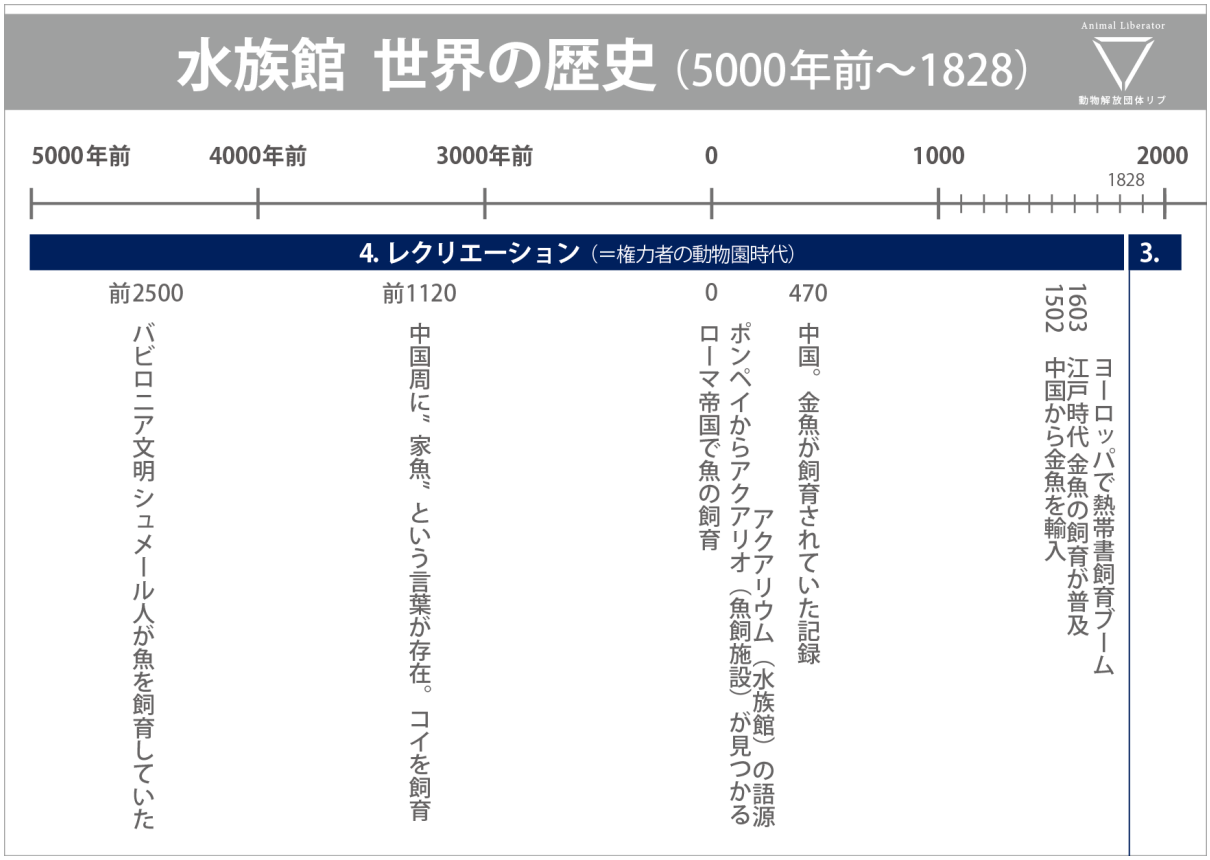
第一節　年表

第一項　水族館の歴史

ここでは、水族館の歴史を概観します。

大きな流れから抑えます。

［タイムライン：水族館 世界の歴史(5000年前～1828）］

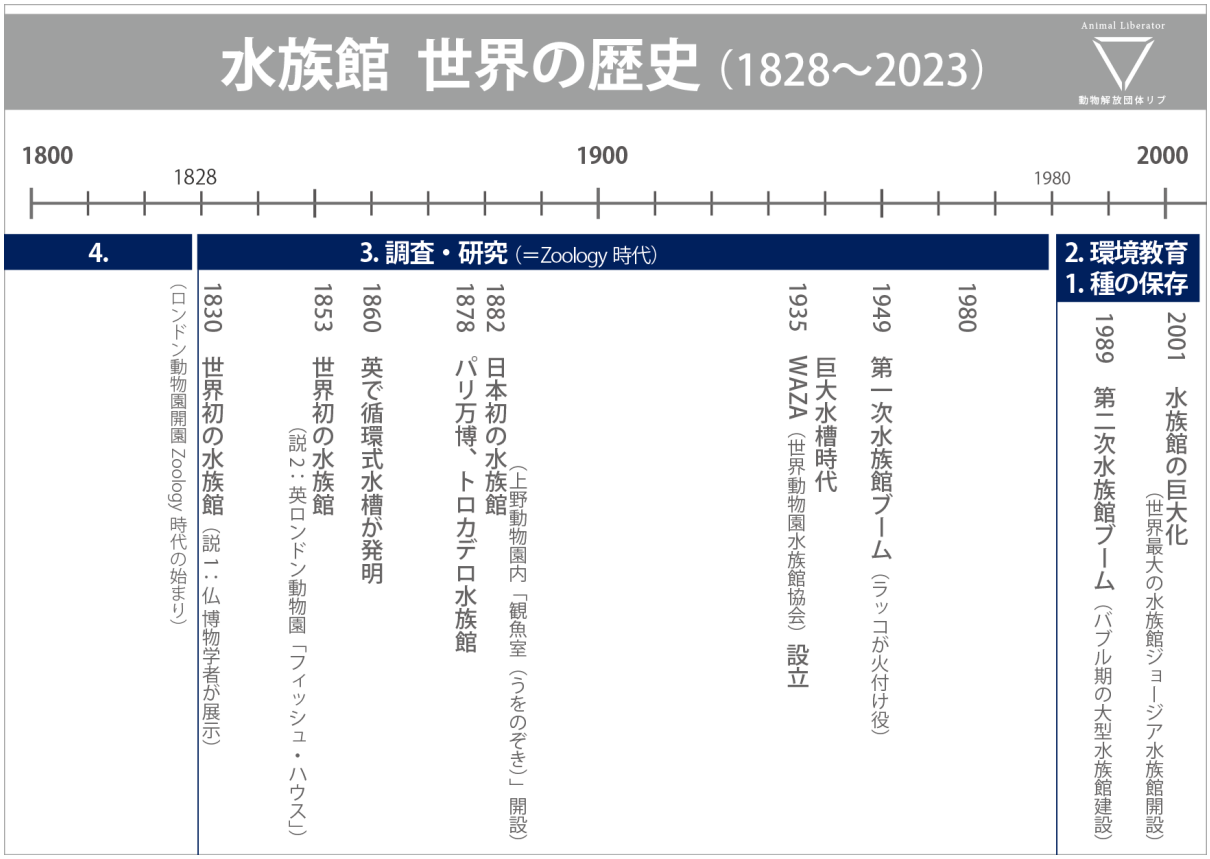


動物園水族館が主張する4つの役割は、

1. 種の保存
2. 環境教育
3. 調査・研究
4. レクリエーション

動物園水族館の歴史は4.レクリエーションから始まり、時代に合わせて、また野生動物の監禁等に対する批判を交わすために3→2→1と、その役割を追加してきました。

［タイムライン：水族館 世界の歴史(5000年前〜1828）］



第二項　イルカ監禁の歴史

［世界初のイルカの監禁］

1860年(日本は江戸時代末期)、世界で初めてイルカを監禁・飼育したのは、アメリカニューヨーク、バーナムズ・アメリカンミュージアム、ベルーガ2名の監禁でした。バーナムズ・アメリカンミュージアムを設立したのは、映画「グレイテスト・ショーマン」(2017年)の主人公にもなったP.T.バーナム。ミュージアムと名乗ってはいましたが、実際は人間動物園などを行う、見世物小屋・サーカス小屋でした。バーナムは、ベルーガを地下室の汚れた真水のプールに入れ数、日で死亡させました。その後もベルーガを手に入れ続け、火事を出して焼死させるなど、計9名のベルーガを監禁殺害しています。P.T.バーナムは有名な興行師で、アメリカで最後の動物搾取を行なっていたサーカス団、リングリングサーカスの前身であるバーナム&ベイリーサーカスを設立しました。P.T.バーナムが先鞭をつけたアメリカの動物搾取ショーは、リングリングサーカスのゾウの使役・シーワールドのシャチショーへの市民の反対により、衰退に向かっています。

［日本の水族館の歴史　主な出来事］

1930　(昭和5) 日本で初めてのイルカ監禁。中之島水族館（現伊豆三津シーパラダイス）がバンドウイルカを監禁・展示。
1936　阪神水族館：世界で初めてのコビレゴンドウを監禁・展示。
1939　JAZA(日本動物園水族館協会)設立。
1954/07/01　日本で初めての近代的な水族館、江の島水族館が開館。
1957/05/03　日本で初めてのイルカ、クジラ使役ショー。江の島水族館マリンランド。
1961/4/14　江の島水族館 マリンランドハナがゴンドウのヨンを監禁開始。ヨンは2003/10/06死亡。世界最長である42年間監禁。
1969/4　太地町立くじらの博物館開館。設立の立役者は、太地町長庄司五郎氏、責任者三好晴之氏、アドバイザー鯨類学者西脇昌治氏。くじらの博物館の展示用イルカ捕獲のためイルカ追い込み漁を開始。世界で初めての水族館主導によるイルカ追い込み漁。
1970/09/04　日本で初めてのシャチ監禁。鴨川シーワールドが、アメリカシアトルから、シャチのチャッピー(女性)・ジャンボ(男性)を輸入。シャチ輸入1回目、チャッピー1974/04死亡(腰椎骨膜炎)、後を追うようにジャンボ1974/07死亡(肝機能障害)。
1970/10/01　鴨川シーワールド開園。
1973/02/12　太地町くじらの博物館、初のイルカ追い込み漁でマダライルカ100名を太地漁港へ追い込む。
1976/9　日本で初めてのベルーガ監禁、鴨川シーワールド。
1978/4/22　アドベンチャーワールド開園。
1984　シャチのステラが鴨川シーワールドに監禁される（2022現在 名古屋港水族館に監禁）。
1986/11/01　サンシャイン水族館・松島水族館・鳥羽水族館が、チリ マゼラン海峡でイルカ漁を行い、イロワケイルカを17名捕獲、各館に分配し、監禁・展示。
1993　横浜・八景島シーパラダイス開館。
1997/02/07　太地シャチ捕獲事件。女性3名(妊娠中の女性、アスカ、クー）男性2名(男の子、キュー）の計5名（Taiji5）捕獲される。
1998/01/11　日本で初めての水族館監禁下でのシャチ出産、ラビ―。ステラとビンゴの長女。
1999/03/09　名古屋港水族館の内田館長がノルウェーに6名のシャチの捕獲を打診。ノルウェーの新聞によってリークされ、世界中の抗議を受け中止。
2001/08/01　アドベンチャーワールドで、シャチのゴローとランの喧嘩に巻き込まれ、トレーナーが右大腿部骨折。
　名古屋港水族館、シャチプールが設置された約186億円の新館を開館。シャチの入手が至上命題となる。

2003/10　名古屋港水族館がシャチ監禁開始。Taiji5のクー。くじらの博物館から年間3000万円で5年間のレンタル。クーは2008年9月死亡。Taiji5最後の生き残りだった。くじらの博物館は1億5000万円を獲得 。

2004　日本で初めてのベルーガの出産(繁殖)、名古屋港水族館。

08/26　アドベンチャーワールド、シャチの母ラン、父キュウに子どもが誕生。出産直後ランは子どもに敵意を示し、キュウが子供を攻撃。何度も噛み放り投げた。

08/28　ランとキュウの子頭蓋骨骨折で死亡。ラン、子どもを追うように死亡(ランの卵子は人工授精に備えて保存されている)。

09/18　2名を追うようにキュウも死亡(精子が人工授精に備えて保存されている)。

2005/06　太地町が、中国にイルカを輸出開始。くじらの博物館がイルカの生体販売開始。

2006/09　日本動物愛護協会が、動物愛護週間で功労のあった動物としてシャチのステラを表彰。

2009

01/??　映画『ザ・コーヴ』（The Cove）公開。監督ルイ・シホヨス。太地のイルカ漁を描いた。2009年のサンダンス映画祭観客賞、2009年度第82回アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞受賞。

??/??　太地町が太地町開発公社を設立。イルカの販売先を隠すため。2009〜2012までは決算報告署に販売数・価格は記載されていたが、2013以降ブラックボックスとなる。

2010/06/18　名古屋水族館が、Taiji5のシャチ ナミを太地町立くじらの博物館から5億円で購入。

2011

01/14　6ヶ月後、ナミ死亡。大量の石(490個81kg)を飲み込んだことが原因。ナミは太地町で捕まえられた後、太地町立くじらの博物館の海水プールで石を飲み続けた。自殺ではないかとも言われている。

06/05　名古屋港水族館で、カマイルカのサラがショーの最中にプールサイドに落ち、肺が破裂。失血死。

12/14　シャチのラン(5才)が鴨川シーワールドから名古屋港水族館に移送。5年間のレンタル。

12/15　シャチのステラ(推定25才)とビンゴ(推定29才)が、鴨川シーワールド名古屋港水族館に移送。ステラの出産のため。2012/11/13 リンが誕生。

2013

01/??　映画「ブラックフィッシュ」公開。サンダンス映画祭。

11/19　エルザ自然保護の会が、JAZA（日本動物園水族館協会）会長山本茂行氏宛に追い込み漁で捕獲されたイルカの購入禁止の要望書を送付。

12/27　JAZA山本茂行会長から購入は問題ないという主旨の回答。

2014

01/17　太地、アルビノのバンドウイルカ スピカが漁師に発見され捕獲、くじらの博物館に監禁。

03/28　エルザ自然保護の会等国内167団体、ドルフィン・プロジェクト等海外団体が、WAZA（世界動物園水族館協会）にJAZAの除名を求める。

11/23　太地、白変種のハナゴンドウ、ユウジが捕獲されくじらの博物館に監禁。

11/28　太地、白変種のハナゴンドウ、ハマタが捕獲されくじらの博物館に監禁。

??/??　オーストラリア・フォー・ドルフィンズが、くじらの博物館を人種差別に基づき外国人を入場禁止にしているとし提訴。

2015

04/22　WAZAがJAZAの会員資格を停止することを満場一致で決定。

05/22　JAZAが追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止すると決定。

06/07　太地のイルカ漁からイルカ入手を続けたい水族館が、JAZAを脱退し新組織を設立を決める。

07/09　WAZAがJAZAの会員資格の停止処分を解除。

2016

01/??　日本鯨類研究協議会設立。WAZA、JAZAの決定に反発した太地町の町立くじらの博物館をはじめとする水族館約30施設が参加。

03/??　アメリカ シーワールドがシャチの繁殖中止を決定。

09/??　米カリフォルニア州がシャチの繁殖、飼育を段階的に廃止する法案を発行。映画「ブラックフィッシュ」の影響。

2017

01/??　アメリカ シーワールドサンディエゴがシャチショーを終了。

05/??　フランスがシャチやイルカなどの繁殖を法律で禁止。

2018

06/??　上越市立水族博物館 うみがたりリニューアルオープン。指定管理者 株式会社横浜八景島。横浜・八景島シーパラダイスからバンドウイルカ4名、ベルーガ2名を移送。

07/??　上越市立水族博物館 うみがたり、バンドウイルカ サシャ(推定8才)死亡(感染性肺炎による敗血症)。

2019

03/??　上越市立水族博物館 うみがたり、バンドウイルカ アルク(推定7才)：死亡(膵臓疾患)。

06/??　カナダ：鯨族の娯楽目的の飼育を禁止。

11/22　日本：一般社団法人「日本水族館協会：JAA」が設立。任意団体「日本鯨類研究協議会：JACRE」が母体。

2020

05/20　上越市立水族博物館 うみがたり、ベルーガ リーヤ(推定13才)死亡(腎不全による尿毒症)。

07/03　上越市立水族博物館 うみがたり、ベルーガ ソーリャ(推定13才)死亡(死因不明)。ベルーガ全員死亡。批判が高まった。

2021

11/18　フランスで新動物福祉法可決。イルカショーが禁止に。

2022

05/23　しながわ水族館、5年後2027年の施設リニューアルを機にイルカの監禁とショーの中止を発表。

第二節　MAP・分類

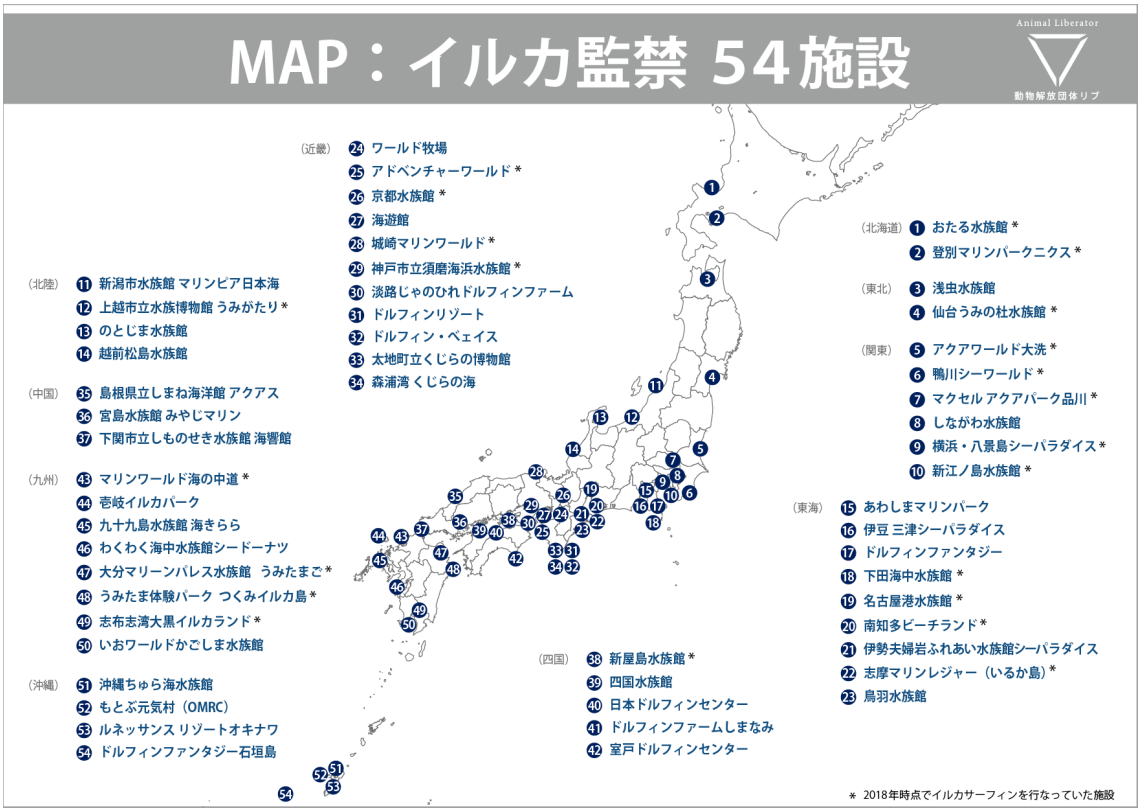
第一項　日本の水族館の数

日本は世界で3番目に動物園が多く、世界で1番水族館が多い国です。言い換えれば、世界で最も動物の娯楽利用を行っている国の一つです。

リブが2018〜1019年にかけて行った「日本一周! 動物園水族館調査」では、日本中ほとんどすべての動物園水族館の現地調査を行いました。その際に調査した園館は、動物園 155施設、水族館 124施設、その他 4施設、計 283施設です。

水族館124施設のうちイルカを監禁しているのは54施設。

［MAP：イルカ監禁 54施設］



北海道・東北には少なく、関東以南、特に東京圏、関西圏に集中しています。海に設置された生簀等でふれあい体験などをさせる施設、ドルフィナリウムは静岡県伊東以南にあります。

第二項　分類1　イルカ監禁施設5形態

イルカ監禁施設は、以下の5つの形態に分けられます。

［イルカをプールで監禁する施設］

①水族館　33施設

行政や民間企業が所有運営するしっかりした建築物とプールを持つ、いわゆる水族館です。

②動物園水族館併設型　2施設

アドベンチャーワールド、ワールド牧場。

ワールド牧場は、夏の間のみイルカを搬入し展示しています。

［イルカを、海に設置した生簀や網で仕切った湾に監禁する施設］

③ドルフィナリウム　17施設

イルカのみの展示、または、イルカを中心に少数の海生動物を展示している施設です。ふれあい体験やドルフィンスィムを集客の中心とし、イルカショーも行っています。愛知県の「イルカに会える島日間賀島」は夏季限定の施設でここには入れていません。和歌山県の、「和歌山マリーナシティ ドルフィンパーク」と、「南紀田辺ビーチサイドドルフィンin扇ヶ浜」は終了しています。

④リゾートホテル　1施設

リゾートホテルにイルカ娯楽利用施設が併設されている施設。日本では、沖縄県にあるホテル「ルネッサンス リゾートオキナワ」のみです。イルカ施設の管理はもとぶ元気村を運営するOMRC(オキナワマリンリサーチセンター)が行っています。以下のリストに［ホ］と記載します。

⑤ストック繁殖型　1施設

森浦湾

森浦湾には、くじらの博物館、太地町開発公社、太地漁協が所有するイルカが監禁されており、短いショーや漁協が運営するカヌー体験が行われています。

［リスト：イルカ監禁全54施設（5形態）］

北海道

1 おたる水族館

2 登別マリンパークニクス

東北

3 青森県営浅虫水族館

4 仙台うみの杜水族館

関東

5 アクアワールド大洗

6 鴨川シーワールド

7 マクセル アクアパーク品川

8 しながわ水族館

9 横浜・八景島シーパラダイス

10 新江ノ島水族館

北陸

11 新潟市水族館マリンピア日本海

12 上越市立水族博物館 うみがたり

13 のとじま水族館

14 越前松島水族館

東海

15 あわしまマリンパーク［ドルフィナリウム］

16 伊豆・三津シーパラダイス［ドルフィナリウム］

17 ドルフィンファンタジー［ドルフィナリウム］

18 下田海中水族館［ドルフィナリウム］

19 名古屋港水族館

20 南知多ビーチランド

21 伊勢夫婦岩ふれあい水族館シーパラダイス

22 志摩マリンレジャー「イルカ島」［ドルフィナリウム］

23 鳥羽水族館

近畿

24 ワールド牧場［動物園水族館併設型］

25 アドベンチャーワールド［動物園水族館併設型］

26 京都水族館

27 海遊館

28 城崎マリンワールド

29 神戸市立須磨海浜水族園

30 淡路じゃのひれ ドルフィンファーム［ドルフィナリウム］

31 ドルフィンリゾート［ドルフィナリウム］

32 ドルフィン・ベェイス［ドルフィナリウム］

33 太地町立くじらの博物館

34 森浦湾くじらの海［ストック繁殖型］

中国

35 島根県立しまね海洋館AQUAS

36 宮島水族館 みやじマリン

37 下関市立しものせき水族館 海響館

四国

38 新屋島水族館

39 四国水族館

40 日本ドルフィンセンター［ドルフィナリウム］

41 ドルフィンファームしまなみ［ドルフィナリウム］

42 室戸ドルフィンセンター［ドルフィナリウム］

九州

43 マリンワールド海の中道

44 壱岐イルカパーク（未調査）［ドルフィナリウム］

45 西海国立公園九十九島水族館海きらら

46 わくわく海中水族館シードーナツ［ドルフィナリウム］

47 大分マリーンパレス水族館 うみたまご

48 うみたま体験パーク「つくみイルカ島」［ドルフィナリウム］

49 志布志湾大黒イルカランド［ドルフィナリウム］

50 いおワールドかごしま水族館

沖縄

51 沖縄美ら海水族館

52 もとぶ元気村 (OMRC)［ドルフィナリウム］

53 ルネッサンス リゾートオキナワ (OMRC)［リゾートホテル］

54 ドルフィンファンタジー石垣島 ［ドルフィナリウム］

調査当時存在していた京急油壺マリンパーク、みさき公園は閉鎖したため、2022年現在54施設となっています。2027年にはしながわ水族館がイルカの監禁を中止するため、53施設となる予定です。イルカを監禁している施設は減少しています。

第三項　分類2　JAZA・JAA加盟

JAZA、JAAとは

JAZA（公益社団法人 日本動物園水族館協会）は、WAZA（世界動物園水族館協会）の下部組織であり、日本の動物園水族館をネットワークしています。

［URL：JAZA：https://www.jaza.jp/］

JAA（一般社団法人 日本水族館協会）は、JACRE（任意団体 日本鯨類研究協議会）を母体として設立された団体です。JAAは世界の趨勢に逆らい鯨類飼育の永続を目指しています。
［URL：JAA：https://www.j-aqua.org/］

JAAが設立された原因

2015年4月22日、WAZA(世界動物園水族館協会)が、日本の水族館がイルカ追い込み漁からイルカを入手しているのはWAZAの倫理規定に違反するとし、JAZAの会員資格を停止。
2015年5月22日、JAZAはイルカ追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止すると決定し、加盟館に通知しました。これに反発した複数の水族館が設立したのがJACRE。JACREを母体に、2019年JAAが設立されました。その後も毎年、JAZAから脱退する水族館が相次いでいます。
JAAには、JAZAには決して入れない施設が加盟しています。JAZAには施設や動物福祉、4つの役割に関して一定の基準を満たしていないと加盟できません。JAAはJAZAの要件を満たしていなくても加盟できるほど加入基準が低いということです。

JAZAを脱退した理由

複数の水族館がJAZAを脱退した理由、また今後脱退する理由は、野生から捕獲したイルカを手に入れたいからです。今後ますます、繁殖によるイルカ・商材の維持が難しいことがわかってくるでしょう。そうなればさらに脱退する水族館が出てくるのは確実です。

イルカの入手方法

JAZAに加盟していては野生のイルカは入手できません。そうなれば既存の水族館や新規事業者がイルカを購入する方法は、JAZAに加盟せず、JAAに加盟することです。
JAAを主導している事業者の一つは、太地町立くじらの博物館。イルカブローカーです。つまり、JAAへ加盟することはイルカの入手に非常に有利になるということです。

［リスト：JAZA・JAA加盟・未加盟］

①JAZAのみ加盟(12)

おたる水族館
新潟市 水族館マリンピア日本海
上越市立 水族博物館 うみがたり
京都水族館
志摩（志摩マリンレジャー イルカ島）
伊勢夫婦岩ふれあい水族館シーパラダイス(二見)
アドベンチャーワールド
大阪海遊館
城崎マリンワールド
マリンワールド海の中道
いおワールドかごしま水族館

沖縄美ら海水族館

②JAAのみ加盟(24)

青森県営浅虫水族館（2018年脱退）
仙台うみの杜水族館
アクアワールド茨城県大洗水族館（2019年脱退）
新江ノ島水族館（2017年脱退）
伊豆・三津シーパラダイス（2020年脱退）
あわしまマリンパーク（2015年脱退）
下田海中水族館（2019年脱退）
新潟市水族館　マリンピア日本海
上越市立水族博物館　「うみがたり」
越前松島水族館（2020年脱退）
南知多ビーチランド（2020年脱退）
太地町立くじらの博物館（2015年脱退）
ドルフィンリゾート
下関市立しものせき水族館 海響館（2017年脱退）
日本ドルフィンセンター
四国水族館
ドルフィンファームしまなみ
室戸ドルフィンセンター
西海国立公園九十九島水族館　「海きらら」
壱岐イルカパーク＆リゾート
わくわく海中水族館　シードーナツ
うみたま体験パーク　つくみイルカ島
志布志湾海の駅イルカランド
もとぶ元気村（オキナワマリンリサーチセンター）

③両方に加盟(12)

登別マリンパークニクス
鴨川シーワールド
しながわ水族館
マクセル アクアパーク品川
横浜・八景島シーパラダイス
のとじま臨海公園水族館
名古屋港水族館
鳥羽水族館

神戸市立須磨海浜水族園
島根県立しまね海洋館AQUAS
宮島水族館 みやじマリン
大分マリーンパレス水族館 うみたまご

④両方に非加盟(8)
ドルフィンファンタジー
ドルフィンベェイス
森浦湾くじらの海
ワールド牧場
淡路じゃのひれ ドルフィンファーム
新屋島水族館
ルネッサンス リゾートオキナワ (OMRC)
ドルフィンファンタジー石垣島

⑤JAA加盟館でイルカを監禁していない水族館(11)
鶴岡市立加茂水族館
カワスイ 川崎水族館
相模川ふれあい科学館「アクアリウムさがみはら」
山梨県立富士湧水の里水族館
魚津水族館
世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」
AQUARIUM×ART átoa
マリホ水族館
桂浜水族館
高知県立足摺海洋館 SATOUMI
DMMかりゆし水族館

イルカ入手のためJAAに加盟する可能性があるため、注視が必要な水族館
①JAZAのみ加盟で、イルカを監禁している水族館がJAZAを辞めたら、その目的はイルカの入手と言って良いでしょう。野生のイルカを手に入れるにはJAZAを辞めなければなりません。多くの水族館がJAZAを身限りJAAに擦り寄っていく中、JAZA加盟を堅持しているのは、海の中道や美ら海など日本政府が運営している水族館や鴨川シーワールドなど歴史的にJAZAと関係が深い水族館などです。
④両方に非加盟水族館は、JAAに加入して入手するか、JAAに加入しなくても太地にある水族館等か、元々太地と深い関係にある水族館等です。

⑤JAA加盟館でイルカを監禁していない水族館は、イルカを監禁する可能性がある水族館です。アクアリウムさがみはらのように現状の施設では不可能な水族館も含まれており、イルカ目的ではない水族館も含まれています。

2014年以降JAZAを脱退した水族館(17)

JAZAを脱退した水族館と、JAAに加盟した水族館は、社会的に記憶しておく必要があり、活動家であれば必須の知識です。これらは、動物倫理、環境保護、生態系保護、生物多様性保護よりも、イルカによる金儲けを優先した水族館ということです。

* 脱退年は日本動物園水族館年報に加盟記録がある最後の年を記載。（）はイルカを飼育監禁していない施設です。

2015年脱退

太地町立くじらの博物館（2015年9月7日）

あわしまマリンパーク

2017年脱退

京急油壺マリンパーク（閉業）

新江ノ島水族館

（竹島水族館）

下関市立しものせき水族館 海響館

2018年脱退

青森県営浅虫水族館

（宍道湖自然館ゴビウス）

2019年脱退

（稚内市立ノシャップ寒流水族館）

アクアワールド茨城県大洗水族館

（相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら）

下田海中水族館

（世界淡水魚園水族館アクア・トト ぎふ）

2020年脱退

伊豆・三津シーパラダイス

（魚津水族館）

越前松島水族館

南知多ビーチランド

新規事業

新規事業で注意すべきは、民間企業か、民間企業が行政に持ち掛けて指定管理で入るパターン、水族館コンサルが民間企業に持ち掛けて立ち上げるパターン。株式会社八景島やオリッ

クス、DMMなど、すでに水族館経営のノウハウがある水族館が、新規事業を立ち上げる可能性が高いでしょう。系列間でのブリーディングローンの可能性も高めることができます。

イルカロンダリング

JAZAはイルカ追い込み漁からのイルカの入手を禁じていますが、、JAZA加盟館がイルカを入手する可能性はいくつか考えられます。

- JAA非加盟館が太地イルカ追い込み漁から購入したイルカをJAZA加盟館が購入する。
- 森浦湾くじらの海で繁殖したイルカを、JAZA加盟館が購入する。
  JAZA非加盟館で繁殖したイルカを、JAZA加盟館が購入する。
- JAZA非加盟館や森浦湾くじらの海のイルカを、JAZA加盟館がブリーディングローンして繁殖を狙う。

いずれもイルカロンダリングと呼べる手法です。この場合再びWAZAに働きかけ倫理性を問う活動もあり得ると思います。

地域・施設ごと：イルカを監禁している水族館54施設のJAZA・JAA加盟状況まとめ

2020時点のリストです。◯は加盟、×は非加盟です。脱退年は日本動物園水族館年報に加盟記録がある最後の年を記載しています。

地域(施設数)

施設名称　◯JAZA加盟｜×非加盟　◯JAA加盟｜×非加盟

北海道(2)

おたる水族館　◯　×

登別マリンパークニクス　◯　◯

東北(2)

青森県営浅虫水族館　×**脱退**(2018)　◯

仙台うみの杜水族館　×　◯

関東(6)

アクアワールド茨城県大洗水族館　×**脱退**(2019)　◯

鴨川シーワールド　◯　◯

マクセル　アクアパーク品川　◯　◯

しながわ水族館　◯　◯

横浜・八景島シーパラダイス　◯　◯

新江ノ島水族館　×**脱退(**2017)　◯

北陸(4)

新潟市水族館マリンピア日本海　×　◯

上越市立水族博物館うみがたり　×　◯

のとじま臨海公園水族館　◯　◯

越前松島水族館　×**脱退**(2020)　○

東海(9)

あわしまマリンパーク　×**脱退**(2015)　○

伊豆・三津シーパラダイス　×**脱退**(2020)　○

ドルフィンファンタジー　×　×

下田海中水族館　×**脱退**(2019)　○

名古屋港水族館　○　○

南知多ビーチランド　×**脱退**(2020)　○

伊勢夫婦岩ふれあい水族館シーパラダイス　○　×

志摩マリンレジャー「イルカ島」　○　×

鳥羽水族館　○　○

近畿(11)

ワールド牧場　×　×

アドベンチャーワールド　○　×

京都水族館　○　×

大阪 海遊館　○　×

城崎マリンワールド　○　×

神戸市立須磨海浜水族園　○　○

淡路じゃのひれ ドルフィンファーム　×　×

ドルフィンリゾート　×　○

ドルフィンベェイス　×　×

太地町立くじらの博物館　×**脱退**2015　○

森浦湾くじらの海　×　×

中国(3)

島根県立しまね海洋館AQUAS　○　○

宮島水族館 みやじマリン　○　○

下関市立しものせき水族館海響館　×**脱退**2017　○

四国(5)

新屋島水族館　×　×

四国水族館　×　○

日本ドルフィンセンター　×　○

ドルフィンファームしまなみ　×　○

室戸ドルフィンセンター　×　○

九州(8)

マリンワールド海の中道　○　×

壱岐イルカパーク＆リゾート　×　◯
西海国立公園九十九島水族館海きらら　×　◯
わくわく海中水族館　シードーナツ　×　◯
大分マリーンパレス水族館 うみたまご　◯　◯
うみたま体験パーク つくみイルカ島　×　◯
志布志湾海の駅イルカランド　×　◯
いおワールドかごしま水族館　◯　×

沖縄(4)

沖縄美ら海水族館　◯　×
もとぶ元気村（オキナワマリンリサーチセンター）　×　◯
ルネッサンス リゾートオキナワ (OMRC)　×　×
ドルフィンファンタジー石垣島　×　×

第四項　分類5　所有・運営主体による分類

所有者

所有者は、行政系と民間系の2種類。行政施設は19施設、民間施設は35施設。

行政施設は以下。それ以外は民間施設です。

日本政府が所有している水族館もあります。国土交通省がマリンワールド海の中道、内閣府沖縄総合事務局・都市再生機構が沖縄美ら海水族館を所有しています。

1. おたる水族館（小樽市）
2. 青森県営浅虫水族館（青森県）
3. アクアワールド大洗（茨城県生活環境部生活文化課）
4. しながわ水族館（品川区）
5. 新潟市水族館マリンピア日本海（新潟市）
6. 上越市立水族博物館 うみがたり（上越市）
7. のとじま水族館（石川県）
8. 越前松島水族館（坂井市）
9. 神戸市立須磨海浜水族園（神戸市）
10. 太地町立くじらの博物館（太地町）
11. 島根県立しまね海洋館AQUAS（島根県）
12. 宮島水族館 みやじマリン（廿日市市）
13. 下関市立しものせき水族館 海響館（下関市）
14. マリンワールド海の中道（国土交通省）
15. 壱岐イルカパーク（観光商工課）
16. 西海国立公園九十九島水族館海きらら（佐世保市）
17. うみたま体験パーク「つくみイルカ島」（津久見市／株式会社マリーンパレス）
18. いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）
19. 沖縄美ら海水族館（内閣府沖縄総合事務局・都市再生機構）

運営者

運営者は、「行政」「指定管理」「民間」の3種類です。

ここでは「行政」は、行政が所有する施設を行政が運営している施設を指します。

「指定管理」とは、行政が所有する施設を、行政の委託を受けた民間法人が管理している施設です。例えば、上越市立水族博物館 うみがたりは、上越市が所有、株式会社横浜八景島が管理。しながわ水族館は、品川区が所有、(株)サンシャインエンタプライズが管理しています。この指定管理制度の問題は、税金で建てられた行政施設にもかかわらず、民間が管理運営しているということを理由に、情報開示請求に応じないことです。イルカについての情報など、本来市民に公開すべき情報をブラックボックスにすることができます。

「民間」は、その名の通り民間企業などが所有運営している施設です。

第五項　世界の水族館

イルカの数

World Animal Protectionの2021年4月の記事によると、世界中で3,000名を超えるイルカが監禁されているそうです。

ヨーロッパ2015年

https://theecologist-org.translate.goog/2015/mar/04/call-goes-out-dolphinarium-free-europe?_x_tr_sl=en&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=sc

水族館の数

世界の水族館の数は不明です。

不明の理由は、①発展途上国の水族館の数が不明、②先進国であっても各国動物園水族館協会に加盟している水族館の数はわかるがそれ以外の水族館の数は不明、③どこまでを水族館とするか基準が曖昧。例えば大手安売り店の店頭で海洋動物が監禁されている水槽を水族館とするかなど、④海洋動物研究施設やドルフィナリウム(イルカの展示をメインとした施設)、動物園等に置かれた水槽、水性生物の展示をメインとしながら販売している施設等を水族館とするか否か、⑤博物館などの生体動物展示は水族館とするか、などです。

参考までに主な国の水族館の数は以下です。インターネット上にある数字ですので、上記理由から正確な数ではないと思われます。

アメリカ　185

日本　105

中国　80以上　（参考：China's marine parks）

UK　29

インド　24

ブラジル　22

フランス　18

タイ　18

カナダ　14

ドイツ　14

スペイン　14

参考までに本書を執筆する過程で収集した各国の水族館やドルフィナリウムのリストを示しておきます。

［韓国］

かつてイルカを監禁していた施設

ソウルグランドパーク（서울대공원）

ミナミバンドウイルカ（韓国で違法捕獲）6名（死亡3名、解放3名）

バンドウイルカ（日本が輸出）11名（死亡10名、譲渡1名）

2017年6月、最後のイルカJedolが搬出された

済州太平洋土地（제주 퍼시픽랜드 ）

ミナミバンドウイルカ（韓国で違法捕獲）21名（死亡16名、解放5名）

バンドウイルカ（日本が輸出）13名（死亡12名、譲渡1名）

繁殖 7名（死亡7名）

2021.12イルカショー終了

済州海洋公園（제주 마린파크 ）

バンドウイルカ（日本が輸出）8名（死亡8名）

2021年8月、最後のイルカが死亡

現在イルカを監禁している施設

ウルサンクジラエコロジカルエクスペリエンスセンター（울산 고래생태체험관：長生浦鯨博物館 ）

バンドウイルカ（日本が輸出）8名（死亡5名、生存3名）

繁殖 4名（死亡3名、生存1名）

現在バンドウイルカ4名監禁中

ハンファ アクアプラネット 麗水（Hanwha aqua planet yeosu：한화 아쿠아플라넷 여수 ）

ベルーガ（ロシアが輸出）3名（死亡2名、生存1名）

現在ベルーガ1名監禁中

ハンファ アクアプラネット 済州（Hanwha Aqua Planet Jeju：한화 아쿠아플라넷 제주 ）

バンドウイルカ（日本が輸出）7名（死亡3名、生存4名）

現在バンドウイルカ4名監禁中

巨済(コジェ)シーワールド（Geoje Sea World：거제씨월드）

バンドウイルカ（日本が輸出）16名（死亡10名、生存6名）

バンドウイルカ（済州太平洋土地から寄付）2名（生存2名）

ベルーガ（ロシアが輸出）4名（死亡1名、生存3名）

現在バンドウイルカ8名、ベルーガ3名監禁中

ロッテ・ワールド・アクアリウム（서울 롯데월드 아쿠아리움 ）

ロシアからベルーガ輸入　3名（死亡2名、生存1名）

現在ベルーガ1名監禁中

* 日本が輸出したバンドウイルカは63名。うち48名がすでに死亡し、15名が生存しています。

［ウクライナ］

ドルフィナリウム・ネモ　オデッサ

Дельфинарий HEMO Одесса
Delphinarium Nemo Odessa
http://www.nemo.od.ua/

ドルフィナリウム・ネモ　コブレボ

Дельфинарий HEMO Коблевском
Delphinarium nemo Kobleve
http://nemokoblevo.com.ua/

ドルフィナリウム・ネモ　ハリコフ

Дельфинарий HEMO Kharkiv
Dolphinarium Nemo Kharkiv
http://nemo.kh.ua/
2022年6月21日、キキ(Kiki)、マイア(Maia)、マルチャ(Marucya)、ベテロック(Veterok)が、ルーマニアのコンスタンツァ自然科学博物館に搬送されショーを開始。同館にはニニ(Nini)とチャンチャン(Chan-Chan)が監禁されている。

ドルフィナリウム・ネモ　ベルジャンシク

Nemo
住所：вулиця Макарова, 4 В, Бердянськ, Запорізька область, 71100（ザポリージャ州）

http://www.nemo.ua/

ドルフィナリウム・オスカー　ヘニチェスカ・ヒルカ(Heniches'ka Hirka)

Дельфінарій "Оскар"
Dolphinarium "Oscar"
住所：НАБЕРЕЖНА, 32В, Heniches'ka Hirka, Khersons'ka oblast, ウクライナ 75581

http://genichesk.oskar.org.ua　（Геніческу）

ドルフィナリウム・オスカー　キリリフカ(Kyrylivka)

Дельфінарій "Оскар"
Del'finariy "Oskar"
住所：Vulytsya Pershotravneva, 1B, Kyrylivka, Zaporiz'ka oblast, ウクライナ 72564

http://kirillovka.oskar.org.ua　（Кирилівці）

ドルフィナリウム・オスカー　トラスコヴェッツ(Truskavets)

Del'finariy "Oskar"
住所：УКРАЇНА, ЛЬВІВСЬКА ОБЛАСТЬ, М. ТРУСКАВЕЦЬ, ВУЛ. ГОРОДИЩЕ, 18（リヴィウ州）

http://truskavets.oskar.org.ua （ТРУСКАВЦІ）

（オスカー系まとめページ http://oskar.org.ua/）

スカドフスキー・ドルフィナリウム・水彩

Скадовський Дельфінарій “Акварель”
住所：2е, вулиця Поповича, Скадовськ, Херсонська область, 75701

https://skadovsk.delfinarium.com.ua/

* NEMO（ウクライナ語ではHEMO）というドルフィナリウムやリゾート施設を運営しているグループが力を持っているようです。
* 2014年8月29日付のNEWSポストセブンの記事ではウクライナには3〜4つの水族館しかないと書かれていますが、2022年時点で8施設。2104年に併合されたクリミア半島の9施設も合わせると17施設あります。またウクライナの業者がハンガリーの業者にイルカロンダリングを行おうとしたこともあります。当時ウクライナに輸出されていたイルカは水族館のみで利用された可能性もあります。もちろん、クリミア半島ではイルカの軍事利用もしていますので、軍に渡ったとしても不思議ではありません。
* 黒海バンドウイルカを捕獲し、水族館で利用していることもあります。

［クリミヤ半島］

ドルフィナリウム・ネモ　フェオドシヤ

Дельфинарий НЕМО Феодосийский
http://dolphinfeodosia.com/

ドルフィナリウム・ネモ　アルシュタ

Алуштинский дельфинарий «Немо»
http://dolphinalushta.com/

アクアトリア・ヤルタ

Театр Морских Животных "Акватория", Ялта
Teatr Morskikh Zhivotnykh "Akvatoriya", Yalta
http://yalta.delfinary.com/

エフパトリスキー・デリフィナリ

Евпаторийский Дельфинарий
https://dolphinevpatoria.ru/

カラダグスキー・デリフィナリ

Карадагский Дельфинарий
http://karadag-dolphin.ru/

スチェプナヤ・ガヴァニ

Степная гавань (Дельфинарий)
ドルフィンセラピー施設

http://www.inform-ok.com/ru/overseas.html?act=object&task=showEO&id=171

セヴァストポリスキー・デリフィナリ

Севастопольский дельфинарий
https://sevdelfin.ru/

デリフィナリ・コクテベリ

дельфинарий Коктебель
http://koktebel-delfin.com/

デリフィナリ・アクヴァレリ

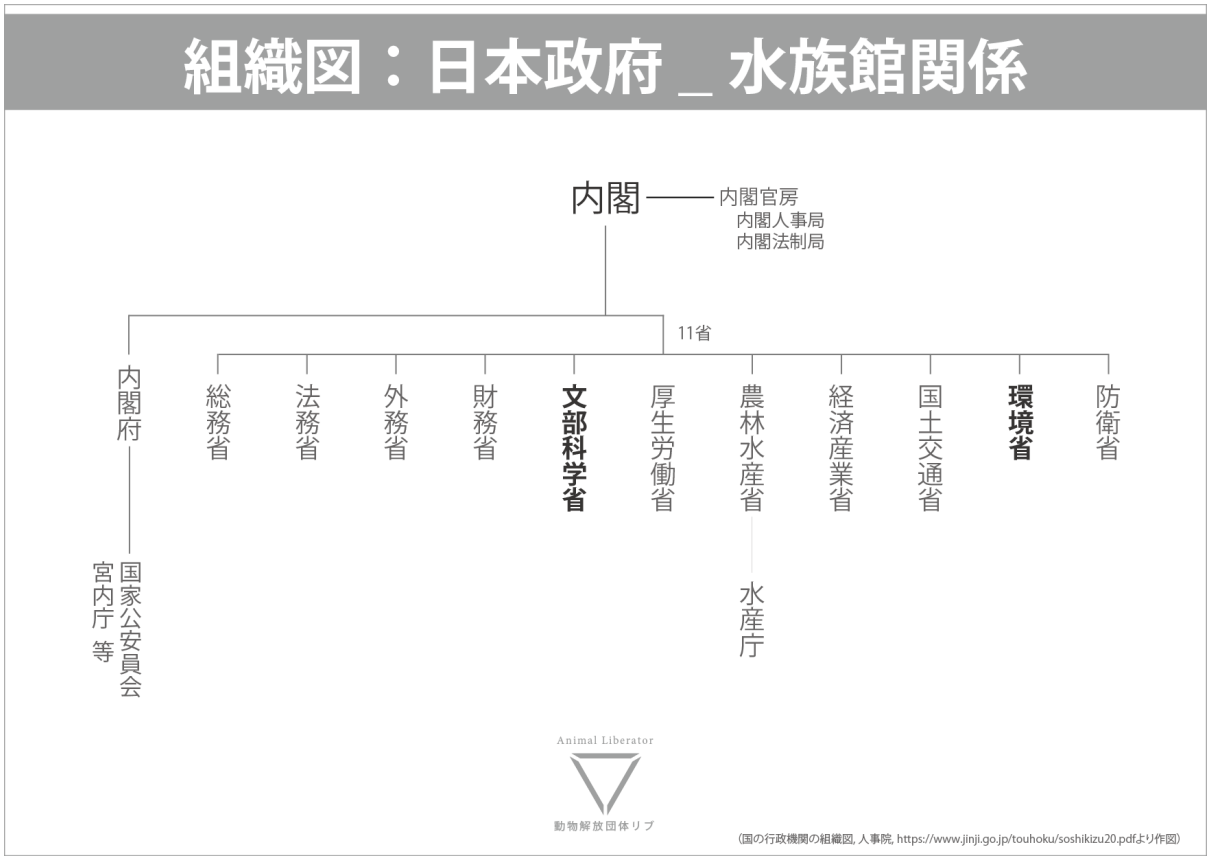
Дельфинарий Акварель
http://dolphinarium-alushta.ru/

第三節　官庁

第一項　中央官庁

水族館に関係する主な官庁は、文部科学省、環境省です。
水族館や動物園を対象とした法律は存在しません。動物園水族館閉鎖を対象とした法律は、博物館法が登録された動水のみを対象、動物愛護管理法がすべての動物飼育施設を対象とし規制しています。
動物園を中心に、動物園水族館を対象とした法律を作ろうとする動きがあります。動物福祉の発展、劣悪な動物園水族館の排除が期待されますが、一方動物園水族館の恒久化をもたらす危険性があります。

［組織図：日本政府_水族館関係］



第一目　文部科学省

［組織図：文部科学省_水族館関係］



文部科学省 文化庁 企画調整課 博物館振興室が、博物館を所管しています。

博物館としての動物園水族館

博物館法において、博物館は3種類計5,738施設あり、登録博物館914，博物館相当施設372，博物館類似施設4,452となっています(平成30年10月時点)。

このうち、

動物園：登録博物館1，博物館相当施設31，博物館類似施設63

水族館：登録博物館1，博物館相当施設29，博物館類似施設38

動植物園：登録博物館0，博物館相当施設9，博物館類似施設16

が登録されています（平成14年度社会教育調査）。

法令

文部科学省所管法令

［URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/01_l/08052911/1279307.htm］

水族館と関係する主な法令は以下。

法律

・**博物館法**

第二目　環境省

［組織図：環境省_水族館関係］



水族館は、動物愛護管理法の対象。第一種動物取扱業です。

2005(平成17)年の法改正から、動物取扱業制度が開始され、都道府県あるいは政令指定都市の動物愛護管理行政担当部局（一覧）への登録が必要となりました。その際、動物園水族館からは動物取扱業とされることに反対の声があがりました。規制されるのを嫌ったためです。

2013(平成25)年の法改正で、営利業者を第一種動物取扱業、非営利業者を第二種動物取扱業、犬猫営利業者を犬猫等販売業とし、第一種動物取扱業には動物取扱責任者の常勤が必要となりました。

水族館は第一種動物取扱業者として、①都道府県あるいは政令都市への登録、②動物取扱責任者が常勤すること、③動物の管理方法や施設の規模・構造等の基準を守ることが義務付けられています。

動物愛護関連の法令・基準等

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/rule.html］

［法令］

水族館と関係する主な法令は以下。

法律

動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護管理法)（施行日：令和四年六月一日）

［URL：動物愛護管理法：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=348AC1000000105］

省令

動物の愛護及び管理に関する法律施行規則（施行日： 令和四年六月一日）

［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=418M60001000001］

告示

展示動物の飼養及び保管に関する基準（令和２年環境省告示第21号）

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/laws/nt_r02_21_2.pdf］

動物の殺処分方法に関する指針（改正 平成19年11月12日環境省告示第 105号）

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/laws/shobun.pdf］

特定動物の飼養又は保管の方法の細目（最終改正：平成26年１月21日環境省告示第10号）

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/laws/nt_h180120_22.pdf］

特定飼養施設の構造及び規模に関する基準の細目（最終改正：平成25年４月25日環境省告示第45号）

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/laws/nt_h180120_21.pdf］

［資料］

動物取扱業

第一種動物取扱業者の規制

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1_law/trader.html］

第二種動物取扱業者の規制

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1_law/trader_c2.html］

特定動物

特定動物リスト

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1_law/sp-list.html］

特定動物（危険な動物）の飼養又は保管の許可について

［URL：https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/1_law/danger.html］

第二項　地方公共団体

第一目　保健所

保健所は、市民の健康を保つことを目的として設立されていますが、動物に関する業務も行っています。
動物に関する業務は、保健所によって異なりますが以下のようなものです。
・動物取扱業登録
・狂犬病予防のための啓発
・狂犬病届出受理
, 野犬、野良猫の捕獲・里親募集・殺処分
・地域猫に関する業務
・動物愛護に関する業務
・犬・猫の適正飼養相談
動物関連の業務は、動物愛護センターに移行しつつあります。

保健所は、都道府県、政令指定都市、中核市、保健所政令市、東京23区に設置されています。動物の監禁状況が悪い場合などに保健所に働きかけることがあります。リブでは、イルカのハニーが監禁されていた犬吠埼マリンパークのプールの水が汚いことに関して保健所に報告しました。保健所が水質検査を行い指導、犬吠埼マリンパークが水を入れ替え、ハニーは清潔な水を得ることができました。
保健所の一覧はこちら。
例えば、犬吠埼マリンパークは千葉県銚子市にありましたので、銚子市・旭市・匝瑳市を担当する海匝(かいそう)保健所に連絡することになります

［法令］
地域保健法
［URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=322AC0000000101］

第二目　動物愛護管理センター

動物愛護管理センターは、以下の法律に基づき、各都道府県等に設置されています。
「動物の愛護及び管理に関する法律」
（動物愛護管理センター）
第三十七条の二　都道府県等は、動物の愛護及び管理に関する事務を所掌する部局又は当該都道府県等が設置する施設において、当該部局又は施設が動物愛護管理センターとしての機能を果たすようにするものとする。
２　動物愛護管理センターは、次に掲げる業務（中核市及び第三十五条第一項の政令で定める市にあつては、第四号から第六号までに掲げる業務に限る。）を行うものとする。

一　第一種動物取扱業の登録、第二種動物取扱業の届出並びに第一種動物取扱業及び第二種動物取扱業の監督に関すること。
二　動物の飼養又は保管をする者に対する指導、助言、勧告、命令、報告の徴収及び立入検査に関すること。
三　特定動物の飼養又は保管の許可及び監督に関すること。
四　犬及び猫の引取り、譲渡し等に関すること。
五　動物の愛護及び管理に関する広報その他の啓発活動を行うこと。
六　その他動物の愛護及び適正な飼養のために必要な業務を行うこと。

かつては保健所が担っていた業務を担うものであり、より保護や譲渡、市民教育に重点が置かれたものになっています。
都道府県の動物愛護センターは、第一種動物取扱業の登録と監督、特定動物の飼養保管の許可と監督、その他動物の愛護及び適正な使用のために必要な業務を行うことになっています。水族館や動物園に関して、不適切な飼育状況や虐待的な状況があったら動物愛護管理センターに通報しましょう。

第二章　イルカ

第一節　日本のイルカ全員調査

この節では2019年の調査結果を記述します。
リブでは、2019年に日本に監禁されているイルカの全員調査を行いました。施設ごとのイルカ種、名前、性別、年齢、捕獲か繁殖か等を調査しています。調査はウェブサイトの確認と電話で行いましたが、以下の施設が確認できませんでした。すべて和歌山県です（ワールド牧場は大阪の施設で、夏にイルカを展示していますが、冬の間は太地町の生け簀に戻しています。太地町の生簀に何名のイルカを所有しているか不明です）。

確認不可能な施設
1 太地町立くじらの博物館（名前非公開（一部公開））
2 太地町開発公社（数・名前非公開）
3 森浦湾くじらの海（不明）
4 ドルフィンベェイス（不明）
5 ドルフィンリゾート（不明）
6 アドベンチャーワールド（名前の確認不可能。ほとんどの動物の名前を非公開）
7 ワールド牧場（不明）
*対象的にアメリカではNOAA(アメリカ海洋大気庁)がすべてのイルカを把握しており、一般に公開しています。

［日本に監禁されているイルカの合計数］
確認可能なイルカは、502名。
確認不可能なイルカは、約100名と推計。
合計600名前後のイルカが日本に監禁されていると推測されます。

［種ごとの数］
最も多いのはバンドウイルカ287名で全体の57.2%。次がカマイルカは92名で18.3%です。
バンドウイルカ　287
カマイルカ　92
ベルーガ　24
スナメリ　23
ハナゴンドウ　16
オキゴンドウ　16
マダライルカ　14
シャチ　7

ネズミイルカ　5
イロワケイルカ　5
ミナミバンドウイルカ　4
シワハイルカ　2
ハセイルカ　2
コビレゴンドウ　1
ユメゴンドウ　1
スジイルカ　0
カズハゴンドウ　0
*太地町立くじらの博物館のイルカは全数不明のためカウントしていない。

交雑種(3)
マロン：バンドウイルカ×カマイルカ（マリンワールド海の中道）
ホップ：バンドウイルカ×マダライルカ（しながわ水族館）
プリン：バンドウイルカ×ハナゴンドウ（南知多ビーチランド）

［女性・男性の比率］
女性 336（65%）
男性 181（35%）
*確認可能なイルカの数より多いのは、アドベンチャーワールドのイルカを性別のみ確認したため。

［捕獲・監禁下での出産(繁殖)の割合］
捕獲 367（81.7%）
繁殖 82（18.3%）
計 449

［施設：イルカの監禁数順］
37　アドベンチャーワールド
36　鴨川シーワールド
34　太地町立くじらの博物館
28　横浜 八景島シーパラダイス
26　名古屋港水族館
23　沖縄ちゅら海水族館
21　マリンワールド海の中道
15　南知多ビーチランド
14　城崎マリンワールド

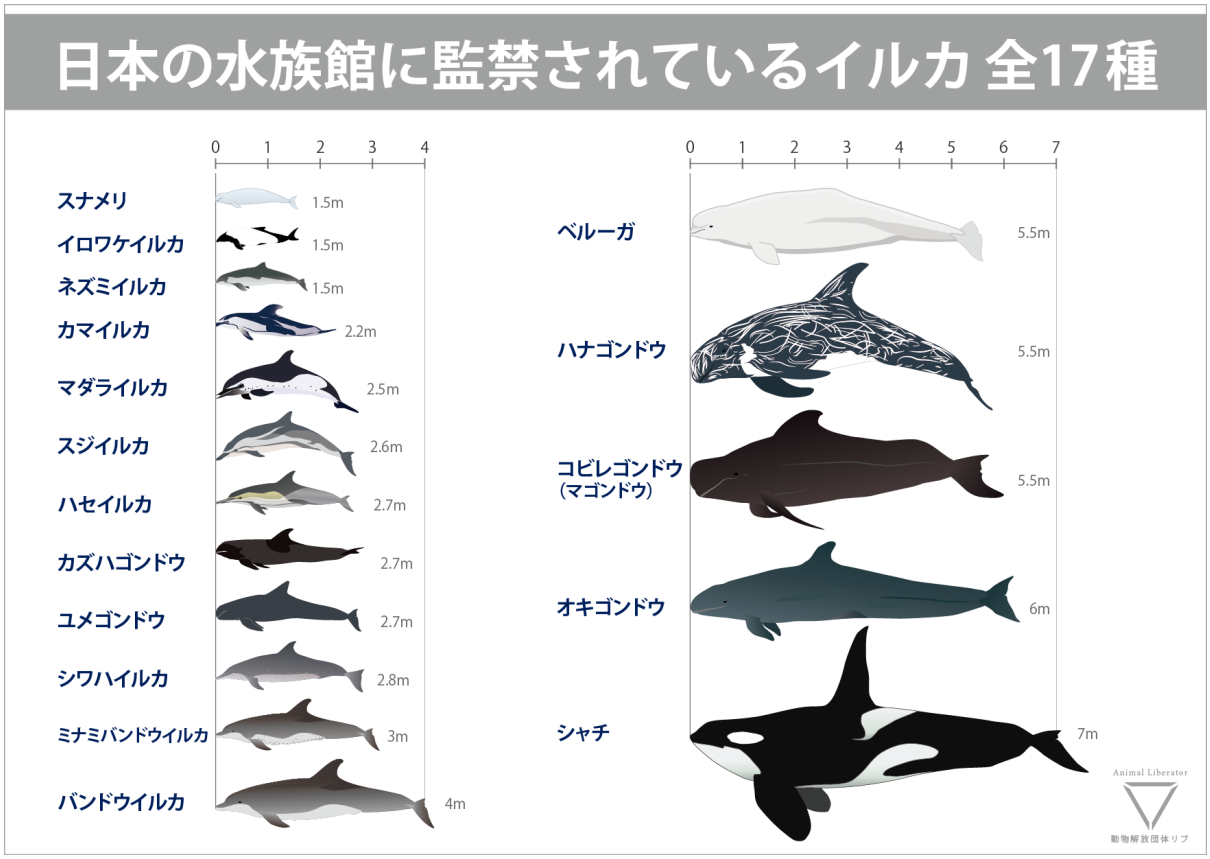
13　のとじま水族館、鳥羽水族館
12　新江ノ島水族館、海響館 下関市立しものせき水族館、うみたま体験「つくみイルカ島」、もとぶ元気村 (OMRC)
11　伊豆 三津シーパラダイス、ルネッサンス リゾート (OMRC)
9　おたる水族館、浅虫水族館、いおワールドかごしま水族館
8　マクセル アクアパーク品川、新潟市水族館 マリンピア日本海、うみたまご、志布志湾大黒イルカランド
7　登別マリンパークニクス、京急油壺マリンパーク、下田海中水族館、神戸市立須磨海浜水族館、島根県立しまね海洋館 AQUAS、四国水族館
6　仙台うみの杜水族館、アクアワールド大洗、越前松島水族館、ドルフィンファンタジー伊東、ドルフィンリゾート、ドルフィンファームしまなみ
5　しながわ水族館、志摩マリンレジャー「いるか島」、京都水族館、海遊館、新屋島水族館、室戸ドルフィンセンター、わくわく海中水族館シードーナツ、ドルフィンファンタジー石垣島
4　ワールド牧場、淡路じゃのひれ ドルフィンファーム、ドルフィン・ベェイス、宮島水族館 みやじマリン、日本ドルフィンセンター、壱岐イルカパーク
3　九十九島水族館 海きらら
2　上越市立水族博物館 うみがたり、伊勢シーパラダイス
1　あわしまマリンパーク
不明　太地町開発公社、太地町開発公社、森浦湾くじらの海、ドルフィンベェイス、ドルフィンリゾート、アドベンチャーワールド、ワールド牧場

日本に監禁されているイルカの数、名前、性別、入手手段等履歴、そして死亡とその原因をすべて知ることは現状不可能です。水族館や行政が監禁している鯨族の全員調査を行わず、責任も負わず、非営利団体が行わなければならない状況は間違っています。
水族館が、野生から動物を捕獲し、あるいは繁殖させて、ブラックボックスにしておくことに社会性や倫理性はありません。すべての鯨族、そして監禁している動物に関して情報公開義務を負わせるべきです。

第二節　種類

第一項　日本の水族館に監禁されているイルカは17種

［図：日本の水族館に監禁されているイルカ全17種］



以下に種による分類を記載します。2020年時点のデータです。数字は監禁されている数。監禁数が不明の施設はカウントしていません。

イルカ追い込み漁捕獲対象種　428（+?）
バンドウイルカ　287（+?）
カマイルカ　92（+?）
ハナゴンドウ　16（+?）
オキゴンドウ　16（+?）+?
マダライルカ　14（+?）
シワハイルカ　2（+?）
コビレゴンドウ　1（+?）
スジイルカ　0（+?）

カズハゴンドウ　0（+?）

イルカ追い込み漁捕獲対象種以外で日本で捕獲(35)

スナメリ　23

ミナミバンドウイルカ　4

ネズミイルカ　5

ハセイルカ　2

ユメゴンドウ　1

輸入(36)

ベルーガ　24

シャチ　7

イロワケイルカ　5

交雑種(3)

第二項　イルカ追い込み漁捕獲対象種ごと

イルカ追い込み漁捕獲対象種かつ水族館に監禁されているイルカ種を、監禁数が多い順番に記載します。

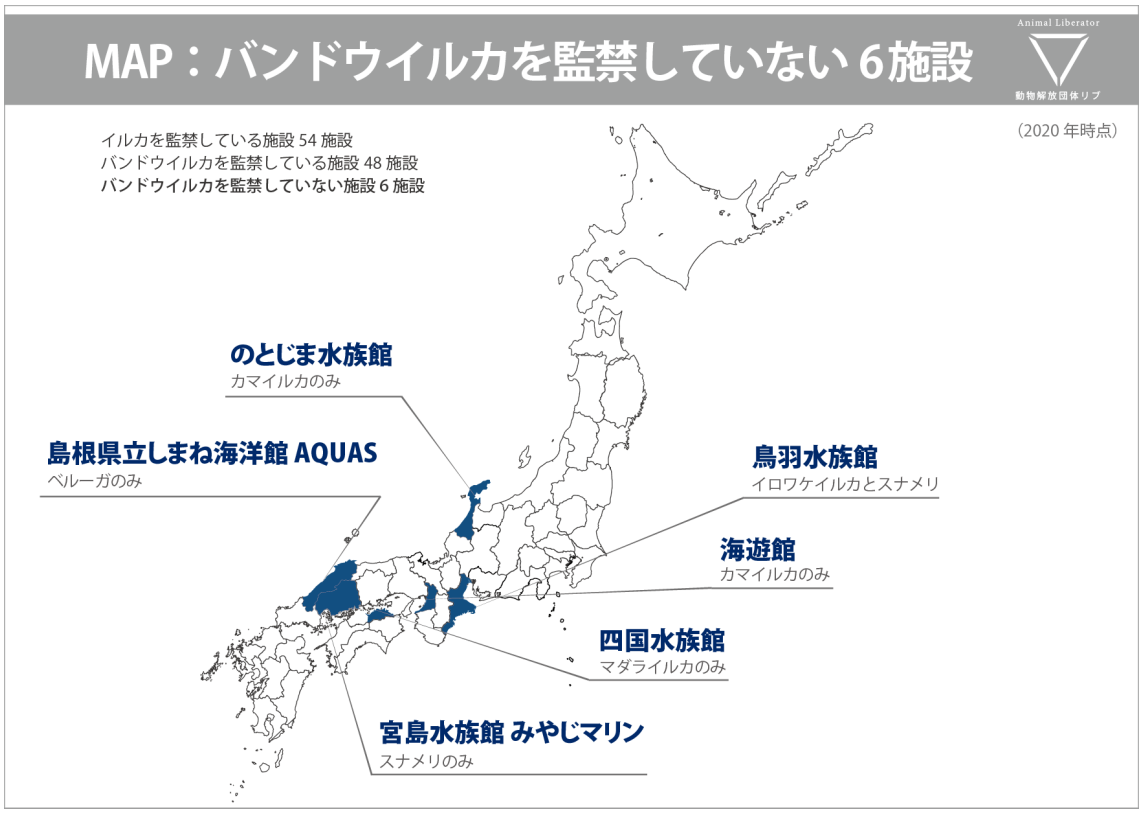
第一目　バンドウイルカ

監禁施設48施設　監禁数287(+?)名

バンドウイルカを監禁していない施設6施設

54施設中48施設がバンドウイルカを監禁しています。バンドウイルカを監禁していない施設は珍しく、特徴的です。ここでは、バンドウイルカを監禁していない施設を把握します。

［MAP：水族館：バンドウイルカを監禁していない6施設］



のとじま水族館（石川県）　カマイルカのみ

鳥羽水族館（三重県）　イロワケイルカとスナメリ

海遊館（大阪府）　カマイルカのみ

島根県立しまね海洋館 AQUAS（島根県）　ベルーガのみ

宮島水族館 みやじマリン（広島県）　スナメリのみ

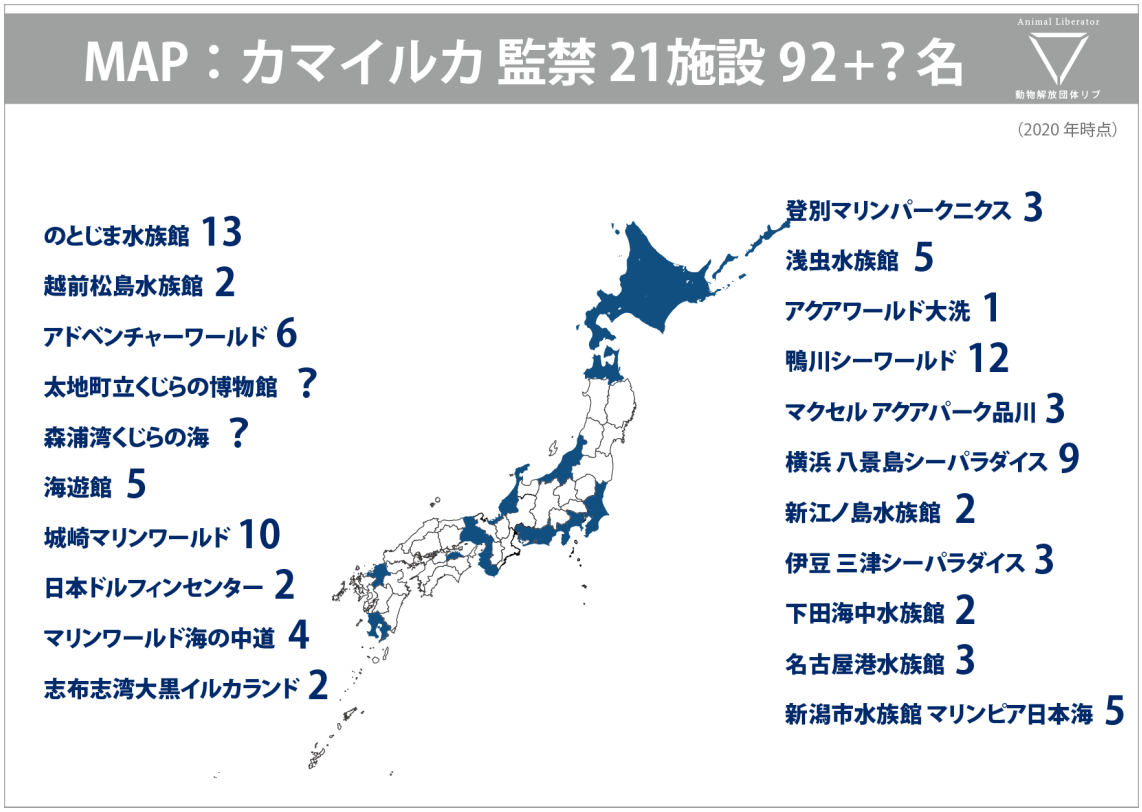
四国水族館（香川県）　マダライルカのみ

なお、太地町立くじらの博物館と森浦湾くじらの海には、かなりの数のバンドウイルカが監禁されています。

第二目　カマイルカ

監禁施設21施設　監禁数92+?名

［MAP：水族館：カマイルカ 監禁21施設92+?名］



登別マリンパークニクス 3（北海道）

浅虫水族館 5（青森県）

アクアワールド大洗 1（茨城県）　鴨川シーワールド 12（千葉県）　マクセル アクアパーク品川 3（東京都）　横浜 八景島シーパラダイス 9（神奈川県）　新江ノ島水族館 2（神奈川県）

新潟市水族館 マリンピア日本海 5（新潟県）　のとじま水族館 13（石川県）　越前松島水族館 2（福井県）

伊豆 三津シーパラダイス 3（静岡県）　下田海中水族館 2（静岡県）

名古屋港水族館 3（愛知県）

アドベンチャーワールド 6（和歌山県）　太地町立くじらの博物館 ?（複数のカマイルカが監禁されている)（和歌山県）　森浦湾くじらの海 ?(かなりの数のカマイルカが監禁されている）（和歌山県）

海遊館 5（大阪府）　城崎マリンワールド 10（京都府）

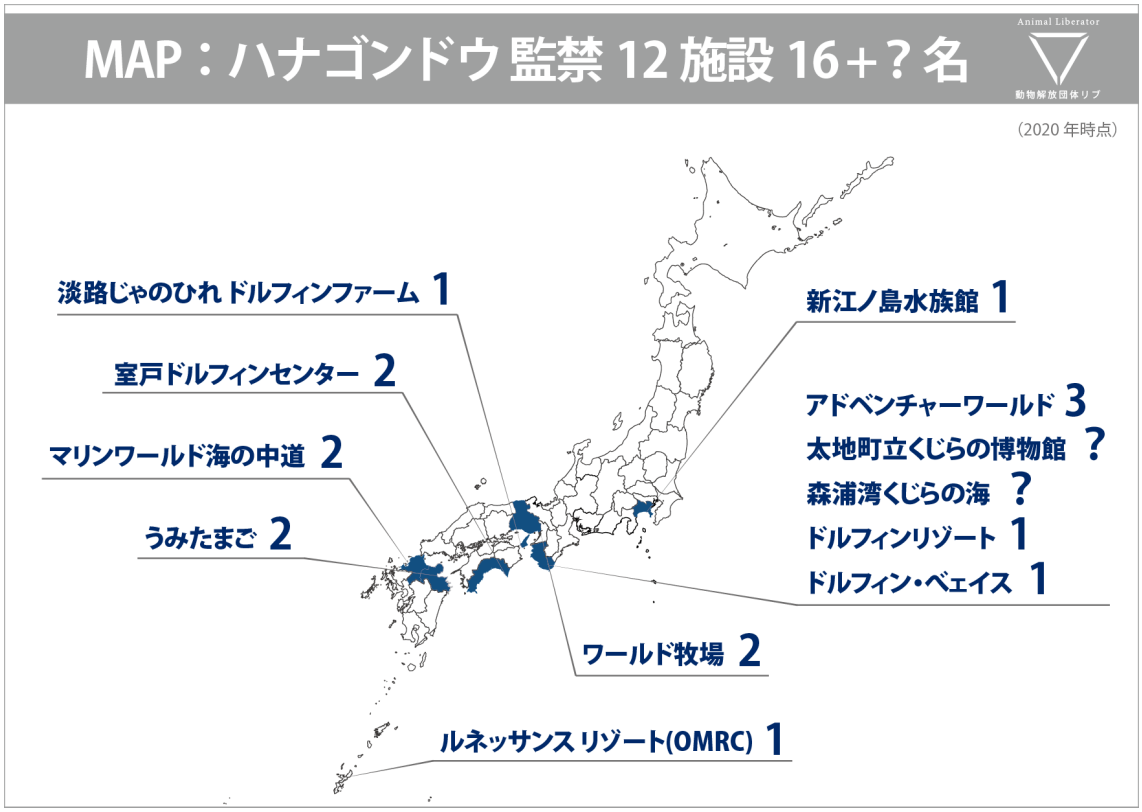
日本ドルフィンセンター 2（香川県）

マリンワールド海の中道 4（福岡県）　志布志湾大黒イルカランド 2（鹿児島県）

第三目　ハナゴンドウ

監禁施設11施設　監禁数16+?名

［MAP：水族館：ハナゴンドウ 監禁11施設16+?名］



新江ノ島水族館 1名（神奈川県）

ビーナ(F)　野生から捕獲

アドベンチャーワールド 3名（和歌山県）

非公開(F) 不明

非公開(M) 不明

非公開(M) 不明

太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

ハマタ(M)　野生から捕獲

ユウジ(M)　野生から捕獲

その他かなりの数のハナゴンドウが監禁されている

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

かなりの数のハナゴンドウが監禁されている

ドルフィンリゾート 1名（和歌山県）
マシュ(F)　野生から捕獲

ドルフィン・ベェイス 1名（和歌山県）
不明(?)　不明

ワールド牧場 2名（大阪府）
トッチー(F) 不明
チハル(F) 不明

淡路じゃのひれ ドルフィンファーム 1名（兵庫県）
よね(F)　野生から捕獲。推定年齢16歳

室戸ドルフィンセンター 2名（高知県）
フローラ(F)　野生から捕獲
ニケ(F)　野生から捕獲

マリンワールド海の中道 2名（福岡県）
ノン(F)　野生から捕獲。推定29歳
ミルク(F)　野生から捕獲。推定14歳

うみたまご 2名（大分県）
かえで(F)
ひいらぎ(M)

ルネッサンス リゾート(OMRC) 1名（沖縄県）
アルク(F)　野生から捕獲

第四目　オキゴンドウ

監禁施設7施設　監禁数16+?名

［MAP：水族館：オキゴンドウ 監禁7施設16+?名］



アクアワールド大洗 1名（茨城県）

ハナ(F)　野生から捕獲

マクセル アクアパーク品川 1名（東京都）

ティナ(F) 不明　野生から捕獲

横浜 八景島シーパラダイス 2名（神奈川県）

マイル(M)　野生から捕獲

リティ(F)　野生から捕獲

アドベンチャーワールド 3名（和歌山県）

非公開(F)

非公開(F)

非公開(M)

太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

少なくとも1名のオキゴンドウが監禁されている

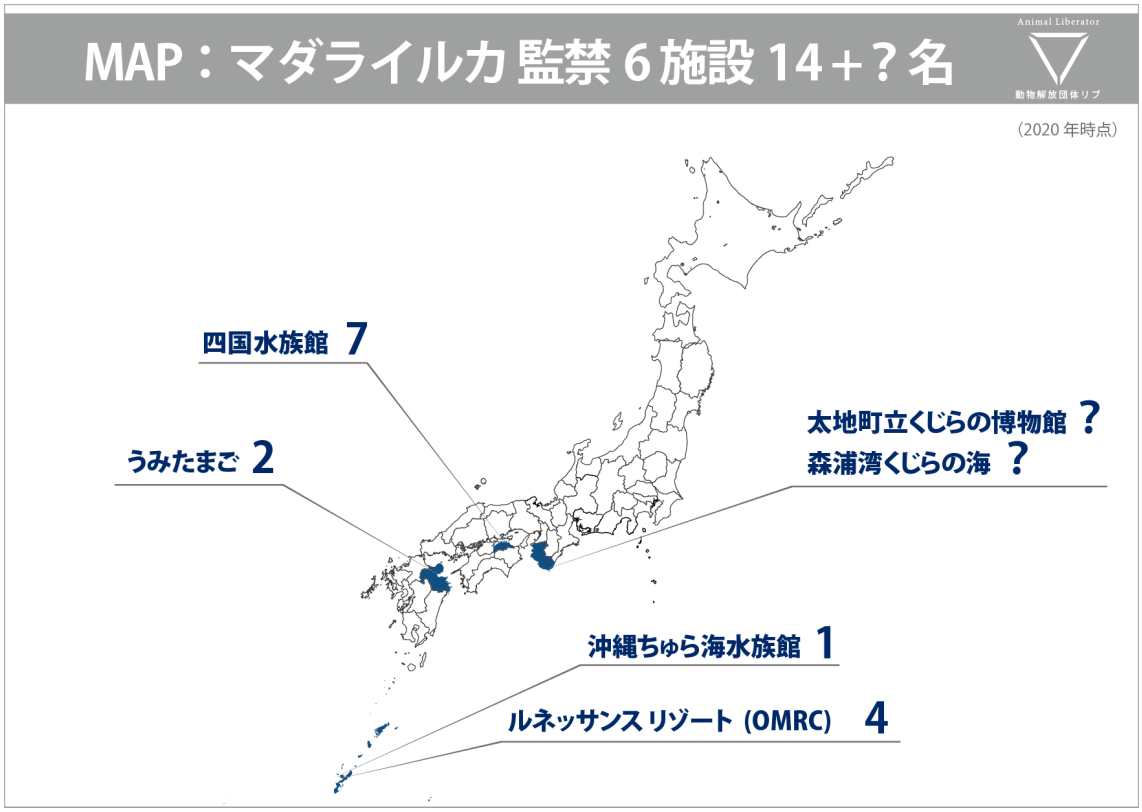
森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）
不明

沖縄ちゅら海水族館 9名（沖縄県）
ゴンちゃん(F)　野生から捕獲
カリ(F)　野生から捕獲
トト(F)　野生から捕獲
アンマ(F)　野生から捕獲
モモ(F)　野生から捕獲
ティダ(M)　野生から捕獲
バース(M)　野生から捕獲。プールから転落した映像はもも。1回目 2010年7月4日。2回目 2013年8月20日。
アーサ(M)　野生から捕獲
サン(M)　モモ／ティダ　2017/5/23
ライズ(M)　モモ／ティダ　2021/7/11

第五目　マダライルカ

監禁施設6施設　監禁数14+?名

［MAP：水族館：マダライルカ 監禁6施設14+?名］



太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

複数のマダライルカが監禁されている

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

不明

四国水族館 7名（香川県）

ティー(F) 野生から捕獲

シー(F) 野生から捕獲

アール(F) 野生から捕獲

アイ(F) 野生から捕獲

ジェー(F) 野生から捕獲

エイチ(F) 野生から捕獲

エル(F) 野生から捕獲

うみたまご 2名（大分県）

スイカ(F) 野生から捕獲

メロン(M) 野生から捕獲

沖縄ちゅら海水族館 1名（沖縄県）
リラ(F) 野生から捕獲

ルネッサンス リゾート (OMRC) 4名（沖縄県）
ヒソップ(F) 野生から捕獲
チコリ(F) 野生から捕獲
マロウ(M) 野生から捕獲
ヤロー(M) 野生から捕獲

第六目　シワハイルカ

監禁施設3施設　監禁数2+?名

［MAP：水族館：シワハイルカ 監禁3施設2+?名］



太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

複数のシワハイルカが監禁されている

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

不明

沖縄ちゅら海水族館 2名（沖縄県）

サクラ(F) 野生から捕獲

ミンタ(M) 野生から捕獲

第七目　コビレゴンドウ

監禁施設3施設　監禁数1+?名

［MAP：水族館：コビレゴンドウ 監禁1施設2+?名］



太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

かなりの数のコビレゴンドウが監禁されている

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

不明

マリンワールド海の中道 1名（福岡県）

ユキ(F) 野生から捕獲。推定33歳

第八目　スジイルカ

監禁施設2施設　監禁数?名

［MAP：水族館：スジイルカ 監禁2施設?名］



太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

複数のスジイルカが監禁されている

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

複数のスジイルカが監禁されているはず。

第九目　カズハゴンドウ

監禁施設2施設　監禁数?名

［MAP：水族館：カズハゴンドウ 監禁2施設?名］



太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

かなりの数のカズハゴンドウが監禁されている

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

不明

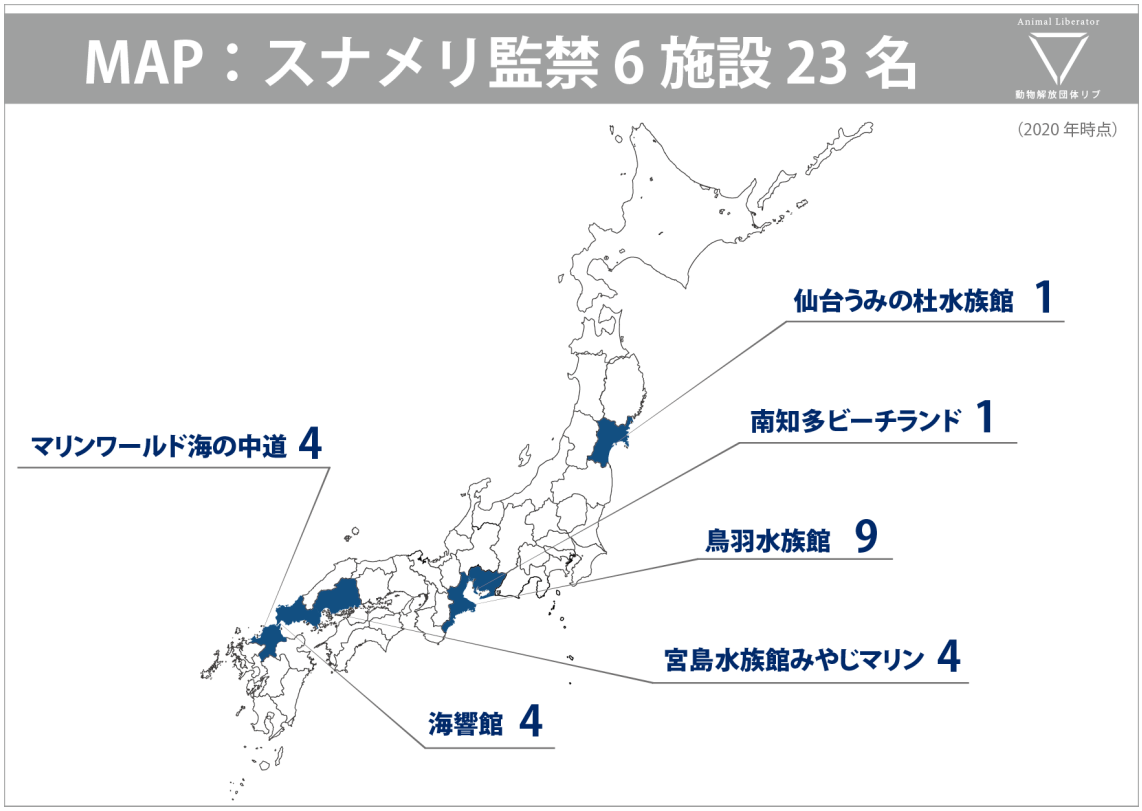
第三項　イルカ追い込み漁捕獲対象種以外で日本で捕獲

イルカ追い込み漁捕獲対象種ではありませんが、日本の海域で捕獲・保護されて水族館に監禁されているイルカ種を、監禁数が多い順番に記載します。

第一目　スナメリ

監禁施設6施設　監禁数23名

［MAP：水族館：スナメリ 監禁6施設23名］



鳥羽水族館 9名（三重県）

ユウキ(F)　不明

チョボ(F)　不明

リン(F)　2013年5月 鳥羽水族館監禁下で出生

イチゴ(F)　2013年5月 鳥羽水族館監禁下で出生

ココロ(F)　2017年5月 鳥羽水族館監禁下で出生

ワカバ(F)　2019年5月25日 鳥羽水族館監禁下で出生

ゴウ(M)　不明

マリオ(M)　2005年4月 鳥羽水族館監禁下で出生

ハロー(M)　2014年8月 鳥羽水族館監禁下で出生
*日本で初めてスナメリを監禁（1963〜）

宮島水族館みやじマリン 4名（広島県）
コハル(F)　監禁下で出生
チハル(F)　2016年3月 監禁下で出生
ハッチ(M)　野生から捕獲
セト(M)　監禁下で出生

海響館 4名（山口県）
かんな(F)　野生から捕獲
きらら(F)　野生から捕獲
ひびき(M)　野生から捕獲
あいす(M)　2015年海響館監禁下で出生

マリンワールド海の中道 4名（福岡県）
アリス(F)　野生から捕獲。推定年齢12歳
ミク(F)　野生から捕獲。推定年齢4歳
ゴテン(M)　野生から捕獲。推定年齢13歳
ハク(M)　野生から捕獲。推定年齢13歳

仙台うみの杜水族館 1名（宮城県）
名無し(M)　野生から捕獲

南知多ビーチランド 1名（愛知県）
マリン(F)　野生から導入

のとじま水族館（石川県）
2008年、3名のスナメリ（父スナー 母メリー 子ゲンキ）を全滅させた。

第二目　ミナミバントウイルカ

監禁施設1+?施設　監禁数4+?名

［MAP：水族館：ミナミバントウイルカ 監禁1+?施設4+?名］



太地町立くじらの博物館 ?名（和歌山県）

不明

森浦湾くじらの海 ?名（和歌山県）

不明

沖縄ちゅら海水族館 4名（沖縄県）

オキちゃん(F)　野生から捕獲。1973年奄美大島で捕獲、海洋博の時に入手。49年間監禁

サミ(F)　オキちゃんと？の子。ちゅら海水族監禁下で出生

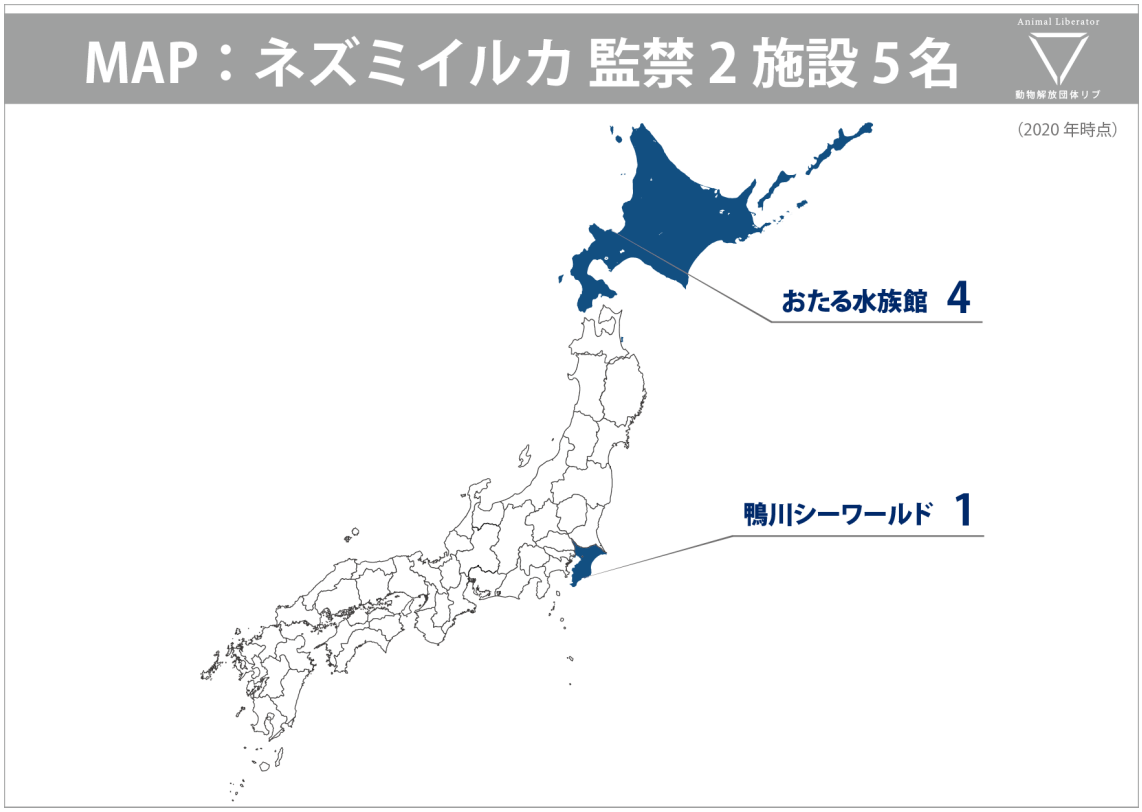
クロ(M)　野生から捕獲

ムク(M)　野生から捕獲

第三目　ネズミイルカ

監禁施設2施設　監禁数5名

［MAP：水族館：ネズミイルカ 監禁2施設5名］



おたる水族館 4名（北海道）

アツコ(F)　2004年5月15日 野生から捕獲。推定16歳。2回妊娠、出産無し

マナ(F)　2014年4月30日 野生から捕獲。推定6歳

シュン(M)　2008年4月23日 野生から捕獲。推定12歳

テッペイ(M)　2008年4月23日 野生から捕獲。推定12歳

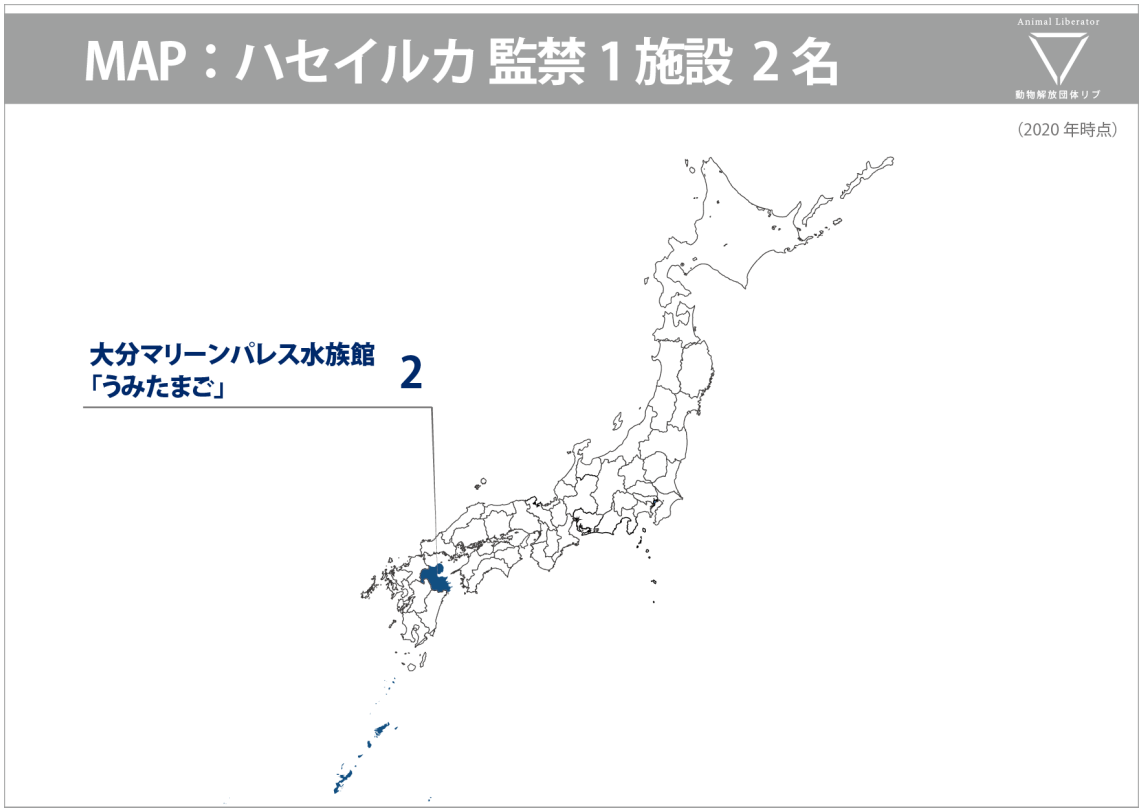
鴨川シーワールド 1名（千葉県）

ポラリ(F)　野生から捕獲

第四目　ハセイルカ

監禁施設1施設　監禁数2名

［MAP：水族館：ハセイルカ 監禁1施設2名］



大分マリーンパレス水族館「うみたまご」2名（大分県）

ハルカ(F)　野生から捕獲

未定(M)　野生から捕獲

第五目　ユメゴンドウ

監禁施設1施設　監禁数1名

［MAP：水族館：ユメゴンドウ 監禁1施設4名］



沖縄ちゅら海水族館 1名（沖縄県）

ムー(M)　野生から捕獲(保護)

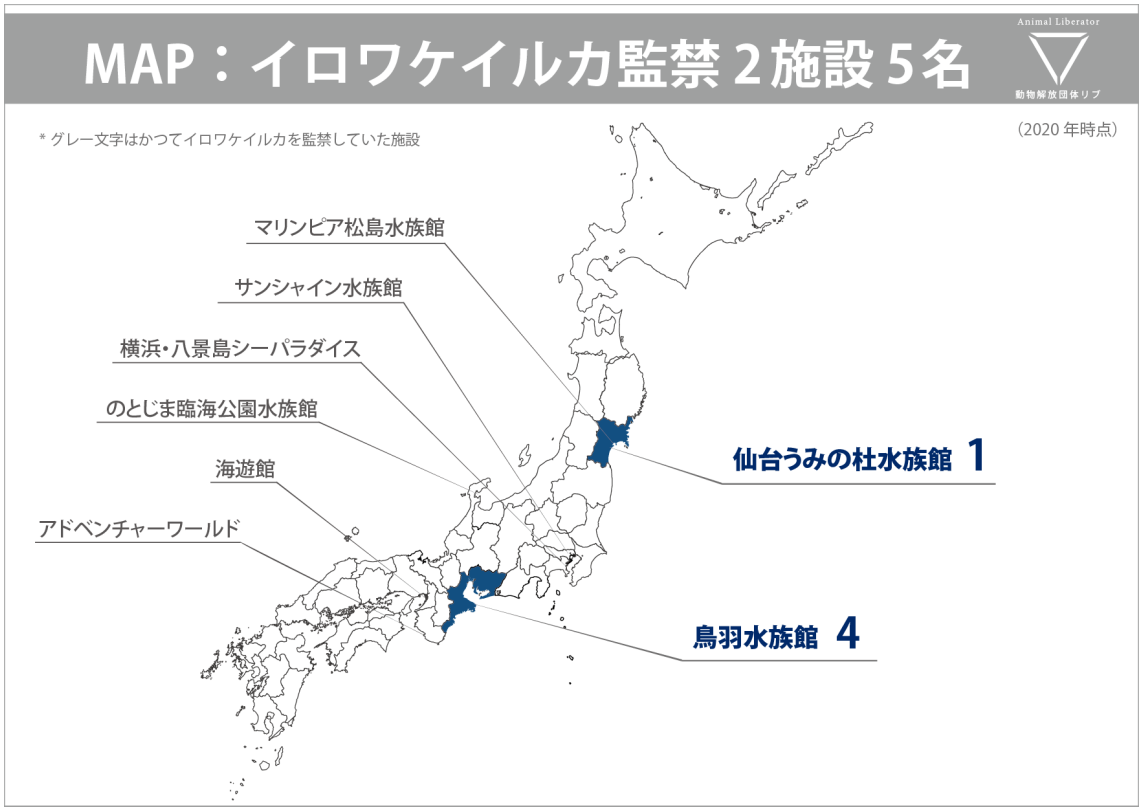
第四項　輸入

海外から輸入されたイルカ種を、監禁数が多い順番に記載します。

第一目　イロワケイルカ

監禁施設2施設　監禁数5名

［MAP：水族館：イロワケイルカ 監禁2施設5名］



鳥羽水族館 4名(三重県)

ララ(F)　1991年5月 マリンピア松島水族館監禁下で出生

ベラ(F)　不明

カイ(M)　1997年5月 鳥羽水族館監禁下で出生

ライト(M)　ステラ(F)とカイの子。2015年8月9日 鳥羽水族館監禁下で出生

仙台うみの杜水族館 1名（宮城県）

セーラ(F)　1991年5月 マリンピア松島水族館監禁下で出生

*過去にイロワケイルカを監禁したことがある水族館

マリンピア松島水族館

サンシャイン水族館

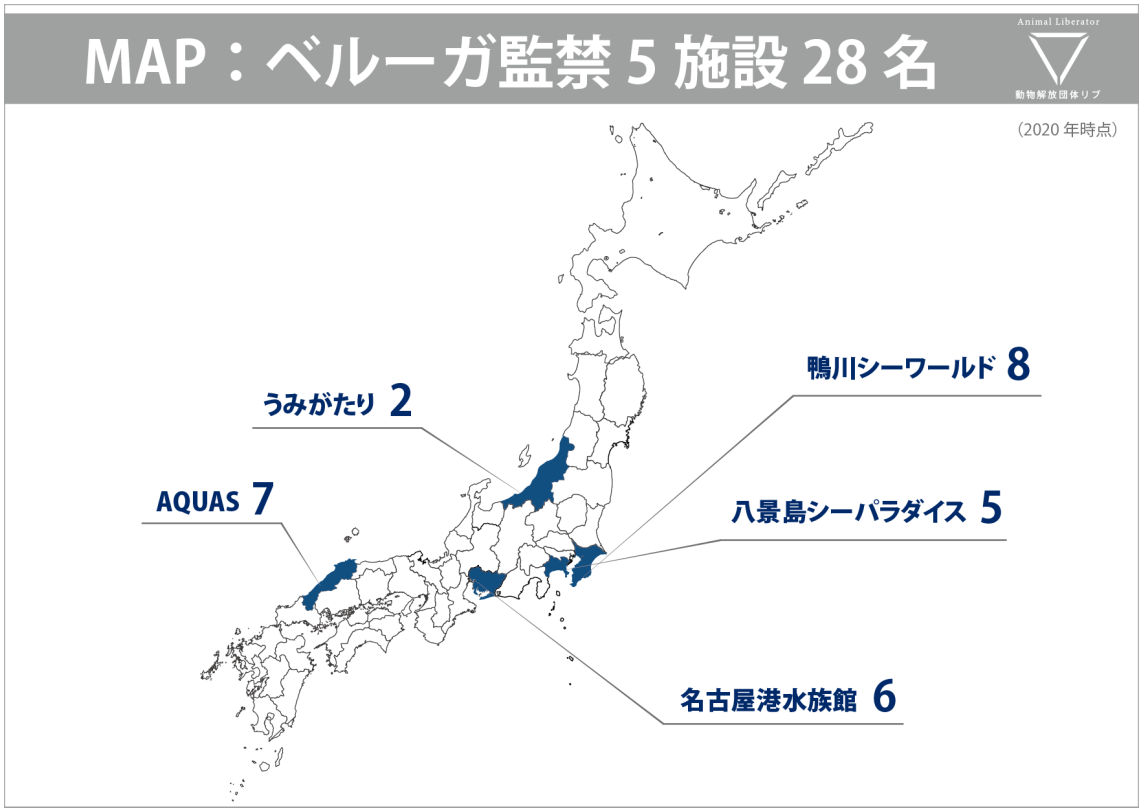
横浜・八景島シーパラダイス

のとじま臨海公園水族館
アドベンチャーワールド
海遊館

第二目　ベルーガ

監禁施設5施設　監禁数28名

［MAP：水族館：ベルーガ 監禁5施設28名］



鴨川シーワールド 8名（千葉県）

ナック(M)　不明

マーシャ(F)　不明。1990年10月にはすでに監禁されている。

デューク(M)　不明

ピーター(?)　2019年頃ロシアから輸入

ジュブ(?)　2019年頃ロシアから輸入

ビーツ(?)　2019年頃ロシアから輸入

ミリー(?)　2019年頃ロシアから輸入

ニーナ(?)　2019年頃ロシアから輸入

*1976年日本で初めてベルーガを監禁

しまね海洋館AQUAS 7名（島根県）

アンナ(F)　ロシア ウラジオストクから輸入

ランゲル(M)　ロシア ウラジオストクから輸入

アーリャ(F)　ロシア ウラジオストクから輸入。ソフトバンクのCMで知られている

ナスチャ(F)　ロシア ウラジオストクから輸入
ケーリャ(M)　ロシア ウラジオストクから輸入
シーリャ(M)　兄 2009年8月3日 AQUAS監禁下で出生
ミーリャ(F)　妹 2018年7月27日 AQUAS監禁下で出生
*2005年日本で初めてベルーガの繁殖を行った。ベルか？
*2007年時点で2名繁殖、1名死亡、1名不明

名古屋港水族館 6名（愛知県）
タアニャ(F)　ロシアから輸入
ホドイ(M)　ロシアから輸入
グレイ(F)　ロシアから輸入
ニコ(M)　2016年8月ロシアから輸入
ナナ(F)　ホドイとタアニャの子。2007年7月25日 名古屋港水族館監禁下で出生
ミライ(M)　ホドイとグレイの子。2012年8月2日 名古屋港水族館監禁下で出生

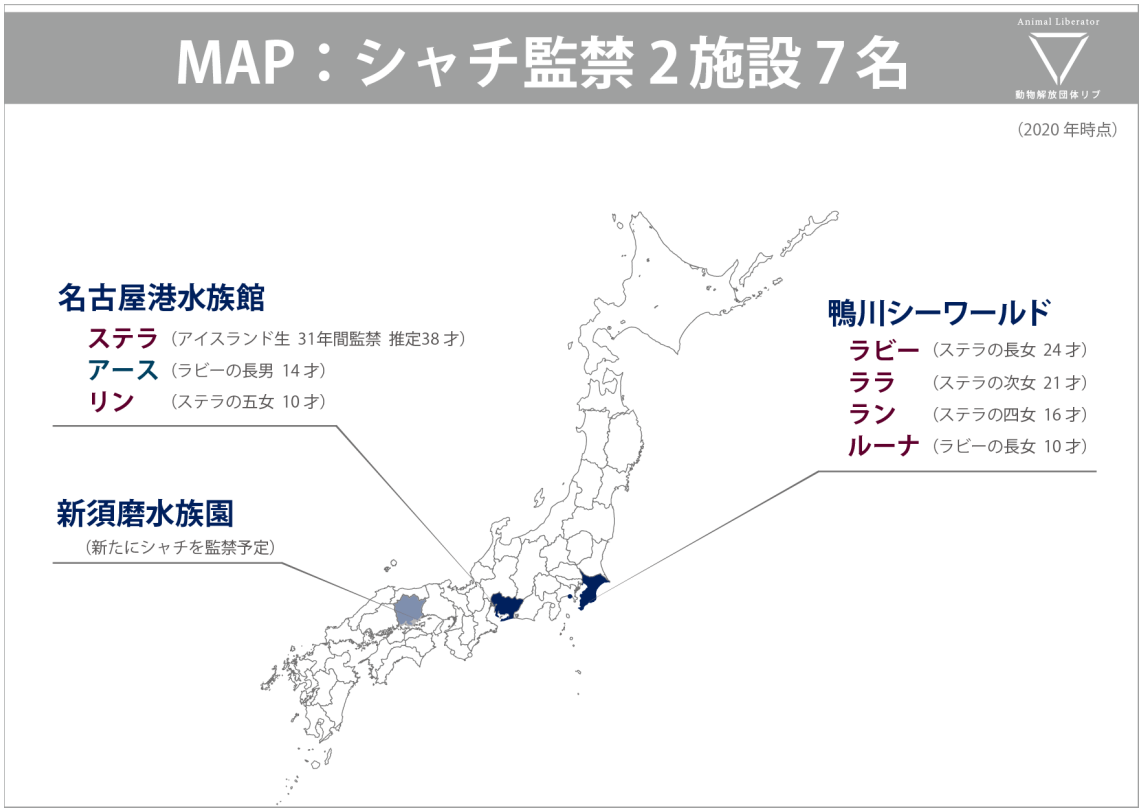
横浜・八景島シーパラダイス 5名（神奈川県）
プルル(M)　1998年10月から監禁
シーマ(F)　2000年4月から監禁
パララ(F)　2004年11月から監禁
クルル(F)　2004年11月から監禁
？(?)　クルルの子。2016年6月八景島シーパラダイス監禁下で出生
*2016年時点で3例目

上越市立水族館 うみがたり 2名（新潟県）
ソーリャ(F)（八景島シーパラダイスから移送）
ソーヤ(F)（八景島シーパラダイスから移送）
*2018年ベルーガ2名とバンドウイルカ4名を指定管理者の八景島から購入。9325万円

第三目　シャチ

監禁施設2施設　監禁数7名

［MAP：水族館：シャチ 監禁2施設7名］



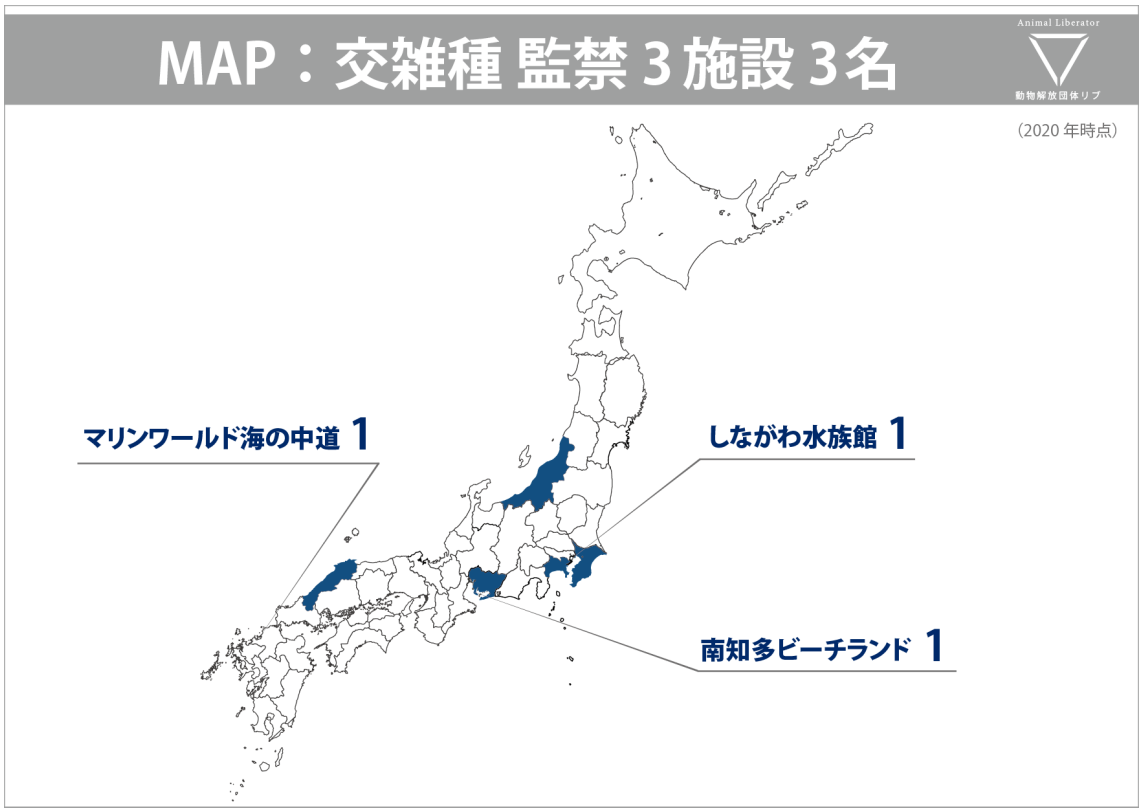
詳細は［第一部 第三章 第五章 第八項 シャチ］へ。

第五項　交雑種

交雑種とは種が異なるイルカから生まれたイルカです。自然界でも交雑はありますが、水族館は、交雑を防ぐ責任があります。しかしながら日本では、3名の交雑種が生まれています。そのうち、マリンワールド海の中道は国の施設です。

交雑種　監禁施設3施設　監禁数3名

［MAP：水族館：交雑種 監禁3施設3名］



しながわ水族館 1名（東京都）

ホップ(F)　1996年3月17日 しながわ水族館監禁下で出生。26歳

バンドウイルカ×マダライルカ

南知多ビーチランド 1名（愛知県）

プリン(M)　ローラ(バンドウ)とネオ(ハナ)の子。南知多ビーチランド監禁下で出生

バンドウイルカ×ハナゴンドウ

マリンワールド海の中道 1名（福岡県）

マロン(F)　2007年9月 監禁下で出生。12歳

バンドウイルカ×カマイルカ

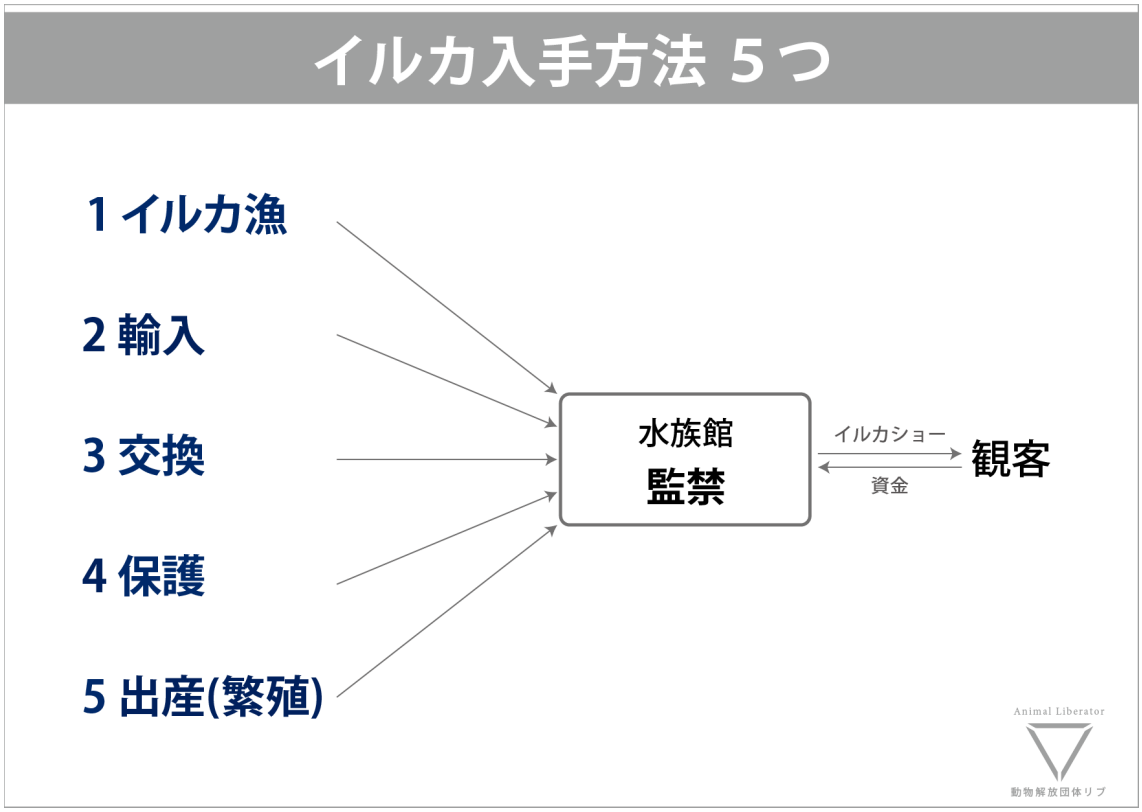
第三節　イルカの入手

第一項　イルカの入手方法5つ

イルカの入手方法は、5つです。この5つの方法による入手を止めれば、やがてイルカは解放されます。つまり、現在水族館に監禁されているイルカのほとんどは解放が不可能です。また、コストも莫大にかかり、日本には解放ができる専門家もいません。とすれば、現実的なイルカの解放とは、新しいイルカの入手を止め、現在監禁されてイルカを終生ケアすることです。イルカたちはやがて亡くなっていき、監禁されているイルカが0になったら、それがイルカの解放です。

それぞれの入手方法の詳細、問題点は、［本文参照：第六部 第三章 第二節 第一項　入手時］をご参照ください。

［図：入手方法5つ］



1. イルカ漁

現在日本のイルカ漁で生体販売をしているのは、和歌山県太地町のイルカ追い込み漁のみです。しかし、イルカ追い込み漁から、JAZA加盟の水族館はイルカ入手ができず、JAZA非加盟の水族館は入手できます。JAZA非加盟水族館にとってイルカ漁からのイルカ入手はお金さえ払えば可能であり、金額も安く、最も簡単な方法です。

2. 輸入

現在、輸入による入手が行われているのはベルーガです。かつては、シャチ、イロワケイルカも輸入されていました。もう二度とできないでしょう。

3. 交換

水族館同士は連携しており、イルカの貸し借りを行っています。生殖が可能なイルカを水族館間で移動させ、生殖させ、妊娠出産させることを、ブリーディングローンと言います。

4. 保護

定置網や巻網などで混獲したイルカや、座礁(ストランディング)したイルカを保護し、治療し、そのまま水族館に監禁し、ショーをさせる入手方法です。怪我が治ったとしても海に返さないこともあります。

5. 出産(繁殖)

現在のところ、JAZA加盟水族館は太地のイルカ追い込み漁からイルカを入手できませんので、彼らにとってイルカを入手する有効な方法はイルカを妊娠出産させることです。いずれ、イルカ追い込み漁、生体販売は先細り終息するでしょう。それを見越して水族館や太地町は、イルカを妊娠出産させる研究に力を入れています。もし子どもが産まれたら、水族館は無料でイルカを手に入れることができます。

第二項　森浦湾くじらの海～イルカの家畜化と繁殖ビジネス～

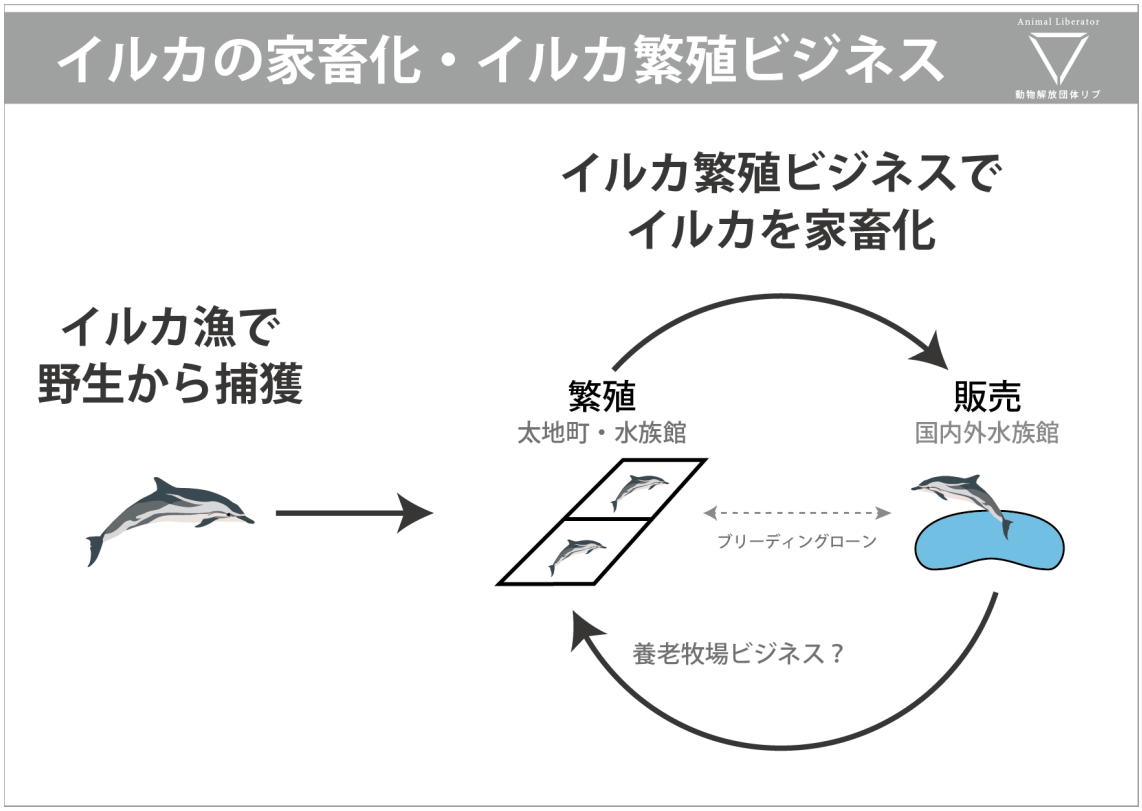
いずれイルカ漁が先細って行くことは、太地町やイルカ漁師含め、誰もがわかっていることです。その時のために、太地町は森浦湾くじらの海を一大繁殖場にしようとしています。森浦湾くじらの海の当初計画は、3つの目的で行うとされています。

1. 繁殖研究
   女性のイルカ40名を12個の生簀に監禁。エコーやホルモン検査によって発情期を特定し、男性を生簀に入れ妊娠させ、生まれた子供のイルカを水族館に販売。
2. イルカと触れ合うことによる人間への影響の研究。
   ドルフィンセラピーをビジネス化する研究だと思われます。
3. イルカの研究
   イルカ自体の研究を行います。

繁殖の目的は、イルカ商材の恒久的な生産、別の表現をすれば野生動物の家畜化、イルカ繁殖ビジネスの確立です。

イルカ漁で捕獲したイルカをJAZA加盟館に売ることができないのなら、繁殖したイルカなら売れる可能性があります。あるいは、一度JAZA非加盟館に売った上で、ブリーディングローンを行えば、イルカをロンダリングすることができます。

［図：イルカの家畜化・イルカ繁殖ビジネス］



太地町のイルカ繁殖ビジネスにお墨付きを与え、また研究材料を手に入れているのが学者たちです。これを学者や動物園水族館は「種の保存」と表現します。アメリカのナショナルアクアリウム（* 民間の水族館）が設立しようとしているドルフィンサンクチュアリも同様の目的を持っています。

捕鯨産業やイルカ産業、水族館産業は、「科学的」という言葉を使うことを好みますが、大事なのは目的の正当性と成果を何に使うのかです。彼らのいう「科学」の目的とは、つまるところ彼らの利益やポジションを維持することであり、彼らにとっての正当性にしかすぎません。「種の保存」とは、「水族館に監禁している種の保存」であり、「環境・生態系の中の種の保存」ではないということに注意が必要です。証明は、彼らが殺したイルカと、自然に返したイルカの数を比較すれば事足ります。彼らが殺したイルカは数知れず。彼らが繁殖させ自然に返したイルカはゼロです。

第三項　水族館が欲しがるイルカ

水族館が最も欲しがるイルカは、肌が綺麗で傷がなく、大人しくて従順で賢く、若くて健康な女性です。人間で言えば中高生くらいの女の子を手に入れようとします。肌が綺麗で傷がないのは、水族館の観客にとって見栄えが良いから。従順で賢いのは、イルカトレーナーの命令をよく聞き、反抗せず、芸の物覚えが良いから。若くて健康なのは、将来的に妊娠させれば無料でイルカが手に入るからです

これらの思考は、セクシズムであり、女性蔑視であり、女性の機能の搾取であり、動物差別です。水族館やイルカトレーナーがイルカに対しての抱く欲や傲慢、差別意識が最も表れてるのが、「水族館が欲しがるイルカ」が象徴していると言えます。

一方、資金が無く、妊娠出産させる技術や人材もないイルカ監禁施設では、男性のイルカを手に入れます。男性のイルカは、安いからです。例えば、三重県のイルカ島のイルカたちは、全員男性です。

第四節　イルカの搬送方法

イルカの搬送方法は、国、鯨種などによって異なり、時代によって変遷してきました。ます。以下に典型的な手順を記載します。

1 イルカに麻酔を打ち、目隠しをする

途中暴れたりしないように麻酔を打ち、目隠しをします。未確認情報ですが麻酔によってイルカが亡くなってしまったこともあったようです。輸送自体が虐待行為であり、動物福祉や動物倫理にもとる行為であるということがわかります。現在でも、麻酔や目隠しを使用することがあるかどうかは不明です。

2 皮膚が乾かないようにクリームを塗る

1981(昭和56)年3月、和歌山県太地から北海道おたる水族館に売られたバンドウイルカの輸送作業を撮影した写真には、身体中に真っ白いクリームがベタベタと塗られたバンドウイルカの姿が写っています。キャプションには「長時間のタンカで輸送されたイルカは、人がせいざした状態と同じように全身がしびれて動けません。そのため、プールに入っても泳げず、おぼれてしまいます。」と記載してありました。
なお、最近のイルカの写真を見るとクリームを塗らず輸送しているようです。
［写真：バンドウイルカの搬入］（引用：おたる水族館展示物 180425撮影）



3 イルカ用担架に乗せ、イルカ輸送用タンクに入れる

イルカ用担架（前方に2つの穴が開いていて前ヒレを通す。尾ヒレはタンカの外に出す）に乗せられ、海水を入れた身動きができない狭いイルカ輸送用タンクに入れられます。
以下の写真は、太地町立くじらの博物館で撮影したものです。前びれを入れる穴に血のようなものが付いているのが見えます。

［写真：イルカ用タンカ］



［写真：イルカ輸送用タンク_様々な大きさのタンク］



［写真：イルカ輸送用タンク_タンクの中］



URL先の写真は、米海軍のイルカがRIMPAC(環太平洋合同演習)参加させられる時に撮影された、空輸時の写真です。

［URL：https://www.popularmechanics.com/military/a31210288/transporting-dolphins-navy-air-force/］

3 トラックで搬送する

イルカ輸送用タンクをクレーンでトラックに積み込み、輸送します。動物の輸送に関する法律は存在しません。太地町から日本各地の水族館や、輸出のために空港に運ぶ運送会社は、徳島県の運送会社、やま仁(やまに)運輸です。他の運輸会社もあるかどうかは不明です。

4 搬入する

水族館に到着すると、館内の水槽にクレーンで搬入します。水族館には動物を搬入するためのクレーンが設置されています。動物たちはこのクレーンに吊り下げられて水族館搬入されたら、ほとんどの場合二度と生きて出ることはできません。次に出る時は、死んだ時です。一方通行のクレーンです。水族館に行く際は探してみてください。

［写真：動物搬入用クレーン_名古屋港水族館_1］



［写真：動物搬入用クレーン_名古屋港水族館_2］



［写真：動物搬入用クレーン_いおワールド鹿児島_1］



［写真：動物搬入用クレーン_いおワールド鹿児島_2］



イルカの輸送は、歩留まり七割

かつては、イルカの輸送、販売は「歩留7割」と言われていたそうです。つまり、捕獲したイルカを水族館に運ぶとき10名運んで、水族館に到着したときに7名生きているということです。活動家やイルカに共感的な市民が水族館を監視していない時代、イルカの知識や、イルカへの共感や動物福祉が発達していない時代、一体どれほどのイルカたちが想像もできない苦しみの中死んでいったのかを思うとやり切れなくなります。

第三章　水族館問題

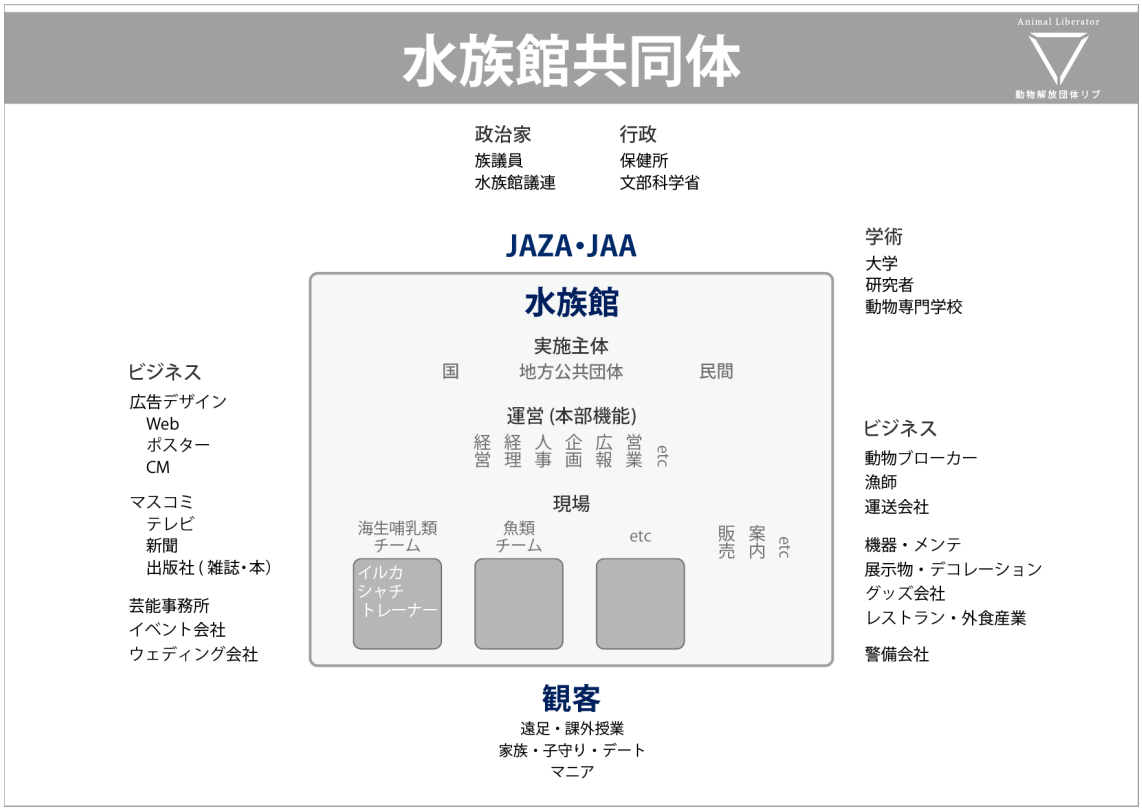
第一節　基本となる考え方

第一項　水族館共同体

水族館は、経営・企画・広報・経理などの運営側と、飼育員・イルカトレーナー・その他スタッフなどの現場側で働く人々で構成されています。複数の水族館を運営していたり、行政の施設から指定管理業者として仕事を請け負っている場合は、それらを統括する本部機能を持ちます。

水族館には様々な業者・大学・ブローカー等が関わっており、利益共同体が構成されています。本書では水族館共同体と呼びます。

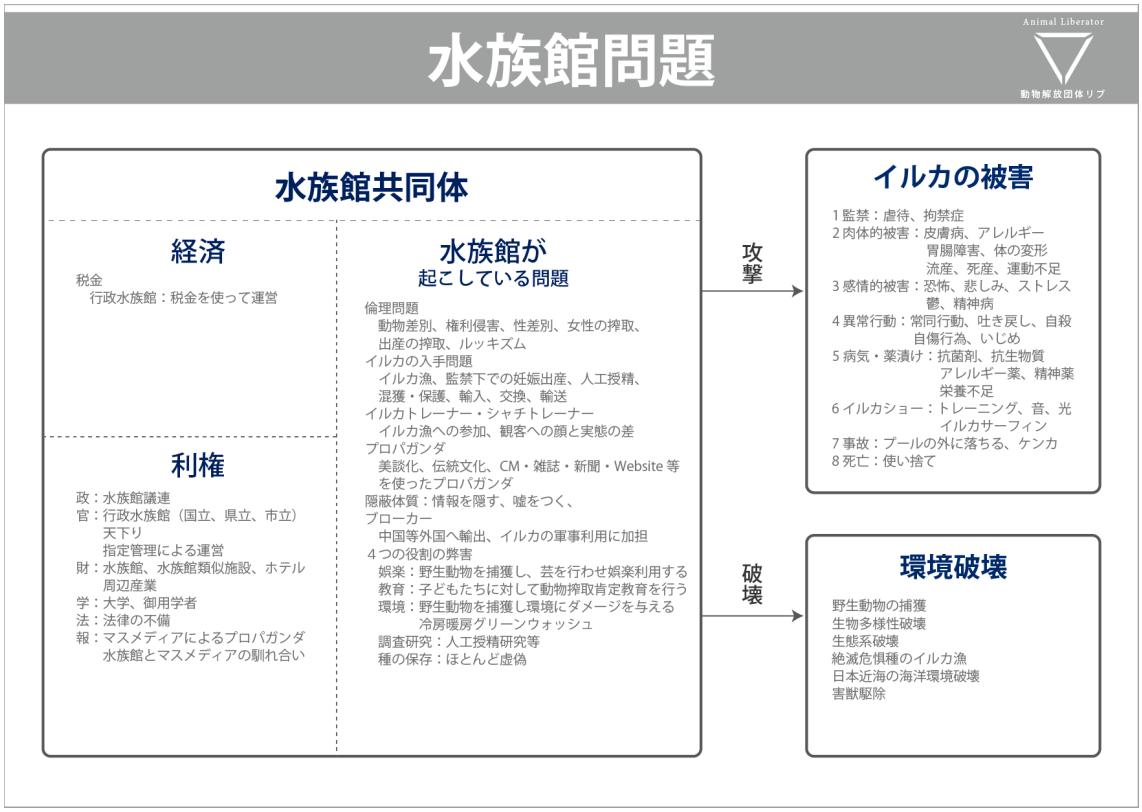
［図：水族館共同体］



第二項　水族館問題の整理

水族館の問題は、イルカが捕獲・繁殖・監禁されることによって起こる「イルカの被害」、水族館が存在することによって起こる「水族館が起こしている問題」「経済」「利権」、そして「環境破壊」に分けられます。本書では魚類や軟体類の問題については触れません。拙著「動物園水族館閉鎖」をお読みください。

［図：水族館問題］



第三項　認識の整理

認識①　モノか、意志・感情がある生命体か

図は以下の場所にある図をご参照ください。

［本文参照：第四部 第七章 第一節 第三項　認識の整理　認識①モノか　動物か］

認識②　イルカ保護 vs 反イルカ保護か、反水族館 vs 水族館か

［図：イルカ保護 vs 反イルカ保護｜反水族館 vs 水族館］



水族館は、イルカの味方であるような物言いをします。イルカトレーナーやシャチトレーナーは、まるでイルカの友達であるかのように自分たちを表現します。

イルカ保護の反対は、反イルカ保護です。水族館に反対することは反水族館になります。水族館がイルカを保護することがありますが、では水族館が保護し治療するイルカの数と、野生から捕獲監禁し、死なせるイルカ、どちらが多いでしょう。泥棒が落とし物を届けたら”いい人”になり、殺人者が猫を助けたら”いい人”になるのと似ている現象です。保護施設は水族館でなくて構いません。片手でイルカ助け、片手でお金のためにイルカを殺していたら、それは殺している姿が実態であり、実際にやりたいことです。動物を助けようとする人々はよく偽善者と言われますが、確かにその側面はあります。偽善的な面がない善はないとも言えます。とすれば、それはバランスで判断する必要があり、水族館の善と偽善のバランスは、かなり偽善に寄っていると言えるでしょう。

第二節　イルカの被害

イルカの被害を、イルカのライフサイクルに沿って見ていきます。イルカを入手し、最期は必ず死亡です。

入手→ 調教→ イルカショー→ 虐待→ 事故→異常行動→ 薬漬け→ 死亡

イルカたちは、それぞれの過程においてさまざまな体験をしています。この節は、自分がイルカの身になってこの人生を経験している、と想像して読んでいただくことを意図しています。倫理とは、相手の立場に立ってその体験を想像することによって生まれます。読み終わった後に、これはして良いことなのか、止めた方が良いことなのかをそれぞれが判断していただければと思います。

第一項　入手時

イルカの入手方法は5つです。

［本文参照：第六部 第二章 第三節 第一項　イルカの入手方法5つ］

入手方法5パターンそれぞれについてそれぞれの問題を知ります。

1. イルカ漁

和歌山県太地町のイルカ追い込み漁から購入します。

問題点

・自然から捕獲した野生動物に芸をさせること

陸生動物を自然から捕獲し、施設に監禁し、芸をさせるということは、今ではほとんどありません。しかし、海生動物であるイルカに対して行うことは、日本では許容されています。先進国を中心にこういった行為は法律で禁止されつつあります。

家族を殺害すること

イルカ追い込み漁で目的のイルカを捕獲した、残りのイルカの多くは殺害されます。リリースされることもありますが、一部です。水族館のために捕獲されたイルカは、自分の家族、母や姉、兄、妹、弟、親戚が殺されているのを目の前で見、声を聞いている可能性があります。イルカは20年前に会ったイルカを覚えているほど記憶力の高い動物。自分の家族を殺した人間たちを喜ばせるのために、イルカショーをさせられています。逆に言えば、人間は不必要で一時的な快楽のためにイルカの家族を殺して芸をさせています。

イルカトレーナー

イルカ追い込み漁には、イルカトレーナーや水族館関係者が参加しています。国内外に販売するイルカを選別するためです。また、イルカトレーナーを養成する専門学校などでイルカ漁を見学することもあります。私は日本全国のイルカトレーナーと会話してきましたが、全員イルカの家族を殺して連れてきたことを知っていました。その会話の直後のショーで、彼らは、イルカは友達であり、信頼関係があると主張します。もしあなたが、誰かの家族を殺し監禁し芸をさせていたら、その相手を友達だ、信頼関係があると笑顔でアピールできるで

しょうか。逆にもしあなたが、家族を殺され、監禁され、芸をさせられいたら、そしてそれをさせている人間を友達だ、信頼していると思えるでしょうか。

水族館へ販売するイルカの捕獲のために、他のイルカを殺すこと

イルカ漁の主な収入源は、水族館への生体販売であり、食用の遺体販売を売上を超えています。つまり現時点ですでに、水族館がイルカを購入しなければ、殺されるイルカもいなくなり、イルカ追い込み漁はすでに終焉している可能性が高いということです。つまり、水族館がイルカ殺害の原因になっています。

観客

イルカが殺害されている原因の根本は、水族館の観客です。イルカが好きな人々が、イルカが殺される原因となっているという悲しむべき状況です。中には、イルカが好き、自然のイルカを見るのも好き、芸をさせるのも好き、食べるのも好き、という人もいるかもしれません。しかし、本当の意味でイルカが好きであったら、現状を変える必要があります。

2. 輸入

イロワケイルカはチリから、ベルーガとシャチはロシアから輸入しています。

問題点

日本から遠い海域で生きている野生動物を捕獲し、輸送し、狭く人工的な監禁する、このすべての過程で心身の負担をかけ、尊厳や権利を搾取しています。監禁後は、心身の病気に追い込み、強制的に子供を産ませ、死ぬまで芸をさせます。人間にしてはいけないことは、動物にもしてはいけません。

さらには、捕獲自体が環境破壊であり、生物多様性・生態系の破壊です。ロシアからの空輸や日本国内での移送、冷たい海に暮らすベルーガやシャチを監禁するためのプールを冷却し続けるなどでエネルギーを消費し環境に負荷を与えています。

3. 交換

国内外の動物園水族館間で動物を貸し借りし、妊娠出産させ、赤ちゃんを産ませることをブリーディングローンと言います。

問題点

移送

動物園水族館は、動物に移動・輸送を強制します。動物にとって、輸送は心身に多大なストレスを与えられるイベントです。動物は、自分は何をされているのか、何に乗らされているのか、どうされるのか、生かされるのか殺されるのか理解できないまま、家族と永遠に引き離されます。移送の途中にあまりのストレスに死んでしまう動物もいるほどです。かつては移送によってかなりのイルカが死んでしまったようですが、詳細な情報は残されていません。

美談化

動物園水族館は、ブリーディングローンを良いことのように表現します。お嫁入り、お婿入り、恋、子作りなど。しかし、動物はそれを望んではいません。望んでいるのは動物園水族

館であり、目的は商材の確保、野生動物の家畜化です。これを動物園水族館は種の保全であると表現します。しかし、これまでシャチやイルカ、そしてゾウやゴリラやホッキョクグマなど、入手した数と殺した数では、殺した数の方がはるかに多く、保全になっていないのは明らかです。

種の均一化、遺伝子の多様性が失われていく

狭い範囲でブリーディングローンを繰り返すと、いずれ、どこかで血が繋がっている動物ばかりになります。遺伝子の多様性が失われ、奇形や障害を持った動物が生まれます。ホワイトタイガーやホワイトライオンなどに奇形が多いのはその典型です。

4. 保護

日本海側には、保護したイルカが異常に多い水族館があります。かねてから、水族館は保護を利用して、動物の確保に使っていると言われていました。実際、北海道のアザラシ保護施設の職員は、怪我が治ったアザラシを帰すかどうかは所長の判断次第。帰すこともあれば、日本各地の水族館に分配することもあると言っていました。また、動物園水族館の園長や飼育員が集まるシンポジウムで、ある水族館の館長が、水産庁の方針でイルカの入手がやりにくくなったと発言していました。

問題点

美談化

水族館が動物を保護すると、殊更にアピールします。動物の保護は、動物園水族館にとって存在理由をアピールする好機であり、消費者は動水を賞賛します。動水にとって保護は、商材を手に入れた上に、賞賛される二度美味しい出来事です。一方、怪我をして治った動物を自然に帰さないことがあることには触れません。

また、実際は生かしている動物よりも殺している動物の方がはるかに多い水族館ですが、保護を殊更アピールし動物を生かす施設だというイメージをつけることができます。

保護したイルカの生涯

南知多ビーチランドには痩せほそったスナメリがいました。昔保護したということですが、実際の状況は分かりようもありません。このスナメリは程なくして亡くなりました。保護されたことは良いことですが、監禁され、二度と自然に帰れずに生涯を終えたのは果たして良いことなのでしょうか。

［写真：南知多ビーチランド ガリガリのスナメリ］





5. 出産(繁殖)

水族館は、イルカを妊娠させ、出産させ、子どもを手に入れます。一般的に繁殖と言われていますが、繁殖という言葉自体に動物差別意識があります。人間に繁殖という言葉を使わないのは対象を見下げ、差別している言葉だからです。水族館にとっての「繁殖」とは、イルカにとっては大切な「妊娠・出産」です。

生殖時の問題点

水族館では、自然繁殖、人工繁殖が行われます。

自然繁殖

動物園水族館関係者は自然繁殖と言っていますが、当然ながら自然ではありません。人工的な環境に監禁され、ホルモンや体温を測られ、水族館経営の都合に合わせられ、人間が生殖のタイミングをコントロールします。男性を移動させ、女性のプールに入れ、2名きりにし、生殖させます。実際、繁殖のために2名にされ、逃げ回っている女の子のイルカがいて可哀想でした。それを人間に対して組織的に行ったら狂気とされるでしょうが、動物であれば許されます。

動水が自然繁殖させようとして、動物を殺してしまったこともあります。鴨川シーワールドのシャチのサラや、円山動物園のマレーグマ、ウッチーなどです。

人工授精

［写真：人工授精の写真］（引用：九十九島水族館海きらら展示物）



人工授精の方法は、自然繁殖と同様、人工的に身体の状況を測り、器具を使って精子を入れます。イルカの側からその体験を記述しますと、プールから上げられ、イルカトレーナーなどに体を押さえつけられ、器具を入れられます。しばらくすると体や心に変調をきたし、やがて、子どもが生まれます。初めての場合はどうすることもできません。助けてくれる同じポッドの母や親戚もいません。場合によっては流産や死産をし、自分が死ぬこともあります。水族館やトレーナーはこのようなことをイルカやシャチにに押し付けています。
長崎県佐世保市の九十九島水族館海海きららに展示されていた写真には、人間の男性が数人がかりでイルカを押さえつけ、人工妊娠させている姿が映っていました。人間の女性にしてはいけないと同様、イルカの女性にしてはいけません。

イルカに馬のホルモンを注射する

イルカの妊娠を促すため、科学者たちは、馬のホルモン（妊馬血清性性腺刺激ホルモン）、人間のホルモン（ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン）、牛の繁殖障害治療薬、陣痛促進剤、人工妊娠中絶剤をイルカに打ちます。これらの副作用は、過剰排卵、呼吸困難、卵巣過剰刺激症候群（卵巣腫大、下腹部痛、腹水、胸水、卵巣破裂、卵巣茎捻転、脳梗塞、血栓塞栓症、肺水腫、腎不全）、発疹、めまい、頭痛、興奮、不眠、抑うつ等です。しかし、イルカはどれだけ体調が悪くなっても人間に伝えられません。

出産時の問題点

イルカの女性のサポートがない状態での出産

妊娠出産の経験が無い、あるいは少ない女性のイルカが、一人で子供を育てるのは困難です。人間でも同様です。野生では、女性中心のポッドは出産するため、経験のある母や祖母、女性たちが子育てを手伝います。しかし家族の女性がいない環境や女性がいても信頼関係がない場合、サポートを受けられません。ですので、赤ちゃんを溺れさせる、育児放棄する、子供そっちのけでイルカトレーナーと遊ぶなどということが起こります。水族館職員が育て、美談化されることもありますが、それこそ自然に帰るできない動物を作り出すことであり、まったく美談ではありません。

飼育員のチャレンジ

福岡県 マリンワールド海の中道で、2022年5月にカマイルカのサンゴを妊娠・死産させ、8月にはヒカリを死産させました。ニュースでは、海の中道が美談として語っていました、男性飼育員が「もう一度、チャレンジしたい」と言っていましたが、妊娠出産するのはあなたではありません。

乳幼児死亡率

鹿児島水族館に開示請求したところ、乳幼児死亡率はなんと89%でした。10回妊娠し、産まれるのはたった1名です。それだけの負担を水族館はイルカに押し付けています。
九十九島水族館海きららに監禁されているナミの子は、夜中に死体で生まれました。翌日朝、ナミは赤ちゃんの体をやさしく咥え、泳ぐように促していたそうです。イルカには心があることを知っていますか？と関係者に聞きたくなりました。

［URL：ナミ 赤ちゃんを失ったイルカ：https://youtu.be/MircelSONho］

繁殖の”成功”

繁殖を”成功”させていることで有名な水族館は、鴨川シーワールド、新江ノ島水族館、オキナワマリンリサーチセンターなど。「成功」とは水族館やイルカトレーナー、学者たちにとっての成功です。水族館とイルカトレーナーは成果とともに生活費の当てができ、学者は研究成果を得ることができます。イルカにとってはどうでしょう。産まれるはずのなかったイルカが生涯塩素プールに監禁され、心身の病に苦しみながらショーをさせられ、自然を知らずに死んでいきます。

自然を知らないイルカ

水族館の監禁下で生まれたイルカを自然に帰すことはほとんどできないでしょう。かつてオーストラリアで解放されたことがありますが、悲惨な結果に終わりました。

［本文参照：第七部 第四章 第四節 第二項　解放の実績　1992.01.13　オーストラリア］

第二項　調教時

トレーニング＝調教＝馴致

イルカのトレーニング、と聞くと、体力作りや筋トレ、スポーツの習熟など、ポジティブなイメージが自然に浮かんできます。しかし、同じ言葉を使っていても、人間に使う場合と動物に使う場合では実態は異なります。例えば、人間の福祉と動物福祉は異なります。人間の福祉は生かすため、動物福祉は監禁し殺するために行われます。

イルカのトレーニングは、別名、調教や馴致と呼ばれます。調教とは、人間の目的に応じて動物を訓練することです。馴致も同様、人間の目的を達成するために、動物を仕向けていくことです。つまり人間のトレーニングは人間自身の目的の達成のために行われますが、動物のトレーニングは人間の目的達成のために行われます。

死んだ魚を食べさせる

自然から捕獲されたイルカは、太地町にある生簀のいずれかに入れられます。生簀に入れられたイルカは、漁船とバンガの音ーとエンジン音で追われ、目の前で家族を殺される経験をしたばかりであり、多大なストレス下にあります。そのまま亡くなってしまうイルカがいるほどです。イルカトレーナーたちによる調教は、このような状況のイルカたちに死んだ魚を食べさせることから始まります。

イルカたちは、生きている魚しか食べないため、死んだ魚を食べません。しかし、時間が経つにつれ空腹になり、限界を超えるとついにイルカトレーナーから与えられた死んだ魚を食べます。この瞬間が、イルカトレーナーの支配下に入る第一段階です。

イルカトレーナーがイルカを支配下に置く最も強力な道具が食べ物です。イルカトレーナーは食べ物を支配し、イルカを支配します。イルカは食事を与えてくれるイルカトレーナーに身体的にも精神的にも依存します。

どうしても魚を食べない場合は、イルカトレーナーが生簀の中に入り、複数名で押さえつ

け、イルカにまたがって口の中にタオルを入れ、引っ張り上げて無理やり口を開けさせます。その口の奥まで腕を突っ込み、喉の奥に魚を入れ、強制的に飲み込ませます。この魚の内蔵はくり抜かれ中には薬が入れられています。

イルカショーに向けての調教

イルカトレーナーはハンドサインでイルカに命令を伝えます。例えば、腕を上げるのはジャンプをせよ、腕を回転させるのはプールの周縁を高速で泳げなどです。トレーナーが首から下げているホイッスルはイルカが正しく命令を実行した時、その行動は正解であると伝えるために使用されます。イルカが命令に従ったときに「ピッ!」と鳴らし食べ物を与えます。命令に従わなかったら与えません。これをオペラント条件付けと言い、対象の”自発的”行動を引き出す手法です。イルカトレーナーやシャチトレーナーが言う「イルカやシャチがやりたくないことはさせていない」といった言説はここから来るのでしょうが、やらざるを得ない状況に追い込んでやらせるということは、やりたくないことをやらせているということです。そもそもイルカは監禁され人間のために芸をすることを自発的に行いはしません。

調教とは支配すること

一般的に、人間に対してのトレーニングに調教という言葉を使うことはありません。調教とは見下げているもの、支配下にあるものに対して使う言葉だからです。イルカを調教する目的は、野生から捕獲したイルカを手なづけること、イルカショーでイルカトレーナーの言う通りの行動させること、身体測定や健康管理時に大人しくさせておくこと、トレーナーの思うタイミングで射精をさせることなどです。イルカトレーナーは、イルカと友達だと主張しますが、このような関係は友達と友達の関係でしょうか。もしイルカトレーナーが人間の友達に上記のようなことをしてるとしたら、関係を考え直した方が良いかもしれません。

第三項　イルカショー

イルカショーは水族館の花形です。何も知らない人が、始めてイルカショーを見たら、驚き感動するでしょう。イルカを自由自在に操り、イルカに乗り、キスをしているトレーナーは、イルカと友達になれるすごい人だと思うのも無理はありません。しかしイルカショーとは、演出された幻想であるということを理解することが必要です。

罰を与える

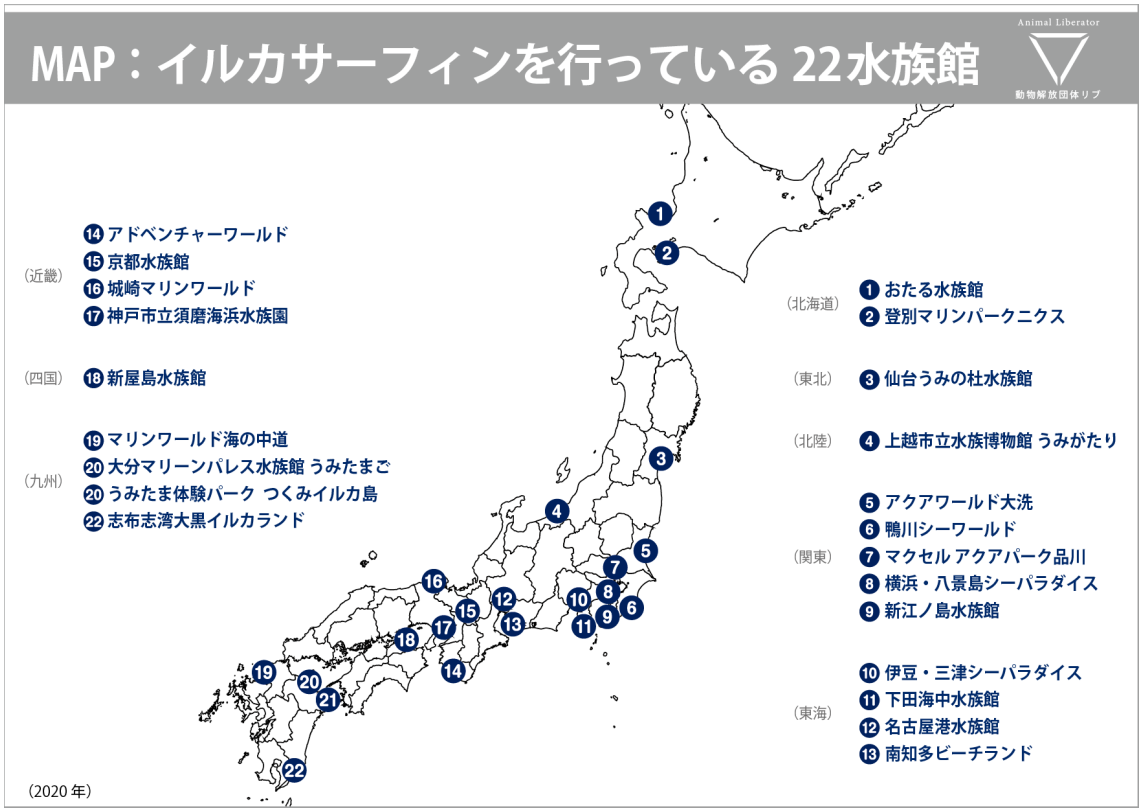
イルカショーの最中、イルカがショーを行うことを拒否する時があります。イルカは毎日何度も同じことをやらされます。怪我をしたり、胃腸の病気や皮膚病になっている場合もあります。心が塞ぐ時もありますし、本当に病んでいるイルカもいます。それでもイルカショーでジャンプしなければ食べ物を得ることができません。しかし、どうしてもできないこともあります。人間でも同じです。

イルカトレーナーは、イルカが見える場所に魚やイカが入っているバケツをに置いておきます。イルカはそれを知っており、イルカトレーナーはイルカが知っていることを知っています。イルカショーで命令に従わなかったイルカがいた場合、イルカトレーナーを観察してい

ると、彼らが何をしているかわかります。イルカトレーナーは、手に持っていた魚を自分の体の後ろに隠す、バケツに戻す、バケツをイルカが見えない場所に隠すなどを行います。つまり、イルカトレーナーは、イルカに対して命令を聞かなかった罰を与えています。

イルカサーフィン

［MAP：イルカサーフィンを行っている22水族館］



人間はイルカの背中や馬の背中、ゾウの背中など、動物の背中に乗ることに不思議と憧れます。特に海を颯爽と泳ぐイルカの背中に乗るのは、特別な感じがします。古代ギリシャの絵にもイルカの背中に乗る人間の姿が描かれているほどです。イルカの背中に乗る漫画や映画もその欲望を後押ししているでしょう。

では、動物は人間に乗られたいと思っているでしょうか。あなただったら、知らない人に背中に乗ってこられたらどう感じるでしょう。イルカは人間に乗られたいでしょうか。確かに、イルカが自ら人間を背中に乗せて泳いだ話、イルカが溺れている人間を背中に乗せて救った話はあります。しかしそれはイルカが自分の意思で行ったことであり、監禁下で食べ物を支配され行ったことではありません。

動物に対して倫理的か非倫理的か考える場合、人間に対してそれをやったらどうか、と考えると明確になります。誰かがあなたの背中を踏みつけ人々に笑顔を振り撒くのは、侮辱的で非倫理的な行為だとわかるでしょう。

花火

水族館によってはイルカショーの最中に花火を上げる施設があります。特にアドベンチャーワールドの花火は、プールの真後ろから打ち上げます。かなりの数の花火を打ち上げ、音も

大きく、ライトの演出も派手で、観客は喜んでいました。しかしイルカにとってはどうでしょう。イルカは音の動物です。イルカショーの最中のイルカにはイルカトレーナーがついて大人しくさせていますが、バックヤードのプールにもイルカがいてほったらかしになっています。

［URL：アドベンチャーワールド：https://youtu.be/65SY_7JQAJ4］

イルカの労働環境

イルカの労働を規制する法律はありません。イルカが働かされる回数の一例を挙げます。1ヶ月は30日計算です。調査した水族館のうち最大は品川アクアパーク、1年間に2190回のショーを行わせられます。

鴨川シーワールド

シャチ　ショー2〜4回。

ベルーガ　ショー2〜3回。「ベルーガにタッチ」2回。

イルカ　ショー3〜4回。「イルカと記念撮影」3〜4回。「イルカにタッチ」3〜4回。

*休日は不定期。

新江ノ島水族館

ショーのみ　1日3回、1月90回、1年1095回

イベント合計　1日5回、1月150回、1年1825回

*ほぼ無休。臨時休館あり。無休の場合で計算。イルカショー「Wave 〜きみの波になりたい〜」3〜4回。その他イベント「きょうのイルカTime」1回。「イルカと握手」1回。

八景島シーパラダイス

1日4回、1月120回、1年1460回

*年中無休、休日無し。昼間「海の動物たちのショー〜SMILE〜」11:00、13:30、16:00。夜間「ナイトショーLIGHTIA」。

品川アクアパーク

1日6回、1月180回、1年2190回

年中無休、休日無し。￥デイバージョン「Dolphin Decoration」が11:30、13:00、14:30、16:00の4回。ナイトバージョン「Bright Christmas Party」が17:30、19:00の2回。2022年12月11日〜12月31日のスケジュールを参照。

なお「コツメカワウソとあくしゅ」は1日7回行われています。1月210回、1年2555回。

イルカたちはとんでもない数のショーを、観客の娯楽のため、水族館関係者やイルカトレーナーの生活を支えるために行わされています。

プールの外に飛び出し死亡

名古屋港水族館では、2011年6月5日、カマイルカのサラがジャンプし、プールの外に落下し死亡しました。いずれも水族館に監禁されていなければ無かった事故です。

美ら海水族館では、2010年7月4日イルカショーの最中、オキゴンドウが自らプールの外に落ちたことがあります。なぜ落ちたのかは誰にも分かりません。しかし、鯨類は自殺できると考えられています。このオキゴンドウは翌年亡くなったそうです。

［URL：美ら海水族館 オキゴンドウ：https://youtu.be/pAHSMCsUfrE］

自殺

イルカやシャチなど、鯨類は自殺すると考えられています。

2011年 名古屋港水族館に監禁されていたシャチ、ナミは、石490個、計約81kgを飲み込み胃潰瘍、内臓出血で死亡。28才でした。1985年太地町の捕鯨で捕獲され、太地町立くじらの博物館に監禁。2010年名古屋港水族館が5億円で購入しました。くじらの博物館に監禁されていた時に飲み込んでいたとみられます。なお、名古屋港水族館は2008年、くじらの博物館から借りていたクーも感染症で死亡させています。

第四項　虐待

厚生労働省によると、虐待とは、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待があるそうです。これまで見てきた中でイルカ漁の生体捕獲と水族館が行っているのは、

追い回す、騒音を鳴らす、溺れさせる、網で拘束する、プールに監禁する等は、身体的虐待。

淫部を触る、射精させる、性器にに物を入れる、妊娠させるは、性的虐待。

命令を聞かなかったら食事を与えない、無視するは、ネグレクト。

罰を与える、食べ物がもらえないと思わせるは、心理的虐待。

水族館が行っているのは虐待行為であり、しかしイルカだから許されているのが現状です。しかしこれまでお伝えしてきた通り、人間にやってはいけないことを動物にやって良い道理はありません。現状、動物に対する差別と虐待はあまりに当たり前に行われているため、虐待している人々が、そもそも自分が虐待していることに気づいていないことがあります。これはまさにそのケースです。

以下にその他の虐待の具体例を列挙します。

海が見えるプール

美ら海水族館や新潟市水族館 マリンピア日本海のように、海が見えるプールでイルカショーを行っている水族館があります。これは、観客が視覚的にプールと海がつながっているように感じられる演出のためです。しかし、イルカたちの視点から見れば、かつて住んでいた海がすぐそこに見えながら、一生そこに帰ることはできません。ショーをさせられている間、夜寝るとき、波の音が聞こえ、潮の香りがするでしょう。もしかしたら、通りかかったイルカたちや、生き別れになった家族や恋人と会話をしているかもしれません。

イルカとの触れ合い

動物に触りたい、イルカに触りたい、というのは人間の欲求の一つに組み込まれているように思えます。イルカに触ることでお金を取ることができ、ふれあい体験、イルカタッチなど

と柔らかい名前をつけられています。しかし、イルカは人間に触られることを強制されています。水族館は、イルカに触らせることを条件にお金を受け取り、イルカには触られるたびに、ほんの少しの食べ物を与えて報酬とします。イルカが触って欲しかったら、報酬はいらないはずです。
生簀やプールの中で行うドルフィンスィムやイルカセラピーも同様です。もし、生簀やプールでない自然の中で、食べ物も自由に獲ることができたら、不特定多数の人間に触られに来るでしょうか。

動物に乗ること、触ることが虐待だと思っていなかった人がほとんどでしょう。水族館やメディアは、消費者にこれらはポジティブな行動だと伝え続けてきたからです。しかし、それは紛れもなく虐待です。自分が知らず知らずに誰かを虐待している・いじめている、あるいは虐待に加担している・お金を払って支援していると気づいた人は、自分の意思で止めること、それがイルカの解放を実現し、そして動物にも人間にも優しい社会の実現につながっていきます。

第五項　異常行動

1. 異常行動とは？

動物園や水族館に監禁された、動物の精神的異常が行動に現れたもの。英語では、Zoochosis（ズーコシス）と言います。人間の場合、拘禁精神病、拘禁反応と呼ばれ、刑務所や精神病棟等に監禁された際に現れます。その行動は、動物も人間も変わりません。
水族館に囚われたイルカたちは、イルカ漁で与えられたトラウマ、狭いプールへの監禁等により異常行動に陥ります。繁殖で生まれたイルカであっても不自然な環境やストレスから異常行動を起こします。筆者は、イルカが監禁されているすべての水族館を現地調査しました。すべての水族館に、異常行動に陥っているイルカがいました。

2. 水族館 の「異常行動リスト」

水族館に監禁されている動物は、哺乳類、魚類、軟体類に限らず様々な異常行動に陥っています。以下に異常行動のリストを記述します。

I. 自分に向かう異常行動

[自分の体へ危害を加える]
・自傷（頭を壁に何度もぶつける等）
・自殺／自殺未遂
・歯の損傷（コンクリートや柵を噛む）
・嘔吐
・水から出てプールサイドに上がる
[精神病]

・うつ病
・拘禁症状態
・水面や浅い場所に ただ浮いている
・プールの底に横たわる
・常同行動（ぐるぐると同じところを泳ぐ等）

II. 他者に向かう異常行動

・他者の攻撃
・いじめ
・他者への性的攻撃
・上下関係を定める

3. 実際の映像

自傷
［URL：プールの底に頭をぶつけ続けるイルカ〔うみたまご〕：https://youtu.be/yzCcUv2llj4］
歯の損傷／死亡
［URL：マリア（京都水族館）：https://youtu.be/DcTq0iQ1ugc］
水面や浅い場所に ただ浮いている（うつ・拘禁症）
［URL：カマイルカ ただ浮いている（のとじま水族館）：https://youtu.be/HegQpqp8284］
水面や浅い場所に ただ浮いている／背びれの曲がり
［URL：イルカ ただ浮いている/ 投薬（越前松島水族館）：https://youtu.be/qqXV4O1EJTY］
常同行動（ぐるぐると同じところを泳ぐ）
［URL：バンドウイルカ 常同行動（しながわ水族館）：https://youtu.be/nT-YOPO695I］

水族館やイルカトレーナーはイルカたちが異常行動を起こしていることを当然知っています。動物福祉を行っている水族館であれば、ボールやおもちゃを渡したり、イルカの相手をして気を紛らわせたりしています。しかし、それらをまったく行わずに異常行動を放置する動物福祉に意識の低い水族館や、イルカの喧嘩やいじめがあっても見て見ぬ振りをする水族館もあります。
もし水族館に行く機会があったら、イルカショーよりも、イルカショーの間のイルカの様子を観察してみてください。様々な自然にはない行動を取っているイルカに気づくかもしれません。そこにいるイルカが全員異常行動を起こしている水族館もありました。
イルカやシャチは、心の病に苦しんでいます。心が苦しい時、誰も気づいてくれないのは辛く、寂しいものです。気づいた私たちが声をあげ、動物たちの代弁を行っていきましょう。

第六項　薬漬け

水族館のイルカは薬漬けになっていることもあまり知られていません。

プールに入れられている薬品

プールには次亜塩素酸が入っています。そのことによってなのか、皮膚に病変があるイルカをよく見ます。余談ですが、鴨川シーワールドや八景島シーパラダイスで、プールの水をシャチやイルカが人間にかけるというサービスが人気です。塩素で細菌等は死滅するようですが、糞尿がかかっており、場合によっては口に入ったりもしているでしょう。

イルカに投与される薬品

水族館は循環器・濾過器を使って管理しており、必ずしも自然のイルカよりも病気が多いとは言えません。水族館に監禁されているイルカに特に多いのは、胃腸炎、肺炎、皮膚病、アレルギーです。また、死んだ魚を食べさせられることににによって、ビタミン不足になるためにサプリを投与し、水分不足になるため水を飲ませています。日本のある水族館に問い合わせたところ、イルカに使用している薬品等の種類は61種類でした。内訳は以下です。

抗生剤（抗菌剤）　22種類

胃腸薬　15種類

止血剤　4種類

抗炎症 解熱鎮痛剤　3種類

鎮痛剤　3種類

貧血　2種類

抗真菌薬（カビ）　1種類

肝臓薬　1種類

尿　1種類

眼薬　1種類

ビタミン剤　5種類

カルシウム剤　1種類

飼料（微量栄養素含有）　1種類

不明　1種類

実例

［URL：治らない傷 新江の島水族館：https://youtu.be/UMJ4g_sNND4］

［URL：オキゴンドウのリティ 八景島シーパラダイス ：https://youtu.be/Y8eDyJ4l3pE］

精神的病気

自然から引き離され狭いプールに監禁された精神的ストレス、イルカトレーナーによる調教、他のイルカとの関係、観客の目線や歓声、音楽や花火、汚れた空気など、水族館という特殊な環境下に置かれたイルカたちの精神状態を正しく計り知ることは残念ながらできませ

ん。言語によるコミュニケーションができないため、例え、心が危機的な状況にあったとしても私たち人間は正しく判断できません。。
アメリカ人の活動家から、アメリカではイルカに向精神薬を与えている水族館があるということを聞きました。日本で与えているかどうかはわかりません。しかし、高知県の動物園では、うつ病になったチンパンジーに向精神薬を与えていますので、もしイルカに対して行っていたとしても不思議ではありません。

[獣医]
日本にはイルカ専門の獣医がいるわけではありません。水族館の獣医と話すことがありますが、みなさん試し試しという形でイルカに薬を投与しています。海外の専門家にアドバイスを聞いて治療することもあるそうです。水族館は、イルカの健康面のケアに注意を払っているとアピールしますが、しかし実態は異なっています。

第七項　死亡

水族館に監禁されているイルカの最後は、死亡です。死亡した後は、解剖され臓器などの研究に使用され、場合によっては骨格標本として半永久的に水族館で展示されます。水族館はイルカの生涯、そして死までを利用します。本来、イルカは自分の人生を自由に生きることができ、またその権利を持っていました。しかし水族館は、権利と人生と家族を奪い、代わりに冷凍の魚と労働、そして死を与えます。

第三節　水族館が起こしている問題

第一項　美談化～水族館によるプロパガンダ～

動物園や水族館は美談化を得意としています。動物が苦しんでいようが、傷ついていようが、環境破壊をしていようが、自然から連れ去り、監禁し、金儲けに使おうが、それらすべてを美談に変換します。なぜそれができるか。動物は人間の言葉を喋ることができないからです。自分がどんな苦しみの中にいようが、お腹が減っていようが、ここから出たいと思っていようが、動物園や水族館が代わりに自分たちの都合の良いように答えます。それが美談化です。

水族館がよく使う表現を取り上げ、いくつか美談化の例を挙げていきます。同時にその美談が隠そうとしている実態も併せて記述します。

「イルカが水族館に来た」
まるでイルカが自主的に来たような表現です。現実は、イルカ追い込み漁によってイルカ漁師やイルカトレーナーに捕獲され、無理やり連れて来られました。
「イルカに待望の子供が産まれた」
待望しているたは水族館です。イルカは自然妊娠にしろ人工妊娠にしろ、不自然な環境で人間の管理のもとで行われています。人工妊娠は特に人間の欲望のために、強制的に妊娠出産させます。まるでイルカが待望していたような言い方、あるいはどちらとも取れる言い方をします。
「イルカをお世話している」
本来イルカは人間にお世話されるなどせずに生きていくことができます。水族館に監禁され、お世話されないと生きていけない環境に置かれたのでそうせざるを得ません。また、お世話しているとは、飼育していると同じです。言葉は同じでも、人間に対して使うときと動物で使うときには意味が異なることは前にも述べました。実態を知らない人は、人間に対する時の言葉のイメージで受け取りますし、水族館側もそれを意図しています。
「飼育している」
以前、マリンピア日本海で、イルカの飼育責任者と口論になったことがあります。彼は飼育という言葉を使い、私は監禁という言葉を使ったため怒ったようです。しかしそもそも、飼育という言葉であってもそれは動物を自分たちの思い通りにして良いという意識から発生する言葉ですので、監禁とさほど変わりません。飼育という言葉をポジティブなイメージで捉えていること自体が、人間優越主義であり動物を差別しているということを意識に上げる必要があります。
「私たちは愛情を持って動物を扱っている」
これも、同じ言葉であっても人間に使う時と動物に使う時で意味が異なる例です。もし人間であったら、愛情を持つ相手を一生監禁し、精神を病ませ、金儲けに使うでしょうか。動物

に対して同じことを行なって、それを愛情と言えるのか。それは愛情ではなく、悪意ある利用です。

「命を守る」

動物園水族館は命という言葉を使いたがります。しかし、彼らは命を監禁し、監禁した命を生かすために他の命を殺して与えます。それを自然の循環だという人もいますが、自然では人間は介在しません。また、動物園水族館関係者でヴィーガンだという人は未だ聞いたことはありません。命を語れるのは、少なくとも可能な限り命を搾取することを減じる努力をしている人でしょう。動物を食べなければ、植物を含めた命の搾取を最小限にできます。しかしそうであっても命を搾取していますので、わかったように語ることはできないでしょう。まして動物を監禁し、金儲けし、動物を殺し、食べ、着ている人々が言う資格はありません。

「イルカショー」

イルカショーは、イルカを監禁し食べ物を支配することによって成立する使役です。仮に、私がイルカトレーナーを捕獲し、監禁し、食べ物を支配し、芸を教え、人々の前でジャンプさせたり、背中の上に乗ったりして笑顔を振り撒いていたら、イルカトレーナーはどう思うのでしょう。私に愛されていると感じるのでしょうか。

「私たちとイルカは信頼関係、絆がある」

イルカを家族を引き裂いて、強制的にイルカトレーナーに絆を繋ぎました。そもそも絆は良い意味ではありません。動物を繋ぐための綱のことであり、断とうとしても断ち切れない関係のことです。そう言った意味では、イルカトレーナーはイルカと絆を結んでいます。

観客側の美談化も一つ挙げます

「イルカに会いにきた」

イルカはあなたに会いたいとは思っていませんし、そもそもあなたが誰かもわかっていません。イルカが会いたいのは、イルカ漁や水族館に移動させられて離れ離れになった家族です。

美談化の例はいくらでもあります。ご自分で見つけて、実態と比較してみてください。動物園水族館、畜産産業や食肉産業などが行なっている低意ある虚飾を見抜く力が付きます。

美談化を発信する側、美談化を受け入れる側、両側に隠された欲があります。水族館側の隠された欲は、お金と仕事、生活費。イルカトレーナーには名誉欲や自己顕示欲もあるでしょう。観客側の欲は、娯楽欲、イルカを見たい、触りたい欲、家族と良い時間を過ごしたい、彼女や彼氏にデートを楽しんでもらいたいなど。もちろん、それらの欲自体は決して悪いことではありません。それらの欲を実現するために、人間の言葉を喋ることができない動物を利用していることが悪いのです。

人間の金銭欲や食欲や娯楽欲は、動物の意思や苦痛を無視し、勝手な美談化を行います。自分の行為を正当化するため、彼らの痛みや苦しみや悲しみをなかったことにすることを試み、さらには動物がそれを望んでいるかのように表現し、現実であると思い込みます。しか

し、なぜ美談化する必要があるのでしょうか。自分が本当は何をしているか、薄々気づいているからです。
一旦美談化の魔法が解けたなら、二度と動物園や水族館が動物にやさしい施設だと思うことはできません。その魔法を解くには事実を伝えればいい。中には魔法が深すぎて、現実を見ることを拒否する人、現実を見たとしても見えていない人、自分の欲を優先し幻想に戻って行く人などがいます。しかし、一人、また一人と幻想が解けていけば、幻想の中にいることが恥ずかしくなります。現実をしっかり見ることができる人が増えれば、やがて動物園水族館を閉鎖し、動物を解放することができます。
動物園水族館や動物産業が振り撒く美談の陰に誰か苦しんでいないか、被害が隠されていないか、不正が行われてないか、注意深く観察し、社会に可視化し、啓発することで弱者の苦しみを軽減し取り除くことができるでしょう。

第二項　差別、権利侵害、動物差別

水族館や動物園は動物の権利侵害をしています。これまで述べてきたような監禁や売買や自分たちに都合の良いアドボカシーなどです。
ここで特に強調したいのは、水族館が女性差別、権利侵害、搾取を行っている問題です。
水族館は、見た目が良く、若く従順な女性のイルカを好みます。これはルッキズム（外見による差別）であり、性差別、年齢差別です。水族館は、イルカのこれらの要素を、利益を最大化するために使います。さらに女性は、これまで幾度も述べてきたように、妊娠出産を強制されます。これは女性に対して最もやってはいけない権利侵害です。
水族館をはじめ、動物園、畜産業などは、動物の権利を決して認めようとしないでしょう。かつて奴隷制度の解体、奴隷解放に強固に反対し続けた人々は、人間を捕獲し、売買し、監禁し、金儲けに利用した人々、その恩恵に預かってきた人々です。人間の奴隷制の構造と、動物産業の構造は同じです。
しかし、社会の進化は、権利の拡張と軌を一にしてきました。権利の拡張こそが私たちの倫理の進化、社会の進化です。私たちが進化する限り、動物の権利は必ず確立されます。そのときには、水族館やイルカ漁、そしてすべての動物産業は、かつての奴隷とされる人間の捕獲ビジネスや人身売買、奴隷商人や奴隷貿易が解体されたように解体されるでしょう。

第三項　イルカのブラックボックス化

水族館の多くは隠蔽体質であり、できるだけイルカの情報を出さないように腐心します。イルカの情報を出すデメリットは、水族館がイルカ漁からイルカを購入していることを知る人が増えてしまう、イルカ漁に水族館関係者やイルカトレーナーが加担していることがわかってしまう、イルカの名前やプロフィールを知るとイルカに共感する人が増え、ショー以外の部分、例えば怪我や病気、妊娠や流産、死亡に感情移入し、水族館の存在に疑問を感じてし

まう、悪い場合はイルカの飼育やショーに反対しはじめてしまうなど、詰まるところ自分たちの利益を阻害する可能性が高まってしまうということです。
隠蔽体質の例をいくつか挙げます。
沖縄美ら海水族館は内閣府沖縄総合事務局・都市再生機構が運営しています。美ら海水族館を管理運営する一般財団法人 沖縄美ら島財団に、どのイルカをどこから入手したか聞きました。行政施設であり、税金が入っている施設なので当然答えると思ってました。しかし、回答は「自分たちの宣伝になる取材しか受けることはできない。ご理解ください」というものでした。行政施設にせよ民間施設にせよ、多くの施設がこういった対応を行います。
特に和歌山県は、イルカ漁を行っていることからでしょうが、アドベンチャーワールド、太地町立くじらの博物館、森浦湾くじらの海、太地町開発公社、その他民間施設全てが秘密主義です。アドベンチャーワールドはイルカの名前を公開しませんし、太地町立くじらの博物館は、博物館内のイルカはもちろん、森浦湾くじらの海のイルカの名前、さらにはイルカ種や数も教えません。
しかし一部、明らかに自分たちに不利な情報であっても、正直に回答してくれる施設もあります。来るべき未来、そういう施設から、動物の監禁を中止していくのだろうと思っています。
アメリカでは行政施設であるNOAA(アメリカ海洋大気庁)が、アメリカの水族館が監禁しているすべての鯨族を把握し、情報公開しています。日本でも、行政がすべてのイルカ、すべての動物に関する情報を把握し公開すべきです。

第四項　イルカトレーナー・シャチトレーナー

イルカトレーナー・シャチトレーナーのイメージ

イルカトレーナーやシャチトレーナーのイメージはとてもポジティブです。イルカは、トレーナーの言うことを聞き、宙返りをし、背中に乗せてくれ、頬をすり寄せています。トレーナーはいつも笑顔で、イルカととても仲が良く、2人とも楽しそうです。
多くの子どもたちもそう思うでしょう。大人であっても特定のトレーナーを信奉し信頼し切っている人々もいます。イルカトレーナーが実際は何をやっているかや、イルカやシャチたちが心身を病んでいることや、世界的にはイルカやシャチの捕獲やショーや繁殖が禁止されつつあるということなどを伝えると、怒り、逆に攻撃してくるほどです。彼らはイルカトレーナー、シャチトレーナーの守護者を自ら買って出ます。それほど水族館やトレーナーが振りまき、演出するイメージ操作は強力です。

イルカトレーナー に憧れる子どもたち

子供たちはトレーナーに憧れます。無理もないでしょう。その中でも特に心を掴まれた子供はイルカトレーナーを目指します。イルカと友達になり、遊び、しかもそ華やかな舞台で、観客に注目されながる。魅力的な仕事です。その気持ちは純粋なものだと思います。しかし、なぜ、純粋にイルカが好きだった子供が、イルカを利用するイルカトレーナーに変貌してしまうのでしょうか。

動物系大学、動物専門学校の洗脳

日本各地に、動物の飼育や管理を学ぶための大学や動物専門学校やイルカトレーナー養成学校などがあります。ここで行われているのは、ある種の洗脳です。端的に言えば、動物を、喜怒哀楽などの感情や愛や慈しみがあり、言葉を通さなくても通じ合え友達から、感情を観察し分析し、生態やコミュニケーションを把握し、家畜化の歴史を学び、身体を解剖学的に理解するべき利用対象、モノに近い存在と認識させられるように教育します。別の言い方をすれば、主観的な存在から客観的な存在にさせていく。

ゆえに、動物の”専門家”、学者や専門学校の教員や動物園水族館関係者に、「動物がかわいそう」というと馬鹿にされ、素人扱いされます。客観的に動物を扱う人が、専門性が高い一人前だと言った雰囲気をだします。純粋な子供たちが、動物を扱うプロにそのような扱いをされ、そうでないとこの仕事は務まらないと言われたら、自分もそうならなくてはと思い、自分で自分を変えていくでしょう。そうやって本当に大事なこと、大切なことを見失っていきます。それが洗脳。

考えてみると、現状の日本の活動は海外と異なり、学者はもちろん、動物系大学や動物専門学校出身者の活動家はほとんどいません。また、動物園水族館などで飼育員やイルカトレーナーを経験した上で、辞め、活動家になっている人はほとんどいません。彼らが言うところの素人が動物解放活動を行っています。それほど日本の動物関係者の洗脳が優秀なのかもしれません。一度埋め込まれた認識から、元の認識に戻すのは大変です。

辞めるトレーナー、割り切るトレーナー

しかし中には極少数ですが、その教育や現場での仕事に耐えられない人もいます。本当に動物が好きなら耐えられないのは当然です。続けられる人は、動物が好きという思いよりも、親に学費を出してもらったことや、親の期待に応えなければならないなどの理由が考えられます。あるいは、生活のため、自己実現欲や自己顕示欲、立身出世欲等が高い場合もあるでしょう。畜産の学校であった事件ですが、牛の放血をする授業の時、生徒たちは笑いながら牛の体から血が出るのを面白がって笑っていたそうです。しかし一人の生徒は、それに耐えきれず、自殺してしまいました。かわいそうです。その他の生徒は、牛を愛し感謝する家畜業者になったでしょう。

動物専門学校に通っていた人に聞いたことがありますが、普段は授業に出てこないのに、動物の解剖実験だけには来る生徒がいたそうです。動物専門学校に通う人は動物が好きなのだろうと思い込んでしまいますが、動物が好きな人から、仕事のために利用方法を学びたい人、動物の解剖を見たい人まで様々な人が通っています。

イルカトレーナー・シャチトレーナーも、かつては純粋に動物が好きだったでしょう。しかし現在彼らはイルカやシャチを人間のために利用することを割り切っています。

イルカトレーナー・シャチトレーナーの虚像と実像

イルカトレーナー・シャチトレーナーの虚像と実像を伝えていくのは、非常に大事なことです。彼らがイルカの友達であり、イルカに信頼されているというイメージが続く限り、イル

カショーは支持され、イルカの犠牲は無くなりません。イルカの犠牲をなくすには、彼らがイルカを搾取利用している人々であるということを、世間に知らせる必要があります。もっともイルカトレーナー、シャチトレーナー個人を攻撃しているわけではありません。イルカ利用共同体の一員でありイルカやシャチを最前線で利用する、その役割、あり方を批判しています。イルカトレーナーやシャチトレーナーに純粋にイルカたちが好きだった昔のことを思い出し、イルカの利用を止めて欲しいと思っています。そしてイルカ解放活動に加わってほしいと思っています。動物の利用を放棄し、動物への愛や尊重を取り戻し、ヴィーガンやアニマリストにシフトすることは、動物利用洗脳を解き、人生を生き直すことでもあります。

以下に、同じ言葉を使っていても、イルカトレーナー、水族館等イルカ利用施設の観客、イルカを守る人でその意味や認識や行動が異なるという例を挙げます。

「イルカが好き」

・イルカトレーナー：イルカが好きなので、捕獲する、監禁する、自由を奪う、食べ物で支配する、利用する、強制的に子供を産ませる、イルカに自分の言うことを聞かせる。

・観客：イルカが好きなので、ショーを見たい、触りたい、食べ物をあげたい、ヒレに捕まって一緒に泳ぎたい、イルカに何かサービスして欲しい。

・イルカを守る人：イルカが好き。捕獲しない、監禁しない、自由にする、食べ物で支配しない、利用しない、強制的に妊娠出産させない、イルカは自分の思う通り生きてほしい。イルカを守る人は、イルカを好きでなくても構いませんし、実際に特に好きではないという人もいます。好き嫌いではなく、権利や尊厳を尊重するか否かです。人間に対する態度と同様です。

イルカトレーナーとイルカ利用者には、イルカを自分の有形無形の欲望達成のために利用しようという思惑があります。トレーナーは意識的に行い、観客は意識的に行っている人と、無意識的に行っている人がいます。

トレーナーの欲望は、有形無形の利益を守ることです。もしイルカが苦しんでいたり傷ついていたら、感情的な部分もあるでしょうが、それは業務として対処すべき事柄です。彼らがイルカをケアすることは素晴らしいことではなく、それは業務であり義務です。イルカや動物が展示できなくなったり死んでしまったら、それは組織内においてイルカトレーナーや飼育員の責任となります。

観客の欲望は、娯楽欲や視覚欲、触覚欲、アイデンティティーの向上など。観客の欲望は子供なら許されます。人間の大人同士であれば許されない行為を行っています。相手には、あなたが行いたい欲望を拒否する権利も受け入れる権利もあります。それを尊重するのが大人同士の関係です。もし観客が自分の欲を優先したい場合は、見たくない、知りたくない、現状の自分を変えたくない場合には、事実を教えた人に怒りを向けることもあるでしょう。

逆に事実をを知り、イルカに共感し、搾取を止める人もいます。

「イルカを尊重する」

・イルカトレーナー：イルカの生態、自由、生涯は尊重しない。商材としてのイルカは尊重する。
・観客：尊重という概念で見ていない。尊重という概念を持つべき相手だと認識していない。イルカの内面には興味がない。イルカに内面があると気づいていない人もいる。
・イルカを守る人：イルカを尊重しているので、自由や意思を尊重する。

「イルカとの信頼・絆」

・イルカトレーナー：食べ物を支配することによって獲得した歪んだ信頼。ストックホルム症候群と同様。
・観客：信頼や絆を作りたい。そのためには、イルカトレーナーと同じことをすれば作れると思っている。水族館に通い詰め、特定のイルカと信頼・絆があると思い込んでいる人も。
・イルカを守る人：無くていい。

イルカがトレーナーに依存することはあります。食料を支配されているからです。側から見ればそれが信頼関係に見えるかも知れません。しかしイルカトレーナーの前に立つイルカトレーナーの手には、魚やイカが握られているはずです。

水族館に監禁されているイルカは、解放できる可能性があります。解放するときには、人間に依存しなくても生きていけるようにリハビリを行います。しかし、水族館やイルカトレーナーは解放できないと主張してきました。イルカトレーナーは、解放できないという前提に立ち、意図的に依存関係を作り出し利用します。依存期間が長いか、水族館で生まれたイルカの場合、依存から抜け出すことは難しいでしょう。そのこと自体が、イルカトレーナーの罪であると言えます。

「イルカをどう見ているか」

・イルカトレーナー：商材。ちゃんとショーをするかどうか。 商材として健康か、子供を産むか。
・観客：癒される、かわいい、ショーを見せてくれる。
・イルカを守る人：イルカは自由でいるのが自然。イルカ漁や水族館で苦しんでいるイルカを見るのは辛い。

もしイルカトレーナーが、イルカをイルカとして見るようになったら、トレーナーでいることは不可能になるでしょう。リック・オバリー氏のように。

「社会にどう伝えるか」

・イルカトレーナー：太地のことを伝えない、イルカの異常行動のことを伝えない、イルカを押さえつけて強制妊娠させる、イルカのことをわかっているとアピールする、自分はイルカを愛しており友達だとアピールする。
・観客：いかに” 自分 ”が 面白かったか、楽しかったかを伝える。
・イルカを守る人：現実を伝える、イルカを自由にしようと伝える。

同じ言葉を使っていても意味や行動の結果が全く異なり、それぞれの立場で異なる認識宇宙に住んでいるということがわかります。より正しい認識は、現実により近いものです。イ

メージによる認識宇宙は、おとぎ話、ファンタジーです。ファンタジーを守りたい気持ちもわかりますが、もしあなたのファンタジーによって傷ついている誰かがいるならそれは捨てなければなりません。そのことによって自分の欲望やアイデンティティが壊れることは、あなたにとっても重要なことです。

［図：イルカとの関わり方の違い：イルカトレーナー・観客・イルカを守る人］



	イルカトレーナー	観客	イルカを守る人
イルカが好き	イルカが好きなので、捕獲する、監禁する 自由を奪う、食べ物で支配する 利用する、金儲けをする イルカに自分の言うことを聞かせたい	イルカが好きなので、ショーを見たい 触りたい、食べ物をあげたい ヒレに捕まって一緒に泳ぎたい イルカに何かしてもらいたい	好きでも好きでなくても構わない 捕獲しない、監禁しない、自由にする 支配しない、利用しない 自分の思う通りに生きてほしい
イルカを尊重する	イルカの自由、生態、生涯は尊重しない 商材としてのイルカは尊重する	尊重という概念を持つべき相手だと認識していない イルカの内面には興味がない イルカに内面があると知らない人も	自由を尊重する 意思を尊重する
イルカとの信頼・絆	食べ物を支配することによって獲得した歪んだ信頼 家族との絆を引き裂いた上で、強制的に結んだ絆	信頼や絆を作りたい 水族館に通い詰め、特定のイルカと信頼絆があると思い込んでいる人も	無くていい。 相手がそれを求めてきたら受け入れるか、拒否するか、状況で適切な判断をする
イルカの見え方	商材。ちゃんとショーをするかどうか 商材として健康か、子供を産めるか	癒される、かわいい ショーを見せてくれる	イルカ漁や水族館で苦しんでいる イルカを見るのは辛い
社会にどう伝えるか	イルカ漁を伝えない 異常行動を伝えない イルカを押さえつけて強制妊娠させる 自分はイルカの友達だと主張する	いかに"自分"が、面白かったか 楽しかったかを伝える	事実を伝える イルカを自由にしようと伝える

辞めたトレーナーは活動を。イルカが好きな子は活動家に。

海外のイルカ活動家の中には元イルカトレーナーやイルカトレーナーになろうとしていて現実を知りイルカ保護活動家になった人々がいます。

私のイルカ漁や水族館の現実を伝える講演会に来た専門学校生は、イルカトレーナーを目指していました。講演会の間、少し攻撃的な様子で講演会を聞いていたのが印象的でした。講演後話しましたが、動物専門学校が主張していることを私に伝えてきました。これまで動物専門学校の先生が言っていることが正しいと信じていたところに、突然このような現実を突きつけられ、イルカトレーナーを批判され、怒っていたのでしょう。ちょうど進路を決めようと、水族館に就職しようと準備していたところだったようです。しかし、結局彼女はイルカトレーナーになることを止めました。

つまり、現実を伝えればイルカトレーナーになることを止める人がいるということ、動物専門学校では私が伝えているような現実を伝えていないということです。

イルカトレーナーになりたい人は、イルカが好きなのだろうと思います。しかし皆さんがいく世界は、イルカを利用し、社会に嘘と幻想を振り撒く世界です。イルカを本当に尊重する人は、イルカを自由にします。
イルカを本当に守ろうとしているのは誰かをちゃんと見定め、考え、本当にイルカを守る人になって欲しいと願っています。

第五項　動物園水族館４つの役割

動物園水族館は時代の変遷に合わせて、別の言い方をすれば年々高まる動物園水族館への批判を躱すために、自らの役割を変化させることによって、生き残りを図ってきました。
動物園水族館が自らの役割として掲げている4つの役割は、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」です。
一つ一つ見ていきましょう。

「種の保存」

種の保存と聞くと一般的に、野生動物を野生下において保存する、あるいは野生動物を一旦動物園水族館で保護し増やし野生に戻すというイメージを持ちます。水族館はシャチやイルカの種の保存を行っていると主張しています。では、水族館が入手したシャチやイルカと、繁殖して自然に帰したシャチやイルカはどれくらいの数になるか実際に数字を見ていきましょう。
シャチに関して、日本の水族館はこれまで48名のシャチをアメリカ・アイスランド・日本近海から捕獲し繁殖させました。48名中すでに41名（85.5%）が死亡しています。これは種の保存でしょうか。あるいは破壊でしょうか。現在生き残っているのは7名。水族館や水族館支持者は、繁殖したシャチは解放できないと主張します。その通りです。では種の保存といる主張は一体なんだったのでしょう。
これまで日本の水族館が野生から捕獲してきたイルカの総数は不明です。1930(昭和5)年、中之島水族館（現伊豆三津シーパラダイス）が日本で初めてイルカを監禁してからこれまで、おそらく数千名のイルカを捕獲監禁殺害していると思われます。現在残っているイルカは500〜600名ほど。水族館は、イルカの種の保存どころか、大量殺害をおこなってきたのが客観的な現実であり、それこそが水族館の姿です。
動物園水族館の文脈における「種の保存」を正しく記述すると、『動物園水族館に監禁している動物種の個体数を永続的に保存する』となります。つまり動水にとっての「種の保存」とは「野生動物の家畜化であり商材の保存」のことです。ですので水族館や森浦湾くじらの海は「種の保存」の研究をしていますし、それは真剣なものです。
また、特に高価な5億円もするシャチ、1名90〜1000万円以上するイルカという資産を水族館が手放すとは思えません。ですので、さまざまな理由を使って解放を拒みます。つまり監禁するコストは払っても、解放するコストを払うつもりはそもそもありません。

「教育・環境教育」

動物園や水族館の動物を見て触れ合うことは情操教育になり、優しい子どが育ち、環境意識の高い人びとの育成に貢献していると言ったことが、この役割にあたります。

ではなぜ日本では、イルカ漁や捕鯨で鯨族を殺すことに賛同する人が多く、イルカや鯨類を自然から捕獲し、監禁し、ショーをさせることを好む人々が多いのでしょう。また、海外からイルカショーを批判されて初めて、悪いことだと知り、驚くのでしょう。それこそが、水族館が行っている教育・環境教育の結果です。

イルカショーを例に取りますと、イルカショーの教育的要素は、ショーの合間合間に行うイルカの生態などを教えるアナウンスです。教える内容はどこの水族館も大体同じで、イルカはクジラです、泳ぎ方、体の大きさ、噴気孔の位置、ちょっとした生態など。生きているイルカを使わずとも、絵や映像を使って数分で教えられる内容です。小学校の生物の事業で必修にすれば事足ります。残りの時間は、教育とは関係のない宙返りやテールウォーク、イルカトレーナーによる仲良いアピールを見させられます。当然、鯨族に関するの知識や意識が高まるはずもありません。

実際に水族館が客に教育しているのは、人間はイルカやシャチを監禁しショーをさせて楽しんでいいということ。動物搾取を肯定し、動物の自由や権利を奪って良いこと、人間は他の動物に優越しており、搾取する権利があること、などです。理由はもちろん、そう教育しないと水族館が成立しないから、収益が手に入らなくなるからです。

例えば水族館が、「イルカは自由でいるべきです」「イルカは自然の中で保護すべきであり、そのためには捕獲しない、殺さないことが重要です」「イルカは1日数10km〜100km以上の距離を泳ぐので、狭いプールに入れられてはいけません」などと当然なことを観客に教えたらどうなるでしょう。あるいは、目の前にいるイルカについて「私たちが飼っているイルカは、太地町の海から家族を殺して連れてきました」と伝え、現在どのような心身の状態でどのような異常行動を起こしており、それを抑え込むために薬漬けにしていることを伝えたらどうなるでしょう。観客の知識と意識は即座にレベルアップし、そして（水族館にとって）悪いことに、観客はなぜイルカを監禁するのかを問い詰め、イルカの解放を求めるでしょう。水族館は決して本当のことを言えないように運命付けられている存在なのです。

水族館が行っている教育とはすなわち、水族館が利益を確保し存続することを目的とし、人間至上主義・動物差別・動物搾取を推進する教育です。水族館をはじめとする動物産業は自分たちの利権のために、日本人の動物に対する知識と意識、動物倫理の発展を阻害しています。

「調査・研究」

水族館の調査研究の実態を一目で理解したいときは、ドルフィンリサーチセンターのWebsiteを見ると良いでしょう。

水族館にとって最も重要な研究とは、繁殖、つまり野生動物の家畜化の研究です。理由はもちろん商材の確保維持です。水族館にとってイルカやシャチの確保は生命線に関わる至上命

題です。ゆえに水族館と学者は、自然繁殖技術の研究、人工受精・繁殖の研究、動物の精液採取の研究、月経サイクルの研究、人工保育の研究、繁殖しやすい施設・設備の研究、人工海水の研究、水槽のろ過システムの研究、異常行動を抑え込む研究などを行います。これらは水族館自身のための研究であり、動物のための研究ではありません。
JAZAが太地のイルカ追い込み漁からのイルカの入手中止を決めた際、多くの水族館は反対し、脱退する水族館もありました。もし水族館が調査・研究をしたいのなら、西洋諸国のように野生のイルカや動物の調査・研究にシフトすれば良い話です。JAZAの決定後即座に脱退した太地町くじらの博物館は、捕獲したイルカを調査・研究名目で世界中の水族館に販売しているイルカブローカーです。
水族館が調査・研究を行うことの弊害は、水族館自身の生き残り戦略が、イルカをはじめとする動物に被害を及ぼし続けていることです。また、動物園や水族館には研究者や企業が関わり、研究費とポジションを得ます。調査研究という名目は、調査捕鯨と同様、動物の殺害・商品化の正当化、隠れ蓑として使われます。さらに日本の場合は、その行為を水産庁や和歌山県など行政機関が後押ししていることが問題です。
日本の動物関係の学者と対話すると、動物への共感の無さ、動物倫理・権利意識の低さに直面することになります。犬吠埼マリンパークのハニーを助けたいと関係各所に訴えているときに、ある有名な学者に連絡をしました。事情を伝えハニーを助ける方法は無いかと見解をお伺いすると、その学者の答えは「そのイルカを解放することにコストをかけるのは無駄であり、他の研究に使った方がよい。学生の解剖にでも使うといいのではないか」というものでした。
学者や科学者が、動物擁護活動は感情的だ（動物が可哀想など）とバカにすることがあります。しかし、歴史から明らかなように、かわいそう、という感情を失った学者や科学者ほど恐ろしいものはありません。学者や科学者は調査・研究目的を使い、動物のみならず人間をも大量殺害してきました。

「レクリエーション」
動物を見て、動物のショーを見て、触って楽しみ、動物を食べて楽しみ、動物をアクセサリーに加工して楽しむことができるのが水族館であり、この役割は確かに合っています。
そこには感情や意志がある存在としての動物はおらず、人間に搾取されるための存在としての動物がいます。それが動物を利用したレクリエーションであり、ゆえに水族館はレクリエーション施設です。
水族館からレクリエーションを取ったら水族館じゃなくなります。つまり「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」は、他の機関で真面目にやった方が良いということです。

4つの役割の欺瞞については、「動物園水族館閉鎖」にも記載しています。
［URL：動物園水族館閉鎖：http://u0u0.net/bffw］

第四節　経済

第一項　市場規模

水族館の収支と、不完全ながらある程度目安となる市場規模を概算し、ターゲットの規模感を表します。収入を公開していない施設もありますので、水族館全体の市場規模は不明です。

イルカ解放活動・保護活動の市場規模や、個人活動家であればご自分の活動予算と比較して、活動と産業の規模の違いを確認してください。産業の大きさを知ることは、活動を根本から見直す材料になります。JAZA加盟水族館の合計収入を見てみます。出典はJAZA発行日本動物園水族館年報です。1,000円以下は四捨五入します。

収益公開館 合計収益

2016年　334億6936万円（加盟館62　収益公開43　非公開19）

2018年　354億9458万円（加盟館58　収益公開42　非公開16）

2019年　287億9200万円（加盟館53　収益公開37　非公開16）

2020年　179億2422万円（加盟館49　収益公開33　非公開16）

*加盟間が減っているのは、2015年のJAZA加盟間のイルカ追い込み漁からのイルカの購入禁止を受けて、水族館が次々と脱退しているから。

収入が10億円を超える水族館

2018〜2020年の収入が10億円を超える水族館を示します。ただし、以下の水族館はリストに入っていません。

・JAZA加盟館のうち収支を公開していない水族館：登別マリンパークニクス、男鹿水族館、アクアマリンふくしま、新潟市水族館マリンピア日本海、サンシャイン水族館、しながわ水族館、すみだ水族館、丹後魚っ知館、京都水族館、串本海中公園、神戸市立須磨海浜水族園、城崎マリンワールド、マリンワールド海の中道、沖縄美ら海水族館

・JAZA非加盟館：太地町立くじらの博物館、アドベンチャーワールド等

サンシャイン水族館、京都水族館、マリンワールド海の中道、沖縄美ら海水族館、アドベンチャーワールドなどが情報公開すればこの順位は変わってくると予想されます。特にマリンワールド海の中道、沖縄美ら海水族館は国営の水族館ですが、JAZAに情報提供していません。

2018

1. 海遊館　49億2194万円
2. 鴨川シーワールド　34億0093万円
3. マクセル アクアパーク品川　33億9959万円
4. 八景島シーパラダイス　29億5721万円

5. 名古屋港水族館　25億8100万円

6. 鳥羽水族館　22億2673万円

7. アクアワールド茨城県大洗水族館　20億4848万円

8. ニフレル　17億8274万円

9. 大分マリーンパレス水族館「うみたまご」　16億3745万円

2019

1. 海遊館　46億64,279

2. 八景島シーパラダイス　31億7335万円

3. マクセル アクアパーク品川　30億9162万円

4. 名古屋港水族館　26億1800万円

5. 鳥羽水族館　22億0712万円

6. 大分マリーンパレス水族館「うみたまご」　16億7860万円

7. ニフレル　16億0445万円

2020

1. 名古屋港水族館　26億3989万円

2. ニフレル　16億0445万円(? 2019年と同じ数字)

3. 八景島シーパラダイス　13億6465万円

4. 大分マリーンパレス水族館「うみたまご」　11億9428万円

5. 海遊館　11億7730万円

6. 鳥羽水族館　14億4436万円

7. マクセル アクアパーク品川　11億4019万円

第二項　水族館の収入と主な支出

規模が大きく、力があり、鯨族を監禁している水族館の収支をいくつか見ていきます。新型コロナウィルスのパンデミックが始まる前の、2018(平成30)年の主だった項目を抜粋します。10.普及宣伝費と11.行事・催事費は合わせて広告費とします。

第一目　2018年各館の主な収支

【行政施設】

海遊館

収入49億2194万円　支出20億0196万円

・支出内訳　人件費3億1565万円、委託費1億6038万円、広告費4155万円、その他8億0732万円、教育・研究調査費1933万円、動物購入費1138万円

・動物のケアに係る支出　飼料費4254万円、医療費348万円（計4602万円）

名古屋港水族館

収入25億8100万円。支出25億2100万円

・主な支出内訳　人件費7億1091万円、委託費7億0688万円、広告費5290万円、その他3億5644万円、教育・研究調査費1143万円、動物購入費1221万円等
・動物のケアに係る支出　飼料費8645万円、医療費1600万円（計9866万円）

【民間施設】

鴨川シーワールド

収入34億0093万円　支出16億4706万円
・支出内訳　人件費7億7863万円、広告費9178万円、教育・研究調査費330万円、その他3億1518万円等
・動物のケアに係る支出　飼料費1億0053万円、医療費1842万円　計1億1895万円

ニフレル

収入17億8274万円　支出14億9591万円
・支出内訳　人件費2億6255万円、委託費1億6683万円、広告費2億6048万円、その他6億4275万円、教育・研究調査費369万円、動物購入費148万円
・動物のケアに係る支出　飼料費809万円、医療費63万円（計872万円）

第二目　3つの役割の予算割合

水族館の4つの役割は「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」です。そのうち3つの役割「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」の予算が人件費を除外した教育・研究調査費と考えられます。

海遊館

教育・研究調査費1933万円　収入比0.39%、支出比0.97%

名古屋港水族館

教育・研究調査費1143万円　収入比0.44%、支出比0.45%

鴨川シーワールド

教育・研究調査費330万円　収入比0.097%、支出比0.2%

ニフレル

教育・研究調査費369万円　収入比0.21%、支出比0.25%

行政、民間とも収入比で0.5%に達する施設は0です。大学や研究機関の予算があるにせよ、水族館の予算からはは、水族館が「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」に取り組んでいるとは考えられません。

第三目　飼料代+医療費の割合

動物園水族館が営利に走ることに対する批判への反論として「動物の餌代にお金がかかるから営利を目的とするのは当たり前だ」「観客が入園料を払わなくなったら動物たちが食べ物

を食べられなくなる」というものがあります。では実際どれくらいかかっているのか、コロナ禍前の2018年の飼料費と医療費を合算した額を出してみます。

海遊館

飼料費+医療費4602万円　収入比0.93%、支出比2.3%

名古屋港水族館

飼料費+医療費9866万円　収入比3.8%、支出比3.9%

鴨川シーワールド

飼料費+医療費1億1895万円　収入比3.2%、支出比7.3%

ニフレル

飼料費+医療費872万円　収入比0.49%、支出比0.58%

動物のケアにかかる経費は収入比で0.49〜3.8%、支出比で0.58〜7.3%です。特にニフレルは1〜2桁低い金額になっています。動物たちが心配になります。

第四目　人件費

一方、運営や飼育員にかかる人件費はいくらか見てみます。

海遊館

人件費3億1565万円　収入比6.4%、支出比15.8%

名古屋港水族館

人件費7億1091万円　収入比27.5%、支出比28.2%

鴨川シーワールド

人件費7億7863万円　収入比22.9%、支出比47.3%

ニフレル

人件費2億6255万円　収入比14.7%、支出比17.6%

支出に対する、人件費と動物のケアにかかる経費の割合を比較します。

海遊館　人件費15.8%　動物のケア2.3%

名古屋港水族館　人件費28.2%　動物のケア3.9%

鴨川シーワールド　人件費47.3%　動物のケア7.3%

ニフレル　人件費17.6%　動物のケア0.58%

飼料費と医療費を合わせても、人件費には及びません。動物園水族館の売り上げが減ったとしても直ちに動物に被害が及ぶことがないことがわかります。

内部留保もあるでしょうし、削れる予算もあります。ニフレルであれば、広告費に2億6048万円を使う一方、動物にかけている経費は827万円ほど、動物への経費/広告費＝0.032%です。

第三項　水族館の特徴

商材

水族館の商材は、水生生物です。シャチやイルカなど高価な動物に関しては、固定資産税として、減価償却の対象となります。動物たちは展示品であり商材ですので、数える場合「匹」や「頭」ではなく、「一点」「ニ点」と数えます。
また、水族館や動物園が、動物を大切に扱いますといった宣伝文句を使うことがありますが、動物が怪我をするということは商品価値が下がること、動物が死ぬということは商材を失うことでありますので、大切に扱うのは当然でしょう。

商材確保

日本は水族館に有利な立地です。四方を海に囲まれ、すぐに商材（魚類、軟体類、甲殻類、サンゴなど）が手に入ります。水族館のスタッフが捕獲に行くこともありますし、漁業者から状態の良い商材を格安で手に入れることもできます。珍しい生物などですと、持ってきてくれることすらあります。深海魚の場合は、水族館スタッフが捕獲します。深海から急激に引き上げますので、水圧が変わり、魚たちは目が飛び出る、内臓が飛び出る、破裂するなどします。その時点で死んだ魚たちは海に捨てます。息絶え絶えに生き残った魚たちは、水族館スタッフに注射器で空気を抜かれ、水槽に入れられ、生き残るかどうかを観察されます。水族館はこの行為を”治療”と呼んでいます。そうして生き残った深海魚たちが、水族館で展示されています。

全天候型

水族館の強みは全天候型という点です。動物園は野外を歩くことが多く集客は天候に左右されます。一方水族館は屋内展示が多く、天気に左右されません。ゆえに家族連れやカップルに好んで利用され、安定的な利益を得ることができます。

匂い

最新の水族館は動物の匂いもせず、施設によってはディフューザーで良い香りを漂わせています。古い水族館やイルカ、ペンギンがいる水族館では塩素や魚の生臭い匂いがしますが、そこまで気になりません。一方、動物園は糞尿やマーキングの匂いがしています。動物園の観客が漏らす「臭い」という感想はよく聞く言葉の一つです。水族館ではそういった匂いがなく、綺麗にライティングされ清潔な空間が演出されていますので、デートなどに最適の場所として利用されます。

美味しそう

水族館で最も聞く感想は「美味しそう」です。私はタコが好きですが、タコの前にしばらくいると必ず「たこ焼きを食べたい」という感想を言う人がいます。水槽の中に監禁されているタコをよく見るとわかりますが、彼らはなんとか水槽から出ようと悲しい努力をし続けています。そのタコと、それを食べたがる人間の感想を聞いていると、なんとも言えない感情

になります。イルカショーであっても「食べられるのかな」と言う感想を聞いたことがあります。また動物園では、ブタやニワトリはもちろん、サルやカピバラの前でさえ、「食べてみたい」と言う感想を漏らす人がいます。
水族館や動物園は教育施設とされていますが、動物にとっては自分が食材としてみられる場所でもあります。また、食欲を喚起する企画展や、水槽の前で寿司や魚フライの提供などを行っている施設もあります。

民間参入
上記のような条件から、水族館は儲かることがわかっています。ゆえに、資本を持った民間企業は水族館に参入します。この不況にあっても日本各地に次々と水族館が建設され、また建設予定の水族館もあります。

第五節　利権

第一項　政

自民党水族館を応援する議員連盟

水族館業界の後ろ盾として強力なのは、2018年設立された「自民党水族館を応援する議員連盟」です。トップの顔ぶれは以下。

会長　二階俊博（和歌山3区）

副会長　世耕弘成（和歌山県選挙区）、竹下亘（島根2区）

幹事長　鶴保庸介（和歌山県選挙区）

事務局長　江島潔（山口県選挙区）

二階氏、世耕氏、鶴保氏が太地町がある和歌山県選出、竹下氏の島根県にはベルーガを監禁する島根県立しまね海洋館アクアス、江島氏の山口県は捕鯨の街であり、市立しものせき水族館海響館があります。太地町を中心としたJAA、イルカ監禁水族館の族議員という構図です。

水族館法

水族館は、利権維持のために国を後ろ盾にしようとしています。水族館からの要望を受け、超党派の国会議員が「水族館の機能の維持及び向上に関する法律案」を議員立法しようとしています。目的は、水族館業界関係者、官僚や役人の天下り先の利確と、水族館反対派の押さえ込みです。現在のところ、水族館の反対の声はまだまだ小さく、水族館を支持する人々、あるいは実態を知らない人が多いでしょう。政治家としては、水族館を支持する動機の方が高くなります。

一方、かねてから動物園法を作ろうという動きがありました。動物園と水族館は別々に動いています。動物園と水族館は、協力関係にあるとともに対立関係にもあり、動物園は水族館を下に見ていますし、水族館は動物園主導でJAZAの方針が決められてしまうことへの不満があります。イルカ追い込み漁からのイルカ入手禁止に伴う各水族館のJAZA脱退は、その不満が一気に現れたものとも考えられます。鴨川シーワールドも脱退しそうなものですが、残留している理由は、館長の荒井一利が初めての水族館出身JAZA会長になったということもあるでしょう。

第二項　官

天下り

水族館は天下り先にも使われています。

国営水族館

沖縄美ら海水族館は、内閣府沖縄総合事務局・都市再生機構が事業主体であり、沖縄美ら海財団が運営しています。沖縄美ら海財団理事には、2022年11月1日時点で、元沖縄県県職員

1名、元内閣府審議官1名、元国土交通省2名が天下りしています。評議員には、元内閣府沖縄総合事務局長1名がいます。
同じ国営水族館であるマリンワールド海の中道は、国土交通省が事業主体であり、西武グループである株式会社海の中道海洋生態科学館が運営しています。西武グループは国土交通省はじめ、多くの天下りを受けています。

地方公共団体水族館

一例を挙げますと、恩賜上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園・井の頭自然文化園は、東京都が事業主体であり、公益財団法人東京動物園協会が運営。東京動物園協会には東京都の公務員が天下っています。
よこはま動物園ズーラシア、野毛山動物園、金沢動物園は、横浜市が事業主体であり、公益財団法人横浜市緑の協会が運営。緑の協会には横浜市の公務員が天下っています。
青森県営浅虫水族館は、青森県が事業主体であり、青森水族館管理株式会社が指定管理。指定管理先を株式会社にしイルカの入手をはじめとする自業実態をブラックボックス化しました。
いおワールドかごしま水族館は、鹿児島市が事業主体であり、財団法人鹿児島市水族館公社が指定管理。財団の理事長は下鶴隆市長です。
一時が万事このような調子です。全国各地の地方公共団体運営の水族館と指定管理会社の関係や実態を詳しく調べるとさまざまな事実が出てくるでしょう。

民間水族館

民間水族館に元行政職員が天下っているかどうかは調べられていません。西武グループやオリックスのように間接的に天下っている可能性があります。

第三項　財

周辺産業

水族館周辺産業は、捕鯨やイルカ漁よりも多くの業界・人数が関わっており、資金も回っています。一例を示します。

水族館周辺産業

水族館コンサル、建設、設備、配送、動物の飼料

宣伝広告

広告代理店、デザイナー、アーティスト、ミュージシャン

食

レストラン、屋台、お菓子、お土産用食品

衣

衣料品制作業者（Tシャツ・トレーナー・帽子・ネクタイ等）、グッズ制作業者（ぬいぐるみ、アクセサリー、小物）、、卸売業者、小売業者、販売業者、販売員

第四項　学

鯨類に関する研究所、大学、研究者は、［本文参照：第四部 第七章 第六節 第四項　学］をご参照ください。特に三重大学は、水族館の監禁、繁殖研究に力を入れています。

ここではイルカ・シャチトレーナーや水族館職員を養成する専門学校と施設を取上げます。

イルカトレーナー育成施設

日本のイルカトレーナーを養成施設を以下に記述します。選択基準はイルカトレーナー養成の専門コースがある、イルカトレーナーとして就職した生徒がいるです。抜け漏れがあるかもしれません。

東北(1)：仙台ECO動物海洋専門学校

関東(4)：埼玉動物海洋専門学校、東京動物専門学校、ＴＣＡ東京ＥＣＯ動物海洋専門学校、日本ペット＆アニマル専門学校

北陸(1)：WaN 国際ペットワールド専門学校

東海(2)：RAP 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー、名古屋ECO動物海洋専門学校

近畿(5)：大阪ECO動物海洋専門学校、OAO 大阪動植物海洋専門学校、KAP 神戸動植物環境専門学校、AWS(アワーズ）動物学院、ドルフィンベェイス

四国(1)：河原アイペットワールド専門学校

九州(2)：福岡ＥＣＯ動物海洋専門学校、専門学校 福岡ビジョナリーアーツ

沖縄(1)：沖縄ペットワールド専門学校

計17施設

名古屋ECO動物海洋専門学校のウェブサイトには、太地町で研修を行うことが記載されています。実際、太地町周辺で見かけることがあります。

［写真：くじらの博物館で研修中の専門学校生］



AWS動物学院は、アドベンチャーワールドが運営している学校です。太地町のドルフィンベェイスでも研修生を受け入れています。
［URL：研修生の受け入れ：https://dolphinbase.co.jp/trainee/］
一方、くじらの博物館側は以下の条件で受けれています。
［URL：博物館実習・飼育実習について：http://www.kujirakan.jp/jissyuusei.html］

動物搾取系学校の問題

日本には驚くほど多くの動物系の大学や専門学校があります。一部動物保護、環境保護を教えている部分もありますが、多くは、動物搾取を行う人材を育てることを目的としています。「ペットビジネス専門コース」や「飼育管理コース」など。動物が好きで入っただろう若者は、2年から3年で立派な動物搾取の一兵卒となり、動物産業市場の歯車として組み込まれます。数年かけて入力された動物に関する”専門的”な知識は、友達であり心が通じていた動物を、客体化すべき利用物として扱うことがプロであるという意識を育み、動物を本気で守ろうとする人々をバカにする根拠を得ます。

ある動物専門学校の学費は年間150万円ほど。ある学校では、研修として、北海道や沖縄、オーストラリアなどの海外に生徒を連れて行きます。かなりの費用がかかるでしょう。この額を親に出させた子供は、動物産業で働かなければ親に報いることはできません。学校に入学後、現実に気づいた人も多いでしょう。口コミサイトには学校に対する不満が書き込まれています。学生を研修に連れて行った費用を、旅行代理店、専門学校や研修先の動物園水族館がどう按分しているのかも気になります。

また、専門学校によっては動物繁殖販売ビジネスを行っており、学生を学校所有の動物繁殖・販売施設で働かせ、研修としている会社もあります。学生は、無料で働き、しかもお金まで払ってくれます。学生が研修に行った動物園水族館も無料の働き手に雑用などをさせることができます。畜産などもそうですが動物産業は、動物ばかりでなく人間の搾取も行っています。そして教わるのは一般社会では使えない知識。次々と潰しのきかない人々を排出しているのは動物搾取学校の罪であるように思えます。

動物専門学校の教諭を自称するアカウントとやり取りしたことがありますが、議論が成立しないほど思考能力や言語運用能力が不足していました。またある専門学校の講師の中には動物の密輸で逮捕された人物もいます。大人になった私たちから見てみれば、教壇に立っていた”先生”と呼ばれる人々は、”先生”と呼ばれるに足る人物でなかった、どころか何者でもなかった、悪い場合人権侵害や犯罪行為を行っていることすらあるということがわかっています。彼らのような人々に価値観や判断基準を埋め込まれてしまうのは、子供達にとって不幸なことです。

第五項　法・報

法曹

利権は無いでしょう。水族館に関する裁判で、鯨族に関するものは、名古屋港水族館のシャチ飼育が動物虐待に当たると購入に税金を使用するのは違法であるとし市民団体が提訴したものがあります。しかし裁判長は人間中心主義的な視点から理由により、虐待に当たらないとし訴えを棄却しています。

報道

日本の報道の構造的な問題に関しては、以下をご参照ください。

［本文参照：第七部 第三章 第二節 第二項 第三目　報道～日本のメディアの特徴～］

マスメディアと水族館は持ちつ持たれつの関係にあります。

新聞社には、「ネタがなくなったら動物園（水族館）へ行け」という言葉があります。何もニュースがない時は動物園か水族館に行って動物に関するニュースを入手すれば、それで紙面が埋まるというものです。さらに、マスメディアが水族館の後援を行うなど直接的な利害関係者である場合もあります。例えば、三重テレビ、東海テレビ、中日新聞、中日スポーツのバナーが貼ってあります。

［写真：イルカ島　三重テレビ、東海テレビ］



テレビ局は、水族館をニュースからバラエティ番組まで幅広く取り上げ、赤ちゃんが生まれたニュースや、飼育員の苦労の物語、芸能人の飼育体験などを発信します。テレビ局はネタを手に入れ、水族館は無料で全国ネットの告知ができるわけです。

水族館とこのような関係にあるマスメディアが、イルカの入手方法や、イルカの異常行動、薬漬けなどについて取り上げるのは難しいでしょう。

暴力団

反社会勢力との関係があると聞いたことはありません。しかし、土地売買、建設、設備、動物の入手等、接点がありそうな場面はあります。

第六項　消費者

イルカ漁・水族館問題で最も強力な力を持っているのが、水族館消費者と言って良いでしょう。彼らの落とすお金が、イルカ漁と水族館の存続を決めます。水族館の観客が事実を知り、イルカをはじめとする動物の搾取に反対の意を示し、お金を落とさなくなったら、この問題は解決します。
しかし、映画「ブラックフィッシュ」と「The COVE」があれほど話題になり、水族館に対するメディアを巻き込んだ大きな反対運動が起こったアメリカであっても、未だに水族館に行く人はおり、産業は維持されています。いわんや「ブラックフィッシュ」は公開されず「The COVE」に感情的な反発心を持った日本の観客が、罪悪感も持たずに水族館に行くのは当然のことです。

以下に2016(平成28)年度の主な水族館の年間入場者数（有料入園者数+無料入園者数計）と、入園館料収入を示します。
1. 美ら海水族館　362万8332人　非公開
2. 海遊館　237万9725人　41億4891万円
3. 名古屋港水族館　196万7486人　21億1000万円
4. 新江ノ島水族館　180万6887人　非公開
5. マクセル アクアパーク品川　173万5616人　27億6066万円
6. 八景島シーパラダイス　153万0576人　28億1990万円
7. 須磨水族館　121万2750人　非公開
8. 京都水族館　111万1139人　非公開
9. 鴨川シーワールド　87万9631人　13億1042万円
10.下関水族館　64万3079人　0円
11.海の中道　57万1821人　非公開
12.新潟市水族館 マリンピア日本海　52万5008人　非公開
13.伊豆・三津シーパラダイス　23万9923人　3億4871万円

最も入場者数が多いのは美ら海水族館です。入館料収入は非公開。沖縄美ら島財団全体の年間事業収入は130億円ほどです。次いで海遊館の41億8000万円、名古屋港水族館以降は20億円台となります。
観客はこれほどの力を水族館に与えます。水族館はこの力を使って、天下り、職員の給与に当てます。そしてイルカ、シャチ、魚類などの動物を購入し、監禁します。

第六節　環境破壊

第一項　水族館は本当に環境を守っているのか

水族館は環境保護や動物保護のリーダーのように振る舞いますが、それが本当であるか否かを判断するには、水族館による環境保護と環境破壊を比較すればわかります。
水族館が行っている環境保護は、
・環境教育
・サンゴなどの海洋保全
・ウミガメなどの繁殖・リリース
・座礁したイルカのレスキュー
・ゴミ拾いなど
一方、水族館が行っている環境破壊は、
・水族館建設のための海岸線の埋め立て。資材とエネルギー使用。
・環境そのものである野生動物を海や湖や川などから捕獲し、監禁。
・飼育監禁している動物を生かすため、食用とする動物を捕獲・殺害し続ける。
・水族館で生かす動物と殺す動物では、殺す動物の方が多い。
・レストランなどで販売する、畜産動物や魚類の遺体（畜産はCO2やメタンの排出・土壌汚染・水質汚染・環境ホルモンの流出・近隣住民への健康被害等を起こしている。漁業は海底環境や水生生物を破壊する）
・水族館や観客が排出するゴミ。
・館内の暖房や冷房、寒い海域に住む動物の水槽を冷やすための冷却装置、循環装置などに使用する、電気代、燃料代。動物を搬送する際や、その他運送に使われるエネルギーと温室効果ガスの排出。
・24時間365日、水族館が存在する限りエネルギーを消費し続けなければならない。

参考までに2016年の電気代上位3館(JAZA加盟館)は以下です。
1. 名古屋港水族館：電気代3億6000万円、水道代4847万8000円、燃料代3233万6000円
2. 八景島シーパラダイス：電気代2億0739万円、水道代4533万円、燃料代1699万2000円
3. 海遊館：電気代1億9077万1000円、水道代5236万3000円、燃料代327万3000円
水族館が無くなれば、これだけのエネルギーが削減できます。

第二項　水族館のグリーンウォッシング、SDGsウォッシング

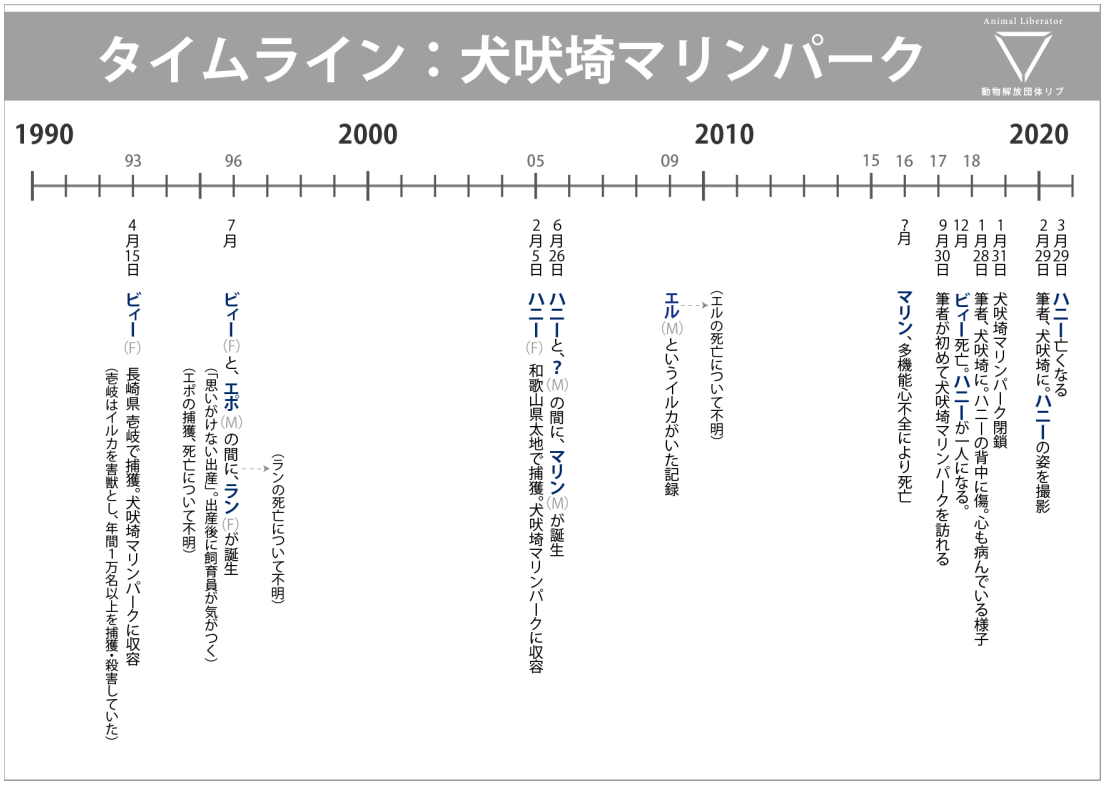
企業などが、環境破壊を行っていながら環境保護を行っているとアピールすることをグリーンウォッシングと言います。コンビニが環境に配慮していると主張しながら、店内を暖房で温め、扉のついていない冷蔵庫で飲み物を冷やしているのが典型です。水族館や動物園も同様、グリーンウォッシングを行っています。

「水族館、SDGs」で検索しますと、多くの水族館がSDGsを打ち出し、それぞれの取り組みを行っていることがわかります。しかしそもそもですが水族館が行っているSDGs事業を行うのは水族館でなくて構いません。水族館が行っている環境教育や動物保護、ゴミ拾いなどに特化した団体を設立し、取り組んだ方が有効な効果をもたらします。水族館はそれをしないでしょう。水族館は多大な環境破壊を行いながら、その隠れ蓑のように環境保護を行っています。水族館は明らかにグリーンウォッシングを行っていると言えます。

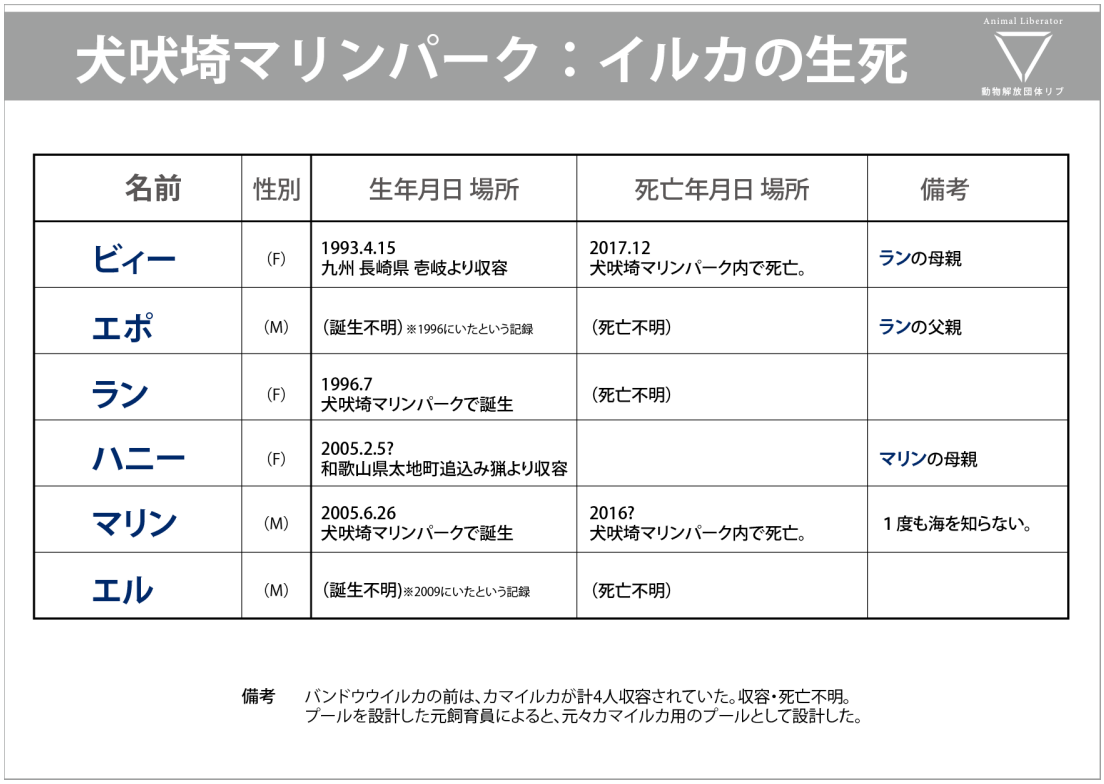
第七節　イルカのハニーの物語

ハニーは太地で捕獲され、水族館に監禁され、死んでいった女性のイルカです。

［タイムライン：犬吠埼マリンパーク］



［図：犬吠埼マリンパーク：イルカの生死］



名前	性別	生年月日 場所	死亡年月日 場所	備考
ビィー	(F)	1993.4.15 九州 長崎県 壱岐より収容	2017.12 犬吠埼マリンパーク内で死亡。	ランの母親
エポ	(M)	(誕生不明) ※1996にいたという記録	(死亡不明)	ランの父親
ラン	(F)	1996.7 犬吠埼マリンパークで誕生	(死亡不明)	
ハニー	(F)	2005.2.5? 和歌山県太地町追込み猟より収容		マリンの母親
マリン	(M)	2005.6.26 犬吠埼マリンパークで誕生	2016? 犬吠埼マリンパーク内で死亡。	１度も海を知らない。
エル	(M)	(誕生不明)※2009にいたという記録	(死亡不明)	

備考　バンドウウイルカの前は、カマイルカが計4人収容されていた。収容・死亡不明。
プールを設計した元飼育員によると、元々カマイルカ用のプールとして設計した。

水族館に監禁されているイルカの典型をハニーに投影することができます。活動家・水族館観客・水族館に行かない人・水族館共同体・イルカ漁共同体すべての方々に、ハニーの生涯を知っていただきたいと思います。

初めての出会い

2017年9月30日、著者が初めて犬吠埼マリンパークの調査に行ったとき、眼下に見えたプールの水は濃い緑色でした。何年もの間水も入れ替えていない打ち捨てられたプールだと思いました。その汚い緑色の水の中にイルカの背鰭が浮かび上がってきたとき、まさかここにイルカを入れているとは、と驚愕したのを覚えています。

［URL：イルカのハニーの物語：https://youtu.be/ZL6tbz1ebJc］

ハニーの捕獲

2005年5月、大海原で自由に生きていたハニーは、太地のイルカ追い込み漁で捕らえられました。若い女性だったハニーはイルカ漁師とイルカトレーナーによって選別され、生捕りにされました。水族館に好まれるのは、大人しく肌が綺麗な若い女性のイルカ、いずれ妊娠出産させることができるイルカです。ハニーは水族館にとって最も欲しいタイプの商材でした。同じポッドの他の家族や仲間たちは、ハニーと同様捕えられ、日本の他の水族館、あるいは中国やアラブといった外国に売りとばされたか、もしかしたら食料にさせられるために血の海の中で惨殺されたかもしれません。そしてハニーはそれを見、家族の叫び声を聞いていた可能性もあります。

水族館への監禁

ハニーは、犬吠埼マリンパークに輸送され、狭いプールに監禁されました。

プールには、1993年4月長崎県壱岐から連れてこられた女性のイルカ、ビィーがすでに監禁されていました。ビィーは13年間、一度もプールの外に出されることなく生きていました。

1年後の2006年6月26日、ハニーは息子のマリンを産みます。ハニーの伴侶が誰かは不明ですが、捕獲された時すでに妊娠していたという話もあります。

息子マリンの死

狭いプールでの、ハニーとマリンとビィーの３名での長い生活。そして2016年、息子のマリンがハニー同じプールの中で亡くなりました。多機能不全でした。目の前で子どもを失う気持ちはどのようなものだったのでしょう。再び、ハニーとビィーの２名きりの生活になりました。

プールの水をきれいに

ハニーとビィーの２名は緑色の水のプールでショーをさせられていました。そしてショーの合間は、水に浮き、ゆらゆら動き、魚の吐き戻しをするなど異常行動を起こしていました。その後水族館を所管する保健所に水質検査を依頼。その結果は魚も住めないような水質だということがわかりました。イルカは肺呼吸なので、そのような不潔な水の中でも生きていけます。しかし、体に良いわけはありません。犬吠埼マリンパークに水質改善を求め、通常の

透明の水に改善させることができました。同時に、銚子市議会議員や観光協会、行政、県議会等に働きかけ、ハニーの処遇改善に協力を求めました。
結果、プールの水は入れ替えられ透明になり、環境は改善されました。

ビィーの死

そして2017年12月、とうとうビィーが死んでしまいます。死因は不明。ビィーは1993年から24年以上犬吠埼の狭いプールに監禁され亡くなりました。ついにハニーはたった一人になってしまいました。

犬吠埼マリンパーク閉鎖前

2018年1月31日に犬吠埼マリンパークが閉鎖することを知り、閉鎖3日前の1月28日、再び犬吠埼マリンパークを訪れました。そこで見たハニーは、背中が傷つき、明らかに心を病んでいました。ハニーは、プールに近づく著者に気づくと、懸命に身体を移動させ、隠れるように隣のプールへ移動して身をひそめました。そのプールの隅で、体を左右に揺り動かし続け、異常行動を起こしていました。

［URL：傷ついたハニー：閉鎖３日前 ：https://youtu.be/aJxGmbuk17Y］

犬吠埼マリンパーク閉鎖後

2018年1月31日、犬吠埼マリンパークが閉鎖。水族館ファンやマスコミは犬吠埼マリンパークに感謝を捧げ、惜しみ、懐かしみました。ハニーは閉鎖後も取り残されたままでした。

ハニーが全国ニュースに

その後、国内外の団体や個人がハニーの問題を扱いやがて大きなニュースになりました。そのニュースがきっかけで世論は犬吠埼マリンパーク批判に転じます。議員などが参入し始め、また一般の人々も声を上げ始めます。ハニーのことを世間が知るようになったことは良かったものの、ハニーを守ろうとする側の方針の不一致、功名心や売名など有形無形の思惑が入り乱れ、混乱の様相を呈していました。ハニーは再び人間の欲を実現するための犠牲になり、人生を利用されることとなったのです。
一方、犬吠埼マリンパークは、ハニーやペンギンや他の動物ごと中国資本に購入され再建されていました。ハニーの苦しみなどお構いなく、再びハニーは利用されようとしていました。
多くの人間が関わっているのに、ほとんどの人が、目の前にいるハニーの心が傷ついているということに気が付かないようでした。

サンクチュアリ構想

私はハニーをめぐる騒動から距離を置いていました。誰もが自分がやりたいようにやり、主張したいように主張し、しかしハニーに対する責任を取とうとする人はいないように見え、ここで活動を行うのは更なる混乱をもたらしかねず、ハニーのためにならないだろうと考えたからです。

私は、せめて最後ハニーが海で過ごせるようにできないかと考えていました。それが責任だと考えたからです。そこで、イルカのサンクチュアリの設立を検討し始めました。
2018年11月〜2019年4月にかけて行っていた「日本一周! 動物園水族館調査【西日本編】」の間も、移動時間などを使って各地でサンクチュアリに良さそうな湾を探し、知り合いや地元の人から情報収集を行っていました。
また私には、サンクチュアリのための資金やイルカのリハビリやケアを行える専門家とのネットワークはありませんでしたので、海外の団体や専門家に連絡を取り、アドバイスをもらっていました。日本の学者にも当たってみましたが無駄でした。一方ナオミ・ローズ博士は長文の丁寧なアドバイスをくださり、イルカへの思いが伝わってきました。
またサンクチュアリを設立したら必要になる船舶免許も取得し準備を進めました。

再び犬吠埼へ

2020年2月29日ハニーの様子を確認しに行きました。おそらくこの映像が、ハニーの姿を捉えた最後の映像です。背中の皮膚は、何か所もめくれあがっています。皮膚も口周りも酷い状況に見えます。

［URL：ハニー 傷だらけ：https://youtu.be/lZVEZslkCCY］

現在はYouTubeに公開していますが、この当時は公開しないと決めアップロードもしませんでした。この時、ハニーの問題を誰もが解決しあぐねていて世論が落ち着いていました。ここでこの動画を公開すると再び世論が騒ぎ、ハニーに悪影響を及ぼしかねないと判断したからです。

サンクチュアリの交渉

日本各地の知り合いにサンクチュアリの候補地を探してもらっていたところ、四国にサンクチュアリに最適な湾が数カ所あるとの知らせを受けました。早速現地に行き、確認。そのうちの一つの湾が理想にぴったりでした。
知り合いを通して県議会議員と面会。サンクチュアリの構想を伝え、協力を仰ぎました。同時に、湾がある地方自治体の役場に連絡を取り、湾を使用している人との交渉をセッティングしてもらいました。湾自体は地方自治体の所有ですが、昔から現在の使用者が占有しており、3者交渉が必要だったからです。また、その湾と周辺の土地は境界線と所有者がはっきりしていないことがわかったため、明確にする図面の作成をお願いしました。

ハニーが亡くなる

湾の使用者や自治体担当者との顔合わせを終え、本格的な交渉に入ろうとした矢先の2020年3月29日ハニーは亡くなってしまいました。

ハニーの人生は、人類に弄ばれた人生でした。自由に家族と生きていた海から、太地のイルカ追い込み漁によってイルカ漁師とイルカトレーナーに捕獲され、芸を仕込まれ、水族館に売られました。ハニーは生きるためにショーをしました。イルカショー好きの人々はハニー

のそんな姿を見て楽しみました。ハニーは監禁下で子どもを産み、その大切な子どもを目の前で失いました。そして最後まで残されたの仲間が死に、ハニーはすっかりおかしくなってしまいました。

最初にハニーに会った時のことを今でも鮮明に思い出します。まだハニーは元気で、ふざけて私に水をかけました。私の目を見て、再びふざけて水をかけてきました。私を見るハニーの目を覚えています。忘れられません。

なんとかハニーを助けたかった。ハニーが亡くなった一報を聞いたときは、悲しく、寂しく、「間に合わなかった」「もっと早く進めるべきだった」と様々な想いが交錯しました。

“ハニー”は日本中にいる

”ハニーたち”は、日本中に500名以上います。”ハニーたち”とは、監禁されているすべてのイルカたちのことです。ショーに使えなくなった高齢のイルカは、ハニーと同じように人目につかないところでひっそりと飼い殺しにされている場合もあります。

水族館やイルカトレーナーたちは、水族館に監禁されているすべての”ハニーたち”に対して同じことをしています。観客がひとときのイルカショーを楽しむために、膨大な”ハニーたち”を苦しめ、殺しています。
そして日本中の動物園水族館は、監禁しているすべての動物に対してもまた、同じことをしています。

水族館を楽しむ人々の多くは、イルカがどこから連れてこられ、どんな目にあい、どのように死んで行くのかを知らないでしょう。しかしその人々の中には、本当はイルカたちがどのように扱われているか、イルカたちはどのように感じどのように苦しんでいるのかを知れば、変わる人々がいると信じています。

第二第三の”ハニー”を出さないためには、３つの条件が必要です。
・イルカ漁を止める
・イルカの繁殖を止める
・水族館のイルカの入手・繁殖・監禁・繁殖を法律で禁止にする
私たちは必ずこれを実現します。

私はハニーを忘れません。
ハニーは多くの人の記憶に残るでしょう。

ハニーを忘れない。

第四章　将来

第一節　水族館のメリット・デメリット

水族館や観客にとってのメリットは、イルカやイルカ保護を行う人々にとってデメリットです。イルカやイルカ保護を行う人々にとってメリットは、水族館や観客にとってのデメリットとなります。ここではメリットやデメリットについて考えてみます。

日本人にとってのメリット・デメリット

メリットは、水族館やイルカショーは娯楽の一つとして重宝するということです。手軽に行けて、特別な雰囲気を感じ、感情の高まりや非日常感を感じることができます。4つの役割の一つ「レクリエーション」です。

一方デメリットは、「教育・環境教育」で見てきたように、結局のところイルカをはじめとする動物に対して共感を持たず、支配し搾取することが当たり前であるという意識を備えた人間中心主義的な日本人を作ってしまうという点にあります。水族館に限らず動物産業全体でこのような人々、つまり優秀な消費者を作ることに腐心します。彼らは成功しており、実際動物に共感的な人やヴィーガンはなかなか増加しません。この「教育」は、日本人の動物倫理の意識の発展を阻害していることはもちろん、対人間に対しても、人権意識の低さや他人に対する支配・搾取意識にも繋がっているでしょう。これは日本人同士の共感や連帯感、尊厳の尊重を低下させることでもあり、水族館や動物産業の手法、マーケティングは、日本人にとって深い部分で悪影響を与えています。

日本国にとってのメリット・デメリット

国家や地方自治体が水族館を運営していることには問題があります。税金を使って動物監禁施設を作り、その収益を共同体の構成員で分け合います。天下り官僚や公務員を日本の一部と捉えれば日本国にとってもメリットとなるのでしょうが、日本人全体からすれば、彼らのメリットを生むために、他の日本人がデメリットを負わされているという構造になっています。

地球にとってのメリット・デメリット

水族館が存在することによる地球にとってのメリットはありません。あるとすれば環境教育でしょうが、学校や官公庁が行った方が効率的ですしコストもかかりません。それ以外は野生動物の搾取やエネルギーの浪費であり、水族館の存在は地球にとってデメリットでしかありません。

第二節　将来

第一項　国内

水族館の数

現在水族館の数は増減を繰り返しています。新設に関してはイルカの監禁を行う水族館の方が少ないようです。水族館の数は、人口と国民の動物倫理意識に関係します。人口が増加し倫理意識が低ければ水族館の数は増加します。人口減となり動物倫理意識が高まれば減少します。特に地方の人口減は水族館にとっては厳しい状況であり、活動家にとっては活動において考慮すべき要素の一つです。

イルカの入手

JAZA加盟館

JAZA加盟館にとってイルカ入手は引き続き困難でしょう。太地のイルカ追い込み漁からの入手はできなくなり、保護による入手も規制がかかっています。最も正攻法である入手方法は繁殖です。しかし流産死産の確率は高く、仮にもし成功率が高まったとしても、繁殖を繰り返すことによっていずれ遺伝子の多様性は失われ、繁殖できなくなります。
活路を見出すとすれば、裏ルート、イルカロンダリングと言える入手方法です。一つはJAA加盟館か森浦湾くじらの海から、イルカ追い込み漁から捕獲して一定の時間が経ってほとぼりがさめたイルカを入手する。もう一つは、JAA加盟館か森浦湾くじらの海で繁殖させたイルカを定期的に導入し遺伝子の多様性を担保する。いずれにせよこのまま何の手も打たずにいれば、JAZA加盟館は鯨族の監禁を断念することになります。活動家としてはイルカロンダリングを監視し、もしあったら、国内外やWAZAに知らしめていく必要があります。

JAA加盟館

イルカ漁共同体と強い連携により、安定的なイルカの入手が可能です。JAA加盟館はあっという間に増加しました。2019年に設立され2022年時点で47館が加盟しています。今後予想される戦略としては、学術との連携を強化し、イルカ漁と水族館によるイルカの監禁に”科学的な”お墨付きを与える学者を取り込んでいくでしょう。さらに4つの役割のうち「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」の役割をさらに打ち出し、水族館は環境保護施設だと世間を信用させ、社会的役割の重要性を打ち出していくと思われます。組織として強くなれば政治家への訴求力も高めることができますので、政治や行政へのアプローチも引き続き行っていくでしょう。

第二項　国外

水族館の数

中国の水族館の建設ラッシュがすでにピークを迎えたのか、これから迎えるのかは不明です。水族館産業がこれから発展する可能性がある国は、中国、ロシア、アジアの発展途上国

です。これらの国の動向が、イルカ漁の盛衰に直結します。アジアは概して動物に対する倫理意識が低いため最も注意を要する地域です。
一方、西洋各国は水族館による鯨族の監禁を終焉させるフェーズに入っています。また、西洋諸国の近隣国で、水族館産業が発達しなかった国は、今後発達する可能性も低いでしょう。

日本からイルカを輸入する水族館

世界でほとんど太地町のみが水族館生体販売用のイルカを捕獲しています。殿様商売です。太地町にとって今後も輸出が期待できるのは中国をはじめとするアジア圏です。今後アジアの団体との連携が重要になってくるとともに、太地町によるイルカの輸出に関するマーケティングや国内外への営業の実態に光を当てることも重要です。

第三項　シャチ

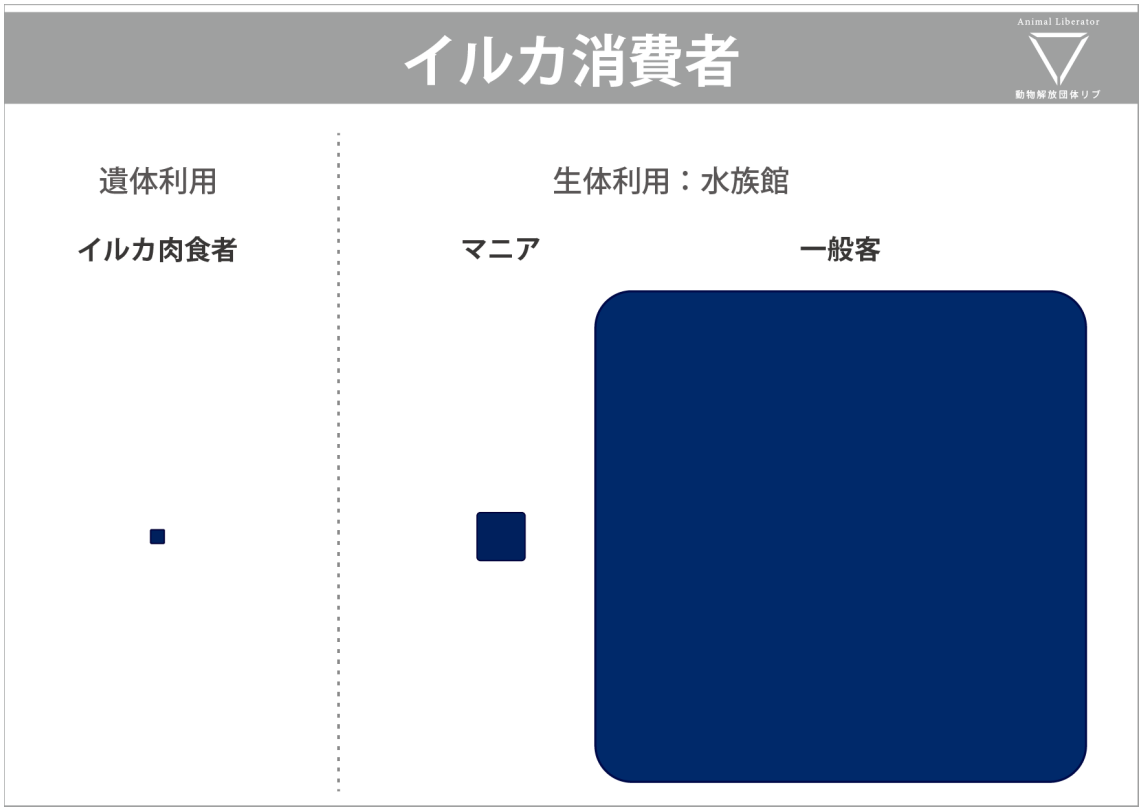
今後、日本がシャチを購入することはほとんど不可能です。どこから輸入するにせよ、強烈な反対運動が展開されることが予想されます。学術目的の捕獲という可能性もありますが、水産庁や日本の学術界にとってはもちろん、日本政府にとっても相当なリスクとなります。あるとしたら繁殖による入手狙いで、鴨川シーワールド、名古屋港水族館、新須磨水族館が連携して人工授精・繁殖を狙っています。
子供が生まれたとしても、数名でしょう。最後まで監禁されたシャチが亡くなる時が、日本からシャチが解放される時です。

第四項　消費者

水族館問題、イルカ漁問題の最も重要なターゲットが消費者、水族館の観客です。観客は、水族館共同体、イルカ漁共同体の利権ネットワークに血液（資金）を与えます。この血液の流れを止めれば、どちらの共同体も消滅します。
おそらく、水族館の観客の多くは、イルカ漁やイルカの異常行動、魚や軟体類がどうやって捕獲されてきてどうやって死んでいくかや、水族館の欺瞞と偽善を知らないまま、イノセンティズムと善意によって搾取に加担してしまっています。
つまり、知らされていないことが原因です。この中には、知れば消費行動を変える、倫理的な行動を選択する人々がいます。現在、水族館反対活動やイルカ保護活動を行っている人でも、以前は水族館が好きでよく行っていたという人がかなりいます。私自身、何も知らない頃、国内外の水族館や動物園に何度も行っていました。今は、調査のために行きますが、水族館は楽しい場所などではなく、監禁され苦しんでいるイルカや魚を見、ストレスを感じにいく場所となっています。知識は感覚を変化させます。

次にイルカ消費者のうち生体イルカの消費者について記述します。イルカ消費者を、イルカ肉食者、水族館観客 - マニア、水族館観客 - 一般客の3種類に分類します。

追記：［図：イルカ消費者］



四角の大きさは消費者の数を表したものです。イメージであり正確なものではありません。実際のイルカ肉食者の数はもっと少数です。イルカ漁の伝統文化の部分（イルカ肉食）が左側、伝統文化でない部分（水族館による娯楽利用）が右側です。

水族館観客 - 一般客

一般客が水族館にお金を落とす目的は、家族サービス、子供を遊ばせる、デート、暇つぶし、癒しなどです。

水族館盛衰の要素の一つ、一般客の増減ですが、人口減と比例して減っていくことが予想されます。特に若年層の減少は、水族館の経営難に直結するでしょう。人口増があるとしたら、移民や外国人労働者の増加です。水族館が少ない国から来た人々にとっては魅力的なエンターテイメント施設かもしれません。余談ですが、一時期水族館の観客の中に非常に多くの中国人がいる時期がありました。これはまずいことになるだろうと予感しました。それからしばらくして雨後の筍のように中国に水族館が乱立していきました。

水族館盛衰のもう一つの要素、動物倫理ですが、水族館に通っているということは、倫理観が低いか無いということを示しています。このまま水族館に通っている限りは水族館が施す教育により倫理観は下がっていきますので、対策が必要です。

動物解放活動家としての筆者の水族館観客に対する認識は、自分はイルカが好きだと思っており監禁されたイルカを愛でることがイルカを愛していることを表す行動であると認識している人々であるが、現実はイルカを支配非支配の関係に留め利用搾取を行っている人々とい

うものです。つまり動物活動家の重要な仕事の一つは、水族館の観客の知識と認識を、私たちの知識と認識にシフトさせること。そうすれば自ずと水族館に行かないようになります。このシフトはほとんど不可逆的です。イルカと水族館の実態を知った後では、決して水族館を楽しむことはできなくなります。そして実際、遅々とはしていますが、確実にそれは起こっています。私自身活動をする中で、「もう二度と行きません」という声を何度も聞いていています。元水族館の観客が、イルカショーを見にいく時間をイルカを守る時間に当てるようになったら、日本のイルカ保護活動は進展します。

水族館マニア

動物園や水族館に足繁く通う人々、特定の動物に感情移入しその動物に話しかけながら時間を過ごす人々、動物の写真や動画を撮って同好の士とやり取りしたり、リブのYouTubeやSNSで動物の怪我や異常行動を目の当たりにしたとしても独特な理論を展開し熱烈に動物園水族館を擁護するコメントをする人々など、一般の観客より熱心な人々をここでは動物園マニア、水族館マニアと呼びます。

彼らとやりとりする中で、彼らの中にも多様性があることに気づいていきました。現実は現実として受け止めた上でそれでも施設に行くことを楽しめる人々、現実を見たとしてもそれを無いものとして幻想の中に止まる人、現実を知り好きと嫌いの狭間で悩んでいる人など様々です。動物園水族館ファンには、そもそも見たくないものは見たくない。見たいものを見たいように見る人が比較的多いように感じます。

例えば、花火と爆音を伴うイルカショーに対する批判動画をアップロードしたときには、「イルカたちは花火が好きなんです。イルカトレーナーと一緒に花火を見ることを楽しみにしている。」という人がいました。

また別の人は「水族館は日本の伝統文化だ。西洋的な価値観が口を出すことではない」という人もいました。ユニークな宇宙の中に生きていることがわかります。

活動的にはあまりに熱烈なファンはターゲットとしては後回しになりますが、発信力のあるファンは影響力が強いため対策が必要です。

第七部　これまでの活動

概要

鯨族を守ろうとする国内外の活動について。クジラ保護活動＝反捕鯨活動は、世界各国の商業捕鯨、調査捕鯨、先住民生存捕鯨によるクジラの殺害に対抗して始まりました。鯨族を守ろうとする人々・団体は世界中に存在しており、お互いを知らずとも、あるいは対立していたとしても、鯨族を守るという共通の目標に向かって協力関係にあります。
活動の歴史を外観し、海外の団体紹介・活動の特徴を上げ、日本の活動と活動において考慮する日本社会の特徴を示します。最後にこれまでの鯨族に関する活動の成果を紹介します。

第一章　活動の歴史

捕鯨、イルカ漁、水族館に関する活動を時間的に理解します。
クジラやイルカの活動に限らず、動物を守ろうとする活動は国際的に連携して進められていますので、世界と日本の活動の歴史を併記します。大きな流れは以下。近代の鯨族保護活動は、1925年頃から国際連盟による規制から始まります。戦後1948年からIWCの規制が始まりますが、当初の有効性は低いものでした。1962年に出版された「沈黙の春」と歩を同じくして鯨類の危機的な状況に関する知識が広まり、クジラ保護活動が発展していきます。
1970年台から環境団体がクジラ保護活動に取り組み始め、1975年にグリーンピースが大規模なクジラ保護キャンペーンを開始、世界的な運動へと展開していきます。
ただし、記録されている活動はどうしても事件、ニュースになったものになります。これら活動よりもはるかに多くの共感的で説得的で礼節に基づいた活動、法に則った活動が行われてきたことに注意してください。

活動の歴史

三期：近代捕鯨 戦前（1900年頃〜1945年）

1925　国際連盟がクジラの乱獲を懸念し保護措置を求める。

1931　第一回国際捕鯨協定（ジュネーブ条約）締結。世界初の国際捕鯨規制条約。

1934　ジュネーブ捕鯨条約発効。日本・ドイツ参加せず。

1937　ICW：国際捕鯨会議によって、IARW：国際捕鯨取締協定 締結。日本参加せず。

1892　シエラクラブ設立。

戦後

1946　ICRW：国際捕鯨取締条約、IWC：国際捕鯨委員会 設立。

1948

ICRW：国際捕鯨取締条約 発効。有効な規制はされずクジラは乱獲され続けた。
IUCN：国際自然保護連合 設立。
1954　HSUS：米国人道協会設立。
1960　イルカやクジラの危機に関する書籍などが出版され始める。
1961　WWF：世界自然保護基金の前身、世界野生生物基金 設立。
1966　公海生物資源保存条約 発効。1994 国連海洋法条約へ統合。
1967　イルカのフリッパーを主人公にしたテレビ番組「フリッパー」に調教師として参加していたリック・オバリーの腕の中でイルカのキャシーが死亡（フリッパー役のイルカは5名いた）。
［URL：Flipper 1964 - 1967 Opening and Closing Theme：https://youtu.be/y6PqrTZsho0］
リック・オバリーは、その日のうちにバハマ諸島ビニミに飛び、イルカの網を切って逮捕、イルカ解放活動の道に入る。
ACS：アメリカ鯨類協会設立。

1970
04.22　Dolphin Project設立。リック・オバリー。
1972　国連人間環境会議で商業捕鯨10年間モラトリアム採択。
IWCではモラトリアム不採択。日本、ノルウェー、アイスランド、ロシア、南アフリカ、パナマが反対。
アメリカで、海洋哺乳類保護法可決。海洋哺乳類の狩猟・殺害禁止等。
アメリカで、海洋保護・調査・保護区法可決。
1971　Green Peace：グリーンピース設立。
1972　Project Jonah：プロジェクト・ヨナ設立。
1975
04/27　グリーンピースが世界初の反捕鯨キャンペーンを開始。「クジラを救え(Save The Whales)」運動が世界に広まる。
06/27　グリーンピースが史上初の反捕鯨直接行動。ソ連の捕鯨船団がマッコウクジラを捕獲しようとする際、ゴムボートで捕鯨船とクジラの間に割り込んだ。ソ連の砲手は構わず捕鯨砲を打ち込み、マッコウクジラの男女を殺害。ゴムボートには、グリーンピースの創設者の1人ロバート・ハンターと、後にシーシェパードを創設するポール・ワトソンが乗っていた。
1976　日本：エルザ自然保護の会 設立。
1977
07　グリーンピースがソ連の捕鯨船を追跡。捕鯨の操業を撮影、捕鯨船に乗り込み乗組員に捕鯨を止めるように訴えた。
シーシェパード設立。グリーンピースを脱退したカナダ人、ポール・ワトソンが設立。
リック・オバリーが太地を訪れる。追い込み漁が行われていることを知らなかった。

アメリカでパックウッド・マグナソン法成立。アメリカ200海里内の漁業割当を初年度50%、2年目からは00%カットすることができる法律。捕鯨国の漁業者に対して、米海域での操業を制限し、捕鯨に圧力をかける狙い。

1978

長崎県壱岐が害獣駆除としてイルカを虐殺していた。デクスター・ロンドン・ケイトが活動を始める。

ポール・ワトソンがUKでトロール漁船を購入、シー シェパードと名付ける。シーシェパード最初のキャンペーンは、S. ローレンス湾でオットセイの赤ちゃん虐殺反対活動。2番目のキャンペーンのターゲットは、悪名高い海賊捕鯨船シエラ号。

1979

対海賊捕鯨活動

ポルトガル沖、シーシェパードがコンクリートをつけたシーシェパード1号で海賊捕鯨船シエラ号に体当たりをして操業不能にする。

グリーンピースが、日本、台湾、韓国による海賊捕鯨や密輸を明らかにした。日本も台湾も否定したが、グリーンピースは、元日本船籍の海賊捕鯨船4隻と日本人乗組員を発見。日本の築地市場では、マリン・エンタープライゼズ社（韓国のフロント会社）によって梱包されたクジラの肉を発見。三角貿易の証拠を掴んだ。

壱岐

世界的にイルカ漁の様子が知られ、壱岐島に欧米の環境保護や動物の権利擁護の活動家が漁師たちを説得しに来た。

インド洋サンクチュアリ成立

日本政府が、セーシェル政府がインド洋サンクチュアリに対して反対票を投じなければ補助金の差し止めると脅しをかける。セーシェルは拒否。セーシェル海域で漁をしていた日本漁船を拿捕し、11.5万ドルの罰金を課す。3年後の1982年鈴木善幸首相が4000万ドルの補助を申し出るが拒否された。セーシェルは、セーシェル海域で日本の漁船が乱獲を行い混乱させていたことに怒っていた。

1980

対海賊捕鯨活動

02/06　シエラ号がボルトガル リスボン港で修理中、リムペット機雷で爆発され船体に穴が開き沈没。

04/27　海賊捕鯨船イブサ I号、イブサ II号が、スペイン マリン港で、シー シェパードに雇われた工作員によって、リムペット機雷で爆発、沈没。

04/??　シーシェパードが、カナリア諸島の至る所に、海賊捕鯨船アストリッドにかけた2万5000ドルの懸賞金のポスターを貼り、航行できないようにした。

06/17　グリーンピースが、海賊捕鯨船イブサ IIIがクジラを殺害しようとしていたところを、レインボー ウォリアーで妨害。スペイン海軍の軍艦が到着し、公海であったにもかかわらずGP乗組員は逮捕され、レインボーウォリアーが押収された。
11/08　GPが、スペイン海軍に押収されたレインボー・ウォリアーを取り戻した。酔ったふりをして船に入り、修理を行い脱出、アムステルダム港へ到着した。
??.??　シーシェパードと南アフリカ政府が協働して、海賊捕鯨船スーザンとテレサを押収。数年後射撃練習に使用され南アフリカ海軍によって破壊された。
??/??　シーシェパードは、海賊捕鯨船6隻の船を操業不能にし、IWCなどが12年かけても解決できなかった海賊捕鯨問題を1年で解決。

壱岐

02/29　壱岐イルカ事件：壱岐の無人島「辰の島」（たつのしま）において駆除のために捕獲されたイルカを、米国の動物愛護団体のメンバー、デクスター・L・ケイト (Dexter L Cate) が網を切ってイルカ250名を解放。器物破損等で逮捕、懲役6ヶ月、執行猶予3年。イルカの解体処理が再び始まったことに対して米国の動物愛護団体や自然保護グループが猛反発し、壱岐のイルカ漁が米国のマスコミで報じられたこともあり、在アメリカ合衆国日本国大使館や総領事館には、激しい抗議の電話や電報が殺到する事態となった。

伊東

グリーンピース、パトリック・コロンブス・ウォール事件。静岡県伊東市の高戸港でイルカの生簀の網を切る。威力業務妨害罪、器物損壊罪で懲役6ヶ月、執行猶予3年。

1981

03/27　グリーンピース：パトリシア・キャサリン・ハチソン事件。千葉県阿波郡和田町に停泊していた日東捕鯨のキャッチャーボート第十隆邦丸(700t)の捕鯨銃に鎖で体を巻き付けて南京錠をかけ、カギを海に捨てる。威力業務妨害、艦船侵入罪で書類送検。
08/09　シーシェパードがソ連に侵入。鯨肉がミンク養殖に使われていたこと、先住民の他、ロシア人が働いていることを突き止めた。逃走中ソ連に追跡されるが、米国領海に逃れた。

1982

対海賊捕鯨活動

12/13　グリーンピースがペルーにレインボーウォリアーを派遣し、海賊捕鯨船ビクトリアVII号に乗り込み、捕鯨砲に自分の体をくくりつけて抗議。ペルーの海兵隊に逮捕される。ビクトリア7号は、日本の大洋水産のペルー子会社であるビクトリア・デル・マールの海賊捕鯨船。同社は、パイタに陸上基地を持ち、他に2隻の船（ビクトリア I号、ビクトリアII号）を所有。

壱岐

イルカ漁に抗議するためにシーシェパード代表のポール・ワトソンが訪日。イルカ漁を止めれば1頭につき100ドルを支払うが、止めないならばシー・シェパード2世号を自沈させて港

を封鎖すると脅したが、長崎県壱岐で県水産部次長と話し合いをもった結果、漁民はイルカを積極的に捕獲しているのではないという説明に納得し帰った、とされている。

1983　07/18　グリーンピースがソ連 ローレン捕鯨基地に侵入。7名が逮捕され後に釈放される。

1985　グリーンピースの虹の戦士号(418t)がニュージーランド オークランド港に停泊中に爆発。GPメンバーのフェルナンド・ベレイフが死亡。犯人はフランス国防省の情報機関DGSE(対外治安総局)の将校2名。

五期：クジラ保護時代（1986年～）

1986

07/??　シーシェパードがデンマークのフェロー諸島でイルカ漁妨害活動。5名が逮捕される。

［URL：Black Harvest：1 https://youtu.be/cCPfT2AjZvY　2 https://youtu.be/A_WkG_yfLh8 3 https://youtu.be/nQrHXQ3vY3Y］

11/??　シーシェパードの活動家2名がアイスランドの捕鯨船2隻を沈没させ、クジラ解体場を破壊した。捕鯨船は、レイキャビク港にあった、クバルル(Hvalur)社保有の4隻のうち2隻、Hvalur6とHvalur7。海水冷却バルブを開け沈没させた。クジラ解体場は、クヴァルフィヨルズル(Hvalfjörður)にあったアイスランド唯一のクジラ解体場。ハンマーやシアン酸などで破壊した。商業捕鯨モラトリアム後のアイスランドの調査捕鯨の妨害を意図したものだった。アイスランドは120名のクジラの捕鯨を計画していた。シーシェパードのこの活動に対して、IWCはオブザーバー資格を取り消し、多くの環境保護主義者は反対の意志を表明。

1987

日本 調査捕鯨開始。

01/??　シーシェパードのポール・ワトソンは起訴を受けるためにアイスランドへ行くが、アイスランド政府は拒否。ポール・ワトソンが彼らの違法行為を暴くのを防ぐため。

1988

10/05　活動_国際　米アラスカバロー岬の沖30kmで3名の親子コククジラが氷に挟まれた。米ソ軍、イヌイット、石油会社、環境保護活動家が協力。29日に救出した。

WDC：Whale and Dolphin Conservation 設立。

1989

01/24　グリーンピースが南極海で調査捕鯨中の第三日新丸に接近。1週間にわたり捕鯨を妨害・阻止。

1992

シーシェパードが、ノルウェーの捕鯨船ニブラエナを沈没させる。ノルウェー北部のロフォーテン諸島で違法に操業していた。

1994

南極海クジラサンクチュアリ採択。日本は反対。この後サンクチュアリで調査捕鯨を行なった。

01/??　シー シェパードが、ノルウェーの違法捕鯨船セネット号を沈没させる。

07/??　シーシェパードの船Whales Foreverが、ノルウェーの捕鯨船団の妨害活動をしているときに、ノルウェー海保の船アンデネスに迎撃された。

［URL：https://youtu.be/SnjmpNYv1AQ］

1996

10　富戸 違反イルカ漁事件：静岡県伊東市の富戸漁港で、許可されていないオキゴンドウの捕獲され、テレビなどで放映され、大きな抗議の声があがった。行動開始から3日目には、漁業者の手によって、100頭以上のバンドウイルカとオキゴンドウが解放された。また10日目には、いったん水族館へ運ばれた６頭のオキゴンドウが外海に放された。

1997

太地シャチ捕獲事件：太地の追い込み漁で10名のシャチが追い込まれました。この情報は、市民グループによって多くの支援者に伝えられ、シャチを購入した３水族館、水産庁、和歌山県など国内外から抗議が殺到。しかしこのうちの5名（Taiji5）が学術目的という理由で捕獲され水族館に運ばれた。

1998

フロリアノポリス宣言：IWCが自らのミッションを変えようと試みた宣言。IWCの目的は①クジラ及び海洋哺乳類を永久に保護する②すべての鯨族 を産業革命以前の数に回復させる、とした。また、致死的研究は不要とした。ただしこの合意について拘束力はない。

シーシェパードが、Makah インディアンの先住民生存捕鯨からコククジラを保護するために、ワシントン州に 2 隻の船を派遣。メディアの注目が集まったため、Makahはクジラを捕獲せず立ち去った。

1999

エルザ自然保護の会が、富戸で行われたイルカ漁の映像を公開。

［URL：https://youtu.be/LHUKwJ5p-ds］

03/09　名古屋港水族館の内田館長がノルウェーに6名のシャチの捕獲を打診。ノルウェーの新聞によってリークされ、世界中の抗議を受け中止。

2000

富戸：エルザ自然保護の会がイルカ漁を撮影。

［URL：https://youtu.be/LHUKwJ5p-ds］

2002

南極海（2002-2003漁期）

シー シェパード1回目の南極海での日本の調査捕鯨阻止活動 開始。目的は、商業捕鯨のモラトリアム実施、南極海洋保護区 (南極クジラサンクチュアリ) の実施。この後、2016-2017漁期まで、計11漁期に渡って妨害活動を行った。

2003

太地

10/?　シーシェパードが太地での活動を開始。

11/?　シーシェパードメンバー2名が畠尻湾の網を切って12名のイルカを逃した。威力業務妨害で逮捕。罰金刑。

2004

富戸：海・イルカ・人がイルカ漁を撮影。

［URL：iruka umi：https://youtu.be/u6SqSsRxLrk］

2005

太地

ジャパンタイムスにボイド・ハーネル記者が「抗議を無視する秘密のイルカ虐殺」という記事を書き、太地のイルカ漁が世界に知られる。

南極海（2005-2006漁期）

グリーンピースとシーシェパードが、日本の調査捕鯨阻止活動。

シーシェパード調査捕鯨阻止活動2回目、作戦名：ANTARCTICA。プロップ・ファウラーの使用、船を衝突させるなどして妨害。

2006

太地

太地町がドミニカ共和国にバンドウイルカ1名45,000ドル（522万円 ※当年の平均レート116.42円で計算）で販売しようとするがリック・オバリーが水銀汚染を理由にドミニカで輸入許可取り消し運動を起こし中止。

南極海（2006-2007漁期）

グリーンピースとシーシェパードが、日本の調査捕鯨阻止活動。調査捕鯨船に衝突、発煙弾、酢酸投擲、ロープ曳航投下を行う。

シーシェパード3調査捕鯨阻止活動回目、作戦名：リヴァイアサン作戦。船2隻、ヘリコプター1台、12カ国56名の乗組員。日新丸の鯨の血を排出する排水口 (喫水線の近く) を金属板で釘付けするなどした。

2007

太地

太地町が小中学校に太地産のゴンドウクジラを提供する計画を発表。漁野、山下議員が反対。太地町開発公社（給食事業を行う）はこれまでゴンドウを給食に提供していた。

TheCoveのチームが太地入りし撮影を始める。

南極海（2007-2008漁期）

グリーンピースは、南極海調査捕鯨を行う日新丸と燃料補給船オリエンタル・ブルーバード(飛鷹丸、8725t)の間にゴムボートで割って入り燃料の補給を妨害した。

［URL：https://youtu.be/F34cr5ZamxI］

シーシェパード調査捕鯨阻止活動、作戦名：ミガルー作戦。2名のメンバーが日本のキャッチャーボートに侵入、3日間拘留。 ミガルー作戦は、アニマル・プラネットのホエール・ウォーズのシーズン1として放送された(計7シーズン)。

2008
調査捕鯨
04/16　グリーンピースジャパンスタッフ2名が西濃運輸青森支店に無断侵入。鯨肉を持ち去る。2年後の2010年9月6日、グリーンピーススタッフ2名に懲役1年・執行猶予3年の有罪判決（青森地方裁判所）。上訴するが却下。
南極海（2008-2009漁期）
シーシェパード調査捕鯨阻止活動5回目、作戦名：武蔵作戦。

2009
太地
01　映画『ザ・コーヴ』（The Cove）が公開。監督はルイ・シホヨス氏。2009年のサンダンス映画祭で観客賞、2009年度第82回アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞受賞作品。
南極海（2009-2010漁期）
シーシェパード査捕鯨阻止活動6回目、作戦名：ワルツィング・マチルダ作戦。メンバー48名。共同船舶の船に衝突、ロケット弾(救命信号用の火せん等を発射)、プロップファウラー(船のスクリューや舵に絡ませて破壊する器具)、レーザー、酢酸投擲、ランチャー、スリングショットによる薬品撃ち込み、不法侵入を行う。

2010
太地
07/??　映画「The Cove」日本で公開。
09/13　シーシェパードメンバー、スコット・ウエストが太地で撮影。保守系団体がカウンターを行う。
09/27　ザ・ブラック・フィッシュのメンバー3名が、イルカの生簀の網を切り国外逃亡。網から逃げたイルカはいなかった。
11/02　シーシェパードなどの反捕鯨団体と太地町側との間で、初の意見交換会。
南極海（2009-2010漁期）
01/07　シーシェパードの船アディ・ギル（Ady Gil）号と共同船舶の調査捕鯨監視船 第２昭南丸が衝突。アディ・ギルは大破。共同船舶はアディギルが衝突してきたと主張。
［URL：https://youtu.be/5gATb8CMVVg］
シーシェパードは第２昭南丸が衝突してきたと主張していた。
［URL：https://youtu.be/Bbuq0YEIPNU］

ニュージーランド海上保安局は双方に過失ありとする報告書を提出。
［URL：AFP：https://www.afpbb.com/articles/-/2776057?pid=6479045］
シーシェパードはアディ・ギル号は沈没したとしていが、元メンバーのピーター・ベースン(Peter Bethune)は、ポール・ワトソンの指示による自作自演だったと主張。ワトソンは否定
02/??　シーシェパードが、日新丸・監視船第2昭南丸に対し酪酸入りの瓶をランチャーで発射。乗組員数人が飛沫を顔に浴びるなどして負傷。
02/15　シーシェパードのメンバー(ピーター・ベースン)が、水上オートバイで調査捕鯨監視船 第2昭南丸に接近、船内に侵入し拘束。艦船侵入罪・傷害罪・威力業務妨害罪・銃刀法違反罪・器物損壊罪で起訴。全ての罪状を有罪とし、懲役2年・執行猶予5年（求刑懲役2年）の判決。

南極海捕鯨事件

05/31　オーストラリアが、日本政府によるJARPAII（第二期 南極海 鯨類捕獲調査）は国際捕鯨取締条約 (ICRW) に違反しているとして国際司法裁判所 (ICJ) に日本を提訴。オーストラリアは日本の”調査捕鯨”の目的は以下にあるとした。①鯨肉の確保と販売②捕鯨会社並びに日本鯨類研究所の組織維持③官僚の天下り。

南極海（2010-2011漁期）

シーシェパード調査捕鯨阻止活動7回目、作戦名：妥協なき運用作戦。

2011

太地

和歌山県警が太地町特別警戒本部を設置。
12/??　シーシェパード支援者が、警備にあたっていた男性に暴行を加え逮捕。

南極海（2011-2012漁期）

シーシェパード調査捕鯨阻止活動8回目、作戦名：神風作戦。

2012

太地

活動_日本　10/08　　太地：シーシェパード：メンバーのドイツ人のニルス・グレスキーズがくじら浜公園にある捕鯨モニュメントを破壊。和歌山県警に器物損壊の容疑で逮捕される。

南極海（2012-2013漁期）

シーシェパード調査捕鯨阻止活動9回目、作戦名：非容認作戦。船舶4隻、ヘリコプター、ドローン、ゴムボート、メンバー20カ国120 人以上、シーシェパード最大のキャンペーン。日本側は日新丸が何度も衝突、脳震盪手榴弾資料放水砲使用。

2013

01/??　映画「ブラックフィッシュ」サンダンス映画祭で公開。
インドで、鯨族に権利を認め（Nonhuman Persont）、鯨族の飼育を禁止。

太地・水族館

11/19　エルザ自然保護の会：辺見栄氏らが、JAZA（日本動物園水族館協会）会長山本茂行氏宛に追い込み漁で捕獲されたイルカの購入禁止の要望書を送付。

12/27　JAZA山本茂行会長から購入は問題ないとの主旨の回答。

南極海（2013-2014漁期）

シーシェパード調査捕鯨阻止活動10回目、作戦名：執拗な作戦。ホエール・ウォーズの最終シーズン7。

2014

太地・水族館

01/18　駐日大使であったキャロライン・ケネディがTwitterで「米国政府はイルカの追い込み漁に反対します。イルカが殺される追い込み漁の非人道性について深く懸念しています。」というメッセージを発信。

03/28　辺見栄氏、リック・オバリー氏らがスイス・グラン市でWAZA（世界動物園水族館協会）にJAZAの除名を求める。国内167団体の請願書を提出。

??/??　オーストラリア・フォー・ドルフィンズ、アース・アイランド協会、「日本のイルカを救え」運動、ドルフィン・プロジェクトが、人種差別にも続き外国人を入場禁止にしているとし、くじらの博物館を提訴し、勝訴。

南極海捕鯨事件

03/31　判決。ICJはJARPA IIの捕獲許可発給が条約第8条1項に規定する「科学的研究を目的とする」ものではないとの結論を下した。

2015

太地・水族館

04/22　WAZA：JAZAの会員資格を停止することを満場一致で決定。

05/22　JAZA：追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止するとの決定。

南極海

2015/06/??　ワシントン州の連邦高裁で争われていた、日本鯨類研究所とシーシェパードの裁判に決着が付く。シーシェパードは鯨研に255万ドル（3億1千万円）の賠償金を支払うことが決まる。

翌年、2016/08　日本鯨類研究所は、3億1千万円の一部を和解金としてシーシェパード側に支払い、シーシェパード側は永久的に妨害を行わないことで、両者が合意。和解金の金額は非公開。

2016

水族館

09　米カリフォルニア州 シャチの繁殖、飼育を段階的に廃止する法案を発行

南極海（2016-2017漁期）

シーシェパード調査捕鯨阻止活動11回目、作戦名：ネメシス作戦。最後の調査捕鯨阻止活動となった。

2017
太地
01/05　ドルフィンベェイスで2つの生簀の網が切られる。4名が逃げ3名が生簀に戻る。調教期間は半年。
水族館
01/??　米国シーワールドサンディエゴがシャチショーを終了。
05/?　フランス：シャチやイルカなどの繁殖を法律で禁止。

2019　06/??　カナダ：クジラ目の娯楽目的の飼育を禁止。
2021　11/18　フランス、新動物福祉法可決。イルカショー禁止、サーカスの野生動物使用禁止、ペットショップの犬猫店頭販売禁止など。
2022　05/23　しながわ水族館が5年後2027年の施設リニューアルを機にイルカの監禁とショーの中止を発表

第二章　世界

第一節　主な団体と活動

海生動物保護・擁護活動を行なっている団体を列挙します。ここで挙げる団体はごく一部であり、他にも重要な活動を行っている団体が多数あります。日本との規模の違いを感じていただければと思います。日本において、海生動物の保護に関心を持ち、活動をはじめ、あるいは団体を立ち上げ、動物や環境のために力を尽くす人々が増えることを望んでいます。
団体の日本語訳について、すでに日本語名称が決まっている団体以外は、筆者が仮訳したものです。「」を付けています。記載項目は以下。

【正式名称】
略称
日本語名称
［団体概要］
設立年
設立者
代表者
所在地
概要
［団体規模］
組織
収入
［活動］
活動対象
活動領域
［資料］
論文
調査資料
［URL］
Website
YouTube
Facebook
Instagram
Twitter

【American Cetacean Society】

略称　ACS

日本語名称　*アメリカ鯨類協会

［概要］

設立年　1967

設立者　ベミ・デバス(Bemi DeBus)、クラーク・キャメロン(Clark Cameron)

代表者　ウーコ・ゴーター（Uko Gorter）

所在地　本部カリフォルニア州サンペドロ。カリフォルニア州にロサンゼルス支部・モントレー支部・オレンジ カウンティ支部・サンディエゴ支部・サンフランシスコ支部、ワシントン州にピージェットサウンド支部、オレゴン州にオレゴン支部、インディアナ州に学生部門。

概要　世界で最初のクジラ保護団体。最初はクジラを養殖することによって世界の飢餓を止めようと考えていた。しかし、クジラ自体を保護する必要があると気付き、クジラ保護団体となる。

［団体規模］

組織　Board of Directors

収入　-

［活動］

活動対象　鯨族

活動領域　ホエールウォッチング、鯨族の保護活動、生息域保護、公教育、鯨類教育リソースの無料配布、コククジラの調査、ナチュラリスト トレーニング プログラム、鯨類研究への助成金。

［URL］

Website　https://www.acsonline.org
Facebook　https://www.facebook.com/AmericanCetaceanSociety
Instagram　https://www.instagram.com/americancetaceansociety/
Twitter　https://twitter.com/CetaceanSociety

【Born Free Foundation】

略称　Born Free

日本語名称　ボーンフリー財団

［団体概要］

設立年　1991年。1984年に設立されたズー・チェックが前身。

設立者　バージニア・マッケナ（Virginia McKenna OBE）（母）、ビル・トラバース（Bill Travers MBE）（父）、ウィル・トラバース（Will Travers OBE）（長男）

代表者　ウィル・トラバース

所在地　イングランド ウェストサセックス州 ホーシャム。ケニア、エチオピア、南アフリカにオフィス。

概要　設立者のバージニア・マッケナとビル・トラバースは1969年映画「野生のエルザ」（英語名 Born Free）（ライオンの子供を野生に帰すストーリー）の出演者であり、映画名から団体名を名づけた。

［団体規模］

組織　UK、ケニヤ、エチオピア、南アフリカ、

収入　アニュアルレポート

2022　10億3397万3600円（£6,139,000）(GBP1＝JPY168.45）

2021　9億8903万2420円（£5,876,000）

2020　8億9342万8190円（£5,308,000）

［活動］

活動対象　野生動物と監禁されている野生動物

活動内容　野生動物のレスキュー・保護・リハビリ・解放(イルカを含む)、保護区の運営（南アフリカ、エチオピア、インド）、狩猟・野生動物飼育・動物園・サーカスへの反対キャンペーン、資金提供、教育、UKの野生動物保護政策の策定など活動は多岐にわたる。

南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジアでさまざまなプロジェクトを行なう。世界各地でゾウ・キリン・サイ・ライオン・トラ・オオカミ・ゴリラ・チンパンジーなどの保護を行っており、UKやトルコでは、BDMLRと共に水族館に監禁されていたイルカの保護・リハビリ・解放を行う。

［資料］

アニメーション　Creature Discomforts: Life in Lockdown　https://youtu.be/5B7BQKmq7FM

動画　パンデミックと野生動物　https://youtu.be/C87lUuFBvgM

［URL］

Website　https://www.bornfree.org.uk/
YouTube　https://www.youtube.com/user/bornfreefoundation
Facebook　https://www.facebook.com/bornfreefoundation
Instagram　https://www.instagram.com/bornfreefoundation/
Twitter　https://twitter.com/BornFreeFDN

【British Divers Marine Life Rescue】

略称　BDMLR

日本語名称　　*英国ダイバーズ 海生動物レスキュー

［団体概要］

設立年　1988年

設立者　1988年に起こったアザラシジステンパーウイルスによるアザラシ大量死を受けて、数人のダイバーが集まり結成

代表者　アラン・ナイト（Alan Knight OBE）

所在地　イングランド イーストサセックス州アックフィールド

概要　英国を代表する海洋哺乳類のレスキュー団体。
［団体規模］
組織　会長1　理事5　獣医コンサルタント7　科学コンサルタント4　ボランティア（毎年1000人のボランティアをトレーニング。トレーニングを受けたい方はこちらから）
収入　アニュアルレポート
2019　4411万9336円（£262,122）(GBP1＝JPY168.45）
2018　3569万0813円（£212,072）
［活動］
活動対象　鯨族、鰭脚類、その他海生哺乳類、爬虫類、魚類、鳥類
活動内容　英国とその領海において、市民などからの通報を受け、英国各地で多数の救助作業を行なっている。通報は2017年に1000件を超え、2020年には1000件を超えた。救助作業は、座礁、タンカーからの油流出、漁網の絡まり、怪我、感染症など。1993年UKの最後のイルカ水族館が閉鎖、この時UKに監禁されていた最後のイルカ3名をリハビリし、カリブ海に解放したのはBDMLRとボーンフリー財団のチーム。以下のURLでBDMLRの成果が確認できる。［URL：活動の歴史：https://bdmlr.org.uk/about-bdmlr］
イングランドのコーンウォールでアザラシ病院(Seal Hospitall)を運営。英国内20ヶ所に船を配置し、迅速に救助作業に当たれる体制を敷いている。また各国の政府やNGOに海生動物のレスキューや医療的なトレーニングを行ない、海生動物の医療についてまとめた、Marine Mammal Medic handbookを発行。
［資料］
https://bdmlr.org.uk/resources
［URL］
Website　https://bdmlr.org.uk/
YouTube　https://www.youtube.com/c/BritishDiversMarineLifeRescue
Facebook　https://www.facebook.com/BDMLR/
Instagram　https://www.instagram.com/bdmlr_uk/
Twitter　https://twitter.com/bdmlr/

【Cetabase】
略称　-
日本語名称　セタベース
［団体概要］
設立年　2006
設立者　-
代表者　-
所在地　アメリカ

概要　世界中の監禁されているイルカのデータベースを提供している。動物解放団体リブは、2019年に行った日本全国のイルカの調査のデータをCetabaseに提供した。

［団体規模］

組織　-

収入　-

［活動］

活動対象　水族館等に監禁されているイルカ

活動領域　世界中の水族館等に監禁されているイルカのデータベースの提供

［URL］

Website　https://www.cetabase.org/
YouTube　https://www.youtube.com/user/CetaBase
Facebook　https://www.facebook.com/cetabase/
Instagram　https://www.instagram.com/cetabase/
Twitter　https://twitter.com/cetabase

【Dolphin Project】

略称　-

日本語名称　ドルフィン・プロジェクト

［概要］

設立年　1970

設立者　リック・オバリー(Richard Barry O’Feldman）

代表者　リック・オバリー

所在地　カリフォルニア州サンタモニカ

概要　イルカトレーナーであり捕獲も行っていたリック・オバリー氏が、イルカのキャシーが腕の中で亡くなったことにより、イルカ解放活動の道に入り設立した団体。

［団体規模］

組織　TEAM

収入　Guide Star

2020　8996万3819円（$606,544）（USD1＝JPY148.32）

［活動］

活動対象　イルカ

活動内容　世界各地で、イルカの保護、解放、イルカ漁水族館反対活動を行っている。各国政府や団体と協力しながらイルカの解放事業を行い、これまで解放したイルカは25名。リック・オバリー氏は映画「The Cove」の登場人物でもあり、太地町のイルカ漁を始め、世界各国のイルカ産業に対して大きな影響を与えている。

［URL］

Website　https://www.dolphinproject.com/
YouTube　https://www.youtube.com/c/RicOBarrysDolphinProjectInc
Facebook　https://www.facebook.com/RicOBarrysDolphinProject/
Instagram　https://www.instagram.com/dolphin_project/
Twitter　https://twitter.com/Dolphin_Project

【Environmental Investigation Agency】

略称　EIA

日本語訳　*環境調査エージェンシー

［概要］

設立年　1984

設立者　Dave Currey、Jennifer Lonsdale、Allan Thornton

代表者　(議長) ジョン・スティーブンソン（John Stephenson）

所在地　UK ロンドン、 アメリカ ワシントンDC、オランダ ハーグ（Stichting EIA）

概要　設立者のDave Curreyはカメラマンで、1979年グリーンピース(GP)のプロジェクトに協力した後、様々な潜入捜査を行い、1984年元GPのJennifer LonsdaleとAllan Thorntonと共にEIAを設立。

［団体規模］

組織　Governance

収入　アニュアルレポート

2021　7億0123万1390円（£4,161,397）(GBP1＝JPY168.45)

2020　6億5850万6310円（£3,907,657）

［活動］

活動対象　ゾウ、サイ、トラ、霊長類、センザンコウ、クジラ、イルカ、野鳥、爬虫類など

活動内容　潜入捜査、環境活動、ロビー活動。活動範囲は、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、南米、北米。これまでEIAの潜入チームは世界各地で潜入捜査を行ない、密輸や汚職を摘発し、密輸業者や関係する行政関係者を逮捕させてきた。調査員は調査の過程で、誘拐、銃を突きつけられるなど様々な危険をくぐり抜けている。日本においても、東北のイルカ突き棒漁で殺されているイシイルカニついて調査を行っている。環境に関する活動は、CO2の不正取引、森林業界による汚職の摘発、パーム油、海洋プラスチック問題など。

［資料］

35 Years of the EIA　https://youtu.be/uEcghpuRO94
Reports　https://eia-international.org/about-us/reports/

［URL］

Website　https://eia-international.org/
YouTube　https://www.youtube.com/c/EnvironmentalInvestigationAgency

Facebook　https://www.facebook.com/environmentalinvestigationagency
Instagram　https://www.instagram.com/eia_news/
Twitter　https://twitter.com/EIA_News

【Earth Island Institute】

略称　EII

日本語名称　アースアイランド インスティテュート

［概要］

設立年　1982

設立者　デビッド・ブラウワー(DavidBrower)

代表者　ジョシュ・フルーム（Josh Floum）

所在地　アメリカ カリフォルニア州 バークレー

概要　ロック クライマーであったデビッド・ブラウワーは、1952～1969年シエラクラブに勤務、1969年フレンズ オブ ジ アース(FoE) 設立、1982年EII(Earth Island Institute)設立。

［団体規模］

組織　Stuff

収入　アニュアルレポート

2021　34億7753万4043円（USD23,449,003）（USD1＝JPY148.30）

2020　29億7940万6459円（USD20,090,130）

2019　27億3352万8269円（USD18,432,174）

［活動］

活動対象　環境、鯨族。

活動内容　若手の環境活動家や、新規団体、社会起業家への財政支援やプロジェクトのサポート。リーダーの育成に力を入れ、世界各国で75以上のプロジェクトを財政的にサポートし、ネットワーキングしている。また、Earth Island Journalというタイトルの季刊誌を発行、啓発を行っている。

EIIは1990年からDolphin safe label(イルカにやさしいラベル)という認証を発行して漁業からイルカを守る活動を行っている。しかしマグロ業者から寄付をもらう、検証が実際に行われているか不透明、マグロの持続可能性を考慮に入れていないなどと批判を受けている。

2013年、EIIはソロモン諸島の住民にイルカ漁を止めれば240万ドルを支払うとし、中止させた。しかし住民は70万ドルしか支払われていないとし、イルカ1000名を殺害。一方、EIIは漁民がイルカ漁を再開したため支払いを停止したと主張している。

［URL］

Website　https://www.earthisland.org/
YouTube　https://www.youtube.com/channel/UCflWHKaD8gBYP8w5TDzgRKQ
Facebook　https://www.facebook.com/EarthIslandInstitute
Instagram　https://www.instagram.com/earth_island_institute/

Twitter　https://twitter.com/earthisland

【Earth Trust】

略称　ET

日本語名称　アーストラスト

［団体概要］

設立年　1976

設立者　ドン・ホワイト（Don White）

代表者　?

所在地　アメリカ ハワイ オアフ島

概要　グリーン・ピースの国際キャンペーンディレクターであったドン・ホワイトが設立。鯨族に関する活動、サイやトラなど絶滅危惧種の保護に関する活動、環境保護活動を行う。ウェブサイトが古くSNSを開設していないため、現在の状況は不明。

［団体規模］

組織　?

収入　?

［活動］

活動対象　鯨族、海洋環境保全、絶滅危惧種、野生動物

活動領域　デルフィス研究所でイルカの自己認識を最初に科学的に実証したことで有名。研究所は2003年に閉鎖。IWCの公式オブザーバー。1983年からはじめた流し網漁のキャンペーンで大きな成功を収めており、日本の水産庁とも対立している。マグロ漁でのイルカの混獲被害を起こさない事業者を認証するフリッパー承認を行っている。1990年台湾がイルカ追い込み漁を禁止しイルカを保護動物にするきっかけを作った。その他クウェートの油田火災の消火、ソ連への反捕鯨運動を行う。日本の市場で捕獲禁止種であるナガスクジラの肉や、鯨肉と称してイルカ肉が販売されているのをDNA調査を通じて明らかにしたのもET。

［資料］

資料　https://earthtrust.org/homepage/et-resources/

［URL］

Website　https://earthtrust.org/

【Foundation for the Adoption, Sponsorship, and Defence of Animals】

略称　FAADA

日本語名称　*動物の養子縁組、後援、保護のための財団

［団体概要］

設立年　2004

設立者　カーラ・コルネラ（CARLA CORNELLA）
代表者　〃
所在地　バルセロナ
概要　野生動物やコンパニオン アニマルの救助、里親縁組から活動を開始、2012年から社会、法律、教育の分野に力を入れている。
［団体規模］
組織　チーム
収入　？
［活動］
活動対象　イルカ、コンパニオンアニマル、家畜動物、実験動物、野生動物
活動領域　動物園、水族館、サーカス等への反対運動を行っている。FAADAなどが行ったキャンペーンは、2018年バルセロナ市がイルカの展示、繁殖、新施設の建設を禁止につながった。子供用の教育ページが素晴らしい。
［URL］
Website　https://faada.org/
YouTube　https://www.youtube.com/user/FAADAtv
Facebook　https://www.facebook.com/FundacionFAADA/
Instagram　https://www.instagram.com/faadaorg/
Twitter　https://twitter.com/FAADAorg

【Friends of the Earth】

略称　FoE
日本語訳　地球の友
［団体概要］
設立年　1969
設立者　デビッド・ブラウワー(DavidBrower)、ドナルド・エイトケン、ジェリー・マンダー、ゲイリー・スーシー
代表者　座長：Karin Nansen(カリン・ナンセン)
所在地　事務局：オランダ アムステルダム。4地域（アフリカ・に73カ国のメンバーグループ。
概要　ロック クライマーであったデビッド・ブラウワーは、1952〜1969年シエラクラブで働いた後、1969年フレンズ オブ ジ アース(FoE) 設立、1982年EII(Earth Island Institute)を設立。1971年FoEは、国際的に環境活動を進めるために米国・英国・スウェーデン・フランスの人々と共にFoEインターナショナルを設立。1980年日本でFoE Japan(認定NPO法人)を設立。
［団体規模］
組織　Organization

収入　Financial Statements 2021

2021　2億7454万5140円（€1,862,759）（EUR1=JPY147.38）

2020　2億2454万0660円（€1,523,484）

［活動］

活動対象　人間

活動領域　気候正義とエネルギー、経済正義と新自由主義への抵抗、食糧主権、森林と生物多様性、ジェンダー正義と家父長制の解体、持続可能性、捕鯨。

［URL］

Website
YouTube　https://www.youtube.com/c/FriendsoftheEarthInt
Facebook　https://www.facebook.com/foeint
Instagram
Twitter　https://twitter.com/FoEint/

【GREEN PEACE】

略称　GP

日本語訳　グリーンピース

［概要］

設立年　1971

設立者　アーヴィング・ストウ(Irving Stowe)、ドロシー ストウ(Dorothy Stowe)、ロバート・ハンター等

代表者　*アイシャ・イマム（Ayesha Imam）

所在地　オランダ アムステルダム

概要　シエラクラブからメンバーが独立し、カナダ ブリティッシュコロンビア州 バンクーバーで設立。当初の目的は核実験への反対行動のため。アラスカのアムトチカで行われていた核実験（計3回。1965、1696、1971）の最後の実験に反対するためのアラスカへ航海が最初の活動。設立時には1977年にシーシェパードを設立するポール・ワトソンも参加していた。最初のクジラ保護(反捕鯨)活動は1975年。ソ連の捕鯨船団がマッコウクジラを捕獲しようとする際、ゴムボートで捕鯨船とクジラの間に割り込むという史上初の反捕鯨直接行動。このボートにはポール・ワトソンも乗っており、映像が残っている。
グリーンピースと日本の水産庁・捕鯨共同体の対立の歴史は長く、グリーンピースによる対海賊捕鯨活動から始まった。

［団体規模］

組織　理事会。オランダ アムステルダムにあるグリーンピース インターナショナルを中心に、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、アジア、オセアニアの55か国以上に組織を持っている

。2008年時点で2,400人のスタッフ、15,000人のボランティア。

収入　アニュアルファイナンシャルレポート2021

2021　137億6832万6000円（€93,748,000）（EUR1＝JPY146.86）

2020　133億2494万0000円（€90,729,000）

グリーンピースジャパン

2021　3億3230万9960円

2020　2億6754万8308円

［活動］

活動領域　反核、捕鯨、乱獲、森林破壊、公害、気候変動、生物多様性、エネルギー問題、遺伝子組み替え、軍縮等。

活動内容　活動手法は、直接行動、ロビーイング、調査研究、教育等。

［資料］

50周年記念動画　https://youtu.be/eXdqZV-BffU

Keep Fighting　https://youtu.be/TAdqD6mZPmc

［URL］

Website　https://www.greenpeace.org/international/
YouTube　https://www.youtube.com/greenpeace
Facebook　https://www.facebook.com/greenpeace.international
Instagram　https://www.instagram.com/greenpeace/
Twitter　https://twitter.com/greenpeace

【Hot Pink Dolphins】

略称　-

日本語名称　ホットピンクドルフィンズ

［概要］

設立年　2011

設立者　황현진（環境運動家）（ファン・ヒョンジン?）、조약골（平和活動家）（ジョ・ヤクコル?）

代表　황현진

所在地　済州（チェジュ)島

概要　韓国で違法に捕獲され、水族館に監禁されていたミナミバンドウイルカの解放に尽力したことで知られています。

［団体規模］

組織　?

収入　財政報告

2021　1957万6863円（₩188,830,720）（KRW1＝JPY0.1）

［活動］

活動領域　海洋生態系保全、海洋生物保護、イルカの解放、水族館への反対活動。
活動内容　イルカを通じて生命と平和の価値を伝える海洋環境団体。済州ドルフィンセンターを設立し子どもたちなどへの教育活動を行い、デモ、海洋保護区制定への働きかけ、イルカサンクチュアリの設立に向けての活動などをおこなっている。
［資料］
済州ドルフィンセンター　http://hotpinkdolphins.org/?p=16689
［URL］
Website　http://hotpinkdolphins.org/
YouTube　https://www.youtube.com/user/hotpinkdolphins
Facebook　https://www.facebook.com/hotpinkdolphins/
Instagram　https://www.instagram.com/hotpinkdolphins/
Twitter　https://twitter.com/hotpinkdolphins

【International Fund for Animal Welfare】

略称　IFAW
日本語名称　　国際動物福祉基金
［団体概要］
設立年　1969
設立者　ブライアン・デイビス（Brian Davies）
代表者　マーク・ボードゥイン（Mark Beaudouin）
所在地　アメリカ ワシントンDC（設立はカナダ ニューブランズウィック州）15カ国にオフィスを持つ。
概要　IFAW は、ホワイトコート（アザラシ）の狩猟を止めるために設立。ホワイトコートとは、タテゴトアザラシとハイイロアザラシの新生児のこと。生まれてから12日ほどの間、真っ白い毛を持つのでこのように呼ばれている。
［団体規模］
組織　理事　スタッフ
収入　アニュアルレポート
2021　169億3036万9000円（$114,817,000）（USD1＝JPY147.46）
2020　158億3241万7000 円（$107,371,000）
［活動］
活動対象　陸生哺乳類、海生哺乳類、鳥類、魚類、爬虫類、コンパニオンアニマル。
活動領域　野生動物レスキュー・保護・再導入、海生動物レスキュー・保護・再導入、象牙の密猟、日本の調査捕鯨、クジラサンクチュアリの設定、ホエールウォッチングの推進、動物園からの動物のレスキュー、地震やタンカーの座礁による被害からの動物の救出、インターポールとの野生動物犯罪取締の協力、象牙の密輸阻止、動物に関する教育キャンペーン等。独自のイルカレスキューチームを持っている。

［資料］

資料　https://www.ifaw.org/international/resources

IFAW50周年映像　https://youtu.be/y6J-S8sfR3k

［URL］

Website　https://www.ifaw.org/international
YouTube　https://www.youtube.com/user/ckoenen
Facebook　https://www.facebook.com/ifaw
Instagram　https://www.instagram.com/ifawglobal/
Twitter　https://twitter.com/ifawglobal

【OceanCare】

略称　-

日本語名称　オーシャンケア

［概要］

設立年　1989

設立者　Sigrid Lüber（シグリッド・ルーバー）

代表者　〃

所在地　スイス チューリッヒ州 ヴェーデンスヴィル

概要　2011年、OceanCareは国連経済社会理事会 海洋保護問題の特別顧問となった。

［団体規模］

組織　Team

収入

2020　6億0549万5520円（₣4,073,621）（CHF1＝JPY148.63）

2019　3億9931万8580円（₣2,686,465）

［活動］

活動領域　海生動物の保護、環境保護。

活動内容　生息地保護、捕鯨廃止、研究、環境教育、国際機関への参加、水族館への反対活動、キャンペーン、オーシャンノイズ、海洋プラスチック、漁具の除去、ビーチクリーン、雑誌Wissenの発行。対象動物とする動物は、クジラ、イルカ、ホッキョクグマ、アザラシ、マナティー等。

［資料］

Ocean Noise　https://youtu.be/t0DHEldqfIc

［URL］

Website　https://www.oceancare.org/en/startpage/
YouTube　https://www.youtube.com/user/OceanCareOrg
Facebook　https://www.facebook.com/MarineConservationPolicy
Instagram　https://www.instagram.com/oceancare.international/
Twitter　https://twitter.com/oceancare

【Oceanic Preservation Society】

略称　OPS

日本語名称　-

［団体概要］

設立年　2005

設立者　ルイ・シホヨス(Louie Psihoyos)：カメラマン（ナショナルジオグラフィックに17年勤務）、映画監督（「The Cove」(2009 アカデミー賞最優秀ドキュメンタリー長編賞)・レーシング エクスティンクション(2015)・ゲームチェンジャーズ(2018)等）、ジム クラーク(Jim Clark)：科学者、企業家(シリコン・グラフィックス、ネットスケープ等)、WWF全国評議会理事。

代表者　エグゼクティブ ディレクター：ルイ・シホヨス

所在地　カリフォルニア州 グリーンブリー

概要　太地町のイルカ追い込み漁を描いた映画「The Cove」の制作はOPSのプロジェクトとして行われた。

［団体規模］

組織　チーム

収入　アニュアルレポート

2020　3億5995万0610円（$2,440,576）（USD1＝JPY147.46）

［活動］

活動対象　野生動物、海生哺乳類、魚類

活動領域　環境保護、海洋保護、気候変動、森林伐採、生物多様性、野生生物の違法取引、持続不可能な漁業などについて、ドキュメンタリー、映画、プロジェクション、教育、教育ツールの配布を通じて活動している。

［資料］

映画

「The Cove」https://youtu.be/iMy0ely7poo

「Racing Extinction」https://youtu.be/MwxyrLUdcss

　オリジナルソング「MANTA RAY」　https://youtu.be/f1JiJhWkM9M

「The Game Changers」 https://youtu.be/iSpglxHTJVM

「Leuser：The Last Place on Earth」 ：https://youtu.be/zSYI66suUsM

プロジェクション

「illUmiNations」国連：https://vimeo.com/106898420

「Projecting Change」エンパイアステートビル：https://vimeo.com/135260787

「Illuminating Our Common Home」バチカン：https://vimeo.com/148549620

「Voices For Earth」COP26：https://vimeo.com/643117727
キャンペーン
「If Only」https://youtu.be/K5NpftFTB4c
［URL］
Website　https://www.opsociety.org/
YouTube　https://www.youtube.com/user/TheOPSociety
Facebook　https://www.facebook.com/oceanicpreservationsociety/
Instagram　https://www.instagram.com/oceanicpreservationsociety/
Twitter　https://twitter.com/OP_Society

【Orca lab】
略称　-
日本語名称　オルカラボ
［団体概要］
設立年　1970
設立者　ポール・スポング(Paul Spong)
代表者　〃
所在地　カナダ ブリティッシュコロンビア州 インサイド・パッセージ
概要　水族館で働いていたスポング博士は、シャチの研究を進めるうちにシャチは解放すべきだとの結論に達し、オルカラボを設立しシャチの研究を開始した。
［団体規模］
組織　スポング夫妻、ボランティア
収入　-
［活動］
活動対象　シャチ
活動領域　シャチの研究、シーワールド サンディエゴに監禁されているコーキーを解放する運動「Free Corky」を行っている。コーキーはスポング博士が研究を行っているブリティッシュコロンビア州の海に住むレジデントのポッドA5から捕獲され、40年以上監禁されている。スポング博士は海に生簀を作り、コーキーを生まれた海に帰すために活動を続けている。賛同した子供たちが描いた絵を繋いだバナーは2.5kmにもなった。しかし、シーワールドはコーキーを解放していない。
オルカラボでは、ポール・スポング博士が「この美しい光景と穏やかな気持ちを世界中の人たちと共有できたら、きっと争いは無くなり、世界は平和になるだろう」と信じて2000年からオルカのライブを24時間配信。開始時はNTTデータが協力していた。
オルカラボには日本人の女性が2名ボランティアで参加しており、オルカラボジャパンというページを作成している。
［URL：オルカラボライブ配信：https://www.youtube.com/watch?v=FiaDOY06VwI］

［資料］

Free Corky　https://www.facebook.com/FreeCorky

［URL］

Website　https://orcalab.org/
YouTube　https://www.youtube.com/channel/UCUUK1EYxE78VqH-8NAgb_tw
Facebook　https://www.facebook.com/OrcaLabBC
Instagram　https://www.instagram.com/orcalabbc/
Twitter　https://twitter.com/orcalabbc
オルカラボジャパン

Website　http://orcalabjapan.wp.xdomain.jp/
YouTube　https://www.youtube.com/channel/UCTPpj7XDMFSExQWF91WZP9A
Facebook　https://www.facebook.com/orcalabsupportsociety/
Instagram　https://www.instagram.com/orcalab_japan/
Twitter　https://twitter.com/Orcalab_JPN

【Project Jonah】

略称　-

日本語名称　プロジェクト・ヨナ

［団体概要］

設立年　1974

設立者　-

代表者　ダレン・グローバー(Daren Grover：WCA創設者の一人)

所在地　ニュージーランド

概要　1972年国連人間環境会議の2年後に反捕鯨団体として活動を開始。ヨナは、旧約聖書・ヨナ書の主人公。魚に飲まれ、3日後に吐き出された預言者。

［団体規模］

組織　コミュニケーション&ボランティアコーディネーターが4000名のボランティアを管理している。

収入　-

［活動］

活動対象　海洋哺乳類（クジラ、イルカ、アザラシ）

活動領域　海洋哺乳類の保護、座礁した海洋哺乳類のレスキュー、水族館への反対活動、環境保全、ゴミ拾いなど。座礁したクジラやイルカのレスキュー技術を開発し、トレーニングを行っている。また、1978年海洋哺乳類保護法を制定を支援した。

［資料］

教育コンテンツ　https://www.projectjonah.org.nz/education/

［URL］

Website　https://www.projectjonah.org.nz/
YouTube　https://www.youtube.com/user/ProjectJonahNZInc

Facebook　https://www.facebook.com/projectjonah
Instagram　https://www.instagram.com/projectjonahnz/
Twitter　https://twitter.com/ProjectJonah

【Sierra Club】

略称　-

日本語名称　シエラクラブ

［団体概要］

設立年　1892.05.28

設立者　ジョン・ミューア（John Muir）

代表者　ラモン・クルス（Ramón Cruz）

所在地　アメリカ合衆国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市。全米50州、ワシントンDC、プエルトリコに支部がある。

概要　シエラ(Sierra)とは、スペイン語で鋸、山脈という意味。設立者のジョン・ミューアは自然保護の父と呼ばれ、ナチュラリストの草分け。シエラネバダ山脈の開発に異を唱え守り続け、ヨセミテ国立公園の設立に尽力した。有名なジョン・ミューア・トレイルは彼の名前を取って付けられた。

［団体規模］

組織　Board　Officers and Directors

　役員会15人、有給スタッフ500人、ボランティア、会員130万人

収入　ファイナンシャルレポート

2020　173億9643万8255円（$117,388,834）（USD1＝JPY148.20）

2019　204億4115万0618円（$137,934,145）

［活動］

活動対象　環境

活動領域　環境保護、気候危機、海洋、水、野生生物の保護、エネルギー(化石燃料、原子力）、公害、ゴミ問題、農業、バイオテクノロジー、都市計画など。活動方法は、国立公園の制定、ロビーイング、抗議活動。一方、初期のシエラクラブの差別的・優生思想的側面、天然ガス・石油・ケミカル系の企業や関連団体から寄付金を受けた点などが批判されている。登山やハイキングなどアウトドアでのアクティビティイベントも開催。

［URL］

Website　https://www.sierraclub.org/
YouTube　https://www.youtube.com/user/NationalSierraClub
Facebook　https://www.facebook.com/SierraClub/
Instagram　https://www.instagram.com/sierraclub/
Twitter　https://twitter.com/sierraclub

【Sea Shepherd Conservation Society】

略称　SSCS

日本語名称　シーシェパード

［団体概要］

設立年　1977

設立者　ポール・ワトソン

代表者　Chief Operating Officer：デビッド・ハンス(David Hance 2016～)

所在地

事務所有り

北アメリカ：アメリカ(ワシントン州 サンファン島 フライデー ハーバー)、カナダ、メキシコ、コスタリカ、パナマ、

南アメリカ：コロンビア、アルゼンチン

ヨーロッパ：オランダ(グローバル：オランダ アムステルダム アレクサンダー・ボース通り)、UK、ベルギー、ルクセンブルグ、ドイツ、フランス、スイス、オーストリア、イタリア、チェコ

オセアニア：オーストラリア(ビクトリア州 メルボルン)、ニュージーランド

連絡先のみ

南アメリカ：ブラジル、チリ

ヨーロッパ：アイスランド、スペイン、ポルトガル、ハンガリー、スカンジナビア、ギリシャ

アフリカ：南アフリカ

概要　元グリーンピースメンバーであったポール・ワトソンが、より直接的な活動を行うために設立。

［団体規模］

組織　Team

収入　ディスクロージャー

2020　8億5651万4950円（$5,807,277）（USD1＝JPY147.49）

2019　12億7291万3100円（$8,630,508）

［活動］

活動対象　海生哺乳類を中心とした海生動物全般

活動領域　直接行動、各国政府と協働しての違法行為の取締等を行う。シーシェパードの特徴は、破壊行為、違法行為を伴う活動。シーシェパード側の主張としては、破壊は物に対して行っており、人間に対して暴力を振るう意図は無いとしている。しかし日本の調査捕鯨船に酪酸を投げつけるなど、人間に被害を与えかねない行為をおこなっている。また調査捕鯨の妨害の際、船に国連旗を掲げ国際法を執行する役割を担っているとしていますが、その根拠はない。

1979年3月カナダ セントローレンス湾でのアザラシ猟への反対活動が最初の活動。1980年大西洋で海賊捕鯨船を5隻沈没させ2隻を南アフリカ政府に押収させ、日本の水産会社が行っていた海賊捕鯨を壊滅させた。ソ連の捕鯨、フェロー諸島のイルカ漁、アイスランドの捕鯨、壱岐や太地のイルカ漁、ノルウェーの捕鯨に対する活動等も行った。アイスランドやノルウェーで違法操業を行っていた捕鯨船を沈没させる活動を行った後、ワトソンは、アイスランドやノルウェーから起訴されるために入国。しかし、シーシェパード側が彼らの違法操業の証拠を持っていたため、アイスランドやノルウェー側が起訴を拒否した。日本の調査捕鯨妨害活動では、共同船舶から訴訟を起こされ、アメリカワシントン州から違法であるとの判決を下された。罰金を支払ったが、その後日本側との取引が成立、日本側がシーシェパードに罰金の一部（金額未公開）を返金することにより和解した。現在は、漁網(ゴーストギア)の回収、メキシコ政府と共に違法漁業者を取り締まり、コガシラネズミイルカを保護する活動などを行っている。

［URL］

シーシェパード グローバル(Sea Shepherd Global)

Website　https://www.seashepherdglobal.org/
YouTube　https://www.youtube.com/c/SeaShepherdConservationSociety
Facebook　https://www.facebook.com/seashepherdglobal
Instagram　https://www.instagram.com/seashepherd/
Twitter　https://twitter.com/seashepherd

シーシェパードUS(Sea Shepherd US)

Website　https://seashepherd.org/
YouTube　https://www.youtube.com/SeaShepherd
Facebook　https://www.facebook.com/SeaShepherdSSCS/
Instagram　https://www.instagram.com/seashepherdsscs/
Twitter　https://twitter.com/SeaShepherdSSCS

シーシェパードオーストラリア(Sea Shepherd Australia)

Website　https://www.seashepherd.org.au/
YouTube
Facebook　https://www.facebook.com/seashepherdaustralia
Instagram　https://www.instagram.com/seashepherdaustralia/
Twitter　https://twitter.com/SeaShepherd_Aus

【Whale and Dolphin Conservation】

略称　WDC

日本語名称　*クジラ イルカ保全

［概要］

設立年　1987

設立者　？

代表名　クリス・バトラー・ストラウド（Chris Butler-Stroud）

所在地　UK ウィルトシャー州 チッパンハム。北米、ドイツ ミュンヘン、オーストラリアにオフィスを持つ。
概要　前身はWhale and Dolphin Conservation Society。2012年に改称。
［団体規模］
組織　チーム
収入
(1GBP/168.45円)
2020　4億8015万3870円（£2,852,836）
2019　4億3355万3940円（£2,576,037）
2019-2020アニュアルレポート
［活動］
活動領域
活動内容　UK、アメリカ、オーストラリア、アルゼンチンなどで活動。WDCは国連環境計画と共にCMS(ボン条約)策定した。WDCが行っている活動は、各国に国際条約の厳格な適用を求める、デンマークなどの法律の変更、捕鯨業者への圧力、企業に対して鯨肉販売の中止を求める、企業に対して水族館ツアー中止を求める、捕鯨業者にホエールウォッチングへの転向を促す、水族館へ圧力をかける等。サンクチュアリの設立も進めている。スコットランド モレイ湾で、スコティッシュ ドルフィン センターという陸からドルフィンウォッチングができ、教育機能、カフェを併設した施設を運営している。
［資料］
https://uk.whales.org/policy/wdc-publications-and-reports/
［URL］
Website　https://uk.whales.org/
YouTube　https://www.youtube.com/whalesorg
Facebook　https://www.facebook.com/whalesorg
Instagram　https://www.instagram.com/whalesorg/
Twitter　https://twitter.com/whalesorg

【World Cetacean Alliance】

略称　WCA
日本語名称　-
［団体概要］
設立年　2013
設立者　?
代表者　ハリー・エックマン(HARRY ECKMAN)
所在地　UK ウェスト・サセックス州 サウスウィック

概要　NGOやホエールウォッチング業者をネットワーキングし、鯨類を保護する目的で設立。パートナーズ

［団体規模］

組織　Team

収入　Charity reporting

2021　3467万5924円　（£202,398）(GBP1＝JPY171.33）

2020　2723万7317円　（£158,980）

［活動］

活動対象　鯨族

活動領域　ネットワーキング、教育、ホエールウォッチング、ゴミ拾い

［URL］

Website　https://worldcetaceanalliance.org/
YouTube　https://www.youtube.com/c/WorldCetaceanAlliance
Facebook　https://www.facebook.com/WorldCetaceanAlliance
Instagram　https://www.instagram.com/worldcetaceanalliance/
Twitter　https://twitter.com/WorldCetacean

【World Wide Fund for Nature】

略称　WWF(1986年までの名称World Wildlife Fundを継承)

日本語名称　世界自然保護基金

［団体概要］

設立年　1961

設立者　マックス・ニコルソン、ピーター・スコット、ビクター・ストーラン、ガイ・マウントフォート、オランダ王配ベルンハルト等

代表者　カーター・ロバーツ(Carter Roberts)

所在地　アメリカ ワシントンD.C.

概要　世界最大の自然保護団体。地球一個分の暮らしを目標としている。IUCNの資金調達財団として設立されたが、独自の目標達成のために活動を開始。日本では、1968年に東京動物園協会の古賀忠道氏らを中心として「野生生物保護基金日本委員会」（後のWWFジャパン）を設立した。

［団体規模］

組織　Leaders　Experts　世界中に500万人のメンバー

収入　ファイナンシャルレポート

2021　665億7634万9000円（$451,348,293）（USD1＝JPY147.49）

2020　537億1982万4000円（$364,188,653）

［活動］

活動対象　環境問題、気候変動、森林・海洋保全、水、生物多様性、炭素0、フードシステム、野生動物
活動領域　環境保全、教育、啓発広告、野生動物保護、FSC(森林)やMSCエコラベル(漁業)など認証制度、金融取引。保護政策が植民地主義的である、優生思想的である、モンサントやシンジェンダなど農薬販売遺伝子組み換え企業等環境破壊を行っている企業と癒着している、ダムなどの開発に融資を行っている、資金の使い道や認証制度が不透明である等の批判されている。
［資料］
論文
調査資料
［URL］
Website　https://www.worldwildlife.org/
YouTube　https://www.youtube.com/user/wwfus
Facebook　https://www.facebook.com/worldwildlifefund
Instagram　https://www.instagram.com/World_Wildlife/
Twitter　https://twitter.com/world_wildlife
WWFジャパン　https://www.wwf.or.jp/

第二節　海外団体・外国人活動家

第一項　海外団体、外国人活動家の凄さ

日本の団体・日本人活動家と、海外団体・外国人活動家のレベルは桁違いです。
海外の団体や活動家と関わった人は、彼らの持つ人材や組織力・資本、情報や研究の蓄積、知識や行動力や胆力に驚くでしょう。

海外団体

第一節で見たように高度に組織化されており、理事会やスタッフには企業と同等の給与が支払われ、事業に集中できる体制が整っています。当然のようにPh.D. がおり、弁護士、政治家などが在籍している場合もあります。国連のオブザーバーや共同事業をおこなっている団体、各国の政府と協働している団体もあります。また、中規模団体の資金であっても、日本にあるすべての動物擁護活動団体の合計資金をはるかに上回ります。
一方日本では、非営利団体の存在理由や役割が理解されておらず、社会的信用も低く、軽視されている傾向にあります。特に動物系の団体はその傾向が強いように感じます。一般企業レベルに組織化されている団体もありません。今後私たちは、まず海外の小規模団体のレベルを目指すところから始める必要があると考えています。

情報の蓄積

例えば私がイルカ漁調査を始めたとき、太地町での調査方法、船の出港の仕方、沖に出た船の動きの解釈、使用する道具、イルカ漁師がどのタイミングでどのような作業を行うかなどを教えてくれたのは太地で長い間調査活動を行っていた外国人活動家でした。イルカ突き棒漁の調査のために東北に出発する際に、どこの港に行き、どこの市場に行き、どこのスーパーを見たら良いのかなど詳細なアドバイスをもらったのも、日本をはじめ世界各国で鯨類保護活動を行ってきた女性の活動家です。鯨類に関して日本語で存在しない情報は多々あるのですが、それらに関しても海外の団体に問い合わせます。大抵の場合、すぐにURLや論文、独自調査資料を提供してくれます。海外団体や活動家は、日本よりも日本の情報に精通しています。

研究

海外の大規模な団体では、所属する学者が様々な調査研究を行い論文にまとめています。日本のイルカ追い込み漁はもちろんイルカ突き棒漁に関しても現地調査を含む詳細な調査を行い資料を作り上げています。日本ではそもそも専門家は団体を避ける傾向にあります。一方、例えばカナダではPh.D. などの専門家が団体と組み現場の情報を吸い上げ、研究し、その結果を団体に戻し、団体はそれを活用する、といった協働に価値が置かれ、推奨されています。

外国人活動家

行動力関しては、度々ニュースに取り上げられ批判が撒きおこるように、その手法の是非を問わないならば言わずもがなでしょう。また胆力に関しては、見知らぬ外国で、巨大動物産業や右翼、地元の人々などに対抗して動物を守る活動あいうことを考えればその肝の座りがわかると思います。

見えない連携

国内からはあまり見えませんが、国外から行われる日本への活動は重要です。日本大使館前などで行われる活動は目に見えますが、目に見えないところで各国NGOや科学者がIWCやIUCNなどに参加し働きかけを行っています。彼らのロビーイングの成果は確実に日本の捕鯨産業、イルカ産業に影響を与えます。

水族館に対する活動に関して、西洋諸国での活動は遥か先に進んでおり、日本の水族館業界にも影響を与えています。映画「The Cove」の影響はJAZA加盟館がイルカの購入を阻止することにつながり、アメリカの水族館がイルカショー中止に踏み切ったことは日本の水族館業界に危機感をもたらしイルカの捕獲や飼育のリスクを検討せざるを得なくしています。

このように、動物の活動は世界の団体・個人が影響を与え合い、見えない連携をしながら進んでいます。

また外国人では難しい活動を行ったほうが良い相乗効果をもたらしますので、その点もしっかり考える必要があります。

第二項　なぜ西洋団体、西洋人活動家は日本では失敗するのか

しかし一方、日本の団体とは規模も人材も桁違いである西洋の団体、行動力と胆力のある西洋人活動家が、こと対日本の活動においてなぜ失敗するのでしょう。

特に捕鯨、イルカ漁に関してその傾向が強いようです。ドルフィンプロジェクトは10年以上前から毎年漁期中である9月1日から2月末日の半年もの間太地町に滞在し、調査と啓発活動を行っていました。海外の人々には訴求しましたが、日本に対してはうまく行きませんでした。彼らに目標と戦略を聞いてみましたが、彼ら自身どうしていいかわからないようでした。

また、アドベンチャーワールドのプールに入り抗議活動を行った西洋人活動家たちがいました。彼らには西洋諸国で同様の抗議活動を行い、効果を得た経験がありました。また逮捕の経験もありましたので、日本でも同様の啓発効果と逮捕後の扱いを受けるであろうと考えていたようです。

しかし、彼らの情報収集と日本理解は不足していたと言わざるを得ません。まず効果ですが、残念ながら一部活動家と水族館関係者以外彼らの活動を覚えている人は少ないと言えるでしょう。アドベンチャーワールドはダメージを受けたでしょうが何事もなかったように営業を続けています。また彼らは逮捕後、世界の常識からは考えられないほど長期勾留され、

日本人のヴィーガン弁護士に救出されほうほうの体で帰国しました。彼らは、日本のメディアが水族館と利益共同体であることや、日本の司法制度が、人質司法・中世の司法制度と呼ばれるほど時代遅れなものであり、国連やアムネスティから度々批判されているとは知らなかったのでしょう。日本では犯罪行為を伴った抗議活動に対する世間の捉え方や、逮捕勾留後の扱いは異なります。彼らのミスは、自分達の国でのやり方が日本でも通じると思い込んだことです。
私は、西洋の団体や西洋人活動家と日本人や日本社会の齟齬を間近で見てきました。日本人団体や活動家が、海外団体や活動家の成功や失敗から学ぶことは非常に重要です。また西洋団体や活動家は、日本人の価値観や心性や日本の社会構造を理解れば、自分達の活動は、日本人からどう見られ、どのような効果を得ているのか把握するのに役立つでしょう。
日本人活動家としての視点から、西洋団体・西洋人活動家が失敗すると思われる要因を考えてみます。

第一目　西洋団体・西洋人活動家が失敗する要因

ヒロイズム〜正義と悪についての考え方〜

アメコミやハリウッド映画の典型的なヒーローは、全き正義であり、全き悪を懲らしめる役割を担います。一方、日本の漫画やアニメのヒーローは、強いのですが、精神的に弱い部分や狡い部分などを持ち合わせ、完全無欠ではありません。ヒーローより強い正義のキャラクターさえ出てきます。悪者は、実は昔人間にいじめられたために悪になってしまった怪獣や、弱いものを助ける悪役もいます。
日本では、単純な善悪二元論、正義と悪で割り切れるものはあまり好まれません。日本は、歴史が長く、多様性が低い中で複雑な社会を形成してきました。単純な正義と悪などなく、誰しもが正義と悪の面を持ち、また立場や価値観の変遷など様々な要因によっていかようにも入れ替わるものであると知っているからでしょう。
ゆえに、シーシェパードが演出するような単純なアメコミ的ヒロイズムは、そもそも日本では成立しません。さらには勝手に自分達を全き悪と設定されて、彼らの要求をはい、そうですかと受け入れるわけもありません。

デモナイズ

デモナイズとは、悪魔化とも呼び、敵を悪魔化して人間ではないものとして攻撃することです。ソマリアの大虐殺の例がよく出されますが、準備段階として自民族に対して敵対する他民族をデモナイズし、自分達より劣った危険な存在であると思い込ませていきます。緊張が高まったある日きっかけを作ると、人間狩り、彼らにとっての悪魔狩りが始まり大虐殺が開始されます。
捕鯨に関して国際社会や海外団体行う日本批判は合理的です。しかしながら、捕鯨共同体のプロパガンダによって洗脳された視点から見ると、自分達は理不尽に攻撃されていると思い、さらに海外団体の侮辱的な活動が眼前に展開されると、日本人がデモナイズされた記憶が呼び起こされるのかヒステリックと言えるほどに抵抗します。

押し付けるな

日本では、「押し付けるな」という言葉がしばらく前から流行しています。この言葉を使う人々は、誰かが自分に価値観や意見を押し付けていると判断した場合、「押しつける行為」そのものを拒否します。あるいは相手の意見を事前に封じ込めるために使用します。つまり、「押し付けるな」という言葉は、他者の価値観に耳を傾けることの拒否、アイデンティティを変化させてしまうかもしれない知識の拒否など、つまり思考停止を自らに起こさせます。彼らの思考を再稼働させるには圧力や恫喝では難しく、彼らが押し付けられていると感じない方法が効果的です。活動とはエデュケーションであると割り切ることも必要です。

差別主義

反捕鯨活動は、西洋人による日本人差別だとする主張があります。一部そういう人々もいるかもしれませんがそういう人はどこにでもいます。少なくとも私が関わった活動家の中には一人もいませんでした。しかし、一度自分は差別されているという不快感を抱かせてしまったら、それを払拭するには時間がかかります。信頼醸成には長い時間がかかりますが、信頼を失うのは一瞬です。これからも差別主義者は決していなくならないでしょうし、そういった人々が鯨族や動物保護活動に参画することはこれからもあるでしょう。しかし、差別主義者がいることと、動物を守ることは分けなければいけません。

振り返って日本の現状を見るに、新世代の保守やいわゆるネトウヨで差別思想を持つ人々は増えています。そういった人々にとって差別されることは耐え難いことであり、感情的な反発も大きいでしょう。また、日本人活動家やヴィーガンの中にも民族差別主義者、性差別主義者、年齢差別主義者などがいます。

差別とは、無知・思い込み・経験不足等、認知世界の狭さが現れたものです。知識と経験を得、認識を拡張し、いわば他者の多様な視点を獲得することによって、差別に根拠はないと理解する必要があります。動物解放活動家はこの観点を持つことが必須です。人間を差別している人が、動物を差別するなと主張することはできません。

戦争・コロニアリズム

第二次世界大戦前、明治政府は西洋諸国の植民地政策に抗すべく富国強兵に力を注ぎ、西洋諸国の植民地になることを防ぎました。そして第二次世界大戦、参戦。空襲、原爆投下により大量虐殺され敗戦、GHQが日本を占領しました。

GHQが撤退し、長い月日が経った現在であっても日本は未だアメリカの支配下にあります。日本国憲法の上に日米安保条約があり、三権の上に日米合同委員会があると言われています。連合国による日本に対する敵国条項は破棄されていません。

日本の保守層には、明治から大戦後にかけて連綿と続く反米思想が燻り続けています。

白人たちが、公海で捕鯨船に攻撃を仕掛け、日本の田舎にずかずかと乗り込んできて日本人の年寄りを侮辱する姿。日本大使館前などのイルカ漁反対活動で、日本の国旗を燃やすなどの活動。SNSの「もう一度焼け野原にすればいい」「また原爆を落とせ」といったコメン

トなど。こういった行動は、差別と植民地主義を想起させ、戦争の苦しい記憶を呼び起こし、当然ながら強い反発と、過激な行動につながります。

アメリカへの愛憎

これまで書いてきたような複雑な事情を抱え、未だ政治家や官僚がアメリカの言いなりになっている日本において、反米を堂々と公言できる捕鯨問題・イルカ漁問題は、サッカーやオリンピックのように、貴重な愛国心発露の場になっています。捕鯨共同体はこの構造を巧みに利用し、日本人にとっての敵を外部化し、捕鯨共同体のために戦わせることに成功しています。

宗教観

西洋諸国は一神教、日本は多神教や儒教や仏教が基盤にあります。一神教は、父の宗教、砂漠の宗教と言われ、多神教は、母の宗教、森の宗教と言われます。一神教のように神の元に人類は平等であるとする価値観の社会と、多神教のように人間の都合で神を殺し食べ感謝しても矛盾しない価値観の社会、儒教のように性別・年齢・家族内など細かい順列や役割によって個人を規制しようとする価値観の社会では、活動のアプローチが異なるのは当然でしょう。

コミュニケーション

西洋人活動家から見ると、捕鯨共同体やイルカ漁共同体はもちろん日本人の活動家であっても、何を考えているかよくわからないようです。故に彼らは彼らから理解しやすい活動家を好みます。

日本人は空気を読むことに非常に長けていると言われます。つまり共有する価値観・常識などが多いため、ハイコンテクストなコミュニケーション、言葉に頼らずともちょっとした仕草や目線などで意図を交換するコミュニケーションを行なっています。実際、西洋人の活動家と日本人活動家で一緒にいる場面であっても、西洋人の目の前で日本人同士でハイコンテクストコミュニケーション、暗黙の了解が行われていたりもしますが、彼らは気付くことができません。

しかし一方日本人のコミュニケーションは、意図を明確に伝えることや客観的な議論、冷静な評価や論理的に正義を選ぶことには不向きです。

私たち日本人活動家は、両方のコミュニケーション方法を身につけ、適宜使い分けた方が良いでしょう。

人間関係

西洋の人間関係は、横の人間関係と言われます。神が絶対的な上位におり、それ以下の人間は須く横並びです。人間同士の尊重や丁寧さは、横の距離感で表現されます。

一方日本人の人間関係は縦であり非常に細かく規定されています。例えば長男と次男では、役割、社会的な見え方や扱いが異なります。年齢も上か下かで表現されます。男女、偏差

値、学校、企業の上下、都会と田舎など様々な要素が勘案され、暗黙のうちに人間関係の上下が規定され了解されます。その関係に不満があり対抗することを下剋上を言いますが、これも上下で捉えられています。現代ではこのような関係か崩れつつあるとはいえ、活動家の中にも年齢や性別、立場の上下関係を重視する人がいます。

活動が抵抗を強化する

外国人活動家の失敗のうち最大のものは、捕鯨共同体や太地やイルカ漁師を攻撃し侮辱することによって、彼らのプライドと団結力を強め、結果として産業を温存することに力を貸したことです。フェロー諸島のイルカ漁に対する活動においてもも同様の結果をもたらしました。

もちろん外国人活動家のこれまでの活動は大きな成果をもたらした。例えば、私も含む日本人活動家が存在するのは彼らが日本で活動したからです。しかし現状それ以上に進む見込みがないなら、これまでのやり方を見直し、違う道にシフトする必要があります。

戦略の変更

例えば、太地での活動について、戦略はあるのでしょうがうまく機能しているようには見えませんでした。実際、太地での活動は結果的に失敗したと言っていいでしょう。イルカ漁は続いています。

失敗の原因は、これまで述べたような日本人的な心性や文化やコミュニケーション、歴史的経験からくる複雑なマインドセットに対する理解、日本社会に関する情報収拾不足と分析不足などが考えられます。理解が不十分な状態で設定する目標や戦略戦術が成功するわけはありません。ある外国人活動家に、日本人の特徴や日本人風の物事の進め方について教えたことがあります。しかし結局のところ、その活動家は理解できず、自分のやり方をし続けました。確かに、独特で奇妙とも言える文化を紡いできた私たち日本人を理解するのは難しいでしょう。逆に私たち日本人が、他国の文化や常識を身につけられるかと考えると、その困難さは理解できます。

一方西洋の活動家の中にはそれを自覚している人々がおり、イルカ漁問題の解決は日本人自身で行った方が良い考えています。ですので、彼らは熱心に日本人活動家をのサポートを行ないます。

とすれば、西洋の活動家にこれまでの知見を共有してもらい、私たち日本人活動家が、その役割を果たせば良いことがわかります。私たち日本人自身が、日本人の心性と問題に関する情報収拾と分析を行うことで、鯨類解放活動はもちろん動物解放活動における日本独自の手法の開発につながると考えています。

第三章　日本

日本人活動家がすぐにでも行った方が良いのは、日本の活動の歴史や現状を知ること、自分自身の活動の分析評価、日本人理解です。
日本の活動の歴史は活動家であってもほとんど知らないでしょう。年表や文書としてまとめられておらず、ゆえに手法や成果は常に失われ、活動を始めた人は一から自分で学ぶことになります。
自分の活動の分析評価は、日本人活動家の最も改善すべき弱点だと考えています。多くの活動家は自分の活動を客観的に評価し改善することが苦手です。そのような人々は自分の活動が一番だと思い込んだり、他の活動家や活動手法を攻撃します。
日本人理解に関しては、活動を行う最低限の知識です。自分が日本人であっても、むしろ日本人であるからこそ、日本人の歴史、文化、心性、集団心理などを学び、自分たち日本人の認識宇宙がどのようになっているのかを把握する必要があります。日本人理解は、捕鯨問題やイルカ漁問題、水族館問題ばかりでなく、他の動物利用問題を解決する際にも流用できます。そのことはまた活動家自身の自己覚知につながり、活動に良い影響をもたらすでしょう。

第一節　日本の活動

第一項　日本の活動の歴史

日本の動物系の活動の特徴の一つに、歴史が分断されているということがあります。かつて存在していた団体や行われた活動が記録されておらず、あるい記録が分断されており、口伝に頼らざるを得ない場合もあります。現在太地で活動をしている人々でも、過去日本でどのような活動が行われていることを知る人は少ないでしょう。日本の活動の発展が遅れる原因の一つでもあります。
以下の記述はネット調査したもの、過去を知る様々な人々に直接インタビューしたものが含まれており、その方の主観によるものや真偽を確かめる術がないものもあります。事実性が高いと判断できるものを記述していますが、不完全なものであることをご了承ください。

捕鯨に関する活動

捕鯨に関する活動で有名なのはグリーンピースです。1975年から始まったグリーンピースによる世界初の反捕鯨キャンペーン「クジラを救え(Save The Whales)」運動を経て、1989年グリーンピース・ジャパンが日本支部として設立しました。他団体を巻き込み精力的に活動していたものの、2008年4月16日グリーンピースジャパンスタッフ2名が鯨肉横領の証拠を確保しようとし西濃運輸青森支店から鯨肉を持ち去った事件で有罪判決を受け、活動は縮小。現在捕鯨に関する活動はほとんど行っていません。現在、捕鯨に関して継続的に活動を行っているのはIKA-Netとジャーナリストや学者です。

* 日本の捕鯨に関する活動の情報に関してはほとんど集められておらず不完全です。多くの人々や団体が表に裏に活動してきたと思われます。情報をお持ちの方がいらっしゃったらご連絡ください。

イルカ漁に関する活動

イルカ漁に関する活動は4世代に分けて把握することができます。特に4世代目とそれ以前の活動家との交流はほとんどなく、また世代間の活動に関する知見の継承もありません。世代を通じて活動している人々もいますが、多くはありません。

活動の成果については［本文参照：第7部 第四章　成果］へ

第一世代　エルザ自然保護の会

坂野正人氏によると、日本で初めてイルカ漁反対活動を始めたのは1960年代、藤原英司氏と辺見栄氏だったそうです。当時はイルカ漁が盛んで若い人であってもイルカ肉に対する抵抗はなく、伊豆急行では「今イルカ漁をやっている最中だから見にきましょう」とアナウンスするほどでした。当時イルカ漁に反対する人はエルザ自然保護の会のみで、非常に風当たりが強く1960年代から1990年代に次の世代が出てくるまでの30年もの間ほとんど二人で活動を続けていたそうです。

その後1976年イルカ漁に反対する日本最初の団体、エルザ自然保護の会を設立しました。エルザ自然保護の会はイルカ漁反対活動を知るものからすると特別な尊敬を集める団体です。2015年4月22日協働者と共に、WAZAにJAZAの会員資格を停止することを満場一致で決定させ、JAZAにイルカ追い込み漁からのイルカの入手を断念させるなど素晴らしい成果を上げてきました。残念ながら現在は藤原氏は亡くなられ、辺見氏は活動を引退され、ウェブサイトも閉じてしまいました。YouTubeにはチャンネルが残っていますのでご覧ください。

第二世代　海・イルカ・人、IKA-Net世代

1990年代、次の世代が活動を始めます。藤原氏は90年代の活動家を新世代の活動家と呼んでいたそうです。その一人である海・イルカ・人の坂野正人氏は、1991年から活動を開始しました。当時はニューエイジの観点からのイルカを守る活動であり、保護というよりも共存という価値観での活動でした。日本初のドルフィンスイムツアーにカメラマンとして参加し、野生のイルカと目があった時人生が変わったと言います。坂野氏はその後、利島で暮らすイルカを守るため現地に出向き、行政や地元漁民と深く関わりながら協働し成果を上げていく事業などで成果を上げてきました。

1995年12月14日、藤原氏の呼びかけによりイルカ保護に関わる人々が初めて一堂に会する会合が開かれました。1996年5月30日、協働ネットワークとしてIKA-Netが設立され摺木ゆかり氏が代表となりました。しかしやがて方針の違いなどで離散、倉沢七生氏が代表となり現在にいたっています。

IKA-Netは、「種の保存法」成立に関する活動、グリーンピースやIFAW(国際動物福祉基金)とともに「クジラ保護連絡協議会」の設立、IWC総会への参加などの活動を行なっています。

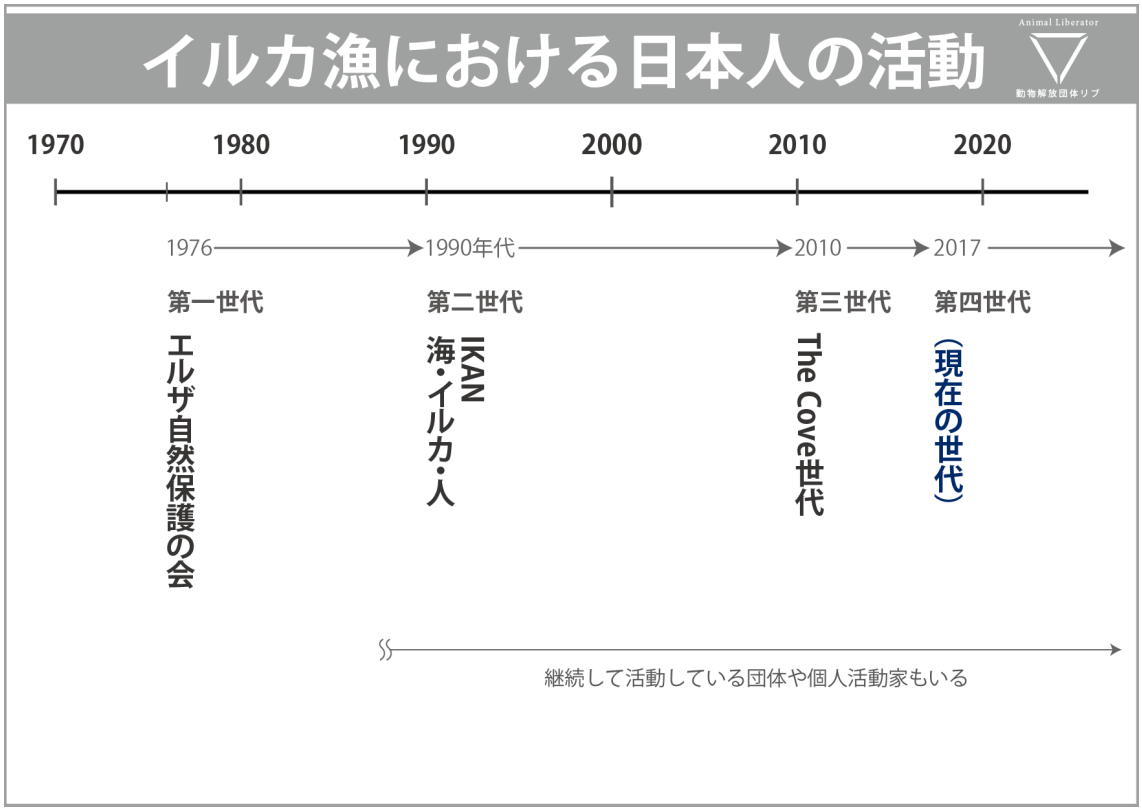
第三世代　The Cove世代

2010年日本で公開された、太地のイルカ漁を描いた映画「The Cove」によって現実を知り、活動し始めた人々です。個人活動家が中心となった活動であり、必要に応じて任意団体などが作られたようです。イルカ漁期中は太地町に滞在、ドルフィン・プロジェクトなど海外団体と協働してコーヴモニター（イルカ漁の監視調査活動）を行うなどの活動を行っていました。この当時活動していた人々は、現在ほとんど活動していません。

第四世代　（現在の世代）

2022年現在、太地町で活動している人々や団体はこの世代です。第三世代の活動が収束してしばらく経った後、2017年頃から徐々に活動を行い始めました。現在太地町にはさまざまな団体や活動家が入り乱れておりカオス状態です。現在の世代の名称は、後年評価され付けられるでしょう。

［タイムライン：イルカ漁における日本人の活動］



水族館に関する活動

水族館に関する歴史は不明です。現在は団体や個人がときどきで水族館前や路上での活動を行なっています。近年は日本各地で頻繁にデモやパネル展が行われています。

またSNSを利用しての活動も盛んです。啓発活動や、特定の水族館の特定のイルカ、例えば妊娠中のイルカにショーをさせているのを止めようとする活動などが行われています。

第二項　日本人活動家の特徴

日本人活動家の良い点は、真摯に問題に取り組むことです。路上活動やデモやパネル展を根気よく行う、こつこつハガキを出す、共感的にコミュニケーションを行う、諦めない。また優秀な人はあまり目立たない傾向にあります。地道に資料を収集し、分析し、政治家や行政、産業に働きかけています。そして良い人は燃え尽きがちですので注意が必要です。

一方、悪い点です。具体的に書くことは難しいので抽象的になりますが、頭に入れておくと役に立つと思います。活動界の一部の人々への批判です。活動界の内省のため、新しく活動に参加しようとする人を守るために記述します。
動物の活動を行っている人々はいい人たちだろうと思いがちです。しかしそうではない人々もいることを知っておくことは重要です。活動家の中には、承認欲求、支配欲、名誉欲、金銭欲、色欲など自らの欲の実現のために活動する人々が一定数います。新しく活動に入っていた人に嫌がらせをする人もいますし、自分の支配下におこうとする人もいます。セクハラもパワハラもあります。特にセクハラをされた女性は声を上げづらく明るみになりません。そのような活動家は犯罪者ですが、今でも堂々と活動しています。海外の活動でも同様の問題があり、宿泊を伴う活動を行うときは、必ず男女の部屋を分ける団体もあります。
活動家同士の関係は複雑で、陰口、悪口、有る事無い事を言いふらされることがあります。初めて会った人に嫌われていることさえあります。個人的な経験を共有しますと、太地で初めて会った外国人の活動家に警戒されていました。しばらく関わると信頼してくれ「日本人活動家に君の悪い噂を聞かされていた」と教えてくれました。火の無いところに煙は立ちませんが、誰かが火を付けることはできす。人は本能的に悪口や陰口を信用します。悪口、陰口を言っている人はその時点で信用に足りません。その人はあなたの悪口も言っているでしょうし、いつか裏切ります。
一見動物のために一生懸命のように見える人であっても、簡単に信用するのは危険です。どの活動家がどのような人格であるのか活動の本当の目的はどこにあるのかを冷静に観察し見極めることをお勧めします。私が知っているだけで何人もの人々が、活動に参加し、そして傷つき止めていくのを見てました。このようなことは無くさなければいけません。

第三項　世界と日本の活動規模の違い

外国人活動家に、日本の動物擁護団体全体（コンパニオンアニマル専門の団体を除く）の予算規模やを伝えるとかなり驚かれます。そんなに資金が少ないのかという意味です。西洋の団体と日本の団体の予算規模を比較してみましょう

海外の団体の収益（2014～2019）
HSI（ヒューメイン・ソサエティ・インターナショナル）
223億3545万6860円（＄194,221,364）（2015年度）
*会員1200万人
RSPCA（英国王立動物虐待防止協会）
173億8927万円（1億1992万6000英ポンド）
*職員　1500名
HSUS（ヒューメイン・ソサエティ・U.S.）
148億3500万円（＄129,000,000）
職員528人、ボランティア1520人
ALDF（アニマル・リーガル・ディフェンス・ファンド）
13億2184万4845円（＄11,494,303）
ファームサンクチュアリ
5億7500万円（＄5,000,000）

日本の団体の収益
ARC（アニマルライツセンター　）
3844万1127円（2020）
JAVA（動物実験の廃止を求める会）
1031万4047円（2018）
動物解放団体リブ
246万4005円（2021）

以上から分かる通り、日本の団体は海外の団体に比べて、極めて小さい予算で活動をしています。
海外の団体には研究者や弁護士などが在籍しており、団体から社会に専門的な知見を提供し、また産業側の研究者に対抗できる体制がとられています。職員は一般企業と同等の給与を得て、活動に集中できます。
日本の団体とは資金・人材・知見・信用などにおいて、はるかに高度な団体が多数存在していることがわかります。

第四項　イルカ・捕鯨問題に関わりたくない理由

日本人の中にはイルカ漁問題や捕鯨問題に関わりを避ける人が多くいるように見えます。考えられる理由は以下です。
1 空気
捕鯨共同体が作り上げてきた空気、多くの人がイルカ漁・捕鯨に賛成しているという空気に抗うのは容易ではありません。実際はイルカ漁や捕鯨に全面的に賛同している人は多くはあ

りません。しかし、伝統文化や感謝、クジラ漁師やイルカ漁師たちを守る正義といったな空気に対して、そうではないと声を上げることはリスクを伴います。黙して語らない方が無難だと判断するのは理解できます。

2 愛国でないと思われる

同様に、捕鯨やイルカ漁に反対することには愛国的でないと思われるリスクがあります。それでも鯨族たちのために声を上げ、批判を受けるメリットはありません。保守的な人々が鯨族搾取を推進し、では一方リベラルは鯨族を守るのか、というとそもそも興味がないようです。リベラルにとってのリベレーションは人間のものであり、動物をリベレーションしてしまうと、彼らの食欲を満たすというリバティーを失ってしまいます。

3 熱狂的で攻撃的な活動家

活動家から見れば共感できるのかもしれませんが、ニュートラルな立場の一般市民から見ればあまり関わりたいと思わないでしょう。

第二節　日本の特徴

第一項　日本人の心性

歴史

日本はアニミズムの社会でした。やがて仏教が流入し天皇が帰依します。第40代の天皇、天武天皇が肉食禁止令を出したことはよく知られています。私は半分冗談で日本で最初の動物解放活動家は天武天皇だと言います。日本は世界でも珍しく為政者であるほど動物の遺体を食べず、保護しようとした国です。西洋諸国は逆であり動物に対して冷酷な人々が為政者となってきました。動物を守り食べないことが、日本の伝統文化を大切にすることです。私はその文化を誇るべき日本文化としたいと思います。

空気

日本人は空気によって行動を決めます。空気とは同調圧力、大勢の意思、常識の押し付け、強い者の意思を強制する無言の圧力などとも表現できるでしょう。空気を感じた人々は、空気に服従し、空気に仕え、空気の強化に参加することによって自分の居場所を見つけようとします。

空気とは人の目であると言うこともできます。西洋と日本では倫理の源泉が異なっており、西洋は神の目、日本は人の目だと言われることがあります。西洋は、自分の行動や心までもが神に見られているから、自分を律し善をなそうとする倫理。日本人は、自分の行動が人に見られているから、自分を律し善をなそうとする倫理。自分に関係する人々に見られている間は自分を律しますが、旅の恥はかき捨てという言葉に表されるように、自分の関係領域の外、街やネットや外国では非倫理的な行動を取ることができます。また心の中を見られているという意識はないので、内面の非倫理を内省することをしません。

逆にどのような馬鹿げたことでさえそれが空気となってしまえば、争うことは困難です。例えば、誰かが名刺の渡し方を様式化し、一般化し、様式から外れたものはビジネスマナーがなっていないという空気を徐々に作り上げていったらどうなるでしょう。誰もが珍妙な名刺交換儀式を行わざるを得ません。
では、活動家として空気をどう利用するかと考えると、空気を変えることによって日本人の行動様式を変えることができる、となります。この考え方はそれぞれの活動の戦略立案や日本独自の活動の開発に大きなヒントとなるでしょう。

和をもって尊しとなす

日本には「和をもって尊しとなす」という言葉があります。わざわざ「和をもって尊しとなす」と言わなければならないのは、和が無いからに他なりません。
日本人は和を尊び国民一体となって目標に向かうことができる、と思っている人も多いでしょう。しかし現実は、瑣末なことでいがみあい、そこここで喧嘩をしています。日本の活動界にも同様の現象が見られます。一方自己中心主義的と言われる西洋の活動はリーダーがおり、各々が自分が与えられた役割を理解し仕事と責任を果たしています。団体は高度に組織化されており、着実に目標を達成しています。なぜこうなるのでしょう。
特に倫理的な活動において、日本人は仲間と協力し合い、集団の中で自分の役割を果たし、最大公約数の目標に向かうことが不得意です。なぜなら和でないといけないという思い込みのため、活動の前提として価値観や思想やさらには感情的なコンセンサスを取ってからでないと一緒に働けません。ゆえに組織が形成されるはるか以前で、対立とセクト化が生まれます。
一方、なぜ西洋人が協力し目標を達成できるかと考えますと、自己中心主義であるからこそと考えられます。宗教、国家、民族、思想で分断され常に戦争してきた故に、自分の宗教・思想を傍に置いておいて、分断したまま多様性を維持し協働することができる。他者は理解不能な存在と理解したまま、最低限の秩序を維持する最大公約数のルールを定め、それを共通のプラットフォーム、社会や組織とする。その上で、一人ひとりが一つの目標のために、役割を果たすために自分の能力を最大限発揮して組織に貢献する。ゆえに、バラバラでありながら組織を維持し、目標を達成することができるからではないでしょうか。

倫理を目的とする組織、利益を目的とする組織

日本のこの傾向は、倫理的な問題において起こりやすいはずです。倫理で繋がろうとすると、細かい差異をあげつらい”議論”（実際は自分の方が正しいという主張のぶつけ合い）を重ね、分裂します。倫理的、民主的な組織を追求しますと、各自の主張、活動方針、活動内容、そして責任を取る取らないも自由です。当然ながら組織として機能しません。
政治や企業は対立含みでありながら組織としてまとまることができます。なぜそれをできるのかと考えてみますと、構成員の最大公約数の目標が権力と金であるからであり、組織の力の源泉は権力と金の再分配だからでしょう。良いか悪いかはおいておいてですが、

この傾向は良きにつけ悪きにつけ、日本の現状であり、客観的に受け止める必要があります。つまり、動物系の団体においても、組織化を志向するならば、日本人の傾向を踏まえた工夫が必要になります。

正義と法

こちらもよく知られた分析ですが、西洋人と日本人では法と正義についての考え方が異なります。西洋人は「法＜正義」であり、日本人は「法＞正義」であるというものです。

西洋人は「法＜正義」

西洋人は、法よりも正義を重要視します。正義のためであれば法を犯しても良い、いずれ時代が変われば正義が証明されると考えます。法は所詮ヒトが作ったものであり、時代や為政者によっていかようにも移り変わります。としたら法が正義でなかったら、法の方を変えれば良い。これは市民社会、憲法、法律を自分たちで作り、民主主義を自らの手で勝ち取ってきた人々の強さです。

日本人は「法＞正義」

一方、日本人は、たとえ正義であっても法の範囲内で行うべきだと考えます。これは無文字社会の時代から天皇が民を緩やかに統べ、天皇と民の間に時々の為政者が存在し、その元で人々は管理され暮らしてきたことに由来するでしょう。お上・税金を納めるといった言葉に表されるような、支配層への信頼と依存のマインドセット、精神状態が染み付いてしまいました。これまで日本市民は自らの手で社会を作ってきた経験はありません。為政者は家族や利権ネットワークを作り、時代を経るごとに強化されていきます。そして再び外圧で破壊されます。このことも活動家としては認識し、活動に活かしていくことが重要です。

社会変革

近代日本人が内発的に社会変革を起こしたことはなく、大きな変化は常に外圧によって起こってきたと言われます。明治時代以前は天皇維持のまま中間支配層が変わり。明治維新は英米を中心とする外国勢力の圧力によって、第二次世界大戦は連合軍という外圧によって変えられました。

この傾向を考えますと、気候危機や動物権利に関しても外圧によって変化することが予想されます。実際、例えば動物福祉で見ますと、ユーロ圏の動物福祉意識が高まり制度が変わったことによって、日本の畜産業界が福祉を導入せざるをえなくなっています。もし外圧がなかった場合、日本の畜産業界が動物に配慮した法やシステムを自ら作り出したかと考えますと、それは無いでしょう。効率化と利益を求め続け、動物をさらに酷い環境に押し込め、殺し続けたと考える方が自然です。

つまり既存の価値観や権力基盤が外圧で破壊され社会変革が起きた後に、新しい価値観を提示する必要があります。新しい価値観の社会では、環境と動物と人間の関係を根本から見直すことになります。その時にアニマリズムやそれに基づく社会システムを提案するために、今から準備を行なっています。

権利の理解不足

「動物の権利」と言って、いまいちピンとこない人、「動物に選挙権を与えるのか」といった頓珍漢な発言をする人がいるのかと言いますと、権利について理解していないためです。自分が自由に行動し、発言し、殺されず生きていられるのは、権利のおかげです。あなたの権利がない状態とは、他人に虐待され、奴隷にさせられ、母を盗られ、子を盗られ、殺されても抗うことができない状態。つまり現在の動物の状態です。あなたにそれを行なった人は罰せられるところか、あなたを所有し消費する権利を主張します。それが権利です。権利とは使い方を間違えると危険なものであり、正しい使い方をすると自助できない弱者を守る強力なツールとなります。

日本人がなぜ権利を理解していないのか、それは自分たちで勝ち取った権利ではないからだということがよく言われます。ヨーロッパやアメリカでは、市民が戦い、血を流し、権力者を打倒して勝ち得てきました。ゆえに西洋の活動家が動物の権利を守るために法を犯してでも、動物搾取者や動物搾取をサポートする社会システムに対抗することは一定の支持を得られるのでしょう。一方、そのような歴史がない日本でそれを行った場合、動物活動に致命的なダメージを与える可能性もあります。

権利は法で裏打ちされる必要があります。文字面の権利と、法の裏付けがある権利は全く別物です。「動物の権利」と一言で言ったとしても、その権利はイメージとしての権利か、法的な権利か確認する必要があります。本気で動物を解放しようとする人々が「権利」という言葉を使うときは、必ず後者です。

融合しながら変化する

上記のような日本の特徴を考慮し活動手法にフィードバックさせることによって、活動をより精密に正確にすることができます。空気を変える、組織化は多様性を保持したまま行う、法を遵守する、外国の動向に合わせて日本の社会システムに働きかける、権利教育を行うといった基本方針とともに、日本人は環境や天災や外国の文化や外圧に融合しながら徐々に変化してきたという歴史を考え合わせて、日本にフィットした活動を開発し高度化させていくことになります。

第二項　社会システム

捕鯨・イルカ漁・水族館問題はもちろん、動物利用問題を解決するためには、日本の社会システムがどのような構造になっており、どこに不具合があり、諸外国と比較した場合どのような点に特徴があるのかなどを押さえておくと、何かと整理を付けやすくなります。そのうちいくつかを取り上げます。

日本の社会システムを理解する

現代日本の社会システムは、戦後GHQが中心となて作られました。日本の再帝国化、軍事大国化、神国化を防ぎ、常に国力を削ぎ続け、効率的に支配するために作らておりその支配システムは不可視化されています。

大戦後、日本は連合国と連合国と取引したA級戦犯たちによって支配されました。「政官財学法報暴（せい かん ざい がく ほう ほう ぼう）」と呼ばれる権益集団が形成され、集団の構成員に利益を補償しながら、アメリカの間接支配が固定化されていきました。「政官財学法報暴」は血縁や学閥でネットワークされ、利権を温存しています。ゆえに、構成員の利権である捕鯨やイルカ漁問題の解決は難しくなっています。

第一目　政治～米国による支配～

日本は他国と同等の独立国だと認識されている人も多いかもしれませんが、実際は違います。国連憲章に、第二次世界大戦に枢軸国側として参戦した各国に対しての措置を決めた「敵国条項」という条文があります。この敵国条項は未だ存在し、旧連合国にとって日本は敵国扱いになっています。

第二次世界大戦後、アメリカを中心とする連合国は、旧日本帝国の有力者の一部をA級戦犯から特赦し、日本を支配するエージェントとして使いました。

参考までにCIA等から公開されたファイルからCIAの日本人エージェントの一部を列挙します。

名前（CIAコードネーム）：第二次世界大戦前の役職→戦後の役職

正力松太郎（PODAM）：警察庁、読売新聞社代表取締役→日本テレビ社長、読売ジャイアンツ設立、原子力委員会委員長、国務大臣、副総理等

緒方竹虎（POCAPON）：警察庁、朝日新聞社代表取締役→日本テレビ社長国務大臣、内閣官房長官、副総理等

岸信介：商工省次官、軍需省次官、国務大臣→第56・57代内閣総理大臣（第61・62・63代内閣総理大臣佐藤栄作の兄。第90・96・97・98代内閣総理大臣安倍晋三、防衛大臣岸信夫の祖父）

笹川良一：国粋大衆党総裁→国際勝共連合会長、衆議院議員、日本船舶振興会会長、日本財団会長

今村均：陸軍大将→防衛省顧問

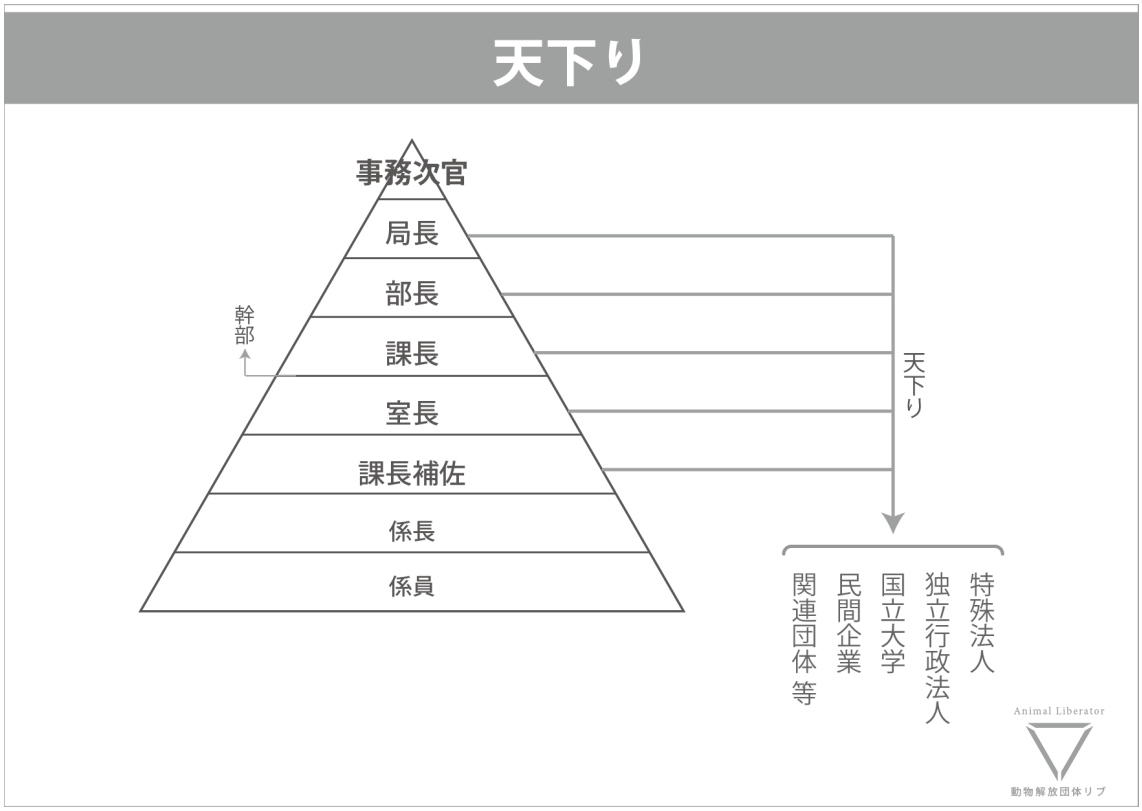
石井四郎：731部隊(石井部隊)指揮官

土肥原賢二：陸軍大将
現在でも米国との対等な関係を目指す政治家や官僚は排斥され、米国の意を汲み追従する政治家や官僚が実権を握るとされています。
なお捕鯨に関係する人物を挙げますと、岸信介氏、安倍晋三氏の地盤は下関市のある山口県、笹川良一が設立した日本財団は捕鯨の文化保全に資金提供を行っています。

また、日本の最高法規は憲法ですが、実際はその上に日米地位協定があり、協定に基づいて日本の政策を実質上決定している日米合同委員会があります。日米合同委員会は、月2回、1回がニュー山王ホテル、もう一回が外務省が指定した場所で行われているとされています。ニュー山王ホテルは、東京都港区南麻布4丁目12番20号にある在日米軍の施設で、一般の日本人が立ち入りできない日本の中の外国です。さらに、1都9県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、群馬県、栃木県、山梨県、長野県、新潟県、福島県）にまたがる広大な空域は、横田空域と呼ばれる在日米軍が支配する空域です。つまり日本の首都上空が外国に支配されている状況にあります。米国人は米軍基地からであれば、実質パスポート無しで日本に入国できます。これほど日本が非支配国であることを象徴的に示す事実はないでしょう。
日本人の中には上記のような複雑な歴史や現状から、米国に対する歪んだ愛憎を抱えている人々がいます。コンプレックスとプライド、売国と愛国、私益と公益、民主主義と帝国主義、米国支配に関する現実と理想といった、思い通りにならない現実に対するフラストレーションの吐口の一つとして捕鯨問題がある考えてます。

第二目　官僚〜天下り〜

日本の官僚システムはピラミッド構造になっています。ピラミッドのトップは事務次官。事務次官になれるのはたった1人です。下から新規職員が入ってくるため、上の人々はどこかの時点でピラミッドから脱落しなければなりません。
官僚のピラミッドから身を引いた人々が、省庁の所管法人や民間企業に再就職することを天下りと言います。
［図：天下り］



日本の省庁はそれぞれ天下り先を持っており、天下りを確保することが官僚の最重要の仕事と言われることもあります。逆に言えば、自分が現役の間に天下り先を失うことはキャリアの汚点でもあるということになります。ですので捕鯨で言えば、日本鯨類研究所や日本捕鯨協会、共同船舶を守ることは至上命題であり、解決が難しい最大の原因となっています。
水産官僚の天下りに関しては、［本文参照：第四部 第七章 第六節 第二項　官］

捕鯨・イルカ漁・水族館共同体と、クジラ保護派はプロパガンダ合戦を行っています。捕鯨・イルカ漁・水族館共同体は、各産業の正当性を虚実織り混ぜプロパガンダを行います。一方、クジラ保護派は、鯨族がどのような動物か共感を呼び起こし、環境保護の文脈から鯨類の重要性を説き、各産業の論拠を崩しながらプロパガンダを行います。
以下に、日本のマスメディアに関する問題の基本的な知識を列挙します。動物解放活動に直接的に関係はありませんが、今後活動が拡大していくに従って考慮しておいた方が良い問題です。

総務省の放送免許許認可権

日本では、地上波テレビ、衛星放送、ケーブルテレビ、ラジオ、有線などの放送を行う会社は、「放送事業者」と呼ばれ、総務省が免許を発行しています。日本のように、放送の許認可権を政府が持っている国は、ロシアや中国など一部で、諸外国では独立機関が許認可を行なっています。国が許認可権を持っているがゆえに、ニュースなどの放送内容が政府の意向によって左右される、政治家が直接圧力をかける、メディア関係者が官僚を接待する、逆に政治家が内閣官房機密費などを使ってジャーナリストを籠絡するなど様々な問題が起こっています。捕鯨問題に関しては、マスメディアのほとんどが推進の立場をとっています。

広告代理店

日本では広告代理店が巨大な力を持っています。電通が国内シェアの24%を占めており、マスメディアに強い影響を与えています。業界2位の博報堂のシェアは21%。売上高で比較すると、電通は博報堂の4倍です。電通は1901(明治34)年に設立され、第一次世界大戦、第二次世界大戦等の戦争プロパガンダ、オリンピック等の国家事業などを通して、大日本帝国政府、日本政府と強い関係を維持し続けています。また、現在の政府与党である自民党の広告戦略は電通が行っており、自民党から電通に流れる広報や世論操作に関する予算や、国家事業の委託費は膨大です。政治家・官僚と電通間の接待や贈収賄などとの様々な癒着が指摘されています。

垂直統合

日本のマスメディアは垂直統合と呼ばれるビジネスモデルを取っています。五大新聞は戦前に設立され、ラジオ、テレビ、スポーツ紙、出版社と事業を展開してきました。

五大マスメディア垂直統合（新聞発行部数順）
新聞社名→テレビ局(キー局)、ラジオ局、スポーツ紙、出版社｜その他→グループ名
読売新聞→日本テレビ、ラジオ日本、スポーツ報知、中央公論新社｜読売巨人軍、よみうりランド等
朝日新聞→テレビ朝日、朝日放送ラジオ、日刊スポーツ、朝日新聞出版｜バズフィード、朝日ビルディング等

毎日新聞→TBS、TBSラジオ、スポーツニッポン、毎日新聞出版｜毎日映画社、毎日広告社
日経新聞→テレビ東京、ラジオ日経、デイリースポーツ、日経BP｜日経リサーチ、日本経済研究センター等
産経新聞→フジテレビ、ニッポン放送、文化放送、サンケイスポーツ、扶桑社、産經新聞出版｜サンケイビル、ポニーキャニオン→フジサンケイグループ
その他、キー局ごとに各都道府県に系列のテレビ局があります。
例）フジテレビの場合、北海道文化放送、テレビ静岡、沖縄テレビ放送等
垂直統合は、さまざまな弊害を産んでいます。政治家や省庁との癒着、テレビ局の放送権問題、新規参入障壁、情報の画一化等。
鯨族関係においては、省庁や産業の言い分を一方的に報じることによって、クジラ保護側の知見や意見を報じない、活動を黙殺する等行うことがあります。特に産経新聞は捕鯨擁護、クジラ保護反対の立場を取っています。
［図：マスメディア垂直統合］

マスメディア 垂直統合

Animal Liberator 動物解放団体リブ

新聞社名	産経新聞	日経新聞	毎日新聞	朝日新聞	読売新聞
テレビ局(キー局)	フジテレビ	テレビ東京	TBS	テレビ朝日	日本テレビ
地方局	UHB北海道文化放送 KTV関西テレビ放送	TVhテレビ北海道 TVOテレビ大阪	HBC北海道放送 MBS毎日放送	北海道テレビ ABCテレビ	STV札幌テレビ YTV讀賣テレビ
ラジオ局	ニッポン放送 文化放送	ラジオ日経	TBSラジオ	朝日放送ラジオ	ラジオ日本
スポーツ紙	サンケイスポーツ	デイリースポーツ	スポーツニッポン	日刊スポーツ	スポーツ報知
出版社	扶桑社 産經新聞出版	日経BP 日経ビジネス 日経ESG	毎日新聞出版 サンデー毎日 エコノミスト	朝日新聞出版 週刊朝日 AERA	中央公論新社 中央公論
その他	サンケイビル 鴨川シーワールド 新須磨水族園(指定管理)	日経リサーチ 日本経済研究センター等	毎日映画社 毎日広告社	バズフィード 朝日ビルディング等	読売巨人軍 よみうりランド等
グループ名	フジサンケイグループ		毎日新聞グループHD TBSHD	朝日新聞グループ テレビ朝日HD	読売新聞グループ 日本テレビHDD

記者クラブ問題
記者クラブとは、大手マスコミによる任意団体であり、各政党、各省庁、都道府県庁、警察、業界団体などの建物の内部に800以上置かれています。記者クラブには大手マスコミに認められた記者しか入れず、独立系のマスコミなどは排除されます。記者クラブ記者と政治家や官僚などとの癒着・馴れ合いが生じ、忖度が行われます。

捕鯨問題に関する論調

捕鯨に関して、産経新聞、読売新聞、文藝春秋に代表されるような保守系のメディアは、捕鯨堅持の主張。一方、日経新聞や東京新聞は批判的な論調です。特に日経新聞は経済的な合理性から反捕鯨とも言える主張を展開しています。

水族館に関しては批判的なメディアは見かけません。動物園に関しては、朝日新聞が批判的な意見に関しての調査を行っていました。

メディアが作り出す幻想

マスメディアは、為政者や業界に都合が良く、人々が見たい世界を見せます。動物利用問題に関して考えますと、畜産の現実は動物への暴力殺害、見せる幻想は美味しい・大食い・畜産業者の悲喜交々などのドラマなど。動物園水族館の現実は野生動物の搾取・異常行動など、見せる幻想は楽しい・かわいい・飼育員のドラマなど、一時が万事この手法です。

私たちの活動は、人々が見たい幻想から覚めさせ、現実を見せることです。人々が見たい幻想は、自分は動物に優しく、感謝と共感に満ちているというイメージ。現実とは、動物に暴力を振るい、殺害し、想像もできないほどの苦痛と感情を与え、その現実に目を瞑り、哀れな動物の遺体を食べている自分の姿です。当然ながら、私たちの活動は大きい抵抗にあいながら進めていくことになります。

第四目　部落差別問題（同和問題）

部落差別問題は、日本人が日本人に行っている差別の問題です。部落差別問題と動物利用問題は密接に関係しています。部落差別問題はできれば関わりたくない問題かもしれません。しかし、日本の動物解放活動においてこの問題に触れないのはおかしいですし、またそこに内在している問題を明らかにすることによって、動物差別をも解消するヒントが見つけられるはずです。

部落問題の歴史概要

794-1185　平安時代、動物の屠畜や皮革産業に従事する人々が、穢多・非人と呼ばれはじめる（諸説あり）

1603-1868　江戸時代、穢多・非人に対しての差別が制度化される

1868　明治時代

1871　部落解放令施行。制度上の差別はなくなる

1922-1940　全国水平社結成

1946　部落解放全国委員会結成

1955　部落解放同盟結成（部落解放委員会を改称）

1969　同和対策事業特別措置法施行

1982　地域改善対策特別措置法施行

2002　国策としての同和対策事業終了

歴史的に差別されてきた原因は、動物の殺害や、食肉加工、皮革加工等を生業としていたためです。江戸時代には、神道の「穢れ」、仏教の「非暴力」「不殺生」の価値観が原因となり、差別が社会制度に組み込まれされ迫害を受けてきました。動物の遺体を食べ、着る人々が、暴力や殺害の実行を人に押し付け、その人を差別して迫害するという、あってはならない差別制度でした。明治政府は、近代国家へと生まれ変わる政策の一つとして差別の解消に取り組み、部落解放令を施行。しかし差別は無くなりませんでした。その後被差別部落の中から、自らの力で差別を解消しようという動きが生まれ、全国水平社が結成されました。第二次世界大戦前戦中とその火は一旦消えましたが、戦後、部落解放委員会として新たな活動が始まっています。それらの声を受けて、1969年にやっと国策としての差別問題解消が始まり、2002年まで続きました。

部落解放の問題

部落解放の過程でさまざまな問題が起こりました。分裂、対立、脅迫、暴力、暴力団との癒着、行政への圧力、新たに生まれた利権等です。それらの問題に対して、被差別部落の中から自助の動きをする団体も生まれました。

イルカ漁と部落問題

先にも少し触れましたが、イルカ漁との関係について触れておきます。

2000年初頭、牛肉偽装事件、狂牛病対策で行われた農林水産省による牛肉買い上げ制度を利用し、50億円以上もの大金を不正受給した事件で、食肉卸業者ハンナングループの会長浅田満（あさだ みつる）氏が逮捕されました。浅田氏は、部落解放同盟大阪府連向野支部副支部長を務め、食肉卸業に関しても部落解放同盟から支援を受けています。事件前、浅田氏は世間にはほとんど知られていませんでしたが、強大な権力を持ち政界や芸能界にも通じていた浅田氏の存在は驚きを持って迎えられました。

この浅田氏と同じ大阪羽曳野市で建設業を営んでいた海原一壱（かいばら かずいち）氏は、浅田氏のライバルとされていました。海原氏は、大阪府同和事業促進協議会理事、大阪府同和建設協会専務理事、部落解放同盟大阪府連合会向野支部副支部長を歴任しました。浅田氏は山口組系山健組、海原氏は山口組系菅谷組を後見として勢力を争っていたと言われています。

イルカ漁に関係しているは海原氏です。海原氏は和歌山県太地町に別荘を構え、別荘のプールにイルカとハナゴンドウ計6名を監禁し、ペットとしていました。現在太地町にあるドルフィンリゾートのプールがそれです。海原氏は、大阪からプライベートヘリコプターで太地町のヘリポートに降り立ち、休日を楽しんでいたようです。海原氏は、現在も大阪にある動物利用娯楽施設ワールド牧場の代表取締役でもありました。ワールド牧場には夏のみ太地からイルカとハナゴンドウが運ばれ展示され、冬には太地の生簀に戻されます。

差別について

差別は、優生思想、優越感、無知、思い込み、経験不足、時間観念の未熟さ等によって起こります。ある人物から何らかの被害を負った場合であっても、その人物が所属する集団・民族・国家とは分けて考えるべきです。

日本には、かつての被差別部落の人々や在日韓国人、朝鮮人を差別する人々がいます。しかし、差別をしている人々は、一度差別される経験をした方が良いと思っています。差別される痛みが想像できない人は体験した方が良い。あらゆる差別は撤廃すべきですし、人類の知的精神的発達と共にそれは実現に近づいていくでしょう。

動物差別

現状ほとんどの人類が、動物を差別しています。私たちは、私たちが持っている動物に対する差別意識にまず気付かなければなりません。動物差別は、無意識化・常識化されており、さまざまな形をとって現れます。

例えば言葉。「匹」「飼う」「餌」「ブタ野郎」「〇〇の犬」など。これらの言葉は動物差別にあたります。もしあなたが「あなたの家族は何匹？」「あなたの子供に餌をあげる」などと言われたら怒るか不快に思うでしょう。そのような言葉を動物に対しては平気で使っています。

鯨類で言えば、人間の「人口」に当たる言葉を、生物学者などは「生息数」、捕鯨共同体やイルカ漁共同体などは「資源数」と呼びます。クジラをどのように見ているかわかります。

人間が動物に対して、社会システムとして行う差別は過酷です。動物の家族を断絶させ、暴力を加え、殺害し、遺体損壊し、遺体を食べることすら行います。

人間が動物より優越している根拠はありません。動物であるからといって差別していい根拠もありません。人類であれば、どのような人物であっても動物差別は許されています。

人間からの差別を受けていない人々はもちろん、差別を受けている当事者であっても、自分は誰かの差別に加担していないか内省することが必要です。特に動物への差別に加担しているかどうかか考えることは、向き合いたく無い自分と向き合える重要な経験です。自分の行動や言動を振り返り、もし隠された差別意識があったら無意識から意識にあげましょう。

私たちは自らを感情と意志の力で律し、可能な限り倫理的に矛盾のない思想、態度、ライフスタイルを追求できる能力を持っています。それは私たち人間の特筆すべき能力の一つです。人類が生み出したさまざまな問題を人類自らが解決し、差別のない、すべての人、そしてすべての動物が自分の人生を謳歌できる社会を作り、平和で緑豊かな地球を再生する鍵の一つがそこにあると考えています。

第四章　成果

例えば、モラトリアムの決議、サンクチュアリ採択、WAZAによるJAZAの除名など、あらゆる成果は、一つの国際組織、一つの団体、一人の個人が行ったのではなく、多くの組織や個人がそれぞれ活動したその結晶として獲得したものです。ここでは捕鯨、イルカ漁、水族館に対するそれぞれの成果、法律にできた活動、そしてイルカ保護のためのサンクチュアリ、実際のイルカ解放など、活動における成果を見ていきます。今後皆さんが画期的な成果を上げるためにも過去の成果を参照することは大きなヒントとなります。

第一節　捕鯨

1972年の国連人間環境会議で国際的なクジラ保護の取り組みが開始、やがて多くの人類共通の意識になりました。それから50年後の2022年、捕鯨は縮小しクジラ保護は成果を上げています。50年もの時間をかけ、様々な国際機関、クジラ保護団体、専門家、市民、政治家、官僚等多くの人々が表に裏にクジラを守ろうと努力しここまできました。

モラトリアム

1982年、国連人間環境会議から10年後IWCは商業捕鯨のモラトリアム(一時停止)を決議しました。モラトリアムはクジラを守りたいと思う様々な社会階層の人々が協力して勝ち取った成果です。

鯨個体数の回復

2014　北米大陸西岸で、シロナガスクジラの数が19世紀の水準である2200名に回復。
2019　南大西洋のザトウクジラが回復していることがわかりました。現在推計24,900名のザトウクジラが暮らしていて、これは捕鯨開始以前と比べて93%まで回復したことを示しています。かつて捕鯨時代、南大西洋では25,000名ものザトウクジラが殺害され、450名しか残っていませんでした。14個体群のうち9個体群が絶滅の危機から回復しました。この海域は、かつて日本の水産会社が海賊捕鯨を行った海域です。
ただし、［本文参照：第四部 第七章 第二節 第四項　絶滅］でも触れたようにタイセイヨウセミクジラは個体数を減らしており、非常に危険な状態です。地球上にたった336名しかいません。他にも未だ絶滅の危機にある鯨族や個体群などがいます。
私たちの人類の行動は、いつ動物を絶滅の危機に晒してもおかしくありません。絶滅危惧種はもちろん、すべての動物の殺害を止めることが、動物保護時代の次の時代、動物権利時代、アニマリズムの時代の在り方です。

第二節　イルカ漁

The Cove

2009年1月に公開されたアメリカ映画『ザ・コーヴ』（The Cove）の影響力は絶大でした。監督はルイ・シホヨス(Louis Psihoyos)氏。2009年のサンダンス映画祭で観客賞、2009年度第82回アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞を受賞し、2010年7月には、日本でも公開されています。この映画はこれまでイルカに関心がない人々までをも巻き込み、称賛する人々、怒る人々、そして活動に足を踏み入れる人々を生みだしました。この映画で活動を始めた人々を本書では第3世代と呼んでいます。

JAZA、WAZA問題

日本のイルカ漁に対する最も大きい成果の一つは、JAZA(日本動物園水族館協会)加盟の水族館が、イルカ漁からイルカを購入できないようにした活動です。この活動にも世界中の団体、個人が表に裏に協力していました。
時系列で示します。
2013
11月19日　エルザ自然保護の会の辺見栄氏が、JAZA会長山本茂行氏宛に追い込み漁で捕獲されたイルカ購入禁止の要望書を送付。
12月27日　JAZA山本茂行会長から購入は問題ないとの回答。
2014
3月28日　辺見栄氏・リック・オバリー氏らが、スイス・グラン市でWAZA（世界動物園水族館協会）にJAZAの除名を求める。賛同する国内167団体の請願書を提出。
2014
8月9日　WAZAが来日し、イルカ漁がWAZAの倫理規程に抵触するかについてJAZAと会合を行う。
2015
3月　オーストラリア・フォー・ドルフィンズがWAZAのイルカ漁に対する姿勢を問うキャンペーンを開始。
4月22日　WAZAが、JAZAの会員資格停止を満場一致で決定。
5月22日　JAZAが、追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止する決定。
7月9日　WAZAは、JAZAがイルカ購入手禁止を決めたことを受け、JAZAの会員資格の停止を解除。

この事業のすごいところは、JAZA加盟館へのイルカの蛇口、供給をストップしたことです。水族館に監禁されているイルカのほとんどは海に帰すことができないので、終生監禁せざるを得ません。イルカを解放する最も早く確実な方法はこれ以上イルカを増やさせないことです。つまり、イルカ追い込み漁からのイルカ入手を止めることです。この事業は動物解放活動において最も効果がある事業を成功させましました。

2015年5月22日に、JAZAがイルカ追い込み漁で捕獲されたイルカの購入を禁止すると決定して初めてのイルカ追い込み漁への受注は、当時まだJAZAに加盟していた太地町立くじらの博物館と、JAZA非加盟約20施設等から約150名でした。これまでJAZA加盟館が2〜3割を占めていましたが、その分非加盟施設やブローカーからの購入希望が増えたそうです。
その後この決定に反発した太地町立くじらの博物館や、あわしまマリンパークなどがJAZAを次々と脱退していきます。また、これらの水族館はJAA（日本水族館協会）を作り、現在では多数の水族館が加入しています。日本の水族館は、倫理よりも利益、イルカを自由にすることよりも監禁することを優先してしましました。

イルカに住民票

東京都の伊豆諸島、利島(としま)や鵜渡根島(うどねしま)、御蔵島(みくらじま)などに、イルカが住んでいます。
1995年、御蔵島から利島に女性のミナミバンドウイルカ、ココが引っ越してきました。
1998年、ココに子供が生まれ、ピコと名づけられました。2名は特別住民台帳に登録され、利島の住民となりました。この出来事は、イルカ漁で有名な日本で起こったことでもあり、世界中で話題となりました。
このイルカを利島の住民にしようというアイデアには活動家が深く関わっていました。イルカを住民にすることは、ココ親子や近海のイルカが殺されないようにする、国内外に日本にもイルカにやさしい人々や自治体があるというアピールする、日本人のイルカに対する関心・共感を喚起することなど、様々な効果が期待されます。
この事業の実現のためには、自治体や住民や地元の事業者の複雑な人間関係に入っていくこと、その中で信頼醸成をしていくこと、さらには協働していくことなど、大変な課題と努力と忍耐と、そして感動があったでしょう。
反対を叫ぶ活動ももちろん必要ですが、ポジティブでクリエイティブな活動の先例、成功例として私たちが学び参照べき事業です。

富戸 違反イルカ漁事件に関する活動

1996年10月、静岡県伊東市の富戸漁港で、静岡県のイルカ追い込み漁では捕獲対象種とされていないオキゴンドウが捕獲されました。その様子がテレビなどで放映され、活動家からも一般の人々からも抗議の声があがりました。活動家たちは活動を開始しました。3日目には漁業者の手によって100名以上のバンドウイルカとオキゴンドウが解放され、10日目にはいったん水族館へ運ばれた６頭のオキゴンドウが外海に解放されました。水族館に運ばれた鯨族が解放されるのは日本で初めてでした。多くの人が声を上げ表現すれば、イルカを解放できるという素晴らしい事例です。

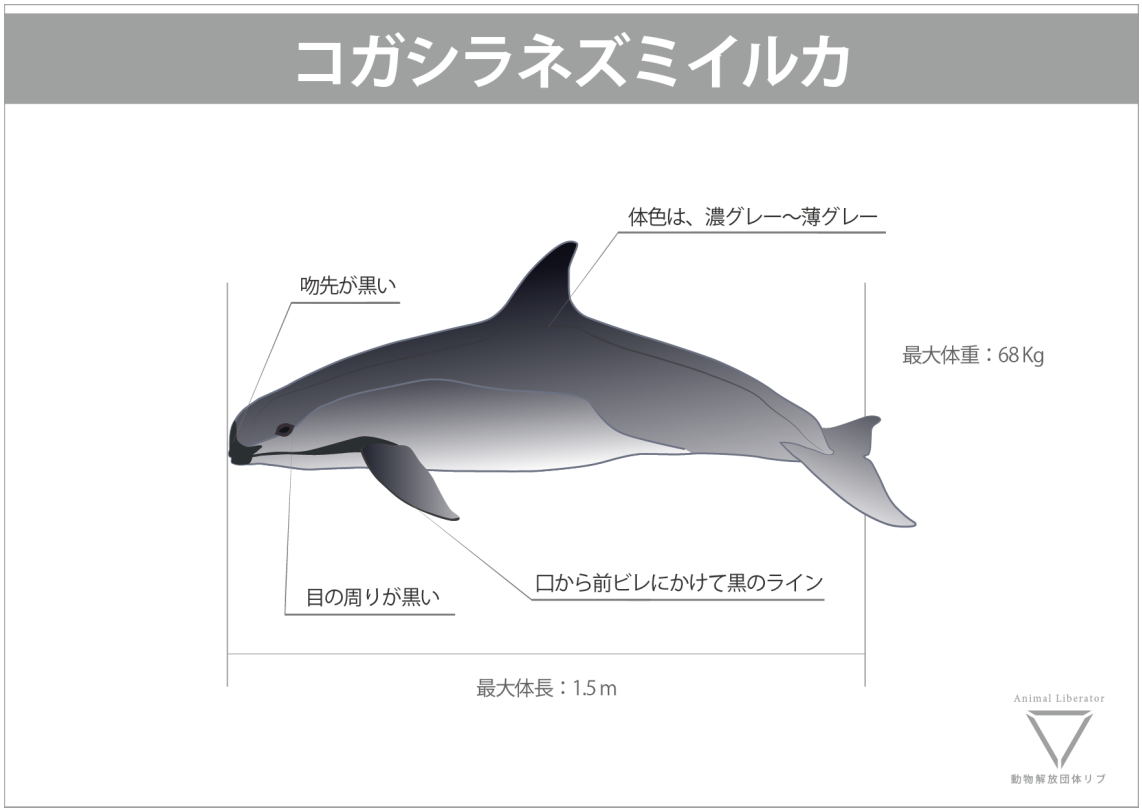
勝訴

2014年、太地町のくじらの博物館が外国人活動家の入場を拒否する張り紙をしました。このことを受け、オーストラリア・フォー・ドルフィンズ、アース・アイランド協会、ドルフィン・プロジェクト、日本のイルカを救え運動が、外国人差別だとしくじらの博物館を提訴し、勝訴。外国人活動家の入場が許可されるようになりました。外国人活動家が主張するように、くじらの博物館が外国人差別をして入場拒否をしたのではないでしょう。しかし、公の機関が自分達の利益に不都合な人々の入場を拒否するのは良くありません。

バキータ

バキータという愛称で呼ばれるコガシラネズミイルカをご存知でしょうか。メキシコのカリフォルニア湾に暮らしている世界最小のイルカの一種で、最も絶滅の危機に瀕しているイルカです。

［図：コガシラネズミイルカ］



バキータは、トトアバという魚を捕獲するための刺し網漁に混獲され、激減しました。政府は漁民に2年間で76億円もの補償をするなどして絶滅を防ごうとしていますが、漁民と麻薬カルテルが協働して行う密漁が絶えず、2012年に200名、2014年に100名を切るまで減り、2016年には60名しか残っていませんでした。このペースでは2022年までに絶滅してしまうとされていました。

バキータを絶滅から守るために、メキシコ政府、地元の団体、国際NGOなど多くの組織や個人が活動していました。中でも実行力のある活動を行ったのはシーシェパードです。シーシェパードは、2015年からバキータを守るプロジェクト「ミラグロ作戦(Operation Milagro)」

を開始。メキシコ当局や研究者と協力し、6隻の船を投入し違法に設置された網を撤去し、バギータや魚を守っています。2020年時点でMiragroVI作戦を行っています。
［URL：Over 1000 Pieces of Illegal Fishing Gear Removed from Vaquita Habitat：https://youtu.be/LKMLJZ37cEs］

第三節　水族館

名古屋港水族館のシャチ購入中止

1999年3月9日　名古屋港水族館の内田館長が、ノルウェーの業者にシャチ6名の捕獲を打診しました。名古屋港水族館は2年半後の2001年11月に世界最大級の野外水槽(13,400t)を備えた新館を約186億円をかけオープンさせる予定であり、シャチの確保が至上命題でした。内田館長の打診をノルウェーの新聞が報道、世界が知るところとなりました。シャチを守ろうとする団体や活動家、一般の人々が抗議を名古屋港水族館に対して抗議を行い、この計画を中止させました。

万が一、今後鴨川シーワールド、名古屋港水族館、新須磨水族館がシャチの購入を行おうとしたら、私たちは同様に中止させる行動を行うことになります。

映画『ブラックフィッシュ』

2013年1月　シャチのティリクムの生涯を描いた映画「ブラックフィッシュ」(Black Fish)、監督ガブリエラ・カウパースウェイト(Gabriela Cowperthwaite)がアメリカのサンダンス映画祭で公開されました。ティリクムは、アイスランドで捕獲された男性のシャチです。初めて監禁されたカナダの水族館では先住の2名の女性のシャチたちにいじめられました。その後様々な水族館を転々とさせられ、最終的にシーワールドが購入。この間、ティリクムは3名の人間の死に関与しました。「関与した」という表現がなされるのは、ティリクムが殺害したことが確実な事件と、状況的にティリクムが殺害しただろうと推測される事件があるからです。映画「ブラックフィッシュ」は水族館の主張と、シャチが置かれた現実がいかに異なっているか、シャチたちの生涯がいかに悲惨なものかを暴き、人々に衝撃を与えました。それまで水族館が振り撒く幻想を信じていた人々が、水族館に対して批判を始め、そのうねりは強くなっていき、シーワールドのシャチの繁殖禁止、ショーの中止、さらにはカリフォルニア州の法律の制定につながっていきます。

米シーワールドがシャチの繁殖中止を決定

シーワールドは投資会社ブラックストーンの傘下。米国に3施設あり、ドバイに新施設の建築計画があります。

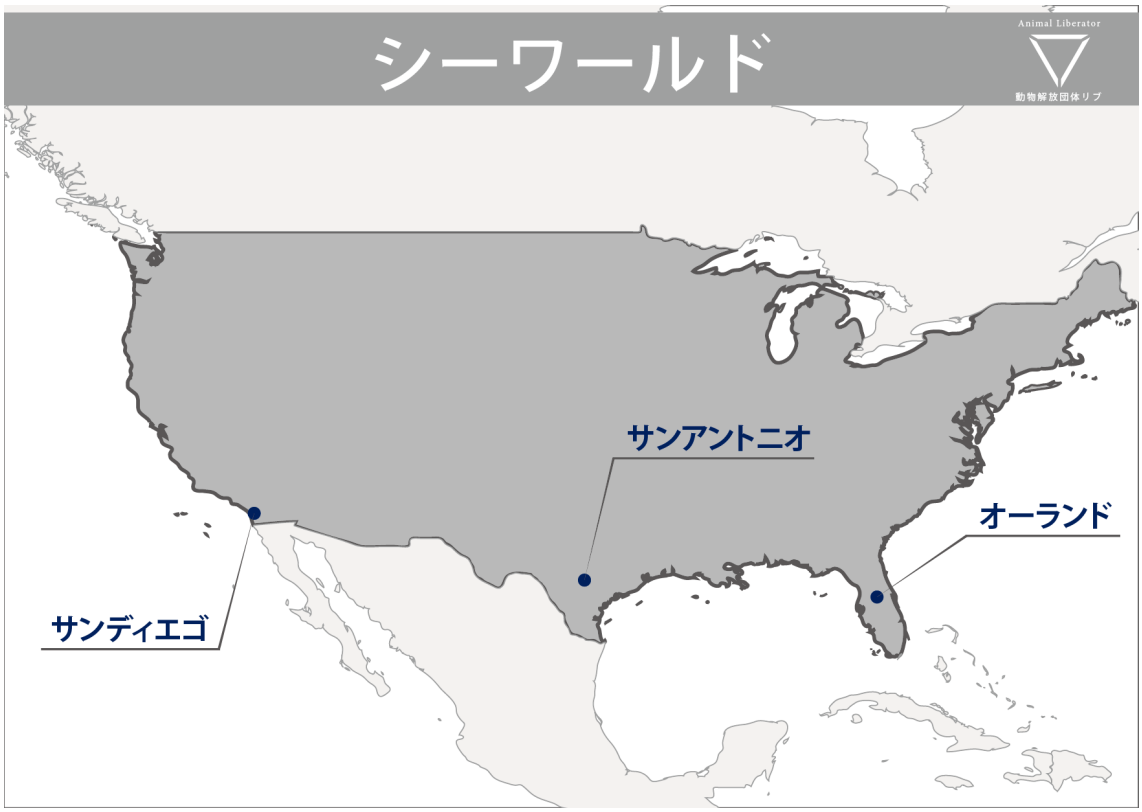
1964設立　シーワールド・サンディエゴ（カリフォルニア州：シャチ11名監禁）

1973設立　シーワールド・オーランド（フロリダ州：シャチ7名監禁）

1988設立　シーワールド・サン アントニオ（テキサス州：シャチ5名監禁）

計23名（2016時点）

［MAP：シーワールド］



繁殖中止までの経緯

2013年1月　映画「ブラックフィッシュ」公開

2015年10月　　シーワールドがシャチのショーを廃止すると発表

2016年3月17日　シャチの飼育・繁殖中止を決定

2017年1月　サンディエゴで、シャチショーを終了

2019年　オーランド、サンアントニオでシャチショーを終了

シーワールドが、イルカに乗るショーを中止

2020年、シーワールドは、イルカトレーナーがイルカの上に乗るショーを中止することを発表しました。これはPetaをはじめとする動物擁護団体が、シーワールドに株主提案を行うなどを行ってきた成果です。

日本では未だに、各地の水族館で、イルカトレーナーたちがイルカの上に乗っています。誰かが誰かを足で踏みつける行為は、ほとんどの場合、支配と侮辱を意味します。
水族館やイルカトレーナーは、イルカに乗る・芸をさせるという、教育にも、種の保全にも、研究調査に関係ないことをさせています。水族館は、このような非倫理的で反自然的な軽々しい行為を行うべきではありません。

第四節　解放

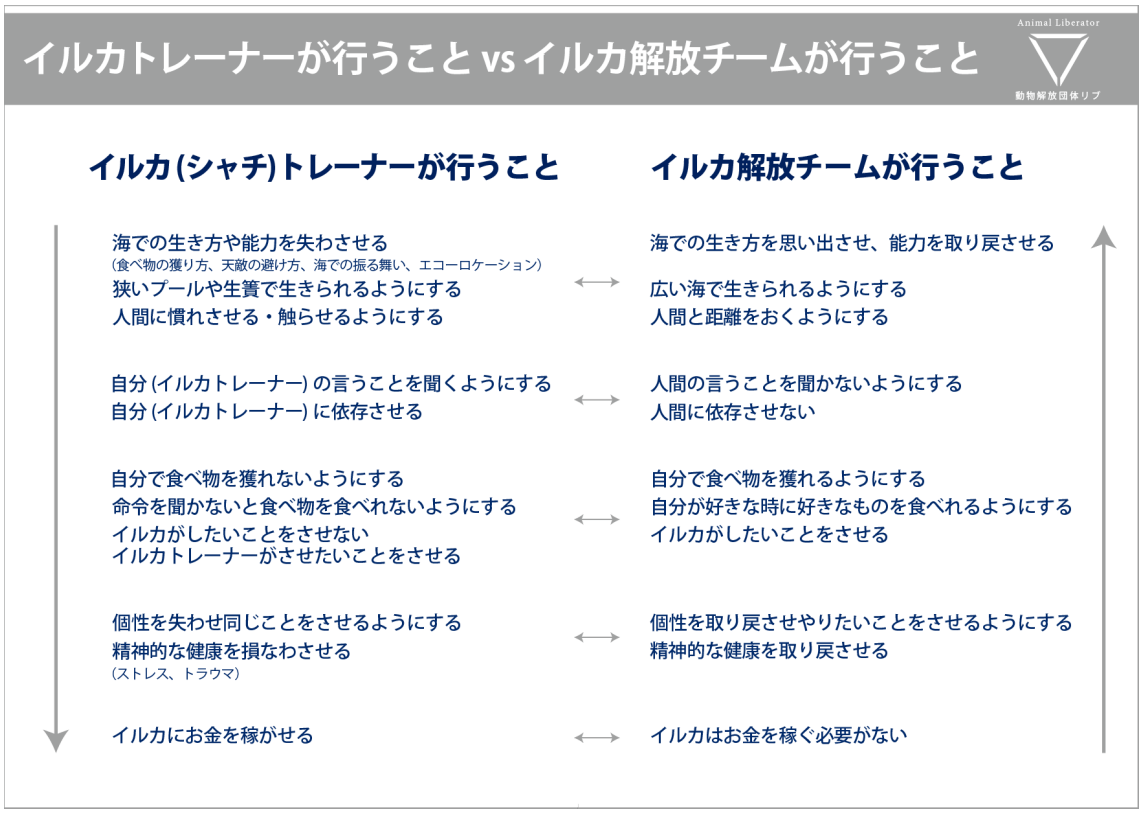
動物の解放は、「Ⅰ人間の支配下にある動物の解放」と、「Ⅱ野生動物の解放」に分けられます。人間の支配下にある動物の解放は、「Ⅰ_1 現在 人間の支配下にある動物の解放」と「Ⅰ_2 未来 人間の支配下になる運命の動物の解放」に分けられます。
「Ⅰ_1 現在 人間の支配下にある動物の解放」活動とは、畜産動物や実験動物をレスキューし終生お世話する事業、動物園や水族館に監禁されている動物を野生に再導入する活動などです。
「Ⅰ_2 未来 人間の支配下になる運命の動物の解放」活動とは、家畜動物や実験動物など、人の手によって妊娠出産させられる動物を解放すること。つまり、これ以上動物を妊娠出産させないようにする事業です。この事業が最も重要になります。
「Ⅱ野生動物の解放」活動は、野生動物の捕獲、監禁、殺害を止める事業です。
イルカの解放はこの3パターンすべて必要です。本節では、「Ⅰ_1 現在 人間の支配下にある動物の解放」について記述します。人間の支配下にあるイルカ、つまり水族館等に監禁されているイルカの解放は、専門家を中心としたイルカ解放チームで行います。

第一項　イルカ解放チームが行うこと

イルカ解放チームは、イルカトレーナーが行うことと反対のことを行います。つまり、イルカトレーナーは、イルカの身体的精神的自由を奪い、食物を使って人間に依存させる技術を用い、支配下に置きます。一方、イルカ解放チームは、身体的精神的な自由を取り戻させるためにリハビリをし、依存から脱却し、自立させる技術を用います。

以下に具体的な手法を対比して記述します。
イルカトレーナーが行うこと ↔ イルカ解放チームが行うこと
海での生き方や能力を失わさせる ↔ 海での生き方を思い出させ、能力を取り戻させる（エコーロケーション、食べ物の獲り方、海での振る舞い、危険の避け方等）
狭いプールや生簀で生きられるようにする ↔ 広い海で生きられるようにする
人間に慣れさせる・触らせるようにする ↔ 人間と距離をおくようにする
人間(イルカトレーナー)の言うことを聞くようにする ↔ 人間の言うことを聞かないようにする
人間(イルカトレーナー)に依存させる ↔ 人間に依存させない
イルカが自分で食べ物を獲れないようにする ↔ イルカが自分で食べ物を獲れるようにする
決まったことをしないと食べ物を食べられないようにする ↔ 自分が好きな時に好きなものを食べれらるようにする
イルカがしたいことをさせない。イルカトレーナーがさせたいことをさせる ↔ イルカがしたいことをさせる

個性を失わせ同じことをさせるようにする ↔ 個性を取り戻させやりたいことをさせるようにする
精神的な健康を損なわさせる ↔ 精神的な健康を取り戻させる
イルカにお金を稼がせる ↔ イルカはお金を稼ぐ必要がない
［図： イルカトレーナーが行うこと vs イルカ解放チームが行うこと］



第二項　解放の実績

水族館はこれまでイルカの解放は不可能だと主張し、現在でもそう主張し続けています。解放できることがわかってしまったら、自分達のイメージ・ビジネス・金儲けにとって不利だからです。しかし実際には、国・学者・NGO・活動家、さらには水族館自身によってもイルカやシャチ等鯨族の解放が行われてきました。かつては水族館が不要になったイルカを海に捨てていたことすらあります。
解放の実績を年ごとに列挙します。

1973　アメリカ

オポというイルカを解放。詳細不明。

1974　バハマ

リバティとフロリダというイルカが解放されました。この2名のイルカは2年間監禁、リハビリを受けたのち解放されました。「イルカのジョジョ」はこの2名のうちの1名の可能性があります。

1987.07.13　アメリカ

バンドウイルカのジョーとロージーがジョージア州沖で解放されました。1980年ミシシッピ州メキシコ湾で捕獲されたイルカで、ジョン・C・リリーとヒューマン・ドルフィン・ファンデーションによる実験JANUS：ヤヌス (Joint Analog Numerical Understanding System) のために捕獲されたイルカたちでした。解放したのはフロリダ州のドルフィンリサーチセンターやドルフィンプラスなど。解放チームにはリック・オバリー氏もいました。解放後、ジョーは単独で生きているようでしたが、他のイルカたちが近くにおり、そのイルカたちと行動を共にしている可能性もあります。ロージーは、地元のポッドに合流し暮らしていました。

1990.10.10　アメリカ

バンドウイルカのエコーとミーシャがフロリダ沖で解放されました。彼らは1988年に同海域で捕獲され監禁されました。ロングマリンラボがエコーロケーションの研究に使用するためであり、計画当初から、計画が終わったら解放する計画でした。
再適応するためのリハビリ後解放され、12日後にはポッドに合流しています。

1992.01.13　オーストラリア

オーストラリア西岸のパースからバンドウイルカ9名が解放されました。うち3名が再捕獲され、6名は不明となりました。
1981年アトランティス マリン パークが7名のバンドウイルカを捕獲。うち2名が死亡し、5名に減りました。その後4名の子供が誕生し、計9名になりました。
1990年8月施設が閉鎖されたため、9名（大人5名＋子供4名）のイルカを海に戻すことになりました。うち大人の女性1名は妊娠しており、子供のうち最年少は生後2か月でした。
1992年1月13日生簀の扉が開けられました。14日ラジャ(大人)が出ましたが、19日痩せ細って発見されたため再捕獲。16日他のイルカたちが生簀を出ましたが、エコー(子供)は、数日後に劣悪な状態で再捕獲。ミラ(大人)は子供を連れていましたが、2月28日に再捕獲、子供はおそらく死亡。他6名のイルカについては、無線タグをつけているイルカの目撃情報はありましたが、行方はわかりませんでした。水族館が行った解放は悲惨な結果に終わりました。

1991.09.10　UK

バンドウイルカ3名、ロッキー、ミッシー、シルバーが解放されました。解放を行ったのは、ボーンフリー財団とBDMLR。作戦名はIn To The Blue。

ミッシー：1969年米テキサス州ビロクシ沖で捕獲→ブライトン水族館に22年監禁

ロッキー：1971年米フロリダで捕獲→モアカム のマリンランドに20年監禁

シルバー：1978年に台湾沖で捕獲→ブライトン水族館に13年監禁

1991年9月10日、3名はカリブ海のUK領であるタークス カイコス諸島で解放されました。

解放された後、シルバーは台湾沖で捕獲されたイルカなので、外来種を再導入してしまいました。シルバーは1,2週間後に痩せ衰えているところを発見され、解放チームから食べ物と薬をもらって以降、誰も目撃されていません。

1993　ブラジル

フリッパーと名付けられたイルカが1993年解放されました。

フリッパーは1981年に捕獲され、サントス近くの遊園地に監禁されていました。WSPA (World Society for the Protection of Animals：世界動物保護協会) がリック ・オバリー氏を雇い解放を行いました。解放後フリッパーは人間と交流し、食べ物をもらっていました。

元々フリッパーは地元漁民と協力して漁を行っていたイルカの一人でした。

1996年5月16日　アメリカフロリダ州

ボギーとバコールが入っている生簀の網が切られ、解放されました。

1994年8月モリー(高齢)、ボギー(F)、バコール(F)は、会員制クラブであるオーシャン リーフ クラブから、シュガーローフ ドルフィン サンクチュアリ(SLDS：Sugarloaf Dolphin Sanctuary)に移されました。このプロジェクトを行なったのはドルフィンアライアンス（リック・オバリー、ジョー・ロバーツ）、プロジェクト名はウェルカム ホーム プロジェクトでした。SLDSを所有運営していたのは、グッド家の息子、ロイド氏。グッド家は別にシュガーローフロッジを運営しており、生簀には、1968年からシュガーグッドというイルカが監禁されていました

1994年11月元海軍のイルカ 、ルーサー(M)、バック(M)、ジェイク(M)がサンクチュアリに到着。これは米国人道協会 (HSUS) が主導しています。。

1995年6月5日、ロイド氏が元海軍のイルカ3名が入った生簀の扉を解放しましたが、彼らは外に出ませんでした。その後ロイド氏は、ボギーとバコールの生簀にルーサーを入れてしまい、その結果2名とも妊娠（後にボギーは流産)。この件がきっかけで、ロイド氏と、ドルフィンアライアンス、HSUSは袂をわかっています。

1995年8月30日、ドルフィン アライアンスはボギーとバコールをフロリダ州メルボルンの生簀に移送、ボギーはストレスにより流産。

1996年5月16日、何者かによってフェンスが切断されボギーとバコールは姿を消しました。両名とも数回目撃されましたが、6月14日以降不明です。

1996.05.23　アメリカ フロリダ州

上記のシュガーローフ ドルフィン サンクチュアリの続きです。
1996年5月16日以降、SLDSには、先住のシュガーグッド、モリーと、元海軍のイルカ、ルーサー、バック、ジェイクの5名がいました。
リック・オバリー氏は、行政の許可を待たず、ルーサーとバックをキーウェストの海岸から約10km沖で解放しました。解放後、1名は負傷しマリーナで人間に食べ物をねだっていたところを政府関係機関等によって再捕獲、もう1名は2週間後約65km沖で負傷し痩せ衰えているところを発見され再捕獲されました。
NOAAは、科学的根拠なしにイルカを解放することのリスク、解放されたイルカに及ぶ危険、イルカが解放される海域に住んでいる動物たちに及ぶ危険、病気の伝染、遺伝子汚染などのリスク、また、解放にあたって人間に依存しないで生きていくためのリハビリや訓練等解放プロトコルの重要性について伝え、警告していました。しかしオバリー氏たちが解放を強行してしまいました。
NOAAは許可を得ずに違法にイルカを解放したとして、リック・オバリーなど4名を告発。彼らは海洋哺乳類保護法違反で罰金刑の有罪判決を受けました。
ここでは語られていない、オバリー氏たちの主張もあるでしょう。しかし、この事件は明らかにイルカ解放活動家のミスでした。解放の主人公であるイルカたちが被害を負ったからです。
イルカたちのその後ですが、シュガーグッドはシュガーロッジに残ったまま1997年7月死亡。モリーとバックはDolphin Research Center (DRC) に移送。ルーサーとジェイクはサンディエゴの海軍施設に移送されました。

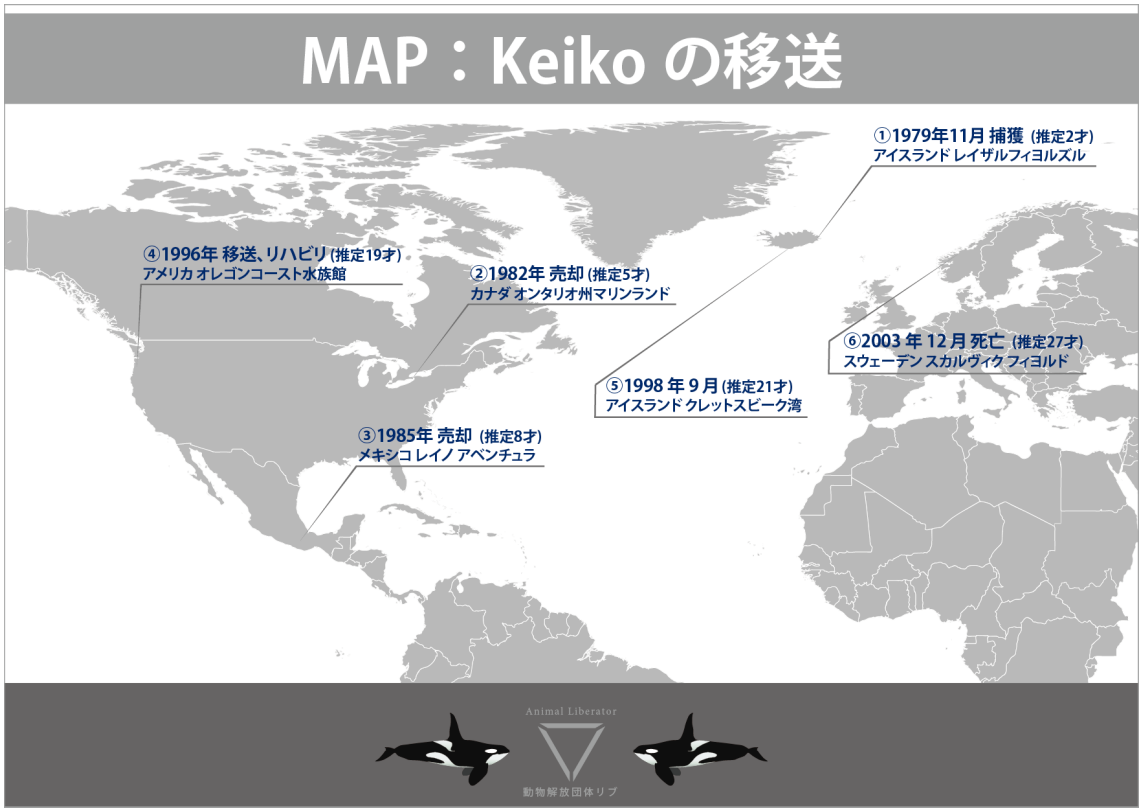
1996.08.23　ロシア

バンドウイルカのディッキー(M)とベラ(F)を黒海に解放しました。
ディッキーは1990年6月から、ベラは1997年 7月から監禁されていました。
ロシア科学アカデミー セヴェルツォフ生態学・進化研究所 ユトリシュ・ドルフィナリウムが、ディッキーを解放するために、ベラを捕獲し、ベラにディッキーを誘導させるという研究を行うためでした。
その後、ディッキーとベラがポッドに合流し泳いでいるところや魚を獲っている姿などが目撃されています。

1996　Keiko

鯨族の解放で最も有名になったのはシャチのKeiko(ケイコ)でしょう。
［本文参照：第一部 第三章 第六節 第五項　水族館［有名なシャチ］］

［MAP：Keikoの移送］



1979年11月(推定2才)、Keikoはアイスランド・レイザルフィヨルズルで捕獲されました。日本の女性の名前が付けられたのは、当初日本に輸出される予定だったからのようです。同じ時に、鴨川シーワールドに監禁されたカレン、キングが捕獲されています。同じポッドだったのかもしれません。

Keikoはカナダの水族館に売られ、その後メキシコの劣悪な施設、レイノアベンチュラに売却されました。この時に映画「フリーウィリー」の主人公として描かれたのをきっかけに、Keikoの解放運動が始まりました。

1996年(推定19歳)、監禁されて17年後、アメリカ・オレゴンコースト水族館でリハビリが始まりました。

1998年(推定21歳)、約19年ぶりに故郷のアイスランドへ米空軍の軍用機で11時間かけて輸送され海の生簀に入れられます。

［URL：Keikoの輸送：https://youtu.be/XnuJBnU5Ohs］

彼はほぼ4年の間、ときどきリハビリ用のモーターボートについて自然海の中に行ったりしながら。生簀と入江の中で過ごします。

［URL：Keikoがボートについていく姿、シャチのポッドに合流するところ(2:22〜)：https://youtu.be/3yfd_xB5B0w］

2002年7月15日(推定25歳)、ついにKeikoは入江から出て、ノルウェーまで1400kmの距離を移動しました。Keikoには衛星タグがつけられており、移動の間常に居場所を特定されてい

ました。ノルウェーのタクネス湾に着いた時、彼がまだ人間を必要としているということが分かりました。リハビリチームがノルウェーまで行き、Keikoのケアを行いました。Keikoはいつでも外界に出られる状態でしたが湾に止まり、15ヶ月間人間と共に過ごしました。
2003年12月肺炎で亡くなりました。
この時Keikoのリハビリを行ったナオミ・ローズ(Naomi Rose)博士にお話を伺ったところ、ケイコが本当に自然の海に帰ったと言えるのは2002年ノルウェーまで移動した3週間、彼が自分で食糧を獲得していた時のみだったとおっしゃっていました。

2001.08.31　グアテマラ

移動イルカショー「ムンド・マリノ」に利用されていた4名のうち2名、アリエル(F)とターボ(M)を解放しました。
2000年8月両名ともグアテマラ沖で捕獲。グアテマラ国立保護区評議会がイルカを押収し、地元の団体MadreSelva、世界動物保護協会 (WSPA)、リック・オバリーが解放を準備。両名とも解放しました。

2010　トルコ

バンドウイルカのミーシャ(Misha)とトム(Tom)が救出され、解放されました。

作戦名は、Back To The Blue。1993年に地元の活動家ネットワークと、Into The Blueを行ったBDMLR とボーンフリー財団が協力し、解放しました。
時系列は以下です。
2010年　2名の男性のバンドウイルカ、トムとミーシャがトルコの水族館からヒサロヌの山岳リゾートのプールまで運ばれ、観光客の見せ物や触れ合いに利用されていました。これに反対するデモやSNSキャンペーンが起こります。彼らは地中海で捕獲され監禁されており、推定12歳。解放チームは、地中海に生簀を作りリハビリテーションプログラムを開始します。
2012年　トム、ミーシャを解放。後にトムは漁師に危害を加えられそうになったため、移動しました。
ミーシャとトムの解放のストーリーは「海に帰れないイルカ」という本として日本語でも出版されています。以下の動画では、実際の解放の様子を見ることができます。
［URL：ミーシャとトムの解放：https://youtu.be/fPOHDO_6PRI］

2013　韓国

韓国ではこれまで7名のミナミバンドウイルカが解放されており、現在8名目のイルカが解放に向けてリハビリ中です。以下に解放されたイルカと解放準備中のイルカの名前、捕獲監禁と解放を時系列で記述します。検索用の参考に、韓国語でイルカは돌고래です 。イルカの名前の韓国表記も記述しています。

名前（ローマ字／韓国語(性別)・捕獲日～解放日　監禁した水族館）

名前 捕獲順

デポ（Daepo／대포 (M)：1997～2017.07　ソウル大公園）

クムドゥン（Geumdeung／금등 (M)：1998～2017.07　ソウル大公園）

ジェドル（Jedol／제돌 (M)：2009.05～2013.07　ソウル大公園、済州パシフィックランド）

ビボンギ（Bibongi／비봉이 (M)：2005～2022時点解放準備中　済州パシフィックランド）

サムパル（Sampal／삼팔 (F)：2009-10～ 2013.06　済州パシフィックランド）

チュンサミ（Chunsam／춘삼 (F)：2009-10～ 2013.07　済州パシフィックランド）

テサン（Taesan／태산 (M)：2009-10～2015　済州パシフィックランド）

ポクスン（Boksun／복순 (F)：2009-10～2015　済州パシフィックランド）

*済州パシフィックランド(Jeju Pacific Land)は、現在Pacific Resom に名称変更

*ソウル大公園は、ソウル動物園

名前 解放順

解放1回目（2013.06-07）

サムパル（Sampal／삼팔 (F)：2009-10～ 2013.06　済州パシフィックランド）　*アジアで初めてのイルカ解放

ジェドル（Jedol／제돌 (M)：2009.05～2013.07　ソウル大公園、済州パシフィックランド）

チュンサミ（Chunsam／춘삼 (F)：2009-10～ 2013.07　済州パシフィックランド）

　*背ビレに「2」という数字が白い色で入れられている

解放2回目（2015.07）

テサン（Taesan／태산 (M)：2009-10～2015　済州パシフィックランド）

　*上顎が切られていて短い

ポクスン（Boksun／복순 (F)：2009-10～2015　済州パシフィックランド）

　*吻が左右にズレている

解放3回目（2017.07）

デポ（Daepo／대포 (M)：1997～2017.07　ソウル大公園）

クムドゥン（Geumdeung／금등 (M)：1998～2017.07　ソウル大公園）

解放4回目（？）

ビボンギ（Bibongi／비봉이 (M)：2005～2022時点で解放準備中　済州パシフィックランド）

タイムライン：捕獲監禁と解放

2005　ビボンギ：済州島沖で混獲され、済州パシフィックランドに監禁

2009-10　サムパル、チュンサミ、テサン、ポクスン：他のイルカと計11名が漁師によって違法に捕獲された。漁師は済州パシフィックランドに売却。11名のうち生き残ったのは5名。1名は2013年にソウル大公園に監禁されているところを発見。5名に何が起こったのかは不明。
2012　韓国政府が、ミナミバンドウイルカ（Indo-Pacific bottlenose dolphin）を絶滅危惧種に指定。この時8名のミナミバンドウイルカが韓国内に監禁されていた
2013.03　動物擁護団体と環境保護活動家の同盟 vs 済州パシフィックランドの法廷闘争の末、韓国大法院は済州パシフィックランドに、サムパル、チュンサミ、テサン、ポクスンの解放を命じる
ソウル市長が、ソウル大公園に監禁されているジェドルは、済州パシフィックランドから購入されたことを知り、解放することを決定。ソウル市長と韓国動物福祉協会(Korean Animal Welfare Association)が、予算100万ドル(1億4880万円(1$=148.8円))で解放プロジェクトを開始。
ジェドル、サムパル、チュンサミ：済州島沖の生簀でのリハビリ。
リハビリ中、Indo-Pacific bottlenose dolphinのポッドが3回生簀にきて、ジェドルたちと交流した。
テサン、ポクスンは健康状態(先天性奇形、重度のうつ病)が悪く、解放は見送られた。
解放1回目（2013.06-07）
2013.06　サムパル：解放。ネットの穴から自然に帰る。アジアで初めてのイルカ解放。
2013.07　チュンサミ、ジェドル：解放。
2014.04　サムパル、ジェドル：泳いでいる姿が済州島沖で確認される。
2015.05.20　テサン、ポクスン（ソウル大公園で2年リハビリ後）済州島沖の生簀でリハビリ。深刻な鬱、絶食を繰り返していたため海に帰る準備ができていなかったのではないかと懸念していたが、海の生簀に入れられると途端に元気になった。韓国鯨類研究所の研究者は、済州海域に帰ってきたと感じたに違いない、と話した。
2015.06.06　テサン、ポクスンの生簀の周りを、約30名のポッドが飛び跳ねながら泳いでいるのが観察された。 このグループの中には、2009 年にテサンやボクソンと同じように不法捕獲され、2013.07に解放されたジェドルがいた。
解放2回目（2015.07）
2015.07　テサン、ポクスン解放。
［URL：テサン、ポクスンの解放：https://youtu.be/7I07r-mOdiI］
2016.03.21　ポッドに合流したテサンとポクスンの姿が撮影された。1回目に解放されたジェドルも一緒にいた。
［URL：https://youtu.be/t0hvFHw_EX8］
2016.04　サンパル(解放1回目)：55名のポッドの中にいて、自分の子供と一緒に泳いでいるのが確認された

［URL：子供と泳ぐサンパル：https://youtu.be/vow2vS66rf8］

2016.08　チュンサミ(解放1回目)：自分の子供と一緒に泳いでいるのが確認された。

［URL：子供と泳ぐチュンサミ：https://youtu.be/PbmaWmFGQdo］

2016.07　デポ、クムドゥン：海洋水産部とソウル市が野生に戻すことを決定。

2017.05　デポ、クムドゥン：済州島の咸徳港近くのタンクでリハビリ開始。

解放3回目（2017.07）

2017.07　デポ、クムドゥン：解放。20年間監禁後、済州島沖に解放。

［URL：デポ、クムドゥンの解放：https://youtu.be/ZOiXvIa-Y4I］

2018.08　ボクスン(解放2回目)に子供ができたことを確認。

解放4回目

2022.08.03　韓国海洋水産省が ビボンギ解放のための準備を開始していると発表。

解放に関係した専門家や団体（一部）

キム・ビョンヨプ教授(Prof. Kim Byeong-yeup)： 済州大学：解放プロジェクト担当

パク・ウォンスン(Park Won-soon)：ソウル市長。イルカの解放を命じる

海洋水産部 鯨類研究所（ソン・ホーソン研究員）

Hot Pink Dolphins

［URL：Hot Pink Dolphins：http://hotpinkdolphins.org/］

2019　ロシア：イルカ監獄（Whale jail）

数年前、大量のベルーガやシャチが凍った海の生簀に閉じ込められている映像が、SNSのタイムラインに頻繁に上がってきました。世界中で抗議と解放を求める声が大きくなっていきました。日本でも活動家はもちろん世間に広く知られ関心が高まります。それから1年弱でシャチとベルーガたちは解放されました。

タイムライン

2018夏　ロシアの企業4社が数ヶ月をかけて、シャチ12名、ベルーガ90名、計102名を捕獲し、ナホトカ近くのスレドニャヤ湾の生簀に監禁。中国の水族館に販売するために捕獲されたと考えられている。のちにシャチ1名逃走、1名行方不明、ベルーガ3名逃走。残シャチ10名、ベルーガ87名の97名。ベルーガのうち15名は子供たちだった。

2019.01　ロシアの環境活動家によって生簀が発見される。ドローンで撮影され、世界中が知ることとなり、抗議が殺到。Change.orgの署名に100万人近くが署名

ロシア当局はこの施設からの輸出を禁止する

2019.01.18-19　ロシア当局が研究者チームを派遣。シャチとベルーガの状態は悪いとの報告。

［URL：National Geographic：https://youtu.be/YSRrzS6a-jA］

2019.06　最初、シャチ2名とベルーガ6名を輸送トラックに乗せ、1800km離れたオホーツク海に解放。次に、47名を解放。

［URL：輸送の様子：https://youtu.be/L06LdV1VLMA］

［URL：解放の様子：https://youtu.be/WReGgchVypQ］

2019.11.10　VNIRO（ロシア漁業海洋学研究所）が、ベルーガ50名をイルカ監獄から100km離れたウスペニヤ湾まで10日かけて輸送し解放。シャチとベルーガすべての解放が完了する。

2021.12.02　ロシア当局が、イルカ監獄を解体したと発表

ロシア当局は、漁業法違反として4社を告発。4社は海外の水族館に動物を売ったことがあり、違法捕獲で罰金が課されていたようです。4社の主張は「教育目的で水族館に売っている」でした。水族館の主張と同じです。

2019　インドネシア

インドネシアでのイルカ解放プロジェクトは、ドルフィンプロジェクトが主導し、インドネシア政府、環境林業省、国立公園、警察海兵隊などと共に行われました。

名前（ローマ字(性別)・捕獲日・捕獲場所・監禁した水族館・備考）

名前

ジョニー（Johnny((M)・不明・ジャワ海・巡回サーカス→メルカ・エクセルシオール ホテル・塩素のために皮膚病などに悩まされていた）

ランボー（Rambo(M)・不明・不明・巡回サーカス→メルカ・エクセルシオール ホテル）

ロッキー（Rocky(M)・不明・不明・巡回サーカス→メルカ・エクセルシオール ホテル）

タイムライン

2019　ジョニー、ランボー、ロッキーが、メルカ・エクセルシオール ホテル（閉業）から救出され、バニュウェダン湾のウマルンバ リハビリテーション・リリース・リタイアメントセンター(Umah Lumba Rehabilitation, Release and Retirement Center)でリハビリが開始される。ウマルンバセンターは、2020年新設されたイルカ解放のための恒久的な施設。

2022.09.03

ジョニー、ランボー、ロッキーが解放される。解放後は衛星やドローン等で追い、最大1年間モニターしている（GPSモジュールのバッテリーが切れたらモニターができなくなる）

［URL：イルカたちの解放：https://youtu.be/Kqlw8me_ek4］

第三項　解放の手順

解放の手順は以下の3つに分けられます。

1. チーム編成
2. リハビリと解放

3. 追跡

実際は、種や個体、環境等様々な要因によって手順が細分化・複雑化していきます。参考までにシャチのKeikoと韓国のミナミバンドウイルカの解放手順を参考に、概略を以下に記載します。

Keikoの手順

1. 解放できるかどうかを検討する（健康状態、能力、年齢等）。
2. プールの中で可能なリハビリを行う。
3. 海の入江を網で仕切り、その中に生簀を設置し、Keikoを移送する。
4. 慣れてきたら生簀の扉を開き、入江を自由に泳げるようにする。
5. リハビリが進んだら、入江の網を開き、生簀、入江、外界の出入りを自由にできるようにする。
6. ボートなどで一緒に外界に行くなどしてリハビリすることもある。
7. 入江に留まるか、入江から出て自然に戻るか、自由意志に任せる。
8. 入江に留まる場合は、終生お世話をする。
9. 自然に戻った場合は、GPSで追跡し安全や健康状態などを確認する。

韓国の手順

1. 解放できるかどうかを検討する（健康状態、能力、年齢等）。
2. タンク(プール)の中で可能なリハビリを行う。
3. 海に生簀を設置し、イルカを入れ、リハビリを行う。
   * 人間とのコミュニケーションを減らすため、接触を可能な限り減らす。
4. 自然界で生きていけそうだと判断したら、生簀の網を取り除き、解放する。
5. 自然に戻った場合は、GPSで追跡し、船やドローンによって安全や健康状態などを確認する。

第四項　イルカ解放チーム

鯨族の解放は専門的なスキルを持ったチームで行います。チームは、ディレクター、プロジェクト・マネージャー、スタッフ・ボランティア、獣医師等で構成されます。

ディレクターは、鯨族のリハビリと解放の専門家が就任し、全体の指揮や関係各所との調整を行います。プロジェクト・マネージャーは、スタッフ管理や書類管理等現場を取り仕切ります。スタッフ・ボランティアは、イルカの世話や清掃業務などをおこないます。獣医師はイルカの保健や移送や緊急時の対応を行います。

リハビリと解放の専門家

世界各地の鯨族解放に関わり、現場活動やアドバイス等を行なっている人々を一部挙げます。各地の専門家や団体は第一項のケースごとに記述しています。

リック・オバリー

Dolphin Project代表。元イルカ捕獲者、イルカトレーナー。世界各地でイルカの解放に携わっている。

ナオミ・ローズ(Dr. Naomi Rose)

生物学博士、海洋哺乳類科学者、IWC科学委員会メンバー(環境問題とホエール ウォッチングに関する小委員会)、クジラサンクチュアリプロジェクト(The Whale Sanctuary Project)役員

1993.05–2013.07(20年3ヶ月)　米国人道協会(The Humane Society of the United States)、ヒューメインソサエティ・インターナショナル(Humane Society International)

2013 – 現在(9年)　AWI(Animal Welfare Institute)

シャチのKeikoの解放に関わった。

［URL：From The Dolphin's Point of View：https://www.facebook.com/frdolphinPOV］

ロリ・マリーノ(Lori Marino)

生物心理学博士、神経科学者、動物の行動と知能の専門家、エモリー大学教員、キンメラ動物擁護センター創設者兼事務局長、クジラサンクチュアリプロジェクト創設者・社長

鯨類、霊長類、家畜動物の脳と知能の進化に関する研究で国際的に知られている。初めて、バンドウイルカの鏡像自己認知の決定的証拠を提出。

キンメラ動物擁護センター(The Kimmela Center for Animal Advocacy)は、学問・研究と、動物擁護活動現場のギャップを埋めることに重点を置いている。

ジェフ・フォスター(Jeff Foster)

シーワールド、シアトル海洋水族館で勤務：捕獲、蓄養、訓練、リハビリテーション、研究、解放などを行う。Keiko プロジェクト、フィールド オペレーション、リサーチディレクター、トルコでのイルカ解放プロジェクト責任者、クジラサンクチュアリプロジェクト 動物の移送及びリハビリコーディネーター

団体

Dolphin Project
Whale Sanctuary Project
［本文参照：第七部 第二章 第一節　主な団体と活動］

第五項　解放が難しい理由

自然界で生きるために必要な能力が失われる

自然界で生きるイルカは、親や仲間から、食べられる魚やイカ、それらがいる海域、季節や海流の変化による移動、岩や海藻、危険な場所、敵や味方などを教わります。海で生きるにはそれらの知識や経験は欠かせません。魚を食べるときや、危機を回避するとき、仲間とコミュニケーションする時には、エコーロケーションの能力が必須です。魚を追って、口に入れる、尾で叩いて気絶させる、浜に追い込むなど、様々な捕り方も知らないといけません。

しかし水族館に監禁されたイルカは、監禁期間が長くなるほど、それらの能力を失います。コンクリートに囲まれた水族館のタンクの中では、エコーロケーションはほとんど不要ですので、能力は減衰していきます。
野生で捕獲されたイルカは、時間と共に魚の取り方を忘れ、海で生きていくための様々な能力が衰え、自然の中で生きていくことが困難になってしまいます。
監禁下で生まれたイルカは、最初からその能力を獲得することはありません。

健康状態

解放しようとするイルカの過去から現在までの健康状態の詳細な記録は、イルカ解放において必須の情報です。もし、健康な状態でなければ海に帰すべきではありません。水族館のイルカは、細菌やアレルギーや皮膚病、胃腸炎、肺炎などに罹っている場合があります。つまりどんな病気を持っているか不明である場合、自然界に解放することはできません。自然界に解放した場合、野生のイルカや海洋環境に悪影響を与える危険性があります。

家族(ポッド)に合流できない

水族館に監禁されているイルカは、イルカ漁師や水族館によって家族と引き離され、場合によってはすでに殺されてしまっています。自然に帰ることができたとしても、家族はすでに死んでいるか、例え生きていたとしても陸地の7倍の面積、さらに深さがある海で、再会できる確率は極めて低いでしょう。イルカは家族を中心としたポッドで支え合いながら生きる動物です。一人で海に返して、一人で生きていくことは困難です。
なんのケアやサポートもなく監禁から解放されたイルカは、一人で生きていくか、他のポッドに仲間に入れてもらうか、いずれにせよ生きていくには難しい状態に陥ります。

繁殖された子は海に戻れない

水族館監禁下で生まれたイルカを解放することは不可能でしょう。繁殖で生まれたイルカは、そもそも海を経験したことがありません。もし、生まれてすぐに、監禁されたばかりの母親と同じポッドの女性たちと一緒に解放されたら可能性はあるかもしれません。
しかし、4世代目、5世代目ともなるとまったく海を体験していませんし、海が存在することを知らないイルカもいるでしょう。
人間で考えると、牢屋の中で生まれ、そこで育ってきた人は、牢屋の中で生きる方法しか知りません。外に何があるか、どんな生き物がいるか、どんな社会があるかは全く知らず、看守のために芸をすると食べ物が得られることだけを知っています。
水族館で生まれたイルカは、波や潮汐どころか、岩も海藻も、生きている魚すら見たことがありません。早く泳ぐことも遠く泳ぐことも、波に抗って泳いだこともありません。すばしっこい魚やイカを追いかけて工夫して獲って食べる代わりに、人間のために芸をすることで魚が得られるという経験しかありません。父も母も祖父母も、その前の世代もずっとそうやって生きてきました。親に教えられたのは、牢屋の中で生きる術です。

一度解放されたイルカが戻ってくる

自然に還された鯨族が、再び人間の元に戻ってきてコミュニケーションを求めたり、食べ物を求めることがあります。シャチのKeikoのケースが典型的です。戻ってきたイルカに対して、解放者は様子を見ながら、必要であれば食べ物を提供するなどし、人間に依存しないように調整します。

コスト

ナオミ博士によると、鯨類のリハビリは非常に高額で、最低でも数万ドル〜数十万ドル（2万ドル〜20万ドルとして、約300万円〜3000万円（1$=149円 2022年10月16日））はかかるということでした。主な費用は、生簀の建設、入江に張るネット、鯨類の食料費、人件費。年間の運営費は20万ドル(3000万円)くらい。

Keiko解放の時には、更に観察用ボート、ヘリコプターなど高額な機材、また、ケアや調査のための大編成のチームがくまれ何百万ドルという費用がかかり、総費用は約2000万米ドル、約30億円かかったと言われています。

第六項　捕獲しなければ解決する

イルカ解放について、イルカ漁からの解放と、水族館からの解放について考えてみます。

イルカ漁からの解放は非常に単純であり、捕獲しないことです。今すぐにできます。何もしなければ良い。

水族館からの解放は困難を極めます。これまでイルカやシャチの解放を試みてきた数多くの人々がいますが、失敗も成功もありました。知識と経験がない時代、イルカやシャチは海に離せば生きていけると思っていました。しかしその結果、深刻な栄養失調になって再捕獲したり、イルカが行方不明になり生死が不明になるなど取り返しのつかない失敗を招きました。水族館は監禁や繁殖のための研究、つまり商材を維持し続けるための研究には熱心ですが、解放するための研究は行いません。難しく、コストがかかるから、そして解放できることがわかってしまったら困るからです。

捕獲するのは簡単ですが、解放するのは難しい。つまり捕獲しなければ、解放も不要なのです。

第五節　サンクチュアリ

サンクチュアリ

・人間が動物を搾取、殺害できない地域や海域。自然保護区。

・怪我や病気になった動物、畜産業や動物園水族館からレスキューされてきた動物を保護し、治療し、自然死するまで世話する施設。

を指します。

擬似サンクチュアリ

注意が必要なのは、動物保護に尽力してきた団体や人々が作り上げた「サンクチュアリ」という言葉のイメージを利用し、さらなる動物搾取や金儲けに利用する施設です。動物園水族館が実質的な商業施設をサンクチュアリであると偽装する、京都大学霊長類研究所がチンパンジーを繁殖させ日本各地の動物園に分配するような実質ブリーダー機能を持つ施設をサンクチュアリと称するといったケースです。見抜くポイントは繁殖です。繁殖した時点で、それは擬似サンクチュアリです。

第一項　海洋保護区

【IWC　インド洋サンクチュアリ】

場所　インド洋

設立年　1979

設立者　IWC

【IWC　南極海サンクチュアリ】

場所　南極海

設立年　1994

設立者　IWC

［URL］

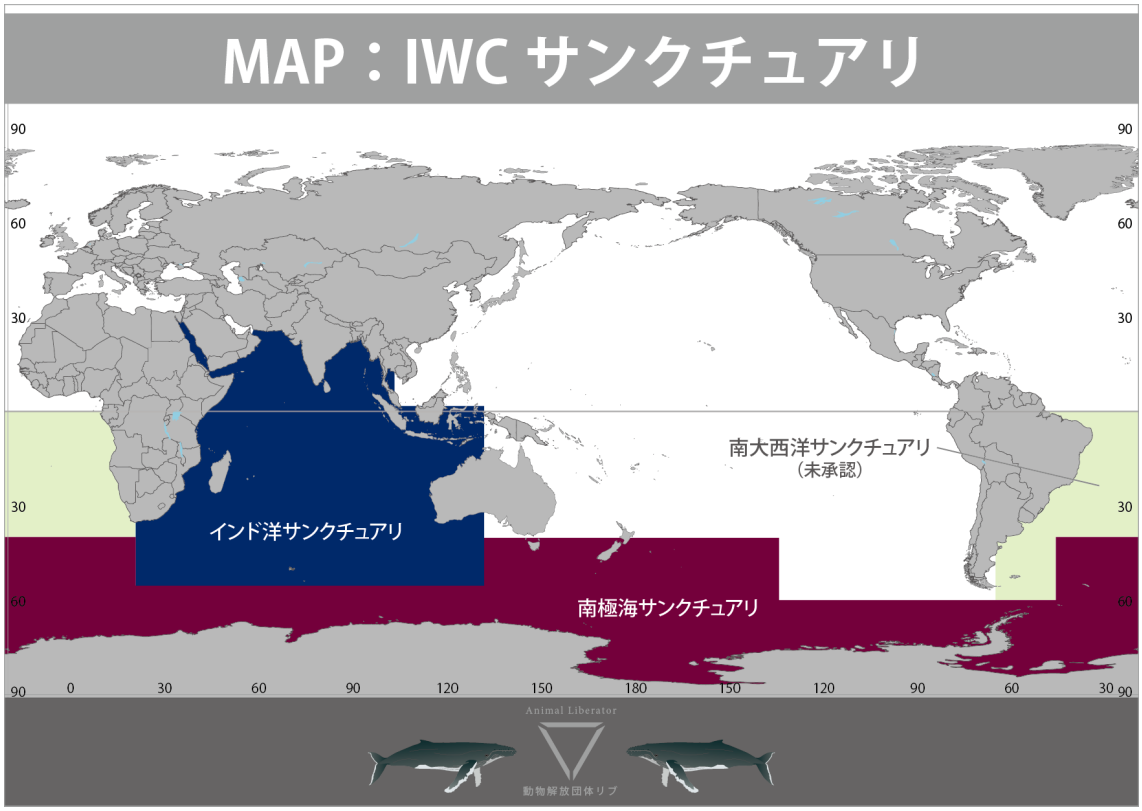
［URL：Website：https://iwc.int/management-and-conservation/sanctuaries］

［メモ］

IWC(国際捕鯨委員会)は、2つの海域をクジラサンクチュアリと設定し、商業捕鯨を禁じています。1979年インド洋サンクチュアリ、1994年に南極海サンクチュアリを設定しました。1994年南極海サンクチュアリ設定時、日本は反対します。さらにそれから20年後の2004 年の会合で日本はなんとサンクチュアリを撤去する提案を行います。反対30票で棄却されましたが、賛成25票ということで予断を許しません

1998年ブラジル政府が、IWCに南大西洋クジラ保護区を設立する提案を提出しました。2001年に最初に議案が提出され、否決。 日本は反対に回ります。現在は、アルゼンチン、南アフリカ、ウルグアイ、ガボン政府が、共同提案者として加わっています。

［MAP：IWCサンクチュアリ］



【Australian Whale Sanctuary】

オーストラリア・ホエールサンクチュアリ

［概要］

場所　オーストラリアの全水域

設立年　1999

設立者　オーストラリア政府

［URL］

［URL：Website：https://www.dcceew.gov.au/environment/marine/marine-species/cetaceans/australian-whale-sanctuary］

［メモ］

サンクチュアリ内でのクジラの殺害・暴力等は犯罪であり、厳しい罰則が適用されます。2008年オーストラリア連邦裁判所が、サンクチュアリ内での日本の捕鯨を違法としました。2015年には共同船舶株式会社が有罪判決（罰金100万オーストラリアドル（9100万円 1AUD＝91円））を受けました。

【Adelaide Dolphin Sanctuary】

アデレード・ドルフィンサンクチュアリ

［概要］

場所　オーストラリア

設立年　2005
設立者　オーストラリア環境省
管理者　国立公園・南オーストラリア州野生生物局
［URL］
［URL：Website：https://www.parks.sa.gov.au/parks/adelaide-dolphin-sanctuary］
［URL：Instagram：#adelaidedolphinssanctuary］
［メモ］
オーストラリア南部オーストラリア州セントビンセント湾に定住しているミナミバンドウイルカを保護するために設立されました。約30名のイルカが定住しており、約400名のイルカが訪れます。目的は、イルカを物理的危害から保護すること、生息地の復元・維持・保護、環境改善、また人間の利益を考慮すること、意識啓発などです。
保護にもかかわらず、誰かが散弾銃で撃ち殺したり、ボートと衝突したり、釣り道具を飲み込んだり、水質汚染による身体汚染などで死亡しています。
アデレードのミナミバンドウイルカはテイルウォークをすることで知られています。
［URL：https://youtu.be/6tn5TJfR3k4］

【Vikramshila Gangetic Dolphin Sanctuary：VGDS】
ヴィクラムシラ ガンジェティック ドルフィン サンクチュアリ
［概要］
場所　インド ガンジス川、ビハール州 バガルプール地区スルタンガンジ～カハルガオンまでの60kmの区間
設立年　1972
設立者　インド政府（野生生物 (保護) 法に基づ苦）
［メモ］
ガンジスカワイルカ、カワウソ、亀、魚などを保護している自然保護区。WDCS：Whale and Dolphin Conservation SocietyやWWF、地元の環境NGO等が協力しています。
引き続き、排水、肥料、家畜、漁網、ダムなどの脅威にさらされています。
［URL］
［URL：Wikipedia：https://en.wikipedia.org/wiki/Vikramshila_Gangetic_Dolphin_Sanctuary］
［URL：ガンジスカワイルカの保護活動：https://youtu.be/D3SfTBXlBqY］

【Whale and Dolphin Sanctuary of Uruguay Hope Spot】
ウルグアイ ホエール & ドルフィンサンクチュアリ ホープスポット
［概要］
場所　ウルグアイ海域

設立年　2013
設立者　ウルグアイ政府
［URL］
［URL：Wikipedia：https://storymaps.arcgis.com/stories/870e130d31b5460ca0ed887d9129cacf］
［メモ］
2013年、ウルグアイ議会は全会一致でウルグアイの海域をクジラとイルカの保護区にすることを決定しました。OCCウルグアイ(The Organization for The Conservation of Cetaceans - Uruguay)が鯨類の保護に力を尽くしています。2022年にウルグアイはこれまで排他的経済水域 (EEZ) の0.7%だった海洋保護区を10%に拡大することを決めました。そのうち60%を立ち入り禁止にしました。2030年までには30%にまで拡大する予定です。

第二項　民間サンクチュアリ

【Whale Sanctuary Project】
ホエール サンクチュアリ プロジェクト
［概要］
場所　カナダ ノバスコシア州 ポート・ヒルフォード
設立年　2019(?)
設立者　Dr. Lori Marino（ロリ・マリーノ）
人員　チーム
［URL］
Website　https://whalesanctuaryproject.org/
Facebook　https://www.facebook.com/whalesanctuaryproject/
Twitter　https://twitter.com/Whale_Sanctuary
Instagram　https://www.instagram.com/whalesanctuaryproject/
YouTube　https://www.youtube.com/c/WhaleSanctuaryProject
［メモ］
カナダに設営中のサンクチュアリです。チームには、ナオミ・ローズ博士やジェフリー・フォスターなど世界各地でイルカの解放に関わってきた人々が参画しています。科学者や研究者、弁護士、アナリスト、またEII、IMMP、AWI、PAWS、BFFなどの主要メンバー、そしてFree Willy Keiko Foundationの創設者がチームに入っています。
サンクチュアリの設営には、1,200万～1,500 万ドル（18～22.6億円）、クジラの世話には年間200万（3億円）ドルかかるとしています(1$=150.72円 2022.10.21)。
事務局長　チャールズ・ヴィニックのTED
［URL：クジラ（ウェイル）に壁（ウォール）はいらない：https://www.ted.com/talks/charles_vinick_whales_without_walls?language=ja］

【Camp Lumba Lumba Readaptation and Release Center 】

キャンプ ルンバ ルンバ、再適応・リリースセンター（*ルンバはインドネシア語でイルカの意）

［概要］

場所　カリムン ジャワ、ケムジャン(Kemujan, Karimun Jawa)

設立年　2011

設立者　インドネシア環境林業省(KAMENTERIAN LINGKUNGAN HIDUP & KEHUTANAN REPUBLIK INDNESIA)、ジャカルタ アニマル エイド ネットワーク（JAAN：Jakarta Animal Aid Network）、ドルフィンプロジェクト(Dolphin Project)

［URL］

［URL：Website：https://www.dolphinproject.com/campaigns/indonesia-campaign/dolphin-readaption-center/］

［メモ］

ウマルンバで解放ができると判断されたイルカは、キャンプ ルンバ ルンバに連れてきて、解放するようです。この場所は捕獲されたイルカたちの故郷近くで、仲間の元に帰ることができる可能性が高くなります。

【Umah Lumba Rehabilitation, Release and Retirement Center】

ウマルンバ、リハビリテーション・リリース・リタイアメント センター（*ウマルンバはインドネシア後でイルカの意）

［概要］

場所　インドネシア、バリ島西部のバニュウェダン湾

設立年　2019年9月

設立者　インドネシア環境林業省(KAMENTERIAN LINGKUNGAN HIDUP & KEHUTANAN REPUBLIK INDNESIA)、ジャカルタ自然保護センター(BKSDA)が起案。

ジャカルタ アニマル エイド ネットワーク（JAAN：Jakarta Animal Aid Network）が人員を提供、ドルフィンプロジェクト(Dolphin Project)が資金的支援とオブザーバー。協力：カリムンジャワ国立公園、バリバラット国立公園。

人員　？

［URL］

Website　https://www.dolphinproject.com/campaigns/indonesia-campaign/bali-sanctuary/

［メモ］

解放の様子は［本文参照：第七部 第四章 第四節 第二項　解放の実績　2019　インドネシア］をご参照ください。

【Aegean Marine Life Sanctuary：AMLS】

エーゲ海 海洋生物サンクチュアリ

［概要］

場所　ギリシャ リプシ島

設立年　2022

設立者　Archipelagos，Institute of Marine Conservation(アーキペラゴ海洋保全協会)

［メモ］

この施設は、水族館に監禁されているイルカたちを保護するために作られました。監禁されていたイルカの保護、ウミガメやアザラシなど野生海生動物の救助、保護、獣医医療提供、リハビリテーション、研究施設、環境情報センターを併設しています。

［URL］

Website　https://aegeansanctuary.com/
Instagram　https://www.instagram.com/aegean.sanctuary/
［URL：サンクチュアリ：https://youtu.be/iLFXFw6FGaA］

第三項　水族館サンクチュアリ

以下は水族館をはじめとする動物娯楽利用施設が作ったサンクチュアリです。繁殖をしないとしていますが、なんらかの理由をつけて繁殖をするかどうか、監視する必要があります。なんらかの理由とは、一緒の生簀に入れていたら子どもができてしまった、好きあっているイルカたちに子供を作らせないのは人間のエゴだと思うようになった、子どものイルカが1人だったから友達を作るために繁殖した等々です。

【National Aquarium Dolphin Sanctuary】

ナショナルアクアリウム　ドルフィンサンクチュアリ

［概要］

候補地　フロリダ、カリブ海、プエルトリコ、米領バージン諸島

設立年　未設立

設立者　ナショナルアクアリウム　https://aqua.org/

［URL］

［URL：Website：https://aqua.org/support/donate/blueprint/dolphin-sanctuary］

［メモ］

2016年にナショナルアクアリウム（ナショナルと称しているが、民間の水族館。メリーランド州ボルチモア)のバンドウイルカ7名をサンクチュアリに移す計画が開始されました。水族館は否定していますが、イルカ保護活動家などの抗議によるものです。2020年には完成する予定で、50以上の候補地を検討していました。しかし気候変動や海洋汚染により候補地は決定しておらずまだ完成していません。

本当の目的は、太地町の森浦湾くじらの海同様、イルカの繁殖場を作ることであともされています。注視が必要です。

【The Sea Life Trust Beluga Whale Sanctuary】

シーライフ トラスト ベルーガ サンクチュアリ

［概要］

場所　アイスランド ヘイマイエ島(ヘイマ島)

設立年　2019(ベルーガが移送された年)

設立者　メーリン・エンターテイメンツ（Merlin Entertainments）

［URL］

Website　https://belugasanctuary.sealifetrust.org/en/
Facebook　https://www.facebook.com/SEALIFETrust/
Twitter　https://twitter.com/BelugaSanctuary

［メモ］

蝋人形館や世界中のレゴランド、中国・韓国・タイ・日本（シーライフ名古屋）で水族館事業と展開するUKの会社メーリン・エンターテイメンツが設立。中国の水族館、長風海洋世界(Chang Feng Oceanworld)を買収した際、監禁されていた2名のベルーガ、リトルグレイとリトルホワイトのために作ったとしています。クジラ保護団体WDC(Whale and Dolphin Conservation)がパートナーシップを組み、サンクチュアリを設計しています。

【Dolphin Sea Sanctuary】

ドルフィン シー サンクチュアリ

［概要］

場所　アメリカ領ヴァージン諸島

［メモ］

サンクチュアリと称した、動物娯楽利用施設です。

［URL］

［URL：Website：https://coralworldvi.com/dolphin-sea-sanctuary/］

第六節　法律・権利

動物の現状を変革するには、必ず法律に書き込むことが必要です。そして動物解放を実現する最後の行程は、憲法に書き込むことです。動物の権利を社会システムに組み入れるためです。

これまで動物現状を改善するさまざまな法律が制定されてきました。日本ですと、動物愛護管理法が最初に思い浮かぶかもしれません。しかし、動物に関する法律のほとんどは人間中心主義の立場に立った法律です。動物愛護管理法の（目的）第一条には「この法律は、動物の虐待及び遺棄の防止、動物の適正な取扱いその他動物の健康及び安全の保持等の動物の愛護に関する事項を定めて国民の間に動物を愛護する気風を招来し、生命尊重、友愛及び平和の情操の涵(かん)養に資するとともに、動物の管理に関する事項を定めて動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害並びに生活環境の保全上の支障を防止し、もつて人と動物の共生する社会の実現を図ることを目的とする。」とあります。つまりこの法律は動物を守るが、法律の対象はあくまでも人間であり、目的は人間を中心とした共生であるということです。私たちが目指すのは、対象を人間も含めた動物までに広げ、アニマリズムに基づいた共生を目的とする法律の制定です。

鯨族を守ろうとする法律は、捕鯨共同体、イルカ漁共同体、水族館による鯨族の搾取を制限する法律から、法律の目的は別にありながら、間接的に鯨族を守ることができる法律の制定まで、さまざまに作られてきました。以下に一覧を示します。今後日本が鯨族を守っていくためには、以下のような法律を制定する事業を行い、達成することが必須になりす。時系列にまとめます。

1946
国際　国際捕鯨取締条約(IWC)：捕鯨産業の管理監督のための国際条約。1986、商業捕鯨モラトリアムを制定。
1972
アメリカ　海洋哺乳類保護法(MMPA：The Marine Mammal Protection Act) ：1972年12月21日発効。目的は、
・海洋哺乳類への嫌がらせ、餌付け、狩猟、捕獲、殺害の禁止
・海洋哺乳類製品の輸入禁止
・海洋哺乳類の減少するのを防ぐ
・減少した種を持続可能な数まで戻す
1979
アメリカ　パックウッド・マグナソン法：捕鯨を直接的間接的に行っている国に対して、その国の漁業者がアメリカのEEZ内で操業できなくする法律。この法律のターゲットは日本の水産庁・捕鯨産業であり、商業捕鯨のモラトリアムを実現することにつながった。
1982

アメリカ サウスカロライナ州　海洋哺乳類の飼育を禁止する最初で唯一の州法を可決。

1989

台湾　野生生物保護法が可決。すべての鯨類を保護野生動物リストに追加、捕獲が禁止された。

1992

ハンガリー　ウクライナからハンガリーにバンドウイルカ5名が違法に輸入され、うち1名が36時間以内に死亡。ハンガリーは展示目的で捕獲されたのイルカの輸入を禁止。残りのイルカはウクライナに返還され、イルカ水族館計画は中止に。太地で捕獲されたイルカの可能性が高い。これによりハンガリーで、イルカを輸入したり娯楽に使用するのを禁じる法律が成立した。

1993

UK　英国でフラミンゴランドが最後のイルカをヨーロッパに出荷すると発表し、最後のイルカショー、イルカ監禁が終了した。以降、UKでイルカは監禁されていない。1987年設立されたWDCは、英国のイルカ飼育の劣悪な状況を明らかにする共同報告書を発表。この効果によってUKからイルカは解放された。しかし、法律で禁止されているわけではなく、WDCは監視を続けている。

1996

国際　11月24日、ACCOBAMS(黒海、地中海、および隣接する大西洋地域の鯨類の保存に関する協定)成立。黒海、地中海からポルトガルからスペイン沖大西洋の鯨類の保護を目的とした国際協定。

1999

オーストラリア　環境保護および生物多様性保全法 (EPBC法) が成立。オーストラリア水域の、すべての鯨族を保護。オーストラリア・ホエールサンクチュアリも設定された。
キプロス　鯨類の輸入とイルカ水族館の新設を禁止。

2001

メキシコ　メキシコ海域での捕鯨モラトリアム。

2003

ニカラグア　バンドウイルカの搾取を無期限に禁止に。2022年8月、ニカラグアのコーン島で捕獲された 2名のハンドウイルカの救助、リハビリ、解放がきっかけだった。

2005

チリ　1月「漁業法令225」 が修正され、鯨類の捕獲、輸入、あらゆる飼育が禁止された。

コスタリカ　7月「コスタリカにおける鯨類に関する活動の運営に関する規則」を布告。海洋哺乳類の捕獲殺害、飼育、狩猟、触る、食物をあげることが禁止された。

2006

メキシコ　1月 野生動物法に第55条を追加。すべての海洋哺乳類の輸入、輸出を禁止。科学的研究の場合認められる。

2009
クロアチア　水族館などの公共施設を含む商業目的でクジラやイルカを飼育することを禁止。病気や怪我をした鯨族のリハビリと自然への復帰を目的としたものは認められる。この規則は、 ACCOBAMS決議 3.13の規定を満たすために採択された。

2012
ボリビア　9月18日、アマゾンカワイルカを保護する新しい法律発表。アマゾンカワイルカの漁業を禁止、河川流域の生息地を保護するためのプログラムを奨励している。

スイス　5月29日、鯨族の輸入を禁止を決定、2013年1月1日発効。トゥールガウ州のテーマパーク、コニーランドに監禁されていた5名のうち2名が死亡したことがきっかけだった。2013年末に最後のイルカ2名をジャマイカに輸送し、監禁が終焉。スイスからイルカが解放された。Ocean Careなどが活動を行なった。

（参考）ギリシャ　サーカスでの動物使役が禁止に。しかしアッティカ動物園がイルカショーを法律から除外させ、現在もイルカショーは続いている。

2013
インド　鯨族に権利を認め（Nonhuman Persont）鯨族の飼育を禁止に。
Wiredの記事「インドがイルカを「人」と認めた」で話題になりました。これは、インドの環境森林保護省 中央動物園庁が出した方針です。以下に全文を和訳したものを掲載します。（翻訳・谷津裕子）
環境森林保護省 中央動物園庁
2013年5月17日発効 回覧
イルカの水族館の設置に関する方針
本省はこれまで、商業目的の観光客を呼び込むことを主な目的としてイルカショーなどを企画する意図のもと、州政府が様々な部局、特に特定の開発公団を通じて、州内でのイルカ水族館の開発を計画してきたことについて、何度も通知してきたところである。
1972年野生動物（保護）法第２節(39)には、「動物園」とは、固定・移動の別にかかわらず市民への展示（サーカス及びレスキューセンターを含むが、捕獲動物の有資格取扱業者の施設は含まない）のために捕獲動物を飼育する施設であると定義されており、イルカ水族館はその「動物園」の定義に該当するのだが。
1972年野生動物（保護）法第38H節(1)によって、すべての動物園は、中央動物園庁による承認なしに運営されてはならず、第38H節(1A)によって、中央動物園庁の事前承認を得ることなしに開設されてはならないのだが。加えて、かかる動物園は、W. P. No. 47/1998-Navin

M. Raheja v/s Union of India and Ors で通過した2000年11月20日付の命令に関してHon'ble最高裁判所の承認を必要とするのであるが。
1972年野生動物（保護）法第38H節(4)によって、中央動物園庁がその動物園を野生動物の保護と保存の利益に資すると認めない限り、動物園としての承認がなされないのだが。
ガンジスイルカとオーストラリアカワゴンドウは、1972年野生動物（保護）法のスケジュールIに列挙され、すべてのクジラ種は同法のスケジュールII第１部に列挙されているのだが。
インド政府はガンジスイルカを、絶滅危惧種を保護するという観点で、国定水生動物に指定したのだが。
Whereas cetaceans in general are highly intelligent and sensitive, and various scientists who have researched dolphin behavior have suggested that the unusually high intelligence; as compared to other animals means that dolphin should be seen as **“non-human persons”** and as such should and is morally unacceptable to keep them captive for entertainment purpose,
一般にクジラ目は知性と感覚が高度に発達しており、イルカの行動を研究する様々な研究者が、他の動物と比べて非常に稀なその知的能力の高さは**「ヒト科以外の人間（non-human persons）」**としてみなされるべきであり、彼らには特別の権利を付与すべき（their own specific rights）であることから、彼らをエンターテイメントの目的で捕獲飼育することは道徳的に受け入れられないと示唆してきたのだが。
一般にクジラ目は、監禁された環境では十分に生き残ることができないのだが。捕獲状態での監禁は、彼らの行動を変化させ極度のジストレスを引き起こすことによって、あらゆるタイプのクジラ目のウエルフェアと生命維持に深刻な被害を与え得る。
それゆえ、これらの観点から、インド政府環境森林保護省は、インド国内のイルカ水族館の開設を許可しないことに決定したところである。州政府は、商業的エンターテイメント、私的または公的な展示と交流、その他の目的でクジラ目の輸入や捕獲を行うすべての人や人々、組織、政府団体、民間企業や公営企業に対して、イルカ水族館の計画を却下するよう助言される。
これは所管官庁の承認のもと発令する。

2016
アメリカ　米カリフォルニア州 シャチの繁殖、人工授精、飼育を段階的に廃止する法案を発行。映画「ブラックフィッシュ」の影響。

2017
（参考）カナダ　ブリティッシュコロンビア州 バンクーバー水族館のあるバンクーバー公園管理委員会が新規に鯨族を飼育することを禁じた。バンクーバー水族館は2029年の飼育中止までにさらにベルーガを輸入しようとしていた。

2018

韓国　野生生物保護法を改正し、残酷に密猟された絶滅危惧種の動物の輸入を禁止ししたため、日本太地からのイルカ輸出ができなくなった。

スペイン　バルセロナ市鯨類の展示と繁殖を禁止。新しい施設の建設も禁止。バルセロナの動物擁護団体FAADA (Foundation for the Adoption, Sponsorship, and Defence of Animals) が、バルセロナ動物園のイルカ水族館閉鎖、イルカ繁殖・ショーの中止、6名のイルカをサンクチュアリに送るよう求めるキャンペーンを行なっていた。

ハンガリー　2018年末、ブダペストのトロピカリウム水族館がイルカを飼育する計画を立てていたが、活動家の働きもあり飼育監禁は許可されなかった。

2019
カナダ　クジラ目の娯楽目的の捕獲、輸入、輸出、飼育、繁殖を禁止。現在すでに監禁している水族館は対象外。

ニュージーランド　人間が野生のイルカと泳ぐことを禁止。イルカにストレスを与えていることがその理由。ベイ・オブ・アイランズでは1999年以来、訪れるイルカが66%減少、出生したイルカの死亡率は75%に。

2020
フランス　水族館での鯨族の輸入・繁殖・監禁・ふれあい体験・ドルフィンスィム、サーカスでの野生動物の使役を法律で禁止に。現在水族館やサーカスで働いている人への再雇用に800万ユーロの支援が行われる。

2022
メキシコ　イルカなどの海洋動物のショーを禁止、繁殖目的の捕獲の禁止を盛り込んだ、野生動物法改正案が下院を通過。 法律を破った者には多額の罰金が課せられる。キンタナ・ロー州だけで250名のイルカが観光のために監禁されているとのこと。上院を通過すれば成立。

？
スロベニアもイルカの監禁を禁じているようですが、根拠は探せませんでした。

第七節　鯨族を助ける人々

世界中に、クジラを助けた人々がいます。ここでは、彼らの善意と勇気に敬意を表して、その成果を紹介します。

第一項　アラスカ州バロー岬沖

コククジラの救出です。この救出劇は非常に有名で、激しく敵対している勢力同士、冷戦時代のアメリカ vs ソ連、石油会社 vs 環境活動家、普段は鯨を殺しているイヌイットの人々 vs 鯨を守ろうとする鯨保護活動家たちが協力し合い、力を合わせてコククジラの親子を救ったという象徴的な話です。

1988年10月5日に、アメリカアラスカ州バロー沖30km、親子のコククジラ3名が氷に閉じ込められているのをイヌイットの人々が見つけました。しかし、氷に閉じ込められているため外界に脱出できません。助けるためには、外海まで8kmもの距離を氷を割らなければなりません。その様子をテレビなどが取り上げました。

気温マイナス30℃、放っておくと夜の間に氷は閉じてしまいます。イヌイット・石油採掘業社アラスカ石油・環境保護団体グリーンピースが協力し、氷を壊し穴を開け、コククジラたちは呼吸をし続けることができました。

さらにアメリカの沿岸警備隊、油田採掘業社、民間の会社などが来て、チェーンソーで氷を切り開き、ヘリコプターから氷を割るための先の尖ったコンクリートを落とし、海水を攪拌し暖かい海水を押し上げ氷を溶かすなどして、道を作っていきました。

なんとか助けられそうだと光が見えた時、3人のクジラのうちボーン（Bone）と名付けられた一番小さい子どもは、耐えきれず亡くなってしまいました。それでも救出隊は6kmも氷を割って道を作っていきました。

さらに、協力を申し出、現場に氷を割りながら向かっていたソ連の砕氷船2隻が到着。最後の氷を割り、発見から21日後の10月29日、コククジラたちは脱出することができました。

以下のリンクで実際の貴重な映像を見ることができます。海水を攪拌し暖かい海水を押し上げ氷を溶かす機械を提供した会社の映像です。

［URL：KASCO MARINE：https://youtu.be/5UMCCSiDuHc］

またこの出来事は2011年映画されています。「Big Miracle」、邦題は「だれもがクジラを愛してる」です。YouTubeでレンタル、購入することができます。

［URL：だれもがクジラを愛してる：https://youtu.be/AkAFtfvyZIs］

コククジラを、守りきった時、イヌイット、石油会社、環境保護活動家、アメリカ、ソ連、そしてそれをテレビなどで見守っていたコククジラを心配していた多くの人々が、歓声をあげて喜んだそうです。

クジラを殺すのは簡単です。熟練したクジラ漁師ならあっという間に殺すことができるでしょう。しかしクジラを助け、守るのには、多くの人々の協力、時間、費用がかかります。私たちはどちらの未来が欲しいでしょう。殺す未来でしょうか。守る未来でしょうか。クジラを次々と殺し、利益に目が血走り犯罪を犯し他者と対立する未来でしょうか。それともクジラを守り、弱いもののために働き、他者と協力する未来でしょうか。

第二項　イルカを助ける世界中の人々

ここでは映像が残っているレスキューを載せていきます。古代ギリシャから、そしておそらくはそれより昔から世界各地で人間はイルカを助けてきたでしょう。撮影機材とSNSの発達で私たちは世界中で行われている人間による動物のレスキューを、動物による人間のレスキューを見ることができるようになりました。ぜひ実際の映像を見て、何かを感じていただければと思います。

国、日付、場所、種

【アジア】

中国

2020　広東省

シナウスイロイルカ（ピンクイルカ）のレスキューです。干潟に座礁していたイルカを地元の人が7時間かけて救出したそうです。

［URL：https://youtu.be/eh6yyP1Oolw］

2020　タイ

ピンクイルカのレスキューです。座礁したイルカを地元の人が助けています。

［URL：https://youtu.be/3yVL6Kz3Nwk］

2022.02.15　タイ

タイのアンダマン海漁業研究開発センターのパトロール隊が、魚網にかかったシナウスイロイルカのレスキューを行っています。

［URL：https://youtu.be/yN6b-rK6uvU］

【北アメリカ】

2013.01.13　ハワイ州 カイルア・コナ

ダイバーが夜間ダイビングをしていると、左前ビレに釣り針が刺さり、釣り糸が引っかかってしまったバンドウイルカが助けを求めてきました。ダイバーは釣り針と糸を取ってあげます。最初、安全な人々か確認するように遠巻きに泳いでいるイルカが、ダイバーがこっちにおいでと合図するとイルカは近寄ってきます。釣り針を取る時は我慢し、取り終わるとまだ糸があるよとダイバーの目の前に来ます。ダイバーが、体を回転させて、と合図するとイルカは体を回転させます。糸があらかた取れるとイルカは去って行きました。イルカに限ら

ず、動物が人間に助けを求めてくることがあります。私の個人的な感覚ですが、動物は人間が賢く器用で、優しいところがあるということを知っているのだと思っています。
［URL：https://youtu.be/2gvgkHSyKFE］

2020.12.08　フロリダ州
縄に絡まったバンドウイルカのレスキュー。イルカを助けたら、イルカの仲間たちが感謝を伝えるように水上バイクの周りを泳いでいます。コメント欄を見ますと、多くの方がイルカが助かったことを喜び、感動しています。
［URL：https://youtu.be/x75E2AJ7pew］

2021.03　マサチューセッツ州 ケープコッド湾
IFAWの海洋哺乳類レスキュー&研究チームが、座礁したマイルカ7名を海まで輸送し解放、32名は満ち潮で泳げる状態になったため船で誘導し海に返しました。FAWは、イルカの座礁に対応するためにモバイル・ドルフィン・レスキュー・クリニックという簡易施設を用意しており、座礁したイルカに点滴など必要な治療を施し健康状態を確認した上で、解放しています。
［URL：https://youtu.be/Si7d5xES6lQ］

メキシコ
2020.02.21　カリフォルニア湾
バキータ(コガシラネズミイルカ)の保護作戦MILAGOを行なっているシーシェパードが、メキシコの自然保護地域委員会、メキシコ海軍、環境保護連邦弁護士、連邦警察と共に、漁網に引っかかったザトウクジラをレスキューします。この漁網はトトアバという魚を捕獲するための刺し網で、違法操業です。シーシェパードは2016年2月にもザトウクジラを救出しました。2017年3月にはアミに絡まって死んでいるニタリクジラを発見しています。
［URL：https://youtu.be/L49AbW3wvJY］

【南アメリカ】
トリニダード・トバゴ
2018.11.14
ザトウクジラの子供が必死にジャンプしているのを見て、ダイバーたちが異変に気づきます。近づくと、漁網に絡まってしまったザトウクジラの母親が、長い網を引き摺りながら泳いでおり、その周りを子どもが心配そうに泳いでいます。ダイバーたちは泳いでザトウクジラに近づき、網に捕まり、少しずつ網を切り離していきます。
［URL：https://youtu.be/ACJgNY6jaYQ］

ブラジル
2012.03.95　リオデジャネイロ

マイルカの座礁とレスキュー。マイルカが砂浜に向かってきて座礁し、その場にいた人々が協力して手際よく救出しています。
［URL：https://youtu.be/ekmMD8oYtJ0］

【ヨーロッパ】

UK

2006.01.19　ロンドン テムズ川

テムズ川に、体長5m体重約12トンのキタトックリクジラが迷い込んでいるのが発見されました。クジラは”ウィリー”と名付けられロンドン市民の関心を引きました。BDMLR：British Divers Marine Life Rescueがレスキューに入りましたが、翌日亡くなってしまいました。死因は脱水症状、筋肉の損傷、腎不全など複合的なものでした。
［URL：https://youtu.be/waA9zyBBuEE］

2020.0810　コーンウォール ヘルフォード川

座礁したイルカのレスキュー、イルカを見つけた建築業者の男性がなんとかイルカを助けようとしています。BDMLRが救出しています。
［URL：https://youtu.be/xBaHGRxSrSU］

イタリア

2004.08.09

女性2名と子供3名のマッコウクジラのポッドが、流し網に絡まっているのが発見されました。イタリア ナポリの沿岸警備隊が向かい、救出作業を行いました。流し網は2002年1月から違法になっていました。勉強不足ですが地中海にマッコウクジラがいるということを知り驚きました。
［URL：https://youtu.be/ZsA7iGGhvEc］

【アフリカ】

ナミビア

2018.04.05(upload)　スワコプムント

座礁した赤ちゃんイルカを家族でレスキューしています。種はわかりませんが、カマイルカ属です。場所からするとタイセイヨウカマイルカの可能性があります。
［URL：https://youtu.be/KLK8nSUa-MI］

2021.06.14

座礁したザトウクジラを、オーシャン コンサーベイション ナミビアという団体が救出しています。ザトウクジラは8m、15tの男の子でした。この種のレスキューが成功することはあまりないとのことでしたが、この時は成功しました。救助した人々が本当に嬉しそうなのが印象的です。

［URL：https://youtu.be/ZvWBFPtpOKY］

モーリシャス共和国

2021.05頃　沖8マイル(約13km)

ダイバーのHugues Vitryが、下顎にロープが絡まり大きく口が開いてしまったマッコウクジラのレスキューを試みます。ロープには20個ものブイがついていました。Huguesはレスキューの途中でこのマッコウクジラは10年間追い続けていたTache Blancheだということに気づきます。Tache Blancheとは、”白い点”という意味で、このマッコウクジラのお腹には白い模様がありました。6分かけてロープを切りましたが切りきれず、しかし、幸運にもロープが海底から離れマッコウクジラは泳ぐことができました。しかし、口にはロープが付いたままでした。

［URL：https://youtu.be/H4eAu2fQOcE］

【オセアニア】

トンガ

2017.01.17（アップロード日)

ザトウクジラの母親が魚網に絡まってしまいました。ホエールスィムツアーを行っている人々がレスキューを行いました。

［URL：https://youtu.be/kkNdxJvrvUg］

オーストラリア

2020.03　西オーストラリア州 クーンバナ湾

釣り針と釣り糸が絡まった子どものイルカをドルフィン ディスカバリー センターという団体が救助しています。子どもを捕獲し釣り針を取って海に帰すときに、母イルカが心配して急いで戻ってくるのが印象的です。

［URL：https://youtu.be/bqDY1z_z_AI］

YouTubeには他にもたくさんのレスキュー動画が掲載されています。今後、ますますこのような映像は増えていくでしょう。

第三項　イルカを助ける日本の人々

日本では、イルカが座礁した場合、水族館に連絡が行きイルカトレーナーや職員が救助することがあります。コメント欄を見ると、イルカトレーナーや水族館を褒め称え、ヒーロー視する意見があります。

確かにイルカトレーナーはイルカを助けました。しかし一方、彼らはイルカ漁から野生のイルカを捕獲し監禁し芸を覚えさせ、毎日何度も芸をさせることで生活しています。また太地町のイルカ追い込み漁で、水族館のために捕獲されるイルカの家族たちが、捕獲作業の真横

で惨殺されているということも知っています。しかし、彼らは決してそのことを観客には伝えません。片手でイルカや他の動物の自由を奪い監禁し殺し金儲けをして　片手で助ける彼らは本当にヒーローなのでしょうか。
イルカを助けるのはイルカトレーナーや水族館でなくて構いません。UKでは海洋哺乳類専門のレスキューチームBDMLRが、イルカをはじめとする動物を助けています。アメリカでは、IFAWが独自のイルカレスキューチームを持っています。ニュージーランドでは、プロジェクト・ヨナが鯨族などのレスキューを行っています。日本もそのような体制を取れば、イルカ搾取者がイルカ守護者のように扱われることはなくなります。［本文参照：第七部 第二章 第一節　主な団体と活動］
例えば一案として、環境省所管で海棲哺乳類研究所 兼 海洋動物のレスキュー専門チームを設立すれば、研究と、座礁などのデータ収集や死亡した鯨類の遺体の確保などが一体化でき効率的です。さらにその機関に、海洋環境教育や海生動物の生態や素晴らしさやなどを教える教育機能を持たせればより有益ですし、また毎年かなりの数のイルカやクジラを殺害し実質的な捕鯨となっている混獲問題の解決などにも尽力してもらうことができます。

茨城県
2015.04.10　鉾田市
座礁した150名以上のカズハゴンドウの救出です。多くの人々が、タオルをかけたり水をかけたりしてなんとか助けようとしています。海上保安庁の巡視船がイルカ数名を沖合に運び放流しましたが、ほとんどは死亡し埋葬されました。
https://youtu.be/Djp3HTPrUes

神奈川県
2020.05.09　江ノ島
座礁したスジイルカを新江ノ島水族館の職員が助けました。
https://youtu.be/NSlia85J5Cg

静岡県
2021.03.15　西伊豆町
座礁した2名のハナゴンドウの救出です。下田海中水族館に運ばれた様です。しかし20日と24日に相次いで亡くなっています。

徳島県
2016.01.20　阿南市 中林海岸
マッコウクジラの救出です。漁師の方が船を出して救出しています。見ている方々が喜んでいる姿が印象的です。
https://youtu.be/-AoLWUV1bUM

沖縄県
2018.05.19　名護
イルカ突き棒漁をおこなっている名護での、コビレゴンドウのレスキューです。昔でしたらあっという間に殺されていたでしょう。ひどい世の中のようですが、少しずつ人間は優しくなっていると信じたいです。美ら海水族館の職員が救出しています。搾取さえしなければ良いのですが。
［URL：https://ryukyushimpo.jp/news/entry-722329.html］

日本の漁師がイルカを助けた話
最後に、日本の漁師がイルカを助けた話を紹介します。

「ザ・クジラ」原剛著には、神奈川県真鶴沖の定置網に混獲され水揚げされてしまったハナゴンドウを、漁師たちが1000円ずつ出し合って海に帰した話（P238）が紹介されています。
同じく神奈川県の大磯町沖の定置網にコビレゴンドウ5名が迷い込み、殺害するか検討されました。しかし網元が「逃そう」と決断し、逃した話が紹介されています（P240）。
どちらの話も非常に良い話ですので、ぜひお読みください。
普段漁師は、魚やイルカを殺して商売しています。しかし心が動けば、助けることもあります。この2つの事件は世界中で大きな反響を呼び、お礼の手紙が多数送られてきたそうです。

これ以外にも知られていない、漁師の方々がイルカを助けた話があるかもしれません。殺すより、助けたほうがいいに決まっています。漁師の方々も気持ちが良よかったでしょう。それは利益では感じられない気持ちです。
人々が、ほんの少し勇気を出して、助ける道に一歩踏み出せば世界は変わります。

第八部　イルカ・クジラ解放活動

動物解放実現の一部に、イルカ・クジラ解放の実現があります。動物解放とは、すべての動物を人間から解放すること。動物を解放すべき理由は、動物には意志・感情・苦痛があり、彼らの人生は彼ら自身のために生きる権利があるからです。
ここでは動物解放活動を行うにあたっての基本的な考え方、活動を行うためのアクティビズムガイド、動物解放活動に関するアイデアを示します。

第一章　動物解放

第一節　動物とは

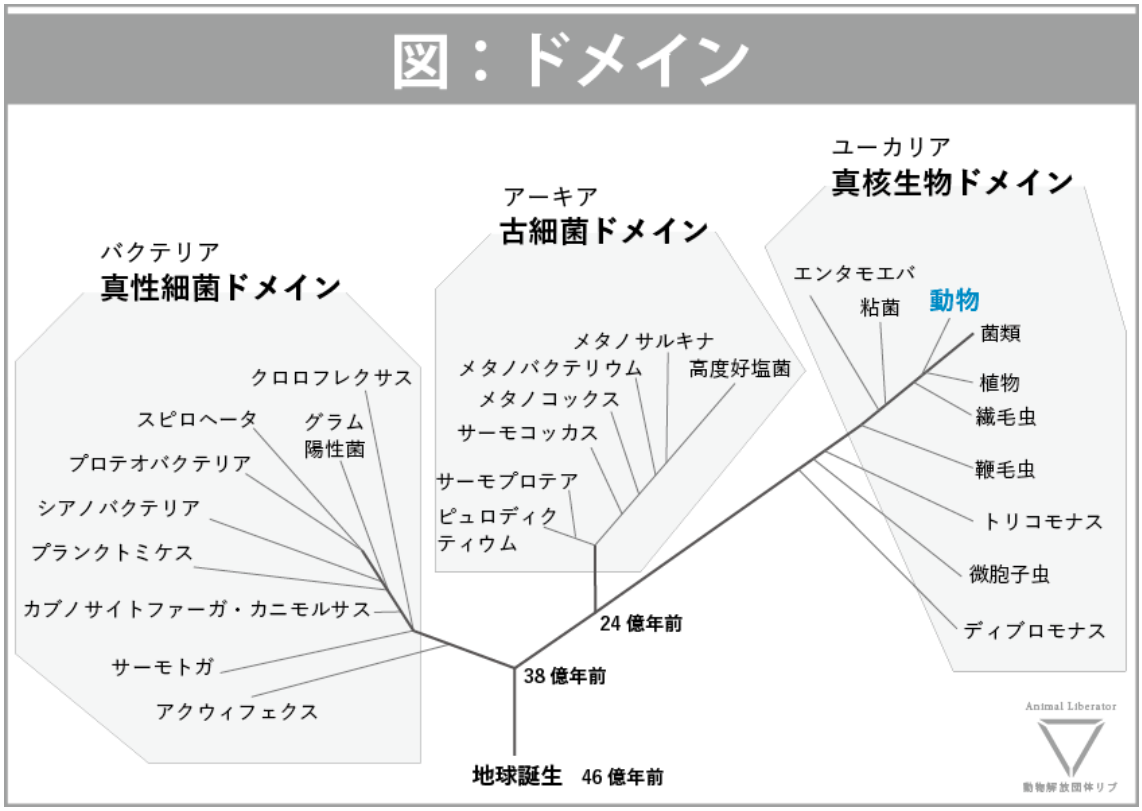
動物解放活動に関する議論でよく持ち出される「植物との違いは何か」という疑問があります。ここでは動物の定義、動物とは何か、から始めます。

生物と非生物
まず生物と非生物の定義です。生物である条件は、①細胞である　②代謝する　③自己複製する　④刺激に反応する、です。つまり、植物も動物も生物であり、古細菌、細菌（大腸菌等）、菌（カビ、キノコ等）等も生物です。
前置きなく「命」という言葉を使った場合、通常「生物」を示す文脈で使っていると解釈されます。つまり「命を守る」の命には動物も植物も含まれ、「植物は守らなくていいのか」という疑問・反論を受けるのは当然です。
動物解放活動家、ヴィーガン、アニマリストが対象としているのは、命（生物）のうち、動物界に属する生物となります。その場合「動物の、命を守る」と限定して表現する必要があります。

ドメイン界門綱目科属種

生物を分類するとき、ツリー構造で表現され、最上位がドメインでです。46億年前に地球が誕生し、38億年まえにバクテリアが誕生。24億年前にアーキアが分離し、その後ユーカリアが分岐しました。私たち動物は、ユーカリアドメインに属する生物です。

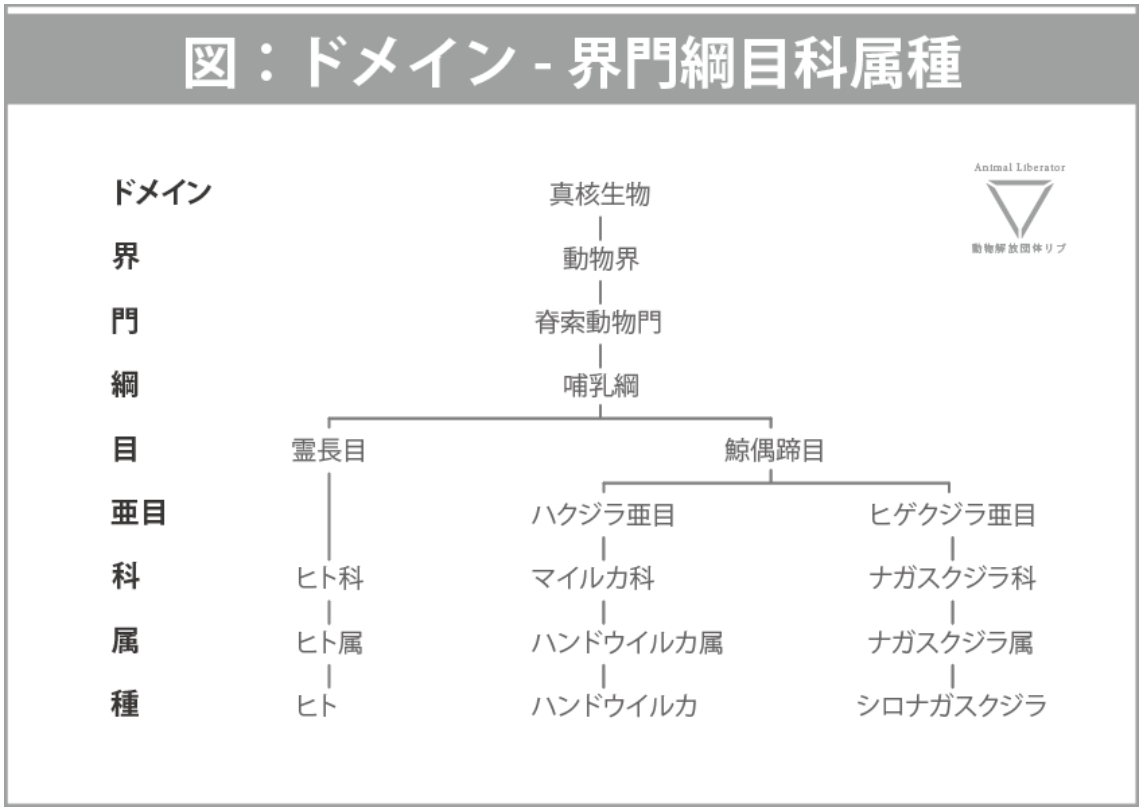
［図：ドメイン］



ユーカリアドメインに属する動物は、界→門→綱→目→科→属→種と分類されていきます。さらに詳細な分類を表すために、亜門、上科、亜科などの分類があり、どのように進化したか、どの種が近縁なのかなどがわかります。

以下の図を見ますと、ヒトと鯨族は同じ哺乳綱に属し、目の段階で霊長目と鯨偶蹄目に別れたということがわかります。バンドウイルカとシロナガスクジラは同じ鯨偶蹄目に属し、亜目の段階でハクジラ亜目とヒゲクジラ亜目に別れました。

［図：ドメイン界門綱目科属種］



動物の数

動物界に属する生物は、世界で137万種　日本：約6万種

哺乳類は、地球上にわずか5513種　日本：127種

鳥類　地球：1万425種　日本：700種

爬虫類　地球1万38種　日本：99種

両生類　地球7302種　日本63種

魚類　地球3万2900種　日本4200種

第二節　動物利用問題

動物解放、ヴィーガン、アニマリズムは、動物界に属するすべての動物を対象とします。しかし、私たちが解決しようとしている動物利用は、あまりに当然のこととして人間に浸透しているため、その全体像を意識している人は多くはありません。
私たちが解決すべき課題の全体像を把握する俯瞰的な視点を共有します。

「動物利用問題」とは、人間が動物を利用することによって発生する問題のこと。言い換えれば、人間が動物の利用を止めれば解決する問題です。
動物利用により発生する問題は、「動物への被害」と共に、動物を利用している「人類への被害」をも生み出しています。
［図：動物利用問題］



「動物への被害」とは、人間が動物を利用することによって、動物が受ける被害のことです。動物が人間から受ける被害とは、心身への暴力と殺害です。動物への被害は、人間の利用目的である、「食」「衣」「娯楽」「実験」「野生」に分類されます。

例えば、イルカやクジラが被害を受けている分野 → 被害の一例は以下です。

「食」：水生生物、漁業による混獲→ 暴力、殺害

「娯楽」：水族館、イルカショー→ 監禁、使役、肉体・精神的苦痛

「野生」：狩り、化学物質汚染→ 暴力、殺害、健康被害

[図：動物への被害]



「人類への被害」とは、人間が動物を利用することによって、人間自身が受ける被害のことです。人間が受ける被害は、「健康」「社会」「倫理」「科学」「環境」に分類されます。

イルカやクジラの搾取により、人間自身が被害を受けている分野 → 被害の一例は以下です。

「健康」：重金属（水銀等）、有機塩素化合物（PCB、 DDT、DDE等）等、生態系最上位である鯨族に蓄積された化学物質を、人間が食べ身体に取り込む→ 健康被害

「社会」：利権ネットワーク、経済、洗脳教育→ 国益の不利益、税金の損失、事実認識や正確な知識の獲得を阻害される

「倫理」：弱者に対する非倫理的行為を許容する精神→ 弱者が受ける非倫理的行為の遠因

「科学」：化学物質に関する問題→ 健康被害

「環境」：生物多様性、海洋汚染→ 持続可能性の減衰

[図：人類への被害]



「動物産業」とは、動物を殺害、加工、販売する一連に関わる産業すべてのことです。動物消費者の需要に応じ、供給します。「動物産業」分野は、「動物への被害」である、「食」「衣」「娯楽」「実験」「野生」に対応しています。

イルカやクジラの搾取に関わっている「動物産業」分野→ イルカやクジラが受ける被害の一例は以下です。

「食」：加工、小売→ 殺害

「衣」：服飾販売→ -

「娯楽」：水族館、イルカトレーナー→ 監禁、使役、肉体・精神的苦痛

「実験」：水族館、大学→ 監禁、使役、肉体・精神的苦痛

「野生」：イルカ漁師→ 暴力、殺害、健康被害

[図：動物産業]



「動物消費」とは、人間がどのように動物を消費しているかを表しています。「動物産業」が動物製品を生産、供給するし、動物消費者が消費します。「動物消費」の分野は、「動物への被害」である、「食」「衣」「娯楽」「実験」「野生」と同じです。

イルカやクジラの消費→ イルカやクジラが受ける被害の一例は以下です。

「食」：遺体食（イルカ肉食、鯨肉食）→ 殺害

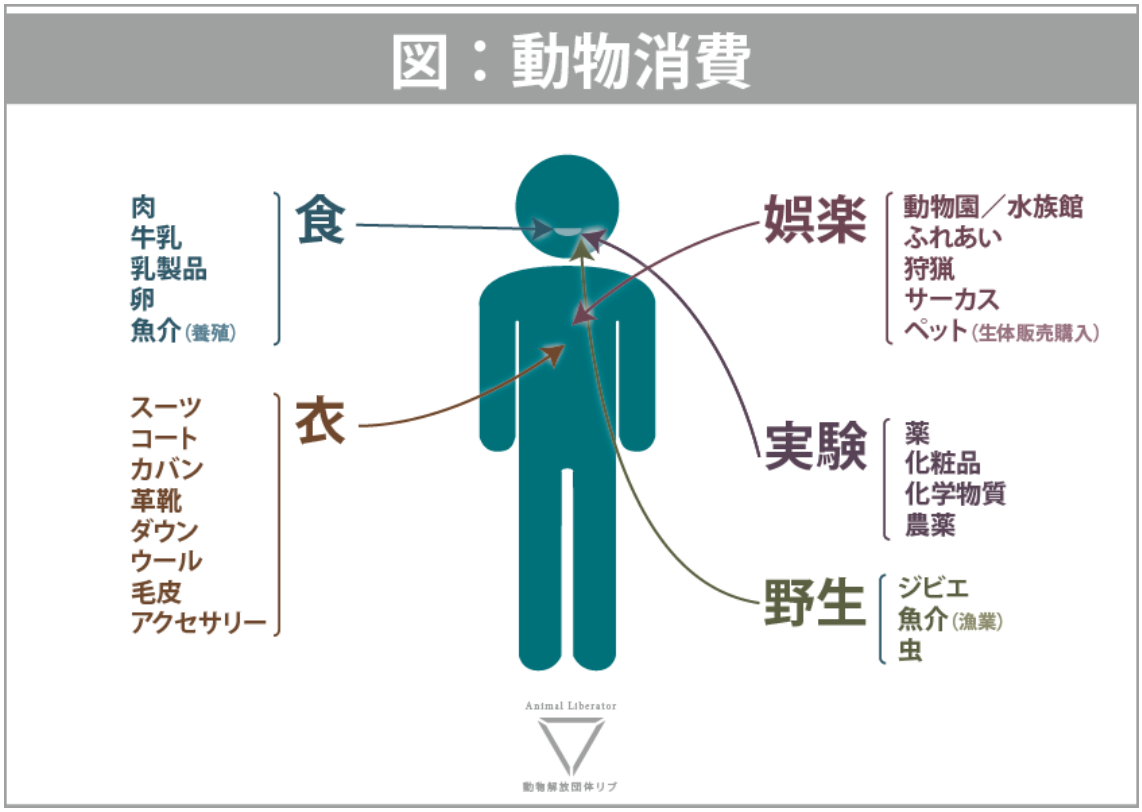
「衣」：関連グッズ販売→ -

「娯楽」：水族館、イルカトレーナー→ 監禁、使役、肉体・精神的苦痛

「実験」：水族館、大学→ 監禁、使役、肉体・精神的苦痛

「野生」：イルカ漁師→ 暴力、殺害、健康被害

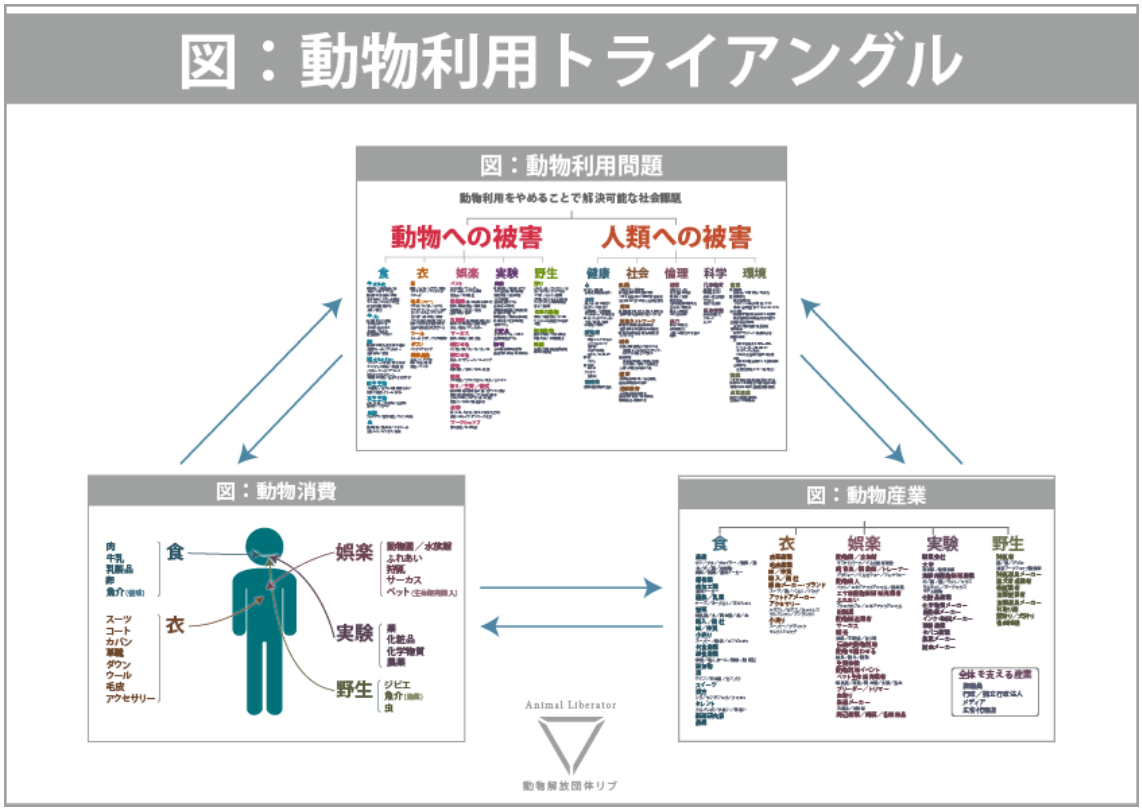
[図：動物消費]



「動物利用トライアングル」

「動物利用問題」「動物消費」「動物産業」は、トライアングル状の相関関係にあります。動物消費者が動物製品を求め、動物産業が供給し、動物消費者が消費し、動物産業は利益を得る。その循環によって、動物利用問題が発生しています。

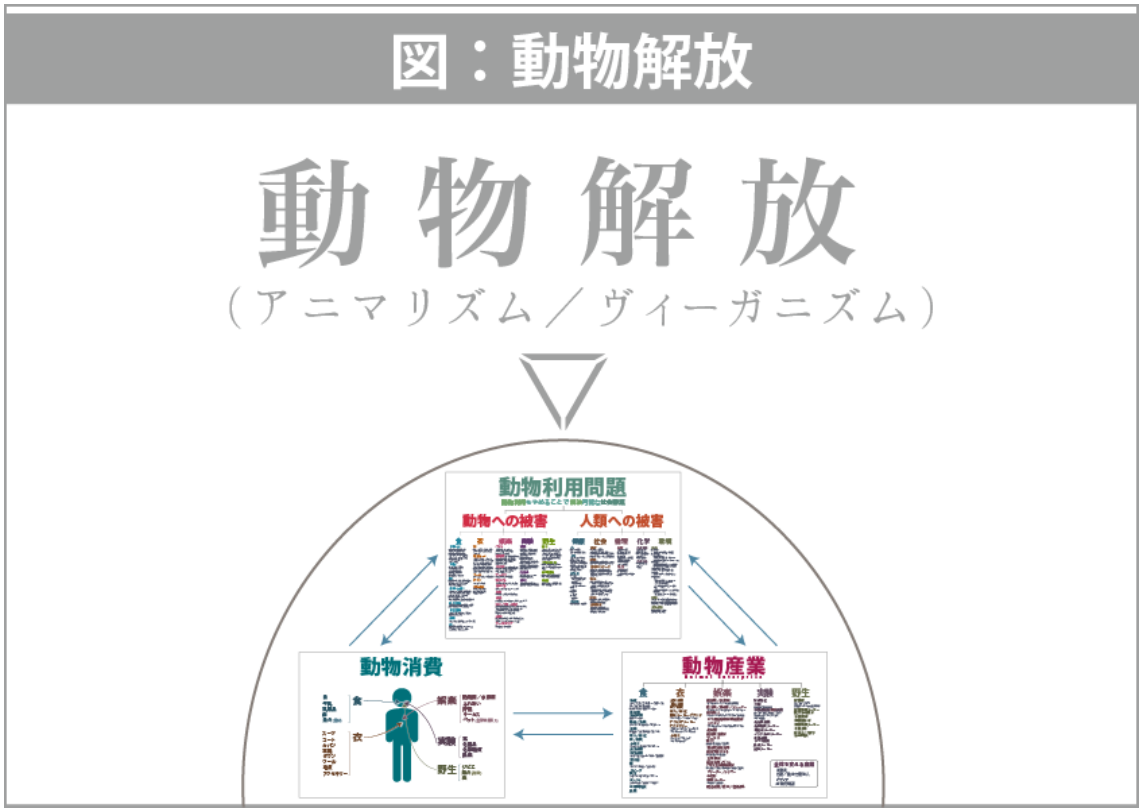
［図：動物利用トライアングル］



第三節　ヴィーガニズム・アニマリズム・動物解放

これらの循環から抜け出し、動物利用問題を解決する方法が、ヴィーガニズムとアニマリズムであり、そのゴールが動物解放です。

［図：動物解放］



第一項　ヴィーガニズムとは

ヴィーガニズムとは、個人的に（自分自身からの）動物解放を行い、動物利用問題を解決するための方法です。動物のために動物の搾取を行わないという思想とライフスタイル。
ヴィーガニズムを実践するヴィーガンは、動物を食べず、着ず、可能な限り動物の搾取を行いません。ヴィーガニズムは、たった一人で動物利用トライアングルから脱出する、最もパワフルな活動だと言えます。

第二項　アニマリズムとは

アニマリズムは、社会的に動物解放を行い、動物利用問題を解決するための方法です。
アニマリズムの定義は以下です。
『動物を 倫理と権利の対象とし、尊厳と自由を保障すべきであるとする主義であり
動物を社会に包摂するための指針』
アニマリズムの目的は、動物を解放し包摂した社会システムを構築することです。

アニマリズムの未来

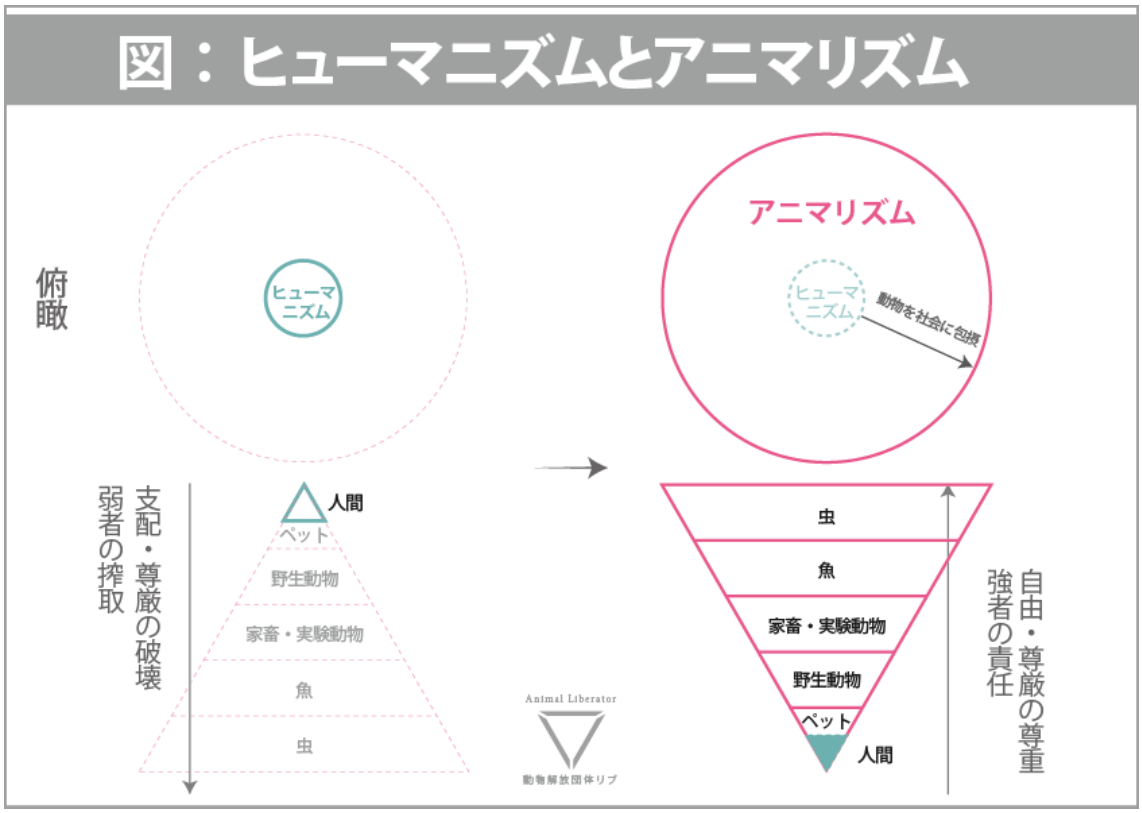
アニマリズムに基づいて設計された社会では、動物は人間と同等に法律と権利によって守られます。動物利用は法的に禁止され、違反すれば人間と同等の罰則が適用されます。

（* 現実的には様々な例外が発生し、それを順番に解決していく過程を経るでしょう。例えば虫やミミズなど意図せず大量に殺害してしまうケースが多い動物の保護は、人間の意識の発展、科学技術の進展とパラレルに進むことが予想されます。）

ヒューマニズムからアニマリズムへ

現在我々はヒューマニズム、言い換えれば人間中心主義に基づいて設計された社会に生きています。私の目標はアニマリズム基づいた社会へのシフトを促し、実現することです。ゆえに、ヒューマニズムの社会の中にあっても、アニマリズムに基づいた判断や行動を実践しています。

［図：ヒューマニズムとアニマリズム］



第四節　動物愛護・動物福祉・動物権利・動物解放の違い

ここで動物に関する様々な活動の違いを理解します。
動物解放団体リブは動物愛護団体と間違われます。団体名に「動物解放団体」と明記しているにも関わらずそう思われるのは、動物解放という概念が浸透していないからです。
動物を守る活動の名称は、動物愛護、動物福祉、動物権利、動物解放などがあります。これらは似ているようで異なる思想・立場から動物に向き合っています。ですのでそれぞれの活動の目的や戦略、活動家のライフスタイルも異なります。一つずつ見ていきます。

［図：動物利用から動物解放へ］



動物愛護

動物愛護は、日本独自の言葉と概念です。英語ではAnimalWelfareと訳され、動物福祉という意味です。また愛護という言葉の中には、動物を愛で、上の立場から護るといった優越意識が感じられます。つまり動物愛護活動や動物福祉活動においては、動物はあくまでも人間の利用対象であり、動物自身の自由や尊厳を認めようというものではなく、ヒューマニズム・人間中心主義に基づいています。つまり、犬や猫を守ろうとする動物愛護活動家が、牛や豚や鶏を殺害し遺体を食べても矛盾していません。

動物権利

動物権利は、二つに分けられます。
一つは、イメージとしての動物権利。、法的な権利を認めるものではなく、なんとなく「動物には権利があるよね」といった感覚やイメージです。「太地町でのイルカ漁業に対する和歌山県の公式見解」で使っている「動物には権利がある」といった言葉はこちらに当たります。権利についてほとんど学んでおらず、考えたことのない人が書いています。
もう一つは、法的な裏付けを伴う動物権利。人間と同等の権利を動物に獲得しようというものです。
前者はヒューマニズムの思想に基づき、後者はアニマリズムの思想に基づいています。

動物解放
動物解放は、奴隷解放運動の延長線上にあると捉えられ、ボリショニズム(廃止論)と呼ばれることもあります。
人間と動物の間に本質的に上下関係はなく平等です。現在は人間が人間の価値観に基づき、動物を支配下に置き利用搾取していますが、それは間違っており非倫理的であり罪です。ゆえに動物を人間から解放し、自由と尊厳を取り戻す必要があります。

動物愛護、動物福祉は、動物の支配者たる人間として、動物の扱いを決めようという活動。
動物解放は、動物の支配者然としている人間から、動物を解放しようという活動です

第五節　動物解放とイルカ・クジラ解放

動物解放とは、動物を人間の支配、暴力、殺害から解放することです。個人的にはヴィーガニズム、社会的にはアニマリズムを実現することによって動物解放は達成されます。
動物解放とは、あらゆる動物活動の最終ゴールです。

ここで動物解放団体リブが目指しているビジョンをご紹介します。

―――――

ビジョン
私が生きている地球
私は、動物と人類が共存している地球に生きています。

動物たちは解放され、自然の中で自由に生き、愛し合い、子どもを育てています。
人類は動物たちをやさしく見守っています。
平和で穏やかな地球です。

私は、このような地球が実現すると信じています。
現在の地球
しかし現在の地球は、動物を、殺し、食べ、着て、娯楽や実験に使い、狩りをし、利用しています。
毎年７００億もの動物を、産ませては、殺しています。
その動物一人一人に、親がいて子どもがいて、喜びや悲しみなどの豊かな感情があり、心や体の痛みを感じています。

守りたい、と心の底から思います。
今
私は、動物を利用することを止め、解放する人生を選びました。
私は、どうすれば動物を守れるか、解放できるのかを考え、行動しています。

同じように、動物を利用することを止め、解放する人生を選んだ人々がたくさんいます。
私は、人々とつながり、話し合い、共に行動しています。

動物を解放するとは、弱い者の立場に立ち、寄り添い、守ることです。
またそれは、自分自身、人類自身を、解放することでもあります。
そしていつか
動物を解放する日を迎えます。

それは、最も美しい日となるでしょう。

その日を、みなさんと共に迎えたいと思います。

動物解放活動

動物解放活動は 動物の側に立っています。人類の側に立ち 動物の扱いを決めようというものではありません。利用される動物に寄り添い、利用しようとする人々との間に立ちはだかって行う活動です。本書は、イルカやクジラの側に立って書いています。

リブは、日本一周！動物園水族館調査を経て、水族館問題を解決するために鯨族利用問題に軸足を置くことを決めました。もちろん、日本はイルカだけではなくマグロ、カツオ、サメ、アジ、サンマ、ウナギ、エビ、タコ、その他膨大な水性動物を搾取殺害する水生動物搾取大国であり、本来は平等にアドボカシーを行うべきです。しかし現時点で活動対象を鯨族に設定した理由は、イルカやクジラは特に人々が共感を抱きやすい動物だからです。
「日本一周 動物園水族館調査」を行い、観客を観察し、動水にとっての優良商品動物を特定するなど分析し辿り着いたのは、動物園はゾウ、水族館はイルカが最も人々の共感関心を集めるということです。つまり動物の娯楽利用に関しては、ゾウとイルカに注力することで動物園水族館の実態を伝え、人々の意識を変え、そして他の動物について及ぼす波及効果も最も高くなると判断しました。
ゾウとイルカをきっかけに、人々の動物に関する知識と意識が向上すれば、やがて魚類、頭足類、甲殻類、昆虫類へと、現時点ではより人類が共感を得にくい動物への意識向上へと歩を進めていくでしょう。

動物解放の実務

今後、動物権利概念を理解し、ヴィーガニズムやアニマリズムを実践する人々が増加することは確実です。私たちは今から現実的な動物解放をどう進めていけばいいか考え議論しておく必要があります。叩き台を示します。

まず最初に「人間の支配下にある動物」と「野生動物」に分けます。

「人間の支配下にある動物」の解放は、「出産0」で達成することができます。
「人間の支配下にある動物」の解放に関しては、あまり多くはありませんが、監禁されていた動物をリハビリし、野生に解放することもあります。野生に解放する場合、「野生から捕獲してきた動物」か、「支配下で生まれた動物」かによって対処が異なります。さらに、動物種、個々の動物の肉体の状態、精神状態、病気、感染症の有無など、個人ごとにきめ細かいケアが必要になるでしょう。この解放は、多大な調整とコストなどがかかります。

「人間の支配下にある動物」の解放において最も有効性が高いのは、人間が動物に強制的に妊娠出産させることを禁じることです。家畜動物や実験動物など人間の手によって大量に生

み出される動物がこの世に誕生しなければ、解放の必要がなくなります。動物の痛みや苦しみ、暴力や殺害も存在しません。これを「未来の解放」と呼びます。

「野生動物」の解放は、「殺害0」で達成することができます。
「野生動物」の解放に関しては、野生動物を殺さなければ達成できます。口で言うのは簡単ですが、現実的には、動物を殺害せずに獣害を防ぐ方法を編み出し、どこかに境界を設定し、個体数をコントロールし、共存していく方法を模索するという、時間がかかり、関係者を調整し、継続的な改善が必要な地道な作業となります。
生態系への配慮、農家、野生動物よる人間への物理的な攻撃、感染症等々様々な要素を考慮に入れながら進めていくことになり、また、土地土地に住んでいる人々の価値観・文化・農業・経済・動物権利意識によって最適解が異なってきます。

イルカ・クジラ解放に関しても、捕鯨(野生動物)、イルカ漁(野生動物)、水族館(人間の支配下にある動物)で考え方や方法やゴールが異なってきます。

第二章　アクティビズムガイド

概要
イルカ・クジラ解放活動にはあなたが必要です。もしイルカやクジラが好きな人でまだ声を上げていない人であれば、彼らはあなたの行動を待っています。

第一節　指標

活動の指標は、活動がどれほど進展しているか達成度を測るものです。一般的に定数的な指標が推奨されますが、不可能であれば定量的な指標を設定します。
前提として重要なのは、活動家全員が数値目標を共有でき、自分の活動の進捗の指標として使え、やりがいを感じる指標でなくてはなりません。また指標の設定は、目標設定、ターゲット設定、戦略設計と密接に関係しています。

参考までに指標を設定する思考の流れを記述します。不要な方は読み飛ばしてください。
・誰もがわかりやすい指標の一つである収益を指標にすることを検討します。捕鯨の場合、すでに毎年数十億円以上の赤字を出しながら存続しているため指標になりません。イルカ漁は、生体イルカの水族館への販売額が明らかにされていないため指標になりません。水族館は決算非公開の施設があるため業界全体の市場規模はわかりませんが、公開している園館の収益を合算すれば指標になります。しかし途中で非公開にされた場合は指標にできなくなります。
・消費者の人数を指標にすることを検討します。捕鯨の場合、消費者の人数を測るのは我々のリソースでは不可能です。イルカ漁は、生体イルカを購入する消費者である水族館の名前や数がブラックボックスにされているため不可能です。水族館は、来園者数を公開している水族館の特定し、人数を合算すれば指標になります。
・捕鯨、イルカ漁、水族館、それぞれに賛成・反対の統計はわかりやすいですが、私たちのリソースでは困難です。資金的、人的、時間的に計測可能な指標を考え工夫していく必要があります。
といったように指標の候補を挙げ検証していきます。最終的な指標は、活動家の役に立ち、社会に活動の成果や社会の流れを明確に示すことができる、最もシンプルな指標にするべきです。

次に本書で設定したそれぞれの指標を提示します。

［指標］

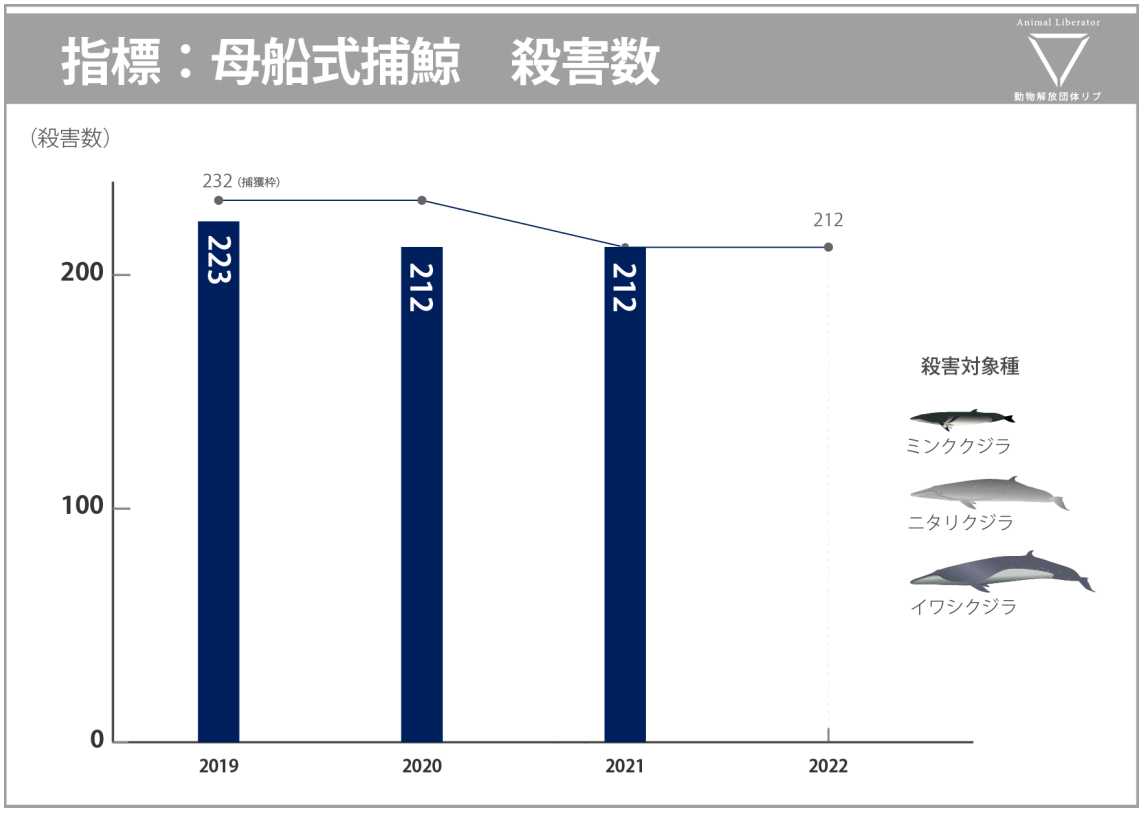
捕鯨　指標①「母船式捕鯨の殺害数」

捕鯨のための活動指標①は、「母船式捕鯨の殺害数」です。捕獲対象種である、ミンククジラ、ニタリクジラ、イワシクジラを合算した数字です（*ミンククジラは2020年以降捕獲していない）。水産庁から毎年必ず発表される明確な数字であるため活動の指標として適切であり、現実に殺されているクジラの数であり活動のモチベーションにも直結します。

水産庁と捕鯨共同体は、2019年にIWCを脱退、EEZ内での商業捕鯨を開始しました。限定された海域でクジラを殺し続けていればいずれ生息数は減ることが予想されます。その際は水産庁が他種のクジラを新たに捕獲対象種とし、殺害し始めるでしょう。

クジラ保護各国やクジラ保護団体が生息数の回復に取り組んできたきたおかげでやっと回復してきたクジラたちを日本の捕鯨共同体が殺し始めるのは、不条理なことです。

［捕鯨：指標：母船式捕鯨　殺害数］



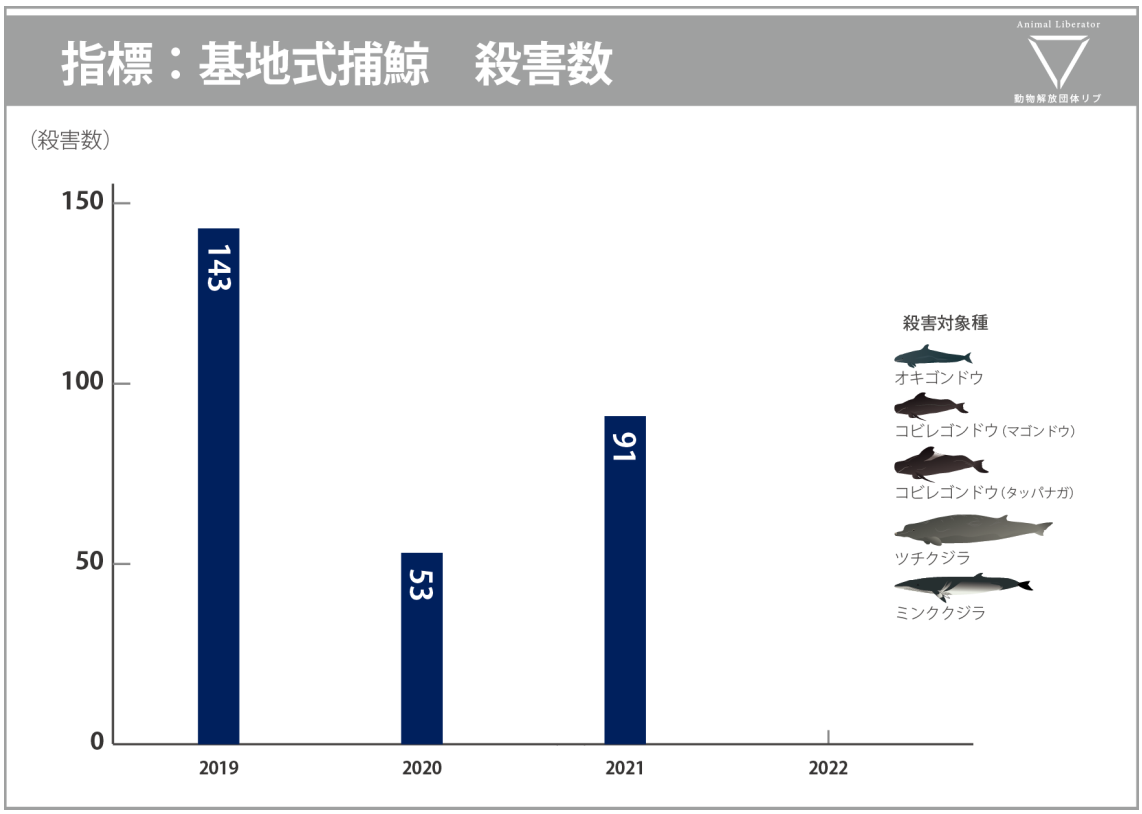
捕鯨　指標②「基地式捕鯨の殺害数」

捕鯨のための活動の指標の②は、「基地式捕鯨の殺害数」です。捕獲対象種である、オキゴンドウ、マゴンドウ、タッパナガ、ミンククジラを合算した数字です。こちらも明確な活動指標となります。

2017年から、基地式捕鯨業者は沿岸ミンク鯨の調査捕鯨を行っています。これは経済の原則からしたら廃業しているはずの基地式捕鯨業者に、税金を投入して存続させるためです。これまで基地式捕鯨が捕獲対象としてきたゴンドウ系のクジラに比べ、ミンククジラは体が大きく高級食材となるため、ゴンドウ系の殺害は減っています。

2022夏のツチクジラは不漁だったようです。クジラ漁師は気候変動が原因かもしれないなどと考えており、責任を自然や人類全体に押し付けたいようです。いずれミンククジラも取れなくなっていくでしょう。

［指標：基地式捕鯨　殺害数］

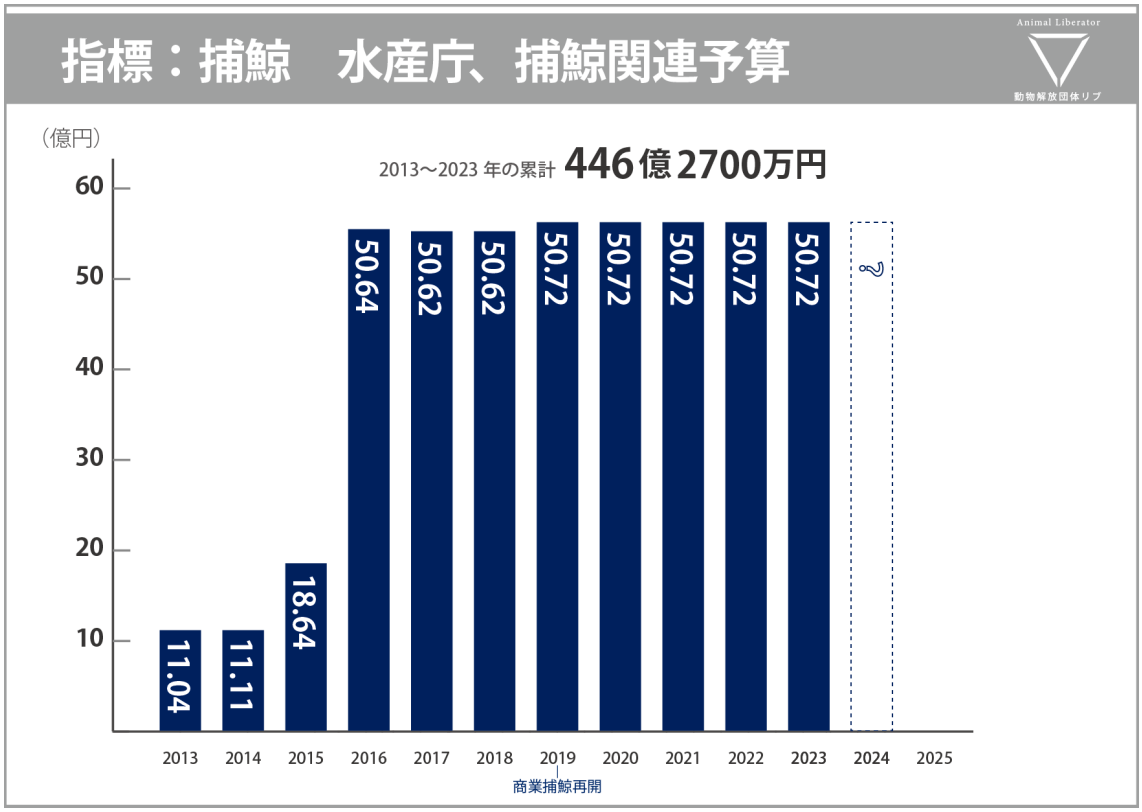


捕鯨　指標③「水産庁：捕鯨関連予算」

捕鯨のための活動の指標の③は、「水産庁：捕鯨関連予算」です。捕鯨関連予算は税金であり、捕鯨共同体の維持のために投入されます。税金は、日本鯨類研究所、共同船舶、基地式捕鯨業者（太地漁協、外房捕鯨、鮎川捕鯨、下道水産）で分配されます。経済的正当性を根拠に捕鯨産業に対して活動する際、最も明確な指標となります。

毎年50億円を超える税金が捕鯨共同体によって溶かされています。母船式捕鯨、基地式捕鯨は税金の投入がなければ存続できない産業です。税金の行方を監視することにより捕鯨への関心を高め、存続の可否を問うことは必須です。経済的な目標を設定した活動を発案し実行することは、有効な活動となるでしょう。

［指標：捕鯨　水産庁：捕鯨関連予算］



イルカ突き棒漁　指標「イルカ突き棒漁　殺害数」

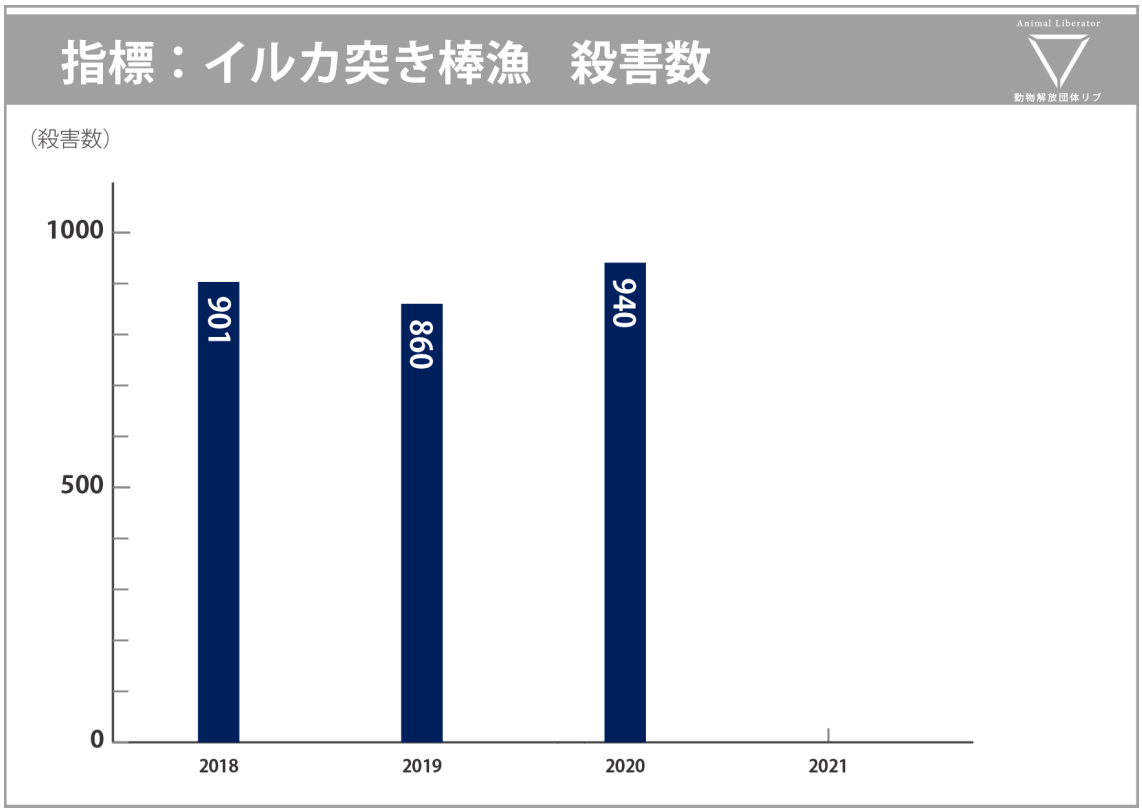
イルカ突き棒漁のための活動の指標は、「イルカ突き棒漁　殺害数」です。イルカ突き棒漁を行っている、北海道、岩手県、宮城県、和歌山県、沖縄県の殺害数を合算したものであり、捕獲対象種である11種のイルカを合算したものでもあります。

イルカ突き棒漁については一般にはもちろん、活動家にもあまり知られていませんので、この指標を軸にして、意識喚起、知識共有を行って行きます。

かつてはイルカ突き棒漁の殺害数は、イルカ追い込み漁の殺害数をはるかに上回っていました。あまりに殺していすぎることに対して国際社会が批判したこと、海外団体の活動、2011年の東日本大震災を経て、殺害数は激減しています。

イルカ突き棒漁は漁船ごとに許可されていますが、許可船籍数も徐々に減じています。

［指標：イルカ突き棒漁　殺害数］



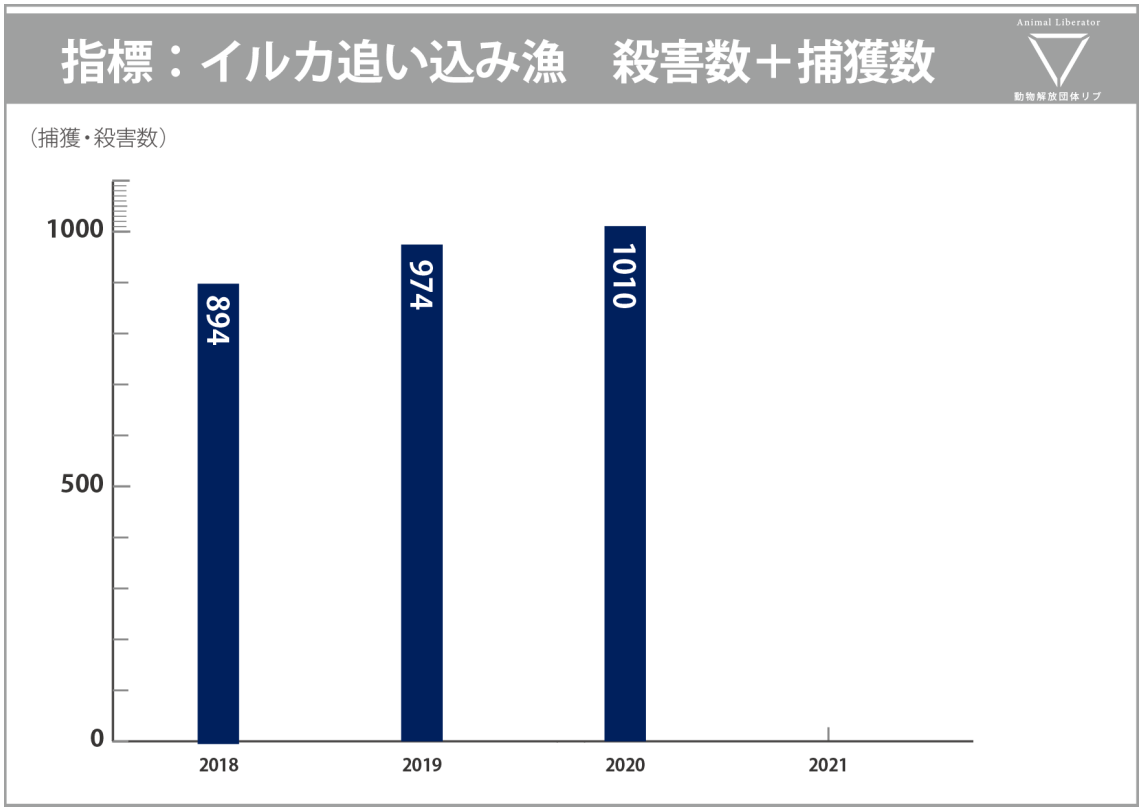
イルカ追い込み漁　指標「イルカ追い込み漁　殺害数＋捕獲数」

イルカ追い込み漁のための活動の指標は、「イルカ追い込み漁　殺害数＋捕獲数」です。イルカ追い込み漁を行っている和歌山県太地の殺害数であり、捕獲対象種である9種のイルカを合算したものでもあります。イルカの被害の合計数を示すことにより、イルカ追い込み漁に対する国内外の活動家、反対派の学者、行政内部で戦っている人など、イルカを守りたい人々全体の活動のインパクトを定数的に測定することができます。

イルカ追い込み漁はブラックボックスとされている部分（イルカの販売先や価格など）が多い漁業なので、公開されている情報かつ公開し続けるであろう数値から指標を設定する必要があります。イルカの殺害・捕獲数合計は必ず発表されますので、適切で持続的な指標となります。

またこの指標は、リブのイルカ追い込み漁に関する事業である和歌山県への陳情・請願が功を奏した際、その効果を図るために適切です。ゆえに今から設定しておく必要があります。そして、今後陳情・請願の正当性を主張する根拠として添付する資料の発案材料となることを予想しています。

［指標：イルカ追い込み漁　殺害数＋捕獲数］



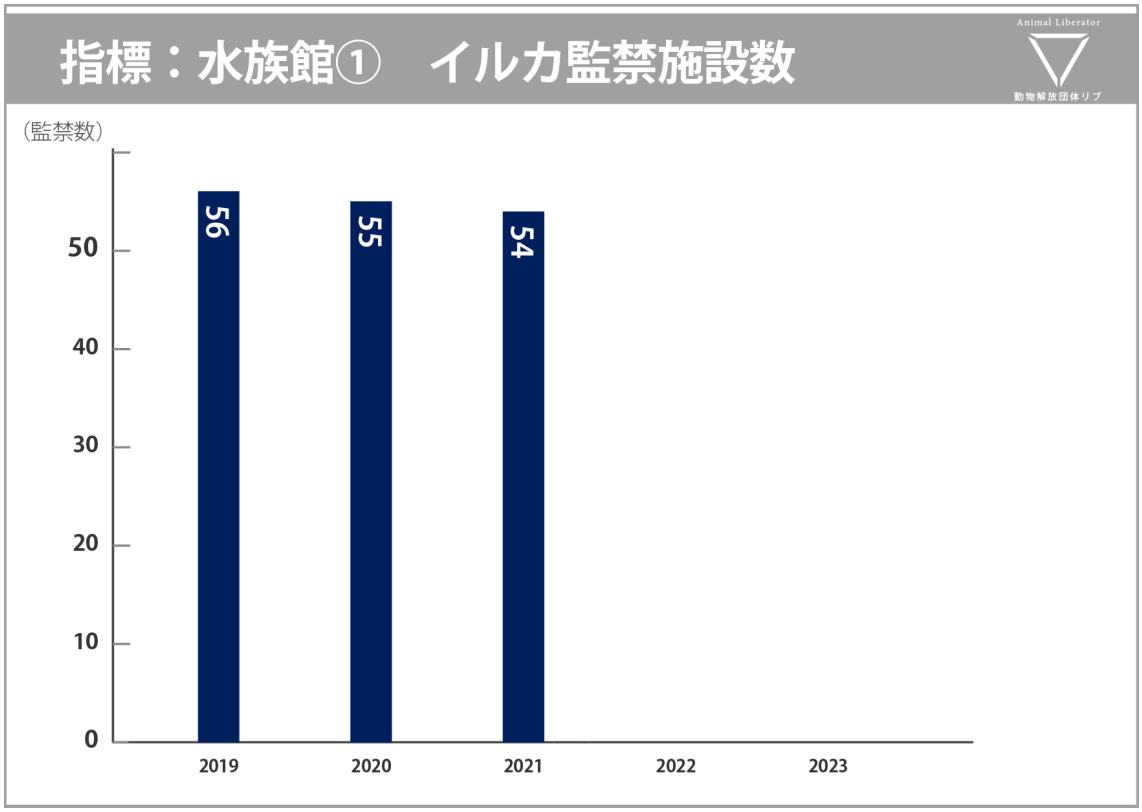
水族館　指標①「イルカ監禁施設数」

水族館のための活動の指標のは、「イルカ監禁施設数」です。施設によって監禁数のばらつきは大きいですが、経営状態が脆弱で、監禁環境が悪い施設から淘汰されていくと予想されます。つまり監禁されているイルカの福祉の観点からすると良い傾向です。

2019年の日本一周 動物園水族館調査時点から2021年までに2館（みさき公園、京急油壺マリンパーク）減っています廃業する施設にはある傾向があります。今後活発化するであろう対個別水族館への活動のヒントととなる可能性がありますので、数字と共に廃業施設を追っていくことは重要です

日本各地に水族館が次々と新設されていることに関しても注意を払う必要があります。

［指標：水族館①　イルカ監禁施設数］



水族館　指標②「日本に監禁されているイルカの総数」

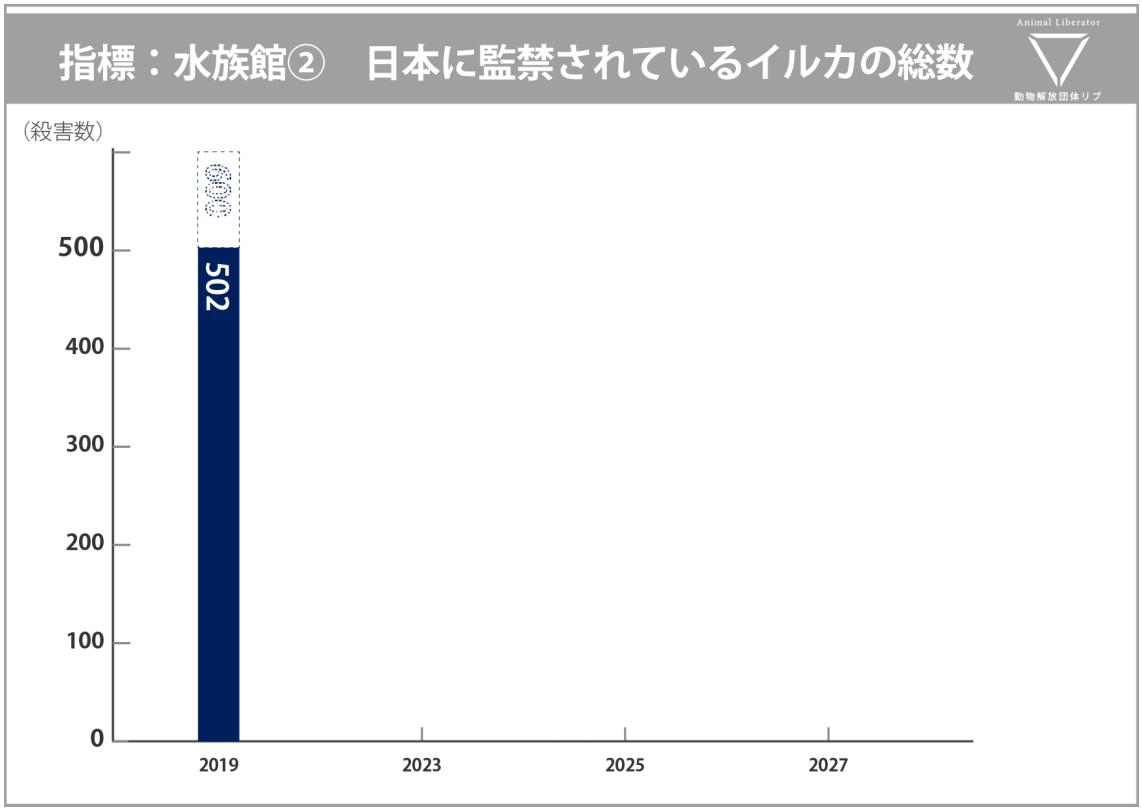
水族館のための活動の指標②は、「日本に監禁されているイルカの総数」です。502名は、日本のイルカ監禁施設のうち、イルカの数を公開している施設の監禁数を合算したものです。600名は、イルカの数を公開していない施設の推計イルカ監禁数です。イルカの数を公開していない施設はすべて和歌山県の施設であり、太地町くじらの博物や太地町開発公社などです。

定期的にイルカの総数をモニターしていくことにより、イルカの増減はもちろん、活動進展の指標とすることができます。

具体的なイルカの数を出すことにより、イルカの増減が明確になり活動家の共通認識とすることができます。イルカの増減の原因を認識しておくことが大切です。増加の原因は、1 野生からの捕獲、2 出産、3 混獲、4 輸入。減少の原因は、1 死亡、2 輸出です。水族館からのイルカの解放とは、増加の4つの原因を止めることです（減少の2 輸出は、野生からの捕獲を止めることで止められます）。

増加の4原因のうち、現在は1に対する活動はありますが、それ以外の3原因に対する活動が必要だということがわかります。

［指標：水族館②　日本に監禁されているイルカの総数］



第二節　目標とスケジュール

目標：捕鯨・イルカ漁　『捕鯨・イルカ漁の終焉、鯨族保護国へのシフト』

2020年、15年後2035年までにイルカ漁と捕鯨の終焉を実現すると目標を立てました。15年は長いようですが、一つの産業を終焉させるには短い期間です、しかも政官財学法報に守られ、一部市民の熱烈な支持がある産業を終焉させるには野心的な目標といえます。活動の軸として［情報収集～評価］を常に記録し、サイクルを回し続けることで、経験や情報を蓄積し、活動や活動家の高度化を図っていくことが重要です。また、活動には国内外の団体や人々の協力が必須です。鯨族保護に興味関心を持つ人々、実際に活動に参加する人を増やすことが重要になります。一人で活動するよりも、活動をする人を増やすことで、一人の力は何倍にもなります。

そのための最初の施策が、本書「イルカ・クジラ解放」です。

［スケジュール：イルカ漁］



目標：水族館　『水族館閉鎖』

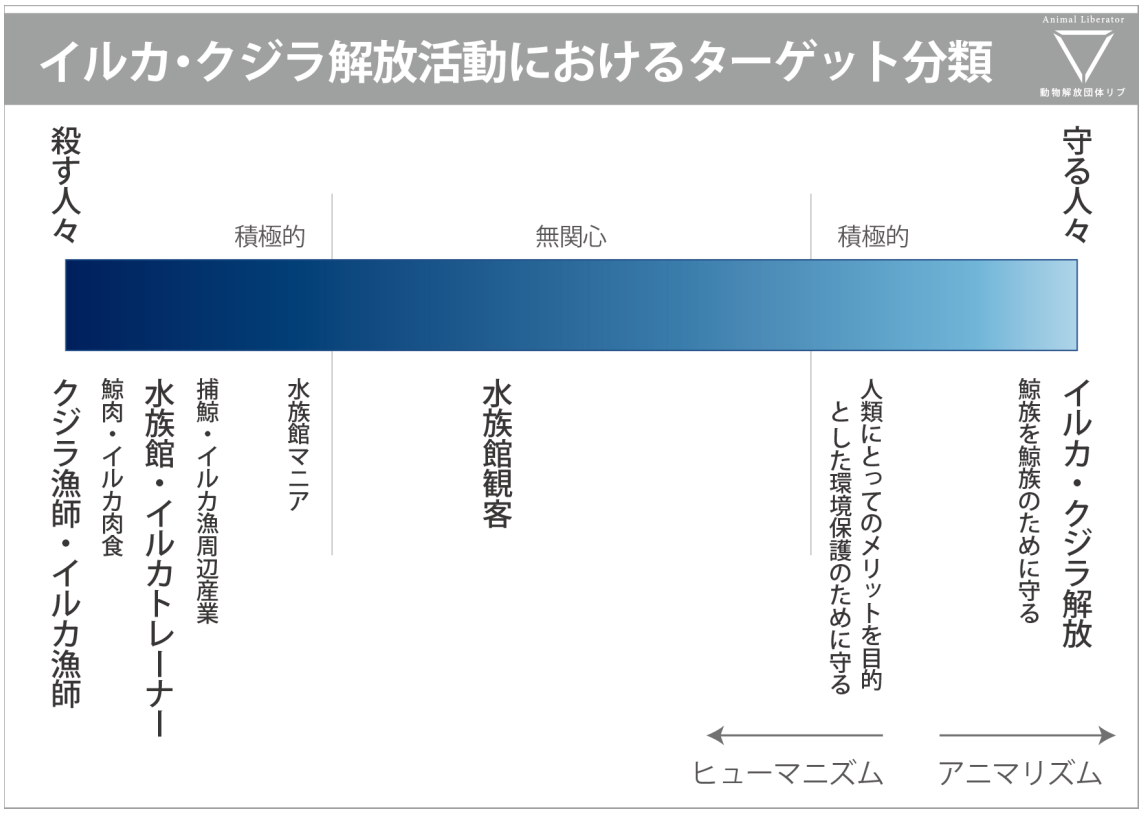
水族館に対する活動の最終目標はもちろん、日本に存在するすべての水族館の閉鎖です。詳細は拙著『動物園水族館閉鎖』をご参照ください。

第三節　ターゲット

多様な才能とネットワークを持つ多様な人々がイルカ・クジラ解放活動を行うことで、多様なターゲットにリーチでき、多様な効果をもたらします。自分が誰・どこ・何をターゲットとしているか意識的に活動することは、より効果的な活動場所、手法、話法の開発とともに、自分の心を守ることにもつながります。イルカ・クジラ解放活動におけるターゲットは大まかに以下のように分類することができます。

図の右側の人々ほど、変化を促しやすく、抵抗が少なく、活動における心理的負担が低くなり、着実な効果を得られます。左側の人々ほど、変化が促しにくく、抵抗が強く、活動に精神的なエネルギーを使うことになりますが、うまくいけば高い効果を得ることができます。

［図：イルカ・クジラ解放活動におけるターゲット分類］



第四節　活動の種類

社会活動とは、政治的・経済的・宗教的な改革、環境・人権・動物権利のためなどに、社会を変革しようとする行動です。

第一項　活動のカテゴリーと種類

ライフスタイル
ヴィーガニズム、フリーガニズム(Freeganism)、ミニマリズム、プレサイクル
ハンガーストライキ、沈黙、コミュニティ構築

直接行動（特定の目標に直接行う行動）
非暴力：ストライキ、封鎖、占拠、座り込み、ピケッティング、ツリースィッティング、
暴力：暴動、暴行、破壊、放火、妨害、エコタージュ(Ecotage)、エッギング(Egging)、パイイング(Pieing)、靴投げ(shoe-throwing)、インク投げ、落書き
* 人間に対しては非暴力、物や財産に対して暴力行為を行うという活動もある。

啓発活動（アウトリーチ）
デモ、パレード、パネル展示、スピーチ、講演、集会、キャンペーン、企業や政治家への支持表明

メディアアクティビスム
書籍、文学、雑誌、ミニコミ、リーフレット、パンフレット、チラシ、ニュースレター
映画、ドキュメンタリー映画、動画、プロジェクションマッピング
アーティビズム、音楽、歌、ダンス、デザインアクティビズム、ファッションアクティビズム、クラフティビズム(クラフトアクティビズム)、グラフィティ
カルチャージャミング、ゲリラコミュニケーション、ゲリラ園芸、ラフティビズム(Laughtivism)

インターネットアクティビズム（サイバーアクティビズム・データ アクティビズム）
Webサイト、SNS、ライブストリーム、署名、スラックティビズム、ディスインフォメーション、ハクティビズム(ハッキング)、機密文書の公開、大量メール、バーチャル・スィット・イン(Virtual sit-in)、キーボードアクティビズム
（* SNSでのいいねやシェア、オンライン署名など、努力やコミットメントが低い活動のこと。効果的な面（アラブの春でのSNS効果やスラックアクティビズムを行う人は実際の活動に参加する率が高い等）と、そうではない面（参照：Liking Isn't Helping）が指摘されている）

調査・研究活動
実態調査、市場調査、生態調査、分析、活動家への情報提供

経済行動
消費者運動：ボイコット、不買運動、株主活動(Shareholder activism)、フリープロデュース運動、内部告発、倫理的投資
代替品の創出（代替食品、代替繊維、代替薬、代替娯楽等）、ブランドアクティビズム

法的活動
訴訟、告発

政治行動
政策提言、ロビーイング、投票、請願、署名、オンブズマン
国際会議への出席、ロビーイング、示威行動

助成 ・中間支援・サポート
団体・活動家・プロジェクトへの助成、キャパシティビルディング(組織構築・ファンドレイジングのサポート)、プロボノ、ボランティア、寄付、コンサル

なお、非暴力活動は暴力活動よりも市民の共感とサポートを集める傾向があることが知られており、活動効果は2倍以上あるとされています。

第二項　啓発活動

啓発活動について少し追加します。

第一目　リアル

場所：路上、水族館前、駅前、住宅地、家等
種類：デモ、キューブ、パネルアクション、スピーチ、リーフレット配布、ポスティング、ハガキアクション・署名・友人や家族に伝える

メリット
ターゲットと作り込みによって効果は異なります。
例えばデモで考えてみますと、東京の路上で行った場合、ターゲットはデモを見る人、休日に行えば、ターゲット数は数万人となることが予想されます。どのような変化を与えたかの効果はほとんど計測できません。
活動の効果を最大化させるためには、せっかくリソースをかけて行った活動、ここではデモを”素材”として考える視点が重要です。デモという素材を最大化するための打ち手を工夫することによって効果は何倍にもなります。例えば、プロモーションに時間をかけて告知の協力者を増やしSNSでの拡散を組織的に行うことで、デモを知りデモの主張を耳にする人々が増えます。あるいは、マスコミにプレスリリースを出すこともできます。もし、新聞やテ

レビがポジティブな切り口で取り上げてくれたら、デモを最大化することができたと言えます。
例えば水族館前での活動で考えてみますと、この手法の効果的な点厳選されたターゲットにリーチすることができるということです。つまり、まさに水族館にこれから行こうとしている、水族館が好き、イルカショーが好きな人々に、直接現状を伝えることができるからです。最も現状を伝えたい人々に、効率よく変化を促すことが可能です。
ポスティングで考えますと、少し時間があったら、あるいは散歩するついでに、自分1人で気兼ねなく活動することができます。集団で活動するのが好きではない人向けの活動でもあります。

デメリット

どの活動であってもデメリットがあります。
デモや水族館前の活動で考えてみますと、冷ややかな目線を投げられたり、心無い言葉を投げかけられたりすることもあるかもしれません。暴力的なカウンターを行う人々が来る可能性もあります。
ポスティングであれば、ポスティングを禁止しているお宅やマンションには投函しないようにするべきです。
しかし、ある人にとってはデメリットであっても、別の人によっては燃えるポイントとなることもあります。例えばカウンターされることによって、逆に火が付きスピーチに熱が入る人もいますし、カウンターしてきた人々に声をかけYouTubeの撮影に誘うなどもできるでしょう。

このように活動の種類ごとにメリット、デメリットがあり、また人によって好き嫌いがあるでしょう。一通り参加してみて、自分が好きで得意な活動に参加するのが良いと思います。
また、さまざまな活動に参加することによって、自分の中にアイデアが生まれ、独自の手法の開発につながるかもしれません。

第二目　バーチャル

自分の場所：ウェブサイト、ブログ、YouTube、Facebook、Instagram、Twitter、TikTok
他者の場所：他者の〃
共有の場所：掲示板、口コミ、GoogleMAP

メリット

ネットでの啓発のメリットは、不特定多数の見知らぬ人々に届けることができることです。
活動の手法は、2002年頃からのブログの普及から、2007年YouTube、2008年Twitter・Facebook、2011年LINE、2014年Instagram、2019年TikTokの登場ごとに大きく変化してきました。

デメリット

一つはSNS登場以前の活動手法が引き継がれなくなっているということでしょう。SNS以前の団体の発信は会報によって行われており、拡散力は低いものでした。一方、活動の手法は物理的に動き関係者とネットワークを作ったり政治家や官僚と連携または対抗するなど、知識と経験を必要とする高度なものでした。SNSは衝動的に気軽に発信できる反面、事実に基づかない発信や、内省を経ない感情的で攻撃的な発信をしてしまいがちです。

現在のアニマルライツ活動やヴィーガンの急速な普及・発展は、SNS特にYouTubeに負うところが大きく、このトレンドはしばらく続きます。これらツールをうまく使いこなすことによって、活動の発展の速度を早めることができます。

第三項　人と関わりにいく活動

国会議員：ロビーイング、ブリーフィング、意見を届ける
行政：意見交換、情報開示請求、聞き取り
地方議会：陳情、請願
企業：交渉、要望、実際に現場に行き関係者から聞き取りを行う
学者：知見や意見を提供してもらう、講演などを頼む

メリット
政治家にロビーイングに行くことにより、意思決定に影響を与える可能性があることはもちろん、社会がどのように動いているのか、どのように話を持っていけば要望が通りやすいのか、実地の経験を積むことができます。かつては国会議員に立候補した活動家もいます。
例えば開示請求を行う場合、行政や法律の穴を突くアイデアが生まれたり、資料を収集分析することによって、一次情報から活動に直結する有益な情報を引き出すことができます。
実体験を積むことで、さまざまな知識やスキルと積むことができ、質の高い活動家になることができます。
またこのような活動をする場合、法人格がある団体の方が有利であり、また団体は個人活動では難しい活動を行うことにその存在意義があります。
デメリット
各業界での所作、礼儀等がわからないまま活動してしまうと、その方々の門戸を閉ざしてしまいかねず、また他団体や他社会課題に取り組んでいる団体等の活動を妨げ、迷惑をかけることになってしまいます。
私の場合で言いますと、時間をかけて情報収集し、各方面にネットワークを作り、戦略を微調整し、ステークホルダーからアドバイスをもらい、やっと的確な方法を見つけ、進もうとした時、たった一つのミスで全て崩され、愕然とした経験があります。
相手あっての活動を行う際は、慎重の上にも慎重を期す必要があります。

第五節　調査活動～太地町 イルカ漁調査～

ここでは、リブのウェブサイトにある「イルカ漁調査 完全ガイド」から重要な部分を抜粋します。ガイドは以下のリンクからご参照ください。ガイドを説明した動画もありますのでご活用ください。

［URL：Website：イルカ漁調査 完全ガイド： https://animal-liberator.net/animal-liberator/guide-to-taiji-dolphin-drive-hunt/ ］

［URL：YouTube動画：「イルカ漁調査完全ガイド」解説：https://youtu.be/4ssb3Tl4jhg］

「イルカ漁調査 完全ガイド」は、イルカの活動をしたい活動家、イルカのために何かしたい人、イルカやイルカ漁に興味を持った人が、太地のイルカ漁を訪れ、観察・調査できるようになるためのガイドです。

第一項　1 ガイドの使い方

ガイドは「1 ガイドの使い方」「2 準備編」「3 当日の流れ」「4 イルカがいる場所」「5 施設・史跡・その他」「6 おわりに」「7 《資料》」という構成になっています。

イルカは人間を楽しませてくれる、といったような従来の考え方を変えて、イルカは自由であるべきであり、その自由を守っていかなければならない、と思う人が増えてきました。楽しいイルカショーの陰で、イルカたちは、監禁状態による精神異常や病気に苦しんでいることがわかってきました。世界中の水族館のイルカショーのイルカたちが、日本のイルカ漁で捕獲されていることがわかってきました。捕獲されるイルカ以外のイルカたちは、殺され、食べられていることも知っています。
世界で最も鯨族を捕獲し、利用し、殺しているのは、私たち日本人です。私たち日本人が変われば、世界の鯨族の状況を変え、鯨族の苦しみを大きく減らすことができます。

筆者は、複数回にわたって長期間、太地を訪れています。イルカ漁を調査し、追い込まれるイルカたちの姿、引き上げられるイルカたちの姿を記録し、レポートしてきました。太地に関する書籍を読み、史跡を訪れ、太地町民や議員、役場の人々など、多くの人と話しました。そんな私が言えることは、太地を訪れ、実際にイルカ漁やイルカたちを見てくることは、とても貴重で得難い経験です。

私と同じように、イルカたちの苦しみの根源となっている日本のイルカ漁について知りたい、自分の目で見てみたいという人が増えていることを感じています。
本ガイドは、そんな人々のためのガイドです。ガイドを片手にイルカ漁を見に行き、体験し、感じて欲しい。そして、何かをするきっかけとなって欲しいと望んでいます。

一人一人の想い・行動が、人を、社会を動かします。

イルカを解放しよう。

第二項　2 準備編

準備編では、具体的な旅行準備についてお伝えし、多くの人が疑問・不安に思うことについて回答します。

①旅行準備

1 スケジュールの立て方

ここでは土日を利用したスケジュールを2パターンご紹介します。長期滞在できる方は、滞在最初の参考とすると良いでしょう。

おすすめはパターン1です。漁を2回見ることができます。

［タイムライン：イルカ漁調査完全ガイド：おすすめパターン］



多くの人が疑問に思うことに回答します。

Q. 土日休日にイルカ漁はある？

A. あります。土日休日を利用して訪れたい人が多いかと思います。土日休日関係なくイルカ漁が行われ、行われない時は荒天の場合です。

Q. イルカ漁が行われない日は？

A. 豪雨や暴風、台風など荒天の日です。イルカ漁にとっては雨よりも風が重要です。雨が

降っていても風が無ければ出漁するときがありますし、晴れていても風が強ければ出漁しません。台風の翌日などは、風の強さを確認して出漁するかどうかを予想しましょう。
Q. イルカ漁でイルカが捕まる頻度は？
A. 季節や天候、イルカが回遊してくる時期によってまちまちです。イルカ漁を見に行ったとしても、毎回イルカが捕まるわけではありません。もちろん、イルカが捕まらないことが最も望むことですが、イルカ漁を実際に見ることも非常に重要です。一度の滞在日数が多い方が、イルカが捕獲される確率が高まります。

2 交通手段、3 宿泊先、4 食事にについては、ウェブサイトのガイドをご覧ください。

5 調査当日 持っていくもの
・食べ物（例）
おにぎり、パン、バナナ、栄養バー、ピーナッツバター等消化が良くすぐにエネルギーになるもの、暖かい飲み物、水。
・衣料
朝
ニットキャップ、口を覆うもの、マフラー、手袋、防寒インナー、パーカー、ジャンパー、防寒ズボン、防寒靴 等
朝は冷えます。特に、イルカ漁船の動きを観察する場所は岬の上で、吹きっさらしです。少しオーバーかなと思うくらいに暖かい格好をするのが良いでしょう。皮膚が外気に極力触れないようにし、開口部（鼻・口・耳）を塞ぐと熱が逃げません。足が冷えないように、靴下を重ねばきし、背が高い防寒用の靴を履くとベストです。
昼
ハット、サングラス、手袋、長袖Tシャツ等
日が昇ると気温が上がり、Tシャツになることもあります。日を遮るものがないため、日焼け対策が重要です。
雨
カッパ、長靴、防水ハット等
カッパは防風着にもなりますので1セット持っておくと重宝します。

調査の際の服装の考え方は、登山のレイヤリングと似ています。様々な天候を予想し服を用意、現場では適宜着脱して、気温や風や日差しから身体を守ります。

6 機材
イルカ漁を動画と映像で記録すれば、SNSでの発信に使え、また個人的な記憶としても記録できます。参考までにリブが調査の際に使用している機材を紹介します。

カメラ：ニコン COOLPIX P1000、Canon kiss
三脚：大型三脚 Manfrotto（ビデオ用雲台）、小型三脚
スマホ：3台（SNS中継用：Insta、Facebook、Twitter）、固定用マウント
モバイルルーター：通信用
充電池：大容量のもの
双眼鏡：Vixenのものがコスパが良い
カメラバッグ：大型三脚以外の機材がすべて綺麗に入り、取り出しやすいバッグ

特におすすめは、ニコン COOLPIX P1000と、双眼鏡です。
P1000：光学125倍ズーム、ダイナミックファインズーム250倍と、遠くで泳いでいるイルカの姿も捕らえられる非常に優れたカメラです。遠くから畜舎の中を撮影する時などにも使えます。一台持っておくと便利です。
双眼鏡：イルカ漁調査に必須です。岬の上からイルカ漁船を探すとき、漁船の動きを観察するとき、イルカの種類や様子を見るときなどに使用します。イルカ漁調査だけではなく、動物園や水族館、サファリパークで、動物の怪我や皮膚の状態、目などを観察する時にも使用できます。双眼鏡の使い方にはコツがありますので、各自お調べください。

スマホに入れておくと良いアプリ
現地でイルカ漁の流れを予想するときなど、風、潮汐、気圧配置、降雨の範囲、気温、日の出、方位の情報がわかるアプリを入れておくと便利です。天候による漁のパターンなども次第に見えてきます。

②疑問・不安について
Q. 太地の人はこわくないの？
A. こわくありません。優しい人が多い印象です。親切にしてくれますし、いろいろ教えてくれます。こちらが不快な態度、価値観を否定するような態度を取らなければ、ほとんどの人は優しくしてくれるでしょう。

Q. 漁師はこわくないの？
A. 数年前から太地に通っていますが、これまではお互いあまり干渉せず、会えば挨拶するなど、適切な距離を保っていました。
しかし2020年後半、イルカ漁師や漁協関係者と活動家の関係は、私が体験した中で最も悪化しました。攻撃的な態度を取ったり、侮辱的な態度、社会的に適切で無い態度を取れば、漁師の方や関係者の方が気分を害することもあるでしょう。
それらを踏まえ、適切な距離を保ち、もし機会があれば普通に挨拶をすれば良いと思います。

Q. 右翼はいるの？

A. 普段はいません。

映画「The Cove」やYouTubeでシーシェパード狩りを見たことがある人は、その印象が強く怖いと思われるかもしれませんが、漁期の間ほとんどの来ていません。イルカ漁期が始まる前日や初日など、特別な日に来ています。特に2021年現在、感染症の影響により外国人活動家が少ないので、活動は活発ではないようです。

個人的な経験から言えば、普通に礼儀正しく接していれば問題ありませんでした。しかし、人によると思います。

Q. 警察はいるの？

A. 漁期中は、陸は警察、海は海上保安庁が警戒に当たっています。

場合によっては警官に職務質問されることもあります。対抗しようとする活動家もいますが、私は協力した方が良いと判断しています。警察官にとって、私たち活動家は警戒対象でもありますが、同時に私たちを守ってもくれています。私自身は、私が太地町にいると警察に知られていた方が良いと考えています。友好的に接して悪いことはありません。

Q. 活動家について

A. 活動家には様々な人がいます。良い人もいますが、問題がある人もいます。誰と関わるかには、慎重になった方が良いでしょう。

第三項　3 当日の流れ

太地町でイルカ漁調査を行う基本ルート、イルカが囚われている場所、その他施設等をMAPにしました。現地に行かれた際には、お役立てください。

［URL：太地町 イルカ漁調査マップ：https://www.google.com/maps/d/u/0/viewer?mid=1rVh1pEs33QOhXntUYWIQLkh1EG5vi3Lk&ll=33.59004441793864%2C135.93012990205136&z=13］

マーカーの色

紅：3 当日の流れ（イルカ漁調査ルート）

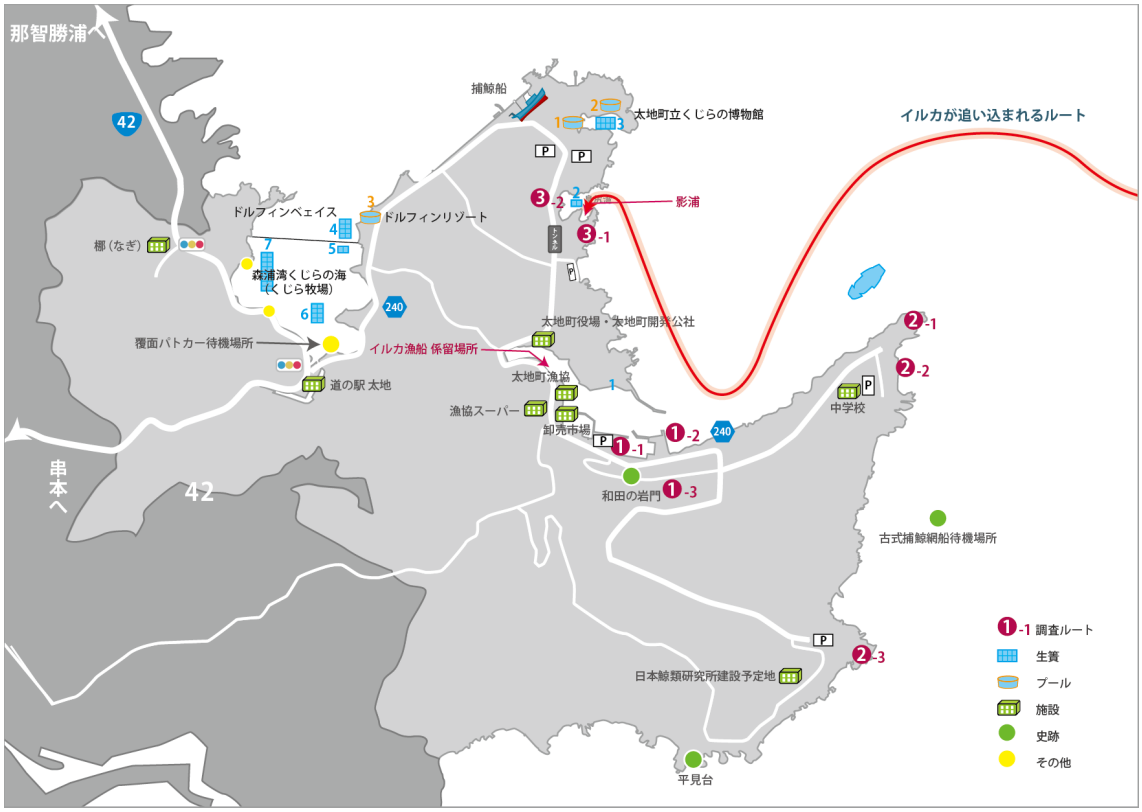
青：4 イルカがいる場所（生簀）

橙：4 イルカがいる場所（施設）

緑：5 施設・史跡・その他

イルカ漁調査のルートは、①→②→③と進行します。

［MAP：太地町：イルカ漁調査ルート］



1 起床、出発

日の出前、周囲がうっすら明るくなってきたら、イルカ漁船が出港します。

起床：日の出の2時間30分前

那智勝浦出発：日の出の1時間30分前

太地到着：日の出の1時間前

と設定すると時間に余裕がもてます。

［写真：太地漁港］



イルカ漁出航前、早朝の太地漁港の写真です。写真右側の一際明るいライトが、太地漁協所有の生簀を照らすライトです。ライトは活動家の侵入を防ぐためにつけられており、監視カメラもあります。

出港前の待機場所は、以下の三ヶ所のいずれかが良いです。
MAP：①-1 太地漁港：東の浜駐車場（トイレあり）
MAP：①-2 堤防の上（東の浜から堤防に近づくと、右端に階段がある。転落注意）
MAP：①-3 旧道（県道240号の坂を上りきった横断歩道の十字路を右折し、細い道を下る。少し広くなった、ベンチが置いてある場所）
これらの場所からイルカ漁船の出港を撮影することができます。

2 イルカ追い込み漁開始、イルカ漁船の見送り

日の出前、周囲が明るくなってきたら11〜12隻のイルカ漁船が列をなして出港します。撮影・中継するなどしながら、イルカ漁船を観察し特徴を覚えておくと良いと思います。漁船ごとに大きさや色、操舵室の形状、レーダーの数や形状が異なっています。イルカ漁船の基本的な特徴は、船の左右にバンガーが設置されているか否かです。物干し竿ほどの太さの金属製の棒で、音を拡散させるために、先が傘のようになっています。イルカ漁船が出漁していないときは、MAPの「イルカ漁船 係留場所」に停泊しているのでそこで確認もできます。

［写真：イルカ漁船とバンガー］



イルカ漁船が沖合に出て行ったら、岬の上へ移動。
岬の上は、以下の三ヶ所のいずれかが良いです。
MAP：②-1 燈明崎（県道240号の坂を上りきった横断歩道の十字路を左折。突端からよく見えるが、少し歩く）
MAP：②-2 展望台（県道240号の坂を上りきった横断歩道の十字路を左折。よく見える）
MAP：②-3 梶取崎（遠いので車で移動する）
早く移動すれば、沖合いへ向けて展開していくイルカ漁船が見られます。
（注：交通法規遵守のこと。特に②-1 燈明崎、②-2 展望台へ行く際は、道が狭く、子供もいるのでゆっくり走りましょう。②-3 梶取崎への道はシカがよく出ますのでこちらも注意です）

3 イルカ漁船の動きを観察

岬の上から、イルカ漁船の動きを観察します。ここからの展開は2つしかありません。
I イルカ漁船がイルカを追い込み始めた。
II イルカ漁船がイルカ捕獲を諦め帰ってきた。
Iか、IIかを判断するため、双眼鏡で海上を観察し続けます。判断基準は以下です。

I イルカ漁船がイルカを追い込み始めた。とする判断する基準

沖合に10隻前後の船が横一列に並び、左（北）の方向に向かっていたら追い込まれ始めたと判断します。この一列になった姿を、フォーメーションともいいます。
沖で組まれたフォーメーションは、点のように見えます。
［写真：フォーメーション1］



岸に近づいてくると、船の形がわかるようになります。
［写真：フォーメーション2］



イルカ漁の流れは［本文参照：第五部 第三章 第五節　漁法］も参照してください。事前に目を通しておくと、当日の流れがわかります。

II イルカ漁船がイルカ捕獲を諦め帰ってきた。とする判断する基準

イルカ漁船が連続で帰ってきたら、です。
漁船は、水平線より向こうまで行き、イルカを探します。沖に出ている船は多いので、双眼鏡やP1000を駆使し確認。双眼鏡で全体を見て、P1000で撮影しバンガーの有無を確認すると、確認作業がスムーズです。土日は海に出ている船の数が多いので、注意深く観察するようにします。イルカ漁の調査を繰り返していると、雰囲気（形、大きさ、色、操舵の仕方、向かう方向やスピードなど）で判るようになってきます。

1 イルカ漁船がイルカを追い込み始めた。と判断した場合

イルカが追い込まれ、船の形がはっきりわかるくらいの近さまで来たタイミングで、次のいずれかの場所に移動します。
MAP：③-1 たかばべ（畠尻湾のトンネル近く、ホテル「白鯨」へ向かう道に入る。「白鯨」を左に見て通り過ぎ、堤防の横の道に登る。近隣住民の邪魔にならないように、車をなるべく堤防に近づけて止める。（参照：たかばべに登る際の駐車スペース）徒歩で「白鯨」の駐車場へ入ると左側に階段がある。登り切ると広場になっている）
MAP：③-2 畠尻湾=The Cove（車はくじらの博物館手前の駐車場に止める。観察に適した場所はいくつかある。上の道路から、道路脇の小さい広場から、下の浜から）

MAP：③-1 たかばべ

［写真：たかばべから影浦を見下ろす］



階段を登り切ってすぐ左側の真下が、「影浦」。イルカを捕獲・殺害する小さな湾です。たかばべから湾を見渡せる場所は1カ所しかありません。その場所からは、イルカが子どもを守ろうとしている姿、ダイバー（イルカ漁師）が海に入ってイルカを捕獲している姿や、イルカトレーナーがイルカを運んで行く姿が見えます。

［写真：追い込まれたイルカ］



［写真：イルカを捕獲するダイバー(イルカ漁師)］



イルカが捕獲・殺害される場所はグレーのシートでカバーされ、見ることができないようになっています。影浦が見えない場所からは、イルカの呼吸音、暴れる水しぶきの音、イルカ漁師の声、イルカトレーナーがイルカを選別している時の声が聞こえます。

たかばべ奥：

階段を上がって一番奥の場所から、太地漁港方面から徐々に追い込まれていくイルカの姿が確認できます。

イルカが追い込まれたとき、たかばべには、警察官、太地町役場職員が警戒に当たっています。

MAP：③-2 畠尻湾=The Cove

漁網に閉じ込められたイルカたち、網を徐々に狭めていくイルカ漁の方法が観察できます。

「影浦」（かげうら）は岩の陰になり見えません。

イルカが追い込まれたとき、畠尻湾には、警察官、海上保安庁が警戒に当たっており、そこここに監視カメラが設置されています。日によっては、水産庁職員、水産庁関係の研究機関の職員、動物専門学校の教師と生徒などが見学しています。

［写真：畠尻湾から。イルカ漁船が黒煙を噴き上げる］



例外）カマイルカの捕獲の場合は「①-2 堤防の上」へ

ただし、追い込んだイルカがカマイルカの場合、太地漁港の堤防の外で捕獲します。

カマイルカは他のイルカと異なり、まとまってではなく四方八方に逃げるからだそうです。

カマイルカは、水族館販売用の捕獲のみです。美味しくないので殺害しません。

ハナゴンドウをこの地点で捕獲殺害したこともあります。このときは、畠尻湾に追い込むのに手間取ったため、労力削減のためにこの地点で捕獲したものと思われます。

追い込んだイルカがカマイルカかどうかの判断は、太地漁港の堤防の外で、小船が網を降ろす作業し始めたらその可能性を考えます。

たかばべからは、その作業をしているかどうか確認できますが、畠尻湾に移動した後だと、この作業の確認は不可能になります。その場合、船が来るのがあまりに遅かったら、「①-2 堤防の上」に行くかどうか検討します。単に追い込みに手間取っているだけのこともあり、その場合はすれ違いになります。

イルカ漁調査時は、常に漁の進捗を推測し、先回りする難しい判断を繰り返します。

イルカが捕獲・殺害された後

追い込まれたイルカは、

I 殺害

II 捕獲

III リリース

のいずれかの運命をたどります。

I 殺害された場合

イルカの遺体は、小舟からイルカ漁船に移されるか、小船に乗せたまま、太地漁港へ向かいます。イルカの遺体はシートで隠されますが、隙間から確認できることがあります。

太地漁港の「MAP：施設：7 卸売市場」の海側からイルカの遺体が引き上げられ、中で解体されます。引き上げる際はブルーシートで隠されますが、隙間から見えることもあります。

II 捕獲された場合

イルカを乗せた小舟は、太地漁港に向かいます。日によっては森浦湾方面にも向かうこともあります。イルカは、太地漁港内の「MAP：生簀：1 太地漁港」に移され、しばらく経つとイルカトレーナーがきて、体長測定や身体的な特徴の確認を行います。捕獲当日や翌日、ストレスで死んでしまったイルカが生簀から引き上げられ、卸売市場に運び込まれることもあります。これは動物愛護法違反の可能性があります。

なお、森浦湾方面に向かった場合は、ドルフィンベェイス、森浦湾、那智勝浦の生簀のいずれかに搬入されると思われます。

I 殺害された場合、II 捕獲された場合、いずれの場合も、急いで（交通法規遵守のこと）太地漁港へ移動すれば、殺害されたイルカが卸売市場に引き上げられるところや、捕獲されたイルカが生簀に入れられるところが見られます。生簀に入れられるところは、「MAP：①-2 堤防の上」からよく観察できます。

III リリースされる場合

2パターンあります。

1. 水族館販売用に捕獲した上で、それ以外のイルカが入った網を外し、イルカ漁船がバンガーを鳴らして追い払います。これは、イルカが仲間を心配するなどして太地漁港周辺に残り、定置網に入って漁業者に被害を及ぼさないためです。

2. 残ったイルカを小船に乗せて、沖に運んで捨てます。

撮影したいときは、「MAP：①-2 堤防の上」へ移動し、撮影します。「②-1 燈明崎」までいって撮影することもできますが、時間との競争となりかなり大変です。どちらの場合もかなり遠いので、P1000がないと撮影できません。

2 イルカ漁船がイルカ捕獲を諦め帰ってきた。と判断した場合

早朝、イルカ漁船出港を見送った場所、MAP：①-1、①-2、①-3のいずれかへ戻り船の帰港を確認します。

出港時の船の数を数え、帰港する船の数を数え、確認します。日によっては、数隻帰ってこない時もありますが、その時は他の漁をしているか、珊瑚を取っているようです。イルカ漁船のデザインは一隻一隻異なるので、「①-2 堤防の上」から違いを観察しても良いでしょう。なお、他の漁を行っている漁船が、イルカの群れを見つけ、漁協に連絡したら再び出港する場合もあります。

4 イルカ漁 終了

太地漁協裏の「イルカ漁船 係留場所」にすべてのイルカ漁船と、小舟が帰ってきたら漁が終了したと判断します。
大方の船が帰ってきたら漁は実質終了ですので、時間があれば、
MAP：4 イルカがいる場所
MAP：5 施設・史跡・その他
へ行かれてみると良いでしょう。

5 アドバイス

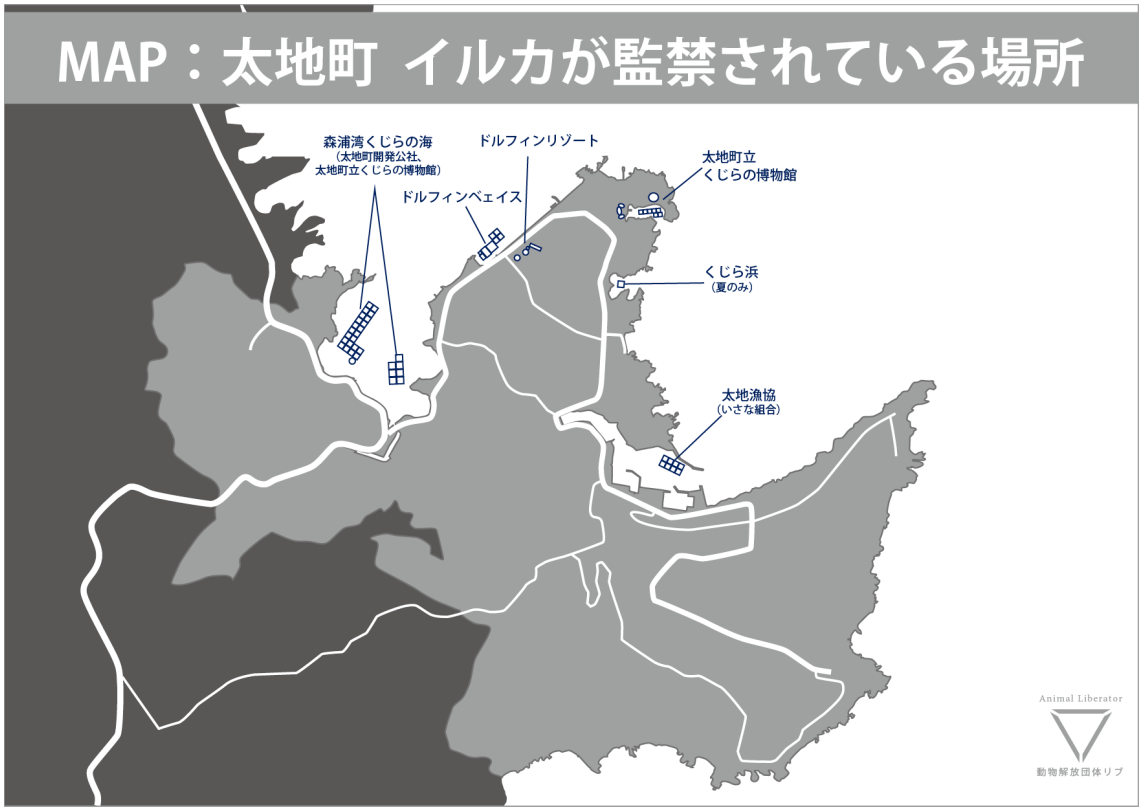
太地町で活動するにあたって、守った方が良いこと、心がけておいた方が良いことをお伝えします。

・法律は遵守する（交通法規（制限速度・一旦停止・歩行者優先）、立ち入り禁止区、ドローン飛行禁止区、漁の妨害、その他全ての法律）。
・感染症対策を行う。
・町の人に敵対的な態度を取らない。イルカ漁問題に関しては、敵対的な態度をとることによって解決を遅らせてきた。
・警察・海保・役場職員を敵視しない。仕事で職務を果たしている方々であり、尊重しましょう。活動家側を守ってくれている人々でもあります。
・太地町の一部は国定公園に入っているるため禁猟区。そのためシカやイノシシが多いので運転に注意。
・津波について。南海トラフ地震がいつ来てもおかしく無い状況です。震源地の有力な候補とされている場所は、太地町沖合すぐの海底であり、岬から見える範囲です。太地はこれまで、津波によってなんども壊滅的な被害を受けてきました。津波は、早い場合2〜3分で到達することが予想されています。いつどこにいても、避難できる高台とルートを確認し、身を守ってください。

第四項　イルカが監禁されている場所

イルカ漁が終わったら、あるいは漁が無かったら、イルカたちが囚われている場所を中心に回ると良いと思います。イルカたちは、海に浮かべた生簀（いけす）か、コンクリートとガラスのプールに入れられています。那智勝浦方面から順番に記載していきます。

［MAP：太地町：イルカが監禁されている場所］



第一目　森浦湾くじらの海

［写真：森浦湾_全景］



国道42号線から撮った写真です。中央の生簀が見えます。右と奥にも生簀があります。おそらく森浦湾が世界で最も大量のイルカを監禁している場所。そして最もイルカの密度が高い場所です。繁殖研究、出荷待ちなどが行われています。
生簀は3つのかたまりに分かれており、ここでは「森浦湾最大の生簀」「森浦湾中央の生簀」「海上通路脇の生簀」と呼びます。

森浦湾最大の生簀
森浦湾最大の生簀には、かなりの数の生簀が組み合わされて設置されており、生簀ごとに別種のイルカが監禁されています。丸い形の生簀は、おそらく療養用だろうとのことです。

ここには、太地町立くじらの博物館、太地町開発公社、漁協が所有するイルカが収容されていると見られます。他水族館所有のイルカを預かっている場合もあるようです。イルカは、森浦湾鯨の海構想の繁殖用のイルカ、娯楽利用のイルカ、国内外の水族館・ブローカーに販売する用のイルカのストック、預かっているイルカに分類されます。今後イルカの養老牧場としての事業展開も予想されます。
［写真：森浦湾最大の生簀］



イルカトレーナーが頻繁に訪れ、トレーニングや清掃などを行っています。イルカトレーナーが来るとイルカたちは食べ物を得ようとジャンプをし始めます。

［写真：ジャンプするカマイルカ］



［写真：森浦湾の生簀で作業を行うトレーナー］



森浦湾中央の生簀

森浦湾の中央付近に設置されている4マスの生簀が誰の所有なのかは不明です。イルカトレーナーではない人々が、作業を行っています。

海上通路脇の生簀

太地フィールドカヤックの事務所を抜けて、海上の歩道を歩いていくと見ることができます。太地漁協所有。イルカショー、イルカトレーニングを行う。くじらの博物館のトレー

ナーがイルカのトレーニングを行っていることや、専門学校生に研修を行っていることもあります。一人荒いトレーナーがいて、イライラして棒のようなもので水面を叩きまくっていたのが印象的でした。

第二目　ドルフィンベェイス

ドルフィンスイム、イルカトレーニング、イルカトレーナー育成などを行う。社長の三好晴之氏は、元くじらの博物館職員。太地町立くじらの博物館建設計画時から関わり、、バンガーを静岡から導入しイルカ追い込み漁を開始、水族館主導のイルカ追い込み漁を指揮してきた、太地町とイルカを語る上で欠かせない人物です。。日本のイルカトレーニングの黎明期を作った。元太地町議会議員。町長選にも立候補されている。著書に「イルカのくれた夢―ドルフィン・ベェイス イルカ物語 」。

［写真：ドルフィンベェイス］



［写真：ドルフィンベェイス 生簀］



第三目　ドルフィンリゾート

大阪府出身、海原壱一（かずいち）氏が設立。現在イルカ見学が行われているプールは、かつては海原氏の別荘のプールであり、ペットとしてイルカを飼育監禁していました。当時、大阪との間をヘリコプターで移動するなどの豪華な暮らしを、メディア等で指摘されていました。現在はイルカタッチ、イルカトレーニング、イルカトレーナー養成などを行っています。見学には事前予約が必要です。中学生以上200円、4歳から小学生100円、3歳以下無料で入場することができます。

［写真：ドルフィンリゾート_全景］



［写真：ドルフィンリゾート_別荘側］　［写真：ドルフィンリゾート_ホテル側］





第四目　太地町立くじらの博物館

日本のイルカショーの基盤を確立した水族館の一つです。太地の近代イルカ追い込み漁はくじらの博物館開館に合わせて開始されました。イルカの展示、ショー、繁殖研究、イルカの食用の遺体販売、中国等海外水族館にイルカを販売するイルカブローカーも行っています。施設は博物館、ショープール、クジラショーエリア、クジラショーエリア奥の生簀、マリナリュウムに分かれています。

1. 博物館

［写真：太地町立くじらの博物館］



［写真：太地町立くじらの博物館_口の悪い人はクソガキの像と呼んでいました］



2. クジラショープール

野外のショープールはくじらの博物館開館当初から変わっていません。1969年開館時点では最新式の設備でした。現在は、カマイルカ、スジイルカのショーを行っています。

［写真：クジラショープール］



3. クジラショーエリア

湾を仕切ってイルカを監禁しています。手前部分がクジラショーエリア。ハナゴンドウ2名、オキゴンドウ2名、コビレゴンドウ1名がショーをさせられています。左右の直線に区切られた向こう側にあるのが、クジラショーエリア奥の生簀です。

［写真：クジラショーエリア、クジラショーエリア奥の生簀］



4. クジラショーエリア奥の生簀

バンドウイルカ、カズハゴンドウ、ハナゴンドウなどが監禁されています。白変種のハナゴンドウハマタもここに監禁されています。

［写真：クジラショーエリア奥の生簀］



5. マリナリュウム

狭い水槽に、アルビノのバンドウイルカ「スピカ」、スジイルカ、マダライルカ、シワハイルカ、カズハゴンドウが監禁されています。

［写真：太地町立くじらの博物館_マリナリュウム］



［写真：太地町立くじらの博物館_ハナゴンドウ］



第五目　畠尻湾（The Cove、くじら浜）、影浦

畠尻湾

映画「The Cove」の舞台になった小さな入江です。The Coveの正確な名称は、畠尻湾(はたけじりわん)。かつては国道から見えるこの湾でイルカの捕獲殺害が行われていました。現在は畠尻湾の右にあり、影浦(かげうら）という小さな湾で行われています。影浦は国道から見えない位置にあり、何が行われているか見ることはできません。

くじら浜海水浴場

畠尻湾は、冬はイルカ追い込み漁が行われ数多くのイルカたちが捕獲殺害され、夏は「くじら浜海水浴場」として、生簀を設置しイルカを入れ、観光客を遊ばせるサービスが行われます。イルカは20年前に会ったイルカを覚えているほど記憶力が良いと言われています。とすれば、畠尻湾で捕獲されたことを覚えているかもしれません。そこで、家族や恋人や子供が殺されたことも。その畠尻湾で人間と一緒に泳がせます。

［写真：The Cove、畠尻湾、くじら浜海水浴場］



影浦

［写真：影浦_1］



写真中央の湾が影浦。イルカトレーナーによる捕獲と、イルカの殺害が行われます。

［写真：影浦_2］



岸はコンクリートで固められ、上空からの撮影を防ぐためのビニールシートが見えます。
写真：影浦_1と2は外国人活動家から提供いただきました。

第六目　太地漁港

地元の方は東浜(ひがしはま)と呼びます。

［写真：太地漁港生簀］



イルカ追い込み漁で捕獲されたイルカはここに投げ込まれます。国内外の水族館、ブローカーに販売する用のイルカがストックされています。
捕獲したイルカの体長測定、イルカへの注射や投薬、魚を強制的に食べさせるシーン、簡単なトレーニングをするところなどを記録することができます。

第七目　那智勝浦

所有者不明（ワールド牧場？）。

第五項　施設・史跡・その他

MAPのうち、施設・史跡は緑のマーカー、その他は黄で示しています。那智勝浦方面から太地に入るルート順で記載します。

MAP：1 梛（なぎ）

将来的に、梛と森浦湾くじらの海を遊歩道でつなぎ、ホテルやレクリエーションを提供する一大リゾートとする予定です。梛の前身は、公的年金流用や、歴代の厚生労働大臣の地元へ設置されたことから利権の存在が問題となったグリーンピア（大規模年金保養基地年金施設）の一つ、グリーンピア南紀。また、2007年「那智勝浦町が中国系ペーパーカンパニーのボアオと、二階俊博経済産業大臣室で賃貸借契約を交わした」とされ問題となった曰く付きの施設です。

MAP：2 道の駅 太地

所有は太地町、運営は太地漁協が行なっています。太地で殺害したイルカの遺体や、調査捕鯨や商業捕鯨で殺害したクジラの遺体を販売しています。ホテルのような豪華なトイレが有名で必見です。太地町は住民あたりの公衆トイレの数が日本一であり、三軒町長がトイレの拡充に情熱を燃やしています。太地町は、イルカがトイレに変わる町です。

MAP：3 捕鯨船（第一京丸）

退役した母船式捕鯨のキャッチャーボートです。共同捕鯨所有であり、北洋捕鯨、南氷捕鯨、調査捕鯨を行いました。これまでどれほどのクジラを殺してきたのかと思いを馳せます。

MAP：4 太地町立くじらの博物館

1969年開館。くじらの博物館さえ開館しなければ、太地では近代的イルカ追い込み漁は行われず、イルカたちは殺されず、今起こっている軋轢や分断などは生じなかったでしょう。

MAP：5 太地町役場

イルカ・クジラを軸とした観光立町政策、イルカ・クジラ産業基盤整備等を行っています
太地町開発公社は、太地町役場内にあり、社長は三軒町長です。太地町開発公社は不動産業を行う会社として立ち上げられましたが、現在は、生体イルカの販売（ブローカー）と、鯨肉の学校給食への導入、地方への販促などイルカ肉鯨肉普及促進事業を行なっています。また、イルカの生体販売を太地町くじらの博物館から、太地町開発公社に移動することにより、販売先を公開しないように工作したと考えられます。

MAP：6 太地町漁業協同組合（太地漁協）

定置網組合など複数の組合で構成されています。いさな組合（イルカ漁師の組合）は太地漁協の一部です。

MAP：7 太地漁協スーパー

太地漁協直営の、食品や日用品などを購入できる小さなスーパーです。食品コーナーには、生イルカ肉や冷凍クジラ肉が並んでいます。イルカ漁があった日やその翌日には、殺害されたばかりのイルカの肉が売っています。写真撮影は不可なので、遵守しましょう。

MAP：8 卸売市場

太地漁協が運営する市場で、魚介類と共に、イルカや混獲されたクジラの水揚げ、解体、競りが行われます。

MAP：9 和田の岩門

太地で古式捕鯨を成立させた和田家に通じる岩をくりぬいて作った門の跡です。門の奥には住宅が所狭しと並んでいます。

MAP：10 定置網

2020年、ミンククジラとザトウクジラの混獲で話題になった定置網。毎年日本各地の定置網にクジラやイルカが混獲されおり、第三の捕鯨と言って良いほどの数を捕獲しています。

MAP：11 古式捕鯨 網船待機場所

古式捕鯨は、山見がクジラを発見、沖のクジラ漁師に知らせ、勢子船はクジラを音で脅して、網船が広げている網に追い込むという手順で行われました。この場所では、網船がクジラが追い込まれてくるのを待っていました。

MAP：12 日本鯨類研究所（建設予定地）

立派な建物のデザインが公開されています。

MAP：13 平見台

燈明崎、梶取崎と同様、古式捕鯨時代の山見（やまみ：クジラを発見し、クジラ漁師に指示を送る場所）でした。また、人間の赤ちゃんを間引きするために崖下に投げ落とした場所でもあります。

3 当日の流れのうち、早朝に行く岬にも史跡があります。

MAP：②-1 燈明崎には古式捕鯨の施設跡

MAP：②-3 梶取崎にはクジラ慰霊碑や灯台がある。灯台の風見鶏はクジラになっています。

その他

1 「生簀：森浦湾①」が見える場所

立ち入り禁止になっていなかったら海岸に降りることができます。

2 「生簀：森浦湾①」が見える場所
　道路の横断に注意。

3 覆面パトカー待機場所
　イルカ漁期中、活動家の警戒に当たる覆面パトカーが常時待機している場所です。

第六項　おわりに

映画「The Cove」などの影響で、太地町は怖いところだというイメージがあります。しかし、実際の太地町は、海や自然がとても美しく、穏やかでのんびりした場所です。

太地町はイルカを資源として利用したい、私たちはイルカを守りたい。立場は真逆ですが、人間同士、考え方を交換し、議論することができます。

太地の人々は一枚岩ではありません。イルカ漁を続けたい人、本当は止めて欲しい人、全く関心が無い人。地元の人に聞くと、関心が無い人がほとんどだとおっしゃっていました。

日本人全体も同じような構造だと思います。イルカについて知識がなく、イルカ漁や水族館で起こっていることに無関心です。とすれば、イルカのこと、私たちが体験し、知っていることを伝えれば、イルカを守りたいと思う人々を、もっともっと増やすことができるはず。

イルカ漁では、イルカたちは次々と捕獲され殺害されていきます。世界中の水族館では、イルカたちはたった今も苦しんでいます。

私たちは、イルカをはじめとする動物の側に立ち、解放しようとしています。
その日を一日でも早くしたい。
一人でも多くの人々が動物に関心を持ち、表現することで、解放は実現できます。

イルカたちを守るために、より多くの人に太地町に行ってもらいたいと思っています。
太地町に行くのに勇気は入りません。
ただ**行き、見て、体験し、感じて欲しい**と思っています。
きっと、あなたの中で何かが変わるでしょう。

そしてそれは、あなたにとって、大切な体験となるでしょう。

第六節　活動を支える活動

活動を支える活動とは、ボランティアや寄付のことです。ボランティアは労働力という力を団体に提供して自分も活動すること。寄付とは、お金という力を団体や個人活動家に提供し、自分の代わりに活動してもらうことです。

第一項　ボランティア

種類

・自分の労働力を提供するボランティア（デモや路上活動やイベント等のスタッフ、リーフレット配布、ネット調査、路上アンケート、動物園水族館調査の手伝い等）。
・自分の専門性を提供するボランティア（士業、会計、事務、助成金申請、デザイン、物販、ボランティアマネージメント等）。プロボノとも言います。
・学生のインターン。

メリット

・経験が少ないがこれからさらに活動をしようと考えている活動家にとっては、知識やスキル、仲間を獲得できる機会となります。
・専門性が高い人々にとっては、自分が解決したいと考えている社会課題の解決に、自分の力で貢献できます。
・学生にとっては、非営利活動の一端を体験でき、卒業後のキャリアを考える機会となります。しかし、日本で非営利活動団体で就職するのは狭き門。活動資金が限られており、人材育成に割けるリソースも少ない状態です。一旦海外の団体で働いて経験を積んでから日本の団体に戻って来れば、日本の非営利セクターや活動にとって非常に有益です。
・一つの目標に向かって、団体の一部として組織的に行動することによって、個人活動家では達成できない成果を得ることができます。また、達成感を共有できます。

デメリット

・非営利活動は精神的にも肉体的にも楽ではない仕事です。ゆえに、精神的に弱い人、社会経験が少ない人にとっては大変かもしれません。団体で働くある種の厳しさや、求められる仕事の質、コミュニケーション等に、ストレスを感じる、バーンアウトし活動に距離をおく、団体を逆恨みしてしまうなど様々なケースがあります。しかし、それらの経験やスキルを獲得し強くなっていけば良い体験となりますし、良い活動家になるでしょう。
・NPOにおけるパワハラやセクハラが問題になることがあります。動物関係の団体でも、パワハラでスタッフを辞めさせる、ボランティアにセクハラ発言をする、体の関係をもとうとする、グループ内でいじめる、上下関係を強制される、他団体へのスパイとして利用される、無断で会話を録音されるなどがあります。もちろん全体からすればレアなケースですが、頭の中に入れておく必要があります。
・その他人間関係で発生しがちな諸問題はボランティアでも発生することがあります。。

団体やグループと関わろうとする場合、動物関係だからといって良い人々だと思うのは間違っています。私自身、もし自分が団体をやっていなかったら関わらなかったと思います。

しかしながら、団体の一部として組織的に活動を行うことには多大なメリットがあります。大きな活動効果や、活動に関する学び、ネットワーク、事業が成功した時喜びを分かち合う感動などは団体として活動した方が得られるでしょう。
団体と一緒に活動することを検討する場合、自分を守りながら、徐々に関わり、代表やスタッフの人となりを見極めることをお勧めします。また、団体としての倫理規定をしっかり定めている、ボランティア誓約書にサインを求められるなど、法的な手続きがしっかりしている団体であることが望ましいです。女性の方でしたら、女性が代表の団体に参加した方が良いと思います。

第二項　寄付

日本には寄付文化がないとよく言われますが、非営利活動への理解が進み、寄付教育が行われ、クラウドファンディグのような寄付プラットフォームが整備されるなど、認知が広がるにつれ、寄付に対するハードルや考え方も変化してきました。
寄付はボランティアの一部だという考え方があります。仕事があるので活動できない、社会的立場や家族との関係から活動できない、活動はできないけれども関心ある社会課題を解決をしたい人など、さまざまな事情を持つ人々が、お金という力を通して社会課題の解決を行う手段、それが寄付です。

メリット

・寄付での貢献は、団体にとって非常にありがたい参加方法です。多くの非営利団体は資金が不足しています。また、日本の非営利活動、市民が市民のための社会を作る活動が弱いのは、成り手が不足していること。成り手が不足するのは、活動では自分の生活を維持できないためです。
・日本の動物活動の高度化に貢献できます。日本の動物活動は世界に比べて30年遅れと言われています。海外の動向を見ると、その差はさらに開いていっており、追いつく未来は想像できません。その差は何かと考えますと、日本で動物活動を行なっている人々のほとんどが手弁当で休日などに活動しています。犬猫以外の動物も対象とした活動を仕事とした人々で、活動からの収入だけで生活している人は、日本で5人いるかいないかだと思います。一方海外の団体では、数百人規模のスタッフで活動する団体や、弁護士や学者に給料を払う団体などがあります。この状況で日本の動物利用問題を解決することができるはずもありません。しかしながら、私自身、「自分で働いたお金で活動すべきだ」と批判されることがあります。私たち活動家は、お金、資金に関する考え方を根本から変える必要があります。
日本の動物活動の発展には、資金が必須です。資金がなければ変化をもたらすことはできない、あるいは遅々として進まないというのは、海外の進展と日本の後退を見れば明らかで

す。そういった日本の現状にあって、寄付による活動を行う人々が増えれば、確実に日本の動物活動を発展させることができます。
・あなたの寄付によって団体が成果を出したら、それはあなたの成果です。動物たちのための成果を得るということは、とても嬉しいものです。寄付をすることによって、その成果を自分のものとして共有することができます。

デメリット

・不適切なお金の使い方をされる可能性がある。不適切か否かの判断は団体の会計処理を確認ことによってわかります。
例えば、ある団体の代表が寄附で風俗に行っている、このことについてどう思うか、と聞かれたことがあります。法人化された団体の場合には、二つのパターンがあります。
一つは、寄付を一つの財布にしてその中から支出した場合。これは不適切な使い方です。法律違反であり、寄付者に対する裏切り行為であり、許されることではありません。
もう一つは、寄付を適切に会計処理し、代表に役員報酬や給与として支払った場合。それはその人の収入であり、倫理的か否かを置いておけば、適法な範囲でどのように使おうがそれはその人の自由です。
・自分が思っていたような成果を得られないこともあります。寄付は一度行うと法律上取り返すことはできません。ゆえに、事前にしっかり団体を判断することが必要ですし、期待に沿わなかった場合は寄付を中止します。

団体にとってのデメリット

寄付をいただくことは団体にとって良い面ばかりではありません。寄付を受けることによって発生する団体側のデメリットもあります。
・行うべき活動を指示される。
団体ではよく起こることですが、ほとんど活動を知らない寄付者が自分がやりたい活動を効果的だと思い込み、それを行えと指示することがあります。ひどい場合は、自分が好きではない人々と一緒に活動をするべきではないと、団体の人間関係に口を出すことさえあります。当然ながら拒否しますが、自分の思い通りにならなかったことに怒り、悪口を言いふらす、関係各所に悪評を伝える、所管行政に文句を言う、ネットで悪評を振り撒くなど報復行動に出る場合があります。
・寄付を取り返そうとする。
寄付者の要望を拒否すると、寄付を取り返そうとする人々がいます。団体には目的や方針、計画や戦略があり、当然ながらいち寄付者の思い通りの活動をすることはあり得ません。法的に返金義務はなく、もし返金しようとしてそのために会計し直すことはすでに支払った活動費を別から配分しなくてはならず、他支援者に見えない負担をかけると共に、団体にとっては本来事業に注力すべき貴重なリソースが取られることになり、場合によっては寄付以上のリスクがかかってくることになります。
・「元支援者」という立場を利用する。

非営利団体において、度々問題となるケースです。「元支援者」がその立場を利用して、支援していた団体を攻撃します。「元支援者」だと主張することによって、団体に一方的な非があるという印象をつけやすいですし、「元支援者」はそれを狙っています。NPO業界でも話題になっており、対応に苦慮しています。もちろん正当な要求である場合には、正しく対処するのは当然です。

寄付先のお金の使い道を確認する

お金の使い道に関して、寄付を受け取っている側の責任と、寄付者の責任があります。

寄付を受け取っている側の責任

明確な会計報告は、寄付を受け取っている側の責任です。寄付を受け取っている側には、団体、グループ、個人がいます。リブのようなNPO法人であれば、NPO法人会計基準に基づいた会計報告が求められており、毎年所轄官庁に提出し、また一般に公開されています。そのような基準を持たない団体・グループ・個人で会計報告をしていない場合、寄付の使途を確認しようもありません。活動の性質上支払先を明らかにできない場合（例えばホイッスルブロワーへの謝礼など）であっても、収支を明らかにした会計報告はできます。一方、会計報告の義務がなくとも支援者に報告をしている団体・グループ・個人もあり、確実ではありませんが一定の判断材料になります。

寄付者の責任

例えば、寄付をした後に、寄付先が虐待をおこなっていた、寄付を私的流用していた、期待していた成果を得られなかった等が判明したとしても、寄付者自身は自分の責任と考えた方が良いですし、私がどこかに寄付をするときはそう考えています。なぜなら、まず初めに、それを見抜けなかったのは寄付者のリサーチ不足です。そして、寄付先を間違える経験をし、反省し、より適切な寄付先を見極められるようになれば、日本の非営利活動の発展進化を促すからです。逆に、団体のせいに（もちろん団体の責任は多大ですが）してしまえば、反省せず、また同じ間違いを繰り返すか、寄付をすること自体が良くないことだという印象を持ち、しっかり活動している団体の不利益となり、また日本の非営利活動の進展を妨げる原因ともなります。

感情で寄付をしない。頭で考えて寄付をする

かわいそうな動物の写真や映像、今すぐにでも問題が解決するような表現、道端で盲導犬や犬を伴っての寄付活動など、感情に訴えかけてくればくるほど、思考停止し寄付をしてしまう傾向があります。一方、寄付を受け取る側はどのような表現をすれば、寄付が集まりやすいか知っています。特に動物系の寄付は、感情に訴えたファンドレイジングが効果的です。では、その寄附は、本当に動物の現状を大幅に変えることができるでしょうか。実際、犬を側に置いて寄付を集めていた人が、寄付金でお酒を買い犬はほとんどネグレクト状態だったと判明したケースや、結局詐欺だったケース、団体の代表が犬や猫の虐待・殺害をしていたケース、多頭崩壊したケースなど、枚挙にいとまはありません。つまり、寄付者による感情

的な寄付が、動物虐待を助長する結果を生んでいるということになります。その責任については真剣に考えるべきでしょう。
感情に基づいた寄付は目の前の動物を助けることはできますが、現状を根本的に変えることはできません。率直に言えば、かわいそうな犬や猫をどれだけレスキュー（感情に訴える活動）しようが、産ませる産業を止める活動（頭で考える活動）をしなければ、このサイクルは永遠に続きます。目の前の動物を助ける寄付はもちろん必要ですし、その分は確保されるべきですが、産業を止める活動に資金を振り分けなければ根本的な解決は達成できません。頭で考える寄付者が増え、根本原因を止める活動に資金が流れていくようになれば、日本の活動の質が高まり、ひいては動物の不幸を減らしていくでしょう。

最後に
以上、ボランティアや寄付には、さまざまなメリットデメリットがあることがわかりました。だからといって臆することなく自分で情報収集・分析し、見極める目を持った上で、ボランティアや寄付を行うことは、動物解放活動をはじめとする日本の非営利活動を進化発展させることにつながります。団体が努力してレベルアップすることはもちろんですが、ボランティアや寄付者側も努力して向上し、相乗効果的に動物解放活動を発展させ、そしていつの日か必ず動物解放を実現しましょう。

第七節　実力づくり

第一項　入力→ ゆらぎ→ 出力

私たちは「入力→ ゆらぎ→ 出力」でできています。入力したもので自分が出来上がるということです。You are what you eat.という言葉がありますが、その考え方に似ています。つまり良質で多様な、そしてスパイスとして特異な入力をするほど、揺らぎが複雑になり振れ幅が広くなり、ユニークな出力がされます。
入力とは、経験することと、知ることとです。活動家が動物産業に勝てる可能性があるのは、唯一知恵です。人それぞれのユニークな知恵、アイデアや創造性、戦略や工夫が、勝てそうにない巨大な相手を攻略できる光となります。

良質で多様で特異な情報の入力とは、自分の好奇心の赴くまま、本、論文、映画、雑誌、動画などを頭で理解するものを入力し、日本中を旅し、世界中を旅し、さまざまな人々と会話し、動物とコミュニケーションするなど体で理解するものを入力することによってできます。入力をすればするほど、あなた独自の独特の世界観を持つことになるでしょう。
多くの活動家がそれをすることにより、多様性のあるな活動家が多様なターゲットに向けて多様な活動をすることになり、各地、各分野で動物解放活動を前進させます。

また、私は常に楽しく学び、経験することを心がけています。しかめっ面をしながら学び体験しても、楽しく笑いながら学び体験しても同じ結果が出るなら、楽しい方を選んだ方が良い。人生が豊かになります。

第二項　ジェネラリスト、スペシャリスト

現時点の日本においては、活動家はジェネラリストへと成長することになります。やがて活動が高度化してきたら、海外の団体のようにスペシャリストが各々の役割を果たす団体が生まれてくるでしょう。

［図：活動家としての実力づくり］



思想

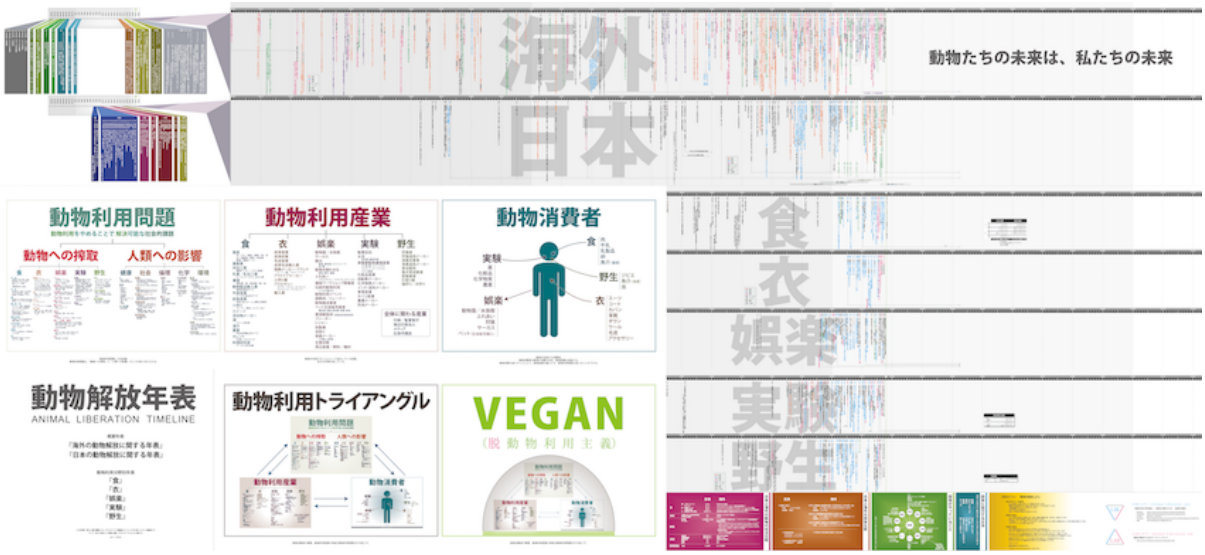
活動家にとっての基盤が思想です。動物解放活動家の思想基盤は、ヴィーガニズム、アニマリズム、動物権利、動物倫理などです。それら思想にまつわるさまざまな思想哲学を学ぶことにより自分の立場から目標設定し、現状を分析解釈し、現在主流の思想基盤(例えばカーニズム)との差異を明らかにし、差異から活動や手法を創造することができます。

時間感覚

動物搾取と解放の歴史を学ぶことは、現在、私たちは動物解放の時間軸のどこに位置しているかを自覚し、変化にかかる時間を予想し、現在行うべき活動を明らかにします。また、単発的短期的な活動ではなく、より効果の高い中長期的活動を設計することができ、それはまた活動家のメンタルヘルスに貢献します。

「動物解放年表」は12000年前から現在までの、動物搾取と動物解放の歴史を記述した年表です。この年表を眺め、自分に落とし込むことにより、長期的な時間感覚と、未来への希望を得ることができるでしょう。「動物解放年表」は、リブのウェブサイトに公開予定です。

［年表：動物解放年表］



空間感覚

ここでは空間感覚を、物理的な空間感覚と抽象的な空間感覚とします。活動家はその両方を伸ばす必要があります。

物理的な空間感覚とは、自分の周り→日本全体→アジア→地球のように拡張し、地球や世界政治の一部として自分や活動を振り返る感覚です。感覚を地図や外国の情報から学ぶこともできますが、実際に行き体験することで自分のものになり、またそれは不可逆的です。

抽象的な空間感覚とは、政官財学法報といった社会構造、他者・民族性・国民性・文化といった内的な認識の構造の感覚です。

これらを構造的に理解することにより、ターゲットとその環境に適した事業立案を行うことが可能になります。

スキル

活動は、実行も大事ですが、その準備と評価をしっかり行うことにより、より効果的な活動を行うことができ、改善、高度化し続けるスパイラルに乗せることができます。

事業立案については［本文参照：第九部 第二章 第一節　事業のプロセス］へ。

活動スキルについては、自分ができることを増やすことが大事です。未熟な活動家は自分の手法が正しいと思い込みがちですが、良い活動家は様々なスキルを持っており、時々の事業やターゲットに対してどれを使うか選択することができます。

活動には簡単な活動から高度な活動まで、さまざまなレベルがあります。簡単な活動とは思い立ったらすぐできる活動、高度な活動とは知識や経験、事前の情報収集や分析などの準備、実行段階でのステークホルダーへの働きかけの順番やコミュニケーションスキルなど、絡み合う様々な要素と障害を解決しながら目標を達成する活動です。

現在の日本の状況では、活動家は必ず簡単な活動から入ります。そして高度な活動ができるようになるかどうかはその人次第です。また基本的にはですが団体とは高度な活動をするた

めに存在します。組織として動かなければ、上記のような高度な活動はほとんど不可能ですし、社会へのインパクトも小さいものになります。

勉強

日本では勉強や知識が軽視されているような気がします。「なんで勉強が必要なんですか」といった質問がなされたり、事実誤認や思い込みの発信をしがちな活動家が知識があると判断されたりします。問題解決を行うために、問題や原因、社会システムや法律経済を知らずして取り掛かることは、風車の影にアタックするようなものです。

現在は様々なツールが存在しています。特に英語圏では活動家へのトレーニングプログラムが膨大にあります。日本ではまだまだ少ないので、ここでは本を紹介します。読書を習慣化することをお勧めします。1日5分、必ず読書するという習慣を3ヶ月続ければ習慣化し、読書をしないと気持ち悪くなるようになります。苦手ない人は1日2分からでも良いでしょう。

参考までに私が学んでいる分野を紹介します。これは活動家として学ぶ必要がある分野のリストでもありますので、勉強することをお勧めします。

1 必須の入力

動物について、動物解放年表、動物利用問題、アクティビストガイド、自分が興味ある動物利用問題に関する知識、よくある質問に回答する知識、

2 活動家としての入力

権利：人権、権利の歴史
動物関係のデータ：生産数、屠殺数、消費量、市場規模等
動物利用分野ごとの歴史：畜産、ブロイラー、乳牛、動物園水族館等
海外：活動、団体、イベント
国際的な動物保護の取り決め：ワシントン条約、ボン条約、国際捕鯨取締条約等
日本の動物保護の取り決め・法律：動物愛護管理法、鳥獣保護管理法など
日本の社会システムの理解：民主主義、資本主義、政治、行政、立法、経済等

3 知っておくべき入力

環境問題：生物多様性、プラスチック問題、海洋汚染等
人権問題：フェミニズム、LGBTQ +、人身売買等、
ビジネス分野の知見：ビジネスモデル、フレームワーク、自己啓発等

4 独自性を高める入力

アート、音楽、デザイン、建築、家具、映画、漫画、小説、国内旅行、海外旅行、海で遊ぶ、山で遊ぶ、砂漠で遊ぶ、川で遊ぶ、鳥の観察、虫の観察、YouTube（ナショジオ、TED、）等

これ以外にもありますが、これらのうち必要な知識は動物解放団体リブのウェブサイトで提供していきます。

人生

私が活動を本格化させた頃、1日のうち食事など生活に関わること以外の時間を全て活動に使っていました。1年のうち丸一日休みをとったことはなく、2年目も休日は合計数日でした。このやり方は、活動を始めた当初は良いかもしれません。一気に高度化できる可能性があるからです。

しかし何年か経つと、心と体に蓄積した不調が現れます。イライラしたり、逆に落ち込んで何もする気がなくなったり、1ヶ月近く誰とも会わなくなったりなど。体に関しては運動不足になり、筋肉が落ち、脂肪がつき、なんとなく体の調子が悪くなってきました。

活動を始めて5年後くらいから、心身を維持する努力を本気でしなければ活動がもたないと理解し、運動を開始、休む時間を作り始めました。

日本の活動家は、どれだけ身を粉にして自分の時間と人生を犠牲にし、貧乏で悲壮感に満ち、怒り狂っているか悲しみに沈んでいるかが重要視されます。活動家が楽しそうな投稿をしていると批判されることもあります。活動家同士がお互いを監視し、追い詰めあい、攻撃し合い、傷つけあっているようなるディストビアな状況です。活動を行うときは、同じ活動家に対しても警戒を怠らない必要があります。

一方、西洋の活動家とやりとりしていると、「明日から2週間ヨットで旅をしてくるから連絡取れなくなるよ」と言われたり、団体であっても休暇などで長く連絡が取れなくなることがあります（*もちろん西洋は西洋で日本とは異なる問題があります）。

では、日本と西洋、どちらの活動が発展し効果を上げているでしょう。西洋です。とすれば、日本の活動家は、活動家としての在り方、自分自身のケアや遊び、休暇についてもっと意識を高め、自由になる必要があります。率直に言えば、人生を楽しむ。自分の人生や楽しみを大事にした上で、真剣に活動をした方が効果が高いのは明らかです。

イルカ・クジラ解放、動物解放の実現は、本書を読んでいるあなたにかかっています。

イルカやクジラ、捕鯨やイルカ漁、水族館について知らなかった人は、まずは知るところから。イルカやクジラを助けたいと発言したことがない人は、親しい友人や家族に伝えるところから。活動をしたことがない人は、活動をしてみるという一歩踏み出すところから。

自分の限界を超える小さな一歩を踏み出すことで、経験と認識が拡張し、次の限界の突破へと向かう準備ができます。一人ひとりがそれを繰り返し、やがてよりインパクトが出せる活動に高度化していくことで、一人ひとりの力は小さくても、やがてイルカ・クジラ解放の解放は必ず実現できると考えています。

以上、活動家として実力をつけたい際、少しでも参考になればと思います。

第八節　これからの活動に求められること

第一項　社会の一員としての活動へ

日本の活動を社会性のある活動にしていかなければいけません。非営利活動の中でも、途上国支援、開発、貧困、環境、人権問題に取り組む団体の多くは、社会的な存在であると認識されています。一方動物系の活動は、まだまだ感情的でヒステリックな人々がやっているというイメージがあります。

私は他分野のNPOの人々と関わる度に、動物活動もまずは社会性を持った活動に成長させるところから始めなければならないと思います。つまり、大人の社会として当然のこと、あいさつ、礼節を守る、礼儀正しい言葉遣いをする、みだしなみを整える、嘘をつかない、悪口を言わないなどをしっかりやるところからです。例えそのスタイルに好き嫌いがあろうとも、目的をしっかり見定め、その達成のために自分が変わればうまくいく点があれば変える必要があります。

社会的にしっかりした組織になれば、社会の各セクターからの参画が見込めます。例えば、他分野のNPOで豊富な経験のある人が1人でも動物活動に参加したら、その貢献度は極めて高いものになるでしょう。あるいは心の中では動物を助けたいと思っている鯨類学者が1人参加してくれれば、優秀な学生がインターンに入ってくれたら、やる気があり学ぶ意欲のある若者がボランティアに入ってくれたら、動物活動は急拡大するはずです。

現在、若い世代に良い活動家が出てきています。彼らの中には、前述したような活動家の振る舞いや言葉使いを、冷静に観察し、反面教師として捉えている優秀な人もいます。つまり、既存の活動の悪い点と逆のことをし、良い点のみを吸収すれば良いわけです。

良い活動家になるためには勉強と経験が必要です。さまざまな本を読み、人から話を聞き、海外に目をむけます。

活動において動物の利益よりも自分が利益が優先となることがないように、自省し律しなければなりません。本気で動物解放を目指す本物の活動家になれば、偽物はすぐに見抜けます。ぜひそうなってください。私たちは本物の活動家を増やすサポートをしていきます。

第二項　自分に責任があると考える。自分を変える

これは心構えの問題ですが、実行が難しく、また私が常々心がけていることですので共有します。

SNSや現実世界でも日々、対立、喧嘩、足の引っ張り合いが起こっています。また、人より自分の方が優れている、自分の活動手法は正しく他の誰もが間違っているといった主張のしあいもよく見ます。目的を同じくする人々が、なぜ対立関係に陥るのかの原因の一つは、暇だからです。もう一つは原因は自分の責任を他者に投影しているからです。人より自分の方が優れていたらなぜ自分は動物を救えないのでしょう。自分の活動手法が正しかったらなぜ動物利用問題をなくせないのでしょう。解決できないのは、誰でもない、自分の責任だ。

と、私は考えます。活動家同士の対立は、動物たちのために何か役にたっているでしょうか。自分の優越を主張することが、何の役に立つのでしょうか。やるべきことは他にあるはずです。
人を変えることではなく、自分を変えることにフォーカスすれば、活動のあり方はもちろん生き方自体が変わります。これまでの友人関係も変わってくるでしょう。その関係では飽き足らなくなるからです。自分と同等や自分より劣っていると思っている人よりも、自分より優れた人から学びたくなるからです。そうなれば、偽物活動家を見定めることができますし、一緒に活動する仲間を選ぶ目も肥えてきます。
それでも敵視してくる活動家やアンチは距離対応とします。話す必要もなければやりとりする必要もありません。近づいてきたら避ければ良い。自分はそんなに暇ではないから。

ありとあらゆる出来事を自分の有利にする出来事に転換していけば良い。そうすれば例えネガティブな状況であってもポジティブに考え、自分の有利に変える力がついてきます。

SNSで苦労されている方もいると思うので少し触れます。現代の活動でSNSは欠かせません。活動家の中には、アンチがちょっかいをかけてくるのはヴィーガンや動物に興味があるからで優しく対応すればいつかわかってくれる、といった人々がいます。しかし、それより重要なことはいくらでもあります。活動時間を確保するためにも、自分の中で基準を設けて、その基準を超えたら機械的にブロックすることをお勧めします。例えば、初めての書き込みで敬語でないアカウント、失礼な態度のアカウント、意図的な誘導や罠を仕掛けてくるアカウント、こういった項目を作ってブロックしていけば綺麗なウォールやフィードが保て、それはあなたを表します。

少し話がずれましたが、自分に責任があると思うことは、自分を変えることです。人も社会も変えることは難しい。では自分1人だけで変えられるのは何でしょう。もちろん自分自身です。自分を変えることとは、今までの自分ではできなかったことができるようになるということです。つまり自分の勇気、忍耐、継続する力などが試される機会です。自分を変えることにフォーカスすれば、些末な出来事は気にならなくなります。もう前に進むだけだから。

第三章　アイデア

本書ではこれまで「情報収集→ 分析→ 目標→ 戦略→ 実行→ 評価」のうち「情報収集→分析」を行ってきました。本章ではこれを受けて、「目標→ 戦略」のアイデアの幾つかを、分野（捕鯨・イルカ漁・水族館）ごと、ターゲット（市民、捕鯨共同体等）ごとに記載します。考え方を参考にしたり、発展させ事業立案などにお役立てください。
目標・戦略立案の際は、現在のフェーズはどこであるかを明確にし、次フェーズへの移行を達成するための具体的で達成可能な目標を設定し、リソースや効率やコストを組み入れた戦略を考えることが必要になります。可能であればでKPIの設定もしておくと良いでしょう。

第一節　捕鯨

最終目標　『捕鯨の終焉、クジラ保護国へのシフト』

第一項　市民教育

目標：クジラの知識とクジラへの共感を持った市民の増加
Before：クジラについて知識がほとんどないか、最新の知識を知らない。ゆえに共感や尊重の念が無い。
After：クジラに関する最新の網羅的な知識を獲得し、クジラに対する共感と尊重の念を持ち、クジラの保護の支援をするか活動する。

日本人がクジラを殺し続けることを支持するのは、ひとえにクジラに関する知識と共感がないからでしょう。普通に暮らしていて得られる知識は、捕鯨の伝統文化論や鯨害獣論などであり、クジラそのものに関する知識、特にクジラの素晴らしさに関する知識や、世界の動向は伝えられないか歪んで伝えられています。
SNSやYouTubeなどネット上の書き込みは、例え少数派だとしても書き込みが多いほど多数派に見えてしまいます。今の捕鯨支持者の書き込みがそうです。クジラ保護者の書き込みは少なく、日本人ほとんどが捕鯨支持者であるような雰囲気が作られています。クジラ保護者を増やすことはもちろんですが、クジラ保護論の論拠や捕鯨を終焉させるべき根拠や対案をしっかり持つことにより、自分の意思を発言し表現できるようになります。
それを成し遂げるために、これまで述べてきた、クジラに関する知識(第一部)、鯨が受けている被害、捕鯨や捕鯨の問題点に関する知識、クジラ保護と捕鯨についてどう考えるのか、さらに最新のニュースなどをわかりやすい形で市民に伝えていくことによって、市民の知識と意識を高めます。
また、すでに「鯨族保護の時代」になっていることを知らせることも有効です。人類と鯨族をめぐる歴史は、「鯨族を絶滅寸前まで殺戮した時代→ 鯨族の持続可能な利用時代→ 鯨族保護の時代」と変化してきました。日本は未だ目覚めていません。ノックして起こしていきましょう。

方法は、Webサイト、SNS、YouTubeなどのインターネットメディアから、書籍、絵本、紙芝居、映画、歌など、自分が得意なメディアを使って行うことができます。
知識を得た人々は大きく4種類に分けて考えます。①引き続き捕鯨支持、②無関心、③クジラ保護を支持、④クジラ保護活動を行う。①と②は個人の選択であり自由ですが、活動のターゲットからは外します。③に関しては活動への有形無形の支援をお願いします。④は個人活動家になるか、グループや団体に協力して活動するか、自分で団体を作ります。日本には、あるべき団体が無い状態です。クジラに限らず、さまざまな分野で団体が設立できます。
目標達成のためには日本人の知識と意識の底上げは必須であり、動物解放団体リブとしても個人としても引き続き取り組んでいきます。

第二項　捕鯨共同体

目標：クジラ保護と利権の維持を両立させる
Before：捕鯨共同体が捕鯨利権を手放さないため、クジラが殺され続ける。逆に言えばクジラを殺し続けないと、捕鯨利権を維持することができない。
After：捕鯨共同体の利権を、クジラ保護利権にシフトさせる

これまでで見てきたように、捕鯨における一番の問題は利権です。利権が、クジラはもちろん、世界各国に対しても日本国民に対してもデメリットを与え続けています。一方、クジラや地球環境を保護するための利権は歓迎されており、日本においてもそういう流れを作ることができる可能性があります。
アメリカの水産庁にあたるNOAAは、クジラをはじめとする海洋哺乳類の保護に取り組み、様々な研究を行い成果を上げています。また韓国の海洋水産部 鯨類研究所は、ミナミバンドウイルカの解放に力を尽くしました。インドネシアの政府や環境林業省も、イルカの解放に協力しています。
とすれば、日本の水産庁や日本鯨類研究所、共同船舶や基地式捕鯨業者が、鯨類や海生哺乳類の保護研究にその役割を変えることは可能です。多くの日本人が鯨肉を食べておらず、むしろ保護や環境意識が発展途上にあるとすれば、この役割の変更は歓迎される可能性があります。そのときには、経験豊かなクジラ漁師やイルカ漁師は、この事業の現場で最も貢献する人々となります。これで利権と雇用は確保されます。もちろん既得権益者や価値観を切り替えられない人々からは反対の声が起こるでしょう。しかし、今はなんとか存続できたとしても時代の流れにはいつか逆らえなくなり破綻するのは明らかです。であればダメージが少ないうちに移行した方が良いでしょう。
また、彼らの得意とするプロパガンダ能力をクジラや環境保護のために使えば、これは日本人のみならず、地球人、地球環境にとっても非常に有益な能力となります。プロパガンダという言葉が悪ければ、クジラの本当の姿と、いかに環境にとって有益なのか事実を伝えるだ

けで、現在の捕鯨擁護に傾いている世論は、クジラ保護、反捕鯨に切り替わるでしょう。それをリードする役割を果たすことができます。
また、当然ながら海外からの評価も高まるでしょう。これまで何十年にもわたって、クジラ・イルカを搾取し殺害してきた人々が保護に転じ、日本列島周辺の海洋環境を守り始めたら、そのインパクトは計りしません。この転身の使い方によっては、大いに日本国の評判、国益に貢献することができるでしょう。
もちろん、このアイデアは理想主義的で夢物語かもしれません。しかし、かつては巨大な利益を得ていた捕鯨国がクジラ保護に転じリーダーの役割を果たし、かつては実質捕鯨利権の差配集団であったIWCがフロリアノポリス宣言でクジラ及び海洋哺乳類を永久に保護すると宣言し、不可能であるとされていた監禁下のイルカやクジラの解放は、国や軍のサポートを得て現実に起こっています。
水産庁や日本鯨類研究所がクジラの保護機関へと転身するのは、夢物語でも何でもありません。強い意志と国民に対する強い説得で可能です。

第三項　将来予測に基づく事業、その他

第一目　国際連携

目標：クジラ保護の市民レベル・NGO(非政府組織)レベルの連携を強化発展する。
Before：クジラ保護に関する日本人と外国人の連携は少ない。NGOの連携は一部あるが小規模。
After：クジラ保護を行いたい日本人が外国人と連携しながら活動している。NGO同士の連携を強化し、情報交換、事業のコラボレーションが行われている。

日本の動物擁護活動は、ほとんど鎖国状態で、海外の活動がどのような状況にあるかさえ知らない状況です。西洋社会のクジラ保護に関するNGOは歴史と実力があり、国連やIWC、CITESなどの国際会議に参加し、意見表明し、場合によっては資金のサポートさえ行っています。一方海外の団体は日本の団体がどのような状況にあるのかを知りません。これほど活動が小さいとも認識していない人がほとんどでしょう。
このような状況を改善するために、お互いのことを知り、情報交換し、徐々に信頼醸成しながら、日本人は西洋人に学び、西洋人は日本人に学ぶ環境を作っていくことが望ましいと考えています。
ただし、西洋の団体が批判されていることの一つに、その国の状況がわからないままその国の人々を使って独善的に活動をし始める、団体を乗っ取る、支配する、他団体スタッフを金で引き抜くなどという、植民地主義的なやり方をするというものがあります。日本にもアメリカの大きな団体が何度か参入しようと入ってきていますが、毎回失敗しています。海外の団体と組む場合は、しっかり見極め、規模の大小はあれ同等の組織として関係を保てる相手と組んだ方が良いと思います。

第二目　日新丸新造

日新丸新造のスケジュールをおさらいすると、2023年6月起工、2023年9月進水、2024年3月竣工となっています。2023年6月までは中止のチャンスがあるということです。ナガスクジラが捕獲対象種とされるかどうかが鍵と言われています。もし対象種とならなければ、日新丸新造は頓挫する可能性があります。世界は水産庁の動向を注視しています。
ナガスクジラが捕獲対象種になるにせよ、日新丸の建造が始まるにせよ、いずれにしても、日新丸が完成するまではやれることをやっていくことが大事です。方法は様々あるでしょうが、大事なのは日新丸の建造を中止すべき経済的理由(実績から将来性について)、倫理的理由、クジラ保護の重要性などを説得力と数字を持って伝えていくことが重要です。

第三目　学者との連携

クジラに限らず動物全般で言えることですが、日本の空気感が保護・擁護に変わり、団体の社会的信用が高まれば、いずれ学者との連携が出てくるでしょう。
現在は、鯨類学者は団体との関わりを極力避けようとします。捕鯨を批判している学者であってもです。日本の風土として、学者は象牙の塔にこもり、閉じたコミュニティーでゲームをしているように見えます。動物に関しても冷徹に客観的に扱うことが学者である証明のように思い込んでいる節すらあります。私がコンタクトを取ろうとした日本人の学者たちも一様にそうでした。
一方、例えばカナダの大学では学者が活動家と組んで研究を行うことが推奨されています。筆者が「日本一周！動物園水族館調査」を行った時にアドバイスしてくれたのも、ハニーのサンクチュアリを作ろうとしていた時にアドバイスをしてくれたのも、日本の水族館のイルカの健康状態についてアドバイスしてくれたのも、すべて外国人の学者でした。連絡を取ると、すぐに長い丁寧な返信をしてくれ、動物を心配している気持ちが伝わってきました。
筆者が専門的な知識を必要とするときは、引き続き外国人の学者に連絡を取ります。しかし、そのうち日本人の学者に相談できるようになり、共に活動できるるようになることを期待しています。

第二節　イルカ漁

第一項　市民教育

目標：日本人がイルカについて知識と共感を獲得。日本がイルカ保護国へのシフトする。
Before：伝統文化であるというイメージに阻まれ、イルカ漁の実態を知らない。
After：プロパガンダの壁を乗り越え、イルカ漁に関する正しい知識と、イルカへの共感を獲得し、人によってはイルカ擁護の発信や活動を行う。

多くの人々が、捕鯨と同様、産業のプロパガンダによって目眩しをされている状況にあります。刷り込まれたプロパガンダを払拭するのには負荷がかかり、それが事実であったとしても真実を伝えた人を攻撃してくる可能性があります。さらに、イルカ漁支持が愛国と絡まりアイデンティティにまで昇華してしまった人の転換は、活動のコストに合わないこともあるかもしれません。
活動においてターゲットの設定は重要です。効率的な啓発とともに、無益な対立やストレスから自分を守ることにもつながります。現在のイルカ漁に関する日本人を以下に分類し考えてみます。①イルカ漁の実態を知った上でイルカ漁支持、②知らないでイルカ漁支持、③無関心、④イルカは好きでイルカ漁について知らない、⑤知っているがイルカ擁護の表現は行なっていない、⑤知っていて何らかの表現を行なっている。
ターゲットにしないのは①。やりがちなのは①とやり合ってしまうことです。これはお互いに不幸な出会いですし、ストレスの元ですので避けた方が良いと思っています。優先ターゲットは②④、②④⑤に対する活動が完了した次のターゲットは③、、⑤は強化サポートの提供。ターゲットの分析をし、重点的に伝える内容の表現を最適化する必要があります。
人それぞれ活動の種類ごとに向き不向きがあります。情報収集や分析が得意な人、新しい概念や戦略を思いつくのが得意な人、政治家や官僚に伝えるのが上手い人、一般の人に噛み砕いて優しく丁寧に伝えるのが上手い人、インターネットを使って団体の発信能力を高められる人、多様な人々をマネージメントできる人など。多くの才能が集まるほど、知識と共感を伝えることが可能になります。活動に関わる人々がそれぞれの能力、得意なことで活動に貢献できる環境が望しく、また活動の進展が望めます。
イルカは共感を得やすい動物です。イルカが好きな人にはある種の傾向があるかもしれません。そういった分析を行った上で、戦略的な発信を行うことも有効です。
やれることはたくさんあります。

第二項　イルカ漁共同体

目標：イルカ漁共同体の段階的解体。イルカ漁師の雇用の確保。
Before：イルカ漁から得られる利益を手放さない。

After：イルカ漁を段階的に縮小、コストと合わなくなり終焉。イルカ漁師たちは他の仕事で収入を確保する。

イルカ漁師は本当に心からイルカ漁にプライドを持ち、存続させようとしているのか疑問に思うことがあります。イルカ漁を伝統文化だ、太地の誇りだと行ったとしても、生活者としてはプライドよりも利益が優先されます。イルカ漁師、いさな組合の周りには、三軒町長、太地町役場、水産加工業者、イルカ漁支持者や愛国者が囲んでおり、引けなくなっている人もいると考えています。とはいえ、田舎の小さいコミュニティですので、価値観に疑問を呈したり、サークルから離脱するのにも勇気がいるでしょう。イルカ漁師やイルカ漁共同体が、イルカ漁中止により被るリスクを最小限にした上で終焉させるのが理想です。

第一目　太地町沖、イルカ調査記録事業

これはある外国人活動家のアイデアを応用したものです。太地沖はイルカが回遊する海域でありだからこそイルカ漁が成り立ちます。つまり本来は、太地沖で現在捕獲対象種になっているイルカもそうでないイルカもどちらの生態調査も行う必要があります。イルカを発見し、種を特定し、イルカが潜った後どこに浮いてくるか推測し、スピードや性格も知り尽くしているプロであるイルカ漁師がそれを行なったら、有効な研究ができるでしょう。もしかしたらツノシマクジラのような思わぬ発見や、未知の生態が判明するかもしれません。
財源は、これまでシーシェパード対策やIWCへの拠出金を払わなくなって良くなったのでその分を回すなどし集める。そうすればイルカ追い込み漁からの収入を失ったイルカ漁師の損失に対する補填ができると思われます。
また同時にイルカ発見の能力を活かしドルフィンウォッチングを行うこともできます。現在12隻ある船が全て生計を立てることはできないでしょうが、いずれ高齢化で縮小することになるので、新たなビジネスモデルを始めるには早い方が良いでしょう。

第二目　新産業

太地は海と山に囲まれた小さな町であり、農業には不向きです。一方リアス式の海岸は海で何かを育てたり採取するには有利な場所です。太地は海から得られるものを獲得して生きてきました。
私たち動物解放活動家としては、鯨族、魚類、軟体類、甲殻類等を捕獲殺害する漁業以外の仕事にシフトすることを提案する必要があります。
例えば、太地町に海藻からヴィーガン食品や製品を作る会社を立ち上げることが考えられます。実際、海外のヴィーガン市場ではすでに海藻を用いたスムージーやサラダはもちろん、チップスやサプリ、ベーコンやハンバーガー、ヴィーガンキャビアまで作られています。食品の他には、衣料素材、バイオプラスチック、バイオ燃料などに海藻を利用するプロジェクトもあります。海藻の利用はまだまだ未開拓な領域であり、成長の可能性があります。また化学肥料も農薬も食べ物もいらず、カーボンニュートラルであり、環境に極めてやさしい素材です。

倫理的な産業で収入源・財源を作り、海生動物の搾取を減らし終焉させていけたらそれほど良いことはありません。イルカ漁師の方々がイルカ漁を辞めた後の再就職先としながら、高齢化が進んでいる太地町で、お年寄りの雇用に繋げることもできます。少し古いデータですが、太地町における漁業種別漁獲量は、海産ほ乳類が全体の21%(157t)、海藻類が6%(45t)です。遠からずイルカ漁業は必ず先細っていきますので、海藻を有効な代替案にできる可能性はあります。さらに発想を飛ばせば、太地ブランドとしての展開も可能でしょう。これまでイルカを殺していた町が、大英断を下して、エシカルなビジネスにシフトしたら、応援し支えようとする人々は世界中にいます。
ヴィーガンは今後増えることはあれ減ることはありません。環境意識が高い人も同様、これから増えていくことは確実です。海生動物を殺す産業から、海藻を使ったエシカルな産業にシフトすることは、漁師にとっても太地町にとっても未来志向で倫理的です。世界から批判される町ではなく、賞賛される町にシフトする選択です。
海藻ビジネスはアイデアの一つですが、太地の自然を研究すれば良いアイデアが生まれるかもしれません。イルカ問題に限らず、動物利用問題は新規ビジネスによって改善、解決できるチャンスがあります。ビジネスの才能がある人の参画は、動物解放活動に待ち望まれています。

第三項　将来予測に基づく事業、その他

第一目　先読みの仕込み

活動において将来の予測をしておくこと、仮説を立てておくことは、活動に必要なリソースの準備や事業の仕込みをしておくために有効です。さらに仮説と結果を突き合わせることによって事業評価を行い、活動の継続的な発展に繋げることができます。同様に国内外の他団体や個人活動家が行う活動にも注意を払い事業と成否のデータ収集をしておくことも役に立つでしょう。

イルカ突き棒漁

イルカ突き棒漁に関して、終焉することは確実です。活動家としてやるべきことは、①終焉を早めること、②終焉後、復活を防ぐことです。そのためには、SNS等で情報発信し続け、関係各所に反対であることを伝え続けることです。そして最も重要なのは、紙媒体か、ネット上に、イルカ突き棒漁についての知識、問題点、中止するべき理由や根拠、考え方を、半永久的に参照できるようにしっかりまとめておくことです。

イルカ追い込み漁

イルカ追い込み漁の終焉は、コストと収入が合わなくなることによって成立します。イルカ追い込み漁の主たる収入は水族館への生体販売ですので、収入を減らす鍵は水族館のイルカ購入を止めることです。イルカ漁問題と水族館問題は常に関連づけて活動する必要がありま

す。イルカ漁のコストが合わなくなれば、何らかの名目で税金を入れる可能性があります。その際は、税金投入に反対する説得力のある活動を行うことになります。
また太地町イルカ追い込み漁の最大の取引先国である中国に対する働きかけを検討す必要があります。中国のイルカ解放活動の状況がどのようなものか、はっきりしたことは分かりません。動物解放活動そのものができないとも聞いています。それを回避するために、活動家はヴィーガン市場の拡大や動物福祉活動を行っているようです。中国に対しては、最初の段階である情報収集の段階にあります。

政治家
イルカ漁廃止か、規制強化に動いてくれそうな政治家にロビーイングを行うのは、今からはじめておくべきことの一つです。イルカ漁に対する世間の反応が否定的なものになってきたら、動き始める政治家は必ず出てきます。その時に初めてアプローチしブリーフィングするのと、今からブリーフィングし信頼関係を醸成しておくのとでは進み方が違います。

学者
イルカに共感的な学者と繋がっておく必要もあります。現状ではまだ学術界から明確にイルカ擁護、イルカ漁反対の立場を明確にするのは難しいでしょう。しかし、いずれイルカ漁の中止を求める声が上がる可能性はありますので、その時のために学術界の人々と連携しておくことは有効に働きます。

第二目　バンガーの音響実験

［本文参照：第五部 第五章 第二節 第二項 第一目　バンガー］で説明したようにイルカはひどいダメージを負っているとみられます。実際にバンガーを使ってプールで行った実験では、人間はあまりの音にプールから飛び上がったそうです。
であれば、実際にバンガーを作って、プールで実験するというイベントを行うのは耳目を引く啓発活動になる可能性があります。もちろん事前にテストを行って、安全な範囲で行う必要があります。
この事業は、リブでやっても良いと考えています。資金的な支援を申し出てくれる人があればご連絡ください。

第三節　水族館

最終目標　『水族館の終焉、イルカ解放』

捕鯨、イルカ漁、水族館のうち、最後まで残るのは水族館です。著者が生きている間に達成することはないでしょう。そのためにより長期的で先を読んだ活動、未来の水族館終焉のために今やっておくべき活動を見定めて実行し成果を出し、次の世代の活動家に繋げることが重要になります。

第一項　市民（観客）教育

目標：市民が水族館の実態を知り、水族館にお金を落とさないようになる。

Before：市民は水族館の実態を知らず、水族館のプロパガンダを信じ込んでいる。

After：市民は水族館の作った幻想から覚め実態を知る。監禁された動物への共感を獲得し、水族館に行かなくなる。人によっては反対の声を上げ、活動するようになる。

市民教育の方法

捕鯨やイルカ漁と同様、水族館に関しても市民の知識と動物への共感醸成は最優先課題です。市民が、水族館やイルカ擁護に対する考え方を知り、イルカの生態や素晴らしさや尊厳について知り、そのイルカが水族館から受けている被害について知るとともに、イルカの入手方法について知り、水族館の存在自体が問題であるとの結論に達するよう促します。

水族館を終焉させるために活動家が嘘をつく必要はありません。水族館の嘘を日の本に照らしていく、つまり事実を伝えれば、動物倫理の進展と並行して自然と終焉していくでしょう。

伝える方法としてマスメディアが取り上げてくれれば良いのですが、今しばらくはWebサイトやSNS、YouTube、そしてメルマガやパンフレットなどのオウンドメディアを使って知らせていくことになります。

いずれ学校教育の場で動物を大切にすること、動物を監禁、利用搾取してはいけないこと、動物の意思を無視して妊娠出産させてはいけないなど、当たり前のことを伝えられるようになる時代が来るでしょうし、できるだけ早く実現したいと思っています。

水族館の魔法を解く

イルカが好きで、イルカショーは見るがイルカ漁や異常行動は知りたくないという人がいます。一方、イルカが好きで、イルカは自然の中で自由に生きるべきだという人々もいます。両方とも”イルカ好き”ですが、行動は真逆です。

今の日本では、イルカを好きな人は水族館に行くものだ、という致命的な思考と行動の不一致があります。彼らに好かれたイルカたちにとっては文字通り致命的です。彼らがイルカショーに行くことによって、イルカは捕獲・監禁・殺害されます。客観的に見れば彼らの行動はイルカを苦しめているにほかなりません。

誰かが好きであれば、その人を監禁することはしないし、芸をさせることはありません。誰かが好きなので、その人を監禁し、芸をさせたいならば、それは好意ではなく、支配欲です。もし誰かが、あなたが好きな人を監禁し、芸をさせていたら助けるはずです。イルカが好きであれば、水族館からイルカを助けるはずです。
水族館のふりまく魔法、幻想は非常に強力であり、現実を見たくない人々を魅了し、ユートピアを作っています。イルカを傷つけながらイルカを好きだと思い込んでいる人々に現実を伝え、目覚めるように促す必要があります。

イルカトレーナーの魔法を解く
イルカトレーナーが振りまいている魔法
イルカトレーナーは、子どもたちや、子どものような大人たちに大人気です。イルカと友達であり、イルカが言うことを聞いてくれるヒーローのように見えるからです。しかし実態はこれまで述べてきたように、イルカを利用し生活費を得ている人にしかすぎません。SNSを見るとイルカトレーナーのファンがトレーナーを褒め称える熱狂的な投稿をしており、なかなか深いところに居られるように見受けられます。そこまでのファンの魔法を解くのは時間がかかるでしょうが、現実を知ることができる人々は、事実を伝えれば、事実であると受け止めてくれます。魔法を解くには事実を伝えれば事足ります。つまり教育的な事業によって、イルカトレーナーの魔法を解くことができます。
イルカトレーナー自身がかかっている魔法
イルカトレーナーに直接言うことも重要です。私はイルカトレーナーと話すとき、自分がイルカ解放活動をしていることを伝えた上で、彼らに自分の仕事をどう思っているか聞きます。そうすると、苦しそうな顔をする人、割り切れない思いを吐露する人もいますし、割り切っている人もいます。中には、本当は良くないことだとわかっている人もいます。イルカトレーナーたちの多くは元々イルカが好きだったはずです。それがいつしかイルカを使役し、お金を稼ぎ、中にはイルカ追い込み漁に参加するようにまでなってしまいました。
そんな人たちに私たちの考え方や世界の状況を伝え、自分の心の通りに行動するように促せば、もしかしたらイルカトレーナーを辞め、イルカを守る活動を行ってくれるようになるかもしれません。

第二項　水族館共同体

目標：イルカの入手を止める
Before：日本では、イルカの捕獲、監禁、繁殖に対する法的な規制が無い。
After：水族館がイルカ追い込み漁からイルカを入手すること、これ以上イルカを監禁すること、繁殖することを法律で禁止にする。
目標設定について
この目標は、イルカに特化したものです。活動には段階と戦略が必要であり、最初の段階ではイルカの解放を行うことが有効です。人気があり、共感を得やすく、その問題が理解しや

すい動物を扱うことによって、興味の喚起と成果を得ることができ、他の動物への波及効果も期待できるからです。イルカの次には、鰭脚類や輸入動物などイルカの次に人気があり捕獲や監禁に問題がある動物に取り掛かかり、それらが終われば次へ、という順番になります。

優先順位について

活動対象としての優先順位は、JAZA加盟館・行政水族館・資金力のない水族館＞JAA非加盟館・民間水族館・資金力のある水族館、となります。優先順位は、景気や立地、活動側のリソースなどによって変化します。これらを総合的に勘案し、ターゲットを決定します。大事なのは、自分が行っている活動は、誰を対象としてどのように変えることを目的としているのか、はっきりさせておくことです。なお、先の優先順位は優先であって、後者を後回しにするものではありません。同時に働きかけながら、前者に特に力を入れるという意味です。

第一目　イルカの入手を防ぐ

イルカの入手を100%止めることができ、水族館に監禁されてしまった最後のイルカが亡くなったたら、それが「イルカ解放」の実現です。以下で5つの入手先ごとに記述します。

［本文参照：第六部 第二章 第三節　入手］

1. イルカ漁

前節［本文参照：第八部 第三章 第二節　イルカ漁］に記載しています。

2. 輸入

活動の参考となるのは、かつてシャチを輸入しようとした名古屋水族館が、国際的なキャンペーンにより断念した事例です。つまり、輸入によるイルカの入手を止めるために有効な活動は、輸入計画の情報をいち早く入手し、国際的な輸入阻止キャンペーンを行い中止させる活動です。国内の世論喚起やマスコミへの情報提供を行いつつ、その声を、意思決定責任者・その上司・親会社・監督官庁など有効なターゲットを特定し声を当てていきます。

3.交換

交換・ブリーディングローンからのイルカの入手の問題は、ブリーディングローン自体が知られていないことです。これを止めるために行う活動は、交換やブリーディングローンの実態と非倫理性を社会に周知しながら、監視し、指摘し、社会に情報提供し、動物園水族館に躊躇させやがて止めさせるという地道な活動です。

4. 保護

混獲・座礁、保護からのイルカの入手を止めるために行う活動は、混獲・座礁を監視し、イルカに対する不適切な取り扱いがあったら、行政・水族館・関係各所に指摘し、止めさせる活動です。保護を知ったら、水族館に連絡し、怪我の状況、自然に返せるかどうか、今後どうするつもりか、スケジュールはどう考えているかなどを聞きます。その情報を、一般に共有し、監視するとともに、一般の知識を高めます。もし帰せるならよし、帰せないなら合理的な理由と根拠を確認し、共有します。

また、YouTube、SNS等で水族館による保護を礼讃している書き込みがあったら、冷静に事実や問題点を書き込み、知識共有するのは有効です。

5. 出産(繁殖)

妊娠出産からのイルカの入手を止めるために行う活動は、水族館、観客、市民に、「水族館が行っている、イルカへの強制妊娠・出産の事実と非倫理性を指摘し、止めさせる活動」です。妊娠させる方法、馬のホルモンを使っていること、乳幼児死亡率が極めて高いことなど、事実を指摘するだけで、世の中の人は驚くでしょう。水族館の実態に気づき、消費行動を変える人は確実に出てきます。地道に伝えていきましょう。

第二目　JAZA・JAA加盟館へのアプローチ

JAZA加盟館

現在、JAZA加盟館はイルカ追い込み漁からイルカを購入することはできません。JAZA加盟館がイルカを入手したことがわかったら、そのイルカはどこから入手したか確認することが重要です。もし、JAA加盟館から入手したら、野生からの捕獲かどうか確認、イルカロンダリングではないか確認します。

JAA加盟館

2015年以降JAZAを脱退した水族館は、イルカ漁からイルカを購入することを決定した水族館、つまり自然から野生動物を搾取すること、イルカの生体捕獲のためにイルカを殺害することを良しとしている水族館です。この点について、JAZA脱退館を批判するキャンペーンは重要です。水族館の環境意識や倫理観の低さ、4つの役割の矛盾、世界の趨勢から以下に取り残されているか、市民や世界に広く伝えます。水族館の観客に対してJAZA脱退水族館には行かないように求めるキャンペーンも良いでしょう。

第三目　テクノロジー

テクノロジーによって動物園、水族館に監禁されている動物の代替としようという取り組みがあります。

ロボット

アニマトロニクス（Animatronics）

animate(生命を吹き込む）とelectronics（電子工学）からの造語です。躯体を人工皮膚や毛などで覆い動物や架空の生物のように造形し、電子制御で本物のような動きをさせるロボットのことです。

［URL：Realistic Animal Animatronics For Movies And TV Shows：https://youtu.be/WC6Y4UsyjZk］

アニマトロニクスのイルカは、水族館による野生のイルカの監禁を防ぐ目的で、すでに開発されています。

［URL：How robots could end animal captivity in zoos and marine parks：https://youtu.be/AZeyHTJfi_E］

水族館の4つの役割のうち「教育・環境教育」についてはアニマトロニクスで実現できます。「調査研究」は自然界で行えばよく、「種の保存」は動物園水族館が行うべきではありません。残るは「レクリエーション」です。水族館は、本物を見て触ることが大切だとし動物の監禁を手放そうとしませんが、本物を見て触りたい人々は、そもそも動物倫理意識も環境意識も低いということを考えれば、その理由に正当性は無いということがわかります。

バーチャルリアリティ

VR（Virtual Reality）

Virtual(仮想)、Reality(現実)という意味です。ゴーグルやヘッドフォンを装着し、映し出される映像を鑑賞します。映像は実写を加工したものやCGなどで作成され、没入感が強く、今後発展する領域です。

イルカやクジラ、ゾウやライオン、鳥や爬虫類や昆虫類を間近で見ることができ、またそれらの動物の視覚や体験を追体験することができます。動物を捕獲監禁したり、精神を病んだ動物を観察したり、昆虫採集などして飽きて死なせたりすることなく、高い教育的な効果が期待できます。動物園水族館が目的とする、エンターテイメントやレクリエーションとして活用することが可能です。

［URL：Wildlife in 360 VR：https://youtu.be/GgXtU-rpzYM］

3D映像

立体映像（HOLOGRAM DISPLAY 、3D Holographic Projection Systems）

3次元映像・3D映像とも呼ばれる、オブジェクトが立体に見える映像です。

［URL：TOMORROWLAND：https://youtu.be/63lt3hVSyHg］

［URL：Hologram animals circus：https://youtu.be/MV2QaZUE7-A］

なお、話題になった体育館の床からクジラが飛び出す映像はフェイクです。しかしいずれ本当にこのような技術が開発されることを期待しています。

［URL：Whale Surprise Jumps into a Gym：https://youtu.be/uKnHek04Ouw］

建物に設置したモニターに3D映像を映し出す技術

壁面のLEDモニターで動物を映し出すプロジェクトが行われています。

［URL：アメリカ：https://youtu.be/PvOTMXAOyoY］

［URL：韓国：https://youtu.be/7LJOBo4BEfQ］

［URL：中国：https://youtu.be/UBTfSkCtRoo］

日本でも新宿で猫の映像を見ることができます。

［URL：新宿：https://youtu.be/XXovsaBcjVI］

2D映像

プロジェクションマッピング（Projection mapping）

ビルや人形などの不規則な形状の立体物の形に合わせて、映像を投射する技術です。動物の活動でも使用されています。

OPSが国連ビルやエンパイアステートビルで行ったプロジェクト

［URL：Racing Extinction ：https://youtu.be/8ZoQBlOyDo0］

環境と動物保護を訴えるインスタレーション作品

［URL：Animal watching - Video installation on trees by Maizz Visual：https://youtu.be/2y74qCn0ChY］

ただし技術は使い方次第で良くも使えれば悪くも使われるもので、水族館がイルカショーと組み合わせて利用していることもあります。

モニターに現実世界とバーチャル世界を同時に写す

おそらく以下の映像は、観客が物理世界でCGの動物を見ているわけではなく、観客の目線の先にモニターがあり、モニターにでまるで自分と動物が一緒にいるかのような映像が映し出されているということだと思います。

［URL：Virtual Zoo in a European mall：https://youtu.be/4x7qvla3mOg］

映像

映像を使ってイルカやクジラに関する教育を行います。日本では川崎水族館が行っています。

［URL：カワスイ 「世界のクジラに会いに行こう」：https://youtu.be/dPYbalWxXAY］

その他

スマホを通して3D映像を見る

［URL：shARk encounter-：https://youtu.be/hudnVCRXIcg］

ドローンで動物の形を描く

［URL：Amazing Drone Magical Holographic Light Show in China：https://youtu.be/GX7xOqLgkTM］

イルカやクジラのラジコン

［URL：Phish - Waves, Whale & Dolphins：https://youtu.be/Yhm7_sSLh8U］

ライトアニマル

日本では、ライトアニマルというデジタル動物展示システムを使って鯨族に関する教育機能を果たしている方々がいます。YouTubeを見ていると子供達の反応が素晴らしいです。私はまだ見たことがありませんが、いつか見たいと思っています。

［URL：ライトアニマル Website：https://www.lightanimal.net/jp/］

［URL：ライトアニマル YouTube：https://youtu.be/muTp9U-X2e0］

現在動物園水族館が行っている生体動物の監禁展示を禁止し、テクノロジーによって代替することは可能です。技術は今後ますます発展し、動物園水族館の存在を脅かすでしょう。生体動物の展示はすでに不要であり、特に野生動物の捕獲展示に正当性はありません。

第三項　将来予測に基づく事業、その他

裁判を起こす

動物のアドボカシーを行う裁判を起こすという手法もあります。アメリカでは、リチャード・ドーキンスやピーター・シンガーらが設立したノンヒューマンライツ・プロジェクトが、カナダではアニマル・ジャスティスが、動物のために動物の権利を争う裁判を起こしています。しかしこれまでの裁判で動物の権利が認められた判決は無く、敗北続きです。
日本ではアマミノクロウサギを原告として裁判を起こした事例がありますが、判決は裁判に訴えるの要件を満たしていないとし却下されています。
一方、インドでは政府自身がイルカに「ノン・ヒューマン・アニマル」として権利を認めた事例があります。またコロンビアでは動物が原告となることが認められています。
人々の動物の自由、尊厳、権利、倫理意識の高まりと共に、いずれ裁判で勝てる日が来ると確信しています。
十分な資金があれば、負けることがわかっていたとしても、例えばイルカやクジラ、ゾウや牛などを原告とした訴訟を起こし、問題提起を行うことができます。

動物搾取学校の生徒へのアプローチ

動物搾取系高校・専門学校・短大・大学・大学院から、毎年何万人もの動物搾取のプロが生み出され、動物産業に供給されていくことを真剣に考える必要があります。これら動物搾取学校は、動物産業の強大な力の源泉です。
動物擁護先進国では、動物擁護活動市場が大きいため、動物を守りたい優秀な人々を非営利団体が雇用しています。動物と関わる道は、動物を守るために非営利団体に就職するか、動物搾取産業に加わるか、という二つの選択肢があります。しかし日本では、動物が好きな若者が動物と関わる仕事をするためには、動物搾取産業の傘に入るという選択肢しかありません。そして、日本の動物好きの若者たちは世界には動物を本気で守ろうとする人々がおり、日本では信じられないほど大きな団体があるということも知りません。また動物を守ることとヴィーガンでないことは矛盾しているとも思っていません。日本では、動物を守ることは動物を食べ動物搾取産業に加わることだという業界ぐるみの詐欺が行われているとも言えます。不幸なことです。
彼らのうち、まずは100分の1でも動物解放活動にシフトしてくれたら状況は変わるでしょう。彼らにアプローチする事業はいくつか考えられます。学校の前でリーフレットを配る、彼ら向けの動画を作成する、彼ら向けのWebページを作る、本を書くなどです。彼らは学生ですので、横のネットワークがあり情報共有がしやすい環境にあります。そのネットワーク

に響くコンテンツを増やしていくことは、地道ではありますが動物解放活動に徐々に効果が現れてくる重要な活動です。

国際連携

西洋社会を中心に、水族館に反対する団体は多くあります。日本は世界最大のイルカ輸出国であり、多くの団体から問題視されている国です。その日本にイルカを解放し、水族館を閉鎖しようとしている団体や個人があるということを知ってもらい、ネットワークしていくとも重要な活動になります。

例えば日本からウクライナに輸出されたイルカは、ハンガリーに運ばれようとしていました。ハンガリーの活動家はこれに反対し、監禁を断念させました。この時に、日本からの声が届いていれば、ハンガリーにも日本にも良い影響を及ぼすことができたでしょう。

リブはアメリカやUK、スイスなどの鯨族擁護団体と連携し、情報共有しながら事業を行っています。彼らは優秀で、私たちはいずれ彼らと肩を並べて活動する団体に成長するつもりです。

シャチ

［本文参照：第一部 第三章 第六節　シャチ］で見てきた通り、鴨川シーワールド、名古屋港水族館、神戸市立須磨海浜水族園がシャチの家族を分断し、妊娠出産させ、シャチの子供を手に入れようとしています。この現状に対して行える活動は多くあるでしょう。現在この問題に関してどんな活動が行われているかあえてリサーチしないまま、その幾つかのうち基本的な活動案を記述します。

1. 教育

本書に書いてきたような、シャチの生態や家族の関係、日本のシャチの名前やプロフィール、そして最も大事である、なぜシャチの監禁や繁殖はいけないのかを神戸市民を中心とした日本国民に伝える必要があります。伝えるには、Webサイト、SNS、講演会、パネル展など様々なメディアを使って行います。幸い神戸市民の中にも、シャチの飼育に反対している人々がいます。彼らの論拠は入場料が上がるので神戸市民のためにならないというもののようですが、ともあれ反対の立場ですので、活動家の言うことに耳を傾けてくれる可能性は高いと予想されます。

2. ステークホルダーに要望書を送る、アクションする

シャチの監禁飼育に関して中心的役割を担っているのがフジサンケイグループ、ホテルグランビスタ＆リゾートです。路上アクションを新スマスイ前で行うのももちろん良いのですが、例えば、ホテルグランビスタ前で行い道ゆく人に啓発する、要望書を送るなどするのも効果的でしょう。

3. 神戸市、神戸市議会へ働きかける

特に神戸市議会の中には、新スマスイに反対の立場をとっている、あるいはブリーフィングによって反対の立場になる議員もいるかもしれません。議員に働きかける時に重要なのは、個々の議員に関するリサーチ、そして”誰に最初に声をかけるか”です。

第四節　共通

最終目標　『イルカ・クジラ解放』

ここでは、捕鯨・イルカ漁・水族館に共通する代替案を示します。これら事業は動物園水族館の四つの役割の代替を果たせます。また、産業が終焉したのち、失職した人々の起業や雇用につながります。

第一項　ドルフィンウォッチング・ホエールウォッチング

第一目　ドルフィンウォッチング・ホエールウォッチングとは

以下まとめてホエールウォッチングと記述します。
ホエールウォッチングとは、船で海へ出ていき、自由に生きているイルカやクジラを観察するアクティビティです。ホエールウォッチングは、1955年アメリカ カリフォルニア州 サンディエゴ最南部のカブリロ国定公園沖で始まりました。現在でも盛んな地域です。

市場規模

2009年のIFAWの調査によると、2008年時点で世界中119カ国で行われ、1,300万人が利用、直接収入8億7270万ドル（1218億0596万円）、観光関連の間接収入21億1310万ドル（2949億3316万円）（USD1＝JPY139.556）。日本鯨類研究所の収益は、2021年で約29億3000万円。直接収入の2.4%。つまり捕鯨を止め、ホエールウォッチング事業、合わせて調査事業などを行えば、現在の収益を十分に賄える可能性があるということです。また、基地式捕鯨業者もホエールウォッチングに切り替えることもできるでしょう。
ホエールウォッチング業者に聞くと、クジラがなかなか見つからず、うまくいかないという声もあります。しかし、研究が進められているクジラの個体識別とGPSの装着、衛星からの観察によって、業者が必ずクジラを見つけることができる環境を作り出せる可能性は大いにあります。それまでは先に示したように、税金で調査や個体識別を行えば、経済的に自立するまでの収入源とすることができます。

第二目　事業を行っている場所

世界

特に知られている海域をいくつか記載します。
北アメリカ 西海岸
カリフォルニア州沖には多くの鯨類が回遊しており、人懐っこいコククジラが有名です。他にシロナガスクジラ、ザトウクジラ、シャチ、様々なイルカを見ることができます。
北アメリカ 東海岸
東海岸でもホエールウォッチングを楽しめます。特にプロビデンスタウンは捕鯨の町からクジラ保護の町に転換してことで有名で、小さい博物館もあります。東海岸で見ることができ

るクジラは、シロナガスクジラ、ナガスクジラ、セミクジラ、ザトウクジラ、ミンククジラ、ベルーガ、イルカなどです。
ハワイ
ハワイもホエールウォッチングが盛んです。ザトウクジラや様々なイルカが見られます。
カリブ海
多くのホエールウォッチング業者があります。ザトウクジラ、マッコウクジラ、ツチクジラなどが見られます。イルカ保護団体は、日本の水産庁やそのエージェントである鯨類学者が現地のホエールウォッチングの発展を阻害していると批判しています。
オセアニア
クジラへの共感が高いオーストラリア周辺でもホエールウォッチングが盛んです。シロナガスクジラ、ミナミセミクジラ、ザトウクジラ、ミンククジラが見られます。
その他、ヨーロッパ、南アメリカ大陸、アフリカ大陸など世界各地で行われています。

日本
日本各地にもホエールウォッチング業者があります。元クジラ漁師やイルカ漁師、イルカトレーナーが行っている業者もあります。一部取り上げます。
北海道
世界遺産である知床半島や、室蘭で行われています。知床では、長須鯨、マッコウクジラ、ツチクジラ、ミンククジラ、シャチ、ベルーガ、イシイルカなどを見ることができます。秋から春先によく見ることができるそうです。
知床
［URL：知床ネイチャークルーズ：https://www.e-shiretoko.com/animals/］
［URL：ゴジラ岩観光：https://kamuiwakka.jp/whale/］
［URL：知床アルラン：https://shiretoko.life/guide/summer/］
［URL：観光船はまなす：http://rausu-cruise.com/wp/animals/］
室蘭
［URL：スターマリンKK：https://star-marine.co.jp/cruise/dolphin_watching.html］
千葉県
千葉県ではおそらく1業者のみが行っています。見られるのは、マッコウ、ザトウ、シャチ、コビレゴンドウ、ハナゴンドウ、バンドウイルカ、スナメリなど、そしてセミイルカを見ることもできるようです。この会社の社長は元犬吠埼マリンパークの職員、イルカトレーナーであり、イルカのハニーについてお話を聞きに伺ったことがあります。
［URL：有限会社銚子海洋研究所：https://choshi-iruka-watching.co.jp/］
東京 小笠原諸島
1988年日本で初めてホエールウォッチングが行われたのが小笠原諸島です。東京都小笠原村、小笠原諸島は、東京から1700kmの離れた沖ノ鳥島を最南端とする島々です。人が住んでいるのは父島と母島のみ。父島は東京から約1000kmあり、定期船で24時間かけて行くこ

とができます。あたたかい小笠原諸島は、ザトウクジラが出産する海域として有名です。他にマッコウクジラ、ハシナガイルカ、ミナミバンドウイルカなどが見られます。小笠原ホエールウォッチング協会には、父島18隻、母島1隻の船が加盟しています。
同じ東京都の伊豆七島では、ホエールウォッチングを行っている業者は無いようです。
［URL：小笠原ホエールウォッチング協会：https://www.owa1989.com/watching］

石川県

能登半島、イルカのすずちゃんが姿を表す珠洲市のほど近くでイルカウォッチングを行っています。見られるイルカはバンドウイルカ。他は不明です。
［URL：I LOVE DOLPHIN 和倉港イルカウォッチング：https://i-love-dolphin.co.jp/］

静岡県 伊豆

かつてイルカ漁が盛んだった伊豆半島でホエールウォッチングを行っているのが、元イルカ漁師の石井泉氏です。ウェブサイトにはホエールウォッチングの記載はありません。ホエールウォッチングにはガソリン代や時間などのコストがかかります。事前に連絡し、石井さんに提示していただいた条件を満たしてお願いすれば、船を出してもらえるかもしれません。筆者もお願いしたことがあります。残念ながらイルカは見れませんでしたが、それも自然。見れなくて当たり前、見れたら幸運というというのが自然です。イルカを自然から切り離し、水族館に監禁し、いつでも好きな時に見ることができるというのは不自然です。
［URL：光海丸：https://kohkaimaru.jimdofree.com/］

和歌山

太地のイルカ追い込み漁で有名な和歌山県ですが、ホエールウォッチングも行っています。太地から42号線を北上するとホエールウォッチング業者の看板も見られます。見られるクジラは、マッコウクジラ、ザトウクジラ、ミンククジラ、シャチ、コマッコウ、そしてイルカ追い込み漁捕獲対象種です。
太地から程近い那智勝浦の湯川にはホエールウォッチング業者の一つである清丸渡船があります。ウェブサイトはありませんので電話で予約をします。筆者は前出の元イルカ漁師の石井さんと一緒に乗船しました。船が揺れに揺れ、他の乗客が船のへりにしがみつく中、石井さんが船の真ん中で平然と腕を組み、仁王立ちで立っている姿が印象的でした。
［URL：南紀マリンレジャーサービス：https://ilovekujira.com/］

高知

土佐湾にはニタリクジラが定住しているほか、マッコウクジラ、コビレゴンドウ、ハナゴンドウ、イルカ類を見ることができます。太地のすぐ近くですので、ホエールウォッチングで見ることができたイルカが太地で殺されていることもあるかもしれません。
土佐市
［URL：宇佐ホエールウォッチング協会：http://usaww.jp/pc/introduce.php］
足摺岬
［URL：大方ホエールウォッチング：https://nitarikujira.com/tour/］

長崎 天草

天草のドルフィンウォッチングは有名です。見られるのは定住している南バンドウイルカです。イルカウォッチング船はかなり問題ある運行をしています。第三目に記述します。

鹿児島 奄美大島

奄美大島周辺では、北の海から南下し出産子育てに来たザトウクジラを見ることができます。奄美クジラ・イルカ協会には、奄美大島15業者、徳之島1業者、計16業者が加盟しています。奄美では野生のイルカに食べ物を与えることがあるようです。

［URL：奄美クジラ・イルカ協会：https://amamiwhale.jimdofree.com/］

沖縄

沖縄でもホエールウォッチングが盛んです。ザトウクジラが出産する海域として有名です。那覇を中心とする本島南部、北谷(ちゃたん)を中心とする本島中部、本部(もとぶ)を中心とする本島北部、本島以外の島嶼部、それぞれでホエールウォッチングが行われています。

本島北部

［URL：恩納村ホエールウォッチング協会：https://onna-whale.com/］

島嶼部

［URL：座間味村ホエールウォッチング協会：http://zwwa.okinawa/page-20］

その他

［MAP：日本のドルフィン・ホエールウォッチング］



第三目　問題

クジラやイルカたちへの被害

ホエールウォッチングが起こす可能性のある鯨族への被害は、衝突、騒音、船が出す排気ガス、船がクジラに接近しまとわりつくことなどです。これらはクジラたちに、怪我、重症、死亡、ストレス、摂食や妊娠出産への影響など、身体的・精神的な被害を与えます。
熊本県の天草で行われているドルフィンウォッチングはかなり劣悪もので、観光船がポッドを取り囲み、行手を阻み、できるだけ近距離に近づこうとするなどします。イルカの暮らしや尊厳を尊重せず、業者の一方的な欲求を満たそうとしていました。

捕鯨業との軋轢

ホエールウォッチング業者と捕鯨産業との間に、軋轢が生まれることもあります。白変種のハナゴンドウ（ハマタ、ユウジ）を見守っていたホエールウォッチング業者と、太地のイルカ漁師とくじらの博物館もその例の一つです。
他にも北海道では、ホエールウォッチングをしている最中に捕鯨業者が来て観光客の目の前でクジラを殺したこともあるそうです。また、捕鯨業者が来るとクジラが姿を消すため、ホエールウォッチング業者は迷惑を被っています。

第四目　規制

世界で初めてのホエールウォッチングへの規制は、1984年、鯨類の研究者であり作家、現在WDCでリサーチフェローを務めているエリック・ホイト氏が作成したホエール・ウォッチャー・ハンドブックです。ホイト氏の著作、「オルカ入門」(どうぶつ社)は、日本でも出版されています。このハンドブックを基礎として改訂を重ね、新たな事実が判明するたびに、ホエールウォッチングの規制は改善されてきました。日本でも2014年JWDC 日本クジライルカウォッチング協会設立時に、エリック・ホイト氏が招かれ基調講演を行なっています。以下に世界カ国のホエールウォッチング規制と日本の規制の一例を挙げます。

世界

IWC：ホエールウォッチングハンドブック
［URL：https://wwhandbook.iwc.int/en/］

海外

NOAA：海棲生物観察ガイドライン：ガイドラインと距離
Marine Life Viewing Guidelines: Guidelines & Distances
［URL：https://www.fisheries.noaa.gov/topic/marine-life-viewing-guidelines］
アラスカ州：アラスカの海洋哺乳類の観察ガイドラインと規制
Alaska Marine Mammal Viewing Guidelines
［URL：https://media.fisheries.noaa.gov/dam-migration/alaska-marine-mammal-viewing-guidelines-brochure.pdf］
アラスカ州：アラスカのザトウクジラ接近規則
Alaska Humpback Whale Approach Regulations

［URL：https://www.fisheries.noaa.gov/action/alaska-humpback-whale-approach-regulations］

サザンレジデント(太平洋西岸定住型)シャチに対する影響に関する規制

Regulations on vessel effects for Southern Resident killer whales

［URL：https://www.fisheries.noaa.gov/west-coast/endangered-species-conservation/regulations-vessel-effects-southern-resident-killer-whales］

西海岸の海洋哺乳類：船との衝突：衝突を避けるための推奨事項

Marine Mammals on the West Coast: Vessel Strikes

［URL：https://www.fisheries.noaa.gov/west-coast/marine-mammals-west-coast-vessel-strikes］

ハワイ州：ハワイ州のザトウクジラのホエールウォッチングガイドライン

Boating Guidelines

［URL：https://hawaiihumpbackwhale.noaa.gov/visit/boating.html］

オーストラリア：Australian National Guidelines for Whale and Dolphin Watching 2017：

［URL：https://www.awe.gov.au/environment/marine/publications/australian-national-guidelines-whale-and-dolphin-watching-2017］

日本

日本の統一的なルールはありません。各協会や事業者がガイドラインを作成しています。しかし、奄美大島ではイルカに餌付けをするなど不十分な状態です。

JWDC 日本クジライルカウォッチング協会

事業者向けのガイドラインを作っているとのことですがウェブサイト上には載っていませんでした。

［URL：https://jwdc2014.wixsite.com/jwdc］

小笠原ホエールウォッチング協会：自主ルール

［URL：https://www.owa1989.com/watching/rule］

座間味ホエールウォッチング協会：自主ルール

［URL：http://zwwa.okinawa/page-20］

沖縄では他に、沖縄中南部ホエールウォッチング協会、沖縄北部ホエールウォッチング協会があり、ルールを定めています。

もちろん、ホエールウォッチングを全面的に禁止すべきだという声もあります。また、ホエールウォッチングを禁止する海域を設けるべきだとする折衷案もあります。

第五目　アイデア

活動のアイデアの一つですが、太地町周辺でホエールウォッチング業者として開業するのは有効な活動になり得ます。イルカ漁共同体と事業がバッティングするので話し合いの俎上に載せることができます。また学者と連携するなどして個体数調査などを行えば、説得力を

持った反対活動を行うことができます。ただし、行う前に事業の有効性を詳細にマーケティングすべきです。

第二項　ドルフィンスイム・ホエールスイム

第一目　ドルフィンスイム・ホエールスイムとは

ドルフィンスイム(英語ではSwim with dolphins、Swimming with dolphins)という名称は、二つのアクティビティを表しています。一つは監禁型。イルカを生簀やプールに監禁し、人間と一緒に泳がせます。目的はレクリエーションやドルフィンセラピーです。もう一つは野生型。素潜りやシュノーケリング、スキューバーダビングなどの方法で、野生のイルカやクジラに近づき泳ぐことです。ホエールスイムは後者のみです。
ここでは主に野生型のアクティビティについて取り上げます。

第二目　事業を行っている場所

世界

多数なので省略。

日本

日本で行われている場所は以下です。
東京：伊豆諸島（利島、新島、三宅島、御蔵島、八丈島）、小笠原諸島（父島、母島）
静岡：富戸
石川：能登
熊本：奄美大島
沖縄：本島、沖永良部島　（*慶良間諸島に業者はありますが、慶良間周辺でのホエールスイムは禁止されているそうです。本島海域に行きスイムを行います）
［MAP：日本のドルフィン・ホエールスイム］



第三目　問題

野生型のドルフィンスイム・ホエールスイムによって、クジラやイルカが受けると想定される被害は、船との衝突による怪我、精神的ストレス、それらを原因とする健康被害、妊娠出産障害、心理的被害などです。

人間がイルカに食べ物をあげることも問題です。人間や船に対する警戒心が弱まり、物乞い行動を行ったり、漁業者や釣り人から魚を奪う行動を行う可能性があります。これらのことは、イルカと船舶との衝突や漁網への絡まりの危険性を高める、魚を獲る方法を変更させる、文化を変更させる、漁業者等から害獣として扱われる、危害を加えられる、などの可能性があります。一方、イルカから人間が危害を加えられることも想定しなければなりません。イルカから体当たりされる、噛まれる、叩かれるなど危害を加えられた事例があります。

ドルフィンセラピーの問題は、［本文参照：第三部 第一章 第二節　ドルフィンセラピー］へ。

第四目　規制

規制

行政、同業者の協会、業者など様々なレベルでの規制があります。イルカへの被害を問題視し、すでにドルフィンスイムを禁止している国や地域もあります。

世界

コスタリカ

2005年に、洋哺乳類の捕獲殺害、飼育、捕獲などを禁止した法律「コスタリカにおける鯨類に関する活動の運営に関する規則」によって、野生のイルカやクジラと泳ぐことが禁止されたようです。

ニュージーランド

2019年、ニュージーランド政府は、人間が野生のイルカと泳ぐことを禁止しました。ニュージーランド北東の人気観光地ベイ・オブ・アイランズでは1999年以来湾を訪れるイルカは66%減少し、出生したイルカの死亡率は75%になったそうです。ドルフィンスィムが、イルカにストレスを与えていると判断されたことが禁止の理由です。

日本

ホエールウォッチングと同様、統一的な規制は無いようです。自主ルールを定めている事業者もあります。

Dive Station Base

［URL：ドルフィンスイムのルールとマナー（国内）：https://onl.la/7Bnbf38］

東京ダイビングセンター

［URL：ドルフィンスイムのルール：https://www.tokyodc.info/dolphin/rule.html］

中南部ホエールウォッチング協会にはホエールスイム事業部があり、ルールを定めているようです。

第三項　鯨族レスキューチーム

［本文参照：第七部 第二章 第一節　主な団体と活動］で紹介したUKのBDMLRやアメリカのIFAWのように、日本で鯨族レスキューチームを作ることはイルカやクジラ擁護活動にとって効果が高く、またエキサイティングなアイデアです。BDMLRはダイバーたちが1988年立ち上げた団体ですでに34年活動しています。

日本でレスキューチームを設立する場合の事業アイデアを箇条書きにします。
・対象は、海生哺乳類、爬虫類、魚類等海生動物
・漁船との衝突による怪我を負った海生動物のレスキューと治療
・漁網や釣り糸の絡まりから海生動物をレスキューする事業
・海岸沿いのゴミ拾い事業や、海に漂う漁網・ゴーストネットの回収
・座礁した鯨族に関する情報収集や学者との連携による「調査・研究」事業
・子供や市民に対する「教育・環境教育」事業
・自然のままで海棲生物を保全する「種の保存」事業
・ホエールウォッチング(できれば陸から)による「レクリエーション」事業
人間社会に対する効果
・動物園水族館の4つの役割が、動物を監禁搾取せずとも可能であることを証明できる。
・現在水族館が行っている鯨族のレスキューをチームが引き受ける。
・市民に対して海生動物の保護と搾取に関する教育を行えば、実際は海生動物搾取を行っている水族館やイルカトレーナーがイルカの味方であると勘違いされることがなくなる。本気でイルカや海生動物を保護するプロフェッショナルチームが作られれば、彼らの主張は瓦解します。
これらの事業が可能であることはすでにBDMLRが証明しています。UKにはイルカを監禁している水族館はすでにありません。上記技術は、BDMLRが提供している海生動物レスキューのプログラムを受講することによって身につけることができます。
［URL：Marine Mammal Medic Training Course：https://bdmlr.org.uk/marine-life-medic-mmm-training-course］

参考までに、日本では1992年4月～1997年3月に、水産庁が主導したセーブ・ザ・マリンマンマール事業（小型鯨類等救出事業）がありました。事業発足時の検討委員会メンバーは、日本鯨類研究所、鴨川シーワールド、太地町立くじらの博物館、東京大学農学部の人々。事業目的は「湾内に迷い込み、座礁または混獲されたイルカ等の救出の実施及び救助法に関し、その啓発普及を行うことを目的とする」（鯨研通信 第401号（1999年3月））でした。漁業者を中心にイルカに対する意識改革を行い、救出方法を教え、マニュアルや啓発ポスターも作られました。漁業者相手の講習は反発にあうなど大変な面もあったようです。この検討会は「座礁・混獲した鯨類への対処法」を作成し、海外の座礁対応マニュアル「ストランディングフィールドガイド」なども翻訳しています。

第九部　動物解放団体リブ

イルカの活動をする人々の中には、イルカに見出されたとしか言いようのない人々がいます。その人々は、イルカと目があった瞬間、あるいはクジラと目があった瞬間、貫かれ、活動を始めます。筆者もその一人です。そのイルカはハニーでした。

第一章　NPO法人 動物解放団体リブについて

第一節　沿革

2017年9月4日　任意団体 Animal Liberator設立

筆者は動物活動を行うためのプラットフォームとして、2017年9月4日に任意団体 Animal Liberatorを設立しました。当時、日本には動物活動の最終ゴールである「動物解放」を目的として掲げる団体がありませんでした。

団体を立ち上げるときには、長年活動している活動家からは、動物解放という言葉はあまり使わない方がいい、過激だと思われる、日本人にはまだ早い、などと言われ止められました。しかし、私たちが何を成し遂げようとしているか自身にも対外的にも明確にしなければ、成し遂げられるわけがありません。自分が成そうとしていることを堂々と社会に示す必要があります。

また、動物解放という言葉を使うのが早いとしたら、それではいつまで待てば早くないのでしょう。いつでも早くない、どころかすでに遅いのです。始めるタイミングは早ければ早いほど良いのです。

日本一周！動物園水族館調査

任意団体 Animal Liberatorが行った最初の事業は、「日本一周！動物園水族館調査」でした。Animal Liberatorでは、事業を立ち上げるときには必ず「情報収集→分析→目標→戦略→実行→評価」というプロセスを踏むことを決めていました。日本では、情報収集、分析、目標、戦略、評価がなく、実行あるのみという活動が行われています。これではどこに向かっているかもわからず、目標を達成することは困難です。Animal Liberatorでは、最初の3年間は動物園水族館に関する事業に集中する中期計画を立てていましたので、まずは情報収集のための事業を立ち上げたわけです。

日本一周！動物園水族館調査は、北日本と南日本の2回に分けて行い、1回ごとにクラウドファンディングを行いました。その資金で車を購入し、その車の中で車中泊をしながら調査を行いました。2018年から2019年にかけて延べ9ヶ月以上、北日本編を3ヶ月17日間、南日本を5ヶ月22日間、動物園 155施設、水族館 124施設、その他 4施設、計 283施設を現地調査しました。

この動物園水族館調査を経て、Animal Liberatorとしてターゲットとする動物種を特定しました。動物園はゾウ・ホッキョクグマ・大型類人猿、水族館はイルカ・シャチです。これは動物園水族館を回るうちに、観客が特に興味がある動物がいるということが体験的にわかったからです。人間は不思議と、ゾウとイルカとシャチに非常な興味を持ちます。それは子供、大人関係なくです。観客が立ち止まる時間も、ゾウやイルカは桁違いです。一般的に人々があまり関心を抱かない動物、例えば「ゴンズイの解放」を主張したとしても、ゴンズイには申し訳ないのですが、多くの人はピンと来ません。ゆえに人々が最も関心を持つ動物を扱うことによって動物園水族館の問題を伝え、そこから他の動物に波及させていくという戦略を取りました。
その方針に従い、ゾウへのブルフック使用の非倫理性を啓発する活動、動物園水族館の動物の異常行動を啓発する活動、太地町でのイルカ漁についての啓発活動や誓願書提出など、様々な事業を行いました。

2019年11月1日　NPO法人 動物解放団体リブ設立

2019年11月1日ヴィーガンの日に、任意団体 Animal Liberatorを母体に、NPO法人 動物解放団体リブを設立しました。NPO法人化するにあたってミッションである「動物解放」を団体名に入れました。リブとは、Liberation、Liberatorのリブであり、女性の権利獲得運動で使われるウーマンリブのリブと同じです。また同日、アニマリズムの社会を作るためのプラットフォームである政治団体アニマリズム党を設立しています。
2020年5月1日、日本一周！動物園水族館調査をまとめた電子書籍『動物園水族館閉鎖』を発売。次の書籍を書く取材のために再びクラウドファンディングを行い、イルカ漁が行われている太地町や東北へ取材に行き、執筆を続けました。それがこの本「イルカ・クジラ解放」です。
本書の取材のため那智勝浦に滞在しているときに、清水碧氏がイルカ漁を調査しに来られました。清水氏と話すうちに、動物解放団体リブを次の段階に引き上げてくれる人はこの方だという確信を持ちました。お願いしたところ、清水氏はリブの代表就任を快諾してくださいました。

2021年11月1日　第二期 動物解放団体リブ

2021年11月1日、清水氏がリブの代表理事に就任。私は理事となりました。
現在は清水氏の方針でリブは動いています。新生リブの活動の大きいテーマの一つは「教育」。
日本の、ヴィーガンに対する理解や共感や反発、動物を守ることへの共感や反発は、今後ますます高まっていくでしょう。動物を守ることに抵抗する人々が増えると同様、動物を守ろうとする人々、ヴィーガンの人々は急速に増えていくことが予想されます。そのときに必要なのは、動物の生態や動物利用の現状、活動手法など、動物解放に関わる知識、そして食べ物やライフスタイルなどヴィーガンに関わる正しい知識がすべて網羅されているサイトで

す。そのために「動物解放のための総合サイト」を準備中です。このウェブサイトは日本で最も重要で参照されるサイトとなるでしょう。
その他、このサイトのコアの部分を集めさらに深めた書籍の出版、動画での教育コンテンツ配信、そしてやる気のある人々が集まり動物解放活動を学ぶことができるヴィーガン大学などを着々と準備しているところです。

また、本格化するのは教育システムが完成してからですが、同時進行でも引き続き動物園水族館、イルカ漁、競馬や畜産に関する調査や事業も行っていく予定です。

第二節　役割

動物解放団体リブが日本において果たす役割は、日本の動物解放活動をサポートしリードすることです。テーマは「教育」。上から教育を施すといったものではなく、新しい社会に向けて共に学び歩んでいこうというものです。活動家、一般の人々にとって重要な情報、視点を提供し、動物と人間社会に貢献するのが私たちの役割です。

第一期の目黒は、動物利用分野の基盤整備を行うことを目的としていました。そのため、現場での調査を中心に綿密な情報収集を行い、動物園水族館の情報は書籍『動物園水族館閉鎖』に、鯨族に関する情報は『イルカ・クジラ解放』にまとめました。
第二期の清水は、現在「動物解放のための総合サイト」を構築中です。このウェブサイトは、動物解放に必要なあらゆる情報が網羅されているサイトとなる予定です。動物解放に関する情報は膨大であり、活動している人々であっても、明確に整理し理解している人は少ないでしょう。一般の方であれば尚更です。
動物解放活動を行なっている側から、社会に対して、なぜそれが必要なのか、どの動物がどのように利用されているのか、どんな問題があるのか、動物たちの生態や素晴らしさ、動物解放は何を達成しようとしているのか、そしてそれは動物や人類にどのようなメリットをもたらすのか、十分に伝えられていません。これらの情報や考え方を、しっかり伝えることができれば、自然に変わる人は多いと考えています。また、人々の動物に関する知識や共感を醸成し、社会の各セクターから動物解放活動への参入を促すことができると考えています。
活動家に対しては、思想、動物解放の歴史、活動の種類、動物利用問題、社会システムがどのような規模でどのように関わっており、どう解決すればいいのかといったことを整理して伝えれば、より高度な活動を行う人々や団体が生まれてくると考えています。

私たちリブが得意とするのは、動物解放に関わる全体像を俯瞰する視点を持ち、長期的な時間軸の中で過去と未来を見、ヴィジョンを提供することです。
その能力を動物たちのために最大限活用します。

第三節　基本指針

第一項　動物解放

目的を動物解放の一点に絞って活動します。
例えば、種の保全、生態系保全、生物多様性保全、環境保護、資源の保全といった理由による動物擁護活動は行いません。これらを理由とした場合、環境が改善されたら、あるいは個体数が回復したら動物の殺害捕獲が再開する可能性が高まることが容易に想像できます。日本の捕鯨共同体の主張はこれに基づいています。［本文参照：第二部 第二章 第二節 第二項　イルカ保護活動を行う動機の類型］
また、動物福祉に基づいた活動も行いません。動物福祉のゴールは、人工環境下において動物が自然の中で生きているに近い状況を作れるかであり、つまりゴールの達成は不可能です。食欲と倫理の狭間を揺れ動き、偽善と誤魔化しの正当化に言葉とデータを紡ぐ活動です。動物を解放すれば問題は発生しませんし、動物福祉という概念や運動が存在する必要もありません。

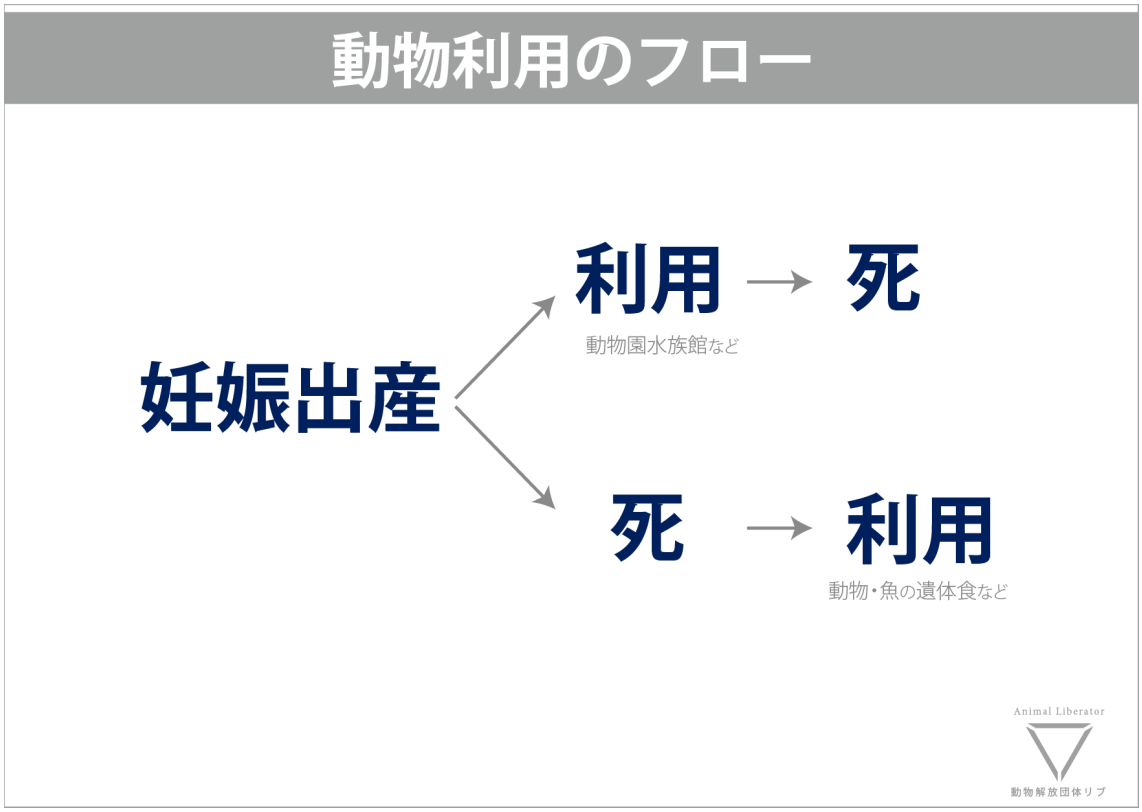
動物を本当に助けたければ、人生の残りの限られた時間は動物の解放に使うべきです。そのために、どういう過程を経て動物解放は実現されていくのか、人々の価値観はどのように変わっていくのか、社会システムはどのようなものにシフトするのかなどを、一人一人が深く考える必要があります。それらの過程の仮説を元に、現在何をすべきなのかを明らかにし、トライ&エラーしていきます。
目の前の動物を助ける活動は、人々の感情を動かし、共感を呼び、支持を得られます。しかし、未来を見定めた上で行う活動は、多くの人にとっては何をやっているのか、本当に役立つのかわからず、支持も少ないでしょう。しかしそれでも「我することぞ我のみぞ知る」という態度で自分を信じて進めていくことが大事だと考えています。
一人一人がよく考えた上で行う活動は、一人一人違うものになるでしょう。しかしそれこそが必要です。もし、正解がわかっていたらそれをやれば良い。しかし現時点で正解は誰にもわかりません。そうであれば、なるべく多くの人がなるべく違う方法で活動を進めた方がよい。そうすれば時代や活動の発展と共に自然にどの活動が正しかったかの解が立ち現れ、協力者や、支持者、資金は自然に集まってきます。そうなればさらに、動物の解放に貢献することができます。

第二項　未来の解放

未来の解放を実現します。

動物の利用は全て、「妊娠出産→利用→死」または「妊娠出産→死→利用」のフローで表すことができます。

［図：動物利用のフロー：妊娠出産→利用、死］



動物利用の根幹は、女性の妊娠出産です。すべての動物の搾取は、女性の機能の搾取から始まります。妊娠出産は「自然界での妊娠出産」「人間の支配下での妊娠出産」に分けられます。

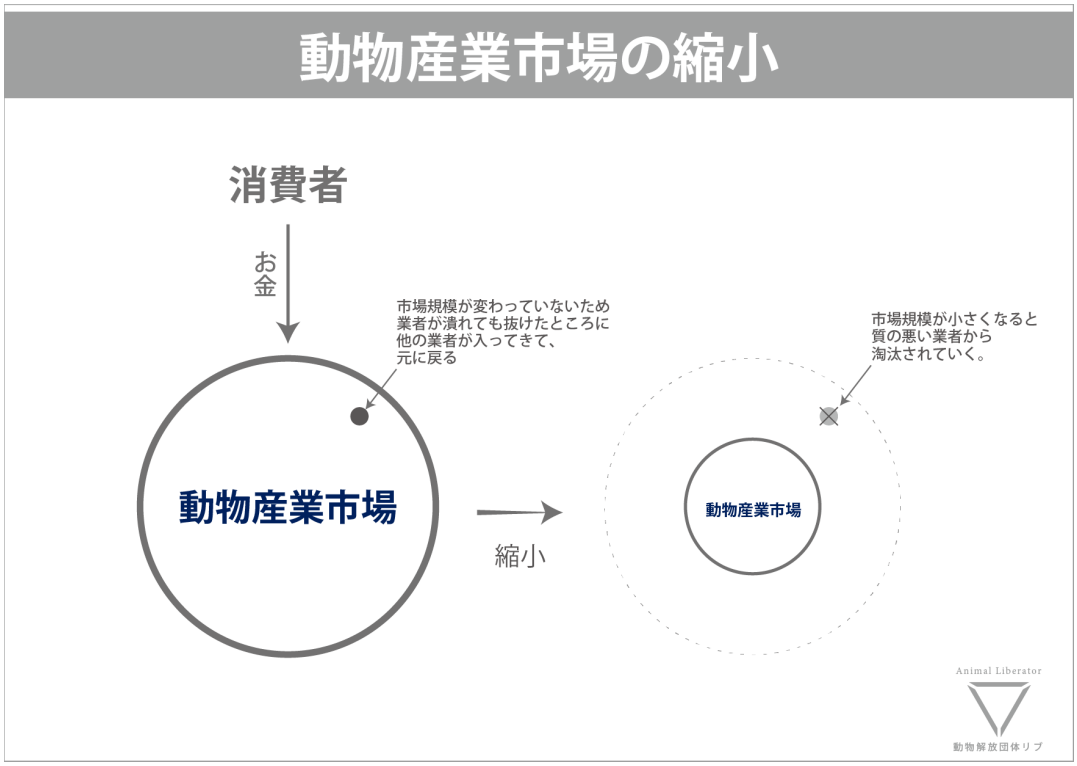
「自然界での妊娠出産」は、野生下で動物が出産した動物をを搾取します。積極的にはハンターや漁業者や釣り人による殺害や、害獣駆除、動物園水族館やペット業者などによる捕獲などです。消極的にはロードキルや気づかないまま踏み潰すなどです。つまり、自然界からの捕獲と殺害を無くせば、動物解放を実現することができます。

「人間の支配下での妊娠出産」は人間がコントロールしており、場合によっては強制的に人間の手でレイプしてつまり人工妊娠(繁殖)して生ませます。つまり動物の解放は、人間が動物を妊娠させるのを止めれば実現します。もし今日、たった今、人間に動物を妊娠させるのを禁止すれば、数十年後には地球上に数百億名いるすべての家畜動物がいなくなり、動物解放を実現することができます。つまり動物の不幸な妊娠出産を最初から防ぐ「未来の解放」です。

捕鯨やイルカ漁は「自然界での妊娠出産」の搾取にあたります。水族館は「人間の支配下での妊娠出産」の搾取と「自然界での妊娠出産」の両方を行っています。
あまりに簡単ですが、実現は難しい。しかし、このゴールを見定めて活動を行うことで実現は近づきます。

第三項　市場の縮小

［図：動物産業市場の縮小］



ある産業が消滅していくときの多くは、市場・マーケットが無くなったときです。いくら伝統文化や鯨肉食を保とうとしたとしても、生産コストが販売価格を下回ったらその産業は淘汰されます。一つひとつ現状と活動指針を考えてみましょう。

捕鯨

捕鯨産業は、市場原理からすれば本来すでに淘汰されているはずですが、税金を投入し、無理やり生かされています。とすれば税金が投入されなくなれば、捕鯨産業は淘汰されることになります。税金は我々日本国民が国家に支払っており、多くの人々が税金の使い道として捕鯨を選ばなくなれば、彼らの収入は無くなります。とすれば、捕鯨産業を市場縮小によって淘汰する戦略をとる場合は、国民に捕鯨と税金の関係を伝え判断を仰ぐという手法になるでしょう。

イルカ突き棒漁

イルカ肉を食べる人々は世代が進むにつれ自然減しており、それと共にイルカ突き棒漁も縮小しています。程なく淘汰されることが予想されます。その段階での戦略はイルカ突き棒漁

の復活を阻止することであり、行うべき活動としては、イルカ突き棒漁の残虐さやその他関連する知識を人々に伝え続けることが考えられます。

イルカ追い込み漁

イルカ追い込み漁は、伝統文化であるイルカ肉食市場だけであれば既に淘汰されている可能性が高いですが、伝統文化でない水族館への生体販売市場があるため生き残っています。イルカ肉市場は、イルカ突き棒漁と同様いずれ自然淘汰されるるので、少ないリソースを割いて活動する必要はないでしょう。とすれば、ターゲットはイルカ漁からイルカを購入し資金を提供する水族館と、水族館に資金を提供する観客となります。

水族館

水族館は儲かります。この不況の中、次々と水族館がオープンしています。市場を縮小させるためには水族館にお金を落とす観客への啓発を行うことになります。ただし、水族館を直接のターゲットと設定するなら行政系でかつ直営の施設が良いでしょう。水族館の閉鎖には時間がかかりますので、段階的にに縮小させる必要があります。他の動物種の解放活動、動物権利運動、ヴィーガニズムの推進、アニマリズムの普及とパラレルで進んでいくので、
時々の段階で必要な事業を行うことになるでしょう。そういった長期的な活動に、短期的な活動、例えばイルカの購入に対する批判、イルカの死亡や出産に対する批判を組み合わせて徐々に進めていきます。

段階としては、観客・消費者に知識提供し、水族館にお金を落とすことを止めてもらい、水族館の資金を締め、劣悪・弱小の水族館から淘汰していきます。閉鎖する水族館に残されたイルカや動物はよりましな水族館へ移動します。受け取り側の水族館としても、イルカの絶対数が少なくなっていくので歓迎するでしょう。実際に、みさき公園や京急油壺マリンパークの時にはアドベンチャーワールドなど周辺の水族館が動物を引き取りました。

第四項　その他の方針

その他の方針を簡単に書いておきます。

やりたいことではなくやるべきことをやる

つい、やりたい活動をやってしまいますが、やるべき活動をやるようになることが日本の活動が高度化する道だと考えています。やりたい活動を行うことと、動物解放を実現することはイコールではありません。新規に活動を行う人々や新規団体が、日本の活動や動物利用状況を俯瞰的に見て、活動が足りない動物種、活動が足りない分野などを補う活動をしていけば、動物解放活動全体に貢献することができます。

活動家の責任

日本の動物に関する意識は低い、といった言葉を活動家から聞くことがあります。私自身言ってしまうことがあります。しかし、西洋の活動と日本の活動はほぼ同時期にスタートしていながら、現状信じられないほどの差が生まれています。よく30年遅れと言いますが、30年経っても追いつくとは到底思えません。としたら誰の責任でしょう。当然ながらそれは活動家の責任です。問題が解決しないのを誰かのせいにして問題が解決しないのは誰しも

わかるでしょう。日本の動物に関する現状の責任は、すべて自分にあると捉えた方が、活動の高度化や成果獲得に繋がります。これまでの活動で何かが解決しなかったのならば、変えるべきは外部ではなく自分です。

誰もやったことがないことをやる

リブでは日本独自の活動手法の開発をしていきたいと考えています。

例えば、日本一周！動物園水族館調査をまとめ、日本の動物園水族館の現状や活動についての考え方などをまとめた「動物園水族館閉鎖」。そして、鯨族の生態から、日本の鯨族搾取の現状・問題点、海外の活動の状況まで、活動に必要な情報を網羅したこの本「イルカ・クジラ解放」。これは現場の活動家が、活動家として本を書く、という独自の活動の一つと考えています。もしこれまで思うような変化を作れなかったのならば、これまでやらなかったことの中にしかそれはありません。

皆さん一人一人が自分の特性、クリエイティビティを発揮することによって、さまざまな変化を生み出し、そしていつか大きな変化を生み出す活動が開発されると信じています。

第五項　倫理

動物解放活動で最も大事なのは、倫理観の進化をもたらすことであると考えています。倫理観の進化によってのみ、恒久的な動物への共感や権利の維持、アニマリズムに基づく社会システムの確立と維持を実現することができます。

それには事実をありのまま伝えることが基本となります。現時点でも、動物の現状が届いていない人がたくさんいます。その中には、単純に現実を知れば動物やイルカを守る側にシフトする人がまだまだいるはずです。
動物解放活動は、敵を作る活動ではなく、味方を作る活動です。動物に共感する味方を増やしていく活動です。しかしその人と友達になるとか、仲良くしなくてはならないといったことではありません。人ですから好き嫌い、合う合わないはあります。だとしても、動物を守る、人権を守るといったことは共通している状態を作ります。

倫理的な活動ですので、倫理を体現しなくてはなりません。それは大変なことです。どれだけ真面目に生きていたとしても、批判され貶められることもあるでしょう。しかしそれでも礼節を守り、立派に生き、またそう生きる覚悟を持ちます。そのことは必ず、あなた自身のためになります。またそのように生きていれば、同じように立派な生き方をしている仲間ができるでしょう。

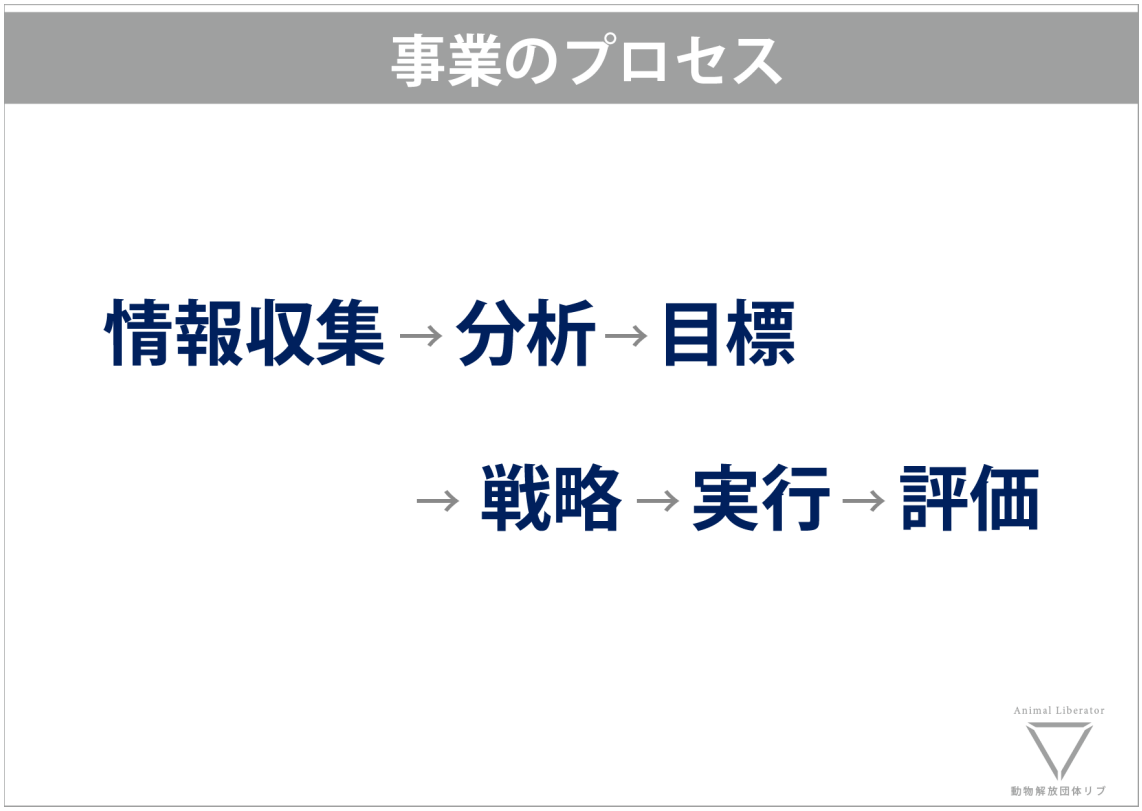
私自身は、動物解放活動は負けることのないオセロのようなものだと考えています。人権がまだ万人のものでは無かった時代、多くの人がすべての人に人権を与えるのは夢物語だと考えていました。人権を与えることにありとあらゆる理由をつけ、抵抗した人々がいました。権利のために闘った人々は批判され、暴力を振るわれ、殺されることさえありました。しかし現在、人権はまるで当たり前のようになっています。無くなりそうになって、初めてあることに気づくほどに。
動物の権利も同じような過程を経て、獲得することになります。現在、まさかと思う人が多かったとしても、動物が権利を獲得することは確実です。誰が何を言おうとも。

第二章　イルカ・クジラ解放活動の進め方

第一節　事業のプロセス

リブでは何か事業を行うときには必ず、情報収拾→分析→目標→戦略→実行→評価という事業のプロセスを経ると決めています。

［図：情報収拾→分析→目標→戦略→実行→評価］



活動家として経験が足りないときには、常に実行のみを行なってしまいがちです。PDCAで言えば、常にDoのみを行なっているということです。これでは活動家として高度化し、より良い活動ができるようになっていくということにはなりません。常に同じような活動を繰り返しがちになり、なぜ変わらないのだろうと不満につながったり、人間にも社会にもひいては他の活動家に対しても怒っているような活動家になったり、ひどい時はバーンアウトし活動を止めてしまいます。

このプロセスの中で、実行＝Doは最も難易度の低いものであるといえます。Doはやれば誰でもできます。もっとも活動し始めの頃のDoは大事ですし、やった後の達成感や充実感を感じることも大事です。またそれがなければ活動は続けられません。しかし、何年やってもそればかりでは持ちません。

情報収集

情報収集は現在の日本の活動で最も重要だと考えています。情報収集をしなければ、動物に関しても人や社会に関しても理解どころか何もわかっていないまま活動することになります。何らかの問題を解決したい場合、あるいは変化させた場合、その活動分野に関する十分な情報収集は必須です。動物解放という文脈に基づいた情報収集はリブのウェブサイトで行います。

分析

収集した情報を分析すれば、解決したい対象の市場規模、人員、社会的な力、資金力、仕組み、そして強みや弱点などを把握することができます。彼を知り己を知れば百戦殆からずと言いますが、対象を知ることは社会変革に欠かすことはできません。騒いでいれば何かが解決するほど世の中甘くありません。

その分析を元に、社会や人に対してもっとも効果を期待できるターゲットを決定し、戦略を立案することができます。また、知識や経験を積み視野が広がるほど、分析に基づいたより正しい推察ができるようになります。

目標

目標は、動物解放です。しかし、その最終目標の手前には、数多くの小目標を設定することになります。小目標とはいえ達成するには様々な困難に直面するでしょうし、時には敗退することもあるでしょう。しかし、しっかり目標を立ててチーム内で共有しなければ、今やっている活動・事業がどこに向かっているかもわからず、瓦解してしまうかもしれません。また目標を立てることにより達成度を評価したり、結果の「評価」を行うことができます。

戦略

目標を立てたら、それを達成するための戦略を立てます。ターゲットを特定し、強みや弱点を把握し、事業立案し、実行の順番を決めるなど目標達成に最も早く簡便なルートを考えます。予算を立て資金計画を立てるのは非常に良いと思います。完全に正しい戦略などは無く、実行の段階に入ると見込みちがいやさまざまなミスに直面します。都度見直し修正し、進めていくことになります。

戦略立案やプロジェクトマネジメントには様々な考え方や手法があります。書籍やトレーニングプログラムもたくさんありますので活用されると良いでしょう。

実行

ここまできてやっと実行段階に入ります。ここは、根気や気合いや我慢といった精神論的な能力が必要です。どう転んでも苦労します。しかしここを乗り越えなければ、成果は得られません。緩い活動で得られる成果は緩い成果であり、頑張った活動で得られる成果は頑張りに見合った成果です。

頑張れてしまう人も注意が必要です。心身に気を配り、運動し、遊び、自分の人生を楽しみながら、しっかり仕事を行うことがコツだと思います。

評価

この一連のプロセスでもっとも重要なのが評価であると言われています。評価が無ければ成長はありません。自分の活動を振り返り、良い点、改善点を挙げることは、自分の活動を客観的俯瞰的に見ることであり、それはあなたの宝となるでしょう。

この事業のプロセスを何度も回し経験を積むことによって、より高度で効果の高い事業を立案、実行、達成することができるようになります。

第二節　イルカ・クジラ解放活動への応用

上記の「情報収拾→分析→目標→戦略→実行→評価」プロセスを、どうイルカ・クジラ解放活動に適用したかを記述します。
まず、この活動の最初は「日本一周！動物園水族館調査」でした。この調査自体が、動物園水族館産業に関する情報収集でした。調査を行いながら、イルカたちの異常行動や現状の酷さを見て、これはイルカたちが捕獲されているその場所へ行かなけれいけないと考え、2018年から太地町に行き始めました。ここからイルカ・クジラ解放活動が始まります。活動するにあたって、事業のプロセスに乗せます。

情報収集

これまで調査した水族館の情報収集に加え、イルカ漁の情報収集を始めました。当時はDolphin Projectの活動家がいて、彼らに連絡を取り調査に同行させてもらいました。太地町での最初の知識はすべて彼らから教えてもらいました。イルカ漁に関する情報は、この本をここまで読んでいただいた皆さんでしたらお分かりになるように膨大です。まずは、太地町の地図を手に入れ、地理を知るところから始めました。くじらの博物館に行き、主だった施設や生簀、古式捕鯨の史跡を周り、街や海岸沿いを歩きました。町の人に話しかけいろいろ教えていただき、公民館に行って資料を読み、ネットでこれまでの活動を調べ問題点や議論になっている点を明らかにし、太地町の議員さんや役場の方と話、隣町の人にも話を聞き、第二期第三期の活動家に話を聞きと、手に入れられる情報を片っ端から手に入れていきました。

分析

集めた情報をイルカ・クジラを解放するにはどうすれば良いかという視点から再解釈し、情報を仕分け直していきました。この本自体が、まさに分析そのものです。本書の最初の方に書きましたが、「情報収集→分析」したものをみなさんに提供するのがこの本の目的の一つです。そしてこれからイルカ・クジラ解放活動をしようとする人々が、事業のプロセスの「目標」からスタートすることができるようにすることが、もう一つの目的です。
もちろん、人によっては私とは異なる分析をする人もいるでしょうが、それであったとしても「情報収集」の部分はお役に立つであろうと思っています。本書が、多様な才能を持つ皆さんのためにお役に立てることを期待しています。

目標以降のプロセスは次の節に記述します。

第三章　イルカ・クジラ解放に関する事業

前提

事前にご承知おきいただきたいのは、2020年時点の戦略や陳情の内容と、2022年時点での戦略と内容は異なっていると言うことです。戦略ミスを共有することで今後の反省とし、皆様の参考とするためにも経緯を説明します。

2020年頃戦略設計をする際、開示請求を行い「鯨類追込網漁業の許可方針」を入手しました。そこに「制限又は条件」の記載はなく、私は「制限又は条件」が消されたのだと思い込んでしまいました。しかし、書類に変更があり「鯨類追込網漁業の許可方針」という書類が、「鯨類追込網漁業の許可方針」と「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の2つの書類に分割されており、取扱要領の方に「制限又は条件」が記載されているということに気がつきませんでした。ですので当初の戦略を「制限又は条件」を再設定するというものにしました。今思えば、「制限又は条件」を消すわけもないのですが、イルカ漁について活動し始めたばかりの私にはそれがわかりませんでした。

以降、2022年に不完全ながら再設定した戦略を中心に記述しますのをご承知おきください。

第一節　目標

目標の立て方がわからないという人がいます。目標の立て方のコツは「適当」です。自分の思うまま、適当に目標と期限を設定します。

捕鯨に関する目標は、まだ立てていません。本書執筆中だったため、捕鯨に関しての情報収集がまだ十分に行えていなかったからです。この後リブスタッフと話し合い、どうするか決める予定です。

イルカ漁に関する目標は、2019年時点で「15年後にイルカ漁終息を成し遂げる」としました。現在2022年ですので12年後です。

水族館に関する目標は、当座イルカ漁に関する目標とリンクさせます。詳細は第二項に書きます。その上で、その時のリブの状況を見ながら再検討します。

これらの目標は適当に立てました。そもそも答えが分かりませんので、仮に立てざるを得ません。しかし、事業プロセスの情報収集と分析がしっかりしていればしているほど、この目標は適当(丁度良い、適切）になります。しっかりしていないと適当(いい加減)なものになります。

第二節　戦略

イルカ漁における戦略の一つは、「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の制限又は条件の確実な履行を求めることです。太地のイルカ追い込み漁では、イルカの赤ちゃん・子どもが殺されている事実があり、一方「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」には「２. 乳飲み稚

鯨又は稚鯨（乳飲み稚鯨を含む。）を伴う雌鯨類については、沖から地方へ群れを追い込んでくる過程において、出来うる限りの方法で追い込む群からの仕分け解放に努めること。」との制限又は条件があります。つまり、制限又は条件が守られていない状況、行政の監督が行き届いていないどころか、行政自身に守らせる気がないということであり、この矛盾を突くことができます。また、日本人の多くの人はイルカの赤ちゃん・子どもが殺されているということを知りません。動物の活動においてより人々の感情に訴えるのは、怪我・血・病気・暴力・殺害・苦痛・母と子の別れ・赤ちゃん・子どもなどです。つまり、イルカの赤ちゃん・子どもが殺されているという事実は、イルカ漁における現実の中で最も人々が感情を動かされ関心を持つ可能性があります。
この戦略は、産業側に対しては法令的な矛盾をつき、消費者側に対しては感情に訴えることができ、1つの事業で2つのターゲットに対して働きかけることができます。その際当然ながら水族館の実態も啓発しますので、3つのターゲットへのアプローチとすることができます。
水族館に関しては、イルカショーが収入のドル箱です。この収入源を閉じることで、水族館市場全体の縮小を狙うことが可能です。第一項 目標で、水族館の目標は当座イルカ漁に関する目標とリンクさせる、とした理由がこれです。

第三節　実行

戦略設計を経て、実行するメイン事業は「「鯨類追込網漁業許可方針の取扱要領」の制限又は条件に確実な強制力を持たせる事業」としました。サブ事業として、「イルカの赤ちゃん・子どもの殺害に関する啓発、署名等」としました。

次に2020年時点での陳情書提出について記述します。当日の陳情書提出はあっという間に終わりますが、事前準備には時間をかけました。
まず数ヶ月前からのSNSでの啓発、署名の立ち上げ、イルカに関するリーフレットの作成を行いました。

署名

『イルカの赤ちゃん・子ども・母親たちを守ろう！〜イルカ追い込み漁で捕獲殺害をしない規定を求めます〜』

［URL：署名：http://chng.it/z9QhxHWD6k］

署名_英語

Save baby, young, mother dolphins! ~ We request a provision on capture by drive hunting ~
［URL：Petition：http://chng.it/6mnLM4qPW6］

リーフレット

［URL：リーフレット：https://animal-liberator.net/animal-liberator/leaflet/］

次に陳情書、請願書の仕組みを調べ、陳情書の作成を行います。次に事業の効果の最大化を図るため、プレスリリースの準備（マスメディアのリスト作り、プレスリリース作り等）、などを行いました。プレスリリースはマスコミが興味を持つかどうかで、全て無駄に終わる可能性もありますし、高い効果を得られることもあります。この時は全て無駄に終わりました。しかしながら、何か事業を行う際は必ずやっておいたほうが良いと思います。
そして、2020年12月11日に最初の陳情書、
『和歌山県太地町における鯨類追込網漁業において、
「乳飲み稚いるか及び稚いるか（乳飲み稚いるかを含む。）を伴う雌いるか」
の捕獲を禁止する旨の制限又は条件の規定についての陳情』
を提出しました。

第四節　現状、そして未来へ

その後、2021年11月1日代表を清水に変わりました。現在は「動物解放のための総合サイト」制作、リブの組織やバックオフィスの再構築、同時に今後の事業についても全て評価、再検討などを行っています。

目黒が代表だった時代のリブを知っている方々からすれば、以前のように活発に活動していないように見えるかもしれません。しかし、リブの役割は動物解放の道を指し示すことであり、その時々で未来の動物解放のために最も重要な事業は何かを考え実行することです。活動や団体は新陳代謝するものだと考えています。新しい代表を迎えたら、リブの目的「動物解放」は引き継ぎつつも、その代表の方針に従います。
リブは「清水が代表のリブ」へと変化しています。ネットワークが変化し関わる人々が増え、事務の方法がブラッシュアップされ、投稿の表現が変わり、世間からの見え方も変わってきました。様々なことが整ってきたら以前のリブよりも大きく効果的な事業を行い始めると確信しています。私もそれを手伝いきます。

私はリブの未来を誰よりも楽しみにしています。
ぜひ、皆様もリブの未来を楽しみにしてください。
そして今後もリブにご支援ご協力をお願いいたします。

共にイルカ・クジラ解放、動物解放を実現しましょう。

最後に

人間は、クジラやイルカを殺すことも選べれば、助けることも選べます。

私たちは選ぶことができます。「選ぶ」という何気ない行為が、自分や関わる人の未来、社会の未来を決めます。「選ぶ」という何気ない行為が、動物を苦しめ殺害し、あるいは動物を助け自由にします。
「選ぶ」ということは自分の未来を自分で作ることです。「選ぶ」を意識的に、倫理的に行うことで、自分や他者や社会、そして動物を解放します。

私の好きな言葉に「私は地球を良くするために生まれてきた。」というものがあります。私は少しでも地球を良くすることに貢献する生き方を選びたいと思っています。

誰もが、
イルカやクジラを、助けるか殺すか、選ぶことができます。
動物を、助けるか殺すか、選ぶことができます。

選べるなら、助けたほうがいい。
その選択は、イルカやクジラや動物、そしてあなたも解放します。

筆者

目黒峰人（めぐろみねと）
動物解放活動家・アニマリスト・ヴィーガン。
2015年3月に映画「Earthlings」を観てヴィーガンに。2016年から活動を開始、2017年任意団体 Animal Liberatorを設立、2019年11月1日国際ヴィーガンデーにNPO法人 動物解放団体リブを設立。同日、政治団体 アニマリズム党を設立。現在、動物解放団体リブ理事、アニマリズム党代表。

動物解放団体リブ
〇〇〇〇
［URL：NPO法人 動物解放団体リブ：https://animal-liberator.net/animal-liberator/］



アニマリズム党
動物を搾取利用し続ける人間至上主義社会の変革を目指し、政治面から社会に働きかけるために設立した政治団体。アジア初の動物党です。
［URL：アニマリズム党：http://animalism.party］



参考文献

書籍

本書全体に参考にさせていただいた書籍は以下です。

粕谷俊雄. イルカ～小型鯨類の保全生物学～. 東京大学出版会, 2011.

伴野準一. イルカ漁は残酷か. 平凡社. 2015.

星川淳. 日本はなぜ世界で一番クジラを殺すのか. 幻冬舎, 2007.

三好晴之. イルカのくれた夢　ドルフィン・ベェイス イルカ物語. フジテレビ出版, 1997.

渡邊洋之. 捕鯨問題の歴史社会学. 東信堂, 2006.

関口雄祐. イルカを食べちゃダメですか？科学者の追い込み漁体験記. 光文社, 2010.

第一部　鯨族

第一章　神話～現代

第一節 神話

“Herodotus, The Histories A. D. Godley, Ed.”. Perseus Digital Library, http://www.perseus.tufts.edu/hopper/text?doc=Perseus:abo:tlg,0016,001:1:24, (参照 2021-10-15).

“Delphin”. Theoi Project. https://www.theoi.com/Ther/Delphin.html, (参照 2021-10-15).

“Hymn 7 to Dionysus Hugh G. Evelyn-White, Ed.”. Perseus Digital Library. https://www.perseus.tufts.edu/hopper/text?doc=Perseus%253Atext%253A1999.01.0138%253Ahymn%253D7, (参照 2021-10-15).

“DionysosWrath1”. Theoi Project. https://www.theoi.com/Olympios/DionysosWrath.html, (参照 2021-10-16).

“Oppian, Halieutica or Fishing”. Bill Thayer's Web Site. https://penelope.uchicago.edu/Thayer/E/Roman/Texts/Oppian/Halieutica/5*.html, (参照 2021-10-15).

海豚参詣. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/海豚参詣, (参照 2021-10-15).

第二節 壁画

Ridgway, Brunilde S. Dolphins and Dolphin-riders. 1970. https://repository.brynmawr.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1145&context=arch_pubs, (参照 2021-10-16).

第二章　奇跡の存在

第一節　鯨族共通

Gallo, Nina. “Best Swimming Animals In The World”. Aurora Expeditions. 2021-01-05. https://www.auroraexpeditions.com.au/blog/olympic-swimmers-of-the-animal-kingdom/, (参照 2021-05-27).

“魚の泳ぐ速度（遊泳速度）”. 国立国会図書館. 2020-07-06. https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400314.php, (参照 2021-06-08).

Lee, Jane J. “哺乳類最強の潜水能力？アカボウクジラ”. National Geographic. 2014-03-28. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/news/14/9077/, (参照 2021-05-27).

松岡由希子. “3時間42分にわたって潜水するクジラが確認される”. Newsweek. 2020-09-29. https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/09/342-1.php, (参照 2021-05-27).

“地球最大・シロナガスクジラの心拍数、最遅で2回／分と判明”. Reuters. 2019-11-27, https://jp.reuters.com/article/blue-whale-heartbeat-idJPKBN1Y10K9, (参照 2021-05-27).

“イルカ・クジラ入門 5 ～イルカ・クジラはどのくらい潜る？～”. えのすいトリーター日記. 2012-09-08. https://www.enosui.com/diaryentry.php?eid=02429, (参照 2021-06-08).

Encephalization quotient. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Encephalization_quotient, (参照 2021-06-06).

Brain-to-body mass ratio. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Brain%E2%80%93body_mass_ratio, (参照 2021-06-06).

脳化指数. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/脳化指数, (参照 2021-06-06).

Marino, Lori. Cetacean Brains: How Aquatic Are They?. 2007. https://anatomypubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/pdf/10.1002/ar.20530, (参照 2021-06-06).

新見嘉兵衛. 神経解剖学. 朝倉書店：指定教科書. p.8-9. http://www.actioforma.net/kokikawa/anatomy/academic/niimi8-9.html#:~:text=%E3%83%92%E3%83%88%E3%81%A7%E3%81%AF%E8%84%B3%E9%87%8D%E3%81%AF,%E3%81%AE1%2F28%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82, (参照 2021-06-06).

斎藤基一郎. ヒトの脳と高等哺乳動物脳の比較解剖学. 2010. https://www.jstage.jst.go.jp/article/uekusad/2/0/2_KJ00008211159/_pdf/-char/ja, (参照 2021-06-06).

“Social/ Solitary Ccetaceans”. Marine Connection. https://marineconnection.org/social-solitary-cetaceans/, (参照 2021-06-11).

Davidson, Helen. “ ‘Lonely’ dolphin making human friends, but experts ask swimmers to stay away”. The Gardian. 2014-01-07. https://www.theguardian.com/environment/2014/jan/07/lonely-dolphin-making-human-friends-but-experts-ask-swimmers-to-stay-away, (参照 2021-06-11).

Libbert, Lauren. “FLIPPING TERRIFYING Aggressive dolphin attacks are on the rise as 10-year-old is mauled on family holiday”. The SUN. 2019-11. https://www.thesun.co.uk/news/10495456/aggressive-dolphin-attacks-on-rise/, (参照 2021-06-09).

Broad, William J. “Evidence puts dolphins in new light as killers”. The New York Times. 2019-06-06. https://www.nytimes.com/1999/07/06/health/evidence-puts-dolphins-in-new-light-as-killers.html, (参照 2021-06-10).

Chami, Ralph.; Öztosun, Sena. et al. 自然界が示す気候変動の解決法 クジラ保護政策が温室効果ガスと地球温暖化の抑制につながる可能性. IMF. 2019-12. https://www.imf.org/external/japanese/pubs/ft/fandd/2019/12/pdf/Chami.pdf, (参照 2021-06-09).

鯨骨生物群集. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/鯨骨生物群集, (参照 2021-06-09).

第二節　イルカ

Gibbens, Sarah. “集団で「立ち寝」をする巨大クジラ、熟睡中？”. National Geographic. 2017-08-09. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/photo/17/080800185/, (参照 2021-06-01).

Keim, Brandon. “イルカの「個人名」を聞いてみよう”. WIRED. 2013-07-25. https://wired.jp/2013/07/25/dolphin-signature-whistles/, (参照 2021-05-05).

Haggarty, Elizabeth. “Sperm whales have names for each other”. TrontoStar. 2011-03-17. https://www.thestar.com/news/world/2011/03/17/sperm_whales_have_names_for_each_other.html, (参照 2021-05-05).

King, Stephanie. “Male dolphins use their individual ‘names’ to build a complex social network”. The Conversation. 2018-06-07. https://theconversation.com/male-dolphins-use-their-individual-names-to-build-a-complex-social-network-97780, (参照 2021-05-05).

Signature whistle, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Signature_whistle, (参照 2021-05-05).

秋山順子. ヒトとイルカのコミュニケーションに関する研究 : イルカの発する鳴音の解析. CiNii. 2005-03-12. https://ci.nii.ac.jp/naid/500000336170/, (参照 2021-05-16).

Lewis, Tanya. “Dolphins may be able to 'see' pregnant women's fetuses”. NBCNews. 2013-07-11. https://www.nbcnews.com/sciencemain/dolphins-may-be-able-see-pregnant-womens-fetuses-6c10604070, (参照 2021-05-05).

Carzon, Pamela.; Delfour, Fabienne. et al. Cross-genus adoptions in delphinids: One example with taxonomic discussion. Wiley Online Library. 2019-06-25. https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1111/eth.12916, (参照 2021-05-25).

Main, Douglas. “【動画】イルカが単独で「泥の輪漁」、珍しい映像”. National Geographic. 2018-07-30. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/b/072700209/, (参照 2021-06-10).

Morell, Virginia. “Why Dolphins Wear Sponges”. 2011-07-20. AAAS. https://www.sciencemag.org/news/2011/07/why-dolphins-wear-sponges, (参照 2021-06-10).

粕谷俊雄. 鯨類研究 50 年を顧みる. 2014. https://www.jstage.jst.go.jp/article/mammalianscience/54/2/54_279/_pdf, (参照 2021-04-01).

“利島ドルフィンプロジェクト紹介・ご挨拶”. 利島ドルフィンプロジェクト. http://toshimadolphinproject.web.fc2.com/introductionandgreeting.htm, (参照 2021-06-29).

“Oppian, Halieutica or Fishing”. Bill Thayer's Web Site. https://penelope.uchicago.edu/Thayer/E/Roman/Texts/Oppian/Halieutica/5*.html, (参照 2022-01-15).

染田屋竜太. “イルカと人が…「おとぎ話」のような漁法に危機　最後の4人の願い”. withnews, 2018-04-14, https://withnews.jp/article/f0180414000qq000000000000000W06s10101qq000017091A, (参照 2021-05-05).

カワゴンドウ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/カワゴンドウ, (参照 2021-05-05).

“漁師を手伝うイルカ　イルカ同士も強い仲間意識”. National Geographic. 2019-04-15. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/19/041200224/, (参照 2021-05-05).

新大久保駅乗客転落事故. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/新大久保駅乗客転落事故, (参照 2021-10-15).

“CHAP. 8.—HUMAN BEINGS WHO HAVE BEEN BELOVED BY DOLPHINS.”. Perseus Digital Library. http://www.perseus.tufts.edu/hopper/text?doc=Perseus%3Atext%3A1999.02.0137%3Abook%3D9%3Achapter%3D8, (参照 2021-10-17).

“Whether Land or Sea Animals are Cleverer”. Bill Thayer's Web Site. https://penelope.uchicago.edu/Thayer/E/Roman/Texts/Plutarch/Moralia/Intelligence_of_Animals*/C.html, (参照 2021-10-17).

Pelorus Jack. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Pelorus_Jack, (参照 2021-06-11).

Tião (dolphin). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Ti%C3%A3o_(dolphin), (参照 2021-06-11).

Opo (dolphin). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Opo_(dolphin), (参照 2021-06-11).

Moko (dolphin). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Moko_(dolphin), (参照 2021-06-11).

アルビノのバンドウイルカ「スピカ」. 太地町立くじらの博物館. 2015-03-10. http://www.kujirakan.jp/pdf/201503_spica.pdf, (参照 2021-06-10).

第三節 ヒゲクジラ

Baleen whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Baleen_whale, (参照 2021-06-13).

ヒゲクジラ類. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ヒゲクジラ類, (参照 2021-06-13).

クジラの歌. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/クジラの歌, (参照 2021-05-17).

Hannam, Peter. “ ’Sea of whales’: First sightings off Australia of huge humpback pods”. The Sydney Morning Herald. 2021-06-04. https://www.smh.com.au/environment/conservation/sea-of-whales-first-sightings-off-australia-of-huge-humpback-pods-20210602-p57xc9.html, (参照 2021-06-07).

Bittel, Jason. “Why Humpback Whales Protect Other Animals From Killer Whales”. 2016-08-08. https://www.nationalgeographic.com/animals/article/humpback-whales-save-animals-killer-whales-explained, (参照 2021-06-07).

Stokstad, Erik. “Why did a humpback whale just save this seal's life?”. Science. 2016-7-22. https://www.science.org/content/article/why-did-humpback-whale-just-save-seals-life, (参照 2021-06-07).
“THE STORY OF MIGALOO”. Pacific Whale Foundation. 2019-08-19. https://www.pacificwhale.org/blog/migaloo/, (参照 2021-06-06).
52ヘルツの鯨. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/52ヘルツの鯨, (参照 2021-06-10).

第三章　種ごとの暮らし

第一節　母船式捕鯨捕獲対象種

第一項　ミンククジラ

Minke whale. IWC. https://iwc.int/minke-whale, (参照 2021-12-03).
Minke Whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/minke-whale, (参照 2021-12-03).
Minke whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Minke_whale, (参照 2021-11-30).
ミンククジラ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ミンククジラ, (参照 2021-11-30).
宇仁義和. 1930-50 年代における日本の水族館での鯨類飼育. 博物館学雑誌 第40巻 第2号. 2015-04. https://nodaiweb.university.jp/muse/unisan/files/uni_2015_whalekeep_rfs.pdf, (参照 2021-12-02).
鈴木克美. 海・人・自然. 東海大学博物館研究報告. 2003-11-29. https://www.muse-tokai.jp/wp/wp-content/uploads/2017/09/bulletin_05.pdf, (参照 2021-12-02).
国立科学博物館. ミンククジラ. 海棲哺乳類ストランディングデータベース. https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/detail.php?id=106, (参照 2021-12-02).

第二項　ニタリクジラ

Bryde's Whale. IWC. https://iwc.int/brydes-whale, (参照 2021-12-03).
Bryde's Whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/brydes-whale, (参照 2021-12-03).
Bryde's whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Bryde%27s_whale, (参照 2021-12-03).
ニタリクジラ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ニタリクジラ, (参照 2021-12-03).
水産庁 水産研究・教育機構. ニタリクジラ 北西太平洋. 平成 30 年度国際漁業資源の現況. http://kokushi.fra.go.jp/H30/H30_52.pdf, (参照 2021-12-03).

第三項　イワシクジラ

Sai Whale. IWC. https://iwc.int/sei-whale, (参照 2022-02-17).

Sai Whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/sei-whale, (参照 2022-02-17).
Sei whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Sei_whale, (参照 2022-02-17).
イワシクジラ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/イワシクジラ, (参照 2022-02-17).
水産庁 水産研究・教育機構. イワシクジラ 北西太平洋. 令和 2 年度 国際漁業資源の現況. http://kokushi.fra.go.jp/R02/R02_56_SIW.pdf, (参照 2022-02-17).

第二節　基地式捕鯨捕獲対象種

第一項　ツチクジラ

Key areas for beaked whales worldwide. IWC. https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwjCuIbOhZn2AhXJ4GEKHcE5DjoQFnoECDAQAQ&url=https%3A%2F%2Farchive.iwc.int%2Fpages%2Fdownload.php%3Fref%3D258%26size%3D%26ext%3Dpdf%26k%3D%26alternative%3D1362%26usage%3D-1%26usagecomment%3D&usg=AOvVaw00flDWFm127BH0clfNzL3C, (参照 2022-02-25).
Baird's Beaked Whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/bairds-beaked-whale, (参照 2022-02-24).
Berardius. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Berardius, (参照 2022-02-24).

Beaked whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Beaked_whale, (参照 2022-02-25).
ツチクジラ属. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ツチクジラ属, (参照 2022-02-24).
アカボウクジラ科. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/アカボウクジラ科, (参照 2022-02-24).
水産庁 水産研究・教育機構. ツチクジラ 太平洋・日本海・オホーツク海. 令和 2 年度 国際漁業資源の現況. http://kokushi.fra.go.jp/R02/R02_51_BEW.pdf, (参照 2022-02-24).
薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会 乳肉水産食品部会. 妊婦への魚介類の摂食と水銀に関する注意事項. 厚生労働省. 2005-11-2 (2010-6-1日改訂). https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/iyaku/syoku-anzen/suigin/dl/index-a.pdf, (参照 2022-02-24).
水銀に関する水俣条約対応検討小委員会. 環境省. https://www.env.go.jp/council/05hoken/y0512-03b/参考資料②.pdf, (参照 2022-02-24).

第三節　イルカ突き棒漁捕獲対象種

第一項　イシイルカ・リクゼンイルカ

粕谷俊雄. イルカ 小型鯨類の保全生物学. 東京大学出版会, 2011, p.302
Dall's Porpoise. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/dalls-porpoise, (参照 2022-03-05).

Dall's porpoise. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Dall%27s_porpoise, (参照 2022-03-05).
イシイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/イシイルカ, (参照 2022-03-05).
水産庁・水産総合研究センター. イシイルカ　太平洋・日本海・オホーツク海. 令和 2 年度国際漁業資源の現況. http://kokushi.fra.go.jp/R02/R02_50_PDA.pdf, (参照 2022-03-05).

第四節　イルカ追い込み漁捕獲対象種

第一項　カマイルカ

Pacific White-Sided Dolphin. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/pacific-white-sided-dolphin, (参照 2022-03-07).
カマイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/カマイルカ, (参照 2022-03-07).
Pacific white-sided dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Pacific_white-sided_dolphin, (参照 2022-03-07).

第二項　スジイルカ

粕谷俊雄. 海棲哺乳類の生存に影響する人間活動. JWCS 通信 no.77. 2016. https://www.jwcs.org/data/1603_kasuya.pdf, (参照 2022-03-09).
Striped Dolphin. IWC. https://iwc.int/striped-dolphin, (参照 2022-03-09).
Striped Dolphin. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/striped-dolphin, (参照 2022-03-09).
スジイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/スジイルカ, (参照 2022-03-09).
Striped dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Striped_dolphin, (参照 2022-03-09).

第三項　マダライルカ

Spotted dolphin. IWC. https://iwc.int/spotted-dolphin, (参照 2022-03-10).
Pantropical Spotted Dolphin. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/pantropical-spotted-dolphin, (参照 2022-03-10).
マダライルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/マダライルカ, (参照 2022-03-10).
Pantropical spotted dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Pantropical_spotted_dolphin, (参照 2022-03-10).

第四項　シワハイルカ

Rough-toothed dolphin. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/rough-toothed-dolphin, (参照 2022-03-10).
Steno bredanensis - Rough-toothed Dolphin. Australian Government Department of Agriculture, Water and Environment. http://www.environment.gov.au/cgi-bin/sprat/public/publicspecies.pl?taxon_id=30, (参照 2022-03-10).

Rough-toothed dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Rough-toothed_dolphin, (参照 2022-03-10).
シワハイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/シワハイルカ, (参照 2022-03-11).

第五項　バンドウイルカ

粕谷俊雄. イルカ 小型鯨類の保全生物学. 東京大学出版会, 2011, pp.367, 図11.2 西部北太平洋とその周辺におけるハンドウイルカ属の分布の概要
Bottlenose dolphin. IWC. https://iwc.int/bottlenose-dolphin, (参照 2022-03-12).
Common Bottlenose Dolphin. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/common-bottlenose-dolphin, (参照 2022-03-12).
Bottlenose dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Bottlenose_dolphin, (参照 2022-03-12).
バンドウハイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ハンドウイルカ, (参照 2022-03-12).
Dell'Amore, Christine. “イルカの記憶力、20年前の仲間を認識”. National Geographic. 2013-08-07. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/news/14/8231/, (参照 2022-03-12).
COMMON BOTTLENOSE DOLPHIN. WWF. https://www.worldwildlife.org/species/common-bottlenose-dolphin, (参照 2022-03-12).

第六項　カズハゴンドウ

Melon-headed whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/melon-headed-whale, (参照 2022-03-13).
Melon-headed whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Melon-headed_whale, (参照 2022-03-13).
カズハゴンドウ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/カズハゴンドウ, (参照 2022-03-13).

第七項　ハナゴンドウ

Risso's dolphin. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/rissos-dolphin, (参照 2022-03-29).
Risso's dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Risso%27s_dolphin, (参照 2022-03-29).
ハナゴンドウ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ハナゴンドウ, (参照 2022-03-30).

第八項　オキゴンドウ

False Killer Whale. IWC. https://iwc.int/about-whales/whale-species/false-killer-whale, (参照 2022-03-12).
False Killer Whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/false-killer-whale, (参照 2022-03-31).

False Killer Whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/False_killer_whale, (参照 2022-03-31).
オキゴンドウ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/オキゴンドウ, (参照 2022-03-31).

第九項　コビレゴンドウ（マゴンドウ・タッパナガ）

Pilot Whale. IWC. https://iwc.int/about-whales/whale-species/pilot-whale, (参照 2022-04-01).
Short-finned pilot whale. NOAA Fisheries. https://www.fisheries.noaa.gov/species/short-finned-pilot-whale, (参照 2022-04-01).
Short-finned pilot whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Short-finned_pilot_whale, (参照 2022-04-01).
ゴンドウクジラ属. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ゴンドウクジラ属, (参照 2022-04-01).

第五節　その他 日本の水族館に監禁されている鯨族

第一項　スナメリ

粕谷俊雄. イルカ 小型鯨類の保全生物学. 東京大学出版会, 2011, p.194, 図8.2 日本近海におけるスナメリの分布
環境省. “スナメリ”. せとうちネット. https://www.env.go.jp/water/heisa/heisa_net/setouchiNet/seto/g1/g1chapter1/ikimono/sunameri.html, (参照 2022-04-09).
Finless porpoise. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Finless_porpoise, (参照 2022-04-05).
East Asian finless porpoise. Wikipedia. https://en.m.wikipedia.org/wiki/East_Asian_finless_porpoise, (参照 2022-04-09).
スナメリ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/スナメリ, (参照 2022-04-05).

第二項　イロワケイルカ

Commerson's Dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Commerson%27s_dolphin, (参照 2022-06-04).
イロワケイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/イロワケイルカ, (参照 2022-06-04).
“捕獲作戦その①”. ｻｸのｱﾆﾏﾙﾌﾘｰｸ～元飼育係の動物園･水族館紀行～. 2015-03-17. https://ameblo.jp/orcabeluga/entry-12002167592.html, (参照 2022-06-04).
“捕獲作戦その②”. ｻｸのｱﾆﾏﾙﾌﾘｰｸ～元飼育係の動物園･水族館紀行～. 2015-03-18. https://ameblo.jp/orcabeluga/entry-12002905305.html, (参照 2022-06-04).
「イロワケイルカ」がやってきた. 八景島シーパラダイス. https://www.nissan-kenpo.or.jp/kenpo/img/16.7.1hakkei-iruka.pdf, (参照 2022-06-04).

第三項　ネズミイルカ

Harbour porpoise. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Harbour_porpoise, (参照 2022-06-04).
ネズミイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ネズミイルカ, (参照 2022-06-04).

第四項　ユメゴンドウ

Pygmy killer whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Pygmy_killer_whale, (参照 2022-06-04).
ユメゴンドウ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ユメゴンドウ, (参照 2022-06-04).

第五項　ハセイルカ

Common dolphin. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Common_dolphin, (参照 2022-06-04).
Long-Beaked Common Dolphin. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/species/long-beaked-common-dolphin, (参照 2022-06-04).
マイルカ属. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/マイルカ属, (参照 2022-06-04).

第六項　ミナミハンドウイルカ

粕谷俊雄. イルカ 小型鯨類の保全生物学. 東京大学出版会, 2011, pp.367, 図11.2 西部北太平洋とその周辺におけるハンドウイルカ属の分布の概要
Indo-Pacific bottlenose dolphin. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/taxonomy/term/1000067176, (参照 2022-04-11).
Indo-Pacific bottlenose dolphin. WDC. https://au.whales.org/whales-dolphins/species-guide/indo-pacific-bottlenose-dolphin/, (参照 2022-04-11).
Indo-Pacific bottlenose dolphin, Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Indo-Pacific_bottlenose_dolphin, (参照 2022-04-11).
ミナミハンドウイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ミナミハンドウイルカ, (参照 2022-04-11).

第七項　ベルーガ

Beluga. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/species/beluga-whale, (参照 2022-05-08).
Beluga whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Beluga_whale, (参照 2022-05-08).
シロイルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/シロイルカ, (参照 2022-05-08).
Bosworth, Amanda. “BARNUM’S WHALES”. Perspectives on History, 2018-04-02. https://www.historians.org/publications-and-directories/perspectives-on-history/april-2018/barnums-whales-the-showman-and-the-forging-of-modern-animal-captivity, (参照 2022-05-08).
“Pictured: The amazing moment Mila the Beluga whale saved a stricken diver's life by pushing her to the surface”, Mail Online, 2009-06-29, https://www.dailymail.co.uk/news/article-1202941/Pictured-The-moment-Mila-brave-Beluga-whale-saved-stricken-divers-life-pushing-surface.html, (参照 2022-05-08).

Hvaldimir. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Hvaldimir, (参照 2022-05-09).
中山由美. “さよならコリン”. 朝日新聞デジタル. 2021-07-09. https://www.asahi.com/articles/ASP7841YJP77UTIL04Y.html, (参照 2022-05-08).

第六節　シャチ

水産庁 水産研究・教育機構. シャチ 北西太平洋. 平成 30 年度国際漁業資源の現況. 2019. http://kokushi.fra.go.jp/H30/H30_56.pdf, (参照 2022-06-11).
Killer Whale. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/species/killer-whale, (参照 2022-06-11).
Orca. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Orca, (参照 2022-06-11).
シャチ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/シャチ, (参照 2022-06-11).
“死んだ子どもに寄り添い続ける母親、シャチの窮状物語る カナダ”. CNN. 2018-07-30. https://www.cnn.co.jp/fringe/35123252.html, (参照 2022-06-11).
Orca attack. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Orca_attack, (参照 2022-06-11).
Golgowski, Nina. “世界最高齢のシャチ「グラニー」姿を消す すでに死んでいる？”. Huffpost. 2017-01-05. https://www.huffingtonpost.jp/2017/01/04/granny_n_13963506.html, (参照 2022-06-14).
Shamu. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Shamu, (参照 2022-05-10).
Keiko_(orca). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Keiko_(orca), (参照 2022-05-10).
Granny (orca). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Granny_(killer_whale), (参照 2022-06-14).
Tilikum (orca). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Tilikum_(orca), (参照 2022-05-10).
Saedyrasafnid. Killer Whale Wiki. https://killerwhales.fandom.com/wiki/Saedyrasafnid, (参照 2022-05-10).
Tilikum v. Sea World. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Tilikum_v._Sea_World, (参照 2022-05-10).
アドベンチャーワールド. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/アドベンチャーワールド, (参照 2022-05-12).
“シャチの「ナミ」５億円で譲渡／繁殖研究、名古屋へ”. 四国新聞社. 2010-03-02. http://www.shikoku-np.co.jp/national/life_topic/20100302000268.
“名古屋港水族館にシャチ／千葉から移送”. 四国新聞. 2011-12-15. http://www.shikoku-np.co.jp/national/%5Clife_topic/20111215000213.
オホーツク水族館. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/オホーツク水族館, (参照 2022-05-12).
“The Social Intelligence of Orcas and Communication – Orca Series II”. Orca Nation. 2011-05-13. https://orcanation.org/the-social-intelligence-of-orcas/, (参照 2022-05-12).
“シャチの飼育における事故と人工授精について”. わかとら. 2021-07-04, https://note.com/wakatora_orca/n/n8210992ad9e4, (参照 2022-05-12).

“シャチの「アース」を4億8000万円で購入へ”. 横井利明オフィシャルブログ(前名古屋市会議員). 2017-03-29. http://blog.livedoor.jp/minami758/archives/2361212.html, (参照 2022-05-12).
Hoyt, Erich. オルカ入門. 佐藤晴子訳. どうぶつ社, 1999-05-24
“太地シャチ捕獲事件”. IKAN. 1997-02-08. http://ika-net.jp/ja/ikan-activities/coastal-small-whales/80-taiji519970209, (参照 2022-05-12).
谷口一久.; 大出庸子. いつか、オルカ．株式会社アワーズ アドベンチャーワールド. 2007-08-10

第二部　人間

第一章　殺す人々

第二章　守る人々

第一節　ヒューマニズムとアニマリズム

第二節　ヒューマニズムの立場からの保護

レビ記 11. BibleGateway. https://www.biblegateway.com/passage/?search=レビ記%2011&version=JLB, (参照 2021-10-15).

第三節　アニマリズムの立場からの保護

第三章　国際組織と条約

第一節　IWC

The International Whaling Commission - IWC. https://iwc.int/en/.
国際捕鯨委員会. 外務省. https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/whale/iwc.html, (参照 2022-07-04).
International Whaling Commission. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/International_Whaling_Commission, (参照 2022-07-04).
国際捕鯨委員会. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/国際捕鯨委員会, (参照 2022-07-04).

第二節　IUCN

IUCN. https://www.iucn.org/.
IUCN日本委員会. http://www.iucn.jp/.
International Union for Conservation of Nature. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/International_Union_for_Conservation_of_Nature, (参照 2022-07-03).
国際自然保護連合. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/国際自然保護連合, (参照 2022-07-03).
IUCN Red List. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/IUCN_Red_List, (参照 2022-07-03).
レッドリスト. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/レッドリスト, (参照 2022-07-03).
“地球上に動物は全部で何種類いるの？”. NIKKEI STYLE. 2016-07-02, https://style.nikkei.com/article/DGXKZO04278760Q6A630C1W12001/, (参照 2022-07-03).

第三節　CITES：ワシントン条約

CITES. https://cites.org/eng.
ワシントン条約. 外務省. https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/jyoyaku/wasntn.html, (参照 2022-07-08).
ワシントン条約. 環境省. URL, (参照 2022-07-08).
CITES. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/CITES, (参照 2022-07-08).
絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約, (参照 2022-07-08).

第四節　CMS：ボン条約

Convention on the Conservation of Migratory Species of Wild Animals. https://www.cms.int/
Convention on the Conservation of Migratory Species of Wild Animals. Wikipedia. URL, (参照 2022-07-08).
移動性野生動物種の保全に関する条約. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/移動性野生動物種の保全に関する条約, (参照 2022-07-08).

第五節　その他

NAMMCO. https://nammco.no/.
North Atlantic Marine Mammal Commission. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/North_Atlantic_Marine_Mammal_Commission, (参照 2022-07-07).
北大西洋海産哺乳動物委員会. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/北大西洋海産哺乳動物委員会, (参照 2022-07-07).

生物の多様性に関する条約. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/生物の多様性に関する条約, (参照 2022-07-07).
海洋法に関する国際連合条約. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/海洋法に関する国際連合条約, (参照 2022-07-07).
生物多様性条約. 外務省. https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyo/jyoyaku/bio.html, (参照 2022-07-08).

第三部　イルカ・クジラと人間

第一章　直接被害

第一節　遺体食

第二節　イルカセラピー

第三項　害獣駆除

壱岐イルカ事件. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/壱岐イルカ事件, (参照 2022-06-13).
“レンダリング事業”. 日本ハム. http://www.nhg-seisan4.jp/cow/rendering.html, (参照 2022-06-13).

第四節　軍事利用

軍用イルカ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/軍用イルカ, (参照 2022-06-14).
Military marine mammal. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Military_marine_mammal, (参照 2022-06-14).
United States Navy Marine Mammal Program. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/United_States_Navy_Marine_Mammal_Program, (参照 2022-06-14).
“U.S. NAVY MARINE MAMMAL PROGRAM”. NIWC Pacific. https://www.niwcpacific.navy.mil/marine-mammal-program/, (参照 2022-06-14).
Naval Information Warfare Center Pacific. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Naval_Information_Warfare_Center_Pacific, (参照 2022-06-14).
“Gillilandarchive, Haley Cohen. A brief history of the US Navy’s dolphins”. MIT Technology Review. 2019-10-24. https://www.technologyreview.com/2019/10/24/306/dolphin-echolocation-us-navy-war/, (参照 2022-06-14).
Nilsen, Thomas. “Satellite images reveal Russian navy's secret Arctic marine mammal facility”. The Independent Barents Observer AS. 2019-05-27. https://thebarentsobserver.com/en/security/2019/05/here-northern-fleets-secret-marine-mammal-program, (参照 2022-06-14).

リトフキン,ドミトリー.; リトフキン,ニコライ. “ロシア海軍の海獣部隊”. Russia Beyond. 2017-05-29. https://jp.rbth.com/science/2017/05/29/771972, (参照 2022-06-14).

“The Whale of a Tale Of The Soviet Union’s Combat Beluga”. SOFREP. 2022-02-11. https://sofrep.com/news/the-whale-of-a-tale-of-the-soviet-unions-combat-beluga/, (参照 2022-06-21).

“これは動物虐待か、それとも最強の水中戦闘員か｜ロシア「海獣特殊部隊」潜入ルポ”. 2018-06-29. https://courrier.jp/news/archives/125987/, (参照 2022-06-22).

Sutton, H I. “Trained Russian Navy Dolphins are Protecting Black Sea Naval Base, Satellite Photos Show”. 2022-4-27. https://news.usni.org/2022/04/27/trained-russian-navy-dolphins-are-protecting-black-sea-naval-base-satellite-photos-show, (参照 2022-06-22).

Sutton, H I. “New Evidence Suggests North Korea has a Naval Marine Mammal Program” 2020-11-12, https://news.usni.org/2020/11/12/new-evidence-suggests-north-korea-has-a-naval-marine-mammal-program, (参照 2022-06-22).

第二章　間接被害

第一節　漁業

第一項　漁法

刺し網. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/刺し網, (参照 2022-06-22).

Gillnetting. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Gillnetting, (参照 2022-06-22).

Drift netting, Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Drift_netting, (参照 2022-06-22).

Bottom trawling. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Bottom_trawling, (参照 2022-06-22).

Fishing, Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Fishing, (参照 2022-06-22).

漁業センサス. 農林水産省. 2019-08-28, https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/gyocen/index.html

“The role of Recreational Fisheries in the sustainable management of marine resources”. FAO. 2017-02, https://www.fao.org/in-action/globefish/fishery-information/resource-detail/en/c/1013313/, (参照 2022-06-22).

Longline fishing. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Longline_fishing, (参照 2022-06-22).

Seine fishing. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Seine_fishing, (参照 2022-06-22).

Destructive fishing practices. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Destructive_fishing_practices, (参照 2022-06-22).

Environmental impact of fishing. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Environmental_impact_of_fishing, (参照 2022-06-22).

“Fisheries and Aquaculture in a Changing Climate”. FAO, https://www.fao.org/climatechange/17792-0d5738fda3c03582617e6008210ab1e3a.pdf, (参照 2022-06-22).

Dolphin-Safe. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/national/marine-mammal-protection/dolphin-safe, (参照 2022-06-24).

Dolphin safe label. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Dolphin_safe_label, (参照 2022-06-24).

Tuna-Dolphin GATT Case (I and II). Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Tuna-Dolphin_GATT_Case_(I_and_II), (参照 2022-06-22).

第二項　漁具

Ghost net. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Ghost_net, (参照 2022-06-22).

“Ghost nets hurting marine environment”. https://www.fao.org/news/story/en/item/19353/icode/, (参照 2022-06-24).

“Pacific Offshore Cetacean Take Reduction Plan”. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/national/marine-mammal-protection/pacific-offshore-cetacean-take-reduction-plan#:~:text=Overview-,The%20goal%20of%20the%20Pacific%20Offshore%20Cetacean%20Take%20Reduction%20Plan,shark%2Fswordfish%20drift%20gillnet%20fishery, (参照 2022-06-24).

Smith, Zak.; Gilroy, Margaretmary. et al. “Net Loss:The Killing of Marine Mammals in Foreign Fisheries”. NRDC. https://www.nrdc.org/sites/default/files/mammals-foreign-fisheries-report.pdf, (参照 2022-06-22).

第二節　海洋汚染

第一項　化学物質

Marine pollution. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Marine_pollution, (参照 2022-06-22).

海洋汚染. Wikipedia. 2022-06-22. https://ja.wikipedia.org/wiki/海洋汚染, (参照 2022-06-22).

功刀正行. 有害化学物質による地球規模での海洋汚染の現状と課題. 2002. https://www.jstage.jst.go.jp/article/safety/45/6/45_390/_pdf/-char/ja, (参照 2022-06-25).

生物濃縮. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/生物濃縮, (参照 2022-06-26).

第二項　オイル

第三項　プラスチック

【増え続ける海洋ごみ】マイクロプラスチックが人体に与える影響は？東京大学教授に問う. 日本財団. 2020-06-05. https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/44897, (参照 2022-06-26).

海のゴミ1.5億トン 増加止まらず. 日経新聞. 2018-04-12. https://www.nikkei.com/article/DGKKZO29256100R10C18A4TCP000/, (参照 2022-06-27).

第四項　オーシャンノイズ

“Our Oceans, Seas and Coasts”. EC. https://ec.europa.eu/environment/marine/good-environmental-status/descriptor-11/index_en.htm, (参照 2022-06-25).

Ocean Noise. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/national/science-data/ocean-noise, (参照 2022-06-25).

石田雅彦. 中国潜水艦の「天敵」音響測定艦はクジラにも脅威か. 2018-06-24. https://news.yahoo.co.jp/byline/ishidamasahiko/20180624-00086883, (参照 2022-12-23).

INTERNATIONAL OCEAN NOISE COALITION. 2018-05. http://oceannoisecoalition.org/ , (参照 2022-12-23).

JESSICA A. KNOBLAUCH. Navy Sonar Settlement Brings Historic Win for Whales. 2015-09-14. https://earthjustice.org/blog/2015-september/navy-sonar-settlement-brings-historic-win-for-whales, (参照 2022-12-23).

Elizabeth Fitt. Black Sea dolphin deaths prompt ecocide allegations against Russia. Mongabay, 2022-21-16. https://news.mongabay.com/2022/12/black-sea-dolphin-deaths-prompt-ecocide-allegations-against-russia/, (参照 2022-12-23).

第五項　身体汚染

OCEAN POLLUTION. WDC. https://uk.whales.org/our-4-goals/create-healthy-seas/ocean-pollution/, (参照 2022-06-27).

田辺 信介. 環境ホルモンに蝕まれるイルカたち. http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/bioenvmed/education/kouza/010617/tanabe.html, (参照 2021-07-30).

第四節　その他の被害

第一項　気候危機

Sara Tabin. “Mysterious Dolphin Deaths Linked To Climate Change In New Study”. Forbes. 2021-01-02 .https://www.forbes.com/sites/saratabin/2021/01/02/mysterious-dolphin-deaths-linked-to-climate-change-in-new-study/?sh=70cd391d65ba, (参照 2022-06-27).

“The Impact of Climate Change on Dolphins”. Giving Compass. https://givingcompass.org/article/climate-change-impact-on-dolphins, (参照 2022-06-27).

第二項　船との衝突（Ship Strikes、Vessel Strikes）

“Ship Strikes: collisions between whales and vessels”. IWC. https://iwc.int/management-and-conservation/ship-strikes, (参照 2022-06-25).

Vessel Strikes. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/national/vessel-strikes, (参照 2022-06-25).

Understanding Vessel Strikes. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/insight/understanding-vessel-strikes, (参照 2022-06-25).

“船舶とクジラの衝突を防ぐには、海に“スクールゾーン”をつくればいい：米国発の新しい保護システムの実力”. WIRED. 2020-10-07. https://wired.jp/2020/10/07/want-to-save-the-whales-eavesdrop-on-their-calls/, (参照 2022-06-25).

第四項　座礁

鯨類座礁対処マニュアル. 水産庁. 2012. https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/pdf/manyuaru2012kaisei.pdf, (参照 2022-06-27).

村田敏雄. マッコウクジラ集団座礁の顛末記. Ocean Newsletter. 2002-05-05. https://www.spf.org/opri/newsletter/42_3.html, (参照 2022-06-24).

Cetacean stranding. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Cetacean_stranding, (参照 2022-06-27).

座礁クジラ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/座礁鯨, (参照 2022-06-27).

第四部　捕鯨

第一章　共通

第一節　捕鯨の種類

日本の捕鯨. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/日本の捕鯨, (参照 2022-07-17).

Aboriginal Subsistence Whaling, IWC, https://iwc.int/management-and-conservation/whaling/aboriginal, (参照 2023-01-12).

Aboriginal whaling, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Aboriginal_whaling, (参照 2023-01-12).

Whaling in Canada, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Whaling_in_Canada, (参照 2023-01-12).

Aboriginal Subsistence Whaling, AWI, https://awionline.org/content/subsistence-whaling#:~:text=The%20International%20Whaling%20Commission%20(IWC,people%20to%20satisfy%20subsistence%20needs., (参照 2023-01-13).

第二節　年表

Whaling. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Whaling, (参照 2021-06-17).

捕鯨. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/捕鯨, (参照 2021-06-18).

捕鯨の歴史. 一般社団法人 日本捕鯨協会. https://www.whaling.jp/history.html, (参照 2021-06-18).

小松正之. 鯨類等の国際海洋水産資源の持続的利用 に向けた日本の国際戦略と展望. 2004. https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/record/2825/file_preview/K-215982-1.pdf, (参照 2021-06-26).

沿革. MARUHA NICHIRO. https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/outline/data/history/, (参照 2022-08-27).

マルハ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/マルハ, (参照 2022-08-27).

ニチロ. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/ニチロ, (参照 2022-08-27).

沿革. nissui. https://www.nissui.co.jp/corporate/history/02.html, (参照 2022-08-27).

日本水産. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/日本水産, (参照 2022-08-27).

第三図南丸. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/第三図南丸, (参照 2022-08-27).

歴史. キョクヨー. https://www.kyokuyo.co.jp/company/point/history/, (参照 2022-08-27).

極洋. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/極洋, (参照 2022-08-27).

第三節　MAP

「多様性」が切り拓く捕鯨の未来. 農林水産省. https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1607/spe1_04.html, (参照 2022-06-05).

ノルウェー

Helen Linea Aall. Whaling in Norway. 2019. https://theanimalfund.net/wp-content/uploads/2019/09/Whaling-in-Norway_helen.pdf.
ノルウェー半年間の商業捕鯨開始／捕獲枠を前年より拡大. 四国新聞社. 2017-04-02. https://www.shikoku-np.co.jp/national/international/20170402000177.

アイスランド

The Government of Iceland’s new whaling quotas are a major step in the wrong direction. EIA. 2019-02-25. https://eia-international.org/news/government-icelands-new-whaling-quotas-major-step-wrong-direction/, (参照 2022-06-05).

先住民生存捕鯨

Catch Limits for Aboriginal Subsistence Whaling. IWC. https://iwc.int/html_76, (参照 2022-06-04).
Catches Taken: ASW. IWC. https://iwc.int/table_aboriginal, (参照 2022-06-05).
座談会 鯨捕りと漂流民(2) ペリー来航前夜. Web版有鄰. 2004-12-10. https://www.yurindo.co.jp/static/yurin/back/yurin_445/yurin2.html, (参照 2021-06-20).

第四節　官庁・法令

第二章　母船式捕鯨

Organisational Chart - June 2021. IWC. https://archive.iwc.int/pages/view.php?ref=6372&k=, (参照 2021-08-07).
所有船舶. 共同船舶. http://www.kyodo-senpaku.co.jp/images/corporate/vessels.pdf, (参照 2021-06-27).
日新丸. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/日新丸, (参照 2021-06-27).
第二勇新丸. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/第二勇新丸, (参照 2021-06-27).
海技研ニュース. 海上技術安全研究所. 2007. https://www.nmri.go.jp/archives/newsletter/pdf/2007winter.pdf, (参照 2021-06-27).
建造船紹介 - 調査兼取締船. 内海造船株式会社. https://www.naikaizosen.co.jp/shiplist/research_patrol_ship/, (参照 2021-06-27).
日新丸＆勇新丸潜入レポート前編. くじらタウン. 2020-02-03. https://www.kujira-town.jp/news/20200203_20200203/, (参照 2021-06-27).
Peter Hartcher. “Japan's fading appetite for a fight”. The Sydney Morning Herald. 2008-11-21. https://www.smh.com.au/national/japans-fading-appetite-for-a-fight-20081121-gdt3nl.html, (参照 2021-06-27).

下関とくじらの関わり. 下関市公式観光サイト. https://shimonoseki.travel/story/kujira/index.html, (参照 2022-08-05).

第三章　基地式捕鯨

水産庁 水産研究・教育機構. 小型鯨類の漁業と資源調査（総説）. 令和2年度 国際漁業資源の現況. https://kokushi.fra.go.jp/R02/R02_49_whalesS-R.pdf

第四章　混獲

鯨類の座礁・混獲. 水産庁.https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/bycatch.html, (参照 2022-06-24).
鯨類（いるか等小型鯨類を含む）の捕獲混獲等の取扱いQ＆A. 水産庁. https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/w_faq/konkaku_faq.html, (参照 2022-06-24).
日本沿岸希少種ミンククジラ混獲の実態. IKA-Net. 2010-06-17. http://ika-net.jp/ja/component/content/article/16-japanese/activity/whaling/12-minke-bycatch-at-jp, (参照 2022-06-24).
Jay Barlow, Grant A. Cameron, 「FIELD EXPERIMENTS SHOW THAT ACOUSTIC PINGERS REDUCE MARINE MAMMAL BYCATCH IN THE CALIFORNIA DRIFT GILL NET FISHERY」, UCSDDigitalCommons@University of Nebraska, https://digitalcommons.unl.edu/usdeptcommercepub/236/, (参照 2022-06-24).

第五章　調査捕鯨

捕鯨をめぐる情勢. 水産庁. 2016-02. https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/pdf/160205whaling_japanese.pdf, (参照 2022-07-07).
南極海鯨類捕獲調査(JARPA)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JARPAgaiyou.html, (参照 2022-07-07).
第二期南極海鯨類捕獲調査(JARPAII)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JARPAIIgaiyou.html, (参照 2022-07-07).
新南極海鯨類科学調査（NEWREP-A）の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/NEWREP-Agaiyou.html, (参照 2022-07-07).
北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPN)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JARPNgaiyou.html, (参照 2022-07-07).
第二期北西太平洋鯨類捕獲調査(JARPNII)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JARPNIIgaiyou.html, (参照 2022-07-07).

新北西太平洋鯨類科学調査計画(NEWREP-NP)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/NEWREP-NPgaiyou.html, (参照 2022-07-07).
南大洋鯨類生態系調査(SOWER)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/SOWERgaiyou.html, (参照 2022-07-07).
IWC/日本共同北太平洋鯨類目視調査(POWER)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/POWERgaiyou.html, (参照 2022-07-07).
南極海鯨類資源調査(JASS-A)の概要. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JASS-Agaiyou.html, (参照 2022-07-07).
JARPA/JARPAIIからどんな結果が得られている？. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JARPASeika.html, (参照 2022-07-07).
JARPN/JARPNIIからどんな結果が得られている？. 日本鯨類研究所. https://www.icrwhale.org/JARPNSeika.html, (参照 2022-07-07).
鯨類捕獲調査現状について. 水産庁. 2011-05. https://www.jfa.maff.go.jp/j/study/enyou/pdf/shiryo2_4.pdf, (参照 2022-07-07).

第六章　海賊捕鯨

原剛. ザ・クジラ. 株式会社 文眞堂. 1983
Judith Wouters. Japan and the IWC: Investigating Japan’s Whaling Policy Objectives. Katholieke Universiteit Leuven, 2008-2009, p.69. https://www.scriptiebank.be/sites/default/files/e4c466ef30d18f4c25bfeaeb883f2058.pdf.
Anti-whaling. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Anti-whaling, (参照 2022-08-22).
シーシェパード. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/シーシェパード, (参照 2022-08-22).
Sinking the Sierra(Facebook). Sea Shepherd. 2019-07-17. https://www.facebook.com/seashepherdglobal/photos/a.130474138258/10157479558638259/?type=3&theater, (参照 2022-08-22).

第七章　捕鯨問題

第一節　基本となる考え方

Hartcher, Peter. “Japan's fading appetite for a fight”. Sydney Morning Herald, 2008-11-21. https://www.smh.com.au/national/japans-fading-appetite-for-a-fight-20081121-gdt3nl.html, (参照 2022-07-17).
捕鯨問題. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/捕鯨問題, (参照 2022-07-17).

第二節　クジラの被害

Minke whale. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Minke_whale, (参照 2022-09-30).

“絶滅危惧種タイセイヨウセミクジラ、過去２０年近くで最少の個体数に”. CNN, 2021-10-28. https://www.cnn.co.jp/fringe/35178645.html, (参照 2022-10-03).
“Humpback Whales Are Doing Surprisingly Well After a Close Brush With Extinction”. Science alert, 2019-11-20. https://www.sciencealert.com/humpback-whales-are-doing-surprisingly-well-after-a-close-brush-with-extinction, (参照 2022-10-03).
“CITES Censures Japan for Trading in Whale Products from an Endangered Species”. Animal Welfare Institute, 2018-10-02. https://awionline.org/press-releases/cites-censures-japan-trading-whale-products-endangered-species, (参照 2022-10-07).
ボン条約. IUCN. http://www.iucn.jp/protection/species/cms.html, (参照 2022-10-07).
Extinction. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Extinction, (参照 2022-06-27).
絶滅. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/絶滅, (参照 2022-06-27).
安藤健二. 人類が滅ぼした絶滅動物【画像20選】ドードーからニホンオオカミまで. HUFFPOST. 2014-06-12. https://www.huffingtonpost.jp/2014/06/12/extinct-animals_n_5486880.html, (参照 2022-06-29).
Status of the World's Cetaceans. IUCN – SSC CETACEAN SPECIALIST GROUP. https://iucn-csg.org/status-of-the-worlds-cetaceans/, (参照 2022-06-27).

第三節　捕鯨が起こしている問題

真田康弘. クジラの陰謀. イルカ&クジラ・アクション・ネットワーク, 2016-05-03. http://ika-net.jp/ja/ikan-activities/whaling/324-the-whale-plot-j, (参照 2022-09-15).
大隈清治. “日本海軍と鯨”. 鯨研通信第370号, 1987-9. http://www.icrwhale.org/pdf/geiken370.pdf.
“10年で“税金”約80億円を投入！世界的批判を浴びても日本が「調査捕鯨」を続ける理由とは・・・”. 宝島, 2014-11-07. http://blog.takarajima.tkj.jp/archives/1934535.html
国際捕鯨委員会. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/国際捕鯨委員会, (参照 2022-11-12).
山際大志郎. “7月13日（木）コートジボアール”. まっしぐら.com, 2006-07-13. https://blog.goo.ne.jp/yamagiwa-daishiro_001/e/790a6bc5fb178bd2dd36812b3883c692, (参照 2022-11-12).
“日本水産(株)『日本水産50年史』(1961.05)”. 渋沢社史データベース. https://shashi.shibusawa.or.jp/details_nenpyo.php?sid=30, (参照 2022-11-12).
石井淳. 解体新書「捕鯨論争」. 新評論, 2011.
近藤勲. 日本沿岸捕鯨の興亡. 山洋社, 2001.
グリーンピース宅配便窃盗事件. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/グリーンピース宅配便窃盗事件, (参照 2022-08-23).
グリーンピース告発レポート 奪われた鯨肉と信頼 「調査捕鯨母船・日新丸」での鯨肉横領行為の全貌. グリーンピース. https://www.greenpeace.org/static/planet4-japan-stateless/2018/12/380b274d-380b274d-t2.pdf, (参照 2022-08-23).

第四節　調査捕鯨が起こしている問題

Whaling in the Antarctic (Australia v. Japan: New Zealand intervening). International Court of Justice. https://www.icj-cij.org/en/case/148, (参照 2022-08-17).

南極海捕鯨事件. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/南極海捕鯨事件, (参照 2022-08-17).

第五節　経済

捕鯨対策. JUDGIT. https://judgit.net/projects/4696, (参照 2022-08-17).

一般財団法人日本鯨類研究所. JUDGIT. https://judgit.net/payees/2010005003623, (参照 2022-08-17).

“捕鯨再開で日本がIWC加盟国を買収か、英紙”. AFP, 2010-06-14. https://www.afpbb.com/articles/-/2735790, (参照 2022-08-17).

佐久間淳子. “供給が半減しても在庫が増加し続けるクジラの肉、いったいどうするの？”. 論座, 2022-05-17. https://webronza.asahi.com/photo/photo.html?photo=/S2010/upload/2022050100003_5.jpg, (参照 2022-08-17).

CSR Magazine Archives, 2010-11. https://www.csr-magazine.com/archives/repo_f/dip01_03.html, (参照 2022-08-17).

第六節　利権

第一項　政

都道府県会議員. 都道府県市区町村. https://uub.jp/pdr/p/kengikai.html, (参照 2021-08-05).

地方議会について（関係資料集①）, 資料2－1 市町村議会の現状(参考資料). 総務省. https://www.soumu.go.jp/main_content/000671182.pdf, (参照 2021-08-05)

森川 純. “日本の国際捕鯨委員会(IWC) からの脱退と 商業捕鯨の再開に至る政治外交史的考察ー「自由民主党捕鯨議員連盟」の 1985 年 5 月の結成以来の活動に焦点を置いて一(前編)”. JWCS 通信, no.87, 2019. https://www.jwcs.org/data/1907_morikawa.pdf, (参照 2021-08-03).

森川 純. “日本の国際捕鯨委員会(IWC) からの脱退と 商業捕鯨の再開に至る政治外交史的考察(中編)—安倍晋三と自民党捕鯨政策の” 捕鯨議連化” —”. JWCS 通信, no.89, 2019. https://www.jwcs.org/data/2003_morikawa.pdf.

森川 純. “日本の国際捕鯨委員会(IWC) からの脱退と 商業捕鯨の再開に至る政治外交史的考察~ 非妥協的・対決主義的な捕鯨再開政策とその逆火的結末 ~(後編)”. JWCS 通信, no.90, 2020. https://www.jwcs.org/data/2007_morikawa.pdf.

“自民党水族館応援議連が設立、基本法制定など活動へ”. 日刊水産経済新聞, 2018-07-13. https://www.suikei.co.jp/自民党水族館応援議連が設立, (参照 2021-08-03).

“捕鯨再開へ旧民主党系議連発足、会長に小川勝也氏”. 日刊水産経済新聞, 2018-04-20. https://www.suikei.co.jp/捕鯨再開へ旧民主党系議連発足, (参照 2021-08-03).

捕鯨 どう考える？. しんぶん赤旗, 2008-01-31. https://www.jcp.or.jp/akahata/aik07/2008-01-31/ftp20080131faq12_01_0.html, (参照 2021-08-03).
“商業捕鯨再開へ結束、ＩＷＣに向け捕鯨と食文化守る会”. 日刊水産経済新聞, 2018-06-11. http://www.suikei.co.jp/商業捕鯨再開へ結束, (参照 2021-08-03).
門脇功樹. “ “機能不全”IWC脱退で「二階幹事長は神様」 “伝統の捕鯨守る”高揚感の一方で説明の必要も”. FNNプライムオンライン, 2018-12-27. https://www.fnn.jp/articles/-/3781, (参照 2021-08-03).

第二項　官

水産庁（組織）. https://www.jfa.maff.go.jp/j/org/outline/hontyo.html, (参照 2021-08-05).
森川 純. “日本の国際捕鯨委員会(IWC) からの脱退と 商業捕鯨の再開に至る政治外交史的考察(続編)~ 途上国世界から捕鯨容認国をリクルートする日本政府の多数派工作の目標・背景・方法・成果と苦き結末 ~”. JWCS 通信, no.92, 2021. https://www.jwcs.org/data/2103_morikawa.pdf, (参照 2021-08-03).
佐々木正明. “水産庁ＶＳ外務省、捕鯨めぐり攻防　最後は政治決着”. 産経新聞, 2018-12-26. https://www.sankei.com/article/20181226-COFJTTR7WBLABAMJSNJTATHSOE/, (参照 2021-08-04).
捕鯨をめぐる情勢. 水産庁, 2021-01. https://www.jfa.maff.go.jp/j/whale/attach/pdf/index-60.pdf, (参照 2021-08-07).

第八章　将来

建造予定の新母船について. 共同船舶株式会社. http://www.kyodo-senpaku.co.jp/new-mothership.html, (参照 2022-08-16).

第五部　イルカ漁

第一章　共通

Dolphin drive hunting. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Dolphin_drive_hunting, (参照 2022-06-05).
イルカ追い込み漁. Wikipedia. https://ja.wikipedia.org/wiki/イルカ追い込み漁, (参照 2022-06-05).
Whaling in the Faroe Islands. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Whaling_in_the_Faroe_Islands, (参照 2022-06-05).

Instruction manual on Pilot whaling. NORTH ATLANTIC MARINE MAMMAL COMMISSION, 2016-10. https://nammco.no/wp-content/uploads/2016/10/manual-on-pilot-whaling-english-version.pdf, (参照 2022-06-05).

第二章　イルカ突き棒漁

「5000年の記憶」編集委員会 編. 5000年の記憶 名護市民の歴史と文化. 名護市, 2000.7. https://iss.ndl.go.jp/books/R100000002-I000008018771-00.
名護博物館. ピトゥと名護人〜沖縄県名護のイルカ漁〜. 名護博物館, 1994.
与儀武秀, “ヒートゥ漁, 大きな短刀に銛･･･道具持参し、住民総出の追い込み漁”. 沖縄タイムス, 2017-07-20. https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/115898.

第三章　イルカ追い込み漁

中村羊一郎. 沖縄県名護湾におけるイルカ追い込み漁の歴史と民俗. 2008-10-08. https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&ved=2ahUKEwifh7rF8L36AhXihMYKHXVVCMcQFnoECA0QAQ&url=https%3A%2F%2Fshizusan.repo.nii.ac.jp%2F%3Faction%3Drepository_action_common_download%26item_id%3D231%26item_no%3D1%26attribute_id%3D21%26file_no%3D1&usg=AOvVaw2RyTNjLsIFVg6L4YlyCJSC.
和歌山の水産令和2年. 和歌山県. https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071000/wasuisan/top_d/fil/r2wakayamanosuisan_all.pdf.
Vail, Courtney S.; Reiss, Diana. Brakes, Philippa. Butterworth, Andrew. “Potential Welfare Impacts of Chase and Capture of Small Cetaceans during Drive Hunts in Japan”. Journal of Applied Animal Welfare Science 23(8):1-16 , 2019-02. https://www.researchgate.net/publication/331361645_Potential_Welfare_Impacts_of_Chase_and_Capture_of_Small_Cetaceans_during_Drive_Hunts_in_Japan.

第四章　種別・県別：捕獲数／捕獲枠

第五章　イルカ漁問題

韓国はイルカ輸出国？, ⓒ 中央日報/中央日報日本語版, 2015-11-08, https://japanese.joins.com/JArticle/208075, (参照 2022-12-20).
鈴木正嗣. 捕獲性筋疾患(capture myopathy)に関する総説. 哺乳類科学 39(1):1-8, 1999. https://www.jstage.jst.go.jp/article/mammalianscience/39/1/39_1_1/_pdf.

第六章　将来

第六部　水族館

第一章　水族館

P. T. Barnum. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/P._T._Barnum, (参照 2022-09-13).
Bosworth, Amanda. BARNUM'S WHALES. American Historical Association, 2018-04-02. https://www.historians.org/publications-and-directories/perspectives-on-history/april-2018/barnums-whales-the-showman-and-the-forging-of-modern-animal-captivity, (参照 2022-09-13).
Mountain, Michael. How the Beluga Business Began. The Whale Sanctuary Project, 2017-06-06. https://whalesanctuaryproject.org/beluga-business-began/, (参照 2022-09-13).

第二章　イルカ

第三節　イルカの入手

和歌山太地町、来春にも大規模イルカ繁殖研究へ…国際的批判の「追い込み漁」依存度減らす, 産経新聞, 2016-09-07, https://www.sankei.com/article/20160907-HJOYGYUM6NJ75KDSKIHPPTOMQU/, (参照 2022-12-22).

第三章　水族館問題

吉岡基. イルカの人工受精. https://www.jstage.jst.go.jp/article/kagakutoseibutsu1962/33/12/33_12_814/_pdf.
日本動物園水族館年報（平成30年度）. 公益社団法人 日本動物園水族館協会, 2019-07-10.
日本動物園水族館年報（令和元年度）. 公益社団法人 日本動物園水族館協会, 2020-07-01.
日本動物園水族館年報（令和2年度）. 公益社団法人 日本動物園水族館協会, 2021-08-11.
名古屋シャチ裁判の判決. IKA-net, 2003-03-08. http://ika-net.jp/ja/ikan-activities/whaling/25-japanese/events/75-nagoyajudgment20030308, (参照 2022-09-13).

第四章　将来

第七部 これまでの活動

第一章　活動の歴史

Anti-whaling. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Anti-whaling, (参照 2022-10-05).

1986 Hvalur sinkings. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/1986_Hvalur_sinkings, (参照 2022-10-05).
Rod Coronado. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Rod_Coronado, (参照 2022-10-05).
鯨類捕獲調査改革推進集中プロジェクト改革計画書. 財団法人日本鯨類研究所. http://www.fpo.jf-net.ne.jp/gyoumu/hojyojigyo/01kozo/nintei_file/H241002_kujira.pdf, (参照 2022-10-05).
“The History of Sea Shepherd Conservation Society and Whaling”. Sea Shepherd Conservation Society. https://web.archive.org/web/20140423054804/http://www.seashepherd.org/whales/sea-shepherd-history.html, (参照 2022-10-05).

第二章　世界

Simmonds, Mark. The History of Whale and Dolphin Rescue in the UK. http://www.eurocbc.org/MARC_UK_rescue.pdf

第三章　日本の活動

第四章　成果

第一節　捕鯨

“シロナガスクジラの数が19世紀の水準に回復、米加州沖で”. ロイター, 2014-09-08. https://www.reuters.com/article/blue-whale-idJPKBN0H30E320140908, (参照 2022-10-02).

第二節　イルカ漁

利島ドルフィンプロジェクト紹介・ご挨拶. 利島ドルフィンプロジェクト. http://toshimadolphinproject.web.fc2.com/introductionandgreeting.htm, (参照 2022-10-06).
Covarrubias, Jennifer Gonzalez.; Thomet, Laurent. “生息数60頭、世界最小のネズミイルカ保護で当局苦慮 メキシコ”. AFPB, 2016-05-17. https://www.afpbb.com/articles/-/3087371, (参照 2022-10-06).
SAVING THE VAQUITA PORPOISE. Sea Shepherd. https://seashepherd.org/milagro/, (参照 2022-10-06).

第三節　水族館

Sheridan, Kerry. 米シーワールド、シャチの繁殖中止に 飼育環境への批判受け. AFPBB, 2016-03-18. https://www.afpbb.com/articles/-/3080819, (参照 2022-10-07).
SeaWorld. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/SeaWorld, (参照 2022-10-06).

Schrader, Adam. “SeaWorld trainers will no longer ride dolphins at theme parks”. New York Post, 2020-02-07. https://nypost.com/2020/02/07/seaworld-trainers-will-no-longer-ride-dolphins-at-theme-parks/?fbclid=IwAR0TA4vWHUO3kkCZFQHfKDHJ_bIc8RbHNfqospaBwghWiz8_uW0EOgDvFkU, (参照 2022-10-07).

第四節　解放

READAPTING CAPTIVE DOLPHINS, Dolphin Project, https://web.archive.org/web/20190902025943/https://www.dolphinproject.com/resources/about-dolphins/releasing-captive-dolphins/readaption-vs-release/, (参照 2022-12-20).

Richard O’Barry, PROTOCOL FOR RELEASING CAPTIVE DOLPHINS, https://www.dolphinproject.com/campaigns/dolphin-sanctuary-project/protocol-for-releasing-captive-dolphins/, (参照 2022-12-20).

Toorn, J.D. van der. Cetacean releases, 1999-2001. https://rosmarus.com/Releases/Rel_2.htm, (参照 2022-10-07).

THE SUGARLOAF DOLPHIN RELEASES. Marine Animal Welfare. http://marineanimalwelfare.blogspot.com/p/blog-page_19.html, (参照 2022-10-07).

Zimmermann, Tim. “テーマパークのイルカ2頭を放流へ、韓国”. ナショナル ジオグラフィック, 三枝小夜子訳, 2015-05-22. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/a/052100004/, (参照 2022-10-07).

RELEASE CASE: SOUTH KOREA. Dolphin Project. https://www.dolphinproject.com/campaigns/dolphin-sanctuary-project/readaption-vs-release/release-case-south-korea/, (参照 2022-10-07).

Bressa, Rudi. “Sampal, the dolphin that lived in captivity, is now free and has a calf”. LIFEGATE, 2016-04-28. https://www.lifegate.com/sampal-dolphin-captivity-calf, (参照 2022-10-07).

Ri, Park Hye. “Last captive dolphin Bibongi to be released to the wild”. KOREA.net, 2022-08-04. https://www.korea.net/NewsFocus/Society/view?articleId=219013, (参照 2022-10-07).

Hyun-woo, Nam. “Dolphin 'Jedol' freed to ocean”. The Korea times, 2013-07-18. https://www.koreatimes.co.kr/www/news/nation/2013/07/116_139475.html, (参照 2022-10-07).

JiAe, Sohn. “Dolphin pair ready to go home”. KOREA.net, 2015-06-16. https://www.korea.net/NewsFocus/Society/view?articleId=128105, (参照 2022-10-07).

Southcott, Darren. “Jeju dolphins all set for freedom”. The Jeju Weekly, 2015-06-10. http://www.jejuweekly.net/news/articleView.html?idxno=4792, (参照 2022-10-07).

“ロシア極東の「イルカ監獄」97頭の解放が完了”. National Geographic, 2019.11.11. https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/19/062500369/, (参照 2022-10-07).

MISHA & TOM. Born Free. https://www.bornfree.org.uk/articles/misha-tom, (参照 2022-10-07).

第五節　サンクチュアリ

Free at Last!. Dolphin Project, 2022-09-03. https://www.dolphinproject.com/blog/free-at-last/.
Lori Marino, The Whale Sanctuary Project, https://whalesanctuaryproject.org/people/lori-marino/.

第六節　法律・権利

1972　アメリカ　海産哺乳類保護法

What is the Marine Mammal Protection Act?. NOAA. https://www.fisheries.noaa.gov/node/1211, (参照 2022-07-07).

Marine Mammal Protection Act. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Marine_Mammal_Protection_Act, (参照 2022-07-07).

1979 アメリカ　パックウッド・マグナソン法

"Overview of Laws and Regulations Protecting Whales”. ANIMAL LEGAL & HISTRICAL CENTER, 2002. https://www.animallaw.info/article/overview-laws-and-regulations-protecting-whales

1982 アメリカ サウスカロライナ州

WHERE ARE DOLPHINS PROTECTED ?. Dolphin Project. https://www.dolphinproject.com/where-are-dolphins-protected/.

1989 台湾

Chou, Lien-Siang. Progress report of cetacean research and conservation in Taiwan. J-STAGE, 2002. https://www.jstage.jst.go.jp/article/fishsci1994/68/sup1/68_sup1_248/_article/-char/ja/.
Taiwan Wildlife Conservation Act. Animal Legal & Historical Center. https://www.animallaw.info/statute/taiwan-wildlife-taiwan-wildlife-conservation-act.

1992 ハンガリー

“Dolphin facility planned for Budapest”. Dolphinaria-Free Europe, 2018-12-03. http://dfe.ngo/dolphin-facility-planned-for-budapest-we-need-your-help/.

1993 UK

Lott, Rob. “Why are there no captive whales or dolphins in the UK?”. WDC, 2020-06-30. https://uk.whales.org/2020/06/30/why-are-there-no-captive-whales-or-dolphins-in-the-uk/.

1999 オーストラリア

Australian Whale Sanctuary. Australian Government Department of Climate Change, Energy, the Environment and Water. https://www.dcceew.gov.au/environment/marine/marine-species/cetaceans/australian-whale-sanctuary.

1999 キプロス

Gillett, Rachael. “Government goes back on dolphin ban”. Cyprus Mail, 2015-03-21. https://cyprus-mail.com/2015/03/21/government-goes-back-on-dolphin-ban/.

2003 ニカラグア

“Nicaraguan government bans dolphin exploitation”. European Cetacean Bycatch Campaign, 2003-02-02. http://www.eurocbc.org/page698.html.

2006 メキシコ

“MARINE MAMMALS - GUIDELINES AND CRITERIA ASSOCIATED WITH CAPTIVITY”. SPAW RAC, 2006-09, http://www.car-spaw-rac.org/IMG/pdf/OVERVIEW_CAPTIVITY_MARINE_MAMMALS_WCR.pdf.
2009 クロアチア

“Croatia bans keeping whales and dolphins in captivity”. ENDCAP, 2009-06-02. https://endcap.eu/section-1-10-33-of-de-finibus-bonorum-et-malorum-written-by-cicero-in-45-bc/.
2012 ボリビア

“Bolivia enacts law to save Amazon river dolphins”. Science X Network, 2012-07-18. https://phys.org/news/2012-09-bolivia-law-amazon-river-dolphins.html.
2012 スイス

“Switzerland – Dolphins no longer to be kept in captivity”. ENDCAP, 2012-03-24. https://endcap.eu/switzerland-dolphins-no-longer-to-be-kept-in-captivity/.
2012 ギリシャ

Toli, Fani. Animal Circuses Banned in Greece. GREEK REPORTER, 2012-02-07. https://greekreporter.com/2012/02/07/animal-circuses-banned-in-greece/.
2013 インド

Policy on establishment of dolphinarium. Government of India Ministry of Enveironment & Forests Central Zoo Authority, 2013-05-17. moef.gov.in/wp-content/uploads/2017/07/ban-on-dolphanariums.pdf.
2017 カナダ ブリティッシュコロンビア州 バンクーバー

Berry, George.Vancouver bans whales and dolphins in captivity at aquarium. WDC, 2017-05-17. https://us.whales.org/2017/05/17/vancouver-bans-whales-and-dolphins-in-captivity-at-aquarium/.
2018 韓国

“Korea to ban import of cruelly poached endangered animals”. Yonhap News Agency, 2018-03-20. https://en.yna.co.kr/view/AEN20180320007600315.
2018 バルセロナ

“Barcelona se declara ciudad libre de cetáceos en cautividad”. El Periodico, 2018-04-29. https://www.elperiodico.com/es/barcelona/20180427/barcelona-se-declara-ciudad-libre-de-cetaceos-en-cautividad-6789072.
2019 カナダ

“Canada bans the captivity of whales, dolphins and porpoises for entertainment”. World Animal Protection, 2019-10-06. https://www.worldanimalprotection.org/news/canada-bans-captivity-whales-dolphins-and-porpoises-entertainment.
2019 ニュージーランド

“New Zealand bans dolphin swimming: People are loving them 'too much’ ”. BBCNews, 2019-08-29. https://www.bbc.com/news/newsbeat-49507901.
2020 フランス

“France to ban use of wild animals in circuses, marine parks”. AP News, 2020-09-29. https://apnews.com/article/circuses-france-animals-archive-dolphins-1672e3acdc55f65185ba7ebfcccf36a4.
2022 メキシコ

Richardson, Jennifer. “Cancun Will No Longer Offer Dolphin Shows Or Swimming With Dolphins After New Mexican Law”. CANCUN SUN, 2022-10-22. https://thecancunsun.com/

cancun-will-no-longer-offer-dolphin-shows-or-swimming-with-dolphins-after-new-mexican-law/.

第八部 イルカ・クジラ解放

第三章　アイデア

“海藻が未来のフード？！サステナブルな世界を支える魅力を徹底解説！”. Happy Quinoa, 2022-02-06. https://happy-quinoa.com/kaisou/, (参照 2022-11-14).
Whale watching. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Whale_watching, (参照 2022-11-14).
Swimming with dolphins. Wikipedia. https://en.wikipedia.org/wiki/Swimming_with_dolphins, (参照 2022-11-15).